

授 業 科 目	アジア経済論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	裴 海善		単 位	2
授業の目的と概要	経済のグローバル化と共に世界経済はお互いに影響しあっており、発展しているアジア経済は世界経済に大きな影響を与えている。 本講座は、韓国経済と日本経済との関係、アジア経済と世界経済との相互関係の実態を把握し、その背景を理解すると共に、今後の課題を考えるのが目的である。 韓国経済と日本経済との関係、世界経済とアジア経済との相互関係、貿易協定、アジア主要国の経済状況、などをキーワードにし、その実態と背景を学びます。			
到達目標	①アジアの中でも韓国経済の発展の歴史と特徴について 理解を深めることができる。 ②韓国経済と日本経済との相互関係、日本企業が韓国に進出する経済的背景や実態が把握できる。 ③アジア経済と世界経済との関係、世界経済の動きがアジア経済に及ぼす影響などが理解できる。 ④アジア経済と日本経済の今後の相互発展のための課題を的確にまとめることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。 関連科目としては、「東アジア入門」「経済学概論ⅠとⅡ」がある。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	授業概要紹介、アジア主要国の経済成長と特徴を比較		教科書購入	
第 2回	韓国経済概観；戦後から1980年代まで		戦後の援助、財閥成長、労働者の海外派遣の背景をまとめる	
第 3回	韓国経済概観；1980年代から現在まで		歴代政権ごとの経済政策の違いをまとめる	
第 4回	韓国の近代史と経済生活①		朝鮮戦争が韓国経済に与えた被害を調べる	
第 5回	韓国の近代史と経済生活②		労働者の海外派遣の背景と内容をまとめる	
第 6回	アジア経済危機の原因と影響		IMF、SDR、外貨準備高を調べる	
第 7回	世界経済がアジア経済に及ぼす影響		1970年代以後の世界経済の流れをまとめる	
第 8回	日本と韓国の交易の特徴と課題		韓国の対日赤字原因をまとめる	
第 9回	日本と韓国の交易の特徴と課題		為替レートが貿易に及ぼす影響を調べる	
第10回	アジア主要国の貿易構造と自由貿易協定の流れ		FTA、AEC、TPP、RCEPの特徴を調べる	
第11回	日本と韓国の企業構造		日本の為替相場の歴史を確認する	
第12回	中国経済の動向		中国経済動向を調べる	
第13回	インド経済の動向		インド経済を調べる	
第14回	東南アジア経済の動向		東南アジアの経済事情を調べる	
第15回	まとめと質疑		なし	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10％			
小テスト等	80％			
成果発表	0％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①小テストには教科書持ち込み可能 ②欠席が5回を超えると評価しない（就職活動、病気、その他のやむを得ない事情による欠席が5回を超えるときは、担当教員との相談が必要）。 ③欠席が5回を超えると受験できない（就職活動、病気、その他の理由による欠席が5回を超えると相談が必要）。 ④授業内容に関係のない私語、授業中のスマートフォン・携帯電話の使用は禁止する。違反を見つけた場合は、受講態度から減			
教科書	裴海善著『韓国経済がわかる20講』明石書店（2014年）			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で適宜紹介			
オフィスアワー	火～木曜日の昼休み（他の日時を希望する場合は、事前に訪問日時を相談してください）	メールアドレス		

授 業 科 目	アジア芸術思想概論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	木本 拓哉		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業は、アジア文化学科での学びの柱となる3つの領域「言語」「文化」「社会」のうち、「文化」領域の学習の基礎をなすものです。この講義では、日本の博物館や美術館に所蔵されている文物を題材として取り上げ、その美術品を通してアジアの「芸術思想」についてみていきます。			
到達目標	・日本の芸術思想史上のトピックについて、具体的な例を挙げて説明することができる。 ・中国の芸術思想史上のトピックについて、具体的な例を挙げて説明をすることができる。 ・現代社会においてアジアの伝統的芸術思想がどのような形であらわれているか、実地見学をとおして発見し、その現状と課題について自分なりの意見を持ち、他の人と意見交換することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	(9/24) 芸術思想を学ぶ意味（オリエンテーション）		ミニレポートを執筆する。	
第2回	(10/1) 神の意匠～「風神雷神図屏風」～		ミニレポートを執筆する。	
第3回	(10/8) インド神話の美少年～興福寺「阿修羅像」～		ミニレポートを執筆する。	
第4回	(10/15) 文字の見比べ、読み比べ～『論語』の宋版・明版・和刻本～		ミニレポートを執筆する。	
第5回	(10/22) 唐物至上主義と器～「曜変天目」～		ミニレポートを執筆する。	
第6回	(11/5) 擬人化した動物たち～「鳥獣戯画図」～		ミニレポートを執筆する。	
第7回	(11/12) あの世を垣間見る～「地獄草子」～		ミニレポートを執筆する。	
第8回	(11/19) 古美術蒐集家たちの思想		博物館見学の準備 ミニレポートを執筆する。	
第9回	(11/24) 九州国立博物館にて特別展見学		展示物に関するレポートを執筆する。	
第10回	(12/3) 古典的VRとして屏風絵～「燕子花図屏風」～		ミニレポートを執筆する。	
第11回	(12/10) 平安の浄土、平等院～「阿弥陀如来」～		ミニレポートを執筆する。	
第12回	(12/17) 過去を知る意義～『春秋』と麒麟～		ミニレポートを執筆する。	
第13回	(1/7) 静・動の対思想～「檜図屏風」と「松林図屏風」～		ミニレポートを執筆する。	
第14回	(1/21) 寺院という空間～西本願寺～		ミニレポートを執筆する。	
第15回	(1/28) アジアの芸術思想を考える		最終レポート「芸術思想を学ぶ意味」執筆	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ 各授業毎にミニレポート、最後に最終レポートを執筆し、提出する。別途、レポートを課す場合もある。			
小テスト等	なし			
成果発表	10％ 意見交換の際の参加態度。			
受講態度他	10％ 学外実地見学时をふくめた授業への参加態度。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	アジアの芸術思想関連見学を、第9回目の授業として予定しています。 実施日時は、11月24日の土曜日の午後の予定、九州国立博物館にて。 見学時に必要な交通費・見学費（入場券1000円）は各自負担です。			
教科書	なし			
指定図書	辻惟雄『日本美術の歴史』（東京大学出版会、2005年12月9日）			
参考図書	講義中に随時紹介する。			
オフィスワ ーク	月曜日の昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	アジア芸能史【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	田村 史子		単 位	2
授業の目的 と概要	目的：アジアは、音楽・舞踊・演劇など、実にさまざまな芸能があり、人々の生活や社会と深いかわりを持っています。私たちは、そのような芸能を通じて、民族の間の文化の相違点や共通点などを、はっきりとしたイメージとして感じ取ることができます。この授業では、音や映像の資料をたくさん用いながら、アジアの芸能の歴史的な流れと、地域の間を関係を、広く概観します。そして、それらが、変化し混ざり合いながら、現在の私たちの生活をどのように彩っているかを、観察したいと思います。 概要：音楽と映像の資料を用いて、アジアの芸能の歴史を概観します。また、それぞれの文化の最も特徴的な要素を実例を用いて分かりやすく解説します。その中で、インドネシアの音楽（ガムラン）などの演奏体験もします。			
到達目標	1. アジアの文化の歴史を、大きな流れとして感じ取る。 2. アジアの文化の多様性を、音楽や舞踊を通じて感じ取ることができる。 3. アジアの他の文化と比べて、日本の文化の特徴を認識する。 関連科目としては、アジア芸術思想概論、アジア生活文化概論、アジアの建築、など。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1 回 入門	アジアの芸能史概説 1		配布資料を読み復習する	
第 2 回 入門	アジアの芸能史概説 2		配布資料を読み復習する	
第 3回 インドの音楽・舞踊の宇宙観			配布資料を読み復習する	
第4回 インドの音楽・舞踊の宇宙観			配布資料を読み復習する	
第5回 東南アジアの音楽と舞踊の特性			配布資料を読み復習する	
第 6回 東南アジアの音楽と舞踊の特性			配布資料を読み復習する	
第7回 インドネシアの伝統音楽 ガムラン（体験）			配布資料を読み復習する	
第 8回 インドネシアの伝統音楽 ガムラン（体験）			配布資料を読み復習する	
第 9回 中国の音楽文化の歴史とアジアでの広がり			配布資料を読み復習する	
第 1 0回 中国の音楽文化の歴史とアジアでの広がり			配布資料を読み復習する	
第1 1回 韓国音楽の独自性とK-Pop			配布資料を読み復習する	
第12回 韓国音楽の独自性と韓流ドラマ			配布資料を読み復習する	
第13回 日本の音楽文化のルーツと現代			配布資料を読み復習する	
第 14回 日本の音楽文化のルーツと現代			配布資料を読み復習する	
第15回 総括			配布資料を読み復習する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	6 0 %			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	4 0 %			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	集中して静かに音楽を聴いたり、映像を見たりできない学生の履修を認めない。 学外で、芸能鑑賞を行うこともある。			
教科書	随時プリントを用意			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワ ーク	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してくださ い	メ ー ル ア ド レ ス		

授 業 科 目	アジアジェンダー論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	成末 繁郎		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、経済成長めざましいアジア社会をめぐり、女性・家族・ジェンダーを切り口にその特徴を理解することを目的とします。あつかう地域は、タイ、インドネシア、インド及び補足としてニューギニアや南米のインディオなど世界各地の、伝統的な及び現行の結婚制度と家族やジェンダー及び女性の社会的地位との関係の特徴と課題について検討します。また一方で、日本及び欧米の女性・家族やジェンダーについて、そのあり方の特徴と変化、女性の社会参加における課題を理解し、比較の視点から検討を加えます。			
到達目標	1．アジア、特にタイ、インドネシア、インドの家族・ジェンダーの地域的な特徴と他の地域と共通する普遍的な特徴について理解し説明できる。 2．各社会における女性の社会的地位のあり方と課題について、多様性に関わった観点から理解し説明できる。 3． 1， 2について、日本および欧米におけるあり方と課題について比較の視点から理解し、説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	導入 ジェンダーを考える上で必要な概念の解説① フェミニズムの歴史と背景を解説する。		配布プリントリーディング	
第2回	ジェンダーを考える上で必要な概念の解説② 女性学の成立の背景及びその目的を解説する。		配布プリントリーディング	
第3回	ジェンダーを考える上で必要な概念の解説③ ジェンダーという概念の捉え方を歴史的な経緯を踏まえて解説する。		配布プリントリーディング	
第4回	グローバル化の中のジェンダー ① ジェンダーに関する映像資料を鑑賞することで、ジェンダーの現実を体感することを目指す		配布プリントリーディング	
第5回	ジェンダー概念と人類学① 人類学者の70年代の世界の男女の関係性の報告がジェンダー研究に及ぼした影響を検討する		配布プリントリーディング	
第6回	ジェンダー概念と人類学② 多様なジェンダー関係の具体的な事例を検討する。特にタイ・ニューギニア・南米アマゾン		配布プリントリーディング	
第7回	ジェンダー概念と人類学③ 多様なジェンダー関係の具体的な事例を検討する。インドネシアやインド等。		配布プリントリーディング	
第8回	グローバル化の中のジェンダー ② 「美しさ」は一様ではなく世界各地で捉え方が異なることを映像資料を通して解説する。		配布プリントリーディング	
第9回	ジェンダーと結婚 パート1 一夫多妻婚・一妻多夫婚（ネパール・インド）・一夫一妻婚 日本も含めたアジア各地の伝統的な規定婚や優先婚の制度と女性の地位との関係を考える。		配布プリントリーディング	
第10回	ジェンダーと結婚 パート2 ハイパーガミーとハイポガミー 上昇婚（日本やタイ）と下降婚(ミャンマー)での女性の取り扱われ方の違いを考える。		配布プリントリーディング	
第11回	ジェンダーと結婚 パート3 多様な結婚制度を踏まえて結婚と女性の地位との関係を総括する。		配布プリントリーディング	
第12回	グローバル化の中のジェンダー③ イスラームの女性の地位に関する映像資料を使い、イスラーム解釈の問題点を検討する。		配布プリントリーディング	
第13回	レヴィ・ストロースの婚姻交換の理論から結婚の意味を考える。 レヴィ・ストロースの構造主義と婚姻交換の理論を概説する。		配布プリントリーディング	
第14回	構造主義とフェミニズム 構造主義理論と友好関係にあったフェミニズムの論理構造を批判的に検討する。		配布プリントリーディング	
第15回	構造主義とクイア論一より開かれた解放理論を求めて 構造主義的フェミニズムに対するジュディス・バトラーの批判を検討する。		配布プリントリーディング	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	95％			
レポート	5％			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	-			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	アジアの家族・ジェンダーに関心を持ち、TV新聞報道、ドキュメンタリー番組、雑誌記事、映画などに留意しておくこと。			
教科書	適宜レジュメや資料を配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	江原由美子(編) 1998 『性・暴力・ネーション フェミニズムの主張4』 劉草書房 ジュディス・バトラー1990 『ジェンダー・トラブル フェミニズムとアイデンティティの攪乱』（竹村和子 訳）青土社			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	アジア女性労働論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	裴 海善		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義では、日本と韓国の少子化と女性雇用問題に関して、その実態を把握するとともに、女性が働きやすい制度の整備、女性の地位向上や雇用増加のための政府政策、今後の課題への理解を深めることを目的とする。 少子高齢化、政府の少子化対策、保育政策、女性雇用、仕事と家庭の両立と政府政策をキーワードにし、その実態と政策の背景、今後の課題を日本と韓国で比較しながら説明する			
到達目標	1. 日韓の少子高齢化の実態と原因の共通点と違いが比較できる。 2. 日韓の少子化対策と保育政策の実態が把握できる。 3. 日韓の女性雇用者の雇用実態、女性雇用政策、男女共同参画の実態が比較できる。 4. 女性労働問題は社会・制度・経済的事情により多く影響を受けていることが理解できる。 5. 韓国社会と日本社会の共通点と違いがもっと理解できるようになる。 6. 今後、女性として、キャリアウーマンとしての生き方を考えることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業概要紹介、全体の概要を紹介、女性の社会進出		教科書を購入する	
第2回	人口政策の変遷		日本の人口政策を調べる	
第3回	少子高齢化実態		少子高齢化による諸問題を調べる	
第4回	少子化の原因		日韓の少子化原因の共通点と違いをまとめる	
第5回	政府の少子化対策		日本の少子化対策を調べる	
第6回	地方自治団体の少子化実態と対策		日本の自治体の出生率と少子化対策を調べる	
第7回	保育政策と保育所利用実態		日本の保育所利用実態と課題を調べる	
第8回	女性雇用者の雇用実態		女性雇用の日韓の共通点と違いを比較する	
第9回	女性雇用政策		アベ政権の女性雇用政策を調べる	
第10回	仕事と家庭の両立支援政策		日本のワークライフバランス実現を調べる	
第11回	男女格差と政府の男女平等実現措置		日本政府の男女平等実現のための取組みを調べる	
第12回	韓国と日本の少子高齢化と女性雇用における特徴		日韓の共通点と違いをまとめる	
第13回	韓国女性の結婚と仕事		日本と韓国女性の仕事に関する考えを比較する。	
第14回	海外事例；ドイツの女性の働き方		ドイツの基本知識を調べる	
第15回	まとめ及び質疑		出席状況を確認する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	0%			
小テスト等	90%			
成果発表	0%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①欠席が5回を超えると評価しない（就職活動、病気、その他の理由による欠席は証明書提出要）。 ②小テストには教科書持ち込み可能 ③欠席が5回を超えると受験できない（就職活動、病気、その他の理由による欠席が5回を超えると相談が必要）。 ④授業内容に関係のない私語、授業中のスマートフォン・携帯電話の使用は禁止する。違反を見つけた場合は、受講態度から減点する			
教科書	裴 海善著『韓国の少子化と女性雇用』明石書店、2015年			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月・木曜日の昼休み時間（他の日時を希望する場合は、事前に訪問日時を相談してください）	メールアドレス		

授 業 科 目	アジア実用英語【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	喜多村 百合		単 位	2
授業の目的 と概要	アジア諸地域のめざましい経済発展とグローバル化は、ダイレクトな地域間のコミュニケーションを飛躍的に増大させている。その際使用される言語は、グローバル言語としての英語であることが多い。この英語は、地域言語の影響を受け、発音や表現に固有性を持つ。このセッションでは、こういったアジア地域で話される英語の特徴を知り、かつアジアの一員である私たち日本人の英語を再考することで、よりよき相互コミュニケーションを実現することを目的とする。授業をより実践的にするため、終盤に短期留学生との交流セッションを持ち、その準備も行う。また、国際交流センター開設の「International Cafe」への参加も奨励する。長年学んでも実用に耐えない学校英語から脱皮し、よりスムーズなコミュニケーション能力獲得の突破口を開くのがねらいである。			
到達目標	①アジア地域で話される多様な英語について、その特徴を述べることができる。 ②日本の学校英語を相対化し、実用的な英語への転換をはかる。 ③コミュニケーション・ツールとしての実践英語で、初歩的な自己表現と日本紹介、ディスカッションができる。？			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 導入：講義のねらいと方法（自己紹介）			授業時指示	
第 2回 導入：講義のねらいと方法（ディスカッション）			授業時指示	
第 3回 アジアの英語① 日本:国際的に評価される(!?)日本人の英語			課題文作成	
第 4回 アジアの英語② インド（北インド、南インド）、バングラデシュ・スリランカ			課題文作成	
第 5回 アジアの英語③ マレーシア・シンガポール			課題文作成	
第 6回 アジアの英語④ タイ・フィリピン			Interenational Cafeに参加しレポート提出	
第 7回 アジアの英語⑤ 中国・韓国			課題文作成	
第 8回 アジアの英語⑥ グロービッシュ			課題文作成	
第 9回 自己表現①自己紹介基本ヴァージョン			課題文作成	
第10回 自己表現②自己紹介発展ヴァージョン			課題文作成	
第11回 日本紹介③日本文化・社会の特徴			課題文作成	
第12回 日本紹介④地域文化・社会の特徴			課題文作成	
第13回 ディスカッション Cool Japan, Cool Fukuoka			短期留学生との交流セッション用質問紙の完成	
第14回 短期留学生との交流セッション			交流セッションのレポート作成	
第15回 スピーチ発表・まとめ			レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	定期レポート提出			
レポート	50％ 課題文・期末レポート			
小テスト等	－			
成果発表	20％ スピーチ制作・発表			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は基本的に英語で行う。 国際交流センター「International Cafe」など、英語を話す国際交流の機会に数回参加すること。			
教科書	適宜プリントを配布			
指定図書	ジャン・ポール・ネリエール『世界のグロービッシュ』 河原俊明『アジア・オセアニアの英語』 本名信行『アジア英語辞典』『英語はアジアを結ぶ』			
参考図書	祖慶壽子『アジアの視点で英語を考える』			
オフィスアワー	火 3、木 4		メールアドレス	

授 業 科 目	アジア生活文化概論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	田村 史子		単 位	2
授業の目的 と概要	目的：この授業では、古代からの大きな文化の流れに注目して、アジアに住む人たちが、なぜ、このような生活をするようになったのか、また、考え方をするようになったか、などというような問題について、考えていくための基本的な知識を学びます。また、アジアの文化を知る上で欠かすことのできない基本的な諸概念についても学習します。 概要：具体的な事例を多く用いながら、アジアの人々の生活の基盤にある文化のシステムを概説します。また、それを形成した要素として、 自然環境、生活環境、文化環境、また、他地域との歴史的な関係なども考えます。			
到達目標	1. アジアとは何か、文化とは何か、という問いに答えを探す。 2. アジアの環境とそこに住む人々の生活との関係について知る。 3. 生活の中から生まれたさまざまな文化的活動の基本的な仕組みを知る。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。 関連科目としては、アジア芸術思想概論、アジア芸能史、アジアの建築、など。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 入門	(1) アジアとは何か		地図を確認し復習する	
第2回 入門	(2) 文化とは何か①		配布資料を読み復習する	
第3回 入門	(2) 文化とは何か②		配布資料を読み復習する	
第4回 入門	(3) アジアの自然環境と文化		配布資料を読み復習する	
第5回 概論	(1) 生活文化の環境 ①食の文化－1		配布資料を読み復習する	
第6回 概論	(1) 生活文化の環境 ①食の文化－2		配布資料を読み復習する	
第7回 概論	(1) 生活文化の環境 ②住の文化－1		配布資料を読み復習する	
第8回 概論	(1) 生活文化の環境 ②住の文化－2		配布資料を読み復習する	
第9回 概論	(1) 生活文化の環境 ③衣の文化－1		配布資料を読み復習する	
第10回 概論	(1) 生活文化の環境 ③衣の文化－2		配布資料を読み復習する	
第11回 概論	(2) 芸術文化の環境 ①音楽と舞踊		配布資料を読み復習する	
第12回 概論	(2) 芸術文化の環境 ②美と造形		配布資料を読み復習する	
第13回 概論	(2) 芸術文化の環境 ③九州国立博物館見学→授業時間外に実施する		レポート作成	
第14回 概論	(2) 芸術文化の環境 ④九州国立博物館見学→授業時間外に実施する		レポート作成	
第15回 総括			自分なりに総括する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	40％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	1. 積極的な受講を求めます。 2. 学期中に2回、学外の博物館などを見学します。授業時間外に行います。 その時期は移動する可能性がある。			
教科書	随時プリントを用意			
指定図書	随時プリントを用意			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスア ワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してくださ い	メ ー ル ア ド レ ス		

授 業 科 目	アジア政治論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	現代のアジア諸国の政治に対する知識を見につけ、理解を深めていくことがこの講義の目的です。 理解を容易にするために、1.軍政を含む権威主義体制と民主化、2.経済発展、という2つの軸を設定し、各国の政治に対して認識を深めていきます。いくつかの国の事例を比較することで、アジア諸国の共通課題と相違点ついて、包括的な理解を目指します。 現在のアジア諸国の政治には、権威主義から民主主義へ、国民国家建設からグローバル化の時代へ、という大きな流れがありますが、その様相は各国によって異なりますので、地域ごとに具体的に学びます。			
到達目標	1.アジア各国の権威主義体制と民主化について説明できる。 2.アジア各国の政治的ダイナミズムを具体的に説明できる。 3.アジア各国の抱える今日的課題を具体的に説明できる。 4.アジア政治に関する文献を、自ら集め分析することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。 「現代韓国事情」や、「現代東南アジア事情」などの履修を通じて学ぶアジア各地域の現状や、また「政治学概論Ⅰ」、「政治学概論Ⅱ」の履修で身に着ける政治に関する基礎知識を踏まえて、この講義を履修すると、より理解が深まります。 アジア諸国の経済発展については「アジア経済論」を併せて受講すると、経済学の論理から理解することができます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション		第2回用レジュメ、資料に基づき予習	
第 2 回	インドネシアの政治(1)多様性の中の統一		第2回用レジュメ、資料、教科書第1章に基づき予習復習	
第 3 回	インドネシアの政治(2)民主化後の課題		第3回用レジュメ、資料、教科書第1章に基づき予習復習	
第 4 回	マレーシアの政治(1)「民族の政治」		第4回用レジュメ、資料、教科書第2章に基づき予習復習	
第 5 回	マレーシアの政治(2)今日の課題		第5回用レジュメ、資料、教科書第2章に基づき予習復習	
第 6 回	フィリピン政治(1)エリート支配の構図		第6回用レジュメ、資料、教科書第4章に基づき予習復習	
第 7 回	フィリピン政治(2)民衆の台頭？		第7回用レジュメ、資料、教科書第4章に基づき予習復習	
第 8 回	タイの政治(1)王権と軍		第8回用レジュメ、資料、教科書第9章に基づき予習復習	
第 9 回	タイの政治(2)民主主義という課題		第9回用レジュメ、資料、教科書第9章に基づき予習復習	
第10回	中国の政治(1)社会主義化を目指して		第10回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第11回	中国の政治(2)改革開放路線		第11回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第12回	中国の政治(3)今日の課題		第12回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第13回	国際関係から見る北朝鮮		第13回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第14回	韓国の政治		第14回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第15回	アジア諸国の現在		15回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価)50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。 その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。			
教科書	清水一史、田村慶子、横山豪志(編)『東南アジア現代政治入門 改訂版』ミネルヴァ書房2018年			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	火14:50～16:20、水12:30～13:00、金12:30～13:00		メールアドレス	

授 業 科 目	アジアと仏教【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小林 久泰		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、インドを出発点とし、仏教を通じてアジア全体に広がった輪廻思想の成り立ちやそのアジア的な展開を理解することを目的とする。そしてその理解を通じて、現代日本を含めたアジアの諸地域における死生観についての知識を深めることを目的とする。 人は死後どこに行くのか。あの世はどこに存在するのか。この授業では、インド、中国、日本における経典、文学作品、哲学論書に見られる「他界」の概念をそれぞれ検討し、アジア人が抱く死生観について知識を深める。特に「地獄」および「極楽」という概念に着目し、われわれの暮らす日本を含め、アジアでどのような「あの世」が考えられてきたのか、それがどのような思想文化を背景にしているのかということを考察していく。			
到達目標	1．インドにおける輪廻思想の成立過程を説明することができる。 2．インド、中国、日本における「他界」の概念の特徴をそれぞれ説明することができる。 3．現代日本人が持つ死生観の文化的重層性について、具体的に説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 この授業は、「体験・伝統文化」「仏教美術史」などと関連する科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	イントロダクション：世界の他界観		課題①レポート「インドにおける輪廻思想」	
第 2回	『ヴェーダ』の世界観：最初の死者ヤマ		課題①レポート「インドにおける輪廻思想」	
第 3回	『ウパニシャッド』の世界観：五火二道説		課題①レポート「インドにおける輪廻思想」	
第 4回	『ブラーフマナ』の世界観：地獄の誕生		課題①レポート「インドにおける輪廻思想」	
第 5回	仏教の世界観：釈尊の立場		課題①レポート「インドにおける輪廻思想」	
第 6回	上座部仏教の世界観：六道輪廻の世界		課題②レポート「仏教における他界観」	
第 7回	大乘仏教の世界観（1）：業報思想とその超越		課題②レポート「仏教における他界観」	
第 8回	大乘仏教の世界観（2）：菩薩の思想と仏陀観の変遷		課題②レポート「仏教における他界観」	
第 9回	浄土教の世界観：極楽浄土		課題②レポート「仏教における他界観」	
第10回	道教の他界観：泰山信仰と十王思想		課題②レポート「仏教における他界観」	
第11回	儒教の死生観：祖先崇拝		全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート	
第12回	古代日本の他界観：水平構造の世界		全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート	
第13回	『往生要集』の他界観：厭離穢土、欣求浄土		全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート	
第14回	近世の他界観：怖くない地獄とえんま様		全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート	
第15回	まとめ：日本人の死生観		全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70％ 課題レポート2回（20％×2回）・学期末レポート（30％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 質問等、講義への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語など、他の受講者に迷惑のかかる行為は慎んでください。			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜 3 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	アジアの建築【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大津 忠彦		単 位	2
授業の目的と概要	目的：建築には、とりわけその構造的特性に、地域ごとの自然とこれに働きかけてきた人間の営み、そしてその営みの積み重なりである歴史の総体を見出すことができます。日本を含む東アジアとともに、遠隔の地西アジアの風土に根ざした伝統建築物を概観し、それぞれの特性を異文化の所産として認識するだけでなく、そこに地域、時代を超えた相似性をあらためて見直します。そしてアジア建築の歴史的多様性を理解します。 概要：建築の工学的要素や、建築史、建築美、建築にまつわる思想等を、民家・寺院・神社ほかの記念建造物や遺跡・遺物として残る文化遺産を通して学びます。日本の伝統的木造建築物や西アジアの泥・石・煉瓦建造物の実例を、パワーポイント画像やビデオ映像資料で観ることによりアジアの建築の多様性を再確認します。			
到達目標	・日本伝統家屋建築で使われる「尺」、「畳」、「間」、「坪」の意味を正しく解釈し、たとえば不動産情報誌・チラシ記載事項理解に応用することができる。 ・日本建築文化に聖徳太子を位置付けて説明することができる。 ・煉瓦（れんが）建築の歴史と特性を説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。 この科目と共に、「西アジア入門」を受講すると相互の理解が深まります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	「アジアの建築」より、「アジア」、「建築」の意味再考		課題①：住まいの平面図を試作する	
第 2 回	アジアの建築概観：建材や形式にみる地域性と伝統		第4回までに課題①を提出	
第 3 回	日本の「すまい」再発見（１）：畳と「尺モジュール」		第4回までに課題①を提出	
第 4 回	日本の「すまい」再発見（２）：屋根 ― 形と建材の多様性 ―		第4回までに課題①を提出	
第 5 回	法隆寺：世界最古の木造建築物と建築史家伊東忠太		課題②：身近の寺社建築の観察レポート	
第 6 回	聖徳太子と「太子講」		第8回までに課題②を提出	
第 7 回	日本建築史より：「寝殿造」、「書院造」		第8回までに課題②を提出	
第 8 回	建築と環境（１）：湿潤地域の日本建築文化		第8回までに課題②を提出	
第 9 回	建築と環境（２）：乾燥地域の西アジア建築文化		課題③：「世界遺産」よりアジアの煉瓦建築物レポート	
第10回	煉瓦（れんが）とアジア建築（１）：煉瓦（れんが）発現と展開		第11回までに課題③を提出	
第11回	煉瓦（れんが）とアジア建築（２）：「バベルの塔」は実在したか？		第11回までに課題③を提出	
第12回	西アジア建築の装飾美：ストゥッコとタイル		課題④：建築装飾美の具体例レポート	
第13回	建築にまつわる思想（１）：東アジアの「風水」		第14回までに課題④を提出	
第14回	建築にまつわる思想（２）：西アジアの「神話」		第14回までに課題④を提出	
第15回	アジアの建築総括		なし	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％ ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50％ ②受講態度（含、時々の小テスト成果や提出課題成果）を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・上記「成績評価に関する情報」欄の、①と②の判定組合せが「秀&秀」・「秀&優」を秀、「秀&良」・「優&優」を優、「秀&可」・「優&良」・「優&可」・「良&良」を良、「良&可」・「可&可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。 ・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。受講態度の良否は成績評価に大きく影響します。講義の進行に集中し自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	アジアの世界遺産【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小林 知美		単 位	2
授業の目的と概要	テーマ：「世界遺産」の現状と課題 この授業では、世界遺産の考え方、内容、成立背景や問題点を知ること、そして具体的に日本を中心としたアジアの遺産の数例についてその概要を理解することを目的とします。また、地元太宰府の遺産の実地見学をとおして、地域の遺産を知り守る意識をもつことが、世界遺産の思想の本当の理解へとつながることを学びとります。まず、『世界遺産学を学ぶ人のために』（奈良大学文学部世界遺産を考える会編、世界思想社、2000年初版）の第1章「世界遺産をどう学ぶか」を読み、学ぶ意義を確かめます。次に「負の遺産」、自然遺産、文化遺産の3区分により、日本を中心としたアジアの遺産（世界遺産に登録されないものも含む）について文献と映像を併用して知識を深めます。また実地見学を通して主体的に地元の遺産を学ぶ姿勢を身につけます。			
到達目標	・世界遺産のなかから具体的な例をあげて概要を説明することができる。（中間レポート） ・地域の文化遺産について具体的な例をあげて説明できる。（中間レポート） ・世界遺産の定義とその内容と問題点を説明し、今後の世界遺産のあり方について自分なりの意見をもつ。（期末レポート）			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	イントロダクション：『世界遺産を学ぶ人のために』を読む		世界遺産についての参考資料探し	
第 2 回	世界遺産をどう学ぶか1：ユネスコの世界遺産条約		課題①〇〇遺産（地元／世界／無形／記憶etc.）レポート	
第 3 回	世界遺産をどう学ぶか2：日本の世界遺産		課題①を第4回目までに提出	
第 4 回	HIROSHIMAのモニュメント～厳島神社と原爆ドーム～		課題①を第4回目までに提出	
第 5 回	「負の遺産」：アウシュビッツ強制収容所		課題②を第8回目までに提出	
第 6 回	自然遺産1：知床と水俣		課題②を1第8回目までに提出	
第 7 回	自然遺産2：白神山地と紀伊半島		課題②を第8回目までに提出	
第 8 回	自然遺産3：屋久島自然遺産		課題②を第8回目までに提出	
第 9 回	文化遺産1：法隆寺		課題③世界遺産にどう向き合うか	
第10回	文化遺産2：石窟庵と仏国寺		課題③を1月最終授業までに提出	
第11回	文化遺産3：敦煌莫高窟		課題③を1月最終授業までに提出	
第12回	授業ふりかえり		課題③を1月最終授業までに提出	
第13回	まとめ：「世界遺産」の現状と課題		課題③を1月最終授業までに提出	
第14回・15回合同授業	地元遺産関連見学（時間外・学外授業） ※10月27日（土）太宰府市文化ふれあい館「大宰府歴史展」見学		課題②見学レポート	
第14回・15回合同授業	地元遺産関連見学（時間外・学外授業） ※10月27日（土）太宰府市文化ふれあい館「大宰府歴史展」見学		課題②を8回目までに提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	90％（課題①～③、各30％）、提出先：レポートボックス（※ボックスを間違わないこと）、文字数：1200文字程度、参考文献明記、レポートタイトルは自分で考えて付けること。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	○地元遺産に関わる時間外・学外見学を行います。交通費は自己負担です。 ○対象：太宰府市文化ふれあい館（太宰府市国分4丁目9番1号、電話092－928－0800）「大宰府まるごと歴史展」、日時：10月27日（土）9：30～12：30（現地集合、解散）。 ○当日参加できない人は、各自で見学し、課題②提出時に館のスタンプ、下記2点の写真又はスケッチ（ふれあい館の七重塔、筑前国分寺跡の塔心柱礎石）を添えて提出すること。			
教科書	なし			
指定図書	西岡常一『木のいのち木のころろ 天』草思社（1996年）、島本慈子『戦争で死ぬ、ということ』岩波書店（2006年）、多田満『レイチェル・カーソンはこう考えた』ちくまプリマ-新書241（2015）。			
参考図書	『世界遺産学を学ぶ人のために』（奈良大学文学部世界遺産を考える会編、世界思想社、2000年初版）ほか。 ※必要部分をコピーして配布します。			
オフィスアワー	水曜日の昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	アジア文化人類学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	喜多村 百合		単 位	2
授業の目的 と概要	異文化を理解する学びである「文化人類学」。その最大の特徴は、フィールドワークを通してじかに「当事者（内部者）」たちの思考・生活様式、社会構造について知識を得る方法にあります。この授業では、「文化」とは何か、また「アジア」を対象としたときに見えてくる文化の特徴は何か、またグローバリゼーションがもたらす変化を、当事者の視点を通して理解することをねらいとします。 前半では、「文化人類学」の学びの特徴をいくつかのトピックを事例に学びます。中盤では、食をめぐる文化的コンフリクトを「捕鯨」を中心に検討します。終盤では、文化のあらゆる領域を通底するジェンダーを切り口に、アジア地域の文化を観察したときに立ち現われる固有性・普遍性、課題について理解を深めます。最後にグローバル化社会における他者理解と多文化共生の課題を理解し、対応を検討します。			
到達目標	1．「文化」の概念について理解し説明できる。 2．「文化人類学」という学びの構造が理解できる。 3．食をめぐる文化的コンフリクトを「鯨漁」を中心に理解し説明できる。 4．ジェンダーを通して見たアジア地域の文化的特性を理解し、課題を説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3)-②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3)-②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 導入	「文化」とは何か、ディシプリンとしての「文化人類学」①		指定図書①、1～3章	
第 2回 文化人類学②生活・社会と文化			指定図書②6～9章、10～13章	
第 3回 文化人類学③グローバル化の中の文化			指定図書③1、6 章	
第 4回 コンタクト・ゾーンとコンフリクト：「鯨漁をめぐる」①捕鯨文化と捕鯨禁止運動			参考図書③	
第 5回 コンタクト・ゾーンとコンフリクト：「捕鯨をめぐる」②「The Cove」にみる西欧近代視点			配布プリント	
第 6回 コンタクト・ゾーンとコンフリクト：「鯨漁をめぐる」③当事者文化の客体化			配布プリント	
第 7回 コンタクト・ゾーンとコンフリクト：「捕鯨をめぐる」④脱領域化する捕鯨禁止運動			配布プリント・ディスカッション準備	
第 8回 ディスカッション			中間レポート	
第 9回 文化人類学とジェンダー①脱領域化する「慰安婦問題」Part 1 日韓歴史認識			参考図書④	
第10回 文化人類学とジェンダー②脱領域化する「慰安婦問題」Part 2 朴裕河他の視点			配布プリント	
第11回 文化人類学とジェンダー③脱領域化する「慰安婦問題」Part3アメリカの慰安婦像設置運動			配布プリント・ディスカッション準備	
第12回 ディスカッション			中間レポート	
第13回 文化人類学とグローバリゼーション①日本人の他者理解			指定図書③1 4、15章	
第14回 文化人類学とグローバリゼーション②多文化共生社会構築のために			配布プリント・」ディスカッション準備	
第15回 最終ディスカッション			期末レポート制作	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90％（中間20％ 期末50％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義、演習をできるだけインタラクティブにするために、テーマ把握について事前に準備し主体的積極的に参加することを期待します。			
教科書	毎回レジュメ・資料プリントを配布			
指定図書	①『よくわかる文化人類学』綾部恒雄他（ミネルヴァ書店） ②『ジェンダーで学ぶ文化人類学』田中雅一（世界思想社） ③『グローバリゼーションの文化人類学』本多俊和他（放送大学教育振興会）			
参考図書	①『文化人類学事典』（弘文社） ②『（増補改訂版）南アジアを知る事典』（平凡社） ③『人と動物の人類学』奥野克己他（春風社） ④『海を渡る「慰安婦問題」』（岩波書店）			
オフィスアワー	火、木 午後		メールアドレス	

授 業 科 目	アジア民族音楽学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	田村 史子		単 位	2
授業の目的と概要	目的：アジアには、多様な民族が住み、その生活の中には、音楽・舞踊・演劇など、実にさまざまな芸能が形成されています。中でも音楽は、人々の話す言語と深い関係を持ち、また、自然環境、生活様式、思想、宇宙観、社会構造などとも深いかわりを持っています。私たちは、そのような芸能を通じて、民族の間の文化の相違点や共通点などを、はっきりとしたイメージとして感じ取ることができます。この授業では、音や映像の資料をたくさん用いながら、アジアの民族の音楽についての問題や、地域の間の関係を、広く概観します。 概要：音楽と映像の資料を用いて、アジアの様々な音楽文化の最も特徴的な要素を実例を用いて分かりやすく解説します。その中で、人間にとって音楽とは何か、ということを学んでいきます。			
到達目標	1. アジアの民族の多様性を、大きな見渡すことができる。 2. アジアの文化の多様性を、音楽や舞踊を通じて感じ取ることができる。 3. アジアの他の文化と比べて、日本の文化の特徴を認識する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。 関連科目としては、アジア芸術思想概論、アジア生活文化概論、アジア芸能史、アジア文化人類学、体験-アジア音楽[演習]、体験-アジア舞踊[演習]、など			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1 回 入門	アジア民族音楽学概説 1		配布資料を読み復習する	
第 2 回 入門	アジア民族音楽学概説 2		配布資料を読み復習する	
第 3回 音とは何か ①音高・音量・音色			配布資料を読み復習する	
第 4回 音とは何か ②音階・リズム			配布資料を読み復習する	
第 5回 音楽とは何か ①楽器編			配布資料を読み復習する	
第 6回 音楽とは何か ②声楽編			配布資料を読み復習する	
第 7回 人と音楽 ①生活と音楽			配布資料を読み復習する	
第 8回 人と音楽 ②儀礼と音楽			配布資料を読み復習する	
第 9回 人と音楽 ③宗教と音楽			配布資料を読み復習する	
第 10回 人と音楽 ④インドネシアの伝統音楽 ガムラン（体験）			配布資料を読み復習する	
第 11回 人と音楽 ⑤インドネシアの伝統音楽 ガムラン（体験）			配布資料を読み復習する	
第12回 音楽と他芸術 ①舞踊			配布資料を読み復習する	
第13回 音楽と他芸術 ②造形(仮面・衣装・化粧)			配布資料を読み復習する	
第 14回 音楽と他芸術 ③文学・演劇			配布資料を読み復習する	
第15回 音楽と他芸術 ④建物			配布資料を読み復習する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	集中して静かに音楽を聴いたり、映像を見たりできない学生の履修を認めない。 学外で、芸能鑑賞を行うこともある。			
教科書	随時プリントを用意			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		

授 業 科 目	アメリカ文学史【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大城 房美		単 位	2
授業の目的 と概要	様々な民族や歴史に基づく文化の一部として生まれた「アメリカ」文学を、それを形成していった思想、政治、社会背景をふまえて幅広く考察することを目的とする。アメリカの植民地時代から現代までの文学の流れを概観し、複数の文化が共存する社会としての「アメリカ」の問題や時代背景が「書く」という行為にいかに反映されているのかを考えてゆく。 学生の発表を中心として進める。各講義で4～5名の作家を扱う。 発表者は次の要領でレジュメを作成する 1. 作家の生涯 2. 代表作(例文紹介をつける) 3. 重要性 4. 感想 5. 参考資料			
到達目標	「アメリカ」の代表的な作家や作品に関する知識を深め、その歴史的な流れを概観できるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 Introduction: Map of America -- "What is American?"			講義の際に指示します。	
第 2回 アメリカニズムの創成 植民地文学			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 3回 アメリカ独立革命期の文学			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 4回 超越主義とアメリカン・ルネサンス			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 5回 19世紀アメリカ詩			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 6回 南北戦争とリアリズム			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 7回 女性作家の自己探求と自然主義			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 8回 ハーレム・ルネサンス／ジャズ・エイジ／ロストジェネレーション			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 9回 南部文学／危機の文学			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第10回 ポストモダニズム／演劇			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第11回 ユダヤ系文学			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第12回 告白詩とフェミニズム文学			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第13回 アメリカニズムの拡張と多文化主義 1 黒人文学／アジア系アメリカ文学			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第14回 アメリカニズムの拡張と多文化主義 2 グラフィックノベルとコミックス			予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第15回 まとめ			講義の際に指示します。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 講義の1/3（5回）を超える欠席をした場合はFinal Examの受験資格無し			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	受講態度に含む			
受講態度他	40％ 受講態度、授業参加（発表・宿題など）を含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	＊講義中私語・居眠りをする学生は減点、もしくは欠席扱い(退出)。 ＊各発表は、テキストをよく読んで、自分の言葉でまとめること。 ＊発表のレジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、出席点は与えない。 ＊作家や作品についての発表を担当する際、参考資料は複数あげること（例えば、Wikipediaのみに頼った発表や報告は不可）。			
教科書	21世紀から見るアメリカ文学史—アメリカニズムの変容（英宝社）（購入して下さい） その他の資料は講義時に指示します（コピー配付、指定図書、参考図書の資料閲覧、など）			
指定図書	The Norton Anthology of American Literature, 7th ed. (Norton 2007)、A Companion to American Literature and Culture（Blackwell 2010）、『アメリカ文学入門』（三修社）			
参考図書	A New Literary History of America, She Draws Comics, The Complete Idiot's Guide to American Literature (Alpha)、『アメリカ文学史 コロニアルからポストコロニアルまで』、『楽しく読めるアメリカ文学』、『はじめて学ぶアメリカ文学史』			
オフィスアワー	金曜日午後（予約を入れること）		メールアドレス	

授 業 科 目	医学概論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	百瀬 義人		単 位	2
授業の目的と概要	福祉専門職に必要なとなる医学の基礎的知識を身につけ、医療における基本的考え方を理解すると同時に、社会福祉実践に求められる豊かな価値観が体得できることを目的とする。この目的を達成するために、福祉分野において必要とされる医学的知識と医療における考え方を中心に、福祉専門職としての実践に必要なレベルを常に意識する。入学初年次より福祉の対象となる様々な障害の医学的側面を学ぶことにより福祉専門職志向をしっかりと高めていく。			
到達目標	1.一般臨床医学の概要について説明することができる。 2.ヒトの成長・発達・老化について概略を説明することができる。 3.人体各臓器の構造と機能について説明することができる。 4.現代における重要な疾病について説明することができる。 5.援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	人の成長・発達 (1) 身体の成長・発達		予習pp.2-7 配布資料を通読すること。	
第 2回	人の成長・発達 (2) 精神の成長・発達		予習pp.8-13 配布資料を通読すること。	
第 3回	人の成長・発達 (3) 老化		予習pp.14-24 配布資料を通読すること。	
第 4回	身体構造と心身の機能 (1) 身体部位の名称と各器官の構造		予習pp.25-52 配布資料を通読すること。	
第 5回	身体構造と心身の機能 (2) 身体構造とその機能		予習pp.25-52 配布資料を通読すること。	
第 6回	身体構造と心身の機能 (3) こころの仕組みとその機能 (欲求、適応機制、ストレス)		予習pp25-52 配布資料を通読すること。	
第 7回	各器官の機能と基本的な生活行動 (1) 身支度・移動・食事		予習pp.25-52,117-121 配布資料を通読すること。	
第 8回	各器官の機能と基本的な生活行動 (2) 入浴・清潔・排泄・睡眠		予習pp.25-52,117-121 配布資料を通読すること。	
第 9回	各器官の機能と基本的な生活行動 (3) 終末期・緊急時		予習pp.25-52,122-128 配布資料を通読すること。	
第10回	疾病の概要 (1) 生活習慣病と未病 悪性腫瘍 感染症		予習pp.53-60,103-106,222-224 配布資料を通読すること。	
第11回	疾病の概要 (2) 脳血管疾患 心疾患 高血圧、糖尿病		予習pp.61-75 配布資料を通読すること。	
第12回	疾病の概要 (3) 糖尿病と内分泌疾患 呼吸器疾患 消化器疾患		予習pp.76-83 配布資料を通読すること。	
第13回	疾病の概要 (4) 血液疾患と膠原病 腎臓疾患 泌尿器疾患		予習pp.84-94 配布資料を通読すること。	
第14回	疾病の概要 (5) 骨・関節疾患 目・耳の疾患		予習pp.95-102 配布資料を通読すること。	
第15回	疾病の概要 (6) 神経疾患と難病・先天性疾患		予習pp.107-116 配布資料を通読すること。	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50% (15回の講義内容に関する理解度について筆記試験を行い、50点満点とする)			
レポート	50% (授業時に提出するレポート内容に応じて50-0点を配点する)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習箇所を明記している回は、授業前に予習をしてください。			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病 第3版』(中央法規)			
指定図書	なし			
参考図書	随時、図書や資料を紹介			
オフィスワー	授業の前後。	メールアドレス		

授 業 科 目	医学概論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	百瀬 義人		単 位	2
授業の目的と概要	医学概論Ⅰとあいまって、福祉専門職に必要なとなる医学の基礎的知識、医療における基本的考え方を理解し、認知症や障害が日常生活に及ぼす影響とそれに対する支援のあり方について考察しながら、論理的思考力、創造的思考力、問題解決力のほか、社会の多様な問題を考えアプローチできる力を養うことを目的とする。この目的を達成するために、福祉分野において必要とされる医学的知識と医療における考え方を中心に、福祉専門職としての実践に必要なレベルを常に意識する。入学初年次より福祉の対象となる様々な障害の医学的側面を学ぶことにより福祉専門職志向をしっかりと高めていく。			
到達目標	1.一般臨床医学の概要について説明することができる。 2.先天性疾患、加齢に伴う疾患の概要について説明することができる。 3.障害の原因となる諸疾患の医学的側面について説明することができる。 4.リハビリテーションと生活機能分類について説明することができる。 5.認知症や障害が日常生活に及ぼす影響と、本人や家族に対する支援やケアのあり方について説明することができる。 6.健康に関する国の施策について説明することができる。 7.援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	発達と老化の理解 (1) 人間の成長と発達		予習pp.14-24 配布資料を通読すること。	
第 2回	発達と老化の理解 (2) 高齢期の理解と日常生活		予習pp.14-24 配布資料を通読すること。	
第 3回	発達と老化の理解 (3) 高齢者と健康 高齢者に多い疾患		予習pp.117-128 配布資料を通読すること。	
第 4回	欲求と適応機制 (高齢者、障害者のこころの理解)		予習pp.117-128 配布資料を通読すること。	
第 5回	認知症の理解 (1) 認知症の基礎的理解		予習pp.156-161 配布資料を通読すること。	
第 6回	認知症の理解 (2) 認知症に伴う心身の変化と日常生活		予習pp.156-161 配布資料を通読すること。	
第 7回	認知症の理解 (3) 認知症に対する支援とケアのあり方		予習pp.156-161 配布資料を通読すること。	
第 8回	障害の理解 (1) 視覚障害 聴覚障害 平衡機能障害		予習pp.129-140 配布資料を通読すること。	
第 9回	障害の理解 (2) 肢体不自由 内部障害		予習pp.141-148 配布資料を通読すること。	
第10回	障害の理解 (3) 知的障害 発達障害		予習pp.149-155 配布資料を通読すること。	
第11回	障害の理解 (4) 高次脳機能障害 精神障害		予習pp.162-172 配布資料を通読すること。	
第12回	障害の理解 (5) 障害に対する支援とケアのあり方		予習pp.129-172,236-238 配布資料を通読すること。	
第13回	リハビリテーションの概要 (1) 定義 障害評価 段階		予習pp.173-186 配布資料を通読すること。	
第14回	リハビリテーションの概要 (2) 専門職 包括リハ ICF		予習pp.187-192 配布資料を通読すること。	
第15回	リハビリテーションの概要 (3) ICF 健康の概念とその捉え方		予習pp.193-203 配布資料を通読すること。	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50% (15回の講義内容に関する理解度について筆記試験を行い、50点満点とする)			
レポート	50% (授業時に提出するレポート内容に応じて50-0点を配点する)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習箇所を明記している回は、授業前に予習をしてください。			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病 第3版』 (中央法規)			
指定図書	なし			
参考図書	随時、図書や資料を紹介			
オフィスワーク	授業の前後。	メールアドレス		

授 業 科 目	イギリス文学史【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	宮原 牧子		単 位	2
授業の目的と概要	イギリスの「文学」の歴史を学びます。 「文学」という堅苦しい言葉に拒否反応を示す人もいるでしょう。 ですが、そんな必要はありません。 詩や劇や小説が「学問」であると考えてるのは学者や研究者たちだけで十分です。 小難しいことはみな学者や研究者に任せて、詩や劇や小説本来の楽しさを満喫しましょう。			
到達目標	・イギリスの詩、劇、小説の歴史についての知識を深める。 ・文学を通して英語が生まれた国の伝統や文化を理解する。 ・文学作品に触れ、何を感じ、何を考えるか、自分の言葉で発信することができるようになる。 テキストに沿って様々な文学作品を紹介します。 毎回プリントを配布し、テキストの内容を補います。（A4のファイルを用意してください）			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		第2回の予習（テキストp.9～p.12を読む/課題プリントの記入）	
第2回	イギリスの黎明期		第3回の予習（テキストp.18～p.20を読む/課題プリントの記入）	
第3回	イギリス文学の誕生		第4回の予習（テキストp.36～p.39を読む/課題プリントの記入）	
第4回	ルネッサンス文学の開花（1）Thomas MoreからEdmund Spenserまで		第5回の予習（配布されたプリントを読む/課題プリントの記入）	
第5回	ルネッサンス文学の開花（2）William Shakespeare		第6回の予習（テキストp.61を読む/課題プリントの記入）	
第6回	政治と宗教の激動期		第7回の予習（テキストp.83～p.84を読む/課題プリントの記入）	
第7回	知性と秩序の文学		第8回の予習（テキストp.98～p.99を読む/課題プリントの記入）	
第8回	近代市民社会の文学（1）Daniel DefoeとJonathan Swift		第9回の予習（配布されたプリントを読む/課題プリントの記入）	
第9回	近代市民社会の文学（2）Samuel RichardsonとHenry Fielding		第10回の予習（テキストp.118～p.119を読む/課題プリントの記入）	
第10回	激動と情熱の時代（1）ロマン派の詩		第11回の予習（配布されたプリントを読む/課題プリントの記入）	
第11回	激動と情熱の時代（2）ロマン派の小説		第12回の予習（テキストp.144～p.145を読む/課題プリントの記入）	
第12回	新しい女性の文学活動		第13回の予習（テキストp.162～p.163を読む/課題プリントの記入）	
第13回	批評文学の隆盛		第14回の予習（テキストp.174～p.175を読む/課題プリントの記入）	
第14回	繁栄と退廃の時代		第15回の予習（テキストp.200～p.201を読む/課題プリントの記入）	
第15回	現代文学の道程		—	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	70％ 学期内に6種類のレポートを課します。別途「課題」プリントを添付して提出してください。			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30％ 講義への参加度・受講態度などで評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	初回の講義でレポートや課題について詳しく説明しますので、必ず出席してください。 また、レポートは計画的に作成し、不備なく講義最終日に提出してください。 必ず予習（テキストを読む）をして講義にのぞんでください。 毎回出席カードにコメントを書いて提出してもらいます。コメントの無いものは出席とはみなしません。			
教科書	斉藤勇監修 『イギリスの文学』 英宝社			
指定図書	—			
参考図書	講義中、必要に応じて紹介します。			
オフィスアワー	火曜日4限		メールアドレス	

授 業 科 目	異文化コミュニケーション【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	池澤 明子		単 位	2
授業の目的 と概要	教科書および講義の内容を通して、異文化コミュニケーションの基礎的な知識を得る。 また、クラス内外での体験活動を通して、自分自身および他者のことをより深く理解し、客観的に分析する見方を得る。 特に、異文化コミュニケーションの現場である日本語教育の観点からそれらを行う。			
到達目標	① 異文化コミュニケーション分野の基礎的知識を得る ② 文化やコミュニケーションスタイルの多様性を理解する ③ 自他の文化やコミュニケーションスタイルの特徴に気づき、より広い視野と客観的な態度を獲得する			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	異文化コミュニケーションとは1：短編映画を観て考える、授業の説明		準備：教科書を購入し、持参する	
第2回	異文化コミュニケーションとは2：映像作品や出版物から考える		準備：映像作品や出版物から考えたことを書く	
第3回	序章「異文化とは」、発表箇所の分担		予習：教科書の序章（p.3-p.17）を読み、キーワードと感想を書く	
第4回	第1章「自分とは何だろう」		予習：教科書の第1章（p.18-p.29）を読み、キーワードと感想を書く	
第5回	第2章「異文化との接触」		予習：教科書の第2章（p.30-p.44）を読み、キーワードと感想を書く	
第6回	第3章「イメージとステレオタイプ」		予習：教科書の第3章（p.45-p.57）を読み、キーワードと感想を書く	
第7回	第4章「人と出会うということ」		予習：教科書の第4章（p.58-p.69）を読み、キーワードと感想を書く	
第8回	第5章「人とコミュニケーションするということ」		予習：教科書の第5章（p.70-p.92）を読み、キーワードと感想を書く	
第9回	第6章「外国語でコミュニケーションするということ」		予習：教科書の第6章（p.93-p.109）を読み、キーワードと感想を書く	
第10回	第7章「非言語コミュニケーションを考える」		予習：教科書の第7章（p.110-p.123）を読み、キーワードと感想を書く	
第11回	第8章「誤解はどこから生まれるのか」		予習：教科書の第8章（p.124-p.143）を読み、キーワードと感想を書く	
第12回	第9章「価値観の相違を考える」		予習：教科書第9章（p.144-p.163）を読み、キーワードと感想を書く	
第13回	第10章「多文化共生に向けて」		予習：教科書第10章（p.164-p.178）を読み、キーワードと感想を書く	
第14回	レポートの準備：映像作品や出版物から考える		予習：期末レポートの計画書に記入し、持参する	
第15回	レポート相互評価		準備：期末レポートを執筆し、持参する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート50％			
小テスト等	毎回の予習ワークシート15％、毎回の授業中のワークシート15％			
成果発表	学期中に一回、教科書の担当箇所の内容の発表（パワーポイント作成含む）20％			
受講態度他	遅刻、授業中に授業活動以外のことをすると、その回のワークシートの点数が得られない			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	① 授業活動に積極的に参加する ② クラスメートとのコミュニケーション自体が学習活動の重要な一部であることを理解し、積極的に取り組む ③ クラスメートのコミュニケーションスタイルの多様性に配慮する ④ 教室では、授業活動以外のことを行わない ⑤ 3回以上欠席すると、レポート提出の権利を失う			
教科書	徳井厚子『多文化共生のコミュニケーション 日本語教育の現場から』アルク（2008）			
指定図書	なし			
参考図書	八代京子・世良時子『日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル』三修社（2010）			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	異文化コミュニケーション特論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	宮原 哲		単 位	2
授業の目的 と概要	人間がシンボルを介して行うコミュニケーションの本質を理解し、日常生活、特にグローバル化が促進されると言われる今日の社会で、異文化コミュニケーションについての知識を習得し、明確な目的意識を備え、効果的で適切なコミュニケーション能力の習得を目指す。「異文化」は海外の文化と考えられがちだが、一つの国の中でも地域、年代、性、職業によって異なる文化が存在し、日々せめぎあっている、という認識を強めることも重要な目的の一つである。			
到達目標	この授業を受講することによって、以下の目標の達成を目指す。 1. 人間のコミュニケーションの本質に関する知識を習得する。 2. 「異文化」が指し示すことを、日常生活の中で実感、理解する。 3. 異文化コミュニケーション・コンピテンスが指し示すことを理解する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	「コミュニケーション」という言葉が広く使われているものの、その正確な意味や、実践的な能力は理解されていない。同様に「異文化」もたいへん狭い意味でしかとらえられていない。これらの現状を前提に、この授業ではコミュニケーション、文化が人間のシンボル活動の産物であるという命題を大前提とする。受講生は日常のさまざまな行動が文化によって影響を受け、同時に人間関係活動が文化を形成し、また変化させていることへの気づきを元とした研究課題の提示を目指す。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 クラス・オリエンテーション 授業全体の目標を明確にし、受講生各自の学術的、実践的目標を立てる。			異文化コミュニケーションで興味ある領域を設定する	
第2回 コミュニケーション概論 人間がシンボルを介して行うコミュニケーションの特徴、問題などを概観し、シンボル活動としての			日常起こる事象、問題点を「ノイズ」の観点からレポートする	
第3回 異文化コミュニケーション概論 「文化」とコミュニケーションとの関連を考え、双方が相互にどのような影響を与えるのか考察する			自分の「文化的背景」について熟考し、口頭で発表する準備を行う。	
第4回 異文化コミュニケーションに影響を与える要因 文化的背景を異とする相手だからこそこ起こるさまざまな問題を考え、それらの要因について議論する			社会的事象の「異文化的要素」を解説する準備をする	
第5回 言語と異文化コミュニケーション 言語がコミュニケーションを可能にする有効な道具であるのと同時に、その特性によって多くの「間			ことばが人間関係に与えると思われる状況についてレポートを書く。	
第6回 外国語習得と異文化コミュニケーション 「国際語」と呼ばれる英語を、文化を異とする者が学習する際の意義、問題点について考察する			英語学習の異文化コミュニケーションへの影響を考えレポートする	
第7回 非言語シンボルと異文化コミュニケーション 言語以上に非言語が与える異文化コミュニケーションに対する影響を考察、理解する。			「同じ」非言語メッセージの異文化での意味を口頭で発表する準備	
第8回 認識と異文化コミュニケーション 認識もコミュニケーションの一環であることを理解し、文化との間にある関係について理解を深める			ひとつのモノが、異文化でいかに違った認識をされているか考える。	
第9回 ステレオタイプ、偏見 認識の産物としてのステレオタイプや偏見、それらの異文化コミュニケーションへの影響について考			特定の文化に対するステレオタイプ、偏見について自省する。	
第10回 コミュニケーションの「政治力」 コミュニケーションそのものには自分と相手との力関係を規定したり、変化させたりする力がある。			自分自身と相手とどのような関係を築こうとしているか熟考する。	
第11回 異文化コミュニケーションと医療 医療の現場も異文化のせめぎあいであることを理解する。			自分と医療者との間での「異文化コミュニケーション」をレポートする	
第12回 異文化コミュニケーションとビジネス 商取引の状況が異文化のせめぎあいであることを理解する。			ビジネスの異文化交流での文化的影響口頭発表する準備を行う。	
第13回 異文化コミュニケーションと教育 教える側と習う側では必然的に「文化的背景」が異なる。そのことによって起こるコミュニケーショ			教師と生徒、親とのコミュニケーションについてレポートを作成する。	
第14回 文化の共依存 文化や優劣をつけて考えられるものではなく、共に影響を与えながら共存するべきものである、とい			共文化の存在について考え、授業での討論に備える。	
第15回 まとめ			「研究プロポーザル」を提出する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない			
レポート	6 0％（随時指定する課題についてレポートを提出する 30％ 研究プロポーザル 30％）			
小テスト等	行わない			
成果発表	3 0％ 随時指定する口頭発表			
受講態度他	1 0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	コミュニケーションという「正解」が一つではない領域の学習、研究を行う以上、各自の探究心や好奇心が重要なカギを握る。授業中も積極的に発言し、クラス全体で複数の正解を探究する態度が重要である。			
教科書	宮原哲「新版入門コミュニケーション論」松柏社（2006）			
指定図書	池田理知子（編）「よくわかる異文化コミュニケーション」ミネルヴァ書房（2010）			
参考図書	随時指定する			
オフィスワー	授業終了後	メールアドレス		

授 業 科 目	移民文化論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	喜多村 百合		単 位	2
授業の目的 と概要	移民の世紀と呼ばれる21世紀。人の移動は人類発生と同時にあった現象でありながら、グローバル化で今日さまざまな問題を生じさせています。この講義は、日本と海外における移民現象をいくつか取り上げ、ホスト社会と移民集団間に生じる関係性「エスニシティ」を含めて問題を理解することを目的とします。 まず在日コリアンと日系アメリカ人を挙げ、法的規制と文化的アイデンティティの形成について、当事者の位置から考察します。さらに移民大国と呼ばれるインド系移民について、イギリスとアメリカの事例を通して同様の検討をします。 終盤で、日本の新たな移民現象（ニューカマー）について、首都圏を中心にその実態と課題を把握します。			
到達目標	①在日コリアン3世の文化的アイデンティティについて説明できる。 ②日系アメリカ人の移民の軌跡の概要、および戦時中の強制収容補償問題とアイデンティティ形成について説明できる。 ③インド系移民の文化的アイデンティティの多様性について説明できる。 ④日本社会の新たな移民問題について実態・課題を把握し、実践を含めて態度形成ができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 導入：移民の定義と歴史。本講義のねらい			プリント復習	
第 2回 現代社会における移民現象と統計的把握			プリント復習	
第 3回 移民研究動向(1)米国移民文化理論			プリント復習	
第 4回 移民研究動向(2)エスニック・バウンダリー論とエスニシティ			プリント復習	
第 5回 日本の移民(1) 在日コリアンの歴史			指定図書②前半	
第 6回 日本の移民(2) 在日コリアンのライフヒストリーとエスニシティ			指定図書②後半	
第 7回 日系移民(1) 歴史			指定図書①	
第 8回 日系移民(2) 日系アメリカ移民のライフヒストリーとエスニシティ			中間レポート	
第 9回 インド系移民(1) 「移民大国インド」概説			参考図書③	
第10回 インド系移民(2) イギリスのインド系移民の歴史			参考図書③	
第11回 インド系移民(3) インド系イギリス人のライフヒストリーとエスニシティ			配布プリント復習	
第12回 インド系移民(4) 米国のインド系移民の歴史			配布プリント復習	
第13回 インド系移民(5) インド系アメリカ人のライフヒストリーとエスニシティ			配布プリント復習	
第14回 現代日本の新たな移民（ニューカマー）の実態と課題			プリント復習	
第15回 まとめ			期末レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート 60％、中間レポート 20％			
小テスト等	－			
成果発表	なし			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ふだんから、移民をめぐるニュースや情報に関心を持つよう努めること。			
教科書	授業時にレジュメ・資料プリントを配布			
指定図書	①竹沢泰子『日系アメリカ人のエスニシティ』、②福岡安則『在日韓国・朝鮮人・若い世代 のアイデンティティ』 ③ミラ・ナイール『その名にちなんで』(DVD)			
参考図書	①綾部恒雄他『文化人類学2：民族とエスニシティ』 ②古賀正則『移民から市民へ』 ③ 小熊英二『在日一世の記憶』			
オフィスアワー	月3、水4		メールアドレス	

授 業 科 目	医療社会学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	園田 浩之		単 位	2
授業の目的と概要	この授業では、医療社会学の視点・考え方と、そこで扱われているいくつかの具体的な問題について紹介してゆく。授業の目的は、医療をめぐるあたりまえと、医療があたりまえなもの（こと）として存在する現代社会のありようを、社会学の視点から（ときに私たち自身の常識そのものを問い返しなが）ら考えてみることである。そうするなかで、①そもそも医療をめぐる社会学的に考えるとはどういうことか、②そうしたまなざしによって見出される現代社会の問題とはどのようなものかを、受講者の皆さんと一緒に考えてゆく。			
到達目標	①これまで社会学という学問が「医療」や「病気」をめぐる考察してきたことから学びつつ、自らの生きる現実を多面的に・柔軟に（ときに批判的に）とらえるために必要なリテラシーやクリティカル・シンキングの姿勢や視点を身につける。②自らの生きる現代社会を複眼的に理解し、それをできる限りクリアに・ていねいに言語化することができる。それらの学びを通じて、ものの見方と思考、そして言葉による表現の柔軟性を高める。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は現代社会学部の基礎科目のことつに位置づけられており、現代社会学部のDP②「現代社会を理解するために、社会学の基礎的な知識と技能を身につけている」の達成に関わる科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	医療社会学への招待 医療（と病と健康）をめぐる常識を問い直すために		配布資料とノートをもとに、初回の内容をふりかえる	
第2回	ふたつの医療社会学？		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第3回	社会学で考える「病い」① そもそも「病気」とは何か？		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第4回	社会学で考える「病い」② 意味づけ・ラベリングとしての病気		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第5回	社会学で考える病気と健康/正常と異常をめぐる①		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第6回	社会学で考える病気と健康/正常と異常をめぐる②		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第7回	健康に怯える現代人？ 疑いにくいものを疑ってみる		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第8回	健康に怯える現代人？ 不安とリスクの社会学①		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第9回	健康に怯える現代人？ 不安とリスクの社会学②		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第10回	中間考察 現代社会における病と健康をめぐる		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第11回	医療化と現代社会① 誰が「病気」を決めるのか？		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第12回	医療化と現代社会② 診断名の社会学		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第13回	医療化と現代社会③ 脱施設化 病院と「その外」をめぐる		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第14回	「病い」のある場所		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第15回	あたりまえを問い直す意味 社会学の使いみち		配布資料とノートをていねいに読み返す	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 講義中に示した重要な概念や視点、事柄の説明を正しく理解し、それを適切・説得的な言葉で表現できること			
レポート	10％ 学期中に講義内容とリンクした小レポートを課すことがある。			
小テスト等	なし。ただし、理解の適切さを確かめる意味で、講義内容に関する問いかけを行うことはある（受講態度の項目も参照）			
成果発表	なし。			
受講態度他	10％ 講義中のコミュニケーション（質疑・やりとり）を含む、講義への実質的な参加は重んじる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修を希望する人たちは、必ず「初回の講義」から出席して下さい。受講上のルールや留意点の詳細は、教室で説明します。			
教科書	教科書は使用しません。スライド（パワーポイント）と、そのつど配布する配布資料（プリント）で講義を進めます。			
指定図書	なし			
参考図書	講義の進行に応じて、さらに知りたくなった人・より深く考えたくなった人たちに、思考の糧・補助線になりそうなもの（場合によっては、「本」以外のもの）を紹介していけたらと思っています。			
オフィスアワー	質問や連絡等は、講義の前後に教室で直接うかがいます（いつでも、遠慮なくどうぞ）	メールアドレス		

授 業 科 目	医療福祉論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	池田 和彦・図師 由里子		単 位	2
授業の目的と概要	高齢化がさらに進行する日本社会では、団塊の世代がすべて後期高齢者となる2025年に向けた医療制度改革が展開されている。医療法改正や診療報酬改定、医療保険制度改革によって進められている医療制度改革の中にあつて、医療社会福祉および医療ソーシャルワークはますます重要性を増している。 本講義は、医療社会福祉および医療ソーシャルワークの概念的理解とその歴史的展開をふまえ、現在及び将来の日本における医療社会福祉、医療ソーシャルワークのあり方を検討する力量を身につけることを目的とする。 そのため、人間にとってかけがえのないいのちと健康の維持・再生産に関わる諸問題の解決にとって医療が果たすべき役割と課題について理解し、医療社会福祉および医療ソーシャルワークの意義と必要性を検討する（問題解決力の獲得）。また、医療制度について詳細に学ぶとともに、医療ソーシャルワーカーにとって必要な知識と技術を身につける。			
到達目標	1. 医療社会福祉、医療ソーシャルワークについて、その概念を規定することができる。 2. 医療保障制度および介護保険制度について、その仕組みと利用方法を他者に説明できる。 3. 医療供給（提供）体制について、医療法および診療報酬制度をふまえて説明できる。 4. 医療ソーシャルワーカーの業務内容および医療ソーシャルワーカーに求められる倫理観や人間観を身につけることができる。 5. 医療ソーシャルワーカーに求められる知識・技能の基本を身につけることができる。 6. 医療ソーシャルワークにおける記録の方法について学ぶことを通して論理的思考力を身につけることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 「医療福祉論」とは何か ― いのちと健康の維持・再生産と医療社会福祉 （池田）			人間にとってのいのちと健康、医療社会福祉の全体像についてノート整理	
第2回 事例を通してみる医療ソーシャルワークの実際 （図師）			医療ソーシャルワーカーの業務内容についてノート整理	
第3回 医療供給（提供）体制 ― 医療法、診療報酬制度など （池田）			医療法、診療報酬制度についてノート整理	
第4回 医療機関・病棟の種類 ― 医療法による区分（地域支援病院、特定機能病院） （池田）			医療法にもとづく病院、病棟の種類についてノート整理	
第5回 医療機関・病棟の種類 ― 診療報酬制度による区分（入院基本料、特定入院料） （池田）			診療報酬制度による病棟の種類についてノート整理	
第6回 病棟の種類による医療ソーシャルワークの展開と医療保険制度 （池田）			病棟ごとの医療ソーシャルワーカーの業務と医療保険についてノート整理	
第7回 多職種連携による退院支援と介護保険制度 （池田）			多職種連携による退院支援と介護保険制度についてノート整理	
第8回 医療制度改革の動向と医療ソーシャルワーク （図師）			医療制度改革の動向についてノート整理	
第9回 医療政策のあり方と医療ソーシャルワーカーの課題 （図師）			医療をトータルに保障するという点について考えを整理	
第10回「医療ソーシャルワーカー倫理綱領」と「医療ソーシャルワーカー業務指針」 （池田）			医療ソーシャルワーカー倫理綱領、業務指針についてノート整理	
第11回 医療ソーシャルワーク実践における面接技法（グループワークを含む） ― 地域包括ケアを中心に （池田）			面接技法（地域包括ケアの場合）について復習	
第12回 医療ソーシャルワーク実践における面接技法（グループワークを含む） ― 緩和ケアを中心に （池田）			面接技法（緩和ケアの場合）について復習	
第13回 医療保障制度の全体像とその体系 （図師）			医療保険制度、医療扶助などの公費負担医療などについてノート整理	
第14回 医療ソーシャルワークにおける記録 ― SOAPなどの記録方法 （図師）			SOAPなどの記録方法についてノート整理	
第15回 医療ソーシャルワークにおける記録 ― 記録方法の実践とディスカッション （池田）			記録についてのふり返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％ 筆記試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	○講義時に資料を配布するので、やむを得ず欠席したときなどは、後日研究室に資料を受け取りに来ること。			
教科書	講義時に資料を配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスワー	水-4	メールアドレス		

授 業 科 目	インターンシップⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	徳永 彩子		単 位	2
授業の目的 と概要	本科目の受講を希望する皆さんはすでに、２年次の「キャリアインターンシップ」や全学的なPBLやアルバイトを通じて、就業体験自体は出来ていると思います。本科目の後に続くインターンシップⅡでも、夏休み中に10営業日(80時間)以上の就業体験をしてもらいますが、インターンシップⅠの目的はその準備として、ビジネスマナーの基本を講義と演習によって、着実に体得していくことを目的としています。また、演習の後半は企業分析を行っていきます。 したがって、「知識がある」というレベルにとどまらず、「実践できる」ことを目標とします。講義に加えてロールプレイングなどの演習を行い、ビジネスマナーの基本を身につけます。			
到達目標	・ビジネスパーソンとしてふさわしい立ち居振る舞いができる。 ・敬語の種類を理解し、正しい敬語を使用することができる。 ・電話対応の重要性を理解し、受信と発信ができる。 ・受付での対応ができる。 ・他者訪問のマナーを実践できる。 ・来客に敬意を表し、的確に丁寧に迅速に対応できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回目	ガイダンス（演習の内容と方針の説明）		とくになし	
第2回目	敬語（丁寧語）		丁寧語にかんする資料を読んでおく。	
第3回目	敬語（尊敬語）		尊敬語にかんする資料を読んでおく。	
第4回目	敬語（謙譲語）		謙譲語にかんする資料を読んでおく。	
第5回目	電話対応（かけ方）		電話対応にかんする資料を読んでおく。	
第6回目	電話対応（受け方）		電話対応にかんする資料を読んでおく。	
第7回目	電話対応（さまざまな電話対応）		電話対応にかんする資料を読んでおく。	
第8回目	来客対応（受付対応）		来客対応にかんする資料を読んでおく。	
第9回目	来客対応（茶菓接待）		来客対応にかんする資料を読んでおく。	
第10回目	来客対応（上座・下座）＆業界分析		来客対応にかんする資料を読んでおく。	
第11回目	来客対応（さまざまな対応）＆業界分析		来客対応にかんする資料を読んでおく。	
第12回目	業界分析		業界の資料を読んでおく。	
第13回目	業界分析		業界の資料を読んでおく。	
第14回目	成果発表		受講レポートを書いておく。	
第15回目	成果発表		受講レポートを書いておく。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％			
レポート	20％			
小テスト等	10％			
成果発表	成果発表 20％			
受講態度他	20％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	私がこれまで訪問してきた地元の企業で聞いた限りでは、研修に来た筑女生の評価はとても良好です。あるイメージ調査でも、筑女生は礼儀正しいと産業界で認識されているようです。これが筑女のブランドイメージであれば、現社の1期生が企業などに研修に行ってブランドを破壊することは許されません。したがって、受講態度があまり良くない学生は、低い受講点のせいでインターンシップに行けなくなるかも知れません。そんなことにならないように、この科目はとくに真剣に受講してください。			
教科書	とくになし			
指定図書	とくになし			
参考図書	とくになし			
オフィスワ－	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	インターンシップⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	徳永 彩子		単 位	2
授業の目的 と概要	本科目は前期のインターンシップⅠの続編なので、ⅠとⅡを合わせたの授業目的と概要は、インターンシップⅠのシラバスを参照してください。インターンシップⅠを受講せずに本科目だけ受講することはできません。また本科目は、後期からの授業開始に先立って、8月下旬から9月下旬にかけて10営業日(80時間)以上の就業体験をすることが受講の前提となっています。			
到達目標	1 御礼状や社内文書、社外文書を作成できる。 2 企業や業界を1つの生物として眺める視点を身に付けることができる。 3 希望する研修先が直面していると思われる諸問題に対して、就業体験を踏まえて解決策を提案することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回～10回目	8月下旬～9月下旬に10営業日(80時間)以上の就業体験		とくになし	
第11回目	研修先へのお礼状		ビジネス文書に関する資料を読んでおく。	
第12回目	ビジネス文書（社内文書）		社内文書に関する資料を読んでおく。	
第13回目	ビジネス文書（社外文書）		社外文書に関する資料を読んでおく。	
第14回目	インターンシップの体験報告会&改善提案を考察		インターンシップの成果を所定の受講レポートとして書いておく。	
第15回目	インターンシップの体験報告会&改善提案を考察		インターンシップの成果を所定の受講レポートとして書いておく。	
以下の回数はインターンシップで充当			記載なし	
以下の回数はインターンシップで充当			記載なし	
以下の回数はインターンシップで充当			記載なし	
以下の回数はインターンシップで充当			記載なし	
以下の回数はインターンシップで充当			記載なし	
以下の回数はインターンシップで充当			記載なし	
以下の回数はインターンシップで充当			記載なし	
以下の回数はインターンシップで充当			記載なし	
以下の回数はインターンシップで充当			記載なし	
以下の回数はインターンシップで充当			記載なし	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	受講レポート50％			
小テスト等	なし			
成果発表	成果発表 50％			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	インターンシップが終わったあとの5回の授業なので、リラックスして楽しんで下さい。			
教科書	とくになし			
指定図書	とくになし			
参考図書	とくになし			
オフィスワ－	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	インドネシア語Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	石橋　ヘルミンダティ		単　　位	1
授業の目的 と概要	この授業では、はじめてインドネシア語を学習する学生を対象にします。 基礎的な文法と基本的な語彙を学び、代名詞をはじめ、肯定文、否定文、疑問文の構造を理解し、会話練習を取り入れて、耳から学習もできるように工夫します。 そのため基本文法や語彙をしっかり身につけて、初対面の人と簡単な日常会話を交わすことができることを目的とする			
到達目標	1. 初対面の人とあいさつをはじめ、簡単な自己紹介ができる 2. 身の回りの物を述べることができる 3. 短文を読み書きをはじめ、訳すことができる。 4. 数字を使って、年齢、値段、時刻を発表することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1　アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	インドネシアについて　Power Point Teksを使用 インドネシアの面積、人口、言語などを知ること		インドネシアの基本事情を知ること	
第2回	インドネシア語の発音、文字、 アルファベットの発音		アルファベットを発音しながら、英語の発音と異なることを知る	
第3回	基本文法　　その1　　指示代名詞 基本の文法を学ぶ。　身の回りの物を言う。		肯定文、否定文、疑問文の文章を確認する	
第4回	修飾する単語と修飾される単語の語順 指示代名詞を応用		文法を理解し、会話練習する	
第5回	人称代名詞 人称代名詞の種類、呼びかけ		いろいろな人称代名詞を知り、短文を作る	
第6回	人称代名詞、所有代名詞 所有代名詞の応用		人称代名詞と所有代名詞を使用し、会話練習する	
第7回	数字を覚えよう 単数、大きな数字など		数字の数え方を表現する	
第8回	いろいろな助数詞 いろいろな助数詞の応用		自分の電話番号、年齢を発表する	
第9回	曜日の名、月の名、日付を尋ねる 英語と異なる月の名前		今日の日付、誕生日を発表する	
第10回	時刻の表現 時刻を言う		今の時刻を表現する	
第11回	時刻の長さの表現 時間の長さ		時間を使用し、会話練習	
第12回	いろいろな形容詞		形容詞の語順を理解する	
第13回	同等、比較表現		同等、比較、最上級の文章を作ってみる	
第14回	過度の表現		形容詞の応用　　（予習P84）	
第15回	会話テスト		日常会話で発表する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	3 0 ％			
レポート	1 0 ％			
小テスト等	3 0 ％			
成果発表	2 0 ％			
受講態度他	1 0 ％			
受講上の留意 点・ルールに関 わる情報	1.　出席は3分の1以下、受講することができなくなる。 2.　課題や宿題ををこなしてくること。			
教科書	インドネシア語レッスン　初級1　　ホラス由美子　　スリーエーネットワーク			
指定図書	やさしい初歩のインドネシア語　　舟田　京子　　南雲堂			
参考図書	バタオネインドネシア語講座初級　　ドミニクス・バタオネ/近藤由美　　めこん			
オフィスアワー	水曜日11:00～17:00		メールアドレス	

授 業 科 目	インドネシア語Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	石橋　ヘルミンダティ		単　　位	1
授業の目的 と概要	この授業では、インドネシア語Iで取得した学生のみ受講できます。 インドネシア語Iで学習した文法や単語を活かして、より実用的な文章を学んでいきます。 この授業がマスターすると、ネイティブの人の会話を理解できコミュニケーションを取るができることを目的とする。			
到達目標	①日常的な会話を始め、相互に会話を成り立つことができる ②文法に動詞や時制を加わり、それに対して理解しつつ述べるができる ③辞書を使用しながら、短文や長文を読み書きができ、意味を調べた上で、発表できる ④ネイティブの人の言葉を理解し、積極的に参加し、自分の意見を述べるができる インドネシア語技能検定試験D及びE級が習得できる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1　アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	インドネシア語1で学習したことを復習する プリントを配布、今まで学習したことを発表する		会話やプリントを配布し復習する	
第2回	第7課　いろいろな語根動詞 辞書に記載している動詞。日常的な動作		はじめて動詞を導入する。日常によくある動詞を知る（教科書P.94）	
第3回	動詞の時制、場所を表す前置詞		英語の文のように動詞の変化がなく、時制が大事	
第4回	リスニング、会話練習 CDを聞く		予習（教科書P103-106）	
第5回	第8課　Ber-動詞（自動詞） ほとんど自動詞		自動詞という動詞の種を覚えておく（教科書P113-115）	
第6回	Ber-動詞の応用 接頭辞Ber-をつけると、意味が変わる		Ber-の変化と意味を理解する	
第7回	リスニング、会話練習 CDを聞く		習った動詞を使用し、日常会話を練習する	
第8回	第9課　　Me-動詞（他動詞）の変化 意味の変化がありません		Me-動詞の意味と変化を理解する	
第9回	Me-動詞の応用 接頭辞Me-の応用		Me-動詞とBer-動詞の違いを区別する	
第10回	リスニング、会話練習 CDを聞く		練習問題を解く（教科書P.138-139）	
第11回	第10課　いろいろな助動詞 助動詞を使い、文章を作る		動詞と助動詞を使用し、文を作る	
第12回	助動詞の応用 助動詞その2		動詞と助動詞を使用し、文を作る	
第13回	リスニング、会話練習		練習問題を解く（教科書P.151-152）	
第14回	インドネシア語技能検定試験対策		過去問題を解く	
第15回	会話テスト		今まで習ったことを発表する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％			
レポート	10％			
小テスト等	30％			
成果発表	20％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1.　インドネシア語1取得した。 2.　出席は3分の1以下、受講することができなくなる。 3.　課題をこなしてくること			
教科書	インドネシア語レッスン　初級1		ホラス由美子	スリーエーネットワーク
指定図書	やさしい初歩のインドネシア語		舟田　京子	南雲堂
参考図書	バタオネインドネシア語講座初級		ドミニクス・バタオネ/近藤由美	めこん
オフィスアワー	水曜日　　　11:00-17:00		メールアドレス	

授 業 科 目	ウエルネス・スポーツⅠ【実技】			開 講 時 期	前期
担 当 教 員	宮平 喬・栗木 明裕・城戸 親男・百瀬 義人・泉原 嘉郎・山下 龍一郎			単 位	1
授業の目的 と概要	本授業は各人が選択したスポーツの実習を通して、それぞれのスポーツの技術・ルール・マナーなどを学習しながら発育終期を迎えた学生の健康・体力向上を図る。また、体力のみならずスポーツを通して、社会の中で生きていく上でのソーシャルスキルを養う。 実習するスポーツは、バレーボール、バドミントン、卓球、テニスであり、その他にレクリレーション等も適宜加えられる。また、多種多様なトレーニング方法を準備運動等へ盛り込み、体力の向上に役立てる。				
到達目標	1チームワークを含めたスポーツの楽しさを体得する。 2スポーツを媒体にして仲間とのコミュニケーション能力をはじめとするライフスキルを養う。 3自らの体力レベルを把握し、自己評価することができる。 4スポーツなどの身体活動を積極的に生活の一部に取り入れることができる。				
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション（更衣不要。場所は当日朝に体育館前に掲示する）			健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する。	
第 2 回	身体ほぐし運動、アイスブレイキング			健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する	
第 3 回	体力テスト、ストレッチ、補助運動			健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する	
第 4 回	体力テスト、ストレッチ、補助運動、種目分け			健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する	
第 5 回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技			各自該当する種目のルールと基本技術について学習する	
第 6 回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技			各自該当する種目のルールと基本技術について学習する	
第 7 回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技			各自該当する種目のルールと基本技術について学習する	
第 8 回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技			各自該当する種目のルールと基本技術について学習する	
第 9 回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技			各自該当する種目のルールと基本技術について学習する	
第10回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技			各自該当する種目のルールと基本技術について学習する	
第11回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技			各自該当する種目のルールと基本技術について学習する	
第12回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技			各自該当する種目のルールと応用技術について学習する	
第13回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技			各自該当する種目のルールと応用技術について学習する	
第14回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技			各自該当する種目のルールと応用技術について学習する	
第15回	まとめ			スポーツの役割、ウエルネススポーツの目的を再確認する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	なし				
レポート	なし				
小テスト等	なし				
成果発表	なし				
受講態度他	出席状況（90%）：欠席 1 回に対して10%を減点する。 授業への積極性（10%）：毎回の授業における受講状況・態度によって評価する。				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 能率・安全のために、スポーツ用の服装やシューズを着用する。 2. ルールに従い、クラスの成員と協力すること。 3. 身体活動が中心の学習であるから、各自が自らの健康管理に配慮すると共に、他のメンバーの安全にも留意する。 4. 用具・器具使用上の注意を守ると共に、長い爪や装身具の着用等も事故の原因になることを知り注意すること。				
教科書	特になし				
指定図書	特になし				
参考図書	特になし				
オフィスワ	授業前後あるいは火、木、金の昼休み（要事前連絡）		メールアドレス		

授 業 科 目	ウエルネス・スポーツⅡ【実技】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	栗木 明裕・山下 龍一郎		単 位	1
授業の目的と概要	本授業は各人が選択したスポーツの実習を通して、それぞれのスポーツの技術・ルール・マナーなどを学習しながら発育終期を迎えた学生健康・体力向上を図る。また、体力のみならずスポーツを通して、社会の中で生きていく上でのソーシャルスキルを養う。 実習するスポーツは、ウエルネス・スポーツⅠと同じ。Ⅱでは前期にⅠを履修し、①Ⅰと異なった種目を選択するグループ、②Ⅰと同じ種目を継続選択するグループの2つに分かれる。①はⅠと同じ要領で学習を進めるが、②の場合はⅠよりもレベルの高い技術やルールを加え、更に集団技能やゲームの学習に力点を置きながら学習を深める。			
到達目標	1チームワークを含めたスポーツの楽しさを体得する。 2スポーツを媒体にして仲間とのコミュニケーション能力をはじめとするライフスキルを養う。 3自らの体力レベルを把握し、自己評価することができる。 4スポーツなどの身体活動を積極的に生活の一部に取り入れることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション（更衣不要。場所は当日朝に体育館前に掲示する）		健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する	
第 2回	身体ほぐし運動、体力テスト（未測定者のみ）		健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する	
第 3回	レクレーション、体力テスト（未測定者のみ）、種目分け		健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する	
第 4回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技		各自該当する種目のルールと基本技術について学習する	
第 5回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技		各自該当する種目のルールと基本技術について学習する	
第 6回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技		各自該当する種目のルールと基本技術について学習する	
第 7回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技		各自該当する種目のルールと基本技術について学習する	
第 8回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技		各自該当する種目のルールと基本技術について学習する	
第 9回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技		各自該当する種目のルールと基本技術について学習する	
第10回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技		各自該当する種目のルールと基本技術について学習する	
第11回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技		各自該当する種目のルールと基本技術について学習する	
第12回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技		各自該当する種目のルールと応用技術について学習する	
第13回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技		各自該当する種目のルールと応用技術について学習する	
第14回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技		各自該当する種目のルールと応用技術について学習する	
第15回	まとめ		スポーツの役割、ウエルネススポーツの目的の再確認する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	出席状況（90％）：欠席1回に対して10％を減点する。 授業への積極性（10％）：毎回の授業における受講状況・態度によって評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 能率・安全のために、スポーツ用の服装やシューズを着用する。 2. ルールに従い、クラスの成員と協力すること。 3. 身体活動が中心の学習であるから、各自が自らの健康管理に配慮すると共に、他のメンバーの安全にも留意する。 4. 用具・器具使用上の注意を守ると共に、長い爪や装身具の着用等も事故の原因になることを知り注意すること。			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワーク	授業前後あるいは火、木、金の昼休み（要事前連絡）	メールアドレス		

授 業 科 目	ウエルネス・スポーツ論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	栗木 明裕		単 位	2
授業の目的 と概要	「ウエルネス」とは、「健康」を積極的かつ総合的に捉えた健康観を指す。換言すると「どのようにすれば毎日をそして将来をより楽しめるか?」という考え方である。本授業はスポーツをキーワードに身体構造や身体活動について学習するにとどまらず、身の回りにあふれている健康や美容に関する情報を見極めるための知識と自分自身の健康観を養うことを目的としている。			
到達目標	1ウエルネスに対する知見を日常生活に生かせるようになる。 2身体活動・体力要素の特徴についての理解から、日常生活における運動の重要性を考えることができる。 3スポーツを運動の手段としてだけでなく、精神的、社会的なウエルネスに対して活用することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 授業総論			WHO憲章の「健康」について調べる（予習）	
第2回 ウエルネスの概念			大学生としての快適なライフスタイルを考える（予習）	
第3回 健康と社会（1） 健康観の変遷			自分自身の健康観について考えをまとめる（予習）	
第4回 健康と社会（2） ライフスタイルの変遷			「生活習慣病」について調べる（予習）	
第5回 健康と生活（1） 身体のしくみ			身体の内臓とその働きについて調べる（予習）	
第6回 健康と生活（2） 食と健康（ダイエット）			一日の摂取カロリーを計算する（予習）	
第7回 健康と生活（3） フードファディズム			身近なフードファディズムの例を調べる（予習）	
第8回 健康と生活（4） ストレスと健康			身のまわりのストレッサーについて調べる（予習）	
第9回 健康と生活（5） 睡眠と健康			一週間の睡眠時間を調べる（課題）	
第10回 スポーツと社会（1） スポーツ・運動の効果			身体活動の身体に対する効果について調べる（予習）	
第11回 スポーツと社会（2） スポーツ参加			スポーツイベントの魅力について考えをまとめる（予習）	
第12回 スポーツと社会（3） 観るスポーツ			メディアに取り上げられているスポーツとその効果について調べる（予習）	
第13回 女性と健康（1） 女性の身体特性			身体的性差について調べる（予習）	
第14回 女性と健康（2） 女性と体脂肪の関係			体脂肪の機能について調べる（予習）	
第15回 授業総括			自分自身の健康観について考えをまとめる（予習）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 授業終了時に毎回確認課題の提出を課す。			
小テスト等	50％ 授業中に2回の小テストを行い、1回最大25％で評価する。			
成果発表	10％ 課題を1回課す。			
受講態度他	私語など受講態度が悪く、授業の進行や他の学生の妨げとなる場合は減点もあり得る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	単位取得としての授業参加も大切だが、ここで示した内容は自らの健康に関わってくるものであると捉えながら、授業にのぞんでもらいたい。 グループワークを行うこともあるため、積極的に参加すること。 授業の内容によって教室や授業計画が変更となる場合があるが、講義の際に指示する。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	これからの健康とスポーツの科学第4版、安部孝・琉子友男（編）、KSスポーツ医科学書 目でみる女性スポーツ白書、井谷 恵子・来田享子・田原 淳子（著）、大修館書店 など その他適宜紹介する。			
オフィスアワー	水曜日昼休み12:20～13:10（要事前連絡）		メールアドレス	

授 業 科 目	ウエルネス・スポーツ論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	宮平 喬		単 位	2
授業の目的と概要	現代は、何事にも便利さが追求され、人間の資本である健康に目を向けられない状態にある。この講義では、自らの健康のあり方、考え方を学習することを通じて、健康観の育成することを目的とする。加えて、人間が生活の中で培ってきたスポーツ文化の発生と定着を知ることにより、身体文化と健康との関連性を理解する。また、スポーツは元来、信仰を含めた生活と強い結びつきがあり、健康と無関係ではないことを認識する。			
到達目標	1ウエルネスに対する知見を日常生活に生かせるようになる。 2身体活動・体力要素の特徴についての理解から、日常生活における運動の重要性を考えることができる。 3スポーツを運動の手段としてだけでなく、精神的、社会的なウエルネスに対して活用することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 また、同じ共通科目の「ウエルネス・スポーツⅠ」、「ウエルネス・スポーツⅡ」と関連して健康づくりの知識・技術を身につけることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 授業総論			高等学校の保健体育の教科書を見直す（復習）	
第2回 ウエルネスの概念			WHOの示す健康の概念について調べる（予習）	
第3回 健康と社会（1） 健康観の変遷（ヨーロッパを中心に）			医学の父、ヒポクラテスについて調べる（予習）	
第4回 健康と社会（2） 健康観の変遷（日本） 主に江戸時代から明治時代まで			日本における医学の発展の概要を調べる（予習）	
第5回 健康と社会（3） 健康観の変遷（日本） 主に昭和から平成にかけて			医学の発展に寄与した人物についてまとめておく（復習）	
第6回 健康と生活（1） 生活習慣と健康			日本人に多い死因について調べる（予習）	
第7回 健康と生活（2） ストレスと健康			セリエのストレス学説について調べる（予習）	
第8回 健康と生活（3） 体型と健康			自らのライフスタイルについて検証する（予習）	
第9回 スポーツと社会（1） よりよい身体活動を送るために。			幼少期、児童期の運動の発達について調べる（予習）	
第10回 スポーツと社会（2） 古代・中世のスポーツ文化			ヨーロッパにおける古代・中世の時代背景を調べる（予習）	
第11回 スポーツと社会（3） 近代・現代のスポーツ文化			ヨーロッパにおける近代・現代の時代背景を調べる（予習）	
第12回 スポーツと社会（4） スポーツと人権			アメリカの黒人解放運動とウーマンリブ運動を調べる（予習）	
第13回 女性と健康（1） 加齢に伴う身体の変化			更年期障害について調べる（予習）	
第14回 女性と健康（2） 子育てを踏まえた乳幼児の心身発達の理解			乳幼児の情緒、知的発達を調べる（予習）	
第15回 授業総括、授業評価			健康・スポーツに関わる知見の整理（復習）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 全講義中3回求め、1回最大20%で採点 レポートの内容に対する解答は次回の授業で詳細に説明する。			
小テスト等	40% 授業中に小テストを行う。全講義中4回行い、1回最大10%で採点。 小テストの解答は次回の授業で行う。			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度が悪い学生は減点の対象となり、注意1回につき5%-10%減点する。具体的には、私語、スマートフォンの使用、居眠り等である。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	単位取得としての授業参加も大切だが、ここで示した内容は、将来、自らの健康に関わってくるものだと思えながら、授業にのぞんでもらいたい。 本講義では健康について考えてもらうために、様々な角度から授業を展開するつもりである。学生が「前のめり」する授業を目指していきたい。			
教科書	授業時にプリントを配布する			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	月曜日12:20-13:10	メールアドレス		

授 業 科 目	映画・映像論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	一木 順		単 位	2
授業の目的と概要	この「映画・映像論」は映像を理解するために必要な知識である「映像文法」を学ぶことを目的として授業を行う。映画は「視覚芸術」であるといわれている。その言表は「映画は視覚を通して理解されるものである」という映画の基本的な約束を示している。すなわち、映画が語る物語はセリフ（音声情報）によってではなく、画面構成（視覚情報）によって伝えられるのである。映画とは何よりも観衆の視覚を支配するメディアであり、映画から私たちが得る感情―感動も笑いも悲しみも恐怖も―は、映画製作者たちの詐術によって与えられたものということができる。この講義では、こうした映画製作者の「詐術」を映画の意味生成に関わっている要素群、構図、ミザンセヌ、カメラワーク、編集などに焦点を当てながら考えていく。それを通して、それぞれが映画を見、そのメッセージを分析するための方法を確立してもらいたい。			
到達目標	1. 「映画に関わる原初的な欲望」について説明できる 2. 映画における「画面の構図」、「ミザンセヌ」、「カメラワーク」、「編集」について説明できる 3. 基礎的な「映像文法」を利用して映像分析を行うことができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 授業の進め方についての説明			なし	
第 2回 映画の誕生―映画とは何か①			課題映画を視聴し、指示された設問に答えること	
第 3回 映画の誕生―映画とは何か②			課題映画を視聴し、指示された設問に答えること	
第 4回 ショットの誕生			課題映画を視聴し、指示された設問に答えること	
第 5回 「ショット」から「シークエンス」へ			課題映画を視聴し、指示された設問に答えること	
第6回 映画におけるシンメトリ			課題映画を視聴し、指示された設問に答えること	
第 7回 開いた構図、閉じた構図			課題映画を視聴し、指定された設問に答えること	
第 8回 映画における動線			指定された課題を行うこと	
第 9回 カメラワーク①：フォーカスの効果			課題映画を視聴し、指定された設問に答えること	
第10回 カメラワーク②：アングルとサイズ			課題映画を視聴し、指定された設問に答えること	
第11回 ライティングの効果			課題映画を視聴し、指定された設問に答えること	
第12回 編集①			課題映画を視聴し、指定された設問に答えること	
第13回 編集②			課題映画を視聴し、指定された設問に答えること	
第14回 編集③			課題映画を視聴し、指定された設問に答えること	
第15回 まとめ			なし	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0 %			
レポート	50％ 2,400字～2,800字のレポートを課す。任意の映画についてそれぞれが分析を行い、その分析に基づいて映画の主題について考えること。			
小テスト等	0%			
成果発表	30％ グループによるプレゼンテーション。任意の映画について分析を行う。			
受講態度他	20％ 受講態度などを勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業内で指定された授業前課題やグループプレゼンテーションの準備などを行ってから授業に参加すること。またプレゼン予定日に事前連絡なしに欠席した場合、プレゼン点を大幅に減点する。			
教科書	なし			
指定図書	村山匡一郎『映画史を学ぶクリティカルワークズ』 マイケル・ライアン『映画分析入門』、			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	映画学概論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	間瀬 玲子		単 位	2
授業の目的 と概要	映画はフランスで始まった視覚芸術である。リュミエール兄弟による映画の発明から、ルノワールらの巨匠たちによる往年の傑作、映画の革命ヌーヴェル・ヴァーグ、近年のフランス映画までの100年以上の歩みを学ぶことを目的とする。また日本映画がフランスでどのような評価をされているかを考察することを目的とする。そして学習成果をレポートにまとめることにより、情報収集力、論理的思考力を高めることを目的とする。			
到達目標	1 1895年から現在までのフランス映画の主要な出来事を説明することができる。 2 フランスのヌーヴェル・ヴァーグが世界映画に果たした役割を説明することができる。 3 フランスにおける日本映画の評価を説明することができる。 4 映画を通して社会の多様な問題を考察する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 関連科目 現代ポップカルチャー			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	フランス映画の魅力とはなにか		予習 シラバスを読む	
第 2回	映画の始まり (リュミエール兄弟)		予習 配布資料 (第2回)	
第 3回	映画産業の成立 (パテとゴモモン)		予習 配布資料 (第3回)	
第 4回	映画芸術の深化 (ガンス)		予習 配布資料 (第4回)	
第 5回	フランス映画の黄金時代 (クレール)		予習 配布資料 (第5回)	
第 6回	天才と巨人 (ヴィゴとルノワール)		予習 配布資料 (第6回)	
第 7回	占領と解放 (カルネ)		予習 配布資料 (第7回)	
第 8回	フランス映画の安定期 (ベッケル)		予習 配布資料 (第8回)	
第 9回	個性的な作家たち (ブレッソン、タチ)		予習 配布資料 (第9回)	
第10回	映画の革命 ヌーヴェル・ヴァーグ (ゴダール)		予習 配布資料 (第10回)	
第11回	ゴダール、リヴェット、レネ、ヴァルダ		予習 配布資料 (第11回)	
第12回	ドゥミ、小説と映画、多様性の時代		予習 配布資料 (第12回)	
第13回	ユスターシュなどの映画人		予習 配布資料 (第13回)	
第14回	BDの影響、フランスにおける日本映画の評価 (1) 小津安二郎、溝口健二、黒澤明		予習 配布資料 (第14回)	
第15回	フランスにおける日本映画の評価 (2) カンヌ映画祭		予習 配布資料 (第15回)	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 期末レポート(授業の内容に即した複数の設問)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 質問等による授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業で見るのは映画のごく一部です。本学の図書館等を利用して授業中に紹介した映画を必ず見てください。			
教科書	なし。授業資料(冊子体)を配布します。			
指定図書	ビエール・スヴェストル『ファントマ』風濤社、根本隆一郎『文豪文士が愛した映画たち：昭和の作家映画論コレクション』筑摩書房(ちくま文庫)、濱田高志『ミシェル・ルグラン クロニクル』リットミュージック			
参考図書	授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	木曜日2講時	メールアドレス		

授 業 科 目	英語 I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	Wood・松崎・宮原・三日月・林(恵)・田吹・Stewart・船津・大場(明)・麻生・蒲原・Micahels・西島		単 位	1
授業の目的 と概要	この授業は、高校までに既習の英語の知識を確認するとともに、それらの知識を英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に着けることを目的としています。英語をコミュニケーション言語として活用するためには、英語のリズムや発音といった音声的な特徴を理解することも重要ですが、英文の構造を理解し、その理解に基づいて発話したり、聞き取ったりすることも重要です。そのためにこの授業ではコミュニケーション活動に必要な基本的な文型や文法事項の理解を進めていきます。			
到達目標	1. 基本的な文法知識を使いながら、英文の構造を説明できる 2. 基本的な文法に従った英文を作ることができる 3. ポーズ（息継ぎ）やストレス（強弱）を意識しながら、英語を発話することができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要の説明、自己診断テスト		特にありません。	
第2回	Be動詞		Unit 1 の Warm Up (p.9) を教員の指示に従って行ってください。	
第3回	一般動詞		Unit 2 の Warm Up (p.13) を教員の指示に従って行ってください。	
第4回	未来形・進行形		Unit 3 の Warm Up (p.17) を教員の指示に従って行ってください。	
第5回	助動詞		Unit 4 の Warm Up (p.21) を教員の指示に従って行ってください。	
第6回	Review 1		テキストの p.24-27	
第7回	小テスト 1		ここまでの復習を行うこと。	
第8回	能動態・受動態		Unit 5 の Warm Up (p.29) を教員の指示に従って行ってください。	
第9回	動名詞・分詞		Unit 6 の Warm Up (p.33) を教員の指示に従って行ってください。	
第10回	不定詞		Unit 7 の Warm Up (p.37) を教員の指示に従って行ってください。	
第11回	現在完了形・過去完了形（1） 完了時制の考え方		Unit 8 の Warm Up (p.41) を教員の指示に従って行ってください。	
第12回	現在完了形・過去完了形（2） 現在完了と過去完了		授業内で指示します。	
第13回	Review 2		テキストの p.24-27	
第14回	小テスト 2		ここまでの復習をしてください。	
第15回	前期のまとめ		前期の復習をしてください。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 定期試験期間中に60分間、100点満点のテストを行います。詳細は授業内で指示します。			
レポート	なし			
小テスト等	20％ 学期中に2回実施します。			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ （その中に授業外の課題10%を含みます）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には必ず指定された授業前課題を行って参加してください。。また上記以外の課題を授業内で指定することもあります。			
教科書	芝垣茂 他 『始めよう！ 文法からコミュニケーションへ』 CENGAGE Learning			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバス参照		メールアドレス	

授 業 科 目	英語Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	石井(康)・高森・大場(明)・林(恵)・田吹・麻生・船津・太田・蒲原・西島・Stewart・Michaels・林(慎)		単 位	1
授業の目的と概要	この授業は、「英語Ⅰ」に続いて、英語による自己表現能力の養成を目的とします。英語運用の基礎となるのは、基本的な文法ルールに従って英文を作ったり、そうしたルールに従って英文を理解することです。そのために、前期の「英語Ⅰ」に引き続きこの授業でも基本的な文法事項の確認から始めます。そのうえで、そうした文法知識を実際のコミュニケーションに活用する方法を学びます。英作文やプレゼンテーションなどを通して、コミュニケーションの実践も重視します。			
到達目標	1. 基本的な文法知識を使いながら、英文の構造を説明できる 2. 基本的な文法に従った英文を作ることができる 3. 簡単な英文を使いながら口頭で自己表現できる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要の説明、自己診断テスト		特にありません	
第2回	名詞・冠詞・数詞		Unit 9 の Warm Up (p.49) を教員の指示に従って行ってください。	
第3回	代名詞		Unit 10 の Warm Up (p.53) を教員の指示に従って行ってください。	
第4回	形容詞・副詞		Unit 11 の Warm Up (p.57) を教員の指示に従って行ってください。	
第5回	前置詞		Unit 12 の Warm Up (p.61) を教員の指示に従って行ってください。	
第6回	Review 3		テキスト p.64-67	
第7回	小テスト 1		ここまでの復習をしてください。	
第8回	接続詞		Unit 13 の Warm Up (p.69) を教員の指示に従って行ってください。	
第9回	比較		Unit 14 の Warm Up (p.73) を教員の指示に従って行ってください。	
第10回	関係代名詞・関係副詞（1） 関係詞と接続詞		Unit 15 の Warm Up (p.77) を教員の指示に従って行ってください。	
第11回	関係代名詞・関係副詞（2） 関係代名詞と関係副詞の使い分け		授業内で指示します	
第12回	仮定法		Unit 16 の Warm Up (p.81) を教員の指示に従って行ってください。	
第13回	Review 4		テキスト p.84-87	
第14回	小テスト 2		ここまでの復習をしてください。	
第15回	後期のまとめ		後期の復習をしてください。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 定期試験期間中に60分間、100点満点のテストを行います。詳細は授業内で指示します。			
レポート	なし			
小テスト等	20％ 学期中に2回実施します。			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ （その中に授業外の課題10％を含みます）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には必ず指定された授業前課題を行って参加してください。また上記以外の課題を授業内で指定することもあります。			
教科書	芝垣茂 他 『始めよう！文法からコミュニケーションへ』 CENGAGE Learning			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバス参照、または授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	英語Ⅲ【演習】			開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松崎 徹・林 恵子・大場 明日香・L.Aoki			単 位	1
授業の目的 と概要	本授業は、英語によるコミュニケーションのための読み・書きに関する能力をさらに向上させることを目的とします。「英語I」・「英語II」によって培われた能力（文法・構文・語彙などを包括する総合的・基礎的な英語能力）を土台として、少人数の演習形式により、文法事項を含む読解問題に取り組み、英文法の理解力や英文読解能力、英語を使った情報の受信及び発信（リーディング・ライティング）に関する実践的な能力の向上を目指します。				
到達目標	1. 実践的な文法知識を使いながら、英文の構造を説明できる。 2. 実践的な文法に従った英文を作ることができる。 3. 実践的な文法力を生かして、英文を正しく読解することができる。				
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要の説明、自己診断テスト			自己診断テストで間違った箇所を中心とした復習	
第2回	Unit 1	Jobs & Careers	現在時制	教科書 pp.14-16 までの Exercise の予習	
第3回	Unit 2	Entertainment	可算名詞／不可算名詞	教科書 pp.22-24 までの Exercise の予習 及び Unit 1 の既習事項の復習	
第4回	Unit 3	Work Schedule	前置詞	教科書 pp.26-28 までの Exercise の予習 及び Unit 2 の既習事項の復習	
第5回	Unit 4	Health & Fitness	過去時制	教科書 pp.32-34 までの Exercise の予習 及び Unit 3 の既習事項の復習	
第6回	Unit 7	Recruitment	現在完了	教科書 pp.50-52 までの Exercise の予習 及び Unit 4 の既習事項の復習	
第7回	Unit 8	Customer Needs	接続詞	教科書 pp.56-58 までの Exercise の予習 及び Unit 7 の既習事項の復習	
第8回	小テスト # 1 & Review			第7回までの復習	
第9回	Unit 10	Advertising	比較	教科書 pp.68-70 までの Exercise の予習 及び小テストの復習	
第10回	Unit 11	Factory Tour	受動態	教科書 pp.74-76 までの Exercise の予習 及び Unit 10 の既習事項の復習	
第11回	Unit 12	Money Matters	動名詞／不定詞	教科書 pp.68-70 までの Exercise の予習 及び Unit 11 の既習事項の復習	
第12回	Unit 13	Leisure	助動詞	教科書 pp.86-88 までの Exercise の予習 及び Unit 12 の既習事項の復習	
第13回	Unit 14	Environment	分詞	教科書 pp.92-94 までの Exercise の予習 及び Unit 13 の既習事項の復習	
第14回	Unit 15	Business Tie-Up	関係詞節	教科書 pp.98-100 までの Exercise の予 習及び Unit 14 の既習事項の復習	
第15回	小テスト # 2 & Review			第9回から第14回までの復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	60％ 定期試験期間中に60分間、100点満点のテストを行います。詳細は授業内で指示します。				
レポート	なし				
小テスト等	20％ 学期中に2回実施します。				
成果発表	なし				
受講態度他	20％ 予習等に不備があると減点します。				
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業には必ず指定された授業前課題を行って参加してください。				
教科書	Rober Hickling & Misato Usukura 『English Switch』 金星堂				
指定図書	なし				
参考図書	なし				
オフィスワ ーク	担当教員の他科目のシラバス参照			メールアドレス	

授 業 科 目	英語Ⅳ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	林 恵子・大場 明日香		単 位	1
授業の目的 と概要	この授業は英語の力を「試す」のではなく「つける」ことを目的としています。英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだ知識（文法・構文・語彙など）を踏まえ、自分の知りたい情報を英語で探し、受け止め、さらに伝達する方法を考えます。リーディングを出発点に話の筋をしっかりと追うintensive reading（精読）の方法を学び、一段深い理解を目指します。受け身の作業と思われがちなリーディングも、見方を少し変えれば読後に残る情報量の違いに気付くでしょう。また、単語や表現の言い換えのバリエーションを広げ、テキスト以外の生の英語に挑める底力を鍛えます。			
到達目標	1. 海外の視点でまとめられた英文記事を通して異文化への関心と理解を高める。 2. 情報をメモにまとめながらリーディングを進めることができる。 3. 英語で得た情報を分かりやすい言葉で他者に伝えることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 導入（授業の進め方・小テスト・成果発表の詳細説明）			U4予習	
第2回 U4: 美術品を守れ			U4復習・U6予習	
第3回 U6: ゲームの効用			U6復習・U7予習	
第4回 U7: 消えゆくサーカス			U7復習・U13予習	
第5回 U13: 美容に役立つカタツムリ			U13復習	
第6回 In-Class Task			授業内で指示	
第7回 In-Class Task			前半のまとめ	
第8回 Mid-Term Revision（中間課題）			中間課題の見直し・U16予習	
第9回 U16: 北極は救えるか			U16復習・U19予習	
第10回 U19: 増え続ける新しい言葉			U19復習・U24予習	
第11回 U24: 塀の中と外—ドイツ・イタリアの囚人事情			U24復習	
第12回 In-Class Task			授業内で指示	
第13回 In-Class Task			後半のまとめ	
第14回 End-of-Term Revision（期末課題）			期末課題の見直し	
第15回 Revision & Feedback（全体のまとめとフィードバック）			全回のまとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	20％ 小テスト・課題等			
成果発表	60％ Mid-Term Revision & End-of-Term Revision（中間・期末）			
受講態度他	20％ In-Class Tasks（授業内での個人・グループ作業）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	初回到小テストや中間・期末、予習範囲の詳細を説明しますので、受講を希望する方は必ず出席して下さい 学習するユニットは変わることがあります（授業内で随時通知します）			
教科書	Jim Knudsen著 『What in the World』（南雲堂） ISBN: 978-4-523-17852-1			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	初回授業時に通知	メールアドレス		

授 業 科 目	英語音声学Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	石井 康仁		単 位	2
授業の目的 と概要	本講では、英語のコミュニケーションをスムーズに行うために必要な、正しく自然な英語の発音を学ぶ。 具体的には、英語の母音、子音、アクセント、リズム、イントネーションなどに関する解説と発音練習を通して、正しい自然な発音を習得する。また、それに留まらず、英会話のビデオ等の練習・暗記を通して、英語表現を習得し、英語コミュニケーション力を高める。 全体として、英語におけるコミュニケーションスキルの向上を目指す。 毎時間、英語の発音に関する解説の後に発音練習を行う。英語の各母音・子音から始めて、強勢（アクセント）、リズム、イントネーションまで、解説と発音練習を通して、正しい英語の発音を身につける。			
到達目標	1. 英語の発音がある程度の自信をもってできる。 2. 英語の発音に関する解説を十分理解できる。 3. 英語の発音の仕方を人にも説明できる。 4. 英語での会話の表現力も上がる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 音声学とはどのような学問か？ 発音練習			プリント資料1、発音練習	
第 2回 英語の母音について（前方母音） 発音練習			プリント資料2、発音練習	
第 3回 英語の母音について（後方母音） 発音練習			プリント資料3、発音練習	
第 4回 英語の母音について（中央母音、二重母音など） 発音練習			プリント資料4、発音練習	
第 5回 英語の子音について（破裂音） 発音練習			プリント資料5、発音練習	
第 6回 英語の子音について（摩擦音、破擦音） 発音練習			プリント資料6、発音練習	
第 7回 英語の子音について（側音、反転音） 発音練習			プリント資料7、発音練習	
第 8回 英語の子音について（鼻音、半母音、気音） 発音練習			プリント資料8、発音練習	
第 9回 英語の強勢（アクセント）について（語強勢） 発音練習			プリント資料9、発音練習	
第10回 英語の強勢（アクセント）について（文強勢） 発音練習			プリント資料10、発音練習	
第11回 英語のリズムについて 発音練習			プリント資料11、発音練習	
第12回 英語のイントネーションについて（下降調） 発音練習			プリント資料12、発音練習	
第13回 英語のイントネーションについて（上昇調） 発音練習			プリント資料13、発音練習	
第14回 英語のリズムとイントネーションについて 発音練習			プリント資料14、発音練習	
第15回 まとめ			全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	期末試験（筆記および発音の試験）の評価に基づく（80％）			
レポート	-			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	授業への取り組み、積極性、出欠などここで評価（20％）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	出欠については、履修規程にある通り（全15回の授業の3分の2の出席を必要とする）です。 出席することで英語の発音の理解が深まり、発音が上達します。可能な限り出席しましょう。 事情があって休む場合は事前に連絡して下さい。			
教科書	石井康仁著「英語の発音について」（講義資料プリント）他			
指定図書	-			
参考図書	『英語音声学活用辞典』（2004）、『英語音声学辞典』（2005）（共に日本英語音声学会編）			
オフィスアワー	月曜日 4 時限目、火曜日 5 時限目		メールアドレス	

授 業 科 目	英語音声学Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	石井 康仁		単 位	2
授業の目的 と概要	本講では、英語のコミュニケーションをスムーズに行うために必要な、正しく自然な発音をすることを学ぶ。 具体的には、英語の母音、子音、アクセント、リズム、イントネーションなどに関する解説と発音練習を通して、正しい自然な発音を習得する。 また、それに留まらず、英会話ビデオ教材の英語表現の暗記・習得を通して、英語コミュニケーション力の向上を目指す。 一般の学生もだが、特に教職生は得るところが多い。 全体として、英語におけるコミュニケーション・スキルの向上を目指す。			
到達目標	1. 英語の発音がある程度の自信をもってできる。 2. 英語の発音に関する解説を十分理解できる。 3. 英語の発音の仕方を人にも説明できる。 4. 英語の会話における表現力が上がる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 第 1 章：強勢(アクセント)：英語の強勢の特徴			プリント資料 1	
第 2回 第 2 章：語強勢(アクセント)			プリント資料 2	
第 3回 第 2 章：文強勢(アクセント)			プリント資料 3	
第 4回 第 3 章：強勢とイントネーション（上昇調）			プリント資料 4	
第 5回 第 3 章：強勢とイントネーション（下降調）			プリント資料 5	
第 6回 第 4 章：リズム（英語のリズムの特徴）			プリント資料 6	
第 7回 第 4 章：リズムとイントネーション			プリント資料 7	
第 8回 第 5 章：音変化（同化）			プリント資料 8	
第 9回 第 5 章：母音の注意すべき点			プリント資料 9	
第10回 第 6 章：子音の注意すべき点			プリント資料 1 0	
第11回 第 6 章：イントネーションの注意すべき点			プリント資料 1 1	
第12回 第 7 章：イギリス英語とアメリカ英語の発音の違い			プリント資料 1 2	
第13回 第 7 章：アメリカ英語とオーストラリア英語の発音の違い			プリント資料 1 3	
第14回 第 8 章：総合練習			プリント資料 1 4	
第15回 まとめ			全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	期末試験（発音実技）の評価による（８０％）			
レポート	-			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	授業への参加態度、取り組み、出欠などここで評価する（２０％）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	出欠については、履修規程にある通り（全１５回の授業の３分の２の出席を必要とする）です。 出席することで英語の発音についての理解が深まり、発音が上達します。可能な限り出席しましょう。 事情があって休む場合は事前に連絡して下さい。			
教科書	プリント資料（石井康仁著「英語の発音について」他）			
指定図書	-			
参考図書	『英語音声学活用辞典』（2004）、『英語音声学辞典』（2005）（共に日本英語音声学会編）			
オフィスアワー	水曜日 5 時限目、木曜日 2 時限目		メールアドレス	

授 業 科 目	英語科教育法Ⅰ(中等教職)【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	山内　ひさ子		単　　位	4
授業の目的と概要	中学校・高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領と教材テキストを理解し、中・高校における英語の学習到達目標を理解し、各学年の年間指導計画、単元。各授業時間の計画について理解する。第二言語取得と英語教授法に関する基本的な知識を身につけ、学習指導要領の「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」及び「「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質について理解する。 4年次の教育実習における授業を実践するのに必要な指導力について理解する。また、小、中、高校の教科書研究を行い、小・中・高のを通した授業の流れや連携のあり方について理解する。また、後期の「英語科指導教法ⅠⅡ」で行う模擬授業のため			
到達目標	1. 英語教育・第二言語習得理論を理解する。 2. さまざまな英語教授法を学び、それらを有効に活用する英語指導を確認する。 3. 小・中・高校の外国語（英語）の学習指導要領を理解する。 4. 小・中・高校の外国語（英語）を理解し、小・中・高の英語教育の流れと、小・中・高の連携について理解する。 5. 学習指導要領の「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」及び「「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質を、英語教育の中で育む英語教育について理解する。 6. 英語の5つの領域（「聞くこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「読むこと」「書くこと」の指導について			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。 ①　小・中・高の学習指導要領についての知識の習得 ②　第二言語習得理論や英語教授法の知識の習得 ③　小・中の教科書研究により、学習指導要領に定められた学習内容の理解と指導技能を高める。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1～2回	オリエンテーション(授業の進め方など)、第1回目ポートフォリオの書き込み		予習 pp. 10-24	
第3～4回	外国語教育の目的と意義、世界の中の日本の英語教育の現状と方向性について		予習 pp. 25-33	
第5～8回	英語教育課程：小・中・高の学習指導要領（教育目標、教育内容、小・中・高の学習の流れと連携		予習 pp.34-42	
第7～8回	第二言語習得と教授法（第二言語習得理論と教授法の種類と特徴、授業への応用		予習 pp. 44-55	
第9～10回	学習者論：生徒に備えさせる資質・能力、生徒の興味を引く教具や補助教材の使用、学習動機付け、		予習 pp. 56-66	
第11～12回	英語教師論：教師に求められる資質、特に英語教員に求められる資質、チームティーチングの効果的		予習 pp. 68-80	
第13～14回	リスニング：指導法、指導過程、指導効果の理解と評価、小学校テキスト研究と発表（英語活動・小学校英語）		予習 pp. 81-91	
第14～16回	リーディング：指導法、指導過程、指導効果の理解と評価、中学校1年テキスト研究と発表<1>		予習 pp. 92-106	
第17～18回	スピーキング：指導法、指導過程、指導効果の理解と評価、中学校1年テキスト研究と発表<2>		予習 pp. 107-119	
第19～20回	ライティング：指導法、指導過程、指導効果の理解と評価、中学校2年テキスト研究と発表<1>		予習 pp. 120-132	
第21～22回	技能統合型の指導：口頭発表の準備・練習・実演・質疑応答・評価、中学校2年テキスト研究と発表<2>		予習 pp. 133-139	
第23～24回	文法指導：指導法、指導過程、指導効果の理解と評価、中学校3年テキスト研究と発表<1>		予習 pp. 140-148	
第25～26回	語彙指導（指導法、指導過程、指導効果の理解と評価、　中学校3年テキスト研究と発表<2>）		予習 pp. 149-160	
第27～28回	異文化指導（指導法、指導過程、指導効果の理解と技能、C I Tや辞書の利用		授業の復習。中・高校の教科書研究課題の発表資料の準備。	
第29～30回	授業のまとめ、第1回目ポートフォリオと第2回目との違いを確認する。		第2回目のポートフォリオの書き込み	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％：テキストからの出題。			
レポート	20％：テキスト内の課題。			
小テスト等	なし			
成果発表	20％テキスト研究の発表			
受講態度他	10％：授業内容への質問や課題発表への質問など、積極的な授業参加を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自ら主体的に活動するように心がけてください。 教員志望の学生が遅刻することは厳禁です。特別な事情がない限り、遅刻は欠席とみなします。 まずは自分自身の英語力を高めるように努力してください。			
教科書	JACET教育問題研究会編　『行動志向の英語科教育の基礎と実践　--教師は成長する--』　三修社 文部科学省『中学校学習指導要領解説　外国語編』『高等学校学習指導要領解説　外国語編』など全部で7点			
指定図書	①村野井仁ほか著『統合的英語科教育法』成美堂　　②木村松雄編著『新版英語科教育法』学文堂 ③高梨庸雄・高橋正夫著『新・英語教育学概論』金星堂			
参考図書	授業中に適宜紹介する。			
オフィスワーク	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	英語科教育法Ⅱ(中等教職)【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	山内　ひさ子		単　　位	4
授業の目的 と概要	「英語科教育法Ⅱ」では、「英語科教育法Ⅰ」で学んだ小・中学・高校の学習指導要領と、第二言語習得および英語教授法の理論をもとに、 具体的な実践例授業計画や教案の作成方法を学び、模擬授業を実施する。学習使用料了に則った教案の作成、教具の用い方、授業の進め方、授業中の生徒への対応方法などを疑似体験することにより、4年生で行う教育実習に備えることを目的とする。高校の教科書研究を行い、教科書の内容を理解するとともに、英語による模擬授業を実施する。また、模擬授業を通して、小・中・高の学習の流れと連携の重要性を理解する。			
到達目標	1．中・高等学校の学習指導要領を理解する。 2．中・高校の教材テキストを理解する。 3．年間授業計画、教案・教具(ICTを含む)・補助教材の作成と利用の仕方などについて理解する。 4．模擬授業により、単独授業やALTなどとのチームティーチングのやり方を疑似体験する。 5．模擬授業をにより、授業の進め方、生徒への対応方法などを疑似体験する。 6．第二言語習得や英語教授法の理論を模擬授業により疑似体験する。 7．英語で授業が出来る技能及び態度を身に付ける。 8．テスト作成、生徒のパフォーマンスの評価について、理解する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。 ・生徒の資質・能力を高める指導 ① 実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を組み入れ、実践的な指導力を身につける。 ② 学習指導要領に掲げる目標に即して教案を作成する。 ③ 中学及び高校の内容を確認し、模擬授業において使用する音声、文字、語彙・文法技能をバランスよく取り扱う。 ④模擬授業に使用する教材作成、補助教材を作成し、電子黒板などの教育機器を有効に活用する。 ・学習評価 ①模擬授業を通して、学習指導要領に基づく「3つの資質」や「5つの領域」に即した生徒の言語活動状況を評価方法を理解す			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1～2回	オリエンテーション(授業の進め方など)、 学習指導要領の確認、第二言語習得と英語教授法理論の確認		テキスト予習：pp..162-170	
第 3～4回	授業計画に必要な知識：授業計画、教案作成のための基本的知識の理解、 高校のテキスト研究<1>		テキスト予習：pp..171-190、教案例の作成練習	
第 5～6回	授業計画：教案例の手直しと完成、補助教材例の作成、 高校のテキスト研究<2>		テキスト予習：pp..191-201、 、	
第 7～8回	模擬授業（1）グループによる中1のテキスト使用の模擬授業の準備（教案。補助教材の作成）、		グループによる模擬授業用の教案の完成	
第 9～10回	模擬授業（2）：グループによる中1テキスト使用の模擬授業、 高校のテキスト研究<4>		テキスト予習：p p . 202～215	
第 11～12回	模擬授業（3）：グループによる中1テキスト使用の模擬授業、 グループによる模擬事業の振り返り、評価		ペアによる模擬授業の教案	
第 13～14回	模擬授業（4）ペア（ALTとの授業を想定）による中2テキスト使用の模擬授業の準備、 （教案の完成、補助教材の作成）、高校のテキスト研究<5>		ペアによる模擬授業教案の完成	
第 15～16回	模擬授業（5）：ペア（ALTとの授業を想定）による中2のテキスト使用の模擬授業 （1）		クラスルームイングリッシュの練習	
第 17～18回	模擬授業（6）：ペア（ALTとの授業を想定）による模擬授業（2） 模擬授業の振り返り		個別模擬授業の教案	
第19～20回	模擬授業（7）：個別中3テキスト使用模擬授業の準備（教案完成、補助教材の作成）		クラスルームイングリッシュの練習	
第21～22回	模擬授業（8）：個別中3テキスト使用の模擬授業（1）		クラスルームイングリッシュの練習	
第23～24回	模擬授業（9）：個別中3テキスト使用の模擬授業（2）		高校テキスト使用の模擬授業の教案作成	
第25～26回	模擬授業（10）：個別中3テキスト使用の模擬授業の振り返り、個別高校テキスト使用の模擬授業（1）		クラスルームイングリッシュの練習	
第27～28回	模擬授業（11）：個別高校テキスト使用の模擬授業（2）		第27～28回目ポートフォリオの書き入れ	
第29～30回	模擬授業（12）：個別高等学校2年生のテキストによる模擬授業（3）、 個別による模擬授業の振り返りとポートフォリオ3回目のチェック、授業のまとめ		最終模擬事業の指導案および模擬授業終了の振り返りシートの完成。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	20％：模擬授業の教案			
小テスト等	なし			
成果発表	30％：模擬授業			
受講態度他	10％：他の学生が模擬授業を行っているとき、生徒としての役割を持ち、積極的な模擬授業への参加を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自ら主体的に活動するように心がけてください。 教員志望の学生が遅刻することは厳禁です。特別な事情がない限り、遅刻は欠席とみなします。 まずは自分自身の英語力を高めるように努力してください。			
教科書	JACET教育問題研究会編『行動志向の英語科教育の基礎と実践　--教師は成長する--』三修社 文部科学省『中学校学習指導要領解説　外国語編』『高等学校学習指導要領解説　外国語編』など全部で7点			
指定図書	①教育実習を考える会編『教育実習生のための学習指導案作成教本　英語科　【改訂版】』蒼丘書林　②米山朝二著『新編　英語教育指導法事典　改訂新版』研究社　③石渡一秀ほか著『現場で使える教室英語　重要表現から授業への展開まで』三修社			
参考図書	授業中に適宜紹介する。			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	英語学概説【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	石井 康仁		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業では、まずことばを話す際どのようなことが頭の中で起こっているのかという視点から、英語と日本語のデータを比較しながら、英語と日本語の共通部分と文法や音声など違う部分を理解する。その次に、英語という言葉によりよく理解するために、英語をめぐる社会的歴史、言語的歴史を学び、どのようにして英語が国際共通語となったのかを学ぶ。また、学問としての英語学の各研究分野についても、簡単な解説を行い、理解に努める。			
到達目標	1. 全体的に英語とはどのような言語か理解できる。 2. 英語に関するさまざまな研究分野の基本的な研究内容が理解できる。 3. 英語の文法と音声について、基礎の確認を行い、実践できる力を得る。 4. 英語コミュニケーションの基礎的な力を培う。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	イントロダクション、英語の辞書の話、英会話練習		プリント資料 1	
第 2回	ことばとコミュニケーション、英会話練習		プリント資料 2	
第 3回	動物のコミュニケーションについて（ビデオ）、英会話練習		プリント資料 3	
第 4回	心理言語学という視点、英会話練習		プリント資料 4	
第 5回	ことばの生成 1（意味概念）、英会話練習		プリント資料 5	
第 6回	ことばの生成 2（言語への変換 1：語彙の処理）、英会話練習		プリント資料 6	
第 7回	ことばの生成 3（言語への変換 2：文法の処理）、英会話練習		プリント資料 7	
第 8回	ことばの生成 4（言語への変換 3：音韻の処理）、英会話練習		プリント資料 8	
第 9回	ことばの理解のプロセス、英会話練習		プリント資料 9	
第10回	英国の歴史（英語発達の背景の社会史）、英会話練習		プリント資料 1 0	
第11回	英国の世界的発展の前夜（ビデオ）、英会話練習		プリント資料 1 1	
第12回	英国の世界的発展の成り行き（ビデオ）、英会話練習		プリント資料 1 2	
第13回	英語の歴史（英語発達の歴史）、英会話練習		プリント資料 1 3	
第14回	世界の英語（英国、アメリカ、オーストラリア等の英語）、英会話練習		プリント資料 1 4	
第15回	まとめ		全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	期末試験（筆記試験）（8 0％）			
レポート	-			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	授業に積極的に参加しているか、予習復習をしているか等を評価（2 0％）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	出欠については、履修規程にある通り（全 1 5 回の授業の 3 分の 2 の出席を必要とする）です。 出席することで理解が深まります。可能な限り出席しましょう。 事情があつて休む場合は事前に連絡して下さい。			
教科書	プリント教材（石井康仁著『英語学序説』出版前最終校）			
指定図書	-			
参考図書	大塚・中島（監修）『新英語学辞典』研究社			
オフィスアワー	月曜日 4 時限目、火曜日 5 時限目		メールアドレス	

授 業 科 目	英語学史【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	田口 純		単 位	2
授業の目的と概要	英語そのものの言語学的性質の発達を研究対象とするものとして「英語史」（本学の科目では「英語発達史」）があるが、これに対して、「英語学史」とは英語を研究する学問（英語学）の歴史である。この授業では、英語学史とは何か、英語学史を研究するとはどういうことか、からはじまり、英語研究の諸相を歴史的に辿りながら、英語国民の文献学的・言語学的思想がどのように研究されてきたのかを再認識できるようになることを目的とする。英語学の領域が多岐にわたるように、英語学史の領域也多岐にわたるが、この授業ではとくに英文法の発達を中心に据えて、我々が学習している英文法がどのような変遷を経て、現在の姿になったのかを理解できるようになることを目的とする。			
到達目標	・英語学史について理解を深めることができるようになる。 ・英語学史と英語史との違いについて理解を深めることができるようになる。 ・英語学史の変遷について理解を深めることができるようになる。 ・英文法の成立について理解を深めることができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方など）		次回の予習 プリント pp. 1-17 をよく読んでくるこ	
第2回	英語学史とは：概観		次回の予習 プリント pp. 18-35 をよく読んでくるこ	
第3回	英語学史研究とは：国語学史との比較		次回の予習 プリント pp. 36-51 をよく読んでくるこ	
第4回	英語学史への道程：序論		次回の予習 プリント pp. 52-62 をよく読んでくるこ	
第5回	英語学史への道程：英語学史の領域		次回の予習 プリント pp. 63-73 をよく読んでくるこ	
第6回	英語学史年表：序論		次回の予習 プリント pp. 73-90 をよく読んでくるこ	
第7回	英語学史年表：歴史的展望		次回の予習 プリント pp. 91-123 をよく読んでくる	
第8回	英語学史の時代区分：概観		次回の予習 プリント pp. 1-24 をよく読んでくるこ	
第9回	中世期―8～15世紀		次回の予習 プリント pp. 25-48 をよく読んでくるこ	
第10回	文芸復興期―16～17世紀前半		次回の予習 プリント pp. 49-60 をよく読んでくるこ	
第11回	新古典主義初期―17世紀後半		次回の予習 プリント pp. 61-78 をよく読んでくるこ	
第12回	啓蒙思想期―18世紀前半		次回の予習 プリント pp. 79-103 をよく読んでくる	
第13回	啓蒙思想期―18世紀後半		次回の予習 プリント pp. 91-123 をよく読んでくる	
第14回	21世紀の英語学史：歴史社会言語学の観点から		総復習 (1) プリント pp. 1-123 をよく復習しておくこと。	
第15回	授業のまとめ、授業評価アンケート、試験について		総復習 (2) プリント pp. 1-123 をよく復習しておくこと。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 積極的な授業参加を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中は必要以外の私語をすることのないよう、気をつけましょう。 プリントや教科書をよく読み、自分で工夫してノートを取るようになります。 図書館やインターネットを利用して、検索ができるようになります。			
教科書	プリントを配布します。			
指定図書	林哲郎著『英語学史研究への道』開文社出版 林哲郎・安藤貞雄著『英語学の歴史―英語学入門講座・第3巻』英潮社新社			
参考図書	ヘルムート・グノイス著大泉昭夫訳『英語学史を学ぶ人のために』世界思想社 渡部昇一著『英文法を知ってますか』文藝春秋			
オフィスアワー	水曜の昼休み、またはメールで相談		メールアドレス	

授 業 科 目	英語教育演習Ⅰ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	石井 康仁		単 位	2
授業の目的と概要	この授業では、4年次の教育実習および教員採用試験に向けて、英語力を高めることを第1義的な目標として学びます。英語の文法の確認、発音の練習を毎回行います。英語の語感を養うため、会話文の暗記も毎回行います。 また、4年次の7月に行われる教員採用試験に向けて、昨年度各県で出題された教員採用試験等の問題を用いて、問題を解く実践能力を高めます。			
到達目標	①教員になるための英語力を高める。 ②教員採用試験に備えて、問題を解く実践能力を高める。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 概論、発音練習（1～4課）、文法のおさらい1（イントロダクション）			プリント資料1	
第2回 発音練習（5～8課）、文法のおさらい2（動詞1：自動詞）			プリント資料2	
第3回 発音練習（9～12課）、文法のおさらい3（動詞2：他動詞）			プリント資料3	
第4回 発音練習（13～16課）、文法のおさらい4（5文型）			プリント資料4	
第5回 発音練習（17～20課）、文法のおさらい5（時制）			プリント資料5	
第6回 発音練習（21～24課）、文法のおさらい6（態）			プリント資料6	
第7回 発音練習（25～28課）、文法のおさらい7（前置修飾）			プリント資料7	
第8回 発音練習（29～32課）、文法のおさらい8（後置修飾）			プリント資料8	
第9回 発音練習（33～36課）、文法のおさらい9（関係代名詞）			プリント資料9	
第10回 発音練習（37～40課）、文法のおさらい10（関係副詞）			プリント資料10	
第11回 発音練習（41～44課）、文法のおさらい11（接続節＝関係節）			プリント資料11	
第12回 発音練習（45～48課）、文法のおさらい12（仮定法1：仮定）			プリント資料12	
第13回 発音練習（49～52課）、文法のおさらい13（仮定法2：願望）			プリント資料13	
第14回 発音練習（53～56課）、文法のおさらい14（まとめ）			プリント資料14	
第15回 発音練習（57～60課）、全体のまとめ			プリント資料の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	なし			
小テスト等	20％			
成果発表	なし			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出欠については、履修規程にある通り（全15回の授業の3分の2の出席を必要とする）です。 出席することで理解が深まります。可能な限り出席しましょう。 事情があって休む場合は事前に連絡して下さい。			
教科書	プリント資料			
指定図書	徹底例解ロイヤル英文法 A pocket style manual 4th ed pbk			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日5時限目、木曜日2時限目	メールアドレス		

授 業 科 目	英語教育演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	石井 康仁		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業では、３年次の「英語教育演習Ⅰ」に引き続き、７月から実施される教員採用試験受験に備えて、過去出題された問題等を解きながら、英語の力をさらに伸ばすことを目指す。それとともに、教育実習に向けて点検すべきところを洗い出して、確実に自分のものとするように復習する。			
到達目標	１．教育実習の準備として、模擬授業をある程度自信を持って行える。 ２．中学・高校の英語の指導要領を理解して、（模擬）授業に活かせる。 ３．教員採用試験に合格できるような英語力を培い、生徒にも文法事項など説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション			講義の際、課題を出します（教員採用試験過去出題問題から、文法問題１）	
第2回 英語科教育法のおさらい①（発表形式）			講義の際、課題を出します（教員採用試験過去出題問題から、文法問題２）	
第3回 英語科教育法のおさらい②（発表形式）			講義の際、課題を出します（教員採用試験過去出題問題から、文法問題３）	
第4回 教授法ビデオ			講義の際、課題を出します（教員採用試験過去出題問題から、文法問題４）	
第5回 模擬授業			講義の際、課題を出します（教員採用試験過去出題問題から、英作文問題１）	
第6回 模擬授業			講義の際、課題を出します（教員採用試験過去出題問題から、英作文問題２）	
第7回 教授法ビデオ			講義の際、課題を出します（教員採用試験過去出題問題から、英作文問題３）	
第8回 模擬授業			講義の際、課題を出します（教員採用試験過去出題問題から、英作文問題４）	
第9回 模擬授業			講義の際、課題を出します（教員採用試験過去出題問題から、長文問題１）	
第10回 教授法ビデオ			講義の際、課題を出します（教員採用試験過去出題問題から、長文問題２）	
第11回 教員採用試験対策			講義の際、課題を出します（教員採用試験過去出題問題から、長文問題３）	
第12回 教員採用試験対策			講義の際、課題を出します（教員採用試験過去出題問題から、長文問題４）	
第13回 教員採用試験対策			講義の際、課題を出します（教員採用試験過去出題問題から、長文問題５）	
第14回 教員採用試験対策			講義の際、課題を出します（教員採用試験過去出題問題から、長文問題６）	
第15回 まとめ			全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	学期末レポート ８０％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	２０％ 授業への参加態度（積極性）で評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出欠に関しては、大学の履修規程にある通り（全１５回の３分の２の出席が必要）です。 出席して、授業に参加することで理解も深まり、実力もつきます。 就職活動等の場合は、事前に連絡して下さい。			
教科書	プリント教材			
指定図書	徹底例解ロイヤル英文法 A pocket style manual 4th ed pbk			
参考図書	授業で随時紹介			
オフィスアワー	月曜日 ４時限目、火曜日 ５時限目		メールアドレス	

授 業 科 目	英語圏女性作家研究【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大城 房美		単 位	2
授業の目的 と概要	「女性」の自己表現の歴史における「主体性」というテーマの重要性を理解する。19世紀から現代まで、女性の「主体性」の問題を扱ってきたアメリカ女性作家たちと作品、それぞれの問題意識とアプローチの方法を概観する。 発表の準備 ＜レジュメの準備＞ 2種類の発表を行う。 ・各講義のテーマとなる発表 ・ Small presentations （10分程度）英語圏女性作家・作品紹介			
到達目標	1. 「女性」と「主体性」のつながりを理解する。 2. 代表的な英語圏女性作家や作品に関する知識を深める。 3. 「女性」と「主体性」表現というテーマで、自分自身の視点から問題提起ができるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	はじめに： 女性と主体性について		講義の際に指示します。	
第 2回	アメリカ19世紀の女性と教育について		予習・復習(『行動』第1章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 3回	Margaret Fuller 『19世紀の女性』 女性の領域への挑戦		予習・復習(『行動』第1章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 4回	Louisa May Alcott 『若草物語』 近代家族における少女の役割		予習・復習(『少女小説』第1章)。発表担当者はハンドアウト作成	
第 5回	Frances Hodgson Burnett 『小公女』 花と物語と少女		予習・復習(『少女小説』第3章。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 6回	Kate Chopin 『目覚め』 女性の自立とは何か		予習・復習(『行動』第3章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 7回	Lucy Maud Montgomery 『赤毛のアン』 読むことと生きること		予習・復習(『少女小説』第4章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 8回	Jean Webster 『あしながおじさん』 リアリズムと少女		予習・復習(『少女小説』第5章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 9回	Betty Friedan 『女らしさの神話』 第二波フェミニズム		予習・復習(『行動』第4章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第10回	Kate Millett 『性の政治学』 男流文学を批判する		予習・復習(『行動』第5章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第11回	Wakako YamauchiとHisae Yamamoto 日系アメリカ人二世の文学		予習・復習(『行動』第6章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第12回	Alice Walker 『カラー・パープル』 黒人女性作家		予習・復習(『行動』第7章)。発表担当者はハンドアウト作成。	
第13回	Alison Bechdel 『ファン・ホーム』 LGBTとアイデンティティの問題		予習・復習(She Drawsなど資料は講義で配布)。担当者はハンドアウト作成	
第14回	film showing (女性と主体性に関する映画を鑑賞します)		講義の際に指示します。	
第15回	まとめ		講義の際に指示します。	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70% 講義の1/3を超える欠席をした場合はFinal Examの受験資格無し			
レポート	受講態度に含む			
小テスト等	なし			
成果発表	受講態度に含む			
受講態度他	30% 講義での活動(受講状況・発表・宿題など)を含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	*講義中私語・居眠りをする学生は欠席扱い(退出)。 *各発表は、テキストをよく読んで、自分の言葉でまとめる。 *発表のレジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価しない。 *作家や作品についての発表を担当する際、参考資料は複数あげること(例えば、Wikipediaのみに頼った発表や報告は不可)。			
教科書	『行動するフェミニズム アメリカの女性作家と作品』(購入すること) 『少女小説から世界が見える』『She Draws Comics』など、その他資料は配付します。			
指定図書	The Norton Anthology of Literature by Women: THE TRADITIONS IN ENGLISH, Third Edition (Norton, 2007)『反知性の帝国』、『アメリカ文学に見る女性改革者たち』、			
参考図書	The Cambridge Guide to Women's Writing in English、『日系アメリカ人の歴史社会学』、『ハーストン、ウォーカー、モリスン』、『新しい女性の創造』、『性の政治学』、『19世紀の女性』、『フェミニズム小説論』, Graphic Women, FUN HOME			
オフィスアワー	火曜日午後(予約を入れてください)		メールアドレス	

授 業 科 目	英語圏児童文学研究【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	宮原 牧子		単 位	2
授業の目的 と概要	本年度は主に英国の児童文学について学びます。 19世紀以降、純粋に「子ども」のために書かれた物語を中心に取り上げます。 毎回、作品の一部を読んでいきます。 英語で書かれた文章を正確に読むことはもちろん、ひとつひとつの作品に込められたメッセージを読み取りましょう。			
到達目標	・英米の児童文学についての知識を深めることができる ・文学を通して英語が生まれた国の伝統や文化を理解できる ・文学作品に触れ、何を感じ、何を考えるか、自分の言葉で発信することができる 毎回プリントを配布します。A4のファイルを用意してください。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション ―児童文学の誕生―		次回の予習（配布されたプリントを読むで くること）	
第2回	児童文学の新しい流れ1 ―ルイス・キャロル 『不思議の国のアリス』―		作品カードの記入と次回の予習（配布され たプリントを読むでくること）	
第3回	児童文学の新しい流れ2 ―C. キングズリー 『水の子』―		作品カードの記入と次回の予習（配布され たプリントを読むでくること）	
第4回	児童文学の新しい流れ3 ―G. マクドナルド 『北風のうしろの国』		作品カードの記入と次回の予習（配布され たプリントを読むでくること）	
第5回	R. L. スティーブンソン 『宝島』とR. キプリング 『ジャングル・ブック』		作品カードの記入と次回の予習（配布され たプリントを読むでくること）	
第6回	B. ボター 『ピーター・ラビット』		作品カードの記入と次回の予習（配布され たプリントを読むでくること）	
第7回	A. A. ミルン 『クマのプーさん』		作品カードの記入と次回の予習（配布され たプリントを読むでくること）	
第8回	C. S. ルイス 『ナルニア国物語』		作品カードの記入と次回の予習（配布され たプリントを読むでくること）	
第9回	J. R. R. トールキン 『指輪物語』		作品カードの記入と次回の予習（配布され たプリントを読むでくること）	
第10回	R. ダール 『チョコレート工場の秘密』ほか		作品カードの記入と次回の予習（配布され たプリントを読むでくること）	
第11回	D. W. ジョーンズ 『魔法使いハウルと火の悪魔』		作品カードの記入と次回の予習（配布され たプリントを読むでくること）	
第12回	J. K. ローリング 『ハリー・ポッター』		作品カードの記入とプレゼンの準備	
第13回	プレゼン（第1回目）		プレゼン準備	
第14回	プレゼン（第2回目）		プレゼン準備	
第15回	プレゼン（第3回目）		プレゼンの報告書を作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10％ プレゼンの内容を報告書にまとめて提出します。詳細については初回の授業でご説明します。			
小テスト等	なし			
成果発表	70％ プレゼン			
受講態度他	20％ 講義への参加度・受講態度などで評価します。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	毎回、プリントを配布します。必ず予習をして講義にのぞんでください。 辞書は必ず持ってきてください。 初回に作品カードを配布します。カードは毎回持ってきてください。			
教科書	―			
指定図書	―			
参考図書	授業中ご紹介します。			
オフィスアワー	水曜 3 限目	メールアドレス		

授 業 科 目	英語圏歴史概説【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	後藤 真希		単 位	2
授業の目的 と概要	イギリスの歴史、文化について、特に近世以降の連合王国体制に注目しながら学ぶ。 連合王国体制がどのように形成され、変遷し、現代にいたるのかといった歴史の流れを概観しつつ、現代との関連からより重要 だと思われる項目を取り上げて考察する。 現代とのつながりを意識することによって、「歴史を学ぶ」ということ自体についても考察を深める。			
到達目標	イギリスの歴史、文化についての基本的な理解を深める。 歴史、外国史を学ぶ意味を理解する。 物事を多角的な視野にもとづいて把握し、客観的に判断する力を身につける。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス 歴史を学ぶということ 時代区分		別途指示	
第2回	英語圏とイギリス帝国		別途指示	
第3回	チューダー王朝の誕生		別途指示	
第4回	宗教改革		別途指示	
第5回	プロテスタント国家の成立		別途指示	
第6回	連合王国への道		別途指示	
第7回	ウェールズ		別途指示	
第8回	同君連合		別途指示	
第9回	スコットランド合同		別途指示	
第10回	帝国の中のスコットランド		別途指示	
第11回	分断されるアイルランド		別途指示	
第12回	アイルランドの選択		別途指示	
第13回	帝国と植民地		別途指示	
第14回	連合王国の行方		別途指示	
第15回	総評		別途指示	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70％ 詳細は授業の中で説明します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 授業態度による。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	講義は配布プリントにそって行います。 板書をしますので、ノートを取ってください。 自分の意見をいう機会には積極的に参加するなど、自主性をもって授業に臨んでください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	川北稔・木畑洋一編、『イギリスの歴史 帝国＝コモンウェルスのあゆみ』、有斐閣アルマ、2000年。 井野瀬久美恵編、『イギリス文化史』昭和堂、2010年。			
オフィスワ ーク	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	英語で読む現代アジア【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	妻 海善		単 位	2
授業の目的 と概要	日本とアジアの最近の事情、経済関係、経済協力関係を英語で触れることによって、英語の読解力を養いながら、日本経済、日本とアジアとの経済関係についての理解力を高めるのが目的である。 ①日本とアジア諸地域の最新のニュースを読み、内容を解釈するとともに、英語の経済用語を説明する。 ②用語の確認→.図表を分析する→.内容をまとめる→内容の解釈順に進める。 ③日本やアジアにおける毎年の最新論点を扱うので、シラバスの内容は参考にしてください。			
到達目標	1. 最近の日本やアジア諸国の経済・社会の事情を英語文献で楽しむことができる。 2. 日本とアジアとの経済関係や経済協力、貿易についての理解を広げることができる。 3. 統計表を見るスキルを身につけることができる。 4. 経済用語を英語で確認することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 授業概要、ノートのまとめ方説明、教材のプリント配布説明			B5サイズのノート準備	
第 2回 日本経済の論点-1			為替レートと日本経済を調べる	
第 3回 日本経済の論点-2			原油価格と日本経済を調べる	
第 4回 日本社会の論点			少子高齢化の対策を調べる	
第 5回 韓国経済の論点-1			韓国と北朝鮮との関係を調べる	
第 6回 韓国経済の論点-2			韓国の雇用政策を調べる	
第 7回 韓国社会の論点			韓国の少子高齢化対策を調べる	
第 8回 中国経済の論点-1			中国の海外インフラ輸出を調べる	
第 9回 中国経済の論点-2			中国人民元のSDR通貨を調べる	
第10回 中国社会の論点			中国の女性の社会進出と少子化を調べる	
第11回 アセアン経済の論点			RECの内容と期待効果を調べる	
第12回 アセアン社会の論点			REC参加国の特徴を調べる	
第13回 インドの経済・社会論点			インドの経済成長戦略を調べる	
第14回 英語で学ぶ韓国食文化ー実習 1（韓国のチヂミ）			チヂミの英語レシピを調べて提出（英語レポート）	
第15回 英語で学ぶ韓国食文化ー実習 2（韓国風のおでん料理）			おでん料理の英語レシピを調べて提出ー（英語レポート）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20％			
小テスト等	70％			
成果発表	0％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①B5サイズのノートを準備し毎回の授業の内容をまとめておく。 ②小テストには手書きノートのみ持ち込可 ③欠席が5回を超えると受験できない（就職活動、病気、その他の理由による欠席が5回を超えると相談が必要）。 ④授業内容に関係のない私語、授業中のスマートフォン・携帯電話の使用は禁止する。違反を見つけた場合は、受講態度から減点する			
教科書	プリントは毎回の授業時に配布する			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし。			
オフィスワ	月～水曜日の昼休み（他の日時を希望する場合は、事前に訪問日時を相談してください）	メールアドレス		

授 業 科 目	英語発達史【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松崎 徹		単 位	2
授業の目的と概要	本講義では、英語の歴史を学ぶことによって、現代英語に見られる興味深い言語現象に対して納得がいく説明ができるようになることを目的とします。具体的には、国際語としての地位を確立したといえる英語の、その誕生（5世紀）から中世（15世紀）に至るまでの歴史を概観していきます。特に、他のヨーロッパ諸言語と比べて現代英語の際立った特徴とされる（１）語尾変化の少なさ（２）語彙の豊富さ、の２点に焦点を当て、こうした特徴がフランス語を中心とした諸外国語の影響によるものが大きいことを具体例を通して学んでいきます。その過程で、英語の発達の歴史はいわば異質の言語・文化との交流の歴史であることも同時に学んでいきます。本講座を受講することで、現代英語に見られる興味深い現象や謎の多くに納得のいく答えが見いだせるようになり、英語の歴史を学ぶ真の目的とは現代英語をより深く理解ができるようになることだと実感できるでしょう。			
到達目標	１．英語の起源について具体的に説明ができる。 ２．英語がどのようにして滅亡の危機に陥り、それをどうやって切り抜けることができたかを説明できる。 ３．他のヨーロッパの言語の語尾変化と比較して英語の語尾変化がなぜ簡略化しているかを説明できる。 ４．他のヨーロッパの言語の語彙と比較して英語の語彙がなぜ格段に豊富なのかを説明できる。 ５．将来の英語の姿・形を予測できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。 3年後期開講の「世界英語概説」と「英語学史」を受講する際に、本講義で修得した知識が役に立つでしょう。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	講義内容の説明および導入問題の解答と解説		導入問題の復習	
第 2回	はしがき & はじめに		予習 pp.i-iv; pp.1-2	
第 3回	英語史の概観（１）		第2回授業内容の復習； 予習 pp. 3-4	
第 4回	英語史の概観（２）		第3回授業内容の復習； 予習 pp. 5-9	
第 5回	印欧祖語（１）		第4回授業内容の復習； 予習 p. 12	
第 6回	印欧祖語（２）		第5回授業内容の復習； 予習 pp. 12-13	
第 7回	印欧祖語（３）		第6回授業内容の復習； 予習 pp.13-14	
第 8回	古英語の文献・特殊文字（１）		第7回授業内容の復習； 予習 pp. 20-21	
第 9回	古英語の文献・特殊文字（２）		第8回授業内容の復習； 予習 pp. 22-25	
第10回	海賊と英語（１）		第9回授業内容の復習； 予習 pp. 51-52	
第11回	海賊と英語（２）		第10回授業内容の復習； 予習 pp. 53-56	
第12回	海賊と英語（３）		第11回授業内容の復習； 予習 pp. 53-56	
第13回	ノルマン人の征服と英語（１）		第12回授業内容の復習； 予習 p. 69	
第14回	ノルマン人の征服と英語（２）		第13回授業内容の復習； 予習 pp. 70-71	
第15回	ノルマン人の征服と英語（３）		第14回授業内容の復習； 予習 pp. 71-74	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80% 定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 授業での積極的な姿勢（口頭による復習を含む）を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎講義の冒頭で、前回の講義内容に関する振り返りを口頭でおこないます。その際、適宜受講生に質問していきますので、質問に答えることができるよう講義開始時までに前回の講義内容を復習しておいてください。			
教科書	児馬修 『ファンダメンタル英語史』 ひつじ書房			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します。			
オフィスアワー	火曜日 4 限目・水曜日 3 限目		メールアドレス	

授 業 科 目	英語文学A I 【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大城 房美・林 恵子		単 位	2
授業の目的と概要	作品を批評分析するための基礎的能力を養うことを目的とする。 本講義は、発表以来百年以上にわたって世界中で広く読まれているAnne of Green Gables(1908)(『赤毛のアン』)を取り上げ、文学用語、作家、作品など文学に関する基礎知識を確認しながら、テーマを読み取り、考察する力を養う。 発表の準備<レジュメの準備>2種類の発表を行う。(1)各講義のテーマとなる発表(2)small presentations (10分) 英語圏作家・作品紹介(1)は、担当グループがハンドアウトを準備。(担当グループは1,2,3,4,5をまとめハンドアウトを作成し、講義が始まる前に配付すること 1.あらすじ(キーワードは英語も併記) 2.登場人物(英語を併記)の特徴や性格・役割 3.ポイント (4つ以上を英語(+日本語)で抜き出し[ページと行]、それぞれなぜ重要か、どのように面白いかなど説明) 4.みんなに考えて欲しいこととその理由を2つずつ (ディスカッションのトピック) 5.コメント			
到達目標	1. 作品を分析・批評するための基礎力を習得する。 2. 文学用語、作家、作品など文学に関する基礎知識を習得する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回 Introduction			講義の際に指示します。	
第 2 回 What is Literature?			講義の際に指示します。	
第 3 回 film showing 赤毛のアンについて			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第 4 回 作品鑑賞・分析 発表 small presentation Chapter 1 Group 1			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第 5 回 作品鑑賞・分析 発表 small presentation Chapter 2 Group 2			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第 6 回 作品鑑賞・分析 発表 small presentation Chapter 3 Group 3			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第 7 回 作品鑑賞・分析 発表 small presentation Chapter 4 Group 4			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第 8 回 作品鑑賞・分析 発表 small presentation Chapter 5 Group 5			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第 9 回 Chapter 1 - Chapter 5 までのレビュー			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第10回 作品鑑賞・分析 発表 small presentation Chapter 6 Group 6			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第11回 作品鑑賞・分析 発表 small presentation Chapter 7 Group 7			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第12回 作品鑑賞・分析 発表 small presentation Chapter 8 Group 8			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第13回 作品鑑賞・分析 発表 small presentation Chapter 9 Group 9			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第14回 作品鑑賞・分析 発表 small presentation Chapter 10 Group 10			講義の際に指示します	
第15回 まとめ			全体の講義内容についての復習	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70% 講義の1/3(5回以上)以上欠席した場合はFinal Examの受験資格無し			
レポート	受講態度に含む			
小テスト等	なし			
成果発表	受講態度に含む			
受講態度他	30% 講義での活動(受講状況・発表・宿題など)を含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	*講義中私語・居眠りをする学生は欠席扱い(退出)。 *各発表は、テキストをよく読んで、自分の言葉でまとめること。 *発表のレジメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価は与えない。 * 作家や作品についての紹介は、指定図書を利用すること。			
教科書	Anne of Green Gables (Puffin) 『赤毛のアン』松本侑子訳(集英社文庫)			
指定図書	『20世紀英語文学辞典』(研究社) 『オックスフォード世界英語文学大事典』(DHC) 『英語文学事典』(ミネルヴァ書房)			
参考図書	『赤毛のアンに隠されたシェイクスピア』松本侑子 (集英社 2001)、『赤毛のアン 世界名作劇場』(バンダイビジュアル 1979)、『赤毛のアンA to Z : モンゴメリが描いたアンの暮らしと自然』奥田実紀 (東洋書林, 2001)			
オフィスアワー	水曜日午後 (予約の連絡を入れて下さい)		メールアドレス	

授 業 科 目	英語文学AⅡ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大城 房美・林 恵子		単 位	2
授業の目的と概要	作品を批評分析するための基礎的能力を養うことを目的とする。 アニメ化でも親しまれたファンタジーの名作を英語原作で読み、英語表現の特徴をつかみ、テーマを読み取り考察する基礎力を養う。また各講義で、各自が作品・作家紹介を行い、英語文学作品や作家についての基礎的な知識を養う。発表の準備<レジュメの準備>2種類の発表を行う。(1)各講義のテーマとなる発表 (2)small presentations (10分) 英語圏作家・作品紹介 (1)は、担当グループがハンドアウトを準備。(担当グループは1,2,3,4,5をまとめハンドアウトを作成し、講義が始まる前に配付すること 1.あらすじ(キーワードは英語も併記) 2.登場人物(英語を併記)の特徴や性格・役割 3.ポイント (4つ以上を英語(+日本語)で抜き出し[頁と行]、それぞれなぜ重要か、どのように面白いかなど説明) 4.みんなに考えて欲しいこととその理由を2つずつ (ディスカッショントピック) 5.コメント			
到達目標	1. 作品を分析・批評するための基礎的な力を習得する。 2. 文学用語、作家、作品など文学に関する基礎知識を習得する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 Introduction			講義の際に指示します	
第 2回 ファンタジーとは			講義の際に指示します	
第 3回 作品鑑賞・分析 Chapter 1 Chapter 2			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第 4回 作品鑑賞・分析 Chapter3 Chapter4			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第 5回 作品鑑賞・分析 Chapter5 Chapter6			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第 6回 作品鑑賞・分析 Chapter7 Chapter8			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第 7回 作品鑑賞・分析 Chapter9 Chapter10			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第 8回 ディスカッション film showing			講義の際に指示します	
第 9回 作品鑑賞・分析 Chapter11 Chapter12			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第10回 作品鑑賞・分析 Chapter13 Chapter14			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第11回 作品鑑賞・分析 Chapter15 Chapter16			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第12回 作品鑑賞・分析 Chapter17 Chapter18			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第13回 作品鑑賞・分析 Chapter19 Chapter20			講義で扱うテキストについて予習・復習。 発表者はハンドアウト準備	
第14回 film showing			講義の際に指示します	
第15回 まとめ			全体の講義内容についての復習	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70% 講義の1/3(5回以上)以上欠席した場合はFinal Examの受験資格無し			
レポート	受講態度に含む			
小テスト等	なし			
成果発表	受講態度に含む			
受講態度他	30% 講義での活動(受講状況・発表・宿題など)を含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	*講義中私語・居眠りをする学生は欠席扱い(退出)。 *各発表は、テキストをよく読んで、自分の言葉でまとめること。 *発表のレジュメ・宿題などにネットなどからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価は与えない。 *作家や作品についての紹介は、指定図書を利用すること。			
教科書	The Borrowers (HMH Books for Young Readers, 2003) 『床下のこびとたち』(岩波書店)			
指定図書	『コロンビア大学現代文学・文化批評用語辞典』(松柏社)、Women in science fiction and fantasy v1, v2、、『現代批評理論のすべて』			
参考図書	『ファンタジー文学入門』、The Bedford Glossary of Critical and Literary Terms、『今、ファンタジーにできること』(ル＝グウィン著)、Articles on Films Directed by Hayao Miyazaki(Hephaestus, 2011)、			
オフィスアワー	水曜日午後(予約の連絡を入れて下さい)		メールアドレス	

授 業 科 目	英語文学 B I 【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	宮原 牧子		単 位	2
授業の目的 と概要	イギリスの伝承バラッドを読みます。「バラッドとは、中世以来ヨーロッパ各地で、吟遊詩人や一般庶民によって創られ、口承伝承としてうたい継がれてきた物語歌を指します。」（テキスト、「まえがき」より） ワーズワース、キーツ、デニスンといったイギリスのあらゆる詩人たちの作品の土台とも言える「伝承バラッド」の世界を、簡単な現代英語で楽しみましょう。「国際化」や「グローバル化」といった言葉が氾濫する現代、必要なのは英語のテクニックだけではありません。他国の文化や歴史を知ることとはとても大切なことです。イギリスの詩を通して英語が生まれた国の伝統に触れ、国際化の一步を踏み出しましょう。 ①詩を正確に読み、日本語に訳します。 ②時代背景や詩人の伝記について学び、詩の内容について考えます。 ③詩を鑑賞し、自分の言葉で発信します。 ④意見の交換をします。			
到達目標	・英語で書かれた詩を精読すること ・詩を通して、その作品が書かれた時代背景などを理解すること ・詩の内容について、自分の言葉で語ること ・教養としての詩についての知識を深めること			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション ―詩を読むということの意味― 英語を正確に読むことに必要な技能とは何かについて考えます		第2回の予習（テキストpp.10-12）	
第2回	「バーバラ・アレン」 ―辞書を正確にひくことの大切さ― 辞書の特性を知り、使いこなしましょう		第3回の予習（テキストpp.21-23）	
第3回	「エドワード」 ―詩の形式について― 散文とは異なる、韻文の特性について考えます		第4回の予習（テキストpp.52-54）	
第4回	「ロード・ランダル」 ―詩の背景を知る（1）― 詩が生まれた時代背景について考えます		第5回の予習（テキストpp.18-20）	
第5回	「サー・バトリック・スペンス」 ―詩の背景を知る（2）― 時代背景を考慮して作品を鑑賞します		第6回の予習（テキストpp.33-35）	
第6回	「魔性の恋人」 ―詩を味わう― 詩を鑑賞し、自分の考えを言葉にしてみましょう		中間レポートの作成・提出	
第7回	中間レポート講評・返却・指導		第8回の予習（テキストpp.42-44と配布されたプリント）	
第8回	中間レポート講評・返却・指導「二羽のカラス」 ―パロディの文学的意味― 「二羽のカラス」から派生した「三羽のカラス」を読み、パロディとは何かについて考えます		第9回の予習（テキストpp.15-17と配布されたプリント）	
第9回	「二人の兄弟」 ―伝承バラッドの普遍性― 「二人の兄弟」と同じテーマの作品の鑑賞をしてみましょう		第10回の予習（配布されたプリント）	
第10回	伝承バラッドからバラッド詩へ（1） ―詩人が書いたバラッド― 「二人の兄弟」を元に書かれたヴィクトリア朝時代のバラッド詩を読みます		第11回の予習（テキストpp.58-60と配布されたプリント）	
第11回	「うたびとトマス」 伝承バラッドからバラッド詩へ（2） ―文化の伝承― 「うたびとトマス」を元に書かれたロマン派詩人J. キーツのバラッド詩を読みます		第12回の予習（配布されたプリントを完成させる）	
第12回	伝承バラッドからバラッド詩へ（3） ―伝統の変奏― 「うたびとトマス」を元に書かれたヴィクトリア朝詩人R. キプリングのバラッド詩を読みます		第13回の予習（配布されたプリントを完成させる）	
第13回	期末レポートの作成準備 作品とテーマの選定します		期末レポートの作成準備・資料の収集	
第14回	期末レポートの構成 レポートの構成について、議論します		期末レポートの作成	
第15回	まとめ ―期末レポート提出に向けて― レポートの構成・内容について個別に検討します		期末レポートの作成・提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	―			
レポート	30％ 中間レポート 50％ 期末レポート			
小テスト等	―			
成果発表	―			
受講態度他	20％ 講義への参加度・受講態度などで評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして講義にのぞんでください。 辞書は毎回必ず持ってきてください。 欠席が全講義回数の3分の1を超えた場合は、受講資格を認めません。			
教科書	中島久代他著『イギリス伝承バラッド』英光社			
指定図書	なし			
参考図書	講義中、必要に応じてご紹介します。			
オフィスアワー	火曜日4限		メールアドレス	

授 業 科 目	英語文学BⅡ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	宮原 牧子		単 位	2
授業の目的と概要	前期で学んだ英詩の基礎を土台に、ロマン派からヴィクトリア朝時代にかけて書かれたイギリスの詩を読み、鑑賞します。 詩を正確に読み、自分の言葉で詩を論じましょう。			
到達目標	・ 英語で書かれた詩を正確に読むことができるようになること ・ 詩を通して、その作品が書かれた時代背景などを理解すること ・ 詩の内容について、自分の言葉で論じることができるようになること			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		第2回の予習	
第2回	「詩を語る言葉を知る」 「感受性とは何か」、「自分の言葉で語ることの大切さ」について学びましょう		第3回の予習（テキストp.13、および配布されたプリント）	
第3回	「詩を精読し 詩人の意図を探る（１）」 ブレイクの詩作の意義を考えてみましょう		第4回の予習（テキストp.1, 7、および配布されたプリント）	
第4回	「詩を精読し 詩人の意図を探る（２）」 ワーズワスの詩作の意義を考えてみましょう		第5回の予習（テキストp.16, 17、および配布されたプリント）	
第5回	「詩を精読し 詩人の意図を探る（３）」 テニソンの詩作の意義を考えてみましょう		第6回の予習（配布されたプリントを完成させる）	
第6回	「詩を精読し 自分の言葉で語る（１）」 詩を読み、グループごとに思ったこと・考えたことについて意見交換してみましょう		第7回の予習（配布されたプリントを完成させる）	
第7回	レポートの書き方 「中間レポートを書くにあたって」		中間レポートの作成・提出	
第8回	中間レポート講評・返却・指導		第9回の予習（テキストp.30を訳す）	
第9回	「詩を精読し 詩人の意図を探る（４）」 バーンズの詩作の意義を考えてみましょう		第10回の予習（テキストp.35を訳す）	
第10回	「詩を精読し 詩人の意図を探る（５）」 バイロンの詩作の意義を考えてみましょう		第11回の予習（テキストpp.36-38を訳す）	
第11回	「詩を精読し 自分の言葉で語る（６）」 キーツの詩を読み、グループごとに思ったこと・考えたことについて意見交換してみましょう		第12回の予習（テキストpp.67-73を訳す）	
第12回	「詩を精読し 自分の言葉で語る（７）」 ロセッティの詩を読み、グループごとに思ったこと・考えたことについて意見交換してみましょう		第13回の予習（配布されたプリントを完成させる）	
第13回	ロマン派、およびヴィクトリア朝時代の詩人・詩作品についてのまとめ		第14回の予習（配布されたプリントを完成させる）	
第14回	期末レポートの作成準備		第15回の予習（配布されたプリントを完成させる）	
第15回	期末レポートの内容確認		期末レポートの作成・提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 中間レポート 50％ 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 講義への参加度・受講態度などで評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして講義にのぞんでください。 辞書は毎回必ず持ってきてください。 欠席が全講義回数の3分の1を超えた場合は、受講資格を認めません。			
教科書	『Palgrave's Golden Treasury』（南雲堂）			
指定図書	なし			
参考図書	講義中、必要に応じて紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 3限	メールアドレス		

授 業 科 目	英語文学研究【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大城 房美		単 位	2
授業の目的 と概要	アメリカ文学の新ジャンルとして注目を集めるGraphic Novelからは、現在多くの自伝的作品が生み出されている。発表以来、世界で数多くの賞を獲得してきたFun Home(2006)はその代表的作品である。著者は突然の父の死をきっかけに、権威主義的な父との難しかった関係を振り返る。そこにみえてきたのは、セクシャルマイノリティとしての、そして、文学を愛するものとしての共感と繋がりがだった。いかに父が娘としての自分に言葉を与え、その存在を受け止めようとしていたかが、丁寧に迎られてゆく。本作品を通して、現代の自己、そして自己表現のあり方について考察する。			
到達目標	1. 文学用語、作家、作品など文学に関する知識を深める。 2. 作品を「分析・批評」する視点を持つ。 3. 作品から自分なりの「テーマ」を立て、問題提起を行うことができるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 Introduction	講義の進め方についての説明など		特になし。	
第 2回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 1前半		発表担当者はハンドアウト作成。	
第 3回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 1後半		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 4回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 2前半		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 5回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 2後半		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 6回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 3前半		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 7回 、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 3後半		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 8回 、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 前4半		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第 9回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 4後半		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第10回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 5前半		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第11回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 5後半		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第12回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 6前半		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第13回 、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 6後半		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第14回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	最終章前半		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第15回 、作品分析・鑑賞、ディスカッション	最終章 まとめ		特になし。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70% 講義の1/3(5回)を超えて欠席した場合はFinal Examの受験資格無し			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	受講態度に含む			
受講態度他	30% 講義での活動(受講状況・発表・宿題など)を含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	※ 4 回欠席で受講態度に関する点数はなくなります。 ※ 講義中私語・居眠りをする学生は欠席扱い(退出)。 ※ 各講義で英文を読みます。予習や発表担当を怠る学生は、受講資格はありません。 ※ 発表のレジメ・宿題などにネットなどからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価は与えない。 ※ 補講（時間割外講義）の連絡に注意すること。			
教科書	Alison Bechdel, Fun Home (購入すること) アリソン・ベクデル『新装版ファン・ホーム』（購入すること）			
指定図書	Graphic Women、Are You My Mother?, 『われら勝ち得し世界』			
参考図書	Women’ s Review of Books (8号館)、Graphic Women(Columbia UP)、She Draws Comics、Teaching the Graphic Novel (MLA 2009)Maus (Penguin)、Comics, Manga and Graphic Novels: a History of Graphic Narrati			
オフィスアワー	火曜日午後（予約を入れてください）		メールアドレス	

授 業 科 目	英語文学研究【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	高森 暁子		単 位	2
授業の目的 と概要	シェイクスピアの喜劇『十二夜』を取り上げます。台詞の意味やプロットを理解するだけでなく、テキストの台詞が、舞台上で演じられた際にどのようなポテンシャルを発揮するかを意識しながら読んでいきます。英語の原文と日本語訳を使用して、重要な場面の原文を精読します。舞台上演の映像や映画化作品も用いて、台詞の様々な解釈の可能性を考察します。また、作品中で描かれているテーマを、同時代のコンテキストに位置づけて理解し、かつそのテーマが異なる社会や時代において、どのような意義を持ちうるかを考えます。毎回、次回の授業範囲に関するQuestion sheetを予習用に配布します。Question Sheetに解答し、その際に出てきた問題意識と疑問点をもって授業に臨んでください。			
到達目標	1. シェイクスピアの劇作品を通して、初期近代の英語に触れ、現代の英語との差異や共通点を認識することができる。 2. 演劇というジャンルの特性を踏まえ、キャラクター、プロット、テーマについて正しく説明することができる。 3. 台詞の中で効果的に用いられている言葉やレトリックを意識し、その演劇的效果について説明することができる。 4. 初期近代イングランドの歴史や文化、社会状況の中に演劇作品を位置づけて解釈することができる。 5. 作品中で描かれているテーマの、歴史性と今日性について議論することができる。 6. 舞台上演や映画等の翻案作品を通して、演劇テキストの多様な解釈の可能性を考察することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 イントロダクション 授業の進め方、シェイクスピアの人物とその時代について概説			Question Sheetを用いた予習	
第2回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 1幕1場、2場			Question Sheetを用いた予習 1幕1場、2場の復習	
第3回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 1幕3場、4場			Question Sheetを用いた予習 1幕3場、4場の復習	
第4回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 1幕5場			Question Sheetを用いた予習 1幕5場の復習	
第5回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 2幕1場、2場			Question Sheetを用いた予習 2幕1場、2場の復習	
第6回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 2幕3場			Question Sheetを用いた予習 2幕3場の復習	
第7回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 2幕4場			Question Sheetを用いた予習 2幕4場の復習	
第8回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 2幕5場			Question Sheetを用いた予習 2幕5場の復習	
第9回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 3幕1～3場			Question Sheetを用いた予習 3幕1～3場の復習	
第10回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 3幕4場			Question Sheetを用いた予習 3幕4場の復習	
第11回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 4幕			Question Sheetを用いた予習 4幕の復習	
第12回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 5幕1場（前半）			Question Sheetを用いた予習 5幕1場（前半）の復習	
第13回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 5幕1場（後半）			5幕1場後半の復習	
第14回 テキストの読解と考察、Question Sheetに基づくディスカッション、映像を用いた場面解釈 全体の復習			全体の復習	
第15回 まとめ、期末試験に関する説明			期末試験に向けた準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	65% 教科書持ち込み可で筆記試験を行ないます。			
レポート	25% Question Sheetの提出 提出されたものは授業中に返却します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 授業への積極的な参加を評価します。			
受講上の留意 点・ルールに関 わる情報	毎回辞書（電子辞書で良い。『リーダース英和辞典』が入っていることが望ましい）を持参すること。 欠席が授業回数の3分の1を超える（6回に達する）と単位修得ができません。 Question Sheet は指定の期限までに提出されたものを評価の対象とします。			
教科書	1. William Shakespeare, Twelfth Night (Cambridge School Shakespeare) 2. ウィリアム・シェイクスピア 『十二夜』 ちくま書房（松岡和子訳）			
指定図書	なし			
参考図書	講義中、必要に応じてご紹介します。			
オフィスアワー	金曜 4 時間目		メールアドレス	

授 業 科 目	英語文法論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期	
担 当 教 員	緒方 隆文		単 位	2	
授業の目的と概要	目標１：英語コミュニケーション能力向上のため、基礎となる英文法を習得し正しい英語を使えるようになる。目標２：専門知識への導入となるよう、言語に対する関心を高め、ことばとしての英語及び日本語を考察し比較する。目標３：より自然に表現が使えるよう、英語の母国語話者が持つ感覚をイメージスキーマを通して感じられるようになる。目標４：コミュニケーション・スキルを身につけるとともに、文法を通して論理的思考力も身につける。 授業は二部構成で進められる。前半は英文法の演習を行い、数週ごとに小テストを受ける。この英文法演習は、英語文法論Ⅱと併せて、主要な文法項目をすべて学習する。後半は下記テキストを用いて、英語語法及び英語に関するトピックを見ていく。このテキストは項目数が635項目あるため、講義では厳選された項目で、特に学習者の文法理解の助けとなるものを見ていく。				
到達目標	1. 学習する文法問題を正しく解ける(受動態，現在分詞・過去分詞，関係節，比較，最上級，語法、付加疑問、Someとany)。 2. 文法問題の解答がなぜそのようになるのかを、適切に説明することができる。 3. Practical English Usageで学習した内容を、適切に説明することができる(数の英語，食事，日付，他)。 4. Practical English Usageで学習した内容に対する問いに、適切に答えることができる。 5. 論理的思考力をもって、文法事項を説明することができる。				
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 英語の4技能(読む・書く・聞く・話す) 適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。 この科目は英語文法論Ⅱと連動している。両方の科目を受講することにより、主な文法事項全般を概観し、上記目標の達成を目指す。				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第 1回 英文法演習 (Unit 42 Passive 1) ; Practical English Usage ①				Unit 42の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第 2回 英文法演習 (Unit 43 Passive 2) ; Practical English Usage ②				Unit 43の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第 3回 英文法演習 (Unit 44 Passive 3) ; Practical English Usage ③				Unit 44の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第 4回 英文法演習 (Unit 97 -ing and -ed) ; Practical English Usage ④				Unit 97の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第 5回 英文法演習 (Unit 92 Relative clauses 1) ; Practical English Usage ⑤				Unit 92の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第 6回 英文法演習 (Unit 93 Relative clauses 2) ; Practical English Usage ⑥				Unit 93の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第 7回 英文法演習 (Unit 94 Relative clauses 3) ; Practical English Usage ⑦				Unit 94の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第 8回 英文法演習 (Unit 105 Comparison 1) ; Practical English Usage ⑧				Unit 105の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第 9回 英文法演習 (Unit 106 Comparison 2) ; Practical English Usage ⑨				Unit 106の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第10回 英文法演習 (Unit 107 Comparison 3) ; Practical English Usage ⑩				Unit 107の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第11回 英文法演習 (Unit 108 Superlatives) ; Practical English Usage ⑪				Unit 108の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第12回 英文法演習 (Unit 47 Reported Speech 1) ; Practical English Usage ⑫				Unit 47の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第13回 英文法演習 (Unit 48 Reported Speech 2) ; Practical English Usage ⑬				Unit 48の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第14回 英文法演習 (Unit 52 Tag Question) ; Practical English Usage ⑭				Unit 52の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第15回 英文法演習 (Unit 85 Some and any) ; Practical English Usage ⑮				Unit 85の復習、テキストの復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	50％ 定期試験を実施する。				
レポート	20％ 毎回の授業において課題が課せられる。なお提出した課題は、次回の授業において、返却される。				
小テスト等	10％ 小テストを3回実施する。なお小テストは、次回の授業において返却される。				
成果発表	なし				
受講態度他	20％ 十分な予習をもとにした、積極的な受講を考慮する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる。				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	英文法プリントは、分かる範囲ですべて必ず予習をしておくこと。また授業後は、しっかり復習すること。 Practical English Usageは、ノートまたはテキストに書き込む形でしっかり復習をし、期末試験にそなえること。 細かい授業のルールについては、第1回の授業で配布する。				
教科書	Michael Swan, Practical English Usage (Fourth Edition), Oxford University Press.				
指定図書	特になし				
参考図書	授業中、必要に応じて紹介する。				
オフィスアワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(メール等で、予約することが望ましい)	メールアドレス			

授 業 科 目	英語文法論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	緒方 隆文		単 位	2
授業の目的と概要	目標 1：英語コミュニケーション能力向上のため、基礎となる英文法を習得し正しい英語を使えるようになる。目標 2：専門知識への導入となるよう、言語に対する関心を高め、ことばとしての英語及び日本語を考察し比較する。目標 3：より自然に表現が使えるよう、英語の母国語話者が持つ感覚をイメージスキーマを通して感じられるようになる。目標 4：コミュニケーション・スキルを身につけるとともに、文法を通して論理的思考力も身につける。 授業は二部構成で進められる。前半は英文法の演習を行い、数週ごとに小テストを受ける。この英文法演習は、英語文法論Ⅰと併せて、主要な文法項目をすべて学習する。後半は下記テキストを用いて、英語語法及び英語に関するトピックを見ていく。このテキストは項目数が635項目あるため、講義では厳選された項目で、特に学習者の文法理解の助けとなるものを見ていく。			
到達目標	1. 学習する文法問題を正しく解ける(未来形、ing形と不定詞、形容詞と分詞、仮定法、代名詞と限定詞、完了形、接続詞と前置詞、冠詞、可算・不可算、wish構文)。 2. 文法問題の解答がなぜそのようなのかを、適切に説明することができる。 3. Practical English Usageで学習した内容を、適切に説明することができる(丁寧表現、理由表現、類似表現の語法、他)。 4. Practical English Usageで学習した内容に対する問いに、適切に答えることができる。 5. 論理的思考力をもって、文法事項を説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。 この科目は英語文法論Ⅰと連動している。両方の科目を受講することにより、主な文法事項全般を概観し、上記目標の達成を目指す。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 英文法演習 (Unit 25 Future)；Practical English Usage ①			Unit 25の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第 2回 英文法演習 (Unit 58 -ing & infinitive 1)；Practical English Usage ②			Unit 58の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第 3回 英文法演習 (Unit 68 -ing & infinitive 2)；Practical English Usage ③			Unit 68の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第 4回 英文法演習 (Unit 98 Adjectives ending in -ing&-ed)；Practical English Usage ④			Unit 98の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第 5回 英文法演習 (Unit 38 If and wish 1)；Practical English Usage ⑤			Unit 38の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第 6回 英文法演習 (Unit 39 If and wish 2)；Practical English Usage ⑥			Unit 39の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第 7回 英文法演習 (Unit 40 If and wish 3)；Practical English Usage ⑦			Unit 40の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第 8回 英文法演習 (Unit 87 Pronouns & Determiners)；Practical English Usage ⑧			Unit 87の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第 9回 英文法演習 (Unit 7 Present Perfect & Past 1)；Practical English Usage ⑨			Unit 7の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第10回 英文法演習 (Unit 10 Present Perfect & Past 2)；Practical English Usage ⑩			Unit 10の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第11回 英文法演習 (Unit 15 Present Perfect & Past 3)；Practical English Usage ⑪			Unit 15の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第12回 英文法演習 (Unit 118 Conjunctions & Prepositions)；Practical English Usage ⑫			Unit 118の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第13回 英文法演習 (Unit 73 The 1)；Practical English Usage ⑬			Unit 73の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第14回 英文法演習 (Unit 70 Countable and Uncountable 2)；Practical English Usage ⑭			Unit 70の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第15回 英文法演習 (Unit 41 Wish)；Practical English Usage ⑮			Unit 41の復習、テキストの復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 定期試験を実施する。			
レポート	20％ 毎回の授業において課題が課せられる。なお提出した課題は、次回の授業において、返却される。			
小テスト等	10％ 小テストを3回実施する。小テストは、次回の授業において返却される。			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 十分な予習をもとにした、積極的な受講を考慮する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	英文法プリントは、分かる範囲ですべて必ず予習をしておくこと。また授業後は、しっかり復習すること。 Practical English Usageは、ノートまたはテキストに書き込む形でしっかり復習をし、期末試験にそなえること。 細かい授業のルールについては、第1回の授業で配布する。			
教科書	Michael Swan, Practical English Usage (Fourth Edition), Oxford University Press. (前期購入した学生は購入する必要はない)			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中、必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(メール等で、予約することが望ましい)	メールアドレス		

授 業 科 目	英語翻訳論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	宮原 牧子		単 位	2
授業の目的と概要	英文を正確に理解し、そこから読みとれる著者の意図や真の意味を、本当に伝わる日本語で表現する方法の習得を目的とします。			
到達目標	1. 辞書を正確に引き、単語一つ一つの意味を正確に捉えることができる。 2. 英文を正確に訳し、文脈に沿った日本語に置き換えることができる。 3. 文章の奥に込められている著者の意図を読み取ることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		第2回の予習（テキストの指定された部分を読んでくること）	
第2回	エッセイの翻訳（1） ～英文に慣れる～		課題プリント（エッセイ1）・第3回の予習（テキスト指定部分）	
第3回	エッセイの翻訳（2） ～正確に読む～		課題プリント（エッセイ2）・第4回の予習（テキスト指定部分）	
第4回	エッセイの翻訳（3） ～背景を考える～		課題プリント（小説1）・第5回の予習（テキスト指定部分）	
第5回	小説の翻訳（1） ～筋を読む～		課題プリント（小説2）・第6回の予習（テキスト指定部分）	
第6回	小説の翻訳（2） ～登場人物の心を読む～		課題プリント（小説3）・第7回の予習（テキスト指定部分）	
第7回	小説の翻訳（3） ～登場人物の心を訳に反映させる～		課題プリント（小説4）・第8回の予習（テキスト指定部分）	
第8回	小説の翻訳（4） ～文章の奥にある意味をさぐる～		課題（小説4の校正）・第9回の予習（テキスト指定部分）	
第9回	シナリオの翻訳（1） ～映像と言葉の関係を考える～		課題プリント（シナリオ1）・第10回の予習（テキスト指定部分）	
第10回	シナリオの翻訳（2） ～字幕翻訳と吹替え翻訳～		課題プリント（シナリオ2）・第11回の予習	
第11回	シナリオの翻訳（3） ～ドラマの翻訳～		課題プリント（シナリオ3）・第12回の予習	
第12回	シナリオの翻訳（4） ～映画の翻訳～		課題プリント（シナリオ4&詩1）・第13回の予習	
第13回	詩の翻訳（1） ～行間を読む～		課題プリント（詩2）・第14回の予習	
第14回	詩の翻訳（2） ～作品の翻訳～		課題プリント（詩3）・第15回の予習	
第15回	詩の翻訳（3） ～作品の翻訳と解説～		試験勉強	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 期末テスト			
レポート	30％ 課題の提出とその評価			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ 講義への参加度・受講態度などで評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	辞書は毎回必ず持ってきてください。			
教科書	行方昭夫著 『英文の読み方』 岩波新書 プリント			
指定図書	－			
参考図書	授業中、必要に応じてご紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 3 限		メールアドレス	

授 業 科 目	エコシステム論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	速水 良晃		単 位	2
授業の目的と概要	教科書は、我々が住む地球やその周りに広がる宇宙の形成や生命の発生から現在に至る変化を分かりやすく解説しており、現在の環境問題の原因の理解や解決の糸口になる要素を地球の歴史の中に発見することができるように書かれている。 教科書の内容を正確に理解するためには、十分な予習時間を掛けて明確な自分の考えを持つことが必要である。 しっかり予習すれば、理解できる所と理解できない所の線引きが出来る。どこからが分からないかをはっきり認識し、質問して理解しようという意欲を持つことが大事である。 質問すべき所が分からないというのは、予習不足である。			
到達目標	① 宇宙や地球の形成の概要を説明することができる。 ② 宇宙の中で生命が発生し進化した地球の独自性を、具体的に説明することができる。 ③ 自分の生活と地球環境の関係を、具体的に説明することができる。 ④ 自分の身の回りの環境問題について地球環境的に考えた改善策を幾つか提案できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 この授業は、上記 DP (3)-②-3 の達成に関わる科目である。環境について様々な観点からの科目が開講されているが、物質としての地球が主題である「エコシステム論」は、物質としての環境を考える場合の実質的な基礎になる科目である。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	宇宙の誕生、星の誕生と成長 (1)		今回の範囲 (テキスト pp. 9-26、筑女ネット掲載資料) 復習と次回予習	
第 2 回	星の誕生と成長 (2) 、宇宙の未来、地球の誕生		今回の範囲 (テキスト pp. 26-46、筑女ネット掲載資料) 復習と次回予習	
第 3 回	月の役割、地球の構造 (1)		今回の範囲 (テキスト pp. 46-59、筑女ネット掲載資料) 復習と次回予習	
第 4 回	地球の構造 (2)		今回の範囲 (テキスト pp. 59-76、筑女ネット掲載資料) 復習と次回予習	
第 5 回	地球の構造 (3)		今回の範囲 (テキスト pp. 76-90、筑女ネット掲載資料) 復習と次回予習	
第 6 回	地球の歴史 (1)		今回の範囲 (テキスト pp. 91-105、筑女ネット掲載資料) 復習と次回予習	
第 7 回	地球の歴史 (2) 、地球をゆるがす出来事 (1)		今回の範囲 (テキスト pp. 105-124、筑女ネット掲載資料) 復習と次回予習	
第 8 回	地球をゆるがす出来事 (2)		今回の範囲 (テキスト pp. 125-143、筑女ネット掲載資料) 復習と次回予習	
第 9 回	地球大進化第四集 (DVD)		今回の範囲 (筑女ネット掲載資料) 復習と次回予習	
第10回	海と大気の影響、生命の誕生 (1)		今回の範囲 (テキスト pp. 144-163、筑女ネット掲載資料) 復習と次回予習	
第11回	生命の誕生 (2) 、生命の陸上進出		今回の範囲 (テキスト pp. 163-182、筑女ネット掲載資料) 復習と次回予習	
第12回	植物と動物の発展 (1)		今回の範囲 (テキスト pp. 183-195、筑女ネット掲載資料) 復習と次回予習	
第13回	植物と動物の発展 (2)		今回の範囲 (テキスト pp. 195-214、筑女ネット掲載資料) 復習と次回予習	
第14回	霊長類の繁栄		今回の範囲 (テキスト pp. 215-229、筑女ネット掲載資料) 復習と次回予習	
第15回	地球大進化第五集 (DVD) 、日本人のルーツ、まとめ、授業評価		今回の範囲 (筑女ネット掲載資料) 復習	
成 績 評 価	割合 (%) 、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60 % 毎回の学習記録：予習範囲の疑問点 (文頭にページ、行を明記) の内容 (疑問点の説明として、どこまでを理解していて、どこからが理解できないか、受講上の留意点に合致) を、箇条書きにして、授業の3日前の夜までに、メールで送る			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40 % 授業内容の理解を深める質問 (内容と回数)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	分からない所を質問すれば、その内容に応じて加点するが、教科書に回答がそのまま書いてあるような質問や新しく出てきた言葉などの自分で調べれば直ぐ分かるようなことについての質問やギネスブック的な質問は対象としません。初歩的な内容であっても、授業内容の理解を深め、他の受講者の理解度も高まるような質問を歓迎します。			
教科書	谷合 稔『地球・生命—138億年の進化』ソフトバンク クリエイティブ			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業終了後、またはメールで相談		メールアドレス	

授 業 科 目	エコツーリズム論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	上村 真仁		単 位	2
授業の目的と概要	近年、余暇活動のニーズや環境意識の高まりから、エコツーリズムが注目されている。観光は地域の経済活性化を図る上でも重要な産業であるが、環境への配慮を欠いた観光による自然環境の劣化など負の影響も現れている。こうした状況を改善するためにエコツーリズム推進法が制定され、自然観光資源の保全と持続可能な利用が模索されている。 本講義では、エコツーリズムの背景、それぞれの団体の定義などを学ぶとともに、世界や日本各地の事例について映像資料からその現状と課題を学び、持続可能な観光のあり方を学ぶことを目的とする。また、講義ではニューツーリズムとして位置付けられるグリーンツーリズムやブルーツーリズム、カルチュラルツーリズムなど一次産業資源を活用したツーリズムについても取り上げ、持続可能な地域の実現に資する観光のあり方について考察を行い、身近な地域を題材に持続可能な観光についての企画・提案を行うことを目指す			
到達目標	・成熟社会における持続可能な産業としてのツーリズムについての基礎的な知見を身につけることができる。 ・地域の自然資源を持続可能に利用するためのエコツーリズムの基本的な要件についての知識を得る。 ・エコツーリズムの基準について考え、地域の取り組みを評価し、改善策を提案できるようになる。 ・地域住民主体の体験活動に参加し、エコツーリズムの理念に沿った持続可能な観光について提案をおこなう。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	エコツーリズム論の射程 エコツーリズムとは何か？		シラバスに目を通して授業への質問等を考えてきてください。	
第2回	ニューツーリズムの振興 一次産業とツーリズム		観光庁のHPなどでニューツーリズムについて調べてきてください。	
第3回	エコツーリズムコーディネーターの役割（地域をまとめる）		テキスト1章から3章を読んできてください。	
第4回	エコツーリズムコーディネーターの役割（地域を守り、活かす）		テキスト4章から7章を読んできてください。	
第5回	世界自然遺産とエコツーリズム その1 ガラパゴス		世界自然遺産の指定の手続きについて調べてきてください。	
第6回	世界自然遺産とエコツーリズム その2 コスタリカ		ガラパゴス、コスタリカのエコツーリズムのプログラムを調べて来ててください	
第7回	世界自然遺産とエコツーリズム その3 屋久島		屋久島のエコツーリズムのルールについて調べて来ててください。	
第8回	世界自然遺産とエコツーリズム その4 知床		知床のエコツーリズムのプログラムには何かがあるか調べてきてください。	
第9回	世界自然遺産とエコツーリズム その5 奄美・沖縄		奄美・沖縄の世界自然遺産の候補地域はどこか調べてきてください。	
第10回	グリーンツーリズム・ブルーツーリズムの取り組み		安心院や対馬での取り組みを調べて来ててください。	
第11回	フィールドトリップ 筑紫野市御笠地区の自然と文化 その1		御笠地区でのフィールドトリップ（自然観察）体験	
第12回	フィールドトリップ 筑紫野市御笠地区の自然と文化 その2		御笠地区でのフィールドトリップ（文化資源）体験	
第13回	御笠地区でのエコツアーの企画		グループワークでの企画	
第14回	企画したツアーの実施（バーチャルでの実施）		企画内容の提案（御笠コミュニティセンター）	
第15回	まとめ 地域にとって望ましい観光のあり方とは		期末レポートの作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 地域にとって望ましい観光のあり方について授業を通じて学んだことを盛り込みレポートを作成する			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ 各回の事例取りまとめ発表（3回）			
受講態度他	30％ 授業でのディスカッションおよびフィールドトリップへの参加状況で評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	個人的な理由での欠席は欠席として扱います。この講義では、授業中にコメントシートの記入をしてもらいます。また、身近な自然や文化の持続的な利用について考えるために筑紫野市御笠地区でのフィールドトリップを実施します（講義2回分を予定しています。参加が必須となります。）			
教科書	地域（エコツーリズム）コーディネーターテキスト（Eco-Okinawa）授業で配布します。			
指定図書	地域資源を守っていかすエコツーリズム 敷田麻美、森重昌之 講談社 エコツーリズムを学ぶ人のために 真板昭夫、石森秀三、梅津ゆりえ 世界思想社			
参考図書	エコツーリズム 環境省編 日本交通公社			
オフィスアワー	月曜日2限、3限、4限、水曜日4限		メールアドレス	

授 業 科 目	エコハウス論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	豊増 美喜		単 位	2
授業の目的 と概要	環境配慮型のライフスタイルを実現する場として住宅建築が果たす役割は大きくなっています。本講義では、自然と共生する住まいのプランニングや構造など、室内環境（熱環境、空気環境、光環境など）に配慮したエコハウスに関する基本的な内容を理解することを目的としています。 また、枯渇性資源に頼らない住まい方から、現代のパッシブデザインの技術と手法を学ぶことによって、自らの生活への新しい視点を学びます。			
到達目標	1. エコハウスの概念が説明できる。 2. エコハウスを計画するための熱環境、空気環境、光環境の調節について理解し、生活の中で生かすことができる。 3. 環境に配慮した住まいについて具体的に提案できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 この授業で習得した知識や技能は環境共生社会を構成する住まいと環境を考える基礎知識となります。また1年次に開講される「住まいと環境」の発展科目であり、「住環境デザイン演習」はこの授業で学んだものを具体的に形に落としていく演習です。 その他、関連する科目として地域環境に視野を広げた「地域環境論」や資源やエネルギーに視野を広げた「循環型社会論」や「資源とエネルギー」などがあります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	エコハウスとは何か ----- 環境省の示すエコハウスの基本		プリントを熟読すること	
第2回	熱環境の調節 ----- 断熱・日よけの効果（1）模型製作		プリントを熟読すること	
第3回	熱環境の調節 ----- 断熱・日よけの効果（2）模型実験		実験用プリントを熟読すること	
第4回	熱環境の調節 ----- 断熱・日よけの効果（3）実験のまとめと発表		発表原稿の作成	
第5回	熱環境の調節 ----- 身の回りの熱環境の測定 建具・窓の工夫		測定用プリントを熟読すること	
第6回	空気環境の調節 ----- 気密性と通風、換気・排熱		プリントを熟読すること	
第7回	熱環境・光環境の調節 ----- 日射遮蔽、日射導入の工夫		プリントを熟読すること	
第8回	心地よい熱環境に配慮した既存建物の工夫 ----- 室内外の工夫を探す		プリントを熟読すること	
第9回	心地よい熱環境に配慮した既存建物の工夫 ----- 観察のまとめと発表		発表原稿の作成	
第10回	省エネルギー基準について		プリントを熟読すること	
第11回	電力の消費 ----- エネルギーの表し方と環境家計簿		レポートの作成	
第12回	光環境の調節 ----- 自然光の利用と照明		プリントを熟読すること	
第13回	光環境の調節 ----- 教室の光環境の測定		測定用プリントを熟読すること	
第14回	光環境の調節 ----- 測定のまとめと発表		発表原稿の作成	
第15回	現代～これからのエコハウス		プリントを熟読すること	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％			
小テスト等	0％			
成果発表	20％			
受講態度他	20％ 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。 天候等により、実験、観察、測定のスケジュールが変更になることがある。 レポートはチェック後に次回の授業で返却する。			
教科書	プリントを配布します			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	江戸の小説を読む【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	安永 美恵		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業では、高校までに触れることの少ない近世文学への入口として、近世文学に親しむための基礎知識を得て、興味や関心を持てるようになることを目的としています。 数種類の近世小説作品本文に触れることで、ことばへのこだわりや、絵画との関わりやの深さ、描かれる場など、中古・中世や現代とも異なる文化的な特徴を理解できるようになります。 これら多様な文化に触れることは、広い視野や、柔軟な思考の形成に役立つと考えます。			
到達目標	1 授業で取り上げた作品について、取り上げた箇所の文意を理解し、説明することができる。 2 教科書の各巻の間に答えることができる。 3 授業で取り上げた作品の、文学史上の位置づけを説明できる。 4 授業で取り上げた作品について、ことば、表現、作品世界の観点から、江戸時代小説の特長を具体例をあげて説明できる。 5 興味を持った江戸時代小説を読み、授業で学んだことを踏まえて、作品に対する自分の読み方をレポートにまとめることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 必修科目「中・近世文学概論」の範囲の内、近世小説についての具体的な作品に触れることができます。また、近世文学については、「中・近世文学講読Ⅰ・Ⅱ」で、より専門的な知識を得ることができます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	江戸時代の文学について： 三つのポイント、文学史の区切り		・テキストの予習 ・参考文献から作品を読む。	
第 2回	巻十一 醒睡笑： 仮名草子の世界①		・テキストの予習 ・参考文献から作品を読む。	
第 3回	巻十一 醒睡笑： 仮名草子の世界② その他の作品を読む		・テキストの予習 ・参考文献から作品を読む。	
第 4回	巻十二 好色一代男： 浮世草子の世界①		・テキストの予習 ・参考文献から作品読んでみる。	
第 5回	巻十二 好色一代男： 浮世草子の世界② 掲載本文の続きと関連資料		・テキストの予習 ・配布課題の提出（西鶴作品）	
第 6回	巻十三 雨月物語： 初期読本の世界①		・テキストの予習 ・参考文献から作品を読む。	
第 7回	巻十三 雨月物語： 初期読本の世界②掲載作品の関連資料		・テキストの予習 ・参考文献から作品を読む。	
第 8回	巻十四 南総里見八犬伝： 後期読本の世界①		・テキストの予習 ・参考文献から作品読む。	
第 9回	巻十四 南総里見八犬伝： 後期読本の世界②掲載箇所以外の部分の紹介など		・テキストの予習 ・参考文献から作品読む。	
第10回	巻十五 金々先生栄花夢： 黄表紙の世界①		・レポート作成（近世の小説作品の感想文）	
第11回	巻十六 孔子稿于時藍染： 黄表紙の世界②		・テキストの予習 ・参考文献から作品読む。	
第12回	巻十七 傾城買四十八手： 洒落本の世界		・テキスト前半部「詩歌」の部分を読む。	
第13回	巻十八 東海道中膝栗毛： 滑稽本の世界		・テキストの予習 ・参考文献から作品読む。	
第14回	巻十九 春色梅児誉美： 人情本の世界		・テキストの予習 ・参考文献から作品を読む。	
第15回	まとめ		課題：レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	80％ 期末レポート（60％）近世小説の中から選んだ作品に関するもの、授業での課題2（20％）			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	20％ 授業に関して求める記述の内容、作品鑑賞等を含む。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中は、読み・考えることに集中してください。これを妨害する行為（私語、授業中の入退室、携帯電話の使用、飲食など）は、慎んでください（体調の問題に関わる場合は除きます）。互いに気持ちよく受講できるように配慮しましょう。			
教科書	鈴木健一編『江戸の詩歌と小説を知る本』笠間書院、配布プリント。			
指定図書	なし			
参考図書	テキスト参照。他に補う場合は、授業時に指示する。			
オフィスアワー	火曜 5 限、木曜昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	オタク文化論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小山 昌宏		単 位	2
授業の目的と概要	1. この授業は、サブカルチャーに発祥をもち、ポップカルチャーとともに隆盛したオタク文化について学ぶ。オタクの心理的傾向、消費傾向、集団特性にみる若者のライフスタイルについて理解することを目的とする。 2. 第1～5回は、おたくの定義、オタク文化に対する各論者の考え方を理解し、第6～8回は、戦後大衆文化の隆盛にあつてサブカルチャーの影響を受け独自に発展したオタク文化における若者のライフスタイルについて検討し、第9～15回は、第1～8回の理路、歴史、文化現象、時代背景、領域（ジャンル）について知識を得ることで、その内容を深く把握することを目的とする。 3. 具体的には、講義後の配布資料、デジタル資料（筑女ネット）による復習、リアクションペーパーのまとめによる復習（振り返り）を踏まえ、立体的に講義内容を理解することを目的とする。			
到達目標	1. おたくの定義、オタク文化の形成、その発展から戦後日本文化への影響について説明ができる。 2. SF、同人誌、コスプレ、コミケ、アキバ系などから、オタク文化の特徴を理解し、そのカテゴリーと内容について説明することができる。 3. サブカルチャーとサブカル、ポピュラーカルチャーとポップカルチャー、サブカルチャーとポップカルチャーの連続性と相違性において、オタク文化の位置づけを理解し、説明することができる。 4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、独自の「オタク像」「オタク文化観」を形成することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オタクとは何か？ ―サブカルチャーとしての御宅、おたく、オタク、ヲタク		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第2回	政治の終焉とおたくの発祥 ―ポップカルチャーとしてのオタク文化		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第3回	岡田斗司夫と大塚英志のオタク論 ―オタク第一世代の教養主義と歴史性		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第4回	宮台真司と大澤真幸のオタク論 ―オタク文化が社会学に与えた影響とは？		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第5回	斎藤環と東浩紀のオタク論 ―オタクのカテゴリー化と「ひきこもり」について		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第6回	オタク文化と若者論 ―オタク青年のライフスタイルとライフサイクル		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第7回	オタクのセクシャリティと消費文化 ―ギャル文化に発するオタク・リア充とヲタク・非リア充の日常		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第8回	オタクの「場」と「街」の形成 ―アキバのメイド文化と中野ブロードウェイ・池袋乙女ロード		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第9回	SF文化とオタク ―オタク文化の源流とSFマインド		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第10回	同人誌文化とオタク ―コミックマーケットと同人誌文化		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第11回	コスプレ文化とオタク ―コスプレイヤーとロリータの共通性と相違性		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第12回	オタク文化とキャラクター論 ―なぜ私たちはキャラクターを愛するのか		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第13回	オタク文化とメディア論 ―メディアはオタクをどのように報道してきたのか		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第14回	オタク女子・腐女子・夢女子論 ―「耽美」「やおい」「BL」を読む、読まないそのラインについて		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第15回	まとめ 討論・報告会		レポート作成準備をおこなう	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	65％（期末レポート） 20％（出席シート：リアクションペーパーの内容）			
小テスト等	なし			
成果発表	15％（15回 討論・報告会プレゼンの評価）			
受講態度他	第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 教科書はありません。レジュメ（配布資料）は各回配布いたします。 2. この授業では、毎回、リアクションペーパー内容をまとめ、要点整理の上、次回授業のはじめに振り返り紹介いたします（復習） 3. リアクションペーパーと振り返りによる学習効果を、期末レポート作成に活かします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で指示します			
オフィスアワー	水曜日 2 限目（10:50～12:20）		メールアドレス	

授 業 科 目	オフィスコミュニケーション【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	藤村 やよい		単 位	2
授業の目的と概要	仕事を円滑に進めるためには、コミュニケーション能力を高め、職場やお客様との良好な人間関係を構築することが大切です。その良好な人間関係の第一歩が言葉遣い（言語コミュニケーション）です。一方、身だしなみ、表情、態度、動作などの非言語コミュニケーションからも、相手は何かを感じとっています。信頼される職業人として、第一印象を大切にし、相手に好感を与えて人間関係を円滑にするために、オフィスでのコミュニケーション能力を高めることを目的とします。「社員の言動で会社のイメージが決まる」といわれていますので、第一印象の大切さとして身だしなみ、表情、態度、動作、言葉遣いの実技を行います。さらにビジネスの現場を想定した電話応対、来客応対のロールプレイングなども行い、実践的な実務内容を習得します。そうすることが「なぜ」必要なのかという考え方を考察しながら、知っているだけでなく「できる」「気づく」ところまで学習します。			
到達目標	1. 第一印象をよくし、相手に好感を与えることができるようになる。 2. 社内や社外の方との良好な人間関係構築のためのコミュニケーション能力を高める。 3. 知っているだけでなく、「できる」「気づく」ことができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション：オフィスコミュニケーションとは（講義）		シラバスや教科書の目次等を見て授業概要を把握してください	
第 2 回	信頼される職業人：職業意識（学生と社会人の違い）、職場の心構えなど（講義）		予習（p13-19、22-39）	
第 3 回	第一印象の大切さ（１）：挨拶とお辞儀、身だしなみ（講義・実技）		予習（p41-45）、授業で習った内容を日常生活で実践してください	
第 4 回	第一印象の第切さ（２）：表情、態度、動作など（講義・実技）		予習（p45-47）、授業で習った内容を日常生活で実践してください	
第 5 回	コミュニケーション（１）：言葉遣いと人間関係、話し方と聞き方（講義・実技）		予習（p20-21、47）、授業で習った内容を日常生活で実践してください	
第 6 回	コミュニケーション（２）：敬語（講義）		予習（p48-61）	
第 7 回	コミュニケーション（３）：受命と報告・連絡・相談、職場用語、接遇用語（講義・実技）		予習（p30-31、61-65）、授業で習った内容を日常生活で実践してください	
第 8 回	模擬会社の設立（起業方式）、プレゼンテーション（講義・実技）		予習（p156-158）、授業で習った内容を日常生活で実践してください	
第 9 回	電話応対（１）：心構え、受け方・かけ方、伝言メモ(講義・実技)		予習（p66-78、30）、授業で習った内容を日常生活で実践してください	
第10回	電話応対（２）：ケーススタディ（講義・実技）		予習（p78-81）、授業で習った内容を日常生活で実践してください	
第11回	来客応対（１）：心構え、基本要素、訪問(講義・実技)		予習(p82-83、90-96)、授業で習った内容を日常生活で実践してください	
第12回	来客応対（２）：受付（取次）→案内→接待→見送り→後片付け（講義・実技）		予習(p84-90)、授業で習った内容を日常生活で実践してください	
第13回	来客応対（３）：ケーススタディ、クレーム対応（講義・実技）		予習（p101-103）授業で習った内容を日常生活で実践してください	
第14回	ホスピタリティとサービス：顧客満足とおもてなしの心（講義）		予習（ p 97-101）	
第15回	慶弔と贈答の知識：冠婚葬祭、上書き、プロトコールなど（講義）		予習（ p 160-173）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	6 0 ％ 実技試験（40％）、筆記試験（20％）			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	講義の際に指示します			
受講態度他	4 0 ％ 受講態度、（実技が中心となりますので受講態度を重視します） 講義の際に指示します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講希望者は、次のことを厳守してください。①初日のオリエンテーション日には必ず出席してください。②受講者は毎回リクルートスーツを着用してください。 ＊受講者数を3 0 名に制限することがあるかもしれません。			
教科書	藤村やよい編著『ビジネス実務—信頼を得ることの大切さ—』 樹村房			
指定図書	なし			
参考図書	講義の中で適宜紹介します			
オフィスワーク	授業の前後に相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	音楽演習【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	北原(幸)・今釜(亮)・井上(智)・大島(陽)・篠原(敏)・藤(真)・藤田(道)・名子(め)・藤野(誠)・八尋(三)		単 位	1
授業の目的と概要	小学校教諭や保育者になるために必要な音楽に関する基礎知識及び基礎技能を習得することを目的とする。具体的には、音楽理論と実技の基礎技能（ピアノ演奏の基礎、歌唱の基礎としての発声法）を習得することを目指す。授業形態は、声楽・器楽に関わる実技を含めた演習を組み合わせで行う。 （オムニバス方式／全15回） （北原・井上・藤田・藤・大島・名子・藤野・八尋・篠原/10回）音楽理論の理解を図るとともに、音楽実技の基礎技能（ピアノ演奏の基礎）の習得を目指す。 （今釜 /5回）音楽実技の基礎技能（歌唱の基礎としての発声法）の習得を目指す。			
到達目標	・音楽に関する基礎知識として音楽理論を理解し、読譜力を習得する。 ・音楽に関する基礎としてのピアノ演奏技能を身につける。 ・音楽に関する基礎としての発声法と歌唱力を身につける。 ・リズム遊びなど、子どもが音楽に興味・関心がもてるような活動についての指導力を培う。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション、ピアノ伴奏の基礎的な知識と技能①		規定曲表に沿って練習をする	
第2回	歌唱の基礎としての発声法①		発声法の復習	
第3回	ピアノ伴奏の基礎的な知識と技能②		規定曲表に沿って練習をする	
第4回	ピアノ伴奏の基礎的な知識と技能③		規定曲表に沿って練習をする	
第5回	歌唱の基礎としての発声法②		歌唱教材の復習	
第6回	ピアノ伴奏の基礎的な知識と技能④		規定曲表に沿って練習をする	
第7回	ピアノ伴奏の基礎的な知識と技能⑤		規定曲表に沿って練習をする	
第8回	歌唱指導①（ハーモニー、簡単な合唱）		歌唱教材の復習	
第9回	ピアノ伴奏の基礎的な知識と技能⑥		規定曲表に沿って練習をする	
第10回	ピアノ伴奏の基礎的な知識と技能⑦		規定曲表に沿って練習をする	
第11回	歌唱指導②（合唱、簡単な歌曲）		歌唱教材の復習	
第12回	ピアノ伴奏の基礎的知識と技能⑧		規定曲表に沿って練習をする	
第13回	実用的な伴奏のための応用練習①		規定曲表に沿って練習をする	
第14回	歌唱指導③（歌唱のまとめ、試験曲）		グループで自主練習	
第15回	実用的な伴奏のための応用練習②		試験曲を練習すること	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	器楽60％ 歌唱30％			
レポート	－			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	10％ 授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各自、自主練習を充分した上で、授業に参加すること。			
教科書	初等教育コース：『バイエル教則本』（音楽之友社） 『続こどものうた200』（チャイルド社） プリント配布 幼児保育コース：『バイエル教則本』（音楽之友社） 『こどものうた200』『続こどものうた200』（チャイルド社） プリン			
指定図書	授業中に適宜指示			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワー	北原：月曜日1,2限、水曜日昼休み 今釜：月・火曜日昼休み、木曜日2限		メールアドレス	

授 業 科 目	音楽概論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	今釜 亮・北原 幸子		単 位	2
授業の目的と概要	幼稚園教育要領「表現」、保育所保育指針「保育表現技術」、小学校学習指導要領「音楽」のねらいと内容をふまえて、実践で必要となる音楽理論（読譜の基礎等）や歌唱における発声法の指導、我が国や世界の音楽についての鑑賞など、基本的な考え方を習得し、音楽に親しみを持つことを目的としている。 幼稚園や保育所における音楽活動および小学校音楽科の授業に際しての視野を拡大し、基礎的知識を習得する。			
到達目標	・保育者や小学校教諭になるために必要な音楽の理論やピアノ演奏などに必要な読譜力といった基礎を身につける。 ・歌唱における発声法について、基本的な知識・技能を身につける。 ・音楽をより楽しみ理解を深めるために、我が国の音楽や世界の音楽の素晴らしさを感じとる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	幼稚園や保育所における音楽活動および小学校音楽科指導の基本的な考え方について		小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針について復習すること	
第2回	音楽の基礎理解① ト音記号		随時復習すること	
第3回	音楽の基礎理解② ヘ音記号		随時復習すること	
第4回	音楽の基礎理解③ 音の長さ、音符の種類		実際の楽譜、リズム譜を見て実践すること	
第5回	音楽の基礎理解④ 音程		随時復習すること	
第6回	音楽の基礎理解⑤ 長音階		随時復習すること	
第7回	音楽の基礎理解⑥ 短音階		音階を鍵盤で弾いて確かめること	
第8回	音楽の基礎理解⑦ 記号、和音、コードネーム		実際に弾いて復習をする	
第9回	音楽の基礎理解⑧ コードネーム、コード伴奏		簡単なコード伴奏を付けてみること	
第10回	歌唱の基礎① 呼吸法、発声法、姿勢		随時復習すること	
第11回	歌唱の基礎② 演奏形態（斉唱、合唱、独唱、重唱）や合唱の実際		実際に輪唱や合唱曲に触れてみること	
第12回	身近な楽器の奏法 ソプラノリコーダー、鍵盤ハーモニカ、カスタネット、鈴など		実際に演奏すること	
第13回	世界の音楽に親しむ		復習しまとめること	
第14回	世界の音楽を学ぶ		復習しまとめること	
第15回	まとめ		理解が不十分なことを復習しまとめること	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	－			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	30％ 授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各自予習・復習を求める。また、発表などを中心に授業へ積極的に参加することを期待する。			
教科書	『小学校学習指導要領解説（音楽編）』教育芸術社、『改訂音楽通論』教育芸術社 『幼稚園教育要領』（平成20年度告示）※他教科で購入済み			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	北原：水曜日昼休み、月曜日1,2限 今釜：月・火昼休み、月曜日2,3限	メールアドレス		

授 業 科 目	音楽基礎【実技】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	北原 幸子・今釜 亮・井上 智子・藤 真希子・藤田 道久・大和 聡子		単 位	1
授業の目的と概要	小学校教諭や保育者として、音楽活動や授業に必要なピアノの演奏技能について、初級者を対象に、基礎的な能力を身につけることを目的とする。 具体的には、音楽活動の基礎力となる音楽理論の学習を行いながら、ピアノ演奏の基礎技能を培う学習を行う。初心者を対象にした導入のための授業であり、ピアノに抵抗感をなくすように合同での活動も取り入れる。			
到達目標	・音楽活動や授業に必要な譜面の読み方など基礎的な音楽理論を理解できる。 ・鍵盤楽器への抵抗感をなくし、楽しく音楽に取り組むことができる。 ・テクニックマスターやバイエルの基本的な楽曲を演奏できるようになるとともに、C・F・Gなどの基本的なコードを用いて簡単な曲の弾き歌いができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	音楽を楽しむためのピアノ		読譜、指使い等の練習	
第 2回	読譜の指導① 一音階、ト音記号とヘ音記号の違い		随時、予習・復習すること	
第 3回	読譜の指導② 一和音（コード）の意味について		随時、予習・復習すること	
第 4回	ピアノ演奏技術の習得 ①		随時、予習・復習すること	
第 5回	ピアノ演奏技術の習得 ②		随時、予習・復習すること	
第 6回	ピアノ演奏技術の習得 ③		随時、予習・復習すること	
第 7回	ピアノ演奏技術の習得 ④		随時、予習・復習すること	
第 8回	コードネームを用いた演奏技術の習得 ①		随時、予習・復習すること	
第 9回	コードネームを用いた演奏技術の習得 ②		随時、予習・復習すること	
第10回	ピアノ演奏技術の習得 ⑤		随時、予習・復習すること	
第11回	ピアノ演奏技術の習得 ⑥		随時、予習・復習すること	
第12回	弾き歌いのための演奏技術の習得 ①		随時、予習・復習すること	
第13回	弾き歌いのための演奏技術の習得 ②		随時、予習・復習すること	
第14回	ピアノ演奏技術の習得 ⑦		随時、予習・復習すること	
第15回	ピアノ演奏技術の習得 ⑧		次年度へ向け復習・予習すること	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％			
レポート	－			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	20％ 課題への取り組み			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	初学者を対象とする授業なので、中級者以上は受講制限を設けることがある。 自主練習を充分した上で授業に出席すること。			
教科書	『おとなのためのテクニックマスター』ドレミ楽譜出版、『バイエル教則本』音楽之友社、プリント配布			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	北原：水曜日昼休み、月曜日1,2限 今釜：月・火昼休み、月曜日2,3限	メールアドレス		

授 業 科 目	海域文化交流史【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大津 忠彦		単 位	2
授業の目的と概要	授業の目的：海は、その「海流（潮流）」や強い「恒風」を帆船で有効利用することによって、古来より、人々の往来、大量の物資輸送、情報伝達等を可能としてきました。この講義は海洋の自然、海洋交通の技術の発展ならびに海洋を通じての諸地域間の相互文化交流を歴史的に理解することが目的です。 授業の概要：まず、北部九州の遺跡出土品や「海のシルクロード」関連品によって諸地域間の文化交流をたどります。そして、10世紀以降の日中間海域交流や「イスラーム航海者」東方進出、「大航海時代」以降の欧亜間交流の様相、さらには近現代における我が国の海域文化交流等々を通史的にたどります。			
到達目標	・日本、特に北部九州の古代・中世史に「海域文化交流」の具体的事象を説明することができる。 ・「海のシルクロード」の歴史的意味を具体例に基づいて説明することができる。 ・10世紀以降の中国やイスラームの「海域文化交流」について具体的に説明できる。 ・「大航海時代」以降のヨーロッパ勢力と海のシルクロードとの関係について説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。 この科目と共に、「西アジア入門」、「シルクロード文化交流史」を受講すると相互の理解が深まります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	はじめに～「海域文化交流史」関連海洋・海域の自然～		第 2回までに関連地域の地図作成	
第2回	「海域」をめぐる現代の交流 ①「オイルロード」		第 2回までに関連地域の地図作成	
第3回	北部九州弥生人たちの高級装身具「南海産貝製腕輪」（紀元前後）		第 5回までに関連資料を博物館展示品に見しレポートにまとめる	
第4回	「海のシルクロード」①海の正倉院 古代「沖ノ島」（4～9世紀）		第 5回までに関連資料を博物館展示品に見しレポートにまとめる	
第5回	「海のシルクロード」②遣隋使・遣唐使（600～894年）		第 5回までに関連資料を博物館展示品に見しレポートにまとめる	
第6回	日宋貿易と博多や平氏（10世紀後半～13世紀）		第 8回までに要衝（港市）と交易品についてレポートにまとめる	
第7回	船乗りシンドバッドの世界～イスラーム商人とインド洋（12世紀前後）		第 8回までに要衝（港市）と交易品についてレポートにまとめる	
第8回	「陶磁の道」：日本陶磁器、中国陶磁器の海外進出（12世紀）		第 8回までに要衝（港市）と交易品についてレポートにまとめる	
第9回	「大航海時代」（15～17世）		第11回までに当時の外航船についてレポートにまとめる	
第10回	南蛮貿易（16世紀半ば～17世紀初期）		第11回までに当時の外航船についてレポートにまとめる	
第11回	「プラントハンター」の活躍（18世紀）		第11回までに当時の外航船についてレポートにまとめる	
第12回	文久遣欧使節（江戸幕府使節団：1862～1863年）		第14回までに関連人物についてレポートにまとめる	
第13回	明治期遣波使節（1880年）～近代日本の中東交流開始～		第14回までに関連人物についてレポートにまとめる	
第14回	「海域」をめぐる現代の交流 ②「豪華客船クルーズ」		第14回までに関連人物についてレポートにまとめる。受講ノート補筆。	
第15回	総括～到達目標の確認～		受講ノート補筆、参考資料再点検	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％ ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50％ ②受講態度（含、時々の小テスト成果や提出課題成果）を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・上記「成績評価に関する情報」欄の、①と②の判定組合せが「秀&秀」・「秀&優」を秀、「秀&良」・「優&優」を優、「秀&可」・「優&良」・「優&可」・「良&良」を良、「良&可」・「可&可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。 ・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。受講態度の良否は成績評価に大きく影響します。講義の進捗に集中し自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスワーカー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	会計と簿記【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	谷 和也		単 位	2
授業の目的と概要	企業の経済活動を一定の方法で記録・計算整理して、経営成績・財政状態を明らかにするのが簿記である。簿記のしくみを理解し、財務諸表の作成方法を身につける。さらに作成された財務諸表を読みこなす方法も身につける。			
到達目標	①企業の日々の経済活動を帳簿に記録する方法について知ることができる ②作成された企業の財務諸表からその企業の経営状況を知ることができる。③日本経済新聞等で報道されている企業の財務情報について関心を持つことができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業のイントロダクション 企業会計の目的・役割 自分自身の財務諸表を作ってみよう		日本経済新聞「投資情報」を閲覧する	
第2回	簿記のしくみを理解する1 簿記の要素 資産、負債、純資産、収益、費用		復習 参考図書chapter01	
第3回	簿記のしくみを理解する 1 仕訳と転記その1 各要素ごとのホームポジションを知る		復習 参考図書chapter02	
第4回	簿記のしくみを理解する 2 仕訳と転記その2 勘定口座への転記		復習 参考図書chapter02	
第5回	簿記のしくみを理解する 3 試算表の作成		復習 参考図書chapter03	
第6回	簿記のしくみを理解する 4 貸借対照表と損益計算書		復習 参考図書chapter03	
第7回	簿記のしくみを理解する 5 現金預金の記帳		復習 参考図書chapter04	
第8回	簿記のしくみを理解する 6 商品売上の記帳		復習 参考図書chapter06	
第9回	これまでの学習の振り返りと確認問題		復習 授業中に実施した小テストの再確認	
第10回	簿記のしくみを理解する7 決算予備手続 有形固定資産と減価償却費の計算		復習 参考図書chapter09	
第11回	簿記のしくみを理解する8 決算予備手続 収益費用の見越し、繰延べ、貸倒引当金の計上		復習 参考図書chapter12	
第12回	財務諸表を読みこなす1 貸借対照表の構造と自己資本比率		各自で選んだ企業の決算書をもとに自己資本比率を算出する	
第13回	財務諸表を読みこなす2 損益計算書の構造と経営安全率		各自で選んだ企業の決算書をもとに経営安全率を算出する	
第14回	あの企業の財務諸表を見てみよう（東京ディズニーランド・U S J 等）		東京ディズニーランドの決算書をもとに2つの経営指標を算出する	
第15回	まとめ		定期試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％（帳簿の作成方法・財務諸表の読み方についての理解度を定期試験で確認します）			
レポート	0％			
小テスト等	20％			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	簿記・会計は机上の学問ではなく、実社会において広く普及している計数管理の実務です。この授業を通して、毎日報道されている企業の財務情報等に関心を持っていただくことを期待しています。また簿記検定試験に積極的にチャレンジされること併せて期待します。			
教科書	なし 適宜プリントを配布します			
指定図書	なし			
参考図書	『日商簿記3級テキスト』（ネットスクール出版）			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	介護概論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	金 圓景		単 位	2
授業の目的 と概要	介護の概念や対象及び理念などについて学ぶとともに、具体的な事例を参考に介護の在り方について理解することを目的とする。 また、高齢者を取り巻くフォーマル・インフォーマルな社会資源を調べ、理解するだけでなく、それらを発掘・活用できる力を育むことを目標とする。			
到達目標	1．介護の概念や対象及び理念について理解できる。 2．介護の在り方について考察できる。 3．フォーマル・インフォーマルな介護資源について理解でき、活用できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 介護の概念			介護概念の整理	
第2回 介護現場と対象者理解			介護現場と介護対象者についてまとめる	
第3回 介護の倫理・原理			日本介護福祉士会の倫理基準（行動規範）のまとめ	
第4回 施設に入所している高齢者への理解			介護施設を利用している要介護高齢者の実態についてまとめる	
第5回 認知症サポーター養成講座			認知症サポーター養成講座受講内容の復習	
第6回 地域における介護資源			ボランティア活動を通して介護資源について理解する	
第7回 様々な福祉現場での介護についてグループ発表			グループ発表資料準備	
第8回 要介護高齢者とその家族への理解			要介護高齢者を抱える家族の実態についてまとめる	
第9回 介護福祉専門職への理解			介護福祉専門職の役割について調べる	
第10回 チームアプローチとリスクマネジメント			リスクマネジメントについて調べる	
第11回 介護各論(1) ー自立に向けた支援、家事における自立支援ー			自立支援のまとめ	
第12回 介護各論(2) ー食事・身支度・移動・睡眠・入浴・排泄の介護などー			具体的場面での介護技法のまとめ	
第13回 介護各論(3) ー認知症ケア、終末期ケアー			認知症ケア、終末期ケアのまとめ	
第14回 介護各論(4) ー高齢者の住環境問題ー			高齢者の住環境のまとめ	
第15回 諸外国の介護事情			諸外国の介護事情のまとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% レポート レポートについては、最後の授業の際にコメントをつけて返却する			
小テスト等	40% 授業中に小テスト実施			
成果発表	30% グループ発表（介護ボランティア活動後、成果発表） 発表については、授業中に各グループにコメントする。			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・毎回レジュメと資料を配布するので、やむを得ず欠席したときなどは、後日研究室に資料を受け取りに来ること。 ・各自、講義ノートを作成し、事前学習・事後学習の際に活用すること。 ・講義中の私語は厳禁とする。			
教科書	社会福祉学習双書2018「老人福祉論：高齢者に対する支援と介護保険制度」全社協			
指定図書	なし			
参考図書	『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規			
オフィスワー	月曜日 3 限	メールアドレス		

授 業 科 目	介護技術演習【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	因 利恵・黒木 翔一郎		単 位	2
授業の目的 と概要	社会福祉士の現場実習で、高齢者施設などに実習に行ったり、卒業後仕事を始める際に、必要な基礎的介護技術を理解することを目的にする。また、相談援助を求める方は介護が必要な方も多いため、同時に、現在の高齢者を取り巻く状況やコミュニケーション方法、認知症介護も学んで行く。 講義は介護技術の演習を中心に行い、講義の終盤には、福祉用具を活用して、負担の少ない介護技術方法についても学んで行く。			
到達目標	①移動・移譲、食事、入浴、清潔、排せつ、着脱、整容、睡眠等の介護について、利用者の心身の状態に応じた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。 ②利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得できる。 ③代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化等理解することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション・介護技術を学ぶ意義と介護の現状		介護技術を学ぶ意義について考える	
第2回	コミュニケーション技術		テキスト（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ）該当ページの予習	
第3回	ベッドメイキング・寝たままでのベッドメイキング		テキスト（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ）該当ページの予習	
第4回	ボディーメカニクスについて・体位変換		テキスト（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ）該当ページの予習	
第5回	食事の介助① 椅座位での食事介助		テキスト（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ）該当ページの予習	
第6回	食事の介助② 臥位での食事		テキスト（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ）該当ページの予習	
第7回	歩行（杖）の介助・視覚障害者の介助		テキスト（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ）該当ページの予習	
第8回	介助車いすの介助・ベッドから車いすへの移動介助（トランスファー）		テキスト（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ）該当ページの予習	
第9回	整容の介助① 整容に関する基礎知識		テキスト（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ）該当ページの予習	
第10回	整容の介助② 衣服の着脱		テキスト（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ）該当ページの予習	
第11回	入浴・清拭の介助		テキスト（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ）該当ページの予習	
第12回	排泄の介助（ポータブルトイレへの介助）・睡眠について		テキスト（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ）該当ページの予習	
第13回	認知症の介護		テキスト（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ）該当ページの予習	
第14回	福祉用具を利用した介護技術		テキスト（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ）該当ページの予習	
第15回	まとめ		これまでの講義の中で理解できたこととできなかったことをまとめる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40％ 出席状況等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	介護技術に相応しい服装で出席してください。（ノースリーブ、ジーパンは不可。肩にかかる髪は結ぶ。靴は上靴に履き替える） 介護技術演習をする際、準備・後片付けは協力して行ってください。			
教科書	「実務者研修テキスト 第4巻 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」（一般財団法人 長寿社会開発センター）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	毎週月曜日（授業の前後）	メールアドレス		

授 業 科 目	カウンセリング演習【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	針塚 進		単 位	2
授業の目的と概要	臨床心理学におけるカウンセリングは、私たち人間が家庭、学校、社会と様々な場の中でより良く生活していけるように心理学的な方法により相談活動を行うことである。カウンセリングでは、相談をする人を「クライアント」と呼び、相談を受ける人を「カウンセラー」と呼ぶ。そこでこのカウンセリング演習では、カウンセラーがクライアントをどのような人で、どのようなことで困っているか、などを見たてる（アセスメント）をすることの基本を理解し、クライアントの相談をうけるというカウンセリング活動の理論と方法を学ぶ。			
到達目標	1. ロールプレイングを学び、「クライアント」役割と「カウンセラー」役割を相互に行うことにより、カウンセリングにおけるカウンセラーの態度や対応の仕方を習得する。このロールプレイングは、言語的カウンセリングと動作法によるカウンセリングの二つの技法を体験し言語による方法と動作による方法の違いを体験し方法の違いによるカウンセリングの在り方を習得する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	－			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	医療機関・福祉施設・学校・矯正・発達相談施設などにおけるカウンセリングの対象の違いのオリエンテーション		予習	
第2回	スクールカウンセリングについての文献講読・口頭発表・討論		担当者が文献を選び発表レジュメを作成しておく。	
第3回	スクールカウンセリングについての文献講読・口頭発表・討論		担当者が文献を選び発表レジュメを作成しておく。	
第4回	子どもの発達相談におけるカウンセリングについての文献講読・口頭発表・討論		担当者が文献を選び発表レジュメを作成しておく。	
第5回	子どもの発達相談におけるカウンセリングについての文献講読・口頭発表・討論		担当者が文献を選び発表レジュメを作成しておく。	
第6回	福祉施設でのカウンセリング（児童養護施設）についての文献講読・口頭発表・討論		担当者が文献を選び発表レジュメを作成しておく。	
第7回	福祉施設でのカウンセリング（児童養護施設）についての文献講読・口頭発表・討論		担当者が文献を選び発表レジュメを作成しておく。	
第8回	心理劇のについての実技演習		心理劇について予習	
第9回	心理劇のについての実技演習		心理劇について予習	
第10回	カウンセリングのロールプレイング		カウンセラーの留意点の予習・体験のレポート作成	
第11回	カウンセリングのロールプレイング		カウンセラーの留意点の予習・体験のレポート作成	
第12回	カウンセリングのロールプレイング		カウンセラーの留意点の予習・体験のレポート作成	
第13回	動作法についての実技演習		動作法についての予習	
第14回	動作法についての実技演習		動作法についての予習・体験のレポート作成	
第15回	総括		カウンセリング体験のレポート作成と発表	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない			
レポート	レポートA3用紙（35字 x 30行）2枚程度にワープロ原稿で作成し、発表数する。評価割合40％、体験レポートはA3位枚程度発表は行わない			
小テスト等	行わない			
成果発表	レポート発表20％			
受講態度他	レポート発表等の討論での質問・意見発表：評価割合20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	体験レポートの提出を必須とします。評価割合20％			
教科書	文献等を授業で紹介します			
指定図書	特になし			
参考図書	増野肇「心理劇の世界」金剛出版、鶴光代「臨床動作法のすすめ」金剛出版			
オフィスワー	水曜日・木曜日の午後		メールアドレス	

授 業 科 目	カウンセリング概論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	石井 洋平		単 位	2
授業の目的 と概要	カウンセリングの具体的なイメージをつかむとともに、理論の学習を通じて多様な人間観に触れ、自己理解・他者理解ができるようになることを目的とします。			
到達目標	1・カウンセリングとは何かについて説明することができる。 2・カウンセリングの基礎となる理論や、様々な技法について説明することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 心C (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 福C (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：カウンセリングとは何か		教科書「まえがき」を読む	
第2回	カウンセラーの基本的態度。カウンセリングのプロセス		教科書「第一章」を読む	
第3回	こころの健康		参考書・参考資料を読む	
第4回	インテーク面接とその目的		教科書「第二章」を読む	
第5回	面接の初期段階		教科書「第三章」「第四章」を読む	
第6回	面接中期に起こる様々な問題		教科書「第四章」「第五章」を読む	
第7回	カウンセリングの終結：終結とは何か？		教科書「第六章」を読む	
第8回	様々なこころの病		参考書・参考資料を読む	
第9回	クライアント中心療法		参考書・参考資料を読む	
第10回	行動療法・認知行動療法		参考書・参考資料を読む	
第11回	精神分析療法		参考書・参考資料を読む	
第12回	こどもの心と症状		参考書・参考資料を読む	
第13回	思春期・青年期の心と症状		参考書・参考資料を読む	
第14回	スクールカウンセリング		参考書・参考資料を読む	
第15回	総括		参考書・参考資料を読む	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 学んだことの復習として行う。			
レポート	％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	20％ 講義への参加態度や出席状況も考慮します。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	講義をよく聴き、積極的に討論に参加してください。			
教科書	平木典子著『カウンセリングとは何か』朝日新聞出版（1997）			
指定図書	なし			
参考図書	平木典子著『カウンセリングの話』ほか(必要に応じ授業中に適宜紹介)			
オフィスワ－	講義の前後に相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	【閉講】家族関係特論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小川 直樹		単 位	2
授業の目的と概要	社会の変貌とともに、家族関係のあり方や機能もゆれ動いている。核家族が一般化するとともに、家事や育児についての男女の柔軟な役割分担、老親の介護・扶養や相続をめぐる問題などが続出している。 こうした日々の生活周辺で認められる具体的な諸問題に関して家族法の基本理念に立ち戻って考察することができるような判断力を身につけることができます。 夫婦別姓の論議も本格化して、法改正案の国会提出が日程にのぼっているがいまだならず、その現在の世論の動向をふまえて検討します。			
到達目標	家族関係の原点にある出生と死亡に関する論議ならびに家庭の教育的機能の低下、弱体化、あるいは脆弱化などから派生する社会的諸問題を提出しながら、これからの家族関係の対応と課題を探ります。 いま、私たちの「家族」はどのようになっているのか。「個人」の問題が「社会」とつながり、「国家」の諸課題へとつながっている構造を身近な問いから示して、具体的に考察することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	－			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 家族関係の基礎概念	「いえ」の語源論、家族の意義		予習（教科書）	
第 2回 家族の類型と現代家族	歴史的研究の周辺		テキスト第 1 章を読む	
第 3回 日本国憲法における家族	家族の位置		テキスト第 1 章を読む	
第 4回 民法・家族法制度論	民法施行100年のときと暮らし		テキスト第 1 章を読む	
第 5回 家族機能論	家族社会学研究の展開		テキスト第 2 章を読む	
第 6回 婚姻制度	婚約・結納、内縁関係		テキスト第 3 章を読む	
第 7回 夫婦関係	一般的・財産的效果論		テキスト第 4 章を読む	
第 8回 出生と死亡	生殖医療科学と法制度		テキスト第 5 章を読む	
第 9回 親子関係	養子・親権の内容		テキスト第 6 章、第 7 章を読む	
第10回 親族	法的効果・親族間の扶養論		テキスト第 9 章を読む	
第11回 相続と遺言（1）	相続の意義・効果・承認と放棄		テキスト第 1 0 章を読む	
第12回 相続と遺言（2）	遺言・遺留分制度		テキスト第 1 1 章を読む	
第13回 家庭紛争と家庭裁判所（1）	役割論・調停前置主義		テキスト第 8 章を読む	
第14回 家庭紛争と家庭裁判所（2）	調停の進め方		テキスト第 8 章を読む	
第15回 家族関係をめぐる動向と今後の論点	超高齢社会・少子化社会の構造と対応		テキスト第 1 2 章を読む	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	7 5 ％ 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	1 0 ％ 社会の動きに注目して発言してください。			
受講態度他	1 5 ％ 授業に積極的に参加する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1）毎回テキストの重要箇所を指示します。予習をして授業に臨んでください。 2）新聞を読んでおくことで、授業内容を広い視野で見つめることができます。 新聞は社会そのもの、現実の国際社会・全宇宙の情報を伝えます。 Newspaper in Education「教育に新聞を」。積極的に接して、考えてみて下さい。			
教科書	井上 馨 編『これからの家族関係－現代家族の諸問題－』建帛社			
指定図書	湯沢雍彦・宮本みち子著『データで読む家族問題』日本放送出版協会、利谷信義著『家族の法』有斐閣、菅野耕毅著『新版・図説家族法』法学書院			
参考図書	利谷信義著『家族と国家－家族を動かす法・政策・思想』筑摩書房 各章・節をめぐり、その都度に授業の中で紹介します。			
オフィスアワー	火曜日の3限前後、非常勤室に在室しています。講義の際に指示します。		メールアドレス	

授 業 科 目	家族社会学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	徳永 勇		単 位	2
授業の目的 と概要	家族の自明性と存在意義とが疑われるようになって久しい。近年では、依存症やひきこもりをはじめとする社会的不適応の病巣として機能不全家族の問題がクローズアップされてもいる。さらなる小家族化と家族紐帯の弱体化、家庭内暴力と子ども・高齢者虐待、夫婦別姓、同性愛者の家族認定、生殖技術の進展にともなう問題等々、家族をめぐる問題状況は、ますます複雑化している。本講義では、家族社会学の基礎的な知見とともに、そうした家族をめぐる問題状況について解説する。本講義の目的は、家族のしくみと歴史、現状と問題点について理解を深め、あわせてよりよき家族のあり方を展望する想像力をもつことにある。 上記のとおり、家族をめぐる問題状況は、ますます多様化、深刻化している。自閉化しがちな家族が抱える深刻な問題を、地域社会の人的資源を活かして解決していく方途を考えていくことも、本講義の目的の一つである。			
到達目標	1.ジェンダーとセクシュアリティ、家父長制の意味を説明できる。 2.家族形成の原理と家族の範囲について説明できる。 3.近代家族の成立過程と特徴について説明できる。 4.現代家族の特徴と家族問題について説明できる。 5.家族と社会福祉援助、生殖テクノロジーの問題について説明できる。 6.人間を不幸にしない家族のあり方を自らのこれからの人生と重ね合わせて構想できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福C (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	ジェンダーとセクシュアリティ		予習 講義ノートpp.1-2.	
第 2 回	性差別と家族		予習 講義ノートp.2.	
第 3 回	ジェンダーと家父長制		予習 講義ノートp.2.	
第 4 回	近代社会と家父長制家族		予習 講義ノートp.3.	
第 5 回	婚姻規則と家族類型		予習 講義ノートpp.3-4.	
第 6 回	家族法とファミリー・アイデンティティ		予習 講義ノートpp.4-5.	
第 7 回	近代家族の成立と展開		予習 講義ノートpp.5-6.	
第 8 回	近代家族の特徴と機能		予習 講義ノートpp.6-7.	
第 9 回	現代家族の動向		予習 講義ノートpp.7-8.	
第10回	少子化と晩婚化・非婚化		予習 講義ノートp.8.	
第11回	機能不全家族とアダルト・チルドレン		予習 講義ノートpp.8-9.	
第12回	子ども虐待と高齢者虐待、ドメスティック・バイオレンス		予習 講義ノートpp.9-10.	
第13回	現代家族と社会福祉		予習 講義ノートp.10.	
第14回	生殖テクノロジーと家族		予習 講義ノートp.11.	
第15回	家族ではないがそれでも家族であるということ		予習 講義ノートpp.11-12.	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％：テーマ選択、論述式の筆記試験で評価する。持ち込みは配布プリント、自筆ノートのみ可。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	せっかく受講する授業なのだから、わからないこと、疑問に思うことがあれば積極的に質問してほしい。質問や意見は、メールでも受け付け、授業の冒頭で回答する。 なお、本授業では、たくさんの参考文献を紹介する。参考文献紹介スライドも含めた講義ノートを、筑女ネットにアップロードしているので、興味をもった図書をできるだけ多く読んでもらいたい。			
教科書	使用しない。			
指定図書	神原文子・杉井潤子・竹田美知編著『よくわかる現代家族』ミネルヴァ書房（2009）、井上俊・伊藤公雄編『近代家族とジェンダー』世界思想社（2010）、牟田和恵編著『家族を超える社会学』新曜社（2009）			
参考図書	講義中に、適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜3限、火曜2・3限、水曜2・3限。		メールアドレス	

授 業 科 目	家族社会学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	橋本 嘉代		単 位	2
授業の目的と概要	個人や家族のあり方、変化や多様性についてさまざまな「問い」を設定し、社会学の視点で読み解くことで、論理的思考力を身につけることを目指します。 Q 家族とはいつの時代も変わらないものか？ 歴史的に変化してきたのか？ Q 日本では家族にどのような役割が期待されているのか？ Q 若い女性の間では、キャリア志向と専業主婦志向、どちらが支持されているのか？ Q 日本ではなぜ少子化が進んでいるのか？ Q 日本社会のなかで公的に認められてこなかった人々の権利を保障するためにはどうしたらよいか？ ・・・・etc			
到達目標	・当たり前だと思っている「家族」について、データや仮説をもとにとらえ直す情報リテラシーを身につける。 ・公表されている世論調査の結果をデータベースからダウンロードし、自分で図や表を作ることができる。 ・個人の生き方が多様化するなか、誰もが尊重される社会を作るためには何が必要かを考える創造的思考力を身につける。 ・女性の貧困や男女格差、女性労働者の二極化、性別役割分業など、女性の人生をとりまく諸問題を知り、自己の将来設計に生かす。 ・関心のあるテーマで個人研究をし、その結果をパワーポイント形式で、発表することができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福C (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス：個人研究の説明		目次と第1章を読む	
第2回	家族を読み解くために（第1章） p.1-22		テキストの範囲の予習・復習	
第3回	「近代家族」の成立①（第2章）		テキストの範囲の予習・復習	
第4回	「近代家族」の成立②（第2章）		テキストの範囲の予習・復習。小テスト対策	
第5回	家族・貧困・福祉①（第3章） +1-2章の範囲の小テスト		テキストの範囲の予習・復習	
第6回	家族・貧困・福祉②（第3章）		テキストの範囲の予習・復習	
第7回	結婚①（第4章）		テキストの範囲の予習・復習	
第8回	結婚②（第4章）		テキストの範囲の予習・復習 +小テスト対策	
第9回	就業と家族①（第5章） +3-4章の小テスト		テキストの範囲の予習・復習	
第10回	就業と家族②（第5章）		テキストの範囲の予習・復習。小テスト対策	
第11回	個人研究の担当決め + 妊娠・出産・子育て①（第6章）		個人研究の準備（教科書の「エクササイズ」で興味のあるテーマを探す	
第12回	妊娠・出産・子育て②（第6章）		テキストの範囲の予習・復習、個人研究の準備	
第13回	個人研究発表の準備（パワーポイント作成）+5-6章の小テスト		テキストの範囲の予習・復習、個人研究の資料作成	
第14回	個人研究発表①		パワーポイント資料作成、プレゼン準備	
第15回	個人研究発表②		パワーポイント資料作成、プレゼン準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	45％ （基本用語の確認テスト。3回実施予定） 採点后、授業中に戻します。			
成果発表	40％ （＝個人研究プレゼン）			
受講態度他	15％ （個人研究発表の際の質疑応答も含む）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・教科書は必ず早めに購入し、授業の範囲を事前に読んでおきましょう。 ・受講者の人数によって、個人研究発表の回数や時期が変更になる可能性があります。			
教科書	岩間暁子、大和礼子、田間泰子、2015、『問いからはじめる家族社会学 -- 多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣			
指定図書	なし			
参考図書	石井クンツ昌子、2013、『育メン現象の社会学』ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	月曜12:30-15:00		メールアドレス	

授 業 科 目	家族心理学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	洪田 登美子		単 位	2
授業の目的と概要	現代では、家族を取り巻く社会的状況が刻々と変化しています。その影響を受けて、家族形態や家族関係の変容、家族機能の低下が指摘されています。しかし、その一方で子どもの発達という側面からは、これまで以上に家族の重要性が強調されています。そのような現代の家族を理解しその支援を考えると、家族システム論が役に立ちます。この授業の目的は、家族システム論を用いて家族を理解することです。そのことにより、児童虐待を含む家族内暴力や不登校など、現代の家族が抱える諸問題の原因や背景をより深く考察することができます。また、それらの問題についての家族臨床的支援について基礎的知識を得ることも目的としています。			
到達目標	1. 家族をシステムとしてとらえ、家族のライフサイクルについて文章で説明することができる。 2. 家族は、家族を取り巻くより大きなシステムである社会から常に影響を受けていることを、具体的な例を挙げて述べるができる。 3. 家族療法の特徴と代表的な技法について簡潔な文章で記述することができる。 4. 現代の家族が抱える問題について説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 関連科目として、2年次後期科目「発達臨床演習（家族）」があります。 本授業で家族についての知識を得た上で、後期の演習科目を受講することにより、家族についてさらに理解が深まります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 家族とは何か			予習：教科書第1章 pp. 1-16	
第 2回 家族の健康とは			予習：教科書第2 pp. 17-26	
第 3回 家族の発達①： 家族ライフサイクルと発達課題			予習：教科書第2 pp. 26-34	
第 4回 家族の発達②： 夫婦の発達とは			予習：教科書第3、4章 pp. 35-72	
第 5回 家族の発達③： 子どもが育つ場としての家族			予習：教科書第5章 pp. 73-77	
第 6回 家族の発達④： 子育てに関する神話と誤った思い込み			予習：教科書第5章 pp.78-82	
第 7回 家族と社会の関わりを児童虐待の発生要因から考える			予習：教科書第5章 pp.82-91	
第 8回 変動する社会の中の家族： システム論によって家族を理解する			予習：教科書第6章 pp.93-111	
第 9回 家族システム論から家族関係や家族の問題を理解する			予習：教科書第7章 pp.113-126	
第10回 多世代伝達過程から家族を理解する			予習：教科書第7章 pp. 126-129	
第11回 家族への臨床的アプローチ、家族療法のDVD視聴			予習：教科書第8、9章 pp. 131-149	
第12回 現代家族の諸問題①： 不登校・引きこもりの子どもがいる家族への臨床的アプローチ			予習：教科書第9章 pp. 158-160	
第13回 現代家族の諸問題②： 家庭における4つの暴力			予習：教科書第9章 pp.150-156	
第14回 現代家族の諸問題③： 高齢者虐待			予習：教科書第9章 pp.156-158	
第15回 総括と質疑			復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート 60％（到達目標2と4について評価するための課題です） 3月履修登録期間に返却します。研究室に取りに来てください。			
小テスト等	2回実施 30%(15%×2) 1回目の小テストは到達目標 1、 2 回目の小テストは到達目標3について評価します。授業時に返却します。			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ 質問等の積極的な受講態度を評価します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず教科書の該当箇所を読んで受講してください。			
教科書	平木典子・中釜洋子『家族の心理 ― 家族への理解を深めるために』サイエンス社			
指定図書	使用しない			
参考図書	平木典子『家族との心理臨床』垣内出版			
オフィスアワー	月曜日の4限、水曜日昼休み(12:30～13:00)		メールアドレス	

授 業 科 目	【閉講】家族心理特論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	渋谷 登美子		単 位	2
授業の目的 と概要	個人が何かの問題を抱えているとき、その人個人の問題としてとらえたり、親子関係の問題として語られることが多い。しかし実際は、家族内の人間関係はみな相互に関係しており、またその家族を取り巻く人間関係や地域社会、文化とも相互に影響しあっている。したがって、心理的援助を考えると、社会の中の家族、家族の中の個人を理解する必要がある。 この授業の目的は、家族についてのシステミックな理解や多世代の観点からの理解できるようになることである。さらに家族臨床や家族支援について理解することである。また、家族を通して現代社会の様々な問題を考察する。			
到達目標	1. 家族をシステムとしてとらえ、家族のライフサイクルについて述べるができる。 2. 家族は、取り巻くより大きなシステムである社会から常に影響を受けていることを具体的な例を挙げて述べるができる。 3. 現代社会が抱える家族に関するトピックスを一つ取り上げ、各自の研究テーマと関連させながら、考察することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	－			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 家族心理学とは	：家族システム論		教科書第1章の予習と復習	
第 2回 家族を取り巻く社会文化的文脈の変動と家族の変化			教科書第1章の予習と復習	
第 3回 心理的構造から家族を理解する	：境界、連合、パワー		教科書第2章の予習と復習	
第 4回 多世代伝達過程から家族を理解する	：自己分化、三角関係化、忠誠心		教科書第2章の予習と復習	
第 5回 家族のアセスメント	：ジェノグラム、FIT		ジェノグラムを作成	
第 6回 家族のライフサイクルと発達課題①			教科書第3、4、5章の予習と復習	
第 7回 家族のライフサイクルと発達課題②			教科書第6、7章の予習と復習	
第 8回 家族臨床①	：子ども虐待と子育て支援		教科書第11、14章予習と復習	
第 9回 家族臨床②	：家族のストレス		教科書第12章予習と復習	
第10回 家族臨床③	：配偶者間暴力		教科書第13章予習と復習	
第11回家族臨床④	：高齢者虐待		教科書第8章予習と復習	
第12回 家族療法①	：コミュニケーションへのアプローチ		課題資料を読む	
第13回 家族療法②	：解決志向アプローチ		課題資料を読む	
第14回 家族療法③	：心理教育的アプローチ		課題資料を読む	
第15回 まとめ			レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 期末レポート（到達目標3についての達成度を測るためのレポート）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 授業に対する積極的参加態度を評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ディスカッションを通して、現代の家族を多角的に理解していきたい。 教科書及び資料は、事前に読んでおくこと。			
教科書	中金洋子・野末武義・布柴靖枝・武藤清子『家族心理学 家族システムの発達と臨床的援助』有斐閣ブックス			
指定図書	なし			
参考図書	日本家族心理学会編『家族のストレス』金子書房 岡田隆介著『こころの援助レシピ 家族の法則2』金剛出版			
オフィスアワー	月曜日4限、またはメールで相談		メールアドレス	

授 業 科 目	家庭支援論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	上原 真幸		単 位	2
授業の目的と概要	保育士に求められる役割の一つに、子育て家庭に対する支援がある。本講義では、家族や各家庭が抱える悩み、それらが子どもに与える影響について理解すると共に、保育所保育士もしくはその他児童福祉施設保育士が家庭に対して行うべき支援、支援の視点、方法について理解することを目的としている。講義の後半は、実際の事例をグループで検討し、どのような支援機関と連携しながら、どのように家庭を支援することができるのか、考察する力を養う。			
到達目標	①様々な子育ての悩みと、悩みの背後にある家庭の生活課題に着目することができる。 ②子育てに関する社会的資源の種類を理解し、それぞれの支援内容について説明することができる。 ③保育所で行う、日常的な家庭との関わりや支援について、事例から読み取ることができる。 ④施設入所児等とその家庭との関わりや支援について、事例を交え、検討することができる。 ⑤エコマップを利用した支援ネットワークを検討した上で、事例を分析し、グループごとに考察・発表することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 関連科目：相談援助・児童家庭福祉・保育相談支援			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション ー子どもや家庭に関する施設、機関の復習ー		テキスト全体に目を通しておく	
第2回	現代を取り巻く家庭の状況 ー少子化や子育て世帯が抱える困難の理解ー		子ども・家庭に関する新聞記事等を読んでおく	
第3回	家庭・家族について ー家庭・家族の定義やその機能についての理解ー		家庭と家族の違いについて、自分なりに考えておく	
第4回	家庭支援における保育士の役割 ー法令が定める家庭支援についてー		「児童福祉法」「保育所保育指針」の該当箇所を熟読しておく	
第5回	子育てに関する国・地域対策 ーエンゼルプランから子ども・子育て支援制度の過程理解ー		子育て家庭支援に関する法律を一覧にまとめる	
第6回	多様な子育て支援施設の理解 ー子ども・子育て支援制度に基づく施設についてー		施設型給付や地域型保育給付についてテキスト該当箇所を熟読しておく	
第7回	子育てに関する多様な社会資源の理解 ー子育て支援事業の種類・内容についてー		多様な社会資源についてのワークシートを完成させておく	
第8回	要保護児童とその家庭への支援 ー家庭支援専門相談員の役割と支援内容についてー		家庭支援専門相談員についての資料を熟読しておく	
第9回	里親など家庭養護に携わる家庭への支援 ー里親支援専門相談員等の役割についてー		里親制度、里親支援専門相談員についての資料を熟読しておく	
第10回	保育所の特性を生かした家庭支援 ー保育所が実施する家庭支援の特徴と意義についてー		保育所が行う保護者への支援について資料を熟読しておく	
第11回	虐待状況にある家庭支援事例の検討① ー個人検討ー		事例検討ワークシートを完成させておく	
第12回	虐待状況にある家庭支援事例の検討① ーグループ検討・発表ー		各グループで発表内容を検討しておく	
第13回	家庭復帰を目的とした児童や家庭への支援事例の検討① ー個人検討ー		事例検討ワークシートを完成させておく	
第14回	家庭復帰を目的とした児童や家庭への支援事例の検討② ーグループ検討・発表ー		各グループで発表内容を検討しておく	
第15回	まとめ ー保育士に求められる家庭支援ー		テキスト、ノート等をまとめておく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70%（講義内容全般に関する試験を実施する）			
レポート	10%（講義内感想レポート等）			
小テスト等	ー			
成果発表	ー			
受講態度他	20%（講義内の発言、取り組みの姿勢等）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	資料等は印刷物を配布するため、講義中のスマートフォン等の電子機器類の使用は、厳しく禁止する。 子育て支援等の社会問題に関するニュース、新聞記事等を積極的に読んだ上で講義に参加すること。			
教科書	山本伸晴・白幡久美子『保育士をめざす人の家庭支援』みらい 保育福祉小六法編集委員会編『保育福祉小六法』みらい			
指定図書	ー			
参考図書	随時紹介する			
オフィスワー	前期：月曜 3 限、後期：金曜3限		メールアドレス	

授 業 科 目	環境学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	速水 良晃		単 位	2
授業の目的と概要	地球上に生物が誕生してから約40億年、人類が誕生してからでも数万年になる。しかし、僅かこの100～150年で人類の生産活動が著しく発達し、地球全土にわたる物質循環のバランスを崩し、大きな環境破壊が起こっている。 この科目では、有史以来の人間の環境への関わりと主な問題点を学び、環境問題解決のための第一歩として、現在の複雑化した社会システムの中での自分の生活と地球環境問題のつながりを把握し、その対策を検討できるようになることを目的とする。 教科書として選んだ本は、現代の環境問題の重要テーマを分かりやすく解説しており、地球環境問題解決への有効な取り組みを学ぶことができる。			
到達目標	① 人間の文明と環境問題の関係を、具体的に説明することができる。 ② これまでに発生した主な環境問題について、具体的に説明することができる。 ③ 自分の生活と環境問題の関係を、具体的に説明することができる。 ④ 自分の身の回りの環境問題について問題点を設定し、幾つかの改善策を提案できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 この授業は、主に文学部共通科目のDP (2)-⑤ の達成に関わる科目である。同じ学部共通科目である「天文学」や「経済学」などを受講すると相互の理解が深まります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	ペットボトルの水、（第12 章）飲料水と食品に関する今後の課題（上）		今回の範囲（テキスト pp. 156-163）の復習と次回のテキスト予習	
第 2 回	（第12 章）飲料水と食品に関する今後の課題（下）、（第1章）人間活動と環境とのかかわり		今回の範囲（テキスト pp. pp. 163-171、1-20）の復習と次回のテキスト予習	
第 3 回	（第2 章）環境変化に伴う異変		今回の範囲（テキスト pp. pp. 21-34）の復習と次回のテキスト予習	
第 4 回	（第3 章）化学物質汚染研究の基礎（pp. 35-41 は省略）、（第9 章）汚染物質の毒性と生体内での代謝		今回の範囲（テキスト pp. 42-53、125-136）の復習と次回のテキスト予習	
第 5 回	（第4 章）大気汚染（上） 地球の温暖化		今回の範囲（テキスト pp. 54-57）の復習と次回のテキスト予習	
第 6 回	（第4 章）大気汚染（中） オゾン層の破壊		今回の範囲（テキスト pp. 57-58）の復習と次回のテキスト予習	
第 7 回	（第4 章）大気汚染（下） 酸性雨、黄砂、PM、光化学オキシダント、アスベスト、シックハウス		今回の範囲（テキスト pp. 59-65）の復習と次回のテキスト予習	
第 8 回	（第5 章）水質汚染		今回の範囲（テキスト pp. 66-79）の復習と次回のテキスト予習	
第 9 回	（第6 章）土壌汚染		今回の範囲（テキスト pp. 80-89）の復習と次回のテキスト予習	
第10回	（第7 章）化学物質による汚染（上）		今回の範囲（テキスト pp. 90-101）の復習と次回のテキスト予習	
第11回	（第7 章）化学物質による汚染（下）		今回の範囲（テキスト pp. 101-111）の復習と次回のテキスト予習	
第12回	（第13 章）ごみと廃棄物		今回の範囲（テキスト pp. 172-180）の復習と次回のテキスト予習	
第13回	（第8 章）放射能汚染		今回の範囲（テキスト pp. 112-124）の復習と次回のテキスト予習	
第14回	（第14 章）エネルギー資源と環境問題		今回の範囲（テキスト pp. 181-194）の復習と次回のテキスト予習	
第15回	（第10 章）内分泌攪乱物質、（第11 章）アセスメント手法、（第15 章）環境活動の実践と環境倫理、総合的な質問、まとめ、授業評価		今回の範囲（テキスト pp. 137-155、195-204）の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60 ％ 定期試験（学習記録のみ持込可、コピーの持ち込みは不可）			
レポート	30 ％ 毎回の学習記録（受講上の留意点に合致していること、記載した疑問点について15回の授業で1回以上質問すること、終了時提出、翌週返却）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10 ％ 授業内容の理解を深める質問（内容と回数）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	分からない所を質問すれば、その内容に応じて加点するが、教科書に回答がそのまま書いてあるような質問や新しく出てきた言葉などの自分で調べれば直ぐ分かるようなことについての質問やギネスブック的な質問は対象としません。初歩的な内容であっても、授業内容の理解を深め、他の受講者の理解度も高まるような質問を歓迎します。			
教科書	川合・張野・山本 著、「第2版 環境科学入門 地球と人類の未来のために」、化学同人			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業終了後、またはメールで相談		メールアドレス	

授 業 科 目	環境教育【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	高木 義栄		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義では、環境教育とはどのようなものか、なぜ必要なのかを理解することを目的とします。ESD（持続的発展のための教育）を念頭に、環境教育の在り方を学びます。幼児期における環境教育の意義や重要性を学びます。アクティブラーニングによる実践を体験し、その有効性や実践方法を学びます。海外での環境教育の事例を学びます。現代社会における様々な環境問題について学び、それらを解決するためには何をすればいいか考えます。			
到達目標	・環境教育の意義や歴史について説明できる。 ・幼児期における環境教育の重要性を説明できる。 ・身の回りの自然（生物の種類、生息場所など）について具体的に述べることができる。 ・自分なりのアクティブラーニングの方法を創造できる。 ・各環境問題の原因と影響について説明でき、その解決に向けて個人的にできることを述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	環境教育とは？ 意義と歴史		配布資料の復習をしてください。	
第2回	幼児期の環境教育		配布資料の復習をしてください。	
第3回	環境教育とアクティブラーニング		配布資料の復習をしてください。	
第4回	アクティブラーニング実践① 散歩で虫探し		確認した虫を図鑑でチェックしてください。 小レポート作成。	
第5回	アクティブラーニング実践② 水の生き物チェック		確認した生物を図鑑でチェックしてください。 小レポート作成。	
第6回	アクティブラーニング実践③ バードウォッチング		見られそうな鳥を図鑑でチェックしてください。	
第7回	アクティブラーニング実践④ 散歩で草花探し		確認した植物を図鑑でチェックしてください。 小レポート作成。	
第8回	アクティブラーニング実践⑤ 樹木オリエンテーリング		身の回りの樹木を観察してください。	
第9回	自然とこどもとのかかわり		配布資料の復習をしてください。	
第10回	アクティブラーニング実践⑥ 動物の落とし物		扱ったテーマに関する小レポート作成。	
第11回	アクティブラーニング実践⑦ 構内環境チェック		構内をよく見ておいてください。	
第12回	アクティブラーニング実践⑧ タウンウォッチング		学校周辺の地図をチェックしておいてください。	
第13回	海外の環境教育		配布資料の復習をしてください。	
第14回	様々な環境問題		配布資料の復習をしてください。	
第15回	まとめ		配布資料の復習をしてください。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90％ ミニレポート4回、まとめレポート1回。ミニレポートは第14回の講義に、まとめレポートは成績確定後に返却します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	・野外での活動の際は、節度ある行動をお願いします。 ・天候等により、講義の順番を変更することがあります（各講義の終了時に次回の内容を周知します）。 ・授業内容に関係のない私語は厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	環境社会学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	柴田 祐		単 位	2
授業の目的と概要	環境の破壊と変容の歴史とそれに対する様々な取り組みについて理解を深め、その特徴を説明できるようになることを目的とする。 環境社会学は、社会学の中でも比較的新しい分野である。本授業では、開発や社会の変化などにともなう身近な環境の破壊と変容の歴史を環境社会学の視点から、環境に対する様々な取り組みの具体事例とともに理解し、環境と共生しうるライフスタイルの創造と持続可能な社会のあり方について考察する。			
到達目標	1. 環境問題の本質、原理について説明できる 2. 地域の環境問題の歴史的背景と地球環境問題の時代的背景を説明できる 3. 都市と農村の関係と、それぞれの発展の歴史を説明できる 4. 防災・減災の基本的な概念を説明できる 5. 新たな環境対策のあり方を構想できる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 環境・環境問題・環境社会学について			環境社会学の概念について復習する	
第2回 環境問題の歴史（その1）			縄文時代にまでさかのぼる環境問題について復習する	
第3回 環境問題の歴史（その2）			公害問題と地球環境問題について復習する	
第4回 身近な環境問題について			身近な環境問題について復習する	
第5回 景観とは何か			景観の基本的な概念について復習する	
第6回 歴史的環境の保全と地域再生			歴史的環境の保全の現状について復習する	
第7回 景観破壊について考える			景観形成の現状について復習する	
第8回 農村、集落の現状			農山村の現状について復習する	
第9回 過疎地域のこれまでのこれから			過疎の現状について復習する	
第10回 農山村地域の活性化に向けた動き			農山村地域の活性化に向けた動きについて復習する	
第11回 農山村地域の今後について考える			農山村地域の現状について復習する	
第12回 豪雨災害について			九州北部豪雨災害などの被害状況とその復興プロセスについて復習する	
第13回 地震災害について			熊本地震などの被害状況とその復興プロセスについて復習する	
第14回 防災・減災のこれまでとこれから			防災・減災の基本的な概念を理解し、災害への対応について復習する	
第15回 災害について考える			防災・減災の現状について復習する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70% 最終レポート			
小テスト等	30% 小テストを3回実施します。			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	なし			
教科書	使用しない。原則として毎回プリントを配布し、これをテキストとして授業を進める。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	授業中に適宜、紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	【閉講】環境政策と法律【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	高木 佳世子		単 位	2
授業の目的と概要	この授業の目的は、環境問題の解決における政府の役割を理解することです。また、日本で実施されている環境政策や施行されている環境法を環境問題ごとに理解することです。 「市場の失敗」である環境問題の解決には、政府の介入、すなわち、環境政策・法が不可欠です。この授業では、まず、なぜ環境政策・法が必要なのかを理論的に学びます。次に、さまざまな環境問題について、自然科学と社会科学の両面から発生メカニズムを理解し、また、問題の現状を把握したうえで、日本で実施されている環境政策や施行されている環境法を学びます。必要に応じて、国際的な政策や条約の動向についても説明します。			
到達目標	①環境政策・法が必要な理由を説明することができる。 ②環境問題の発生メカニズムを自然科学と社会科学の両面から説明できる。 ③日本で実施されている環境政策や施行されている環境法を体系的に説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			環境と政策・法律の関連について考える。	
第2回 環境問題と環境政策・法の歴史			興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第3回 環境の性質と環境政策・法の必要性			興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第4回 環境政策の手法			興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第5回 政策の形成過程			興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第6回 日本の環境政策・法の体系			興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第7回 典型7公害に対応するための政策・法律			興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第8回 廃棄物の発生を抑制するための政策・法律			興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第9回 オゾン層を保護するための政策・法律			興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第10回 地球温暖化に対応するための政策・法律			興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第11回 生物多様性を保全するための政策・法律			興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第12回 化学物質による環境汚染を防止するための政策・法律			興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第13回 環境保全と経済発展を両立するための政策・法律			興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第14回 福岡県の環境政策・条例			興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第15回 まとめ			第14回までの授業内容を復習する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％			
レポート	20％			
小テスト等	10％			
成果発表	0％			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席回数が5回を超えた場合は、受験できません。 第3回～第13回の授業では、授業の初めに、前回の授業の理解度を確認する小テストを実施します。 ①授業内容に関係のない私語、②相手以外に聞こえる音量での私語、③授業中のスマートフォン・携帯電話の使用、④授業中の食事、は禁止します。違反を見つけた場合は、受講態度から減点します。			
教科書	なし。配布する資料に基づいて授業を進めます。			
指定図書	なし。			
参考図書	倉阪秀史『環境政策論 第3版』信山社（2015）、大沼あゆみ・亀山康子・新澤秀則・鷺田豊明編『シリーズ 環境政策の新天地 1～8』岩波書店（2016）など、適宜、紹介します。			
オフィスアワー	金曜4限	メールアドレス		

授 業 科 目	環境と企業社会【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	岩崎 慎平		単 位	2
授業の目的と概要	企業はしばしば大量生産・大量消費・大量廃棄（または大量リサイクル）というビジネスシステムを構築して利潤の最大化を追求しています。このシステムは、私たち生活者の意識や行動がそれを受容してきたからこそ成立したといえるでしょう。この授業では、企業社会の中で、生活者として環境と調和した生活を送るための術を、また、独立した個人として持続可能な社会の実現に寄与するための術を身につけます。前半では、企業社会と生活者との結びつきで抱える環境問題をエネルギー、食糧、水、商品、集合行為の観点から学習します。後半では、環境に配慮した行動のメカニズムを学び、自分自身の普段の行動を振り返ります。最後に、人を動かす環境デザインの手法や事例を紹介して、身の回りで起きている環境課題を解決するためのアイデアを発表し合うことにより、持続可能な社会に向けたデザインを学びます。			
到達目標	授業を通して、以下の3つの資質・能力を身につける。 (1) 企業社会が環境に与える影響の現状および分析手法、そして課題解決するための諸手法および理論を具体的に説明することができる。 (2) 環境課題を解決するためのアイデアを身につけることができる。 (3) 持続可能な社会の実現に寄与するための術を列挙することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス		これまでの自分の環境配慮行動について考える。	
第2回	企業社会とエネルギー		授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第3回	食糧と地球環境		授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第4回	水の消費と貿易		授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第5回	廃棄物と3Rの実践		授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第6回	消費と環境情報		授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第7回	社会的ジレンマとしての環境問題		授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第8回	環境教育の推進		授業内容をもとに自分の環境配慮行動を振り返って説明する。	
第9回	環境配慮への態度と行動の不一致		授業内容をもとに自分の環境配慮行動を振り返って説明する。	
第10回	環境配慮行動アプローチ		授業内容をもとに自分の環境配慮行動を振り返って説明する。	
第11回	意思決定行動モデル		授業内容をもとに自分の環境配慮行動を振り返って説明する。	
第12回	ナッジ：感性に訴える行動変容		授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第13回	行動変容のための環境デザイン		授業で興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第14回	環境デザイン演習		人を動かす環境保全活動のテーマと方策を考える。	
第15回	環境デザイン演習の発表		発表の準備をする。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	30% 授業の終わりに理解度を確認するレポートを実施します。			
小テスト等	30% 前回の授業の理解度を確認するレポートを授業冒頭に実施します。			
成果発表	20% 第15回の授業において発表会を開催します。			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席回数が5回を超えた場合は、受験できません。授業の冒頭や終わりに、理解度を確認するレポートや小テストなどを実施します。①授業内容に関係のない私語、②相手以外に聞こえる音量での私語、③授業中のスマートフォン・携帯電話の使用、④授業中の食事、は禁止します。違反を見つけた場合は、受講態度から減点します。			
教科書	なし。配布する資料に基づいて授業を進めます。			
指定図書	なし。			
参考図書	参考文献は授業中に紹介するが、例えば広瀬幸雄（1995）『環境と消費の社会心理学：共益と私益のジレンマ』名古屋大学出版会、中田哲也（2007）『フード・マイレージ：あなたの食が地球を変える』日本評論社など			
オフィスワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	環境と経営【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	篠崎 真美		単 位	2
授業の目的と概要	この授業の目的は、環境報告書を通して、環境共生社会実現のために日本企業・大学が取り組む環境経営について理解することにある。 “なぜ環境報告書が経営活動に必要なのか”。日本企業が過去に引き起した公害・環境問題の変遷と現在の環境経営の事例を学ぶことで、企業等が取り組む環境経営について理解する。さらに、企業の社会的責任（CSR）・ステークホルダー（利害関係者）による環境コミュニケーション等から、経営活動が地球の持続可能社会の実現にいかに関与する要素かを学ぶことにある。 環境報告書とは、環境保全に関する方針・目標、環境マネジメントに関する状況（環境マネジメントシステム、法規制遵守、環境保全技術開発等）と環境負荷の低減に向けた取組の状況（CO2排出量の削減、廃棄物の排出抑制等）を定期的に公表したものである。			
到達目標	① 環境経営の重要性を経営・ビジネスの視点から読み解くことができる ② 環境報告書から企業の環境経営を評価することができる ③ 業種別の環境経営の事例を比較し、環境経営の多様性について説明することができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			環境と企業経営の関連性について考える	
第2回 企業経営と環境・公害問題の変遷			予習：関連資料を事前に読んでくる	
第3回 環境報告書			復習：環境報告書の構成を説明することができる	
第4回 経営戦略と環境経営			復習：経営戦略と環境経営の関連性について説明ができる	
第5回 環境マネジメントシステム（ISO14001）			復習：環境マネジメントシステムの概要の説明ができる	
第6回 環境マーケティング （エコプロダクツ、エコデザイン、ライフサイクルアセスメント、環境ラベル）			復習：環境マーケティングの概要の説明ができること	
第7回 環境会計（環境コストの範囲・環境会計を使った企業評価）			復習：環境会計の概要を説明できること	
第8回 環境政策（PRTR：Pollutant Release and Transfer Register）			復習：環境政策の概要を説明できること	
第9回 環境ビジネス			復習：環境ビジネスの概要を説明できること	
第10回 環境報告書の演習①（大学の環境報告書）			予習：環境報告書（大学）を各自ひとつ選び、PP作成・発表準備をしてくる	
第11回 環境報告書の演習・発表②（企業の環境報告書）			予習：環境報告書（企業）を各自ひとつ選び、PP作成・発表準備をしてくる	
第12回 環境報告書の演習③（企業と大学の違い）			予習：企業と大学の報告書の違いと特徴についてPPに纏めてくる	
第13回 環境報告書の演習④（筑紫女学園大学の環境報告書の作成）			レポート作成	
第14回 環境報告書の演習⑤（筑紫女学園大学の環境報告書の作成）			レポート作成	
第15回 環境報告書の演習⑥（筑紫女学園大学の環境報告書概要PPの作成）			レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	35％（期末レポート）＊評価は、筑女ネットコメント及びメールにて行います			
小テスト等	なし			
成果発表	35％（発表成果）			
受講態度他	30％（授業の積極的参加：討議への貢献度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・早退厳禁（遅刻・早退3回を1回の欠席とみなす）			
教科書	プリントを配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	水曜日 5 講目 ＊事前にメールにて訪問日時を相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	環境と経済【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	キーリーアレクサンダー竜太		単 位	2
授業の目的と概要	この授業の目的は、環境問題と経済活動の関連を理解することです。また、さまざまな環境政策の背景にある経済学的思考を理解することです。この授業では、環境経済学の基礎を学びながら、我々の経済活動の中で、環境の保全を行うためにどのような環境政策が実施されているか、そして消費者、企業、政府それぞれの役割を理論的に学びます。講義の中では、環境経済学の主要なテーマである「環境の価値の内部化」について特にフォーカスして学びます。環境の価値の内部化とは、環境の価値を金銭的に評価することで、"環境"を経済システムの中に組み込もうとする試みです。現実の社会では、排出権取引や再生可能エネルギーの固定価格買取制度などの形で実行されています。講義の最後には、フィールド実習として、糸島市にある小水力発電所の見学を行い、環境政策が実際に社会にどのような影響を与えているかについての理解を深めます。			
到達目標	①経済学の中で"環境"がどのように位置づけられてきたかを説明することができる ②実施されている環境政策を理解し、その背景にある経済学的思考を説明することができる ③“環境”の価値を評価し、経済システムに組み込むための方法を理解する			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス		環境と経済の関連について考える。	
第2回	経済活動と環境問題の歴史		興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第3回	環境の経済学的な性質		教科書の該当箇所を読んで、予習をする。	
第4回	環境問題の経済学的な発生メカニズム		教科書の該当箇所を読んで、予習をする。	
第5回	環境政策の直接規制的手法		教科書の該当箇所を読んで、予習をする。	
第6回	環境政策の経済的手法（税金）		教科書の該当箇所を読んで、予習をする。	
第7回	環境政策の経済的手法（補助金、デポジット）		教科書の該当箇所を読んで、予習をする。	
第8回	環境政策の経済的手法（排出権取引）		教科書の該当箇所を読んで、予習をする。	
第9回	環境政策の経済的手法（排出権取引）		教科書の該当箇所を読んで、予習をする。	
第10回	環境の価値を測定する方法（顕示選好法）		教科書の該当箇所を読んで、予習をする。	
第11回	環境の価値を測定する方法（表明選好法）		教科書の該当箇所を読んで、予習をする。	
第12回	フィールド実習（小水力発電所の見学）		興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第13回	フィールド実習（小水力発電所の見学）		興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第14回	フィールド実習（小水力発電所の見学）		興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第15回	フィールド実習（小水力発電所の見学）とまとめ		第14回までの授業内容を復習する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	40％			
小テスト等	30％			
成果発表	0％			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	2回目以降の集中講義の初めに小テストを実施します。糸島市でのフィールド実習に係る交通費は自費となります。①授業内容に関係のない私語、②相手以外に聞こえる音量での私語、③授業中のスマートフォン・携帯電話の使用、④授業中の 食事、は禁止します。違反を見つけた場合は、受講態度から減点します。			
教科書	栗山浩一・馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ 第3版』有斐閣（2012）			
指定図書	なし。			
参考図書	バリー・C. フィールド（著）「環境経済学入門」日本評論社（2002）、植田和弘著『現在経済学入門 環境経済学』岩波書店（1996）など、適宜、紹介します。			
オフィスアワー	本授業は集中講義のため、相談がある場合には事前に訪問日程を相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	環境と健康【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	栗木 明裕		単 位	2
授業の目的 と概要	<目的>「健康」という日々の生活の中で最も大切なことを社会および環境との関わりの中で理解する。さらに自分自身の生活を振り返り、より快適なライフスタイルを創造・実施できる能力を身につける。 <概要>社会環境や政治経済の変化、テクノロジーの進歩に伴い、我々の生活も大きな変容を遂げてきた。この授業では、身近な生活環境の中の自分自身を俯瞰し、自分自身の健康観を養うことを目的とする。また、実際に身体を動かしたり、太宰府の生活環境を調査したりすることで、理解を深める。			
到達目標	1. 人や生活を生態系に位置づけて理解することができる。 2. 社会や環境と健康との関係を学び、それらの変化が健康に与える影響を理解することができる。 3. 健康や美容に関する様々な情報を自分自身で正しく判断することができる。 4. 人への理解を深め、より良いライフスタイルを創造し、能動的に生活できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		授業に向けた事前調査（予習）	
第2回	健康情報を読み解く（１）・・・保健統計情報		指定された統計情報を収集する（予習）	
第3回	健康情報を読み解く（２）・・・身近な保険統計情報		指定された統計情報を収集する（予習）	
第4回	健康情報を読み解く（３）・・・身近な健康情報		メディアで紹介されている健康情報を収集する（予習）	
第5回	健康に関する情報収集・・・情報検索・論文検索		健康に関連した興味のある分野をまとめる（予習）	
第6回	生活環境と健康（１）・・・食		食事調査（予習）	
第7回	生活環境と健康（２）・・・働く		労働問題について事例を調べる（予習）	
第8回	生活環境と健康（３）・・・睡眠と休養		睡眠調査（予習）	
第9回	健康づくりを考える（１）・・・太宰府探訪		太宰府探訪ルートを調べる（予習）	
第10回	自分自身を知る（１）・・・身体のしくみ		内臓の機能について調べる（予習）	
第11回	自分自身を知る（２）・・・形態、姿勢		良い姿勢について調べる（予習）	
第12回	自分自身を知る（３）・・・心		身の周りのストレスを調べる（予習）	
第13回	健康づくりを考える（２）・・・ホリスティックな運動プログラムを考える		快適な身体環境のための運動プログラムを考える（予習）	
第14回	ライフスタイルの提言（１）・・・発表準備		テーマを決定し、プロポーサルを作成する（予習）	
第15回	ライフスタイルの提言（２）・・・発表		発表準備（予習）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 授業中に1回課す			
小テスト等	30％ 授業毎に確認課題を課す			
成果発表	30％ プレゼンテーションを実施する			
受講態度他	10％ 積極的な授業態度、発言私語など受講態度が悪く、授業の進行や他の学生の妨げとなる場合は減点もあり得る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	環境と健康は切り離せない関係にあり、みなさんの非常に身近にあるものです。そのため、みなさんの興味を大切にして授業を進めていきますので、みなさんも自分の頭で考えて自分の言葉でたくさん語るように心がけてください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	水曜日13:10～14：40（要事前連絡）		メールアドレス	

授 業 科 目	環境と商品【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	國崎 歩		単 位	2
授業の目的と概要	この授業の目的は、日常生活において環境に配慮した消費を実際に行うことです。環境問題は、世界共通の問題として認識され、消費者にも環境に配慮した生活様式や価値観を身につけることが求められています。この授業では、消費者の立場から、環境と調和した生活を送るための術を身につけます。まず、消費者行動論に基づいて消費者行動のメカニズムを学び、自分自身の消費行動を振り返ります。次に、環境問題の歴史とともに、グリーン・コンシューマリズム（環境負荷が小さい商品を優先的に購入する消費者運動）について学びます。その後、商品の環境負荷を測定するライフ・サイクル・アセスメントや商品の環境負荷を表す環境ラベルについて学び、環境に配慮した商品への理解を深めます。			
到達目標	①消費者行動のメカニズムを説明することができる ②環境問題の現状と環境保護の必要性について説明することができる ③グリーン・コンシューマリズム、ライフ・サイクル・アセスメント、環境ラベル、グリーン・ウォッシングについて説明することができる ④商品の環境負荷を比較し、環境負荷の小さい商品を選択することができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス		これまでの自分の消費行動と、その環境負荷について考える。	
第2回	消費者の行動の分類		授業内容をもとに自分の消費行動を振り返って説明する。	
第3回	消費者の行動に影響を与える要因		授業内容をもとに自分の消費行動を振り返って説明する。	
第4回	消費者行動の研究の歴史		授業内容をもとに自分の消費行動を振り返って説明する。	
第5回	消費者の意思決定のプロセス		授業内容をもとに自分の消費行動を振り返って説明する。	
第6回	消費者の情報処理のプロセス		授業内容をもとに自分の消費行動を振り返って説明する。	
第7回	環境問題とグリーン・コンシューマリズムの歴史		興味を持った点について参考書を読み、理解を深める。	
第8回	ライフ・サイクル・アセスメントと環境ラベル		身のまわりにある環境ラベルについて調べる。	
第9回	環境に配慮した商品（衣服）		自分が着ている服の環境負荷について考える。	
第10回	環境に配慮した商品（食品）		自分が食べている物の環境負荷について考える。	
第11回	環境に配慮した商品（住宅）		自分が住んでいる家の環境負荷について考える。	
第12回	グリーン・ウォッシング		身のまわりに紛らわしい環境表示がないか、注意する。	
第13回	身のまわりにある環境に配慮した商品の調査（調査編）		身のまわりにある環境に配慮した商品について調べる。	
第14回	身のまわりにある環境に配慮した商品の調査（発表編）		発表の準備をする。	
第15回	まとめ		第14回までの授業内容を復習する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	45％			
レポート	10％			
小テスト等	10％			
成果発表	10％			
受講態度他	25％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席回数が5回を超えた場合は、受験できません。 2回ほど授業の理解度を確認する小テストを実施することがあります。（小テストの実施回、範囲については事前に連絡します。） ①授業内容に関係のない私語、②相手以外に聞こえる音量での私語、③授業中のスマートフォン・携帯電話の使用、④授業中の食事、は禁止します。違反を見つけた場合は、受講態度から減点します。			
教科書	なし。配布資料と黒板での板書に基づいて授業を進めていきます。			
指定図書	なし。			
参考図書	池尾恭一・青木幸弘・南知恵子・井上哲浩著『マーケティング』有斐閣（2010）、和田充夫・新倉貴士編『マーケティング・リバージョン：理論と実践のフロンティア』有斐閣（2004）など、適宜、紹介します。			
オフィスワーク	授業の前夜		メールアドレス	

授 業 科 目	環境と文明【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	速水 良晃		単 位	2
授業の目的と概要	約200万年前にアフリカに出現したヒト属の中で現生人類の祖先は、100万年前頃から世界各地へ拡がっていき、狩猟採集生活の中で野生植物の利用技術などを高めていくことにより農業を発達させ、食糧確保と同時に集団としての定住社会が発達していった。食物連鎖の頂点に立つ人類は、食糧問題を農業生産によって回避し、更なる人口増加を生み出し、それらの結果として人口の集中した地域に高度な文明が発生した。約1万年前の「農業の発明」や約200年前からの「工業化の加速」が、自然生態系の改変や破壊を引き起こしていることを学び、今後の人類の進むべき道を探る。			
到達目標	① 人類史の変遷における文明の興亡と地球環境の関係を、具体的に説明することができる。 ② これまでの主な文明の興亡の背景としての自然環境や発生した環境問題を説明することができる。 ③ 現代文明と環境問題の関係を、科学的に説明することができる。 ④ 現代文明における環境問題の根源を科学的に分析し、何らかの改善策を検討できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 この授業は、上記 DP 中の特に (3)-②-3 の達成に関わる科目である。同じ分類の1年次科目である「エコシステム論」は、この科目の基礎となるので受講しておくことが望ましい。また3年次の「動物と社会」を受講すると相互の理解が深まります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	イースター島の教訓 (緑の世界史)		復習 (緑の世界史、上) pp. 3-18、予習 (歴史は実験・・・) pp. 7-126	
第 2 回	「歴史は実験できるのか」概要 (1)		今回の範囲 (テキスト pp. 7-126) の復習と次回のテキスト予習	
第 3 回	「歴史は実験できるのか」概要 (2)		今回の範囲 (テキスト pp. 127-272) の復習と次回のテキスト予習	
第 4 回	プロローグ、第1章ポリネシアの島々を文化実験する (1)		今回の範囲 (テキスト pp. 7-24) の復習と次回のテキスト予習	
第 5 回	第1章ポリネシアの島々を文化実験する (2)		今回の範囲 (テキスト pp. 24-36) の復習と次回のテキスト予習	
第 6 回	第1章ポリネシアの島々を文化実験する (3)		今回の範囲 (テキスト pp. 36-51) の復習と次回のテキスト予習	
第 7 回	第1章ポリネシアの島々を文化実験する (4)、第2章アメリカ西部はなぜ移民が増えたのか (1)		今回の範囲 (テキスト pp. 51-67) の復習と次回のテキスト予習	
第 8 回	第2章アメリカ西部はなぜ移民が増えたのか (2)		今回の範囲 (テキスト pp. 68-81) の復習と次回のテキスト予習	
第 9 回	第2章アメリカ西部はなぜ移民が増えたのか (3)		今回の範囲 (テキスト pp. 81-96) の復習と次回のテキスト予習	
第10回	第3章銀行制度はいかにして成立したか (1)		今回の範囲 (テキスト pp. 97-111) の復習と次回のテキスト予習	
第11回	第3章銀行制度はいかにして成立したか (2)		今回の範囲 (テキスト pp. 111-126) の復習と次回のテキスト予習	
第12回	第4章ひとつの島はなぜ豊かな国と貧しい国にわかれたか		今回の範囲 (テキスト pp. 127-144) の復習と次回のテキスト予習	
第13回	第5章奴隷貿易はアフリカにどのような影響を与えたか (1)		今回の範囲 (テキスト pp. 145-160) の復習と次回のテキスト予習	
第14回	第5章奴隷貿易はアフリカにどのような影響を与えたか (2)		今回の範囲 (テキスト pp. 160-174) の復習と次回のテキスト予習	
第15回	第5章奴隷貿易はアフリカにどのような影響を与えたか (3)、総合的な質問、まとめ、授業評価		今回の範囲 (テキスト pp. 175-183) の復習	
成 績 評 価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60 % 毎回の学習記録：予習範囲の疑問点 (文頭にページ、行を明記) の内容 (疑問点について、どこまでを理解していて、どこからが理解できないか、受講上の留意点に合致していること) は、簡条書きにして、授業の3日前の夜までに、メールで送る。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40 % 授業内容の理解を深める質問 (内容と回数)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	分からない所を質問すれば、その内容に応じて加点するが、教科書に回答がそのまま書いてあるような質問や新しく出てきた言葉などの自分で調べれば直ぐ分かるようなことについての質問やギネスブック的な質問は対象としません。初歩的な内容であっても、授業内容の理解を深め、他の受講者の理解度も高まるような質問を歓迎します。			
教科書	J. ダイヤモンド、J. A. ロビンソン 編著、小坂恵理 訳、「歴史は実験できるのか」、慶応義塾大学出版会、クライブ ポンティング 著、石 弘之 (京都大学環境史研究会) 訳、「緑の世界史 (上・下) 」、朝日選書 (絶版、ファイル配			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業終了後、またはメールで相談		メールアドレス	

授 業 科 目	環境と倫理【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	野見山 待子		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業のテーマは、環境についての倫理です。つまり、今日の重要な社会問題である自然環境保護の問題を、思想のレベルから考察し、21世紀における自然と人間の関わり合いはいかにあるべきかについて考えることを目的とします。 環境倫理（自然保護思想）と一口に言っても、多様な考え方や立場があります。この授業では、それら様々な考え方を系統立てて理解できるようになることを目指します。さらに、それを土台に、自然と人間の関係のあるべきあり方について自ら考えることができるようになることを目的とします。			
到達目標	1 様々な自然保護思想について知り、かつ理解できるようになる。 2 環境問題を身近な問題として、当事者意識をもって考えることができるようになる。 2 これからあるべき自然と人間の関係にあり方について、自ら考える姿勢を身につけることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 環境倫理学について			環境倫理とは何か、について配布プリントを復習する	
第2回 フロンティア倫理			従来の環境政策について復習する	
第3回 フロンティア倫理から宇宙船倫理へ			これからあるべき環境政策について復習する	
第4回 自然の保全か？保存か？			自然保護の二つのあり方について復習する	
第5回 将来世代の人々の利益保護としての自然保護			世代間倫理について復習する	
第6回 自然に対する責任はあるのか？			功利主義の立場からの責務について復習する	
第7回 土地倫理について			生命共同体の倫理について復習する	
第8回 生態系主義について			エコシステムについて復習する	
第9回 自然物の権利という考え方			自然物の原告適格についての復習	
第10回 動物解放論			動物の道徳的資格についての復習	
第11回 生物多様性の保護の重要性について			現在の生物多様性の危機的状況についての復習	
第12回 自然保護は生命共同体全体の幸福を考慮すべきか？			全体論的環境倫理学についての復習	
第13回 ディープ・エコロジーについて			関係論的な世界観についての復習	
第14回 使い捨て文化の再考			プラスチック・ゴミや化学物質の問題についての復習	
第15回 非西洋文明の自然観			アニミズムや自然崇拝についての復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％（授業内容を理解した上で、どれだけ自分で考えようとしているかを評価基準とします。）			
レポート	30％(授業内容を踏まえたショート・ライティングを毎授業で実施)			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	20％（授業中のディスカッションへの貢献度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各回の講義は、前回もしくは以前の講義の内容を前提として話を進めるケースが多いので、各自でその都度の内容を復習しておくこと。 ディスカッションには積極的に参加すること。			
教科書	プリントを配布			
指定図書	なし			
参考図書	鬼頭秀一『自然保護思想を問いなおす』 ちくま新書（1996年）			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	環境保護論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	佐々木 浩		単 位	2
授業の目的 と概要	人間は、氷河期以降、人口を増加させながら自然に大きな影響を与えて来ました。食料として自然を利用し、自然を改変する事によって生産活動を行っており、自然を持続的に利用できるようにしないと、人間に将来はありません。日本では足尾銅山の鉍毒事件から始まり、水俣病などの4大公害病などを起こして来ました。最近では、国境を越えた問題として地球温暖化、オゾン層の破壊などがあります。様々な環境問題に、私たちがどのように対応してきたかを振り返り、様々な立場からの意見を学ぶことによって、各自の考えをつくっていく基礎を作ることをこの講義は目的としています。			
到達目標	・人間とその環境との関係を考える様々な思想を説明できるようになる。 ・自分がどのように環境問題を考えるかを説明できるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 講義概論			配布プリントを復習をして下さい。	
第2回 生物の絶滅 カワウソ			配布プリントを復習をして下さい。	
第3回 環境保護の論理1 大地の倫理、動物の権利			配布プリントを復習をして下さい。	
第4回 環境保護の論理2 環境倫理、動物の福祉			配布プリントを復習をして下さい。	
第5回 水俣病 概説			配布プリントを復習をして下さい。	
第6回 水俣病 討論 見学検討			見学の予習をしてください	
第7回 フィールドワーク 水俣見学 水俣病資料館			現場で情報収集をして下さい。	
第8回 フィールドワーク 水俣見学 相思社			現場で情報収集をして下さい。	
第9回 フィールドワーク 水俣見学 ほっとはうす			現場で情報収集をして下さい。	
第10回 水俣見学まとめ討論			レポート1	
第11回 原子力発電 概説			ネットや本で情報収集をして下さい。	
第12回 原子力発電 討論			レポート2	
第13回 捕鯨 概説			ネットや本で情報収集をして下さい。	
第14回 捕鯨 討論			レポート作成3	
第15回 まとめ			これまでの資料を復習して下さい。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90％ レポート3つ			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	個人的な理由での欠席は欠席として扱います。この講義では、関連する本を何冊か読むことになります。水俣見学は、11月17日（土）（学園のバスの都合によっては18日）に実施します。見学に参加できる人のみ、この講義を受講してください。			
教科書	なし			
指定図書	小田康徳 2008 『公害・環境問題史を学ぶ人のために』 世界思想社 高橋広次 2011 『環境倫理学入門』 勁草書房			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜日 2講時		メールアドレス	

授 業 科 目	環境マネジメント【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	篠崎 真美		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業の目的は、環境経営の基本的フレームワークである“環境マネジメントシステム（エコアクション21や国際標準環境規格であるISO14001）により、企業がどのようなライフサイクル（エコ商品の開発、生産管理、取引先管理、製造など）を通じ環境問題を管理しているかを理解し、身近な環境プロジェクトを立案する実践力を養うことである。			
到達目標	①環境マネジメントシステムISO14001の実施計画から環境影響評価と環境側面抽出ができるようになる。 ②環境プロジェクトの立案（課題抽出・解決方法の提案）ができるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス		復習：ライフサイクルについて考える	
第2回	環境マネジメントシステムの概要		復習：環境マネジメントシステムの概要を纏める	
第3回	地球環境問題（エネルギー問題、低炭素社会、循環型社会、自然共生、公害問題など）		復習：パリ協定の流れ・内容を把握する	
第4回	環境報告書		予習：興味ある企業の環境報告書を調べ発表資料を作成する	
第5回	環境報告書発表		予習：発表資料の指摘ポイントを肉付けする	
第6回	環境報告書発表		予習：事前に指定資料を読むこと	
第7回	環境報告書と企業戦略		予習：社長メッセージや経営戦略と環境報告書を紐解く	
第8回	環境ケーススタディー（ケース1）：学外授業 - キュービ鳥栖工場見学・インタビュー		予習：事前に環境パフォーマンスに関する質問項目を考えてくる	
第9回	環境影響評価（LCA）		予習：ケース1で発表した企業のLCA状況を調べる	
第10回	環境法規制		復習：日本の環境法規の流れを把握し、興味のある法規について調べてくる	
第11回	環境プロジェクト演習①：省エネルギーエコ活動プロジェクト（プロジェクト企画）		筑紫女学園大学の環境パフォーマンス調査	
第12回	環境プロジェクト演習②（可視化による意識改革プロジェクト）		グループワークの課外作業	
第13回	環境プロジェクト演習③（節減活動の実践）		グループワークの課外作業	
第14回	環境プロジェクト演習④（省エネパトロール）		グループワークの課外作業	
第15回	環境プロジェクト演習⑤（成果発表）		グループワークの課外作業	
成 績 評 価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40%（期末レポート）＊評価は、筑女ネットコメント及びメールにて行います			
小テスト等	なし			
成果発表	30%（環境報告書分析の発表成果）			
受講態度他	30%（授業の積極的参加：討議や演習への貢献度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・早退厳禁（遅刻・早退3回を1回の欠席とみなす）			
教科書	プリントを配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスワー	水曜日5講目 ＊通常はゼミ補習をしていますので、必ず事前にメ	メールアドレス		

授 業 科 目	環境問題の科学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	速水 良晃		単 位	2
授業の目的と概要	僅かこの100～150年で人類の生産活動が著しく発達し、地球全土にわたる物質循環のバランスが壊れて、大きな環境破壊が起っていることはよく知られているが、その中で生じている様々な化学変化については、複雑すぎて一般のニュースで採りあげられることはない。 この科目では、現在進行している色々な地球環境問題の中から6つのトピックを選び、それらの問題の詳細な背景を学ぶことにより、どのような解決法が可能で相応しいかを議論していく。			
到達目標	① これまでに発生した主な環境問題について、物質的な観点から説明することができる。 ② 自分の生活と環境問題の関係を、科学的に説明することができる。 ③ 自分の身の回りの環境問題の科学的な側面を分析し、何らかの改善策を検討できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (4) -①-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 この授業は、上記DPの中の特に (4)-① の達成に関わる科目である。同じ分類である「環境と倫理」や「自然環境演習」などを受講すると相互の理解が深まります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	ガイダンス：講義のねらい、（地球温暖化）化石エネルギーの消費と温暖化		今回の範囲（テキスト pp. 1-11、筑女ネット掲載資料）復習と次回予習	
第 2 回	（地球温暖化）温暖化のメカニズムと予測、農耕文明の起こり		今回の範囲（テキスト pp. 11-21、筑女ネット掲載資料）復習と次回予習	
第 3 回	（地球温暖化）温暖化防止の世界的な取り組みの流れ、温暖化の防止対策		今回の範囲（テキスト pp. 21-31、筑女ネット掲載資料）復習と次回予習	
第 4 回	（地球温暖化）行方不明の二酸化炭素、厚い氷、エルニーニョ、文明論、炭素税		今回の範囲（テキスト pp. 31-42、筑女ネット掲載資料）復習と次回予習	
第 5 回	（オゾン層の破壊）オゾン層の働きと生物の多様性、オゾン層破壊のメカニズム		今回の範囲（テキスト pp. 43-51、筑女ネット掲載資料）復習と次回予習	
第 6 回	（オゾン層の破壊）オゾン層保護をめぐる動きとモントリオール議定書、代替フロンとその問題点		今回の範囲（テキスト pp. 51-61、筑女ネット掲載資料）復習と次回予習	
第 7 回	（酸性雨と森林）酸性雨の定義とその被害、酸性雨が生態系に与える影響		今回の範囲（テキスト pp. 62-71、筑女ネット掲載資料）復習と次回予習	
第 8 回	（酸性雨と森林）森林を考える、針広混交林、森林と水、国有林はだれのものか		今回の範囲（テキスト pp. 72-79、筑女ネット掲載資料）復習と次回予習	
第 9 回	（人口増加と食糧問題）地球は人類を養えるか、人口予測と食糧問題、水不足、砂漠化、中国の食糧問題		今回の範囲（テキスト pp. 80-93、筑女ネット掲載資料）復習と次回予習	
第10 回	（人口増加と食糧問題）農業の見直し、アンモニア合成、施肥基準、遺伝子組換え、地球環境の破壊と経済		今回の範囲（テキスト pp. 93-105、筑女ネット掲載資料）復習と次回予習	
第11 回	（原子力発電）原子力発電の歴史、日本の原子力発電		今回の範囲（テキスト pp. 106-112、筑女ネット掲載資料）復習と次回予習	
第12 回	（原子力発電）核燃料サイクルと高速増殖炉およびプルサーマル		今回の範囲（テキスト pp. 112-119、筑女ネット掲載資料）復習と次回予習	
第13 回	（原子力発電）「もんじゅ」の事故、核燃料再処理、高レベル核廃棄物		今回の範囲（テキスト pp. 119-128、筑女ネット掲載資料）復習と次回予習	
第14 回	（原子力発電）臨界事故、廃炉、福島第一原発事故、世界の原子力発電の動向		今回の範囲（テキスト pp. 128-135、筑女ネット掲載資料）復習と次回予習	
第15 回	（ダイオキシンと内分泌かく乱化学物質）ダイオキシン、ごみ焼却、内分泌かく乱化学物質、まとめ、授業評価		今回の範囲（テキスト pp. 136-149、筑女ネット掲載資料）復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 予習の疑問点：毎回3つ以上の疑問点（ページ、行）の内容（どこまでが理解できていて、どこからが理解できないか、受講上の留意点に合致していること）を箇条書きでまとめ、授業の3日前の夜までに、メールで送る。復習についても、有れば送る			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60％ 授業内容の理解を深める質問（内容と回数）＆最終回の授業後にノート提出			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	分からない所を質問すれば、その内容に応じて加点するが、教科書に回答がそのまま書いてあるような質問や新しく出てきた言葉などの自分で調べれば直ぐ分かるようなことについての質問やギネスブック的な質問は対象としません。初歩的な内容であっても、授業内容の理解を深め、他の受講者の理解度も高まるような質問が望ましい。			
教科書	中田・笠嶋 共著、「新版 環境の科学」、三共出版			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業終了後、またはメールで相談	メールアドレス		

授 業 科 目	観光学概論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	田村 馨		単 位	2
授業の目的と概要	本講義で対象とする観光は、19世紀の英国で生まれビジネス、産業として成長してきた現代の観光です。遠方に旅することを観光と呼ぶなら遙か昔からありました。たとえば四国のお遍路さんの起源は1000年以上も前です。巡礼的な旅なら世界中にあります。現代の観光と古（いにしえ）の旅にはどのような共通点があるのかなのか。そのような問いかけから本講義は始まります。また、現代の観光といっても国や時代によって異なり、同じではありません。本講義では歴史、地域、文化、経済発展、政策など多面的な観点から現代の観光を論じ、観光＝旅といった単純な理解では収まらない観光の豊饒さを学ぶ場を提供します。			
到達目標	・ 古の観光、近代の観光、現代の観光を時間軸に即して違いや共通点を理解することができる。 ・ 観光が地域、文化、経済発展、政策の在り方から影響を強く受けることが理解することができる。 ・ 観光ビジネスや観光産業が21世紀において国や地域のリーディングセクターであることを他者に説明することができる。 ・ 観光とデジタル革命の関係について問題提起ができ自分なりの展望を描くことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス、受講生の観光に対するイメージを聞く		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第2回	観光という言葉の起源に関する諸説		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第3回	古（いにしえ）の観光を探索する		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第4回	近代の観光を振り返る		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第5回	現代の観光の起源と発展メカニズム－1		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第6回	現代の観光の起源と発展メカニズム－2		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第7回	国、文化によって異なる観光の諸相－1		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第8回	国、文化によって異なる観光の諸相－2		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第9回	日本における観光の位置づけの変遷－1		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第10回	日本における観光の位置づけの変遷－2		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第11回	輸出産業・移出産業としての観光		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第12回	地域活性化と観光		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第13回	ライフスタイルと観光		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第14回	デジタル革命が観光の在り方を変える		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第15回	観光の未来を展望する		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施します（70％）			
レポート	中間点で一度レポートを課します（30％）			
小テスト等	実施しません。			
成果発表	実施しません。			
受講態度他	講義中積極的なレスポンスをしてくれる受講生は上限20点で評価します。本評価点を加えると総評価点が100点をこえる場合もありますが、総評価点の上限は100点とします。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①5分以上の遅刻は原則しないように努力してください、②講義中の私語は他の受講生の迷惑になるので慎んでください、③ネット上の記事や動画を講義では多用しますし、予習・復習の教材として紹介します。ネット上のコンテンツから学ぶことが本講義では求められます、④シラバスの内容と順番は講義の進捗状況、受講生の関心、理解度に照らして変更する場合があります。			
教科書	使用しません			
指定図書	ありません			
参考図書	講義中に紹介します。また、本講義のために立ち上げるFBページにおいても紹介します。			
オフィスワーク	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	観光経営論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	田村 馨		単 位	2
授業の目的と概要	観光には国や地域を経済的、文化的に豊かにすることが期待されています。この期待度は21世紀になり、ますます高まっています。なぜなら将来的に、かつ世界的に成長するセクターだと観光は位置づけられるからです。ですから観光には「持続的な成長」が要求されます。「持続的な成長」を約束するのが経営です。本講義では観光を材料にサービス・マーケティング、サービス・マネジメントの基本的な考え方、理論を学びます。将来的に経済のサービス化がますます進むことが予見されています。サービス・マーケティング、サービス・マネジメントのエッセンスを学ぶことで未来の仕事やビジネスの在り方が見えてくるでしょう。			
到達目標	・観光にとって経営が不可欠な要件であることが理解できる。 ・サービス・マーケティング、サービス・マネジメントの基本的なフレームワークをモノが主体のビジネスとの対比で説明することができる。 ・観光を材料に、経営的な知識・センスが求められていることを、社会経済の変化との関係で解説することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	観光はなぜ経営されないといけないのか		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第2回	モノが主体のビジネスとサービスビジネスの違いー1		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第3回	モノが主体のビジネスとサービスビジネスの違いー2		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第4回	サービス・マーケティングとモノが主体のビジネス・マーケティングの違い		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第5回	サービス・マネジメントとモノが主体のビジネス・マネジメントの違い		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第6回	ケーススタディ：経営を要件としない観光		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第7回	ケーススタディ：黒川温泉の奇跡		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第8回	ケーススタディ：旅館の再生		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第9回	ケーススタディ：進化する野球ビジネス		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第10回	ケーススタディ：生まれ変わったニセコ		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第11回	観光の多様化と経営		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第12回	観光のグローバル化と経営		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第13回	観光のデジタル化と経営		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第14回	観光をめぐる競争と経営		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
第15回	観光経営の未来		講義中に紹介する記事等を読み動画を視聴する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施します（70％）			
レポート	中間点で一度レポートを課します（30％）			
小テスト等	実施しません。			
成果発表	実施しません。			
受講態度他	講義中積極的なレスポンスをしてくれる受講生は上限20点で評価します。本評価点を加えると総評価点が100点をこえる場合もありますが、総評価点の上限は100点とします。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①5分以上の遅刻は原則しないように努力してください、②講義中の私語は他の受講生の迷惑になるので慎んでください、③ネット上の記事や動画を講義では多用しますし、予習・復習の教材として紹介します。ネット上のコンテンツから学ぶことが本講義では求められます、④シラバスの内容と順番は講義の進捗状況、受講生の関心、理解度に照らして変更する場合があります。			
教科書	使用しません			
指定図書	ありません			
参考図書	講義中に紹介します。また、本講義のために立ち上げるFBページにおいても紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	観光産業論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大江 英夫		単 位	2
授業の目的と概要	観光産業は、旅行業、宿泊業、航空業、鉄道・バス業、テーマパークなど、幅広い業界・企業から創生され、旅行者へ安全で快適なサービスを提供しています。 本講義では、こうした業界・企業のサービスの仕組みの理解と如何に集客へ向けた効率的な経営（マーケティングやマネジメント）を 企業が如何に取り組んでいるかを実践しているかを知り、理論を学びます。			
到達目標	1．観光産業・観光事業の基本的な仕組みや特徴を理解できる。 2．具体的な事例を通じて、効果的な事業展開を行う企業や自治体の観光事業を知る。 3．成功事例の背景にある理論について理解し、自分の言葉で説明が出来る。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 「観光産業のマネジメントの特性」・ディズニーランドの集客力の秘密 ＊観光事業のマネジメント特性＊観光産業と観光事業			テキストを購入し、第一章を読んでおくことが望ましい。	
第2回 「観光事業のイノベーション」＊旅行業と宿泊産業の仕組み ・楽天トラベルによるオンライン販売			第2章を読んでおくこと	
第3回 「観光事業のグローバル経営」＊旅行会社を取り巻く環境 ・HISのグローバル経営＊旅行会社のグローバル経営			第3章を読んでおくこと	
第4回 「観光のマーケティング・マネジメント」 ・下関コンベンション協会のマーケティング行動＊ディステーション・マーケティング			第4章を読んでおくこと	
第5回 「観光とWEBビジネス」＊エキスペディアの成長とマーケティング			第5章を読んでおくこと	
第6回 「観光事業の基幹産業 ①旅行業」 ・JTBのMICE事業におけるソリューション（仮題解決型営業）			第6章を読んでおくこと	
第7回 「観光産業の基幹産業 ②宿泊業」 ＊宿泊業の特徴と課題・星野リゾートのリゾート経営・星野リゾートにおける収益性と生産性の			第7章を読んでおくこと	
第8回 「観光産業の基幹産業 ③航空輸送業」＊航空輸送業の特徴 ・ANAのレベニュー・マネジメントを経営戦略＊航空産業の製品特性と運賃設定			第8章を読んでおくこと	
第9回 「観光産業の基幹産業 ④鉄道事業」＊地域別路線別に見た鉄道ビジネス ＊地方圏での観光産業の取り込み（JR九州のD＆S列車）・「ななつ星 in 九州」の戦略			第9章を読んでおくこと	
第10回 「観光産業の基幹産業 ⑤テーマパーク」＊テーマパークの事業特性 ・ハウステンボスの再生＊顧客経営価値			第10章を読んでおくこと	
第11回 「グローバル化時代の地域観光インフラ①空港の経営」＊日本における地域インフラとしての空港の役割と空港経営の実態・韓国空港公社＊選択と集中によるマネジメント経営			第11章を読んでおくこと	
第12回 「グローバル化時代の地域観光インフラ②IR（統合型リゾート） ・集客装置としてのIRシンガポール＊IRの可能性と日本の現状			第12章を読んでおくこと	
第13回 「地域の観光まちづくり事業」・長崎県小値賀島の挑戦＊観光を推進する組織の変遷			第13章を読んでおくこと	
第14回 「地域ブランドの構築」＊ブランドとは何か ・宇都宮市の都市ブランド構築＊ブランド価値の伝達と育成			第14章を読んでおくこと	
第15回 「地域のインバウンド事業」＊日本におけるインバウンドの現状 ・九州観光推進機構の九州オルレ＊観光商品の創造的適応			第15章を読んでおくこと	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％ 全体の理解度を図る			
レポート	20％ 時折の講義内容についてのレポートを求める。従って講義への出席も成績評価に影響する			
小テスト等	20％			
成果発表	15％ 議論への積極的な参加がのぞましい。			
受講態度他	15％ 積極的な質問や発言を求める。講師の講義中の私語は禁止とする。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この講義は、教科書の内容について議論をしていきますので、教科書もしくは配布される資料の事前学習を行うことが望ましい。 双方向の講義を目指しますので、講義内容を理解するように集中して講義を聞くこと。			
教科書	高橋一夫著「1からの観光事業論」碩学舎 発行、中央経済社発売			
指定図書	デイビッド・アトキンソン著「新・観光立国論」東洋経済新報社			
参考図書	講義中に紹介します。			
オフィスワーク	講義終了後の時間。講義室または非常勤講師室にて対応する。	メールアドレス		

授 業 科 目	観光政策・行政論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大江 英夫		単 位	2
授業の目的と概要	この講義では、主として日本の国と自治体における観光政策・行政について学ぶこととする。日本は観光政策・行政においては先進国とは言えない。しかしながら、近年観光業を主要産業として位置づけ、２００３年の観光立国宣言、２００７年の「観光立国推進基本法」制定、２００８年の観光庁発足により、遅れを取り戻そうとしている。九州でも７県と九経連が九州戦略会議で観光戦略を策定し２００５年に「九州観光推進機構」を設立し、九州一体として観光開発を行っている。各自治体でも自らの持つ観光資源に新たな光を当て地域活性化を図ろうとしている。この講義で具体例を見ながら、地元根差した政策を学ぶ。併せて2020年のオリンピックを契機に国は訪日外国人数４０００万人を目指している。この数値目標達成のための国の施策と福岡県や太宰府市などの自治体との連携の実態も学ぶこととする。			
到達目標	１． 国、九州、福岡県の観光政策・計画の概要・特徴についての概要を理解し、説明することが出来る。 ２． 観光施策と連携した民間の取り組む事例の概要について理解し、説明することが出来る。 ３． 太宰府市の観光施策について理解し、提言をすることが出来るようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業全体の解説と世界の観光の発展の歴史		準備は不要だが、自分の観光についての経験をまとめておくこと。	
第2回	＊我が国における観光行政・政策の芽生え ＊訪日客誘致のための「喜賓会」の設立について		我が国の観光の歴史について配布される資料を読んでおくこと	
第3回	＊鉄道省国際観光局の設置と日本の観光政策・行政の展開 ＊戦争の長期化による観光政策の変遷		事前配布の国際観光局に関しての資料を読んでおくこと	
第4回	＊第二次世界大戦後における地域経済の変化 ＊都市・地域政策としての観光の重視		事前配布の都市・地域政策に関しての資料を読んでおくこと	
第5回	＊総合行政としての観光行政の重要性・観光事業主体とその政策・講義の観光行政と協議の観光行政・市役所の行政組織・観光行政は総合行政である		観光行政が総合行政であるとの意味を考えて、資料を読んでおくこと	
第6回	＊第二次世界大戦後における国の観光行政の復活 ＊その後の観光行政の歩み		第二次大戦前と後との違いについて考察をしておくこと	
第7回	近年における日本の観光計画・観光政策の策定とその展開その１ ①海外旅行倍償計画 ②「国際コンベンション・シティ」の策定		事前配布資料を読んでおくこと	
第8回	観光計画・観光政策の策定その２ ①９０年代観光振興行動計画の推進②観光交流拡大計画		上記に関する事前配布資料を読んでおくこと	
第9回	観光計画・観光政策の策定その３ ①「コンベンション法」の策定と国際コンベンションの振興②訪日外客数の増加と「ウェルカムプラン２１」の提言		訪日外国人数の増加に伴う利点と課題について考えて発表準備を行う	
第10回	ビジットジャパンキャンペーンの展開 ①観光立国に向けた主な動き②観光立国行動計画の主要な事業③自治体の取り組み事例		事前に配dされる国の実行計画を読んで、理解が難しい点を把握しておくこと	
第11回	九州観光推進機構の設立の背景と組織運営 ＊計画と成果 ２００５年～２０１６年までの歩み		事前配布資料を読んでおくこと	
第12回	福岡県の観光計画・観光政策 ＊観光連盟と県内の組織との関係		事前配布資料を読んでおくこと	
第13回	太宰府市の観光計画・観光政策 ＊基本計画策定と予算の取り方など（太宰府市からの部外講師の可能性）		事前配布資料を読んでおく	
第14回	太宰府市の観光施策について学び改善に向けての提言を行うことが出来るようになる。		太宰府市への提言を考えておく	
第15回	講義の総括と発表		最終発表を準備しておく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	３０％ 設問に答える（自作のノート参照可）			
レポート	３０％ 時折の課題に対するレポートで評価する。従って出席も大事な加点要素となる。			
小テスト等	20日％			
成果発表	１０％ 講義中の課題に対する発表状況を参考とする			
受講態度他	１０％ 積極的な質問や設問に対しての発言を評価する。講義中の私語は禁止する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書を購入の上、講義前に指定された範囲を読んでおくことが必須である。内容を議論することにそれらの理解度を図ることもある。 大宰府の観光行政を学ぶ上で、天満宮周辺の現地視察研修も行う予定である。			
教科書	特定教科書は設定せず、配布する資料を利用する。			
指定図書	中尾清著「自治体の観光政策と地域活性化」 イマジン出版			
参考図書	寺前秀一著「観光政策論」 原書房 出版			
オフィスアワー	講義後の時間		メールアドレス	

授 業 科 目	観光文化論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	岩井 朝子		単 位	2
授業の目的 と概要	本授業は、観光文化の歴史、観光を作り出す仕掛け、様々な観光文化の形態について知識を深め、考察することを目的とする。観光立国を目指す日本にとって、将来、新しい観光文化を提案し、創造することのできる人材は不可欠です。授業では、観光客の需要や旅行形態の変化、観光文化の形成について考察し、これからの観光文化の担い手に必要な基本的な知識の習得を目指します。			
到達目標	1 観光が人にもたらす効果について説明できる 2 観光の誕生やその歴史について簡潔に説明できる 3 観光文化の情報に常にアンテナを張り、最新情報を収集できる 4 トレンドとなりそうなコンテンツを指摘し、その魅力について説明できる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 現代社会と観光の関わり			今までの旅行体験について振り返る	
第2回 観光がもたらす様々な効果			観光が人にもたらす効果について考える	
第3回 旅と旅行と観光			観光という言葉の語源について調べる	
第4回 観光を構成する要素			観光地として成立する条件について考える	
第5回 観光の誕生と旅の歴史			観光の歴史について調べる	
第6回 情報資本主義と近代観光			旅行者の観光地での行動について調べる	
第7回 観光資源			九州の観光資源について考える	
第8回 旅行業と宿泊産業			旅館とホテルの違いについて考える	
第9回 テーマパーク ディズニーランドの巡礼観光 1			ディズニーランドのホスピタリティについて調べる	
第10回 テーマパーク ディズニーランドの巡礼観光 2			ディズニーランドのマーケティング戦略について調べる	
第11回 テーマパーク ハウステンボスはいかにして復活したか			ハウステンボスの最新の取り組みについて調べる	
第12回 エコツーリズム グリーンツーリズム			エコツーリズムとグリーンツーリズムの違いについて調べる	
第13回 観光とメディア 「文化の商品化」による文化の変容			メディアによって作られた観光地について具体例を探してみる	
第14回 観光行動と情報			効果的な観光情報の発信・提供方法について考える	
第15回 観光政策と観光行政			日本の最新の観光政策について調べる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％			
レポート	30％ 授業内で指定された課題を提出する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 建設的で積極的な授業参加態度を成績評価に加える。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には前回の復習を行ってから参加すること。また上記以外の課題を授業内で指定することもありうる。			
教科書	観光学基礎 観光に関する14章（第7版） J T B総合研究所			
指定図書	なし			
参考図書	『観光概論』JTB総合研究所			
オフィスワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	韓国語Ⅰ【演習】			開 講 時 期	前期
担 当 教 員	羅 義圭・姜 昌賢・金 英姫・辛 貞仙・鄭 美京・慎 順花・朴 順伊			単 位	1
授業の目的 と概要	本講義では、初心者を対象にし、ハングルの読み方と単語、基本文型などの基本知識を習得し、日常生活に必要な会話と聴き取りを中心とするコミュニケーション能力の基礎作りを目指すと共に、視聴覚教材や資料を取り入れて、韓国の文化や韓国の諸事情を紹介することにより、韓国・韓国文化が理解できるようになることを目的とする。 授業概要：基本的にはテキストに沿って行うが、必要に応じては参考資料を配ることもある。前期には、時間をかけて正確な発音が自然に身に付くように、二人一組で基本会話を中心に繰り返し練習し、文字と発音（発音法則）に慣れていくことに重点を置く。				
到達目標	・ ハングルの構造が理解でき、ハングルを読むことができる。 ・ 基本語彙と文型、文法を学習し、短文を作ることができる。 ・ 基本的な挨拶や簡単な会話、自己紹介ができる。				
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス・韓国語の概略 1. 母音字母 (1) 基本母音 p p.12～14、p.24			予習・復習	
第2回	1－(2) 複合母音 p p.15～16			予習・復習	
第3回	2. 子音字母 (1) 基本子音 p p.17～18、 p.25 / 有声音化			予習・復習	
第4回	2- (2) 複合子音 p.19 / 4. 平音・激音・濃音 p21、 28			予習・復習	
第5回	3. 音節 p p.20～21、p p.26～27			予習・復習	
第6回	5. バッチム p p.22～23、 p.28 / 連音化			予習・復習	
第7回	発音の復習(挨拶言葉) / 濃音化・激音化			予習・復習	
第8回	第1課 自己紹介(名詞+です・名詞の否定形・会話練習) p p.30～35			予習・復習	
第9回	第1課 課題(話す・読み書き・聞く) p p.36～39			予習・復習	
第10回	第2課 家族紹介(存在の表現・漢数字・会話練習) p p.40～45			予習・復習	
第11回	第2課 課題(話す・読み書き・聞く) p p.46～49			予習・復習	
第12回	第3課 どこにありますか？(場所・位置の表現・会話練習) p p.50～55			予習・復習	
第13回	第3課 課題(話す・読み書き・聞く) p p.56～59			予習・復習	
第14回	第4課 いつですか(日付・曜日・会話練習) p p.60～65			予習・復習	
第15回	第4課 課題(話す・読み書き・聞く) p p.66～69 / 口蓋音化			予習・復習	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など				
定期試験	50%				
レポート	なし				
小テスト等	30%(単語・読みテスト・会話テストなど)				
成果発表	なし				
受講態度他	20%(授業への参加度、課題の発表・暗記、積極性などを考慮する)				
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	1. 予習は必ずCDを聴きながら、ハングルと発音に慣れることが重要です。 2. 復習はCDを聴きながら、授業中習った内容を完璧に暗記することにより、次のステップアップが出来ます。 3. 韓国への交換留学を考えている学生は、ぜひ韓国語能力試験を受けてほしいです。級別に単位も認められるだけではなく、留学生の選抜試験の条件にもなっています。韓国語能力試験は、年に3回(4月、7月、10月)に行われます。				
教科書	康承恵(延世大学校) 著 『楽しく学ぶ韓国語Ⅰ』 多楽園 (DARAKWON)				
指定図書	なし				
参考図書	授業の中で適宜紹介する。				
オフィスワー	授業の後に応じる。		メールアドレス		

授 業 科 目	韓国語Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	羅 義圭・慎 順花・朴 順伊・辛 貞仙・鄭 美京・姜 昌賢・金 英姫		単 位	1
授業の目的と概要	目的：前期に続き、後期では韓国語Ⅰで学習した表現を活かし、より実践的な場面を設定しながら外国人とのコミュニケーションが取れる会話中心の楽しい授業を目指す。主に、日常会話の内容を通して韓国社会の文化・習慣などに触れ、多様化する現在の韓国社会の様子や文化の違いを会話と共に楽しむことを目指す。韓国語Ⅱを通して、グローバル化する現代社会の中で、自ら国際人としての円満な対人関係能力を身に付けるため積極的な自己挑戦を目指す。 概要：韓国語は日本語の語順や文法と大変似ていることから覚えやすい。最近韓国のドラマや音楽などで韓国語に触れる機会が多い。日本から近い国である韓国を知ること、より豊かな情報を獲得すると共に、将来、社会に貢献できる幅広い活躍のチャンスを見つけることができる。それに韓国語能力試験の情報や、韓国の諸事情を総合的に取り入れながら講義を行う。			
到達目標	・動詞・形容詞を活用してより豊かな表現を学習する。 ・丁寧形や会話体を学習し、趣味・食べ物の注文・日常生活・買い物・乗物の乗換えなどを表現することができる。 ・連音化・激音化・濃音化・鼻音化など終声の発音をよく理解し、正しく自分の意思を他人に伝えることができる。 ・単語の終声表記・用言変化・時制変化・尊敬表現をよく理解し、短文を正しく書き、聞き取りや会話ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 第5課	< 趣味がなんですか? > P70～75 本文、趣味について、「を」助詞、会話練習		p72、p73文型練習・単語や会話の練習	
第2回 第5課	課題1、2、3：読み・書き・聞きについて P76～79		p79をCDで聞き取り練習・韓国童謡を歌う、歌詞を覚える	
第3回 第6課	< スンドゥブとテンジャンチゲ下さい > P80～85 本文、料理について、「～したい」表現、会話練習		p82、p83文型練習・単語や会話の練習	
第4回 第6課	課題1、2、3：読み・書き・聞きについて P86～89		p89をCDで聞き取り練習・韓国童謡を歌う、歌詞を覚える	
第5回 第7課	< 家で休みました > P90～95 本文、日常について、過去形表現、会話練習		p92、p93文型練習・単語や会話の練習	
第6回 第7課	課題1、2、3：読み・書き・聞きについて P96～99		DVDを楽しむ	
第7回	第5、6、7課の単語や会話を全般的に復習		p99をCDで聞き取り練習・K-POPを楽しむ	
第8回 第8課	< デパート正面入口の前で3時に会いましょう > P100～105 本文、日課について、「～で～しましょうか」表現、会話練習		p102、p103文型練習・単語や会話の練習	
第9回 第8課	課題1、2、3：読み・書き・聞きについて P106～109		p109をCDで聞き取り練習・韓国童謡を歌う、歌詞を覚える	
第10回 第9課	< 2号線から3号線に乗換なければいけません > P110～115 本文、乗換について、「～れば、～なければならぬ」表現、会話練習		p112、p113文型練習・単語や会話の練習	
第11回 第9課	課題1、2、3：読み・書き・聞きについて P116～119		p119をCDで聞き取り練習・韓国童謡を歌う、歌詞を覚える	
第12回 第10課	< 少し大きいのを下さい > P120～125 本文、買物、「～てみる」表現、会話練習		p122、p123文型練習・単語や会話の練習	
第13回 第10課	課題1、2、3：読み・書き・聞きについて P126～129		p129をCDで聞き取り練習・K-POPを楽しむ	
第14回	第8、9、10課の単語や会話を全般的に復習		DVDを楽しむ	
第15回	第5～第10課の単語・読解・会話の内容を復習		総合的に聞き取りや会話の内容を復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ ① 小テスト（単語・読みテスト・会話テスト・表現力など）40％ ② 定期テスト40％で総合的に評価			
レポート	なし			
小テスト等	各課が終わる前に必ず単語と本文内容の確認の為に小テストを行う			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 出席点検（受講態度、積極性などを考慮）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席必須、小テストなど全部受けること、教科書を持参し、授業を受けること			
教科書	康 承恵 著『楽しく学ぶ 韓国語』DARAKWON			
指定図書	なし			
参考図書	電子辞書、ポータブル『日韓辞典』・『韓日辞典』三修社			
オフィスワー	授業前後に応じる		メールアドレス	

授 業 科 目	韓国語作文【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	羅 義圭		単 位	2
授業の目的 と概要	作文とは、韓国語の文章構造を理解するために、とても大事な作業である。 言語の機能である「話す・聴く」ことは文章構造の基礎がなければ、とても難しく感じるはずである。 幸い、韓国語は日本語と語順が同じであることもあり、そこから最初は日本語でしっかり文章を練り上げ、韓国語で組み立てる作業に慣れていくと共に、日本語と韓国語の表現のズレを直訳を通して気づき、しかも「話す」能力を向上させる。			
到達目標	1. 作文力・読解力を高めることができる。 2. 韓国語の文章構造の理解度を向上させることができる。 3. 韓国の友だちとのSNSのやり取りや興味のある韓国の情報にアプローチすることができる。 4. 韓国語能力試験(TOPIK)の基礎準備ができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス、韓国語の基本文章づくり① 自分の故郷を紹介する		故郷を紹介する文章を作る	
第2回	韓国語の基本文章づくり② 自分の夢を紹介する		夢を紹介する文章を作る	
第3回	自分の部屋を描き、そこから物の説明や位置の語彙を使つての文章づくり		位置を表す語彙を調べる	
第4回	一日の日課を韓国語で書いて紹介		固有数字を使つての練習	
第5回	自分の友達の外見を描いて、そこからスタイルや性格などの文章づくり		描写の語彙を使つての練習	
第6回	計画や予定を韓国語で書いて紹介		「私の未来」を韓国語で書く	
第7回	「自分の行きつけの店」を発表する		「話す」力をつける練習	
第8回	中間テスト		まとめ、復習、テスト勉強	
第9回	九州の観光スポットについて紹介		プレゼンテーションの練習	
第10回	招待状		誕生日や送別会等に関連する単語を調べる	
第11回	説明文		日本の文化を説明する文章を韓国語で書く。	
第12回	掲示文		自分のサークル案内等を書く	
第13回	旅行の感想文		「旅行の感想文」を韓国語で書く	
第14回	日本と韓国の文化の違いについて紹介		異文化を理解することの練習	
第15回	韓国語能力試験(TOPIK)模擬試験		原稿用紙の書き方を練習する	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	10% 中間レポート「自分の行きつけの店を紹介する」 レポートについてはコメントをつけて次回の授業で返却する。			
小テスト等	30%			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 授業での積極的な態度を考慮します。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	・韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人、または準じるレベル(相談)を対象とする。 ・欠席が5回を超えると評価しない(就職活動、病気、その他の理由による欠席は5回の中でカウントする)。 ・発音練習のためにも、自分の書いた文章を声を出して発表できる時間を設けます。 ・韓国語の「不規則/脱落」の活用に慣れるために、会話体の文章で練習する			
教科書	プリントは毎回の授業時に配布。欠席した人は次の授業時にお渡しする。			
指定図書	なし			
参考図書	HANA韓国語教育研究会『韓国語で書き込む「わたしの本」』HANA			
オフィスアワー	月曜日・木曜日・金曜日 昼休み後		メールアドレス	

授 業 科 目	漢字と故事成語【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	桐島 薫子		単 位	2
授業の目的と概要	文学作品を読み解く語彙力・社会人として必要とされる日本語力の一つである漢字や二字・四字熟語について、実践的な能力を身につけていきます。実践的能力については、新常用漢字に対応し、企業の採用試験に対応できるレベル、漢検「準2・2級」程度を設定しています。 また、熟語に関する学習の便宜上、常用漢字の表外の読み（漢検「準1級」程度）の学習を取り入れることがあります。 漢字の成り立ち・字体の変遷・熟語の構成・もとなった中国古典・使用例などを系統的に学び、知識を定着させていきます。			
到達目標	1 漢字や熟語の知識・運用能力について、自身の課題を把握し目標を定めることができる。 2 日本の文学及び文化における漢字の重要性を理解し、漢字について知識を深め、説明することができる。 3 授業で学んだ二字熟語について、「熟語の構成」を理解し説明するとともに、「誤字訂正」に役立てることができる。 4 授業で学んだ漢字について、成り立ち・意味を理解し、「部首」を示すことができる。 5 授業で学んだ「四字熟語」について、構成や中国古典を把握し、使用されている背景を考察しながら、覚えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に以下のDPの達成に関わる科目です。 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 この授業では、漢字に関する知識を学んで運用能力を向上させ、1年後期「中国文学概論」や2年「中国文学講読ⅠⅡ」で学ぶ作品を理解するための漢字や語彙の基礎力を養成します。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	①日本語と漢字・漢語、②企業試験・マスコミ表現、③漢検「準2・2級」、④字体の変遷		配布資料の復習、到達目標を考える	
第 2回	①漢字の成り立ち（諸説・六書・部首・『説文解字』）、②漢字と中国文化		課題一（教科書p138-145）、到達目標の確認	
第 3回	①故事成語（二字・四字熟語）、②二字熟語の構成と文法、③課題一の提出		課題の復習、配布資料の予習・復習	
第 4回	①熟語の構成		配布資料の予習・復習、教科書「熟語の構成」の反復練習	
第 5回	①熟語の構成、②誤字訂正の理解への応用		教科書「熟語の構成」の反復練習、「誤字訂正」の自習	
第 6回	①熟語の構成、②現代の漢字事情		配布資料の予習・復習、教科書「熟語の構成」の反復練習	
第 7回	①熟語の構成、②誤字訂正、類義語・対義語の理解への応用		配布資料の予習・復習、教科書「誤字訂正、類義語・対義語」の自習	
第 8回	①熟語の構成、②部首と漢字の成り立ち		配布資料の予習・復習、小テスト準備	
第 9回	①熟語の構成、②部首と漢字の成り立ち		配布資料の予習・復習、教科書「部首」の反復練習、小テスト準備	
第10回	①部首と漢字の成り立ち、②小テスト（「熟語の構成」「誤字訂正」）		配布資料の予習・復習、教科書「部首」の反復練習	
第11回	①部首と漢字の成り立ち		配布資料の予習・復習、教科書「部首」の反復練習	
第12回	①熟語の構成を活用した四字熟語の解説と使用例、②四字熟語と文学作品		「学習シート」予習・復習	
第13回	①熟語の構成を活用した四字熟語の解説と使用例、②定期試験について		「学習シート」予習・復習、課題二	
第14回	①熟語の構成を活用した四字熟語の解説と使用例、②課題二の提出について		「学習シート」予習・復習、定期試験の準備	
第15回	①熟語の構成を活用した四字熟語の解説と使用例、②まとめ		定期試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％（到達目標2、4、5の習熟度）。			
レポート	10％（①自身の課題・目標についての課題1回。チェック後、各自に勉強方法などのアドバイスを記して返却します。 ②漢字についての課題1回。①②の課題は、到達目標1、2への取り組み。）			
小テスト等	20％（到達目標3の習熟度）。採点后、授業中に返却し、解説します。			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（授業への参加態度。到達目標1～5への取り組み。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・初回到授業の目的、内容、漢字・漢語レベルなどを説明するので、確認の上、受講を決定して下さい。 ・予習・復習・準備・課題に、積極的に取り組むこと。 ・課題は、締め切り通りに提出すること。 ・資格の取得や課外学習サポートを希望する人には、授業中に説明を行います。			
教科書	①財団法人日本漢字能力検定協会著『漢検 2級 ハンディ漢字学習』改訂版（新書判） ②配布教材（プリント、冊子）			
指定図書	なし			
参考図書	①森野繁夫・佐藤利行著『漢文 まとめと要点』白帝社 ②阿辻哲次著『図説漢字の歴史』大修館書店、その他、授業中、適宜伝えていく予定			
オフィスアワー	火曜 4 限、木曜昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	漢文読解【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	桐島 薫子		単 位	2
授業の目的と概要	思想・歴史（史伝文学）・小説・漢詩・散文の代表的な中国古典の作品を取り上げます。さまざまなジャンルの作品を読み解きながら、語法・文章の構造・表現の特徴・作者伝を理解していきます。また、日本における漢文の文化を概観し、現代に学ぶ意義についても考察していきます。 この授業では、実践的なトレーニングを通じて、白文を読み解く能力（教員採用試験レベル・文献読解の基礎レベル）や、そのための漢字能力を向上させていきます。			
到達目標	1 各ジャンルの漢文の構造・語法・表現の特徴を理解して、習熟することができる。 2 読解力やコミュニケーション力の基礎となる漢字能力を、向上させることができる。 3 日本における漢文の文化を理解し、現代に学ぶ意義について考えを述べることができる。 4 中国のさまざまな古典作品を通じて、多様な価値観を理解することができる。 5 自身の課題を、把握することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に以下のDPの達成に関わる科目です。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 この授業では、1年後期「中国文学概論」、2年「中国文学講読ⅠⅡ」の内容を発展させ、日本に影響を与えたさまざまなジャンルの中国古典作品を読み解く実践的な能力を養成します。また、1年後期「漢字と故事成語」と関連させながら、漢字能力も向上させていきます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	ガイダンス（進め方・小テスト・レポート）、日本と漢字・漢文文化、関連する各種試験		課題（配布する各種試験）に取り組む、日本文化と漢文について考える	
第 2 回	漢文の文章理解（基礎から応用へ）、語法の学習について		教科書の「諸子百家」、『孟子』関連箇所の予習、小テスト準備	
第 3 回	「諸子百家」について、『孟子』p4-5（概略）、小テスト①（四字熟語、自身の課題と抱負）		教科書の『孟子』関連箇所の予習、小テストの準備	
第 4 回	『孟子』p4-5、関連する故事成語と四字熟語（『蒙求』より）		教科書の『韓非子』関連箇所の予習、小テスト準備	
第 5 回	『韓非子』p28-29、小テスト②（『孟子』と四字熟語）		教科書の『呂氏春秋』関連箇所の予習、小テストの準備	
第 6 回	『呂氏春秋』p32-33、呂不韋と秦の始皇帝		教科書の「歴史書」（史伝文学）関連箇所の予習、小テストの準備	
第 7 回	歴史書（史伝文学）、『後漢書』p16-17、関連する四字熟語（『蒙求』より）、		教科書の『後漢書』関連箇所の予習、小テストの準備	
第 8 回	『史記』p14-15、項羽と虞美人、小テスト③（『韓非子』と四字熟語）		教科書の『世説新語』関連箇所の予習、小テスト準備	
第 9 回	小説について（『世説新語』・『捜神記』）、関連する四字熟語（『蒙求』より）		教科書の『世説新語』関連箇所の予習、小テスト準備	
第10回	『世説新語』p50-51		教科書の『捜神記』関連箇所の予習、小テスト準備	
第11回	『世説新語』p50-51、『捜神記』p52-53、小テスト④（『呂氏春秋』と四字熟語）		教科書「四六駢儷文」、「唐宋八大家」関連箇所の予習、小テスト準備	
第12回	『捜神記』p52-53、散文について、蘇軾について		教科書「蘇軾」関連箇所の予習、小テスト準備	
第13回	蘇軾の散文p42-43		教科書「李白・杜甫」関連箇所の予習、小テスト準備	
第14回	漢詩p54-57について、小テスト⑤（『後漢書』と『史記』）		教科書「基本用語」の予習	
第15回	漢文まとめと要点」「三 基本用語」p57-69、まとめ（日本の漢詩・漢文の説明を含む）、課題について		課題に取り組む	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	1 5％ 作品に関する1回の課題の提出（到達目標1、3～5への取り組み）。			
小テスト等	7 5％ 授業中に行う5回の小テスト（到達目標1～5への取り組みと習熟度）。毎回、採点した後、返却します。			
成果発表	なし			
受講態度他	1 0％ 授業中の発表・質疑応答・授業への参加態度（到達目標1～5への取り組み）。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1、予習と復習をしっかりと行い、積極的な参加態度で臨むこと。 2、小テストに関しては、授業中に「今後のスケジュールとシラバス成績評価の補足説明」を配布し、詳しく説明します。 3、本講義で学ぶ内容は、教職生（3年生）対象に実施されてる「国語科基礎学力テスト」（漢文分野）と関連しています。詳細は、適宜、説明していきます。			
教科書	①松井光彦著『実戦演習標準 漢文』（桐原書店） ②森野繁夫・佐藤利行著『漢文 まとめと要点』（白帝社）			
指定図書	加藤徹著『漢文の素養 誰が日本文化をつくったのか?』（光文社新書）			
参考図書	授業中に適宜紹介。			
オフィスアワー	火曜昼休み、水曜4限		メールアドレス	

授 業 科 目	学級経営論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	石原 努		単 位	2
授業の目的と概要	学級経営に関する課題（今日的課題や教師に関する課題）を検証したり、学級の組織づくりに必要な教育技術に関する理論を学んだりすることを通して、学級担任の役割の重要性を理解することを目的とする。また、具体的な学級経営の方針を立て、よりよい学級集団づくりに向けた取り組みを考える等して、学級経営案を作成する。			
到達目標	・学級経営の課題に関する情報を収集することができる。また、その課題に対応した具体的方策を立案することができる。 ・よりよい学級経営を行うために必要な教師の指導技術や要因について説明することができる。 ・子どもの実態を踏まえた学級経営のゴールの姿を描き、その実現に向けた具体的な方策を考えることができる。 ・よりよい学級経営を行っていくための方針を示した学級経営案を構想することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	講義のオリエンテーション、及び、学級経営案の説明		自分が描く学級経営のゴールの姿をまとめる。	
第2回	学級経営に関する課題		学級経営に関する課題を整理する。	
第3回	学級経営に関する課題の解決方法や未然防止策		課題解決策や未然防止策についてまとめる。	
第4回	教師に求められる資質と能力と学級担任の仕事		学級担任に求められる資質や仕事についてまとめる。	
第5回	学級担任の教育理念		自分なりの教育理念をまとめる。	
第6回	子ども理解①（子どもの実態把握）		子どもの実態把握のために行う具体的方策をまとめる。	
第7回	子ども理解②（人間関係づくり）		子どもと教師、子どもと子どもの人間関係を構築するための方策をまとめる。	
第8回	集団形成①（目標設定と学級の風土づくり）		学級目標や発達段階に応じた目標についてまとめる。	
第9回	集団形成②（規範意識・規律）		集団としてのルールづくりや、その指導法についてまとめる。	
第10回	集団形成③（自治的・集団的活動）		子どもが主体的に活動することができる活動の具体策を考える。	
第11回	教室環境・学級掲示		教室環境づくりについてまとめる。	
第12回	給食指導・清掃指導・朝の会や帰りの会		給食、清掃、朝の会、帰りの会等の方針についてまとめる。	
第13回	保護者との連携（PTA・懇談会・学級通信）		学級懇談会の在り方や学級通信の方向性についてまとめる。	
第14回	学級経営案の作成		自分のオリジナルの学級経営案を完成させる。	
第15回	学級経営案の発表と本講義の振り返り		本講義を振り返り、自分の学級経営案を付加・修正する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 学級経営案の作成			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ 作成した学級経営案を発表する。			
受講態度他	20％ グループワークには、積極的に参加すること。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・提出物（レポート）の期限は厳守すること。 ・毎時間の学習後に出された課題を簡潔にまとめること。 ・グループでのディスカッションは、積極的に参加すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	小学校学習指導要領解説「特別活動編」「総則編」 文部科学省			
オフィスワー	月曜日2限	メールアドレス		

授 業 科 目	学校教育相談(中等教職)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松尾 公孝		単 位	2
授業の目的 と概要	教育相談は、一人一人の生徒の教育上の問題について、本人またはその親などに、その望ましい在り方を助言することである。その方法としては、1対1の相談活動に限定することなく、すべての教師が生徒に接するあらゆる機会をとらえ、あらゆる教育実践の中に生かし、教育相談的な配慮をすることが大切である。この授業では、一つには、教育相談を実践していく上で基本的に必要な以下の項目について具体的に取り上げ、考察する。また、学校で生じる様々な現象についてその背景を考慮する。この授業では、教師としての資質を培うために、次の三点を主要な目的とする。生徒や保護者等から話を聴くことができる。関係職員と連携して問題の解決に向けて見通しを持てる。継続的な努力を重ねられる。			
到達目標	・教育相談の基礎である話の聴き方、人間関係づくりについて理解し、実践の基本について述べることができる。 ・学校現場で生じる諸問題についてその背景を理解し、基本的対処法について述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	本授業は、教育職員免許法施行規則に定める「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」に該当し、以下の内容について学ぶ。 ・教育相談(学校教育相談・カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		事前に、本授業のシラバスを読む。	
第2回	学校教育相談		復習として、授業で配布した資料を読む	
第3回	話の聴き方、観察のポイント		復習として、授業で配布した資料を読む	
第4回	青年期の心身の不適応		復習として、授業で配布した資料を読む	
第5回	青年期の性の発達と性指導		復習として、授業で配布した資料を読む	
第6回	人間関係づくり		復習として、授業で配布した資料を読む	
第7回	不登校の背景と基本的対処法		復習として、授業で配布した資料を読む	
第8回	いじめの背景と基本的対処法		復習として、授業で配布した資料を読む	
第9回	少年非行の背景と基本的対処法		復習として、授業で配布した資料を読む	
第10回	家庭と子どもの成育(1) 家族の成り立ち		復習として、授業で配布した資料を読む	
第11回	家庭と子どもの成育(2) 食育 虐待		復習として、授業で配布した資料を読む	
第12回	発達障害の背景と基本的対処法		復習として、授業で配布した資料を読む	
第13回	授業で学んだことを発表する。		授業全体で学んだことを事前にまとめる	
第14回	アサーション・トレーニング		復習として、授業で配布した資料を読む	
第15回	まとめ		授業全体を振り返り、整理する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験			
レポート	10% 授業中に適宜課します。			
小テスト等	10% 授業の振り返り			
成果発表	20% 授業で学んだことを発表する			
受講態度他	なし			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	・学級を経営する教師として、生徒をどのようにとらえ、どのように接すれば、生徒の成長にに寄与できるのか、実践することを想定して積極的に授業に参加してほしい。 ・飲食、私語、携帯電話等の使用は厳禁。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	岡田尊司 『愛着障害』 光文社新書 2014 神田橋條治 『発達障害は治りますか?』 花嵐社 2010 松本俊彦編 『中高生のためのメンタル系サバイバルガイド』 こころの科学 日本評論社 2012			
オフィスワ－	授業後に相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	学校経営と学校図書館(司書教諭)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	工藤 邦彦		単 位	2
授業の目的と概要	現代の学校教育における学校図書館の意義と役割という観点から、学校図書館法ほか関連法規、図書館活動を概観し学校図書館の経営について理解する。 特に学校図書館メディアの組織化、学校図書館の運営計画立案、学校間、公共図書館との相互協力など司書教諭の職務全般について学習する。 学校図書館に求められる役割を明らかにするべく、学校図書館の成立など歴史的側面をたどりながら、社会における学校図書館の立ち位置を検証する。さらに学校図書館の経営に携わる司書教諭および学校司書の役割についても学校現場の事例を紹介しながら具体的な業務内容を明らかにしていく。			
到達目標	学校図書館経営の背景となる新しい学力観を理解のうえ、学校図書館の全体像を把握できる。 学校図書館の事例をレポートし、図書館運営の評価と改善点を提示できる。 地域と連携した学校図書館運営計画（案）の策定方法を身につけることができる。 国や地方公共団体の学校図書館に関する新しい動きを掴むことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本科目は学校図書館の教育的意義や経営など全般的事項についての理解を図る科目であり、司書教諭科目の基礎科目として位置づけられている。 関連科目として、学校図書館メディアの構成、学習指導と学校図書館、読書と豊かな人間性、情報メディアの活用が挙げられる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	学校図書館法に基づく司書教諭資格について		指定図書資格関係箇所（p14～35）を熟読のこと	
第2回	教育改革と学校図書館		教科書（p3～8）を熟読のうえ、学習指導要領の内容を確認すること	
第3回	学校教育における学校図書館の役割		教科書（p13～21）を熟読のうえ、改正学校図書館法の内容を確認すること	
第4回	学校図書館の意義		教科書（p61～76）を熟読のうえ、『手引』の内容を確認すること	
第5回	学校図書館の経営		教科書（p81～92）を熟読のうえ、学校図書館経営の在り方を掴んでおくこと	
第6回	司書教諭と学校司書の任務		教科書（p97～119）を熟読のうえ、図書館行政の動向を把握しておくこと	
第7回	学校図書館メディアの種類と特性		教科書（p123～153）を熟読のうえ、メディアのタイプを確認しておくこと	
第8回	学校図書館の施設と設備		教科書（p159～170）を熟読のうえ、図書館の整備について確認しておくこと	
第9回	子どもの読書推進活動と学校図書館		教科書（p175～189）を熟読のうえ、読書支援の現況を掴んでおくこと	
第10回	学校図書館における情報サービス		教科書（p204～208）を熟読のうえ、情報リテラシーの概要を掴んでおくこと	
第11回	学校図書館の相互協力態勢		教科書（p249～257）を熟読のうえ、運営事例を確認しておくこと	
第12回	学校図書館活動の評価と改善		教科書（p193～204）を熟読のうえ、活動実態を確認しておくこと	
第13回	学校図書館活動と連携する図書館：公共図書館を中心に		教科書（p227～230）を熟読のうえ、公共図書館運営について把握すること	
第14回	学校図書館活動と連携する図書館：大学図書館を中心に		教科書（p240～244）を熟読のうえ、大学図書館の役割を把握すること	
第15回	これからの学校図書館運営：課題と展望		教科書（p3～21）を再読のうえ、図書館経営の方向性を確認しておくこと	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 授業での課題（20%） 期末レポート（40%）を課す。レポートについては適宜、返却します。			
小テスト等	なし			
成果発表	10% 整理された発表ができていること。 10% 発表者に対し、適切な質問もしくはコメントができていること。			
受講態度他	20% 授業中に提示した課題について、ミニッツペーパーを提出（計3回）すること。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は講義形式で行うが、グループワーク、発表など織り交ぜながら進める予定である。 授業中における課題および期末レポート、ミニッツペーパーなど提出物の期限を遵守すること。 欠席および遅刻、早退については事由を明示のうえ、必要な届を提出すること。			
教科書	渡邊重夫『学校図書館の力』勉誠出版			
指定図書	今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』樹村房			
参考図書	神代浩、中山美由紀編著『学校図書館の挑戦と可能性』悠光堂			
オフィスワー	月曜日 3 限目（13:10～14:40）		メールアドレス	

授 業 科 目	学校心理学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	石原 努		単 位	2
授業の目的と概要	本講義は、学校に関する全ての人（子ども、教師、保護者等）に対し、どのような援助ができるのかについて考えていくものです。講義前半では、主に、心理教育的援助サービスの基礎的な知識や技法について学修します。講義後半では、主に、学校現場で起こりうる具体的な諸問題について考えながら、解決策やその技法について学修します。 目的は、心理教育的援助サービスに関する基礎的な知識を身につけ、その知識を活用して、学校現場における心理学的な援助の技法を習得することです。			
到達目標	・心理教育的援助サービス（アセスメント・カウンセリング・コンサルテーション・コーディネート）に関する基礎的な理論体系を説明することができる。 ・学校現場で起こりうる諸問題（いじめ、不登校、学級の荒れ、集団形成、発達障害等）について学校心理学の視点から考察し、それらの諸問題に対する援助策を創造していくことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心C（3）-②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福C（3）-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C（3）-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C（3）-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C（3）-②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 「発達と教育」や「教育心理」の科目も受講することで、児童生徒に関するより深い理解につながります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
1	講義の概要説明とオリエンテーション		学校心理学の概要について簡潔にまとめる。	
2	学校心理学の意義と特色		学校心理学の意義・特色について簡潔にまとめる。	
3	学校心理学における心理教育的援助サービス		心理教育的援助サービスを行う対象とその内容についてまとめる。	
4	学校心理学における援助方法①：アセスメント		アセスメントの種類や方法を分類・整理しまとめる。	
5	学校心理学における援助方法②：カウンセリング		カウンセリングの技法等について整理しまとめる。	
6	学校心理学における援助方法③：カウンセリング、コンサルテーション		カウンセリングとチーム援助の在り方について簡潔にまとめる。	
7	学校心理学における援助方法④：コンサルテーション、コーディネート		コンサルテーション、コーディネートについて簡潔にまとめる。	
8	主に学習に関係する心理学的援助		学習に関する援助の手法について分類整理しまとめる。	
9	主に学級集団に関する心理学的援助		集団形成に関する援助の手法についてまとめる。	
10	主に社会性・道徳性に関する心理学的援助		社会性・道徳性の発達についてまとめる。	
11	主にキャリア教育に関する心理学的援助		キャリア教育に関する援助の手法についてまとめる。	
12	主に健康面に関する心理学的援助		健康面に関する援助の手法についてまとめる。	
13	特別支援教育に関する心理学的援助		発達障害がある子への支援方法についてまとめる。	
14	学校全体、教師、保護者等を対象とした心理学的援助		学校全体、教師や保護者に関する援助の手法についてまとめる。	
15	学校心理学のまとめと今後の展望		学校心理学の役割や心理学的な援助の手法について全体的まとめを行う。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 多面的に課題を吟味し、その支援策について自分の考えをまとめレポートする。			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ 授業内で、話し合った結果等を発表する。			
受講態度他	20％ 課題の討議へ対する取組や、その参加態度等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・提出物（レポート）の期限は厳守すること。 ・毎時間の学習した内容を簡潔にまとめること。 ・グループでのディスカッションは、積極的に参加すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	水野治久編著『よくわかる学校心理学』ミネルヴァ書房 学校心理士資格認定委員会『学校心理学ガイドブック』風間書房			
オフィスアワー	月曜日2限、水曜日2限		メールアドレス	

授 業 科 目	学校図書館メディアの構成(司書教諭)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	工藤 邦彦		単 位	2
授業の目的と概要	学校図書館司書教諭資格取得に係る科目である。 学校図書館における「読書センター機能」、「学習・情報センター機能」を果たすためのベースとなる学校図書館メディア（印刷資料、パッケージ系メディア、ネットワーク系メディア）について、種別と特性について論じ、図書館資料全般に対する基本的知識を習得する。 特に学校教育における校種、各教科等の学習活動を支えるためのメディアの選択、収集、組織化、保存といったコレクション形成について重点的に講述する。 学校図書館メディアの組織化については、我が国で用いられている記述目録法、主題目録法などを紹介し、実践的な対応を検討する。			
到達目標	学校図書館メディア（図書、逐次刊行物、視聴覚資料、電子資料、ネットワーク情報資源など）の概念と意義、役割を理解できること。 学校図書館におけるコレクション形成について、基本原理、手順を把握できること。 学校図書館メディアの組織化（目録作成、分類付与）を目録規則や分類法を参照しながら、適切に行えること。 個別の学校図書館におけるメディアの収集状況をレポートしたうえで、コレクション形成の評価と改善方法を提示できること。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本科目は、学校図書館司書教諭資格取得に関わる科目のひとつであり、「学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図る」ことをねらいとしています。 具体的には、１）学校図書館メディアの種類と特性、２）学校図書館メディアの選択と構成、３）学校図書館メディアの組織化・分類の意義と機能、日本十進分類法等の解説 ・件名標目表の解説 ・目録の意義と機能、日本目録規則の解説 ・目録の機械化、４）多様な学習環境と学校図書館メディアの配置 です。 関連科目として、学校経営と学校図書館、学習指導と学校図書館、読書と豊かな人間性、情報メディアの活用が挙げられます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 導入	授業計画の説明 図書館資料全般について説明する。		配布レジュメ（図書館情報資源概説）を熟読のこと。	
第2回	学校図書館メディアの特性とその種類		配布レジュメ（学校図書館メディア概説）を熟読のこと。	
第3回	学校図書館コレクションの収集・選択		配布レジュメ（コレクション形成）を熟読のこと。	
第4回	メディアの組織化、目録の機能、アクセスと展開		教科書p6「整理作業の流れ（一例）」を熟読のこと。	
第5回	目録規則、書誌記述		教科書p7～12 序説を熟読のこと。	
第6回	目録とコンピュータ（機械化）、書誌ユーティリティ		教科書p15～34 第1章を熟読のこと。	
第7回	主題からのアクセス（１）：分類付与		教科書p204～206「世界の分類表」を熟読こと。	
第8回	主題からのアクセス（２）：件名付与		教科書p208～218を熟読のこと。	
第9回	排列方法：分かち書き		教科書p233～245を熟読のこと。	
第10回	特別なニーズをもつ児童・生徒を支援するメディア		配布レジュメ（バリアフリー図書）を熟読のこと。	
第11回	カード目録記入１：図書資料についての記述		教科書p15～52を熟読のこと。	
第12回	カード目録記入２：図書資料についての標目指示		教科書p102～109を熟読のこと。	
第13回	分類付与１：主題分析・分類記号の役割		教科書p140～151を熟読のこと。	
第14回	分類付与２：細目表、補助表を用いた付与		教科書p152～171を熟読のこと。	
第15回	図書館利用促進の試み		事前にインフォメーションファイルの素案づくりシートを作成のこと	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 授業での演習課題（20％） 期末レポート（40％）を課す。レポートについては適宜、返却します。			
小テスト等	30％（カード目録シート、分類付与シート記述 計2回の記述内容・表現で評価）			
成果発表	行わない。			
受講態度他	10％ 授業中に提示した課題について、ミニッツペーパーを2回提出すること			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は講義形式で行うが、個人課題、グループワークなど織り交ぜながら進める予定である。 授業中における課題および期末レポート、ミニッツペーパーなど提出物の期限を遵守すること。 欠席および遅刻、早退については事由を明示のうえ、必要な届を提出すること。			
教科書	『図書館資料の目録と分類 増訂第5版』（編集・発行とも日本図書館研究会）			
指定図書	今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』樹村房			
参考図書	藤田利江著『学校図書館入門シリーズ10 学習に活かす情報ファイルの組織化』			
オフィスアワー	月曜3時限目（13:10～14:40）		メールアドレス	

授 業 科 目	外国語活動指導法【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	林 裕子		単 位	2
授業の目的 と概要	小学校外国語活動・外国語科の指導目標・理念、指導法、教材研究、評価方法などを扱いながら、授業実践に関わる諸問題や、実践を支える諸理論についての理解・考察を深めていく。言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては、授業実践DVDの鑑賞や模擬授業実践を取り入れることにより、英語指導技術を身につけさせる。			
到達目標	以下の2つを到達目標として設定する。 1．小学校外国語活動及び外国語科の目標・内容、及び言語習得や外国語指導法に関する諸理論についての理解・考察を深め、建設的な議論を行うことができる。 2．指導実践の諸問題についての基礎知識を修得し、単元の授業構成・授業実践を行うことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション， 外国語活動の目的と目標		教室英語小テストに向けた予習，授業内容の復習・予習	
第2回	外国語活動の目的と目標，英語教育の動向・課題		教室英語小テストに向けた予習，授業内容の復習・予習	
第3回	関連分野の諸理論からみる外国語活動		教室英語小テストに向けた予習，授業内容の復習・予習	
第4回	指導者の役割		教室英語小テストに向けた予習，授業内容の復習・予習	
第5回	授業過程と学習指導案の作り方		教室英語小テストに向けた予習，授業内容の復習・予習	
第6回	指導導目標・指導計画の立て方，学習状況の評価		教室英語小テストに向けた予習，授業内容の復習・予習	
第7回	教材・テキストの構成と内容		教室英語小テストに向けた予習，授業内容の復習・予習	
第8回	指導方法と指導技術		教室英語小テストに向けた予習，授業内容の復習・予習	
第9回	ALTとのティーム・ティーチング		教室英語小テストに向けた予習，授業内容の復習・予習	
第10回	教材研究とICTの利活用		教室英語小テストに向けた予習，模擬授業の準備	
第11回	模擬授業（教材研究りICTの利活用）		教室英語小テストに向けた予習，授業内容の復習・予習	
第12回	文字の指導，読む・書く活動への導き方		教室英語小テストに向けた予習，模擬授業の準備	
第13回	模擬授業（読む活動への導き方）		教室英語小テストに向けた予習，模擬授業の準備	
第14回	模擬授業（書く活動への導き方）		教室英語小テストに向けた予習，授業内容の復習・予習	
第15回	小・中・高等学校の連携と小学校外国語活動・外国語科の役割，まとめ		定期試験に向けた予習，授業内容の復習・予習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 筆記試験			
レポート	20％ 授業中に課す学習課題			
小テスト等	10％ 教室英語テスト			
成果発表	20％ 単元構想の発表や模擬授業実践			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須である。特に、授業中に課す学習課題や発表については主体的に取り組むこと。			
教科書	樋口ほか著（2017）『（新編）小学校英語教育法入門』研究社			
指定図書	Hi, Friends! 1 & 2 （東京書籍），We Can! 1 & 2, Let's Try! 1 & 2 （文部科学省）			
参考図書	小学校外国語活動・外国語の研修ガイドブック http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm			
オフィスワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	学習指導と学校図書館(司書教諭)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	稲田 八徳		単 位	2
授業の目的と概要	学習指導要領には「読書活動の充実」が改訂の要点としてあげられています。「読書センター」と「学習情報センター」という二つの役割をもつ学校図書館の機能について、理論と実践の面から学んでいきます。実践面では学校現場での観察も実施します。 ○生涯にわたって必要な情報活用能力を学校現場でどのように育成していけばいいのかを理解する。 ○情報活用能力の重要性を司書教諭として発信していくリーダーシップを取らなければならないことを認識し、その力を身に付ける。			
到達目標	○学習指導における学校図書館にはどのような役割があるか具体的に説明できる。 ○それに伴う司書教諭の役割と支援のあり方を理解し、具体的な活動や指導を想定することができる。 ○情報を判断し活用する能力・態度を育てるための学校図書館の機能を理解し、課題解決活動を中心に指導法を工夫することができる。 ○学校図書館を教育課程全体に位置づけ、教科指導と学校図書館の関連や情報の活用指導について考えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業に関連する教科は、「読書と豊かな人間性」です。読書の意義をしり、生涯読書につながるような学校図書館司書教諭としての任務の理解が深まります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション 持続可能な社会のための学びと学校図書館の役割		予習	教科書P10～P25
第 2 回	学校教育カリキュラムと学校図書館カリキュラムの作成について		予習	教科書P26～P47
第 3 回	主体的学習における情報活用能力の育成		予習 復習	教科書P48～P64 主体的学習への図書館の関わり
第 4 回	情報活用能力の育成の計画さくせいについて		予習 復習	教科書P69～P81 情報活用能力の種類
第 5 回	情報活用能力の育成の方法について		予習 復習	教科書P82～P92 どのようにすれば活用能力が育つ
第 6 回	学校図書館における情報サービスの種類とその活用について		予習 復習	教科書P93～P118 情報サービスの種類
第 7 回	教職員に対する支援のあり方と働きかけの方法		予習 発表準備	教科書P119～P156 選んだ校種の支援をまとめる
第 8 回	小・中・高における支援のあり方についての発表		復習	発表の振り返り（評価カード）
第 9 回	学校現場における司書教諭の役割観察		復習	観察の振り返り
第10回	ブックトークについてのグループ討議		ブックトークの準備	
第11回	ブックトーク発表第1回（小学校低学年）		復習	ブックトーク振り返り（評価カード）
第12回	ブックトーク発表第2回（小学校中・高学年）		復習	ブックトーク振り返り（評価カード）
第13回	ブックトーク発表第3回（中・高校生）		復習	ブックトーク振り返り（評価カード）
第14回	総合的な学習、特別活動・道徳における支援について		予習 復習	P157～P170、支援のあり方をまとめる
第15回	特別な支援を要する児童生徒、帰国児童生徒、外国籍児童生徒への支援、多様な教育方法への支援について		予習	教科書P171～P191
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％ 課題に対し要点を簡潔に述べ、自分の考えを主張している。			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ ブックトークをグループで協働的に計画し、実践している。			
受講態度他	20％ 真面目に誠実な態度で受講し、意見発表に積極的に参加している。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教育実習等に際して実際の図書館活動や、図書館を活用した学習指導へ参加してください。 メディアを活用した学習指導の試みを経験したり、指導案等を作成する体験をすることが望ましい。			
教科書	『学習指導と学校図書館』（全国学校図書館協議会）（シリーズ学校図書館学3）			
指定図書	秋田喜代美 『読書の発達心理学』 国土社			
参考図書	学校図書館・司書教諭講習資料（全国学校図書館協議会編）			
オフィスワー	火曜日午前、木曜日午後		メールアドレス	

授 業 科 目	感情・人格心理学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	森田 理香		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義では、日常生活において話題として取り上げられることが多い「感情」や「人格」についての心理学的知見や、研究成果に関する理解を深め、感情心理学、人格心理学に関する基本的な理論と応用的な知識について習得することを目的とする。具体的には、感情の理論、感情が行動に及ぼす影響について理解する。さらに、人格の概念、人格の形成過程、人格の理論、人格の障害について理解する。また、感情や人格を測定する方法についても学ぶ。			
到達目標	1 主要な感情理論、人格理論について説明できる 2 感情が行動に及ぼす影響について説明できる 3 人格の概念について説明できる 4 人格の形成過程について説明できる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション、			配付プリントの復習	
第 2回 心の深層へのアプローチ			配付プリントの復習	
第 3回 感情の理論			配付プリントの復習	
第 4回 感情の発達① 愛着理論			配付プリントの復習	
第 5回 感情の発達② 情動コミュニケーション			配付プリントの復習	
第 6回 人の人格形成にかかわる要因			配付プリントの復習	
第 7回 人格の類型論・特性論① 人格の類型論			配付プリントの復習	
第 8回 人格の類型論・特性論② 人格の特性論			配付プリントの復習	
第 9回 人格における男女差			配付プリントの復習	
第10回 パーソナリティの正常と異常① 正常と異常の基準			配付プリントの復習	
第11回 パーソナリティの正常と異常② 青年期におけるアイデンティティの確立			配付プリントの復習	
第12回 パーソナリティの障害			配付プリントの復習	
第13回 ストレス障害、感情障害			配付プリントの復習	
第14回 感情・人格の測定方法			配付プリントの復習	
第15回 全体のまとめ			テストの準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％ 持ち込み不可			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	人の迷惑にならないように、授業中は私語を慎んでください。			
教科書	特になし 毎回資料を配布します			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に紹介します。			
オフィスアワー	月曜 昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	キャリアインターンシップ【実習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大橋 健治		単 位	1
授業の目的 と概要	本授業の目的は、就業体験をもとに経験学習（経験し、内省し、概念化し、応用する）をして、社会人となることを前提とした大学生活をデザインできるようになることである。。本授業の構成は、前期の授業（補講日の土曜日に3時間）＋インターンシップ経験＋後期の事後研修（補講日の土曜日に2時間）である。授業の目的を効果的に達成するために、企業活動をバリューチェーン（価値連鎖）というモデルを使って観察する方法を伝授する。およそどのような企業も、各部門の努力によって顧客にとっての価値（バリュー）を連鎖的（チェーン）に創り込んでいるのである。			
到達目標	1. バリューチェーン（価値連鎖）というモデルの概念を第三者に説明できること。 2. バリューチェーン（価値連鎖）というモデルの概念を使って、インターンシップ先の組織が顧客にとっての価値をどのように創り込んでいるかを説明できること。 3. 社会人として育っていくにあたっての自らの抱負を説明できること。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 企業活動とバリューチェーンⅠ	レクチャー		配付したプリントの事前学習と実在の組織の事例探索を持ち込むこと	
第2回 企業活動とバリューチェーンⅡ	事例の交換		配付したプリントの事前学習と実在の組織の事例探索を持ち込むこと	
第3回 企業活動とバリューチェーンⅢ	代表発表		配付したプリントの事前学習と実在の組織の事例探索を持ち込むこと	
【夏季休暇期間中に九州インターンシップ推進協議会が紹介するインターンシップへの参加と、その後のフォローアップ】			経験したことを内省する＋派遣先企業のバリューチェーンを調べる	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－				

授 業 科 目	キャリアデザイン基礎【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	藤原 隆信・大橋 健治・天野 緑郎		単 位	2
授業の目的と概要	キャリア（Career）の語源は“轍（わだち）”である。われわれが歩んできた人生には“経歴”という轍が残る。この世に生を受けた以上、われわれはより有意義な轍を残したい。本授業では、自らのキャリアをより有意義なものにするために大切にしなければならぬ考え方と行動原則を学ぶことを目的とする。 授業の目的を達成するためにを導入する。この授業では、TBL（Team-Based Learning）の手法によって、主体的・能動的学習をすることをめざす。			
到達目標	1. 自らのキャリアを、教科書にそって第三者と議論をしながら考えることができる。 2. 自らのキャリアビジョンを、第三者に語ることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業）		シラバスの内容の吟味と履修の意思決定	
第2回	現代社会とキャリアデザイン（教科書第1章）		受講ノートの指示に沿った教科書第1章の事前学修・事後学修	
第3回	現代人のライフサイクルと職業（教科書第2章）		受講ノートの指示に沿った教科書第2章の事前学修・事後学修	
第4回	チームビルディング（チームづくり）演習		継続受講予定の学生は必ずチームビルディング演習に参加すること	
第5回	現代人の生涯収支と職業（教科書第3章）		受講ノートの指示に沿った教科書第3章の事前学修・事後学修	
第6回	キャリアの広がりとは生涯発達（教科書第4章）		受講ノートの指示に沿った教科書第4章の事前学修・事後学修	
第7回	働く意味と自分の職業観（第教科書5章）		受講ノートの指示に沿った教科書第5章の事前学修・事後学修	
第8回	相互インタビューによる自己分析（教科書第6章）		第8回はなし	
第9回	学生生活で得るキャリア意識の明確化（教科書第7章）		受講ノートの指示に沿った教科書第7章の事前学修・事後学修	
第10回	経済・雇用環境に応じた働き方の理解（教科書第8章）		受講ノートの指示に沿った教科書第8章の事前学修・事後学修	
第11回	インターンシップを活用したキャリア考察（教科書第9章）		受講ノートの指示に沿った教科書第9章の事前学修・事後学修	
第12回	キャリア形成と求められる基礎能力（教科書第10章）		受講ノートの指示に沿った教科書第10章の事前学修・事後学修	
第13回	多彩な職種や業種と自分の適職（教科書第11章）		受講ノートの指示に沿った教科書第11章の事前学修・事後学修	
第14回	自らのキャリアビジョンを語るⅠ 受講ノートの提出		授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する	
第15回	自らのキャリアビジョンを語るⅡ、授業の総括 受講ノートの返却		授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 受講ノートの提出（最終ページに授業全体の振り返り〔感想文型式〕を必ず記述のこと）（受講ノートは最終回に返却します）			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ オーラル・プレゼンテーション			
受講態度他	50％ TBLの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように本授業はTBLで運営する。TBLが成立する前提条件は学生による事前学修への誠実な取り組みである。また、授業への無遅刻・無欠席での参加も重要な要素である。やむを得ない遅刻・欠席は可能な限り事前に連絡を入れること。私語や居眠りは当然のこと、主体的・能動的に学修しようとしない学生は授業の場にいたとしても出席として認めない。なお、初回の授業で本授業専用の受講ノートの配付し受講に関するルールについて説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加すること。			
教科書	『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座 第2版』（大宮登監修、2014年、日経BP社、1,800円＋税） ※初回の授業時に本授業専用の受講ノートを配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	水曜日の昼休み（大橋）、火曜日の昼休み（藤原）、授業の前後（天野）		メールアドレス	

授 業 科 目	九州の自然【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	木下 智章		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義では、現在ある九州の自然はどのようなものかを学んでいきます。地球の誕生、大陸の移動、日本列島の歴史などから、現在の九州の地形が形成される過程について時間の流れに沿って学びます。さらに、大陸の移動による現在の生物相の基礎の成立や、日本列島の生物相への氷河の影響などから、どのように現在の九州の生物相が形成されて行ったかを学びます。人間が日本列島に辿りつく過程や、縄文時代、弥生時代などの生活等も理解を深め、現在の生活との繋がりを考えて行きます。九州各県の自然と文化についても学びます。			
到達目標	・生物の進化と地球の変化を結びつけて説明できるようになる。 ・九州の自然について説明できるようになる。 ・日本の自然環境と人間の生活の結びつきについて説明できるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 講義概説			配布プリントの復習をして下さい。	
第2回 地球の誕生から現在の大陸の成立			配布プリントの復習をして下さい。	
第3回 日本列島の成立1			配布プリントの復習をして下さい。	
第4回 日本列島の成立2			日本列島の変化をレポート提出1	
第5回 日本列島の成立と生物の移動			海峡の変化をレポート提出2	
第6回 縄文時代の自然と人の生活			配布プリントの復習をして下さい。	
第7回 弥生時代の自然と人の生活			配布プリントの復習をして下さい。	
第8回 九州の地形			配布プリントの復習をして下さい。	
第9回 九州の気候と植物			配布プリントの復習をして下さい。	
第10回 九州の動物1			復習をして下さい。	
第11回 九州の動物2			復習をして下さい。	
第12回 九州の自然発表1 九州北部			分担する県、地域の発表の準備をして下さい。	
第13回 九州の自然発表2 九州中部			分担する県、地域の発表の準備をして下さい。	
第14回 九州の自然発表3 九州南部			分担する県、地域の発表の準備をして下さい。	
第15回 まとめ			配布プリントの復習をして下さい。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ 各自3回 班1回			
小テスト等	なし			
成果発表	10％ 班発表 1回			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	個人的事情による欠席はすべて欠席扱いとなります。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	九州の歴史と文化【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	横山 尊		単 位	2
授業の目的と概要	本講義は、近現代の福岡県の歴史を中心に、九州の歴史と文化のあり方を論じていきます。テレビ番組やCMを注意深く見ていると、多くの歴史的トピックが動員されていることに気づくはずです。殊に将来的に福岡県で、行政、マスコミ、広報、観光、教育関係などの業種で働く場合、その知識は意外な場面で役に立つでしょう。しかし、皆さんは自分たちの住む地域のことをどれだけ知っているのでしょうか。福岡県どころか、太宰府、さらには自校の知識も怪しげなのではないでしょうか。こうした歴史上の知識は、実は現代の地域社会の成り立ちを知るうえでも欠かせません。本講義は、特に現代の福岡県の成り立ちを知る上で欠かせないエピソードや観光資源・エンターテインメントとしても有名な内容を、太宰府や筑紫女学園の歴史も交えて解説していきます。これらは、皆さんが福岡地域で働いたり、他地域を観察する上でも有効な素養になるでしょう。			
到達目標	1. 福岡県の地域史を日本の近現代史、東アジア史の中に位置づけて把握できること。 2. 福岡県の地域史を学びながら、政治、産業、教育、宗教などへの理解を深めること。 3. 現代の地域の成り立ちを歴史的アプローチから把握する視点を身に着けること。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンスー福岡県の歴史の俯瞰と、県民性をめぐる語り		講義レジュメと参考文献による復習	
第2回	太宰府はどのように観光名所になったか？		講義レジュメと参考文献による復習	
第3回	福岡と博多の違いはどこから来るのか？		講義レジュメと参考文献による復習	
第4回	福岡城の今と昔		講義レジュメと参考文献による復習	
第5回	頭山満と玄洋社ー近代福岡と国家主義		講義レジュメと参考文献による復習	
第6回	福岡県の産業革命ー炭鉱、鉄道、八幡製鉄所		講義レジュメと参考文献による復習	
第7回	福岡県における大学と地域の歴史ー九州帝国大学を中心に		講義レジュメと参考文献による復習	
第8回	自校の歴史から地域社会を見通すー筑紫女学園の歴史		講義レジュメと参考文献による復習	
第9回	福岡県における戦時の諸相		講義レジュメと参考文献による復習	
第10回	博多港引揚と二日市保養所		講義レジュメと参考文献による復習	
第11回	エネルギー革命ー三池争議と炭塵爆発事故		講義レジュメと参考文献による復習	
第12回	「明治日本の産業革命遺産」（2015）が世界遺産になった過程		講義レジュメと参考文献による復習	
第13回	「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」（2017）の課題		講義レジュメと参考文献による復習	
第14回	文学と映画の舞台としての福岡①		講義レジュメと参考文献による復習	
第15回	文学と映画の舞台としての福岡②／まとめ		講義レジュメと参考文献による復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％（論述試験、持ち込み可）			
レポート	％			
小テスト等	30％（講義中の発表内容など）			
成果発表	％			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・高校時代に日本史を履修した人も、そうでない人も、日本史の教科書や概説書などを読み、最低限の知識は得ておいたほうがいいでしょう。			
教科書	なし。講義レジュメを毎回配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	川添昭二ほか『福岡県の歴史』山川出版社、1999年 福岡市博物館監修『福岡博覧』（福岡検定公式ブック）海鳥社、2013年			
オフィスアワー	講義時間後の休憩時間		メールアドレス	

授 業 科 目	教育課程・方法論【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	平山 静男		単 位	2
授業の目的 と概要	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を説明することができるように なることを目的とする。あわせて、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を説明することがで きるようになることを目的とする。 授業は、小学校学習指導要領の改訂の経緯及び基本方針、改訂の要点、教育課程の基準、教育課程の編成及び実施から成る。			
到達目標	1， 学習指導要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を説明することができる。 2， 学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を説明することができる。 3， 教育課程が社会において果たしている役割や機能を説明することができる。 4， 教育課程編成の基本原理を説明することができる。 5， 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 6， 単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また児童や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討するこ との重要性を説明することができる。 7， 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を説明することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 この科目は、「教育時事の理解」「人間形成特殊講義Ⅲ」と関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション。教育課程の実際。		復習（教育課程の振り返り）	
第 2 回	学習指導要領改訂の経緯及び基本方針、改訂の要点、道徳の特別の教科化に係る一部改正		復習（教科書P1-11）	
第 3 回	教育課程の意義、教育課程に関する法制－教育課程とその基準－		復習（教科書P12-14）	
第 4 回	教育課程に関する法制－教育課程に関する法令－		復習（教科書P15-17）	
第 5 回	小学校教育の基本と教育課程の役割－教育課程編成の原則、生きる力を育む各学校の特色ある 教育活動の展開		復習（教科書P18-34）	
第 6 回	小学校教育の基本と教育課程の役割－育成を目指す資質・能力－		復習（教科書P35-39）	
第 7 回	小学校教育の基本と教育課程の役割－カリキュラム・マネジメントの充実－		復習（教科書P40-46）、レポート作成	
第 8 回	教育課程の編成－各学校の教育目標と教育課程の編成、教科等横断的な視点に立った資質・能 力－		復習（教科書P47-53）	
第 9 回	教育課程の編成－教育課程の編成における共通的事項、学校段階等間の接続－		復習（教科書P54-75）	
第10回	教育課程の実施と学習評価－主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善－		復習（教科書P76-91）	
第11回	教育課程の実施と学習評価－学習評価の充実－		復習（教科書P92-94）	
第12回	児童の発達支援－児童の発達を支える指導の充実－		復習（教科書P95-103）	
第13回	児童の発達支援－特別な配慮を必要とする児童への指導－		復習（教科書P104-118）、レポート作成	
第14回	学校運営上の留意事項		復習（教科書P119-126）	
第15回	道徳教育推進上の配慮事項、授業のまとめ		復習（教科書P127-144）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	80％。授業で扱ったテーマに関するレポート、計2回。次時に返却。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	20％。授業に臨む意欲など積極的な受講態度について、主として意見発表や質問などにより評価する。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	私語は厳禁。 欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』			
指定図書	なし。			
参考図書	授業の内容に応じて適宜紹介する。			
オフィスワ ーク	火曜日3限		メールアド レス	

授 業 科 目	教育課程・方法論(中等教職)【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	出雲 俊江		単 位	2
授業の目的 と概要	授業・学習の捉え方、学校と学習指導要領など、教育にかかわる基礎的な考え方についての知識を得る。 学校における教育課程の意義、歴史、編成、法規に関しての基礎的な内容を理解する。 最後に、具体的な事例の紹介を通して、教育の方法や教材（情報機器を含む）の活用について具体的に考える。 現在の教育問題に関して、新聞記事を用いたプレゼンを行う。			
到達目標	教育課程の意義、歴史的変遷について、理解する。 教育課程編成、教育方法に関して、主要な概念を理解する。 教育の方法や教材（情報機器を含む）の活用について、具体的な提案が出来る。 現在の教育問題について、自分で調査し、考えを述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。 ・教育課程の意義及び編成の方法 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 教職課程で履修する全ての科目と関連しています。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション ー本講義の内容と構成ー		課題・レポート	
第 2回	教育課程とは何か ー教育課程の概念とカリキュラムの類型ー		課題・レポート	
第 3回	教育課程の編成原理 ー学問中心と児童中心ー		J・デューイ『学校と社会』指定箇所を読む	
第 4回	さまざまな教育課程 ー大正新教育の実践ー		黒柳徹子『窓際のトットちゃん』読む	
第 5回	教育課程の歴史① ー明治の教育と修身／教科書主義の源流ー		明治～戦前期の教育課程について調べてレポートする。	
第 6回	教科書の現在 ー教科書検定についてー		教科書にとりまくさまざまな問題について、レポートする。	
第 7回	教育課程の歴史② ー学習指導要領の変遷 1 1922年版～カリキュラムの現代化ー		1922年版学習指導要領 指定部分を読む	
第 8回	教育課程の歴史③ ー学習指導要領の変遷 2 新しい学力観～現行学習指導要領ー		教育課程や学習指導要領の観点から受けてきた授業を振り返る。	
第 9回	学力とは何か ー授業観・学習観の転換／知の構造化、知の共有化ー		「ゆとり」の実際についてレポート	
第10回	教育評価 ー教育評価の類型と方法ー		課題・レポート	
第11回	さまざまな教育実践 ー問題解決型学習と系統学習の実践例／学びの共同体・生活綴方ー		実践例についての報告	
第12回	教育の技術 ー動機づけ、適性処遇交互作用ー		課題・レポート	
第13回	学習指導の形態 ー一斉授業、小集団学習、個別学習、T.Tー		課題・レポート	
第14回	学習指導における教材の活用 ー視聴覚・情報機器等教材の活用の方法ー		パワーポイントによる課題作成	
第15回	教育時事小研究 発表会		パワーポイントによる課題作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	定期試験 40％ 教科書の指定部分から出題する。			
レポート	読書課題2回20％ ・ 毎回ミニレポート 15％			
小テスト等	行わない。			
成果発表	教育に関するプレゼン20％（準備・内容・表現）			
受講態度他	討議への参加、主体的な参加を評価する。5％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義形式で進めるが、教育時事についてまたは課題研究についてのプレゼンを各人1回行う。			
教科書	柴田義松 『教育の方法と技術（教育学のポイントシリーズ）』（学文社 2005） 文部科学省『中学校学習指導要領解説（総則編）』『高等学校学習指導要領解説（総則編）』			
指定図書	使用しない			
参考図書	J・デューイ／市村尚久『学校と社会・子どもとカリキュラム』（講談社学術文庫 1998） 黒柳徹子『窓際のトットちゃん』（講談社 1981）			
オフィスアワー	水曜日午後		メールアドレス	

授 業 科 目	教育課程論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	岡山 万里		単 位	2
授業の目的と概要	・教育課程の意義や役割、編成について理解する。 ・教育課程と指導計画との関連、指導計画の在り方について理解する。 ・指導計画の作成について理解する。			
到達目標	・教育課程の意義や役割、編成について理解する。 ・教育課程と関連付けながら指導計画を作成できるようにする。 ・作成した指導計画に基づき模擬保育を行い、保育の評価や指導計画の修正を試みる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この科目は、「保育原理」「教育原理」「教育方法論」と関連している。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	幼児教育の基本と教育課程		参考図書の該当箇所を読む。	
第2回	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の変遷と教育課程		参考図書の該当箇所を読む。	
第3回	「幼稚園教育要領」に見る保育の計画		『幼稚園教育要領』の保育計画に関する箇所を読む。	
第4回	「保育所保育指針」に見る保育の計画		『保育所保育指針』の保育計画に関する箇所を読む。	
第5回	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に見る保育の計画		『幼保連携型認定こども園教育要領』の該当箇所を読む。	
第6回	教育課程の編成と指導計画		参考図書の該当箇所を読む。	
第7回	子どもの発達過程と指導計画		子どもの発達過程を理解しておく。	
第8回	長期指導計画の編成		参考図書の該当箇所を読む。	
第9回	短期指導計画の編成		参考図書の該当箇所を読む。	
第10回	指導計画の作成① 内容（活動や素材）の研究		指導案作成に向けた活動や素材を考える。	
第11回	指導計画の作成② ねらいと内容		活動や素材の研究を踏まえ、ねらいと内容について検討する。	
第12回	指導計画の作成③ 時間配分と環境構成		時間配分や環境構成を考えながら、指導案を作成する。	
第13回	模擬保育①（プレゼンテーション）		模擬保育の準備をする。	
第14回	模擬保育②（プレゼンテーション）		模擬保育の準備をする。	
第15回	指導計画、模擬保育の振り返りと修正		指導案を修正する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ （基本的な内容について）			
レポート	30％ （指導案作成と模擬保育など）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ （授業への積極的な参加、課題の遂行など）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・提示した課題や準備などを、きちんと遂行して下さい。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『幼稚園教育要領』（平成29年告示）、『保育所保育指針』（平成29年告示）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年告示）			
オフィスワーク	火曜日のお昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	教育課程論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大元 千種		単 位	2
授業の目的と概要	教育課程論Ⅰにおいて学修したことを踏まえ、幼稚園や保育所等の教育・保育実践における記録や指導計画の立案、その展開（実践）について、教材準備や方法も含めて具体的に考える力を養うことを目的とする。さらに、実践の記録をもとにした自己評価を行うことにより質の高い実践的な視点を養い、幼稚園教諭や保育士等の教育者・保育者としての資質を高めることを目的とする。 初等の学生は幼稚園で、幼保の学生は保育所実習を授業期間中に経験することから、保育現場の年計画、期案、月案、週案、にもとづいた日々の保育であることに気づき、自らの設定保育を分析する。さらに、「筑女の森」や夏の活動をグループで工夫して実践するなど、環境や季節を生かして、学生自らの体験に基づいた活動展開を考え、評価することができるようにする。 また、毎回授業での気づきや考察を「学びの軌跡」にまとめ、自らの学修の過程を確認することとする。			
到達目標	1. 幼児教育課程・保育課程（以下、教育・保育課程）の編成について、地域や子どもおよび保護者等のニーズを具体的に意識しと入ることができる。 2. 環境や季節の活動を具体的に考え、行動することができる。 3. 指導計画について、クラスの子どもおよび保護者等を意識して、年計画、期案または月案、週案、日案を作成することができる。 4. 作成した指導計画を実践することを通して、分析、評価することができる。 5. 指導計画に基づいて教材の準備、手順を具体的にイメージし表現できる。 6. 幼稚園幼児指導要録、保育所児童保育要録の記述のポイントを習得する。			
この授業が目的としてDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業概要および教育課程・保育課程の今日的意義と課題		予習：幼稚園教育要領、保育所保育指針を一読	
第2回	教育課程と指導計画の作成について（1） 指導計画：年間計画、期案または月案		予習：配布資料	
第3回	教育課程と指導計画の作成について（2） 環境や季節を生かした活動①：春の筑女の森での活動		課題：「筑女の森で遊ぼうノート」記録（1）	
第4回	教育課程における記録の重要性（1） 実践記録について		課題：ミニレポート（1）実践記録の分析	
第5回	教育課程における記録の重要性（2） 実践記録の検討（グループワーク）		課題：ミニレポート（2）実践記録のグループ検討	
第6回	指導計画の検討（1） 実習にむけた指導案の検討		課題：各自の実習にむけた指導案作成	
第7回	導計画の検討（2） 実習にむけた指導案についてのグループ検討		課題：各自の実習にむけた指導案修正、実践	
第8回	指導計画の検討（3） 実習で使用した指導案の実践検討		課題：各自の実習で作成、実践した指導案の分析／ミニレポート（3）	
第9回	教育課程と指導計画の作成について（3） 環境や季節を生かした活動②：初夏の筑女の森での活動		課題：「筑女の森で遊ぼうノート」記録（2）／ミニレポート（4）	
第10回	教育課程と指導計画の作成について（4） 環境や季節を生かした活動③：夏の活動の計画（月案）		課題：夏の活動の計画（月案）作成	
第11回	教育課程と指導計画の作成について（5） 環境や季節を生かした活動④：夏の活動の計画（週案）		課題：夏の活動の計画（週案）作成	
第12回	育課程と指導計画の作成について（6） 環境や季節を生かした活動⑤：夏の活動の計画（日案）		課題：夏の活動の計画（日案）作成	
第13回	育課程と指導計画の作成について（7） 環境や季節を生かした活動⑥：夏の活動（教材研究・環境構成、準備）		課題：夏の活動の実践にむけて分担、準備等	
第14回	教育課程と指導計画の作成について（8） 環境や季節を生かした活動⑦：夏の活動の計画（実践）		課題：夏の活動の準備／ミニレポート（5）	
第15回	幼稚園幼児指導要録と保育所児童保育要録および授業のまとめ		課題提出：作文	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	70％ 実践記録、指導計画、「筑女の森で遊ぼうノート」、ミニレポート（5）、作文			
小テスト等	0％			
成果発表	10％ 発表			
受講態度他	20％ 授業中の質問、意見発表、「学びの軌跡」で授業への参加態度を確認し、評価の対象に含む。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義ではあるが、授業の課題として「筑女の森」での活動のまとめや指導計画作成、ミニレポート（実践記録の分析、指導案の検討）、作文がある。 指導計画については作成するだけでなく、何人か模擬保育として発表も行い、それに対するコメントも課す。 さらに、毎回授業での気づきや考察を「学びの軌跡」にまとめ、自らの学修を確認することとする。 積極的な授業参加を期待する。			
教科書	久富陽子（編）『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』 萌文書林 2012（教育課程論Ⅰで使用）			
指定図書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 <原本>』 チャイルド本社 2017年			
参考図書	授業で適宜紹介する加藤繁美 『記録を書く人 書けない人 楽しく書いて保育が変わるシナリオ型記録』 ひとなる書房 2014年			
オフィスアワー	月曜日昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	教育経営論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	古賀野 卓		単 位	2
授業の目的 と概要	現代社会における教育制度の関する仕組みを理解するとともに、豊かな人間形成に向けた幼稚園や小学校における学校経営・学級経営のあり方について学ぶことを目的としている。また、そうした教育の場で起きている諸問題の制度的、社会的背景をおさえながら、システムやマネジメントの視点から改善に向けて何ができるかその方向性を明らかにするとともに、教師のリーダーシップの基本を理解することを目的とする。			
到達目標	1．現代の教育制度のしくみを説明することができるとともに、教育の機能と役割について説明することができる。 2．いじめ・不登校など、現代日本の教育病理の実態や背景について、システムという視点と関連づけて説明できる。 3．学級経営において必要となる教師のリーダーシップについて、基本認識をもてるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	初C（3）-②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C（3）-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C（3）-②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C（3）-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。2 幼C（3）-②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 関連する科目：教育原理・教職入門・保育者論			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーションー学校経営の望ましい姿を探るー		テキスト（3～27頁）の復習	
第2回	シンプルな経営学のすすめ ー経営のあるべき姿、PDCAサイクルについてー		テキスト（29～40頁）の復習	
第3回	子どもをみつめるⅠ（今どきの子どもの人間関係と学級経営） ー学校文化と学校外文化との関係のなかでー		テキスト（41～52頁）の復習	
第4回	子どもをみつめるⅡ（学級崩壊の現象学） ー学級を立て直す、プロセスをみつめるー		テキスト（53～64頁）の復習	
第5回	子どもにアプローチするⅠ（プロ教師の会と鳥山敏子氏） ー教師が協働することの意味ー		テキスト（65～76頁）の復習	
第6回	子どもにアプローチするⅡ（『5年3組リョウタ組』より） ー学校全体の教育活動における学級経営の位置づけー		テキスト（77～88頁）の復習	
第7回	授業をつくるⅠ（「スクールオブロック」より） ー子ども集団を変えていくプロセスとはー		テキスト（89～100頁）の復習	
第8回	授業をつくるⅡ（「いまを生きる」より） ー学校で発生する問題、学校管理者の責任ー		テキスト（101～110頁）の復習	
第9回	集団をつくるⅠ（『もしドラ』より） ー学校を変革するということ、その理論についてー		テキスト（111～122頁）の復習	
第10回	集団をつくるⅡ（「伏見工業高校ラグビー部の挑戦」） ー教職員で連携する、学校が変わるー		テキスト（123～134頁）の復習	
第11回	学校をつくる（「リーンオンミー」より） ー子どもを守るための教師の心得ー		テキスト（135～146頁）の復習	
第12回	教師に求められる力（共鳴する力とゆるやかさ） ー自分をひらく、保護者とつながる、地域とつながるー		テキスト（147～158頁）の復習	
第13回	集団のなかで子どもを育てるということ ー学校安全への対応を含めてー		テキスト（159～170頁）の復習	
第14回	新しい教育経営学へ ー学校経営の望むべき姿とはー		テキスト（171～181頁）の復習	
第15回	まとめ		テキスト（おわりに）の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	70％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	30％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業への積極的な参加を求める。			
教科書	古賀野卓著『新しい教育経営学ー物語を通したアプローチ』（中川書店）			
指定図書	なし。			
参考図書	随時、紹介する。			
オフィスアワー	前期水曜日昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	教育経営論(中等教職)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	古賀野 卓		単 位	2
授業の目的 と概要	現代の学校教育に関する社会的、制度的事項を理解するとともに、豊かな人間形成に向けた中学校や高等学校における学校経営・学級経営のあり方について学ぶことを目的としている。また、システムやマネジメントの視点から改善に向けて何ができるかその方向性を明らかにするとともに、教師のリーダーシップの基本を理解することを目的とする。なお、その際、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身につける。			
到達目標	1) 社会の状況や子どもたちの生活の変化を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題を理解している。 2) 学校における教育活動や学級経営、学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例をふまえて理解している。 3) 学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解している。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育の基礎理論に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション ―教育をシステムとして捉える―		テキスト（3～40頁）の復習	
第2回	子どもをみつめるⅠ―今どきの子どもの人間関係と学級経営―		テキスト（41～51頁）の復習	
第3回	子どもをみつめるⅡ ―学級崩壊の現象学―		テキスト（53～63頁）の復習	
第4回	子どもにアプローチするⅠ ―プロ教師の会と鳥山敏子氏―		テキスト（65～75頁）の復習	
第5回	子どもにアプローチするⅡ―『5年3組リョウタ組』より―		テキスト（77～87頁）の復習	
第6回	授業をつくるⅠ ―「スクールオブブロック」より―		テキスト（89～99頁）の復習	
第7回	授業をつくるⅡ ―「いまを生きる」より―		テキスト（101～109頁）の復習	
第8回	集団をつくるⅠ ―『もしドラ』より―		テキスト（111～121頁）の復習	
第9回	集団をつくるⅡ ―「伏見工業高校ラグビー部の挑戦」―		テキスト（123～134頁）の復習	
第10回	学校をつくるⅠ―教育活動の流れと学校評価（PDCA）―		第10回授業の復習	
第11回	学校をつくるⅡ ―学校安全への対応―		第11回授業の復習	
第12回	学校と地域との連携Ⅰ―地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法―		第12回授業の復習	
第13回	学校と地域との連携Ⅱ―開かれた学校づくり推進の経緯―		第13回授業の復習	
教師に求められる力			テキスト（147～158頁）の復習	
第15回	まとめ ―新しい教育経営学へ―		テキスト全体のまとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	70％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	30％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	積極的な授業参加を求める。			
教科書	古賀野卓著『新しい教育経営学―物語を通じたアプローチ―』中川書店			
指定図書	なし。			
参考図書	随時紹介する。			
オフィスワー	前期水曜日昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	教育原理【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	古賀野 卓		単 位	2
授業の目的 と概要	いじめ・不登校などの現代日本の教育病理現象をとりあげながら、その実態や社会的背景について学ぶ。さらに、その影響のもとで、子ども同士の人間関係や子どもの自己認識・社会認識がどのように変容してきたかを探る。それを踏まえて、幼児期の教育の大切さと幼稚園・保育園の機能と役割とともに、それ以後の学校教育の果たすべき機能と役割について理解できるようになることを目的とする。			
到達目標	1. いじめ・不登校・学級崩壊などの教育病理現象の実態や背景を説明することができる。 2. 子ども同士の人間関係や自己認識・社会認識の変容について説明することができる。 3. 幼児期の教育の大切さとともに、幼稚園や保育園の果たすべき機能と役割について説明することができる。 4. 初等教育以降の学校教育制度の機能と役割について説明することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 関連科目：保育原理・保育者論・教育史・教職入門・教育経営論			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション：講義の概要とテキストの紹介 ―教育の本質とは何か―			テキスト（3～6頁）の復習	
第2回 いじめを考えるⅠ：陰湿化するいじめの実態 ―子ども・家庭・学校の相互関係のなかでみつめる―			授業で提示する課題①	
第3回 いじめを考えるⅡ：いじめ現象の背後にあるもの ―現代社会を生きる子どもの世界―			授業で提示する課題②	
第4回 いじめを考えるⅢ：子どもの自己認識・社会認識 ―子どもがみつめる自分、家庭、学校とは―			いじめ問題の復習	
第5回 不登校を考えるⅠ：多様化する不登校の実態と社会的背景 ―変動する社会環境における学校の意味―			授業で提示する課題①	
第6回 不登校を考えるⅡ：学校制度の自明性の揺らぎ ―歴史的視座から学校制度をみつめなおす―			授業で提示する課題②	
第7回 不登校を考えるⅢ：親密権の重さと公共権の軽さ ―子ども同士の人間関係をさぐる―			不登校問題の復習	
第8回 学校制度からこぼれ落ちた子どもたち：夜回り先生からみた世界 ―教育思想の視点から教師の役割を捉え直す―			授業で提示する課題	
第9回 心理の専門家と障害児の間にあるもの ―インクルーシブ教育を見つめ直す―			テキスト（15～37頁）の復習	
第10回 「教育」の裏にある「ビジネス」 ―早期教育思想を振り返る―			テキスト（43～67頁）の復習	
第11回 保育・子育てでストレスをめぐる構造的課題 ―「子育て」を歴史的視点からみつめる―			テキスト（73～97頁）の復習	
第12回 フレーベル思想における「部分的全体」の今日的意義 ―近代教育思想における子ども観について―			テキスト（99～121頁）の復習	
第13回 特別支援教育の充実と学校で失われる共鳴力 ―学校に問われている課題、障害をもつ子どもとの共生―			テキスト（125～148頁）の復習	
第14回 <子どもが育つ>ということの意味 ―学校、家庭の連携のなかで―			テキスト（149～157頁）の復習	
第15回 まとめ ―現代における教育課題を原理的に考察することの意味―			テキスト（おわりに）の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％			
小テスト等	0％			
成果発表	20％			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	進んで質問をするなどして、積極的に授業に参加するように。			
教科書	古賀野卓著『未来への教育原理―子どもが育つ場をとともに創る―』中川書店			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	前後期とも水曜日昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	教育史【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松本 和寿		単 位	2
授業の目的 と概要	現代日本の教育をめぐる諸問題を考察するために、教育の理念及び思想、また社会的、制度的あるいは経営的事項について、歴史的視点から検証する。 近代教育の根幹をなす子ども観、家族観、義務教育制度の成立について、日本の教育の歴史を中心に考察する。また、欧米の教育の歴史について、教育思想や教育方法の観点から考察する。			
到達目標	①子ども観について、歴史的視点から具体例に説明できる。 ②近代国家成立時における学校教育の役割について、説明できる。 ③近代の制度である公教育がもつ本質的な性格と今日的な課題について、評価できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この科目は、3年次「初等教育実習指導」や4年次「教職実践演習（幼・小）」等の小学校教育の実際に関する科目を含めた教職全般に関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 古代日本の教育（律令体制下の教育）		授業のテーマに則しテキストを用いて日本史を復習しておく。	
第 2 回	古代・中世の教育		日本史（古代・中世）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 3 回	近世の教育（武士の教育、庶民の教育）		日本史（近世）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 4 回	近世の教育（私塾）		日本史（近世）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 5 回	近代の教育（国民教育制度の創設）		日本史（近代）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 6 回	近代の教育（天皇制教育体制の構築）		日本史（近代）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 7 回	近代の教育（新教育運動の展開）		日本史（近代）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 8 回	戦時下の教育（国家総力戦体制の確立）		日本史（昭和戦前期）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 9 回	戦時下の教育（国民学校）		日本史（太平洋戦争期）の学習（高等学校程度の内容）	
第 1 0 回	戦後教育改革期の教育（占領下の教育政策）		日本史（占領期）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 1 1 回	戦後教育改革期の教育（戦後新教育）		日本史（占領期）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 1 2 回	独立後の教育（「5 5 年体制」と教育政策の転換）		日本史（独立前後）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 1 3 回	高度経済成長期の教育（学歴社会、「受験戦争」）		日本史（高度経済成長期）の学習（高等学校程度の内容）	
第14回	西洋の教育（教育思想）		日本の教育の歴史について概観しまとめる。	
第15回	西洋の教育（教育方法）		西洋の教育の歴史を教育思想・方法の観点からまとめる。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	8 0％ 授業で得た知見をもとに具体的な事例を説明し、自説を展開できる。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	2 0％ 真摯な態度で授業に臨むこと。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。			
教科書	『山川 詳説日本史図録』山川出版社			
指定図書	指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスアワー	月曜日、金曜日の昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	教育史(中等教職)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松本 和寿		単 位	2
授業の目的 と概要	現代日本の教育をめぐる諸問題を考察するために、教育の理念及び思想、また社会的、制度的あるいは経営的事項について、歴史的視点から検証する。 近代教育の根幹をなす子ども観、家族観、義務教育制度の成立について、日本の教育の歴史を中心に考察する。また、欧米の教育の歴史について、教育思想や教育方法の観点から考察する。			
到達目標	①子ども観について、歴史的視点から具体例に説明できる。 ②近代国家成立時における学校教育の役割について、説明できる。 ③近代の制度である公教育がもつ本質的な性格と今日的な課題について、評価できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、中等教職課程の「教科又は教職に関する専門科目」に属するものあり、本学教職課程の目標である「1. 教職に関する使命感、2. 確かな学力と実践的指導力、3. 豊かな人間性」のうち、特に「1. 教職に関する使命感」をもつことを目指している。なお、この授業で得た教育の歴史や現代の教育課題に対する見方・考え方が、同じく中等教職科目である「中等教育実習指導」や「教職実践演習」へとつながる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 古代日本の教育（律令体制下の教育）		授業のテーマに則しテキストを用いて日本史を復習しておく。	
第 2 回	古代・中世の教育		日本史（古代・中世）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 3 回	近世の教育（武士の教育、庶民の教育）		日本史（近世）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 4 回	近世の教育（私塾）		日本史（近世）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 5 回	近代の教育（国民教育制度の創設）		日本史（近代）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 6 回	近代の教育（天皇制教育体制の構築）		日本史（近代）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 7 回	近代の教育（新教育運動の展開）		日本史（近代）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 8 回	戦時下の教育（国家総力戦体制の確立）		日本史（昭和戦前期）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 9 回	戦時下の教育（国民学校）		日本史（太平洋戦争期）の学習（高等学校程度の内容）	
第 1 0 回	戦後教育改革期の教育（占領下の教育政策）		日本史（占領期）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 1 1 回	戦後教育改革期の教育（戦後新教育）		日本史（占領期）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 1 2 回	独立後の教育（「55年体制」と教育政策の転換）		日本史（独立前後）の学習 （高等学校程度の内容）	
第 1 3 回	高度経済成長期の教育（学歴社会、「受験戦争」）		日本史（高度経済成長期）の学習（高等学校程度の内容）	
第14回	西洋の教育（教育思想）		日本の教育の歴史について概観しまとめる。	
第15回	西洋の教育（教育方法）		西洋の教育の歴史を教育思想・方法の観点からまとめる。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 授業で得た知見をもとに具体的な事例を説明し、自説を展開できる。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	20％ 真摯な態度で授業に臨むこと。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。			
教科書	『山川 詳説日本史図録』山川出版社			
指定図書	指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスアワー	月曜日、金曜日の昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	教育心理【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	S. Kumar		単 位	2
授業の目的と概要	人間形成の原理と社会に生きていく上で、教育心理の考え方やそれに関する様々な方法を学びます。教育心理の専門知識の視点から子どもの成長として、発達、教授や学習の過程、学習への動機などについて学びます。人間形成と社会的援助のために発達段階を得て、成長していくことの理解。それに関して、乳児期、幼児期、児童期の理解。それぞれの発達段階で知能の発達、情緒の発達、社会性の発達などを理解しながら学ぶ。			
到達目標	乳幼児期から人間形成と社会的援助として発達の段階、様々な学習と記憶のプロセスと理論、考え方、行動の理解する。社会的自立の知識として日常生活の中に確認できる人間、教育、と心理に関係している事情の理解。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。2 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 様々な研究による0歳児の発達の理解			0歳児の発達の理解課題	
第 2回 乳幼児期の運動と知能の発達			教育心理学者による発達課題の復習	
第 3回 反射運動			発達についての復習	
第 4回 ピアジェの発達段階論の理解			ピアジェ理論の課題の復習	
第 5回 学習とは何か			学習についての復習	
第 6回 仲間関係と社会性の形成			対人関係について	
第 7回 学習の成立（S-R説）			日常生活の中学習の復習	
第 8回 学習過程の知識論			バヴロフ論についての課題	
第 9回 古典的条件、B F Skinner のオペラント条件			古典的条件づけの例	
第10回 内発的動機付			動機付けについて	
第11回 外発的動機づけ7			動機付け復習	
第12回 認知論について			認知過程について	
第13回 サイン・ゲシュタルト論			認知論について	
第14回 発達や学習関係の心理テストの理解			心理テストの理解と応用課題	
第15回 授業全体の理解と総まとめ			教育心理授業全体の理解と復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	9 0％ 筆記試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	1 0％ （私語 5％、遅刻 3％、授業中携帯電話の使用など 2％）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義の際に指示します			
教科書	指定しない （資料配布）			
指定図書	勝地 三郎 監修『新教育心理』ナカニシヤ出版			
参考図書	岩田純一・佐々木正人・石田勢津子・落石幸子『児童の心理学』			
オフィスアワー	授業の前後、昼休み（12:30～13:00）		メールアドレス	

授 業 科 目	教育心理(中等教職)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	石原 努		単 位	2
授業の目的と概要	教育活動を活発にし、教育効果をあげるためには、学習に対する子どもの取り組みや環境の作用について分析し、子どもが望ましい方向へ発達していくような指導の方法を考える必要がある。 そこで、本講義では教育の対象である幼児・児童・生徒（障がいのある幼児・児童・生徒を含む）の心身の成長と発達の理解、および幼児・児童・生徒（障がいのある幼児・児童・生徒を含む）の望ましい成長と発達のための学習や、生活の指導のあり方に関する理論ならびに方法論について学ぶことによって、教育実践力の基礎となる知識を習得することを目的とする。 今日、教師の資質向上が求められる中で、教育実践力として必要となるのが「子どもを理解する力」「子どもたちに働きかける力」「活動内容を構成する力」「実践を認識する力」である。本講義では、これら4つの基礎となる理論や技術についての学習をすすめていく。			
到達目標	・教育心理学の領域「発達」「学習」「人格と適応」「教育評価」における基本的知識（理論、概念、方法）を理解し、正確に述べることができる。 ・学習した事柄が教育活動としてどのように活用されるのか考え、自らの見解を述べることができる。 ・障がい児に対する学習支援のあり方を理解し、説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育の基礎理論に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） 「発達と教育」や「学校心理学」の科目も受講することで、児童生徒に関するより深い理解につながります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	教育心理学を学ぶ意義		配付資料の中の重要語句をまとめる。	
第 2回	発達理論Ⅰ：発達の定義、発達の規定要因		発達要因に関連する心理学者の考えをまとめる。	
第 3回	発達理論Ⅱ：主な発達理論（フロイト、ピアジェ、エリクソン）		各心理学者の考えをまとめる。	
第 4回	心身の発達の過程Ⅰ：乳幼児期		乳幼児期の発達の様相をまとめる。	
第 5回	心身の発達の過程Ⅱ：児童期		児童期の発達の様相をまとめる。	
第 6回	心身の発達の過程Ⅲ：青年期のアイデンティティ		青年期の発達の様相をまとめる。	
第 7回	心身の発達の過程Ⅳ：青年期の諸課題		青年期の発達の様相をまとめる。	
第 8回	運動発達・言語発達		運動・言語の発達についてまとめる。	
第 9回	認知発達・社会性の発達		認知・社会性の発達についてまとめる。	
第10回	学習の理論と概念		学習理論とその考えについてまとめる。	
第11回	動機付け、記憶		動機づけ・記憶の種類と内容についてまとめる。	
第12回	学力と知能		知能検査等の手法についてまとめる。	
第13回	学級集団の形成過程と教師のリーダーシップ		学級集団の形成過程や教師の役割をまとめる。	
第14回	教育評価の種類と方法		教育評価の種類とその方法についてまとめる。	
第15回	障がい児に対する学習支援		障がい児への関わりをまとめる。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 筆記試験			
レポート	なし			
小テスト等	20％ 詳細は講義の中でお知らせします。			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ 課題の討論へ対する取り組みや、その参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教職履修生には、将来的に教職に就くことを前提に、それにふさわしい履修態度を求める。 学校の現状を理解するためにも学生サポーターなどの学校ボランティア活動に積極的にしかかわることを奨励する。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	「よくわかる 教育心理学」「よくわかる 発達障害」 ミネルヴァ書房			
オフィスワー	月曜日2限		メールアドレス	

授 業 科 目	教育心理学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	S. Kumar		単 位	2
授業の目的と概要	人間形成の原理と社会に生きていく上で、教育心理学の考え方やそれに関する様々な方法を学びます。教育心理学的な専門知識の視点から子どもの成長として、発達、教授や学習の過程、学習への動機、人格の形成を学びます。発達段階を得て、成長していくことの理解。それに関して、乳児期、幼児期、児童期、青年期の理解。			
到達目標	教員養成、人間、社会的援助として発達の段階、様々な学習と記憶のプロセスと理論、考え方、人格の形成や人間の行動についての理解する。教職課程の科目として、社会的自立の知識として日常生活の中、上記のものを取り入れて、教育心理学の適切な理解や判断力を身につけることができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	心C (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 福C (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 教育心理学、歴史、教育心理学者について			教育心理学者の知識と教育心理学の定義の理解課題	
第 2回 乳幼児期の運動と知能の発達			乳児期の運動の発達	
第 3回 反射運動			発達についての復習	
第 4回エリクソンの発達段階論の理解			エリクソン理論の課題の復習	
第 5回 学習、学習過程とは何か			学習についての復習	
第 6回 Pavlovの理論			古典的条件づけ	
第 7回 人格について			人格についての復習	
第 8回 Kretschmerの人格理論			人格の理論についての復習	
第 9回 Jung の人格理論			人格理論	
第10回 Cattleによる人格の12要因			Cattle理論の復習	
第11回 ビッグ5人格の要因とJ P Guilford's Personality Model			人格のGuilford Model についての復習	
第12回 Freudの人格の精神理論			フロイト理論について	
第13回 投影法検査心理テストの理解			心理テストはなぜ必要かの予習	
第14回 発達・学習・人格に関する心理テストの理解			投影法心理テストの理解課題	
第15回 授業全体の理解と総まとめ			教育心理学授業全体の理解と復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	90％ 筆記試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ （私語5％、遅刻3％、授業中携帯電話の使用など2％）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義の際に指示します			
教科書	指定しない （資料配布）			
指定図書	勝地 三郎 監修『新教育心理』ナカニシヤ出版			
参考図書	岩田純一・佐々木正人・石田勢津子・落石幸子『児童の心理学』 岡村浩志・藤田主一『新しい教育心理学』Yuhikaku			
オフィスアワー	授業の前後、昼休み（12:30～13:00）		メールアドレス	

授業科目	教育実習Ⅰ(中等教職)【実習】		開講時期	通年
担当教員	栗山 俊之・出雲 俊江・竹熊 真波		単 位	4
授業の目的と概要	本講義は、中学校教員免許取得希望者が、教育実習を通じて教育現場や教師の仕事の実際を理解することを目的とする。同時に、これまでに学んできた「教職に関する科目」ならびに「教科に関する科目」における理論的な知識を応用する力を身につけるという目的も有する。その上で、自己の教師としての適性を再考するものである。 教育実習は、基本的には、5月から6月にかけて少なくとも15日間、中学あるいは高校で行われる。実習校の状況によっては9月から11月の受け入れもあり得る。なお、以下の授業計画は、あくまでも一例であり、実際は実習校の指示に従う。			
到達目標	・教育現場や教師の仕事の実際を体験的に理解する ・これまで学んできた理論的な知識を現場にいかす ・教師としての実践的力量を経験的・実践的に形成する ・教師としての職業倫理を経験的に培う ・教師として、社会人としての自己管理能力（時間管理、健康管理等）を身につける ・教師としての適性を自ら判断する			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育実習」に該当し、中一種免許を取得しようとするものが15日以上教育実習を行うことを目的として実施されるものである。 なお、本授業は4年前期開講の「中等教育実習指導」並びに4年後期開講の「教職実践演習（中・高）」と関連する。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
1日目 実習初日：講話・自己紹介等（主な活動・注意事項：学校での流れを把握する。元気な挨拶を心がける）			実習前に指導案を作成し、50分フルの模擬授業を実践しておく。	
2日目 観察実習（先生方の授業や生徒の様子、学校や学級の雰囲気などを自分なりの着眼点を持って観察する）			教材研究や実習校との事前打合せを十分に行った上で実習に臨む。	
3日目 観察実習・参加実習1（朝の会での点呼などから開始し、給食指導、掃除指導などの生徒指導も行っていく）			HRの生徒の名前を把握しておく。	
4日目 観察実習・参加実習2（体育祭や文化祭、自然教室などの学校行事と重なる場合が多い）			休み時間や放課後の部活などあらゆる機会を捉え、生徒との交流を図る。	
5日目 観察実習・参加実習3（実習校での1週間を振り返る）			次週からの授業の準備、教材研究を十分に行う。	
6日目 実証実習1（授業の開始。授業のねらいを明確にし、授業を組み立てる）			教材研究や授業準備、略案の作成などを行う。	
7日目 実証実習2（指導教員の助言をしっかりと受け止め、授業改善を図る）			反省を生かし、教材研究や授業準備、略案の作成などを行う。	
8日目 実証実習3（アクティブ・ラーニングやICTの活用を授業に組み込む）			反省を生かし、教材研究や授業準備、略案の作成などを行う。	
9日目 実証実習4（授業を円滑に行うためにも生徒理解・生徒指導を通じての学級の秩序維持を心がけること）			反省を生かし、教材研究や授業準備、略案の作成などを行う。	
10日目 実証実習5（実習校での2週間を振り返り、査定授業に備える）			栄養と睡眠を十分にとっておく。	
11日目 実証実習・査定（研究）授業の準備1（指導教諭の助言を受け、査定授業用の指導案を練り上げる）			指導案の作成。誤字脱字や提出期限等最後まで細心の注意を払うこと。	
12日目 実証実習・査定（研究）授業の準備2（授業準備と授業、査定授業用の指導案の完成）			指導案の修正と授業準備を行う。	
13日目 実証実習・査定（研究）授業の準備3（指導案の印刷等、査定授業の準備）			指導案の完成と授業準備、査定授業に向けたシミュレーションを行う。	
14日目 査定（研究）授業と反省会			先生方の指導・助言を真摯に受け止め、次に活かせるようにする	
15日目 実習の総括（教育実習全体を振り返る）			実習日誌を完成させる。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	30％ 教育実習日誌（確認後返却）・教育実習報告書（添削後、報告集を作成する）			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	70％（実習校からの評価）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・実習日誌は、実習校から特に指示がない限り、ボールペンで記入すること。誤字・脱字がないよう留意し、丁寧に書くこと。 ・無断欠勤や遅刻は決して許されない（提出物も期限内に出すこと）。 ・社会人としてのマナー（服装、言葉遣いなど）や時間管理・健康管理に留意すること。 ・生徒との個人的な交流（携帯番号を教えるなど）、及び実習内容についてのインターネット（SNSなど）への投稿禁止。 ・守秘義務を理解し、個人情報情報を漏えいしないよう細心の注意を払うこと。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房、文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房			
オフィスワーカー	月曜2、3限（竹熊）		メールアドレス	

授 業 科 目	教育実習Ⅱ(中等教職)【実習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	栗山 俊之・出雲 俊江・竹熊 真波		単 位	2
授業の目的と概要	本授業は、高等学校教員免許のみを希望する者（高校福祉）が、教育実習を通じて教育現場や教師の仕事の実際を理解することを目的とする。同時に、これまでに学んできた「教職に関する科目」ならびに「教科に関する科目」における理論的な知識を応用する力を身につけるという目的も有する。その上で、自己の教師としての適性を再考するものである。 教育実習は、基本的には5月から6月にかけての10日間、内諾済みの高校（あるいは中学）において行われる。実習校の状況によっては9月から11月の受け入れもある。なお、以下の授業計画は、あくまでも一例であり、実際は実習校の計画・指示に従う。			
到達目標	・教育現場や教師の仕事の実際を体験的に理解する ・これまで学んできた理論的な知識を現場にいかす ・教師としての実践的力量を経験的・実践的に形成する ・教師としての職業倫理を経験的に培う ・教師として、社会時とんとしての自己管理力（時間管理・健康管理等）を身につける ・教師としての適性を自ら判断する			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育実習」に該当し、高一種免許を主塔くしようとするものが10日以上教育実習を行うことを目的として実施されるものである。 なお、本授業は、4年前期開講の「中等教育実習指導」と4年後期開講の「教職実践演習（中・高）」と連動する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
1日目 実習初日：講話・自己紹介等（主な活動及び注意事項：学校での流れを把握する。元気な挨拶を心がける）			実習校での実践を想定し、指導案作成と50分フルの模擬授業を行う。	
2日目 観察実習（先生方の授業や生徒達の様子、学校や学級の雰囲気などについて自分なりの着眼点を持って観察する）			事前の教材研究・実習校との打合せを十分に行ったうえで実習に臨む	
3日目 観察実習・参加実習（朝の会での点呼などから開始する。掃除時間の生徒指導なども行っていく）			HRの生徒の名前を把握しておく	
4日目 参加実習・実証実習 1（授業の開始。授業目標を明確にした上で授業を組み立てる）			教材研究や略案の作成など授業準備を行う	
5日目 参加実習・実証実習 2（指導教員の助言をしっかりと受け止め、授業改善を図る）			査定授業に向けての教材研究等をおこなう	
6日目 実証実習 1（査定授業に向けての準備の開始）			アクティブ・ラーニングやICTを活用した授業になるよう準備する	
7日目 実証実習 2（査定授業用指導案の作成と授業準備）			誤字脱字や提出期限など細心の注意を払って準備を行う	
8日目 実証実習 3（査定授業用指導案の完成と印刷等の準備）			査定授業に向けたシミュレーションを行う	
9日目 査定（研究）授業の実施と反省会			先生方の指導・助言を真摯に受け止め次に活かせるようにする	
10日目 実習の総括			実習日誌を完成させる	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
成績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	30％ 教育実習日誌（確認後返却）・教育実習報告書（添削指導後報告集を作成）			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	70％（実習校からの評価）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・実習日誌は、実習校から特に指示がない限り、ボールペンで記入すること。誤字・脱字がないよう留意し、丁寧に書くこと。 ・無断欠勤や遅刻は決して許されない（提出物も期限内に出すこと）。 ・社会人としてのマナー（服装、言葉遣いなど）や時間管理・健康管理に留意すること。 ・生徒との個人的な交流（携帯番号を教えるなど）及び実習内容についてのインターネット（SNSを含む）への投稿禁止。 ・守秘義務を理解し、個人情報を漏えいしないよう細心の注意を払うこと。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房			
オフィスアワー	月曜 2、3 限（竹熊）		メールアドレス	

授 業 科 目	教育時事の理解【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松本 和寿		単 位	2
授業の目的 と概要	現在の教育課題（生徒指導、学力向上、英語科教育・道徳教育の推進等）に関する文部科学省及び都道府県（市町）教育委員会の施策の概要とその成果や問題点に関する基礎的知識を得るとともに、課題解決のための実践的方策について考察する。 授業の際は、教師が示す資料や学生自身が収集した資料を基に少人数での説明・意見交換を行う。			
到達目標	1 現在の教育課題の概要を把握し、その解決に向けた方策について初等教育に携わる立場で考察する。 2 文部科学省や都道府県（市町）教育委員会の施策の概要を理解する。 3 特定の教育課題に関する自分の考えを相互に理解し合うコミュニケーション能力を身につける。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	初C（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C（3）-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C（3）-②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 この科目は、「初等教育実習指導」、「初等教育実習Ⅰ・Ⅱ」、4年次「教職実践演習（幼・小）と関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション	教育に関する話題について考える意味		マスコミ等で報道される教育に関する話題について情報を集めておく。	
第2回 不登校問題について			国立教育政策研究所ホームページの資料にアクセスし概要を把握しておく。	
第3回 いじめ問題について			国立教育政策研究所のホームページにアクセスし概要を把握しておく。	
第4回 「全国学力学習状況調査」について			文部科学省のホームページにアクセスし概要を把握しておく。	
第5回 「学校運営協議会」について			文部科学省のホームページにアクセスし概要を把握しておく。	
第6回 福岡県教育委員会の施策について（学力向上対策中心）			福岡県教育委員会のホームページにアクセスし概要を把握しておく。	
第7回 福岡県教育委員会の施策について（学校運営中心）			福岡県教育委員会のホームページにアクセスし概要を把握しておく。	
第8回 福岡市教育委員会の施策について（学力向上対策中心）			福岡市教育委員会のホームページにアクセスし概要を把握しておく。	
第9回 福岡県教育委員会の施策について（学校運営中心）			福岡市教育委員会のホームページにアクセスし概要を把握しておく。	
第10回 九州各県（福岡県・市以外）の教育施策のについて（学力向上対策中心）			特定の自治体を選び教育委員のホームページにアクセスし概要を把握しておく	
第11回 九州各県（福岡県・市以外）の教育施策のについて（学校運営中心）			特定の自治体を選び教育委員のホームページにアクセスし概要を把握しておく	
第12回 新学習指導要領の要点について（英語科中心）			新学習指導要領（英語）の内容を把握しておく	
第13回 新学習指導要領の要点について（道徳科中心）			新学習指導要領（道徳）の内容を把握しておく	
第14回 新学習指導要領の要点について（カリキュラムマネジメント中心）			新学習指導要領（総則）の内容を把握しておく	
第15回 現在の教育課題について（まとめ）			第14回までの学修内容を整理しておく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	40％			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	40％			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回の講義で学生相互の発表・意見交換を行う。その際、テーマに応じた資料の収集・配布を求める。			
教科書	小学校学習指導要領解説 総則編、小学校学習指導要領解説 英語編、小学校学習指導要領解説 道徳編			
指定図書	講義の際に別途指示する。			
参考図書	講義の際に別途指示する。			
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	教育相談【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	板井 修一		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は、初等教職課程授業科目の一つで、教職に関する科目のうち生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目の「教育相談(カウンセリングに関する基礎的知識を含む)」の理論及び方法」について学ぶものである。 教育現場で子どもたちが示す問題行動への対応は、教師にとっては避けて通ることのできない重要な問題である。的確な見立てと適切な対応がとれるかによって、教師の力量が問われる。教師には、幼児や児童のこころを理解するための理論や方法を、しっかりと身につけたうえで、子どもたちと真摯に向き合い関わり合う姿勢が求められています。 この「教育相談」の授業をとおして、問題や課題を抱える子どもたちへの指導・援助にとどまらず、問題発生の予防ならびに、子どもたちの人間的成長を促す積極的・開発的な援助や支援のあり方についての理解が深まっていきます。			
到達目標	・教育現場における教育相談の意義について説明することができるようになる。 ・教育相談に役立つカウンセリングの基本的態度や技法を身につける。 ・教育相談の対象となる登園拒否や不登校、発達障害等の問題について、説明できるようになる。 ・幼児理解の理論及び方法の意義について説明できるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。2 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 「臨床心理学概論」や「生涯発達心理学Ⅰ」を受講していると、理解が助けられる。「カウンセリング概論」を併せて受講することによって、具体的な援助技術についての理解が深まる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 教育相談とは 子どもの現状、教育相談の意義			教育の現場が抱える子どもの問題について調べる	
第2回 発達課題と教育相談 子どもの発達課題と子どもの問題、教育相談の果たす役割			配布資料をもとに、子供物の発達課題とつまずきについて調べる	
第3回 教育相談の三要素 学業相談、進路相談、適応相談			配付資料をもとに復習	
第4回 スクールカウンセラー(SC)制度 制度と今後の課題、制度化のプロセス、心の相談員			配付資料をもとに復習授業で指示したウェブサイトの関連ページからSCの仕事	
第5回 精神分析(1) 無意識の心理学、心的決定論、			配付資料をもとに復習	
第6回 精神分析(2) 自我の働き、防衛機制			配付資料をもとに復習	
第7回 行動理論カウンセリング 子ども問題に対する理解の仕方(未学習、誤学習、過学習性の問題)、賞と罰、スモールス			配付資料をもとに復習	
第8回 カウンセリング(1) ロジャーズの非指示的カウンセリング、クライアント中心療法			配付資料をもとに復習	
第9回 カウンセリング(2) 受容・共感・自己一致			配付資料をもとに復習	
第10回 現場で出会う心理的諸問題(1) 不登校を中心に			授業で指示したウェブサイトの関連ページから不登校関連の情報を収集	
第11回 現場で出会う心理的諸問題(2) ⑭精神遅滞、⑮発達障がい(ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群等)を中心に			授業で指示したウェブサイトの関連ページから発達障がいについて調べる	
第12回 現場で出会う心理的諸問題(3) いじめ問題を中心に			授業で指示したウェブサイトの関連ページからいじめの現状を調べる	
第13回 教師の心のケア 教師の心の健康、ストレスケアマネジメント			教師の心の健康に関する問題について調べる	
第14回 園や学校での危機への対応 危機の対応と心のケア、PTSDの予防			PTSDと心のケアについて書かれた文献を調べる読む	
第15回 保護者支援、地域支援 地域のネットワーク、他職種との協働			コラボレーションの意義について調べる	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	100% 期末レポート			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	授業の進行を妨げるような私語については、厳しく注意する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業外学修として出された課題は、各自ファイルを作成し整理する。提出を求め、点検をすることがある。			
教科書	なし 授業内容と関連した配付資料を毎回配布する			
指定図書	なし			
参考図書	長友久雄(編著)(2013)『学校カウンセリング入門』 ミネルバ書房 向後礼子・山本智子(2014)『教育相談ワークブック 子どもの育ちを支える』 ミネルバ書房			
オフィスアワー	火曜日の3時間目		メールアドレス	

授 業 科 目	教育文化特論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	田中 友佳子		単 位	2
授業の目的と概要	子どもに向けられる感情や眼差し、接し方、子どもと大人の関係、子どもに関する文化や問題群が、歴史的にいかに変化し創られてきたのかを本授業では扱う。西洋社会の子ども期と子どもの歴史について論じたヒュー・カニンガム著『概説 子ども観の社会史ーヨーロッパとアメリカにみる教育・福祉・国家』（新曜社，2013年，北本正章訳）を講読し、その要旨を作成した上で、受講生全員で議論を行う。さらに、日本の子ども期と子どもに関する教育社会史的研究の進展を把握し、論評を行う。これらの過程を通して、研究の課題の立て方、方法、論理構成といった論文作成上の基礎的技能について学ぶことを目指す。			
到達目標	①子ども期の歴史を理解する。 ②教育学が前提としてきた諸概念やテーマについて論じることができる。 ③論文の主旨を読み取り、その内容を的確に整理できる。 ④関連する論文を収集できる。 ⑤的確に論評を行うことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	－			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	本授業のねらいと課題		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第2回	文献講読と議論ー序文／第1章 序論-子ども期の観念と実態		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第3回	文献講読と議論ー第2章 古代と中世ヨーロッパの子ども観		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第4回	文献講読と議論ー第3章 中産階級の子ども期イデオロギーの展開 一五〇〇～一九〇〇年		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第5回	文献講読と議論ー第4章 家族・労働・学校 一五〇〇～一九〇〇年		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第6回	文献講読と議論ー第5章 ヨーロッパの子ども・博愛団体・国家 一五〇〇～一九〇〇年		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第7回	文献講読と議論ー第6章 子どもの救済 一八三〇年頃～一九二〇年頃		次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第8回	文献講読と議論ー第7章「子どもの世紀」？ 一九〇〇～現在／第8章 結論		論文収集に向けて準備を行う	
第9回	日本の子ども期の歴史に関する論文を収集し、後半に読む論文を選択する。		次回論文を閲読。担当者は論評作成を行う。	
第10回	論評① 担当者が論評を発表した後、全員で議論する		次回論文を閲読。担当者は論評作成を行う。	
第11回	論評② 担当者が論評を発表した後、全員で議論する		次回論文を閲読。担当者は論評作成を行う。	
第12回	論評③ 担当者が論評を発表した後、全員で議論する		次回論文を閲読。担当者は論評作成を行う。	
第13回	論評④ 担当者が論評を発表した後、全員で議論する		次回論文を閲読。担当者は論評作成を行う。	
第14回	論評⑤ 担当者が論評を発表した後、全員で議論する		次回論文を閲読。担当者は論評作成を行う。	
第15回	論評⑥ 担当者が論評を発表した後、全員で議論する		担当した論評に対する議論の内容をまとめ提出する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	80% 選択した章の適切なまとめと疑問を提示できること。選択した論文の適切な論評を発表できること。			
受講態度他	20% 積極的発言、態度を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的に議論に参加する姿勢を持って受講することを期待する。			
教科書	ヒュー・カニンガム『概説 子ども観の社会史ーヨーロッパとアメリカにみる教育・福祉・国家』新曜社，2013年，北本正章訳 経済的理由等で入手困難な受講生には、該当箇所をコピーするなどして対応する予定。初回に相談を受け付ける。			
指定図書	なし			
参考図書	適時、紹介を行う。			
オフィスアワー	授業の前後またはメールにて相談可	メールアドレス		

授 業 科 目	教育文化特論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	古賀野 卓		単 位	2
授業の目的 と概要	子どもの世界に起きている様々な問題および改善策をシステム論の視点から複眼的に分析する能力を身につけることを目的としている。 ここでのシステムとは、制度というより、研究者の認識枠組みのようなものである。システム論の利点は、次の3つにまとめられる。 ○学級における子ども集団、学校組織、教育行政という制度等という異なったスケールで複眼的に子どもを捉えることが可能となる。 ○子どもの自己認識や社会認識に影響を与えている学校以外の文化をシステムと見なし、そこから子ども理解を深めることができる。			
到達目標	1. システム論の考え方およびその利点について理解し、説明することができる。 2. システム論を用いて、いじめ・不登校などの教育問題を分析することができる。 3. 私たちの社会生活を包み込んでいる国家・社会のしくみというマクロな構造へと考察を広げることができる。 4. 子どもを中心とした社会づくりのために、システム論の知見を応用することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	－			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	システムとは何か：つながりのなかで生きている私		第1回授業の復習	
第2回	システムで考えると何が見えてくるか		授業で提示する課題①	
第3回	システム論の視点について ーミクロとメゾとマクロという視点ー		第3回授業の復習	
第4回	学校をシステムとしてみる ー学級集団から学校教育制度までー		第4回授業の復習	
第5回	子どもに影響を及ぼす様々なシステム		授業で提示する課題②	
第6回	システム論からみた現代のいじめの構造		第6回授業の復習	
第7回	学級崩壊にみる学校制度の自明性の衰退		第7回授業の復習	
第8回	学校をつくるということ ーシステムづくりとルールづくりー		授業で提示する課題③	
第9回	組織が変わるということ ー共通するプロセスを見つけ出すー		第9回授業の復習	
第10回	教師に求められる力 ー生きたシステムをつくるリーダーとしてー		第10回授業の復習	
第11回	集団のなかで子どもを育てるということの意味		授業で提示する課題④	
第12回	子どもを中心にシステムを見つめ直すということ		第12回授業の復習	
第13回	子どもにとって最も重要なシステムを探る		第13回授業の復習	
第14回	子どもを生かすめのシステムづくり ー大人社会の責任ー		第14回授業の復習	
第15回	まとめ		授業で提示する課題⑤	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	40％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	特になし。			
教科書	使用しない。			
指定図書	ない。			
参考図書	随時、紹介する。			
オフィスアワー	後期水曜日昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	教育方法論【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松尾 智則		単 位	2
授業の目的 と概要	幼児教育における教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能について科学的視点を持って理解し、習得することを目的とする。 科学的教育方法の基礎的理論と教師に必要なプレゼンテーションスキルの基礎を学んだ後に具体的に情報機器等を利用した資料の収集・指導計画の作成と模擬授業・保育を体験・考察して教師の役割についての理解を深める。			
到達目標	1.教育環境に関して基礎的に説明できる。 2.学習者の管理に関して基礎的に説明できる。 3.教師に必要なプレゼンテーションスキルの基本を説明できる。 4.指導案の作成と模擬保育を体験し、それを元に指導計画の再構成ができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 はじめに			授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめる。	
第2回 教師の課題			授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめる。	
第3回 目標の分析			授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめる。	
第4回 教育内容と具体化			授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめる。	
第5回 教育環境の管理 1 教育の制度的環境と具体的環境の基本			授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめる。	
第6回 教育環境の管理 2 学校・学級経営と指導法			授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめる。	
第7回 学習者の管理 1 学習者の特性と個人差			授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめる。	
第8回 学習者の管理 2 学習集団の編成と指導法			授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめる。	
第9回 教師の課題実践編 1 プレゼンテーションスキル			授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめる。	
第10回 教師の課題実践編 2 指導計画の作成と情報機器の活用の理論			授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめる。	
第11回 教師の課題実践編 3 指導案の作成と情報機器の活用の実践			授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめる。	
第12回 教師の課題実践編 4 指導案の作成と保育実践の学び(ビデオ学習)			授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめる。指導案を作成する	
第13回 教師の課題実践編 5 模擬保育			授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめる。	
第14回 教師の課題実践編 6 保育の評価と指導案の改善			授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめる。指導案を修正する。	
第15回 教育方法論の授業の振り返り			14枚の省察用紙及びノートをよく整理して試験に備える。	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%			
レポート	20% (指導案10%、修正指導案10%)			
小テスト等	-			
成果発表	10%			
受講態度他	10% (毎回の考察用紙の記載内容)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的な参加を求める。履修登録が確定後は座席指定とする。 教育者を目指す者として居眠り、遅刻、私語がないように心して授業に臨んでほしい。 ※実施回は学外実習期間にあわせて入れ替えることがある。			
教科書	プリントを配布			
指定図書	なし			
参考図書	幼稚園教育要領 文部科学省 保育所保育指針 厚生労働省			
オフィスワー	相談のある者は授業の前後に適宜対応する。	メールアドレス		

授 業 科 目	教職実践演習（中・高）(中等教職)【実習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	竹熊 真波・栗山 俊之・出雲 俊江		単 位	2
授業の目的と概要	本授業は、教職課程での教科に関する科目及び教職に関する科目の履修状況を踏まえ、教育実習を含む教職課程での学びの到達点を確認し、卒業後に教団に教師として立つにあたっての課題を明確化すると同時に、その課題を克服するための実践的指導を行うことを目的とする。具体的には、履修カルテや教育実習日誌等を基に、教育実習を含むこれまでの学修の到達度や課題を自己分析する。次いで、それぞれのテーマについて模擬授業やグループ討議等を通じて学びの検証を行う。さらに、現職教員を招聘しての講義、近隣の学校への授業参観等によって教師の仕事を再確認する。これらの活動を通して、約3年半の教職課程の履修において獲得してきたもの並びにこれから教師として実践の場に出るにあたっての課題を確認する。 なお、実施に当たっては、担当教員以外の教員、太宰府市教育委員会、太宰府市内の中学・高校、併設中学・高校等の連携と協力を仰ぐ。			
到達目標	①教師としての使命感や責任感、教育的愛情を獲得している。 ②教師として最低限必要な社会性や対人関係能力を獲得している。 ③教師として最小限必要な生徒理解の知識や能力を獲得している。 ④学級経営に最小限必要な知識やコミュニケーション能力を獲得している。 ⑤各教科に関する専門的知識および指導能力の基礎を獲得している。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教職実践演習」に該当し、教員として必要な知識技能を習得したことを確認するものである。従って、4年前期に「中等教育実習指導」を修得済みで、「教育実習Ⅰ」または「教育実習Ⅱ」として教育実習を実施したものが、教職課程の総括として受講することとなる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション：教職実践演習の進め方について		ボランティア体験レポートの提出と発表、模擬授業者の確定	
第2回	履修カルテに基づく大学での学修の振り返りと使命感・責任感等の検証		「学びの軌跡の自己分析」シートの作成	
第3回	日誌、実習レポート、指導案、実習校からの評価等に基づく教育実習の振り返り		「学びの軌跡の自己分析」シートの完成	
第4回	教科内容等についてのグループ討議及びロールプレイ		指導案や板書計画の作成などの再吟味	
第5回	模擬授業①：よりよい英語の授業のために		指導案や板書計画の作成など模擬授業の準備と反省	
第6回	模擬授業②：よりよい社会・福祉の授業のために		指導案や板書計画の作成など模擬授業の準備と反省	
第7回	模擬授業③：よりよい国語の授業のために		指導案や板書計画の作成など模擬授業の準備と反省	
第8回	学校の授業参観 ①中学校		授業参観の感想レポートと礼状の作成	
第9回	学校の授業参観 ②高等学校		授業参観の感想レポートと礼状の作成	
第10回	社会性や対人関係能力についてのグループ討議及びロールプレイ		場面指導についてのメタディスカッション	
第11回	生徒理解や学級経営についてのグループ討議及びロールプレイ		特別支援教育との関係についての再検討	
第12回	現職教師による「教師という仕事」についての講義		講義についての感想レポートの作成	
第13回	教科別の課題研究①内容構成を中心に（国語、英語、社会・福祉）		自身の授業設定についての内省	
第14回	教科別の課題研究②発展的内容を中心に（国語、英語、社会・福祉）		自身の授業設定についての内省	
第15回	各自の現状評価と課題の再確認		総括レポートの完成（A4・2枚以上）と提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％：ボランティアレポート、学びの軌跡の自己分析、授業参観レポート、総括レポート等の提出状況（提出されたレポートは確認後返却する）			
小テスト等	なし			
成果発表	25％：「教育実習報告書」作成、模擬授業、グループ発表など（学生による相互評価をもとに評価を行う）			
受講態度他	25％：授業や授業外活動（学校参観や学校ボランティア）への取り組み状況など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・授業が始まる前に、学校ボランティアを行い、レポート（A4・1枚）を作成しておいてください（ボランティアは後期期間中でも可）。 ・招へいする先生や訪問する学校の都合により予定が変更になる場合がありますので、留意してください（変更は筑女ネットで知らせます）。 ・総括レポートは、3年半にわたる教職課程を振り返り、自己の教員としての資質や課題を分析し、卒業後の目標を記入するもの			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説(国語編、英語編、社会編)、高等学校学習指導要領解説(国語編、英語編、地理・歴史編、公民編、福祉編)、西岡加名恵他著「教職実践演習ワークブック」ミネルヴァ書房			
オフィスワー	竹熊：月曜2，3限		メールアドレス	

授 業 科 目	教職実践演習（幼・小）【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松本 和寿・一木 信治・稲田 八穂・石原 努		単 位	2
授業の目的と概要	情報収集の方法の学習や大学教員及び現場教員の講義、あるいは学生同士によるグループ活動、幼稚園・小学校での授業参観、模擬授業を行うことによって、教師としての使命感や責任感、および教師として必要な教科指導力やコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 大学教員及び現職教員の講義、学生同士によるグループ活動、幼稚園・小学校での授業参観などを中心に実施する。また、それらをふまえた模擬授業（指導）などを行う。本授業は、卒業後、教壇に立つために、これまでの学びを総括する授業である。			
到達目標	1 教師としての使命感や責任感、子ども理解の能力を身につける。 2 教師としての自発的で応用力をもった学習能力、問題解決能力を身につける。 3 学級経営に必要な知識やコミュニケーション能力を身につける。 4 教科指導の専門的知識および指導力を身につける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション			教育実習の成果と課題を確認しておく。	
第2回 教育実習の課題と成果についてのグループ討議			教育実習の課題と成果を確認しておく。	
第3回 小学校教諭の講義（小学校教諭のやりがいについて）			第2回までの内容を基に質問事項等を整理しておく。	
第4回 幼稚園教諭の講義（幼稚園教諭のやりがいについて）			第2回までの内容を基に質問事項等を整理しておく。	
第5回 授業参観（小学校）			参観後に気付きや感想等をまとめる。	
第6回 授業参観（小学校） ※第5回と連続して実施			参観後に気付きや感想等をまとめる。	
第7回 小学校教諭として目指す姿についての討議			自らが目指す小学校教師像を明らかにしておく。	
第8回 授業参観（幼稚園）			参観後に気付きや感想等をまとめる。	
第9回 授業参観（幼稚園） ※第8回と連続して実施			参観後に気付きや感想等をまとめる。	
第10回 幼稚園教諭として目指す姿についての討議			自らが目指す幼稚園教諭像を明らかにしておく。	
第11回 模擬指導（朝の会・帰りの会での指導）			第10回で与えるテーマに則し指導内容を考えておく。	
第12回 模擬指導（教科指導の導入場面）			第11回で与えるテーマに則し指導内容を考えておく。	
第13回 ロールプレイ（問題行動への対応）			第12回で与えるテーマに則し子どもへの対応をを考えておく。	
第14回 ロールプレイ（保護者対応）			第13回で与えるテーマに則し保護者への対応をを考えておく。	
第15回 まとめ			授業後にこれまでの学修内容を総括する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	60％			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	30％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教師になる、教師を目指すという自覚をもち積極的に学修すること。			
教科書	特に指定しない。			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	授業の際に別途指示する。			
オフィスワー	月曜日・金曜日の昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	教職入門【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	薄　千里		単　位	2
授業の目的と概要	教職の意義及び教員の役割，教員の職務内容（研修，服務及び身分保障等を含む）に関する知識の修得を通して，教職についての理解を深めること，及び教員の職務の事例や子どもと教育の現状について検討することを通して，自らの教員としての適性や能力，進路について考察する。 授業においては，講義を通して教職についての知識を修得し，グループ討議等を通して，教員の職務の事例や子どもと教育の現状の検討，及び目指す教員像に向けての目標設定など，主体的に授業の目標に到達できるようにする。			
到達目標	1　教職の意義，及び教員の役割について理解し，説明することができる。 2　教員の職務内容（研修，服務及び身分保障等）について理解し，説明することができる。 3　教員の職務の事例，子どもと教育の現状についてグループ討議等を通して検討し，自らの教員としての適性や能力について考察し記述することができる。 4　目指す教員像を具体的に描き，実現のために行動目標を設定することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初C（3）-②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C（3）-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C（3）-②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C（3）-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この科目は、1年次「教育原理」や2年次「教育課程論Ⅰ・Ⅱ」、4年次「幼児教育実習指導」など、幼稚園教育の実際に関する科目を含めた教職全般に関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回　学校教育について（教育基本法，学校教育法，学校教育施行規則，小学校学習指導要領，幼稚園教育要領等）			法規を基に教育の目的等について確認し，ノートにまとめる。	
第2回　教員観の変遷と求められる教員像			求められる教員像，自らの教員観を確認する。	
第3回　教育の動向と教育施策			教育の動向と教育施策について確認する。	
第4回　教職の意義と教員の役割			教職の意義，教員の役割についてノートにまとめる。	
第5回　子どもと教育の現状			子どもと教育の現状について振り返り，自らの考えをもつ。	
第6回　教員の職務内容 1　研修，服務及び身分保障等			教員の職務内容（研修等）についてノートにまとめる。	
第7回　教員の職務内容 2　教育課程の編成と指導計画の作成			教育課程と指導計画についてノートにまとめる。	
第8回　教員の職務内容 3　学習指導・保育（学級経営と指導力，授業・保育の成立）			学級経営，指導力について確認する。	
第9回　教員の職務内容 4　学習指導・保育（魅力ある授業・保育）			自分が受けてきた学習指導・保育について想起し考察する。	
第10回　教員の職務内容 5　生徒指導・生活指導（意義と課題）			生徒指導の意義と課題について確認しノートにまとめる。。	
第11回　教員の職務内容 6　生徒指導・生活指導の実践			自分が受けてきた生徒指導・生活指導について想起し考察する。	
第12回　学校事故と危機管理			学校事故と危機管理について確認し，ノートにまとめる。	
第13回　学校・家庭・地域社会の連携と信頼性の確立			学校・家庭・地域社会の連携について確認する。	
第14回　学校教育目標の具現化と学校組織，学校評価			学校教育目標の具現化，学校組織，学校評価について確認する。	
第15回　目指す教員像と目標設定			行動目標の達成に向けて努力を継続する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	5 0 ％			
レポート	3 0 ％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	2 0 ％（グループ・全体討議の参加状況を含む。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	将来教職に就くことを前提に，それにふさわしい態度で受講すること。 配布資料をファイルしていくこと。			
教科書	初等教育コース：「小学校学習指導要領」文部科学省（平成29年3月） 幼児保育コース：「幼稚園教育要領解説」文部科学省（平成30年）			
指定図書	特に定めない。			
参考図書	初等教育コース：文部科学省「小学校学習指導要領解説　総則編」（平成29年3月） 幼児保育コース：文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年3月）			
オフィスワー	水曜日午後		メールアドレス	

授 業 科 目	教職入門(中等教職)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	竹熊 真波		単 位	2
授業の目的と概要	本授業の目的は、第1に教職の意義や教員の役割、職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職についての理解を深めることにある。第2に、教師の仕事を多角的に考察する過程を通じて、自らの教職への意欲、適性、最終的な進路等を熟考する機会を得ることである。 従って、授業では、講義を通じて必要な知識を身につけるだけでなく、教育現場に関する映像の視聴やグループディスカッション、調べ学習のアクティブ・ラーニングを行う。これらを通じて、目標とする教師像を設定するとともに自身の教員としての適格性を考える。その上で、これから卒業までにすべき学習・行動目標を具体的に設定していく。			
到達目標	①職業としての教職のやりがいとその難しさ、厳しさについて整理できる。 ②教員になるための道筋を理解し、自身のキャリアプランを設計できる ③教員の職務内容について、具体的かつ批判的に説明できる。 ④教職に関する様々な事例を通して、自らの教師としての適性や能力について考えることができる。 ⑤受講者と適宜グループを組み、意見交換を行い、一定の結論を得ることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教職の意義等に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。 ・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等 「教育原理」や「教育心理」など2年時以降の教職に関する専門科目の基礎となる科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（自己紹介等）		講義ノートの穴埋め（以降毎回）	
第2回	理想の教師像とは（グループ討論）		理想の教師像についてのレポートの作成	
第3回	教員への道 1 免許状取得の方法		自身が希望する教師になるために必要な単位等の整理	
第4回	教員への道 2 採用試験等		希望する県のHPにアクセスし、採用状況を確認する	
第5回	教員の職務内容 1 学習指導（1）カリキュラム		学習指導要領に示される各教科の目標を確認する	
第6回	教員の職務内容 1 学習指導（2）教育方法と評価		アクティブラーニングの事例についてのレポートの作成	
第7回	教員の職務内容 2 生徒指導		児童生徒の問題行動件数についての最新データを調べる	
第8回	体罰の是非について(グループ討議と発表)		体罰規定など討論会において提示しうる資料を集めておく	
第9回	教員の職務内容 3 学級経営（1）学級担任		学級崩壊や学級経営についての具体的事例を検証する	
第10回	教員の職務内容 3 学級経営（2）特別な配慮を必要とする子どもたちへの対応		教育に関する課題を新聞等の報道（切り抜き）から探る	
第11回	教員の組織と教師		教師のメンタルヘルスについての文献に触れ、考察する	
第12回	教員の研修制度と免許更新講習について		免許証更新制について文部科学省のHPを確認する	
第13回	服務上及び身分上の義務と身分保障		関係法規を整理する	
第14回	教師を取り巻く状況～チーム学校への対応		教師に関する文科省等の政策動向を調べる	
第15回	まとめ：自己の教師としての適性と進路選択の再考		教職以外の職業についても調べ教職と比較する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 授業で得た知見をもとに具体的な事例を説明し、自説を展開できる。			
レポート	25％ 与えられた課題に取り組み、自らの見解をまとめ提出する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	25％ 受講態度の適切性についても成績評価に加える。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教職履修生には、将来的に教職に就くことを前提に、それにふさわしい受講態度を求める。 学校の現状を理解するためにも学生サポーターなどの学校ボランティア活動に積極的に関わることを奨励する。			
教科書	自作の講義ノートを使用する。			
指定図書	なし			
参考図書	講義ノートにおいて参考文献一覧を示す。			
オフィスアワー	月曜 2、3、4限		メールアドレス	

授 業 科 目	居住福祉論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	安恒 万記		単 位	2
授業の目的 と概要	住まいは厳しい自然や社会的環境から生命の安全を守る基盤であり、人々の健康や子どもの発達、家族の生活や高齢者の福祉を支えるものです。本講義では、子ども、高齢者、障がい者といった住居の状態から最も影響を受けやすい人たちの住環境に潜む問題を探り、よりよい住まいとまちのあり方を考察します。 「福祉住環境コーディネーター」資格に挑戦するための足がかりとなるよう、建築や都市に関する基礎知識の習得を目指します。			
到達目標	1. 建築や都市について専門用語を用いて説明することができる。 2. 様々な状態にある人と住まいやまちの現状を分析することができる。 3. 住まいやまちの課題を福祉的視点で説明することができる。 4. 居住福祉の課題の解決に向けて自ら考え、創造することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	居住福祉とは…生命の安全と健康を守る住まい		課題①（情報の整理）	
第 2回	住まいやまちに関する基礎知識		課題①（情報の整理）	
第 3回	子どもと住環境①…子どもの発達と住まい		課題②（社会の問題の抽出）	
第 4回	子どもと住環境②…子どもの遊びと住環境		課題②（社会の問題の抽出）	
第 5回	高齢者と住環境①…住み続ける家		課題②（社会の問題の抽出）	
第 6回	高齢者と住環境②…地域で暮らす		課題②（社会の問題の抽出）	
第 7回	高齢者と住環境③…老人福祉法と高齢者施設		課題②（社会の問題の抽出）	
第 8回	障がい者と住環境①…ノーマライゼーションって何？		課題②（社会の問題の抽出）	
第 9回	障がい者と住環境②…バリアフリーとユニバーサルデザイン		課題②（社会の問題の抽出）	
第10回	住宅政策と居住福祉①…最低居住水準って何？		課題③（まちの観察と体験）	
第11回	住宅政策と居住福祉②…介護保険と住宅改造		課題③（まちの観察と体験）	
第12回	住宅政策と居住福祉③…住宅改造事例（車椅子使える？）		課題③（まちの観察と体験）	
第13回	まちづくりと居住福祉①…福祉のまちづくり		課題③（まちの観察と体験）	
第14回	まちづくりと居住福祉②…歩車分離と歩車共存		課題③（まちの観察と体験）	
第15回	まとめ		課題③（まちの観察と体験）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	85％			
レポート	－			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	15％ 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	毎講義の冒頭に、前回の講義内容に関する質問を口頭で行うので、前回の講義内容を復習しておくこと。 図面プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	木曜日10:50～12:20		メールアドレス	

授 業 科 目	器楽Ⅰ【実技】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	北原・今釜・井上・吉賀・吉田・篠原・大島・大和・藤・藤田・藤野・樋口		単 位	1
授業の目的と概要	小学校教諭や保育者になるために必要とされる、ピアノ伴奏に関して、基礎的な知識と技能および応用力をつけることを目的とする。ピアノを楽しく弾くこと、右手（メロディー）に対して、左手（伴奏）を付ける「伴奏付け」の能力、ピアノの弾き歌い、キイを子どもが歌いやすいように調子をあわせる「移調奏」など、保育の場面や小学校音楽の授業で役に立つ演奏能力を育てる授業を行う。			
到達目標	・ピアノを楽しく弾くことができる。 ・左手の伴奏など、伴奏付けについてピアノ演奏の基礎的知識と技術を身につける。 ・弾き歌い、コード伴奏、移調奏など、基礎をふまえて、実践で役に立つ演奏能力を培う。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	コードネーム、和音・カデンツの基礎知識		規定曲表に沿って練習をする	
第2回	コードネーム、和音・カデンツの基礎練習		規定曲表に沿って練習をする	
第3回	左手和音と右手メロディ（片手伴奏）の練習		規定曲表に沿って練習をする	
第4回	左手ベースと右手和音（両手伴奏）の練習		規定曲表に沿って練習をする	
第5回	各調のカデンツ		規定曲表に沿って練習をする	
第6回	伴奏付けの基礎知識① ハ長調の曲でのコード付け		規定曲表に沿って練習をする	
第7回	伴奏付けの基礎知識② #2つ、b2つ程度の曲のコード付け		規定曲表に沿って練習をする	
第8回	実用的な伴奏のための基礎練習① 伴奏系の基本を学ぶ		規定曲表に沿って練習をする	
第9回	実用的な伴奏のための基礎練習② 様々な伴奏系を学ぶ		規定曲表に沿って練習をする	
第10回	弾き歌いと移調奏の基礎練習① 弾き歌いの方法を学ぶ		規定曲表に沿って練習をする	
第11回	弾き歌いと移調奏の基礎練習② 移調奏		規定曲表に沿って練習をする	
第12回	前奏の付け方、伴奏リズムの付け方① 子どもに合図を出す		規定曲表に沿って練習をする	
第13回	前奏の付け方、伴奏リズムの付け方② 子どもの方を見ながら弾く		規定曲表に沿って練習をする	
第14回	発展的な伴奏の練習		規定曲表に沿って練習をする	
第15回	まとめ		別途指示する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	－			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	個人レッスンを基本としますので、理由のない授業への遅刻は厳禁とします。 2年前期『音楽演習』を履修しているとスムーズに理解ができます。			
教科書	こどものうた200（チャイルド社）※幼児取得を目指す学生 続こどものうた200（チャイルド社）※全学生			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の際に指示する			
オフィスアワー	北原：水曜日昼休み、月曜日1,2限 今釜：月・火昼休み、木曜日2限		メールアドレス	

授 業 科 目	器楽Ⅱ【実技】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	北原(幸)・今釜(亮)・篠原(敏)・大和(聡)・吉賀(貴)・名子(め)・八(三)・大島(陽)		単 位	1
授業の目的と概要	器楽Ⅰでの学習をふまえて上で、小学校教諭や保育者になるために必要とされる、弾き歌いに関して、基礎的な知識と技能の確認、及びさらなる応用力をつけることを目的とする。 ピアノを楽しく弾くこと、右手（メロディー）に対して、左手（伴奏）を付ける「伴奏付け」の能力、ピアノの弾き歌い、キイを子どもが歌いやすいように調子をあわせる「移調奏」など、保育の場面や小学校で役に立つ演奏能力を育てることを目的とする。			
到達目標	・ ピアノを楽しく弾くことができる。 ・ 左手の伴奏など、伴奏付けについてピアノ演奏の基礎的知識と技能を身につける。 ・ 弾き語り、移調奏など、基礎をふまえて、実践で役に立つ演奏能力を養う。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	左手和音と右手メロディ（片手伴奏）の基礎練習		規定曲表に沿って練習をする	
第2回	左手和音と右手メロディ（片手伴奏）の応用練習		規定曲表に沿って練習をする	
第3回	左手ベースと右手和音（両手伴奏）の基礎練習		規定曲表に沿って練習をする	
第4回	左手ベースと右手和音（両手伴奏）の応用練習		規定曲表に沿って練習をする	
第5回	伴奏付けの基礎知識① ハ長調のコード付け		規定曲表に沿って練習をする	
第6回	伴奏付けの基礎知識② #1つ、b1つの曲のコード付け		規定曲表に沿って練習をする	
第7回	実用的な伴奏のための基礎練習① コードを押さえての伴奏		規定曲表に沿って練習をする	
第8回	実用的な伴奏のための基礎練習② 片手伴奏での弾き歌い		規定曲表に沿って練習をする	
第9回	実用的な伴奏のための基礎練習③ 両手伴奏での弾き歌い		規定曲表に沿って練習をする	
第10回	弾き歌いと移調奏の基礎練習① 様々な伴奏系での弾き歌い		規定曲表に沿って練習をする	
第11回	弾き歌いと移調奏の基礎練習② 移調奏		規定曲表に沿って練習をする	
第12回	伴奏の応用練習① 1・2年生のうたや園生活のうた		規定曲表に沿って練習をする	
第13回	伴奏の応用練習② 3・4年生のうたやうたあそび		規定曲表に沿って練習をする	
第14回	伴奏の応用練習③ 5・6年生のうたや季節のうた		規定曲表に沿って練習をする	
第15回	まとめ		試験曲の練習をする	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	－			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	個人レッスンを基本としますので、理由のない授業への遅刻は厳禁とします。 1年後期「音楽基礎」、2年前期「音楽演習」、2年後期「器楽Ⅰ」を受けていると理解が深まります。			
教科書	こどものうた200（チャイルド社）※幼児取得を目指す学生 続こどものうた200（チャイルド社）※全学生			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の際に指示する			
オフィスアワー	北原：月曜日1,2限、水曜日昼休み 今釜：水曜日昼休み、4,5限		メールアドレス	

授 業 科 目	基礎専門ゼミナールⅠ【演習】			開 講 時 期	前期
担 当 教 員	花野 裕康・野中 亮・赤枝 香奈子			単 位	2
授業の目的と概要	基礎専門ゼミナールⅠでは、社会学系教員がオムニバス形式で各4回授業を行い、3年次開講の専門ゼミナールへの道筋をつける。初回と最終回は3教員が揃ってそれぞれ授業の趣旨と総括とを行うが、それ以外の回は3教員が各自専門ゼミおよび卒業ゼミにて実施する「各教員の得意分野」を紹介・解説する形式となる。中には屋外でのフィールドワークを実施する回もあり、その内容は多彩である（野外活動に関し健康状態等に不安がある場合は応相談）。なお中間部にゲストを招く回も設ける予定である。受講者はこの授業を通じて各教員の研究内容を把握する事が目的となる。その上で、自分が（基礎専門ゼミナールⅡの経営学系3教員と併せて比較検討することで）どの教員の専門ゼミおよび卒業ゼミへ所属を希望するかを判断することが最終目的となる。なお本授業は受講者を3グループに分けて同時進行で行われるので、野中・赤枝・花野の担当順序はグループによって異なる。				
到達目標	①社会学系3教員それぞれの研究内容をおおまかに理解し、自分の言葉で説明出来る。 ②1年次履修した社会学系授業を土台として、社会学という学問が現在どのような研究を行っているか理解し説明出来る。 ③自身の進路や興味関心に応じて、3教員のうちどの教員の専門ゼミナールへ所属を希望するか明確に判断できる（最終的な専門ゼミナールの希望は、後期開講の基礎専門ゼミナールⅡとも考え併せた上で決めることができる）。				
この授業が目的としているDPや関連する科目など	（3）-②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 本ゼミナールは、1年次に履修した「基礎ゼミナール」の発展版として、その基礎の上に立つ性格を持ちます。その他、ビジネス社会コースで1年次に必修となっている科目はすべて関連性があると考えてください。				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（3教員参加）			オリエンテーションを受けて3教員の研究内容を調べる	
第2回	野中担当① フィールドワークとは何か：太宰府門前町を事例に			プリントで予習。次回までに調査対象を考えてくる	
第3回	野中担当② 調査項目の策定とデータの取り方：ノート・写真・録音			設定した課題に対する適切な調査方法の選択・考案	
第4回	野中担当③ フィールドワークの実施：門前町での調査体験			タイムスケジュールの確認と収集したデータの整理	
第5回	野中担当④ フィールドワークのまとめ：「報告書」の作成			データ整理と報告書の作成	
第6回	赤枝担当① 今まで行ってきた研究について：ジェンダー／セクシュアリティ研究			レポートに備えて自宅でこの回の内容と見解をまとめる	
第7回	赤枝担当② 資料を読んでみる①：戦前編			レポートに備えて自宅でこの回の内容と見解をまとめる	
第8回	赤枝担当③ 資料を読んでみる②：戦後編			レポートに備えて自宅でこの回の内容と見解をまとめる	
第9回	赤枝担当④ 資料からわからないことをどうやって調べるか			赤枝担当の4回分の授業内容に関してレポートを作成	
第10回	ゲストスピーカー（未定：3教員参加）			ゲストスピーカーの授業を受けてのレポートを作成	
第11回	花野担当① 音楽を社会学する(1)：音楽と社会			レポートに備えて自宅でこの回の内容と見解をまとめる	
第12回	花野担当② 音楽を社会学する(2)：音楽ジャンルの多様化			レポートに備えて自宅でこの回の内容と見解をまとめる	
第13回	花野担当③ 音楽を社会学する(3)：「聴く」から「演奏する・歌う」へ			レポートに備えて自宅でこの回の内容と見解をまとめる	
第14回	花野担当④ 音楽を社会学する(4)：楽曲の高速化			花野担当の4回分の授業内容に関してレポートを作成	
第15回	総括（3教員参加）			全授業を総括した上で自身の関心を提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	なし				
レポート	100％（全4回：各教員のゼミ終了時およびゲストの回終了時にそれぞれ提出。なおレポートは次週授業開始時[その週休んだ場合はそれ以降の授業開始時または授業終了後の場合はオフィスアワー時]に返却する）				
小テスト等	なし				
成果発表	なし				
受講態度他	欠席や授業に積極的に参加しない等、受講態度が良くない受講者は評価に影響する。				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。これまでの自らの経験と知識とを総動員しながら考えつつ受講すること。授業に積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。				
教科書	なし				
指定図書	なし				
参考図書	なし				
オフィスアワー	野中：水曜2限 赤枝：火曜3限 花野：月曜から木曜の昼休み、またはメールで相談			メールアドレス	

授 業 科 目	基礎専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	荒巻(龍)・吉野(嘉)・一ノ瀬(元)・岡本(文)・一木(順)・橋本(嘉)・小山(昌)・須藤(遙)		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業では、1年次の「基礎ゼミナール」の内容を踏まえつつ、そこで学んだ様々な学習上の手法をメディアコース専任教員の専門領域で活用することを目的とする。各教員が3回ずつ講義を担当し、それぞれの専門領域の概要、調査・研究方法の解説などのほか、授業内外で様々な活動を行うことで自律的な学習態度を身につけることを目的とする。 この講義は3年次の「専門ゼミ」、4年次の「卒業ゼミ」の前段階に当たるものであり、関連する分野を幅広く学びつつ自らの希望する研究分野を明確にすることができることが望ましい。			
到達目標	1. 共通する基礎的な内容と個別の調査・研究方法や実践方法の両方を大まかに理解することができる。 2. 自分の目指す研究や学修の方向性を見定め、今後の研究等のイメージを持つことができる。 3. 基礎ゼミナールで学んだ様々な学習手法を活用することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション：授業の概要・趣旨、日程・授業の進め方など		復習	
第 2回	映像制作 (1) 映像制作の手順、映像制作の準備		(予習)「映像制作の手順」を読む (復習)企画 (書)を各自作成	
第 3回	映像制作 (2) 企画 (グループワーク) から絵コンテまで		(予習)「絵コンテの描き方」を読む (復習)絵コンテを各自作成する	
第 4回	映像制作 (3) 絵コンテ (グループワーク) から撮影準備まで		(予習)ロケハン実施 (復習)グループで絵コンテを作成する	
第 5回	情報システムについて 情報社会の機能を担うコンピュータについて		「情報システム」とは何かについて調べる	
第 6回	コンピュータプログラム アルゴリズムについて		アルゴリズムとは何かを調べる	
第 7回	コンピュータプログラミング プログラミングの実際		アルゴリズムについて	
第 8回	映像メディアと情報編集-ニュース、ドキュメンタリーの手法とは		授業資料を読むこと	
第9回	映像メディアと情報編集-わかりやすく伝える技術とは		ニュース記事の作成	
第10回	映像メディアと情報編集-“情報がありすぎる社会”での情報活用法		ニュース記事の修正	
第11回	映像メディア資料・フィールドワーク・ボランティアを通して学ぶという方法		映像メディア・フィールドワーク・ボランティアに関する経験の振り返り	
第12回	映像メディア資料・フィールドワーク・ボランティアの実際		事前に配布した資料を読む	
第13回	課題の抽出と課題解決のための学び、そして実践		事前に配布した資料を読む	
第14回	戦争の不在『スターウォーズ』における戦争表象		『スターウォーズⅣ』の鑑賞レポートを作成すること	
第15回	まとめ		授業内で指示します	
成 績 評 価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	ー			
レポート	90% 各担当教員が課するレポート課題など			
小テスト等	ー			
成果発表	ー			
受講態度他	10% 受講態度など(遅刻や欠席が多い場合には減点します。)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修前に必ず「基礎ゼミナール」で行われた内容を復習しておいて下さい。 授業では「筑女ネット」も活用しながら行われることがあります。 詳細な時間割は初回の授業で示します。			
教科書	なし(プリントならびに「筑女ネット」のオンライン教材など)			
指定図書	なし			
参考図書	各担当教員が授業の時に紹介します。(「基礎ゼミナール」テキスト)			
オフィスアワー	各担当教員のシラバスを参照		メールアドレス	

授 業 科 目	基礎専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	安恒 万記・佐々木 浩・栗木 明裕・上村 真仁		単 位	2
授業の目的と概要	本演習は、3年次「専門ゼミナールⅠ」、「専門ゼミナールⅡ」、「4年次「卒業ゼミナールⅠ」、「卒業ゼミナールⅡ」の導入と位置づけられた科目です。環境共生コースのいろいろな分野について複数教員がオムニバス形式で、3、4年次に開講する各教員のゼミナールで取り上げる内容やテーマを紹介します。 「基礎専門ゼミナールⅡ」と合わせて履修し、環境共生社会コースのいろいろな分野の学びに触れ、3年次の「専門ゼミナール」へと繋げることを目的とします。			
到達目標	1.各テーマについて詳しく説明できる。 2.自らの興味関心と各テーマとを結びつけることができる。 3.目的意識を持って研究テーマを選択できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（ゼミナールデモンストレーションとファシリテーター決定）		情報整理	
第2回	新聞記事検索の方法と論点整理		新聞記事を探す・要約する・討論のための資料準備	
第3回	ゼミナール①新聞記事をもとに討論（栗木）		新聞記事を探す・要約する・討論のための資料準備	
第4回	ゼミナール②新聞記事をもとに討論（栗木）		新聞記事を探す・要約する・討論のための資料準備	
第5回	ゼミナール③新聞記事をもとに討論（栗木）		新聞記事を探す・要約する・討論のための資料準備	
第6回	ゼミナール④新聞記事をもとに討論（上村）		新聞記事を探す・要約する・討論のための資料準備	
第7回	ゼミナール⑤新聞記事をもとに討論（上村）		新聞記事を探す・要約する・討論のための資料準備	
第8回	ゼミナール⑥新聞記事をもとに討論（上村）		新聞記事を探す・要約する・討論のための資料準備	
第9回	外部講師の講義		内容のまとめ	
第10回	ゼミナール⑦新聞記事をもとに討論（安恒）		新聞記事を探す・要約する・討論のための資料準備	
第11回	ゼミナール⑧新聞記事をもとに討論（安恒）		新聞記事を探す・要約する・討論のための資料準備	
第12回	ゼミナール⑨新聞記事をもとに討論（安恒）		新聞記事を探す・要約する・討論のための資料準備	
第13回	ゼミナール⑩新聞記事をもとに討論（佐々木）		新聞記事を探す・要約する・討論のための資料準備	
第14回	ゼミナール⑪新聞記事をもとに討論（佐々木）		新聞記事を探す・要約する・討論のための資料準備	
第15回	ゼミナール⑫新聞記事をもとに討論（佐々木）		新聞記事を探す・要約する・討論のための資料準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	50％			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	修科目なので全員受講し、遅刻・欠席をしないよう心がけてください。 授業外学習が多く組まれていますので、しっかりと取り組んでください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	各担当者から授業の中で適宜指示がある場合があります。			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授 業 科 目	基礎専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	藤原 隆信・大橋 健治・篠崎 真美		単 位	2
授業の目的 と概要	この科目は、3年次から始まる専門ゼミナールのための準備として開設されています。ビジネス社会コースに所属する3名のビジネス分野の教員が4回を分担し、それぞれの教育方針や教育スタイルを受講生に知ってもらうのが目的です。授業計画では、藤原→大橋→篠崎の順番になっていますが、実際には3クラス編成なので、最初に篠崎が担当するクラスもあります。どのクラスに属しても、3名の教員がそれぞれ4回を各自の授業計画にしたがって教えることになります。			
到達目標	(1) ソーシャルビジネスというものを理解でき、自分たちなりにソーシャルビジネスを構想できる。(藤原担当授業) (2) 企業における社員の働き方がイメージできる。(大橋担当授業) (3) 企業分析方法を習得し、自ら企業の分析結果を纏めることができる。(篠崎担当授業)			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス：3名の教員がそれぞれ概要を説明します。(合同授業)		特になし。	
第2回	ソーシャルビジネス(1)(担当：藤原) ——「ソーシャルビジネス」とは何か？		「ソーシャルビジネス」とは何ですか？ @各自で調べてきて下さい。	
第3回	ソーシャルビジネス(2)(担当：藤原) ——事例紹介とディスカッション①：社会問題から「ニーズ」を読む		あなたの関心のある「社会問題」は何ですか？その実態を調べてきて下さい。	
第4回	ソーシャルビジネス(3)(担当：藤原) ——事例紹介とディスカッション②：「仕組み」を考える		あなたの関心のある「社会問題」を解決する方法を考えてきて下さい。	
第5回	ソーシャルビジネス(4)(担当：藤原) ——成果発表：「私たちの考えるソーシャルビジネス！」		チームメンバーで議論し、発表の準備をしてくけて下さい。	
第6回	企業の人材開発システム(1)(担当：大橋) ——社内格付け制度と昇進管理		プリント類の通読と質問の準備	
第7回	企業の人材開発システム(2)(担当：大橋) ——賃金管理		プリント類の通読と質問の準備	
第8回	企業の人材開発システム(3)(担当：大橋) ——労務時間管理		プリント類の通読と質問の準備	
第9回	企業の人材開発システム(4)(担当：大橋) ——能力開発施策		プリント類の通読と質問の準備	
第10回	ゲストスピーカーによる講演(合同授業)		ゲストスピーカーに関する資料を読み、質問を考えてきて下さい。	
第11回	企業研究(1)(担当：篠崎) ——企業分析のしかた		授業の中で提示します。	
第12回	企業研究(2)(担当：篠崎) ——企業経営のケーススタディ		授業の中で提示します。	
第13回	企業研究(3)(担当：篠崎) ——国際経営のケーススタディ		授業の中で提示します。	
第14回	企業研究(4)(担当：篠崎) ——環境経営のケーススタディ		授業の中で提示します。	
第15回	総括：基礎専門ゼミの振り返り(合同授業)		基礎専門ゼミⅠ＆Ⅱの内容を振り返っておいください。	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	33%			
小テスト等	なし			
成果発表	33%			
受講態度他	34%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ゼミナールは通常の講義科目よりも、受講生の自発的かつ主体的な関わりが求められます。またゼミナールでは、通常科目よりも事前学習が重要になってきます。授業計画で指示した授業外学修の成果は、必ず提出してもらいますので、提出がない場合は欠席と見なされます。			
教科書	とくにありません。			
指定図書	必要に応じて指示します。			
参考図書	必要に応じて指示します。			
オフィスワ-	担当教員の他科目のシラバス参照		メールアドレス	

授 業 科 目	基礎専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	荒巻(龍)・吉野(嘉)・一ノ瀬(元)・岡本(文)・一木(順)・橋本(嘉)・小山(昌)・須藤(遙)		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業は前期の「基礎専門ゼミナールⅠ」に続いて、1年次の「基礎ゼミナール」の内容を踏まえつつ、そこで学んだ様々な学習上の手法をメディアコース専任教員の専門領域で活用してみようことを目的とする。各教員が3回ずつ講義を担当し、それぞれの専門領域の概要、調査・研究方法の解説などのほか、授業内外で様々な活動を行うことで自律的な学習態度を身につけることを目的とする。 この講義は3年次の「専門ゼミ」、4年次の「卒業ゼミ」の前段階に当たるものであり、関連する分野を幅広く学びつつ自らの希望する研究分野を明確にすることができることが望ましい。			
到達目標	1. 共通する基礎的な内容と個別の調査・研究方法や実践方法の両方を大まかに理解することができる。 2. 自分の目指す研究や学修の方向性を見定め、今後の研究等のイメージを持つことができる。 3. 基礎ゼミナールで学んだ様々な学習手法を活用することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	表象されるベトナム戦争		ベトナム戦争についてA41枚程度のリサーチペーパーを作成	
第 2 回	ベトナム戦争とアメリカ		指定された資料を読んでくること	
第 3 回	カラーコーディネートの基礎、色彩に関する専門知識について		復習：カラーコーディネート課題、デザイン演習準備	
第 4 回	デザイン演習①：美的形式原理に基づくカラーコーディネート		デザイン演習課題	
第 5 回	デザイン演習②：カラーコーディネートの応用		色彩とカラーコーディネートプリント	
第 6 回	DTP入門?：出版コンテンツ産業と著作権（画像の種類と扱い方を学ぶ）		著作権侵害の事例を調べる、ペイントソフトpixiaの使い方	
第 7 回	DTP入門?：雑誌の表紙風ページ制作（ネット上での共同作業の進め方も学ぶ）		PCでのメールの送り方のマナー、制作にしたい写真（高画質）の準備	
第 8 回	データベースを用いたコンテンツ分析（新聞・雑誌記事や部数を調べる）		競合誌比較等のレポート（＝課題）	
第9 回	魔法少女アニメのジェンダーを読む　－「魔法使いサリー」「ミンキーモモ」「まど☆マジ」		三作品のいずれかについて事前に少しでも視聴しておくこと	
第10 回	2つの「ブラックジャック」－手塚治虫「ブラックジャック」／佐藤秀峰「ブラックジャックによろしく」を読む		二作品のいずれも事前に少しでも読んでおくこと	
第11 回	「ラブコメ」の恋愛イデオロギーを読む　－「うる星やつら」「いちご100%」「アオハライド」		三作品のいずれかについて事前に少しでも視聴しておくこと	
第12 回	ブレインストーミング		周囲をよく観察し、発想力を高める。	
第13 回	小論文の書き方・演習		小論文の書き方の復習	
第14 回	小論文の講評・就活エントリーシート作成へ向けて		講評をよく読み、就活に活かせるよう復習	
第15 回	専門ゼミナールに向けて		各教員の専門領域についての紹介資料を再読すること	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	90％　各担当教員が課するレポート課題など			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	10％　受講態度など(遅刻や欠席が多い場合には減点します。)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修前に必ず「基礎ゼミナール」で行われた内容を復習しておいて下さい。 授業では「筑女ネット」も活用しながら行われることがあります。 詳細な授業時間割は初回の授業で示します。			
教科書	なし(プリントならびに「筑女ネット」のオンライン教材など)			
指定図書	なし			
参考図書	各担当教員が授業の時に紹介します。(「基礎ゼミナール」テキスト)			
オフィスワーク	各担当教員のシラバスを参照		メールアドレス	

授 業 科 目	基礎専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	安恒 万記・佐々木 浩・栗木 明裕・上村 真仁		単 位	2
授業の目的 と概要	本演習は、3年次「専門ゼミナールⅠ」、「専門ゼミナールⅡ」、「4年次「卒業ゼミナールⅠ」、「卒業ゼミナールⅡ」の導入と位置づけられた科目です。環境共生コースのいろいろな分野について複数教員がオムニバス形式で、3、4年次に開講する各教員のゼミナールで取り上げる内容やテーマを紹介します。 「基礎専門ゼミナールⅡ」と合わせて履修し、環境共生社会コースのいろいろな分野の学びに触れ、3年次の「専門ゼミナール」へと繋げることを目的とします。			
到達目標	1.各テーマについて詳しく説明できる。 2.自らの興味関心と各テーマとを結びつけることができる。 3.目的意識を持って研究テーマを選択できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		前期の振り返りをする	
第2回	ライフスタイル①（栗木）～資料の読み込みと討論		討論のための準備	
第3回	ライフスタイル②（栗木）～まとめ		内容のまとめ	
第4回	ライフスタイル③（栗木）～自由ゼミナール		内容のまとめ	
第5回	コミュニティデザイン①（上村）～資料の読み込みと討論		討論のための準備	
第6回	コミュニティデザイン②（上村）～まとめ		内容のまとめ	
第7回	コミュニティデザイン③（上村）～自由ゼミナール		内容のまとめ	
第8回	住環境デザイン①（安恒）～資料の読み込みと討論		討論のための準備	
第9回	住環境デザイン②（安恒）～まとめ		内容のまとめ	
第10回	住環境デザイン③（安恒）～自由ゼミナール		内容のまとめ	
第11回	自然共生①（佐々木）～資料の読み込みと討論		討論のための準備	
第12回	自然共生②（佐々木）～まとめ		内容のまとめ	
第13回	自然共生③（佐々木）～自由ゼミナール		内容のまとめ	
第14回	専門ゼミナールに向けて		自身の興味・関心あるテーマをまとめる	
第15回	まとめ		専門ゼミナール希望調査	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	50％			
受講態度他	50％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	修科目なので全員受講し、遅刻・欠席をしないよう心がけてください。 授業外学習が多く組まれていますので、しっかりと取り組んでください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	各担当者から授業の中で適宜指示がある場合があります。			
オフィスワ ーク	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授 業 科 目	基礎ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	石井 康仁・間瀬 玲子・宮原 牧子・高森 暁子・小林 久泰・三日月 雅子		単 位	2
授業の目的 と概要	「基礎ゼミナールⅠ」は、これから大学での学修を始める皆さんに、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基礎的知識やスキルを学んでもらうための科目です。その中には、自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集することや、レポートやオーラルプレゼンテーションを通して自己表現を行うことなどが含まれます。			
到達目標	・大学を学びの場をして活用することができる。 ・それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。 ・問題解決に必要な情報を集めることができる。 ・同級生との対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる。 ・自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる。 ・自分の希望するキャリアの中で、大学生活の意義を発見することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 この授業で習得した知識や技能は今後の大学生活における基礎知識となります。 また後期に開講される「基礎ゼミナールⅡ」はこの授業の上級編です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション：大学で「自ら学ぶ」ということについて		年間目標を作る	
第 2回	先輩学生による大学オリエンテーション		4年間の履修モデルを作る	
第 3回	ライフマネジメント		10年計画表を作る	
第 4回	九州国立博物館見学		ネットで博物館・美術館情報を調べる	
第 5回	図書館・インターネットの利用法について		読書レポート	
第 6回	読書レポート報告（口頭発表）および意見交換/文章の読み方		新聞記事、雑誌 文庫本、新書等 から課題	
第 7回	自分の興味・関心に基づきテーマを設定することについて		テーマの決定・資料収集	
第 8回	テーマの絞り込み・決定、調査・研究の仕方について		発表資料作成	
第 9回	効果的なオーラルプレゼンテーションとは？		発表資料作成	
第10回	発表資料作成		発表準備	
第11回	プレゼンテーション、討論		発表準備	
第12回	プレゼンテーション、討論		発表準備	
第13回	プレゼンテーション、討論		レポート作成の準備	
第14回	レポートの書き方（引用の仕方、参考資料の挙げ方など）		レポート作成の準備	
第15回	レポート作成		レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％ 学期末レポート			
小テスト等	－			
成果発表	30％ プレゼンテーションの評価			
受講態度他	20％ 授業への参加態度の評価			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	少人数制のクラスなので、積極的に授業に参加すること。また、レポートを書く際、引用の仕方が適切でないと、盗用・剽窃となるので、その点は重々注意すること。			
教科書	各担当教員が指定			
指定図書	各担当教員が指定			
参考図書	各担当教員が指定			
オフィスワ－	担当教員の他科目のシラバスを参照してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	基礎ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小野 望・松下 博文・高山 百合子・森田 真也・安永 美恵・鴈野 恵		単 位	2
授業の目的と概要	「基礎ゼミナールⅠ」は、これから大学での学修を始める皆さんに、大学で学ぶことの意義と、大学で学んでゆく上で必要となる基本的知識やスキルを学んでもらうための科目です。その中には、「周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけること。大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけること。自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること。レポートやオーラルプレゼンテーションを通して、自己表現を行うこと。」などが含まれています。合わせて、日本語・日本文学科では、大学生活のルールを理解し、学ぶための基本的な態度を身につけることや、基礎ゼミナールのクラスの仲間とのコミュニケーションも重視しています。具体的な内容については、各担当教員の指導によります。			
到達目標	1. 大学を学びの場として活用することができる。 2. 自分の興味や関心のあるテーマを設定することができる。 3. 図書館やインターネット等を有効に利用し、問題解決に必要な情報を集めることができる。 4. 集めた情報を分類し整理することができる。 5. 受講生同士の対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる。 6. 自分の意見をプレゼンテーションやレポートを通して表現することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	「基礎ゼミナールⅠ」は共通科目のDP2「人に学び、人とのつながりの中で人生を豊かに作り上げる」ための科目です。この授業で習得した知識や技能は、今後の大学生活における基礎知識となります。また後期に開講される「基礎ゼミナールⅡ」は、この授業の発展科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：これからの学びと自己紹介		授業の目的と内容について理解する	
第2回	大学で自ら学ぶとは？（本学科の学び、講義の受け方、ノートの取り方を含む）		大学の授業の特徴と受講する上での注意点について理解する	
第3回	大学生活について、学内各施設や研究室案内		大学生活の基礎や学内の施設について理解する	
第4回	日本語・日本文学科のカリキュラム		日本語・日本文学科のカリキュラムのポリシーと構造について理解する	
第5回	資料の検索と収集（図書館ガイダンス）		図書館の利用の仕方について理解する	
第6回	興味・関心から問題の発見とテーマ設定について（レポート・プレゼンテーション共通内容を含む）		発表の目的と内容について考える	
第7回	資料の収集（レポート・プレゼンテーション共通内容を含む）		資料の収集を行なう	
第8回	発表の仕方・配布資料の作成（レポート・プレゼンテーション共通内容を含む）		発表方法について理解し発表資料を作成する	
第9回	口頭発表と質疑応答①		発表準備	
第10回	口頭発表と質疑応答②		発表準備	
第11回	外部講師による特別講義		特別講義の内容に関するレポート	
第12回	口頭発表と質疑応答③		発表準備	
第13回	口頭発表と質疑応答④		発表準備	
第14回	レポート（文章）の書き方		口頭発表内容のレポート	
第15回	まとめ。レポートの提出。		授業全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ レポートおよび提出物。			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ 口頭発表と質疑応答。			
受講態度他	40％ 積極的な授業参加を重視します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず授業に出席すること。欠席・遅刻のないように。成績は口頭発表のほかに、授業に対する態度、レポートの内容などを含めて評価する。 具体的な評価は、各担当教員による。課題は、各担当教員より適時指示する。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし（ただし、担当教員が授業中に紹介することがある）。			
オフィスアワー	水曜日昼休み（12:30～13:00）。		メールアドレス	

授 業 科 目	基礎ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	田村 史子・喜多村 百合・裊 海善・小林 知美・羅 義圭		単 位	2
授業の目的 と概要	「基礎ゼミナールⅠ」は、これから大学での学習を始める皆さんに、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいくうえで必要な基本的知識やスキルを学んでもらうための科目です。その中には、「自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと」、「自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること」、「レポートやオーラルプレゼンテーションを通して、自己表現を行うこと」が含まれています。 具体的には、全体での大学の学びに関する講義、ABクラス別の図書館利用案内・九州国立博物館見学・ガムラン等の体験学習、4グループに分かれての調べ学習・発表を行います。			
到達目標	1. 大学を学びの場として活用することができる。 2. それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる 3. 問題解決に必要な情報を集めることができる 4. 同級生との対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる 5. 自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	はじめに ゼミナールの内容紹介 受講生の自己紹介・キャンパスツアー（グループ別）		大学の設備や学びの雰囲気を把握すること	
第 2回	筑女の森ツアー（合同）		感想レポートの作成	
第 3回	大学での学び①キャリアを見据えた学びの意義（合同）		進路支援課の情報を把握する	
第 4回	大学での学び②図書館利用のオリエンテーション（合同）		図書館やCJコモンズ、学生自習室等を利用する	
第 5回	九州国立博物館見学／ガムラン体験学習（クラス別）		感想レポートの作成	
第 6回	ガムラン体験学習／九州国立博物館見学（クラス別）		感想レポートの作成	
第 7回	大学での学び③レジュメ・レポートの書き方について（合同）		テーマ設定の検討	
第 8回	図書館ガイダンス（合同）		図書館で本を借り、レジュメを作成する	
第 9回	学生各自によるテーマのプレゼンテーションと討論（グループ別）		資料の収集と検索、レジュメの作成、プレゼンの準備	
第10回	学生各自によるテーマのプレゼンテーションと討論（グループ別）		資料の収集と検索、レジュメの作成、プレゼンの準備	
第11回	国際交流体験①アジア文化賞紹介		感想レポートの作成・夏休みの宿題の確認	
第12回	アジア学への招待鑑賞		感想レポートの作成（A4用紙、800字）	
第13回	学生各自によるテーマのプレゼンテーションと討論（グループ別）		資料の収集と検索、レジュメの作成、プレゼンの準備	
第14回	国際交流体験②留学経験者との座談会		感想レポートの作成	
第15回	まとめ		最終レポートの作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％（図書検索票・博物館・ガムラン・最終レポート）			
小テスト等	－			
成果発表	40％ 授業中のプレゼンテーション			
受講態度他	20％ 受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	各担当教員の他のシラバス参照		メールアドレス	

授 業 科 目	基礎ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	板井(修)・大元(千)・古田(瑞)・宮平(喬)・薄(千)・平山(静)・原田(博)・岡山(万)		単 位	2
授業の目的 と概要	「基礎ゼミナールⅠ」はこれから大学で学修を始める皆さんに、大学で学ぶことの意義及び大学で学んでいく上で必要な基本的知識やアカデミックなスキルを身につけるための科目です。			
到達目標	・大学における学習に意義を見いだすことができる。 ・課題解決に必要な情報を集めることができる。 ・文章を批判的な目線で読んだり、要約することができる。 ・自分の主張をレポート作成や、プレゼンテーションを行うことを通して表現することができる。 ・グループ協議の中で他者の意見を聞き、自ら意見を述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 この授業で習得した知識や考え方は、今後の大学生活における基礎となります。また基礎ゼミナールⅡは、本授業を継続、発展した様式で展開される関連科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：授業概要の説明、ゼミ内の交流等		自己を分析し表現する手段を考える	
第2回	大学での学び：高校と大学の違い、学生生活等		予習：テキストA,0章	
第3回	基本的な文献検索方法：図書館、学習支援センターの利用法		予習：テキストA,5-7章 テキストB,3章	
第4回	リーディングとノートティキング：文章の読み方と大学の授業に対応したノートの取り方		予習：テキストA,1章 ノートの取り方を再検証	
第5回	クリティカルリーディング：批判的な文章の読み方、要約の仕方（著書、新聞、教育論文）		予習:テキストA,2-3章 要約文書の発表準備	
第6回	リーディングとプレゼン：要約した文章（著書、新聞、教育論文）を発表する。 グループ討議及び全体協議を通じてプレゼン手法を学ぶ。		予習：テキストA,2-3章 テキストB,3章 レポートのテーマを探す	
第7回	レポート作成：書式と構成		予習：テキストA,4-5章 テキストB,1章 レポートの下書き	
第8回	レポート作成：テーマ決め、参考文献、構成等		予習：テキストA,4-5章 テキストB,2章 レポート作成	
第9回	レポート作成：見解、結論の吟味、文章の推敲		予習：テキストA,4-5章 テキストB,4章 レポート完成させる	
第10回	プレゼンの方法：レジュメ作成及び、その手段やポイント等		予習：テキストA,8-9章 発表資料の作成	
第11回	プレゼンテーション：発表と討議①		予習：テキストA,8-9章 発表の準備、知見の整理	
第12回	プレゼンテーション：発表と討議②		予習：テキストA,8-9章 発表の準備、知見の整理	
第13回	プレゼンテーション：発表と討議③		予習：テキストA,8-9章 発表の準備、知見の整理	
第14回	プレゼンテーション：発表と討議④		予習：テキストA,8章 発表の準備、知見の整理	
第15回	総括：学びの再確認及び基礎ゼミナールⅡの説明		見学実習に向けての課題準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 1200-1600字、書式なども評価の対象 レポートは添削し返却する。			
小テスト等	20％ 文書要約（読書感想・新聞記事・教育論文等）（400-600字）			
成果発表	20％ レジュメを用いたプレゼンテーション プレゼンの評価はフィードバックする。			
受講態度他	20％ 授業への積極的な態度は加点し、授業態度が悪い学生は減点する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・少人数クラス（ゼミナール形式）の授業形態です。 ・理由のない欠席や遅刻は減点の対象となります。 ・提出物のめ切は厳守すること。 ・発表資料等は余裕を持って準備しておくこと。			
教科書	世界思想社編集部編 「大学生学びのハンドブック」世界思想社（テキストA） 小笠原喜康 「新版 「大学生のためのレポート・論文術」講談社現代新書（テキストB）			
指定図書	特になし			
参考図書	田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房			
オフィスワー	担当教員のシラバスを参照		メールアドレス	

授 業 科 目	基礎ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	酒井 均・浅田 淳一・大鶴 香・森田 理香		単 位	2
授業の目的と概要	大学で学ぶことの意義を知り、大学で学ぶために必要な基本的知識やスキルを習得する科目です。具体的には、 1. 自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な文献を収集すること 2. レポートや口頭発表を通して自己表現を行うこと 3. 周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけること を目的とします。所属するコースの専任教員が分担して、学生20名前後のゼミ形式で実践的に学んでいきます。学生一人ひとりが設定したテーマについて、文献を探して読み、発表資料を作成します。その発表資料を使って口頭発表し、そのテーマについてレポートを書きます。発表担当者以外は、発表者に対する質問、意見を述べることで授業に参加します。 スケジュールは担当教員や学生数によって若干異なります。			
到達目標	1. 自分の興味や関心のあるテーマを設定することができる。 2. 図書館やインターネット等を有効に利用し、文献の検索・資料の収集ができる。 3. 集めた情報を分類、整理し、発表資料を作成することができる。 4. 調べた内容や主張したい内容を効果的にプレゼンテーションすることができる。 5. 調べた内容や自分の主張をレポートとして作成することができる。 6. 学生同士で的確なコミュニケーションをとることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：大学で学ぶとは		tx.p.2-11予習および復習	
第2回	授業理解を深めるために：講義の聞き方・ノートの取り方		tx.p.12-21 予習および復習	
第3回	各自の課題を設定する：興味・関心から発表テーマへ		テーマ設定	
第4回	情報を集める：大学図書館利用法、PCを利用した情報収集		文献等リスト作成	
第5回	深く読むために：本の読み方、文章のまとめ方		文献等リスト作成	
第6回	上手な口頭発表のために：発表資料の作成、発表の仕方、聞き方		tx.p.82-114 予習および復習	
第7回	レポートの書き方		tx.p.36-79 予習および復習	
第8回	発表と討論：担当者が選んだテーマでの発表と討論		各回の発表担当者は発表準備	
第9回	発表と討論		発表テーマについて質問や意見の準備	
第10回	発表と討論		発表テーマについて質問や意見の準備	
第11回	発表と討論		発表テーマについて質問や意見の準備	
第12回	発表と討論		発表テーマについて質問や意見の準備	
第13回	発表と討論		発表テーマについて質問や意見の準備	
第14回	発表と討論		発表テーマについて質問や意見の準備	
第15回	まとめ：さらなる学びへ		レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 口頭発表後に調べ直して補足訂正したレポート 基礎ゼミナールⅡで返却します			
小テスト等	なし			
成果発表	40％ 各自が担当する口頭発表と、発表資料			
受講態度他	20％ 他の人が発表するときの、質問意見			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・欠席をしないよう心がけてください。積極的な参加、自発的な学習が必要です。 その他、各ゼミ担当教員の指示を受けてください。			
教科書	田中共子（編）『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に指示			
オフィスアワー	浅田：火除く昼休、大鶴：火4限、酒井：水昼休、森田：月昼休	メールアドレス		

授 業 科 目	基礎ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	徳永 勇・高木 佳世子		単 位	2
授業の目的と概要	本演習は、以下の事柄をととして、大学で学ぶことの意義を知り、大学で学ぶために必要な基本的知識や技能を習得する科目である。 1. 自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること。 2. 調べてわかったことや自分の意見をとりまとめて、口頭やレポートで発表すること。 3. 周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけること。 所属する専攻の専任教員が分担して、学生10名前後のゼミ形式で実践的に学んでいく。学生一人ひとりが、設定したテーマもとづき文献を読みこなし、口頭発表を行い、レポートを書く。発表担当者以外は、発表者に対する質問、意見を言うことで授業に参加しよう。			
到達目標	1. 自身の興味や関心のあるテーマを設定することができる。 2. 図書館やインターネット等を有効に利用し、文献・資料の収集ができる。 3. 集めた情報を分類し整理することができる。 4. 自分がとりまとめた内容をプレゼンテーションできる。 5. 質の高いレポートを書くことができる。 6. 学生同士で的確なコミュニケーションをとることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 自己紹介			自分を表現するためのアイデアを考えておこう。	
第2回 大学での学びの特徴と講義の聞き方・ノートの取り方			テキスト pp.2-21 予習および復習	
第3回 文献の検索・収集の方法——大学図書館利用法、とくにPCを利用した情報収集の方法（コンピュータ演習室にて研修）			テキスト pp.126-133 予習および復習	
第4回 本の読み方とレポートの書き方			テキスト pp.22-80 予習および復習	
第5回 発表テーマの設定および発表資料の作成方法、発表の仕方、聞き方			テキスト pp.82-101 予習および復習 発表テーマの設定	
第6回 太宰府天満宮バリア探索			天満宮内外のバリアを撮影しコメントを検討する	
第7回 太宰府天満宮バリア探索発表スライド作成（コンピュータ演習室）			写真とコメントを配したスライドを完成させる	
第8回 太宰府天満宮バリア探索発表			事前に発表スライドを提出する	
第9回 発表と討論			各回の発表担当者は発表要旨（レジュメ）を準備	
第10回 発表と討論			各回の発表担当者は発表要旨（レジュメ）を準備	
第11回 発表と討論			各回の発表担当者は発表要旨（レジュメ）を準備	
第12回 発表と討論			各回の発表担当者は発表要旨（レジュメ）を準備	
第13回 発表と討論			各回の発表担当者は発表要旨（レジュメ）を準備	
第14回 発表と討論			各回の発表担当者は発表要旨（レジュメ）を準備	
第15回 まとめ——さらなる学びへ			レポートの作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 口頭発表を叩き台にして作成したレポート			
小テスト等	なし			
成果発表	40％（太宰府天満宮バリア探索グループ発表10％、各自が担当する口頭発表30％。）			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・欠席をしないよう心がけること。本演習では、積極的な参加、自発的な学修が必要となる。 その他、各ゼミ担当教員の指示にしたがうこと。 なお、提出されたレポートは、添削したうえで、返却する。			
教科書	田中共子編著,2010,『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に指示する。			
オフィスアワー	徳永勇：月曜3限、火曜2・3限、水曜2・3限。高木佳世子：水曜日4限。	メールアドレス		

授 業 科 目	基礎ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	佐々木 浩・一木 順・岡本 文子・橋本 嘉代・上村 真仁・篠崎 真美		単 位	2
授業の目的と概要	「基礎ゼミナールⅠ」はこれから大学での学修を始める皆さんに、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基本的知識やスキルを学んでもらうための科目です。その中には、大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけることはもちろん、周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけることや、自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと、などが含まれています。			
到達目標	1. 大学を学びの場として活用することができる。 ② 2. それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。 3. 問題解決に必要な情報を集めることができる。 ④ 4. 自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる。 ⑤ 5. 自分の希望するキャリアの中で、大学生活の意義を発見することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（筑女で学ぶ意義、コース案内、グループワークの基礎的理解）		学生便覧の理解・ともだちを作る・大学施設を把握する	
第2回	大学での学び（学習・研究の基本的な方法や姿勢、ノートテイキング）		教科書 0章、1章（pp8-19）	
第3回	筑女ネット（利用・活用案内）		教科書（p 114）、筑女ネット練習課題	
第4回	図書館・学習支援センター（利用案内）		教科書 7章（pp.62-71）	
第5回	図書・PC情報検索（ビブリオバトル準備含む）		教科書 6章（pp.52-61）、ビブリオバトルについて調べる	
第6回	キャリアプランニング		アクティブラーニング体験、ラーニングポートフォリオ作成、各コース理解	
第7回	ビブリオバトル（本を題材として）		ビブリオバトル原稿準備・発表練習	
第8回	ビブリオバトル（新聞記事を題材として）		ビブリオバトル原稿準備・発表練習	
第9回	テキストの読み方①		教科書 2章（pp.20-27）	
第10回	テキストの読み方②		教科書 3章（pp.28-35）	
第11回	大学生活について		教科書（pp.116-127）	
第12回	レポート① テーマ・主張		教科書 4章（pp.36-39）、5章（pp.46-51）	
第13回	レポート② 検索・整理		教科書 4章（pp.40-42）	
第14回	レポート③ 構成		アウトライン(プロポーザル)課題の作成	
第15回	レポート④ 執筆（書き方）		教科書 4章（pp.43-45）、レポート課題の作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％ なし			
レポート	40％ レポート			
小テスト等	0％ なし			
成果発表	30％ ビブリオバトル			
受講態度他	30％ 授業での小課題（15％）、受講態度など（15％）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必修科目なので全員受講し、遅刻・欠席をしないよう心がけてください。 授業外学習が多く組まれていますので、しっかりと取り組んでください。			
教科書	世界思想社編集部 『大学生 学びのハンドブック』 世界思想社			
指定図書	なし			
参考図書	各担当者から指示がある場合があります。			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授 業 科 目	基礎ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	井料 洋美・占部 匡美		単 位	2
授業の目的 と概要	「基礎ゼミナールⅡ」は、前期の「基礎ゼミナールⅠ」に引き続いて大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基礎的知識やスキルを皆さんに学んでもらうことを目的としています。その中には、レポートを通して自己表現を行うこと、周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけることなどが含まれています。			
到達目標	・大学を学びの場をして活用することができる。 ・それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。 ・問題解決に必要な情報を集めることができる。 ・同級生との対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる。 ・自分の意見をレポートを通して表現することができる。 ・自分の希望するキャリアの中で、大学生活の意義を発見することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 この授業で習得した知識や技能は今後の大学生活における基礎知識となります。 また前期に開講される「基礎ゼミナールⅡ」はこの授業の初級編です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		課題（プリント）	
第2回	大学生活に必要な文章力 ―レポートの書き方―		課題（プリント）	
第3回	文章の書き方（１） ―自分の意見の伝え方―		課題（プリント）	
第4回	文章の書き方（２） ―構想メモから文章へ―		課題（プリント）	
第5回	文章の書き方（３） ―前回の振り返り―		課題（プリント）	
第6回	文章の書き方（４） ―根拠の示し方―		課題（プリント）	
第7回	文章の書き方（５） ―構想メモから文章へ（２）―		課題（プリント）	
第8回	文章の書き方（６） ―前回の振り返り―		課題（プリント）	
第9回	授業感想文やコメントの書き方について		課題（プリント）	
第10回	文章の要約（１）		課題（プリント）	
第11回	文章の要約（２）		課題（プリント）	
第12回	レポートの書き方（１） ―先行研究とは？―		レポート作成の準備・資料集め	
第13回	レポートの書き方（２） ―自分の意見を文章にする―		レポート作成	
第14回	レポートの書き方（３） ―振り返り―		課題	
第15回	ライフマネジメント		試験準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	6 0 ％			
レポート	3 0 ％ 学期中に３回程度レポートを提出			
小テスト等	―			
成果発表	―			
受講態度他	1 0 ％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	配布された資料を熟読してから講義にのぞむこと。 配布された資料や課題をファイルにまとめ、必ず振り返りをする事。 授業とは無関係な私語、飲食、携帯電話の使用など、講義の妨げとなる行為は一切禁止します。			
教科書	各担当教員が指定			
指定図書	各担当教員が指定			
参考図書	各担当教員が指定			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	基礎ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	時里 奉明・須藤 圭		単 位	2
授業の目的と概要	「基礎ゼミナールⅡ」は、前期の「基礎ゼミナールⅠ」に引き続いて大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基本的知識やスキルを皆さんに学んでもらうことを目的としています。その中には、「自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと。周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけること。大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけること。自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること。レポートやオーラルプレゼンテーションを通して、自己表現を行うこと」などが含まれています。合わせて、受講生同士での確かなコミュニケーションをとることや、グループ活動を積極的に進めようとする態度も重視します。具体的な内容については、各担当教員の指導によります。			
到達目標	1. 大学を学びの場として活用することができる。 2. それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。 3. グループごとにテーマ設定をしたり、役割分担をして、問題解決に必要な情報を集めることができる。 4. 受講生同士の対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる。 5. 自分の意見（あるいはグループの意見）を、プレゼンテーションやレポートを通して表現することができる。 6. 自分の希望するキャリアの中で、大学生活の意義を発見することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス：クラスアドバイザー教員とクラス学生との交流。		資料の講読	
第2回	日本語・日本文学科（言語・文学・文化）の学びについて。		資料の購読	
第3回	太宰府の自然・歴史・文化を学ぼう！		資料の復習	
第4回	太宰府天満宮周辺散策（参道・境内）		小レポート課題	
第5回	九州国立博物館見学		小レポート課題	
第6回	グループワークによる発表準備①		テーマ選択、発表資料の作成	
第7回	キャリアについて考える①（大学生生活の充実）		大学やキャリアに関する資料の講読	
第8回	キャリアについて考える②（自分について考える）		大学やキャリアに関する資料の講読、小レポート課題	
第9回	グループワークによる発表準備②		発表の準備	
第10回	グループ発表と質疑応答①		テーマの調査、発表資料の作成、質疑応答の準備	
第11回	グループ発表と質疑応答②		テーマの調査、発表資料の作成、質疑応答の準備	
第12回	グループ発表と質疑応答③		テーマの調査、発表資料の作成、質疑応答の準備	
第13回	グループ発表と質疑応答④		テーマの調査、発表資料の作成、質疑応答の準備	
第14回	学生生活の注意点とネットのルール		資料の講読、小レポート課題	
第15回	まとめ（発表の振り返り）、レポート提出		資料の講読、レポート準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ レポートおよび提出物。			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ 口頭発表と質疑応答。			
受講態度他	40％ 積極的な受講態度を重視します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・Aクラス、Bクラス合同で、別の教室にて授業を行うことがあります。詳細は、授業中に説明します。 ・必ず各所属クラスの授業に出席し、欠席や遅刻がないようにしてください。 ・成績は口頭発表のほかに、授業に対する態度、レポートの内容などを含めて評価します。 ・具体的な評価は、各担当教員によります。課題は、各担当教員より授業中に指示します。			
教科書	適時プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	第1回の授業でお知らせします。	メールアドレス		

授 業 科 目	基礎ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	田村 史子・占部 匡美・羅 義圭		単 位	2
授業の目的 と概要	「基礎ゼミナールⅡ」は、前期の「基礎ゼミナールⅠ」に引き続き、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいくうえで必要な基本的知識やスキルを皆さんに学んでもらうことを目的としています。その中には、「自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと」、「周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけること」、「大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけること」などが含まれています。 具体的な講義概要としては、2名の担当教員によってクラス別に「日本語表現（読書する力と文章にする力）」の技能を身につける他、留学生徒の交流会や先輩方の体験を聞く機会を設け、キャリア・プランニング形成を図ることにしています。			
到達目標	1. 大学を学びの場として活用することができる 2. それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる 3. 同級生との対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる 4. 自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる 5. 自分の希望するキャリアの中で、大学生活の意義を発見することができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	イントロダクション 後期ゼミナールの内容紹介（合同）		夏休みの課題の整理・提出	
第 2回	日本語表現法①講読（クラス別）		授業の復習	
第 3回	日本語表現法②講読（クラス別）		授業の復習	
第 4回	ゲストティーチャー①アジアの芸術を学ぶ		感想レポートの作成	
第 5回	日本語表現法③講読（クラス別）		授業の復習	
第 6回	日本語表現法④講読（クラス別）		授業の復習	
第 7回	国際交流：留学生との交流会(合同)		感想レポートの作成	
第 8回	日本語表現法⑤文章力（クラス別）		授業の復習	
第 9回	日本語表現法⑥文章力(クラス別)		授業の復習	
第10回	ゲストティーチャー②アジアの人と文化を知る（合同）		感想レポートの作成	
第11回	日本語表現法⑦文章力（クラス別）		授業の復習	
第12回	日本語表現法⑧文章力（クラス別）		授業の復習	
第13回	ゲストティーチャー③キャリアを考える（合同）		感想レポートの作成	
第14回	日本語表現法⑨プレゼン力（クラス別）		プレゼンテーシ ョンの準備	
第15回	まとめ：さらなる学びへ（合同）		最終レポートの作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 感想レポート、最終レポート その他			
小テスト等	－			
成果発表	40％ 授業中に提示された課題への取り組み状況			
受講態度他	欠時数が3分の1を超えるものは、「無資格」とする			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業回数の3分の2以上の出席を要する。			
教科書	なし。但し、各担当教員の指示に従う。			
指定図書	なし。但し、各担当教員の指示に従う。			
参考図書	なし。但し、各担当教員の指示に従う。			
オフィスワ ーク	授業の前後もしくはメールで相談		メールアドレス	

授 業 科 目	基礎ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	徳永 勇・高木 佳世子		単 位	2
授業の目的と概要	「基礎ゼミナールⅡ」は、前期の「基礎ゼミナールⅠ」に引き続いて、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基本的知識や技能を各自に学んでもらうことを目的とする。そのなかには、「大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけること」、「自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること」、「質の高い口頭発表やレポート作成を行うこと」、「自らのキャリア設計を行い、そのなかで大学で学ぶ意義を発見すること」などが含まれている。			
到達目標	1.大学を学びの場として活用することができるようになる。 2.それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できるようになる。 3.問題解決に必要な情報を集めることができるようになる。 4.自分の意見を口頭発表やレポートをとおして表現することができるようになる。 5.将来のキャリアを想定するなかで、大学生生活の意義を発見することができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回：前期の発表とレポートを振り返り、達成できたこと、できなかったことを検討する。			各自「基礎ゼミⅠ」での学習成果を反省してみる。	
第2回：上級生の経験に学ぶ――充実した学生生活をおくるために。			上級生の講話内容について感想文を作成、提出。	
第3回：上級生の経験に学ぶ――充実した学生生活をおくるために。			上級生の講話内容について感想文を作成、提出。	
第4回：本専攻の卒業生の講話を聴き、大学での学修を社会のなかでどのように活かせるかを学ぶ。			卒業生の講話内容について感想文を作成、提出。	
第5回：本専攻の卒業生の講話を聴き、大学での学修を社会のなかでどのように活かせるかを学ぶ。			卒業生の講話内容について感想文を作成、提出。	
第6回：本専攻の卒業生の講話を聴き、大学での学修を社会のなかでどのように活かせるかを学ぶ。			卒業生の講話内容について感想文を作成、提出。	
第7回：本専攻の卒業生の講話を聴き、大学での学修を社会のなかでどのように活かせるかを学ぶ。			卒業生の講話内容について感想文を作成、提出。	
第8回：発表と討論。			発表担当者は発表要旨を準備。	
第9回：発表と討論。			発表担当者は発表要旨を準備。	
第10回：発表と討論。			発表担当者は発表要旨を準備。	
第11回：発表と討論。			発表担当者は発表要旨を準備。	
第12回：発表と討論。			発表担当者は発表要旨を準備。	
第13回：発表と討論。			発表担当者は発表要旨を準備。	
第14回：発表と討論。			発表担当者は発表要旨を準備。	
第15回：卒業後の進路を考えながら、大学での学修目標を構想する。			各自、大学での今後の学修目標を構想し、発表する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％			
小テスト等	10％（講話の感想文）			
成果発表	30％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学生参加型の授業なので、積極的に発言することをこころがけること。			
教科書	田中共子編著,2010,『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に指示する。			
オフィスアワー	徳永勇：月曜日3限・火曜日2限、金園景：月曜日5限、高木佳世子：月曜日4限。	メールアドレス		

授 業 科 目	基礎ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	浅田 淳一・大鶴 香		単 位	2
授業の目的と概要	「基礎ゼミナールⅡ」は、前期の「基礎ゼミナールⅠ」に引き続いて大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基本的知識やスキルを皆さんに学んでもらうことを目的としています。その中には「自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと」「大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけること」「自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること」「レポートやオーラルプレゼンテーションを通して、自己表現を行うこと」などが含まれています。			
到達目標	・大学を学びの場として活用することができる。 ・それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。 ・問題解決に必要な情報を集めることができる。 ・自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる。 ・自分の希望するキャリアの中で、大学生活の意義を発見することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 関連科目：基礎ゼミナールⅠ、人間関係総合演習、卒業研究			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回：前期の様々な講義を聞いた上での自分の中での問題点を、アンケートの形で収集し議論する。			自分なりに大学での勉強の仕方に関する問題点を反省してみる。	
第2回：様々な講義の受講に関するアンケートから分かる問題点に関して、解決策を考える。			問題に対する解決策を自分なりに考えてみる。	
第3回：前期の発表とレポートを振り返り、難しかった点などを取り上げて、改善点などを検討する。 レポートの課題の提示			自分なりに後期のレポートの課題を探す。	
第4回：講師が、自分の読書体験を紹介しつつ、読書の魅力について考え、読書課題（本の推薦）を説明する。			各自、読みたい本を選び、読書を開始する。	
第5回：本専攻を卒業した先輩方を招き、専門を社会の中でどのように活かしているかを学ぶ？			各自、卒業後の自分の姿について、考えてみる。	
第6回：本専攻を卒業した先輩方を招き、専門を社会の中でどのように活かしているかを学ぶ？			各自、卒業後の自分の姿について、考えてみる。	
第7回：本専攻を卒業した先輩方を招き、専門を社会の中でどのように活かしているかを学ぶ			各自、卒業後の自分の姿について、考えてみる。	
第8回：第4回講義で提示された課題に対する解答から優秀作品を選び、本の魅力についてプレゼンしてもらう。			プレゼンされた内容について考え、改善点などを各自検討する。	
第9回：前期で行った発表に関する反省点についてアンケートを行い、問題点を集約し議論する。			具体的にプレゼンの仕方を考えて、レポートの形で次週提出	
第10回：よりよい発表（プレゼン）の仕方について、具体例（レポートから抽出）を挙げながら皆で議論する。			各自、自分なりにプレゼン方法についてさらに工夫してみる。	
第11回：学内で様々な活動をしている先輩たちを招き、課外活動の重要性と面白さを学ぶ？			自分なりに課外活動の可能性について考えてみる。	
第12回：学内で様々な活動をしている先輩たちを招き、課外活動の重要性と面白さを学ぶ？			自分なりに課外活動の可能性について考えてみる。	
第13回：大学での今後の生活から卒業後の人生までも含めて、自分の将来のイメージについて、皆で考えてみる。			自分の将来の姿について、幾つかの観点から思いを巡らせてみる。	
第14回：第13回の講義を踏まえて、大学の四年間について、自分なりの目標を立ててみる。			これからの大学生活でやってみたいこと取り組んでみたいことを考える	
第15回：第14回講義の成果を踏まえて、大学四年間の自分なりのポートフォリオを作成する。			第3回講義で設定した課題についてレポートを作成する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％			
小テスト等	20％			
成果発表	20％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	参加型の授業なので、積極的に授業に参加することに心がけること。			
教科書	『よくわかる学びの技法』田中共子編(ミネルヴァ書房)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	基礎ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大元(千)・古田(瑞)・宮平(喬)・薄(千)・平山(静)・石原(努)・原田(博)・今釜(亮)		単 位	2
授業の目的 と概要	「基礎ゼミナールⅡ」は、前期の「基礎ゼミナールⅠ」に引き続いて大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基本的知識やスキルを皆さんに学んでもらうことを目的としています。その中には「自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと」「オーラルプレゼンテーションを通して、自己表現を行うこと」などが含まれています。			
到達目標	・大学を学びの場として活用することができる ・それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる ・問題解決に必要な情報を集めることができる ・同級生との対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる ・自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる ・自分の希望するキャリアの中で、大学生活の意義を発見することができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：社会人や専門職におけるマナーなど		見学実習に向けて名札を作成	
第2回	専門職の現場理解①：現場の先生の話/先輩たちの話（卒業までの学び方・過ごし方）		感想レポートを提出	
第3回	専門職の現場理解②：見学実習オリエンテーション、事前学習		幼稚園や子どもの発達について調べ、感想レポートを提出	
第4回	附属幼稚園見学実習①：見学実習		見学実習の準備	
第5回	附属幼稚園見学実習②：見学実習		見学実習の準備	
第6回	見学実習振り返り		見学実習での気づきをまとめ、感想を提出	
第7回	プレゼンテーションの方法：・パワーポイントについて		プレゼンテーションの方法やスライドの作成を確認	
第8回	スライド作成①：テーマ決め、発表資料集め		発表内容を作成	
第9回	スライド作成②：スライド作成		スライド原稿を提出	
第10回	プレゼンテーションに向けての準備		プレゼンテーションの練習	
第11回	プレゼンテーションの実践①		発表準備	
第12回	プレゼンテーションの実践②		発表準備	
第13回	プレゼンテーションの実践③		発表準備	
第14回	プレゼンテーションの実践④		発表の振り返り	
第15回	まとめ		半期を振り返り、2年生以降の展望をたてる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20％ 感想用紙の提出や内容を採点します			
小テスト等	なし			
成果発表	60％ プレゼンテーションの内容や取り組み			
受講態度他	20％ 積極性など普段の受講態度を点数化します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・少人数クラス（ゼミナール形式）の授業形態です。 ・理由のない欠席や遅刻は減点の対象となります。 ・提出物のめ切りは厳守すること。 ・発表資料等は余裕を持って準備しておくこと。			
教科書	『大学生学びのハンドブック』世界思想社、『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書（前期購入済み）			
指定図書	『学生・研究者のための 使える!PowerPoint スライドデザイン 伝わるプレゼン1つの原理と3つの技術』化学同人			
参考図書	『大学生の学習テクニック 第3版』大月書店			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照してください		メールアドレス	

授 業 科 目	基礎ゼミナールⅡ【演習】			開 講 時 期	後期
担 当 教 員	佐々木 浩・一木 順・岡本 文子・橋本 嘉代・須藤 遙子・篠崎 真美			単 位	2
授業の目的と概要	「基礎ゼミナールⅡ」は、前期の「基礎ゼミナールⅠ」に引き続いて大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基本的知識やスキルを皆さんに学んでもらうことを目的としています。その中には、大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけることはもちろん、周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけることや、自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集することや、レポートやオーラルプレゼンテーションを通して自己表現を行うこと、などが含まれています。				
到達目標	1.大学を学びの場として活用することができる。 2.それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。 3.問題解決に必要な情報を集めることができる。 4.自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる。 5.自分の希望するキャリアの中で、大学生活の意義を発見することができる。				
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（前期の復習・確認）			前期の復習	
第2回	論理的思考（ディベートの作法、テーマ設定とリサーチ）			テーマを考える	
第3回	プレゼンテーションとは（方法と種類・評価方法・レジュメ作成）			教科書 8章（pp.72-79）、9章（pp.80-87） 、レジュメ作成	
第4回	レポートの実践① テーマ設定（現代社会の諸問題、所属するコースへの関連）			自分のレポートテーマを決める	
第5回	口頭発表（自分のレポートテーマについて、3分）			口頭発表の準備	
第6回	レポートの実践② 情報収集・整理			教科書 4章（pp.36-45）、5章（pp.46-51） レポートに関する資料収集と整理	
第7回	レポートの実践③ 資料通読・整理			レポートに関する資料収集と整理	
第8回	プレゼンテーション① 構成			レポートのアウトラインをまとめる プレゼンテーションのイメージを決める	
第9回	プレゼンテーション② PP作成			教科書 （pp.110-113） PP作成	
第10回	プレゼンテーション③ 発表・相互評価			発表準備・発表練習	
第11回	レポートの実践④ レポートの構成			レポートのアウトラインの見直し	
第12回	レポートの実践⑤ 執筆			レポートの執筆と修正	
第13回	レポートの実践⑥ 執筆			レポートの執筆と修正	
第14回	レポートの実践⑦ 執筆			レポートの執筆と修正	
第15回	レポートの実践⑧ 執筆&提出、まとめ			レポートの執筆と修正 クラージュによる振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	0％ なし				
レポート	40％ レポート				
小テスト等	0％ なし				
成果発表	30％ 口頭発表（10％）、PPによるプレゼンテーション（20％）				
受講態度他	30％ 授業での小課題（15％）、受講態度など（15％）				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必修科目なので全員受講し、遅刻・欠席をしないよう心がけてください。 ① 授業外学習が多く組まれていますので、しっかりと取り組んでください。				
教科書	世界思想社編集部 『大学生 学びのハンドブック』 世界思想社				
指定図書	なし				
参考図書	各担当者から指示がある場合があります。				
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照			メールアドレス	

授 業 科 目	近・現代文学演習Ⅰ【演習】			開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松下 博文			単 位	2
授業の目的 と概要	奄美大島出身の作家安岡伸好の文学世界に触れ、日本文学と南島文学の違いについて検証することを目的とする。				
到達目標	①作品を解釈・鑑賞しながら、作品が生まれてきた歴史や風土について考察する。 ③文学的感性を身につける。				
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	日本語・日本文学科のDP（1）の「⑥ 大学での学修をもとに各自の知的興味・関心を深め、卒業論文において自らの考えを明確に伝えることができる。」に関連する科目であり、「近・現代文学概論」「近・現代文学基礎演習」「近・現代文学講読」等で培った知識と方法を、更に発展的に追究することができる。				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第 1 回	安岡伸好の世界（その1）			予習	文学的事項について文学事典で調べる。
第 2 回	安岡伸好の世界（その2）			予習	文学的事項について文学事典で調べる。
第 3 回	あお鳩の聲			予習	作品を読んでくること
第 4 回	光の中で			予習	作品を読んでくること
第 5 回	風葬			予習	作品を読んでくること
第 6 回	地の骨			予習	作品を読んでくること
第 7 回	榎の木の家			予習	作品を読んでくること
第 8 回	灰の花			予習	作品を読んでくること
第 9 回	遠い海			予習	作品を読んでくること
第10回	赤いシャボン玉			予習	作品を読んでくること
第11回	ええじゃないか			予習	作品を読んでくること
第12回	民族の城			予習	作品を読んでくること
第13回	換羽期			予習	作品を読んでくること
第14回	安岡伸好の世界（その3）			予習	担当作品の考察とまとめ
第15回	安岡伸好の世界（その4）			予習	担当作品の考察とまとめ
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	なし				
レポート	50％ 担当箇所をレポートとして仕上げる。また、その都度レポートを要求することもある。レポートは適宜返却する。				
小テスト等	なし				
成果発表	50％				
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席（欠席扱い）させます。				
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物は出さないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。				
教科書	なし				
指定図書	なし				
参考図書	なし				
オフィスアワー	水曜日 12時30分～13時まで			メールアドレス	

授 業 科 目	近・現代文学演習Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	出雲 俊江		単 位	2
授業の目的 と概要	文学作品を読んで、自分自身で感じること、自分の視点から考えることを学ぶ。 文学作品の読みについて、自分の視点から客観的に論述することを学ぶ。 大正期に活躍した歌人岡本かの子についてとりあげ、その作品について考察する。 途中２回、当時の小説作品などをとりあげ、読書会を行う。 与謝野晶子の短歌作品を丁寧に追いながら、当時の短歌ついて、特に女性にとつての短歌という観点から考えてみたいと思つて います。			
到達目標	文学作品（特に短歌作品）を、自らの視点で読むことができる。 これまでの研究に目を向け、資料を収集・整理できる。 伝えたいことを整理して、口頭発表することができる。 自分の論を文章としてのべることが出来る。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(２) -①多様な価値観を尊重し、他者とつなげるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (３) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (３) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (４) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題 探究力」 「近・現代文学演習Ⅱ」「女性と文学」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	ガイダンス（本授業の内容・演習について）		講義の際に指示します	
第 2 回	与謝野晶子について 短歌にかかわる文献購読（１）		指定された文献を読んでくることが出来る。	
第 3 回	初期雑誌投稿歌		講義の際に指示します	
第 4 回	歌集『みだれ髪』（1901年）より 1 ～ 5 0 首		発表準備	
第 5 回	読書会		課題図書を読んで、感想などのレポートを 書く。	
第 6 回	歌集『みだれ髪』（1901年）より 5 1 ～		発表準備	
第 7 回	歌集『小扇』（1904） 1 前半		発表準備	
第 8 回	歌集『小扇』（1904） 2 中半		発表準備	
第 9 回	歌集『小扇』（1904） 3 後半		発表準備	
第10回	雑誌「明星」について		発表準備	
第11回	読書会		課題図書を読んで、感想などのレポートを 書く。	
第12回	詩歌集『恋衣』（1905）		発表準備	
第13回	詩歌集『恋衣』（1905）		発表準備	
第14回	レポートを書くために 短歌にかかわる文献購読（２）		指定された文献を読んでくることが出来る。	
第15回	まとめ レポート相談		講義の際に指示します	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	担当の発表内容 20％ 最終レポート40％ 読書会レポート 20％			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	20％ 討議への参加状況など			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	与謝野晶子の短歌を読むことを通じて、短歌を読むとはどうすることなのかを体験的に学んでゆきます。 最終レポートは、卒業論文のための練習として役立つことを目指してとりくみたいと考えています。 読書会の課題図書は、大正期の文学作品から、皆さんと相談の上決めます。			
教科書	歌集を複製して用います。			
指定図書	ありません。授業中に紹介します。			
参考図書	ありません。			
オフィスアワー	水曜日午後	メールアドレス		

授 業 科 目	近・現代文学演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	出雲 俊江		単 位	2
授業の目的 と概要	文学作品を読んで、自分自身で感じることを、自分の視点から考えることを学ぶ。 文学作品の読みについて、自分の視点から客観的に論述することを学ぶ。 演習発表は、テキストの歌人の中から各自一人をとりあげ、その作品について自由に考察する。 特に短歌作品における「私」を共通のテーマとし、留意することとする。 途中2回、小説作品などをとりあげ、読書会を行う。			
到達目標	文学作品（特に短歌作品）を、自らの視点で読むことができる。 これまでの研究に目を向け、資料を収集・整理できる。 伝えたいことを整理して、口頭発表することができる。 自分の論を文章としてのべることが出来る。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 「近・現代文学演習Ⅰ」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	ガイダンス 演習について・現代の短歌概観		講義の際に指示します	
第 2 回	短歌の文学史1 明星・スバルとその時代		該当の短歌を読んでくる。	
第 3 回	短歌の文学史2 アララギを中心に		該当の短歌を読んでくる。	
第 4 回	演習発表1		担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第 5 回	演習発表2		担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第 6 回	読書会（1回目）		読書会の課題図書読んでレビューを書く。	
第 7 回	演習発表3		担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第 8 回	演習発表4		担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第 9 回	演習発表5		担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第10回	読書会（2回目）		読書会の課題図書読んでレビューを書く。	
第11回	演習発表6		担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第12回	演習発表7		担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第13回	演習発表8		担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第14回	演習発表9		担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第15回	まとめ レポート相談		最終レポート作成。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない。			
レポート	読書会レポート（2回） 20％ 最終レポート 40％			
小テスト等	行わない。			
成果発表	担当の発表 20％			
受講態度他	討議への参加状況など 20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	短歌を読むことを通じて、短歌を読むとはどうすることなのかを体験的に学んでゆきます。 最終レポートは、卒業論文のための練習として役立つことを目指してとりくみたいと考えています。 読書会の課題図書は、皆さんと相談の上決めます。			
教科書	『短歌タイムカプセル』 東直子・佐藤弓生・千葉聡 編著			
指定図書	特になし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日午後		メールアドレス	

授 業 科 目	近・現代文学演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松下 博文		単 位	2
授業の目的 と概要	森鷗外「舞姫」の解釈と鑑賞を通して、自らの文学的感性を高めることを目指す。			
到達目標	①図書館等を利用して、関係資料を収集する。 ②収集した資料を正確に整理し、正確に読み取る。 ④作品を柔軟に解釈できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	鷗外入門（1） 生い立ち		次回演習のための資料収集と作成	
第 2 回	鷗外入門（2） ドイツ留学		次回演習のための資料収集と作成	
第 3 回	鷗外入門（3） 「舞姫」の背景		次回演習のための資料収集と作成	
第 4 回	「舞姫」読解 その1 本文7～8ページ		次回演習のための資料収集と作成	
第 5 回	「舞姫」読解 その2 本文9～11ページ		次回演習のための資料収集と作成	
第 6 回	「舞姫」読解 その3 本文12～14ページ		次回演習のための資料収集と作成	
第 7 回	「第四夜」読解 その4 本文15～17ページ		次回演習のための資料収集と作成	
第 8 回	「舞姫」読解 その5 本文18～20ページ		次回演習のための資料収集と作成	
第 9 回	「舞姫」読解 その6 本文21～23ページ		次回演習のための資料収集と作成	
第10回	「舞姫」読解 その7 本文24～26ページ		次回演習のための資料収集と作成	
第11回	「舞姫」読解 その8 本文27～30ページ		次回演習のための資料収集と作成	
第12回	「舞姫」 その9 本文31～33ページ		次回演習のための資料収集と作成	
第13回	「舞姫」読解 その10 本文34～35ページ		次回演習のための資料収集と作成	
第14回	まとめ（1） 作家鷗外と人間森林太郎		次回演習のための資料収集と作成	
第15回	まとめ（2） 「舞姫」再読		レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 担当箇所をレポートとして仕上げる。また、その都度レポートを要求することもある。レポートは適宜返却する。			
小テスト等	なし			
成果発表	50％			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席（欠席扱い）させます。			
受講上の留意点・ルールに関する情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物を置かないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	森鷗外『舞姫』（岩波文庫）			
指定図書	嘉部嘉隆編『森鷗外「舞姫」諸本研究と校本』（桜楓社）			
参考図書	図書館所蔵の鷗外関係の書籍を網羅的に見ておくこと。			
オフィスアワー	水曜日 12時30分～13時		メールアドレス	

授 業 科 目	近・現代文学概論（日本文学史を含む）【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松下 博文		単 位	2
授業の目的と概要	近現代文学の文学的潮流を作家と作品を中心に検証することを目指す。 ①それぞれの講義において、必ず代表作一篇を取り上げ、原作を読みながら講義を進行する。 ②その読解力の基礎として、毎回、指定のテキストによる漢字の読み書きテスト（10分）を行なう。			
到達目標	①各時代の文学的潮流の概略を把握できる。 ②近現代文学の名作を原文で読むことができる。 ③文学的感性を身につけることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1 回	泉鏡花「外科室」		予習 文学事典を使って作家を調べる	
第 2 回	樋口一葉「十三夜」		予習 文学事典を使って作家を調べる	
第 3 回	国木田独歩「号外」		予習 文学事典を使って作家を調べる	
第 4 回	有島武郎「小さき者へ」		予習 文学事典を使って作家を調べる	
第 5 回	志賀直哉「焚火」		予習 文学事典を使って作家を調べる	
第 6 回	坂口安吾「桜の森の満開の下」		予習 文学事典を使って作家を調べる	
第 7 回	芥川龍之介「羅生門」		予習 文学事典を使って作家を調べる	
第 8 回	夏目漱石「夢十夜」		予習 文学事典を使って作家を調べる	
第 9 回	横光利一「春は馬車に乗って」		予習 文学事典を使って作家を調べる	
第10回	夢野久作「瓶詰の地獄」		予習 文学事典を使って作家を調べる	
第11回	井伏鱒二「へんろう宿」		予習 文学事典を使って作家を調べる	
第12回	梶井基次郎「交尾」		予習 文学事典を使って作家を調べる	
第13回	中島敦「名人伝」		予習 文学事典を使って作家を調べる	
第14回	太宰治「桜桃」		予習 文学事典を使って作家を調べる	
第15回	三島由紀夫「百万円煎餅」		予習 文学事典を使って作家を調べる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	3 0％			
レポート	3 0％ 内容による 確認後適宜返却します。			
小テスト等	4 0％ 平素 小テストについては授業中に解答します。			
成果発表	毎回の小テストを含む 定期試験で評価する			
受講態度他	静粛に。私語は慎むこと。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	提出物は必ず期限までに提出すること。			
教科書	「現代日本文学史」（大久保典夫・岡保生共著 おうふう） @ 佐藤喜一「基礎からのジャンプアップノート 漢字」（旺文社）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	火曜日12時30分～13時		メールアドレス	

授 業 科 目	近・現代文学基礎演習【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松下 博文		単 位	2
授業の目的 と概要	近現代文学関係資料収集のための方法論を学ぶことを目指す。 近現代文学に関係する資料を集めることを主たる作業とする。 故人（小説家安達征一郎）の蔵書を整理する。			
到達目標	①図書館等を利用して、文学資料を収集する。 ②収集した資料を正確に整理する。 ③収集した資料を正確に読み取れる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	図書館の利用方法（１） 日本十進分類法とは何か		予習：次の資料収集	
第 2回	図書館の利用方法（２） 国立国会図書館リサーチ		予習：次の資料収集	
第 3回	蔵書整理 単行本整理		予習：次の資料収集	
第 4回	蔵書整理 新書本整理		予習：次の資料収集	
第 5回	蔵書整理 文庫本整理		予習：次の資料収集	
第 6回	蔵書整理 手紙の扱い方		予習：次の資料収集	
第 7回	蔵書整理 手紙整理		予習：次の資料収集	
第 8回	蔵書整理 原稿用紙の扱い方		予習：次の資料収集	
第 9回	蔵書整理 原稿整理		予習：次の資料収集	
第10回	蔵書整理 遺品の扱い方		予習：次の資料収集	
第11回	蔵書整理 遺品整理		予習：次の資料収集	
第12回	蔵書整理 安達征一郎と外国文学		予習：次の資料収集	
第13回	蔵書整理 安達征一郎と日本文学		予習：次の資料収集	
第14回	事実・事項調査のための情本源（書誌以外のレファレンスツール）		予習：次の資料収集	
第15回	事実・事項調査に役立つ主要オンラインデータベースについて		予習：次の資料収集	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	100％ 毎回提出 レポートは確認後返却します。			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席（欠席扱い）させます。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物は置かないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	『文献調査法』（毛利和弘著・日本図書館協会）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日 12時30分～13時		メールアドレス	

授 業 科 目	近・現代文学基礎演習【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松下 博文		単 位	2
授業の目的 と概要	近現代文学関係資料収集のための方法論を学ぶことを目指す。 近現代文学に関係する資料を集めることを主たる作業とする。 故人（小説家安達征一郎）の蔵書を整理する。			
到達目標	①図書館等を利用して、文学資料を収集する。 ②収集した資料を正確に整理する。 ③収集した資料を正確に読み取れる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	図書館の利用方法（1） 日本十進分類法とは何か		予習：次回の資料収集	
第 2回	図書館の利用方法（2） 国立国会図書館リサーチ		予習：次回の資料収集	
第 3回	蔵書整理 単行本整理		予習：次回の資料収集	
第 4回	蔵書整理 新書本整理		予習：次回の資料収集	
第 5回	蔵書整理 文庫本整理		予習：次回の資料収集	
第 6回	蔵書整理 手紙の扱い方		予習：次回の資料収集	
第 7回	蔵書整理 手紙整理		予習：次回の資料収集	
第 8回	蔵書整理 原稿用紙の扱い方		予習：次回の資料収集	
第 9回	蔵書整理 原稿整理		予習：次回の資料収集	
第10回	蔵書整理 遺品の扱い方		予習：次回の資料収集	
第11回	蔵書整理 遺品整理		予習：次回の資料収集	
第12回	蔵書整理 安達征一郎と外国文学		予習：次回の資料収集	
第13回	蔵書整理 安達征一郎と日本文学		予習：次回の資料収集	
第14回	事実・事項調査のための情本源（書誌以外のレファレンスツール）		予習：次回の資料収集	
第15回	事実・事項調査に役立つ主要オンラインデータベースについて		予習：次回の資料収集	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	100％ 毎回提出 レポートは確認後返却します。			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席（欠席扱い）させます。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物は置かないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	『文献調査法』（毛利和弘著・日本図書館協会）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日 12時30分～13時		メールアドレス	

授 業 科 目	近・現代文学講読Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松本 常彦		単 位	2
授業の目的と概要	芥川龍之介の小説を素材として、読むという行為（リテラシー）一般が持つことの意味と方法と可能性について考える。文学作品を読むということは、それ自体、きわめて倫理的実践であるという説もあるが、その意味について考える。上記のことを通じて、リテラシーが社会性や人間性と密接に関係することを理解する。 芥川「羅生門」を素材とする。同じ一つの本文が、読み方に応じて、どのように解釈できるかを検討する。個々の読み方については、授業計画を参照のこと。			
到達目標	多様な読みの方法やスタイルがあることを知り、その読み方を意識することで、読みの方法と内容の相関性を自覚する。読みに応じて本文の読解可能性が変化することを理解する。読みに応じた本文の変容性について指摘できる。読みに応じた本文の解釈を提示できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 授業概要の説明			全体的な注意点について確認する	
第 2回 読む行為・読み方のモデルについての考察 1			配布資料を再読しておく	
第 3回 読む行為・読み方のモデルについての考察 2			小説「羅生門」の本文など配布資料を再読しておく	
第 4回 従来身につけてきた基本的な読み方についての検討（語彙注釈からの読み）			本文の語彙注釈の報告書の作成	
第 5回 作家と作品との関係（伝記情報を援用した読み）			任意の作家の略年譜の報告書の作成	
第 6回 作品（ワーク）とテキスト（作家の主体と読者の受容からの読みの検討）			配布資料を再読する	
第 7回 本文の生成と異同の検討 1			配布資料を再読する	
第 8回 本文の生成と異同の検討 2			本文異同の事例報告を作成する・随筆「大川の水」を読んでおく	
第 9回 作品の時空を読む 1			配布資料を再読する	
第10回 作品の時空を読む 2			作品の時空についての具体的事例についての報告書を作成する	
第11回 作品の同時代性という視点			小説「六の宮の姫君」の本文を再読する	
第12回 女性史・女性言説という視点			配布資料を再読する	
第13回 翻案の志向性を読む			配布資料を再読する	
第14回 先行論文の検討から読む			「六の宮の姫君」についての報告書の作成	
第15回 授業の概括			試験準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	7 0％			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	3 0％（欠席・遅刻などは減点する）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	およそ受講上の一般的なルールを厳守する。			
教科書	使用しない。小説本文および資料は複写を授業時に配布する。			
指定図書	個々の参考書については授業時に配布するプリントに記載している。			
参考図書	芥川龍之介全集、芥川龍之介全作品事典、芥川龍之介作品論集成など。（図書館にある）			
オフィスワー	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	近・現代文学講読Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松本 常彦		単 位	2
授業の目的と概要	近・現代文学講読Ⅱは、講読Ⅰで分類的に試みた読みの方法を踏まえ、それを読みの実践として総合化する。 読みの総合化は、単一化ではなく、むしろ読み手一人ひとりに応じた手仕事化であることを理解する。 それは言い換えるなら、ひとつの小説と読み手との人間的な交渉であり、人間づきあいがそうであるように、相手の微妙な呼吸をはかって上手につきあわなければならぬ呼吸法でもあるが、そのことを実際の作品に即して体感し、表現できるようになる。 1 9 世紀から現在にいたる日本の小説を素材に、それらを系譜的に捉えるメタテキスト次元での文脈構成能力を涵養するとともに、個々の作品の表現や解釈が同時代的地平や読書環境との相関的な関係によって左右されることを考察する。			
到達目標	1、近代小説の特色について、複数の具体的な作品を読解することで、整理、分類した上で、表現できる。 2、文学を通して表現された人間観や社会観や世界観について、その特色や表現の志向性を理解し、自分の意見が提示できる。 3、上記を通して多様な価値観があることを理解し、その上で、それらを生の実践の場で援用できる柔軟で創造的な思考力を養う。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	講読Ⅰを回顧して：講読Ⅰの回顧と講読Ⅱの展望		次週までに配布資料を読んでおく	
第 2 回	今年度の対象作家・対象作品についての説明・概要紹介		次週までに配布資料を読んでおく	
第 3 回	明治期の小説の講読と読解：国木田独歩・夏目漱石		次週までに配布資料を読んでおく	
第 4 回	明治期の小説の講読・読解 2		次週までに配布資料を読んでおく	
第 5 回	明治期の小説の講読・読解 3		次週までに配布資料を読んでおく	
第 6 回	大正期の小説の講読・読解：芥川龍之介・宮澤賢治		次週までに配布資料を読んでおく	
第 7 回	大正期の小説の講読・読解 2		次週までに配布資料を読んでおく	
第 8 回	大正期の小説の講読・読解 3		次週までに配布資料を読んでおく	
第 9 回	昭和前期の小説の講読・読解：梶井基次郎・太宰治		次週までに配布資料を読んでおく	
第10回	昭和前期の小説の講読・読解 2		次週までに配布資料を読んでおく	
第11回	昭和前期の小説の講読・読解 3		次週までに配布資料を読んでおく	
第12回	昭和後期の小説の講読・読解：松本清張		次週までに配布資料を読んでおく	
第13回	昭和後期の小説の講読・読解 2		次週までに配布資料を読んでおく	
第14回	昭和後期の小説の講読・読解 3		次週までに配布資料を読んでおく	
第15回	全体のまとめ		試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	7 0 ％			
レポート	課さない			
小テスト等	課さない			
成果発表	課さない			
受講態度他	30％（出席）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	およそ授業を受講する上での一般的なルールを守る			
教科書	使用しない。小説などの本文および資料は複写を授業時に配布する。			
指定図書	配布資料に記載			
参考図書	配布資料に記載			
オフィスアワー	金曜日午前中の授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	近・現代文学入門【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松下 博文		単 位	2
授業の目的 と概要	①近現代詩の文学的潮流を作家と作品を中心に検証することを目指す。 ②それぞれの講義において、必ず代表作一篇を取り上げ、原作を読みながら講義を進行する。 ③その読解力の基礎として、毎回、指定のテキストによる漢字の読み書きテスト（10分）を行なう。 ④場合によっては、特別講義として外部の講師を招聘することもある。			
到達目標	①各時代の文学的潮流の概略を把握する。 ②近現代詩の名作を原文で読める。 ③文学的感性を身につける。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	島崎藤村		予習 詩人について文学事典で調べる	
第 2回	高村光太郎		予習 詩人について文学事典で調べる	
第 3回	北原白秋		予習 詩人について文学事典で調べる	
第 4回	萩原朔太郎		予習 詩人について文学事典で調べる	
第 5回	室生犀星		予習 詩人について文学事典で調べる	
第 6回	西脇順三郎		予習 詩人について文学事典で調べる	
第 7回	宮沢賢治		予習 詩人について文学事典で調べる	
第 8回	安西冬衛		予習 詩人について文学事典で調べる	
第 9回	三好達治		予習 詩人について文学事典で調べる	
第10回	草野心平		予習 詩人について文学事典で調べる	
第11回	伊東静雄		予習 詩人について文学事典で調べる	
第12回	中原中也		予習 詩人について文学事典で調べる	
第13回	石垣りん 茨木のり子 新川和江		予習 詩人について文学事典で調べる	
第14回	黒田三郎 吉野弘		予習 詩人について文学事典で調べる	
第15回	谷川俊太郎		予習 詩人について文学事典で調べる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	1 0 0％ 3回提出。確認後適宜返却します。			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席（欠席扱い）させます。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物は出さないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日 12時30分～13時まで		メールアドレス	

授 業 科 目	近代日本とアジア【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	国際的な視野を持つために、近代日本とアジアの関係について、印象論や思い込みあるいは一面的な見方ではなく、文脈に即した事実関係に基づき、総合的に理解していく姿勢を身につけること、これがこの講義の目的です。戦争や侵略もさることながら、そこに至った経緯、具体的には、近代の日本は「アジア」をどう捉え、どう付き合おうとしたのか、という思想面にも焦点をあて、理解を深めていきます。 近代の日本にとってアジアは両義的な存在でした。日本はアジアなのかそれとも脱亜に始まり、「アジアの解放」を謳いながらアジアを侵略し、そして現在も親近感と優越感を併せ持っているかのようです。日本にとって「アジア」とは一体何なのか、多角的な考察を目指します。			
到達目標	1.近代の日本は、「アジア」をどう捉えていたのかを、系統立てて説明できる。 2.近代の日本が、アジアにどう関与していったのかを具体的に説明できる。 3.アジアの人びとは、近代日本についてどのように捉えていた、あるいは捉えているのかを説明できる。 4.近代日本とアジアの関係について、学術的信用度の高い文献を、自ら集め分析することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。 東アジアや東南アジアといった日本に近接する地域に関して「東アジア近現代史」、「東南アジア近現代史」を履修したうえで、この科目を履修すると、近代の日本とアジアの関係について理解を深めることができます。 近代以前の日本とアジアの関係については「日中交流史」や「シルクロード文化交流史」の履修を通じて学ぶことができます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション	根拠のある議論のために		第2回用レジュメ、資料に基づき予習	
第 2回	アジアとは、日本にとってのアジア		第2回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 3回	脱亜論とアジア主義		第3回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 4回	アジア主義の系譜(1)総論、宮崎滔天		第4回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 5回	アジア主義の系譜(2)石原莞爾、大川周明		第5回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 6回	日本のアジア進出(1) 蝦夷・琉球・台湾		第6回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 7回	日本のアジア進出(2) 朝鮮・満洲		第7回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 8回	朝鮮半島の植民地支配(1) 武断政治、文化政治 1		第8回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 9回	朝鮮半島の植民地支配(2) 文化政治 2、皇民化政策		第9回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第10回	日本の南方関与		第10回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第11回	近代日本への眼差し(1) 20世紀初めまで		第11回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第12回	近代日本への眼差し(2) 1920年代以降		第12回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第13回	今日のアジアから見た近代日本(1)韓国、台湾		第13回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第14回	今日のアジアから見た近代日本(2)中国、東南アジア諸国		第14回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第15回	戦後日本とアジア		第15回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価)50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。 その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	火14:50～16:20、水12:30～13:00、金12:30～13:00		メールアドレス	

授 業 科 目	グループアプローチ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	榊 祐子		単 位	2
授業の目的 と概要	小中学校や精神科領域、企業など様々な領域で応用されている実践活動であるグループアプローチの基本的概念を理解し、実際の体験を通して自分自身のコミュニケーションや対人関係のとり方について振り返り、その効果を認識できるようになることを目的とする。この講義では、グループアプローチに関する理論のみにとどまらず、「実際に経験してみる」ということを重視する。自らの経験を通して感じたことを再認識する力を身につけるとともに、社会に適用できるようなグループの企画や運営方法についても実際に計画する。			
到達目標	①グループアプローチの方法や実践領域について説明することが出来る ②グループをファシリテート（促進）する技法を実践することが出来る ③エクササイズでの体験について、自らが感じたことやグループのプロセスについて解釈し、表現することが出来る ④現代社会においてグループアプローチを適用、介入されうる問題を推測し、実践方法を構築することが出来る			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション：授業の進め方と概要		グループアプローチのイントロダクションについての復習	
第 2 回	グループ体験①：他己紹介		他己紹介についての復習	
第 3 回	グループ体験②：絵による自己紹介		絵による自己紹介と他己紹介との違いについてのまとめ	
第 4 回	グループ体験③：私は誰？		自己概念についての復習	
第 5 回	グループ体験④：私の第一印象		第一印象の形成についての復習	
第 6 回	振り返り①：これまでのグループ体験についての振り返り		自己概念、自己紹介についての復習	
第 7 回	グループ体験⑤：流れ星		コミュニケーションの方法についての振り返り	
第 8 回	グループ体験⑥：図形伝達		コミュニケーションの方法の違いについての振り返り	
第 9 回	グループ体験⑦：自分の話し方、聴き方		自分のコミュニケーションのあり方についての振り返り	
第10回	グループ体験⑧：聴く、話す、観る		効果的なコミュニケーションの方法についての復習	
第11回	振り返り②：これまでのグループ体験についての振り返り		様々なコミュニケーションの方法についての復習	
第12回	グループアプローチの全体像①		グループアプローチの方法についての復習	
第13回	グループアプローチの全体像②と模擬グループの企画と運営計画①		グループの目的についての整理	
第14回	模擬グループの企画と運営計画②		グループの実施計画についての復習	
第15回	まとめと模擬グループの発表		グループの実施計画についての振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ グループの概要と体験したこと、模擬グループの計画について			
小テスト等	20％ 毎回のグループ体験についてのレポートと振り返りのレポート			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ グループへの参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	「集団は苦手」など、受講にあたり、不安がある人は事前に相談してください。 毎回のグループ体験に参加することが重要です。出席重視の授業であり、授業前半にグループ分けをするので遅刻も厳禁です。			
教科書	指定なし			
指定図書	指定なし			
参考図書	星野欣生『人間関係づくりトレーニング』金子書房 （財）日本レクレーション協会『新グループワーク・トレーニング』遊戯社			
オフィスアワー	火曜日5限		メールアドレス	

授 業 科 目	グローバルツーリズムⅠ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	三日月 雅子		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業では、世界の国々の歴史・文化・社会などを紹介するテキストと映像（DVD）を通して、世界の人々が話す生の英語に触れて、その多様性と柔軟性に目を向けてみましょう。単語・語句の学習や歴史・地理など様々な側面から観光英語の基礎力を養います。 ReadingとListeningのスキルアップと、海外の文化や観光に関する知識を、国際共通語である英語を通して学習し理解することを目的とします。			
到達目標	1. 観光英語の基礎学習をする。 2. Reading, Listening, Writingの3技能を増強する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：授業概要の説明		課題 Unit 1 本文の予習	
第2回	Unit 1 本文読解		課題 Unit 1 ScriptとExerciseの予習	
第3回	Unit 1 Script読解とExercise		課題 Unit 2 本文の予習	
第4回	Unit 2 本文読解		課題 Unit 2 ScriptとExerciseの予習	
第5回	Unit 2 Script読解とExercise		課題 Unit 3 本文の予習	
第6回	Unit 3 本文読解		課題 Unit 3 ScriptとExerciseの予習	
第7回	Unit 3 Script読解とExercise		課題 Unit 4 本文の予習	
第8回	Unit 4 本文読解		課題 Unit 4 ScriptとExerciseの予習	
第9回	Unit 4 Script読解とExerciseの予習		課題 Unit 5 本文の予習	
第10回	Unit 5 本文読解		課題 Unit 5 ScriptとExerciseの予習	
第11回	Unit 5 Script読解とExercise		課題 Unit 6 本文の予習	
第12回	Unit 6 本文読解		課題 Unit 6 ScriptとExerciseの予習	
第13回	Unit 6 Script読解とExercise		課題 Unit 7 本文の予習	
第14回	Unit 7 本文読解		課題 Unit 7 Exercise解答	
第15回	前期の復習		試験に向けての学習について説明	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％：定期試験の評価に基づく			
レポート	必要に応じて指示			
小テスト等	ノートチェックを実施する			
成果発表	20％：授業時の発表			
受講態度他	20％：出席状況および発表等による授業への参加を考慮			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	指示された課題の予習が必ず必要です。 辞書を必ず持参すること。			
教科書	著者：Scott Berlin他 World Adventures 出版社：金星堂 ISBN978-4-7647-3907-9			
指定図書	特になし			
参考図書	授業時に適宜紹介する。			
オフィスワー	火曜日：昼休み 水曜日：昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	グローバルツーリズムⅡ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	三日月 雅子		単 位	2
授業の目的 と概要	後期のこの授業では、前期に引き続き世界の国々の歴史・文化・社会などを紹介するテキストと映像（DVD）を通して、世界の人々が話す生の英語に触れて、その多様性と柔軟性に目を向けてみましょう。単語・語句の学習や歴史・地理など様々な側面から観光英語の基礎力を養います。 ReadingとListeningのスキルアップと、海外の文化や観光に関する知識を、国際共通語である英語を通して学習し理解することを目的とします。			
到達目標	1. 観光英語の学習をする。 2. Reading, Listening, Writingの3技能を増強する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：後期授業の進行についての説明		課題 Unit 1 の予習	
第2回	Unit 1 本文読解		課題 Unit 1 ExerciseとUnit 2 の予習	
第3回	Unit 2 本文読解		課題 Unit 2 ExerciseとUnit 3 の予習	
第4回	Unit 3 本文読解		課題 Unit 3 ExerciseとUnit 4 の予習	
第5回	Unit 4 ExerciseとUnit 5 の予習		課題 Unit 4 ExerciseとUnit 5 の予習	
第6回	Unit 5 本文読解		課題 Unit 5 ExerciseとUnit 6 の予習	
第7回	Unit 6 本文読解		課題 Unit 6 ExerciseとUnit 7 の予習	
第8回	Unit 7 本文読解		課題 Unit 7 ExerciseとUnit 8 の予習	
第9回	Unit 8 本文読解		課題 Unit 8 ExerciseとUnit 9 の予習	
第10回	Unit 9 本文読解		課題 Unit 9 ExerciseとUnit 10 の予習	
第11回	Unit 10 本文読解		課題 Unit 10 ExerciseとUnit 11 の予習	
第12回	Unit 11 本文読解		課題 Unit 11 ExerciseとUnit 12 の予習	
第13回	Unit 12 本文読解		課題 Unit 12 ExerciseとUnit 13の予習	
第14回	Unit 13 本文読解		課題 後期（Unit 1～Unit 13）のノートチェック	
第15回	後期の復習		試験に向けての学習について説明	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％：定期試験の評価に基づく			
レポート	必要に応じて指示			
小テスト等	必要に応じて実施			
成果発表	20％：授業時の発表			
受講態度他	20％：出席状況および発表等による授業への参加を考慮			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	指示された課題の予習が必ず必要です。 辞書を必ず持参すること。			
教科書	後期のテキストに関しては、テキストを決定しだいお知らせします。			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に適宜紹介する			
オフィスアワー	火曜日：昼休み 金曜日：昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	経営管理論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	藤原 隆信		単 位	2
授業の目的 と概要	一般的に、企業経営にはヒト、モノ、カネ、情報といった経営資源が存在し、経営者はそれら経営資源を効果的にマネジメント（管理）していただくことが求められています。本科目では、企業の経営管理に関する諸理論を学ぶとともに、それらの理論を具体的な事例に当てはめながら考えていきます。受講生の皆さんが、経営管理に関する諸理論を正確に理解し、具体的な経営現場への適応力を身に付けることで、現代企業が直面する多様な管理問題を「経営者の視点」と「労働者の視点」の両方から考え、その解決方法を提案できるようになることを目指します。			
到達目標	①企業（組織）と労働者（個人）の関係を、身近な例を使って説明できる。②企業で働く人々の「欲求」について理解し、それをマネジメントする方法を説明できる。③自分が管理者になった際、どのように部下と良好な関係を構築すれば良いかを説明できる。④上記①～③を踏まえ、どのような経営管理（マネジメント）が、企業（組織）と労働者（個人）をともに成長・発展させることができるのかを自分の言葉で説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	個人と組織の関係を考える（1） ——公式組織と非公式組織（人間関係論）		自分が所属している「組織」にはどのようなものがあるか考えてきて下さい。	
第2回	個人と組織の関係を考える（2） ——個人目的と組織目的（バーナード理論）		自分が「組織」に所属する理由（複数の組織について）を考えてきて下さい。	
第3回	個人と組織の関係を考える（3） ——VTRで考える（個人と組織の統合とは？）		講義前課題（「個人目的」と「組織目的」を考える）をやってきて下さい。	
第4回	経営管理の基礎を考える（1） ——マズローの「欲求階層説」		あなたが今、「一番欲しいもの」と「欲しい理由」を考えてきて下さい。	
第5回	経営管理の基礎を考える（2） ——マグラガーの「X-Y理論」		「一番好きな先生と苦手な先生」を思い出し、その理由を考えてきて下さい。	
第6回	経営管理の基礎を考える（3） ——VTRで考える（人事管理はどうあるべきか？）		講義前課題（「部下に対する接し方」を考える）をやってきて下さい。	
第7回	経営管理の応用を考える（1） ——「マネジメント」との出会い		指定図書の第1章（pp.7～32）を読み、事前学習をしてきて下さい。	
第8回	経営管理の応用を考える（2） ——「顧客」について考える		指定図書の第2章（pp35～68）を読み、事前学習をしてきて下さい。	
第9回	経営管理の応用を考える（3） ——「マーケティング」について考える		指定図書の第3章（pp.69～98）を読み、事前学習をしてきて下さい。	
第10回	経営管理の応用を考える（4） ——「人的資源」について考える		指定図書の第4章（pp.99～125）を読み、事前学習をしてきて下さい。	
第11回	経営管理の応用を考える（5） ——「人材活用」について考える		指定図書の第5章（pp.127～156）を読み、事前学習をしてきて下さい。	
第12回	経営管理の応用を考える（6） ——「イノベーション」について考える		指定図書の第6章（pp.157～196）を読み、事前学習をしてきて下さい。	
第13回	経営管理の応用を考える（7） ——「適材適所」について考える		指定図書の第7章（pp.197～226）を読み、事前学習をしてきて下さい。	
第14回	経営管理の応用を考える（8） ——「マネジメントとは何か？」を考える		指定図書の第8章（pp.227～264）を読み、事前学習をしてきて下さい。	
第15回	経営管理の応用を考える（9） ——成果発表（現代社会に求められる管理とは？）		チームメンバーで議論し、発表の準備をしてきて下さい。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 期末レポート（30％）、講義前課題レポート（10％）、講義内課題レポート（10％）			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ 授業の進行に合わせて適宜、チームでの発表をしてもらいます。その内容で判断します。			
受講態度他	20％ 授業への出席状況や受講態度などを勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、授業の中でチームでの討議や発表に取り組んでもらいます。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。			
教科書	担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。			
指定図書	岩崎夏海『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』ダイヤモンド社、2011年。			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスワーク	火曜日の昼休み（12：20～13：10） ※事前に予約を取って下さい。	メールアドレス		

授 業 科 目	経営史【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	篠崎 真美		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業の目的は、日本企業の経営プロセスを歴史的視点で捉え、どのように形成・発展・衰退・変容してきたかを学び、日本型経営の特徴や有数な企業家の事例に焦点を当て、企業の経営プロセスにおける企業家の役割を理解することにある。			
到達目標	①日本経済史から日本企業の経営史への影響について説明することができる ②日本の企業経営プロセスの変遷について説明することができる ③日本型経営の特徴や企業家の役割を説明することができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス		経営史の定義をまなぶ	
第2回	日本経済史概論		予習：事前に指定資料を読むこと	
第3回	経営史とはなにか		予習：事前に指定資料を読むこと	
第4回	商家経営の形成・発展①：ケーススタディ事例①		予習：事前に指定資料を読むこと	
第5回	商家経営の形成・発展②：ケーススタディ事例②		予習：事前に指定資料を読むこと	
第6回	商家経営の意義と限界		予習：事前に指定資料を読むこと	
第7回	近代経営の形成と発展①：企業家の役割		予習：事前に指定資料を読むこと	
第8回	近代経営の形成と発展②：企業家のケーススタディ事例		予習：事前に指定資料を読むこと	
第9回	近代経営の形成と発展③：財閥の形成・国家の役割		予習：事前に指定資料を読むこと	
第10回	財閥解体と意義		予習：事前に指定資料を読むこと	
第11回	財閥解体後の日本企業		予習：事前に指定資料を読むこと	
第12回	高度経済成長期と日本企業		予習：事前に指定資料を読むこと	
第13回	日本型企业（企業システム）の特徴		予習：事前に指定資料を読むこと	
第14回	グローバル競争下における日本企業		予習：事前に指定資料を読むこと	
第15回	統括・試験の課題		復習：定期試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	30% （講義のコメント・質問：毎回講義終了時に（10分）提出）*次回の講義の始めに回答します			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	遅刻・早退厳禁（遅刻・早退3回を1回の欠席とみなす）			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	宮本又郎他編（2007）『日本経営史（新版）』有斐閣、経営史学会編（2004）『日本経営史の基礎知識』有斐閣			
オフィスワ ーク	水曜日 5 講目 ＊事前にメールにて訪問日時を相談してください		メ ー ル ア ド レ ス	

授 業 科 目	経営情報論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	古田 龍輔		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は受講生諸君の情報活用力を高めることを目的にしています。情報活用力と言えば、すぐに情報機器の操作を思い浮かべるかも知れませんが、経営情報論Ⅰではそれよりもむしろ、そもそも何が正しい情報なのかを判別できるための基礎知識から講義を始めることにします。 （１）世の中で流通している情報は、マスコミ・ロコミ・インターネットと発信源が実に様々なので、信頼できる情報をうまく判別できるための基礎知識として、日本そして世界の実情を理解してもらうこと。これを知することは大人にとっても難しいのですが、日本のマスコミからは決して発信されない世界の現実を知っておく必要があります。 （２）いま世の中に出回っている安価または無料のネットサービスを知り活用することで、個人としての情報感度を高めてもらうこと。			
到達目標	１ 一口に「情報」と言っても、「資料情報」・「信号情報」・「意味情報」といった区別があることを理解できる。 ２ マスコミやネットで流通する雑多な情報から、ある程度まで信頼できる情報を取捨選択できる。 ３ 現代企業の経営にとってデータ分析がいかに重要であるかを、実例を見聞することで理解できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	（３）-②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 社会学関係や社会調査士関係の科目が関連しています。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回目 科目の概要説明			とくになし	
第2回目 揺らぐ情報の信頼性			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第3回目 クリティカル思考法とは？			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第4回目 推論の仕方は妥当か？			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第5回目 根拠としての「事実」は正しいか？			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第6回目 若者とICT			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第7回目 マスコミ情報は信用できるのか？			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第8回目 マスコミと災害			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第9回目 人工知能の衝撃			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第10回目 日本人と株式投資			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第11回目 株式投資で安全に収益を上げるには？			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第12回目 経営情報と会計学			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第13回目 驚くべき高収益企業のデータ経営			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第14回目 個人成果の発表会１（授業内期末試験）			成果発表に備えて事前に準備しておく。	
第15回目 個人成果の発表会２（授業内期末試験）			成果発表に備えて事前に準備しておく。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 指定資料を読んで提出する予習シートの評価点			
小テスト等	なし			
成果発表	40％ 個人成果発表の評価点			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	無断欠席をしたら、受講を放棄したものと見なします。やむを得ず欠席する場合は、必ずメールなどで事前に連絡すること。ただし、連絡すれば欠席はいくらでも出来るというわけではありません。			
教科書	とくになし			
指定図書	とくになし			
参考図書	とくになし			
オフィスワー	木曜日の２講目以降と金曜日の２講目に時間が取れます。	メールアドレス		

授 業 科 目	経営情報論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	坂本 徹		単 位	2
授業の目的 と概要	学部卒業後の進路として就職を選択する人は多くいらっしゃると思います。どのような企業に進まれるかは分かりませんが、どこに配属される事になるのでしょうか？石の上にも三年、目前の仕事に追われて若さに任せて突っ走る事になるのでしょうか？振り返る余裕があれば、今の自分の仕事が会社全体の中でどういう役割をもっているのか、日々の働きから生ずるデータはどう集約されて企業の経営に生かして行くのか等々気になることもあると思います。 本講義では、経営の機能から見た仕組みと、そこに流れるデータの集約と意思決定との関係を幾つかの事例で見えていきます。これが将来、仕事上の気付きのヒントになれば幸いです。			
到達目標	コンピュータのモデルは人間です。人間は五感（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）を通して様々な状況を脳に送り込みます（入力、インプット）。脳は状況に応じて音声・行動・筆記などの反応（出力、アウトプット）に応じます。ノートパソコンでいえば入力はキーボード、出力はモニター画面やプリンターや音です。入力されたデータをどう処理してどう出力するかは我々人間がアプリケーションソフトやプログラムを通してコンピュータに指示します。これは企業という法人についても同じです。この授業の目標は 入力 → 法人 → 出力 という明確な視点で人・もの・金・情報の流れを観察できるようになることです。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	経営とは何か		授業の最後に、次週の予告をします。	
第2回	経営のシステム		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第3回	経営における情報		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第4回	情報処理のシステム		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第5回	経営情報システム		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第6回	人間と機械の協働		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第7回	人間の役割		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第8回	情報の意義		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第9回	事務作業の機械化		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第10回	管理機能のシステム化		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第11回	市場との情報交換		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第12回	意思決定の支援システム		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第13回	情報処理システムの発展		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第14回	経営管理機能の集積		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第15回	データベースの充実		まとめの短文を書くことを勧めます。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	欠席回数が5回を超えた場合は、受験を認めません。			
教科書	とくになし			
指定図書	とくになし			
参考図書	下条 哲司 「経営情報システム」 オーム社			
オフィスワ ーク	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	経済学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	妻 海 善		単 位	2
授業の目的 と概要	日本は様々な面で国際社会と関わりを持ちながら、自らの経済・経営システムを発展させてきた。本講座では、近代産業の形成期から現在に至るまでの約120年間の日本経済の変化の流れと特徴を理解するとともに、現在の日本経済を理解するために必要な基礎的知識を学ぶことを目的とする。 1. 17世紀後半から現在に至るまでの日本経済の変化と経済システムの形成過程でみられる特徴を説明する。 2. 現在の日本経済が抱えている諸問題を、雇用、産業、金融、経済政策、少子高齢化、国際分業に焦点をおいて説明する。			
到達目標	1. 幕藩体制以後から現在に至るまでの現代日本経済の発展の歩みと特徴が理解できる。 2. 日本的経済システムが形成された背景は何かが説明できる。 3. 現在の日本経済の現状、直面している課題が理解できる。 4. 国際情勢が日本経済に与える影響、日本経済がアジアや世界経済に及ぼす影響が説明できる。。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	授業概要紹介、近代産業の形成期		内容のまとめのため、ノートを準備する	
第 2回	産業基盤の整備と工業化		地租改正と殖産興業政策を調べる	
第 3回	日本の産業革命、会社制度の発展		1914-1937年の国際情勢を調べる	
第 4回	経済統制期の経済システム		1937-1954年の国勢情勢を調べる	
第 5回	GHQと経済民主化		GHQの経済面の3大改革を調べる	
第 6回	GHQ管理下での日本の貿易、傾斜生産方式		朝鮮戦争が日本経済に与えた影響を調べる	
第 7回	高度成長の国内環境と国際環境		戦後から現在までの景気循環を確認する	
第 8回	高度成長期の産業発展		高度成長の成果と問題を調べる	
第 9回	高度成長期の企業行動と日本的経営		雇用面での3種の神器を調べる	
第10回	オイルショック以後の国際情勢		オイルショック以後の国際情勢を調べる	
第11回	プラザ合意とバブル経済		プラザ合意が日本、アジア諸国に及ぼした影響を調べる	
第12回	バブル崩壊後の長期不況		バブル崩壊後の日本経済の課題を調べる	
第13回	現代日本経済が抱えている諸問題		少子高齢化、国際分業、金融システム、雇用不安を中心にまとめる	
第14回	アベノミクスの背景と目標は		3本の矢、新3本の矢を調べる	
第15回	まとめ		全体内容のまとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	0％			
小テスト等	90％			
成果発表	0％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①B5サイズのノートを準備し毎回の授業の内容をまとめておく。 ②小テストには手書きノートのみ持ち込可 ③欠席が5回を超えると受験できない（就職活動、病気、その他の理由による欠席が5回を超えると相談が必要） ④授業内容に関係のない私語、スマートフォン・携帯電話の使用は禁止する。違反を見つけた場合は、受講態度から減点する。			
教科書	毎回、資料配布			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で適宜紹介			
オフィスワー	月～水曜日の昼休み（他の日時を希望する場合は、事前に訪問日時を相談してください）	メールアドレス		

授 業 科 目	経済学概論（国際経済学を含む）【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	斐 海善		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、経済についての基本的な見方や考え方を身につけるとともに、日本経済及び世界経済の動向について理解を高めることを目的とする。本講義は、初めて経済学を学ぶ学生のための経済学の入門コースで、前半はミクロ経済学、後半ではマクロ経済学に焦点をおいて講義を行う。経済学、マクロ経済学、国際経済学の基礎知識をベースに、日本経済と国際経済の特徴、国際経済における日本の役割などを学ぶ。			
到達目標	1. 経済の基礎理論の知識を身に付けることができる。 2. 現実の経済問題を理論的に説明する知識を身に付けることができる。 3. 国際経済に関する基本的な概念と理論について説明することができる。 4. 日本や国際社会が直面している経済の諸課題に関する望ましい解決のあり方を述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	授業計画紹介、現代経済学の範囲や分析体系		B5サイズのノートを準備する	
第 2回	経済学の論理と分析方法		ミクロ経済とマクロ経済の違いをまとめる	
第 3回	需要理論		需要決定要因を調べる	
第 4回	供給理論		供給決定要因を調べる	
第 5回	市場均衡		最低賃金を調べる	
第 6回	公共部門、市場失敗		市場失敗要因をまとめる	
第 7回	マクロ経済学の考え方		ケインズ政策を調べる	
第 8回	労働市場、生産物市場、資本市場		市場の種類と価格決定要因について調べる	
第 9回	マクロ経済指標		マクロ経済用語をまとめる	
第10回	国民所得と経済成長、景気循環		日本の経済成長と景気循環のグラフをえがく	
第11回	財政政策、金融政策 国際貿易関連指標		安倍政権の財政政策と金融政策の特徴を調べる	
第12回	為替レートと国際貿易		日本の為替政策を調べる	
第13回	国際貿易の基本的枠組み、日本の貿易構造		日本の主な貿易相手国を調べる	
第14回	グローバル化の進展と経済問題 <少テスト2>		日本経済と国際経済関係をまとめる	
第15回	全体内容のまとめ、授業評価など		全体内容の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	0％			
小テスト等	90％			
成果発表	なし			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①B5サイズのノートを準備し毎回の授業の内容をまとめておく。 ②小テストには手書きノートのみ持ち込み可能（ノートのコピは持ち込み不可）。 ③欠席が5回を超えると受験できない（就職活動、病気、その他の理由による欠席が5回を超えると相談が必要）。 ④授業内容に関係のない私語、授業中のスマートフォン・携帯電話の使用は禁止する。違反を見つけた場合は、受講態度から減点する。			
教科書	プリントは毎回の授業時に配る。欠席した人はオフィスアワー時間に研究室に取りにくること。			
指定図書	特になし			
参考図書	伊藤元重著『入門経済学 第4版』日本評論社（2015）、塩澤修平著『経済学・入門〔第3版〕』有斐閣（2013）など、適宜、紹介する。			
オフィスアワー	月～水曜日の昼休み（他の日時を希望する場合は、事前に訪問日時を相談してください）	メールアドレス		

授 業 科 目	経済学概論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	妻 海 善		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義は、初めて経済学を学ぶ学生のための経済学の入門コースである。経済学概論Ⅰではミクロ経済学に焦点を当て、消費者と生産者の行動、また消費者と生産者があう市場の種類と各市場における価格決定理論を理解することを目標とする。それによって経済学の側面からアジア理解を深める。 ①需要曲線と供給曲線による市場均衡、消費者理論、企業の生産理論、市場の種類と価格決定理論、市場失敗の原因を説明する。 ②国際貿易の基本仕組みにミクロ経済理論がどのように応用されるかを説明する。 ③ミクロ経済理論づくりの思考を説明する。			
到達目標	1. 経済理論はどのように作られるか、その仕組みが理解できる。 2. 経済の基本理論の知識を身に付けることができる。 3. 現実の経済問題を理論的に説明する知識を身に付けることができる。 4. 経済人として効率高く行動する方法を考え、実行することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	授業計画紹介、現代経済学の範囲や分析体系		ノートを準備する	
第 2回	経済学の論理と分析方法		マクロ経済学とミクロ経済学の違いをまとめる	
第 3回	需要決定要因		需要決定要因をまとめる	
第 4回	供給決定要因		供給決定要因をまとめる	
第 5回	市場均衡		最低価格、最高価格を調べる	
第 6回	限界効用理論		限界効用逓減法則、価値の逆説を理解する	
第 7回	無差別曲線理論		無差別曲線の傾きの意味を考える	
第 8回	消費者均衡		無差別曲線理論に基づき、需要曲線を誘導する	
第 9回	代替効果と所得効果		代替効果と所得効果を描いてみる	
第10回	企業の利潤極大化		限界費用曲線と平均費用曲線を描いてみる	
第11回	短期の生産曲線と費用曲線		生産において短期と長期の区分を考える	
第12回	市場の種類		四つの市場の違いを比較する	
第13回	寡占理論		寡占市場を調べる	
第14回	寡占理論とゲーム理論		ゲーム理論を調べる	
第15回	全体のまとめと質疑		まとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	0％			
小テスト等	90％			
成果発表	0％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①B5サイズのノートを準備し毎回の授業の内容をまとめておく（ノートは経済学概論Ⅱで続けて使うのが望ましい）。 ②小テストには手書きノートのみ持ち込可 ③欠席回数が5回を超えた場合は、受験できない（活動、病気、その他の理由による欠席は相談が必要）。 ④マクロ経済分析が体系的なミクロ経済学に基づき、またミクロ経済学はマクロ経済学の基礎を与えるので、1年を通しての受講を進める。			
教科書	プリントは毎回の授業時に配る			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月～水曜日の昼休み（他の日時を希望する場合は、事前に訪問日時を相談してください）	メールアドレス		

授 業 科 目	経済学概論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	妻 海 善		単 位	2
授業の目的と概要	本講座ではマクロ経済学に焦点を置き、国民所得、雇用と失業、インフレ率、消費、投資、貿易等のマクロ経済指標に影響を及ぼす要因を学び、具体的に日本経済を例とし、日本経済の動向をマクロ経済指標に基づいて理解する知識と能力を身に付けることを目標とする。それによって経済学の側面からアジア理解を深める。 ①経済を見る二つの観点としてミクロ経済学とマクロ経済学があるが、経済学概論Ⅱではマクロ経済学に焦点をおき講義を行う。 ②国民所得、雇用と失業、インフレ率、消費、投資、貿易等のマクロ経済指標の理論と仕組みを学ぶ。 ③マクロ経済学の応用として、日本の経済成長、景気循環、経済政策と貿易構造を学ぶ。			
到達目標	1. マクロ経済指標の決定要因を説明することができる。 2. 新聞やニュースで主に扱われる経済データの種類と用語、またそれを解釈する方法が理解できる。 3. 政府の金融政策と財政政策が我々の生活に与える影響を説明することができる。 4. 為替レート、金利、原油価格などが、日本経済に与える影響を的確な用語で説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	本講義で学ぶこと、ミクロ経済学とマクロ経済学の分析対象		ミクロとマクロの思考の違いを比較する	
第 2 回	マクロ経済学の起源		マクロ経済理論の流れをまとめる	
第 3 回	ケインズの一般理論		国民所得を決める四つの要因の仕組みを描いてみる	
第 4 回	国内総生産		生産面と所得面での国民所得を比較する	
第 5 回	国民所得関連指標		GDPの世界順位を調べる	
第 6 回	経済データの読み方		経済データの相互つながりを考える	
第 7 回	景気循環		日本の戦後の景気循環を描いてみる	
第 8 回	先行指数・遅行指数・一致指数		雇用状態がわかる景気指数を調べる	
第 9 回	国際金利、原油価格と日本経済		国際金利、原油価格の推移を調べる	
第10回	為替レートの歴史、為替レートが日本経済に与える影響		円高、円安の効果を比較する	
第11回	国際貿易、日本の貿易収支		日本の貿易収支赤字の原因を調べる	
第12回	財政政策、金融政策		景気と財政・金融政策をまとめる	
第13回	社会問題を経済的に思考する方法		社会の諸問題の中で一つを選び、経済理論に基づいて考えてみる	
第14回	経済統計で社会現象を理解する		消費者決定、様々な不正、インセンティブなどを経済学的に考えてみる。	
第15回	全体のまとめ、授業評価など		全体のまとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	0％			
小テスト等	小テスト90％			
成果発表	0％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	※経済学概論Ⅰを受講してから本科目を受講してください。 ①B5サイズのノートを準備し毎回の授業の内容をまとめておく（経済学概論Ⅰで使ったノートを続けて使うのを勧める）。 ②小テストには手書きノートのみ持ち込可。 ③欠席が5回を超えると受験できない（就職活動、病気、その他の理由による欠席が5回を超えると相談が必要） ④授業内容に関係のない私語、スマートフォン・携帯電話の使用は禁止する。違反を見つけた場合は、受講態度から減点する。			
教科書	プリントは毎回の授業時に配る。欠席した人はオフィスアワー時間に研究室に取りにくること。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月～水曜日の昼休み（他の日時を希望する場合は、事前に訪問日時を相談してください）	メールアドレス		

授 業 科 目	研究基礎【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	森田 理香		単 位	2
授業の目的 と概要	大学院における専門的研究生活に必要である研究スキル（文献検索やレポート作成、プレゼンテーションに関わる諸技能）を身につける。 この科目では、少人数の演習形式での授業を通して、大学院での研究生活、修士論文作成に関して必要なスキルを学ぶ。それによって大学院でのより主体的かつ専門的な修学環境の構築を目指す。			
到達目標	1) 自分の専門領域の中から研究テーマを設定し、調査分析し、論を立てることができる。 2) そのテーマについて、先行研究、参考文献の検索、フィールドワーク、インタビュー、アンケートの実施などの調査を行うことができる。 3) 調査結果を文章にまとめて、その問題について自分の言葉で語ることができる。 4) 問題提起・研究経過・分析解釈を短時間で要約し、口頭発表し、質疑応答に答え、議論を深めることが出来る。 5) 修士論文作成に関する基礎的スキルを身に付ける。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	各自の研究テーマによる修士論文作成のための「研究指導Ⅰ」「研究指導Ⅱ」と関係する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 授業のイントロダクション			大学院のシラバスを読んで参加すること	
第2回 大学院における研究とは			大学院のシラバスを読んで参加すること	
第3回 研究計画の立て方（問いのたて方）			各自の研究題材についてA4用紙一枚程度にまとめること	
第4回 文献検索の方法			自分の研究題材に関する文献を数冊列挙すること	
第5回 文献リストの作成、文献の読み方			指定された書式にあわせた文献リストの作成	
第6回 研究データの収集と分析			各自の研究内容の概要についてA4用紙一枚程度にまとめること	
第7回 研究の方法と研究倫理について			大学院生研究倫理綱領を読んで参加すること	
第 8 回 論文の輪読①			事前に配布された論文を熟読してくること	
第 9 回 論文の輪読②			事前に配布された論文を熟読してくること	
第10回 研究計画の作成			研究のアウトラインを作成すること	
第11回 プレゼンテーションと発表資料の作成①（ハンドアウト）			ハンドアウトの作成	
第12回 プレゼンテーションと発表資料作成②（パワーポイント作成）			パワーポイントの作成	
第13回 研究テーマによる口頭発表とレポートの作成			レポートの作成	
第14回 大学院生活について			研究の計画と進め方の確認	
第15回 まとめ			全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％			
小テスト等	20％（授業内での諸課題）			
成果発表	30％（研究発表）			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須である（諸事情で欠席の際には連絡すること）。この科目は、段階を追って毎回の課題を行うことで、大学院生活のための研究スキルを習得できるようにデザインされており、授業出席のほか、毎回の課題を確実に行うことが要求されている。			
教科書	特に指定しない			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業内で指示を行う			
オフィスアワー	木曜日昼休み（12:30-13:00）。メールにて事前連絡のこと。	メールアドレス		

授 業 科 目	研究指導Ⅰ【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	研究指導担当教員		単 位	4
授業の目的と概要	この授業科目は、修士論文作成のための基礎的な指導をするものである。「研究指導Ⅰ」においては、修士論文の完成に向けて、下記の授業（指導）計画にしたがって、研究計画を立て、研究課題の明確化、資料の収集方法、資料の講読あるいは解析（分析）、研究動向の把握、先行研究の整理、発表方法の習得等を内容とする個別的な指導を行う。 下記、授業（指導）内容に記載した時期を失することなく準備することはもとより、必要な資料を収集し、できるだけ多くの関連する資料文献を講読し、これらの先行研究を充分解析（分析）することが「研究指導Ⅰ」の重要な要素である。各自の研究テーマや研究方法に従い、個別もしくは複数での指導を行っていく。			
到達目標	1．研究計画を立て、研究課題を明確にし、関連する資料を収集することができる。 2．収集した資料を講読、解析（分析）し、先行研究の動向を把握して、研究の視点と方法を整理することができる。 3．研究の進行状況を報告書にまとめ、「中間発表会」の準備をととのえることができる。 4．修士論文作成の過程を通して、社会生活上の基礎的技能、特定分野の専門的知識、社会の多様な問題を考える視点を獲得することが出来る。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	研究のスキルを身につけ、研究計画に基づき、研究課題の明確化、論証性、独自性を追求していく。 主に「研究基礎」、「人間科学概論」、そして「研究指導Ⅱ」と関係する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
前期 第 1 ～ 5回：	修士論文作成のための、研究テーマ、視座、方法、資料収集、資料の扱い方等の基礎的指導を受ける。「研究計画の概要」を作成し、提出する。		課題は研究指導教員の指示によ る	
前期 第 6 ～10回：	研究課題を明確化する。修士論文作成のための「研究計画書」を作成し、提出する。		課題は研究指導教員の指示によ る	
前期 第 11～15回：	資料収集と解析（分析）方法等の指導を受ける。資料を収集する。		課題は研究指導教員の指示によ る	
後期 第16 ～20回：	研究動向を把握し、先行研究の整理と検証を行う。		課題は研究指導教員の指示によ る	
後期 第21 ～25回：	文献、及び論文の講読を進め、資料の解析（分析）を進める。		課題は研究指導教員の指示によ る	
後期 第26 ～30回：	一年間の研究概要をまとめる。「中間報告書」を作成、提出し、「中間報告会」の準備をする。指導教員の指示に従い、次年度、修士論文提出までの研究計画を確認する。		課題は研究指導教員の指示によ る	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	20％ 各報告書、提出物の内容が評価の対象となる。			
小テスト等	なし。			
成果発表	20％ 指導における成果発表が評価の対象となる。			
受講態度他	60％ 資料収集のとりくみ、研究推進の姿勢が評価の対象となる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	研究指導と修士論文作成の過程に基づき成績評価を行う。各研究指導教員の指示を受けること。 書類等の提出締め切りを厳守すること。 「研究基礎」を「研究指導Ⅰ」とあわせて履修すること。長期履修生は、「研究基礎」を出来るだけ「研究指導Ⅰ」以前の初年次に履修してほしい。 なお、「研究指導Ⅰ」は、修了予定年次の前年に履修すること。「研究指導Ⅱ」は、修了予定年次に履修すること。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	各研究指導教員の指示を受けること。			
オフィスワー	各研究指導教員の他科目のシラバスを参照すること。	メールアドレス		

授 業 科 目	研究指導Ⅱ【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	研究指導担当教員		単 位	4
授業の目的と概要	この授業科目は、修士課程の修了年次、主に修士論文作成を指導するものである。「研究指導Ⅱ」においては、修士論文の完成に向けて、下記の授業（指導）計画にしたがい、各自の研究テーマに則して、論文全体のテーマ性、論証性、独自性を追及し、論文構成、執筆等について個別的に指導を行う。 下記授業（指導）内容に記載した時期を失することなく、充分な検討を行いながら、修士論文完成に向けた授業（指導）を行う。各自の研究テーマや研究方法に従い、個別、もしくは複数での指導を行っていく。			
到達目標	１．収集した資料を講読、解析（分析）し、研究の視点と方法を明確にすることができる。 ２．論証性、独自性を追求し、的確な論文構成を作成することができる。 ３．先行研究の議論を踏まえた論理的な文章で、修士論文を執筆することができる。 ４．修士論文の作成を通して、特定分野の専門的知識の獲得、自己と向きあい、現代社会を生きる力、社会の多様な問題を考え、アプローチする力を獲得することが出来る。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	研究計画に基づき、研究課題の明確化、論証性、独自性を追求していきながら、修士論文を作成する。 主に「研究基礎」、「人間科学概論」、そして「研究指導Ⅰ」と関係する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
前期 第 1～ 5回：	修士論文の中間発表を行う。「中間発表会」を通して、論文の研究課題、方法、論文構成等について検討し、方向性と骨子をまとめる。		課題は研究指導教員の指示による	
前期 第 6～10回：	資料の講読、解析（分析）、研究の視点と方法について指導を受ける。論文題目を検討し、「修士論文題目届」を提出する。その後、必要に応じて「変更届」を提出する。		課題は研究指導教員の指示による	
前期 第11～15回：	論文全体の構成と執筆について指導を受ける。		課題は研究指導教員の指示による	
後期 第16～20回：	論文全体の構成と執筆について指導を受ける。「修士論文概要」を作成し、提出する。		課題は研究指導教員の指示による	
後期 第21～25回：	論文構成、文章、論旨の展開等に関する指導を受けながら、執筆を進める。		課題は研究指導教員の指示による	
後期 第26～30回：	修士論文をまとめ、提出する（1月15日締め切り）。論文提出後は、「修士論文審査」における口頭試問の準備、「修士論文発表会」の準備を行う。		課題は研究指導教員の指示による	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	20％ 各報告書、提出物の内容が評価の対象となる（修士論文は別途審査）。			
小テスト等	－			
成果発表	20％ 指導における成果発表が評価の対象となる（口頭試問は別途評価）。			
受講態度他	60％ 資料収集と解析（分析）のとりくみ、論文作成過程が評価の対象となる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	研究指導と修士論文作成の過程に基づき成績評価を行う。各研究指導教員の指示を受けること。 書類等の提出締め切りを厳守すること。 「研究指導Ⅱ」は、修了予定年次に履修すること。 修士論文提出後の「修士論文審査」（2月予定）については別途評価する。 上記、合格者は「修士論文発表会」（3月予定）において口頭発表をする。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	各研究指導教員の指示を受けること。			
オフィスワー	各研究指導教員の他科目のシラバスを参照すること。	メールアドレス		

授 業 科 目	研究ゼミナール(再)【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	間瀬 玲子		単 位	2
授業の目的 と概要	文学作品等を題材として、さまざまな研究方法を学ぶ事を目的とする。研究方法を学ぶことによって、自分独自のアプローチ方法を考え、実践する。そしてその実践結果をレポートとしてまとめることを目的とする。			
到達目標	1. 文学作品、マンガ、アニメ、テレビドラマ、オペラ、バレエを題材として、様々な研究方法を学び、説明することができる。 2. 学んだ研究方法の中から、題材に適した研究方法を選択することができる。 3. 選択した研究方法により、選んだ題材を分析してレポートにまとめることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など				
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 授業の進め方			シラバスを読む	
第2回 日本のテレビドラマ 『逃げるは恥だが役に立つ』 文化的アプローチ及び社会学的アプローチ			授業資料（第2回）	
第3回 フランス文学を題材にした映画 『カルメン』（複数の映画を比較する、文化的な背景を考察する）			授業資料（第3回）	
第4回 フランス文学を題材にした映画『危険な関係』（複数の映画を比較する、原作の書簡体小説を読む）			授業資料（第4回）	
第5回 フランス文学を題材にした映画『クレージュの奥方』（複数の映像を比較する）			授業資料（第5回）	
第6回 フランス文学を題材にした映画『失われた時を求めて』（原作を読む、マンガを読む）			授業資料（第6回）	
第7回 フランス文学を題材にした映画『赤と黒』（複数の映画化作品を比較する）			授業資料（第7回）	
第8回 フランス文学を題材にした映画『シラノ・ド・ベルジュラック』（アメリカ映画との比較）			授業資料（第8回）	
第9回 フランス文学を題材にした映画『星の王子さま』（アニメ、舞台）			授業資料（第9回）	
第10回 フランス文学を題材にした映画『ドン・ジュアン』（歴史的な背景を考察する）			授業資料（第10回）	
第11回 フランスの歴史映画 『モリエール 恋こそ喜劇』（フランス演劇の歴史）			授業資料（第11回）	
第12回 フランスの歴史映画『ナポレオン』（歴史学的アプローチ）			授業資料（第12回）	
第13回 フランスの歴史映画『ココ・アヴァンシャネル』（ファッション文化を考察する）			授業資料（第13回）	
第14回 パリを舞台にした日本映画『王妃の館』（パリの歴史）			授業資料（第14回）	
第15回 パリを舞台にした日本映画『万能鑑定士Q』（フランス名画の謎に迫る）			授業資料（第15回）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％（題材を選び、自分で考えた研究方法に基づいて作成する）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％（授業への積極的な参加）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業は英語メディア学科の学生以外は登録できません。 筑女ネットに最新情報等を掲載しますので、必ずチェックしてください。			
教科書	教科書はありません。授業資料を配付します。			
指定図書	渡辺諒『フランス・ミュージカルへの招待』春風社、サン＝テグジュペリ『星の王子さま』岩波書店、ポーモン夫人『美女と野獣』新潮社			
参考図書	授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日3講時	メールアドレス		

授 業 科 目	健康心理学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	板井 修一		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は、発達支援・発達臨床の具体的な援助方法や実践的なアプローチの一つとして、健康心理カウンセリングの基本について理解することを授業の目的としている。 人が病気に陥ったり、健康でいることができたりすることについて、身体的側面からだけ捉えるのではなく、心理・社会的な側面も含めた「全人的」な立場から捉えようとする「健康心理学」の基本的考え方やアプローチ法を学習する。その際、人間の弱さよりも、ストレスや過酷な状況のなかにあっても、病気にならず健康を維持し続ける人間の「強さ」やポジティブな側面に注目をする。 WHOの「健康」の定義と、新しい「健康」概念について解説したあと、ストレスと健康の関係、健康行動と疾病予防の関係について考察を深め、おそらく、授業終了時には、健康と病気についての、今まで持っていた考え方が、大きく変わることになってい			
到達目標	①WHOの「健康」の定義と、新しい「健康」概念について説明できる。 ②ストレスと健康の関係について説明することができる。 ③健康リスク要因としてのパーソナリティ特性について、例を挙げて説明できる。 ④健康心理学が果たすヘルスケアシステムに対する役割を説明できる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 この授業の前に「臨床心理学概論」を受講し、臨床心理学の基礎的な概念や視点について理解しておくこと、この授業の理解が深まる。「発達心理学Ⅰ」「発達心理学Ⅱ」を受講しておくこと、ライフサイクルの観点から、健康問題について理解すること容易になる。また、「カウンセリング概論」や「コミュニティ心理学」を併せて受講すると、臨床心理における支援のあり方について相互の理解が深まることになる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 健康とウェルビーイング 健康心理学とは何か、健康の定義、医療制度のモデルとその限界、生物心理社会モデルの			WHOの健康の定義がその後どのように再検討されてきたか調べる	
第2回 健康な社会づくり 現代社会の健康観、学校・社会・地域の健康づくり活動、健康づくりのための政策・法律			健康と関係した広告、出版物等について調べる	
第3回 現代社会とストレス ストレスの仕組み、ストレスの感じ方と個人差、効果的なストレス対処法			現代社会に溢れるストレスナーについて、どのようなものがあるか調べてくる	
第4回 健康な食生活 日本人の食生活の現状、食行動のメカニズム、食行動の発達と病理			自分の一週間の食生活について記録する	
第5回 運動と休養による健康づくり 日本における身体活動・運動と睡眠の現状と課題 等			身近な地域で行われているスポーツイベントについて調べる	
第6回 健康リスクへのアプローチ 健康リスクの考え方、発達段階と健康リスク、健康リスクへの対処			あなたの健康法と、その科学的根拠について調べる	
第7回 健康リスク要因とパーソナリティ 健康リスク要因としてのパーソナリティ、心疾患やがんとパーソナリティ、パーソナリテ			授業で実施したパーソナリティテストの分析・解釈を報告書にまとめる	
第8回 健康リスク要因と行動 健康を阻害する行動リスク要因、喫煙、依存・嗜癖、事故、リスク認知			あなたの健康阻害行動のチェックとリストアップ	
第9回 女性と健康 女性の健康と健康問題、母性に関する健康問題			女性の喫煙・飲酒に関する情報を収集し分析する	
第10回 高齢者と健康 高齢者の現状と健康概念、高齢者の自立と社会参加、スピリチュアルヘルス			高齢者の生き甲斐づくりと健康について考え意見をまとめる	
第11回 災害時の被災者の心理と支援 災害時の心理と支援の考え方			自分の「心の健康法」について、その効果と科学的裏付けについて考える	
第12回 患者の心理と病気対処行動 病気の知覚とその対処、病気行動の自己調節過程、病気体験に関する心理的要因、病気体験の克服			自分の「病気体験」「病気行動」について振り返り整理する	
第13回 健康心理学の臨床的展開 肥満と糖尿病患者・心臓病患者・がん患者等の治療における健康心理学的介入			「がんの告知」について考えをまとめる	
第14回 医療場面でのコミュニケーション 医療コミュニケーション、よりよいコミュニケーションを目指して			授業で観たビデオをもとに、医療コミュニケーションの問題点を考え整理	
第15回 ヘルスケアシステムの現状と将来の展望 日本のヘルスケアシステムの歴史、ヘルスケアシステムの現状と問題点、今後の問題			「健康心理学」で学んだことのポイントを整理する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	30％ 15回の授業回数を3期に分け、それぞれの適切な時期に課題を提示し、レポートの提出を求める。 各回10点の配点で評価する。			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	10％ 授業での質問、発言等の積極的態度を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各回の授業では、前週に提示した課題を基に、教師・学生双方向の対話型授業を行う。学生からの活発な発言を求める。			
教科書	なし 授業内容と関連したプリントを毎回配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	島井哲志・長田久雄・小玉正博(編) (2009) 『健康心理学・入門 健康なこころ・身体・社会づくり』 有斐閣アルマ			
オフィスアワー	火曜日の3時間目		メールアドレス	

授 業 科 目	芸術文化論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	岡本 文子		単 位	2
授業の目的と概要	イタリアルネッサンスから現代までの芸術作品を鑑賞します。ただ絵画などの作品のタイトルや芸術家の名前を知識として知るだけでなく、画材や作家のエピソード、社会的背景などの周縁の情報も取り入れて、多角的な視点から作品を理解し、「芸術とは感動」であることを体得することを目的としています。 この授業はイタリア・ルネッサンスから現代までの代表的な芸術家について、具体的な作品をスクリーンで見ながら、作品や作家の背景やエピソードを知り、クイズ形式でプリントに記入していきます。			
到達目標	・各自が好きな芸術家を挙げ、なぜその作品に惹かれるのかを説明できる。 ・作品のマチエールによる違いを画材や技法から説明できる。 ・芸術家と作品、社会的背景を関連づけて理解し、説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション、芸術とは、画材のいろいろ、鑑賞の観点			授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 2回 イタリアルネッサンス（1）			授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 3回 イタリアルネッサンス（2）			授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 4回 ビエール・オーギュスト・ルノワール			授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 5回 フィンセント・ファン・ゴッホ			授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 6回 クロード・モネ			授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 7回 葛飾北斎			授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 8回 アルペール・アンカー			授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 9回 パブロ・ピカソ			授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第10回 アルフォンス・ミュシャ（1）			授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第11回 アルフォンス・ミュシャ（2）			授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第12回 エルテ（ロマン・ドゥ・ティルトフ）			授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第13回 トーベ・ヤンソン			授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第14回 デザイン実習			授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第15回 マウリッツ・エッシャー			授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	―			
レポート	―			
小テスト等	9 0 % 各回に行う前回の定着確認プリント			
成果発表	1 0 % デザイン実習			
受講態度他	―			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書は使用しません。毎回授業内容確認プリントを配布します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 12：00～13：00		メールアドレス	

授 業 科 目	言語学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	高井 岩生		単 位	2
授業の目的 と概要	言語は文化的な産物であると言われることが多い。例えば、外国語を十分に理解するためには、その言語の背景にある文化を理解しなければならないというような意見を耳にする。確かに、ある言語を理解するためには、その言語話者の発想や慣習などに精通している必要はあるだろう。しかし、これらを理解したとしても、それだけでは言語を獲得することはできない。我々が話す自然言語には、他の自然現象と同じく、規則・法則性があり、これらを習得しなければ、言語を獲得することはできない。本講義では、日本語の分析を通して、自然言語に規則・法則性が存在するということの理解を目的とする。			
到達目標	日本語の音韻、統語、意味、語用の各側面についての基本的な知識を理解し、各自で、日本語の簡単な分析ができるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、参考図書、資料の紹介など）		日本語学に関する書籍を読んでおくこと。	
第2回	音韻論Ⅰ（音素と音声）		前回の授業で配布した資料を熟読すること。	
第3回	音韻論Ⅱ（条件異音と自由異音）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第4回	音韻論Ⅲ（アクセントとイントネーション）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第5回	形態論Ⅰ（品詞）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第6回	形態論（語の成り立ち）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第7回	形態論Ⅲ（活用変化）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第8回	統語論Ⅰ（文の構造）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第9回	統語論Ⅱ（項名詞と付加詞）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第10回	統語論Ⅲ（様々な文法規則）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第11回	統語論Ⅳ（様々な文法規則）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第12回	意味論・語用論（文の意味と使用意味）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第13回	意味論・語用論（発話行為）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第14回	意味論・語用論（会話の含意）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第15回	総まとめ		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％：授業で取り扱った内容について試験を行います。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％：授業に対する意欲や受講態度により評価。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業中の私語・スマホの閲覧は原則的に禁止します。授業内容で分からないところがあれば、できるだけ質問してください。			
教科書	使用せず。プリント配布			
指定図書	特になし。必要があれば、授業中に紹介する。			
参考図書	特になし。必要があれば、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	月曜日の3限目以降、またはメールで相談	メールアドレス		

授 業 科 目	言語生活特論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小野 望		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は、本研究科の主題である「人間科学」のうち、「人間の社会・文化とは何か」を理解するための基幹科目として設置されているものである。 社会を形成し、文化を創造・継承する人間のあり方と、言語の使用は不可分の関係にある。言語を実際の生活との関わりの中で考えていこうとするのが「言語生活論」の立場である。近代以前から、方言や民俗・文化の研究とともに扱われてきた言語生活研究は、現代の社会言語学、コミュニケーション論へとつながるものでもある。 本講では、敬意表現を中心として、言語（ツールを含む）の変化と生活・社会の変化の相互影響について考察を加えることにより、言語と社会・文化の相互作用の観点から人間理解を深めることを目的とする。			
到達目標	(1) 言語現象を観察し、問題点を整理して示すことができる。 (2) 言語現象の意味について、先行研究を参照して考察することができる。 (3) 人間科学の課題として、言語の問題を位置づけることができる。 (4) 自らのテーマについて調査し、考察を加えて論理的に述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	－			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 言語生活とは「人間生活と言語」について考える			配付資料を通読し、敬語に関する現代人の意識について考察しよう。	
第2回 コミュニケーション論の視点「コミュニケーション」について考える			配付資料を通読し、コミュニケーション論の考え方を整理しよう。	
第3回 日本語とコミュニケーション「敬語」を手がかりにコミュニケーションを考える			配付資料を通読し、敬語の歴史を確認しよう。	
第4回 敬意表現「敬語の指針」を手がかりにコミュニケーションの変化を考える			「敬語の指針」を通読し、敬意表現の論点を整理しよう。	
第5回 「よろしくお願いします。」			配付資料を読み、筆者の主張を確認しよう。	
第6回 「させていただく」（1）『かなり気がかりな日本語』より			配付資料を読み、筆者の論点を整理しよう。	
第7回 「させていただく」（2）『バカ丁寧化する日本語』より			追加資料を加え、問題の背景を考察しよう。	
第8回 「させていただく」（3）「させていただきます症候群」（NHK解説アーカイブス）より			現状を観察し、敬語構造の変化を考察しよう。	
第9回 ポライトネス理論（1）『ここからはじまる日本語文法』より			日本語の敬語構造を整理し、ポライトネスの考え方に広げよう。	
第10回 ポライトネス理論（2）「ポライトネスの理論」（『月刊言語』1997.6）			配付資料を読み、ポライトネス理論について理解しよう。	
第11回 ポライトネス理論（3）「依頼表現のストラテジー」（『月刊言語』1997.6）			配付資料を読み、理論化の方法を確認しよう。	
第12回 現代のコミュニケーションと配慮（1）『言語行動における配慮の諸相』より第1章			配付資料を読み、「配慮」に関する論点を整理しよう。	
第13回 現代のコミュニケーションと配慮（2）『言語行動における配慮の諸相』より第6章			配付資料を読み、「配慮」に関する事例を集めよう。	
第14回 現代のコミュニケーションと配慮（3）配慮を表す言語形式、言語化しない配慮			身近な例をもとに、コミュニケーションと配慮について意見交換しよう。	
第15回 まとめ事例と理論的枠組み、それぞれの視点からの研究方法について			最終レポートの準備を始めよう。自ら考察すべき課題を深化させよう。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 各自が選んだテーマについて、最終レポートをまとめる。			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	40％ テーマ設定、テーマに関する調査、意見交換等 授業中のミニレポートを含め、真摯な考察と積極的な発言を求める。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・受講者数の状況等によっては、上記授業計画を変更することがあります。 ・プリントを参考に、身近な言語生活から具体例を探し、考察を深めましょう。 ・情報ソース、アイディア、考察等を記録し、整理する、「自分の」方法論を見出しましょう。 ・先行研究に接することで、論理的な思考法、記述法を意識しましょう。 ・筆記試験（16回目）は行いません。			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	真田信治編『社会言語学の展望』くろしお出版（2006）ほか、授業中に紹介する。			
オフィスワー	月曜日：5講時、火曜日：5講時		メールアドレス	

授 業 科 目	言語文化特殊講義【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	羅 義圭		単 位	2
授業の目的 と概要	韓国での語学留学や韓国企業への就職のために、韓国語能力試験(TOPIK)の資格はとても求められている。 本講義では、そのニーズに合わせ、TOPIKの問題練習に丁寧に取り組むとともに、自分の苦手なところを発見し、そこから韓国語能力の向上に努める。授業では受験対策用として作成されたリスニング・読解問題を中心のテキストを用い、TOPIK I の類型を把握し、実際のTOPIK I に準拠した問題を解くことにより、TOPIK I の実践感覚を身につけることができる。 さらに、語彙力強化のために、毎回単語のテストを実施する。			
到達目標	1.基礎単語(800語程度)と基本文法が理解でき、簡単な文章を作ることができる。 2.基本会話を聞き取って理解することができる。 3.簡単な文章を読んで理解することができる。 4.TOPIK I (1級)合格を目標とする。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス TOPIK I の出題類型と内容、問題類型別分析と対策(TOPIK I の概要)		配布資料の復習と次回の予習	
第2回	TOPIK I によく出題される動詞と形容詞の丁寧形・過去形の活用		配布資料の復習と次回の予習	
第3回	(リスニング)類型1 質問に対する答えを選ぶ/(読解)類型1 質問の内容を把握する		配布資料の復習と次回の予習	
第4回	(リスニング)類型2 相応しい挨拶言葉を選ぶ		配布資料の復習と次回の予習	
第5回	(読解)類型2 文脈に相応しい適切なものを選ぶ		配布資料の復習と次回の予習	
第6回	(リスニング)類型3 会話の場所を選ぶ		配布資料の復習と次回の予習	
第7回	(読解)類型3 簡単な実用文の内容を把握する		配布資料の復習と次回の予習	
第8回	TOPIK I によく出題される動詞と形容詞の連用形・連体形の活用及び応用表現		配布資料の復習と次回の予習	
第9回	(リスニング) 類型4 会話のテーマを選ぶ		配布資料の復習と次回の予習	
第10回	(読解) 類型4 文章のポイントを把握する		配布資料の復習と次回の予習	
第11回	(リスニング) 類型5 会話の内容に合う絵を選ぶ		配布資料の復習と次回の予習	
第12回	(読解) 類型5 文脈に相応しいものを選ぶ		配布資料の復習と次回の予習	
第13回	(リスニング) 類型6 聞いた内容と一致するものを選ぶ		配布資料の復習と次回の予習	
第14回	(読解) 類型6 文章の内容と一致するものを選ぶ		配布資料の復習と次回の予習	
第15回	韓国語能力試験(TOPIK I)の模擬試験の解説		間違った問題の分析及び文法項目の復習	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	25%授業に内容によっては課題が出される			
小テスト等	20% 単語テスト(10%)、模擬テスト(10%)を行う			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 授業への積極的な参加(予習の状況等)を考慮する			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	1.韓国語 I ・ II を履修しているか、それに相当する韓国語の能力を持っていることが履修条件です。 /2.TOPIK I の受験経験者、担当先生の許可が下りた学生、交換留学の経験者も履修できます(授業の前に相談すること)。 /3.TOPIKは毎年、3回(4月、7月、10月)実施しております。この授業を受ける学生は、必ず7月に受験できるように、心掛けてください。 /4.韓国への交換学生を希望している学生は、TOPIKを受験しなければなりません(留学審査の条件の一つです)。 /5.後期に続き、この科目は、10月のTOPIK受験が履修条件となります。			
教科書	プリントは毎回の授業時に配布。欠席した人は次の授業時にお渡しする。			
指定図書	なし			
参考図書	李昌圭 『NEW TOPIK I 1級・2級編』 白帝社 2015年4月			
オフィスアワー	月曜日・木曜日・金曜日の昼休み後		メールアドレス	

授 業 科 目	言語文化特殊講義【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	羅 義圭		単 位	2
授業の目的と概要	韓国での語学留学や韓国企業への就職のために、韓国語能力試験(TOPIK)の資格はとても求められている。本講義では、そのニーズに合わせ、TOPIKの問題練習に丁寧に取り組むとともに、自分の苦手なところを発見し、そこから韓国語能力の向上に努める。授業では受験対策用として作成されたリスニング・読解問題を中心のテキストを用い、TOPIK I の類型を把握し、実際のTOPIK I に準拠した問題を解くことにより、TOPIK I の実践感覚を身につけることができる。さらに、語彙力強化のために、毎回単語のテストを実施する。			
到達目標	1.約1,500～2,000語の語彙を用いた、身近な問題に関する文章の内容を理解し、使用できる。 2.少々長い文章を聴き取って、shadowingができる。 3.聞き取った文章を書き取ることができる。 4.TOPIK I (2級)合格を目標とする。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	TOPIK模擬試験①(実力試し)		配布資料の復習と次回の予習	
第2回	模擬試験の解説及び傾向分析		配布資料の復習と次回の予習	
第3回	(聞き取り)類型7 女性・男性のメイン・アイディアのポイントを選ぶ		配布資料の復習と次回の予習	
第4回	(読解)類型7 文章のあらすじを把握する		配布資料の復習と次回の予習	
第5回	(聞き取り)類型8 文章の内容を把握すると共に、内容と一致するものを選ぶ		配布資料の復習と次回の予習	
第6回	(読解)類型8・9 文章のあらすじを把握すると共に内容と一致するものを選ぶ		配布資料の復習と次回の予習	
第7回	(聞き取り)類型9 文章のテーマを選ぶと共に、内容と一致するものを選ぶ		配布資料の復習と次回の予習	
第8回	(読解)類型10 文章を順番とおりに並べる/類型11 ()に適切な文章を選ぶ		配布資料の復習と次回の予習	
第9回	(聞き取り)類型10 文章の内容に対する質問に内容と一致するものを選ぶ		配布資料の復習と次回の予習	
第10回	(読解)類型12・13 ()の中を埋める/文章の作成の目的と内容と一致するものを選ぶ		配布資料の復習と次回の予習	
第11回	(読解)類型13・14 文章の作成の目的/()に適切な文章を入れる/内容と一致するものを選ぶ		配布資料の復習と次回の予習	
第12回	(読解)類型15・16 ()に適切なものを入れる(活用)/()に相応しいものを入れて文を完成する		配布資料の復習と次回の予習	
第13回	TOPIK模擬試験②の読解問題の解説		配布資料の復習と次回の予習	
第14回	TOPIK模擬試験②の聞き取り実施と聞き取り問題の解説		配布資料の復習と次回の予習	
第15回	TOPIK実践模擬試験③を実施及び解説		間違った問題の分析及び文法項目の復習	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	25% 授業に内容によっては課題が出される			
小テスト等	20% 単語テスト(10%)、模擬テスト(10%)を行う			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 授業への積極的な参加(予習の状況等)を考慮する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1.韓国語 I ・II を履修しているか、それに相当する韓国語の能力を持っていることが履修条件です。 2.TOPIK I の受験経験者、担当先生の許可が下りた学生、交換留学の経験者も履修できます(授業の前に相談すること)。 3.TOPIKは毎年、3回(4月、7月、10月)実施しております。この授業を受ける学生は必ず10月に受験できるように、心掛けてください。 4.韓国への交換学生を希望している学生は、TOPIKを受験しなければなりません(留学審査の条件の一つです)。			
教科書	プリントは毎回の授業時に配布。欠席した人は次の授業時にお渡しする。			
指定図書	なし			
参考図書	李昌圭 『NEW TOPIK I 1級・2級編』 白帝社 2015年4月			
オフィスワー	火曜日・木曜日・金曜日の昼休み後		メールアドレス	

授 業 科 目	【閉講】言語文化特論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	緒方 隆文		単 位	2
授業の目的 と概要	言葉と文化は強く結びつき、影響しあっています。この言葉と文化の関係を、様々な言語事象をみることで、深く理解することを目的とします。人－言葉－文化という3つの観点で、言葉や文化を見つめ直します。言語の違いを超えて、人類がもつ普遍的なものは何か、あるいは反対に、言語が違うことによる文化での違いは何かを見つめ、自分自身の見方を見つめられるようになることも目的としています。 これを様々な題材のプリントを通して、考察していきます。各テーマにおいて、自分の体験を通して、議論していきます。ことばと文化に関わるテーマを第2回～第12回で観ていきます。第13回～第14回は院生が選んだテーマを各自発表します。			
到達目標	1. 言語事象と文化の関わりの中から、課題を発見できる。 2. 文献を読み解くことで、多角的視点から言語と文化の事象を解釈できる。 3. 課題について資料を作成し、分かりやすく解説することができる。 4. 関連する資料から論理的思考力を身につけ、自らの見解を論理的に述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	－			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション： 言語文化について考察		言語文化テーマを復習。次回の内容を予習として通読する。	
第 2 回	テーマ：文字のない言語文化		文字のない言語文化を復習。次回の内容を予習として通読する。	
第 3 回	テーマ：非言語伝達		非言語伝達を復習。 次回の内容を予習として通読する。	
第 4 回	テーマ：含意と文化		含意と文化を復習。次回の内容を予習として通読する。	
第 5 回	テーマ：会話スタイル<日米のセールストーク>		日米のセールストークを復習。次回の内容を予習として通読する。	
第 6 回	テーマ：会話スタイル<日米の説得法>		日米の説得法を復習。次回の内容を予習として通読する。	
第 7 回	テーマ：会話スタイル<日米の学長祝辞>		日米の学長祝辞を復習。次回の内容を予習として通読する。	
第 8 回	テーマ：役割語		役割語を復習。次回の内容を予習として通読する。	
第 9 回	テーマ：ことばのイメージとメタファー<1>（比喩表現としてのメタファー）		メタファー(1)を復習。次回の内容を予習として通読する。	
第10回	テーマ：ことばのイメージとメタファー<2>（認知プロセスとしてのメタファー）		メタファー(2)を復習。次回の内容を予習として通読する。	
第11回	テーマ：ことばによるていねい表現<1>（待遇表現としての丁寧表現）		ていねい表現(1)を復習。次回の内容を予習として通読する。	
第12回	テーマ：ことばによるていねい表現<2>（ポライトネス理論）		ていねい表現(2)を復習。次回の内容を予習として通読する。	
第13回	テーマ：言語の性差，院生発表(各自のテーマ)		発表の準備、レポート作成、言語の性差を復習。次回の内容を通読する。	
第14回	テーマ：呼びかけ表現，院生発表(各自のテーマ)		発表の準備、レポート作成、呼びかけ表現を復習。	
第15回	講義の総括：レポート内容の確認及び討議		レポート作成、修正、最終確認	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	6 0 %			
小テスト等	なし			
成果発表	2 0 %（授業内でのプレゼンテーション）			
受講態度他	2 0 %（意見交換等、積極的な取り組みを評価する）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講者数の状況等によっては、上記授業計画を変更することがあります。 事前に配布したプリントは、当該授業までに読んでおくようにしておいてください。			
教科書	プリントを配布します			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に適宜紹介する。			
オフィスワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(メール等で、予約することが望ましい)	メールアドレス		

授 業 科 目	源氏物語入門【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	二宮 愛理		単 位	2
授業の目的と概要	『源氏物語』はこれまでの歴史の中で、多くの人々から愛読、研究され、日本の文学に影響を与え続けています。その『源氏物語』について理解を深めることは、文学の専門性を深めるだけでなく、歴史や文化など、幅広い教養を身につける上でも非常に有意義です。この授業では、『源氏物語』の全体像を把握し、基本的な知識を身につけます。巻名と大まかな物語の流れ、主要登場人物の特徴、作者や時代背景、受容について、テキストや資料を使って『源氏物語』を学びます。これにより、文学史の中で重要な存在である『源氏物語』や、その他古典文学について理解を深めることを目的としています。			
到達目標	1. 『源氏物語』を3部構成ととらえる場合の、それぞれのおおまかな物語の流れを説明できる。 2. 主要登場人物について、特徴や人物同士の関係などを説明できる。 3. 『源氏物語』の成立時代や作者、時代背景や環境について説明できる。 4. 『源氏物語』の巻名を読むことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 ガイダンス			教科書とシラバスを確認する	
第 2回 桐壺～源氏の誕生			教科書の該当箇所を読んでくる	
第 3回 雨夜の品定			教科書の該当箇所を読んでくる	
第 4回 中の品の女～空蝉・夕顔・末摘花			教科書の該当箇所を読んでくる	
第 5回 源氏の恋～若紫・六条御息所・葵の上			教科書の該当箇所を読んでくる	
第 6回 須磨・明石の物語			教科書の該当箇所を読んでくる	
第 7回 帰京・政治家としての源氏			教科書の該当箇所を読んでくる	
第 8回 六条院の人々・源氏の栄花			教科書の該当箇所を読んでくる	
第 9回 玉鬘の物語			教科書の該当箇所を読んでくる	
第10回 女三宮降嫁と六条院の陰り			教科書の該当箇所を読んでくる	
第11回 柏木の物語			教科書の該当箇所を読んでくる	
第12回 紫の上との別れ			教科書の該当箇所を読んでくる	
第13回 薫と宇治			教科書の該当箇所を読んでくる	
第14回 浮舟の物語			教科書の該当箇所を読んでくる	
第15回 まとめ			この授業で学んだことを総括する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	0％			
小テスト等	30％ 授業中に数回行います			
成果発表	0％			
受講態度他	10％ コメントカード等、授業への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	PCでのノート取り、カメラでの板書撮影（無音であっても）はご遠慮ください。（障がいのある学生への支援の場合を除く）			
教科書	『源氏物語』 角川書店編／角川ソフィア文庫			
指定図書	なし			
参考図書	中野幸一『フルカラー 見る・知る・読む 源氏物語』（勉誠出版／2013） 新編日本古典文学全集『源氏物語』1～6（小学館）			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	現代インド事情【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	喜多村 百合		単 位	2
授業の目的 と概要	「南アジア入門」の基礎・発展編。前半で、民族の博覧会と呼ばれる南アジアの家族・親族のあり方を、文化人類学の視点から理解し、その多様性を学ぶ。さらにカーストやジェンダーの視点を含めて、発展的に理解する。 中盤以降では、1991年以降空前の経済成長を続け変化する現代インド社会の諸相を検討する。国内・国際政治や経済といったダイナミックな側面から、経済発展で私たちと変わらない豊かな生活を楽しむ都市中間層の暮らしや価値変化まで扱う。さらに急速な経済変化がもたらす課題として、経済格差や環境問題、加熱する学歴社会がもたらす教育の矛盾、ジェンダー・マイノリティ問題などを挙げ、実証的に理解することをねらいとする。			
到達目標	①南アジアの家族・親族体系の多様性について説明できる。 ②カースト・ジェンダーをめぐる主たる問題について説明できる。 ③現代インド社会の「光と影」をめぐる争点を理解し、その構造を諸背景とともに説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回 導入：講義のねらいと方法			プリント復習	
第 2 回 家族・親族概論			プリント復習	
第 3 回 婚姻とジェンダー			家族理論復習	
第 4 回 インドの家族・親族論(1)：「合同家族」論批判			プリント復習	
第 5 回 インドの家族・親族論(2)：ヒンドゥー家族			親族論(1) (,2)復習	
第 6 回 インドの家族・親族論(3)：イスラーム家族			プリント復習	
第 7 回 インドの家族・親族論(4)：ナーヤルカースト、少数部族の家族			親族論(3,4)復習	
第 8 回 現代インド社会の諸相(1)：国内・国際政治			小レポート	
第 9 回 現代インド社会の諸相(2)：経済発展と人材育成			小レポート	
第10回 現代インド社会の諸相(3)：貧困問題：政策と課題			小レポート	
第11回 現代インド社会の諸相(4)：女性・ジェンダー			小レポート	
第12回 現代インド社会の諸相(5)：マイノリティ問題			小レポート	
第13回 現代インド社会の諸相(6)：都市中間層のライフスタイルと変化する価値観			小レポート	
第14回 ディスカッション			小レポート	
第15回 まとめ			期末レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート40%、小レポート40%			
小テスト等	－			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日ごろから南アジア、特にインドについてのニュース、番組、その他の情報に注意し、レディネスを養ってほしい。			
教科書	講義レジュメと抜粋コピーを配布			
指定図書	『叢書激動のインド第一巻変動のゆくえ』 『現代南アジア⑤社会・文化・ジェンダー』 『現代インドを知るための60章』			
参考図書	『文化人類学事典』 『インドを知る事典』 村武精一編『家族と親族』			
オフィスアワー	火3、木4		メールアドレス	

授 業 科 目	現代韓国事情【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	裴 海 善		単 位	2
授業の目的と概要	韓国の基礎知識、韓国の歴史と近代政治、韓服、料理、韓国の冠婚葬祭などを学ぶことによって、韓国の社会構造・文化に対する理解を深めることを目的とする。 ①韓国社会と文化、歴史の多様な面を貴重な映像と豊富な資料を使って詳しく、分かりやすく説明する。 ②見て、聴いて、触れながら韓国文化と社会を学ぶ。 ③韓国の文化・社会面における特徴を日本と比較しながら学ぶ。			
到達目標	1. 韓国の政治・歴史、社会、文化、音楽、料理など、韓国の基礎知識を身につけることができる。 2. 多様な分野における韓国の特徴について見解を述べることができる。 3. 韓国社会を日本社会と比較して説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	授業概要、ダイナミックコリア、韓国の行政区域、基礎知識		http://www.sejonghakdang.org (セゾヌリ学堂) にアクセスする。	
第 2回	韓国の伝統衣装、チマチョゴリ/バジチョゴリの着付け/折り紙		Youtubeで韓国の伝統衣装を着付けを見る	
第 3回	調理実習料理を紹介とプラン (チヂミとトッポッキ)。グループ分け、買い物、予算などを決める		Youtubeで料理の作り方を確認する	
第 4回	材料購入を説明、韓国の代表料理、キムチの種類と栄養		各組の代表は調理実習室集合 (12 : 30-13 : 00)	
第 5回	調理実習 (3309) 09 : 00-12 : 20、三角巾、エプロン持参要		各グループの代表は材料代を徴収する	
第 6回	調理実習 (3309) および感想発表		調理実習室の後片付け	
第 7回	韓国の教育制度、就活と大卒の就職実態		日本と韓国の教育制度、就活の違いを調べる	
第 8回	朝鮮半島の歴史と近代政治		12人の大統領をまとめる	
第 9回	6/8 朝鮮王朝の歴史①		朝鮮の27人の王様を調べる	
第10回	6/15 朝鮮王朝の歴史②		朝鮮王朝の身分制度、宮廷生活を調べる	
第11回	氏名、結婚式の種類、現代風の結婚式		韓国の結婚式関連用語を調べる	
第12回	葬式、祭祀、風水地理		韓国の冠婚葬祭を調べる	
第13回	コン教室；韓国旅行プラン (主要都市の特徴、航空券と宿泊先予約)		パスポート発行手続きを調べる	
第14回	コン教室：韓国旅行プラン (旅行先での主な内容を調べる)		旅行スケジュール表と見積書を完成して提出	
第15回	まとめ		全体をまとめる	
成 績 評 価	割合 (％)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10％ (旅行プラン)			
小テスト等	80％			
成果発表	0％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①B5サイズのノートを準備し毎回の授業の内容をまとめておく。 ②小テストには手書きノートのみ持ち込可。 ③欠席が5回を超えると受験できない (就職活動、病気、その他の理由による欠席が5回を超えると相談が必要) ④授業内容に関係のない私語、スマートフォン・携帯電話の使用は禁止する。違反を見つけた場合は、受講態度から減点する。			
教科書	プリントは毎回の授業時に配る。欠席した人はオフィスアワー時間に研究室に取りにくること。			
指定図書	特になし。			
参考図書	講義の中で適宜紹介			
オフィスアワー	火～水曜日の昼休み (他の日時を希望する場合は、事前に訪問日時を相談してください)	メールアドレス		

授 業 科 目	現代経済論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	坂本 徹		単 位	2
授業の目的 と概要	経済学は歴史的にみると、当初は交換価値としての価格を研究対象とするミクロ経済学と、世界恐慌を境にインフレと失業の克服を目的として国民所得を研究対象としたマクロ経済学に大別できる。 本講義では後者についてその仕組みと考え方を学習する。先ず一国の経済活動水準を測る世界共通の物差しである「国内総生産」について勉強する。次にその「国内総生産」が何によってもたらされているかを知り、我々の日常生活が過不足無い生産・分配・支出の上に成立している事実を確認する。			
到達目標	GDPの計算と、その2017年の額531兆円（実質）の構造を理解する事。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	経国内総生産の概念		授業の最後に、次週の予告をします。	
第2回	財の生産の集計		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第3回	経済循環		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第4回	在庫投資		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第5回	総需要と消費		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第6回	ケインズ型消費関数		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第7回	設備投資		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第8回	集計的総需要曲線		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第9回	貨幣とその機能		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第10回	集計的需要曲線のシフト		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第11回	財・サービスの生産と生産関数		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第12回	総供給曲線		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第13回	日本経済の経験		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第14回	バブルの発生		まとめの短文を書くことを勧めます。	
第15回	景気循環への対応		まとめの短文を書くことを勧めます。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	10％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	欠席回数が5回を超えた場合は、受験を認めません。			
教科書	奥野正寛「経済学入門」日本評論社 2017			
指定図書	なし			
参考図書	荏開津典生「明解マクロ経済学」日本評論社 2002			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	現代言語特論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	高山 百合子		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業は、方言から現代日本語の文法を観察し分析する力を養うことを、主な目的とする。とくに次の2点を重視する。 （１）日本語の文の根幹である述語構造について、現代共通語や方言を、変化の激しかった中世期と対比しながら観察することで、現代語の文の成り立ちを理解できるようになる。 （２）文法的観察のポイントを押さえられるようになる。 この講義では、現在方言から遡れる中世期の中央語と、我々にとって身近な北部九州方言を比較し、肥筑方言に認められるさまざまな古態性を見出していく。現在方言から中世日本語の要素を取り出していく中で、北部九州方言の特色、もっと言えば特殊性が浮かび上がってくる。この講義は、そうした一連の過程の中から、母語である日本語を観察し、見極める力を養うことを最も重要な目的とする。			
到達目標	（１）近代語、つまり中世から現代までの日本語中央語を概観する知識を持つ。 （２）そこから、とくに文法について、一定の傾向性やルールを導き出す観察眼と方法論の基礎を身につける。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	関連する科目：日本語学特論、言語生活特論 など			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回：オリエンテーション／日本語の文の基本構造―通時的側面、共時的側面			開講前に山口仲美『日本語の歴史』（岩波新書）を読んでおく。	
第 2回：日本語の文の基本構造と文法カテゴリについて			事前予習（配布プリント①）	
第 3回：述部構造と動詞			事前予習（配布プリント②）	
第 4回：アスペクトと動詞の分類			事前予習（配布プリント③）	
第 5回：中世語概観			事前予習（配布プリント④）	
第 6回：【調査発表①】肥筑方言概観			発表準備①	
第 7回：肥筑方言の文構造の特徴			発表準備②	
第 8回：係り結び現象について			事前予習（配布プリント⑤）	
第 9回：係り結びの周辺			事前予習（配布プリント⑥）	
第10回：方言に残る係り結び			事前予習（配布プリント⑦）	
第11回：連体と連用（１）			事前予習（配布プリント⑧）	
第12回：連体と連用（２）			事前予習（配布プリント⑨）	
第13回：文法化			事前予習（配布プリント⑩）	
第14回：【調査発表②】方言の文法研究（受講者の設定したテーマによる）			発表準備	
第15回：まとめ			これまでの復習、まとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％			
小テスト等	特になし			
成果発表	20％（演習；授業での調査発表）			
受講態度他	特に点数化はしない。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	＊授業開始の際、あらかじめ山口仲美『日本語の歴史』（岩波新書）を読んでおく。 ＊予習・復習、課題の提出などはきちんと行うこと。 ＊上記授業計画は、受講生の専門など、状況に応じて変更する可能性がある。 ＊課題などは、できるだけ授業中に、コメントを付して返却する。			
教科書	プリント使用			
指定図書	特になし			
参考図書	山口仲美『日本語の歴史』岩波新書、文法辞典類、他、必要に応じて授業の中で提示する。			
オフィスアワー	水曜 5 講時、木曜 2 講時	メールアドレス		

授 業 科 目	現代社会学概論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	花野 裕康		単 位	2
授業の目的と概要	いま私たちが当たり前のように暮らしている現代社会の特徴はいかなるものであるか。またその問題はどこにどのような形で存在するのか。この2つの観点から現代社会の全体像を考察する。その際、抽象的な考察は避け、できる限り具体的な社会事象を取り上げながら「いまここにある社会」のありさまを見てゆく。なお授業では講義者（花野）が受講者と対話を行いながら考察を進めて行く。結果として、現代社会のおおよそのありさまについて知ることが第一目的となる。そしてそれを自分の言葉で説明できるようになることが最終（第二）目的である。なお本授業は学問（日進月歩で「終わり」がない）としての「現代社会『学』」概論であり、高校までの『教科（文部科学大臣が検定した教科書が存在する）』である「現代社会」とは無関係のものであることに注意されたい。			
到達目標	①現代社会学とはどのような学問であるか、1分程度で要領よく口頭解説する事ができる。 ②現在問題となっている社会現象について、その概要・問題点・解決策を現代社会学的視点から口頭解説する事ができる。 ③現在問題となっている社会現象について、受け売りの知識でない自前の現代社会学的議論を他者と交わす事ができる。 ④現在問題となっている社会現象について、受け売りの知識でない自前の現代社会学的見解を小論文として記述できる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目など	(3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 本科目は、これに続いて、もしくは同時に開講されている「現代社会とビジネス」「現代社会とメディア」「現代社会と環境」「現代社会と地域」「現代社会とジェンダー」「現代社会と仏教」等を理解するための良き準備となる科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 現代社会学とは何か			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第2回 現代社会学における問題の立て方とその答え			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第3回 現代社会学における理論と方法			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第4回 1-3回のまとめと討論			1-3回のまとめノートを作成し次週提出	
第5回 グローバリゼーションと社会変動			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第6回 環境			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第7回 都市と生活			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第8回労働と経済			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第9回 5-8回のまとめと討論			5-8回のまとめノートを作成し次週提出	
第10回 社会的相互作用と日常生活			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第11回 ライフコース			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第12回 家族と親密な関係			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第13回 健康・疾病・障 碍			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第14回 階層と階級			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第15回 10-14回のまとめと討論			これまでの小テストとノートとを見直し総括を行う	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	100％（毎回の授業にて実施するものと、授業後に自宅で解答してもらうものがある。その積み重ねで評価する。なお小テスト等は次週授業開始時[その週休んだ場合はそれ以降の授業開始時、また授業終了後はオフィスアワー時]に返却する）			
成果発表	なし			
受講態度他	欠席や授業に積極的に参加しない等、受講態度が芳しくない受講者に関しては、小テストを受け取らない。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること（病欠や忌引きであってもその回の小テストが受けられない事に変わりはないので要注意）。これまでの自らの経験と知識とを総動員しながら考えつつ受講すること。講義者（花野）とのやり取りに積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。特に（許可された場合以外での）スマホ操作、居眠り、他の受講者に迷惑がかかる行為は厳禁とする。見つけ次第退出もしくはこれに代わる措置を取る。その代わり授業中に5分休憩を取る。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス		

授 業 科 目	現代社会学概論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	花野 裕康		単 位	2
授業の目的と概要	現代社会はどのような経緯で生まれ、今どのようなありさまであり、来たるべき社会はどのようなありさまになって行くか。この授業では、現代社会学概論Ⅰで扱った現代社会のありさまと諸問題との考察をさらに進めて、特に全世界的に問題となっている事柄を中心に考察する。なお授業では講義者（花野）が受講者と対話を行いながら考察を進めて行く。結果として、現代社会のおおよそのありさまについて（現代社会学概論Ⅰより）さらに広く・深く知ることが第一目的である。その上で、それを自分の言葉で説明できるようになることが最終（第二）目的である。なお本授業は学問（日進月歩で「終わり」がない）としての「現代社会『学』」概論であり、高校までの『教科（文部科学大臣が検定した教科書が存在する）』である「現代社会」とは無関係のものであることに注意されたい。			
到達目標	①現代社会学とはどのような学問であるか、世界規模の視点から1分程度で要領よく口頭解説する事ができる。 ②世界規模の社会現象・問題について、その概要・問題点・解決策を現代社会学的視点から口頭解説する事ができる。 ③世界規模の社会現象・問題について、受け売りの知識でない自前の現代社会学的議論を他者と交わす事ができる。 ④世界規模の社会現象・問題について、受け売りの知識でない自前の現代社会学的見解を小論文として記述できる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 本科目は、前期開講「現代社会学概論Ⅰ」の続編であり、また、これに続いて、もしくは同時に開講されている「現代社会とビジネス」「現代社会とメディア」「現代社会と環境」「現代社会と地域」「現代社会とジェンダー」「現代社会と仏教」等を理解するための良き準備となる科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 現代社会学概論Ⅰの振り返りと「足りなかったもの」			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第2回 貧困・社会的排除・福祉			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第3回 世界規模の不平等			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第4回 1-3回のまとめと討論			1-3回のまとめノートを作成し次週提出	
第5回 ジェンダーとセクシャリティー			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第6回 人種・民族・移民			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第7回 宗教			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第8回 5-7回のまとめと討論			5-7回のまとめノートを作成し次週提出	
第9回 メディア			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第10回 組織とネットワーク			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第11回 9-10回のまとめと討論			9-10回のまとめノートを作成し次週提出	
第12回 犯罪と逸脱			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第13回 政治・政府・社会運動			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第14回 国民・戦争・テロ			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第15回 10-14回のまとめと討論			これまでの小テストとノートとを見直し総括を行う	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	100％（毎回の授業にて実施するものと、授業後に自宅で解答してもらうものがある。その積み重ねで評価する。なお小テスト等は次週授業開始時[その週休んだ場合はそれ以降の授業開始時、また授業終了後はオフィスアワー時]に返却する）			
成果発表	なし			
受講態度他	欠席や授業に積極的に参加しない等、受講態度が芳しくない受講者に関しては、小テストを受け取らない。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること（病欠や忌引きであってもその回の小テストが受けられない事に変わりはないので要注意）。これまでの自らの経験と知識とを総動員しながら考えつつ受講すること。講義者（花野）とのやり取りに積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。特に（許可された場合以外での）スマホ操作、居眠り、他の受講者に迷惑がかかる行為は厳禁とする。見つけ次第退出もしくはこれに代わる措置を取る。その代わり授業中に5分休憩を取る。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス		

授 業 科 目	現代社会と環境【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	佐々木 浩		単 位	2
授業の目的と概要	生物はそれぞれを取り巻く環境に影響を与え、影響を受けて進化して来ました。生命が誕生して38億年になりますが、人間が他の生物と大きく異なる生活を始めるようになるのは、氷河期以降のこの1万年くらいの話です。氷河期が終わってから、世界中に進出し、大型哺乳類を絶滅させながら人口を増やして行きました。特に、18世紀から19世紀にかけての産業革命以降、生産活動と人口の拡大によって各地で大きな環境問題を引き起こして来ました。この講義では、人間の歴史を考え、現代社会の環境問題について理解を深め、持続可能な社会を作るために、家庭、地域、会社、社会の場でどのように変えて行くべきかを考えることができるようになることを目的としています。			
到達目標	・ 人間とその環境との関係を歴史的に考えることができるようになる。 ・ 主な環境問題について、その現状を理解し、解決策を考えることができるようになる。 ・ 個人、NPO、企業、行政がどのように環境問題と関わっているかを説明できるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 講義概要説明			教科書を読んで何を勉強していくのかを把握してください。	
第2回 持続可能な社会に向けて			教科書 (p.12-27)の復習をして下さい。	
第3回 身近な自然観察：筑女の森散策			テストの準備をして下さい。	
第4回 地球を知る			教科書 (p.28-53)の復習をして下さい。	
第5回 企業の環境への取り組み 復習テスト1			教科書 (p.208-220)の復習をして下さい。	
第6回 ゲスト講師 企業と環境問題			感想をレポートにまとめて下さい。	
第7回 地球温暖化			教科書 (p.54-71)の復習をして下さい。	
第8回 エネルギー			教科書 (p.72-86)の復習をして下さい。	
第9回 生物多様性・自然共生社会 復習テスト2			教科書 (p.88-107)の復習をして下さい。	
第10回 地域環境問題			教科書 (p.108-121)の復習をして下さい。	
第11回 循環型社会 復習テスト3			教科書 (p.122-135)の復習をして下さい。	
第12回 地域環境問題			教科書 (p.136-157)の復習をして下さい。	
第13回 化学物質、東日本大震災と原子力発電			教科書 (p.158-173)の復習をして下さい。	
第14回 持続可能な社会に向けたアプローチ 復習テスト4			教科書 (p.174-193)の復習をして下さい。	
第15回 模擬テスト			自己採点し、間違ったところを確認して下さい。	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10% レポート1回			
小テスト等	80% 復習テストを4回します。			
成果発表	なし			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	個人的事情による欠席はすべて欠席扱いとなります。			
教科書	東京商工会議所、2017、『ECO検定 改訂6版』日本能率協会マネジメントセンター、2600円+税			
指定図書	東京商工会議所、2018、「e c o検定(環境社会検定試験)R」公式問題集2018年版			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜日 3講時	メールアドレス		

授 業 科 目	【閉講】現代社会特殊講義Ⅰ【講義】			開 講 時 期	前期
担 当 教 員	佐々木 浩・藤原 隆信・吉野 嘉高			単 位	2
授業の目的と概要	本講義は、現代社会の重要な問題からテーマを設定して、ビジネス・メディア・環境共生の3領域から学際的に学ぶことを目的とする。2018年度は、「少子高齢化」をテーマとして、ビジネス領域から、藤原が5回、メディア領域から吉野が5回、環境領域から佐々木が5回担当して講義する。ビジネス領域では、労働力、企業経営、消費ニーズ、働き方などについて、メディア領域では、メディアの変化、ネットと少子化対策などについて、環境領域では、社会の変化、経済の変化、都市と地方のまちづくりなどについて学ぶ。この講義を受ける。この講義を受けることによって、これから少子高齢化が進む中で、自分の関わり方を考えることができるようになることを目的とする。				
到達目標	1.少子高齢化とビジネスの関係について説明できる。 2.少子高齢化とメディアの関係について説明できる。 3.少子高齢化と環境の関係について説明できる。 4.少子高齢化が進む中で、どのような社会を作っていきたいか自分の考えを持つことができる。				
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第1回 (担当 藤原) 講義概説。少子高齢化とビジネス (1) 「少子高齢化」が現代社会にもたらす諸課題				「少子高齢化社会」がもたらす課題について調べて来て下さい。	
第2回 (担当 藤原) 少子高齢化とビジネス (2) 労働力人口の減少と企業経営の課題				第1回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。	
第3回 (担当 藤原) 少子高齢化とビジネス (3) 「少子化」「高齢化」と消費者ニーズの変化				第2回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。	
第4回 (担当 藤原) 少子高齢化とビジネス (4) 少子高齢化社会における女性の働き方				第3回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。	
第5回 (担当 藤原) 少子高齢化とビジネス (5) 少子高齢化社会とビジネスチャンス				第4回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。	
第6回 (担当 吉野) 少子高齢化とメディア (1) マスコミの“オールドメディア化”とネットTVの新境地				課題① 講義資料、講義内容をもとに小レポート作成、提出	
第7回 (担当 吉野) 少子高齢化とメディア (2) ネットを使った少子化対策 ①子育て支援 ～ディスカッションと発表～				課題② 講義資料、講義内容をもとに小レポート作成、提出	
第8回 (担当 吉野) 少子高齢化とメディア (3) ネットを使った少子化対策 ②婚活支援 ～ディスカッションと発表～				課題③ 講義資料、講義内容をもとに小レポート作成、提出	
第9回 (担当 吉野) 少子高齢化とメディア (4) ネットを使った少子化対策 ③三世同居リフォームの推奨～ディスカッションと発表～				課題④ 講義資料、講義内容をもとに小レポート作成、提出	
第10回 (担当 吉野) 少子高齢化とメディア (5) 少子化対策とメディア ～ディスカッションと発表～				課題⑤ まとめの小レポート作成、提出	
第11回 (担当 佐々木) 少子高齢化と環境 (1) 都市への集中と地方の過疎化				課題① 講義資料、講義内容をもとに小レポート作成、提出	
第12回 (担当 佐々木) 少子高齢化と環境 (2) 里山資本主義				課題② 講義資料、講義内容をもとに小レポート作成、提出	
第13回 (担当 佐々木) 少子高齢化と環境 (3) 循環型社会				課題③ 講義資料、講義内容をもとに小レポート作成、提出	
第14回 (担当 佐々木) 少子高齢化と環境 (4) 獣害				課題④ 講義資料、講義内容をもとに小レポート作成、提出	
第15回 (担当 佐々木) 少子高齢化と環境 (5) 都市と地方の分担-まちづくり				課題⑤ まとめの小レポート作成、提出	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など				
定期試験	なし				
レポート	90 % (3人の担当者がそれぞれレポートを課して評価。それぞれ30%。)				
小テスト等	なし				
成果発表	0 %				
受講態度他	10 %				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	課題が各先生から出されます。				
教科書	なし				
指定図書	なし				
参考図書	中村修 ゴミを資源にまちづくり 農文協				
オフィスアワー	藤原 火曜日昼休み(12:20-13:10)、吉野 火・水曜日昼休み(12:30-13:00)、佐々木 月曜日3講時	メールアドレス			

授 業 科 目	現代社会特殊講義Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	速水 良晃・須藤 遙子・花野 裕康		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義は、現代社会の重要な問題からテーマを設定して、社会学およびビジネス・メディア・環境共生の3領域から学際的に学ぶことを目的とする。各領域の専任教員がオムニバスで担当する。ⅠとⅡはテーマを変えて開講する。取り上げるテーマは年度によるが、今年度のⅡは「東日本大震災」とする。			
到達目標	1. 授業テーマの概要について、簡潔に口頭で説明できる。 2. 授業テーマについて、ビジネス・メディア・環境の3側面からそれぞれ詳細を説明できる。 3. 授業テーマについて、学際的な観点から持論を展開できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 現代社会学概論Ⅰ・Ⅱ、現代社会とビジネス、メディア論、現代社会と環境、現代社会特殊講義Ⅰ			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	(速水担当) 地震と津波、原発過酷事故の原因は		授業中に出した「問題」に対する受講者の回答を次週議論	
第2回	(速水担当) 日本の原発政策は正しいか		授業中に出した「問題」に対する受講者の回答を次週議論	
第3回	(速水担当) 除染廃棄物はどこに中間貯蔵すべきか		授業中に出した「問題」に対する受講者の回答を次週議論	
第4回	(速水担当) 原発の問題点は安全性なのか		授業中に出した「問題」に対する受講者の回答を次週議論	
第5回	(速水担当) 福島原発事故と水俣病問題の類似点		授業中に出した「問題」に対する受講者の回答を次週議論	
第6回	(花野担当) 東日本大震災とは何だったのか：社会学的考察①		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第7回	(花野担当) 大震災がもたらした社会生活の変容：社会学的考察②		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第8回	(花野担当) 社会生活からの働きかけとしての復興：社会学的考察③		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第9回	(花野担当) 大震災と人々のネットワーク：社会学的考察④		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第10回	(花野担当) リスクとしての自然災害と社会システム：社会学的考察⑤		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第11回	(須藤担当) メディアにおける東日本大震災①：新聞		当時の関連新聞記事チェック	
第12回	(須藤担当) メディアにおける東日本大震災②：テレビ		当時の関連番組チェック	
第13回	(須藤担当) メディアにおける東日本大震災③：インターネット		当時のネット記事チェック	
第14回	(須藤担当) メディアにおける東日本大震災④：津波と原発事故		それぞれの報道の違いを考える	
第15回	(須藤担当) メディアにおける東日本大震災⑤：3.11以降の日本		現在まで続く3.11の影響を考える	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90％（各担当者のレポート30％×3）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（出席や授業中の積極性が不足する場合は、レポート提出できません）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。各担当者の授業をまとめたレポート提出（全3回）が必須なので、これまでの自らの経験と知識とを総動員しながら考えつつ受講すること。受講態度も評価項目に入っているなので、授業には主体的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。特に（許可された場合以外での）スマホ操作、居眠り、他の受講者に迷惑がかかる行為は厳禁とする。見つけ次第退出もしくはこれに代わる措置を取る。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし（授業中に紹介する場合もある）			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授 業 科 目	現代社会とジェンダー【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	赤枝 香奈子		単 位	2
授業の目的と概要	わたしたちが生きていく上で、「女」や「男」といった「性別」は非常に大きな意味を持っています。それは社会のしくみの多くが性別を基準にして成り立っているからです。このように社会のすみずみにまで浸透し、わたしたちの生／性を規定する性別について、「ジェンダー」という概念を用いて理解します。さらに、「ジェンダー」とかかわりの深い「セクシュアリティ」という概念について理解します。現代社会に特徴的なジェンダーをめぐる諸問題について、歴史的背景や他国の事例なども紹介しながら解説します。 映像作品の中に現れるジェンダーやセクシュアリティの表象を通して、生／性の多様なあり方について具体的にイメージし、思考する力を養うことを目指します。			
到達目標	・ジェンダーやセクシュアリティという概念について理解し、それらがどのように社会とかかわっているか説明できる。 ・ジェンダーやセクシュアリティが映画などメディアでどのように表象されているか考察できる。 ・ジェンダーやセクシュアリティにかんする近年の変化を説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		授業後に復習を行う。	
第2回	ジェンダーとセクシュアリティ		配布資料を読み、ポイントをまとめてくる。	
第3回	女性性／男性性の表象（1）		配布資料を読み、ポイントをまとめてくる。	
第4回	女性性／男性性の表象（2）		配布資料を読んでくる。グループ発表の準備を行う。	
第5回	ウーマンリブ		配布資料を読んでくる。グループ発表の準備を行う。	
第6回	性と生殖の権利		配布資料を読んでくる グループ発表の準備	
第7回	階級とジェンダー／セクシュアリティ		配布資料を読んでくる。グループ発表の準備を行う。	
第8回	同性愛／異性愛		配布資料を読んでくる。グループ発表の準備を行う。	
第9回	HIV/AIDSの影響（1）		配布資料を読んでくる。グループ発表の準備を行う。	
第10回	HIV/AIDSの影響（2）		配布資料を読んでくる。グループ発表の準備を行う。	
第11回	「新しい家族」？		配布資料を読んでくる。グループ発表の準備を行う。	
第12回	ジェンダー／セクシュアリティとアイデンティティ		配布資料を読んでくる。グループ発表の準備を行う。	
第13回	クィアという概念		配布資料を読み、ポイントをまとめてくる。	
第14回	「SOGIE」について		配布資料を読み、ポイントをまとめてくる。	
第15回	まとめ		これまでの復習を行う。レポート提出に向けた作業を行う。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％			
小テスト等	10％（授業内での小課題）			
成果発表	30％			
受講態度他	10％（発表準備、ディスカッションへの参加度、受講態度も成績評価に含める）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業では、受講生は小グループに分かれ、関連する映像作品などを見て、資料を用意し、発表を行ってもらいます。発表後には全員でディスカッションを行います。配布資料には必ず目を通してください。授業や発表、ディスカッションへの積極的参加が求められます。			
教科書	適宜プリントを配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で指示する。			
オフィスワー	水曜 4 限	メールアドレス		

授 業 科 目	現代社会と地域【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	上村 真仁		単 位	2
授業の目的と概要	現代社会は、少子高齢化、グローバル化、情報化、都市化社会など様々な特徴で語られている。本講義では、私たちの生活の基盤となる「地域」が、時代の変化とともにどのように変遷を遂げてきたかについての知識を習得するとともに、人口減少社会における地方創生のための施策を構想するために必要となる基本的な考え方を学ぶことを目的とする。そのために、具体的な地域として福岡県太宰府、柳川市、佐賀県鹿島市などを取り上げて、それぞれの高度経済成長やバブル期などの経済開発による暮らしの変化とそれらに対する地域の人々の反応を映像資料の視聴や現地でのフィールド調査をもとに考察を加えることとする。			
到達目標	高度経済成長前後の地域での暮らしの変化について、その要因を理解し、説明することが出来るようになる。 現代社会の特徴が、地域に与える影響について、そのメリット、デメリットを考え、発表することが出来る。 RESAS地域経済分析システムを使用した地域分析ができるようになる。 自身の関心のあるテーマについて、地域の暮らしとの関連性について具体的に述べるとともに、より豊かな暮らしを実現するために必要となる対策について提案することが出来るようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 現代社会と地域の進め方		地域の問題として関心のあるテーマを考えてきて下さい。	
第2回	柳川掘割物語 その1 掘割と暮らしの関わり		柳川の歴史について調べてきてください。	
第3回	柳川掘割物語 その2 高度経済成長の影響		高度経済成長期に暮らしがどのように変化したかを調べてきてください。	
第4回	柳川掘割物語 その3 市民と行政の協働による取り組み		身近な環境改善における市民の役割について考えてきてください。	
第5回	福岡県柳川市フィールドワーク計画作り（グループワーク）		柳川で調べてみたいことを考えてきてください。	
第6回	近代化の中で失われたもの 佐賀県鹿島市・有明海		有明海・諫早湾の開拓事業について調べてきてください。	
第7回	佐賀県鹿島市フィールドワーク 歴史的町並みを活かした地域づくり		伝統的建造物群保存地区について調べて来ててください。	
第8回	佐賀県鹿島市フィールドワーク ガタリンピック運営支援		ガタリンピックの成り立ちについて調べてきてください。	
第9回	鹿島とりまとめ（グループディスカッション）		フィールドワークの内容をまとめてきてください。	
第10回	柳川フィールドワーク（水の会訪問、グループ調査）		第5回で作成した計画をグループで共有し、役割分担をしてきてください。	
第11回	柳川とりまとめ（グループディスカッション）		柳川のフィールドワークの結果を各自でまとめてきてください。	
第12回	柳川まちづくりへの提案		グループで発表準備をしてきてください。	
第13回	太宰府門前町のまちづくりに向けて		太宰府小鳥居小路を訪問して課題や可能性を考えてきてください。	
第14回	太宰府フィールドワーク 小鳥居小路ヒアリング		グループで小鳥居小路のヒアリング先のアポイントを取って下さい。	
第15回	まとめ 地域で生きるための知恵		期末レポートの作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート30％ フィールドワークを通して今後の地域社会のあるべき姿について自分の考えを述べる。			
小テスト等	なし			
成果発表	40％ 授業内でのグループワーク・プレゼンテーションを評価する。			
受講態度他	30％ フィールドワークへの参加・貢献度で評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、学外講義として佐賀県鹿島市へのフィールドトリップ5月26日（土）、27日（日）、費用3000円程度、福岡県柳川市へのフィールドトリップ6月10日（日）、交通費、昼食代2000円程度を実施します。日曜の振替授業への参加、交通費負担が発生することを了承の上、受講してください。授業の一部を小鳥居小路の町家で実施します。また、現代社会と地域にまつわる自分の関心のあるキーワードについて調べ発表し、受講生の相互評価を行なう（現社バトル）を実施する。			
教科書	担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。			
指定図書	里山資本主義 藻谷浩介 角川oneテーマ21、里海資本論 井上恭介 角川新書			
参考図書	人口減少社会という希望 広井良典 朝日新聞出版、マクドナルド化と日本 G.リッツァ、丸山哲央 ミネルヴァ書房			
オフィスワーク	月曜日 3 限、4 限、水曜日 3 限、4 限		メールアドレス	

授 業 科 目	現代社会とビジネス【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	藤原 隆信		単 位	2
授業の目的 と概要	現代社会と企業経営（ビジネス）は切っても切れない関係にあります。本科目では、「経営学を初めて学ぶ」という学生の視点から、身近な事例を取り上げて企業経営の基本原理を学んでいきます。具体的には、①企業経営と私たちの暮らしはどのように関係しているのか、②企業経営の仕組みはどのようにになっているのか、③企業はどのようにして経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を活用しているのか、といった知識を身に付けていきます。授業を通じて皆さんが、現代社会と企業経営（ビジネス）の関係性や日本社会の全体像を理解できるようになる事を目指します。			
到達目標	①現代社会で働く際に必要となる企業経営の基礎知識（経営学の基礎）を身に付ける。②企業経営の仕組みやその実態を理解する。③現代社会の課題を知ると共にその実態を理解する。④上記①～③を踏まえ、現代社会における企業経営（ビジネス）のあるべき姿を自分の言葉で説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 私たちの暮らしと企業経営（1） ——私たちの生活を支える企業			商品って何ですか？身の回りにあるモノと企業との関係を考えてきて下さい。	
第2回 私たちの暮らしと企業経営（2） ——私たちが支える企業			仕事って何ですか？やりたい仕事と企業との関係を考えてきて下さい。	
第3回 私たちの暮らしと企業経営（3） ——私たちの暮らしと「お金」			「お金」って何ですか？自分の生活と「お金」ととの関係を考えて来て下さい。	
第4回 企業経営の仕組みについて（1） ——株式会社の仕組みと経営資源			株式会社はどのような「仕組み」で動いているのかを調べてきて下さい。	
第5回 企業経営の仕組みについて（2） ——VTRで考える企業経営（「会社」は誰のものか？）			講義前課題（「会社は誰のものか？」について考える）をやってきて下さい。	
第6回 企業経営の仕組みについて（3） ——発表&討論（「会社」は誰のものか？）			チームメンバーで議論し、発表の準備をしてきて下さい。	
第7回 企業による経営資源の活用（1） ——消費者ニーズと販売管理			「今、売れている商品」を調べ、売れている原因を考えて来て下さい。	
第8回 企業による経営資源の活用（2） ——研究開発と生産管理			「今、売れている商品」を調べ、どのように作られているか考えて来て下さい	
第9回 企業による経営資源の活用（3） ——VTRで考える企業経営（「研究開発」と人間の命）			講義前課題（「研究開発の必要性」について考える）をやってきて下さい。	
第10回 企業による経営資源の活用（4） ——発表&討論（「研究開発」と人間の命）			チームメンバーで議論し、発表の準備をしてきて下さい。	
第11回 現代の企業社会と労働（1） ——現代の企業社会と自立した個人			現代社会で「働き続けるために必要な能力」は何かを考えて来て下さい。	
第12回 現代の企業社会と労働（2） ——VTRで考える企業経営（現代の労働とワーキングプア）			講義前課題（「人々の生活と雇用」について考える）をやってきて下さい。	
第13回 現代の企業社会と労働（3） ——データとVTRで考える企業経営（格差社会と企業経営）			講義前課題（「企業社会」と「労働」の関係を考える）をやってきて下さい。	
第14回 現代の企業社会と労働（4） ——発表&討論（現代の企業社会と労働）			チームメンバーで議論し、発表の準備をしてきて下さい。	
第15回 現代社会の課題と企業経営 ——社会的課題の解決と企業経営			第14回授業時に配布する「期末レポート」をやってきて下さい。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 期末レポート（30％）、講義前課題レポート（15％）、講義内課題レポート（15％）			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ 授業の進行に合わせて適宜、チームでの発表をしてもらいます。その内容で判断します。			
受講態度他	10％ 授業への出席状況や受講態度などを勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、授業の中で課題レポートの作成やグループ討議に取り組んでもらう予定にしています。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。			
教科書	担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスワー	火曜日の昼休み（12：20～13：10） ※事前に予約を取って下さい。	メールアドレス		

授 業 科 目	現代社会と仏教【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	金見 倫吾・盛 智照		単 位	2
授業の目的と概要	現代社会が直面している様々な問題を取り上げ、それを乗り越えていく上で、仏教思想がもつ可能性について理解する。さらに、仏教が希求する社会像の理解を通じて、人間と社会のあり方に対する洞察力を深める。 仏教が追求する問題は、人間苦悩の解決の方向性を抽象的に、あるいは内面的に示すことだけにとどまらない。人間が生きていく上で社会的現実と直面することを避けられないように、仏教もまた、そこで生じる社会的な諸問題をいかに理解し乗り越えていくのかということに鋭くアプローチしてきた。授業では、現代社会が直面する具体的課題を取り上げ、それらを乗り越えていく方向性や方法を、仏教の思想的立場から考えていきたい。			
到達目標	1. 家族、地域社会、医療、福祉、政治等に関して、現代社会がどのような課題に直面しているのかを述べることができる。 2. 仏教的視点に立つとき、現代社会が直面する諸課題の問題性がどのように認識されてくるのかを説明することができる。 3. 現代社会の直面する諸課題に対し、仏教の果たすべき役割とその思想的可能性に関して自分の意見を述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 現社 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 現社 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）		新聞などを読み、社会で起きている事柄に興味を持つ	
第2回	仏教から社会をみる		1年生のときの「仏教学Ⅰ・Ⅱ」の復習をする	
第3回	浄土真宗から社会をみる①親鸞の信仰的立場		2年生のときの「親鸞・人と思想Ⅰ・Ⅱ」の復習をする	
第4回	浄土真宗から社会をみる②親鸞の社会的立場		2年生のときの「親鸞・人と思想Ⅰ・Ⅱ」の復習をする	
第5回	仏教とセクシュアル・マイノリティ		新聞などの関連記事を読んでおく	
第6回	ビハラー活動について①		ビハラー活動の概要を調べておく	
第7回	ビハラー活動について②		課題①作成	
第8回	ビハラー活動について③		課題①作成	
第9回	仏教と非戦・平和①憲法改定をめぐる		新聞などの関連記事を読んでおく	
第10回	仏教と非戦・平和②平和をつくる人びと		新聞などの関連記事を読んでおく	
第11回	仏教と労働問題		新聞などの関連記事を読んでおく	
第12回	仏教からみたセクシャルマイノリティの問題		新聞などにある「セクシャルマイノリティ」関連の記事を読んでおく	
第13回	仏教と貧困①ホームレス問題		新聞などの関連記事を読んでおく 課題②作成	
第14回	仏教と貧困②貧困の実態と背景		課題②作成	
第15回	まとめ		課題②提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%(課題2回。フィールドワーク参加記もしくは調査レポート)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	社会に関する最低限の知識を前提とします。新聞などを読み、現実社会で起こっている問題に関心を深めてください。 毎回の講義終了時に、感想や意見、質問等を書いて提出してもらいます。 2回のフィールドワークを予定していますので、できるだけどちらかに参加してください。(詳細は講義内で指示します)			
教科書	特に指定しない			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	現代社会とメディア【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	橋本 嘉代		単 位	2
授業の目的 と概要	現代社会とメディアの関係について理論的な裏付けや具体的な事象、出来事、データなどを取り上げながら学びます。現代社会においてメディアはどのような経緯で誕生し、どのように活用され、どのような変遷をたどり、現在どのような状況にあり、これからどこへ向かおうとしているのか。メディアは現代社会にどのような影響を及ぼしているのか、またメディアは現代社会からどのような影響を受けているのかという「メディアと社会との関わり方」を中心に理解を深めていきます。 1.日本人のメディアに関する情報行動のこれまでについて理解を深める。 2.日本人のメディアに関する情報行動の現状について理解を深める。 3.日本におけるメディアに関する諸問題について理解を深める。			
到達目標	1.日本人のメディア受容の歴史を説明することができる。 2.日本人のメディア利用の実態の変化について説明することができる。 3.現代の日本におけるメディアの諸問題について考察し、自分なりの考えを述べることができる。 4.ネット世代の日本人のあり様について説明することができる。 5.メディアについて自分なりの未来図を描くことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 関連科目としては「現代社会学概論（Ⅰ・Ⅱ）」、「現代社会とビジネス」、「現代社会と環境」などがあります。 またメディア社会コースの関連する科目としては「メディア論」、「ポピュラー文化論」、「文化と現代社会」 など。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（シラバス、授業の概要、授業計画、授業の進め方・受け方 など） メディアとは何か？ 日本人の情報行動調査票アンケート		テキスト熟読（1章 pp.1-48))、課題1	
第2回	1章 日本人はメディアをどう受け入れてきたか(1) 近代日本人の情報意識、課題1グループワーク		テキスト熟読（1章）、課題1（再考）	
第3回	1章 日本人はメディアをどう受け入れてきたか(2) 新聞、ラジオ、電話		テキスト熟読（1章）、課題2	
第4回	1章 日本人はメディアをどう受け入れてきたか(3) テレビ、インターネット		テキスト熟読（1章）、課題3	
第5回	2章 メディアの利用実態はどう変わったか(1) メディア激変の15年、課題4-1グループワーク		テキスト熟読（2章 pp. 49-94）、課題4-1（再考）	
第6回	2章 メディアの利用実態はどう変わったか(2) テレビ、新聞、インターネット、ラジオ、書籍と雑誌、電話		テキスト熟読（2章）、課題4-2	
第7回	3章 メディアの「悪影響」を考える(1) 1 メディアに対する”ネオフォビア（新規恐怖）”、グループ発表準備		テキスト熟読（3章 pp. 95-144）、発表準備	
第8回	3章 メディアの「悪影響」を考える(2) 2 メディアと暴力、グループ発表（相互評価）		テキスト熟読（3章 pp. 101-113）、発表準備	
第9回	3章 メディアの「悪影響」を考える(3) 3 テレビは子どもの発達を阻害するのか、グループ発表（相互評価）		テキスト熟読（3章 pp. 114-126）、発表準備	
第10回	3章 メディアの「悪影響」を考える(4) 4 インターネットは孤独を招くか、グループ発表（相互評価）		テキスト熟読（3章 pp. 127-138）、発表準備	
第11回	3章 メディアの「悪影響」を考える(5) 5 「ネット世論」は極化する、グループ発表（相互評価）		テキスト熟読（3章 pp. 139-144）、発表準備	
第12回	4章 ネット世代のメンタリティー(1) 1 「デジタルネイティブ」と「ネオ・デジタルネイティブ」、課題5グループワーク		テキスト熟読（4章 pp. 145-176）、課題5（再考）	
第13回	4章 ネット世代のメンタリティー(2) 2 どのようなメンタリティーを持っているのか、3 なぜネットに惹かれるのか、4 ネット依存と人間関係のしがらみ		テキスト熟読（4章）、課題6（個人発表準備）	
第14回	終章 メディアの未来にむけて(1) 1 ネットはテレビを侵蝕しているか 2 「時間代替」と「機能代替」 3 メディアのもつチカラ		テキスト熟読（終章 pp. 177-192）、課題7	
第15回	終章 メディアの未来にむけて(2) 課題7グループワーク（メディアの未来について）、最終レポートについて		テキスト熟読（終章）,最終レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％ なし			
レポート	60％ 授業での課題1～7（40％）、最終レポート課題「メディアの未来について」（20％） 最終レポート以外は、授業中に返却します。			
小テスト等	0％			
成果発表	30％ グループワーク課題（15％）、グループ発表（15％）			
受講態度他	10％ 授業での発言（発表）状況、グループワークやグループ発表での貢献度など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は講義形式で行いますが、個人作業、グループワーク、発表などを随時取り入れながら進めていきます。テキストや教材・資料を授業中に読んでいくようなことはしません。パワーポイント教材を中心に短時間で説明したのちに、アクティブな行動（学習）をできるだけ行ってもらうようにしていきます。必ず予習・復習とそれぞれの課題は授業時間外に行って、期日までに提出してください。			
教科書	橋元良明 『メディアと日本人 ー変わりゆく日常』 岩波新書 ＊プリントならびに「筑女ネット」のオンライン教材も併用していきます。			
指定図書	なし			
参考図書	藤竹暁 『図説 日本のメディア』 NHK出版（NHKブックス） ＊その他は、その都度授業で紹介します。			
オフィスアワー	月曜12:30-15:00		メールアドレス	

授 業 科 目	現代中国と教育【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	崔 淑 芬		単 位	2
授業の目的 と概要	教育の重要性については古今東西を問わず国民の大きな関心事である。21世紀を担う今日の青少年の実像に迫りながら、今日の教育あり方を再検討する必要がある。本講義では、中国の教育を取り上げ、その教育の発足・発展、また、現代中国教育の変わりつつある教育制度、教育内容及び問題を踏まえ、主に改革開放の中での教育の現状、特徴及び社会との関係に目を向け、教育や社会などの根本的な問題を検討し、今日的教育課題に対する理解を深めるようになることを目的とする。 中国教育の変わりつつある教育制度・内容について国家近代化の過程との関連を考察すると共に、今日の改革開放の中で、教育の現状、特徴及び社会との関係に目を向け、なおかつ、現在の教育に対する理解を深めるために、近年來の中国現地において女子教育や少数民族教育の調査結果、また、海外で取材した映像を使用し、レジュメの作成などにより講義を展開していく。			
到達目標	1、中国の教育を通して、アジアにおける教育問題にどのような傾向があるのかを認識することができる。 2、現代中国の少数民族教育現状を理解することができる。 3、今日の教育実相と社会などの根本的な問題を検討し、自ら心豊かな人間の形成を自覚することができる。 4、現代教育の理念・あり方、社会との関係への認識を促進し、自己教育力を育成することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 教育とは、教育の意義・授業計画			儒教とは	
第2回 中国の伝統教育①儒学思想と塾教育			科举制度とは	
第3回 中国の伝統教育②教育と科举制			教育近代化とは	
第4回 中国の教育近代化と日本			女子の教育と社会地位	
第5回 女子教育① 纏足・三従四徳と女子教育の在り方			女子の地位と教育	
第6回 女子教育② 女子留学・男女共学			今日の教育と宗教	
第7回 教育と宗教①（仏教を中心に）			イスラム教とは	
第8回 教育と宗教②（イスラム教を中心に）			義務教育とは	
第9回 農村部の教育の現状			一人っ子政策とは	
第10回 一人っ子政策と80後・90後の教育①			80後・90後とは	
第11回 一人っ子政策と80後・90後の教育②			21世紀の留学	
第12回 教育改革と「留学熱」①			留学生の現状	
第13回 留学の現状と特徴②			大学教育の特徴	
第14回 大学をめぐる日中現代教育の比較			教育についての総合的考察	
第15回 総括復習			レポートの作成・提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％			
小テスト等	なし			
成果発表	20％			
受講態度他	40％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業に必ず出席し、積極的な授業参加を望む。 授業中の私語は慎むこと。			
教科書	使用しない。各テーマの参考プリントを配布する。			
指定図書	伊藤俊夫編『豊かな体験が青少年を育てる』（財）全日本社会教育連合会（2003 年） 村瀬嘉代子ほか編 『青年期の課題と支援』新曜社			
参考図書	松本ますみ『中国民族政策の研究』多賀出版 崔淑芬『中国女子教育史』中国書店 ほか、授業中に紹介する。			
オフィスワ－	月 4限目	メールアドレス		

授 業 科 目	現代東南アジア事情【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	現代の東南アジアの社会に対する知識を見につけ、理解を深めていくことがこの講義の目的です。 多様な東南アジアについて、1.戦争の影、2.経済発展、3.日本との関係の3つの側面に着目し、認識を深めていきます。 いずれも国家レベルのマクロな事柄と、個人レベルのミクロな事柄の、双方に配慮できる、包括的な理解を目指します。 現代の東南アジアには2つの側面があります。 1つは、20世紀後半に起こった戦争の影響を引きずっている側面であり、もう1つは、近代化し経済発展を続けている側面です。 こうした事情は各国によって異なりますので、地域ごとに具体的に学びます。併せて、日本との関係についても考察します。			
到達目標	1.東南アジアにおける軍事的紛争とその社会的影響について、具体的に説明できる。 2.東南アジアの経済発展の構図と歪みについて説明できる。 3.日本と東南アジアの関係について、具体的に説明できる。 4.東南アジアの現代社会に関する文献を、自ら集め分析することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 「東アジア入門」、「東南アジア入門」、「南アジア入門」、「西アジア入門」の履修を通じて身に着けた基礎知識をもとに、東南アジアという地域の特徴と今日的課題、また日本との関係について理解を深めることができます。また「現代韓国事情」や「現代インド事情」という他地域に関する科目を履修することで、比較という視点を身につけることができます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション 東南アジアの基礎知識			第2回用レジュメ、資料に基づき予習	
第 2回 ヴェトナム戦争(1) 冷戦と東南アジア			第2回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 3回 ヴェトナム戦争(2) 戦争の悲劇			第3回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 4回 カンボジア紛争(1) ポルボト政権の成立			第4回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 5回 今日のヴェトナムと日本			第5回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 6回 カンボジア紛争(2) 内戦と和平への試み			第6回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 7回 東南アジアの経済発展 基本的構図			第7回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 8回 経済発展の光と影(1) フィリピンの事例			第8回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 9回 経済発展の光と影(2) インドネシアの事例			第9回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第10回 東南アジアの華人社会(1) 華僑から華人へ			第10回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第11回 東南アジアの華人社会(2) 華人の経済活動			第11回用レジュメ、資料に基づき予習復習、 期末レポート準備	
第12回 日本と東南アジア(1) さまざまな援助			第12回用レジュメ、資料に基づき予習復習、 期末レポート準備	
第13回 日本と東南アジア(2) 経済連携協定			第13回用レジュメ、資料に基づき予習復習、 期末レポート準備	
第14回 ASEAN概論 その役割と課題			第14回用レジュメ、資料に基づき予習復習、 期末レポート準備	
第15回 東南アジアの現在			15回用レジュメ、資料に基づき予習復習、 期末レポート準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価)50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。 その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスワー	水14:50～16:20、木12:30～13:30	メールアドレス		

授 業 科 目	現代日本語研究【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小野 望		単 位	2
授業の目的 と概要	この科目は、日本語学の発展科目として設置されているものである。 本講義は、コーパス言語学の手法を用いて、現代日本語の姿を捉え、考察することを目的とする。コーパス（corpus）とは、大量の言語資料を集めたもののことで、近年複数の大規模電子コーパスの公開が進んでいる。これらを利用することで、用字、語彙、語法、文体等の実態を見ることができるほか、学習者コーパスによる言語教育への応用研究も可能である。			
到達目標	(1)言語資料としてのコーパスについて、その特徴を説明することができる。 (2)コーパスを用いた先行研究等を参照し、言語研究のための視点や方法論を選択することができる。 (3)自ら設定した課題について、公開されているコーパスと解析ツールを用いて、言語資料を収集、分析することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は、主に以下のDPと関連しています。 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 「日本語表現演習Ⅰ・Ⅱ」などと合わせて学修することで、現代日本語の実態について理解することができます。 また、「日本語文法論」「日本語意味論」「日本語学演習Ⅰ・Ⅱ」などととともに、言語という身近な課題を分析する方法を体験す			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション 現代日本語を研究するとは？			「コーパス」について、配布プリントを読んで概要を理解しておこう。	
第2回 コーパス言語学とは何か（1） コーパスの概要と種類			配布プリントをもとに、コーパス資料の問題点について考察しよう。	
第3回 コーパス言語学とは何か（2） 歴史的概観			配付資料をもとに、コーパスの種類と歴史を整理しよう。	
第4回 コーパスの作成と公開			国立国語研究所が公開しているコーパス、データベースを確認しておこう。	
第5回 形態素解析 「Web茶まめ」を使ってみよう。			「Web茶まめ」を使ってできることを確認しよう。	
第6回 コーパスを用いた研究例（1） 現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）全文検索サイト「少納言」			「少納言」を使ってできることを整理しよう。	
第7回 コーパスを用いた研究例（2） 「少納言」を用いた研究例を読む（語彙研究として）			参考論文をもとに、コーパスを用いた研究方法を確認しよう。	
第8回 コーパスを用いた研究例（3） 「少納言」を用いた研究例を読む（コンコーダンスーとして）			参考論文をもとに、コーパスを用いた研究方法を確認しよう。	
第9回 コーパスを用いた実践研究（1） 「少納言」による資料収集			「少納言」を使って、目的の言語資料を収集しよう。	
第10回 コーパスを用いた実践研究（2） 「少納言」によって収集した資料の分析			前回集めた言語資料を、目的に従って分析しよう。（レポート1）	
第11回 コーパスを用いた研究例（4） NINJAL-LWP for BCCWJ（NLB）、NINJAL-LWP for Tsukuba Web Corpus(NLT)			NLB、NLTを使ってできることを整理しよう。	
第12回 コーパスを用いた研究例（5） NLB等を用いた研究例を読む（意味論研究として）			参考論文をもとに、コーパスを用いた研究方法を確認しよう。	
第13回 コーパスを用いた研究例（6） NLB等を用いた研究例を読む（共起関係研究として）			参考論文をもとに、コーパスを用いた研究方法を確認しよう。	
第14回 コーパスを用いた実践研究（3） NLB等による資料収集			NLB等を使って、目的の言語資料を収集しよう。	
第15回 コーパスを用いた実践研究（4） NLB等によって収集した資料の分析			前回集めた言語資料を、目的に従って分析しよう。（レポート2）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 各自が選んだ課題について、先行研究を参考に資料収集し、分析結果を報告する（2回）			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	60％ 毎回、授業で取り上げるテーマについて、簡単なまとめを報告する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・Web上に公開されている各種サービスを利用する作業があります。資料提示、レポート報告等も原則として筑女ネットを経由して行う予定です。 ・取り組み方によって成果は大きく異なります。考える力を高めるための、自分なりの方法を身につけることを目標に、積極的に参加しましょう。 ・16回目の定期試験（筆記試験）は行いません。			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	荻野綱男他編『講座ITと日本語研究』（明治書院）ほか、授業中に指示する。			
オフィスアワー	月曜日：5 講時、火曜日：5 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	現代ネットワーク社会【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	一ノ瀬 元史		単 位	2
授業の目的と概要	ITの発達などによりもたらされた現代ネットワーク社会について様々な角度から考察します。多くの情報システムより社会インフラが支えられており、携帯端末からいつでもどこでも情報検索ができ、音楽や電子書籍がネットから購入でき、ネット上のコミュニティで交流ができるなど一見便利な情報社会が形成されています。一方で個人情報の漏洩、サーバーテロ、人的ミスなどによりシステムダウンなどリスクも負っている。このようなネットワーク社会がどのように形成されてきたのか、ネットワーク社会はどのようなものに影響され、どのようなものに影響を及ぼしてきたか。これからのネットワーク社会はこうなると考えられるか。ネットワーク社会の恩恵とリスク、情報システムとビジネス、情報社会において何を学ぶべきかといったことを概説する。			
到達目標	1. インターネットの仕組みを説明できる 2. ネット社会の中で受ける恩恵とリスクを説明できる 3. 個人の生活において情報とどのように関わっていくか見通すことができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。前期の「ITと現代社会」とつながります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション 講義内容、評価方法について DVD視聴「”天国か地獄か AI（人工知能）II”」			身近な変化について調べておく	
第2回 情報が変えていく社会① 身近な変化、考え方の変化			情報社会が抱える課題について調べておく	
第3回 情報が変えていく② 情報社会が抱える問題、情報社会の見方			知的財産権について調べておく	
第4回 情報倫理① 知的財産の尊重と個人情報の保護、被害防止			ネットワーク利用のマナー（特に情報発信）について調べておく	
第5回 情報倫理② ネットワーク利用のマナー、情報セキュリティ			コミュニケーションについて調べる	
第6回 情報とコミュニケーション① 情報と人間の関わり、コミュニケーションの基礎概念			メッセージを理解するとはどういうことか	
第7回 情報とコミュニケーション② コミュニケーションモデル、メッセージの理解			ICT（ハードウェア）について調べる	
第8回 ヒューマンコンピュータインタラクション キャラクタからグラフィック、出力装置、周辺機器			出力装置について調べる	
第9回 インターネット① インターネットの仕組み、歴史、インターネットアプリケーション、電子メールサービス			インターネットについて調べる	
第10回 インターネット② Webサービス、検索エンジン、DVD視聴「Web検索はなぜ早いのか」			データベースとは何か調べる	
第11回 「超監視社会に生きる」視聴			データマイニングについて	
第12回 データベース データベース管理システム、データマイニング			情報システム（買い物編）について	
第13回 情報システム① 身近な買い物で情報システム、電話、旅行、DVD視聴「コンビニに必ず欲しいものがある理由」			情報システム（交通機関、携帯電話網など）について	
第14回 情報システム② ドライブの時に使うシステム、企業内部のシステム			情報システムについて	
第15回 最近のトピック まとめ			全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	20％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	20％（発言、1回ノート確認を含む）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	情報システムに興味のある方におすす、積極的に質問しましょう			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	金 15：00-17：00 事前に連絡を		メールアドレス	

授 業 科 目	現代文読解【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松下 博文		単 位	2
授業の目的 と概要	短歌、俳句、詩、随筆、評論など、多岐にわたる現代文の世界を詳細に解説することを目指す。 過去の大学入試問題を取り扱いながら、教員採用試験、公務員試験、就職試験などへの対策を講じつつ、学習を進める。また、 指定のテキストによって、毎回、漢字の小テストを行なう。			
到達目標	①さまざまなジャンルの作品を正確に読み解ける。 ②現代文に対する幅広い知識を身につける。 ③「国語」の基礎力を身につける。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	中村雄二郎 術語集		予習 6～13ページ	
第 2 回	白澤卓二 老化時計		予習 14～19ページ	
第 3 回	三浦雅士 考える身体		予習 20～27ページ	
第 4 回	青木保 異文化理解		予習 28～35ページ	
第 5 回	高史明 人間と言葉の深淵		予習 36～45ページ	
第 6 回	加藤周一 夕陽妄語		予習 46～51ページ	
第 7 回	養老孟司 人間科学		予習 52～61ページ	
第 8 回	鷺田清一 鷺田清一の文章		予習 62～71ページ	
第 9 回	佐野山寛太 現代広告の読み方		予習 72～79ページ	
第10回	西谷修 宗教への問い		予習 80～89ページ	
第11回	長田弘 感受性の領分		予習 90～95ページ	
第12回	芥川龍之介 毛利先生		予習 96～103ページ	
第13回	口語文法		予習 自立語と付属語	
第14回	口語文法		予習 助動詞	
第15回	口語文法		予習 助詞	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	なし			
小テスト等	40％ 小テストについては授業中に解答します。			
成果発表	なし			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席（欠席扱い）させます。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	①私語は慎むこと。 ②机上に飲食物を出さないこと。 ③携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	『センター試験対策 国語実践問題集』（桐原書店）・佐藤喜一 『基礎からのジャンプアップノート 漢字』（旺文社）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日12時30分～13時		メールアドレス	

授 業 科 目	現代ポップカルチャー【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大城 房美		単 位	2
授業の目的と概要	本講義では、21世紀以降海外で加速したマンガ/アニメブームを中心に、日本文化と異文化の関係を取り上げる。グローバル化／グローカル化をキーワードとして、国際社会の中で目まぐるしく変化している多様な価値観が、私たちの生活や考え方にどのように関わっているのか、そしてこれから私たちは現代とどのように関わってゆくことができるのかを考察する。 ＊発表の準備について＊ 発表は2種類行う。 1. テキストをまとめる発表。<担当者は、以下の要領でレジュメを作成すること> (1) テキストのまとめ（用語・キーワード説明などを含む） (2) ポイント (3) みんなに考えて欲しいこと（問題提起） (4)感想 ＊発表はテキストをよく読み、自分の言葉でまとめること。 2. small presentation(10分程度) ポップカルチャー紹介（OHC/CD/DVD/PC使用可） また講義では、美術館などで開催される展示会視察など、学外授業、ゲスト講演も計画している。			
到達目標	1. 「ポップカルチャー」への関わり方を単に楽しいからということだけでなく、なぜ私はこれが好きなのだろう、という問題提起につなげ、自分の考え方や嗜好に影響を与えているものに意識的になる。 2. 現代を生きる「自分」とうまく付き合い、より良い生き方へとつながるリテラシーを習得する。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 Introduction ポップカルチャーとは何か			講義の際に指示します。	
第 2回 ソフト・パワーとグローバル化／グローカル化			予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。（講義で資料配付）	
第 3回 文化としての日本マンガ・アニメ			予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。（講義で資料配付）	
第 4回 北九州市漫画ミュージアム 他 視察（ミュージアムの予定により、変更が生じることがあります）			展覧会の下調べ。	
第 5回 海外からみた日本のポップーアジア/欧米			予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。（講義で資料配付）	
第 6回 「国境」を越えるメディアとしてのマンガ メガヒット英語MANGAを読む One Piece、Attack on Titan など			予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。（講義で資料配付）	
第 7回 「国境」を越えるメディアとしてのマンガ メガヒット英語MANGAを読む Black Butler、Boys Over Flowersなど			予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。（講義で資料配付）	
第 8回 『女性MANGA研究』第1部 少女マンガ——グローバル化とグローカル化			予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。（講義で指示します）	
第 9回 『女性MANGA研究』第1部 少女マンガ——グローバル化とグローカル化			予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。（講義で指示します）	
第10回 『女性MANGA研究』第1部 少女マンガ——グローバル化とグローカル化			予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。	
第11回 『女性MANGA研究』第2部 BL：ボーイズ・ラブ——世界に広がるファン・カルチャー			予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。（講義で指示します）	
第12回 『女性MANGA研究』第2部 BL：ボーイズ・ラブ——世界に広がるファン・カルチャー			予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。（講義で指示します）	
第13回 『女性MANGA研究』第3部 女性マンガ——創造する女性たち			予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。（講義で指示します）	
第14回 『女性MANGA研究』第3部 女性マンガ——創造する女性たち			予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。（講義で指示します）	
第15回 まとめ			講義の際に指示します。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70% 講義の1/3(5回)を超えて欠席した場合はFinal Examの受験資格無し			
レポート	受講態度に含む			
小テスト等	なし			
成果発表	受講態度に含む			
受講態度他	30% 受講状況〔遅刻。欠席〕、授業参加（発表・宿題など）を含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	＊講義中私語・居眠りをする学生は欠席扱い(退出)。 ＊発表を担当する際、参考資料は複数あげる（例えば、Wikipediaのみに頼った発表や報告は受け付けない）。 ＊レジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価しない。 ＊学外講義を行う際には、現地集合となるので、アナウンスに注意すること。			
教科書	『女性マンガ研究』（青弓社）（購入して下さい）『ONE PIECE』『進撃の巨人』『黒執事』『花より男子』などの日本マンガいずれか一冊（講義の時に注文の指示をします）			
指定図書	『出版指標年報』2018年度版（毎年4月発売）, 『デジタルコンテンツ白書』2018年度版, Japanese Pop Culture			
参考図書	『メディア芸術アーカイブス』『現代漫画博物館』, She Draws Comics, Reading Japan Cool, Internationalizing Cultural Studies, 『マンガは越境する!』, 『思想地図』, 英語版MANGA, マンガ関係の図書は請求番号726.1で			
オフィスアワー	金曜日午後（予約を入れてください）		メールアドレス	

授 業 科 目	考古学Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大津 忠彦		単 位	2
授業の目的と概要	目的：「考古学」といえば、珍しいものの「発見」や古代遺跡の発掘といったイメージが強いようです。それではなぜ発見物・遺跡発掘が考古学にとって必要なのでしょうか。また考古学はデータをどのように生かし、解釈して人類史を考察するのでしょうか。石器や土器や金属器が遺跡から出土し、それらが博物館等で展示活用されるまでの流れにそって、考古学についての基礎的知識を身に付けます。 概要：石器が「霹靂礎(へきれきちん)」と認識されていた段階から、近代的考古学の研究資料、社会教育資源へと変遷していく様相を、江戸時代古文書や文明開化期の大森貝塚（東京）の発掘調査事例等を通じて概観します。様々な考古遺物・遺跡や考古学研究法とその成果を、パワーポイント画像を多くまじえて紹介します。			
到達目標	・「遺跡」・「遺物」・「遺構」について、具体例を挙げて考古学研究上の意味を説明することができる。 ・考古学的年代決定の原理・方法を具体的に列挙することができる。 ・「大森貝塚」発掘調査の動因、成果、その後への影響を学史的に説明することができる。 ・考古資料の収集から社会的活用までの流れを具体的に述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。 この科目と共に、「考古学Ⅱ」を受講すると相互の理解が深まります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	「考古学」的アプローチ：「遺跡」、「遺物」、「遺構」について		課題①：『雲根志』より、「霹靂礎」の項要約	
第 2 回	考古学遺物の発現：石器とカミナリさま		第4回までに課題①を提出	
第 3 回	木内 石亭著『雲根志』を読む - その（1）：考古遺物の分類		第4回までに課題①を提出	
第 4 回	木内 石亭著『雲根志』を読む - その（2）：考古遺物の解釈		第4回までに課題①を提出	
第 5 回	考古学的年代特定 - その（1）：層序と「型式」		課題②：身近な弥生時代遺跡・遺物レポート	
第 6 回	考古学的年代特定 - その（2）：絶対年代：記年銘鏡、理化学的年代測定法		第8回までに課題②を提出	
第 7 回	時代区分：とくに「石器時代」について		第8回までに課題②を提出	
第 8 回	C. J. トムセンと「三時期区分法」		第8回までに課題②を提出	
第 9 回	E. S. モースと大森貝塚の発掘		課題③：E. S. モースの講演録（1878年）の要約	
第10回	モースと「進化論」：近代日本がモースから学んだ科学的精神		第11回までに課題③を提出	
第11回	大森貝塚発掘調査の「副産物」		第11回までに課題③を提出	
第12回	遺跡の考古学的発掘調査 ― その目的と方法 ―		課題④：博物館展示品より考古資料1点のレポート	
第13回	考古資料の保存と活用 - その（1）：研究資源		第15回までに課題④を提出	
第14回	考古資料の保存と活用 - その（2）：「博物館」・「観光」資源		第15回までに課題④を提出	
第15回	「考古学Ⅰ」総括		第15回までに課題④を提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％ ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50％ ②受講態度（含、時々の小テスト成果や提出課題成果）を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・上記「成績評価に関する情報」欄の、①と②の判定組合せが「秀&秀」・「秀&優」を秀、「秀&良」・「優&優」を優、「秀&可」・「優&良」・「優&可」・「良&良」を良、「良&可」・「可&可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。 ・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。受講態度の良否は成績評価に大きく影響します。講義の進行に集中し自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	考古学Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	西 幸子		単 位	2
授業の目的 と概要	目的：考古資料は私たちの身近なところにあふれています。授業を受けることで、これら考古資料に出会った時に資料の持つ情報を深く理解するための考古学的基礎知識を身に付け、各時代の様相についての理解も深めることができます。また、考古資料が持つ情報を正しく引き出すための調査方法や内容、意義についても理解します。 概要：実際の遺跡を例に取り上げ、遺跡から出土した考古資料を通じ、資料の見方と各時代の様相を考古学的に学びます。パワーポイントにより、画像資料を多用します。また、考古学の調査に使用する道具を実際に手に取り体験して調査方法を学びます。			
到達目標	・考古学の調査方法・内容・意義について説明することができる。 ・弥生時代の集落・墳墓・生産活動の様相から弥生文化の特性を述べることができる。 ・古墳時代の集落・墳墓・生産活動の様相から古墳文化の特性を述べることができる。 ・日本の弥生文化・古墳文化を同時代の韓半島の文化と関連付けることができる。 ・「水城」「大宰府」「観世音寺」の事例から、律令期の特性を述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日文 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 アジア (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション(シラバス、授業の概要・計画、授業の進め方・受け方 など) 考古学とは何か？		課題①：自分の身近にある「考古資料」をさがす	
第2回	考古学的調査の方法・内容・意義		第3回までに課題①を提出	
第3回	考古学的調査成果と社会還元		第3回までに課題①を提出	
第4回	弥生時代の集落		課題②：博物館の展示品より「弥生時代資料」を1点レポート	
第5回	弥生時代の墳墓		第7回までに課題②を提出	
第6回	弥生時代の生産活動(弥生土器・石器・青銅器)		第7回までに課題②を提出	
第7回	弥生時代併行期の韓半島		第7回までに課題②を提出	
第8回	古墳時代の墳墓		課題③：博物館の展示品より「古墳時代資料」を1点レポート	
第9回	古墳時代の集落		第11回までに課題③を提出	
第10回	古墳時代の生産活動(須恵器・鉄器)		第11回までに課題③を提出	
第11回	古墳時代併行期の韓半島		第11回までに課題③を提出	
第12回	太宰府にある古代の遺跡①-「水城」・「大野城」		課題④：「大宰府関連の考古資料」を1点写真撮影・レポート	
第13回	太宰府にある古代の遺跡②-「大宰府」		第15回までに課題④を提出	
第14回	太宰府にある古代の遺跡③-「観世音寺」		第15回までに課題④を提出	
第15回	「考古学Ⅱ」総括		第15回までに課題④を提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％ ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50％ ②受講態度(含、提出課題成果)を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・授業は講義形式で行いますが、随時調査道具や遺物を実際に用いた体験学習も行います。 ・提出課題は締め切り日以降は受理しませんので必ず期日までに提出してください。 ・毎回の授業終了後に、授業に対する感想、疑問・質問などを記入したミニッツ・シートを回収し、コメントをつけ次の授業で返却します。			
教科書	プリントを配布			
指定図書	なし			
参考図書	授業の進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	広告論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	須藤 遙子		単 位	2
授業の目的 と概要	テレビCMや企業サイトを通じて、映像メディアやインターネットメディア広告の特徴を学ぶ。 グループでの討論をしながら、チームワークにおけるコミュニケーションスキルを高める。 「消費社会」に対する批判的な視点を養う。			
到達目標	・メディアの特性による情報の違いを理解する。 ・チームワークを円滑に進めるための的確な役割分担や積極的な発言ができる。 ・プレゼンテーション能力を身につける。 ・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。		気になるテレビCMや企業サイトをチェックする。	
第2回	テレビCM（１）概説、分析方法。		気になるテレビCMをチェックする。	
第3回	テレビCM（２）グループ分け、テーマ決め、グループ討論。		グループで決めたテレビCMを分析し、討論用にメモする。	
第4回	テレビCM（３）グループ討論、発表内容決定。		発表準備。	
第5回	テレビCM（４）グループ発表、コメント。		復習。	
第6回	インターネット企業サイト（１）概説、分析方法。		気になる企業サイトをチェックする。	
第7回	インターネット企業サイト（２）グループ分け、テーマ決め、グループ討論。		グループで決めたテレビCMを分析し、討論用にメモする。	
第8回	インターネット企業サイト（３）グループ討論、発表内容決定。		発表準備。	
第9回	インターネット企業サイト（４）グループ発表、コメント。		復習。	
第10回	雑誌広告（１）概説、分析方法。グループ分け、テーマ決め、グループ討論。		雑誌広告をチェックする。発表準備。	
第11回	雑誌広告（２）グループ発表、コメント。		復習。	
第12回	新聞広告（１）概説、分析方法。グループ分け、テーマ決め、グループ討論。		新聞広告をチェックする。発表準備。	
第13回	新聞広告（２）グループ発表、コメント。		これまでの授業をふまえ広告の役割について考察する。	
第14回	現代の広告について概説、全体討論。		これまでの授業をふまえ広告の役割について考察する。	
第15回	まとめ。		復習。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	40％			
小テスト等	0％			
成果発表	40％（グループでの参加度、発表者としてのスキル）			
受講態度他	20％（全体討論への参加態度も含める）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	グループ作業となるため、適宜グループ内での連絡を取る必要あり。 ※ただし、受講者数が少ない場合は個人発表とする。 出席・遅刻の回数は、評価に大きく影響する。 授業内の私語・スマートフォン使用厳禁。対面でのコミュニケーション能力養成のため、メールでの連絡は原則禁止とします。 用件のある学生は授業前後やオフィスアワーに直接話しにきてください。 その他、細かいルールに関しては、第1回目のオリエンテーションで説明します。			
教科書	なし。適宜プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスアワー	月曜3限。	メールアドレス		

授 業 科 目	交通産業論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	野田 秋雄		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義は、主として観光・旅行の観点から交通産業について学ぶことを目的とする。 古代から交通手段の発達は、人間のすべての営みを革命的に変えてきた。近代においては鉄道、自動車、航空機などがそれである。我が国のとりわけ島しょが多く大陸に近い九州にあつては船舶の役割も大きい。特に近年は中国など東アジア諸国からのインバウンド（訪日客）も急増している。 交通産業は旅客交通と貨物交通に大きく分けられる。旅客交通は、通勤・通学・買い物など日常的な短距離移動も担っており、同時にまちづくり（都市政策）とも密接に関わっている。 また貨物交通とくに国際航空貨物輸送の分野では「国際ハブ空港」を目指す九州・沖縄の空港も存在感を増しつつある。 そこで本講義ではこれらを概観した後、主に観光・旅行と交通産業の関係、そして未来のあり方について考えていきたい。			
到達目標	毎回の授業と、復習、そして任意に行われる小テストを通じて、「観光」の視点から交通（旅行）産業の現状と問題点などを理解し、かつ自らの考えを文章で論理的に表現できるようになること、以上を本講義の「到達目標」とする。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 特に関連する科目は「観光産業論」などである。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（自己紹介、スケジュール全体の概説、受講上の注意など）		日本の旅行業界の現状について予習する	
第2回	「旅行業界で働く」ということ（その1 新人営業職を例に）		今回の授業内容と疑問点について復習する	
第3回	「旅行業界で働く」ということ（その2 ベテラン営業職を例に）		今回の授業内容と疑問点について復習する	
第4回	外国人観光客の誘客策（その1 地方の温泉旅館を例に）		今回の授業内容と疑問点について復習する	
第5回	外国人観光客の誘客策（その2 都市ホテルを例に）		今回の授業内容と疑問点について復習する	
第6回	外国人観光客の誘客策（その3 世界の観光大国・フランスを例に）		今回の授業内容と疑問点について復習する	
第7回	外国人観光客の受け入れと「民泊」の現状・課題		今回の授業内容と疑問点について復習する	
第8回	観光バスにおける「おもてなし（接客）」を考える		今回の授業内容と疑問点について復習する	
第9回	観光バス業界の安全性を考える（ツアーバス事故を例に）		今回の授業内容と疑問点について復習する	
第10回	都市部の公共交通機関（鉄道・タクシー他）の現状と課題		今回の授業内容と疑問点について復習する	
第11回	地方における「交通弱者」「買い物難民」を考える		今回の授業内容と疑問点について復習する	
第12回	医療ツアーと旅行業界		今回の授業内容と疑問点について復習する	
第13回	九州の新幹線と観光列車		今回の授業内容と疑問点について復習する	
第14回	九州の空港と港湾（「インバウンド」対策）		今回の授業内容と疑問点について復習する	
第15回	国際航空貨物輸送		今回の授業内容と疑問点について復習する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％			
レポート	－			
小テスト等	40％（前期授業中に任意に数回行う各回15分程度の理解度確認テスト）			
成果発表	－			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、居眠り、途中出入り、携帯端末の操作などは「授業に集中していない」とみなされ減点の対象となることがある。			
教科書	指定しない			
指定図書	指定しない			
参考図書	必要に応じて授業の中で指示する。			
オフィスワーク	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	公的扶助論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	高木 佳世子		単 位	2
授業の目的 と概要	1. 貧困問題の原因と公的扶助の意義について学び、生活保護制度のあるべき運用について検討する。 2. 生活保護制度の運用の実際と生活保護法改正の概要について学び、問題点についても検討する。			
到達目標	1. 貧困問題が生じる原因と公的扶助の意義について説明できる。 2. 生活保護制度の概要について説明できる。 3. 生活保護制度改革や運用上の問題点について指摘できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	公的扶助の概念と歴史		第1章、第2章を読む。配付資料を見直して復習する。	
第2回	生活保護法と生活保護制度、生活保護の目的		第3章第1節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第3回	生活保護の原理（1）1～4条		第3章第2節1～3、5、6を読む。配付資料を見直して復習する。	
第4回	生活保護の原理（2）4条 稼働能力活用要件		第3章第2節4を読む。配付資料を見直して復習する。	
第5回	生活保護の原則（1）7条、8条		第3章第3節1、2を読む。配付資料を見直して復習する。	
第6回	生活保護の原則（2）9条、10条		第3章第3節3、4を読む。配付資料を見直して復習する。	
第7回	生活保護基準と保護の種類、内容及び方法		第3章第4節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第8回	保護施設		第3章第6節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第9回	被保護者の権利及び義務		第5章第1節、第2節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第10回	不服申立てと訴訟		第5章第3節、第4節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第11回	生活保護の実施体制、実施機関		第6章第1節1、2、第2節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第12回	生活保護の財政		第6章第1節3を読む。配付資料を見直して復習する。	
第13回	自立支援プログラム		第8章第5節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第14回	生活保護法2013年改正について		第8章第6節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第15回	低所得者対策（ホームレス自立支援法、社会手当、生活福祉資金貸付制度等）		第10章を読む。配付資料を見直して復習する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。			
教科書	吉永純・布川日佐史・加美嘉史編著『現代の貧困と公的扶助 低所得者に対する支援と生活保護制度』高学出版			
指定図書	池田和彦・砂脇恵編著『公的扶助の基礎理論－現代の貧困と生活保護制度』ミネルヴァ書房			
参考図書	講義の際に紹介します。			
オフィスアワー	水曜3限	メールアドレス		

授 業 科 目	高齢者心理学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	久 桃子		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義では生涯発達という視点から高齢期の人々の心理を理解することを目標とする。加齢に伴ってさまざまな身体的変化や、認知能力に関する変化が起こるとともに、心理面にもさまざまな変化が起こる。そのような変化はどのように起きていくのか、どのような支援や関わりがあると良いのかという心理学的な視点から高齢期の人々の心理に対する理解を深めていくことをテーマとする。			
到達目標	老いに伴う身体的、認知的、心理的な変化について、偏見や思い込みではなく、正しい知識を基に理解し、説明することができる。 周囲の高齢者に対してその心理を理解したうえで関わるができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 老年期の発達（生涯発達、加齢、老い）			授業の復習	
第2回 エイジング（身体機能、知覚機能）			授業の復習	
第3回 エイジング（認知機能、記憶機能）			授業の復習	
第4回 老いへの適応（発達課題、老化への適応理論）			授業の復習	
第5回 老いへの適応（well-being QOL）			授業の復習	
第6回 家族と社会（高齢期の家族関係）			授業の復習	
第7回 家族と社会（高齢者と仕事、地域との関係）			授業の復習	
第8回 高齢者に生じやすい精神疾患（認知症、うつ、せん妄）			授業の復習	
第9回 高齢者をアセスメントする			授業の復習	
第10回 認知症高齢者の心理的支援			授業の復習	
第11回 高齢者への心理療法			授業の復習	
第12回 高齢者の健康支援としての心理的支援			授業の復習	
第13回 終末期の心理的変化			授業の復習	
第14回 終末期の心理的援助			授業の復習	
第15回 まとめ（ふりかえり）			授業の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	ミニレポート40％			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	－			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業ではグループディスカッションを行います。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜提示します。			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	高齢者福祉論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	金 圓景		単 位	2
授業の目的 と概要	高齢者を取り巻く社会問題や高齢者の特性などを理解した上で、高齢者を支えてきた諸制度の歴史的な展開について学ぶ。また、介護保険制度について学び、今日における高齢者の暮らしや課題を検討することを目的とする。			
到達目標	1．高齢者を取り巻く社会問題を理解し、説明できる。 2．高齢者を支える諸制度について理解できる。 3．今日における高齢者の暮らしや課題を検討した上で、解決策を提示できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	高齢者を取り巻く社会問題（1）－人口学からみた少子高齢社会と家族の変容－		少子高齢社会と家族の変容のまとめ	
第2回	高齢者を取り巻く社会問題（2）－現代社会における孤立死の増加、高齢者の虐待－		高齢者の孤立死の状況・原因を調べる	
第3回	高齢者の総合的理解と認知症ケア－高齢者の特性と疾病、老い－		高齢者の特性と主な疾病を整理する	
第4回	認知症高齢者をめぐる現状－認知症の定義や種類、関連制度－		認知症高齢者日常生活自立度を調べる	
第5回	高齢者福祉の発展過程（1）－第二次世界大戦前から老人福祉法下における発展－		老人福祉法など関連法律を調べる	
第6回	高齢者福祉の発展過程（2）－平成の高齢者保健福祉－		介護保険制度創設に至るまでの歴史的背景を調べる	
第7回	介護保険制度（1）－介護保険制度設立の背景・目的・仕組み－		介護保険制度概要のまとめ	
第8回	介護保険制度（2）－これまでの実施状況と現在の動向－		主な法改正内容について調べる	
第9回	介護保険制度（3）－介護保険制度を支える組織－		国・都道府県・市町村の役割について整理する	
第10回	高齢者を支える在宅サービス及び地域密着型サービス		在宅サービス・地域密着型サービスについて調べる	
第11回	高齢者を支える施設サービス		施設サービスについて調べる	
第12回	地域包括支援センターの役割と実際		地域包括支援センターの主な業務内容について調べる	
第13回	介護保険制度におけるケアマネジメント		ケアマネジメントの機能について調べる	
第14回	介護保険制度下における専門職とネットワーキング－多職種間連携の実際－		多職種間連携の意味と必要性についてまとめる	
第15回	高齢者虐待をめぐる現状と課題－高齢者虐待の実態、虐待予防の取り組み、虐待発見時の対応、「高齢者虐待防止法」の概要		高齢者虐待問題の対応システムをまとめる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% レポート（小レポート5回） レポートについては、コメントをつけて次回の授業で返却する			
小テスト等	50% 小テスト テストについては、次回の授業で返却する			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・毎回レジュメと資料を配布するので、やむを得ず欠席したときなどは、後日研究室に資料を受け取りに来ること。 ・各自、講義ノートを作成し、事前学習・事後学習の際に活用すること。 ・講義中の私語は厳禁とする。			
教科書	社会福祉学習双書2018「老人福祉論：高齢者に対する支援と介護保険制度」全社協			
指定図書	なし			
参考図書	『老いと社会』有斐閣、『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規			
オフィスワー	月曜日 3 限		メールアドレス	

授 業 科 目	高齢者保健福祉特論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	金 圓景		単 位	2
授業の目的 と概要	日本の介護システムを知り、諸外国との比較を通して、介護システムの在り方について理解できるようにすることを目的とする。 また、高齢者になっても地域で暮らし続けることができるようにするための地域包括ケアシステムについて学ぶ。さらに、要介護 高齢者と家族介護者の実態を知り、必要な支援システムについて理解できることを目標とする。			
到達目標	1．日本の介護システムについて理解し、その現状と課題について説明することができる。 2．地域包括ケアシステムについて理解し、実践事例を参考に、在り方を考察できる。 3．要介護高齢者と家族介護者への支援システムの現状と課題について理解し、必要な支援システムを提案できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	－			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	老いと社会		老いの概念整理	
第 2回	日本の介護システム（１）		介護保険制度の概要整理及び介護保険法を読む	
第 3回	日本の介護システム（２）		介護保険制度改正内容について整理	
第 4回	日本の介護システム（３）		介護保険制度の現状と課題について整理	
第 5回	諸外国の介護システム		諸外国の介護システムを調べ、日本と比較整理	
第 6回	介護システムの在り方		介護システムの在り方についてプレゼンテーション準備	
第 7回	施設福祉の歴史と現状		高齢者施設の類型と機能を整理	
第 8回	在宅福祉の歴史と現状		高齢者の在宅福祉サービス内容の整理	
第 9回	地域包括ケアシステム（１）		地域包括ケアシステム関連報告書を読む	
第10回	地域包括ケアシステム（２）		地域包括ケアシステムの実践現場見学	
第11回	地域包括ケアシステム（３）		地域包括ケアシステムの実践事例を調べ、整理	
第12回	要介護高齢者と家族介護者への理解		家族介護当事者の声を聴く	
第13回	要介護高齢者と家族介護者への支援システム（１）		家族介護者支援システムの現状と課題整理	
第14回	要介護高齢者と家族介護者への支援システム（２）		家族介護者支援システム関連文献を読む	
第15回	要介護高齢者と家族介護者への支援システム（３）		家族介護者支援システムの在り方について整理	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 課題レポート レポートについては、適宜返却します。			
小テスト等	0％			
成果発表	50％ 授業内での口頭発表 発表内容については、その都度フィードバックします。			
受講態度他	20％ 授業での発言状況など、積極的な態度を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業では、授業内でのプレゼンテーション及びディスカッションへの積極的な参加を求める。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	副田あけみ編『リーディング日本の社会福祉3 高齢者と福祉ケアのあり方』 日本図書センター			
オフィスアワー	木曜日、１２：２０－１３：００		メールアドレス	

授業科目	国語科教育法Ⅰ(中等教職)【演習】		開講時期	前期
担当教員	出雲 俊江		単 位	4
授業の目的と概要	<目的>中学校・高等学校の国語科授業を理論的に構築し、実践するための基礎的な力を養うことを目的とする。特に、国語科教育についての理論と実践の歴史についての学びを土台として、学習者が真の主体となる「国語」の授業を構成するための考え方、及び、教材研究から学習指導案作りまでを身に着けることを目指す。特に演習によって、よい授業のあり方について互いに考え合い、実践のための視点と方法の獲得を目指す。 <概要>テーマ毎に、理論についての学びと実践演習の両方を行うことを基本とする。現行教科書に採録された国語の内容、学習材をとりあげる。①教材研究の基礎的資料を作成・発表し、それについてのディスカッションを行う。②学習指導案を作成発表し、それについてのディスカッションを行う。教材は主にプリント配布。 授業内容と並行して、読書課題を設ける（2回）。			
到達目標	・国語科教育の教育課程及びその歴史について大体の知識を持っている。 ・中学校・高等学校国語の授業のための基本的な「教材研究」を行うことができる。 ・「教材研究」と学習指導案の結びつきについて理解し、学習指導案を立案することができる。 ・授業実践のための基本的な技術やコミュニケーション力を身につけている。 ・情報収集や情報発信の手段として、各種の情報機器を活用できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。 ・各教科の指導法 ● 実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を組み入れ、実践的な指導力を身につけさせるような具体的な事項を授業計画に示す ● 学習指導要領に掲げる事項に即して包括的な内容を含む ● 国語および英語については中学及び高校の内容をバランスよく取り扱う ● 教科書、参考図書などに、学習指導要領の利用を記載すること ・教育課程の意義及び編成の方法			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション 〈総論〉 国語科教育とは何か。		読書課題（5月末提出）にとりかかる。	
第 2 回	理論：〈国語科教育の歴史〉国語科教育課程の意義と変遷（1） 実践：<読むこと> 文学教材 自分の読みを見つける		指定教材についての自由な感想文を書く。	
第 3 回	理論：〈国語科教育の歴史〉国語科教育課程の意義と変遷（2） 実践：<読むこと>：文学教材の授業作り（中心となる問いを作る。）		学習指導要領変遷のまとめ。 授業のための大問を考える。	
第 4 回	理論：文学教育の現在（国語科教育と読者論） 実践：<読むこと>文学教材の授業作り（大問の検討 授業計画の立て方）		単元全体の大まかな授業計画を立てる。	
第 5 回	<読むこと> 理論：文学教育の現在（国語科教育と分析批評） 実践：〈読むこと〉文学教材の授業作り（授業計画の検討）		授業計画の仕上げ。	
第 6 回	理論：古典学習について 古典学習の意義と特徴 実践：〈読むこと〉古典教材（古文 高校入門教材 説話）の教材研究について		学習指導案のうち、教材観・指導観を書く。	
第 7 回	理論：古典知識や文法の扱いについて 実践：<読むこと>古典教材（古文 『枕草子』） 学習指導案について（考え方と書き方		学習指導案のうち、全体案を作成する。	
第 8 回	理論：生活につなげる授業作り 実践：古典教材 全体案（『枕草子』）の検討 学習指導案 本時の計画について		本時の計画（『枕草子』）を作成。 読書課題（7月締切）	
第 9 回	理論：<話すこと・聞くこと>の授業について 実践：古典教材 本時の計画（『枕草子』）の検討		現行教科書より〈話すこと・聞くこと〉の教材分析	
第10回	理論：国語科教育課程 編成の方法 実践：複合的な授業の学習指導案 古典教材を用いて（古文 高校教材 『伊勢物語』		複合的な授業の学習指導案 （『伊勢物語』）を書く。	
第11回	理論：学習指導案の作成と発表について 実践：複合的な授業の学習指導案 （『伊勢物語』）の検討。		文学教材から、自由に学習材を選んで、学習指導案を作成	
第 1 2 回	学習指導案の検討 1 （文学教材）		発表者は学習指導案を作成。他は教材を読んでおく。	
第13回	学習指導案の検討 2 （評論教材）		発表者は学習指導案を作成。他は教材を読んでおく。	
第14回	学習指導案の検討 3 （古典教材）		発表者は学習指導案を作成。他は教材を読んでおく。	
第15回	まとめ 課題について。		課題の準備。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない。			
レポート	最終レポート（学習指導案）30％ 読書課題 2回 20％ 毎回の課題レポート 40％			
小テスト等	行わない。			
成果発表	学習指導案の発表 5％			
受講態度他	討議への参加状況 5％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教壇に立つつもりで、毎回の授業や課題に臨むこと。			
教科書	『中学校学習指導要領解説（国語編）』『高等学校学習指導要領解説（国語編）』文部科学省 森田信義他『新訂 国語科教育学の基礎』溪水社（平成22年）			
指定図書	特になし			
参考図書	中学校国語教科書 1・2・3年 各社 高等学校 国語総合 現代文 古典 教科書 各種			
オフィスワー	水曜日午後		メールアドレス	

授 業 科 目	国語科教育法Ⅱ(中等教職)【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	出雲 俊江		単 位	4
授業の目的 と概要	中学校・高等学校の国語科授業を理論的に構築し、実践するための基礎的な力を養うことを目的とする。特に、国語科教育についての理論と実践の歴史についての学びを土台として、学習者が真の主体となる「国語」の授業を構成するための、考え方や学習指導案作成、また模擬授業を通じた基礎的実践力養成を目指す。 取り上げたテーマに沿って、それに関する理論についてと実践演習の両方を行うことを基本とする。現行教科書に採録された国語の内容、学習材をとりあげる。学習指導案を作成・発表し、それについてのディスカッションを行う。模擬授業とそれについてのディスカッションを行う。これらの演習は、よい授業のあり方について互いに考え合い、実践のための視点と方法の獲得を目指すものである。 授業内容と並行して、読書課題を設ける（２回）。			
到達目標	・国語科教育についての理論と実践の歴史について、自身で学びを進めることができる。 ・中学校・高等学校国語の授業のための基本的な「教材研究」を行うことができる。 ・「教材研究」と学習指導案の結びつきについて理解し、学習指導案を立案することができる。 ・授業実践のための基本的な技術やコミュニケーション力を身につけている。 ・国語科の基本的な授業を構築することができる。 ・情報収集や情報発信の手段として、各種の情報機器を活用できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。 ・各教科の指導法 ● 実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を組み入れ、実践的な指導力を身につけさせるような具体的な事項を授業計画に示す ● 学習指導要領に掲げる事項に即して包括的な内容を含む ● 国語および英語については中学及び高校の内容をバランスよく取り扱う ● 教科書、参考図書などに、学習指導要領の利用を記載すること ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	「国語科教育法Ⅰ」の課題レポート返却と要点のまとめ ＜書くこと＞の授業構築①ー＜書くこと＞指導の現在		読書課題１の準備	
第 2 回	＜読むこと＞の授業構築① ー評論文教材の教材研究と学習指導案の検討		「水の東西」（山崎正和）読む	
第 3 回	＜読むこと＞の授業構築② ー評論文教材の教材研究と学習指導案の検討（２）		参考文献(配布) 読む	
第 4 回	＜読むこと＞の授業構築③ ー古文教材の教材研究と学習指導案の検討（１）		「北山の垣間見」（『源氏物語』）読む	
第 5 回	＜書くこと＞の授業構築① ー書くことの教材研究と学習指導案の検討 ②		参考文献(配布) 読む	
第 6 回	＜書くこと＞の授業構築② ー書くことの教材研究と学習指導案の検討（２） ／地区中学校授業研究会に参加		学習指導案の作成／授業研究会参加レポート	
第 7 回	模擬授業１（現代文１ 文学教材）ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。		学習指導案の作成。教材読んでおく。	
第 8 回	模擬授業２（現代文２ 評論教材）ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。		学習指導案の作成。教材読んでおく。	
第 9 回	模擬授業３（古文１ 入門教材 説話 随筆など）ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。		学習指導案の作成・教材読んでおく。	
第10回	模擬授業４（古文２ 日記・物語）ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。		模擬授業の準備・教材読んでおく	
第11回	模擬授業５（古文３ 韻文）ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。		模擬授業の準備・教材読んでおく	
第12回	模擬授業６（漢文１ 文章）ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。		模擬授業の準備・教材読んでおく	
第13回	模擬授業７（漢文２ 思想）ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。		模擬授業の準備・教材読んでおく	
第14回	模擬授業８（漢文３ 韻文）ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。		模擬授業の準備・教材読んでおく	
第15回	模擬授業９（電子黒板・その他の情報機器を用いた授業）ー模擬授業及び検討会ー自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。		模擬授業の準備・教材読んでおく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない			
レポート	毎回のレポート ２０％ 読書課題（２回） ２０％			
小テスト等	行わない。			
成果発表	学習指導案 ２０％ 最終模擬授業 ３０％			
受講態度他	討議への参加状況 １０％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教壇に立つつもりで、毎回の授業や課題に臨むこと。 「国語科教育法Ⅰ」の単位取得を本科目の履修条件とする。			
教科書	『中学校学習指導要領解説（国語編）』『高等学校学習指導要領解説（国語編）』文部科学省 森田信義他『新訂 国語科教育学の基礎』溪水社（平成22年）			
指定図書	特になし			
参考図書	中学校国語教科書 １・２・３年 各社 高等学校 国語総合 現代文 古典 教科書 各種			
オフィスワー	水曜日午後		メールアドレス	

授 業 科 目	国際関係文化論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	濱野 健		単 位	2
授業の目的 と概要	グローバル化する社会における文化の特徴について理解することを目的とする。とりわけ、特定の地域を越えた経済や政治の影響を受けながら、文化がどのように生成され、そして消費されていくのかを明らかにする。こうした事象について批判的な視点から、理論的に考察できるようになる。			
到達目標	社会における文化の重要性について理解できるようになる。グローバル化する社会において、自分自身がどのような文化から影響を受けているのかを具体的に把握できるようになる。身の回りでおきている文化変容について明確に意識できるようになる。またこうした事象について批判的な視点から、理論的に考察できるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回：文化の概念			「文化」について、自分なりの定義をも考えてきてください。	
第2回：グローバリゼーションと文化変容			事前配付資料を読んでおいてください。	
第3回：複雑化する民族・エスニシティ			事前配付資料を読んでおいてください。	
第4回：グローバリゼーションとジェンダー・セクシュアリティ			事前配付資料を読んでおいてください。	
第5回：グローバリゼーションと近代国家・国民文化			事前配付資料を読んでおいてください。	
第6回：伝統文化の変容と再創造			事前配付資料を読んでおいてください。	
第7回：ポスト・コロニアルな文化			事前配付資料を読んでおいてください。	
第8回：カルチュラル・スタディーズと文化の政治			事前配付資料を読んでおいてください。	
第9回：観光と文化 - 文化の消費とグローバリゼーション			事前配付資料を読んでおいてください。	
第10回：グローバル経済とグローバル社会の文化①ー新自由主義とはなにか（前編）			事前配付資料を読んでおいてください。	
第11回：グローバル経済とグローバル社会の文化②ー新自由主義とはなにか（後編）			事前配付資料を読んでおいてください。	
第12回：グローバル化する家族			事前配付資料を読んでおいてください。	
第13回：多文化主義 ①- グローバリゼーションと社会の多元化			事前配付資料を読んでおいてください。	
第14回：多文化主義② - 日本社会と多文化共生			事前配付資料を読んでおいてください。	
第15回：各回のまとめ			これまでに配付した資料やノートを用意してください。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ 期末レポート(2000文字)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	事前に配付した資料を読んで、自分なりの関心や疑問を持って講義にのぞんでください。講義中は、他の受講生の迷惑にならないようにお願いします。講義内容に関する質問は講義中、その前後でいつでも歓迎します。週末等に外部での特別講義を実施することがあります（通常講義との振替）。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	必要に応じ講義中に紹介します。			
オフィスワー	講義前（非常勤講師控室）	メールアドレス		

授 業 科 目	国際観光論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	岩井 朝子		単 位	2
授業の目的 と概要	本授業は、日本に観光客を誘致するインバウンドに着目し、いかにしてインバウンド産業を盛り上げ、日本に国際観光都市を形成していくかを学ぶことを目的とする。観光国としては後進国である日本の問題点と改善方法を他の観光立国から学び、観光客誘致に役立つような知識を習得する。インバウンドツアーを企画立案し、その実施において想定されるリスクに対処できるような知識を身に付ける。			
到達目標	1 インバウンドとアウトバウンドの違いについて簡潔に説明できる 2 外国人から見た日本の観光資源について着目し、その人気の理由を分析できる 3 観光国として後進国である日本の課題について説明できる 4 インバウンドツアーを企画立案し、その実施においてリスクに対処できる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	インバウンドは21世紀のリーディング産業 学生に求められるスキル		インバウンドとアウトバウンドという言葉について調べる	
第2回	訪日観光者数の推移と世界の観光市場動向		新聞やインターネットで直近の観光市場統計を調べる	
第3回	観光白書から読み取れる傾向		観光白書をネットで読む	
第4回	各国の観光傾向について（プレゼンテーション） 外交人旅行者の誘致と受け入れ課題		アジア諸国の観光傾向について調べる	
第5回	ホテルの語源 種類 サービス		ホテルのサービスについて調べる	
第6回	旅の起源・旅行の歴史 1943年 観光局の廃止まで		旅の起源について調べる	
第7回	ビジットジャパンキャンペーン・観光基本法について		観光基本法はなぜ改訂されたのか考える	
第8回	外国人旅行者から見た日本の観光資源		地元の観光資源について調べる	
第9回	観光資源を観光商品に仕上げるための戦略		各県が指定した観光資源について調べる	
第10回	コンテンツツーリズム		様々な人気のあるコンテンツについてネットで調べる	
第11回	観光形態や観光客の需要の変化に対応したマーケティング		マーケティングに関わる記事をネットで探し読む	
第12回	観光形態や観光客の需要の変化に対応したマーケティング 具体例		人気を集めることができるツアーを計画する	
第13回	エジプト観光から学ぶリスクマネジメント 基礎編 エジプトの地理、気候、習慣、観光地		エジプトの観光地について調べる	
第14回	エジプト観光から学ぶリスクマネジメント 応用編		日本で起こりそうな旅行中のリスクについて考え、その対処法を検討する	
第15回	観光サービスの提供のあり方 講座のまとめ		これまでの授業を振り返り、重要な箇所をノートにまとめる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ レポートを提出すること。			
小テスト等	なし			
成果発表	40％ 授業内でのグループ発表。			
受講態度他	20％ 建設的で積極的な授業参加態度を成績評価に加える。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には前回の復習を行ってから参加すること。また上記以外の課題を授業内で指定することもありうる。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『観光白書』国土交通省ホームページ			
オフィスワーク	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	国際教育論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	竹熊 真波		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義は、教育の国際化の状況や諸問題、ユネスコや文部科学省などが提示する国際教育についての理念や目標などへの理解を深めることを目的とします。 授業では、前半にパワーポイントを用いての講義を、後半にDVDの視聴あるいはアクティビティ（グループ・ワーク等）を行う予定です。その際、講義の内容をノートに記入し、DVDやアクティビティの感想をまとめ、授業終了時に提出します。 また、授業の後半では、一人1カ国を取り上げ、その国の概要や教育状況について調べ、発表をします。 アジアの現代社会を教育を切り口として理解することを目指します。			
到達目標	・国際教育の前提となる異文化コミュニケーションについて説明できる ・国際教育や国際理解についての理念や目標、政策を説明できる ・海外子女・帰国子女、外国人子女、留学生など、日本の教育の国際化の現状を知り、問題点を分析できる ・英語教育や国際理解教育など学校での教育実践について体験的に理解できる ・海外の教育事情について紹介し合うことができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション：クイズで学ぶ国際教育		授業ノートや配布資料の整理と復習	
第2回	自己理解について		授業ノートや配布資料の整理と復習	
第3回	コミュニケーション力とは		授業ノートや配布資料の整理と復習	
第4回	カルチャーショックと異文化適応		自身のカルチャーショック体験についての 小レポートの作成	
第5回	ユネスコの理念と取り組み		授業ノートや配布資料の整理と復習 (EF A, ESD)	
第6回	学習指導要領にみる国際教育		授業ノートや配布資料の整理と復習 (学 習指導要領の確認)	
第7回	海外子女・帰国子女教育		授業ノートや配布資料の整理と復習 (HP ;クラリネットの確認)	
第8回	在日外国人の特徴		授業ノートや配布資料の整理と復習	
第9回	外国人子女の教育 1 日本で学ぶ外国人子女		授業ノートや配布資料の整理と復習 ((福 岡ISのHPの確認)	
第10回	外国人子女の教育 2 在日コリアンと民族系学校		授業ノートや配布資料の整理と復習 (民族 系学校のHPの確認)	
第11回	外国人子女の教育 3 外国人子女教育の課題		外国人にまつわる問題に関する新聞記事の 検索	
第12回	高等教育の国際化 1 留学生の受け入れ		授業ノートや配布資料の整理と復習 (日 本学生支援機構HPの確認)	
第13回	高等教育の国際化 2 日本人の海外留学		授業ノートや配布資料の整理と復習 (留 学情報の確認)	
第14回	海外の教育紹介 1 英米の教育 (発表)		授業ノートや配布資料の整理と復習	
第15回	海外の教育紹介 2 アジアの教育 (発表)		全体の復習	
成 績 評 価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%			
レポート	10% 感想レポートの提出 (確認後次の授業時に返却する)			
小テスト等	0%			
成果発表	20% 一人10分程度外国の教育について発表をする			
受講態度他	10% 受講態度			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	発表はパワーポイントを用いて行います。			
教科書	使用しない			
指定図書	特になし			
参考図書	授業において適宜紹介する			
オフィスアワー	木曜 2 限		メールアドレス	

授 業 科 目	国際社会と日本【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	須藤 遙子		単 位	2
授業の目的 と概要	現在、国際社会のなかで日本が直面している問題やトピックを時事ニュースを通して考えていく。 回ごとに1つのテーマを決めて解説・考察する。 毎回順番にその週の国際ニュースを発表してもらう。			
到達目標	・日本の現状をグローバルな観点から考察できる。 ・多角的な視野で情報を分析できる。 ・自分の考えを文章で表現する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。		ネットやテレビでニュースをチェックする。 。	
第2回	メディアとは。		ネットやテレビでニュースをチェックする。 。	
第3回	9 1 1 , 3 1 1 後の世界		ネットやテレビでニュースをチェックする。 。	
第4回	東アジア近現代史1：日本と朝鮮半島		ネットやテレビでニュースをチェックする。 。	
第5回	東アジア近現代史2：日本と中国		ネットやテレビでニュースをチェックする。 。	
第6回	北朝鮮ミサイル問題1：自衛隊と憲法		ネットやテレビでニュースをチェックする。 。	
第7回	北朝鮮ミサイル問題2：アメリカと沖縄		ネットやテレビでニュースをチェックする。 。	
第8回	北朝鮮ミサイル問題3：島嶼部の現実		ネットやテレビでニュースをチェックする。 。	
第9回	時事ドキュメンタリー学習1		ネットやテレビでニュースをチェックする。 。	
第10回	パレスチナ問題		ネットやテレビでニュースをチェックする。 。	
第11回	LGBT		ネットやテレビでニュースをチェックする。 。	
第12回	オリンピック		ネットやテレビでニュースをチェックする。 。	
第13回	【特別講義】中国における高倉健 講師：晏 ？（アンニ）日本映画大学特任教授		ネットやテレビでニュースをチェックする。 。	
第14回	東アジアの中の日本。		ネットやテレビでニュースをチェックする。 。	
第15回	世界の中の日本。まとめ。		復習。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	5 0 ％			
レポート	3 0 ％（レポート、授業後に提出する考察ペーパー）			
小テスト等	0 ％			
成果発表	0 ％			
受講態度他	2 0 ％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	その時々最新のニュースを扱うため、シラバスのテーマが前後・変更することを了承のこと。 授業内の私語・スマートフォン使用厳禁。 対面でのコミュニケーション能力養成のため、メールでの連絡は原則禁止としますので、用件のある学生は授業前後やオフィスアワーに話しかてください。細かいルールに関しては、第1回目のオリエンテーションで説明します。 その他、細かいルールに関しては、第1回目のオリエンテーションで説明します。			
教科書	なし。適宜プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	授業ごとに指定します。			
オフィスアワー	金曜 4 限。	メールアドレス		

授 業 科 目	国際政治学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	国際社会の一員として生きていくために、1945年以降、今日に至るまでの日本やアジアを取り巻く国際環境と課題を理解することが、この講義の目的です。具体的には、1.戦後日本の安全保障政策と対アジア政策、2.国連の平和維持活動、3.地球環境問題の3点に焦点を当て、それぞれa.問題の所在、b.日本の対応、c.今後の課題について理解を深めていきます。現在の国際関係において、政治と経済は密接に関連しており、経済的要因を無視して国際政治は語れないのですが、他の講義との重複を避けるため、安全保障や紛争処理、地球環境問題といった事柄に焦点を当て考察します。なお現実の国際情勢に応じて、講義内容を一部変更することがありますので、ご了承ください。			
到達目標	1.戦後日本の安全保障政策と対アジア政策について、基本姿勢とその変遷について説明できる。 2.国連の平和維持活動について、その成果と課題が説明できる。 3.地球環境問題に対する国際的取り組みと課題が具体的に説明できる。 4.現在の国際関係に関する文献を、自ら集めて分析することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 「政治学概論Ⅰ」「政治学概論Ⅱ」で政治学の基礎を、また「アジア政治論」や「現代インド事情」「現代東南アジア事情」「現代韓国事情」といったアジア各地域の政治・社会事情に関する理解を踏まえた上で受講すると、より深く理解することができます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション	国際関係論を学ぶとは		第2回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 2回	アジアにおける冷戦の構図		第2回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 3回	日本の主権回復と日米安保		第3回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 4回	日本の安全保障政策(1)安保体制の下で		第4回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 5回	日本の安全保障政策(2)国際環境の変化		第5回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 6回	戦後賠償からODAへ		第6回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 7回	日中国交正常化		第7回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 8回	残された「戦後処理」		第8回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 9回	日本の領土問題		第9回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第10回	国連の平和維持活動		第10回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第11回	平和維持活動のジレンマ(1)具体的事例		第11回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第12回	平和維持活動のジレンマ(2)ディスカッション		第12回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第13回	日本の国際貢献		第13回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第14回	地球環境問題(1) 環境問題の政治化		第14回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第15回	地球環境問題(2) 気候変動に対する取り組み		第15回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% (期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価)50%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。 その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	水14:50～16:20、木12:30～13:30		メールアドレス	

授 業 科 目	国際ビジネス【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	渡邊 孝一郎		単 位	2
授業の目的と概要	私たちが生きている現代はグローバル社会となり日常生活の多くの局面でその影響を実感できる。そこで本講義では、国際ビジネスの実際と理論を学びながら、企業文化や社会慣習、消費文化の違いが開発、生産、販売、マーケティング活動に対する取り組みの違いにどのように影響するのか、また企業経営とそれを取り巻く世界経済がいかに結びつき、たがいに影響を与えているかを理解できるようになることを目的とする。その中でも本講義では近年注目されているマーケティングの視点を中心として進めていく。			
到達目標	①国際ビジネスに関する基礎知識を身につける ②国際ビジネスを展開する上での課題を見つけ、解決案を提示する能力を身につける			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス 国際ビジネスへの招待		自分自身の問題意識を見つけてください	
第2回	マーケティングとは		マーケティングの基礎を復習してください	
第3回	マーケティングの基礎概念		マーケティングの基礎概念を理解してください	
第4回	グローバル・マーケティングの発展		グローバル・ビジネスの事例を調べてください	
第5回	グローバルな文化環境		ある文化環境を一つ取り上げてください	
第6回	グローバル市場調査		市場調査の方法を理解してください	
第7回	市場規模の推定		ある市場の規模推定をしてください	
第8回	グローバル市場セグメンテーション		ある業界をセグメントしてください	
第9回	グローバル・マーケティング戦略		グローバル・マーケティング戦略について復習してください	
第10回	グローバル製品戦略		グローバル戦略について復習してください	
第11回	グローバル価格・コミュニケーション戦略		価格・コミュニケーション戦略について復習してください	
第12回	グローバルブランド戦略		ブランド戦略の復習してください	
第13回	グローバル小売の店舗戦略		店舗戦略について復習してください	
第14回	グローバル企業の日本市場参入		ある外資企業をとりあげ調査してください	
第15回	まとめ		試験準備をしてください	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80% 習熟度試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 授業での積極的な態度を考慮する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義中の私語や講義とは関係のない電子機器（電子辞書を除く）の利用は厳しく処分する。			
教科書	講義の内容に合わせて講義資料配布			
指定図書	講義の内容に合わせて講義資料配布			
参考図書	講義の内容に合わせて講義資料配布			
オフィスアワー	授業前後に行う。その他の場合は事前にメールにて日時を調整する。	メールアドレス		

授 業 科 目	国際ボランティア【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	藤原 隆信		単 位	2
授業の目的 と概要	近年、ボランティア活動は非常に身近なものになっています。多くの人々はボランティア活動に参加することを通じて新たな気付きを得ており、またそのような人々の繋がりや共感の輪が社会全体に広がりつつあります。本科目では、具体的な事例の検討を通じて現代社会における「国際ボランティア」の意義と役割について考えていきます。これらの学びを通じて、受講生の皆さんがボランティア活動に対する理解を一層深めると共に、国内外問わず何らかの形でボランティア活動に参加するようになることを目指します。			
到達目標	①現代社会における「国際ボランティア」の意義を理解し、説明することができる。②自分自身の問題意識を元に、参加してみたいボランティア活動について説明することができる。③上記②について他者と意見交換し、組織的に取り組む方法を考える事ができる。④上記③で考えた方法を、発表することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	はじめに ——「ボランティア」とは何か？		「ボランティア活動」に対して持っているイメージを考えて来て下さい。	
第2回	なぜボランティアに参加するのか？ ——ボランティアの参加動機と多様な国際ボランティア		「人がボランティア活動に参加する理由」を考えて来て下さい。	
第3回	国際ボランティアとして活躍する（1） ——青年海外協力隊		第2回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。	
第4回	国際ボランティアとして活躍する（2） ——VTRで考える国際ボランティア①（国際災害ボランティア）		第3回授業を振り返り「国際ボランティア」の意義を考えてきて下さい。	
第5回	国際機関・政府機関で活躍する（1） ——世界保健機構（WHO）		第4回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。	
第6回	国際機関・政府機関で活躍する（2） ——VTRで考える国際ボランティア②（国連児童基金：UNICEF）		第5回授業を振り返り「国際機関・政府機関」の意義を考えてきて下さい。	
第7回	非政府組織（NGO）で活躍する（1） ——国境なき医師団		第6回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。	
第8回	非政府組織（NGO）で活躍する（2） ——VTRで考える国際ボランティア③（国際医療NGO）		第7回授業を振り返り「非政府組織（NGO）」の意義を考えてきて下さい。	
第9回	現代社会と国際ボランティア ——外部講師によるレクチャー（福岡で活躍するNGO）		第8回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。	
第10回	学生視点で考える「国際ボランティア」（1） ——グループディスカッション		これまでの授業内容を踏まえてディスカッションの準備をしてきて下さい。	
第11回	学生視点で考える「国際ボランティア」（2） ——学生グループ発表①		これまでの授業内容を踏まえてグループで発表の準備をしてきて下さい。	
第12回	学生視点で考える「国際ボランティア」（3） ——学生グループ発表②		これまでの授業内容を踏まえてグループで発表の準備をしてきて下さい。	
第13回	学生視点で考える「国際ボランティア」（4） ——学生グループ発表③		これまでの授業内容を踏まえてグループで発表の準備をしてきて下さい。	
第14回	学生視点で考える「国際ボランティア」（5） ——学生グループ発表④		これまでの授業内容を踏まえてグループで発表の準備をしてきて下さい。	
第15回	おわりに（授業のまとめ） ——私にとっての「国際ボランティア」		授業を振り返り、「国際ボランティア」の意義や役割を考えて来て下さい。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 期末レポート（30％）、講義内課題レポート（20％）			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ グループ発表（30％）			
受講態度他	20％ 授業への出席状況や受講態度（授業内でのディスカッション）などを勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、授業の中で課題レポートの作成やチーム討議、チーム発表に取り組んでもらう予定にしています。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。			
教科書	担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12：20～13：10） ※事前に予約を取って下さい。		メールアドレス	

授 業 科 目	国際ボランティア概論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	濱野 健		単 位	2
授業の目的 と概要	現代社会におけるボランティアの役割について批判的に学ぶ。とりわけ、グローバル化する社会における人と人との関係性の在り方としての国際ボランティアを取り上げ、その基本的な思想と活動理念を知る。 なお、講義では週末の課外授業も予定している。			
到達目標	ボランティアについて知ること、グローバル化する社会における人間関係の多様な繋がり方を具体的に描けるようになる。 グローバル化する社会で、ボランティアを通しての社会参加のあり方を考えることができるようになる。また、こうした活動がわたしたちの身近な生活やそこで培われている人間関係と具体的にどのように関わるのかを知るための方法を身につけることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。情報リテラシー」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回：他者と「関わる」こと-社会の基礎的な成り立ち			人間関係のかたちがあるのか考えてきてください。	
第2回：個人化する社会-社会の中のつながりをとらえ直す			「自分らしさ」について考えてきてください。	
第3回：グローバルゼーション-拡張する社会の問題と可能性			「グローバルゼーション」とは何なのか考えてきてください。	
第4回：他者への配慮①-ケアという思想			事前に配布された資料を読んでから講義にのぞんでください。	
第5回：他者への配慮②-ボランティアの思想			事前に配布された資料を読んでから講義にのぞんでください。	
第6回：相互行為とボランティア-個人化する社会の中で他者と関わり合うことの意義			事前に配布された資料を読んでから講義にのぞんでください。	
第7回：地球公共財と国際ボランティア			事前に配布された資料を読んでから講義にのぞんでください。	
第8回：現代の若者と国際ボランティア①（前編）			事前に配布された資料を読んでから講義にのぞんでください。	
第9回：現代の若者と国際ボランティア②（後編）			事前に配布された資料を読んでから講義にのぞんでください。	
第10回：国際ボランティアの中心的な活動母体について			「国際ボランティア」の活動内容を一つあげてください。	
第11回：身近な国際ボランティア			事前に配布された資料を読んでおいてください。	
第12回：ボランティアと自己承認①-ボランティアという社会的行為			事前に配布された資料を読んでおいてください。	
第13回：ボランティアと自己承認②-現代日本人のボランティア意識			事前に配布された資料を読んでおいてください。	
第14回：ボランティアと自己承認③-ボランティアを通しての自己理解			事前に配布された資料を読んでおいてください。	
第15回：まとめ			これまでに作成したノートと配付資料を持参してください。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ 期末レポート（2000文字）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	事前に配付した資料を読んで、自分なりの関心や疑問を持って講義にのぞんでください。講義中は、他の受講生の迷惑にならないようにお願いします。講義内容に関する質問は講義中、その前後でいつでも歓迎します。週末等に外部での特別講義を実施することがあります（通常講義との振替）。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	必要に応じ、講義中に紹介します。			
オフィスアワー	講義前（非常勤講師控室）	メールアドレス		

授 業 科 目	こころと身体のフィットネス【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	古田 瑞穂		単 位	2
授業の目的 と概要	本演習では、特に女性の「こころと身体」の諸問題について焦点を当て、多様で変化していく社会環境課において、常に変化する自分自身を最適化するマネジメント能力と実践力を養うことを目的としています。そのため、パーソナルな運動実践を通して、身体の機能と構造を理解しながら身体感覚を高めるとともに、呼吸法、身体トレーニング法、リラクセス法、心の調整法などの心身問題解決のための理論と実践法を学びます。さらにそれらをに日常生活の中で実行可能な自分のための心身活動としてプランニングでき、実行する力を養います。			
到達目標	① 自己の心身の問題に注意を向け、具体的に述べることができる。 ② こころや身体の機能と構造を理解し、説明することができる。 ③ さまざまなトレーニング方法を経験し、1人で実施することができる。 ④ 日常生活の中で実施できるプログラムを作成し、実施することができる。 ⑤ 自己の心身の変化に応じて、プログラムや実施の方法が変化することを理解し、変更することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		自分の心身の課題を見つけ、レポートする	
第2回	身体・動きのオリエンテーション		資料にもとづき、自分の身体を視覚化する復習を行う	
第3回	トレーニング実践 エアロビク・ストレッチ・エクササイズ①		歩行時に練習をしてくる	
第4回	トレーニング実践 レジスタンス・ストレッチ・エクササイズ①		日常生活の中でできるトレーニングの復習	
第5回	トレーニング実践 エアロビク・ストレッチ・エクササイズ②スローで		日常生活の中でできるトレーニングの復習	
第6回	トレーニング実践 レジスタンス・ストレッチ・エクササイズ②スローで		日常生活の中でできるトレーニングの復習	
第7回	ヨーガ（陽）・エクササイズ① 姿勢・スタンス・呼吸		アーサナ復習とスタンスの復習	
第8回	ヨーガ（陽）・エクササイズ② 力学を利用する		日常性格の中で筋肉の力の発揮を意識する練習	
第9回	ヨーガ（陰）・エクササイズ① アーサナ練習		単純な動作を観察する練習	
第10回	ヨーガ（陰）・エクササイズ② 観察力 調整力		日常生活の中で、快・不快の間を探る練習	
第11回	こころの法則とトレーニング① 考えない練習		考えない練習	
第12回	こころの法則とトレーニング② 瞑想 座る・立つ・歩く		活動・運動を通して、自分を観察する練習	
第13回	こころの法則とトレーニング③ ヨーガ 動きの瞑想 日常生活での瞑想		活動・運動を通して、自分を観察する練習	
第14回	こころの法則とトレーニング④ 認識を変える		毎時の記録をもとに振り返りとプログラム作成レポート	
第15回	どのように社会にフィットしていくのか（質疑・応答）		まとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	2回60％ （1回目10％、2回目50％） レポートは返却しません。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	毎時、観察記録の記入。40％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	運動にふさわしいヘアスタイル・服装で臨むこと。身体の動きがわかりやすいものが好ましい。高校時の運動服でも可。（運動用のタンクトップやタイツ姿など歓迎。ジーンズ不可。長髪の方はゴムなどで束ねること。） 私語など他の受講生を妨害するような行為は禁止。			
教科書	資料配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日 昼休み、またはメールで相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	こころと身体のフィットネス【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	古田 瑞穂		単 位	2
授業の目的と概要	本演習では、特に女性の「こころと身体」の諸問題について焦点を当て、多様で変化していく社会環境課において、常に変化する自分自身を最適化するマネジメント能力と実践力を養うことを目的としています。そのため、パーソナルな運動実践を通して、身体の機能と構造を理解しながら身体感覚を高めるとともに、呼吸法、身体トレーニング法、リラクセス法、心の調整法などの心身問題解決のための理論と実践法を学びます。さらにそれらをに日常生活の中で実行可能な自分のための心身活動としてプランニングでき、実行する力を養います。			
到達目標	① 自己の心身の問題に注意を向け、具体的に述べることができる。 ② こころや身体の機能と構造を理解し、説明することができる。 ③ さまざまなトレーニング方法を経験し、1人で実施することができる。 ④ 日常生活の中で実施できるプログラムを作成し、実施することができる。 ⑤ 自己の心身の変化に応じて、プログラムや実施の方法が変化することを理解し、変更することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		自分の心身の課題を見つけ、レポートする	
第2回	身体・動きのオリエンテーション		資料にもとづき、自分の身体を視覚化する復習を行う	
第3回	トレーニング実践 エアロビク・ストレッチ・エクササイズ①		歩行時に練習をしてくる	
第4回	トレーニング実践 レジスタンス・ストレッチ・エクササイズ①		日常生活の中でできるトレーニングの復習	
第5回	トレーニング実践 エアロビク・ストレッチ・エクササイズ②スローで		日常生活の中でできるトレーニングの復習	
第6回	トレーニング実践 レジスタンス・ストレッチ・エクササイズ②スローで		日常生活の中でできるトレーニングの復習	
第7回	ヨーガ（陽）・エクササイズ① 姿勢・スタンス・呼吸		アーサナ復習とスタンスの復習	
第8回	ヨーガ（陽）・エクササイズ② 力学を利用する		日常性格の中で筋肉の力の発揮を意識する練習	
第9回	ヨーガ（陰）・エクササイズ① アーサナ練習		単純な動作を観察する練習	
第10回	ヨーガ（陰）・エクササイズ② 観察力 調整力		日常生活の中で、快・不快の間を探る練習	
第11回	こころの法則とトレーニング① 考えない練習		考えない練習	
第12回	こころの法則とトレーニング② 瞑想 座る・立つ・歩く		活動・運動を通して、自分を観察する練習	
第13回	こころの法則とトレーニング③ ヨーガ 動きの瞑想 日常生活での瞑想		活動・運動を通して、自分を観察する練習	
第14回	こころの法則とトレーニング④ 認識を変える		毎時の記録をもとに振り返りとプログラム作成レポート	
第15回	どのように社会にフィットしていくのか（質疑・応答）		まとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	2回60％ （1回目10％、2回目50％） レポートは返却しません。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	毎時、観察記録の記入。40％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	運動にふさわしいヘアスタイル・服装で臨むこと。身体の動きがわかりやすいものが好ましい。高校時の運動服でも可。（運動用のタンクトップやタイツ姿など歓迎。ジーンズ不可。長髪の方はゴムなどで束ねること。） 私語など他の受講生を妨害するような行為は禁止。			
教科書	資料配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日 昼休み、またはメールで相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	こころの危機を支える【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	藤山 奈々		単 位	2
授業の目的 と概要	人はストレスや悩みに対峙することがあっても、こころの健康を維持するために様々なものに支えられている。こころの危機の原因となるものはどのようなものがあるのか、こころの危機に直面した時にはこころやからだにはどのような反応がでてくるのか、その危機を支え、乗り越えるためにはどのような力が必要となるのかについて学ぶ。 こころの危機を生じさせる可能性のあるストレスやストレス反応、その対処法について具体的に学ぶ。 さらに、ストレスの緩和に役立つリラクゼーションなどの技法を体験的に学び身につける。			
到達目標	・こころのはたらきと危機について理解することができる。 ・こころの危機に関連するストレスやストレス反応について説明することができる。 ・困難な状況を乗り越えるために支えになるものについて理解することができる。 ・こころの危機に直面したときの諸問題を整理し、対処するための手立てを考察することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		授業内容の復習	
第2回	ストレスとは何か		授業内容の復習	
第3回	こころの危機とは何か		授業内容の復習	
第4回	こころの危機を支えるレジリエンスとは何か		ミニレポート	
第5回	ストレスマネジメント		授業内容の復習	
第6回	自己信頼感		授業内容の復習	
第7回	社会的サポート		ミニレポート	
第8回	認知と感情の柔軟性		授業内容の復習	
第9回	感情調整		授業内容の復習	
第10回	ロールモデル		ミニレポート	
第11回	楽観性・時間的展望		授業内容の復習	
第12回	心的外傷後成長		レポート	
第13回	幸福と主観的ウェルビーイング		授業内容の復習	
第14回	対処法を見つける		期末レポートへの準備	
第15回	まとめ		期末レポートへの準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ミニレポート40％、期末レポート40％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％（授業への積極的に参加する姿勢を考慮いたします）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	この授業では、椅子に座ったままできるリラクゼーションなどのワークを行います。			
教科書	なし、資料配布			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜指示いたします。			
オフィスワ ーク	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	古代日本語研究【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	高山 百合子		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業の目的は、日本語の歴史の変遷の概要を知ることにより、改めて現代日本語について理解を深めることである。 併せて、言語研究の意味・価値を理解することが、もう1つの重要な目的である。 ■日本語の歴史の中から、〈音韻史〉〈語彙史〉〈条件表現〉〈疑問表現〉〈係り結び〉などのトピックを採り上げ、それぞれの変化・変遷の実相と、その日本語史における意味を考えていく。 ■日本語の構造や特徴について基本的な知識を持ち、説明することができるようになる。			
到達目標	(1) 現代語に到るまでの日本語の歴史の変遷が、一通り把握できる。 (2) 重要なトピックについては、その概要が理解できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は主に次のD P と関係する。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 【関連する科目】 日本語学概論Ⅰ・Ⅱ、日本語音声論、日本語表記論、日本語文法論、日本語意味論、日本語学演習Ⅰ・Ⅱ など 古代文学講読Ⅰ・Ⅱ、古代文学演習Ⅰ・Ⅱ、中・近世文学講読Ⅰ・Ⅱ、中・近世文学演習Ⅰ・Ⅱ など			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション／言語変化の捉え方、日本語史の時代区分		講義のまとめ（課題プリント①）	
第2回	日本語史概観		講義のまとめ（課題プリント②）	
第3回	日本語史の資料について		講義のまとめ（課題プリント③）	
第4回	音韻の変遷（1）		講義のまとめ（課題プリント④）	
第5回	音韻の変遷（2）		講義のまとめ（課題プリント⑤）	
第6回	語彙の変遷		講義のまとめ（課題プリント⑥）、中間レポートの作成	
第7回	条件表現の変遷（1）		講義のまとめ（課題プリント⑦）	
第8回	条件表現の変遷（2）		講義のまとめ（課題プリント⑧）	
第9回	条件表現の変遷（3）		講義のまとめ（課題プリント⑨）	
第10回	疑問表現の変遷（1）		講義のまとめ（課題プリント⑩）	
第11回	疑問表現の変遷（2）		講義のまとめ（課題プリント⑪）	
第12回	係り結びについて（1）		講義のまとめ（課題プリント⑫）	
第13回	係り結びについて（2）		講義のまとめ（課題プリント⑬）	
第14回	係り結びについて（3）		講義のまとめ（課題プリント⑭）	
第15回	連体と連用／まとめ		講義のまとめ（課題プリント⑮）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	6 0 ％			
レポート	中間レポート2 0 ％			
小テスト等	特になし			
成果発表	課題プリントを用いた発表2 0 ％			
受講態度他	出席状況・受講態度などを、成績評価の際、加味する。講義内容は、すべて関連しながら全体像を形作っていくので、極力欠席しないようにしてほしい。			
受講上の留意 点・ルールに 関わる情報	◇適宜演習形式を織り交ぜながら授業を進めて行く。具体的には、テーマごとに前の時間の学習のまとめ、および調べたことを発表する。 ◇課題やレポートは、添削・評価し、原則として授業中にコメントを付して返却する。 ◇テキストを購入しなければ受講できない。 ◇テキストには受講前に一通り目を通しておくこと。			
教科書	沖森卓也『日本語全史』（ちくま新書）、プリント併用			
指定図書	特になし			
参考図書	日本語史・国語史概説書、日本語文法大辞典、日本語学研究事典、国語学大辞典など			
オフィスワー	水曜 5 講時、木曜 2 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	古代文学演習Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	須藤 圭		単 位	2
授業の目的と概要	平安時代に書かれた長編物語『源氏物語』は、日本の文学・文化に大きな影響を与え、多くの人々を魅了し、また、日本だけにとどまらず、世界文学としても高い評価を得ています。 この授業では、『源氏物語』全54帖のうち、第1帖・桐壺（きりつぼ）巻を講読しながら、その文化的価値とともに、古典がもつ現代的意義を学びます。第1帖・桐壺巻は、桐壺帝と桐壺更衣の間に生まれた光源氏が、父のもとに入内した藤壺に想いを寄せるまでの物語です。この物語をいくつかに分け、毎回、個人またはグループが発表を行い、全員で議論をしながら、読み進めていきます。			
到達目標	◆以下の3つの能力を獲得することを目指します。 1 古典文学を読み解くための能力を身につける。 2 文学に対する複数のアプローチの方法を知り、自ら鑑賞のポイントを設定することができる。 3 文学の読解をとらえて、過去の社会や文化を理解することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス①・発表のいろは／担当範囲決め		◆『源氏物語』第1帖・桐壺巻を読破しておきましょう。	
第2回	ガイダンス②・『源氏物語』概説		◆『源氏物語』について調べてみましょう。	
第3回	桐壺巻（1）光源氏誕生		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第4回	桐壺巻（2）いじめ		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第5回	桐壺巻（3）桐壺更衣、死去		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第6回	桐壺巻（4）葬送		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第7回	桐壺巻（5）野分		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第8回	桐壺巻（6）心の闇		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第9回	桐壺巻（7）長恨歌		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第10回	桐壺巻（8）観相		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第11回	桐壺巻（9）藤壺、入内		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第12回	桐壺巻（10）輝く日の宮		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第13回	桐壺巻（11）結婚		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第14回	桐壺巻（12）光源氏、藤壺を思慕		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第15回	まとめ・その後の物語		◆『源氏物語』第1帖・桐壺巻のつづきも読んでおきましょう。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	◆プレゼンテーション（50％）。たくさん調べて、充実した発表を心がけましょう。			
受講態度他	◆ディスカッション（50％）。毎回、意欲的に議論に加わりましょう。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	◆授業でとりあげる文章を、辞書等を参照して、丁寧に読んできてください。 ◆日頃から多くの文学に接するほか、日本文学を題材としたテレビ番組なども積極的に視聴し、知識を深めてください。 ◆なお、受講生の人数によって、スケジュールや範囲を変更することもあります。授業のテーマ・概要に変更はありません。			
教科書	◆プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	◆『源氏物語』をより詳しく知りたいときは、以下の注釈書を推薦します。 ◎『新潮日本古典集成 源氏物語』全8冊（新潮社、1977年～1985年）			
オフィスアワー	月4限		メールアドレス	

授 業 科 目	古代文学演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	須藤 圭		単 位	2
授業の目的 と概要	世界文学とも称される『源氏物語』について考えたとき、もっとも面白いことは、連歌や俳句に詠まれたり、絵画や工芸品の題材になったりと、さまざまな形で受け継がれてきたことです。 この授業では、それらのうち、『源氏物語』を短くまとめたダイジェスト版ともいうべき梗概書『源氏物語提要』を講読します。室町時代に書かれたこの梗概書を読み解きながら、その目的・意義を考えます。『源氏物語提要』のうち、第1帖・桐壺巻に該当する部分をいくつかに細分し、毎回、個人またはグループが発表を行い、全員で議論をしながら、読み進めていきます。			
到達目標	◆以下の3つの能力を獲得することを目指します。 1 『源氏物語』が日本文学・文化に与えた影響について理解できる。 2 古典文学を自分の力で読み解き、問題点を見つけることができる。 3 文学の読解をとおして、過去の社会や文化を理解し、自らの価値観を見直すことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス①・発表のいろは／担当範囲決め		◆『源氏物語』第1帖・桐壺巻を読破しておきましょう。	
第2回	ガイダンス②・『源氏物語』享受史の解説／『源氏物語提要』とは何か？		◆『源氏物語』の享受史について調べてみましょう。	
第3回	桐壺巻（1）発端①／桐壺巻（2）発端②		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第4回	桐壺巻（3）光源氏誕生／桐壺巻（4）寵愛		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第5回	桐壺巻（5）嫉妬①／桐壺巻（6）嫉妬②		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第6回	桐壺巻（7）手車の宣旨／桐壺巻（8）桐壺更衣の和歌		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第7回	桐壺巻（9）桐壺更衣、死去／桐壺巻（10）物語の十ヶの秘事・葬送		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第8回	桐壺巻（11）四十九日の法要／桐壺巻（12）秋、到来		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第9回	桐壺巻（13）荒れた邸宅／桐壺巻（14）桐壺帝の手紙		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第10回	桐壺巻（15）鈴虫／桐壺巻（16）雲の上人		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第11回	桐壺巻（17）壺前栽／桐壺巻（18）母の嘆き		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第12回	桐壺巻（19）長恨歌①／桐壺巻（20）長恨歌②		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第13回	桐壺巻（21）読書始め／桐壺巻（22）光源氏の才能		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第14回	桐壺巻（23）観相／桐壺巻（24）輝く日の宮・元服		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
第15回	桐壺巻（25）結婚／桐壺巻（26）光源氏、藤壺を思慕		◆講読範囲の予習・復習をしましょう。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	◆プレゼンテーション（50％）。たくさん調べて、充実した発表を心がけましょう。			
受講態度他	◆ディスカッション（50％）。毎回、意欲的に議論に加わりましょう。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	◆授業でとりあげる文章を、辞書等を参照して、丁寧に読んでください。 ◆日頃から多くの文学に接するほか、日本文学を題材としたテレビ番組なども積極的に視聴し、知識を深めてください。 ◆なお、受講生の人数によって、スケジュールや範囲を変更することもあります。授業のテーマ・概要に変更はありません。			
教科書	◆プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	◆『源氏物語』の享受史をより詳しく知りたいときは、以下の本を推奨します。 ◎伊井春樹『源氏物語注釈史・享受史事典』（東京堂出版、2001年）			
オフィスワ ーク	水4限	メールアドレス		

授 業 科 目	古代文学概論（日本文学史を含む）【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	須藤 圭		単 位	2
授業の目的と概要	奈良時代から江戸時代に至るまで、およそ１０００年にわたって、多くの文学が書かれ続けてきました。そこには、人間の本質が活写され、さまざまな価値観が描かれているということが出来ます。 この授業では、長い年月をかけて日本文学史の中に熟成されてきた古典文学のうち、奈良時代（上代）、平安時代（中古）に書かれた文学の気脈を感じとりつつ、その発展と衰退の歴史を学びます。毎回、具体的にひとつ以上の作品を取りあげ、その文学史上の意義を考えながら、関連分野も包括しつつ解説します。文学史はすでに自明のものであるかもしれませんが、ひとつひとつの作品を読むことをとおして、各自が改めて「文学史」なるものについて深く考えていくことを期待します。			
到達目標	◆以下の３つの能力を獲得することを目指します。 １ 日本文学史（古代）の概略が理解できる。 ２ 自らの問題意識のもとで「文学史」を説明できる。 ３ 文学がもつ問題を自分自身の問題として捉えなおし、考えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス・古典文学／文学史を学ぶことの意味		◆教科書にひとつとお目を通しておきましょう。	
第2回	神話と伝承 『古事記』『日本書紀』など		◆「記紀」の予習・復習をしましょう。	
第3回	万葉の世界 『万葉集』		◆「和歌」の予習・復習をしましょう。	
第4回	漢詩文 『菅家文草』など		◆「漢詩文」の予習・復習をしましょう。	
第5回	うたと修辞 『古今和歌集』		◆「勅撰集」の予習・復習をしましょう。	
第6回	物語の誕生 『竹取物語』		◆「伝奇物語」の予習・復習をしましょう。	
第7回	物語の構造 『伊勢物語』		◆「歌物語」の予習・復習をしましょう。	
第8回	もののあはれ 『源氏物語』		◆「源氏物語」の予習・復習をしましょう。	
第9回	源氏物語以後 『浜松中納言物語』『夜の寝覚』『狭衣物語』など		◆「物語」の予習・復習をしましょう。	
第10回	仮名の特徴 『土左日記』		◆「日記」の予習・復習をしましょう。	
第11回	日記を書くこと 『和泉式部日記』『紫式部日記』『更級日記』		◆「自照文学」の予習・復習をしましょう。	
第12回	後宮の文学 『枕草子』		◆「随筆」の予習・復習をしましょう。	
第13回	歴史・回想 『栄花物語』『大鏡』		◆「歴史物語」の予習・復習をしましょう。	
第14回	説話・「集」 『今昔物語集』		◆「説話」の予習・復習をしましょう。	
第15回	まとめ・中世／近世文学への展開		◆この授業で学んだことの復習をしましょう。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	◆期末レポート（６０％）。授業内容の理解度をはかるためのレポートを課します。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	◆コメントカード（４０％）。課題への回答や質問、意見を書いてもらいます。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	◆授業でとりあげる作品に目をおし、教科書の関連事項を読んでください。 ◆日頃から多くの文学に接するほか、日本文学を題材としたテレビ番組なども積極的に視聴し、知識を深めてください。			
教科書	◆以下のテキストを使用します。持参してください。 ◎久保田淳編『日本文学史』（おうふう、１９９７年）			
指定図書	なし。			
参考図書	なし。			
オフィスアワー	月４限	メールアドレス		

授 業 科 目	古代文学講読Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	辛島 正雄		単 位	2
授業の目的 と概要	歌物語を代表する作品である『伊勢物語』を、教科書を用いて読み進めながら、この作品の特徴を説明できるようになること、また、古代文学ならではの作品のありかたについて、現代との相違を意識しながら説明できるようになることを目的とする。			
到達目標	(1) 古代文学を原文で読めるようになる。 (2) 古代文学の特質やその背景を説明できるようになる。 (3) 現代とは異なる古代文学の世界について意見が述べられるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			次回の範囲を予習しておくこと。	
第2回 第1段～第6段（初冠、二条の後）			次回の範囲を予習しておくこと。	
第3回 第7段～第9段（東下り）			次回の範囲を予習しておくこと。	
第4回 第10段～第15段（武蔵の国、陸奥の国）			次回の範囲を予習しておくこと。	
第5回 第16段～第19段（紀有常、ほか）			次回の範囲を予習しておくこと。	
第6回 第20段～第22段（おのが世々、ほか）			次回の範囲を予習しておくこと。	
第7回 第23段～第24段（筒井筒、梓弓）			次回の範囲を予習しておくこと。	
第8回 第40段～第42段（血の涙、武蔵野の心、ほか）			次回の範囲を予習しておくこと。	
第9回 第45段～第49段（ゆく螢、うら若み、ほか）			次回の範囲を予習しておくこと。	
第10回 第62段～第63段（こけるから、つくも髪）			次回の範囲を予習しておくこと。	
第11回 第65段（在原なりける男）			次回の範囲を予習しておくこと。	
第12回 第69段～第71段（伊勢の斎宮）			次回の範囲を予習しておくこと。	
第13回 第82段～第83段（惟喬の親王）			次回の範囲を予習しておくこと。	
第14回 第84段、第124段～第125段（さらぬ別れ、つひにゆく道）			次回に備えて全体を読み返しておくこと。	
第15回 総括			定期試験に備えてノートを整理し、復習しておくこと。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 定期試験（60分、教科書・ノート持ち込み可）			
レポート	％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中は授業にのみ集中すること。周囲に迷惑のかかるような行為は厳禁とし、そのような行為に対しては厳正に対処する。			
教科書	石田穰二訳注『新版伊勢物語』（角川ソフィア文庫）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	古代文学講読Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	辛島 正雄		単 位	2
授業の目的 と概要	歌人として有名な和泉式部が書いたとされる日記を、教科書を用いて読み進めながら、この作品の特徴を説明できるようになること、また、古代文学ならではの作品のありかたについて、現代との相違を意識しながら説明できるようになることを目的とする。			
到達目標	(1) 古代文学を原文で読めるようになる。 (2) 古代文学の特質やその背景を説明できるようになる。 (3) 現代とは異なる古代文学の世界について意見が述べられるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			次回の範囲を予習しておくこと。	
第2回 「一 夢よりもはかなき世の中」～「三 突然の訪問」			次回の範囲を予習しておくこと。	
第3回 「四 はじめて物を思ふあした」～「六 あけざりし真木の戸口」			次回の範囲を予習しておくこと。	
第4回 「七 待ち取る岸」～「九 月夜の人なき廊」			次回の範囲を予習しておくこと。	
第5回 「九 月夜の人なき廊（続き）」～「一一 ころもみに雨も降らなん」			次回の範囲を予習しておくこと。	
第6回 「一二 舟流したるあま」～「一四 寝覚の荻風」			次回の範囲を予習しておくこと。	
第7回 「一五 石山詣で」～「一六 有明の月の手習文」			次回の範囲を予習しておくこと。	
第8回 「一六 有明の月の手習文（続き）」～「一八 手枕の袖」			次回の範囲を予習しておくこと。	
第9回 「一九 宮邸入りの誘い」～「二〇 初霜の朝」			次回の範囲を予習しておくこと。	
第10回 「二一 深更の月」～「二四 山の紅葉」			次回の範囲を予習しておくこと。	
第11回 「二四 山の紅葉（続き）」～「二六 疑はじなほ恨みじ」			次回の範囲を予習しておくこと。	
第12回 「二七 一昨日・昨日・今日」～「三〇 文作る道」			次回の範囲を予習しておくこと。	
第13回 「三一 宮の願い」～「三三 宮邸入り」			次回の範囲を予習しておくこと。	
第14回 「三三 宮邸入り（続き）」～「三四 宮邸での新年」			次回の範囲を予習しておくこと。	
第15回 「三五 北の方の退去」～総括			定期試験に備えてノートを整理し、復習しておくこと。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 定期試験（60分、教科書・ノート持ち込み可）			
レポート	％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中は授業にのみ集中すること。周囲に迷惑のかかるような行為は厳禁とし、そのような行為に対しては厳正に対処する。			
教科書	近藤みゆき訳注『和泉式部日記』（角川ソフィア文庫）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	古典文学基礎演習【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	須藤 圭		単 位	2
授業の目的 と概要	時代を超えて語り継がれてきた『古今和歌集』や『源氏物語』『徒然草』といった古典文学は、わたしたちに多くのことを教えてくれます。その一方で、今とは違うことばや息づかいで書かれた古典文学を読み解くためには、専門的な知識や技能も必要不可欠です。 この授業では、『伊勢物語』をテキストにしなが、古典文学の読みかたを学びます。『伊勢物語』は、平安時代に成立した「愛」と「みやび」の物語です。この物語をいくつかに分し、一人ひとりに担当範囲を決め、具体的に調査・報告を行いながら、読み進めていきます。			
到達目標	◆以下の3つの能力を獲得することを目指します。 1 古典文学を読み解くための基礎的能力を身につける。 2 古典文学を読み、批評することができる。 3 古典文学・古典文化に関心を寄せることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス・古典文学とは何か／担当範囲決め		◆知っている古典文学について調べておきましょう。	
第2回	古典文学の読みかた①・翻字する		◆『伊勢物語』を読破しておきましょう。	
第3回	古典文学の読みかた②・句読点をつける		◆授業の復習をして、自分じしんの報告範囲の読解をしましょう。	
第4回	古典文学の読みかた③・ことばの意味を調べる		◆授業の復習をして、自分じしんの報告範囲の読解をしましょう。	
第5回	古典文学の読みかた④・校訂する		◆授業の復習をして、自分じしんの報告範囲の読解をしましょう。	
第6回	古典文学の読みかた⑤・諸説を検討する		◆授業の復習をして、自分じしんの報告範囲の読解をしましょう。	
第7回	報告（1）『伊勢物語』初段・初冠		◆教科書の報告範囲を熟読しましゅう。	
第8回	報告（2）『伊勢物語』第6段・芥河		◆教科書の報告範囲を熟読しましゅう。	
第9回	報告（3）『伊勢物語』第9段・東下り		◆教科書の報告範囲を熟読しましゅう。	
第10回	報告（4）『伊勢物語』第23段・筒井筒		◆教科書の報告範囲を熟読しましゅう。	
第11回	報告（5）『伊勢物語』第69段・狩の使		◆教科書の報告範囲を熟読しましゅう。	
第12回	報告（6）『伊勢物語』第82段・渚の院		◆教科書の報告範囲を熟読しましゅう。	
第13回	報告（7）『伊勢物語』第83段・小野の雪		◆教科書の報告範囲を熟読しましゅう。	
第14回	報告（8）『伊勢物語』第123段・鶉		◆教科書の報告範囲を熟読しましゅう。	
第15回	まとめ・古典文学の面白さ		◆授業の内容をふまえて、『伊勢物語』を再読してみましょう。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	◆プレゼンテーション（50％）。きちんと調べて、しっかりとした報告を心がけましょう。			
受講態度他	◆ディスカッション（50％）。毎回、意欲的に議論に加わりましょう。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	◆古典文学は、抜群に面白いです。たくさん読んでみてください。 ◆日頃から多くの文学に接するほか、日本文学を題材としたテレビ番組なども積極的に視聴し、知識を深めてください。 ◆なお、受講生の人数によって、スケジュールや範囲を変更することもあります。授業のテーマ・概要に変更はありません。			
教科書	◆以下のテキストを使用します。持参してください。 ◎『ビギナーズクラシックス 伊勢物語』（角川ソフィア文庫・角川書店、2007年）			
指定図書	なし。			
参考図書	なし。			
オフィスワー	水4限	メールアドレス		

授 業 科 目	古典文学基礎演習【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	須藤 圭		単 位	2
授業の目的 と概要	時代を超えて語り継がれてきた『古今和歌集』や『源氏物語』『徒然草』といった古典文学は、わたしたちに多くのことを教えてくれます。その一方で、今とは違うことばや息づかいで書かれた古典文学を読み解くためには、専門的な知識や技能も必要不可欠です。 この授業では、『伊勢物語』をテキストにしなが、古典文学の読みかたを学びます。『伊勢物語』は、平安時代に成立した「愛」と「みやび」の物語です。この物語をいくつかに分し、一人ひとりに担当範囲を決め、具体的に調査・報告を行いながら、読み進めていきます。			
到達目標	◆以下の3つの能力を獲得することを目指します。 1 古典文学を読み解くための基礎的能力を身につける。 2 古典文学を読み、批評することができる。 3 古典文学・古典文化に関心を寄せることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス・古典文学とは何か／担当範囲決め		◆知っている古典文学について調べておきましょう。	
第2回	古典文学の読みかた①・翻字する		◆『伊勢物語』を読破しておきましょう。	
第3回	古典文学の読みかた②・句読点をつける		◆授業の復習をして、自分じしんの報告範囲の読解をしましょう。	
第4回	古典文学の読みかた③・ことばの意味を調べる		◆授業の復習をして、自分じしんの報告範囲の読解をしましょう。	
第5回	古典文学の読みかた④・校訂する		◆授業の復習をして、自分じしんの報告範囲の読解をしましょう。	
第6回	古典文学の読みかた⑤・諸説を検討する		◆授業の復習をして、自分じしんの報告範囲の読解をしましょう。	
第7回	報告（1）『伊勢物語』初段・初冠		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。	
第8回	報告（2）『伊勢物語』第6段・芥河		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。	
第9回	報告（3）『伊勢物語』第9段・東下り		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。	
第10回	報告（4）『伊勢物語』第23段・筒井筒		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。	
第11回	報告（5）『伊勢物語』第69段・狩の使		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。	
第12回	報告（6）『伊勢物語』第82段・渚の院		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。	
第13回	報告（7）『伊勢物語』第83段・小野の雪		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。	
第14回	報告（8）『伊勢物語』第123段・鶉		◆教科書の報告範囲を熟読しましょう。	
第15回	まとめ・古典文学の面白さ		◆授業の内容をふまえて、『伊勢物語』を再読してみましょう。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	◆プレゼンテーション（50％）。きちんと調べて、しっかりとした報告を心がけましょう。			
受講態度他	◆ディスカッション（50％）。毎回、意欲的に議論に加わりましょう。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	◆古典文学は、抜群に面白いです。たくさん読んでみてください。 ◆日頃から多くの文学に接するほか、日本文学を題材としたテレビ番組なども積極的に視聴し、知識を深めてください。 ◆なお、受講生の人数によって、スケジュールや範囲を変更することもあります。授業のテーマ・概要に変更はありません。			
教科書	◆以下のテキストを使用します。持参してください。 ◎『ビギナーズクラシックス 伊勢物語』（角川ソフィア文庫・角川書店、2007年）			
指定図書	なし。			
参考図書	なし。			
オフィスワー	月4限	メールアドレス		

授 業 科 目	古典文学入門【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	桐島 薫子・安永 美恵		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業では、中国文学（漢文・漢詩）と日本文学（古文）に関して基本的な語法を学びながら分かり易い作品を読解し、大学での古典学習に取り組んでいくための能力を身につけることができるようになることを目的としています。 具体的には、高校で古典（古文・漢文）を学んでいなかったり、学んできたが復習したいと考えていたりする学生を対象とし、中国文学・日本文学の関連科目を学習するために必要な基礎的な事柄を学んでいきます。			
到達目標	1 中国文学：課題に取り組むとともに、学んだ作品の時代背景や作者の意図を把握し、正しく解釈することができる。 2 中国文学：学んだ文章の構造・語法を理解し、書き下し文を読んで、訓点を付けることができる。 3 中国文学：学んだ文章の白文を書き下し文に、書き下し文を白文に直すことができる。（学習シートで指導します） 4 日本文学：学んだ作品（文章）について、作品のジャンルや時代背景を理解して、内容を正しく解釈することができる。 5 日本文学：学んだ文章の語彙や、古典常識、文法的な説明を理解し、適切に口語訳をすることができる。 6 日本文学：基本的な古典文法を理解し、練習問題を解くことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	・この授業は、主に以下のDPの達成に関わる科目です。 （3）-②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 ・中国文学では、1年後期「中国文学概論」や2年「中国文学講読ⅠⅡ」で取り扱う作品を理解するための初歩的な漢文の語法を学びます。 ・日本文学では1年次の「古代文学概論」「中・近世文学概論」や2年次の「古代文学講読ⅠⅡ」「中・近世文学講読ⅠⅡ」で取り扱う内容を理解するための初歩的な知識を学びます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 レベルチェックテスト（成績評価には関係しない）			配布プリントの講読、教科書p94-97を読む	
第 2回 中国文学：漢文の基本形式、訓読、語法の基礎（レベルチェックテストの解説を含む）、課題			レベルチェックテストの復習、教科書p97-100を読む	
第 3回 中国文学：語法の基礎（レベルチェックテストの解説を含む）			レベルチェックテストの復習、課題（語法）に取り組む	
第 4回 中国文学：①漢文作品 1 の訓読			漢文作品 1 の予習・、課題（語法）に取り組む	
第 5回 中国文学：①作品理解、②文章構造・語法の理解			漢文作品 1 の復習（語法のチェックを含む）、課題（語法）に取り組む	
第 6回 中国文学：①漢文作品 2 の訓読			漢文作品 2 の予習、課題（語法）に取り組む	
第 7回 中国文学：①作品理解、文章構造・語法の理解、②課題（語法）の提出			漢文作品 2 の復習（語法のチェックを含む）	
第 8回 中国文学：①文章構造・語法の理解、②課題の返却、③定期試験について			漢文作品 1、2 の学習シートを繰り返し復習する	
第 9回 日本文学：①レベルチェックテストの解説、②歴史的仮名遣い・古語と現代語			授業内容の復習、文法問題集	
第10回 日本文学：①説話一 ②用言の活用			本文（説話）の読み、文法問題集	
第11回 日本文学：①説話二 ②助動詞（1）			授業内容復習（説話）、文法問題集	
第12回 日本文学：①物語一 ②助動詞（2）			本文（物語）の読み、文法問題集	
第13回 日本文学：①物語二 ②和歌の修辞			授業内容復習（物語）、文法問題集	
第14回 日本文学：①随筆一 ②係り結びと助詞			本文（随筆）の読み、文法問題集	
第15回 日本文学：①随筆二 ②文法復習			試験準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％（日本文学35％＋中国文学35％ 到達目標1～6の習熟度）			
レポート	10％（中国文学5％：語法に関する課題の提出。到達目標 2、3 の達成を目指す取り組み。課題はチェック後、返却。） （日本文学5％：語彙、文法等に関する課題の提出）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％（日本文学10％＋中国文学10％ 授業への積極的な参加）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・初回に到達レベル確認のためのレベルチェックテストを行うので、レベルを確認の上、履修を決定してもらいたい。			
教科書	・日本文学：日楽社編集所編『解釈のための 新・古典文法ノート』日楽社、配布プリント ・中国文学：森野繁夫・佐藤利行著『漢文 まとめと要点』白帝社、配布プリント			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	（安永）火曜昼休み、金曜 5 限 （桐島）火曜 昼休み、水曜 4 限		メールアドレス	

授 業 科 目	子ども環境論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	安恒 万記		単 位	2
授業の目的 と概要	未来を担う子どもたちが心身ともに健康に育つことができる環境を保障することは社会の責任です。 「子ども環境論」では、子どもの育つ環境を総合的に見つめ、住環境を中心に子どもの成育環境の問題を探り、そのあり方を考えます。さまざまな環境が子どもの心身に与える影響を深く理解し、豊かな成育環境の実現に向けて自ら考え、創意工夫する力を養うことを目的とします。 授業は講義を中心に、DVDなどによる映像も使用しながら、子どもの成育環境の問題を探ります。			
到達目標	1. 子どもの成育環境を総合的に説明することができる。 2. さまざまな環境が子どもの心身に与える影響を分析することができる。 3. 子どもの成育環境における課題の解決に向けて自ら考え、取り組むことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福C (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 子どもと環境について			情報の整理	
第2回 子どもの家庭環境① 変化する家族形態			家族形態について調べる	
第3回 子どもの家庭環境② 家族機能の変化			社会の問題を調べる	
第4回 子どもの虐待―その背景			虐待について調べる	
第5回 子育て支援			社会の問題を考える	
第6回 子どもと住まい			住宅について調べる	
第7回 子どもとまち～地域で育つ			まちの問題を考える	
第8回 子どもの遊び環境～遊びのサンマ			子どもの遊びを考える	
第9回 子どもと自然			自然環境について考える	
第10回 子どもと環境教育～ドイツの事例			事例収集	
第11回 ドイツ森の幼稚園			事例収集	
第12回 ビオトープ・園庭改造			事例収集	
第13回 プレイパーク			事例収集	
第14回 プレイリーダーと子どもたち			事例収集	
第15回 まとめ			課題⑤（視野を広げる・課題の抽出）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	85％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	15％ 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎講義の冒頭に、前回の講義内容に関する質問を口頭で行うので、前回の講義内容を復習しておくこと。 配布プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。			
教科書	プリントを配布します			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します			
オフィスアワー	木曜日：10：50～12：20		メールアドレス	

授 業 科 目	子どもと環境【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	安恒 万記		単 位	2
授業の目的 と概要	未来を担う子どもたちが心身ともに健康に育つことができる環境を保障することは社会の責任です。 「子どもと環境」では、子どもの育つ環境を総合的に見つめ、住環境を中心に子どもの成育環境の問題を探り、そのあり方を考えます。さまざまな環境が子どもの心身に与える影響を深く理解し、豊かな成育環境の実現に向けて自ら考え、創意工夫する力を養うことを目的とします。 授業は講義を中心に、DVDなどによる映像も使用しながら、子どもの成育環境の問題を探ります。			
到達目標	1. 子どもの成育環境を総合的に説明することができる。 2. さまざまな環境が子どもの心身に与える影響を分析することができる。 3. 子どもの成育環境における課題の解決に向けて自ら考え、取り組むことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 子どもと環境について			情報の整理	
第2回 子どもの家庭環境～変化する家族形態			家族形態について調べる	
第3回 子どもの成長と発達			社会の問題を調べる	
第4回 子どもの虐待―その背景			虐待について調べる	
第5回 子育て支援			社会の問題を考える	
第6回 子どもと住まい			住宅について調べる	
第7回 子どもとまち～地域で育つ			まちの問題を考える	
第8回 子どもの遊び環境～遊びのサンマ			子どもの遊びを考える	
第9回 子どもと自然			自然環境について考える	
第10回 子どもと環境教育～ドイツの事例			事例収集	
第11回 ドイツ森の幼稚園			事例収集	
第12回 ビオトープ・園庭改造			事例収集	
第13回 プレイパーク			事例収集	
第14回 プレイリーダーと子どもたち			事例収集	
第15回 まとめ			課題⑤（視野を広げる・課題の抽出）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	85％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	15％ 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	毎講義の冒頭に、前回の講義内容に関する質問を口頭で行うので、前回の講義内容を復習しておくこと。 配布プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。			
教科書	プリントを配布します			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します			
オフィスアワー	木曜日：10：50～12：20	メールアドレス		

授 業 科 目	子どもの食と栄養【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	武部 幸世・大倉 志保子		単 位	2
授業の目的と概要	子どもの栄養と食生活が健康と生活の基礎であることを理解し、成長していく過程に於いて子どもに適切な食事指導ができるようにまた、食事が心の健康と疾病に大きく影響することを認識する。 食は生命を維持するために必要不可欠である。子どもの食生活は順調な発育・発達を促す特性があり、適切に食べることが必要である。その時期に適した食事の特殊性を理解し、子どもにとって望ましい食事内容・組み合わせ方・調理内容を講義、実習で学ぶ。			
到達目標	① 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する知識を理解する。 ② 子どもの発育、発達と食料の関連について理解する。 ③ 特別な配慮をする子どもの食と栄養について理解する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼C（3）-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	子どもの健康と食生活の意義		子どもの食生活をめぐる現状	
第2回	栄養に関する基礎知識① （炭水化物・たんぱく質・脂質）		栄養に関する基礎知識② （ビタミン・無機質・消化と吸収）	
第3回	食事摂取基準とその活用		献立作成と調理の基本	
第4回	子どもの発育・発達と食生活（妊娠期・授乳期）		調乳実習・レポート	
第5回	子どもの発育・発達と食生活（乳児期・離乳期（離乳の意義と進め方））		離乳食（初期）実習・レポート	
第6回	子どもの発育・発達と食生活（幼児期の心身の発達と食生活）		離乳食（中期）実習・レポート	
第7回	子どもの発育・発達と食生活（幼児期の間食）		幼児期（間食）実習・レポート	
第8回	学童期・思春期の心身の発達と食生活		学童期実習・レポート	
第9回	食育の基本とねらい		食育の内容と計画、評価および改善	
第10回	食育のための環境と支援		子どもと一緒に作る料理を考える・レポート	
第11回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養		障害児入所、および通所施設における食事と栄養	
第12回	保育所給食の実際		保育所給食（3～5歳児）実習・レポート	
第13回	特別な配慮を要する子どもの食生活と栄養① （体調不良、食中毒）		特別な配慮を要する子どもの食生活と栄養②（慢性疾患）	
第14回	特別な配慮を要する子どもの食生活と栄養③ （食物アレルギー）		食物アレルギー食実習・レポート	
第15回	総復習		これまでの授業の振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 定期試験（15回の授業内容の理解度について、講師が評価・採点します）			
レポート	10％ 実習についてのレポート レポートについては、適宜返却します			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 授業への参加（取り組み等）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	実習のためのエプロン・三角巾の持参。			
教科書	松本峰雄 監修 大江敏江 他著 『子どもの食と栄養 演習ブック』ミネルヴァ書房			
指定図書	なし			
参考図書	武藤 静子監修『小児栄養理論と実習』			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	子どもの保健A【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	原田 博子		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義では子どもの身体・発達の特徴についての基本的知識を身につけ、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について学ぶことを目的とする。 小児期によく遭遇する疾病や障害を解説し、その予防法や対応の仕方について講義するとともに、保育における環境や衛生管理ならびに安全管理についての学習を促す。さらに、保育所だけではなく施設における子どもの心身の健康および安全対策についても授業する。 授業形態は講義を中心とする。			
到達目標	生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動について説明することができる。 子どもの疾病の予防と適切な対応について説明することができる。 保育現場における事故防止や安全対策について具体的に述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	幼C（3）-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 ・子どもの保健演習			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	子どもの保健とは何か（学ぶ意義・法律・制度・施策）		課題「海外の小児医療水準」について調べる	
第2回	身体の成長について		第2回講義にて習った用語の定義と意味を復習する	
第3回	母乳栄養について		課題「母乳」について現代の母親の持つ悩みを調べる	
第4回	体温調節について		第4回講義にて習った用語の定義と意味を復習する	
第5回	発熱について		第5回講義にて習った用語の定義と意味を復習する	
第6回	子どもの症候（食欲、きげん、嘔吐、下痢、脱水）について		第5回講義にて習った用語の定義と意味を復習する	
第7回	感染症について（感染症とはどのようなものか）		主な感染経路について復習する	
第8回	感染症について（学校感染症 第一種/第二種/第三種）		学校感染症に指定されている病名と学校停止の期間を復習する	
第9回	感染症について（さまざまな感染症：溶連菌/麻疹/風疹/水痘など）		各感染症の特徴的な症状、潜伏期間、感染経路などを復習する	
第10回	予防接種（任意接種）		任意接種のワクチン名と対応している病名を復習する	
第11回	予防接種（勧奨接種）		勧奨接種のワクチン名と対応している病名を復習する	
第12回	免疫とアレルギーについて（喘息・アトピー・鼻炎）		アレルギー反応が起こったときの子どもの様子を復習する	
第13回	免疫とアレルギーについて（食物・アナフィラキシー）		アレルギー反応が起こったときの子どもへの対応を復習する	
第14回	犯罪防止		課題 「子どもが被害者となる犯罪」について詳しく調べる	
第15回	まとめ		各回で使用した確かめプリントを復習する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 筆記試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度が評価の対象になっています。事情がある場合はお知らせください。			
教科書	渡辺博『子どもの保健 改訂第3版新装版』中山書店			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜日4限目	メールアドレス		

授 業 科 目	子どもの保健B【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	S. Kumar		単 位	2
授業の目的と概要	こころの理論に照らして、乳幼児や障がいを持つ子どもの精神状態を理解する。精神的に健康な状態とはどんな意味かを学ぶ。不安やストレス解消の援助の理解。 乳幼児期のこころの理解、精神的不安状態、脳機能の働き、ストレスの状態とストレス・マネージメントの方法や援助法を学ぶ。障がいを持つ子どもの理解と精神状態を理解する。			
到達目標	保育士として、乳幼児の精神保健やメンタル・ヘルスを理解することが必要であって、その概念や内容を学ぶ。心の発達や健康状態を理解し、社会的自立のため日常生活の中必要とするストレス・マネージメント、感情の援助法を解説する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	幼C（3）-②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C（3）-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C（3）-②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	子どもの病気や精神的健康の理解		子どもの様々な病気について	
第2回	健康的な精神状態		精神保健の理念の理解課題	
第3回	こころの理論・理解		イライラ状態、不安と安心感、についての復習	
第4回	感覚・情緒・思考の障がい		不安の状況などの復習	
第5回	こころの理解とこころの持ち方		抑うつと躁うつ状態の理解課題、幻覚	
第6回	精神保健として脳機能の理解		安定・不安定の活動時脳機能の活動理解	
第7回	ストレスの理解		PTSDの理解課題	
第8回	被害妄想、微小妄想、誇大妄想		適応と不適応の予習	
第9回	ストレス・マネージメント		ストレス解消法と考え方についての予習	
第10回	ADHDと知的障害について		コミュニケーション障がいについて	
第11回	ストレス・コーピングと精神保健のため地域の支援		乳幼児期の理解課題	
第12回	発達障がいの分類の理解		発達障がいの復習	
第13回	コミュニケーションの援助		対人関係のためこころの援助の予習	
第14回	子どもの保健を保つ基本ポイント		精神的健康状態の内容理解課題	
第15回	日常生活の中ストレスの理解 と まとめ		様々なストレスの理解復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	90％ 筆記試験			
レポート	―			
小テスト等	―			
成果発表	―			
受講態度他	10％ （私語5％、遅刻3％、授業中携帯電話の使用など2％）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	―			
教科書	資料配布など			
指定図書	なし			
参考図書	佐藤『子どもの保健I』ななみ書房 小林 芳郎『精神保健総論』保育出版社			
オフィスワー	授業の前後、昼休み（12:30～13:00）		メールアドレス	

授 業 科 目	子どもの保健演習【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	原田 博子・森 里佳		単 位	1
授業の目的 と概要	乳幼児に対する養護・看護、救急処置等の技術を習得する。 子どもの疾病とその予防および適切な対応、救急時の対応や事故防止、安全管理について理解する。 新生児モデル人形や2歳児モデル人形などを使用し、テーマ別に技術の手順とそれに伴う配慮を理解する。 現代における地域保健活動を理解する。			
到達目標	①乳幼児の養護・看護の実際を適切に行うことができる。 ②子どもの疾病についての予防および適切な対応について具体的に説明できる。 ③子どもに対する救急処置および救急蘇生法について適切に行うことができる。 ④現代社会における地域の保健活動について考察することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	幼C（3）-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 ・子どもの保健A ・乳児保育			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
森・原田 共通	授業概要、授業進行、グループ分けなどオリエンテーション		森担当：教科書P.42～45を読む 原田担当：教科書P.2～7を読む	
森担当 第1回	子どもの健康状態の把握 ー生理機能の発達ー		振り返りレポート（体温・脈拍・呼吸数測定時の注意点と配慮について）	
森担当 第2回	子どもの保育施設環境 ー屋内外の衛生管理・健康管理ー		振り返りレポート（衛生管理の注意点について）	
森担当 第3回	子どもの応急処置 ー傷害時の対応ー		振り返りレポート（応急処置を行うにあたっての注意点について）	
森担当 第4回	慢性疾患をもつ子どもの保育 ーアレルギー性疾患ー		振り返りレポート（食物アレルギーを持つ子どもへの注意点について）	
森担当 第5回	子どもの応急処置 ー心肺蘇生法の習得ー		振り返りレポート（心肺蘇生法を行うにあたっての注意点について）	
森担当 第6回	子どもによく起こる事故		振り返りレポート（子どもによく起こる事故の特徴とその対処法について）	
森担当 第7回	子どもがよくかかる病気		振り返りレポート（教科書P103 課題6）	
原田担当 第1回	身体発育の測定 発育評価の仕方		振り返りレポート（教科書P.22 課題5と課題6の1）を解いてくる	
原田担当 第2回	赤ちゃんの抱き方（モデル人形を使った実技）		振り返りレポート（赤ちゃんを抱くときの配慮について）	
原田担当 第3回	着替え		振り返りレポート（調乳の注意点について）	
原田担当 第4回	授乳		振り返りレポート（授乳の注意点、配慮について）	
原田担当 第5回	体調不良時の対応（救急車の呼び方）		振り返りレポート（救急車を呼ぶときの注意点について）	
原田担当 第6回	おむつ替え（モデル人形を使った実技）		振り返りレポート（おむつ替えの注意点、配慮について）	
原田担当 第7回	沐浴（モデル人形を使った実技）		振り返りレポート（沐浴時の注意点、配慮について）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	原田：各回振り返りレポート（5%×7） 森：各回振り返りレポート（5%×7）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	森：15%（授業中の態度）原田：15%（授業中の態度・チェックリスト記載内容）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度（授業中の態度）はグループ活動においての参加態度も含んでいます。			
教科書	小林美由紀執筆「これならわかる！子どもの保健演習ノート 改訂第3版」 診断と治療社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	原田：月曜日4限 森：授業終了前後		メールアドレス	

授 業 科 目	古文読解【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	須藤 圭		単 位	2
授業の目的 と概要	古文を読み解くために必要な文法、単語、文学史の知識を養い、読解力を身につけます。 わたしたちが現代語で書いたり、読んだりするとき、文法や単語を意識することはほとんどありません。古文が書かれた時代もおそらく同じだったことでしょう。古文を読むためには、たくさんの文章に接し、たくさんの実践的なトレーニングを経なければいけません。基礎事項の説明、問題演習、解説にとりくみながら、実践的に古文の読解力を養います。			
到達目標	◆以下の3つの能力を獲得することを目指します。 1 基礎的な古典文法、古文単語、文学史の知識を身につける。 2 教員採用試験レベルの古文問題を正しく解答し、その根拠を説明することができる。 3 古典を読み、論評することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス・読解のための古典文法／古文単語		◆教科書に目をとっておきましょう。	
第2回	文法入門		◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第3回	動詞		◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第4回	形容詞／形容動詞		◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第5回	助動詞① き・けり／つ・ぬ／たり・り		◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第6回	助動詞② ず／る・らる／す・さす・しむ		◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第7回	助動詞③ む・むず／べし／じ・まじ／らむ・けむ		◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第8回	助動詞④ なり／めり・まし・らし／まほし・たし・ごとし・たり		◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第9回	助詞① 助詞／格助詞／接続助詞		◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第10回	助詞② 副助詞／係助詞／終助詞		◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第11回	副詞／その他の品詞		◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第12回	敬語		◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第13回	和歌① 枕詞／掛詞		◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第14回	和歌② 序詞／縁語・歌枕		◆教科書で予習をし、授業中に間違えた問題を見直しましょう。	
第15回	まとめ・確認と復習		◆これまでに間違えた問題を全て見直しましょう。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	なし			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	◆授業への取り組み（100％）。毎回、しっかりと予習をして授業に参加しましょう。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	◆教員採用試験レベルの古文問題を正しく読解できることを目標にします。 ◆日頃から多くの文学に接するほか、日本文学を題材としたテレビ番組なども積極的に視聴し、知識を深めてください。			
教科書	◆以下のテキストを使用します。持参してください。 ◎『古文上達 基礎編 読解と演習45』（Z会、2006年）			
指定図書	なし。			
参考図書	◆古典文法をより詳しく知りたいときは、以下の本を推奨します。 ◎小田勝『実例詳解古典文法総覧』（和泉書院、2015年）			
オフィスワー	水4限	メールアドレス		

授 業 科 目	コミュニティ心理学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	北島 茂樹		単 位	2
授業の目的 と概要	地域や学校、職場等の生活共同体のなかでは、いろいろな心理－社会的問題が生じる。そうした問題の改善・解決あるいは予防のために、人－社会（環境）の適合の観点に立ち、人や人々を包むコミュニティないし生活環境側へ介入する「社会臨床」としてのコミュニティ心理学について学ぶ。コミュニティ心理学の成立過程、これまで発展してきた主要概念や理論、および地域や学校、職場等で生起する具体的問題への取り組み事例などを順次学んでいく。			
到達目標	①コミュニティ心理学の成立の経緯を知り、こうした学問・実践領域の必要性について説明することができる。 ②地域や学校、職場等の生活共同体において生じる様々な心理－社会的諸問題について例示することができ、こうした問題への感受性を高める。 ③問題を抱える生活共同体への介入計画を立て、実践に移す際に役立つコミュニティ心理学の概念・原理・理論について理解を深め、活用できる。 ④介入計画の進捗や介入の効果についての評価方法を理解し、活用できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	はじめに① ー学校でのいじめ問題を通して		テキストの予習（まえがき・目次部分）	
第 2回	はじめに② ードリーさんの事例を通して		事前配布資料の検討	
第 3回	コミュニティ心理学の誕生		テキストの予習（P P. 1-6）	
第 4回	コミュニティ心理学の定義・理念・目標		テキストの予習（P P. 7-16）、事前配布資料の検討	
第 5回	主要概念 1） 人と環境の適合－パラダイムとして、生活者の視点		テキストの予習（P P. 23－30）	
第 6回	主要概念 1） 人と環境の適合 ー生態学・システム論の視点		テキストの予習（P P. 30-39）	
第 7回	主要概念 1） 人と環境の適合 ー適合にかかる 3つの視点		テキストの予習（P P. 39-45）	
第 8回	主要概念 2） 予防 ー3つの予防タイプ		テキストの予習（P P. 47-54）	
第 9回	主要概念 2） 予防 ー選択的予防、マイルストーン型予防		テキストの予習（P P. 54-69）	
第10回	主要概念 3） ソーシャルサポート		テキストの予習（PP.119-133）、事前配布資料の検討	
第11回	主要概念 4） 強さとコンピテンスの強調		テキストの予習（P P. 11-12）	
第12回	主要概念 5） エンパワメント		テキストの予習（PP.141-159、133-140）、事前配布資料の検討	
第13回	主要概念 6） 社会的資源の活用、協働		テキストの予習（PP.161-182）、事前配布資料の検討	
第14回	コミュニティ心理学の研究法－プログラム評価など		テキスト予習（PP.17-20）、事前配布資料の検討	
第15回	まとめ		テキストの予習（PP.183-205）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 受講中における積極的応答参加（+）、自発的な意見陳述や報告（+）、私語・居眠り（-）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的な授業参加を期待します。私語および長時間の居眠りについては厳しく注意します。			
教科書	植村勝彦編 『コミュニティ心理学入門』 ナカニシヤ出版 2007年			
指定図書	なし			
参考図書	K.G.Duffy&F.Y.Wong著 『コミュニティ心理学－社会問題の理解と援助』 ナカニシヤ出版 1999年 J.Dalton,J.Elias,A.Wanderman著（笹尾敏明訳）『コミュニティ心理学』金子書房 2007年			
オフィスアワー	授業の前後に相談ください		メールアドレス	

授 業 科 目	雇用政策論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	新家 めぐみ・高木 佳世子		単 位	2
授業の目的 と概要	「自立支援」を基調とする相談援助実践が展開される状況の中、生活保護制度および障害者福祉施策における就労支援制度の概要について理解する。 さらに、就労支援施策の実際と、それを担う組織・団体、専門職の役割と連携のあり方について検討し、雇用政策全体の中で就労支援施策がもつ意義と課題を発見することを目的とする。 そのため、具体的な事例を検討しながら、生活保護制度および障害者福祉施策における就労支援制度が、雇用政策全体の中でもつ位置づけを明確にし、そこにどのような政策課題があるのかを学ぶ。			
到達目標	1. 雇用政策（労働法を含む）の概要と動向について理解できる。 2. 生活保護制度運営における就労支援（自立支援プログラムを含む）の課題について説明できる。 3. 福祉事務所とハローワークの連携について、現状と課題を指摘できる。 4. 障害者福祉施策における就労支援の課題を指摘することができる。 5. 障害者福祉施策における機関連携のあり方について理解し、その課題を指摘することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	就労支援と雇用政策、労働市場の動向		序章、第1章第1節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第2回	労働法（1）労働法の必要性、体系・分類		第1章第2節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第3回	労働法（2）賃金、労働時間等の労働条件		第1章第2節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第4回	雇用保険		配付資料を見直して復習する。	
第5回	労働者災害補償保険（労災保険）		配付資料を見直して復習する。	
第6回	低所得者への就労支援（1）生活保護受給者に対する就労支援		第3章を読む。配付資料を見直して復習する。	
第7回	低所得者への就労支援（2）生活困窮者自立支援法		配付資料を見直して復習する。	
第8回	低所得者への就労支援（3）母子家庭、高齢者、ホームレスの人への就労支援		第3章を読む。配付資料を見直して復習する。	
第9回	障害者就労支援の実際と課題		視聴覚教材→課題①	
第10回	障害者雇用施策の概要① 障害者雇用促進法		配付資料復習	
第11回	障害者雇用施策の概要② 組織とその役割		配付資料復習	
第12回	障害者雇用施策の概要③ 専門職の役割		配付資料復習	
第13回	福祉的就労；サービス事業所、障害者支援施設の役割と実際		配付資料復習	
第14回	福祉的就労における専門職の役割と課題		視聴覚教材→課題②	
第15回	福祉的就労における機関連携のあり方と課題		配付資料復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	100％（詳細は講義時に指示する）			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義時に資料を配付するので、やむを得ず欠席したときなどは、後日研究室に資料を受け取りに来ること			
教科書	〔編集〕社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座1 8 就労支援サービス（第4版）』（中央法規）			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する			
オフィスワーク	（高木）金4 （新家）火4		メールアドレス	

授 業 科 目	勤式作法(本願寺派教師)【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	和田 法明		単 位	4
授業の目的と概要	浄土真宗本願寺派の「宗法」に、「寺院の目的は教義の宣布と法要儀式の執行である」と明記してありますとおり、み教えをひろめることと、おつとめ（勤行）をすることは、寺院という車の両輪であります。また、「信は莊嚴より」という言葉があるように、浄土真宗において仏徳讃嘆である勤式作法は、信の表出の一つに他ならない。おつとめ（勤行）は、聞き置く、知り置くことではなく、文字通り勤めて行うことです。 本講義では浄土真宗本願寺派の正しい勤式作法ができるようになることを目的とする。 本講義では、浄土真宗本願寺派における儀礼の意義の考察をはじめとし、仏具（莊嚴：お飾り）や作法の歴史と意味、読誦する經典の解説および、おつとめ（勤行）の実唱・仏前での作法などを学んでいく。			
到達目標	浄土真宗本願寺派の ・正しいおつとめ（勤行：お経の唱え方）ができる。 ・正しい莊嚴（お飾り）や仏具の説明ができる。 ・正しい仏前での作法ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程の科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	勤式作法について。重誓偈・讃仏偈の解説および実唱。		範囲内の復習	
第2～6回	正信偈の解説および実唱。仏前での作法。		範囲内の復習	
第7～8回	浄土三部經の解説および実唱。仏具の説明①		範囲内の復習	
第9回	十二礼・意識勤行の解説および実唱。仏具の説明②		範囲内の復習	
第10～12回	御文章の解説および実唱。装束（衣体）の説明。		範囲内の復習	
第13～15回	葬場勤行の解説および実唱。葬儀の莊嚴（お飾り）について。		範囲内の復習	
第16回	声明の基礎について（十二律・五音七声）。		範囲内の復習	
第17回	勤式集の解説および実唱①（三奉請・先請伽陀）。声明譜の解説①。		範囲内の復習	
第18～19回	勤式集の解説および実唱②（無量寿經作法）。声明譜の解説②。		範囲内の復習	
第20～21回	勤式集の解説および実唱③（大師影供作法）。声明譜の解説③。		範囲内の復習	
第22～23回	勤式集の解説および実唱④（往生礼讃）。声明譜の解説④。		範囲内の復習	
第24～25回	宗祖讃仰作法の解説および実唱。法要儀式の解説①。		範囲内の復習	
第26回	音楽法要の解説および実唱。法要儀式の解説②。		範囲内の復習	
第27～29回	御伝鈔の解説および実唱。寺院の解説		範囲内の復習	
第30回	勤式作法の総括		範囲内の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 定期試験で評価する。（前期・後期それぞれ実施） 定期試験の内訳は、おつとめ（勤行）の実唱(30％)、仏前での作法(20％)、筆記試験(20％)となる。			
レポート	0％			
小テスト等	－			
成果発表	0％			
受講態度他	30％ 授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義には必ず聖典（筑紫女学園発行）・念珠（腕輪念珠でも可）を持参してください。			
教科書	① 聖典 （学校法人筑紫女学園発行） ② 浄土真宗本願寺派 一勤式集一 （本願寺出版社発行）			
指定図書	ありません			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	サブカルチャー論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小山 昌宏		単 位	2
授業の目的と概要	1. この授業は、ポピュラー文化における「サブカルチャー」分野について学ぶ。ポイントは、欧米で定義されるサブカルチャーが日本でいかに変容し、戦後日本文化において中心的な役割を担ってきたのか、その社会現象、歴史、文化について学ぶことを目的とする。 2. 第1～3回は、サブカルチャーの定義、学説、歴史について、第4回は、サブカルチャーとアートとの関係、第5回～8回は、欧米のロックミュージック、日本のフォーク、ロックミュージックを視聴しつつ戦後大衆文化の歴史について学び、第9～15回は、各テーマ別にその内容を把握し、サブカルチャーの文化現象、時代背景、領域（ジャンル）について知識を得ることを目的とする。 3. 具体的には、講義後の配布資料、デジタル資料（筑女ネット）による復習、リアクションペーパーのまとめによる復習（振			
到達目標	1. サブカルチャーの定義、サブカルチャーの形成、その発展から戦後日本文化への影響について説明ができる。 2. SF、フリークス、オカルト、ニューサイエンス、ニューメディアなど、サブカルチャーのカテゴリーとその内容について説明することができる。 3. サブカルチャーとサブカル、ポピュラーカルチャーとポップカルチャー、サブカルチャーとポップカルチャーの連続性と相違性について理解し、説明ができ、報告することができる。 4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、独自の「サブカルチャー観」を形成することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 サブカルチャーとは何か？	ーその定義、範疇、歴史の概要		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第2回 日本における大衆文化の基礎形成	ー江戸、明治、大正、昭和初期の繁華街と享楽街		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第3回 非行文化と犯罪社会学	ーモッズ,ロッカーズからアキバ系,,ビジュアル系へ		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第4回 サブカルチャーとアート	ーW.モリスからダリ、A.ウォーホルから現代アートへ		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第5回 欧米におけるロックミュージック	ードラッグとロックビジネス ビートルズからオアシスへ		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第6回 アメリカにおけるヒッピー文化	ーウッドストックコンサート R,ヘプンスからジミ・ヘンドリックスまで		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第7回 日本におけるサブカルチャー①	60年代フォーク・ミュージック 岡林信康から吉田拓郎まで		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第8回 日本におけるポップカルチャー②	70年代ロック・ミュージック タイガースから山下達郎まで		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第9回 日本におけるアイドル文化	ー80年代アイドル、秋元康、つくくの方法論		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第10回 スピリチュアルとオカルト	ー心霊現象、UFO、UMAになぜ人は惹かれるのか？		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第11回 フリークスとカルト	ー怪物、奇形、人造人間が反映する人心の闇について		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第12回 ニューサイエンスと偽史	ー親学、江戸しぐさにおける「非科学」的教育		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第13回 都市伝説とホラー	ーコンビニ・コミックにみる「噂」「デマ」「不安」の影響		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第14回 民俗学と特撮ドラマ	ーウルトラマンシリーズにおけるキリスト教・仏教の影響とは？		配布プリント、デジタル資料（筑女ネット）による復習	
第15回 まとめ 報告会			報告会を受け、期末レポートの作成をおこなう	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70％（期末レポート） 20％（出席シート：リアクションペーパーの内容）			
小テスト等	なし			
成果発表	10％（15回目の報告プレゼンの評価）			
受講態度他	第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 教科書はありません。レジュメ（配布資料）は各回配布いたします。 2. この授業では、毎回、リアクションペーパー内容をまとめ、要点整理の上、次回授業のはじめに振り返り紹介いたします（復習） 3. リアクションペーパーと振り返りによる学習効果を、期末レポート作成に活かします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で指示します			
オフィスアワー	水曜日 4 限目（14:50～16:20）・金曜日 3 限目（13:10～14:40)	メールアドレス		

授 業 科 目	産業社会学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	園田 浩之		単 位	2
授業の目的と概要	この講義では、社会学の視点から、①「産業社会」と呼ばれる社会の特徴とその変容、そして何より、②その中で生きる「私たちの現在」について考察する。私たちににとってごくごく「自然」で「あたりまえ」なことに思える「働くこと」の意味とその変容などに注目しながら、働くことと余暇、消費、自己、豊かさ、生きづらさなどをめぐって講義をすすめる。これらのテーマをめぐって、ふだんとは異なる視点から、受講する皆さんと一緒に「私たちの現在」を問い直してみることに重きをおく。この講義をつうじて、受講する皆さんが「複眼的な思考」を養い、現実について「多面的なものの見方」ができるようになることを目指す。			
到達目標	（概要と授業計画に示したいくつかのテーマを通して）①現代社会を（一面的に、でなく）複眼的に捉える目を養うこと、②産業社会の成立と、特にその変容について、（自身の身近な現実とも結びつけながら）具体的で多面的なイメージを描けるようになり、それを説得的・論理的な言葉で表現できるようになること。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	講義のオリエンテーション・イントロダクション		初回講義の内容を、配布資料やノートをもとにふりかえる	
第 2回	近代化と産業化① 社会の変化を俯瞰する目		講義内容について、配布資料とノートをもとにふりかえる	
第 3回	近代化と産業化② 私たちの「あたりまえ」はどこから来たか？/産業社会とはどんな社会か？		講義内容について、配布資料とノートをもとにふりかえる	
第 4回	近代化と産業化③ モダン・タイムスの到来		講義内容について、配布資料とノートをもとにふりかえる	
第 5回	近代化と産業化④ モダン・タイムスとインダストリアスな人間観		講義内容について、配布資料とノートをもとにふりかえる	
第 6回	働くことの過去と現在① フォーディズムをめぐって		講義内容について、配布資料とノートをもとにふりかえる	
第 7回	働くことの過去と現在② ポスト・フォーディズムをめぐって		講義内容について、配布資料とノートをもとにふりかえる	
第 8回	働くことの過去と現在③ フレキシビリティとハイパーメリトクラシー		講義内容について、配布資料とノートをもとにふりかえる	
第 9回	ポスト産業社会をめぐって① 「豊かさ」な社会の到来とその変容 消費社会論（その① 生産する豊かさから消費する豊かさへ）		講義内容について、配布資料とノートをもとにふりかえる	
第10回	ポスト産業社会をめぐって② 「豊かさ」な社会の到来とその変容 消費社会論（その② 豊かさと空虚さ）		講義内容について、配布資料とノートをもとにふりかえる	
第11回	ポスト産業社会をめぐって③ 「自己」の変容（その①）		講義内容について、配布資料とノートをもとにふりかえる	
第12回	ポスト産業社会をめぐって④ 「自己」の変容（その②）		講義内容について、配布資料とノートをもとにふりかえる	
第13回	液状化する社会における労働と余暇① 働くことの「自由」と「不自由」		講義内容について、配布資料とノートをもとにふりかえる	
第14回	液状化する社会における労働と余暇② 働くことの現在		講義内容について、配布資料とノートをもとにふりかえる	
第15回	豊かな社会の不安		講義内容について、配布資料とノートをもとにふりかえる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80% 講義中に説明した重要な概念や視点を適切な理解し、それを説得的な言葉で表現できること。			
レポート	10% 学期中に講義内容とリンクした小レポートを課す場合がある。			
小テスト等	なし。ただし、理解の適切さを確かめる意味で、講義内容に関する問いかけを行うことはある（受講態度の項目も参照）			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 講義中のコミュニケーション（質疑・やりとり）を含む、講義への実質的な参加は重んじる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修する人たちは、必ず「初回の講義」から出席して下さい。受講上のルールや留意点の詳細については、教室で説明します。			
教科書	教科書は使用しません。スライド（パワーポイント）とそのつど配布する講義資料（プリント）で講義を進めます。			
指定図書	なし。			
参考図書	講義の進行に応じて、さらに知りたくなった人・より深く考えたくなった人たちに、思考の糧・補助線になりそうなもの（場合によっては、「本」以外のものも）を紹介していけたらと思っています。			
オフィスアワー	質問や連絡等は、講義の前後に教室で直接うかがいます（いつでも、遠慮なくどうぞ）	メールアドレス		

授 業 科 目	社会意識論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	園田 浩之		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、社会意識論という領域で研究されてきたテーマのうち、現代社会を生きる若者の（そして若者をめぐる）意識のありようを描き出し、それを社会的に考察することを目的とする。講義の前半では、社会的な思考のありようや、社会意識論とは何かといったことを考察する。後半は、社会学の視点で、若者の意識や価値観の変容をめぐって考察する。私たちの生きている現代社会は、刻々とその複雑さと不透明さを増し、ますますその全貌は捉え難いものになりつつある（ような「何か」としてイメージされている）。授業では、社会意識論の問題意識や考え方（その問い方の射程・性能）を学び、現代社会の捉え難さの理由も視野に入れながら、日々その中で生きている私たち自身の意識の構造を複眼的に読み解いてゆく。			
到達目標	(1) 社会学や社会意識論が探求してきたテーマを素材に、多様な情報を読み解くのに必要なリテラシーやクリティカル・シンキングの姿勢と方法（問い方や説明の仕方）を身につける。(2) 受講者がそれぞれの日常と現代社会との多様な結びつきに気づき、それをできる限りクリアに（そして複眼的に）イメージし、授業で学ぶ概念や分析・説明方法を活かしながら言語化することができる。たやすくは表現できない事柄にいていねいに言葉をあてていく学びを通じて、思考と表現の柔軟性を高めることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	日常から考える/日常を考える（社会学へのイントロダクション あたりまえをみるために）		配布資料とノートをていねいに読み返し、初回の内容をふりかえる	
第2回	クリティカル・シンキングと（しての）社会学① 思考停止を超えて/疑いの使いみち		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第3回	クリティカル・シンキングと（としての）社会学② 思い込みの「外」に出る方法		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第4回	ステレオタイプなものの見方を超えて		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第5回	「事実」をみるためのリテラシー（たやすくみえることの難しさをめぐって/社会は細部に宿る）		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第6回	見えないものを読み解く想像力のために① 社会意識（論）と社会学のまなざし		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第7回	見えないものを読み解く想像力のために② 社会意識（論）と社会学のまなざし		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第8回	見えないものを読み解く想像力のために③ 社会意識（論）と社会学のまなざし		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第9回	「私」の成り立ちを考える 社会意識論の視点①		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第10回	「私」の成り立ちを考える 社会意識論の視点②		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第11回	若者（論）から考える社会意識の現在① 「若者」は変わった?/「わかりやすさ」の一步前へ		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第12回	若者（論）から考える社会意識の現在② 若者という問題をめぐって/「わからなさ」の一步先へ		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第13回	若者（論）から考える社会意識の現在③		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第14回	社会の液状化・方向感覚の喪失（disorientation）と社会意識		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第15回	社会と意識を読み解くために（社会学の使いみち）		配布資料とノートをていねいに読み返す	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 講義中に示した重要な概念や視点、事柄の説明を正しく理解し、それを適切・説得的な言葉で表現できること			
レポート	10％ 学期中に講義内容とリンクした小レポートを課す場合がある。			
小テスト等	なし。ただし、理解の適切さを確かめる意味で、講義内容に関する問いかけを行うことはある（受講態度の項目も参照）			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ 講義中のコミュニケーション（質疑・やりとり）を含む、講義への実質的な参加は重んじる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修を希望する人たちは、必ず「初回の講義」から出席して下さい。受講上のルールや留意点の詳細は、教室で説明します。			
教科書	教科書は使用しません。スライド（パワーポイント）と、そのつど配布するプリント（配布資料）で講義を進めます。			
指定図書	なし			
参考図書	講義の進行に応じて、さらに知りたくなった人・より深く考えたくなった人たちに、思考の糧・補助線になりそうなもの（場合によっては、「本」以外のものも）を紹介していけたらと思っています。			
オフィスアワー	質問や連絡等は、講義の前後に教室で直接うかがいます（いつでも、遠慮なくどうぞ）。	メールアドレス		

授 業 科 目	社会科・公民科教育法Ⅰ(中等教職)【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	栗山 俊之		単 位	2
授業の目的 と概要	現在の社会科・公民科教育の位置づけについて理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、社会科・公民科の教材開発につなげる。学習指導要領を分析・検討し、生徒が学ぶべき内容の把握と、具体的学習指導案づくりを行うことで、最終的には、学習指導要領と教科書を用いて、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指し、実際に数人のグループで模擬授業を行う。 社会科授業の目的・意義・方法を歴史的な流れから理解し、教育方法や内容を社会との関連を含めて考えを深める。 実際に学習指導要領に則り、教室での実践を前提に指導案を作成し発表・相互評価する。			
到達目標	中学社会科・公民科科目が現代社会の特質や課題をトータルに認識する力を育てる教科であると理解する。 現代社会における諸課題を理論的に表現、説明できる能力を身につける。 学習指導要領と教育基本法の重要性を受けとめて授業案を作成できる。 数人のグループで模擬授業を行うことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は教職課程の専門科目です。 教員に相応しい力を養うことを目的としています。 教職関連科目が関連する科目となります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	教育の目的と社会科・公民科		課題を出します。レポートを書いて来てく ださい。	
第2回	現代社会の諸問題と社会科・公民科		課題を出します。レポートを書いて来てく ださい。	
第3回	公民科科目の取り扱いと内容 政治経済		課題を出します。レポートを書いて来てく ださい。	
第4回	公民科科目の取り扱いと内容 倫理		課題を出します。レポートを書いて来てく ださい。	
第5回	公民科科目の取り扱いと内容 現代社会		課題を出します。レポートを書いて来てく ださい。	
第6回	指導案について		指導案を作成して来てください。	
第7回	指導案検討（１）		授業中の検討を経て、指導案を修正して来 てください。	
第8回	指導案検討（２）		授業中の検討を経て、指導案を完成させて ください。	
第9回	教材研究について		自らのテーマに沿った教材を調べて、持っ て来てください。	
第10回	教材検討		授業中の検討を経て、教材を決定してくだ さい。	
第11回	模擬授業と討議（チームラーニング）（１）		模擬授業準備・反省・講評（１）	
第12回	模擬授業と討議（チームラーニング）（２）		模擬授業準備・反省・講評（２）	
第13回	模擬授業と討議（チームラーニング）（３）		模擬授業準備・反省・講評（３）	
第14回	模擬授業と討議（チームラーニング）（４）		模擬授業準備・反省・講評（５）	
第15回	まとめ		個人発表の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	３０％ 後期用指導案作成			
レポート	なし			
小テスト等	２０％ 講義終了時に提出			
成果発表	３０％ 指導案、模擬授業			
受講態度他	２０％ 講義に向き合う姿勢			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	積極的な授業参画が求められるとともに、授業時間外の活動にも取り組む必要があります。			
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します			
オフィスアワー	金曜 ５ 講目	メールアドレス		

授 業 科 目	社会科・公民科教育法Ⅱ(中等教職)【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	栗山 俊之		単 位	2
授業の目的 と概要	社会科・公民科教育法Ⅰを踏まえて、教材研究、教材作り、指導案作り、模擬授業を行い、討論を経てより良い授業作りを行う方法を学ぶ。 社会科・公民科教育法Ⅰで学んだ、教科教育の枠組みと方法をもとに、実際に授業をおこなう訓練を、繰り返し行う。そのことを通して公民科の学習指導案を書く知識と能力を身に付け、模擬授業を実施して、教育実習のための準備を整える。			
到達目標	・高校公民科教科書の単元に基づいて、教材研究を行い、指導案が作成できる。 ・高校における公民科教育実習に向けて、実際に教壇に立って模擬授業を行うことができる。 ・討議によって、より良い授業作りに参画することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は教職課程の専門科目です。 教員に相応しい力を養うことを目的としています。 教職関連科目が関連する科目となります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 講義の進め方			課題を出します。レポートを書いて来てください。	
第2回 指導案の検討			指導案を最終チェックして来てください。	
第3回 模擬授業（30分）と討議（1）			模擬授業（30分）準備、反省、講評（1）	
第4回 模擬授業（30分）と討議（2）			模擬授業（30分）準備、反省、講評（2）	
第5回 模擬授業（30分）と討議（3）			模擬授業（30分）準備、反省、講評（3）	
第6回 模擬授業と討議（30分）（4）			模擬授業（30分）準備、反省、講評（4）	
第7回 指導案検討			指導案作成して来てください。	
第8回 模擬授業（45分）と討議（1）			模擬授業（45分）準備、反省、講評（1）	
第9回 模擬授業（45分）と討議（2）			模擬授業（45分）準備、反省、講評（2）	
第10回 模擬授業（45分）と討議（3）			模擬授業（45分）準備、反省、講評（3）	
第11回 模擬授業（45分）と討議（4）			模擬授業（45分）準備、反省、講評（4）	
第12回 模擬授業（45分）と討議（5）			模擬授業（45分）準備、反省、講評（5）	
第13回 模擬授業（45分）と討議（6）			模擬授業（45分）準備、反省、講評（6）	
第14回 模擬授業（45分）と討議（7）			模擬授業（45分）準備、反省、講評（7）	
第15回 模擬授業（45分）と討議（8）			反省、講評（8）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	60％ 模擬授業			
受講態度他	40％ グループラーニング、討議に関わる姿勢			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各自が主体的に授業に取り組むことが求められます。			
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスワー	月曜4講目	メールアドレス		

授 業 科 目	社会科・地歴科教育法Ⅰ(中等教職)【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	栗山 俊之		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は、教免法施行規則に定める「教科課程及び指導法に関する科目」に該当する。 社会科・地歴科の教員となるためには、世界や日本の諸事象について知るだけでなく、それらについて、中学・高校の生徒とともに考え、体験する方法を身につける必要がある。そのためには、学校教育とは何かについて理解を深め、教師となるための資質を磨かなければならない。これらの学習と研鑽を通じて、生徒たちが主体的に生きるために必要な自覚と資格を持てるように指導する能力を養うことが、この科目の目的である。 授業の概要は、日本の社会科系科目の歴史と「学習指導要領」の変遷を明らかにし、諸外国の社会科系科目の概要を理解する。また地図の読図法を訓練し、大宰府・博多の郷土史を調査する。さらに社会科・地歴科の各分野や科目について、その内容をひとつひとつ理解し、確認する。			
到達目標	日本の社会科系科目の歴史の変遷と、戦後の学習指導要領の移り変わりについて説明ができる。 諸外国の社会科系科目の概要と、日本との比較について説明することができる。 太宰府地域の地理的特徴と歴史的位置について、系統的に紹介することができる。 地形図を読み取り、基本的に使いこなすことができる。 中学社会科の各分野の学習目的について述べるができる。 高校地歴科の各科目の目的についてそれぞれ説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。 ・各教科の指導法 ● 実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を組み入れ、実践的な指導力を身につけさせるような具体的な事項を授業計画に示す ● 学習指導要領に掲げる事項に即して包括的な内容を含む ● 国語および英語については中学及び高校の内容をバランスよく取り扱う ● 教科書、参考図書などに、学習指導要領の利用を記載すること ・教育課程の意義及び編成の方法			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	はじめに 近代日本の教育		予習：講義ノートⅠ	
第2回	Ⅰ 社会科から地歴科へー戦後社会科教育の歴史① 社会科の新設		予習：講義ノートⅠ	
第3回	Ⅰ 社会科から地歴科へー戦後社会科教育の歴史② 60・70年代の社会科		予習：講義ノートⅠ	
第4回	Ⅰ 社会科から地歴科へー戦後社会科教育の歴史③ 社会科から地歴科へ		予習：講義ノートⅠ	
第5回	Ⅱ 欧米の社会科系教科① アメリカの社会科		予習：講義ノートⅡ	
第6回	Ⅱ 欧米の社会科系教科② ドイツの社会科		予習：講義ノートⅡ	
第7回	Ⅲ 地理教育について① 中学地理の位置づけ		予習：講義ノートⅢ	
第8回	Ⅲ 地理教育について② 地図		予習：講義ノートⅢ	
第9回	Ⅲ 地理教育について③ 太宰府・博多の地理・歴史		土曜日巡検	
第10回	Ⅳ 歴史教育について① 戦後歴史教育の転換と中学歴史		予習：講義ノートⅣ	
第11回	Ⅳ 歴史教育について② 世界史		予習：講義ノートⅣ	
第12回	Ⅳ 歴史教育について③ 日本史		予習：講義ノートⅣ	
第13回	Ⅴ 公民教育について① 戦前日本の中等公民教育		予習：講義ノートⅤ	
第14回	Ⅴ 公民教育について② 総合社会科の公民		予習：講義ノートⅤ	
第15回	Ⅴ 公民教育について③ 分野別社会科の公民的分野		予習：講義ノートⅤ	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	まし			
レポート	100% 地理課題30% 地図課題30% 読書レポート40%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	6回以上欠席した場合は「無資格」とします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的な授業参画が求められるとともに、授業以外の活動にも取り組む必要があります。 毎回出席を取ります。			
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』			
指定図書	なし			
参考図書	臼井嘉一・柴田義松編『社会・地歴・公民科教育法』学文社			
オフィスアワー	月曜 4 講目		メールアドレス	

授 業 科 目	社会科・地歴科教育法Ⅱ (中等教職)【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	栗山 俊之		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は、教免法施行規則の「教育課程および指導法に関する科目」に該当する。 この科目は、社会科地歴科教育法Ⅰで学んだ、教科教育の枠組みと方法をもとに、実際に授業を行う訓練を、段取りをつけて行うことを目的とする。本格的なIT時代をむかえ、従来の方法による情報検索と教材作成のための教材研究法を身につけるだけでなく、インターネットを使った教材作成の方法も身につける。さらに、教科教育に必要な専門知識を実際の授業で活用するためのプログラムである指導案を各自作成し、実際に模擬授業をおこなう。 授業の概要は、中学校社会科と高校地歴科の学習指導要領の内容を、実際現行の中学高校の教科書にてらして確認し、各教科の教材研究についての方法を身につけるとともに、インターネットを使った教材作成にも慣れる。そして実際に授業の指導要領を作り、模擬授業を実施する。			
到達目標	中学社会科・高校地歴科の各分野・科目の学習指導要領について習熟し、身につける。 インターネットを使った教材の情報検索に熟練する。 各分野・科目ごとに、教材研究の方法を身につける。 実際に授業の指導案を作り、模擬授業が実施できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。 ・各教科の指導法 ● 実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を組み入れ、実践的な指導力を身につけさせるような具体的な事項を授業計画に示す ● 学習指導要領に掲げる事項に即して包括的な内容を含む ● 国語および英語については中学及び高校の内容をバランスよく取り扱う ● 教科書、参考図書などに、学習指導要領の利用を記載すること ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 初めに 変わる教科書			予習：講義ノートⅠ	
第2回 教科書と指導要領① 中学地理的分野			予習：講義ノートⅡ	
第3回 教科書と指導要領② 中学地理的分野・歴史的分野			予習：講義ノートⅡ	
第4回 教科書と指導要領③ 中学地理的分野			予習：講義ノートⅡ	
第5回 教科書と指導要領④ 地歴科世界史・日本史			予習：講義ノートⅡ	
第6回 地理の教材研究① 教科書と現実の地理			予習：講義ノートⅢ	
第7回 地理の教材研究② インターねとを使った教材研究			予習：講義ノートⅢ	
第8回 歴史の教材研究① 日本の歴史教科書と外国の歴史教科書			予習：講義ノートⅢ	
第9回 歴史の教材研究② 世界史・日本史の教材研究			予習：講義ノートⅢ	
第10回 歴史の教材研究③ 東アジア地域史の試み			予習：講義ノートⅢ	
第11回 公民の教材研究			予習：講義ノートⅣ	
第12回 指導案の実際① 中学社会			予習：講義ノートⅤ	
第13回 指導案の実際② 高校地歴			予習：講義ノートⅤ	
第14回 模擬授業① 中学社会			予習：模擬授業準備	
第15回 模擬授業② 高校地歴			予習：模擬授業準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％			
レポート	30％ 教科の指導案 授業の指導案 その他			
小テスト等	なし			
成果発表	40％ 模擬授業			
受講態度他	欠席6回以上は「無資格」とします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回出席をとります。実習・演習を含みますので、積極的な授業参加が求められます。			
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省『高等学校学習指導要領 地理歴史編』			
指定図書	なし			
参考図書	文部科学省検定済の中学社会科・高校地歴科の教科書			
オフィスアワー	月曜 4 講目		メールアドレス	

授 業 科 目	社会科教育法Ⅰ(中等教職)【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松本 和寿		単 位	2
授業の目的 と概要	社会科の成立過程について検討することを通して、社会科の意義や目標を理解するとともに、現行学習指導要領に記された目標と内容を踏まえ、中学校社会科の望ましい指導の在り方について考察することを目的とする。 この授業では、現行学習指導要領の趣旨について理解を図ることができるよう『中学校学習指導要領解説社会科編』の記述を読み込むとともに、具体的な指導内容について確認し理解を図る。			
到達目標	社会科教育の歴史的展開を説明できる。 学習指導要領に掲げられた事項について説明できる。 歴史・地理・公民の各分野の内容を把握・理解する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、中等教職課程の「教科又は教職に関する専門科目」に属するものあり、本学教職課程の目標である「１．教職に関する使命感、２．確かな学力と実践的指導力、３．豊かな人間性」のうち、特に「２．確かな学力と実践的指導力」を身に付けることを目指している。なお、この授業で学んだ学習指導要領の目標や内容及び社会科で取り扱う社会事象の知識が、後期開講の「社会科教育法Ⅱ(中等教職)」で実施する模擬授業等につながる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第１回 社会科の成立史① 戦後教育改革と社会科の誕生			２年次科目「日本教育史」における戦後教育改革の授業を復習しておく。	
第２回 社会科の成立史② 学習指導要領の変遷と改定の主眼			２年次科目「日本教育史」における戦後教育改革の授業を復習しておく。	
第３回 社会科のカリキュラム① 地理・歴史・公民の３分野構成について			２年次科目「日本教育史」における戦後教育改革の授業を復習しておく。	
第４回 社会科のカリキュラム② 現行学習指導要領の目標及び内容			第１回～第４回（成立史及びカリキュラム）についてまとめる。（レポート）	
第５回 社会科の内容（地理的分野①）（レポート提出） 日本の気候・風土			中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。	
第６回 社会科の内容（地理的分野②）（前時内容の小テスト） 日本の産業			中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。	
第７回 社会科の内容（地理的分野③）（前時内容の小テスト）			中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。	
第８回 社会科の内容（地理的分野④）（前時内容の小テスト） 世界の国々（欧米）			中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。	
第９回 社会科の内容（歴史的分野①）（前時内容の小テスト） 日本の古代・中世			中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。	
第１０回 社会科の内容（歴史的分野②）（前時内容の小テスト） 日本の近世			中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。	
第１１回 社会科の内容（歴史的分野③）（前時内容の小テスト） 日本の近代			中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。	
第１２回 社会科の内容（歴史的分野④）（前時内容の小テスト） 日本の現代			中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。	
第１３回 社会科の内容（公民的分野①）（前時内容の小テスト） 政治			中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。	
第１４回 社会科の内容（公民的分野②）（前時内容の小テスト） 経済			中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。	
第１５回 社会科の内容（公民的分野③）（前時内容の小テスト） 国際社会			中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	３０％			
小テスト等	５０％			
成果発表	なし。			
受講態度他	２０％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教職を目指すという自覚をもち、真剣かつ積極的な受講態度で授業に臨むこと。			
教科書	『中学校学習指導要領解説 社会編』			
指定図書	授業中に指示する。			
参考図書	授業中に指示する。			
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	社会科教育法Ⅱ(中等教職)【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松本 和寿		単 位	2
授業の目的 と概要	「社会科教育法Ⅰ」での学びを踏まえて、中学校社会科の単元構成や1単位時間の展開、具体的な指導法について理解するとともに、模擬授業に取り組むことを通して実践的技能の基礎を身に付けることを目的とする。 単元構成や1単位時間の展開などについての講義の後、模擬授業に取り組む。その指導案作成にはグループ単位で取り組み、全員もしくは代表者が授業をする。また、授業の最後には各自作成した指導案を提出することとする。			
到達目標	具体的な教材分析、授業案作りの基礎的知識を身に付ける。 社会科の指導案を作成し、模擬授業をすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、中等教職課程の「教科又は教職に関する専門科目」に属するものあり、本学教職課程の目標である「1．教職に関する使命感、2．確かな学力と実践的指導力、3．豊かな人間性」のうち、特に「2．確かな学力と実践的指導力」を身に付けることを目指している。なお、この授業は、前期開講の「社会科教育法Ⅰ（中等教職）」で学修した学習指導要領の目標や内容及び社会科で取り扱う社会事象の知識を基に、指導案作成や模擬授業等を実施する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	問題解決的単元構成について		経験主義教育と系統主義教育の長所短所を整理しておく。	
第2回	1単位時間の指導について 展開、発問、板書及び「内容の取扱い」の留意点など		『中学校学習指導要領解説社会科編』の関係部分を熟読する。	
第3回	指導案の書き方 目標、展開、評価など		『中学校学習指導要領解説社会科編』の関係部分を熟読する。	
第4回	模擬授業の計画 授業分野・単元・時間決定、指導案作成		模擬授業単元の教材研究と資料収集をする。	
第5回	模擬授業の計画 第4回の継続、資料作成		模擬授業単元の教材研究と資料収集をする。	
第6回	模擬授業の計画 第5回の継続、資料作成		模擬授業単元の教材研究と資料収集をする。	
第7回	模擬授業の計画 第6回の継続、資料作成		模擬授業単元の教材研究と資料収集をする。 （模擬授業の指導案提出）	
第8回	模擬授業の実施		模擬授業単元の教材研究と資料収集をする。	
第9回	模擬授業の実施		模擬授業後の振り返り（参観）を記述する。	
第10回	模擬授業の実施		模擬授業後の振り返り（参観）を記述する。	
第11回	模擬授業の実施		模擬授業後の振り返り（参観）を記述する。	
第12回	模擬授業の実施		模擬授業後の振り返り（参観）を記述する。	
第13回	模擬授業の実施		各自、分野・内容を決定し指導案を作成する。	
第14回	社会科の課題		各自、分野・内容を決定し指導案を作成する。	
第15回	望ましい授業の在り方		各自、分野・内容を決定し指導案を作成する。 （各自指導案提出）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	50％（指導案作成）			
小テスト等	なし。			
成果発表	30％（模擬授業）			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教職を目指すという自覚をもち、真剣かつ積極的な受講態度で授業に臨むこと。			
教科書	『中学校学習指導要領解説 社会編』			
指定図書	授業中に指示する。			
参考図書	授業中に指示する。			
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	社会学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	花野 裕康		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は社会学の入門的な性格を持つものとして設けられたものである。しかし「入門」だからこそ興味を持って受講してもらわなければならない。従ってこの授業では、今まさに社会で問題となっている具体的な社会現象を取り上げ、これを社会学的視点で見る事で何が得られるか、その見解の獲得を目的とする。ここで言う「獲得」とは、受講者の言語能力にも関わる事柄である。具体的には、毎回の授業で論理と社会学的知識とに則った議論を行い（「分かりません」は厳禁）、かつ毎回小レポートを書く事で自身の日本語作文能力を磨く。「単位が必要だから」「楽そうだから」「この時間帯が空いているから」等という消極的態度ではなく、積極的主体的な態度で毎回の授業に臨んでほしい。			
到達目標	①社会学とはどのような学問であるか、社会学を知らない人に分かるように1分程度で要領よく口頭解説する事ができる。 ②現在問題となっている社会現象について、その概要・問題点・解決策を社会学的視点から口頭解説する事ができる。 ③現在問題となっている社会現象について、受け売りの知識でない自前の社会学的議論を他者と交わす事ができる。 ④現在問題となっている社会現象について、受け売りの知識でない自前の社会学的見解を小論文として記述する事ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 本科目は、同時に開講されている一般教養科目「哲学」「環境学」「政治学」「倫理学」「宗教学」「心理学」等の隣接学問科目として、これらの科目と併せて受講することで、現代社会を多角的に観察・分析することができるようになります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 社会学とは何か			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第2回 社会学的な問いとその答え			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第3回 社会学の理論と方法論			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第4回 貧困・社会的排除・福祉			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第5回 世界規模の不平等			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第6回 ジェンダーとセクシャリティー			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第7回 人種・民族・移民			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第8回 宗教			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第9回 メディア			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第10回 組織とネットワーク			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第11回 教育			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第12回 犯罪と逸脱			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第13回 政治・政府・社会運動			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第14回 国民・戦争・テロ			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第15回 授業全体の総括と討論			「総括の小論」を作成し提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	100％（毎回の授業にて実施するものと、授業後に自宅で解答してもらうものがある。その積み重ねで評価する。なお小テスト等は次週授業開始時[その週休んだ場合はそれ以降の授業開始時、また授業終了後はオフィスアワー時]に返却する）			
成果発表	なし			
受講態度他	欠席や授業に積極的に参加しない等、受講態度が芳しくない受講者に関しては、小テストを受け取らない。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること（病欠や忌引きであってもその回の小テストが受けられない事に変わりはないので要注意）。これまでの自らの経験と知識とを総動員しながら考えつつ受講すること。講義者（花野）とのやり取りに積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。特に（許可された場合以外での）スマホ操作、居眠り、他の受講者に迷惑がかかる行為は厳禁とする。見つけ次第退出もしくはこれに代わる措置を取る。その代わり授業中に5分休憩を取る。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス		

授 業 科 目	社会学概論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	徳永 勇		単 位	2
授業の目的と概要	この授業では、社会学の概念・理論を駆使して、さまざまな社会事象を説明できるようになることを目的とする。 具体的には、行為の社会性、行為と性格を方向付ける社会的な力、社会組織のあり方、家族問題の現状と解決策、ジェンダーとセクシュアリティ、家父長制と近代社会、エスニシティとナショナリズム、階層化と社会的格差、少子化と子どもの権利保障、雇用における勤労者間格差とジェンダー間格差、働くことの意味と生活保障、労働基本権と労働法のポイント、以上について、社会学的な説明を試みる。			
到達目標	以下の社会事象について、自らの言葉で説明できるようになる。 行為の社会性、行為と性格を方向付ける社会的な力、官僚制と社会的ネットワーク、家族問題の現状と解決策、ジェンダーとセクシュアリティ、家父長制と近代社会、エスニシティとナショナリズム、階層化と社会的格差、少子化と子どもの権利保障、雇用における勤労者間格差とジェンダー間格差、働くことの意味と生活保障、労働基本権と労働法のポイント。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 この授業で扱う社会事象は、どれも身近なものばかりである。「社会で生きぬく力」を鍛え、自らが社会的な問題に直面した際に、わが身を守り抜く「生の技法」として社会的なもののみかたを習得するのは、有益である。 なお、社会学は、社会福祉学、政治学、経済学等に隣接する科目である。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 社会的行為論			予習 講義ノートpp.1-2.	
第2回 行為と性格を方向付ける社会的な力			予習 講義ノートpp.2-3.	
第3回 官僚制と社会的ネットワーク			予習 講義ノートpp.3-4.	
第4回 家族問題と地域福祉			予習 講義ノートpp.4-5.	
第5回 ジェンダーとセクシュアリティ			予習 講義ノートpp.5-6.	
第6回 家父長制と近代社会			予習 講義ノートpp.6-7.	
第7回 エスニシティとナショナリズム			予習 講義ノートp.7.	
第8回 階層化と社会的格差			予習 講義ノートp.8.	
第9回 少子化と子どもの権利保障			予習 講義ノートpp.8-9.	
第10回 雇用における勤労者間格差の現状			予習 講義ノートpp.10-11.	
第11回 雇用におけるジェンダー間格差の現状			予習 講義ノートp.11.	
第12回 働くことの意味と社会権			予習 講義ノートp.12.	
第13回 最低所得保障の課題			予習 講義ノートpp.12-13.	
第14回 労働基本権			予習 講義ノートp.14.	
第15回 労働法のポイント			予習 講義ノートpp.14-15.	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％。複数のテーマから一つを選択し60分で論述する。持ち込みは、配布プリント、自筆ノートのみ可。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	なし。（受講態度が良いに越したことはないが、それを成績に反映させるのは教員の職権濫用である。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	せっかく受講する授業なのだから、わからないこと、疑問に思うことがあれば積極的に質問してほしい。質問や意見は、メールでも受け付け、授業の冒頭で回答する。 なお、本授業では、たくさんの参考文献を紹介する。参考文献紹介スライドも含めた講義ノートを、筑女ネットにアップロードしているので、興味をもった図書をできるだけ多く読んでもらいたい。			
教科書	なし。			
指定図書	宇都宮京子編,2006,『よくわかる社会学（やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ）』ミネルヴァ書房、見田宗介,2006,『社会学入門』岩波書店、西村大志・松浦雄介編著,2016,『映画は社会学する』法律文化社。			
参考図書	授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜3限・火曜2・3限、水曜2・3限。		メールアドレス	

授 業 科 目	社会学概論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	徳永 勇		単 位	2
授業の目的と概要	本講義では、まず、個人と社会システムとの関係を分析するために考案されてきた、社会学の基礎的な概念と理論について、具体的には、行為論、社会システム論、集団・組織論、社会階層論等について、十分な理解をはかる。次に、それら社会学の基礎をふまえたうえで、近代化、工業化、脱工業化という大きな社会変動の流れについて把握する。さらに、情報化、グローバリゼーション、貧困と社会的排除といった現代社会の動向と諸問題について理解し、自らが生きる社会への問題意識を深化させ、あわせて社会学的なもののみかたを習得する。			
到達目標	1.社会学の基礎的な概念と理論（行為論、社会システム論、集団・組織論、社会階層論等）について説明できる。 2.現代社会の特徴を、近代化、工業化、脱工業化という社会変動の帰結として説明できる。 3.情報化、グローバリゼーション、貧困と社会的排除、以上の現代社会の動向と問題について説明できる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福C (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 福C (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 社会化と社会的行為			予習 講義ノートp.1	
第 2回 社会システムのはたらき			予習 講義ノートp.2	
第 3回 社会集団と組織			予習 講義ノートpp.2-3	
第 4回 キャリアと社会階層			予習 講義ノートp.3	
第 5回 達成意欲とキャリア形成			予習 講義ノートp.4	
第 6回 近代官僚制			予習 講義ノートp.4	
第 7回 組織経営の変容			予習 講義ノートpp.4-5	
第 8回 近代化の意味			予習 講義ノートp.5	
第 9回 工業社会の展開			予習 講義ノートp.6	
第10回 工業化と都市化・市民社会			予習 講義ノートpp.6-7	
第11回 工業社会の限界			予習 講義ノートp.7	
第12回 ポスト工業社会の展開			予習 講義ノートpp7-.8	
第13回 情報化社会			予習 講義ノートpp.8-9	
第14回 グローバリゼーション			予習 講義ノートpp.9-10	
第15回 社会的排除の克服			予習 講義ノートp.10	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100%：テーマ選択、論述式の筆記試験で評価する。持ち込みは配布プリント、自筆ノートのみ可。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	せっかく受講する授業なのだから、わからないこと、疑問に思うことがあれば積極的に質問してほしい。質問や意見は、メールでも受け付け、授業の冒頭で回答する。 なお、本授業では、たくさんの参考文献を紹介する。参考文献紹介スライドも含めた講義ノートを、筑女ネットにアップロードしているので、興味をもった図書をできるだけ多く読んでもらいたい。			
教科書	使用しない。			
指定図書	見田宗介,2006,『社会学入門』岩波書店、宇都宮京子編,2009,『よくわかる社会学』ミネルヴァ書房、社会福祉士養成講座編集委員会編,2014,『社会理論と社会システム——社会学』中央法規			
参考図書	講義中に、適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜3限、火曜2・3限、水曜2・3限。		メールアドレス	

授 業 科 目	社会学概論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	徳永 勇		単 位	2
授業の目的と概要	本講義では、まず、人間社会においてもっとも基礎的なユニットである家族と地域社会について、各々の変容過程と現状について説明する。次に、少子高齢化の経緯と現状、およびその原因と問題点の解決策について解説する。最後に、勤労者間格差、雇用のジェンダー間格差の問題、生存権および労働法について説明する。 受講者が、これらの社会事象について、的確に理解し、自分なりの見解をもつことができるようになることをめざす。			
到達目標	1. 現代社会における家族と地域社会の現状と問題点について説明できる。 2. 少子高齢化とそれにとまなう問題状況を適切に理解し、問題解決に有効な社会政策を構想できる。 3. 雇用をめぐる不平等と貧困問題、生存権とそれを守るための社会保障、労働法規について説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 なお、本講義で扱う、家族と地域社会については、より詳細な内容をもって、各々、「家族社会学」、「地域社会学」として開講している。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 家族とはなにか			予習 講義ノートp.1	
第 2回 家族と世帯			予習 講義ノートp.2	
第 3回 子どもの社会化と家族			予習 講義ノートp.2	
第 4回 近代家族の形成と現代家族の動向			予習 講義ノートpp.2-3	
第 5回 子ども虐待と高齢者虐待およびドメスティックバイオレンス			予習 講義ノートpp.3-4	
第 6回 コミュニティと近隣住区			予習 講義ノートpp4-5	
第 7回 都市化と地域社会の変容			予習 講義ノートpp.5-6	
第 8回 少子高齢化の推移と現状			予習 講義ノートpp.6-7	
第 9回 少子高齢化の原因と問題点			予習 講義ノートp.7	
第10回 少子高齢化対策の諸相と課題			予習 講義ノートpp.7-8	
第11回 勤労者間格差の現状			予習 講義ノートpp.8-9	
第12回 雇用のジェンダー間格差			予習 講義ノートpp.9-10	
第13回 働くことの意味と生活保障			予習 講義ノートpp.10-11	
第14回 生活保護とその問題点			予習 講義ノートpp.10-12	
第15回 労働法を理解する			予習 講義ノートpp.12-13	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100%：テーマ選択、論述式の筆記試験で評価する。持ち込みは配布プリント、自筆ノートのみ可。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	せっかく受講する授業なのだから、わからないこと、疑問に思うことがあれば積極的に質問してほしい。質問や意見は、メールでも受け付け、授業の冒頭で回答する。 なお、本授業では、たくさんの参考文献を紹介する。参考文献紹介スライドも含めた講義ノートを、筑女ネットにアップロードしているので、興味をもった図書をできるだけ多く読んでもらいたい。			
教科書	使用しない。			
指定図書	西村大志・松浦雄介編著,2016,『映画は社会学する』 法律文化社、長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志,2007,『社会学』有斐閣、社会福祉士養成講座編集委員会編,2014,『社会学理論と社会システム——社会学』中央法規			
参考図書	講義中に、適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜日3限・火曜日2限		メールアドレス	

授 業 科 目	社会学史【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	野中 亮		単 位	2
授業の目的 と概要	社会学の基礎概念の理解を通じて、社会学的な考え方の流れ（歴史）を習得することを目的とします。 社会学者を年代順に並べて各個に学習していくのではなく、社会学の基礎概念を単位として系統だて、各系統毎に3回程度の講義を割り当てて学習を進めます。 また、授業では諸概念を具体的に理解するための例として映画を活用します。各概念の学習の際、その概念に関連する映画の一部分を教室で鑑賞し、その後講義となります。			
到達目標	・社会学的な課題設定の多様性を網羅的・通史的に説明できる。 ・社会学の基礎概念について概説的に説明できる。 ・社会学諸理論の特徴と問題点を理解した上で、自らの研究の指針として活用する力を身につける。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。 「社会学入門」とともに、現代社会学部各コースの学びの土台として、社会学の基礎を学修します。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーションおよび社会学の基本的な課題に関する概説		参考図書の確認	
第2回	認知と社会1：「動機の語彙」 keywords：「動機」社会性」ミルズ		テキスト第1章の予復習	
第3回	認知と社会2：「集合的記憶」 keywords：「記憶」アルヴァックス		テキスト第12章の予復習	
第4回	行為と社会1：「身体技法」 keywords：「身体」「身体論」モース		テキスト第5章の予復習	
第5回	行為と社会2：「行為と演技」 keywords：「演技」「印象操作」ゴフマン		テキスト第2章の予復習	
第6回	行為と社会3：「感情労働」 keywords：「感情操作」「表層／深層演技」ホックシールド		テキスト第9章の予復習	
第7回	社会集団1：「組織と集団」 keywords：「官僚制」「ホーソン実験」マートン、メイヨー		テキスト第7章の予復習	
第8回	社会集団2：「社会関係資本」 keywords：「資本」パトナム、ブルデュー		テキスト第8章の予復習	
第9回	近代と国家1：「観光のまなざし」 keywords：「近代化」「移動」アーリ		テキスト第16章の予復習	
第10回	近代と国家2：「想像の共同体」 keywords：「国民国家」アンダーソン		テキスト第18章の予復習	
第11回	近代と国家3：「伝統の創造」 keywords：「近代」「アイデンティティ」ホブズボウム＆レンジャー		テキスト第19章の予復習	
第12回	現代社会の諸問題1：「消費社会」 keywords：「記号（論）」ボードリヤール		テキスト第13章の予復習	
第13回	現代社会の諸問題2：「監視社会」 keywords：「主体」「相互監視」ライアン		テキスト第15章の予復習	
第14回	現代社会の諸問題3：「リスク社会」 keywords：「ハイ・モダニティ」ベック、ギデンズ		テキスト第20章の予復習	
第15回	まとめ		最終レポートの作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート100％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	・授業外学修の時間は180分程度を想定しています。 ・板書やスライドが読みにくい、話が聞き取りにくい場合はすぐに指摘してください。 ・私語には厳格に対応します。快適な学びの場の維持に協力してください。			
教科書	西村大志・松浦雄介（編），2016，『映画は社会学する』法律文化社			
指定図書	なし			
参考図書	井上俊・作田啓一（編），1986，『命題コレクション 社会学』筑摩書房 その他、授業中に指示します。			
オフィスアワー	月曜4限	メールアドレス		

授 業 科 目	社会学入門【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	赤枝 香奈子		単 位	2
授業の目的と概要	「社会学」とはどのような学問か？この授業では、社会学という学問が登場してきた時代背景から話を始め、社会学の歴史と展開、鍵となる社会学者、基本的な概念や理論について説明します。また、「家族」や「エスニシティ」、「グローバリゼーション」など、現代社会を理解する上で重要なトピックを取り上げて解説することで、わたしたち自身が生きる社会について、社会学のものの見方や考え方をを用いて分析し、考察できるようになることを目指します。			
到達目標	1. 社会学のおおまかな歴史と基本的な概念や理論について自分の言葉で説明できる。 2. 社会学に特徴的なものの見方や考え方について理解できる。 3. 現代社会を理解する上で重要なトピックについて、社会学的な視座から分析、考察できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		教科書 第1章：教科書を読んでくる。	
第2回	社会学のあゆみ		教科書 第1章、指定図書：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。	
第3回	家族		教科書 第3章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。	
第4回	教育		教科書 第4章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。	
第5回	政治・社会運動		教科書 第5章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。	
第6回	メディア		教科書 第6章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。	
第7回	地域社会とコミュニティ		教科書 第7章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。	
第8回	労働		教科書 第8章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。	
第9回	社会階層		教科書 第9章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。	
第10回	福祉と社会保障		教科書 第10章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。	
第11回	グローバリゼーション		教科書 第11章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。	
第12回	少子高齢社会		教科書 第12章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。	
第13回	地域社会とソーシャル・キャピタル		教科書 第13章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。	
第14回	ジェンダー・セクシュアリティ		教科書 第14章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。	
第15回	災害とコミュニティ		教科書 第15章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%			
小テスト等	40% （授業内での小テストおよび小課題）			
成果発表	なし			
受講態度他	10% （小課題への取り組み具合や受講態度も成績評価に含める）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回、次回の授業用のレジュメを事前に配布するので、各自、教科書を読み、空欄に用語を入れるなどの必要な作業をして授業に臨んでください。毎回、授業中の最後の時間を使って、簡単なコメントシートに記入の上、提出してもらいます。復習として、教科書の【発展学習】に取り組んでみましょう。学期中に2回程度、小テストを行います。			
教科書	櫻井義秀・飯田俊郎・西浦功編著『アンビシャス 社会学』北海道大学出版会			
指定図書	井上俊・大村英昭『改訂版 社会学入門』放送大学教育振興会			
参考図書	栗田宣義『図解雑学 社会学』ナツメ社 森下伸也『社会学がわかる事典』日本実業出版社			
オフィスアワー	火曜日4限	メールアドレス		

授 業 科 目	社会心理学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	有吉 美恵		単 位	2
授業の目的と概要	社会心理学は、私たち人間の心と他者や社会との間の相互影響メカニズムを科学的に明らかにしようとする学問である。この授業では、社会心理学の基礎的な理論を理解することを目的とする。さらに、社会心理学の基礎的な理論の理解を通じて、社会やまわりの人との関係について興味を持ち、社会的な存在としての自分自身について考える力をつけることを目指す。人間は自分自身についてどのように捉えるのか、人間が他者に対してとる行動にはどのような特徴や機能があるのか、集団（職場、学校など）の中で人間はどのような行動をとっているのか、そして社会全体を動かすような人間の動きにはどのようなメカニズムが働いているのかについての基礎的な社会心理学の理論を解説する。また、授業内容をふまえながら、他者との相互学習を通して、コミュニケーションスキルおよび問題解決力を養う演習も行う。			
到達目標	1.社会心理学の基本的な理論を説明することができる。 2.社会心理学の科学的な検証方法について説明することができる。 3.社会心理学の理論を自分自身の体験に関係づけることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 福C (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	社会心理学とは：社会心理学の歴史、研究方法と研究分野		予習・復習	
第 2回	自己（１）：自己認知		予習・復習	
第 3回	自己（２）：自己評価と動機づけ		予習・復習	
第 4回	社会的認知（１）：対人認知		予習・復習	
第 5回	社会的認知（２）：社会的推論		予習・復習	
第 6回	社会的認知（３）態度		予習・復習	
第 7回	社会的認知（４）：感情		予習・復習	
第 8回	対人関係（１）：対人行動		予習・復習	
第 9回	対人関係（２）：人間関係の成立・発展・維持と崩壊		予習・復習	
第10回	対人関係（３）：人間関係の諸相		予習・復習	
第11回	集団と個人（１）：他者存在の影響と集団ダイナミクス		予習・復習	
第12回	集団と個人（２）：社会的ジレンマ		予習・復習	
第13回	健康と幸福：ストレスと対処		予習・復習	
第14回	文化と人間：社会文化的文脈の中の自己		予習・復習	
第15回	総括		復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％ 定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	適宜、講義中に課題や発表を求めることがある。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講の参加態度や課題の進捗状況、発言等の取り組みにより、試験の難易度を決定する。詳細は適宜、講義中に申し伝える。また、受講計画は変更することがある。その際は、講義中に申し伝える。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	池上知子・遠藤由美共著『グラフィック 社会心理学 第2版』サイエンス社			
オフィスワー	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	社会調査実習演習【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	森 康司		単 位	2
授業の目的 と概要	調査系科目の集大成として、調査票を用いた量的調査を実践します。指定図書：『リスク社会を生きる若者たち』をベースに、若者を対象とした調査を行います。受講生は、自身の問題意識に基づいて仮説を設定し、その仮説を検証するにはどのような変数、どのような質問文と選択肢が必要かを考え、調査票を作成します。そして調査票の配付・回収を行い、さらにこれまでの授業で習得した分析手法を応用したデータ分析まで、自ら実践します。			
到達目標	・ 仮説を設定し、それに基づいて必要な質問文と選択肢の作成を行うことができる。 ・ データを分析し、仮説の検証を行うことができる。 ・ 調査票の配付・回収にはどのような方法があり、それぞれの特徴を説明することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（授業計画）		指定図書を読み、発表の準備を行う	
第2回	若者の規範意識に関する先行研究のレビュー		指定図書を読み、発表の準備を行う	
第 3～4回	参考図書1のグループ発表（1章、2章）		指定図書の1章、2章を熟読	
第 5～6回	参考図書1のグループ発表（3章、6章）		指定図書の3章、6章を熟読	
第 7～8回	参考図書1のグループ発表（7章、4章）		指定図書の7章、4章を熟読	
第 9～10回	仮説の設定 問題意識を整理し、仮説を設定する		問題意識を整理し、発表の準備を行う	
第11～12回	質問文と選択肢の作成 概念の操作的定義を行い、仮調査票を作成する		概念を変数化し、発表の準備を行う	
第13回	調査票の確定		必要に応じて指定図書と参考図書を読み、 分析手法を確認する	
第14回	調査実施方法の確認と、収集したデータの入力		必要に応じて指定図書と参考図書を読み、 分析手法を確認する	
第15回	データの入力と前半のまとめ		必要に応じて指定図書と参考図書を読み、 分析手法を確認する	
第16～18回	データの入力と分析手法の確認 回収した調査票のデータ入力と並行しながら、分析手法を確認する		必要に応じて指定図書と参考図書を読み、 分析手法を確認する	
第19回	単純集計		単純集計の特徴を発表する準備を行う	
第20～26回	分析 SPSSを用いた分析を行い、経過発表を行う		仮説がどの程度検証されたのかを発表する準備 を行う	
第27～29回	仮説の検証 設定した仮説がどの程度検証されたのか、されなかったのかを発表する		分析結果の提出準備を行う	
第30回	分析結果の仮提出		最終レポートの作成を行う	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 分析結果（最終レポート）の提出			
小テスト等	なし			
成果発表	40% グループ発表			
受講態度他	20% 調査実施上の貢献度			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	・ 遅刻3回で欠席1回に換算します。なお、5回を超えて欠席した場合、単位を認定しません。 ・ 社会調査を実践する演習科目なので、遅刻・欠席は授業の進行を妨げるのみならず、自身の到達目標達成の妨げにもなるので 注意してください。 ・ 統計分析ソフトSPSSを使用するので、必要に応じて参考図書を読んで下さい。			
教科書	なし			
指定図書	友枝敏雄編『リスク社会を生きる若者たち―高校生の意識調査から―』大阪大学出版会			
参考図書	石村貞夫・石村友二郎『SPSSでやさしく学ぶ統計解析』東京図書（第5版）			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	社会調査実習演習【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	赤枝 香奈子		単 位	2
授業の目的 と概要	これまでの社会調査系科目の集大成として、ドキュメント調査およびフィールドワークを含む質的調査を実践します。調査テーマは福岡の女性史とし、2018年度は主に戦後期について調査します。さまざまなドキュメントの収集と分析の方法を修得すると同時に、実際に福岡市内を中心とする地域でフィールドワークを行うことで、多様な質的調査とそのプロセスについて体験的に学習します。			
到達目標	1. これまでに学んできた社会調査の知識を踏まえ、実際に質的調査を企画・設計することができる。 2. 調査テーマを明らかにするための資料の収集や分析、フィールドワークを実践することができる。 3. 調査結果を報告書の形にまとめることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		授業の復習を行う。	
第2回	調査の視座（１）：時代背景を知る		配布資料を読んでくる。	
第3回	調査の視座（２）：多様なテーマを知る		配布資料を読んでくる。	
第4～9回	指定図書の輪読		指定図書の該当箇所を読んでくる。担当者は発表準備を行う。	
第10～11回	調査対象および調査方法の検討		配布資料を読んでくる。	
第12～14回	調査の企画・設計		調査計画の発表準備を行う。	
第15回	調査の実施に向けて		夏休み中のスケジュールをグループごとに確認する。	
第16回	中間報告		夏休み中に調査を実施する。進捗状況の報告準備を行う。	
第17～18回	調査の実施		中間報告を踏まえ、調査を継続する。	
第19～21回	年表作成		年表作成の準備を行う。	
第22～25回	調査結果の発表		発表準備を行う。	
第26～27回	報告書原稿の執筆および補充調査		報告書原稿を執筆し、必要があれば補充調査を行う。	
第28回	報告書原稿の修正		報告書原稿完成にむけて、冬休みにすべきことをリストアップしてくる。	
第29回	報告書原稿の完成		各自の報告書原稿を完成させてくる。	
第30回	報告書の完成に向けて		報告書完成までのスケジュールを検討し、原稿の修正を行う。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	70％（調査報告書の作成）			
小テスト等	0％			
成果発表	25％			
受講態度他	5％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業では、実際に調査を企画し、実施します。夏休み中も含め、授業外での作業にかなりの時間が必要になります。積極的な受講態度で授業に臨んでください。			
教科書	使用しない。			
指定図書	福岡県女性史編纂委員会『光をかざす女たちー福岡県女性のあゆみー』西日本新聞社			
参考図書	福岡県女性史編纂委員会編『新聞にみる福岡県女性のあゆみ』ほか。授業内に指示する。			
オフィスアワー	前期：火曜日4限 後期：水曜日4限		メールアドレス	

授 業 科 目	社会調査実習演習【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	野中 亮		単 位	2
授業の目的と概要	実査を経験することで、質的社会調査の具体的な考え方やスキルを身につけることを目的とします。 この通年の授業では、調査テーマの設定、事前の資料収集、調査手法の選定、プレテスト、機器の取り扱いの練習、実査、データ整理、報告書の作成・公表という一連の流れを実際に経験します。前期にテーマ設定から実査の準備、後期に実査からデータ整理、報告書の作成をおこなうものと考えてください。 また、正規の授業時間外での学習や活動が多いこと、多少の金銭的な負担（交通費等）が必要となることも了解した上で履修して下さい。			
到達目標	・ 質的社会調査のさまざまな必須スキルを身につける ・ 必要に応じて、みずから社会調査を企画・立案し、目的に応じた成果をあげることができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 社会調査士資格取得のための必須科目(6科目に該当)て？す。資格取得を目指す場合、「データからみる社会」「調査データの集め方」「調査データの読み方」「調査データの扱い方」「質的調査法」「量的調査法」とあわせて単位取得してください（最後の2つはいずれか一方でもよい）。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			参考図書のⅡ章を予復習しておくこと。	
第2回 調査テーマの検討			配付資料の読み込み	
第3～4回 地域文化関連先行研究の講読・ディスカッション			指定文献・資料の読み込みと発表準備および文献探索	
第5～6回 調査地に関する基礎資料の講読・ディスカッション			指定文献・資料の読み込みと発表準備および文献探索	
第7～8回 補足資料の講読・ディスカッション			指定文献・資料の読み込みと発表準備および文献探索	
第9～10回 テーマと調査項目の策定			各自、これまでの資料を用いてテーマ案・調査項目案を用意すること	
第11～12回 調査手法の検討			テーマ・調査項目に沿って調査手法の詳細に関する案を用意すること	
第13～14回 調査計画の策定：調査項目・収集資料リスト・調査票・使用機器など			詳細を検討し、修正案を用意すること	
第15回 実査内容の確認、小括			実査の概要を整理し、資料類とつきあわせておくこと	
第16～18回 実査の練習と課題の洗い出し			プレテスト（フィールドワーク）の反省点と改善案を整理しておくこと	
第19～20回 実査計画の修正と確定			修正案を用意し、受講者個々のスケジュール調整をおこなっておくこと。	
第21～22回 実査（3週にわたって、授業時間および週末に調査を実施します）			フィールドノートの作成	
第23～25回 分析			フィールドノートを元に、データの整理と仮説の検証をおこなっておくこと	
第26～29回 報告書原稿の作成			担当箇所毎に毎回発表の準備をしておくこと	
第30回 報告書のまとめ			報告書原稿の推敲をおこなっておくこと	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 文献の概要報告やテーマ案の提案など、各回の報告を成果発表とみなします。			
受講態度他	50％ 成果発表以外の調査運営への貢献を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・ 実習とはいえ、実際に外部の方々ときさまざまな形で接することになります。マナー厳守を心がけてください。 ・ 参考までに、昨年度は太宰府市・西鉄と連携して10～11月に実査をおこないました。 ・ 出席は必須です。自分の担当については責任をもって取り組んでください。 ・ 全体を通じ、共同作業が多くなります。作業分担や報告の順番など、受講者同士でマメに連絡・相談・融通しあい、有意義な学びの場にしましょう。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	谷富夫・芦田徹郎『よくわかる 質的社会調査』ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	月曜4限	メールアドレス		

授 業 科 目	社会的養護【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	山之内 輝美		単 位	2
授業の目的と概要	核家族化が進み、家族形態は多様化する中で、家族の養育機能は低下してきている。現代社会の子ども達やその家族を取り巻く環境の変化の中で、社会的な養護を必要とする子どもがいる。社会的養護を必要とする子ども達についての理解を深め、養護や支援のあり方を検討することを目的としている。 授業では講義が中心となるが、配付資料、視聴覚教材やP Cを活用し、児童福祉施設等を利用している子どもの生活や実情、社会的養護についての理解を深め、知識を習得してほしい。			
到達目標	①社会的養護が必要となる背景や現状について説明することができる。 ②社会的養護の体系や児童福祉施設の目的や役割を説明することができる。 ③社会的養護に関連する里親や児童福祉施設についてのH Pを調べたり、統計資料を読み取り、発表することができる。 ④児童福祉施設での専門職の役割を理解し、施設養護の実際や支援のあり方を検討する。 ⑤児童福祉施設での支援の理念、専門援助技術や倫理について説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 心C (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる 福C (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている 福C (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：授業内容、スケジュール、社会的養護と児童家庭福祉		社会的養護と児童家庭福祉についてテキストや配付資料を再読する	
第2回	社会的養護の意義		社会的養護の意義についてテキストや配付資料を見直す	
第3回	家庭的養護と施設養護		課題① 視聴覚教材で里親制度の内容を整理する	
第4回	社会的養護の概要：施設の概要		施設の概要について整理する	
第5回	児童養護の基本原則：権利の尊重、日課と専門職の役割		施設での生活の基本原則についてテキストや配付資料を再読する	
第6回	施設養護の実際Ⅰ： 基本的日常生活上の支援、心身の成長を育み、自立や自己実現に向けての支援		課題② 視聴覚教材で利用する子どもの状況を整理する	
第7回	施設養護の実際Ⅱ： 親子関係、学校や地域との関係、運営管理と地域福祉		課題③ 視聴覚教材で親子関係の再統合について整理する	
第8回	施設養護の実際Ⅲ：利用する子どもの理解		利用する子どもについて資料から整理する	
第9回	社会的養護を必要とする子どもと社会的背景Ⅰ		課題④ 統計資料から社会的背景について整理する	
第10回	社会的養護を必要とする子どもと社会的背景Ⅱ		課題⑤ 視聴覚教材で社会的背景について整理する	
第11回	施設における児童養護についてⅠ：被虐待児への対応と虐待防止		被虐待児への対応と虐待防止について検討する	
第12回	施設における児童養護についてⅡ：コミュニケーション		コミュニケーションのあり方を検討する	
第13回	自立支援計画、専門援助技術（ケースワークやグループワーク等）		専門援助技術についてテキストや配付資料を再読する	
第14回	施設養護の理念と倫理		理念と倫理についてテキストや資料を再読する	
第15回	授業全体のまとめ		授業全体を振り返る	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70％ 視聴覚教材視聴の感想やレポート提出課題			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的に授業に参加するように。			
教科書	後期授業開始前に提示。			
指定図書	川池智子編『児童家庭福祉論』学文社、小池由佳・山縣文治編著『社会的養護』ミネルヴァ書房、中里操・清水陽子監修『保育実習ガイドブック』ミネルヴァ書房。			
参考図書	神戸賢次・喜多一憲編『児童の社会的養護原理』みらい、厚生労働省『児童養護施設入所児童等調査結果』、日本子ども家庭研究所『子ども虐待防止対応の手引き』有斐閣。			
オフィスワー	後期 月曜日（12:30-13:00）		メールアドレス	

授 業 科 目	社会的養護内容【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	上原 真幸		単 位	2
授業の目的と概要	社会的養護とは、何らかの事情により、保護者と一緒に家庭で生活することが困難な子どもを、社会が保護者や家庭に代わって養育する機能である。この授業では、社会的養護を必要とする子どもや、その家庭への支援について、より実践的な学びを深めることを目的とする。様々な事例を読み解きながら、対象児童に関する記録の作成、支援計画の作成、自立支援の検討、家庭への支援内容等を具体的に検討する力を養う。			
到達目標	①社会的養護の理念、子どもの権利保障、保育士の倫理について説明することができる。 ②多様な社会問題から、どのような社会的養護を必要とする状況が生じているか、考察することができる。 ③児童福祉関係施設と相談機関の種類、各機関の養護内容について説明することができる。 ④社会的養護に関するソーシャルワークの視点を踏まえながら、事例を検討することができる。 ⑤社会的養護問題の発生予防や、地域支援についてグループで検討し、発表することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 関連科目：児童家庭福祉論・社会的養護			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション ―社会的養護とは―		テキストに目を通しておく	
第2回	社会的養護の理念と基本原則 ―社会的養護を必要とする児童の理解―		家庭養護、社会的養護の意味を調べておく	
第3回	社会的環境と社会的養護問題の発生 ―子どもを取り巻く環境から社会的養護問題について―		子どもを取り巻く社会問題を複数調べておく	
第4回	社会的養護における専門的役割 ―保育士、指導員、家庭支援専門相談員等の役割について―		児童福祉施設実習で学んだ施設職員の援助を振り返っておく	
第5回	施設養護・家庭支援の理解 ―施設の設備運営及び小規模化について―		「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」を一読しておく	
第6回	児童相談所の対応理解 ―一時保護から措置入所―		一時保護対応と措置対応の違いについて調べておく	
第7回	一時保護施設における実践事例の検討① ―事例の個人検討―		事例を読んでおく	
第8回	一時保護施設における実践事例検討② ―事例のグループ検討、発表―		自分が検討した事例を振り返り、ワークシートを完成させておく	
第9回	児童養護施設における事例の検討①―事例の個人検討―		事例を読んでおく	
第10回	児童養護施設における事例の検討② ―事例のグループ検討、発表―		自分が検討した事例を振り返り、ワークシートを完成させておく	
第11回	障害児入所施設における事例の検討① ―事例の個人検討―		事例を読んでおく	
第12回	障害児入所施設における事例の検討② ―事例のグループ検討、発表―		自分が検討した事例を振り返り、ワークシートを完成させておく	
第13回	里親事例の検討① ―事例の個人検討―		資料を読んでおく	
第14回	里親事例の検討② ―事例のグループ検討、発表―		自分が検討した事例を振り返り、ワークシートを完成させておく	
第15回	まとめ ―社会的養護に係る保育士の専門性と倫理―		ノート、テキストをまとめておく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70%（講義内容に全般に関する試験を行う）			
レポート	10%（講義内感想レポート等）			
小テスト等	―			
成果発表	―			
受講態度他	20%（講義内の発言、取り組みの姿勢等）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	資料等は印刷物を配布するため、講義中のスマートフォン等の電子機器類の使用は、厳しく禁止する。 日常的に、社会的養護に関するニュースや新聞記事に関心を持ち、参加すること。			
教科書	橋本好市・原田句哉『演習・保育と社会的養護内容』みらい 保育福祉小六法編集委員会編『保育福祉小六法』みらい			
指定図書	―			
参考図書	随時紹介する			
オフィスワー	前期：月曜3限、後期：金曜3限		メールアドレス	

授 業 科 目	社会福祉運営管理論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	川崎 孝明		単 位	2
授業の目的と概要	福祉サービスの多くは「人」によって提供されるヒューマン・サービスである。この「人」は組織や団体の職員であるため、その属する組織や団体のあり様如何によってサービスの質は大きく左右されることとなる。福祉サービス提供組織が今日的な社会的役割を果たすためには、企業において重視されるガバナンスやコンプライアンスなどの経営課題を、自らの組織のマネジメントの問題として取り組んでいくことが必要である。 本授業では、措置から契約へと転換された後の社会福祉の基礎構造の下で、福祉サービスと福祉経営の考え方、利用者のニーズ把握とサービス管理の方法、業務運営のあり方に関する知識や技能を培うことを目的とする。加えて、福祉サービス提供組織の経営・運営のあり方、利用者ニーズを大切に作る組織体制づくりやチームアプローチのあり方を理解する。			
到達目標	①福祉サービスが措置から契約へと転換した意義と、その提供のあり方を述べることができる。 ②福祉サービスに係る様々な組織や団体の現状や仕組みを説明できる。 ③措置から契約へと転換された後の社会福祉の基礎構造の下での福祉サービス提供組織の運営理念や使命を述べることができる。 ④福祉サービス提供組織の経営の実際を、具体的な実践に踏み込んで解釈できるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 授業のねらいと進め方、福祉サービスの特質			予習：P118－126	
第2回 福祉サービスの特質			予習：P128－132	
第3回 福祉サービスの理念			予習：P136－152	
第4回 公益法人および社会福祉法人			予習：P153－163	
第5回 特定非営利活動法人、医療法人、その他の法人（公益法人、学校法人、協同組合、株式会社など）			予習：P166－179	
第6回 社会福祉法人の組織形態、社会福祉法人の経営とは何か、社会福祉法人の運営管理に求められるもの			予習：P180－187	
第7回 社会福祉法人の経営と集団の力学、社会福祉法人の経営とリーダーシップ			予習：P188－198	
第8回 福祉サービス提供組織の組織体制と管理			予習：P199－217	
第9回 福祉サービス提供組織における人材の養成と確保			予習：事前配布資料の読解	
第10回 社会福祉法人制度改革			予習：P218－229	
第11回 福祉サービス提供組織の会計・財務管理			予習：P230－249	
第12回 適切なサービス提供体制の確保			予習：P250－262	
第13回 働きやすい労働環境の整備			予習：P263－272	
第14回 福祉サービスの管理運営の視点			配布資料のまとめ	
第15回 授業の振り返り			これまでの配布資料、レジュメを自分でまとめて自分の意見を整理する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	なし			
小テスト等	20％ 2回実施する。詳細は第1回目の授業で説明する。			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ 質問等の積極的な授業参加を考慮する。原則として、単位認定には15回の授業の3分の2以上の出席を必要とする（実習、部活、就活、病気等のやむえない欠席の場合は出席要件から除外するので、所定の方法で届け出ること）。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講者が不快な思いをしないよう講義中の私語は厳禁とする。ルールを守ることができない者は途中退席を命じる場合があるが、その場合は欠席扱いとする。			
教科書	社会福祉学習双書2017《第2巻》『社会福祉概論Ⅱ』全国社会福祉協議会（2017年）			
指定図書	なし			
参考図書	社会福祉小六法 最新版			
オフィスワー	授業の前後で相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	社会福祉学特論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	池田 和彦		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義は、社会福祉について理論的・歴史的に検証し、そのあり方を明らかにすることを目的とする。 まず、社会福祉の代表的理論（先行業績）に学びつつ検討を加えるとともに、社会福祉の歴史的成立過程について、イギリス・ドイツ・日本を素材として分析的に把握し、社会福祉の本質を明らかにする。 最後に、その作業を通して、あるべき社会福祉政策の実現に向けた理論的・実践的課題についても検討を加えることとしたい。			
到達目標	1. 社会福祉とは何か、自分なりに説明できる。 2. 日本における社会福祉の代表的理論の概要を把握できる。 3. 社会福祉の歴史について、イギリス、ドイツおよび日本を比較し検討できる。 4. 社会福祉政策のあり方について意見を持つことができる。 5. あるべき社会福祉政策の実現に向けた理論的・実践的課題について意見を持つことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	前期開講の「人間福祉特論」と関連する科目である。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 社会福祉とは何か ― 社会問題対策体系における社会福祉の位置と役割			社会政策と社会保障・社会福祉	
第2回 社会福祉の理論的把握① ― 社会科学的方法に基づく本質論（孝橋正一の理論体系）			孝橋理論	
第3回 社会福祉の理論的把握② ― 社会科学的方法に基づく本質論（三塚武男の理論体系）			三塚理論	
第4回 社会福祉の理論的把握③ ― 社会福祉運動論			真田是、一番ヶ瀬康子などの社会福祉運動論	
第5回 社会福祉の理論的把握④ ― 非ないし反社会科学的方法に基づく機能論（岡村重夫の理論体系）			岡村理論	
第6回 社会福祉の理論的把握⑤ ― 非ないし反社会科学的方法に基づく機能論（三浦文夫のニーズ論）			三浦ニーズ論	
第7回 社会福祉の歴史的把握① ― イギリスにおける poor law の時代			poor law の特徴	
第8回 社会福祉の歴史的把握② ― イギリスにおける社会問題とその対策の成立			社会問題の成立条件とその対策	
第9回 社会福祉の歴史的把握③ ― ドイツにおける社会保険制度の成立			社会保険制度の成立とその特徴	
第10回 社会福祉の歴史的把握④ ― 日本における恤救規則の時代			恤救規則の歴史的特徴	
第11回 社会福祉の歴史的把握⑤ ― 日本における社会事業の成立と展開			社会事業の成立とその特徴	
第12回 社会福祉の歴史的把握⑥ ― 日本における戦後社会福祉の成立			戦後の状況と社会福祉の成立	
第13回 近年における社会福祉政策の展開とその問題点			「社会保障制度改革」の内容とその問題点	
第14回 社会福祉政策のあり方 ― あらためて社会福祉とは何か			社会福祉の概念規定	
第15回 あるべき社会福祉政策の実現に向けた理論的・実践的課題			われわれにとっての理論的・実践的課題	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50％（指示した文献についての発表）			
受講態度他	50％（課題発表、討論など、講義への主体的参加度）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	○できるだけ、前期開講の「人間福祉特論」とセットで履修していただきたい。 ○大学院の授業なので、教員が一方的に講義を行うのではなく、受講生に発表を課し、講義中にも意見を求めることになる。したがって、受身の姿勢ではなく、主体的な問題意識をもって受講してほしい。			
教科書	講義時に資料を配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスワー	金-5	メールアドレス		

授 業 科 目	社会福祉行財政論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	川崎 孝明		単 位	2
授業の目的と概要	福祉専門職がソーシャルワークを実践するには、社会福祉の制度やシステムの構造を理解して利用者へ橋渡しすることが必要であり、制度やシステムを利用者のニーズに応じたものにしていくことが求められる。その際に重要な関わりをもってくるのが、国や地方自治体の福祉行政組織の関与や仕組み、連携である。この授業では、社会福祉関係法の構造と相互の関係や社会福祉行政の実施体制の現状と課題を理解し、ソーシャルワーク実践に活用できる知識として身につけることを目的とする。 戦後からの社会福祉の発展と社会福祉関係法の歩みを概観し、2000年の「社会福祉基礎構造改革」以降の社会福祉制度及びその理念や仕組み、国と地方自治体の役割などの変化を学ぶ。身近な地方自治体の福祉行政組織の権限や仕組み、活用と連携を、福祉現場や地域社会のあり様に即して考えていく。そして、福祉行政を推進する上での福祉計画の役割や策定方法の基礎的な知識を学ぶ。			
到達目標	①戦後から現在に至るまでの社会福祉関係法の歩みと制度の変遷及び、社会福祉の理念や仕組みの変化を比較できる。 ②福祉の行財政の実施体制（国と地方自治体、組織や団体、財源、専門職の役割と機能）を説明できる。 ③社会福祉財政の動向及び国・地方自治体の負担関係、民間社会福祉事業の財政について述べることができる。 ④国と地方自治体の政策に位置づけられる福祉計画の種類や内容を説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	授業のねらいと進め方、社会福祉関係法の発展段階		予習：P2－13	
第 2回	社会福祉関係法の発展段階		予習：P2－13	
第 3回	社会福祉関係法の基礎構造を学ぶ		予習：P14－23	
第 4回	福祉行政の実施体制		予習：P26－33	
第 5回	国及び地方自治体の福祉行政体制とその約割		予習：P34－42	
第 6回	市町村における福祉行政体制		プリント配布予定	
第 7回	福祉の財政		予習：P43－53	
第 8回	福祉行政の組織および専門職の役割		予習：P54－63	
第 9回	福祉に関する公私の関係		予習：P64－67	
第10回	福祉計画の意義と目的、福祉計画における住民参加の意義		予習：70－79	
第11回	福祉行財政と福祉計画の関係、福祉計画の主体と方法		予習：P80－85	
第12回	福祉計画の種類とその関係		予習：P86－93	
第13回	福祉計画の策定過程、福祉計画の策定方法と留意点		予習：P94－99	
第14回	福祉計画の評価方法、福祉計画の実際		予習：P100－106	
第15回	授業のまとめと振り返り		これまでの配布レジュメ・資料をまとめ、自分の意見を整理する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	なし			
小テスト等	20% 2回実施する。詳細は第1回目の授業で説明する。			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 質問等の積極的な授業参加を考慮する。原則として、単位認定には15回の授業の3分の2以上の出席を必要とする（実習、部活、就活、病気等のやむえない欠席の場合は出席要件から除外するので、所定の方法で届け出ること）。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講者が不快な思いをしないよう講義中の私語は厳禁とする。ルールを守ることができない者は途中退席を命じる場合があるが、その場合は欠席扱いとする。			
教科書	社会福祉学習双書2017《第2巻》『社会福祉概論Ⅱ』全国社会福祉協議会（2017）			
指定図書	なし			
参考図書	社会福祉小六法 最新版			
オフィスワー	授業の前後で相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	社会福祉原論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	金 圓景		単 位	2
授業の目的と概要	本講義は、現代社会を維持・再生産していくうえで必要不可欠な社会福祉という営みについて、社会科学的研究方法にもとづき、その本質的な理解を獲得することを目的とする。 そのため、まず、社会福祉の対象課題である生活問題について、視聴覚教材も使用して具体的に学んだうえで、社会福祉の主体、目的と理念、方法について確認していく。また、日本及び諸外国の社会福祉の歴史と展開について学ぶことによって、国際的な視野を持って現代社会の福祉課題を理解できることを目指す。			
到達目標	1．社会福祉とは何か、自分なりに説明できる。 2．社会福祉の主な対象について具体的に理解できる。 3．社会福祉の歴史と展開について理解できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	社会福祉とは何か ― 講義開始時のイメージ		社会福祉に対する自分のイメージを確認	
第2回	社会福祉対象者への理解		ライフコースと社会福祉の主な対象者について調べる	
第3回	現代の社会問題と社会福祉		少子高齢社会と人口減少社会の現状について調べる	
第4回	低所得者と社会福祉		低所得者をめぐる現状を調べ、関連制度を理解する	
第5回	高齢者と社会福祉		高齢者が抱える生活課題について調べる	
第6回	児童と社会福祉		児童が抱える社会的な支援の課題について調べる	
第7回	障害者と社会福祉		障害者が抱える生活課題について調べる	
第8回	地域福祉 ― 中山間地域を中心に-		中山間地域の福祉課題を調べる	
第9回	社会福祉の歴史と展開（１）前近代社会		前近代社会と福祉制度について調べる	
第10回	社会福祉の歴史と展開（２）現代社会		現代社会の福祉制度の発展についてノート整理	
第11回	平成の制度改革と今日の福祉制度		社会福祉基礎構造改革についてノート整理	
第12回	欧米における福祉制度の歴史（１）イギリス		イギリスの福祉制度の歴史について調べる	
第13回	欧米における福祉制度の歴史（２）アメリカ、ドイツ、スウェーデン		アメリカ、ドイツ、スウェーデンの歴史についてノート整理	
第14回	福祉政策の国際比較と今日的課題（１）福祉国家		福祉国家の国際比較研究についてノート整理	
第15回	福祉政策の国際比較と今日的課題（２）		日本の長期高齢者介護政策についてノート整理	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ レポート（小レポート5回） レポートについては、コメントをつけて次回の授業で返却する			
小テスト等	50％ 小テスト テストについては、次回の授業で返却する			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・毎回レジュメと資料を配布するので、やむを得ず欠席したときなどは、後日研究室に資料を受け取りに来ること。 ・各自、講義ノートを作成し、事前学習・事後学習の際に活用すること。 ・講義中の私語は厳禁とする。			
教科書	社会福祉学習双書2018『社会福祉概論Ⅰ 現代社会と福祉』社会福祉法人全国社会福祉協議会			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスアワー	月曜 3 限	メールアドレス		

授 業 科 目	社会福祉原論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	金 圓 景		単 位	2
授業の目的と概要	本講義は、社会福祉原論Ⅰで学んだ社会福祉についての基本的な知識を前提とし、社会福祉制度の仕組みとその形成過程（歴史）について理解することを目的とする。 まず、社会福祉の制度体系（医療、住宅などの関連領域を含む）について学んだうえで、社会福祉の各分野（高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、生活保護など）ごとに、基本的な制度の仕組みを理解する。 次に、それらの社会福祉制度がどのようにして形成されてきたのか、その歴史について、欧米諸国、日本について検証し、特に日本の特徴を分析する。 最後に、日本における代表的な社会福祉理論および諸外国の社会福祉制度と代表的理論についても知識を得る。			
到達目標	1. 社会福祉の制度体系（関連領域を含む）について説明できる。 2. 社会福祉の各分野ごとに、基本的な制度の仕組みを理解し、説明できる。 3. 欧米の社会福祉事業史について理解できる。 4. 日本の社会福祉事業史について理解し、特に近年の特徴について分析できる。 5. 日本における代表的な社会福祉理論の概要を理解できる。 6. 諸外国の社会福祉制度および代表的理論について理解できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	社会福祉制度の体系（社会福祉の関連領域を含む）		社会福祉制度を体系的に理解するためのノート整理	
第2回	高齢者福祉制度の概要(1) ― 老人福祉法、高齢者虐待防止法など		老人福祉法、高齢者虐待防止法などについてノート整理	
第3回	高齢者福祉制度の概要(2) ― 介護保険法		介護保険法についてノート整理	
第4回	障害者福祉制度の概要(1) ― 障害者基本法、各障害者福祉法、障害者虐待防止法など		障害者基本法、各障害者福祉法、障害者虐待防止法などについてノート整理	
第5回	障害者福祉制度の概要(2) ― 障害者総合支援法		障害者総合支援法についてノート整理	
第6回	児童福祉制度の概要 ― 児童福祉法、児童虐待防止法、子ども・子育て関連法など		児童福祉法、児童虐待防止法、子ども・子育て関連法などについてノート整理	
第7回	生活保護制度の概要(1) ― 生活保護の目的・原理・原則など		生活保護の目的・原理・原則などについてノート整理	
第8回	生活保護制度の概要(2) ― 生活保護の動向と課題		生活保護の動向と課題などについてノート整理	
第9回	欧米における社会福祉の歴史		ドイツ、アメリカにおける社会福祉の歴史についてノート整理	
第10回	日本における社会福祉の歴史(1) ― 戦前期		戦前の慈善事業、感化救済事業、社会事業についてノート整理	
第11回	日本における社会福祉の歴史(2) ― 敗戦～高度経済成長期		敗戦～高度経済成長期についてノート整理	
第12回	日本における社会福祉の歴史(3) ― オイルショック～介護保険法制定期		オイルショック～介護保険法制定期についてノート整理	
第13回	日本における社会福祉の歴史(4) ― 介護保険法施行以降		介護保険法施行以降についてノート整理	
第14回	日本における代表的な社会福祉理論 ― 孝橋理論、岡村理論、三浦ニーズ論など		日本における代表的な社会福祉理論についてノート整理	
第15回	社会福祉の展開と福祉人材		主な福祉人材について調べる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% レポート（小レポート5回） レポートについては、コメントをつけて次回の授業で返却する			
小テスト等	40% 小テスト テストについては、次回の授業で返却する			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 授業での発言（発表）状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・毎回レジュメと資料を配布するので、やむを得ず欠席したときなどは、後日研究室に資料を受け取りに来ること。 ・各自、講義ノートを作成し、事前学習・事後学習の際に活用すること。 ・講義中の私語は厳禁とする。			
教科書	社会福祉学習双書2018『社会福祉概論Ⅰ 現代社会と福祉』社会福祉法人全国社会福祉協議会			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスアワー	月曜3限		メールアドレス	

授 業 科 目	社会福祉相談援助演習【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	益満 孝一		単 位	2
授業の目的と概要	社会福祉相談に関する問題に対して、受講生のニーズに合わせ①調査研究能力、②臨床能力を高めることを目的とする。受講生のニーズと能力に応じて、次の中から段階的に獲得できる能力を設定して演習を行う。調査研究能力は、(1)アンケート調査などによる調査研究と分析について、統計分析から因子分析、多変量分析などの獲得を目指す。(2)グラウンデッド・セオリーなどによる質的研究がある。臨床能力は事例研究法、家族療法、解決志向ソーシャルワークなどのアプローチによる。なお、アンケート調査など量的調査分析には、SPSSおよび表計算ソフトEXCELなどについて習熟が必須である。また、事例研究法など質的研究は臨床経験など基礎的臨床経験が必須である。受講生から社会福祉相談に関する問題の提示が難しい場合、本年度は、社会福祉相談に関する問題として、日韓の高齢者に関する比較研究、乳幼児の保健福祉に関するプログラムなどを準備している。			
到達目標	受講生は演習テーマを一つ絞り①アンケート調査など調査研究ができる、または②事例研究方法などで臨床能力が高まることを目標とする。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	社会福祉相談演習の目的と方法についてのオリエンテーション		演習で取り上げるテーマ、方法について自己学習	
第2回	社会福祉相談に関する問題についての調査研究について		演習で取り上げるテーマ、方法について自己学習	
第3回	社会福祉相談に関する問題についての臨床研究について		演習で取り上げるテーマ、方法について自己学習	
第4回	社会福祉相談に関する問題についての研究協議		紹介された論文、文献についての事前学習	
第5回	社会福祉相談に関する問題についての研究協議		紹介された論文、文献についての事前学習	
第6回	社会福祉相談に関する問題についての研究協議		紹介された論文、文献についての事前学習	
第7回	社会福祉相談に関する問題についての研究協議		紹介された論文、文献についての事前学習	
第8回	社会福祉相談に関する問題についての分析方法についての協議		紹介された論文、文献についての事前学習	
第9回	社会福祉相談に関する問題についての分析方法についての協議		紹介された論文、文献についての事前学習	
第10回	社会福祉相談に関する問題についての分析方法についての協議		紹介された論文、文献についての事前学習	
第11回	社会福祉相談に関する問題についての結果についての協議		紹介された論文、文献についての事前学習	
第12回	社会福祉相談に関する問題についての結果についての協議		紹介された論文、文献についての事前学習	
第13回	社会福祉相談に関する問題についての考察についての協議		紹介された論文、文献についての事前学習	
第14回	社会福祉相談に関する問題についての考察についての協議		紹介された論文、文献についての事前学習	
第15回	演習の成果の口頭発表		口頭発表のための準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％			
小テスト等	0％			
成果発表	50％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	演習で取り上げるテーマ、方法について自己学習が求められます。受講生のニーズに合わせますが、積極的な取り組みが必要です。			
教科書	使用しない。			
指定図書	なし			
参考図書	講義時間内に紹介する。			
オフィスアワー	水曜日 2時限目		メールアドレス	

授 業 科 目	社会福祉調査法【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	徳永 勇		単 位	2
授業の目的と概要	現場での社会福祉援助から地域福祉計画、福祉施策の策定に至るまで、人々が、少なくとも最低限度の人間らしい生活を、望むべくはより良い生活の質を保障されるようにするための実践と計画づくりには、間接援助としての社会福祉調査による問題当事者のニーズ把握が不可欠である。数量データと質的な記録とを十全に収集、分析する作業が、人々の福祉ニーズを的確に把握するためにはまず何よりも必要となる。本講義では、主として、社会福祉調査の方法について、問題当事者のニーズをくみ取るための技術的な知見を解説する。 テキストは、講義内容を理解するための予習・復習に活用していただくものとし、授業で使用する「講義ノート」はテキストより詳細な内容となる。また、近年の調査研究の事例を織り交ぜながら解説を進め、受講生諸氏の調査リテラシー向上を期したい。なお、社会福祉調査は、社会福祉の直接援助の妥当性を担保する間接援助である			
到達目標	1.社会福祉調査の意義、とくに問題当事者の福祉ニーズを把握することの必要性について理解・説明できるようになる。 2.実証研究の手続きについて説明できるようになる。 3.調査研究上遵守すべき倫理について説明できるようになる。 4.標本抽出の方法について説明できるようになる。 5.量的調査の基本的な手法について理解・活用できるようになる。 6.質的調査の基本的な手法について理解・活用できるようになる。 7.社会福祉調査の技法を活用し、社会福祉の現場におけるサービスや社会福祉制度・政策の改善に生かせるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 本科目は、「社会福祉援助技術論」を補完するものであり、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験科目における「社会調査の基礎」に該当する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 社会福祉間接援助としての社会福祉調査			教科書を通読	
第 2回 社会福祉調査の主要概念と研究方法			予習：教科書pp.2-63	
第 3回 調査研究のための問いの設定と概念の操作化			教科書予習：pp.2-63	
第 4回 社会福祉調査と倫理			教科書予習：pp.158-220	
第 5回 標本抽出の方法			教科書予習：pp.2-63	
第 6回 質問紙の作成方法			教科書予習：pp.66-75	
第 7回 測定と尺度			教科書予習：pp.76-84	
第 8回 質問紙調査の実際			教科書予習：pp.85-104	
第 9回 記述統計			教科書予習：105-110	
第10回 推測統計			教科書予習：pp.111-121	
第11回 統計分析の実際			教科書予習：pp.111-121	
第12回 実験計画法			教科書予習：pp.122-127	
第13回 質的調査の方法			教科書予習：pp.130-149	
第14回 質的データの分析			教科書予習：pp.150-156	
第15回 授業のまとめ			教科書を再読	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100%：論述式の筆記試験で評価する。持ち込みはテキスト、配布プリント、自筆ノート、参考文献もしくはその写しが可。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	下記教科書と、授業中に紹介する調査研究論文に準拠しつつ講義を進めるので、あらかじめ該当部分を読んだうえで授業にのぞむこと。			
教科書	斎藤嘉孝『ワードマップ 社会福祉調査——企画・実施の基礎知識とコツ』新曜社（2010）			
指定図書	平山尚ほか『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房(2003)、轟亮・杉野勇編著『入門・社会調査法〔第2版〕』法律文化社(2013)、社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎』中央法規出版(2013)			
参考図書	講義中に、適宜紹介する。			
オフィスワー	月曜日3限・火曜日2限		メールアドレス	

授 業 科 目	社会福祉論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大西 良		単 位	2
授業の目的 と概要	社会福祉は、生まれてから死ぬまで生涯にわたって、我々の生活に密接に関わっている。本講義では、現代社会における様々な社会問題（少子高齢化、貧困の格差、孤独死など）について社会福祉に関する制度や政策の現状と課題について検討することを目的とする。また、社会福祉学を学ぶことによって、子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況に関する理解と知識を深めることを目標とする。			
到達目標	1．社会福祉の機能について現代社会における様々な社会問題と関連させて理解できる。 2．子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について理解できる。 3．様々な社会問題に対応する社会福祉関連制度や政策の現状について理解し、その課題と解決策を考えることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	心C（3）-②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福C（3）-②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 福C（3）-②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 福C（3）-②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 初C（3）-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C（3）-②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 社会福祉の考え方と目的			ライフコースと社会福祉についてまとめる	
第2回 現代の社会問題と社会福祉 ―少子高齢化社会及び人口減少社会における福祉課題―			少子高齢社会と人口減少社会の現状と課題について調べる	
第3回 低所得者と社会福祉 ―若者の貧困問題など―			低所得者をめぐる現状を調べ、関連制度を理解する	
第4回 高齢者と社会福祉（1） ―高齢者をめぐる現状と介護保険制度―			介護保険制度の概要整理	
第5回 高齢者と社会福祉（2） ―家族介護者の現状と課題―			家族介護者の現状と課題整理	
第6回 認知症サポーター養成講座			認知症の人をめぐる現状と支援内容を理解する	
第7回 障がい者と社会福祉			地域で暮らす障害者支援内容を調べる	
第8回 児童福祉と子育て支援 ―児童虐待の現状と課題を検討―			児童虐待問題のまとめ	
第9回 ゆりかごと特別養子縁組について			特別養子縁組について整理	
第10回 地域福祉（1） ―都市部における地域課題―			都市部の地域課題を理解する	
第11回 地域福祉（2） ―中山間地域の特徴を踏まえた上で、福祉の現状と課題を検討―			中山間地域福祉課題のまとめ	
第12回 当事者理解 ―トランス女性としての経験―			LGBTについて理解する	
第13回 マイノリティをめぐる現状と課題			マイノリティの概念と現状整理	
第14回 諸外国の社会福祉（1）―東アジア―			東アジアの社会福祉の現状を調べる	
第15回 諸外国の社会福祉（2） ―北欧及びアメリカ―			北欧やアメリカの社会福祉の現状を調べる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％			
小テスト等	50％ 感想文（5回）提出			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回プリントを配布するので、やむを得ず欠席したときなどは、後日研究室にプリントを受け取りに来ること。 また、講義中の私語は厳禁とする。			
教科書	大久保秀子著 「新 社会福祉とは何か」 第2版 中央法規			
指定図書	なし			
参考図書	・『社会福祉入門』有斐閣、 ・『社会福祉キーワード』有斐閣			
オフィスワー	水曜日3講目および4講目		メールアドレス	

授 業 科 目	社会保障論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	川崎 孝明		単 位	2
授業の目的と概要	本講義は、労働者階級の貧困化（現象的には少子・高齢化、労働環境の変化、貧困・格差の拡大、精神的・身体的健康状態の悪化などとなって現われる労働・生活問題の拡大・深化）が進行する日本社会において、社会保障制度が果たすべき役割と課題について理解することを目的とする。 まず、社会保障の対象課題を把握したうえで、社会保障の概念と歴史、範囲について理解し、社会保障の行財政と財源確保のあり方など今後の課題についても考察を深める。			
到達目標	1．社会保障の対象課題である生活問題の発生原因と実情について理解できる。 2．社会保障の概念と範囲について説明できる。 3．社会保障の現状を認識し、その課題について自分なりの意見をもつことができる。 4．社会保障の行財政について理解できる。 5．社会保障の財源をめぐる問題を理解し、その解決策について自分なりの意見をもつことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 社会保障の対象課題は生活問題			生活問題を認識する枠組みについてノート整理	
第 2回 生活問題を規定する社会的条件(1) ― 生計中心者の仕事			生活問題と生計中心者の仕事についてノート整理	
第 3回 生活問題を規定する社会的条件(2) ― ヨコのつながりと社会サービス			生活問題とヨコのつながり、社会サービスについてノート整理	
第 4回 生活問題の内容(1) ― 暮らしの単位、暮らしの場			生活問題の内容としての、暮らしの単位、暮らしの場についてノート整理	
第 5回 生活問題の内容(2) ― 暮らしの中身、健康状態			生活問題の内容としての、暮らしの中身、健康状態についてノート整理	
第 6回 社会保障の歴史と概念（社会保障の権利論を含む）			社会保障の概念と歴史についてノート整理	
第 7回 社会保障の範囲 ― 社会保障の制度体系			社会保の範囲についてノート整理	
第 8回 社会保障制度の概要(1) ― 社会保険と社会手当制度			社会保険と社会手当制度についてノート整理	
第 9回 社会保障制度の概要(2) ― 公的扶助と社会福祉施設・サービス制度			公的扶助と社会福祉施設・サービス制度についてノート整理	
第10回 社会保障行財政(1) ― 社会保障行政			社会保障行政についてノート整理	
第11回 社会保障行財政(2) ― 社会保障財政			社会保障財政についてノート整理	
第12回 社会保障の課題(1) ― 社会保障制度改革の背景			社会保障制度改革の背景についてノート整理	
第13回 社会保障の課題(2) ― 社会保障制度改革の経緯と内容			社会保障制度改革の経緯と内容についてノート整理	
第14回 社会保障の課題(3) ― 社会保障制度改革推進法とプログラム法			社会保障制度改革推進法とプログラム法についてノート整理	
第15回 課題解決に向けて ― 社会保障の制度設計と財源確保			社会保障の制度設計と財源確保についてノート整理	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	なし			
小テスト等	20％（講義期間内に2回実施。詳細は第1回目に説明する）			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（フィードバック用紙へのまとめ、コメント）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講者が不快な思いをしないよう講義中の私語は厳禁とする。ルールを守ることができない者は途中退席を命じる場合があるが、その場合は欠席扱いとする。			
教科書	講義時に資料を配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	社会保障論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	川崎 孝明		単 位	2
授業の目的と概要	本講義は、社会保障論Ⅰで学んだ社会保障についての基本的な知識を前提とし、社会保障制度（とくにその中心である社会保険制度）それぞれの仕組みと課題について理解することを目的とする。 具体的には、医療保険、年金保険、雇用保険、労働者災害補償保険、介護保険という5つの社会保険制度を中心に、関連する社会手当制度、公的扶助制度、社会福祉施設・サービス制度について考察し、制度の全体像を把握することを目的とする。			
到達目標	1．医療保険の基本的な仕組みと課題が理解できる。 2．年金保険の基本的な仕組みと課題が理解できる。 3．雇用保険、労働者災害補償保険の基本的な仕組みと課題が理解できる。 4．介護保険の基本的な仕組みと課題が理解できる。 5．社会保険制度全体に共通する問題とその解決策について自分なりの意見をもつことができる。 6．社会保障制度体系における社会福祉の位置と役割が理解できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 社会保険の仕組み			社会保険の全体像についてノート整理	
第 2回 医療保険制度の基本的な仕組み(1) ― 健康保険の保険者、被保険者（被扶養者）、保険料			健康保険の仕組みについてノート整理	
第 3回 医療保険制度の基本的な仕組み(2) ― 健康保険の保険給付			健康保険の保険給付についてノート整理	
第 4回 医療保険制度の基本的な仕組み(3) ― 船員保険と共済組合			船員保険と共済組合についてノート整理	
第 5回 医療保険制度の基本的な仕組み(4) ― 国民健康保険			国民健康保険についてノート整理	
第 6回 医療保険制度の基本的な仕組み(5) ― 高齢者医療			高齢者医療についてノート整理	
第 7回 医療保険制度の課題			医療保険制度についてのまとめと課題についてノート整理	
第 8回 年金保険制度の基本的な仕組み(1) ― 国民年金の保険者、被保険者、保険料			国民年金の仕組みについてノート整理	
第 9回 年金保険制度の基本的な仕組み(2) ― 国民年金の保険給付			国民年金の保険給付についてノート整理	
第10回 年金保険制度の基本的な仕組み(3) ― 厚生年金の保険者、被保険者、保険料			厚生年金の仕組みについてノート整理	
第11回 年金保険制度の基本的な仕組み(4) ― 厚生年金の保険給付			厚生年金の保険給付についてノート整理	
第12回 年金保険制度の課題			年金保険制度についてのまとめと課題についてノート整理	
第13回 労働保険制度 ― 雇用保険と労働者災害補償保険			雇用保険と労働者災害補償保険についてノート整理	
第14回 介護保険制度			介護保険制度についてノート整理	
第15回 社会手当、公的扶助、社会福祉施設・サービス制度			社会手当、公的扶助、社会福祉施設・サービス制度についてノート整理	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	なし			
小テスト等	20％（講義期間内に2回実施。詳細は第1回目に説明する）			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（フィードバック用紙のまとめ、コメント）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講者が不快な思いをしないよう講義中の私語は厳禁とする。ルールを守ることができない者は途中退席を命じる場合があるが、その場合は欠席扱いとする。			
教科書	講義時に資料を配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスアワー	講義の前後に相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	社会問題論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	花野 裕康		単 位	2
授業の目的と概要	犯罪や貧困・差別、特に若い世代に関して言えば、引きこもり・ニート・フリーター問題など、「社会問題」と呼ばれる事象は様々存在する。では、①これらはなぜ「社会問題」と呼ばれているのか。またその扱いは妥当なのか。さらに②私たちはこれら「社会問題」とされる諸事象にいかなる態度で臨むべきか。本講義では、以上2点を考えるためのツールとして、③社会問題論の諸理論を参考にしつつ、個別具体的にいくつかの社会問題を見てゆく。最終的に現代社会における社会問題がなんであるかを社会的な視点から「客観的」に把握し、その原因と現状、そして行く末を分析することを目的とする。その際、特に「若者」と「性」とに焦点を絞って考察することとする。なお授業では講義者（花野）が受講者と対話を行いながら考察を進めて行くので、主体的積極的に受講してほしい。			
到達目標	①社会病理学と社会問題論との概念的な区別を理解・説明することができる。 ②社会問題論における諸理論を整理し簡潔に説明することができる。 ③社会問題論における諸理論を適宜実際に援用しながら、個別具体的な諸「社会問題」事象を発見し評価することができる。 ④若者と性とにまつわる社会問題を、自身の「立ち位置」と関連させながら分析・理解することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 本科目は、現代社会学概論Ⅰ,Ⅱや社会学入門、社会学史そして理論社会学に続いて、現代社会における現状、とくに諸問題への社会学的枠組みを提供するための重要科目です。本科目を受講することで、各論としての「〇〇社会学（〇〇には産業、家族等の語句が入る）」や「〇〇社会論（同様）」等の開講科目の（復習的な意味での）理解もスムーズに行きます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション：社会病理と社会問題			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第2回 社会問題論の諸理論①：社会的緊張論			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第3回 社会問題論の諸理論②：文化的逸脱論			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第4回 社会問題論の諸理論③：社会的統制論			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第5回 社会問題論の諸理論④：折衷理論			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第6回 社会問題論の新潮流①：ラベリング論			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第7回 社会問題論の新潮流②：構築主義社会問題論			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第8回 差別の「社会問題」			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第9回 犯罪の「社会問題」			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第10回 若者と「社会問題」①：いじめ			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第11回 若者と「社会問題」②：引きこもり			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第12回 若者と「社会問題」③：ニート・フリーター			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第13回 性と「社会問題」①：性的少数者			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第14回 性と「社会問題」②：性の商品化			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第15回 性と「社会問題」③：「変態」性欲			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	100％（毎回の授業にて実施するものと、授業後に自宅で解答してもらうものがある。その積み重ねで評価する。なお小テスト等は次週授業開始時[その週休んだ場合はそれ以降の授業開始時、また授業終了後の場合はオフィスアワー時]に返却する）			
成果発表	なし			
受講態度他	欠席や授業に積極的に参加しない等、受講態度が芳しくない受講者に関しては、小テストを受け取らない。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること（病欠や忌引きであってもその回の小テストが受けられない事には変わりはないので要注意）。これまでの自らの経験と知識とを総動員しながら考えつつ受講すること。講義者（花野）とのやり取りに積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。特に（許可された場合以外での）スマホ操作、居眠り、他の受講者に迷惑がかかる行為は厳禁とする。見つけ次第退出もしくはこれに代わる措置を取る。その代わり授業中に5分休憩を取る。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス		

授 業 科 目	出版文化【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	田口　淳一		単　　位	2
授業の目的 と概要	「活字離れ」「読書離れ」といった社会評を見聞きするようになって久しく、しばしば新聞や出版産業の危機などとして語られます。それでも、人は本をつくり、本を読んでいます。言葉を得た人間が脈々と続けてきたことです。そうして私たちは、知識を得ることはもとより、世界へ、内面へ想像力の翼を広げ、その視野のかなたに希望を見出してきました。「活字離れ」や「読書離れ」が進んでいるのだとすれば、それがもし読まず嫌いにも要因があるのだとすれば、一人ひとりが希望について考える機会を見失いはしまいかということも懸念されます。履修者は、出版の現況を知り、主に足元の九州から生まれた書物を素材に文学、歴史、社会、写真、ジャーナリズムなど様々な角度から、本の魅力を見つめ直し、出版のもつ役割を考察し、読むこと、感ずること、考えることについての認識を深めます。			
到達目標	・活字文化、出版界が置かれている現状について知る。 ・本がもたらす、人や世界との出会いについて理解を深める。 ・本と出会う多様な場について認識し、自らの想像力、思索力を耕し、やわらかい視線の創造に努める。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回　増える本	「読書離れ」は他人事か　　〈出版をめぐる現況と課題について考える〉		配布資料などに目を通す	
第2回　大ベストセラーを生み出すものって何	〈「読む」ことの爆発力について考える〉		提示する参考文献・資料に目を通す	
第3回　メールもスマホも、ファクスもなかった頃	〈芥川賞・直木賞と出会う前の小説家たち〉		参考文献・資料に触れる	
第4回　失語から言葉を取り戻すまでの長い年月もある	〈ツイッター時代に照らして考えてみる〉		参考文献・資料を読む	
第5回　かそけき声に耳をかたむける人	〈『苦海浄土』『チェルノブイリの祈り』が語りかけることについて考える〉		参考文献・資料を読む	
第6回　なかったことにされ続けたこと	〈ハンセン病文学の発信地から考える〉		参考文献・配布資料を読む	
第7回　八畳間の宇宙から	〈夭折の歌人の居場所から考える〉		参考文献・短歌作品に触れる	
第8回　「ことばがうまれる」ときのよろこび	〈表現を獲得するということについて考える〉		配布資料などに目を通す	
第9回　伝える言葉が渴望されていたところ	〈6冊の絵本について考える〉		参考文献・資料などを読む	
第10回　祈りと本と音楽と	〈切支丹信仰の下、九州で生まれた印刷物について考える〉		資料に目を通す	
第11回　写真は戦争を、文豪をとらえた	〈日本の写真揺籃の地・九州を見つめる〉		参考文献・資料に触れる	
第12回　おもしろき人と本	〈たとえば、装幀家について知る〉		参考資料に目を通す	
第13回　地方出版の力	〈九州から見える世界や歴史について考える〉		参考資料を読む	
第14回　事実ってなんだろう	〈ジャーナリズムとは何かをすこし考えてみる〉		参考文献・資料に触れる	
第15回　たまには考えてみる　どんな時代を生きてるんだろう、って考えてみる〉	〈思い込み、決めつけについて		参考文献・資料に触れる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％			
レポート	30％　（レポート提出・2回程度）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業はパワーポイントを使いながら、講義形式で行います。随時、参考文献を示し、資料を配布して講義内容を補完します。授業内容にかかわるレポートをお願いしますので、授業中は興味を抱いたこと、気づいたことなどメモをとり、資料などにも目を通すようにしてください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義のなかで随時紹介し、筑女ネットに掲げる。必要に応じて部分的なコピーを配布します。			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	出版論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	橋本 嘉代		単 位	2
授業の目的 と概要	・雑誌を中心とする出版メディアの特性と社会的役割を理解する。 ・出版業の現状、課題、今後の可能性について、認識を深める。 ・制作プロセスや出版に携わる人々の体験談を参考にし、出版への理解を深める。			
到達目標	・書籍や雑誌の主なジャンルとその特性、社会的機能を類別できる。 ・出版関連の仕事の多様性を知り、各々の現場のやりがいや必要なスキルを進路選択の参考にする。 ・インターネットやソーシャルメディアの普及が「出版」「編集」「読書」に与えた影響を述べることができる。 ・著作権・肖像権について正しい知識を持ち、ネット利用などの際に著作権者の権利を守ることができる。 ・「編集」という行為の意義について、自分なりの意見を述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション + キュレーションメディアと「編集」の視点 (講義)		DeNA謝罪事件、MERYなどについて調べる。	
第2回	雑誌編集者の仕事 (作品紹介 『ブラダを着た悪魔』『働きマン』)		雑誌を読み、編集者の仕事について考える	
第3回	漫画誌編集者の仕事 (作品紹介 『バクマン。』『重版出来!』)		漫画誌を読み、編集者の仕事について考える	
第4回	編集以外の出版業務 (作品紹介 『校閲ガール』『働きマン』『重版出来!』)		第2-4回で扱った出版に関する仕事について整理しておく	
第5回	「雑誌の人格」を想像してみる (課題①)		分析対象誌を選定して熟読し、雑誌が想定する読者像をビジュアル化	
第6回	雑誌の国際比較		書店や図書館などで、雑誌に目を通す	
第7回	ライフスタイルの多様化と女性雑誌 → 雑誌の歴史的比較		インターネットなどで過去の社会の状況や流行を調べる	
第8回	雑誌の経年変化分析		インターネットなどで過去の社会の状況や流行を調べる	
第9回	グループ研究：内容分析 (課題②)		分析対象を選ぶためのリサーチ	
第10回	グループ研究：内容分析 (課題②)		分析方法と分担を決め、各自で分析	
第11回	グループ研究：内容分析の発表 (課題②)		プレゼン資料の作成 (分担とスケジュールを決めておく)	
第12回	著作権と出版 (+ 小テスト)		授業の内容を復習	
第13回	文献紹介「小さな出版社のつくりかた」 → 書店レポート(課題③)		「ドラゴン桜」「宇宙兄弟」など、文中の事例の実態を調べる。書店に行く。	
第14回	個人研究プレゼン (課題④)		これまでに学んだことをふまえ、個人研究の発表準備をする	
第15回	個人研究プレゼン (課題⑤)		これまでに学んだことをふまえ、個人研究の発表準備をする	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% (課題①③) 提出回以降の授業中に返却します。			
小テスト等	15%			
成果発表	45% (課題②④)			
受講態度他	10% (授業での積極的な態度を考慮します)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・個人研究発表は、2回に分けて実施する予定ですが、受講者数によっては3回になる可能性もあります。 ・教科書は指定しませんが、分析用の雑誌を購入し、持参していただきます。ジャンルなどについては授業で説明します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	永江朗、2016、『小さな出版社のつくり方』猿江商會			
オフィスアワー	月曜12:30-15:00		メールアドレス	

授 業 科 目	宗教学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	宇野 智行		単 位	2
授業の目的と概要	宗教の発生要因とその変遷についての知識を得る。さらに、各宗教の救済概念について学び、宗教そのものが持つ働き（機能）について学ぶ。宗教に対する総合的理解により、世界における複眼的な倫理観・人間観を身につける。 様々な宗教がどのように発生し、どのように変遷したか、それぞれの宗教の歴史を概観する。特に、ユダヤ教、キリスト教、バラモン教、ヒンドゥー教、仏教を取り上げ、その思想的変遷を講義する。また、それぞれの「救済」という概念を比較することにより、宗教「働き（機能）」、宗教の「目的」を明らかにする。			
到達目標	1. 道徳（倫理）と宗教の違いを説明することができる。 2. 政治経済の働きと宗教による救済の違いを説明することができる。 3. キリスト教および大乘仏教において、どのように悪人が救済されるかを説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は主に以下のDPと関係します。 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 「哲学」「倫理学」などと関連する科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 宗教の発生：自然宗教と創唱宗教			復習（宗教の分類）	
第 2回 ユダヤ教（1）：ユダヤ民族の歴史			復習（多神教から一神教への歴史）	
第 3回 ユダヤ教（2）：裁きと律法			復習（ファリサイ派の律法原理主義）	
第 4回 キリスト教（1）：エッセネ派とイエス			復習（律法・神殿の否定）	
第 5回 キリスト教（2）：イエスの贖罪と悪人救済			復習（民族宗教から世界宗教へ）	
第 6回 バラモン教：祭式におけるギヴァンドティク			復習（祭式万能主義）・課題レポート作成「ユダヤ教とキリスト教」	
第 7回 ヒンドゥー教：神への信愛による悪人救済			復習（バクティ思想）・課題レポート 作成「ユダヤ教とキリスト教」	
第 8回 初期仏教：ブッダと救済			復習（上座部）・課題レポート「ユダヤ教とキリスト教」	
第 9回 大乘仏教（1）：アジャセ王の救済			復習（『涅槃経』）・課題レポート 作成「ユダヤ教とキリスト教」	
第10回 大乘仏教（2）：菩薩の回向による悪人救済			復習（菩薩の誓願）・課題レポート作成「ユダヤ教とキリスト教」	
第11回 日本仏教：悪人正機説			復習（法然・親鸞の思想）	
第12回 悪とは何か：法律上の悪と宗教上の悪			復習（宗教の善悪観）	
第13回 宗教と道徳：カント、ニーチェによる宗教批判とその答え			復習（西洋倫理学と宗教）	
第14回 宗教と政治経済：自由競争と救済			復習（宗教の必要性）	
第15回 宗教の働き（まとめ）：救済を必要とするのは誰か			全講義の復習・テスト準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 学期末テスト			
レポート	25％ レポート			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	15％ 毎回の受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語など他の履修者に迷惑のかかる行為、居眠りなどは減点対象とする。レポート未提出の場合は、単位を認定しない。			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	授業時に指示します。			
オフィスアワー	火曜日15：00-16：20		メールアドレス	

授 業 科 目	宗教学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小林 久泰		単 位	2
授業の目的 と概要	「宗教」という概念の定義とその変遷についての知識を得る。さらに、各宗教における「聖なるもの」についての考え方を学び、各宗教の基本的性格を理解する。宗教に対する総合的理解により、日常感覚とは異なる視点から物事を考える姿勢を身につける。 本講義では、宗教を定義するキーワードのひとつ、「聖と俗」という概念に焦点を当て、世界の様々な宗教を概観していく。そのうえで、「聖と俗」を分離することで人間は何を目指してきたのか、人間の宗教的営みにはどのような意味があるのかということについて考察を深める。			
到達目標	1. 「宗教」の定義の変遷を自分の言葉で説明することができる。 2. 各宗教における「聖なるもの」についての考え方の特徴を説明することができる。 3. 「聖なるもの」という普段とは異なる視点から、自分自身の日常を捉え直すことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 この授業は、「哲学」「倫理学」などと関連する科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	現代社会と聖なるもの：日常的「宗教」概念		復習・課題①レポート「宗教の定義」	
第2回	宗教とは：「聖と俗」による宗教定義		復習・課題①レポート「宗教の定義」	
第3回	ユダヤ教と聖なるもの		復習・課題①レポート「宗教の定義」	
第4回	キリスト教と聖なるもの		復習・課題①レポート「宗教の定義」	
第5回	イスラームと聖なるもの		復習・課題①レポート「宗教の定義」	
第6回	ヒンドゥー教と聖なるもの		復習・課題②レポート「様々な宗教における聖なるもの」	
第7回	ジャイナ教と聖なるもの		復習・課題②レポート「様々な宗教における聖なるもの」	
第8回	仏教と聖なるもの		復習・課題②レポート「様々な宗教における聖なるもの」	
第9回	大乘仏教と聖なるもの		復習・課題②レポート「様々な宗教における聖なるもの」	
第10回	「象徴」と宗教		復習・課題②レポート「様々な宗教における聖なるもの」	
第11回	身体と聖なるもの：儀礼		全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート	
第12回	言葉と聖なるもの：聖典		全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート	
第13回	世俗化論と再聖化論		全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート	
第14回	日本人と聖なるもの		全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート	
第15回	まとめ		全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70％ 課題レポート2回（20％×2回）・学期末レポート（30％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 質問等、講義への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語など、他の受講者に迷惑のかかる行為は慎んでください。			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜 3 講時	メールアドレス		

授 業 科 目	宗教学概論Ⅰ(本願寺派教師)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小林 久泰		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業は、仏教東漸の過程を学び、「仏教の土着」をキーワードとして、宗教のはたらきを理解することを目的とする。仏教はインドから日本に至るまで様々な地域に伝播するが、その各所において大きな変容を遂げつつ土着する。その地域の特性と文化に寄り添いつつ仏教が変容する要因、仏教が確保する普遍性を学ぶ。			
到達目標	1. 宗教が果たす機能について説明することができる。 2. 宗教が土着する理由について説明することができる。 3. 仏教の変容した点を整理した上で、仏教教義の普遍性を説明することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回：イントロダクション：宗教のはたらき			復習・ディスカッション準備	
第2回：世界宗教と民族宗教			復習・ディスカッション準備	
第3回：仏教における戒律の変化			復習・ディスカッション準備	
第4回：大乘仏教の興起			復習・ディスカッション準備	
第5回：密教			復習・ディスカッション準備	
第6回：インド仏教の滅亡			復習・ディスカッション準備	
第7回：ネパール仏教			復習・ディスカッション準備	
第8回：チベット仏教			復習・ディスカッション準備	
第9回：中国における仏教伝来			復習・ディスカッション準備	
第10回：儒教・道教との融合			復習・ディスカッション準備	
第11回：日本における仏教受容			復習・ディスカッション準備	
第12回：本地垂迹説			復習・ディスカッション準備・期末レポート	
第13回：年忌法要			復習・ディスカッション準備・期末レポート	
第14回：仏教の変容と普遍性			復習・ディスカッション準備・期末レポート	
第15回：まとめ			復習・ディスカッション準備・期末レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	50%（質疑とディスカッション）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎授業の終了前10分間を「ディスカッションタイム」とする。 「ディスカッションタイム」での積極的な質疑、意見交換を期待する。			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜 3 講時	メールアドレス		

授 業 科 目	宗教学概論Ⅱ(本願寺派教師)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	前田 知郷		単 位	2
授業の目的と概要	目的： 1. 世界の主要な宗教について基礎的な知識を得る 2. 人間社会における宗教の役割の重要性を理解する 3. 宗教の本質・役割・宗教的精神の重要性を認識する 概要： 世界に分布する主要な宗教・日本における宗教（神道と仏教）・インドとネパールにおける民俗的な宗教の歴史と変遷について概観する。 以上を通して 1. 宗教の本質・役割・宗教的精神の重要性を明らかにする 2. 混迷する現代社会にあって宗教の可能性と方向性を考察する 3. 物・カネの時代から心・精神の時代に転換しつつあることを認識する			
到達目標	1. 世界の主要な宗教についてそれぞれの特徴を説明できること 2. 民族的宗教の現代的な役割について説明できること 3. 宗教の本質・役割・宗教的精神の重要性を説明できること 4. 日常生活において宗教的体験をすることがいかに大切であるかを説明できること			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	主要な宗教の世界分布		復習・課題レポート①	
第2回	キリスト教の歴史と変遷		復習・課題レポート①	
第3回	イスラム教の歴史と変遷		復習・課題レポート①	
第4回	ヒンドゥー教の歴史と変遷		復習・課題レポート①	
第5回	仏教の歴史と変遷		復習・課題レポート①	
第6回	日本の宗教①：神道の歴史と変遷		復習・課題レポート①	
第7回	日本の宗教②：仏教の歴史と変遷		復習・課題レポート①	
第8回	民族宗教と現代		復習・課題レポート②	
第9回	インドの宗教①：祭りと人びと		復習・課題レポート②	
第10回	インドの宗教②：信仰と人びと		復習・課題レポート②	
第11回	ネパールの宗教①：土着民と征服民		復習・課題レポート②	
第12回	ネパールの宗教②：祭りと人びと		復習・課題レポート②	
第13回	ネパールの宗教③：信仰と人びと		復習・課題レポート②	
第14回	ネパールの宗教④：生と死		復習・課題レポート②	
第15回	まとめ		復習・課題レポート②	
成 績 評 価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	45%			
小テスト等	45%			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 出席状況ならびに授業態度を勘案			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須です			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業時に紹介します			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	宗教社会学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	野中 亮		単 位	2
授業の目的と概要	この授業では、オカルトの流行を事例として日本における宗教意識の変化とその背景について学び、そこから現代日本社会の宗教意識の特性を理解することを目的とします。 私たちの社会は、科学的合理性に基づいて設計され、そこに暮らす私たちも科学的に思考し合理的に行動することが前提とされています。しかしながら、実際には、新宗教の流行などとともに、パワースポットや占いなどの「オカルト」が流行することが多々あります。各回で異なった事例を取り上げ、時代・社会背景や分析例などを参照しつつ、社会問題論・社会意識論・大衆文化論の観点も交えて考察を加えます。			
到達目標	・社会学用語としての「合理性」概念を理解し、現代社会の諸現象の分析に活用することができる。 ・オカルトの流行を通じて現代日本社会の特性を理解し、他の社会現象の分析・理解に役立てることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 「社会意識論」や「大衆文化史」「サブカルチャー論」などの科目も合わせて履修することで、より深い理解が得られます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：オカルトとは何か		現代の学校教育の議論とからめて鍵概念を復習しておくこと。	
第2回	神秘体験		宗教学的な背景をふまえて鍵概念を復習しておくこと。	
第3回	西洋神秘主義と現代オカルティズム：現代オカルトの基礎知識		近代史との関連で鍵概念を復習しておくこと。	
第4回	超能力：科学とオカルトのはざま		マズローの欲求階層説を踏まえて鍵概念を復習しておくこと。	
第5回	偽史とムー大陸：ナショナリズムと歴史		歴史の正統性・政治性の問題を踏まえて鍵概念を復習しておくこと。	
第6回	ノストラダムスと世紀末：終末論とディストピア		冷戦という時代背景とリスク社会の議論を絡めて鍵概念を復習しておくこと。	
第7回	臨死体験：彼岸と此岸をめぐる世界観		科学的／スピリチュアルな解釈の違いに着目して鍵概念を復習しておくこと。	
第8回	心霊写真：機械と神秘		民俗の心性と科学技術の融和という観点から鍵概念を復習しておくこと。	
第9回	癒し・健康・エコロジー・ロハス：身体概念の変化と拡大		ニューエイジ思想の一般化という視点から鍵概念を復習しておくこと。	
第10回	占い：予知から現状把握へ		現代的ニーズによる伝統の変化という視点から鍵概念を復習しておくこと。	
第11回	UFOと宇宙人：生活世界の拡大と異邦人		冷戦～グローバル化という時代背景に注意し鍵概念を復習しておくこと。	
第12回	UMA・妖怪・モンスター：異世界のノスタルジー		「都市化・ヴァナキュラー化」という言葉に注意し鍵概念を復習しておくこと	
第13回	オカルト雑誌：オカルト市場の拡大と成熟		ジャンルと年齢層の拡大にともなう市場の拡大という視点を確認しておくこと	
第14回	漫画・アニメ・ゲームとオカルト：教養としてのオカルト		第13回と関連し、大衆文化化という観点から鍵概念を復習しておくこと。	
第15回	まとめ：近代合理性の臨界点		近代の社会現象としての科学という視点から鍵概念を復習しておくこと。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート100％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・「授業外学修」の欄は、主に復習を念頭に設定しています。時間は180分程度を想定しています。 ・教科書を使用しないので、毎回のノートが大事です。板書等が読みにくい、話が聞き取りにくい場合はすぐに指摘してください。 ・私語には厳格に対処します。快適な学びの場の維持に協力してくた？さい。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	レイチェル・ストーム『ニューエイジの歴史と現在』角川選書、渡辺恒夫 他『オカルト流行の深層社会心理』ナカニシヤ出版、その他、授業中に指示します。			
オフィスアワー	月曜4限	メールアドレス		

授 業 科 目	宗門法規(本願寺派教師)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小山田 真哉		単 位	2
授業の目的と概要	目的 本講義は、浄土真宗本願寺派の僧侶、教師資格取得のために開設されています。しかし、僧侶、資格取得のための内容にこだわらず、様々な法（規則）の目的や役割を具体的条文や寺務を通して学び、現代社会における教団（宗派）・本願寺・寺院の役割が、私たち1人ひとりの課題になることを目的とします。 概要 お念仏（普遍的真実）を拠り所とする浄土真宗本願寺派という宗教団体が、近代国家による法の支配のもと、自らも様々な規則を整備したうえで組織を構築し、宗教活動（運動）を推進しています。 教団（宗派）の現状をどのように受け止め、同時に様々な問題を内包する社会の現実に向き合って歩んでいくかともに学びます。			
到達目標	1．日本国憲法における宗教に対する基本姿勢並びに、宗教法人法が理解できる。 2．宗門の基本法規を通して、浄土真宗本願寺派並びに、本願寺の機構・組織・活動（運動）が理解できる 3．寺院の規則、役割が理解できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、「仏教専修課程並びに、浄土真宗本願寺派教師資格取得課程に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。 ・宗門の基本法規の目的と役割			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	宗門基本法規について 本講義のねらい（得度・教師資格）		宗派・本山法規通則並びに、得度・教師規程の復習	
第2回	法の目的と役割① 日本国憲法における宗教に対する基本姿勢		日本国憲法における宗教に対する基本理念の復習	
第3回	法の目的と役割② 宗教法人法		宗教法人法の基本理念の復習	
第4回	宗門の組織① 浄土真宗本願寺派の機構・組織		宗門（宗派）機構組織略図表の復習	
第5回	宗門の組織② 本願寺の機構・組織 宗門の活動 御同朋の社会をめざす運動（実践運動）		宗門（本願寺）機構組織略図表並びに、実践運動の目的の復習	
第6回	宗門の基本法規① 浄土真宗本願寺派宗制		浄土真宗本願寺派宗制の基本理念の復習	
第7回	宗門の基本法規② 浄土真宗本願寺派宗法 1		浄土真宗本願寺派宗法第1条～第30条の復習	
第8回	宗門の基本法規③ 浄土真宗本願寺派宗法 2		浄土真宗本願寺派宗法第31条～第98条、附則の復習	
第9回	宗門の基本法規④ 宗教法人「浄土真宗本願寺派」宗規（宗教法人法による宗派規則）		宗教法人法による宗派規則の復習	
第10回	宗門の基本法規⑤ 本山典令（本願寺の宗教団体としての自治法）		本山典令の基本理念の復習	
第11回	宗門の基本法規⑥ 「本願寺」寺法（宗教法人による本願寺規則）		宗教法人による本願寺規則の復習	
第12回	寺院規程 一般寺院及び宗教法人たる教会規則		寺院の目的、責務の復習	
第13回	宗教法人「〇〇寺」寺院準則 宗教法人による寺院規則		一般寺院の規則の復習	
第14回	宗教法人の意義と実際の運用① 宗教法人の備え付け書類・帳簿等		寺院規程第30条、備付表簿の復習	
第15回	宗教法人の意義と実際の運用② 宗教法人の財務・税務等		宗教法人財産管理と運用の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義中専門用語を多用するため、不明の点があれば講義中であっても気兼ねなく質問してください。 講義毎に参考資料となるプリントを配布いたしますので、必ずファイリングをして講義に持参してください。			
教科書	浄土真宗本願寺派 宗門基本法規集（本願寺出版社発行）			
指定図書	適宜紹介			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	講義終了後	メールアドレス		

授 業 科 目	小学校英語教育研究【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	金森 強		単 位	2
授業の目的 と概要	小学校における外国語活動の在り方、よりよい授業実践のための教材開発、教具の利用、評価の方法と意義、指導における留意点について考察する。また、中学校・高等学校までの英語教育を含めた外国語・英語教育における小学校英語教育の意義を考える。			
到達目標	小学校の「外国語活動」にふさわしい指導法、教材開発、評価に関する専門的な知識と技能を身に着けるとともに英語教育改革の方向性を知ること、児童期における望ましい英語教育の指導ができるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	小学校外国語活動の意義と目標		中学校、高等学校の英語科との違いについて考える	
第 2回	小学校外国語活動を国際理解教育の一環として捉える		総合的な学習の時間における国際理解教育との連携を考える	
第 3回	小学校外国語活動と関連領域の研究成果		脳科学における研究成果について調べる	
第 4回	小学校外国語活動にふさわしい指導方法		外国語教授法について調べる	
第 5回	小学校外国語活動における音声指導の在り方について		国際補助言語としての英語について考える	
第 6回	歌・チャンツを使った指導の在り方		英語の歌を使った活動を考える	
第 7回	ピクチャーカード、写真等、教具の活用について		ピクチャーカード等の教具を使った活動を考える	
第 8回	ゲームを利用した活動		目的に合ったゲームを考える	
第 9回	カリキュラム開発		小学校の年間カリキュラムを分析する	
第10回	一単元の指導計画の在り方		指導案を作る	
第11回	クラスルームイングリッシュ		クラスルームイングリッシュ練習	
第12回	評価規準と評価の方法		ふりかえり表を作成する	
第13回	海外における小学校段階の英語教育		東アジアの小学校段階の英語教育をまとめる	
第14回	I C T利用による指導方法		アナログ教材の長所について考える	
第15回	小中連携の在り方 ※最後にまとめとテスト		英語教育の方向性について考える	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 毎回の提出物 （各時間に学んだ内容をまとめたものを提出）			
小テスト等	50％ 最終講義のテスト			
成果発表	10％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	なし			
教科書	岡秀夫・金森強編著「小学校外国語活動の進め方」成美堂			
指定図書	金森強著「小学校外国語活動成功させる55の秘訣」成美堂 金森強編著「主体的な学びをめざす小学校英語教育―教科化からの新しい展開」教育出版			
参考図書	なし			
オフィスワー	講義の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	生涯学習概論(博物館学芸員)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	森 千鶴子		単 位	2
授業の目的 と概要	①生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度や、行政施策、社会教育専門職員の役割や、学習における支援などについて、の基礎を学びます。②生涯学習、社会教育と学校教育との関連についても学習します。③自らが生涯学習の主役となるべく、学ぶとは何かという問いに対して、主体的に考え、自らの暮らしや社会と結びつけて、判断できる能力を身につけることを目的とします。			
到達目標	①生涯学習社会の基本的構造、学び、教育に関する基礎的な知識、考え方を身につけ、その説明ができる。 ②授業で学んだことを、日常生活の改善や、社会への関わり方の中で活かすことができる力を身につける。 ③人々とともに学び合い、学びを支援し合うことのできるコミュニケーション能力を身につける。 ④博物館学芸員が、学習の支援者であるということを理解し、創造的な学習支援の方法を考え、計画することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は、博物館学芸員課程の専門科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーションとグループワーク。「学びの原風景」を考え、学びとは何かを考える		教科書の購入、ざっと目を通しておく	
第2回	「学ぶ」ってなんだろう(1)自分の学びを振り返る。社会教育としての生涯学習		第1章 社会教育としての生涯学習 を読んで内容を整理しておく	
第3回	「学ぶ」ってなんだろう(2)学習権、学ぶ権利について考える		第10章 社会教育の施設と学習の支援者を読んで内容を理解しておく	
第4回	学習の拠点としての「公民館」を考える		身近な公民館に出向き、レポートを提出する(第6回授業時)	
第5回	学習の拠点としての「図書館」を考える		公民館での取材と、レポートの提出	
第6回	地域社会教育と公民館(レポートをもとにしたワークショップ)		授業を受けてのレポート	
第7回	学校教育と社会教育の連携、協同		教科書第3章を読んでおく。授業後レポートの記入	
第8回	社会的排除の問題と社会教育		教科書第7章を読んでおく。授業後レポートの記入	
第9回	成人女性の学習について。食生活を例に		1週間の食生活調査の実施	
第10回	成人女性の学習と健康教育(ワークショップ)		授業後レポートの記入	
第11回	子どもの学校外教育		第2章を読んでおく。	
第12回	多文化共生の学習活動 環境教育を例に		第6章を読んでおく。授業後レポートの記入	
第13回	地域における生涯学習・我が地元を見つめ直す地元学の視点(1)		授業後レポートの記入	
第14回	地域における生涯学習・我が地元を見つめ直す地元学の視点(2)		授業後レポートの記入	
第15回	まとめ、ふりかえり		レポート試験の準備	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60%(期末レポート20%、公民館レポート10%、食生活調査レポート10%、授業ごとの小レポート20%)			
小テスト等	なし			
成果発表	10% 演習の成果を個人やグループで発表する。			
受講態度他	30%、授業への積極的な参加(グループワーク、発言など)を加味します。遅刻、私語など授業を妨げる行為はマイナス評価とします。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業そのものが、生涯学習における「学びあい」であることを認識し、教え、教えられるという関係だけではなく、受講者同士のグループワークや演習も、多く取り入れていきます。また、絶えず授業の内容と、自身の生活を結びつけて考えるよう心がけて下さい。受講者には、毎回提出していただく出席カード(A3版)を準備します。授業に出席し、出席カードに、コメントなど、必要事項を毎週すべて記入して提出した方のみ、出席したとみなします。また、このカードで講師への質問なども行うことができます。			
教科書	末本誠・松田武雄編『新版生涯学習と地域社会教育』春風社(2010年)			
指定図書	なし			
参考図書	佐藤一子編『地域学習の創造：地域再生への学びを拓く』東京大学出版会(2015年)			
オフィスアワー	授業開始前もしくは、もしくは授業後。できれば、メール等で事前に連絡をした上で相談下さい。	メールアドレス		

授 業 科 目	障害者・障害児心理学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	酒井 均		単 位	2
授業の目的 と概要	障害者・障害児の心理的特徴を理解し、この後のこれらの人の支援を含めた学習の基礎を身につけることを目的とします。 障害は多様で、それぞれの障害によって発達、心理的特徴があり、それを理解した上で接したり、支援することが大切です。 さらに障害のある人が自立していくために周囲が小さいころからどのようなことについて配慮していくのか知っておくことが大切です。			
到達目標	それぞれの障害における発達の特徴、心理的特徴を説明できる。 障害者の自立に向けて周囲の配慮事項を説明できる。 障害者の家族への支援の大切さが理解できている。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		ショートレポート	
第2回	障害の理解とその方法		ショートレポート	
第3回	知的障害の理解		ショートレポート	
第4回	自閉スペクトル症（ASD）の理解		ショートレポート	
第5回	注意欠如/多動症（ADHD）の理解		ショートレポート	
第6回	限局的学習症（LD）の理解		ショートレポート	
第7回	言葉の障害の理解		ショートレポート	
第8回	感覚障害の理解		ショートレポート	
第9回	肢体不自由の理解		ショートレポート	
第10回	病弱の理解		ショートレポート	
第11回	精神障害の理解 1（統合失調症、双極性障害、その他）		ショートレポート	
第12回	精神障害の理解 2（適応障害、摂食障害、人格障害、その他）		ショートレポート	
第13回	障害者の自立に向けて		ショートレポート	
第14回	障害者の就労		ショートレポート	
第15回	家族支援		最終レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	授業の終わりにショートレポート30％ 最終レポート70％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	参考にします			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	遅刻3回は欠席1階としてみなします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日12時30分～13時		メールアドレス	

授 業 科 目	障害者福祉論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	新家 めぐみ		単 位	2
授業の目的と概要	雇用不安や失業者の増大をはじめ深刻な社会状況において、障害とはいかなる問題であるのかを理解し、それに対応する福祉制度（障害者総合支援法）の仕組みを理解するとともに、その意義と課題を発見することを目的とする。 本講では、雇用不安や失業者の増大をはじめ深刻な社会状況において、障害とはいかなる問題であるのかを理解し、それに対応する福祉制度（障害者総合支援法）の仕組みを理解するとともに、その意義と課題を発見することを目的とする。それゆえ、視聴覚機器を用いて具体的な事例を検討しながら、現代社会における障害問題を理解し、それに対応する福祉政策・制度の基本的枠組や考え方について学ぶ。			
到達目標	1. 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会状況について理解できる。 2. 障害者総合支援法の枠組が理解できる。 3. 障害者総合支援法における専門家の役割や多職種連携のあり方について理解を深め、その課題を指摘することができる。 4. 障害者総合支援法の課題が指摘できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 障害者福祉を捉える視点			配布プリント復習→課題①	
第2回 障害を取り巻く社会状況①貧困と障害			配付プリント復習→課題②	
第3回 障害を取り巻く社会状況②累犯と障害			配付プリント復習→課題③	
第4回 障害の概念①法的規定			配付プリント復習	
第5回 障害の概念②ICIDH			配付プリント復習	
第6回 障害の概念③ICF			配付プリント復習	
第7回 障害者総合支援法の枠組み①目的と理念			配付プリント復習	
第8回 障害者総合支援法の枠組み②障害支援区分の認定			配付プリント復習	
第9回 障害者総合支援法の枠組み③支給決定の仕組みとプロセス			配付プリント復習	
第10回 障害者総合支援法の枠組み④サービス体系			配付プリント復習	
第11回 障害者総合支援法の枠組み⑤相談支援事業			配付プリント復習	
第12回 障害者総合支援法の枠組み⑥苦情解決・審査請求			配付プリント復習	
第13回 障害者総合支援法における専門家の役割と実際			配付プリント復習	
第14回 障害者総合支援法における専門家の役割と他職種連携			配付プリント復習	
第15回 障害者総合支援法の意義と課題			配付プリント復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	0％			
小テスト等	課題30％			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本講は社会福祉士・精神保健福祉士受験資格にかかわる指定科目です。			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規出版			
指定図書	なし			
参考図書	『社会福祉小六法』、京極高宣『障害者自立支援法の解説』全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会『障害者総合支援法とは』			
オフィスワーク	火4	メールアドレス		

授 業 科 目	障害者福祉論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	新家 めぐみ		単 位	2
授業の目的 と概要	障害者福祉論Ⅰで習得した障害者総合支援法に規定された制度の意義や課題がどのような歴史的展開を経て現代に至ったのか、その過程や考え方を理解することを目的とする。それを踏まえた上で、障害にかかわる様々な施策の体系・連携を理解し、その課題について考察することを目指している。 本講では、障害者福祉論Ⅰで習得した障害者自立支援法に規定された制度の意義や課題がどのような歴史的展開を経て現代に至ったのか、その過程や考え方を理解することを目的とする。それを踏まえた上で、障害にかかわる様々な施策の体系・連携を理解し、その課題について考察することを目指している。それゆえ、障害観の変遷に視点をあてて、障害者福祉制度の歴史的展開を概説する。さらに、障害者の福祉や介護にかかる他の障害者施策の概要について学び、その諸課題について考察を深めたい。			
到達目標	1. 障害者福祉制度の歴史的発展過程について理解できる。 2. 障害者の福祉や介護にかかる他の障害者施策について理解できる。 3. 障害者福祉の現代的課題を指摘できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	歴史を学ぶ意味		配付プリント復習	
第2回	障害者福祉制度の歴史的展開①傷兵保護事業前史		配付プリント復習	
第3回	障害者福祉制度の歴史的展開②戦前傷兵保護事業		配付プリント復習	
第4回	障害者福祉制度の歴史的展開③戦後処理期（ポジティブな側面）		配付プリント復習→課題①	
第5回	障害者福祉制度の歴史的展開④戦後処理期（ネガティブな側面）		配付プリント復習→課題②	
第6回	障害者福祉制度の歴史的展開⑤高度経済成長期		配付プリント復習→課題③	
第7回	障害者福祉制度の歴史的展開⑥「福祉見直し」以降		配付プリント復習	
第8回	障害者福祉制度の歴史的展開⑦国際障害者年の影響		配付プリント復習	
第9回	障害者福祉制度の歴史的展開⑧90年代福祉改革期～障害者自立支援法の成立		配付プリント復習	
第10回	他の障害者施策①身体障害者福祉法		配付プリント復習	
第11回	他の障害者施策②知的障害者福祉法		配付プリント復習	
第12回	他の障害者施策③精神保健福祉法		配付プリント復習	
第13回	他の障害者施策④障害者基本法		配付プリント復習	
第14回	他の障害者施策⑤虐待防止法、差別解消法		配付プリント復習	
第15回	障害をめぐる今日の課題（総括）		配付プリント復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	70％			
小テスト等	課題30％			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本講は社会福祉士・精神保健福祉士受験資格取得に関する指定科目です。			
教科書	講義時にレジュメ配布			
指定図書	なし			
参考図書	社会福祉士養成講座編集委員会『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規出版等			
オフィスワー	火 4	メールアドレス		

授 業 科 目	障害児発達心理演習【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	S. Kumar		単 位	2
授業の目的 と概要	障がいを持つ子どもの発達のプロセスや発達の遅れを理解し、現在使われている適切な支援法を学術論文の事例を通して学ぶ。障がいを持つ子どもの自立支援を客観的に考える。 子どもの特別な発達ニーズと国際レベルの学術論文による支援指導の観点から理解する。様々な発達検査や成績検査による発達支援を個人研究的に学ぶ。			
到達目標	自閉症、知的障がい、脳性まひ障がいを持つ子どもの特徴や診断基準の理解。社会的や職業的自立のため臨床心理学による指導援助と日常生活援助を事例研究と個人研究によって理解する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	障がいを持つ子どもの様々な障がいの理解と自立を支援する知識を身に着ける。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回 発達心理の理解			精神保健の定義理解課題	
第 2 回 発達障がいの分類と事例			健康な精神状態の理解課題	
第 3 回 知的障害の理解			不安と安心感についての復習	
第 4 回 知能検査・行動観察によるアセスメント			不安の状況などの復習	
第 5 回 学習への気づき質問紙			抑うつ状態の理解課題	
第 6 回 RAVEN’ S Achievement Test			脳機能の課題	
第 7 回 Anagram Task			躁うつ状態の理解課題	
第 8 回 自閉症の行動に関する事例論文			適応と不適応の予習	
第 9 回 自閉症の行動コントロール支援			ストレス解消法と考え方についての予習	
第10回 質問紙データの結果まとめ課題			こころの発達の理解課題	
第11回 研究論文の分析			乳幼児期の理解課題	
第12回 研究のため質問紙の選び方			発達障がいの復習	
第13回 質問紙課題による研究事例			対人関係のためこころの援助の予習	
第14回 研究データの収集事例			精神的健康状態の内容理解課題	
第15回 授業全体を通して障がい児の援助			様々なストレスの理解復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％ 論文レポート試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	減点（私語5％、遅刻3％、授業中携帯電話の使用など2％）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	特になし			
教科書	資料配布など			
指定図書	指定しない			
参考図書	Burack, Hodapp, Zigler 『Handbook of Mental Retardation and Development』 Cambridge Uni. Kazuo Shigemasu 『Japanese Psychological Research』 Wiley-Blackwell			
オフィスワー	授業の前後、昼休み（12:30～13:00）		メールアドレス	

授 業 科 目	【閉講】障害児発達心理特論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	酒井 均		単 位	2
授業の目的 と概要	障害児（特に乳幼児）の発達心理的・生理的特徴を知り、それをを援助する方法についての理解を深める。 まず、発達に障害があるとはどのようなことか学習した後、人間としての基礎が形成されていく乳幼児期と児童期の発達について学んでいく。 さらに、発達を援助する方法を学習した後、アセスメントについて実際のな学習を行う。 最後に障害を抱えた子どもの家族を支援する方法について学んでいく。			
到達目標	各障害（特に発達障がいを中心に）の心理的、生理的特徴を説明できる。 発達を援助する方法を説明できる。 家族に対し発達心理的な視点を提供でき、支援ができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	－			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション			予習	
第 2回 発達障害について			予習	
第 3回 生育史について（１）反射			予習	
第 4回 生育史について（２）ことば			予習	
第 5回 生育史について（３）社会性			予習	
第 6回 生育史について（４）その他			予習	
第 7回 発達支援について（１）	ABAとBAA		予習	
第 8回 発達支援について（２）	感覚統合		予習	
第 9回 アセスメントについて			予習	
第10回 田中ビネー			予習	
第11回 WISCとK-ABC			予習	
第12回 ITPAとDTVP			予習	
第13回 見学学習			感想等	
第14回 見学学習			感想等	
第15回 障害受容と家族支援			発表準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ 90％ 講義は質問応答形式で進めます。受け答えを評価します。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	毎回授業の最後に次回のテーマの課題を出します。かならず予習すること。 「わかりません」は厳禁です。			
教科書	使用しません			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日12：30～13：00 生息地8号館 4F		メールアドレス	

授 業 科 目	障がい児保育【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	S. Kumar		単 位	2
授業の目的と概要	障害児（特に幼児）の心理的・生理的特徴を知り、それにあった対応ができるようになる。 乳幼児期の障害は理解しにくい場合が多く、保護者の受け入れも困難な場合が多い。ここでは障害の心理的・生理的な特徴を学習し、それにあった対応がどのようなものであるかを学習していく。また、乳幼児期は保護者の影響が大きい時期でもある。障害を持った子どもの保護者の心理的サポートも重要である。そのサポートをどのように行なったら良いかについても学習していく。			
到達目標	各障害の心理的・生理的特徴を説明できる。 障害に応じた適切な対応法を提案できる。 保護者に対するカウンセリングを含めた対応の方法を提案できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション・障がいとは		障がいの理解についてのレポート作成	
第 2 回	ノーマライゼーションの考え方		Inclusion についてのレポート作成	
第 3 回	自閉症について		自閉症の主な特徴のレポート作成	
第 4 回	ADHDについて		ADHDの特徴の理解と対応のレポート作成	
第 5 回	知的障害について		知的障害のレベルと日常生活指導についてのレポート作成	
第 6 回	感覚統合について		押す、引く、吹く、吸う、止まるなど感覚の理解レポート作成	
第 7 回	発達障がいの理解		発達の異常とは何かについてのレポート作成	
第 8 回	発達障がいの理解と事例		自閉症児の乳幼児の関わり方についてのレポート作成	
第 9 回	ことばの障がいについて		ことばの発達のプロセスの理解についてのレポート作成	
第10回	ダウン症について		ダウン症の特徴についてのレポート作成	
第11回	運動障がいについて		肢体不自由児、脳性麻痺児についてのレポート作成	
第12回	聴覚障がいについて		難聴についてのレポート作成	
第13回	視覚障害について		弱視の支援に使われる指導教材についてのレポート作成	
第14回	家族支援について		保護者のサポートにつながる支援の理解についてのレポート作成	
第15回	障がい児保育全体内容のまとめ		全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	90％筆記試験			
レポート	なし			
小テスト等	－			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ ： 私語（5％）、携帯使用（3％）、遅刻（2％）。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業で紹介した内容をノートに記入しておくこと。			
教科書	使用しません、プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	平山 諭・清水 良三・栃尾 勲『障害児保育コンセンサス』福村出版 、 深津 時吉・岸 勝利『障害児の心理的理解』プレーン出版 、 若井淳二・水野薫・酒井幸子『障害児保育テキスト』			
オフィスワー	授業の前後、昼休み（12:30～13:00）		メールアドレス	

授 業 科 目	生涯発達心理学Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大 霧 香		単 位	2
授業の目的 と概要	人は受精から死ぬまで生涯発達していくが、乳幼児期から児童期までは特に著しく変化をとげる時期である。本授業では胎児期、乳幼児期、児童期までの発達について学ぶことを目的とする。認知機能の発達、感情・社会性の発達、自己と他者の関係のあり方など心理学的な視点から学びを深めていく。さらに、発達障害等を含む非定型発達についての基礎的な知識を身につける。また、子どもを理解するための視点や子どもが健やかに成長していくための援助の在り方についても理解を深める。			
到達目標	・胎児期から児童期の各時期の発達の特徴を説明することが出来る。 ・認知・人間関係・情緒など諸側面の発達について概観を述べる事が出来る。 ・子どもの発達と周囲の大人からの働きかけについて述べる事が出来る。 ・発達障害等を含む非定型発達について説明することが出来る。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福C (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	生涯発達心理学とは		教科書はしがき、0章の復習 ミニレポ ート	
第2回	各時期における発達の特徴・発達の理論		教科書0章の復習・教科書1章の復習 @復習プリントへの準備	
第3回	胎児期の発達		教科書2章の復習 復習プリントへの準備	
第4回	乳幼児期の認知の発達		教科書3章の復習 復習プリントへの準 備	
第5回	コミュニケーションと人間関係の発達（1） アタッチメントの発達		教科書第4章の復習 復習プリントへの 準備	
第6回	コミュニケーションと人間関係の発達（2） アタッチメントの個人差		教科書第4章の復習 復習プリントへ の準備	
第7回	言語の発達（1） ことばが芽生えるまで		教科書5章の復習 復習プリントへの準 備	
第8回	言語の発達（2） 幼児期の言語発達		教科書5章の復習 復習プリントへの準 備	
第9回	遊びの発達		教科書5章の復習 復習プリントへの準 備	
第10回	自己の発達		教科書6章の復習 復習プリントへの準備	
第11回	感情の発達		教科書7章の復習 復習プリントの準備	
第12回	仲間関係・社会性の発達		教科書7章の復習 復習プリントへの準備	
第13回	児童期の思考の発達（1） 学校での学び		教科書8章の復習 復習プリントへの準 備	
第14回	児童期の思考の発達（2） 動機づけ		教科書8章の復習 期末試験への準備	
第15回	非定型発達への理解 まとめ		授業全体の復習 期末試験への準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	期末試験 70％			
レポート	授業ごとの復習プリント・ミニレポート（4回） 30％			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	受講態度が著しく悪い場合は減点する。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	私語は禁止する。 積極的に質問すること。			
教科書	坂上裕子他著 『問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学』 有斐閣			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に紹介する			
オフィスアワー	火曜日 4 講目		メールアドレス	

授 業 科 目	生涯発達心理学Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	板井 修一		単 位	2
授業の目的と概要	の科目は、基礎科目のうちの人間理解に関する科目である。学部における4年間の学びや研究に必要な理論・技法を身につけ、そのうえでひとの心の発達とはどういうことかを理解するための科目である。 思春期と青年期は、人の一生のなかでも、身体的・精神的に大きな成長、変化を体験する時期でもある。青年期は疾風怒濤の時代と表現されることもあるように、精神的に不安定になる危険性を孕んでいるが、アイデンティティの獲得が発達課題ともなる重要な時期でもある。その後の成人期は、仕事や子育てに没頭する時期でもあるが、中年期には心の揺らぎが生ずる危機を孕んだ時期でもある。老年期は人生の完結期とも言われるが、さまざまな心の拠り所としていたものを失う、「喪失を体験する危機の時」でもあります。授業は、各発達段階の特徴について、理解し説明できるようになることを目的とする。			
到達目標	1. 各発達段階の特性を理解し、説明することができる。 2. 各発達段階における発達課題について、的確に説明することができる。 3. 各発達段階における適応上のつまずきと病気について、説明することができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福C (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。2 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	思春期の特性、第二性徴と身体的発達		自分の思春期体験について振り返りまとめる	
第 2回	思春期の心理と危機		自分の思春期を振り返り、親や大人との関係について分析・整理	
第 3回	青年期の特色		「アイデンティティ」とは何かについて調べる	
第 4回	青年期の心理特性（1）青年中期		アイデンティティ獲得をテーマとした映画を視聴	
第 5回	青年期の心理特性（2）青年後期		視聴した映画について内容を分析・整理	
第 6回	青年期の発達課題		自分のアイデンティティ確立のプロセスと現状について点検しまとめる	
第 7回	成人期の特色		成人期に関係した配布資料を読む	
第 8回	成人期の心理と中年の危機		中年世代の心理的危機について、さまざまな情報源から実例を探す	
第 9回	成人期の発達課題		親の生き方から、成人期の発達課題を点検・整理する	
第10回	老年期の特色		老年期に関連する配布資料を読む	
第11回	老化に伴う身体的変化		廊下に伴う身体的変化とエイジズムについて調べる	
第12回	老年期の心理		高齢者の自殺について調べる	
第13回	老年期の発達課題		高齢者の生き甲斐について調べる	
第14回	ターミナル期の心理的課題		ターミナルケアについて調べる	
第15回	総括		総括で話した、授業内容のポイントについて復習する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験			
レポート	0%			
小テスト等	40% [（期日内提出5点＋内容5点）×4回=40点]			
成果発表	0%			
受講態度他	授業の進行を妨げるような私語については、厳しく注意します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義をよく聴き、ノートにきちんとまとめること。4つの発達段階ごとに、まとめの小テストを実施する。授業外学習として出された課題は、各自ファイルを作成し整理をする。提出を求め、点検をすることがある。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて随時紹介をする。			
オフィスワー	火曜日の3時間目		メールアドレス	

授 業 科 目	消費社会論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	花野 裕康		単 位	2
授業の目的と概要	何かを消費しない社会などないのにあえて「消費社会」と呼ぶからには、現代社会における消費に関して何か特別な性質や要因があるに違いない。この授業では、現代を特に「消費社会」と呼ぶ「性質」や「要因」を具体的に探って行く。そこでは、一見「消費」と無関係な「記号」や「誇示」などが重要な役割を果たすことになるだろう。自分が今何をどのように「消費したい」のか、常に胸に手を当てて考えながら受講し、そういう身近なところから現代の「消費社会」性を知ることがこの授業の目的となる。たとえば、授業のテキスト代が3000円だと「高すぎる!」となるのに、ダウンジャケットが同じ価格だと「安い!」となり、また毎月のスマホ代が10000円超えても「仕方ないかな」となるのはなぜか。なお授業では講義者（花野）が受講者と対話を行いながら考察を進めて行くので、主体的積極的に受講してほしい。			
到達目標	①現代社会が消費社会と呼ばれるゆえんを簡潔に口頭で説明できる。 ②消費社会の性質について、「記号」「広告」「物語」等のキーワードを用いながら説明できる。 ③消費社会のこれからについて、社会学的な視点から持論を展開できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 本科目は、「経営情報論」や「マーケティング・リサーチ」はもとより、現代社会学部にて開講の社会学系科目（現代社会学概論I,II、社会学入門、社会学史、理論社会学、産業社会学、社会意識論）とも関わりが深い科目となります。また、コース違いにはなりますが、メディア社会コース開講科目である「広告論」「メディア産業論」や「文化産業論」「表象文化論」「サブ・カルチャー論」などとも関連のある科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 「あなたは今何を消費しているか？」			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第2回 消費社会の以前と以後			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第3回 商品価値の3類型			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第4回 フォードVS.GM			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第5回 記号としての消費			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第6回 「大きな物語」と消費			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第7回 広告と消費			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第8回 物語の分散と消費の物語化			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第9回 情報化と消費化			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第10回 データベース的消費			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第11回 文化と消費			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第12回 差異化と卓越化			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第13回 空間の消費			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第14回 消費のフェス化			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第15回 消費社会の総括と展望			「総括の小論」を作成し提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	100％（毎回の授業にて実施するものと、授業後に自宅で解答してもらうものがある。その積み重ねで評価する。なお小テスト等は次週授業開始時[その週休んだ場合はそれ以降の授業開始時、また授業終了後はオフィスアワー時]に返却する）			
成果発表	なし			
受講態度他	欠席や授業に積極的に参加しない等、受講態度が芳しくない受講者に関しては、小テストを受け取らない。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること（病欠や忌引きであってもその回の小テストが受けられない事には変わりはないので要注意）。これまでの自らの経験と知識とを総動員しながら考えつつ受講すること。講義者（花野）とのやり取りに積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。特に（許可された場合以外での）スマホ操作、居眠り、他の受講者に迷惑がかかる行為は厳禁とする。見つけ次第退出もしくはこれに代わる措置を取る。その代わり授業中に5分休憩を取る。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス		

授 業 科 目	書誌学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	安永 美恵		単 位	2
授業の目的と概要	日本の古典籍を対象として、その特性を理解し、取扱いに必要な基礎的な知識を身に付けます。講義では、日本の古典籍の、歴史・特性、具体的な構成要素について、最も多数の現存本が残る江戸時代の版本を中心に学びます。一点一点の資料には、それぞれ個性があること、特性に適った扱い方が必要であることを、適宜、参考資料を用いながら、理解してゆきます。 また、古典籍について調査するための、基本的な方法を知ることができます。			
到達目標	1 日本の古典籍の形態や特性を説明することができる。 2 日本の古典籍に関する主な書誌学用語を理解し、用いることができる。 3 版本を対象として、簡単な書誌調査を行うことができる。 4 現存する日本の古典籍について、基礎的な範囲での情報収集を行うことができる。 5 古典籍について調査した結果をレポートにまとめて、自分の見解を述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。 (2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 主に明治期以前の書物に収められた内容を対象とする科目と関連があります。古典文学分野や日本文化分野の他、「卒業論文」において、古典籍資料を取り扱う場合に関連があります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 ガイダンス：授業の目的、書誌学について			テキストの予習と復習	
第 2回 文字を読む：変体仮名とくずし字			配布資料による読む練習	
第 3回 書物の歴史と形態（１）： 紙の出現以前と以後			配布資料による読む練習	
第 4回 書物の歴史と形態（２）： 書物の装訂			国会図書館HPを利用して古典籍の装丁を見る	
第 5回 書物の歴史と形態（３）： 袋とじ			袋綴じ作業の復習	
第 6回 書物の種類： 写本と刊本			博物館、資料館等の展示古典籍の装訂を調べる	
第 7回 書物の種類： 刊本（整版）			課題：『日本書誌学大系』の論文を読み、レポートにまとめる	
第 8回 書物の種類： 刊本（活字版）			課題：『日本書誌学大系』の論文を読み、レポートにまとめる	
第 9回 製版本のできるまで			書誌学参考文献を読む	
第10回 書物の種類： 刊本の検討方法			書誌学参考文献を読む	
第11回 書物の各部位の名称			書物の各部位の名称を覚える	
第12回 江戸時代の書物の分類			書物の分類を覚える	
第13回 書誌調査入門			課題：図書館での書誌調査	
第14回 参考情報の利用			課題：図書館での書誌調査、書籍情報調査	
第15回 補足、まとめ。レポート作成上の注意事項。			レポート準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。（但し、受講者数が多数の場合には、試験に変更する場合がある。）			
レポート	80％。（但し、上記の場合、なし）授業での課題2（20％）、期末レポート（書誌調査）（60％）			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	20％ 作業を含む授業への積極的な態度を考慮。授業内容に関する記述課題。調査課題。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義の冒頭や終了前に、課題の確認や講義内容に関する質問を、口頭またはカードで行う場合があります。 資料に触れる前の手洗い励行。資料を扱い、調査方法を説明するので、B以上の柔らかい鉛筆と、物差またはメジャーを準備してください。 袋綴じ演習には、太めの針と糸、はさみを持参してください。			
教科書	廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』世界思想社、プリント配布。			
指定図書	なし			
参考図書	『日本古典籍書誌学辞典』岩波書店、中野三敏『江戸の板本 書誌学談義』岩波書店、堀川貴司『書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む』勉誠出版、その他は授業時に紹介する。			
オフィスアワー	火曜昼休み、金曜 5 限		メールアドレス	

授 業 科 目	初等家庭科概論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	金井 千尋		単 位	2
授業の目的と概要	小学校の家庭科は、児童が知識や技能を身に付けるとともに生活の営みを大切にしようとする意欲や態度を育むことを目標にした教科であり、その内容は生涯にわたる家庭生活を支える基盤となる。 この授業は、将来児童を指導することを踏まえて、小学校における家庭科教育の役割や目標を知り、各内容を深く理解することを目的としている。講義を通じて基礎的知識を身に付けるとともに、調べ学習やグループ活動を行い、配布資料・課題プリントを利用して自分自身の生活を振り返ることにより課題点を見つけ、生活における問題解決方法を考察していく。簡単な製作実習によって教科目標の理解を深め、手縫いの基礎的技能を習得する。			
到達目標	1. 家庭科の教科としての特徴を説明することができる。 2. 小学校学習指導要領家庭科の教科目標や内容について述べることができる。 3. 家庭科の基礎的知識について理解し、説明することができる。 4. 身近な素材を利用した簡単な作品を製作することができる。 5. 手縫いの基礎的技能を身に付ける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初C（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C（3）-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 「初等教科教育法（家庭）」へと発展させていく。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション 家庭科教育の特徴		このシラバスを読んでおく。今まで学んだ家庭科の内容を確認する。	
第 2回	小学校学習指導要領家庭科の目標と内容		学習指導要領解説の該当箇所を熟読する。	
第 3回	家族とは何か 家庭の仕事と生活時間		学習指導要領解説の該当箇所を熟読する。 生活時間を記録し考察する	
第 4回	食事の役割		学習指導要領解説の該当箇所を熟読する。 食事のマナーを調べる。	
第 5回	栄養素の働きと食品の栄養的特徴（1） ―炭水化物・脂質・たんぱく質―		学習指導要領解説の該当箇所を熟読する。	
第 6回	栄養素の働きと食品の栄養的特徴（2） ―無機質・ビタミン―		食品の特徴を調べる。食事記録をつけ次の講義の資料とする。	
第 7回	献立と調理		厚労省のHPにアクセスし、食事バランスガイドを確認する。	
第 8回	調理の基礎（1） ―調理計画・調理法―		学習指導要領解説の該当箇所を熟読する。	
第 9回	調理の基礎（2） ―米飯及びみそ汁・用具や食器の取り扱いと管理―		学習指導要領解説の該当箇所を熟読する。	
第10回	衣服の働きと衣服の素材の種類と性質		学習指導要領解説の該当箇所を熟読する。 衣服の組成を調べ、まとめる	
第11回	日常の手入れと洗濯		学習指導要領解説の該当箇所を熟読する。 洗剤の種類を調べる。	
第12回	快適な着方・快適な住まい方		学習指導要領解説の該当箇所を熟読する。 発表の準備をする。	
第13回	被服製作の基礎 ―製作計画・手縫いの実習―		学習指導要領解説の該当箇所を熟読する。 製作用具の準備をする。	
第14回	被服製作の基礎 ―手縫いの実習・用具の安全な取り扱い―		作品を仕上げ、製作記録を完成させる。	
第15回	消費生活と環境 まとめ		学習指導要領解説の該当箇所を熟読する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 定期試験期間中に60分間の筆記試験を行う。 詳細は授業内で指示する。			
レポート	20％ 課題プリント 詳細は授業内で適宜指示する。			
小テスト等	なし			
成果発表	10％ 製作作品 提出日は授業内で指示する。			
受講態度他	10％ 授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	将来、教職に就く者として真摯な態度と積極的な授業参加を期待します。 実習に関しては各自用意するものがあります。詳細は授業時にお知らせします。 必要な材料や用具は確実に準備してください。 配布プリントは資料として取りまとめ、授業時に持参してください。 グループ活動では互いに協力し合い、実習では常に安全面に留意するようにしてください。			
教科書	文部科学省 『小学校学習指導要領解説 家庭編』 東洋館 内野紀子 鳴海多恵子 石井克枝他 『小学校わたしたちの家庭科 5・6』 開隆堂			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の中で適宜お知らせします。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	初等教育研究【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	稲田 八穂		単 位	1
授業の目的と概要	大学で学修した基本的知識・技能を基盤にし、小学校における見学実習を通して教師の授業力や子どもの理解、子どもとの関わり方を学ぶ。子どもの成長に関わる「体験」とその「体験」を通した「省察」から、小学校教師のという仕事の理解を深め、教師としての使命感をさらに高める。実習前の事後指導、実習後の振り返りを通して学習を一層効果的なものとする。			
到達目標	○小学校教師の一日を観察することにより、職務内容を理解することができる。 ○担当教師の子どもとの関わりから、一人一人の子ども理解と適切な対応について学ぶことができる。 ○教科指導の観察を通して子ども理解に立った学習指導の在り方を学ぶことができる。 ○体験後の省察を通して、小学校教育に対する課題を発見し、解決の道筋を討議することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション、小学校見学実習の意義について		予習： 小学校見学実習に対する自分の思いをまとめておく。	
第2回	小学校の一日と子どもの生活 観察実習の進め方について		復習： 小学校の一日を子どもという視点でまとめる。	
第3回	授業観察の仕方（授業の流れ、発問、板書など）について		復習： 教師の授業づくりという視点でまとめる	
第4回	学校生活における安全指導について・実習直前ガイダンス		予習： 実習校について事前学習をしておく。	
第5回	見学実習で見つけた課題をグループ討議で明らかにする。		予習、復習： 見学実習での学び、課題を整理しておく。	
第6回	見学実習事後指導		予習： 見学実習における課題をまとめておく。	
第7回	小学校教師の仕事		予習： 実習日誌から見える小学校教師の使命をまとめておく。	
第8回	小学校教育における実践課題と本実習への自身の課題		復習： 教育実習に向けて自身の課題にしたいことをまとめる。	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50％ 見学実習記録（実習日誌、事前学習、振り返り）			
小テスト等	—			
成果発表	30％ 実習校における振り返りの発表をグループごとにまとめる			
受講態度他	20％ グループ討議における積極的な参加、意見発表			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教師を目指すという自覚をもって臨み、小学校における本実習の受講を前提とする。			
教科書	『小学校学習指導要領 総則編』文部科学省			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の際に紹介する			
オフィスワー	火曜日午後、金曜日午前		メールアドレス	

授 業 科 目	初等教育実習Ⅰ【実習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	松本 和寿・稲田 八穂・石原 努		単 位	2
授業の目的 と概要	実習前の学習としては学内オリエンテーションや講義、小学校教師や校長の講話等を通じて、教育実習の意義、子どもの理解、教師と子どもの関わり方などについて理解する。また、実習終了後は、実習の反省・評価を行い、実習体験を振り返りながら新たな課題の設定を行うなどを目的としている。 教育実習に向けての心がまえや実習の意義・目的を理解し、実習記録の書き方など実習に向けて、事前準備ができるようにする。また、実習終了後は、実習体験をふまえて、感想等の交流やテーマを設定した意見交換を行い教職に向けての基本的な認識を確かなものにする。			
到達目標	小学校教育実習の意義や目的内容を説明することができるとともに、実習記録の書き方、実習の心構えなどについて説明することができる。また、自己の実習課題を明確に説明することができることを目標とする。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		幼稚園実習の際の成果と課題を明らかにしておく。	
第2回	学校経営（小学校の意義）		1年次科目「教職入門」の関係部分を整理しておく。	
第3回	学校経営（学校の組織、関係法規）		1年次科目「教職入門」の関係部分を整理しておく。	
第4回	学校経営（危機管理、安全指導、研修）		1年次科目「教職入門」の関係部分を整理しておく。	
第5回	学級経営（学級集団づくり）		目指す学級の姿をまとめておく。	
第6回	学級経営（人権教育）		2年次科目「人権教育」の内容について整理しておく。	
第7回	学級経営（特別支援教育）		特別支援学校での成果と課題を整理しておく。	
第8回	教科指導（基本的な展開）		「初等教科教育法」（各教科）の内容を整理しておく。	
第9回	教科指導（指導案、板書、評価）		「初等教科教育法」（各教科）の内容を整理しておく。	
第10回	教科指導（模擬授業）		第8回で提示するテーマに関する展開を考えておく。	
第11回	教育実習に向けて（日誌の書き方他）		幼稚園実習の際の日誌の内容を整理しておく。	
第12回	教育実習に向けて（講話）		目指す教師像についてまとめておく。	
第13回	教育実習に向けて（実習生調書他の書き方）		実習校の情報、期間等をまとめておく。	
第14回	教育実習に向けて（心構え、注意事項、詳細確認等）		実習に臨む目的や課題を整理しておく。	
第15回	教育実習を追えて ※後期に実施		実習の成果と課題w明らかにしておく。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	60％			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	30％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教師を目指すという自覚をもって臨むこと。			
教科書	特に指定しない。			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	小学校学習指導要領 文部科学省			
オフィスワーク	担当教員の他科目のシラバスを参照すること。		メールアドレス	

授 業 科 目	初等教育実習Ⅱ【実習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	松本 和寿・稲田 八穂・石原 努		単 位	4
授業の目的 と概要	小学校での実習を通して、大学で学修した教科の知識と技術を基盤とし、子ども理解や子どもとのかかわり方を把握しながら学校での実習を行い、小学校教諭という仕事への理解を深めるとともに、指導力の基礎を培うことを目的とする。 3年次の後期、5月中旬～6月上旬まで、4週間、小学校における実習を行う。希望する小学校に依頼し実習校を決定する。実習前と実習後に、それぞれ事前と事後の指導を行う。			
到達目標	1 一人一人の子どもに対する理解を深める。 2 小学校教諭の職務内容を理解する。 3 教科の指導や子どもとのかかわり方、学級経営など、指導力の基礎をつける。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 実習校による指導（校長講話、担当者からの連絡等、配属学級での実習）			3年次科目「初等教育実習指導」の内容を整理しておく。	
第2回 実習校による指導（配属学級での実習）			大学での関連科目の内容を整理しておく。	
第3回 実習校による指導（配属学級での実習）			大学での関連科目の内容を整理しておく。	
第4回 実習校による指導（配属学級での実習）			大学での関連科目の内容を整理しておく。	
第5回 実習校による指導（配属学級での実習）			大学での関連科目の内容を整理しておく。	
第6回 実習校による指導（配属学級での実習）			大学での関連科目の内容を整理しておく。	
第7回 実習校による指導（配属学級での実習）			大学での関連科目の内容を整理しておく。	
第8回 実習校による指導（配属学級での実習）			大学での関連科目の内容を整理しておく。	
第9回 実習校による指導（配属学級での実習）			大学での関連科目の内容を整理しておく。	
第10回 実習校による指導（配属学級での実習）			大学での関連科目の内容を整理しておく。	
第11回 実習校による指導（配属学級での実習）			大学での関連科目の内容を整理しておく。	
第12回 実習校による指導（配属学級での実習）			大学での関連科目の内容を整理しておく。	
第13回 実習校による指導（配属学級での実習）			大学での関連科目の内容を整理しておく。	
第14回 実習校による指導（配属学級での実習）			大学での関連科目の内容を整理しておく。	
第15回 実習校による指導（配属学級での実習、実習の総括的指導）			大学での関連科目の内容を整理しておく。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	20％（日誌、指導案等の必要文書）			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	40％（実習授業等）			
受講態度他	40％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教師を目指すという自覚をもって臨むこと。			
教科書	特に指定しない。			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	小学校学習指導要領（文部科学省）			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照すること	メールアドレス		

授 業 科 目	初等教育実習指導【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	一木 信治・稲田 八穂・石原 努・松本 和寿		単 位	1
授業の目的と概要	実習前の学習としては学内オリエンテーションや講義、小学校教師や校長の講話等を通じて、教育実習の意義、子どもの理解、教師と子どもの関わり方などについて理解する。また、実習終了後は、実習の反省・評価を行い、実習体験を振り返りながら新たな課題の設定を行うなどを目的としている。 教育実習に向けての心がまえや実習の意義・目的を理解し、実習記録の書き方など実習に向けて、事前準備ができるようにする。また、実習終了後は、実習体験をふまえて、感想等の交流やテーマを設定した意見交換を行い教職に向けての基本的な認識を確かなものにする。			
到達目標	小学校教育実習の意義や目的内容を説明することができるとともに、実習記録の書き方、実習の心構えなどについて説明することができる。また、自己の実習課題を明確に説明することができることを目標とする。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 この授業は「初等教育実習Ⅰ・Ⅱ」、「教職実践演習（幼・小）に関連する科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		幼稚園実習の際の成果と課題を明らかにしておく。	
第2回	学校経営（小学校の意義）		1年次科目「教職入門」の関係部分を整理しておく。	
第3回	学校経営（学校の組織、関係法規）		1年次科目「教職入門」の関係部分を整理しておく。	
第4回	学校経営（危機管理、安全指導、研修）		1年次科目「教職入門」の関係部分を整理しておく。	
第5回	学級経営（学級集団づくり）		目指す学級の姿をまとめておく。	
第6回	学級経営（人権教育）		2年次科目「人権教育」の内容について整理しておく。	
第7回	学級経営（特別支援教育）		特別支援学校での成果と課題を整理しておく。	
第8回	教科指導（基本的な展開）		「初等教科教育法」（各教科）の内容を整理しておく。	
第9回	教科指導（指導案、板書、評価）		「初等教科教育法」（各教科）の内容を整理しておく。	
第10回	教科指導（模擬授業）		第8回で提示するテーマに関する展開を考えておく。	
第11回	教育実習に向けて（日誌の書き方他）		幼稚園実習の際の日誌の内容を整理しておく。	
第12回	教育実習に向けて（講話）		目指す教師像についてまとめておく。	
第13回	教育実習に向けて（実習生調書他の書き方）		実習校の情報、期間等をまとめておく。	
第14回	教育実習に向けて（心構え、注意事項、詳細確認等）		実習に臨む目的や課題を整理しておく。	
第15回	教育実習を追えて ※後期に実施		実習の成果と課題を明らかにしておく。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	60％			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	30％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教師を目指すという自覚をもって臨むこと。			
教科書	特に指定しない。			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	小学校学習指導要領 文部科学省			
オフィスワー	月曜日・金曜日の昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	初等教科教育法（音楽）【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	北原 幸子		単 位	2
授業の目的 と概要	音楽科における表現及び鑑賞の活動を通して、学習指導要領に示された目標、内容を理解することができるようにする。 また、音楽的な見方・考え方を働かせ、音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成を目指す授業の在り方について理解を深める。 指導目標を立て、指導内容を構成し、楽しく学べるような指導方法を設定し、子ども自身が学習で身につけた内容を評価できるような 学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、授業実践力を培うことを目的とする。			
到達目標	・音楽科の教育目標を理解して題材の指導計画案を作成することができる。 ・音楽科指導に関わる指導内容を理解して学習指導案を作成することができる。 ・音楽科指導に関わる指導方法を理解して学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。 ・音楽科指導における評価の方法を理解して評価表を作成したり、模擬授業の中に評価活動を取り入れたりすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	「（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。」の達成に関わる科目です。音楽概論で身に付けた音楽科に関する基礎的な知識や学習指導要領の内容を踏まえながら、模擬授業等を通して、実践的指導力を養います。 他教科等の教科教育法も受講することで、教科の特性を理解することにつながります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	学習指導要領における音楽科の概観と音楽教育の目標について		学習指導要領全体を詳読する。	
第2回	小学校学習指導要領（音楽）について、教科目標、各学年の目標、内容を理解する		目標、内容等をまとめる。	
第3回	年間指導計画、学習指導案のたて方、評価の意義		学習指導案について復習する。	
第4回	教材研究のあり方、学習指導案の作成		学習指導案の作成をする。	
第5回	第1学年表現の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫		1年表現の学習指導についてまとめる。	
第6回	第2学年表現の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫		2年表現の学習指導についてまとめる。	
第7回	第1・2学年鑑賞の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫		低学年鑑賞指導についてまとめる。	
第8回	第3学年表現の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫		3年表現の学習指導についてまとめる。	
第9回	第4学年表現の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫		4年表現の学習指導についてまとめる。	
第10回	第3・4学年鑑賞の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫		中学年鑑賞指導についてまとめる。	
第11回	第5学年表現の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫		5年表現の学習指導についてまとめる。	
第12回	第5学年鑑賞の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫		5年鑑賞指導についてまとめる。	
第13回	第6学年表現の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫		6年表現の学習指導についてまとめる。	
第14回	第6学年鑑賞の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫		6年鑑賞指導についてまとめる。	
第15回	授業評価による授業改善の工夫と講義のまとめ		全体を振り返りまとめる。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％ 学習指導案細案提出			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50％ 模擬授業、協議会参加態度等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自ら積極的に授業に関わってください。			
教科書	初等科音楽教育研究会編『改訂新版 初等科音楽教育法』音楽之友社2008			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の際に指示する			
オフィスワー	月曜日 1、2 限 水曜日昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	初等教科教育法（家庭）【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	金井 千尋		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業は、小学校家庭科の意義や学習内容を理解したうえで、将来指導者となるための視点から具体的な教材研究を通して実習や模擬授業を行い、学習指導に関する実践力をつけることを目的としている。 家庭科の歴史と意義を理解し、児童用教科書を活用しながら、小学校家庭科の学習内容に沿って教材研究を実施する。調理実習・被服実習を通して、基礎的技能の習得とともに安全・衛生管理、実習の準備、用具の管理、効果的な指導方法を学び、学習者と指導者の両方の立場から内容を理解し実践する。模擬授業においては、グループ活動にて授業づくりを行い、発表・相互評価によって実践力をつける。			
到達目標	1. 家庭科の歴史からその今日的意義を説明することができる。 2. 小学校5,6年の2年間にわたる学習の題材構成を知る。 3. 調理実習や被服実習の指導に必要な知識や技能を理解し、実践できるようになる。 4. 家庭科の授業づくりを実施し、学習指導案を作成する。 5. 模擬授業を実施し、相互評価する。 6. グループ活動において互いに協力し、積極的に参加することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 「初等家庭科概論」の内容を実践的に発展させていく。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション 家庭科の歴史と意義、指導計画		このシラバスを読んでおく、学習指導要領で目標と内容を確認しておく	
第 2 回	衣生活に関する指導に必要な基礎知識 被服製作実習指導の実践（1） 製作計画 型紙作成		安全対策に関する内容をまとめておく 用具の準備、デザインを決めておく	
第 3 回	被服製作実習指導の実践(2) 基礎的技能の習得・布を用いた製作①		製作に適する用布や材料を準備する ミシンの使い方を確認しておく	
第 4 回	被服製作実習指導の実践(3) 布を用いた製作②		基礎的技能の復習をする ポケット以外の縫製を終わらせておく	
第 5 回	被服製作実習指導の実践(4) 布を用いた製作③		作品を完成させ、実習記録をまとめる	
第 6 回	食生活に関する指導に必要な基礎知識		調理実習の安全対策に関する内容をまとめておく	
第 7 回	調理実習指導の実践（1） 用具や器具の取り扱いと管理・基礎的技能の習得		エプロン・三角巾・材料を準備する 調理実習の記録をまとめる	
第 8 回	学習指導と学習指導案		模擬授業で担当する内容を児童用教科書で確認する	
第 9 回	調理実習指導の実践（2） 献立と調理①		エプロン・三角巾を準備する 米飯とみそ汁の作り方を確認しておく	
第10回	調理実習指導の実践（3） 献立と調理②		調理実習の記録をまとめる	
第11回	学習指導案の作成と教材研究		学習指導案を模擬授業の前までに作成し、受講者全員に配布する	
第12回	模擬授業による授業研究(1) 家族・家庭生活		模擬授業の準備をする 学習指導案をよく読んでおく	
第13回	模擬授業による授業研究(2) 衣食住の生活		模擬授業の準備をする 学習指導案をよく読んでおく	
第14回	模擬授業による授業研究(3) 衣食住の生活		模擬授業の準備をする 学習指導案をよく読んでおく	
第15回	模擬授業による授業研究(4) 消費生活・環境 相互評価とまとめ		模擬授業の準備をする 学習指導案をよく読んでおく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	4 0％ 詳細は授業にてお知らせします。			
レポート	2 5％ 調理実習、被服実習、授業プリント等			
小テスト等	なし			
成果発表	2 5％ 製作作品、模擬授業等			
受講態度他	1 0％ 授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	将来、教職に就く者として真摯な態度と積極的な授業参加を期待します。 実習に関しては各自準備するもの（裁縫用具・製作材料など）があります。詳細については授業にてお知らせします。 必要な材料や用具は確実に準備してください。 被服製作・調理実習は2回分の授業を続けて行うことも考えられます。授業時に相談の上決定しますので、時間割の確認をお願いします。			
教科書	文部科学省 『小学校学習指導要領解説 家庭編』 東洋館 内野紀子 鳴海多恵子 石井克枝他 『小学校 わたしたちの家庭科 5・6』 開隆堂			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の中で適宜お知らせします。			
オフィスワー	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	初等教科教育法（国語）【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	稲田 八穂		単 位	2
授業の目的と概要	国語を適切に表現し理解する能力を育成するための内容を、小学校学習指導要領に基づいて整理し、系統的な能力形成について理解し、実践的な力をつけることを目的とする。伝え合う力を高め、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てるような授業作りについて理解する。 ○小学校国語科の授業を計画、実践するために、各領域の授業のあり方について理解する。 ○国語科授業を構成するための理論、指導方法、教材や言語活動についての研究方法を理解し、学習指導案を作成する。 ○アクティブラーニングを取り入れた模擬授業を行う。			
到達目標	○学習者である児童理解に基づき、教材研究を行うことができる。 ○国語科の目標や児童理解の上で、単元の指導計画案を作成する能力をつける。 ○国語科指導に関わる指導内容を理解して、アクティブラーニングを取り入れた学習指導案を作成することができる。 ○国語科指導に関わる指導方法を理解して、学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。 ○国語科指導における評価の方法を理解して、評価表を作成したり、模擬授業の中に評価活動を取り入れたりすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション、国語科の目標と授業、国語科教育の構造 新学習指導要領と現学習指導要領の目標や内容を読み比べ、これからの国語科授業について		予習：新学習指導要領を読む。 復習：目標と指導事項をまとめる	
第2回	国語科授業の計画 子供の認識や思考、学力を考慮した国語科授業の計画はいかにあるべきかを学ぶ。		予習：授業作りのマッピング 復習：授業づくりの基本	
第3回	教材研究と教材開発（知識及び技能） 伝統的な言語文化や書写に浮いて学ぶことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫など		予習：教材研究 復習：授業作り	
第4回	教材研究と教材開発（話すこと・聞くこと） 話すこと・聞くことについて学ぶことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などにつ		予習：単元計画の作成 復習：授業作り	
第5回	教材研究と教材開発（書くこと） 書くことについて学ぶことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などについて考える		予習：配付資料の教材研究 復習：「書くこと」の授業づくり	
第6回	教材研究と教材開発（文学的文章） 文学を読むことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などについて考える。		予習：配布資料の教材研究 復習：文学的文章の授業作り	
第7回	教材研究と教材開発（説明的文章） 説明的文章を読むことの意義を明らかにし、指導のあり方や工夫などについて考える。		予習：配布資料の教材研究	
第8回	模擬授業の学習指導案作り 自分の選んだジャンルの教材研究、教材開発、指導案作成をグループで行う。		予習：模擬授業の教材研究 復習：模擬授業の指導案作成	
第9回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第1回 「伝統的な言語文化」グループ		予習：授業準備、配布指導案を読む 復習：模擬授業の評価	
第10回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第2回 「書写」グループ		予習：授業準備、配布指導案を読む 復習：模擬授業の評価	
第11回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第3回 「話すこと・聞くこと」グループ		予習：授業準備、配布指導案を読む 復習：模擬授業の評価	
第12回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第4回 「書くこと」グループ		予習：授業準備、配布指導案を読む 復習：模擬授業の評価	
第13回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第5回 「読むこと（文学的文章）」グループ		予習：授業準備、配布指導案を読む 復習：模擬授業の評価	
第14回	模擬授業と振り返り（演習と評価） 第6回 「読むこと（説明的文章）」グループ		予習：授業準備、配布指導案を読む 復習：模擬授業の評価	
第15回	模擬授業の振り返り、授業のまとめ 自分たちの模擬授業をビデオで振り返り、目標と評価の関連についてまとめる。		予習：グループの模擬授業のVTRを視聴 復習：評価のあり方、学習のまとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 教材研究、模擬授業の学習指導案作成			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ 模擬授業			
受講態度他	20％ 質問、意見発表など積極的な授業参加、グループ活動の様子、ノート評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本講義のノートを作成してください。 予習、復習はノートにまとめてください。 模擬授業の学習指導案は、前の週に配布してください。他のグループはそれを読んで模擬授業に参加してください。			
教科書	小学校学習指導要領解説「国語編」（1年次に購入済み）			
指定図書	授業で紹介			
参考図書	山元隆春編（2016）『アクティブラーニングの授業展開』東洋館出版			
オフィスアワー	火曜日午前、木曜日午前		メールアドレス	

授 業 科 目	初等教科教育法（算数）【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	石原 努		単 位	2
授業の目的と概要	小学校学習指導要領解説「算数編」をもとに、「児童が、数量や図形の基礎的・基本的な知識及び技能の内容を理解するとともに、日常的な事象を数理的に処理する力を楽しく身に付けそれを表現する」という算数科の授業の在り方について理解を深めることを目的とする。 また、実際に、算数科の学習目標や内容・指導方法・評価項目等を吟味した学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、授業実践力を高めることを目的とする。			
到達目標	・算数科の目標を踏まえ、単元の指導計画を作成することができる。 ・算数科の内容を踏まえ、学習指導案を作成することができる。 ・算数科の指導方法を踏まえ、模擬授業をすることができる。 ・模擬授業を通して、算数科の具体的な評価方法や子どもとの関わり方等を工夫することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 他教科等の教科教育法も受講することで、教科の特性を理解することにつながります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
1	本講義の概要説明と算数科教育の目標・内容		講義内容の復習と、学習指導要領解説の目標部分の熟読	
2	算数的活動・問題解決型授業展開について		算数的活動・問題解決型授業についてまとめる。	
3	算数科の学習指導案の書き方①（全体的な流れ）		参考資料（指導案）を熟読し、指導案の書き方の流れを理解する。	
4	算数科の学習指導案の書き方②（単元観・児童観・指導観）		指導案を熟読し、書き方への理解を深めたり、書き進めたりする。	
5	算数科の学習指導案の書き方③（学習展開について）		指導案を熟読し、書き方への理解を深めたり、書き進めたりする。	
6	模擬授業の準備（教材作成・授業練習）		模擬授業の準備をしたり、授業練習を行ったりする。	
7	Ⅰグループにおける模擬授業と授業研究会		模擬授業の考察、及び、授業記録の作成	
8	Ⅱグループにおける模擬授業と授業研究会		模擬授業の考察、及び、授業記録の作成	
9	Ⅲグループにおける模擬授業と授業研究会		模擬授業の考察、及び、授業記録の作成	
10	Ⅳグループにおける模擬授業と授業研究会		模擬授業の考察、及び、授業記録の作成	
11	Ⅴグループにおける模擬授業と授業研究会		模擬授業の考察、及び、授業記録の作成	
12	Ⅵグループにおける模擬授業と授業研究会		模擬授業の考察、及び、授業記録の作成	
13	Ⅶグループにおける模擬授業と授業研究会		模擬授業の考察、及び、授業記録の作成	
14	Ⅷグループにおける模擬授業と授業研究会		模擬授業の考察、及び、授業記録の作成	
15	算数科教育・授業作りのまとめ		指導案の作成・提出準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 学習指導案、レポート等の提出			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 模擬授業等の内容			
受講態度他	20% 指導案検討や模擬授業へ向けた取組の参加態度等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・教材研究・指導案作成・模擬授業準備等、グループで協同して作業を進める。 ・指示された内容以外においても、必要に応じて事前準備を行うこと。			
教科書	文部科学省『小学校指導要領解説算数編』東洋館出版社			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスワー	月曜日2限、水曜日2限		メールアドレス	

授 業 科 目	初等教科教育法（社会）【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松本　和寿		単　　位	2
授業の目的 と概要	『小学校学習指導要領解説（社会編）』に基づき、指導目標や内容、指導方法などを吟味した学習指導案を作成し、模擬授業をすることを通して、社会科指導の基礎的实践力を身に付ける。 目的が達成できるよう、実践事例の紹介や解説に学んだ上で、グループごとに学習指導案を作成し模擬授業を行う。なお、この授業は1年次「初等社会科概論」の学習内容を基礎として行う。			
到達目標	・社会科の目標を理解して単元の指導計画を作成することができる。 ・社会科の内容を理解して学習指導案を作成することができる。 ・社会科の指導方法を理解して学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 この科目は、1年次「初等社会科概論」における学習指導要領や社会科で指導する内容を基に実施する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション・社会科の目標と内容の確認		1年次科目「初等社会科概論」を復習しておく。	
第2回	小学校社会科の学年の目標と内容		『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第3回	模擬授業の計画（グループ構成、単元・時間決定）		『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第4回	模擬授業の準備①		教材研究、指導案作成、資料作成	
第5回	模擬授業の準備②		教材研究、指導案作成、資料作成	
第6回	模擬授業の準備③		教材研究、指導案作成、資料作成（模擬授業指導案提出）	
第7回	模擬授業①		模擬授業（参観）の振り返り	
第8回	模擬授業②		模擬授業（参観）の振り返り	
第9回	模擬授業③		模擬授業（参観）の振り返り	
第10回	模擬授業④		模擬授業（参観）の振り返り	
第11回	模擬授業⑤		模擬授業（参観）の振り返り	
第12回	模擬授業⑥		個人指導案作成	
第13回	模擬授業⑦		個人指導案作成	
第14回	模擬授業⑧		個人指導案作成	
第15回	模擬授業⑨（個人指導案提出）		模擬授業（参観）の振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％（個人で記述した指導案）			
小テスト等	なし			
成果発表	50％（模擬授業）			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。			
教科書	『小学校学習指導要領解説社会編』（東洋館出版）			
指定図書	指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	初等教科教育法（図画工作）【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	一木 信治		単 位	2
授業の目的と概要	図画工作科における表現及び鑑賞の活動を通して感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうことができるようにするための内容を学習指導要領に基づいて理解することができるようにする。また、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うことができるような授業を構成するために、学習目標を立て、学習内容を構成し、楽しく学べるような指導方法を設定し、一人ひとりの子どもが学習で身につけた内容を評価ができるような指導計画案を作成し、模擬授業などができるようにする。また、模擬授業の内容についてディスカッションし、より良い授業のあり方について検討するとともに、それを受けて改善計画			
到達目標	- 図画工作科の教育目標を理解して、題材全体の指導計画案を作成することができる。 - 図画工作科指導に関わる指導内容を理解して、学習指導案を作成することができる。 - 図画工作科指導に関わる指導方法を理解して、学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。 - 図画工作科指導における評価方法を理解して評価表を作成したり、模擬授業の中に評価活動取り入れたりすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、初等教育コースのDP「初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている」の達成に関わる教科です。図画工作Ⅰ及び図画工作Ⅱで身に付けた図画工作科に関する基礎的な知識・技能や学習指導要領の内容を踏まえながら、模擬授業を通して、実践的指導力を養います。他教科等の教科教育法も受講することで、教科の特性を理解するとともに、教育実習を通して、更に実践力を高めることにつながります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	小学校学習指導要領(図画工作科)の目標と内容構成		予習：学習指導要領の目標及び内容構成の振り返り	
第2回	A表現領域及びB鑑賞領域の内容と教科書との関連		予習：教科書題材の分野別分類と教材研究のポイント調査	
第3回	図画工作科学習指導の実際と学習指導案作成の重点		予習：模擬授業題材の絞り込み	
第4回	模擬授業のグループ編成と学習指導案の作成		指導案作成、教材製作	
第5回	模擬授業①「第1学年及び第2学年の絵に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。		指導案作成、教材製作	
第6回	模擬授業②「第3学年及び第4学年の絵に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。		指導案作成、教材製作	
第7回	模擬授業③「第5学年及び第6学年の絵に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。		指導案作成、教材製作	
第8回	模擬授業④「第1学年及び第2学年の立体に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。		指導案作成、教材製作	
第9回	模擬授業⑤「第3学年及び第4学年の立体に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。		指導案作成、教材製作	
第10回	模擬授業⑥「第5学年及び第6学年の立体に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。		指導案作成、教材製作	
第11回	模擬授業⑦「第1学年及び第2学年の工作に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。		指導案作成、教材製作	
第12回	模擬授業⑧「第3学年及び第4学年の工作に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。		指導案作成、教材製作	
第13回	模擬授業⑨「第5学年及び第6学年の工作に表す題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。		指導案作成、教材製作	
第14回	模擬授業⑩「第1学年及び第2学年の造形遊び題材」から1題材を選択し、模擬授業を行う。		指導案作成、教材製作	
第15回	評価活動を取り入れた授業改善の工夫と講義のまとめ		指導細案、板書計画、ワークシートの作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 題材全体を通した学習指導案（細案）の作成			
小テスト等	10％ 模擬授業の評価			
成果発表	30％ 模擬授業の内容			
受講態度他	10％ グループ活動への参画度、ディスカッションへの参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	- 模擬授業においては、グループで役割を分担して積極的に学習指導案の作成や資料づくりに参画すること。 - 他のグループが行う模擬授業後のディスカッションに積極的に参加し、改善策を提案すること。			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説（図画工作編）』日本文教出版			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	阿部 宏行『いっしょに考えよう 図工のABC』日本文教出版			
オフィスアワー	月曜日④⑤限		メールアドレス	

授 業 科 目	初等教科教育法（生活）【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	平山 静男		単 位	2
授業の目的と概要	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計と学習指導案の作成、模擬授業の実施を行うことができるようになることを目的とする。 授業は、小学校学習指導要領解説生活科の振り返り、教材研究、学習指導案作成、模擬授業の実施と授業研究から成る。			
到達目標	1，子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を説明することができる。 2，生活科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を説明することができ、授業設計に活用することができる。 3，学習指導案の構成を説明することができ、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4，模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 この科目は、「初等生活科概論」と関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション。小学校学習指導要領解説生活編の振り返り、学習指導案の構成と考え方		復習（学習指導案）	
第2回	入学当初の生活科を核とした単元計画と学習指導案		復習（教科書P114-119）	
第3回	家族のよさへの気付きの質の高まりをめざす単元計画と学習指導案		復習（教科書P120-125）	
第4回	地域のよさへの気付きの質の高まりをめざす単元計画と学習指導案		復習（教科書P126-132）	
第5回	公共物や公共施設の利用への気付きの質の高まりをめざす単元計画と学習指導案		復習（教科書P133-139）	
第6回	自然への気付きの質の高まりをめざす単元計画と学習指導案		復習（教科書P140-145）	
第7回	自然のおもしろさや不思議さに気付くことができる単元計画と学習指導案		復習（教科書P146-151）	
第8回	アサガオへの気付きの質の高まりをめざす単元計画と学習指導案		復習（教科書P152-157）	
第9回	「生活やできごとの交流」を軸とした「町探検」の単元計画と学習指導案		復習（教科書P158-164）	
第10回	自分の成長を振り返る単元計画と学習指導案		復習（教科書P165-171）	
第11回	「学校と生活」に関する模擬授業		グループ活動（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）	
第12回	「地域と生活」に関する模擬授業と授業研究		グループ活動（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）	
第13回	「公共物や公共施設の利用」に関する模擬授業と授業研究		グループ活動（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）、レポート作成	
第14回	「自然や物を使った遊び」に関する模擬授業と授業研究		グループ活動（模擬授業の改善の検討）	
第15回	模擬授業の総括、授業のまとめ		復習（模擬授業の改善）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	40％。学習指導案、教材研究等に関するレポート、1回。			
小テスト等	なし。			
成果発表	40％。模擬授業の内容について評価する。			
受講態度他	20％。授業に臨む意欲など積極的な受講態度について、主として意見発表や質問などにより評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。 欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』、原田・須本・友田編著『気付きの質を高める生活科指導法』東洋館出版社			
指定図書	なし。			
参考図書	授業内容に応じて適宜紹介する。			
オフィスワー	火曜日3限	メールアドレス		

授 業 科 目	初等教科教育法（体育）【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	宮平 喬		単 位	2
授業の目的 と概要	学習指導要領に基づいて体育科の内容を理解することができるようになることを目的とする。また、学習目標を立て、学習内容を構成し、楽しく規範性を学べるような指導方法を設定し、一人ひとりの子どもが学習で身につけた内容を評価ができるような指導計画案を作成し、模擬授業などできるようにする。 学校教育における体育の変遷を理解し、身体発育・発達や運動能力にかかわる子どもたちの実態を把握しながら、体育科の役割を理解することを目的としている。			
到達目標	・体育科の教育目標を理解して単元の指導計画案やワークシートを作成することができる。 ・体育科指導に関わる指導内容を理解して学習指導案を作成することができる。 ・体育科指導に関わる指導方法を理解して模擬授業をすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この授業に関連する科目は、2年次の「体育Ⅰ」及び「体育Ⅱ」の実技科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション	(授業の目的、到達目標、班分け等)		学習指導要領における「体育科の目標」を調べる(予習)	
第2回 小学校体育教育の歴史と体育科の意義及び学習指導要領における体育科の目標			体育教育の歴史の変遷、体育科ができた背景をまとめる(復習)	
第3回 子どもの健康・体力の現状と課題及び体育の指導体系、指導法			子どもの健康・体力に対するデータ収集する(予習)	
第4回 第1学年及び第2学年の目標・内容についての理解			低学年における体育の目標を調べる(予習)	
第5回 学習指導案に基づいた模擬授業(第1学年及び第2学年)			体育指導書等を参考に担当する模擬授業の計画を進める(予習)	
第6回 学習指導案に基づいた模擬授業(第1学年及び第2学年)			体育指導書等を参考に担当する模擬授業の計画を進める(予習)	
第7回 第3学年及び第4学年の目標・内容についての理解及び模擬授業の反省と課題の抽出			中学年における体育の目標を調べる(予習)	
第8回 学習指導案に基づいた模擬授業(第3学年及び第4学年)			体育指導書等を参考に担当する模擬授業の計画を進める(予習)	
第9回 学習指導案に基づいた模擬授業(第3学年及び第4学年)			体育指導書等を参考に担当する模擬授業の計画を進める(予習)	
第10回 第5学年及び第6学年の目標・内容についての理解及び模擬授業の反省と課題の抽出			高学年における体育の目標を調べる(予習)	
第11回 学習指導案に基づいた模擬授業(第5学年及び第6学年)			体育指導書等を参考に担当する模擬授業の計画を進める(予習)	
第12回 学習指導案に基づいた模擬授業(第5学年及び第6学年)			体育指導書等を参考に担当する模擬授業の計画を進める(予習)	
第13回 保健領域の目標と内容についての理解及び模擬授業の反省と課題の抽出			子どもの保健授業に関する目標を調べる(予習)	
第14回 学習指導案に基づいた模擬授業(保健)			保健の模擬授業から得た知見を整理する(予習)	
第15回 模擬授業の反省と課題の抽出、授業総括、授業評価			体育科教育の意義について再検証する(復習)	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	% なし			
レポート	20% 学習指導案の提出(実技用10% 講義用10%) 指導案は添削し返却する。			
小テスト等	% なし			
成果発表	30% 模擬授業の実践、模擬授業実施後の自己評価票の提出 模擬授業はビデオで撮影し、検証する。			
受講態度他	50% 授業態度の悪い学生は10%～50%減点する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業外学習に積極的に取り組み、授業に臨むこと。 模擬授業の際は、ジャージ、シューズを持参し、体育館や2B04で実施する。 2連続の遅刻は反省文を課す。 質問等があれば、事前にメールで知らせてください。			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』 東洋館出版社			
指定図書	特になし			
参考図書	戸田芳雄 『新しい保健』 東京書籍			
オフィスアワー	月曜日12:20-13:10		メールアドレス	

授 業 科 目	初等教科教育法（理科）【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	平山 静男		単 位	2
授業の目的 と概要	様々な学習指導理論を踏まえて 具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができるようになることを目的とする。あわせて、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができるようになることを目的とする。 授業は、学習指導要領解説の振り返り、授業設計の考え方と学習指導案の構成・作成、教材研究、模擬授業と授業研究から成る。			
到達目標	1、子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を説明することができる。 2、理科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を説明できるとともに、授業設計に活用することができる。 3、学習指導案の構成を把握し、具体的な授業設計と学習指導案を作成することができる。 4、模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を説明することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この科目は、「初等理科概論」と関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション。改訂の経緯及び基本方針、理科改訂の趣旨、理科改訂の要点		復習（解説P1-11）	
第2回	教科の目標、理科の内容構成、学年目標と学年内容の構成の考え方		復習（教科書P8-28）	
第3回	各学年の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い		復習（教科書P29-98）	
第4回	授業設計の考え方と学習指導案の構成		復習（授業内容の振り返り）	
第5回	学習指導案の作成		グループ活動（学習指導案の作成）	
第6回	教材研究と教材開発、学習指導案の改善		グループ活動（教材研究と模擬授業準備）	
第7回	第3学年A領域の模擬授業と授業研究		グループ活動（教材研究と模擬授業準備）	
第8回	第3学年B領域の模擬授業と授業研究		グループ活動（教材研究と模擬授業準備）	
第9回	第4学年A領域の模擬授業と授業研究		グループ活動（教材研究と模擬授業準備）	
第10回	第4学年B領域の模擬授業と授業研究		レポート作成	
第11回	第5学年A領域の模擬授業と授業研究		グループ活動（指導案作成、教材研究と模擬授業準備）	
第12回	第5学年B領域の模擬授業と授業研究		グループ活動（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）	
第13回	第6学年A領域の模擬授業と授業研究		グループ活動（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）、レポート作成	
第14回	第6学年B領域の模擬授業と授業研究		グループ活動（授業改善の視点の検討）	
第15回	授業改善の視点、授業のまとめ		復習（授業のまとめ）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	60％。学習指導案、教材研究等に関するレポート、2回。次時に返却。			
小テスト等	なし。			
成果発表	30％。模擬授業の内容について評価する。			
受講態度他	10％。授業に臨む意欲など積極的な受講態度について、主として意見発表や質問などにより評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。 欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。			
教科書	文部科学省『学習指導要領解説理科編』			
指定図書	なし。			
参考図書	授業内容に応じて適宜紹介する。			
オフィスワー	火曜日3限。	メールアドレス		

授 業 科 目	初等国語科概論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	稲田 八穂		単 位	2
授業の目的と概要	幼児期における言葉についての感覚や表現力，小学校国語科教育における目標，内容について理解する。「幼稚園教育要領」および「小学校学習指導要領 国語編」に基づき，教科内容を系統的に理解し，説明できるようになることを目的とする。さらに，自分たちの分担課題について主体的に調べ，グループで協働的に発表することを通して，初等国語科の教育内容にかかわる知識のさらなる習得，教員としての能力を身に付けることを目指す。			
到達目標	○ 幼児期から児童期の言葉の発達を理解し，言葉に対する感覚や表現について概要を説明することができる。 ○ 小学校国語科の内容について基礎的な知識を身に付け，系統的な指導法の必要性を説明することができる。 ○ 日本文学史の概要および代表的な作品について説明することができる。 ○ 毛筆と硬筆による「書写」指導の内容について理解し，自身の書写の基礎的技能を高めることができる。 ○ 言語を用いた種々の表現活動をグループで協働的に創造することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション，人間と言葉		復習：言葉の機能やはたらきについてまとめる。	
第 2回	言葉と生活（方言，外来語，流行語）		予習：自分の地域の方言で詩を書き換える。	
第 3回	国語辞典と漢和辞典		復習：時代と言葉について考えをまとめる。	
第 4回	言語活動①（読み聞かせ）		予習：読み聞かせの思い出を書く。 復習：思い出の絵本を再読する。	
第 5回	言語活動②（音読・朗読）		予習：課題の音読練習をする。 復習：音読，朗読についてまとめる。	
第 6回	言語活動③（詩・短歌・俳句）		予習：詩，短歌，俳句を創作する。 復習：それぞれの良さをまとめる。	
第 7回	日本の文学①（上代～中世） ブックトークをする。		予習：提示された時代の文学作品を探す。	
第 8回	日本の文学②（近世～現代） ブックトークをする。		予習：提示された時代の文学作品を探す。	
第 9回	「話すこと・聞くこと」の指導について		予習：「小学校学習指導要領解説国語編」を読む。	
第10回	「書くこと」の指導について		予習：「小学校学習指導要領解説 国語編」を読む	
第11回	「読むこと」の指導について		予習：「小学校学習指導要領解説 国語編」を読む	
第12回	「伝統的な国語文化と国語の特質に関する事項」の指導について		予習：「小学校学習指導要領解説 国語編」を読む	
第13回	書体の種類：書写①（毛筆による楷書）		予習：「小学校学習指導要領解説 国語編」を読む	
第14回	書体の種類：書写②（硬筆）		予習：「小学校学習指導要領解説 国語編」を読む	
第15回	言語活動における交流活動について，まとめ		復習：交流活動の意義について 授業個人評価	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	5 0％			
レポート	2 0％ 課題中に出されたミニレポート			
小テスト等	－			
成果発表	2 0％ グループで予習したことを発表する。			
受講態度他	1 0％ 質問，意見発表など積極的な授業参加を求める。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回，読み聞かせと講義内容についての予習発表を実施します。（全員で順番に実施） 自分の分担の時には絵本を選んで，読み聞かせの練習をしておいてください。 第 4 回は国語辞典と漢和辞典を用意してください。			
教科書	小学校学習指導要領解説（国語編）（初等コースのみ），初等国語科教育（初等コースのみ） 幼稚園教育要領（幼保コースのみ）			
指定図書	なし			
参考図書	授業の際に適時指示します。			
オフィスワー	火曜日午後		メールアドレス	

授 業 科 目	初等算数科概論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	石原 努		単 位	2
授業の目的と概要	幼稚園教育要領、及び、小学校学習指導要領解説「算数編」の目標・内容（A数と計算、B図形、C測定、変化と関係、Dデータの活用）・数学的活動等を踏まえ、幼児期から児童期における、数量や図形に対する関心や数学的なものの見方や考え方等の特徴を理解することを目的とする。 また、各学年における内容（A～Dの4領域）の系統性や数学的活動の意義を理解し、それに関する基礎的な理論や知識を習得することを目的とする。			
到達目標	・幼児期から児童期における数に対する関心や数学的なものの見方・考え方等の特徴について説明することができる。 ・4領域（A数と計算、B図形、C測定・変化と関係、Dデータの活用）の内容、及び、系統性に関する基礎的な理論を説明することができる。 ・各領域における数学的活動について列挙することができる。 ・算数科に関する基本的な概念や用語等を踏まえ、的確に用いることができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 初C（3） -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C（3） -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 他教科等の概論も受講することで、教科の特性を理解することにつながります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
1	本講義の概要、及び、幼児期における数量や図形に対する関心		講義内容を復習し、幼児期の数に対する関心・見方等の特徴をまとめる。	
2	小学校算数科の目標・内容・算数的活動		講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（P14～17）を熟読する。	
3	A数と計算①（整数・小数・分数の概念・表記）		講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（数と計算領域）を熟読する。	
4	A数と計算②（整数とその計算）		講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（数と計算領域）を熟読する。	
5	A数と計算③（小数と分数とその計算）		講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（数と計算領域）を熟読する。	
6	A数と計算④（見積もり・概算）		第3～6回の講義内容を復習し、数と計算領域の系統性をまとめる。	
7	B図形①（図形の概念形成・作図）		講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（B領域）を熟読する。	
8	B図形②（平面図形）		講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（B領域）を熟読する。	
9	B図形③（立体図形）		第7～9回の講義内容を復習し、B領域の系統性をまとめる。	
10	C測定・変化と関係①（長さやかさ等）		講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（C領域）を熟読する。	
11	C測定・変化と関係②（グラフ等）		講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（C領域）を熟読する。	
12	C測定・変化と関係③（伴って変わる2量の関係・比例・比等）		第10～12回の講義内容を復習し、C領域の系統性をまとめる。	
13	Dデータの活用①（データの分類整理等）		講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（D領域）を熟読する。	
14	Dデータの活用②（統計・平均等）		第13～14回の講義内容を復習し、数量関係領域の系統性をまとめる。	
15	算数科概論のまとめ		第1回講義内容～第14回講義内容についてまとめる。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70% 定期試験期間中に60分間のテストを行う。内容の詳細は、授業内に指示する。			
レポート	20% 各領域（A～D）の系統性をまとめ、4回提出する。詳細は、授業内で指示する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 授業への真摯な取り組みや積極的な授業参加を考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・気持ちのよい履修態度で臨むこと。 ・指示された内容がある場合は、必ず、予習・復習をすること。			
教科書	文部科学省 『小学校学習指導要領解説（算数編）』 東洋館出版社			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスアワー	月曜日2限、水曜日2限		メールアドレス	

授 業 科 目	初等算数教科概論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	石原 努		単 位	2
授業の目的と概要	小学校学習指導要領解説「算数編」の目標・内容（A数と計算、B図形、C測定・変化の関係、Dデータの活用）・数学的活動等を踏まえ、各学年における主な指導内容、及び、その内容の系統性や位置付けを理解することを目的とする。また、それに基づいた具体的な指導法を習得することを目的とする。			
到達目標	・各領域における特徴的な数学的活動を踏まえた指導法について説明することができる。 ・子どもの数学的な考え方や問題解決の流れを踏まえた指導法について理解し説明することができる。 ・学習指導要領の目標や内容を踏まえた指導方法の理論を応用することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 他教科等の概論も受講することで、教科の特性を理解することにつながります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
1	本講義の概要説明・学習指導要領解説（算数編）について		新学習指導要領の特色を整理しまとめる。	
2	算数授業の学習展開（授業形態や指導方法等）について		講義内容を復習し、基本的な授業展開について理解を深める。	
3	第1学年の主な指導内容・指導方法について①（数と計算・図形）		講義内容を復習し、第1学年における特徴的な指導方法をまとめる。	
4	第1学年の主な指導内容・指導方法について②（C測定、Dデータの活用）		講義内容を復習し、第1学年における特徴的な指導方法をまとめる。	
5	第2学年の主な指導内容・指導方法について①（数と計算・図形）		講義内容を復習し、第2学年における特徴的な指導方法をまとめる。	
6	第2学年の主な指導内容・指導方法について②（C測定、Dデータの活用）		第1・2学年における特徴的な指導方法をレポートにまとめる。	
7	第3学年の主な指導内容・指導方法について①（数と計算・図形）		講義内容を復習し、第3学年における特徴的な指導方法をまとめる。	
8	第3学年の主な指導内容・指導方法について②（C測定、Dデータの活用）		講義内容を復習し、第3学年における特徴的な指導方法をまとめる。	
9	第4学年の主な指導内容・指導方法について①（数と計算・図形）		講義内容を復習し、第4学年における特徴的な指導方法をまとめる。	
10	第4学年の主な指導内容・指導方法について②（C変化と関係、Dデータの活用）		第3・4学年における特徴的な指導方法をレポートにまとめる。	
11	第5学年の主な指導内容・指導方法について①（数と計算・図形）		講義内容を復習し、第5学年における特徴的な指導方法をまとめる。	
12	第5学年の主な指導内容・指導方法について②（C変化と関係、Dデータの活用）		講義内容を復習し、第5学年における特徴的な指導方法をまとめる。	
13	第6学年の主な指導内容・指導方法について①（数と計算・図形）		講義内容を復習し、第6学年における特徴的な指導方法をまとめる。	
14	第6学年の主な指導内容・指導方法について②（C変化と関係、Dデータの活用）		第5・6学年における特徴的な指導方法をレポートにまとめる。	
15	指導内容・指導方法・授業形態等に関するまとめ		第1回講義内容～第14回講義内容をまとめる。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50% 定期試験期間中に60分間のテストを行う。内容の詳細は、授業内に指示する。			
レポート	30% 授業内で課題を指定したレポートを提出する。内容の詳細は、授業内に指示する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 授業への真摯な取り組みや積極的な授業参加を考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・気持ちのよい履修態度で臨むこと。 ・指示された内容がある場合は、必ず、予習・復習をすること。			
教科書	文部科学省『小学校指導要領解説（算数編）』東洋館出版社			
指定図書	指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスワー	月曜日2限、水曜日2限		メールアドレス	

授 業 科 目	初等社会科概論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松本 和寿		単 位	2
授業の目的 と概要	小学校社会科について、その性格と歴史、学習指導要領に基づく目標と内容の取り扱いを理解するとともに、小学校社会科の内容について基礎的な理論および知識を習得することを目的とする。 『小学校学習指導要領解説社会編』に基づき社会科の目標や内容、指導計画作成上の留意点などに関する講義を行う。			
到達目標	・ 小学校社会科の成立過程、変遷、目標、内容について述べることができる。 ・ 小学校社会科の学習内容について基礎的理論および知識について説明することができる。 ・ 社会を取り巻く諸問題について国土および国際的視点から興味・関心を持ち、述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 この科目を基に、2年次「初等教科教育法（社会）」における学習指導案作成や模擬授業に関する学習を実施する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	教育課程編成の必要性（教育基本法、学校教育法等を踏まえて）		『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第2回	社会科の目標と学年の目標		『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第3回	3・4年生の目標と内容①（身近な地域、地域の生産や販売等）		『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第4回	3・4年生の目標と内容②（地域の安全を守る諸活動、地域の発展に尽くした人々等）		『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第5回	5年生の目標と内容①（我が国の国土の様子と国民生活との関連）		『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第6回	5年生の目標と内容②（我が国の農業や水産業の様子と国民生活との関連）		『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第7回	5年生の目標と内容③（我が国の工業の様子と国民生活との関連）		『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第8回	5年生の目標と内容④（我が国情報産業などの様子と国民生活との関連）		『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第9回	6年生の目標と内容①（我が国の歴史上の主な事象①縄文～奈良・平安）		『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第10回	6年生の目標と内容②（我が国の歴史上の主な事象②鎌倉・室町・江戸）		『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第11回	6年生の目標と内容③（我が国の歴史上の主な事象③明治・昭和）		『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第12回	6年生の目標と内容④（我が国の政治の働き、日本国憲法の考え方）		『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第13回	6年生の目標と内容⑤（我が国とつながりの深い国の人々の生活、国際社会における我が国の役割）		『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第14回	社会科で身に付ける学力とは（評価の観点）		『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第15回	まとめ（社会科の指導計画作成上の留意点）		『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説（社会編）』東洋館出版社			
指定図書	指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	初等生活科概論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	平山 静男		単 位	2
授業の目的 と概要	生活科における教育目標育成を目指す資質・能力を説明できるとようになることを目的とする。あわせて、学習指導要領に示された生活科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて説明できるようになることを目的とする。 授業は、改訂の経緯及び基本方針、生活科改訂の趣旨及び要点、教科目標、博年の目標、内容構成の考え方と内容、指導計画の作成と内容の取扱い、指導計画の作成と学習指導から成り、生活科教育、生活科授業を行うための基礎的・基本的な内容を学ぶ。			
到達目標	1, 学習指導要領における生活科の目標及び主な内容並びに全体構造を説明することができる。 2, 個別の学習内容について指導上の留意点を説明することができる。 3, 生活科の学習評価の考え方を説明することができる。 4, 生活科と背景となる学問領域との関係を説明することができ、教材研究に活用することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この科目は、「教育方法論」「教育経営論」「教育原理」と関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション。学習指導要領改訂の経緯及び基本方針		復習（教科書P1-4）	
第2回	生活科改訂の趣旨及び要点		復習（教科書P5-7）	
第3回	教科目標の構成、教科目標の趣旨、資質・能力の三つの柱としての目標の趣旨		復習（教科書P8-16）	
第4回	学年の目標		復習（教科書P17-22）	
第5回	内容構成の考え方		復習（教科書P23-27）	
第6回	生活科の内容		復習（教科書P28-49）、レポート作成	
第7回	指導計画作成上の配慮事項		復習（教科書P50-63）	
第8回	内容の取扱いについての配慮事項		復習（教科書P64-69）	
第9回	生活科における指導計画と学習指導の基本的な考え方		復習（教科書P70-74）	
第10回	生活科における年間指導計画の作成		復習（教科書P75-82）	
第11回	単元計画の作成		復習（教科書P83-87）	
第12回	学習評価の在り方		復習（教科書P88-89）	
第13回	学習指導の進め方：試行錯誤、交流する場		復習（教科書P90-92）、レポート作成	
第14回	学習指導の進め方：表現する機会、豊かな学び		復習（教科書P92-93）	
第15回	授業のまとめ		復習（学習指導要領の理解深化）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	80％。講義で扱ったテーマに関するレポート、計2回。次時に返却。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	20％。授業に臨む意欲や受講態度について、主として意見発表や質問などにより評価する。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	私語は厳禁。 欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』			
指定図書	なし。			
参考図書	授業内容に応じて適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日3限		メールアドレス	

授 業 科 目	初等理科概論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	平山 静男		単 位	2
授業の目的 と概要	理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を説明することができるようになることを目的とする。あわせて、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて説明することができるようになることを目的とする。 授業は、理科の改訂の経緯及び基本方針、理科改訂の趣旨及び要点、理科の目標及び内容、各学年の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取り扱いから成る。			
到達目標	1， 学習指導要領における理科の目標及び主な内容並びに全体構造を説明することができる。 2， 個別の学習内容について指導上の留意点を説明することができる。 3， 理科の学習評価の考え方を説明することができる。 4， 理科と背景となる学問領域との関係を説明することができ、教材研究に活用することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この科目は、「初等教科教育法（理科）」と関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション。改訂の経緯及び基本方針		復習（教科書P1-4）	
第2回	理科改訂の趣旨、理科改訂の要点		復習（教科書P5-11）	
第3回	教科の目標		復習（教科書P12-18）	
第4回	理科の内容構成、学年目標と学年内容の構成の考え方		復習（教科書P19-28）	
第5回	第3学年の目標		復習（教科書P29-30）	
第6回	第3学年の内容		復習（教科書P31-43）	
第7回	第4学年の目標		復習（教科書P44-45）	
第8回	第4学年の内容		復習（教科書P46-58）	
第9回	第5学年の目標		復習（教科書P59）	
第10回	第5学年の内容		復習（教科書P60-71）	
第11回	第6学年の目標		復習（教科書P72-73）	
第12回	第6学年の内容		復習（教科書P74-89）	
第13回	指導計画作成上の配慮事項		復習（教科書P90-93）	
第14回	内容の取扱いについての配慮事項		復習（教科書P94-97）	
第15回	事故防止、薬品などの管理、授業のまとめ		復習（教科書P98）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	80%。授業内容の理解、及び授業内容を受けての自身の考えに関するもの、4回。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	20％。授業に臨む意欲や受講態度について、主として意見発表や質問などにより評価する。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	私語は厳禁。 欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』			
指定図書	なし。			
参考図書	授業内容に応じて適宜紹介する。			
オフィスワ ーク	火曜日3限		メールアドレス	

授 業 科 目	書道・書道史Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	川上 貴子		単 位	2
授業の目的 と概要	中学校国語科書写では「文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てること」を目標としています。本科目では、中学校で書写を教えるための知識や技能を習得することを目的とします。知識面では、書写の学習指導や手書きすることの意義および書写の歴史（書道史）について学び、技能面では、漢字・平仮名・片仮名の特徴や基本点画について習得します。また実用的な書として、レポートや手紙の書き方や年賀状などにも取り組み、目的や必要に応じた書き方を身につけます。			
到達目標	①中学校書写教育の概要について理解する。 ②書写のねらいである「文字を正しく・整えて・速く 書く」技能を習得する。 ③実用的な書の書き方を学び、生活に役立てる。 ④手書き文字の形成背景および文化を理解する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、主に日本語・日本文学科のD P (3)・②・3「日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。」の達成に関わる授業である。 【関連する科目】 古代文学購読Ⅰ・Ⅱ、中国文学購読Ⅰ・Ⅱ、日本美術史、日本語表記論、古代日本語研究など			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 書く姿勢と筆記具の使い方について		テキスト pp.66-69	
第2回	文字を書くことの基礎について（１）書道史（漢字）		テキスト pp.62-63	
第3回	文字を書くことの基礎について（２）書道史（仮名）		テキスト pp.62-63	
第4回	手書きすることの意義とその教育について		テキスト pp.6-7	
第5回	楷書の特徴と意義について		テキスト p.76	
第6回	楷書の基本的な点画と書き方について（１）筆使いの学習とその意義 （２）始筆・送筆・終筆		テキスト p.76	
第7回	楷書の基本的な点画と書き方について（３）基本点画の種類とその頻度		テキスト pp.77-79	
第8回	楷書の字形Ⅰ 要素と全体の整え方について		テキスト pp.80-81	
第9回	楷書の字形Ⅱ 点画の組み合わせ方（１）「画の長短・画と画の間について」		テキスト p.82	
第10回	楷書の字形Ⅱ 点画の組み合わせ方（２）「点画の方向について」		テキスト p.83	
第11回	楷書の字形Ⅱ 点画の組み合わせ方（３）「点画の接し方・交わり方について」		テキスト pp.84-85	
第12回	楷書の字形Ⅲ 部分の組み立て方（１）「左右から成る文字について」		テキスト p.86	
第13回	楷書の字形Ⅲ 部分の組み立て方（２）「上下・内外から成る文字について」		テキスト pp.87-89	
第14回	実用的な書式について（１）原稿用紙・レポート用紙の書き方		テキスト pp.106-115	
第15回	実用的な書式について（２）はがき・封筒・手紙文の書き方		テキスト pp.106-115	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 毎回の提出作品で評価します。作品は評価後に次回の授業で返却します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 意欲的に授業に参加しているか、忘れ物はないか、作品を提出しているかで評価します。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	30分以上の遅刻2回は欠席1回とします。 用具用材は必ず持参すること。 教科書を購入しなければ受講はできません。 テキストの該当箇所は事前に読んでおくこと。 上記授業計画は、状況に応じて変更する可能性があります。			
教科書	全国大学書写書道教育学会編 『明解 書写教育 増補改訂版』 萱原書房 江守賢治『筆順のすべて』 日本習字普及協会			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワ－	授業の前後に相談して下さい		メールアドレス	

授 業 科 目	書道・書道史Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	川上 貴子		単 位	2
授業の目的 と概要	中学校国語科書写では「文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てること」を目標としています。本科目では、中学校で書写を教えるための知識や技能を習得することを目的とします。 書道・書道史Ⅰに続き本科目では、技能面を中心として漢字・平仮名・片仮名の特徴や基本点画について習得します。 また実用的な書として、掲示板の書き方や書き初めなどにも取り組み、目的や必要に応じた書き方を身につけます。			
到達目標	①中学校書写教育の概要について理解する。 ②書写のねらいである「文字を正しく・整えて・速く 書く」技能を習得する。 ③実用的な書の書き方を学び、生活に役立てる。 ④手書き文字の形成背景および文化を理解する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、主に日本語・日本文学科のDP(3)-②-3「日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。」の達成に関わる授業である。 【関連する科目】 古代文学購読Ⅰ・Ⅱ、中国文学購読Ⅰ・Ⅱ、日本美術史、日本語表記論、古代日本語研究など			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	漢字の筆順について		テキスト pp.64-65 p.90	
第2回	楷書における許容される書き方について		テキスト p.91	
第3回	楷書の文字の大きさと配列について（１）文字の大きさ（２）行の中心		テキスト pp.92-93	
第4回	楷書の文字の大きさと配列について（３）配列（毛筆）（４）配列（硬筆）		テキスト pp.94-95	
第5回	行書の特徴について		テキスト p.96	
第6回	行書の基本点画の書き方について		テキスト p.97	
第7回	行書の筆使いと字形（１）点画の変化について		テキスト pp.98-99	
第8回	行書の筆使いと字形（２）点画の連続について ①筆脈の実線化		テキスト p.100	
第9回	行書の筆使いと字形（２）点画の連続について ②点画の直接連続		テキスト p.101	
第10回	行書の筆使いと字形（３）点画の省略について		テキスト p.102	
第11回	行書の筆使いと字形（４）筆順の違いについて		テキスト p.103	
第12回	行書と仮名の調和について		テキスト p.104	
第13回	文字の大きさと配列について		テキスト p.105	
第14回	実用的な書式について（３）掲示板の書き方		テキスト pp.106-115	
第15回	実用的な書式について（４）書き初めの書き方		テキスト pp.106-115	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 毎回の提出作品で評価します。作品は評価後に次回の授業で返却します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 意欲的に授業に参加しているか、忘れ物はないか、作品を提出しているかで評価します。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	30分以上の遅刻2回は欠席1回とします。 用具用材は必ず持参すること。 教科書を購入しなければ受講はできません。 テキストの該当箇所は事前に読んでおくこと。 上記授業計画は、状況に応じて変更する可能性があります。			
教科書	全国大学書写書道教育学会編『明解 書写教育 増補改訂版』 萱原書房 江守賢治『筆順のすべて』 日本習字普及協会			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後に相談して下さい		メールアドレス	

授 業 科 目	視覚障がい者の心理と教育【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	中野 桂子		単 位	2
授業の目的と概要	○視覚障害児（者）の自立や社会参加に向け主体的な取り組みを改善・支援するという「特別支援教育」の理念を深く理解し、実践力を養う。 ○視覚障害者に対する社会保障の実際を理解し、より良い「共生社会」のあり方を考える。 ○視覚障害児（者）の学校生活や日常生活について、ビデオやテープなどの視覚・点字の基礎学習・疑似体験などを通して理解を深める。 ○この教科書（「視覚・聴覚障害児の心理・生理・病理学的研究」）は盲学校教育の実際を踏まえて、充実した研究が進められている本です。しっかり予習・復習し、質問や意見発表が活発になされることを期待します。			
到達目標	①さまざまな視機能障害・疾病・心理・見え方の実際を理解し、適切な配慮をもって指導することができる。 ②視覚障害の実際に応じた適切な教材・教具・補装具（点字・文字拡大・IT機器等）などを工夫・活用するための基礎知識を習得する。 ③点字のしくみと基本的な規則を理解し、簡単な点字文が読み書きできるようになる。 ④視覚障害者教育の歴史とこれからの社会保障の在り方や「共に生きる社会」について理解を深める。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 感覚の生理（1 感覚）			テキスト1章（pp.9～11）の熟読	
第2回 感覚の生理（2 感覚の一般的性質）			テキスト1章（pp.12～14）の熟読	
第3回 眼（1 眼の発生）			テキスト2章（pp.15～18）の熟読	
第4回 眼（2 人の眼）			テキスト2章（pp.19～22）の熟読	
第5回 眼（3 視覚に障害があること）			テキスト2章（pp.23～26）の熟読	
第6回 眼（4 生きられる世界）			テキスト2章（pp.27～33）の熟読	
第7回 視覚（1 眼球の構造）			テキスト3章（pp.35～40）の熟読	
第8回 視覚（2 眼球の機能）			テキスト3章（pp.35～40）の熟読	
第9回 視覚（3 視覚の機能）			テキスト3章（pp.41～44）の熟読	
第10回 眼疾患（1 先天性鼻涙管閉塞 結膜炎 麦粒腫 眼瞼下垂）			テキスト4章（pp.45～46）の熟読	
第11回 眼疾患（2 緑内障 屈折異常 斜視 弱視）			テキスト4章（pp.47～49）の熟読	
第12回 眼疾患（3 先天色覚異常 網膜芽細胞腫 先天白内障）			テキスト4章（pp.50～52）の熟読	
第13回 盲の子どもの世界（1 聴覚の進化）			テキスト8章（pp.79～pp.88）の熟読	
第14回 盲の子どもの世界（2 伝え合い——音声言語、点字、支援と教育）			テキスト8章（pp.88～pp.93）の熟読	
第15回 盲の子どもの世界（3 闇との出会い——沈黙・孤独・静寂、内向・内面性、受容・共存性、時間的世界・想像力の深化）			テキスト8章（pp.94～pp.98）の熟読	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％			
レポート	10％ 視覚障害者の心理・生理・病理をふまえた上での具体的な支援や教育（点字や点訳など）について			
小テスト等	10％ 眼の構造・機能および眼の疾患について			
成果発表	なし			
受講態度他	日常におけるさまざまな人との出会いを大切にしながら、授業にしっかりと参加し、視覚障害者についての理解を深めていきましょう。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1 教科書をよく読むこと（予習・復習をする） 2 人の話をよく聞く（聴く）こと 3 授業中ノートをしっかりととり、自分の学習課題を積極的に見つけて、その課題に取り組むこと。 4 障害者への理解を深めるとともに、人と人との関わりについて、日常生活での自らの言動をも振り返ること。			
教科書	中野桂子『視覚・聴覚障害児の心理・生理・病理学的研究』中川書店			
指定図書	中野桂子『病弱・障害児の心理・生理・病理学的研究』中川書店			
参考図書	中野桂子『知的障害児の心理・生理・病理学的研究』中川書店、中野桂子『肢体不自由児の心理・生理・病理学的研究』中川書店			
オフィスワー	授業の前後および昼休みに対応します。		メールアドレス	

授 業 科 目	資源とエネルギー【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	速水 良晃		単 位	2
授業の目的と概要	現代文明を支えるために、地質時代の動植物性プランクトンや植物資源が元になっている化石エネルギーが消費され、地球温暖化を生み出している。今までのように、地球全土にわたる物質循環のバランスが壊れ、大きな環境破壊が起こることを無視しながら、生産活動だけを優先するわけにはいかないことを人類は学びつつある。人類が利用可能なエネルギー資源は増えてきているが、社会的な必要量を安く安定的に供給できるかどうかという点において、地球環境保全と両立できるエネルギーの選択は大きな政治課題となっている。この科目ではこのような地球環境問題の最大の課題である資源とエネルギーについて学ぶ。			
到達目標	① 人類の利用できるエネルギー資源を、具体的に説明することができる。 ② これまでに発生した、エネルギー資源を主な原因とする環境問題について、具体的に説明することができる。 ③ 自分の生活とエネルギー資源の関係を、具体的に説明することができる。 ④ 自分の身の回りのエネルギー資源の利用状況について問題点を分析し、幾つかの改善策を提案できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 この授業は、上記 DP 3項目の達成に関わる科目である。同じ分類である「循環型社会論」や「環境と経済」などを受講すると相互の理解が深まります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	ガイダンス：講義のねらい、直面するエネルギー資源（1） 一次エネルギー		テキスト復習 pp. 1-21、テキスト予習 pp. 21-29	
第 2 回	直面するエネルギー資源（2） 石油価格		テキスト復習 pp. 21-29、テキスト予習 pp. 29-35	
第 3 回	直面するエネルギー資源（3） 各種エネルギーの価格		テキスト復習 pp. 29-35、テキスト予習 pp. 37-48	
第 4 回	エネルギー資源と環境保全（1） 二酸化炭素の回収		テキスト復習 pp. 37-48	
第 5 回	「再生可能エネルギーと地域再生」はしがき&目次		はしがき&目次、テキスト予習 pp. 1-12	
第 6 回	序章 再生可能エネルギーで地域再生を可能にする（1）		テキスト復習 pp. 1-12、テキスト予習 pp. 12-22	
第 7 回	序章 再生可能エネルギーで地域再生を可能にする（2）		テキスト復習 pp. 12-22、テキスト予習 pp. 25-30	
第 8 回	第1章 エネルギー転換と地域経済（1）		テキスト復習 pp. 25-30、テキスト予習 pp. 31-37	
第 9 回	第1章 エネルギー転換と地域経済（2）		テキスト復習 pp. 31-37、テキスト予習 pp. 38-44	
第10回	第1章 エネルギー転換と地域経済（3）		テキスト復習 pp. 38-44、テキスト予習 pp. 44-53	
第11回	第1章 エネルギー転換と地域経済（4）		テキスト復習 pp. 44-53、テキスト予習 pp. 55-61	
第12回	第2章 地域の電気事業と地域の持続性（1）		テキスト復習 pp. 55-61、テキスト予習 pp. 61-67	
第13回	第2章 地域の電気事業と地域の持続性（2）		テキスト復習 pp. 61-67、テキスト予習 pp. 67-72	
第14回	第2章 地域の電気事業と地域の持続性（3）		テキスト復習 pp. 67-72、テキスト予習 pp. 72-77	
第15回	第2章 地域の電気事業と地域の持続性（4）、総合的な質問、まとめ、授業評価		テキスト復習 pp. 72-77	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 毎回の終了時に提出する学習記録（翌週返却）の内容、終了後に提出したプリント（翌週返却）から見た学習状況 50％ 序章～第2章のそれぞれの概要（各800字程度）とそれぞれについての自分の考えをレポートとして提出			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	下記の「受講上の留意点・ルールに関わる情報」に基づいた態度が必要です。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中は、教員のほうを向いて、説明を集中して聴き、常に筆記用具を持ち、重要事項をノートに記録することが必要です。不要な私語は授業妨害です。スマートフォンは見えないようにバッグの中に入れてください。以上のことが守れなければ、受講を取りやめてください。			
教科書	諸富徹 編著、「再生可能エネルギーと地域再生」、日本評論社 （2018年度はプリント配布）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	授業終了後、またはメールで相談		メールアドレス	

授 業 科 目	自然科学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	速水 良晃		単 位	2
授業の目的と概要	最新の科学に基づいた技術が非常に便利で使いやすい製品の形で普及しているので、私達はそれらの中身の科学や技術の仕組みを知らないでも生活できるが、常にそうではないということを、あちこちで発生する災害時のニュースで知ることが出来る。この授業は現代社会を豊かにそして安全に過ごすために、科学の基本的考え方や新しい技術の仕組みを正しく理解できるようにすることを目的とする。 教科書として選んだ本は、科学の分野毎の系統に沿って、生活の中の身近な現象を採り上げ、科学の基礎原理を分かりやすく説明してある。これらの多数のトピックの解説を通じて、「理科」の基礎的知識を学び、それを基に自らの生活を安全に快適に、そして持続可能な生活スタイルに変えていくことを工夫する。			
到達目標	① 授業で採り上げた各トピックについて、科学的説明ができる。 ② 科学的説明の論理性を身の回りの事象にも応用できる。 ③ 現代社会に氾濫している過大広告などのウソの情報を見破ることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 この授業は、上記 DP (2)-⑤ の達成に関わる科目である。同じ学部共通科目である「数学基礎」や「数学応用」などを受講することも、この科目の理解に役立つ。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	ガイダンス：講義のねらい、トピック概説、第 1 章 水 最も身近な環境		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 1-12、テキスト予習 pp. 13-22	
第 2 回	第 2 章 大気 きれいな空気を求めて		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 13-22、テキスト予習 pp. 23-31	
第 3 回	第 3 章 大地 いのちと暮らしの基盤		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 23-31、テキスト予習 pp. 32-38	
第 4 回	第 4 章 環境化学物質 環境を蝕む		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 32-38、テキスト予習 pp. 39-48	
第 5 回	第 5 章 エネルギー 現状と将来		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 39-48、テキスト予習 pp. 49-56	
第 6 回	小テスト、第 6 章 不思議な水の性質		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 49-56、テキスト予習 pp. 57-62	
第 7 回	第 7 章 ものが燃えるとは		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 57-62、テキスト予習 pp. 63-72	
第 8 回	第 8 章 溶ける・洗う		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 63-72、テキスト予習 pp. 73-78	
第 9 回	第 9 章 くつつくとは		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 73-78、テキスト予習 pp. 79-86	
第10回	小テスト、第 1 0 章 色をつける (1) 光源色、吸収色、物体色		筑女ネット掲載資料、復習と予習 筑女ネット掲載資料	
第11回	第 1 0 章 色をつける (2) 視覚、色覚		筑女ネット掲載資料、復習 筑女ネット掲載資料、テキスト予習 pp. 87-94	
第12回	第 1 1 章 暮らしの中の金属		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 87-94、テキスト予習 pp. 95-103	
第13回	第 1 2 章 進化し続けるプラスチック		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 95-103、テキスト予習 pp. 105-114	
第14回	第 1 3 章 生体内で働いている分子たち		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 105-114、テキスト予習 pp. 115-123	
第15回	第 1 4 章 栄養と代謝、総合的な質問、まとめ、小テスト、授業評価		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 115-123	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30 % 学習記録（終了時提出・翌週返却、記載項目：(1)予習での疑問、(2)授業での理解、(3)授業での疑問）			
小テスト等	60 % 6回目と10回めの開始時、15回めの終了時に、それまでの内容についての小テスト（学習記録のみ持込可、各 20点）			
成果発表	なし			
受講態度他	10 % 授業内容の理解を深める質問（内容と回数）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	分からない所を質問すれば、その内容に応じて加点するが、教科書に回答がそのまま書いてあるような質問や自分で調べれば直ぐ分かるような質問やギネスブック的な質問は対象としません。授業内容の理解を深めて、他の受講者の理解度も高まるような質問を歓迎する。 身の周りのいろいろな製品や、よく見かける広告など、その科学的内容を考えておくこと。3回の小テスト（各20点）を1回でも欠席すれば、合格点に達することがかなり難しくなる。			
教科書	伊藤明夫 『環境・くらし・いのちのための化学の心』 裳華房			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業終了後、またはメールで相談		メールアドレス	

授 業 科 目	自然環境演習【演習】			開 講 時 期	前期
担 当 教 員	佐々木 浩			単 位	2
授業の目的 と概要	本演習は、人間とその他の自然との距離が大きくなりつつある現在において、実際に自然の中に入り、感じ、調べ、考えることにより、自然への感性を磨き、自然の一部としての人間を理解した上で、身近な環境の生態系の仕組みを理解できるようになることを目的としています。学内にある高雄山や大学近郊において、動植物の知識を学び、その関連性を考え、さらに山から海までの連続した自然の繋がりを考え、高雄山、太宰府市、福岡県の自然環境の問題点を検討し、あるべき自然との関係を考えていきます。				
到達目標	・自然を感性で感じることができるようになる。 ・自然の仕組みを理解できるようになる。 ・身近な自然の問題点を見つけることができるようになる。 ・身近な自然の問題点を解決する方法を考えることができるようになる。				
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (4) -①-これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第1回 講義概説				復習をして下さい。	
第2回 学内の植物観察				家の周りでも観察して下さい。	
第3回 フィールドワーク 観世音寺周辺の自然				自然マップの作成（レポート1）	
第4回 太宰府市、福岡県の生態系				配布プリントの復習をして下さい。	
第5回 宝満山生態系研究				調査計画をまとめて下さい。	
第6回 フィールドワーク 宝満山実地調査1（集中）				記録のまとめをして下さい。	
第7回 フィールドワーク 宝満山実地調査2（集中）				記録のまとめをして下さい。	
第8回 フィールドワーク 宝満山実地調査3（集中）				記録のまとめをして下さい。	
第9回 宝満山実地調査まとめ				レポートにまとめて下さい（レポート2）	
第10回 筑女の森調査調査計画検討				調査計画をまとめて下さい。	
第11回 フィールドワーク 筑女の森調査 植生 種名				記録のまとめをして下さい。	
第12回 フィールドワーク 筑女の森調査 植生 分布				記録のまとめをして下さい。	
第13回 フィールドワーク 筑女の森の生態系 図作成				レポートの準備をして下さい。	
第14回 筑女の森の調査結果と提言のまとめ				レポート作成3	
第15回 まとめ				復習をして下さい。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	なし				
レポート	90％ レポート 各自 1回 班 2回				
小テスト等	なし				
成果発表	なし				
受講態度他	10％				
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	個人的事情による欠席はすべて欠席扱いとなります。第6回から第7回の3回分は、5月19日（土）に宝満山でお弁当持参で自然観察を行います。雨天の場合は、5月20日（日）に実施します。受講する人は必ず参加してください。かまど神社までのバス代は各自負担となります。この活動に参加できる人のみ受講してください。				
教科書	なし				
指定図書	なし				
参考図書	なし				
オフィスワー	月曜 3講時目			メールアドレス	

授 業 科 目	自然地理学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	黒田 圭介		単 位	2
授業の目的と概要	本講義では、中学校社会科、高校地理における自然地理のテーマを一通り学ぶことで、社会科教員として持っていてしかるべき知識、技術を修得することを目指す。自然地理は理系の内容を含むことが多いので、文系の学生諸君には敬遠されがちであるが、地理学を学ぶ上で地球上の諸自然現象を理解しておくことは必須であろう。そこで、難しい内容でも平易かつ理解しやすいように講義を進める。 特に本講義では高校地理Bの教科書における自然地理学的内容のうち、地形とケッペンの気候区分を中心に取り上げる。また、教育現場、特に教材研究活動に求められる地理学的解析の技術養成を目指して、簡単な解析作業を何度か行う。何度かプロジェクトを用い、視覚的に分かりやすい授業をこころがける。			
到達目標	*ケッペンの気候分類について、その成因まで含めて理解が出来る。 *地球表面の形成を総合的に解釈できる(マントル対流→プレートテクトニクス→大地の形成など)。 *人為的・自然的な環境変化について理解できる(地球温暖化、都市の形成、自然災害など)。 *ある事象について地理学的な視点を持って調査・解析・考察し、報告できるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回 自然地理学とは			*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第 2 回 気候1～気候の基礎			*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第 3 回 気候2～海流			*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第 4 回 気候3～ケッペンの気候区分			*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第 5 回 気候4～熱帯、温帯			*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第 6 回 気候5～乾燥帯、亜寒帯、寒帯			*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第 7 回 気候6～日本の四季			*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第 8 回 地図の読み方：等高線について理解を深める			*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第 9 回 マス・ムーブメント：斜面崩壊について学ぶ			*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第10回 小地形1～V字谷と扇状地			*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第11回 小地形2～沖積平野			*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第12回 小地形3～河岸段丘			*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第13回 プレートテクトニクスと新期造山帯			*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第14回 地震災害～プレート型地震と活断層			*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第15回 大地形～安定大陸、古期造山帯			質問の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50% 試験の他に、数回講義中に簡単なレポートを課す。			
レポート	－			
小テスト等	－			
成果発表	-			
受講態度他	50% 本講義では、出席状況を重視する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	*内容は変更になることがある。 *正当な理由のある欠席は部分点を与えるので必ず届けること。 *予備知識は特に必要ないので、高校地理を受講していなくても履修できる。 *特別な事情を除いて、授業開始10分後以降の入室は認めない。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて適宜紹介する。			
オフィスアワー	本講義終了後	メールアドレス		

授 業 科 目	肢体不自由教育【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大靄 香		単 位	2
授業の目的 と概要	肢体不自由児・者の教育について知ることを目的とする。また、肢体不自由児・者の心理的・医学的特徴を理解するとともに教育課程、指導や支援の概要について理解を深めていく。授業では肢体不自由児・者の教育の歴史と現状、肢体不自由児・者の基本的理解、教育課程、指導の概説を学び、指導と支援の概要を理解することを目標とする。			
到達目標	・ 肢体不自由児・者の心理的・医学的特徴について説明できる。 ・ 肢体不自由児・者の教育について説明することができる。 ・ 肢体不自由児・者への指導や支援のあり方について述べる事が出来る。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	肢体不自由教育の現状に対する基本的理解		資料の通読	
第2回	肢体不自由に対する基本的理解（医学的理解）		ミニレポート	
第3回	肢体不自由に対する基本的理解（心理学的理解）		資料の通読	
第4回	肢体不自由教育の歴史		資料の通読、特別支援学校のホームページ検索	
第5回	肢体不自由児における教育課程・指導法（乳幼児期）		資料の通読	
第6回	肢体不自由児における教育課程・指導法（小学校）		ミニレポート	
第7回	肢体不自由児における教育課程・指導法（中学校）		資料の通読	
第8回	肢体不自由児における教育課程・指導法（高等学校）		資料の通読	
第9回	教科指導（１）肢体不自由の学習における困難		資料の通読	
第10回	教科指導（２）障がい特性に対する工夫		障がい特性の工夫について調べる	
第11回	教科指導（３）自立活動との関連から		ミニレポート	
第12回	動作法について（１） からだとこころ		資料の通読	
第13回	動作法について（２） 身体の動きを通した指導		資料の通読	
第14回	家族への支援		資料の通読	
第15回	まとめ		期末テストへの準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 定期試験			
レポート	25％ ミニレポート３回			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	５％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	資料を配布しますので、ファイルを準備してください。			
教科書	使用しない			
指定図書	特になし			
参考図書	日本肢体不自由教育研究会監修『肢体不自由教育の基本とその展開』 慶応義塾出版会 （文部科学省）『特別支援学校教育要領・学習指導要領』 海文堂出版			
オフィスワー	月曜日 2講時・昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	肢体不自由者の心理・生理・病理【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	森田 理香		単 位	2
授業の目的と概要	本授業では、肢体不自由の特徴や肢体不自由児者特有の心理、生理、病理を多様な観点から理解することを目的とする。具体的には、肢体不自由の概念を明らかにし、その上で肢体不自由の状態像について理解する。さらに、障がいの状態や状況に応じた支援の在り方を認識することを目的とする。			
到達目標	1. 肢体不自由の概念について説明できる 2. 肢体不自由者の状態像について説明できる 3. 肢体不自由者の支援について説明できる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 この科目は特別支援における肢体不自由領域の基礎になる授業です。この授業で得た知識は「肢体不自由教育」を学ぶ上での基盤になります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	肢体不自由者総論 障がいとは		障がいの概念についての復習	
第2回	肢体不自由者総論 身体障害の種類		身体障害の種類に関する復習	
第3回	肢体不自由者の発達 障がいの捉え方、2次障害		障がいの捉え方の変遷について復習	
第4回	肢体不自由者の心理 障がいを持つ本人、家族における障がいの受容		「障がい」を受け止めることとはどういうことか、自分の考えをまとめる	
第5回	肢体不自由者の特徴（心理・生理・病理）の理解① 脳性麻痺とは（定義、原因、障害型、特徴）		脳性麻痺の定義について復習	
第6回	肢体不自由者の特徴（心理・生理・病理）の理解② 脳性麻痺の幼児期		幼児期の脳性麻痺について復習	
第7回	肢体不自由者の特徴（心理・生理・病理）の理解③ 脳性麻痺の児童期・思春期		児童期、思春期の脳性麻痺について復習	
第8回	肢体不自由者の特徴（心理・生理・病理）の理解④ 脳性麻痺の青年期・成人期		青年期、成人期の脳性麻痺について復習	
第9回	肢体不自由者の特徴（心理・生理・病理）の理解⑤ 二分脊椎 ダウン症		二分脊椎、ダウン症について復習	
第10回	肢体不自由者の特徴（心理・生理・病理）の理解⑥ 筋ジストロフィー		筋ジストロフィーについて復習	
第11回	肢体不自由者の支援① 「障がい」のとらえ方 当事者の話（ゲストスピーカー）		「障がい」とともに生きることについて、自分の考えをまとめる	
第12回	肢体不自由者への支援① 肢体不自由者へのリハビリテーション		肢体不自由者へのリハビリテーションについて復習	
第13回	肢体不自由者への支援③ 療育上留意すべき事項、ポジショニング		生活場面における具体的な支援について復習	
第14回	肢体不自由者への支援④ 障がい者の社会参加 当事者の話（ゲストスピーカー）		障がい者の社会参加について復習	
第15回	最後のまとめ		講義全体についての復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％ 学期末の試験 持ち込み不可			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻、私語は他の受講者の迷惑になりますので慎んで下さい。			
教科書	プリント配布			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	金曜 4 限	メールアドレス		

授 業 科 目	質的調査法【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	赤枝 香奈子		単 位	2
授業の目的 と概要	社会調査のうち、質的データを扱う調査である「質的調査」について解説します。さまざまな質的データの特徴やそれらの収集・分析方法について理解できるようになることを目指します。			
到達目標	1. さまざまな質的データの収集・分析方法について理解できる。 2. 1. で修得した知識を応用しながら、実際に質的調査を行ってみることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション：社会学における質的データとは		第1回の授業内容の復習	
第2回	質的調査の歴史と特徴		配布資料を読んでくる。	
第3回	参与観察法（1）：参与観察の方法論		配布資料を読んでくる。	
第4回	参与観察法（2）：実践のポイントとまとめ方		配布資料を読んでくる。	
第5回	フィールドワーク（1）：フィールドワークの方法論		配布資料を読んでくる。	
第6回	フィールドワーク（2）：フィールドワークの実践		配布資料を読んでくる。	
第7回	インタビュー（1）：インタビューの方法論		配布資料を読んでくる。	
第8回	インタビュー（2）：インタビュー・データの分析		配布資料を読んでくる。	
第9回	ライフヒストリー（1）：ライフヒストリーとは何か		配布資料を読んでくる。	
第10回	ライフヒストリー（2）：ライフヒストリー調査の実践		配布資料を読んでくる。	
第11回	会話分析：会話分析とエスノメソドロジー		配布資料を読んでくる。	
第12回	ドキュメント分析：さまざまな生活記録の分析法		配布資料を読んでくる。	
第13回	テキストの内容分析：新聞記事などの分析法		配布資料を読んでくる。	
第14回	質的調査と調査倫理		配布資料を読んでくる。	
第15回	質的調査のまとめ方		配布資料を読んでくる。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％			
小テスト等	35％			
成果発表	0％			
受講態度他	5％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	この授業では、学んだ知識をもとに、実際に簡単な質的調査を行ってもらいます。作業は授業時間外に行うことになります。積極的な受講態度で授業に臨んでください。			
教科書	使用しない。			
指定図書	松田素二・川田牧人編著『エスノグラフィー・ガイドブック』嵯峨野書院 小林多寿子編著『ライフストーリー・ガイドブック』嵯峨野書院			
参考図書	谷富夫・芦田徹郎編著『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房 前田拓也ほか『最強の社会調査入門』ナカニシヤ出版			
オフィスワー	火曜日4限		メールアドレス	

授 業 科 目	司法福祉論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	高木 佳世子		単 位	2
授業の目的と概要	1.更生保護の意義（犯罪を犯した人や非行少年をなぜ援助しなければならないのか）を考え、近年の犯罪現象をデータで冷静に把握し、更生保護制度改革の課題についても検討する。 2.成人の刑事司法手続、少年司法手続を概観し、更生保護の位置づけを確認した上で、保護観察と更生緊急保護の制度について詳細に学ぶ。 3.心神喪失者等医療観察法の概要と問題点を学ぶ。			
到達目標	1.更生保護の意義を理解し、社会福祉の担い手としてのあるべき関わりについて自分なりの考え方ができること。 2.保護観察・更生緊急保護について正確な知識を身に付けること。 3.心神喪失者等医療観察法の概要と問題点について理解すること。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 更生保護の意義と歴史			「はじめに」を読む。配付資料を見直して復習する。	
第2回 福祉専門職が更生保護に関わる意味（映像視聴）			感想文作成	
第3回 データでみる犯罪・非行			配付資料を見直して復習する。	
第4回 成人の刑事司法手続			第 1 章第 1 節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第5回 少年司法手続			第1章第1節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第6回 仮釈放・仮退院			第1章第2節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第7回 保護観察			第1章第3節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第8回 生活環境調整と就労支援／更生緊急保護			第1章第4節・第 5 節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第9回 更生保護の担い手（1）保護観察官／保護司			第2章第1節、第2節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第10回 更生保護の担い手（2）更生保護施設／民間協力者			第2章第3節、第4節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第11回 関係機関との連携／犯罪被害者等の支援／恩赦			第3章、第1章第6節、第7節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第12回 医療観察法（1）医療観察法の概要、手続きの流れ			第4章第1節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第13回 医療観察法（2）医療観察法対象者の支援			第4章第2節～第5節を読む。配付資料を見直して復習する。	
第14回 海外の刑事政策に関する映像視聴			感想文提出	
第15回 更生保護の最近の動向			第5章を読む。配付資料を見直して復習する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	7 0 ％			
小テスト等	3 0 ％（映像教材などの感想文）			
成果発表	なし			
受講態度他	0 ％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1.日頃馴染みがないと思われる犯罪・非行という事象について、できるだけ具体的な事例を挙げるなどして話したいと思いますので、想像力を働かせて受講してください。 2.やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。			
教科書	〔編集〕社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 2 0 更生保護制度（第 4 版）』中央法規			
指定図書	法務省法務総合研究所編『平成 2 9 年版 犯罪白書』			
参考図書	西日本新聞社会部著『ルポ 罪と更生』（法律文化社）			
オフィスワー	水曜3限	メールアドレス		

授 業 科 目	シルクロード文化交流史【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小林 知美		単 位	2
授業の目的と概要	目的：「シルクロード」を行き交った物・人・情報（思想）の具体例をまなび、古代以来の東西交渉の歴史的役割を理解します。とくに我が国が古代以来、中国・朝鮮半島を経由して、「シルクロード」に由来の文化をいかに多く受容してきたかについて理解する事を目的とします。本抗議では、とくに仏教伝来に関わる人や物を中心に文化交流の歴史を学びます。 概要：シルクロード（陸路）の地勢を、地図・衛星写真で確認します。そしてそこを行き交った物・人・情報（思想）について、具体的資料をパワーポイント画像やビデオソフトを活用して学びます。また、シルクロードの歴史研究において、探検家の活躍、仏教への関心が重要な役割を果たしたことを再確認します。			
到達目標	・「シルクロード」を経由して日本へ伝わった物・人・思想を説明することができる。 ・「シルクロード」を行き交った歴史上の人物とその事績について具体的に述べることができる。 ・「シルクロード」の仏教遺跡について具体的に述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	「シルクロード」：だれが、なにを、どのように定義したのか？ 9月26日		課題①：九博常設展「シルクロード」の文物レポート（10月19日締切）	
第 2 回	「シルクロード」文化の受容形態 10月3日		課題①：九博常設展「シルクロード」の文物レポート（10月19日締切）	
第 3 回	九州国立博物館文化交流展示室見学※九州国立博物館4階文化交流展示室入口集合、持参：学生証、メモ長と筆記具。 10月10日		課題①：九博常設展「シルクロード」の文物レポート（10月19日締切）	
第 4 回	「シルクロード」の求法僧（1）：法顕 10月17日		課題①：九博常設展「シルクロード」の文物レポート（10月19日締切）	
第 5 回	「シルクロード」の求法僧（2）：鳩摩羅什 10月24日		課題②：「シルクロード」の求法僧レポート（11月9日締切）	
第 6 回	「シルクロード」の求法僧（3）：玄奘 10月31日		課題②：「シルクロード」の求法僧レポート（11月9日締切）	
第 7 回	「シルクロード」の仏教遺跡（1）：キジル石窟 11月7日		課題②：「シルクロード」の求法僧レポート（11月9日締切）	
第 8 回	「シルクロード」の仏教遺蹟（2）：敦煌莫高窟 11月14日		課題②：「シルクロード」の仏教遺跡レポート（11月30日締切）	
第 9 回	「シルクロード」文化の受容（1）：正倉院宝物11月21日		課題③：「シルクロード」の仏教遺跡レポート（11月30日締切）	
第10回	「シルクロード」文化の受容（2）玄ぼう・鑑真 11月28日		課題③：「シルクロード」の仏教遺跡レポート（11月30日締切）	
第11回	「シルクロード」探検（1）：スヴェン・ヘディン 12月5日		課題④：「シルクロード」の探検家・探検隊レポート（12月20日締切）	
第12回	「シルクロード」探検（2）：「大谷探検隊」 12月12日		課題④：「シルクロード」の探検家・探検隊レポート（12月20日締切）	
第13回	「シルクロード」探検（3）：オーレル・スタイン 12月19日		課題④：「シルクロード」の探検家・探検隊レポート（12月20日締切）	
第14回	「シルクロード」と絹：『大唐西域記』の「蚕繭移入伝説」ほか 1月9日		課題⑤：自由テーマ（1月25日締切）	
第15回	「シルクロード文化交流史」総括 1月17日		課題⑤：自由テーマ（1月25日締切）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％（①～⑤各10％）、提出先：レポートボックス（ボックスを間違えないこと）、文字数：1200字程度、参考文献明記、タイトルは自分で考えて付けること。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	○学外授業を行います。見学先：九州国立博物館常設展、日時、10月10日（水）11：00、集合場所：九州国立博物館4階文化交流展示室入口、現地集合解散。学生証持参で無料になります。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	真宗学講読Ⅰ(本願寺派教師)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	真名子 晃征		単 位	2
授業の目的 と概要	浄土真宗の宗祖・親鸞がよりどころとした、『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』の講読を通して、親鸞思想を学ぶ上での基礎的な内容について学ぶ。さらに、浄土三部経の教えを、現代社会を生きる人々にどう伝えるべきかを考える。			
到達目標	1. 浄土三部経の概要を説明することができる。 2. 「阿弥陀仏」「本願」「極楽」「凡夫」「往生」などの浄土教のキーワードを解説することができる。 3. 浄土三部経に説かれる教えを通して、現代社会がかかえる問題について再考することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程の科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			復習および次回までの課題	
第2回 釈尊の仏教から大乘仏教へ			復習および次回までの課題	
第3回 浄土教と末法思想			復習および次回までの課題	
第4回 『無量寿経』について			復習および次回までの課題	
第5回 『無量寿経』講読（1）法蔵菩薩と阿弥陀仏			復習および次回までの課題	
第6回 『無量寿経』講読（2）法蔵菩薩の四十八願			復習および次回までの課題	
第7回 『無量寿経』講読（3）第十八願と衆生の往生			復習および次回までの課題	
第8回 『観無量寿経』について			復習および次回までの課題	
第9回 『観無量寿経』講読（1）王舎城の悲劇			復習および次回までの課題	
第10回 『観無量寿経』講読（2）浄土の観想			復習および次回までの課題	
第11回 『観無量寿経』講読（3）凡夫の往生			復習・学期末レポート	
第12回 『阿弥陀経』について			復習・学期末レポート	
第13回 『阿弥陀経』講読（1）極楽の莊嚴			復習・学期末レポート	
第14回 『阿弥陀経』講読（2）南無阿弥陀仏とは			復習・学期末レポート	
第15回 まとめ			復習・学期末レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	55％ 学期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	45％ 毎回提出する感想・質問、および受講態度によって評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語、携帯電話の使用などは厳禁です。			
教科書	『浄土真宗聖典 註釈版第2版』 本願寺出版社 / 『浄土三部経（現代語訳）』 本願寺出版社			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、授業中に指示します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	真宗学講読Ⅱ(本願寺派教師)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	金見 倫吾		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業は、本願寺派の教師資格取得課程、および仏教専修課程履修者のための科目として、浄土真宗の教義を構造的に理解することを目的とする。			
到達目標	1. 『正信偈』がどのようなものかを説明できる。 2. 七高僧の教えを親鸞がどのように理解したかを説明できる。 3. 親鸞の教えが現代の私たちにどのような意味もつかを説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程の科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション	仏教における浄土真宗の位置づけ		「大乘仏教」について調べてくる	
第 2回 親鸞の著作における『正信偈』の位置づけ			「偈文」とは何か、どのようなものがあるか調べてくる	
第 3回 依経段（1）弥陀章①			「阿弥陀仏」について調べてくる	
第 4回 依経段（1）弥陀章②			「光明」「名号」について調べてくる	
第 5回 依経段（2）釈迦章①			「念仏」について調べてくる	
第 6回 依経段（2）釈迦章②			「現生十益」について調べてくる	
第 7回 依経段（2）釈迦章③			「往生」について調べてくる	
第 8回 依釈段 龍樹・人と思想			「龍樹」について調べてくる	
第 9回 依釈段 天親・人と思想			「天親」について調べてくる	
第10回 依釈段 曇鸞・人と思想			「曇鸞」について調べてくる	
第11回 依釈段 道綽・人と思想			「道綽」について調べてくる	
第12回 依釈段 善導・人と思想			「善導」について調べてくる 期末レポート作成	
第13回 依釈段 源信・人と思想			「源信」について調べてくる 期末レポート作成	
第14回 依釈段 源空・人と思想			「源空」について調べてくる 期末レポート作成	
第15回 まとめ			期末レポート提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 授業参加への意欲、受講態度を評価する。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業には、下記の教科書を必ず持参して下さい。 毎回の講義終了時に、感想、意見、質問等を書いて提出してもらいます。			
教科書	『浄土真宗聖典（註釈版第二版）』（本願寺出版社）			
指定図書	なし。			
参考図書	講義内で適宜紹介します。			
オフィスワ ーク	授業の前後に相談してください。	メー ル ア ド レ ス		

授 業 科 目	真宗史Ⅰ(本願寺派教師)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	金見 倫吾		単 位	2
授業の目的と概要	親鸞とその後の浄土真宗の展開について、本願寺教団の歴史を中心として学ぶ。そのことを通して、浄土真宗の教えが具体的な人間とその社会に何をもたらしたのかについて考察することを目的とする。 親鸞の切り開いた宗教的地平は、人びとにどのように理解されたのか。また、のちの教団は如何なる制度と組織を作り上げ、歴史社会の中で、どのような存在意義を発揮したのかということについて学んでいきます。			
到達目標	1、親鸞の生涯について具体的に述べることができる。 2、本願寺の成立とその後の歴史的展開について、説明することができる。 3、浄土真宗の教えと、その教えに基づいて生きようとした人びととの関係をとおして、自分自身の生き方と現代の社会のありようを見つめ直すことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程です。「真宗史Ⅱ」に関連する科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		教科書の目次に目を通す	
第2回	1 親鸞聖人の誕生と出家		「教科書」1～3頁	
第3回	2 法然門下への帰入		「教科書」4～7頁	
第4回	3 専修念仏弾圧と流罪		「教科書」8～12頁	
第5回	4 東国伝道と信者たち		「教科書」13～17頁	
第6回	5 『教行信証』の撰述		「教科書」18～22頁	
第7回	6 善鸞の異義事件		「教科書」23～28頁	
第8回	7 晩年の親鸞聖人		「教科書」29～33頁	
第9回	質疑応答		各自質問を準備する	
第10回	8 大谷廟堂と本願寺（1）		「教科書」34～39頁	
第11回	8 大谷廟堂と本願寺（2）		「教科書」39～43頁	
第12回	8 大谷廟堂と本願寺（3）		「教科書」43～46頁	
第13回	9 蓮如と本願寺教団の発展（1）		「教科書」47～51頁	
第14回	9 蓮如と本願寺教団の発展（2）		「教科書」51～55頁	
第15回	まとめ		講義全体を振り返る	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ レポート試験を行う。			
小テスト等	30％ 毎回の講義に配布するシートに、課題に対する解答や講義の感想、質問等を書かせ、それを評価する。			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 講義時の資料講読、講義に向き合う姿勢などを評価。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義の対象領域が広いので、進度が速くなります。それを補うため、質疑応答の時間を設けます。積極的に発言してください。 また、全学礼拝・礼拝アワーに参加して下さい。感想文の提出により、加点します。			
教科書	『真宗史』本願寺出版社。 加えて、プリントを配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	真宗史Ⅱ(本願寺派教師)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	金見 倫吾		単 位	2
授業の目的と概要	親鸞とその後の浄土真宗の展開について、本願寺教団の歴史を中心として学ぶ。そのことを通して、浄土真宗の教えが具体的な人間とその社会に何をもたらしたのかについて考察することを目的とする。 親鸞の切り開いた宗教的地平は、その後の教団にどのように理解されたのか、また、のちの教団は如何なる制度と組織を作り上げ、歴史社会の中で、どのような存在意義を発揮したのかということについて学んでいきます。			
到達目標	1、親鸞の生涯について具体的に述べることができる。 2、本願寺教団の歴史的展開について、説明することができる。 3、浄土真宗の教えと、その教えに基づいて生きようとした人びととの関係をとおして、自分自身の生き方と現代の社会のありようを見つめ直すことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	親鸞の生涯とその教え		真宗史Ⅰの復習（「教科書」1～34頁）	
第 2回	本願寺の成立から蓮如まで		真宗史Ⅰの復習（「教科書」35～56頁）	
第 3回	1 0	一向一揆のたたかい（1）	「教科書」56～60頁	
第 4回	1 0	一向一揆のたたかい（2）	「教科書」60～65頁	
第 5回	1 1	近世本願寺教団の形成（1）	「教科書」66～70頁	
第 6回	1 1	近世本願寺教団の形成（2）	「教科書」70～76頁	
第 7回	1 2	近世の教学と信仰（1）	「教科書」77～80頁	
第 8回	1 2	近世の教学と信仰（2）	「教科書」80～83頁	
第 9回	1 3	維新政治と真宗（1）	「教科書」84～86頁	
第10回	1 3	維新政治と真宗（2）	「教科書」86～88頁	
第11回	1 4	教団の近代化	「教科書」89～94頁	
第12回	1 5	近代教団の発展（1）	「教科書」95～98頁	
第13回	1 5	近代教団の発展（2）	「教科書」99～102頁	
第14回	1 6	近・現代社会と真宗	「教科書」103～107頁	
第15回	まとめ		現在の真宗教団の課題を明確化する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	4 0％ レポート試験を行う。			
小テスト等	3 0％ 2回の課題を行う。			
成果発表	なし			
受講態度他	3 0％ 講義に対して積極的に参加し、自分なりの思考・表現ができているかどうかを評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義の対象領域が広いので、進度が速くなります。それを補うため、質疑応答の時間を設けます。積極的に発言してください。 また、全学礼拝・礼拝アワーに参加して下さい。感想文の提出により、加点します。			
教科書	『真宗史』本願寺出版社 加えて、プリントを配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	講義内面で適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	親鸞・人と思想Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	真名子 晃征		単 位	2
授業の目的と概要	本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。 1年次に学んだ仏教学を復習しながら、親鸞に至るまでの仏教の変遷を確認する。そのうえで、親鸞の生涯を概観し、どのような人生の中でその思想が構築されたのかを学ぶ。また、その生き方が現代に生きる私たちにとって、どのような意味を持つのかを考えていく。			
到達目標	1.浄土教に至るまでの仏教の変遷を説明することができる。 2.親鸞の生涯における主要な出来事について説明することができる。 3.親鸞の生涯に照らして、自身の生き方を振り返ることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 関連する科目：親鸞・人と思想Ⅱ			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 仏教学の復習			復習・課題レポート	
第2回 釈尊の仏教			復習・課題レポート	
第3回 大乘仏教の成立			復習・課題レポート	
第4回 浄土教の展開			復習・課題レポート	
第5回 仏教の伝来			復習・課題レポート	
第6回 末法思想と浄土教			復習・課題レポート	
第7回 親鸞の生涯（幼少期とその時代）			復習・課題レポート	
第8回 親鸞の生涯（比叡山での修行）			復習・課題レポート	
第9回 親鸞の生涯（法然との出会い）			復習・課題レポート	
第10回 親鸞の生涯（越後への流罪）			復習・課題レポート	
第11回 親鸞の生涯（関東での伝道）			復習・学期末レポート	
第12回 親鸞の生涯（京都での執筆）			復習・学期末レポート	
第13回 親鸞の生涯（親鸞の晩年）			復習・学期末レポート	
第14回 親鸞の門弟			復習・学期末レポート	
第15回 まとめ			復習・学期末レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％（課題レポート20％・学期末レポート20％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60％ 毎回提出する感想・質問、および受講態度によって評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語、携帯電話の使用などは厳禁です。			
教科書	授業中に指示します。			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、授業中に指示します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	親鸞・人と思想Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	宇治 和貴		単 位	2
授業の目的と概要	本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。 親鸞は日本の思想史上でも優れて、社会を相対化し、自らがどのように生きることが人間として最も大切かを仏教にもとづいて考えた人物です。その親鸞の宗教が、日本の宗教状況においてどのような意味を持つかを確認します。さらに、その生き方が現代社会に生きる私たちにとってどのような意味を持つかを考えます。			
到達目標	1．民族宗教と普遍宗教の基本的性格の違いが説明できる。 2．日本に仏教が伝来してから、親鸞に至るまでの流れが説明できる。 3．現代社会の問題について、浄土真宗的視点とはどのようなものかを発言することができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）		「私語について」課題カード提出	
第2回	日本における宗教状況認識について		テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部の課題カード提出	
第3回	仏教の伝来		テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部－1の課題カード提出	
第4回	古代日本における宗教		テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部－2の課題カード提出	
第5回	聖徳太子の仏教理解と実践		テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部－3の課題カード提出	
第6回	行基の仏教理解と実践		テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部－5の課題カード提出	
第7回	最澄の仏教理解と実践		「最長の仏教理解」の課題カード提出	
第8回	末法思想と浄土教の関係について		テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部－6の課題カード提出	
第9回	法然の仏教理解と実践		テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部－8の課題カード提出	
第10回	親鸞の生涯（出生から出家まで）		テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部－1の課題カード提出	
第11回	親鸞の生涯（比叡山での修行）		テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部－2の課題カード提出	
第12回	親鸞の生涯（吉水時代と夢告）		テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部－2の課題カード提出	
第13回	親鸞の生涯（念仏弾圧と流罪）		テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部－3の課題カード提出	
第14回	親鸞をとりまく宗教状況について		テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部－3の課題カード提出	
第15回	現代社会と浄土真宗		「自分自身の生き方と親鸞の信仰」について課題レポート提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話・メールなどは厳禁です。学内で開催される全学礼拝などに参加すること。			
教科書	二葉憲香・福嶋寛隆『新編 歴史のなかの親鸞』			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	火～木の3講目		メールアドレス	

授 業 科 目	親鸞・人と思想Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	楠本 信道		単 位	2
授業の目的と概要	本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。			
到達目標	1. 浄土真宗の教えの主な特色について説明することができる。 2. 親鸞の生涯における主な出来事について説明することができる。 3. 浄土真宗の教えと親鸞の生涯を学ぶことを通じて、社会と自己の関わりを捉え直すことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	釈尊から親鸞へ(1)---心と行為---		予習 聖典 pp.195-196, 課題(1)レポート	
第2回	釈尊から親鸞へ(2)---大乘と小乗---		予習 聖典 pp.20-24, 課題(1)レポート	
第3回	釈尊から親鸞へ(3)---煩惱と智慧---		予習 聖典 p.72, 課題(1)レポート	
第4回	釈尊から親鸞へ(4)---智慧と慈悲---		予習 聖典 p.189, 課題(1)レポート	
第5回	釈尊から親鸞へ(5)---阿弥陀経---		予習 聖典 pp.109-111, 課題(1)レポート	
第6回	釈尊から親鸞へ(6)---比叡山---		予習 聖典 pp.201-204, 課題(2)レポート	
第7回	親鸞の生涯(1)---得度---		予習 聖典 pp.201-204, 課題(2)レポート	
第8回	親鸞の生涯(2)---比叡山の修行---		予習 聖典 pp.201-204, 課題(2)レポート	
第9回	親鸞の生涯(3)---法然との出会い---		予習 聖典 pp.201-204, 課題(2)レポート	
第10回	親鸞の生涯(4)---流罪---		予習 聖典 pp.201-204, 課題(2)レポート	
第11回	親鸞の生涯(5)---越後---		予習 聖典 pp.201-204, 課題(3)期末レポート	
第12回	親鸞の生涯(6)---関東---		予習 聖典 pp.201-204, 課題(3)期末レポート	
第13回	親鸞の生涯(7)---帰洛後---		予習 聖典 pp.201-204, 課題(3)期末レポート	
第14回	仏教を学ぶ意義(1)---中村久子の人生---		ノートまとめ, 全講義の復習, 課題(3)期末レポート	
第15回	仏教を学ぶ意義(2)---親鸞の著作---		ノートまとめ, 全講義の復習, 課題(3)期末レポート	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 課題(1)レポート10%, 課題(2)レポート10%, 課題(3)期末レポート20%.			
小テスト等	60% 毎回の「小レポート」 (4%×15回)			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度に問題のある方は減点します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	『聖典』を予習し、授業で配付したプリントはすべて読んだ上で次回の授業に臨んでください。座席は指定制とします。遅刻, 早退, 私語, 居眠り, 携帯電話の使用など, 授業態度に問題のある方は, 減点の対象とします。レポートの提出期限は厳守すること。			
教科書	筑紫女学園聖典改定委員編『聖典』及び配布プリント			
指定図書	なし			
参考図書	講義の中で適宜紹介します			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	親鸞・人と思想Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	盛 智照		単 位	2
授業の目的と概要	本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。 この講義は基本的にはテキストに沿って進め、日本の古代から中世までの仏教の歴史を概観する。しかしその目的は単に知識を得ることではなく、「仏教とは何か」「私にとって仏教とは」ということに対して、自分なりの考えを持ち、それを自分以外の誰かに伝えられるようになるということを目指します。			
到達目標	1、宗教の二つの型（民族宗教と普遍宗教）について、それぞれの基本的な性格を説明することができる。 2、日本の仏教の歴史（仏教伝来～親鸞の登場）の特徴を具体的に説明することができる。 3、自分にとって仏教がいかなる教えかを説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	日本人の宗教観		予習：教科書1～10頁	
第2回	仏教の伝来－日本における仏教受容－		予習：教科書11～15頁	
第3回	聖徳太子における仏教受容		予習：教科書16～26頁	
第4回	国家仏教の成立		予習：教科書27～33頁	
第5回	行基の仏教理解と実践		予習：教科書34～43頁	
第6回	最澄の仏教理解と実践		予習：教科書44～49頁	
第7回	法然以前の浄土教		予習：教科書50～58頁	
第8回	法然の仏教理解と実践		予習：教科書59～63頁	
第9回	親鸞以前の仏教　まとめ		予習：教科書1～63頁	
第10回	親鸞の生涯①（出生と出家）		予習：教科書67～72頁	
第11回	親鸞の生涯②（比叡山での修行）		予習：教科書73～86頁	
第12回	親鸞の生涯③（六角堂の夢告と法然との出会い）		予習：教科書87～107頁 期末レポート作成	
第13回	親鸞の生涯④（念仏弾圧と法然・親鸞の対応）		予習：教科書108～119頁 期末レポート作成	
第14回	親鸞の生涯⑤（流罪と非僧非俗の宣言）		予習：教科書120～125頁 期末レポート作成	
第15回	前期のまとめ		期末レポート提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％（全学礼拝10％、期末レポート30％）			
小テスト等	10％（講義内で実施）			
成果発表	なし			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	全学礼拝・礼拝アワー等に出席し、レポートを提出してください。 講義ごとの感想・小レポートを提出してください。			
教科書	二葉憲香・松尾博仁（著）福嶋寛隆（編）『新編　歴史のなかの親鸞』永田文昌堂			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	講義の前後で応じます。	メールアドレス		

授 業 科 目	親鸞・人と思想Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	毛利 俊英		単 位	2
授業の目的 と概要	本学の建掌の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。			
到達目標	1. 親鸞の生き方を貫いた浄土の教え、特に阿弥陀仏の本願が説明できるようになる。 2. 親鸞の生涯を説明できるようになる。 3. 親鸞の思想を学ぶことによって、現在の自分のあり方について考えてみる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	親鸞の生きた時代		配布プリントの復習	
第2回	誕生と出家		配布プリントの復習	
第3回	比叡山		配布プリントの復習 課題レポート①	
第4回	比叡山の修行と挫折		配布プリントの復習	
第5回	和国の教主聖徳太子と夢告		配布プリントの復習 課題レポート②	
第6回	法然との出会い		配布プリントの復習	
第7回	法難		配布プリントの復習 課題レポート③	
第8回	越後流罪		配布プリントの復習	
第9回	関東教化（１） 門弟の広がり		配布プリントの復習	
第10回	関東教化（２） 『教行信証』の製作		配布プリントの復習 課題レポート④	
第11回	帰洛		配布プリントの復習	
第12回	善鸞事件		配布プリントの復習	
第13回	往生		配布プリントの復習	
第14回	親鸞とその家族		配布プリントの復習	
第15回	まとめ		配布プリントのまとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	4 0％ ４回の課題レポートと期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	6 0％ 毎回の授業で配布するラベルの記述を重視する。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	「聖典」を必ず持参すること。講義は授業中に配布するプリントを用います。講義中に与えられた課題レポートは必ず提出すること。なお、聖典忘れ、私語、居眠り、遅刻は減点、許可無き早退は欠席とみなします。学内で開催される全学礼拝、礼拝アワーに積極的に参加すること。			
教科書	『聖典』（筑紫女学園聖典改討委員会）			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に相談して下さい。		メールアドレス	

授 業 科 目	親鸞・人と思想Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	金見 倫吾		単 位	2
授業の目的と概要	本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。 親鸞がどのように仏教を理解し、歴史社会のなかで実践していったのかを確認してゆきます。その前提として、「宗教・仏教とはなにか」・「仏教が親鸞の時代までにどのように展開したか」ということを学びます。単に知識を増やすだけにとどまらず、自己の生き方や社会のあり方にとって仏教・親鸞の教えがどのような意味をもつのかといった実践的関心に基づく学習態度を求めます。			
到達目標	1、宗教の二つの型（民族宗教と普遍宗教）について、それぞれの基本的な性格を説明することができる。 2、親鸞以前の日本において、仏教がどのように理解され、いかなる実践が行われたかを具体的に述べることができる。 3、自分自身と現代社会の抱える諸問題について、大乘仏教の視点から発言することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 日本人の宗教観			予習：教科書1～10頁	
第2回 仏教の成立ーその根本的立場ー			予習：教科書7～10頁	
第3回 日本における仏教受容			予習：教科書11～15頁	
第4回 聖徳太子の思想と行動			予習：教科書16～26頁	
第5回 行基の思想と行動			予習：教科書27～43頁 課題①作成	
第6回 最澄の思想と行動			予習：教科書44～49頁 課題①作成	
第7回 日本浄土教の展開			予習：教科書50～58頁 課題①提出	
第8回 法然の生涯と教えその1（万人平等の人間観）			予習：教科書59～63頁	
第9回 法然の生涯と教えその2（民族宗教への対応）			予習：教科書59～63頁 課題②作成	
第10回 親鸞の生涯前半その1（出生から出家まで）			予習：教科書67～72頁 課題②作成	
第11回 親鸞の生涯前半その2（比叡山での修行と下山）			予習：教科書73～86頁 課題②提出	
第12回 親鸞の生涯前半その3（専修念仏集団への帰入）			予習：教科書87～107頁 期末レポート作成	
第13回 親鸞の生涯前半その4（念仏弾圧と流罪）			予習：教科書108～119頁 期末レポート作成	
第14回 親鸞の生涯前半その5（非僧非俗の立場）			予習：教科書108～125頁 期末レポート作成	
第15回 前期のまとめ			予習：聖典2～7頁 期末レポート提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 期末レポートを実施する。詳細は授業内で指示する。			
小テスト等	20％ 2回実施する。詳細は授業内で指示する。			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 毎回の講義への感想などから判断する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話の使用など、他の受講生の妨げとなる行為は厳禁です。 毎回教科書を持参して出席のこと。 毎回の講義では必ず感想や意見・質問等のコメントを書いて下さい。 全学礼拝・礼拝アワー、また講義で紹介した講演会等に積極的に参加して下さい。感想文の提出で加点します。			
教科書	二葉憲香・福嶋寛隆ら『新編 歴史のなかの親鸞』永田文昌堂 筑紫女学園聖典改定委員会編『聖典』			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	親鸞・人と思想Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	真名子 晃征		単 位	2
授業の目的と概要	浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに、限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。 前期で学習した親鸞の生涯を踏まえ、後期では親鸞の著作などから、浄土真宗の基本的な教えについて理解を深める。なかでも「正信念仏偈」を通して、その内容と背景となる思想について学ぶ。そのうえで、親鸞の思想から、現代に生きる私たちの指針となるものを考えていく。			
到達目標	1.浄土真宗の教えに関する基本的な用語を説明することができる。 2.「正信念仏偈」に示された内容と、その背景となる思想について説明することができる。 3.現代において、親鸞の思想がどのような意味をもつのかを発言することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 関連する科目：親鸞・人と思想Ⅰ			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 親鸞の生涯の復習			復習・課題レポート	
第2回 親鸞の著作とその思想			復習・課題レポート	
第3回 「正信念仏偈」の概要			復習・課題レポート	
第4回 「正信念仏偈」から学ぶ（阿弥陀仏の願い）			復習・課題レポート	
第5回 「正信念仏偈」から学ぶ（どんな者であっても）			復習・課題レポート	
第6回 「正信念仏偈」から学ぶ（南無阿弥陀仏とは）			復習・課題レポート	
第7回 「正信念仏偈」から学ぶ（二つの道）			復習・課題レポート	
第8回 「正信念仏偈」から学ぶ（ただ一心に）			復習・課題レポート	
第9回 「正信念仏偈」から学ぶ（他力とは）			復習・課題レポート	
第10回 「正信念仏偈」から学ぶ（末法のなかで）			復習・課題レポート	
第11回 「正信念仏偈」から学ぶ（名を称える）			復習・学期末レポート	
第12回 「正信念仏偈」から学ぶ（信じる心と疑う心）			復習・学期末レポート	
第13回 「正信念仏偈」から学ぶ（念仏の教え）			復習・学期末レポート	
第14回 「正信念仏偈」から学ぶ（信心と念仏）			復習・学期末レポート	
第15回 まとめ			復習・学期末レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ （課題レポート20％・学期末レポート20％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60％ 毎回提出する感想・質問、および受講態度によって評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語、携帯電話の使用などは厳禁です。			
教科書	授業中に指示します。			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、授業中に指示します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	親鸞・人と思想Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	宇治 和貴		単 位	2
授業の目的 と概要	浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに、限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。 親鸞の生涯の後半を学ぶ。併せて、親鸞の思想の特色である他力本願理解などを多角的に学び、自己と人間、社会に対する認識を深めていきます。			
到達目標	1. 親鸞の説いた生き方がどのようなものであったかを説明することができる。 2. 親鸞が求めた社会の在り方を説明できる。 3. 親鸞思想と私たちの生活の関係性を説明できる。 4. 親鸞精神と本学の建学の精神との関係性を説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）		テキスト『歴史のなかの親鸞』に關しての課題カード提出	
第2回	親鸞の生涯（復習）		テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部に關しての課題カード提出	
第3回	親鸞の生涯（恵信尼との結婚）		テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-4に關しての課題カード提出	
第4回	親鸞の生涯（関東時代の伝道）		テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-5に關しての課題カード提出	
第5回	親鸞の生涯（帰洛と執筆活動）		テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-6に關しての課題カード提出	
第6回	親鸞の生涯（親鸞の求めた社会の在り方について）		テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-8に關しての課題カード提出	
第7回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～信心とは～		テキスト『歴史のなかの親鸞』 付録：消息の部に關しての課題カード提出	
第8回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～世をいとふしるしとは①～		テキスト『歴史のなかの親鸞』 付録：消息の部に關しての課題カード提出	
第9回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～世をいとふしるしとは②～		テキスト『歴史のなかの親鸞』 付録：消息の部に關しての課題カード提出	
第10回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～善人と悪人①～		テキスト『歴史のなかの親鸞』 付録：消息の部に關しての課題カード提出	
第11回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～善人と悪人②～		テキスト『歴史のなかの親鸞』 付録：消息の部に關しての課題カード提出	
第12回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～他力本願とは①～		「他力本願」に關して課題カード提出	
第13回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～他力本願とは②～		「他力本願」に關して課題カード提出	
第14回	浄土真宗と社会的課題		「浄土真宗と社会」に關しての課題カード提出	
第15回	浄土真宗の目指す生き方と社会		「浄土真宗の目指す生き方」に關して課題カード提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに關わる情報	私語・携帯電話・メールなどは厳禁です。学内で開催される全学礼拝などに参加すること			
教科書	二葉憲香・福嶋寛隆『新編 歴史のなかの親鸞』			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	火～木の3講目		メールアドレス	

授 業 科 目	親鸞・人と思想Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期	
担 当 教 員	毛利 俊英		単 位	2	
授業の目的と概要	浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに、限りない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。前期の講義を受けて、親鸞の生き方や思想をさらに深く理解する。特に、後期は『歎異抄』の言葉から、親鸞の後半生に深められた思想の中核を学んでみたい。『歎異抄』は、親鸞の面授の弟子である唯円が著し、親鸞の生きた言葉が多く収められている。そこに伝えられる親鸞の言葉は、現代社会に生きる私たちに、あらためて様々な課題を見つける視点を与えてくれるだろう。				
到達目標	1. 本願、慈悲、悪人、浄土、往生など、主要な教義について説明できるようになる。 2. 授業で取り上げた『歎異抄』の言葉について、その趣旨を説明できるようになる。 3. 現代社会の課題を、親鸞の思想の観点から、考えることができるようになる。 4. 自らの死生観について考えてみる。				
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第1回 『歎異抄』序・後序 ～唯円の嘆き～				予習 聖典p.115-116、p.168	
第2回 第2回 『歎異抄』第一条 ～弥陀の誓願～				予習 聖典p.117-118	
第3回 『歎異抄』第一条 ～往生～				予習 聖典p.117-118 課題レポート①	
第4回 『歎異抄』第一条 ～摂取不捨～				予習 聖典p.117-118	
第5回 『歎異抄』第二条 ～善鸞義絶と関東異義～				予習 聖典p.118-120 課題レポート②	
第6回 『歎異抄』第二条 ～往生極楽の道①～				予習 聖典p.118-120	
第7回 『歎異抄』第二条 ～往生極楽の道②～				予習 聖典p.118-120 課題レポート③	
第8回 『歎異抄』第三条 ～悪人～				予習 聖典p.121-122	
第9回 『歎異抄』第三条 ～悪人正機～				予習 聖典p.121-122	
第10回 『歎異抄』第四条 ～聖道の慈悲～				予習 聖典p.122-123	
第11回 『歎異抄』第四条 ～浄土の慈悲～				予習 聖典p.122-123 4	
第12回 『歎異抄』第五条 ～念仏～				予習 聖典p.123-124	
第13回 『歎異抄』第五条 ～有縁を度す～				予習 聖典p.123-124	
第14回 『歎異抄』第九条 ～浄土～				予習 聖典p.127-129	
第15回 『歎異抄』第十三条 ～業縁～				予習 聖典p.135-145	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	なし				
レポート	40％ 4回の課題レポート及び期末レポート				
小テスト等	なし				
成果発表	なし				
受講態度他	60％ 毎回の授業で配布するラベルの記述を重視する。				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	「聖典」を必ず持参すること。講義は授業中に配布するプリント,および『聖典』を用います。講義中に与えられた課題レポートは必ず提出すること。なお、聖典忘れ、私語、居眠り、遅刻は減点、許可無き早退は欠席と見なします。学内で開催される全学礼拝、礼拝アワーには積極的に参加すること。				
教科書	『聖典』（筑紫女学園聖典改訂委員会）				
指定図書	なし				
参考図書	講義中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	授業の前後に相談して下さい。		メールアドレス		

授 業 科 目	親鸞・人と思想Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	楠本 信道		単 位	2
授業の目的 と概要	浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに、限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。			
到達目標	1. 『歎異抄』の成立背景と概要について説明することができる。 2. 聖道門・浄土門・凡夫・悪人などの基本的な言葉の意味について説明することができる。 3. 親鸞の思想を学ぶことを通じて、現代社会の問題や人間存在の意味を捉え直すことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	『歎異抄』第一条---老少・善悪のひとをえらばれず---		予習 聖典 pp.117-118, 課題(1)レポート	
第2回	『歎異抄』第二条---十余箇国のさかひをこえて---		予習 聖典 pp.118-120, 課題(1)レポート	
第3回	『歎異抄』第三条---善人なほもつて往生をとぐ---		予習 聖典 pp.121-122, 課題(1)レポート	
第4回	『歎異抄』第四条---慈悲に聖道・浄土のかはりめあり---		予習 聖典 pp.122-123, 課題(1)レポート	
第5回	『歎異抄』第五条---みなもつて世々生々の父母・兄弟なり(1)---前生---		予習 聖典 pp.123-124, 課題(1)レポート	
第6回	『歎異抄』第五条---みなもつて世々生々の父母・兄弟なり(2)---輪廻---		予習 聖典 pp.123-124, 課題(1)レポート	
第7回	『歎異抄』第五条---みなもつて世々生々の父母・兄弟なり(3)---民族---		予習 聖典 pp.123-124, 課題(1)レポート	
第8回	『歎異抄』第六条---如来よりたまはりたる信心---		予習 聖典 pp.124-126, 課題(2)レポート	
第9回	『歎異抄』第七条---念仏者は無碍の一道なり---		予習 聖典 p.126, 課題(2)レポート	
第10回	『歎異抄』第八条---念仏は行者のために非行・非善なり---		予習 聖典 pp.126-127, 課題(2)レポート	
第11回	『歎異抄』第九条---踊躍歓喜のころおろそかに候ふこと---		予習 聖典 pp.127-129, 課題(3)レポート	
第12回	『歎異抄』と現代(1)---生(1)---人種差別---		ノートまとめ, 全講義の復習, 課題(3)期末レポート	
第13回	『歎異抄』と現代(2)---生(2)---人間の不完全性---		ノートまとめ, 全講義の復習, 課題(3)期末レポート	
第14回	『歎異抄』と現代(3)---老病死(1)---如衆水入海一味--		ノートまとめ, 全講義の復習, 課題(3)期末レポート	
第15回	『歎異抄』と現代(4)---老病死(2)---浄土と穢土---		ノートまとめ, 全講義の復習, 課題(3)期末レポート	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 課題(1)レポート10%, 課題(2)レポート10%, 課題(3)期末レポート20%.			
小テスト等	60% 毎回の「小レポート」 (4%×15回)			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度に問題のある方は減点します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	『聖典』を予習し、授業で配付したプリントはすべて読んだ上で次回の授業に臨んでください。座席は指定制とします。 遅刻, 早退, 私語, 居眠り, 携帯電話の使用など, 授業態度に問題のある方は, 減点の対象とします。 レポートの提出期限は厳守すること。			
教科書	筑紫女学園聖典改定委員編『聖典』及び配布プリント			
指定図書	なし			
参考図書	講義の中で適宜紹介します			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	親鸞・人と思想Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	盛 智 照		単 位	2
授業の目的 と概要	浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに、限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。 親鸞の生涯の後半を学ぶ。また親鸞が門弟に宛てた消息（手紙）を読み、具体的な状況下での親鸞の思想を読み解く。親鸞の思想の特色である他力本願理解などを多角的に学び、自己と人間、社会に対する認識を深めていきます。			
到達目標	1、親鸞の教えについての基本的な語句の意味を説明することができる。 2、「消息」に示された親鸞の人間像・社会像がどのようなものか説明することができる。 3、自己と社会のあり方にとって、親鸞の教えがどのような意味を持つか述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	親鸞の生涯⑥（恵心尼との結婚）		予習：教科書126～136頁	
第2回	親鸞の生涯⑦（関東時代の伝道）		予習：教科書137～159頁	
第3回	親鸞の生涯⑧（帰洛と執筆活動）		予習：教科書160～171頁	
第4回	親鸞の生涯⑨（関東の門弟たちの動揺）		予習：教科書172～185頁	
第5回	親鸞の生涯⑩（建長の念仏弾圧）		予習：教科書186～222頁	
第6回	親鸞の生涯 まとめ（親鸞の求めた社会の在り方について）		予習：教科書223～244頁	
第7回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～成立の背景～		予習：教科書275頁	
第8回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～世をいとふしるしとは①～		予習：教科書276～283頁	
第9回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～世をいとふしるしとは②～		予習：教科書284～291頁	
第10回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～善人と悪人①～		予習：教科書296～301頁	
第11回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～善人と悪人②～		予習：教科書302～307頁	
第12回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～他力本願とは①～		予習：教科書308～315頁 期末レポート作成	
第13回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～他力本願とは②～		予習：教科書346～350頁 期末レポート作成	
第14回	浄土真宗と社会的課題		課題レポート作成	
第15回	浄土真宗の目指す生き方と社会		講義内容全体をふりかえる 期末レポート提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％（全学礼拝10％、期末レポート30％）			
小テスト等	10％（講義内で実施）			
成果発表	なし			
受講態度他	50％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	全学礼拝・礼拝アワー等に出席し、レポートを提出してください。 講義ごとの感想・小レポートを提出してください。			
教科書	二葉憲香・松尾博仁（著）福嶋寛隆（編）『新編 歴史のなかの親鸞』永田文昌堂			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	講義の前後で応じます。		メールアドレス	

授 業 科 目	親鸞・人と思想Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	金見 倫吾		単 位	2
授業の目的と概要	浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに、限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。 親鸞の後半生における状況のなかで語られた教えの基本的な意味を、著述を講読することを通して理解します。その上で、そこに示された思想（人間観や社会観など）と、その根底にある信仰内容とを踏まえて、自分の生き方と社会のあり方を問い直す視点を養うことを目指します。			
到達目標	1、親鸞の教えについての基本的な語句の意味を説明することができる。 2、「消息」や『歎異抄』に示された親鸞の人間像・社会像がどのようなものか説明することができる。 3、自己と社会のあり方にとって、親鸞の教えがどのような意味を持つか述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	親鸞の生涯後半その1（恵心尼との結婚）		予習：教科書126～136頁	
第2回	親鸞の生涯後半その2（関東時代の伝道）		予習：教科書137～159頁	
第3回	親鸞の生涯後半その3（帰洛後の執筆活動）		予習：教科書160～171頁	
第4回	「消息」を読むその1（『末灯鈔』第20通、第19通 一往生ねがうしるし、世をいとうしるし一）		予習：教科書172～185、276～291頁	
第5回	「消息」を読むその2（『御消息集』第4通、『末灯鈔』第2通 一かなしみ、あわれみの心を一）		予習：教科書186～199、296～301、308～315頁	
第6回	『歎異抄』を読むその1（著述の背景、第1条 一弥陀の誓願一）		予習：聖典115～118頁 課題①作成	
第7回	『歎異抄』を読むその2（第3条 一善人とは、悪人とは一）		予習：聖典121～122頁 課題①提出	
第8回	『歎異抄』を読むその3（第4条 一慈悲について一）		予習：聖典122～123頁	
第9回	『歎異抄』を読むその4（第5条 一供養とは一）		予習：聖典123～124頁 課題②作成	
第10回	『歎異抄』を読むその5（第6条 一弟子一人ももたず一）		予習：聖典124～126頁 課題②作成	
第11回	『歎異抄』を読むその6（第7条 一無碍の一道一）		予習：聖典126～127頁 課題②提出	
第12回	『歎異抄』を読むその7（第9条 一煩惱具足の凡夫一）		予習：聖典127～129頁 期末レポート作成	
第13回	『歎異抄』を読むその8（第10条 一無義をもって義とす一）		予習：聖典130～131頁 期末レポート作成	
第14回	浄土真宗と社会問題		予習：聖典201～204頁 期末レポート作成	
第15回	まとめ		講義内容全体をふりかえる 期末レポート提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 期末レポートを実施する。詳細は授業内で指示する。			
小テスト等	20％ 2回実施する。詳細は授業内で指示する。			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 毎回の講義への感想などから判断する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話の使用など、他の受講生の妨げとなる行為は厳禁です。 毎回教科書を持参して出席のこと。 毎回の講義では必ず感想や意見・質問等のコメントを書いて下さい。 全学礼拝・礼拝アワー、また講義で紹介した講演会等に積極的に参加して下さい。感想文の提出で加点します。			
教科書	二葉憲香・福嶋寛隆『新編 歴史のなかの親鸞』永田文昌堂 筑紫女学園聖典改定委員会編『聖典』			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	心理アセスメントⅠ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	森田 理香		単 位	2
授業の目的と概要	心理臨床においては、こころに悩みや課題を抱えた人に対する援助の方針を決定するために、対象となった人を客観的に理解することが求められる。対象者を理解するために行う一連の作業をアセスメントという。本講義ではアセスメントに必要な基本的な姿勢、そして、人を理解するための技法について理解を深める。さらに、子どもの特徴によってどのアセスメント技法が有効であるかについて判断できるようにする。乳幼児・児童を対象とした発達検査や知能検査の実技を通して、これらの技術を身につける。			
到達目標	1. 人を理解する上で必要な基本姿勢について説明することが出来る。 2. アセスメントの方法（観察法、面接法、テスト法）について、簡潔な文章で説明することが出来る。 3. 発達検査、知能検査の種類、特徴について説明することが出来る。 4. 対象者の特徴やアセスメントの目的に応じて、適切な検査を判断することが出来る。 5. いくつかの発達検査、知能検査をマニュアルを見ながら実施することが出来る。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 「生涯発達心理学Ⅰ」はこの科目を理解するための基礎となる科目です。また、「心理アセスメントⅡ」では学びの内容をさらに深めることが出来ます。 さらに、ここでの知見を発展させた科目としては「知的障がい・発達援助の技法」、「臨床心理実習」があります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 心理アセスメントとは：授業のねらい、課題の提示			配付プリントを熟読し、共感した点、疑問に思った点をあげる	
第 2回 人が人を「理解」すること：他者理解の基本姿勢			ミニレポート：人が人を理解することについてまとめる	
第 3回 心理アセスメントの目的・方法：心理士によるアセスメントの適用			配付プリント「心理アセスメントとは何か」を熟読する	
第 4回 心理検査の種類：各種心理検査の特徴・対象			心理検査の種類について復習	
第 5回 観察法：プロトコル体験			ミニレポート：プロトコル体験についてまとめる	
第 6回 面接法：ロールプレイ体験（面接の構造化）			ミニレポート：ロールプレイ体験についてまとめる	
第 7回 発達検査：遠城寺式乳幼児分析的発達検査法			乳幼児の発達と臨床的視点について復習	
第 8回 発達検査：乳児の発達の実際			乳幼児の発達支援について復習	
第 9回 乳幼児健診における心理士の役割			配布資料を熟読し、実際の臨床場面についての視点を養う	
第10回 発達検査・知能検査：新版K式発達検査			ミニレポート：乳幼児の行動観察の視点についてまとめる	
第11回知能検査：ウェクスラー式知能検査			ウェクスラー式知能検査について復習	
第 1 2 回 知能検査：田中ビネー知能検査			田中ビネー知能検査について復習	
第13回 田中ビネー知能検査Ⅴ①：実施方法の確認			田中ビネーⅤのマニュアルを熟読する	
第14回 田中ビネー知能検査Ⅴ②：知能検査の実施			田中ビネー知能検査Ⅴの検査用紙の整理	
第15回 田中ビネー知能検査Ⅴ③：知能検査の実施			提出課題：知能検査の採点、行動観察記録を記述する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	1 0 0 ％ 5 ～ 6 回、レポート課題を提示します			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし 積極的な態度で受講すること			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	グループでの学習を行いますので、遅刻、欠席に関しては厳しく対応します。主体的、協力的に授業に参加することを求めます。			
教科書	プリント配布			
指定図書	特になし			
参考図書	松原達哉・楡木満生 共編『臨床心理アセスメント演習』培風館			
オフィスアワー	金曜日 4 限	メールアドレス		

授 業 科 目	心理アセスメントⅡ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	石井 洋平		単 位	2
授業の目的と概要	この授業では、人格理解の1つの方法としてのパーソナリティ・テストを、実際に被験者として体験し、自分自身を客観的に分析することを試みます。 また、心理テストを実際に体験するなかで、心理アセスメントの意義や限界を理解し、危険性についての認識を深める。 8人程度の小グループを作り、グループ学習の形態をとります。各グループごとに、4種類の心理テストのうちのどれか一つを担当者となって、詳しく事前学習し、各グループでの指導者となって、テストの整理分析方法や解釈の仕方について説明を行う。教員からは、必要に応じて補足説明を行う。			
到達目標	1. パーソナリティ・テストの仕組みについて説明できるようになる。 2. パーソナリティ・テストの実施方法、結果の整理・分析の仕方が分かる。 3. テスト結果に基づき、自分のパーソナリティについて客観的理解を深める。 4. 得られた結果から、パーソナティ・アセスメントを報告書の形にまとめることができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：演習の進め方と諸注意、心理テストの倫理について		参考書・参考資料を読書	
第2回	心理アセスメントの目的と方法 ー臨床心理学の中での心理アセスメントの役割		参考書・参考資料を読書	
第3回	パーソナリティーについてーその考え方と把握の仕方ー		参考書・参考資料を読書	
第4回	質問紙法1：YーG性格検査の体験と結果の整理・分析		レジュメ作成 報告書①	
第5回	質問紙法2：YーG性格検査の結果の整理・分析		レジュメ作成 報告書①	
第6回	質問紙法3：新型TEGⅡの体験と理論的説明		レジュメ作成 報告書②	
第7回	質問紙法4：新型TEGⅡの結果の整理・分析		レジュメ作成 報告書②	
第8回	質問紙法5：新型TEGⅡの結果の解釈と解説		レジュメ作成 報告書②	
第9回	作業検査法1：クレペリン検査の体験		レジュメ作成 報告書③	
第10回	作業検査法2：結果の整理と分析		レジュメ作成 報告書③	
第11回	投影法1：投影法の紹介と解説、SCTの施行方法と実施		レジュメ作成 報告書③	
第12回	投影法2：SCTの結果分析と解釈		レジュメ作成 報告書④	
第13回	投影法3：バウムテストの体験		レジュメ作成 報告書④	
第14回	投影法4：バウムテストの結果の分析と解釈		レジュメ作成 報告書④	
第15回	まとめ：テストバッテリーの考え方		報告書⑤	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 各検査についてのレポートを提出すること。			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ グループ内での担当部分の資料(レジュメ)作成と解説の内容。			
受講態度他	20％ 履修規定10条(2)に従う。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自ら被験者となって、実際に心理テストを体験します。心理テストは、こころの内側を覗き見ることになりますから、テストの実施については、真剣な取り組み、得られた結果についての慎重な取り扱いを求めます。			
教科書	使用しない			
指定図書	なし			
参考図書	赤塚大樹ほか著『心理アセスメント』培風館 ほか(必要に応じて授業中に適宜紹介)			
オフィスアワー	講義の前後に相談ください。		メールアドレス	

授 業 科 目	心理学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	S. Kumar		単 位	2
授業の目的 と概要	人間形成の原理と社会に生きていく上で、心理学の考え方やそれに関する様々な方法を学びます。心理学的な専門知識の視点から子どもの成長として、発達、教授や学習の過程、学習への動機、人格の形成を学びます。 人間は生まれてからどのような発達段階を得て、成長していくことの理解。それに関して、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期の理解。それぞれの発達段階で知能の発達、情緒の発達、社会性の発達などを理解しながら学ぶ。様々な心理テストなどを通して、人間の考え方、知能、行動、学習過程、記憶、性格をもっと理解することを学ぶ。			
到達目標	社会の中生きることとして生まれてから成長していく発達の段階、様々な学習と記憶のプロセスと理論、考え方、人格の形成や人間の行動について様々な心理テストを通して理解する。社会的自立の知識として日常生活の中、上記のものを取り入れて、心理学の適切な理解や判断力を身につけることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	心理学とは何かと心理学の歴史		心理の定義の理解課題	
第 2回	乳幼児期の運動と知能の発達		心理学者についての復習	
第 3回	反射運動		発達についての復習	
第 4回	ピアジェの発達段階論の理解		ピアジェ理論の課題の復習	
第 5回	幼児期の運動と、情緒の発達と発達チェック		運動発達についての復習	
第 6回	仲間関係と社会性の形成と集団行動		集団遊びの予習	
第 7回	行動、情緒について		日常生活の行動、情調の復習	
第 8回	学習過程の知識論		日常生活の学習についての課題	
第 9回	古典的条件、B F Skinner のオペラント条件		動機はなぜ必要かの課題の復習	
第10回	認知論、内発的動機付けと外発的動機づけと記憶		短期記憶と長期記憶の理解課題	
第11回	人格の理解		人格についての復習	
第12回	Jungの人格の理論		性格の理解課題	
第13回	投影法検査心理テストの理解		心理テストはなぜ必要かの予習	
第14回	発達・学習・人格に関する心理テスト理解の		心理テストの理解課題	
第15回	授業全体の理解と総まとめ		人間と心理の関係理解復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	9 0％ 筆記試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	1 0％ （私語 5％、遅刻 3％、授業中携帯電話の使用など 2％）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	講義の際に指示します			
教科書	指定しない （資料配布）			
指定図書	勝地 三郎 監修『新教育心理』ナカニシヤ出版			
参考図書	岩田純一・佐々木正人・石田勢津子・落石幸子『児童の心理学』			
オフィスアワー	授業の前後、昼休み（12:30～13:00）		メールアドレス	

授 業 科 目	心理学概論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	榊 祐子		単 位	2
授業の目的 と概要	人間の多面的理解に貢献してきた心理学の諸領域について概観し、特に、人間の発達や性格、社会的行動に関する基礎的知識の習得を目指す。 それぞれの領域における重要な事項を選択し、日常的なテーマなども取り入れながら、心理学概論Ⅱとあわせて、心理学全般にわたる基本概念を学ぶ。単なる知識の獲得にとどまらず、自分自身の性格や行動、日常生活における対人関係などと関連付けながら理解を深めていく。			
到達目標	①人間の発達段階や理論について比較し、それぞれの特徴を具体的に述べることが出来る ②性格の特性や分類を説明し、自らの性格と関連づけて述べることが出来る。 ③集団における行動の特徴について説明することが出来る ④日常生活での経験やこれまでの体験を発達、社会、人格などの視点から解釈し説明することが出来る			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福C (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 心理学とは①：心理学の起源、歴史			心理学の歴史についての復習	
第 2回 心理学とは②：心理学の諸領域と関連領域			心理学の領域と成果についての復習	
第 3回 発達①：人間の発達段階とは			発達段階の特徴についての復習	
第 4回 発達①：発達段階の理論			発達理論の整理と復習	
第 5回 発達③：言語の発達			言語の発達についての復習	
第 6回 発達④：社会性の発達			家族や友人関係の発達についての復習	
第 7回 まとめ①：心理学の歴史、発達についてのまとめ			心理学の歴史と発達心理学の整理	
第 8回 性格①：人格の特性について			人格のとらえ方の復習	
第 9回 性格②：性格の分類			人格理論の復習	
第10回 性格③：性格の形成			性格形成の要因についての復習	
第11回 性格④：集団と性格			集団が正確に与える影響についての復習	
第12回 社会①：集団における個人の行動			集団における性格と行動についての復習	
第13回 社会②：個人と対人関係			個人と社会的知覚についての復習	
第14回 社会③：同調行動について			同調行動の経験についての振り返り	
第15回 まとめ②			人格と社会心理学の振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ まとめの復習テスト			
レポート	20％ 授業中のショートレポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ 講義に対する積極的態度、理解度をレポートにて確認			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退出は慎むこと。			
教科書	指定なし			
指定図書	指定なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワー	火曜日 5 限		メールアドレス	

授 業 科 目	心理学概論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	安藤 満代		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、主に基礎心理学の領域の基礎知識を身につけることを目的とする。人がどのように周りの世界を認識し（知覚・認知）、どのように記憶したり忘却しているか（記憶）、どのように新しい行動を習得しているか（学習）、さらに感情や情動のはたらき、言語と思考、認知の発達などを学ぶことにより、人の心と行動を多面的に理解する。合わせて、日常的な事象や体験を心理学的な視点から客観的に理解しようとする態度を身につけることを目的とする。			
到達目標	1. 人が自分を取り巻く生活環境の認識に関して、視覚のはたらき、注意のはたらきについて説明することができる。 2. 記憶における短期記憶、長期記憶、日常記憶、それを支える知識の表象について説明することができる。 3. 新しい行動を学習していく主要なメカニズム、行動を開始させる動機づけについて具体的な例をあげて説明することができる。 4. 思考や問題解決の基本的考え方を理解し、論理的思考について理解できる。 5. 情動、動機づけに関する基本的理論が理解でき、日常生活での機能を理解することができる。 6. これらを通して、科学的思考の基礎を養うことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション：	1) 授業の目的と進行について 2) 心理学の歴史と理論の変遷		心理学の主要な理論の変遷を調べる	
第2回 知覚：私たちは生活環境のどのようにとらえているのか			生活の中で知覚体験と実際が異なっていた経験をまとめる	
第3回 注意：	注意の働きと基本的理論を知る		日常生活における注意の種類について調べる	
第4回 短期記憶：	感覚記憶、短期記憶、ワーキングメモリ		記憶の種類について調べる	
第5回 長期記憶：			記憶障害の事例について調べる	
第6回 日常記憶：	日常生活における記憶		日常生活における記憶の役割を考える	
第7回 まとめ1：講義前半のまとめを行う			知覚、注意、記憶で疑問に感じたこと、興味を持ったことを考える	
第8回 知識と表象：人はいかにして脳内で知識を表象しているのか			表象やイメージについて考える	
第9回 言語と問題解決：認知的問題を解決するプロセスを考える			認知的問題を解決するプロセスについて内省してみる	
第10回 学習：古典的条件づけと道具的条件づけ			条件づけの例を日常生活のなかで考える	
第11回 動機づけ：やる気が出たり、出なかったりする仕組みを知ろう			やる気が出るときの要因を自己の体験から振り返る	
第12回 情動：人の感情や情動のはたらきを知る			情動が行動とどのように関連しているのか、情動の役割も一緒に考える	
第13回 認知発達① 乳幼児の認知発達			乳幼児の認知能力について調べる	
第14回 カレントトピックス（感性認知）：			感性が生活のなかでどのように関わっているか考える	
第15回 まとめ2：後半の講義のまとめを行う			後半の講義で疑問に思ったこと、興味や関心を持ったことについて振り返る	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	定期試験 60％			
レポート	ーなし			
小テスト等	授業内小テスト 30			
成果発表	ーなし			
受講態度他	10％ 出席状況と、授業内容にどのくらいコミットメントしていたかを確認するショート・ライティングを評価の対象に含む。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業で扱っているテーマを自分の経験に関連づけながら、受講すること。 ショート・ライティングに書かれている質問は、次週、または関連するテーマの時に説明する。			
教科書	箱田裕司他著 「認知心理学」 有斐閣			
指定図書	服部雅史他 基礎から学ぶ認知心理学 有斐閣			
参考図書	行場次朗・箱田裕司編 新知性と感性の心理 福村出版			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	心理学研究法【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	榊 祐子・中村 知靖		単 位	2
授業の目的 と概要	目に見えない「こころ」を扱うために心理学では様々な研究法が利用され、研究で得られた成果や知見を理解するためには、用いられた研究法そのものを理解する必要がある。この授業では、心理学で利用される実験法・調査法・観察法・面接法を取り上げ、各方法の基本的な考え方や技法ならびにそこで利用される統計的な方法について理解を深めることを目的とする。実験法では、実験の論理や実験計画、分析方法を中心に解説する。調査法では、心理尺度による心理テスト開発に関する調査の計画・実施・分析方法について解説する。観察法では、組織的観察法を中心にサンプリング・記録方法・分析方法について解説する。面接法では非構造化面接ならびに半構造化面接を取り上げ、面接法実施における留意点を解説する。さらに、心理学における研究計画から発表・論文執筆までに必要な技法を紹介し、この授業を通じて卒業研究を行うために必要な能力を身につけることを目標とする。			
到達目標	①実験法における目的の見つけ方、計画の立て方や分析方法を説明し、実験計画を作成することができる ②心理尺度を用いた調査の実施、分析方法を計画し作成することができる ③面接法の分類や特徴を説明し、留意点を把握した上で、目的にあった面接法を計画することができる ④観察法におけるサンプリングや記録方法について具体的に説明することができる ⑤研究法の様々なアプローチを用いて、人間の行動特性を客観的手続きから予測し一般化することが出来る			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	心理学の研究とは		心理学の研究法についての復習	
第 2回	実験法 1：実験の計画や分析方法について		実験計画についての復習	
第 3回	実験法 2：実験法の概要と変数の操作・測定・統制の問題		実験の変数の統制についての復習	
第 4回	実験法 3：様々な実験研究例の紹介（実施における留意点を含む）		実験手続きについての復習	
第 5回	実験法 4：統計的分析方法ならびに結果の解釈法		実験の分析についての復習	
第 6回	面接法 1：面接法の概要と留意点		面接法についての復習	
第 7回	面接法 2：面接法による研究事例の紹介		面接の研究事例についての復習	
第 8回	調査法 1：調査法の概要と調査研究（質問紙研究）例の紹介		質問紙法についての復習	
第 9回	調査法 2：心理尺度の作成手順と質問項目の作成法		心理尺度、質問項目についての復習	
第10回	調査法 3：調査の実施方法とデータ解析法ならびに結果の解釈法		調査の実施、結果の解釈についての復習	
第11回	調査法 4：調査法における留意点		調査法の留意点についての復習	
第12回	観察法 1：観察法の概要と観察方法ならびに記録方法		観察方法、記録方法についての復習	
第13回	観察法 2：観察研究例の紹介と分析方法		観察法の分析方法についての復習	
第14回	研究の進め方：研究計画から発表・論文の執筆、研究倫理		研究計画についての復習	
第15回	全体のまとめ：研究倫理と実験・調査レポート執筆について		研究法についての総合的な振り返りの復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70% 実験法，調査法を利用したグループによる研究の計画のレポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 授業中に与えられた課題へのグループでのディスカッションや参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中に与えられた課題についてレポートを作成するので、授業に毎回出席することが重要である。 小グループごとに課題の検討を行うので積極的に参加すること。 クラスごとの開講になるため、実験の実施順序は前後することがある。			
教科書	村井 潤一郎 『Progress & Application 心理学研究法』 サイエンス社			
指定図書	なし			
参考図書	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦 『心理学研究法』 放送大学教育振興会 高野陽太郎・岡隆 『心理学研究法』 有斐閣			
オフィスアワー	火曜日5限		メールアドレス	

授 業 科 目	心理学実験【実験】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	榊 祐子・安藤 満代		単 位	2
授業の目的 と概要	人間の行動特性を客観的に理解することを目標として、学習、知覚、認知、記憶といった心理学の各分野における基礎的な実験を体験し、心理学における実験レポートの書き方を学ぶ。実験の目的、手続きなどについての講義の後5、6名程度の小グループにわかれ、コンピュータや質問紙等を用いて実験を行なう。結果の処理や実験技法を習得した後、実験レポートを提出することが課題となる。また、最新の心理学の分野でどのような実験が行なわれているか、参加者として体験する機会も設ける予定である。本授業では、心理学研究法の一つである実験という手法を用いて、心理・社会的諸問題における行動特性などを客観的データを収集することで説明することを目的とする。			
到達目標	①心理学における基本的な実験の流れ（目的、方法、結果、考察）を説明することができる ②心理学実験を実験者としてデータを測定する、また被験者として課題を実施することができる ③測定したデータを結果としてまとめ、考察を行い、レポートを作成することができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 心理学実験とは①：心理学実験の概要			心理学実験のイントロダクションについての復習	
第 2回 心理学実験とは②心理学研究法について			様々な心理学研究法の整理	
第 3回 心理学実験とは③心理統計法の基礎			心理統計法の基礎についての復習	
第 4回 知覚実験1-1 ミュラー・リヤー錯視（実験の説明と実施）			課題（レポート）	
第 5回 知覚実験1-2 ミュラー・リヤー錯視（データ分析、実験概要の説明）			課題（レポート）	
第 6回 知覚実験2-1 触2点閾（実験の説明と実施）			課題（レポート）	
第 7回 知覚実験2-2 触2点閾（データ分析、実験概要の説明）			課題（レポート）	
第 8回 認知実験 1 ストループ課題（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明			課題（レポート）	
第 9回 認知実験 2 自由再生法（実験の説明と実施）			課題（レポート）	
第10回 実験のまとめ①			レポート作成の復習	
第11回 学習実験 1 分散・集中学習（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）			課題（レポート）	
第12回 学習実験 2 鏡映描写（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）			課題（レポート）	
第13回 行動実験 一対比較法（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）			課題（レポート）	
第14回 最新の心理学実験の動向 様々な分野における最新の心理学実験を体験			課題（レポート）	
第15回 実験のまとめ②			レポート作成と実験方法についての振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% 毎回の実験後にレポートを作成			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 授業に関するショートレポートを提出			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	小グループに分かれて実験を実施、データ測定、レポート作成を行う。実験に参加しなければ、レポートを作成、提出できないため、毎回の出席が非常に重要である。 クラスごとの開講になるため、実験の実施順序は前後することがある。 授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退出は慎むこと。			
教科書	使用しない。資料はプリントにて配布する。			
指定図書	特になし			
参考図書	心理学実験指導研究会 『実験とテスト＝心理学の基礎 実習編』 培風館 心理学実験ノート編集委員会 『心理学実験ノート』 二瓶社			
オフィスアワー	火曜日5限		メールアドレス	

授 業 科 目	心理学統計法Ⅰ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	赤須 大典		単 位	2
授業の目的 と概要	人間の行動を正しく理解するためには、観察者の主観的かつ直感的な判断のみに頼ることは適切ではない。観察や調査によって人間の行動を測定し、それに関するデータを採取し分析することで客観的に捉えることが必要である。そうすることによって誤った信念や思い込みを排除し、より適切な行動への対処が可能になるからである。本授業では、統計学に関して最低必要限な知識を学びつつ、より実践・応用的な“道具”としての統計学を学習する。			
到達目標	1 統計学に関する基礎的な知識を習得することができる。 2 科学的なデータの基礎的な分析方法を実践することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	統計についてのいろいろな知識		資料をまとめるためのA4サイズの手帳を用意しておくこと。	
第2回	代表値（平均値、中央値、最頻値） 統計解析に関するEXCEL操作		代表値の求め方の復習	
第3回	分散と標準偏差		分散と標準偏差の求め方の復習。分散と標準偏差の区別をつける	
第4回	データの種類とサンプリング、正規分布		授業内容の理解	
第5回	第4回までのまとめ 統計ソフトウェアの紹介		統計ソフトのダウンロード	
第6回	標準化		標準化の計算に慣れておく	
第7回	相関 ―理論―		授業内容の理解	
第8回	相関 ―実践―		実際に相関分析をやってみる	
第9回	χ ² 乗検定		実際にχ ² 乗検定をやってみる	
第10回	t 検定		実際にt 検定をやってみる	
第11回	分散分析 ―理論―		授業内容の理解	
第12回	分散分析 ―1 要因分散分析―		実際に分散分析をやってみる	
第13回	分散分析 ―2 要因分散分析―		実際に分散分析をやってみる	
第14回	論文・レポートへの分析結果の記述法		これまでの授業内容をあてはめて考える	
第15回	全体のまとめ		全体の総見直しと試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ レポート形式で出題			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	30％ 主として出席。欠席に関してやむを得ぬ事情（実習や交通機関の乱れなど）がある場合は考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	表計算ソフト（EXCEL）を使用してデータ整理を行うことが、実際の統計解析でも一般的な作業としてあげられる。そのため、各人Excelについて基本的な機能を使いこなせるようになっておくこと。			
教科書	特に指定しない			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特に指定しない			
オフィスワーカー	授業終了後にご相談ください		メールアドレス	

授 業 科 目	心理学統計法Ⅱ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	岡村 尚昌		単 位	2
授業の目的 と概要	心理学研究を進めるために必要なデータの扱い方や実践的な統計解析を身につけることを目的とします。それによって、人間の行動や感情の変化を客観的に評価する方法や技術を習得してもらいます。			
到達目標	1 統計学に関する基礎的な知識を学習する 2 研究を実施するために必要な基本的能力・技能を身につける			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			心理統計法Ⅰの復習	
第2回 復習①：ヒストグラムと度数分布など			配布プリントを熟読し、予習しておく	
第3回 復習②：分散、標準偏差など			配布プリントを熟読し、予習しておく	
第4回 χ^2 検定			χ^2 検定について予習しておく	
第5回 t検定			配布資料を参考に t検定の予習しておく	
第6回 分散分析（1要因被験者内分散分析）			配布資料を熟読し、1要因被験者内分散分析を予習しておく	
第7回 分散分析（1要因被験者間分散分析）			配布資料を熟読し、1要因被験者間分散分析を予習しておく	
第8回 分散分析（2要因被験者内分散分析）			配布資料を熟読し、2要因被験者内分散分析を予習しておく	
第9回 分散分析（2要因被験者間分散分析）			配布資料を熟読し、2要因被験者間分散分析を予習しておく	
第10回 相関分析			配布資料を熟読し、相関分析を予習しておく	
第11回 因子分析			配布資料を熟読し、因子分析を予習しておく	
第12回 重回帰分析			配布資料を熟読し、重回帰分析を予習しておく	
第13回 ロジスティック回帰分析			配布資料を熟読し、ロジスティック回帰分析を予習しておく	
第14回 判別分析とクラスター分析			配布資料を熟読し、判別分析とクラスター分析を予習しておく	
第15回 まとめ			総括で話した授業内容のポイントについて復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 学んだことの復習として行います。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 講義対する意欲や参加態度も考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	配布プリントは毎回持参してください。 心理学統計法Ⅰを受講しておいてください。			
教科書	教科書は特に指定せず、毎回講義プリントを配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	授業終了後に相談ください。	メールアドレス		

授 業 科 目	心理専門演習【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	浅田 淳一・大鷲 香・榊 祐子・針塚 進		単 位	2
授業の目的 と概要	心理学やその関連領域に関するテーマを設定し、文献研究を通して学習を深化することができる。 調べた成果を発表し、討論することができる。 個々の学生が選択したテーマを元に文献研究等で学習した成果をまとめ発表していく。その後、学生相互の討論や教員からの助言を通して、さらに深化させていく。			
到達目標	① 心理学やその関連領域について関心のあるテーマを設定することが出来る ② テーマに関する先行研究を検索し、収集することが出来る ③ 先行研究について調べたことをまとめて、発表することが出来る。 ④ 他者の発表に対して、創造的、論理的意見を述べ、議論を深めることが出来る			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 関連する科目としては「心理学研究法」、「心理学統計法ⅠⅡ」、「発達臨床演習」などがあります。また、「人間関係総合演習」、「卒業ゼミナールⅠⅡ」へと発展します。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション		各自、関心のあるテーマについて考える	
第 2 回	テーマの設定の仕方		各自、関心のあるテーマについて考える	
第 3 回	文献検索の方法		資料収集、検討	
第 4 回	文献リストの作成、文献の読み方		資料収集、検討	
第 5 回	研究の方法、研究データの収集と分析について		資料収集、検討	
第 6 回	課題発表の準備、発表内容・方法の確認		文献をまとめ、レジュメを作成	
第 7 回	発表・討論① 担当者による発表、討論		レジュメ、発表原稿の準備、専門用語等は調べる	
第 8 回	発表・討論② 担当者による発表、討論		レジュメ、発表原稿の準備、専門用語等は調べる	
第 9 回	発表・討論③ 担当者による発表、討論		レジュメ、発表原稿の準備、専門用語等は調べる	
第10回	発表・討論④ 担当者による発表、討論		レジュメ、発表原稿の準備、専門用語等は調べる	
第11回	発表・討論⑤ 担当者による発表、討論		レジュメ、発表原稿の準備、専門用語等は調べる	
第12回	発表・討論⑥ 担当者による発表、討論		レジュメ、発表原稿の準備、専門用語等は調べる	
第13回	発表・討論⑦ 担当者による発表、討論		レジュメ、発表原稿の準備、専門用語等は調べる	
第14回	発表・討論⑧ 担当者による発表、討論		レジュメ、発表原稿の準備、専門用語等は調べる	
第15回	まとめ		復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
小テスト等	なし			
成果発表	30% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
受講態度他	30% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	毎回の出席は必須条件、遅刻も厳禁 資料の丸写し、インターネットを用いてのコピー＆ペーストは厳禁 自分の見解を加味した上で資料を作成し発表を行う。			
教科書	各担当教員による			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワ－	浅田:火を除く昼休、大鷲:火4 榊:火5、針塚水4		メールアドレス	

授 業 科 目	心理面接演習【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	藤山 奈々		単 位	2
授業の目的 と概要	臨床心理学的支援の方法の一つである心理面接の基礎を演習を通して体験的に学ぶ。心理面接におけるセラピストの基本的な姿勢や態度について学ぶ。さらに、事例を通して具体的な心理面接技法や、心理的な諸問題に対するアセスメント、具体的な心理面接援助について学ぶ。			
到達目標	・セラピストの基礎的な姿勢や態度について述べることができる。 ・クライアントに接する時の初歩的な姿勢を身につける。 ・多面的な視点をもとにクライアントの心理的諸問題について考えることができる。 ・クライアントの心理的諸問題に対し、何が問題かを整理し、支援するための手段を考察することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		資料の通読・授業内容の復習	
第2回	心理面接とは何か		資料の通読・授業内容の復習	
第3回	心理的援助の流れ		資料の通読・授業内容の復習	
第4回	言語的援助の技法① セラピストの基本的な姿勢・態度		ミニレポート	
第5回	言語的援助の技法② ロールプレイ		ミニレポート	
第6回	言語的援助の技法③ 傾聴・受容・共感について		ミニレポート	
第7回	インテーク面接		資料の通読・授業内容の復習	
第8回	心理面接の構造		資料の通読・授業内容の復習	
第9回	アセスメントと見立て		資料の通読・授業内容の復習	
第10回	教育領域での事例検討①		資料の通読・授業内容の復習	
第11回	教育領域での事例検討②		資料の通読・授業内容の復習	
第12回	医療領域での事例検討①		ミニレポート	
第13回	医療領域での事例検討②		資料の通読・授業内容の復習	
第14回	福祉領域での事例検討①		期末レポートへの準備	
第15回	福祉領域での事例検討②		期末レポートへの準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ミニレポート40％、期末レポート40％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％（授業へ積極的に参加する姿勢を考慮いたします）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	この授業では、ロールプレイングやグループディスカッションなどのワークを行います。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜指示いたします。			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	ジャーナリズム論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	田代 俊一郎		単 位	2
授業の目的 と概要	トランプ米大統領のメディアへの不信、敵対心に象徴されるように、ジャーナリズムは危機的状況にある。自由、民主主義、人権など共通の価値観、思想を追求してきたジャーナリズムが試される時代だ。むしろ、このような困難な時代こそジャーナリズムとはなにか、問い直し、思考することは必要だ。新聞、テレビ、ラジオ、雑誌、本などのメディアを第一線で活動するゲストも交えながら一緒に考えたい。昨年は新聞「筑紫ジャーナル」を刊行した。			
到達目標	ジャーナリズムの意味するところを自分で考え、発信していく力を蓄え、磨くことで、社会生活を豊かに生きることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンスと文章の書き方		課題の準備	
第2回	ジャーナリズムの発生一言葉と文字の発見		課題の準備	
第3回	ジャーナリズムの歴史		課題の準備	
第4回	ジャーナリズムの効果理論		課題の準備	
第5回	フェイクニュースの見分け方		課題の準備	
第6回	新聞論		課題の準備	
第7回	テレビ論		課題の準備	
第8回	ラジオ論		課題の準備	
第9回	広告論		課題の準備	
第10回	出版論		課題の準備	
第11回	戦争とジャーナリズム		課題の準備	
第12回	今後のジャーナリズムの行方		課題の準備	
第13回	I Tとジャーナリズム		課題の準備	
第14回	メディアリテラシーとは何か		課題の準備	
第15回	総括		課題の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％			
レポート	10％			
小テスト等	なし			
成果発表	出席が40％			
受講態度他	10％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	私語、遅刻厳禁。違反者は即履修停止もありうる。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	住環境デザイン演習【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	安恒 万記		単 位	2
授業の目的 と概要	本演習は、住環境に関わるフィールドワークの基礎を学び、住環境デザインの基本的な考え方、手法、技術を習得することを目的としています。環境負荷の少ない住環境形成、子どもの成長発達を支える住まい、身近な自然とのふれあい、ノーマライゼーションの配慮、などをテーマに対象フィールドを具体的に設定して課題を分析し、整備計画を考えます。			
到達目標	1.フィールドサーヴェイを通して住環境を読み取ることができる。 2.生活のニーズと住環境の課題を見出すことができる。 3.住要求に合わせた住環境デザインを創造することができる。 4.効果的なプレゼンテーションができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		テーマを考える	
第2回	課題A：住宅のデザイン		住要求を整理する	
第3回	敷地を読む		復習とまとめ	
第4回	機能を考える		情報収集と整理	
第5回	細部を考える		情報収集と整理	
第6回	CAD演習①		課題の自習	
第7回	CAD演習②		課題の自習	
第8回	プレゼンテーション		発表準備	
第9回	課題B：自由テーマ		情報収集	
第10回	フィールドサーヴェイ		現況調査	
第11回	現況の整理		情報収集	
第12回	課題の分析		課題の自習	
第13回	基本計画		課題の自習	
第14回	プレゼンテーション		発表準備	
第15回	まとめ		振り返りと修正案を考える	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	50％			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・欠席をしないよう心がけてください。自発的な学習と自習が必要です。各自が責任を持って授業に参加してください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します。			
オフィスワー	木曜日 10：50～12：20		メールアドレス	

授 業 科 目	循環型社会論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	里村 睦弓		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義は、我々は現代の消費社会において、有限の資源のなかで営みを継続しなければならないことを理解し、今後も持続可能な社会を発展し続けていくために必要な基礎的能力を習得することを目的としている。特に第1次産業である農業、および、それらに関連する食品産業に視点を置き、生産から消費に関わるフード・システムといった農業・食に関連する流通システムの側面を学び、生産・流通・消費の3つの視点から循環型社会および持続可能な社会について考察することができるようにする。			
到達目標	1.「循環型社会」「持続可能な社会」について社会的な位置づけを理解し、具体例を用い説明できることを目的としている。 2.ディスカッションやプレゼンテーションを通し、コミュニケーション・スキルを養うことを目的としている。 3.レポート作成を通し、「課題の発見」「課題の解決」「意見を発信」する力を養うことを目的としている。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション～講義の進め方 評価方法の説明～		講義で出題した小レポートの作成	
第2回	循環型社会とは①～循環型社会を経済学の視点からみてみよう～		講義で出題した小レポートの作成	
第3回	循環型社会とは②～循環型社会へのアプローチ～		講義で出題した小レポートの作成	
第4回	循環型社会とは③～食料・農業・農村からみた循環型社会～		講義で出題した小レポートの作成	
第5回	食品産業と循環型社会～①～食料・食品をめぐる流通システム～		講義で出題した小レポートの作成	
第6回	食品産業と循環型社会②～食品廃棄物の現状と課題～		講義で出題した小レポートの作成	
第7回	食品産業と循環型社会③～食品関連産業の循環型社会への取り組み～		講義で出題した小レポートの作成	
第8回	農業と循環型社会①～農産物をめぐる流通システムおよびそれらのもたらす環境負荷の現状と課題とその対策～		講義で出題した小レポートの作成	
第9回	農業と循環型社会②～畜産物をめぐる流通システムおよびそれらのもたらす環境負荷の現状と課題とその対策～		講義で出題した小レポートの作成	
第10回	消費者行動と循環型社会①～循環型社会と消費社会 消費者の社会的な貢献・寄与～		講義で出題した小レポートの作成	
第11回	消費者行動と循環型社会②～地域における循環型社会の実例～		講義で出題した小レポートの作成	
第12回	プレゼンテーション・レポート①～これからの循環型社会について考えてみよう（テーマ設定）～		プレゼンテーションに向けテーマの選定	
第13回	プレゼンテーション・レポート②～パワーポイント・レポートの作成～		プレゼンテーションに向けパワーポイント作成	
第14回	プレゼンテーション・レポート③～パワーポイント・レポートの作成～		プレゼンテーションに向けパワーポイントおよびレポートの作成	
第15回	プレゼンテーション・レポート④～発表～		発表を通して得られた新しい知見をもとに最終レポートの作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 最終課題レポート 第15回で発表したものをレポートとしてまとめる。			
小テスト等	20％ 講義中に課するレポート			
成果発表	30％ 最終プレゼンテーション			
受講態度他	10％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業は講義形式で行うが、グループワークやディスカッションも取り入れながら進めていく。最終（第15回）講義においてプレゼンテーションを実施するため、毎講義での積極的な授業参加（発言や質問）を望む。			
教科書	なし 適宜プリントを配布する			
指定図書	なし			
参考図書	植田和弘・高月紘・楠部孝誠・新山陽子(2012)「有機物循環論」昭和堂、宇山満(2016)「食と農の教室③食と農の環境経済学・持続可能な社会に向けて-」昭和堂、佐開津典生・鈴木宣弘(2015)「農業経済学[第4版]」岩波書店			
オフィスアワー	火曜日昼休み（12:10～13:10）		メールアドレス	

授 業 科 目	情報科学概論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	持尾 弘司		単 位	2
授業の目的 と概要	コンピュータを利用した情報処理の基本的仕組みを理解し、現代社会における「情報」のありかたについて考察することを目的とする。 1. 「情報」という言葉の意味を説明できるようになる。 2. コンピュータによる情報処理の基本的仕組みを理解し説明することができるようになる。 3. 社会発展の歴史において、情報処理技術がいかなる役割を果たしたかを認識できるようになる。 「情報」とは何かという考察から始めて順次情報科学のトピックを取り上げて行く。また、知識の定着を図るため問題演習を二回実施する。さらに最終回にはまとまった確認テストを行う。			
到達目標	1. コンピュータの基本原理を説明できる。 2. ハードウェアとソフトウェアについて説明できる。 3. ネットワーク社会の仕組みと諸問題について説明できる。 4. 情報科学の基礎理論について説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション： 情報とは何か、情報量の概念、デジタルデータ、計算			復習 講義内容	
第2回 情報処理装置 1： コンピュータとは、ハードウェアとソフトウェア、入出力装置			復習 講義内容	
第3回 情報処理装置 2： 処理速度、データ記憶			復習 講義内容	
第4回 情報の表現 1： 2進数、2進数演算、論理演算			復習 講義内容	
第5回 情報の表現 2： 文字、数値、画像、音声			復習 講義内容	
第6回 情報の伝送と情報量： 誤り検出と訂正、二分決定木			復習 講義内容	
第7回 問題演習 1： 第1回～第6回内容の確認			復習 第1回～第6回の内容	
第8回 情報の処理 1： アルゴリズム（その 1 整列）			復習 講義内容	
第9回 情報の処理 2： アルゴリズム（その 2 探索）			復習 講義内容	
第10回 情報の組織化： 永続化、関係データベース、データベース管理システム			復習 講義内容	
第11回 情報の共有 1： ネットワークの基本、インターネットとは、自律分散			復習 講義内容	
第12回 情報の共有 2： インターネットプロトコル、名前解決、経路制御			復習 講義内容	
第13回 情報セキュリティ： 誰から何を守るか、暗号化、公開鍵暗号系			復習 講義内容	
第14回 問題演習 2： 第7回～第12回内容の確認			復習 第7回～第12回の内容	
第15回 総まとめの確認テスト			復習 第1回～第14回の内容	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	30％：問題演習 1、 2 （各々15％） 50％：総まとめの確認テスト			
成果発表	なし			
受講態度他	20％（欠席 1 回につき5％減、遅刻は 1 回につき2％減）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	水曜昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	情報処理応用演習 A (Word) 【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	隅田 康明・小川 暢祐		単 位	1
授業の目的と概要	MS Wordはワードプロセッサのデファクトスタンダードである。本演習では、MS Wordを自在に活用することができる知識と技術を身に付ける。 1. 実社会で遭遇する様々な局面で的確に文書を作成することができるようになる。 2. 決められた様式にしたがって文書を正確に作成できるようになる。 3. 類似文書やテンプレートの利用ができるようになる。 毎回数題の問題演習を行い、作成した文書を提出する。			
到達目標	1. 実社会で要求される文書の概要を把握している。 2. 文字列、グラフィック、図表とグラフの挿入配置ができる。 3. 文字、段落、ページ書式の設定ができる。箇条書きと段落番号の設定ができる。 4. ハイパーリンクを設定できる。 5. テンプレートの利用ができる。 6. 文書の保存管理ができる。 7. コメントと変更履歴の管理ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション 【基礎編】 社内通知 1		予習 p.2～p.3	
第 2 回	【基礎編】 社内通知 2、社内通知 3、通知状 1、通知状 2		予習 p.4～p.11	
第 3 回	【基礎編】 案内状 1、案内状 2、FAX送付状、転勤挨拶はがき		予習 p.11～p.19	
第 4 回	【基礎編】 社員旅行のご案内、見積書、納品書、エントリーシート		予習 p.20～p.27	
第 5 回	【基礎編】 出張旅費精算書、始末書、企画書、会議報告書		予習 p.28～p.35	
第 6 回	【基礎編】 詫び状、会議議事録、稟議書、指示書		予習 p.36～p.43	
第 7 回	【基礎編】 社内通知 4、パソコンスクール・パンフレット、社内報、依頼状		予習 p.44～p.51	
第 8 回	【応用編】 案内状 1、案内状 2、案内状 3、通知状 1		予習 p.54～p.57	
第 9 回	【応用編】 案内状 4、通知状 2、案内状 5、案内状 6		予習 p.58～p.61	
第10回	【応用編】 あいさつ状、請求書、見積書、業務日報		予習 p.62～p.65	
第11回	【応用編】 出張報告書、表彰状、調査報告書、企画書 1		予習 p.66～p.70	
第12回	【応用編】 企画書 2、案内状 7、宛名ラベル、詫び状		予習 p.71～p.74	
第13回	【応用編】 礼状、通達文、通知文、伺書、マニュアル		予習 p.75～p.79	
第14回	総合問題演習：第 1 回から第 1 3 回までの内容を反映した課題（教科書参照可）		復習 p.2～p.79	
第15回	到達度確認演習：第 1 回から第 1 4 回までの内容を反映した課題（教科書参照不可）		復習 p.2～p.79	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％：第 1 回から第 1 3 回までの課題 10％：総合問題演習 30％：到達度確認演習			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（欠席 1 回につき 5％減、遅刻は 1 回につき 2％減）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。			
教科書	『Wordビジネス問題集』日経BP社（2013対応版）			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワーク	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	情報処理応用演習 A (Word) 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	持尾 弘司・小川 暢祐		単 位	1
授業の目的 と概要	MS Wordはワードプロセッサのデファクトスタンダードである。本演習では、MS Wordを自在に活用することができる知識と技術を身に付ける。 1. 実社会で遭遇する様々な局面で的確に文書を作成することができるようになる。 2. 決められた様式にしたがって文書を正確に作成できるようになる。 3. 類似文書やテンプレートの利用ができるようになる。 毎回数題の問題演習を行い、作成した文書を提出する。			
到達目標	1. 実社会で要求される文書の概要を把握している。 2. 文字列、グラフィック、図表とグラフの挿入配置ができる。 3. 文字、段落、ページ書式の設定ができる。箇条書きと段落番号の設定ができる。 4. ハイパーリンクを設定できる。 5. テンプレートの利用ができる。 6. 文書の保存管理ができる。 7. コメントと変更履歴の管理ができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション 【基礎編】 社内通知 1		予習 p.2～p.3	
第 2 回	【基礎編】 社内通知 2、社内通知 3、通知状 1、通知状 2		予習 p.4～p.11	
第 3 回	【基礎編】 案内状 1、案内状 2、FAX送付状、転勤挨拶はがき		予習 p.11～p.19	
第 4 回	【基礎編】 社員旅行のご案内、見積書、納品書、エントリーシート		予習 p.20～p.27	
第 5 回	【基礎編】 出張旅費精算書、始末書、企画書、会議報告書		予習 p.28～p.35	
第 6 回	【基礎編】 詫び状、会議議事録、稟議書、指示書		予習 p.36～p.43	
第 7 回	【基礎編】 社内通知 4、パソコンスクール・パンフレット、社内報、依頼状		予習 p.44～p.51	
第 8 回	【応用編】 案内状 1、案内状 2、案内状 3、通知状 1		予習 p.54～p.57	
第 9 回	【応用編】 案内状 4、通知状 2、案内状 5、案内状 6		予習 p.58～p.61	
第10回	【応用編】 あいさつ状、請求書、見積書、業務日報		予習 p.62～p.65	
第11回	【応用編】 出張報告書、表彰状、調査報告書、企画書 1		予習 p.66～p.70	
第12回	【応用編】 企画書 2、案内状 7、宛名ラベル、詫び状		予習 p.71～p.74	
第13回	【応用編】 礼状、通達文、通知文、伺書、マニュアル		予習 p.75～p.79	
第14回	総合問題演習：第 1 回から第 1 3 回までの内容を反映した課題（教科書参照可）		復習 p.2～p.79	
第15回	到達度確認演習：第 1 回から第 1 4 回までの内容を反映した課題（教科書参照不可）		復習 p.2～p.79	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％：第 1 回から第 1 3 回までの課題 10％：総合問題演習 30％：到達度確認演習			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（欠席 1 回につき 5％減、遅刻は 1 回につき 2％減）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。			
教科書	『Wordビジネス問題集』日経BP社（2013対応版）			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワー	水曜日昼休み（持尾）、授業の前後（小川）	メールアドレス		

授 業 科 目	情報処理応用演習 B (E x cel) 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	隅田 康明・小川 暢祐		単 位	1
授業の目的と概要	MS Excelはスプレッドシートのデファクトスタンダードである。本演習では、MS Excelを自在に活用する知識と技術を身に付ける。 1. データを的確に記録、整理できるようになる。 2. 記録されたデータを必要に応じて処理できるようになる。 3. 処理結果を要求された形式で適切に表示、出力することができるようになる。 毎回教科書にしたがって順次課題の作成に取り組む。			
到達目標	1. 実社会で遭遇する表計算の概要を把握している。 2. セルへの数値、文字列、画像データ入力や編集ができる。 3. セルの書式設定ができる。 4. ワークシートの整理、ページ設定と印刷等ブック管理ができる。 5. オートフィルタによる抽出や並べ替えができる。 5. 関数を用いたデータ処理ができる。 6. 図表とグラフの作成ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	表作成の基本操作		予習 p.1～p.15	
第 2回	表を見やすく使いやすくする編集操作		予習 p.16～p.29	
第 3回	数式・関数を活用した集計表の作成		予習 p.30～p.44	
第 4回	表示形式や関数を活用した表の作成		予習 p.45～p.57	
第 5回	定型の表を作成する操作		予習 p.58～p.71	
第 6回	グラフの基本		予習 p.72～p.86	
第 7回	目的に応じたグラフの作成と編集		予習 p.87～p.103	
第 8回	データベース機能の利用		予習 p.104～p.117	
第 9回	データの抽出		予習 p.118～p.131	
第10回	条件を指定した集計・分析		予習 p.132～p.142	
第11回	ワークシート間の集計		予習 p.143～p.153	
第12回	集計作業の自動化		予習 p.154～p.168	
第13回	総合問題演習1： 総合1～総合3		復習 p.1～p.168	
第14回	総合問題演習2： 総合4～総合6		復習 p.1～p.168	
第15回	到達度確認演習： 第1回から第14回までの内容を反映した課題（教科書参照不可）		復習 p.1～p.175	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％：第1回から第12回までの課題 10％：総合問題演習（5％×2） 30％：到達度確認演習			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（欠席1回につき5％減、遅刻1回につき2％減）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。			
教科書	『情報利活用 表計算』 日経BP社（Excel2013/2010対応）			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	情報処理応用演習 B (E x cel) 【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	持尾 弘司・小川 暢祐		単 位	1
授業の目的と概要	MS Excelはスプレッドシートのデファクトスタンダードである。本演習では、MS Excelを自在に活用する知識と技術を身に付ける。 1. データを的確に記録、整理できるようになる。 2. 記録されたデータを必要に応じて処理できるようになる。 3. 処理結果を要求された形式で適切に表示、出力することができるようになる。 毎回教科書にしたがって順次課題の作成に取り組む。			
到達目標	1. 実社会で遭遇する表計算の概要を把握している。 2. セルへの数値、文字列、画像データ入力や編集ができる。 3. セルの書式設定ができる。 4. ワークシートの整理、ページ設定と印刷等ブック管理ができる。 5. オートフィルタによる抽出や並べ替えができる。 5. 関数を用いたデータ処理ができる。 6. 図表とグラフの作成ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	表作成の基本操作		予習 p.1～p.15	
第 2回	表を見やすく使いやすくする編集操作		予習 p.16～p.29	
第 3回	数式・関数を活用した集計表の作成		予習 p.30～p.44	
第 4回	表示形式や関数を活用した表の作成		予習 p.45～p.57	
第 5回	定型の表を作成する操作		予習 p.58～p.71	
第 6回	グラフの基本		予習 p.72～p.86	
第 7回	目的に応じたグラフの作成と編集		予習 p.87～p.103	
第 8回	データベース機能の利用		予習 p.104～p.117	
第 9回	データの抽出		予習 p.118～p.131	
第10回	条件を指定した集計・分析		予習 p.132～p.142	
第11回	ワークシート間の集計		予習 p.143～p.153	
第12回	集計作業の自動化		予習 p.154～p.168	
第13回	総合問題演習1： 総合1～総合3		復習 p.1～p.168	
第14回	総合問題演習2： 総合4～総合6		復習 p.1～p.168	
第15回	到達度確認演習： 第1回から第14回までの内容を反映した課題（教科書参照不可）		復習 p.1～p.175	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％：第1回から第12回までの課題 10％：総合問題演習（5％×2） 30％：到達度確認演習			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（欠席1回につき5％減、遅刻1回につき2％減）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。			
教科書	『情報利活用 表計算』 日経BP社（Excel2013/2010対応）			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワー	水曜日昼休み（持尾）、授業の前後（小川）		メールアドレス	

授 業 科 目	情報処理応用演習 C (Power Point) 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	持尾 弘司		単 位	1
授業の目的と概要	MS PowerPointはプレゼンテーションソフトのデファクトスタンダードである。本演習では、MS PowerPointを自在に活用できる知識と技術を身に付ける。 1. 必要な説明内容をプレゼンテーションの標準形式にまとめることができるようになる。 2. PowerPointの多機能を利用して効果的な説明と説得ができるようになる。 3. プレゼンテーションに付随する各種資料を適切に準備することができるようになる。 教科書にしたがって順次課題の作成を行う。			
到達目標	1. 実社会で要求されるプレゼンテーションの概要を把握している。 2. 文字列、表、グラフ、図表、図形、グラフィックを挿入配置してスライドを作成できる。 3. スライドの書式設定ができる。 4. スライドマスタを利用できる。 5. 画面切り替えとアニメーションの設定ができる。 6. プレゼンテーションの発行ができる。 7. 配布資料や発表者ノートの準備ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	プレゼンテーションの企画		予習 p.1～p.16	
第 2回	わかりやすいストーリー構成		予習 p.17～p.26	
第 3回	必要な情報の収集		予習 p.27～p.39	
第 4回	センスアップするレイアウトデザイン		予習 p.40～p.54	
第 5回	視覚に訴えるチャート化		予習 p.55～p.73	
第 6回	訴求力を上げるカラー化		予習 p.74～p.87	
第 7回	数値をアピールする表・グラフ活用		予習 p.88～p.104	
第 8回	イメージを伝えるイラスト・写真活用		予習 p.105～p.117	
第 9回	発表で魅せるアニメーション		予習 p.118～p.129	
第10回	自信を高める万全な準備		予習 p.130～p.141	
第11回	メッセージが伝わる発表スキル		予習 p.142～p.154	
第12回	信頼を得る質疑応答		予習 p.155～p.167	
第13回	総合問題演習1： 総合問題1、総合問題2		復習 p.1～p.167	
第14回	総合問題演習2： 総合問題3		復習 p.1～p.167	
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題（教科書参照不可）		復習 p.1～p.177	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％：第1回から第12回までの課題 10％：総合問題演習（1：6％＋2：4％） 30％：到達度確認演習			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（欠席1回につき5％減、遅刻1回につき2％減）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。			
教科書	『情報利活用 プレゼンテーション』 日経BP社（PowerPoint 2013/2010 対応）			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワー	水曜日昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	情報処理応用演習 C (Power Point) 【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	持尾 弘司		単 位	1
授業の目的 と概要	MS PowerPointはプレゼンテーションソフトのデファクトスタンダードである。本演習では、MS PowerPointを自在に活用できる知識と技術を身に付ける。 1. 必要な説明内容をプレゼンテーションの標準形式にまとめることができるようになる。 2. PowerPointの多機能を利用して効果的な説明と説得ができるようになる。 3. プレゼンテーションに付随する各種資料を適切に準備することができるようになる。 教科書にしたがって順次課題の作成を行う。			
到達目標	1. 実社会で要求されるプレゼンテーションの概要を把握している。 2. 文字列、表、グラフ、図表、図形、グラフィックを挿入配置してスライドを作成できる。 3. スライドの書式設定ができる。 4. スライドマスタを利用できる。 5. 画面切り替えとアニメーションの設定ができる。 6. プレゼンテーションの発行ができる。 7. 配布資料や発表者ノートの準備ができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	プレゼンテーションの企画		予習 p.1～p.16	
第 2回	わかりやすいストーリー構成		予習 p.17～p.26	
第 3回	必要な情報の収集		予習 p.27～p.39	
第 4回	センスアップするレイアウトデザイン		予習 p.40～p.54	
第 5回	視覚に訴えるチャート化		予習 p.55～p.73	
第 6回	訴求力を上げるカラー化		予習 p.74～p.87	
第 7回	数値をアピールする表・グラフ活用		予習 p.88～p.104	
第 8回	イメージを伝えるイラスト・写真活用		予習 p.105～p.117	
第 9回	発表で魅せるアニメーション		予習 p.118～p.129	
第10回	自信を高める万全な準備		予習 p.130～p.141	
第11回	メッセージが伝わる発表スキル		予習 p.142～p.154	
第12回	信頼を得る質疑応答		予習 p.155～p.167	
第13回	総合問題演習1： 総合問題1、総合問題2		復習 p.1～p.167	
第14回	総合問題演習2： 総合問題3		復習 p.1～p.167	
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題（教科書参照不可）		復習 p.1～p.177	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％：第1回から第12回までの課題 10％：総合問題演習（1：6％＋2：4％） 30％：到達度確認演習			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（欠席1回につき5％減、遅刻1回につき2％減）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。			
教科書	『情報利活用 プレゼンテーション』 日経BP社（PowerPoint 2013/2010 対応）			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワー	水曜日昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	情報処理応用演習D (Access) 【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	持尾 弘司		単 位	1
授業の目的と概要	MS Accessは小規模関係データベースのデファクトスタンダードである。本演習では、MS Accessを自在に活用できる知識と技術を身に付ける。 1. 要求に従って関係データベースを全体設計できるようになる。 2. データを記録し永続化することができるようになる。 3. 記録データを必要に応じて加工・抽出できるようになる。 4. インターフェイスや出力フォーマットを独自設定できるようになる。 教科書にしたがって順次データベースを構築しデータ処理を行う。最後に2回の総合演習を行う。			
到達目標	1. 実社会で利用される関係データベースの概要を把握している。 2. 関係データベースの構築ができる。 3. 関係データベース要素の作成と書式設定ができる。 4. データ入力と編集ができる。 5. クエリによるデータ抽出・加工ができる。 6. フォームデザイン、レポートデザインができる。 7. 関係データベースの維持管理ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション、リレーショナルデータベースとははじめ		予習 p.4～p.6	
第 2 回	Accessの基本操作とデータベースの作成： 4つのオブジェクト、ビューの種類、オプションの設定、テンプレート		予習 p.7～p.27	
第 3 回	テーブルの作成： フィールドとレコード、主キー、リレーションシップ、参照整合性		予習 p.29～p.44	
第 4 回	テーブルの編集： フィールドの追加と削除、フィールドプロパティ、テーブルプロパティ		予習 p.45～p.68	
第 5 回	データシートビューの利用： データ検索と置換、オブジェクトの挿入、並べ替え、抽出、集計		予習 p.69～p.88	
第 6 回	クエリの作成 (1)： 選択クエリ、テーブル結合、抽出条件、並べ替え、演算フィールド		予習 p.89～p.102	
第 7 回	クエリの作成 (2)： フィールドの集計、パラメータクエリ、重複クエリ、クロス集計、ルックアップ、アクションクエリ		予習 p.103～p.116	
第 8 回	フォームの作成： ウィザード利用と空白フォーム、セクションとコントロール、プロパティ、サブフォーム		予習 p.117～p.150	
第 9 回	レポートの作成： セクションとコントロール、集計レポート、グループ化、宛名ラベル		予習 p.151～p.168	
第10回	フォームとレポートのデザイン編集： コントロールの選択、レイアウト、移動とサイズ変更、整列、プロパティ		予習 p.169～p.186	
第11回	他アプリケーションとの連携： オブジェクトコピー、図の挿入、データインポート、データエクスポート		予習 p.187～p.207	
第12回	データベースの管理： バックアップ、最適化と修復、分割、解析、セキュリティ、ナビゲーションフォーム		予習 p.207～p.228	
第13回	マクロとVBAの利用： マクロの作成と編集、埋め込みマクロ、データマクロ、VBAへの変換、プロシージャ		予習 p.229～p.250	
第14回	総合問題演習：第1回から第13回までの内容を反映した課題（教科書参照可）		復習 p.1～p.250	
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題（教科書参照不可）		復習 p.1～p.250	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％：第1回から第13回までの課題 10％：総合問題演習 30％：到達度確認演習			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（欠席1回につき5％減、遅刻1回につき2％減）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。			
教科書	「Access2016 基礎セミナーテキスト」日経BP			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワー	水曜日昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	情報処理応用演習D (Access) 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	持尾 弘司		単 位	1
授業の目的 と概要	MS Accessは小規模関係データベースのデファクトスタンダードである。本演習では、MS Accessを自在に活用できる知識と技術を身に付ける。 1. 要求に従って関係データベースを全体設計できるようになる。 2. データを記録し永続化することができるようになる。 3. 記録データを必要に応じて加工・抽出できるようになる。 4. インターフェイスや出力フォーマットを独自設定できるようになる。 教科書にしたがって順次データベースを構築しデータ処理を行う。最後に2回の総合演習を行う。			
到達目標	1. 実社会で利用される関係データベースの概要を把握している。 2. 関係データベースの構築ができる。 3. 関係データベース要素の作成と書式設定ができる。 4. データ入力と編集ができる。 5. クエリによるデータ抽出・加工ができる。 6. フォームデザイン、レポートデザインができる。 7. 関係データベースの維持管理ができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション、リレーショナルデータベースとはじめ		予習 p.4～p.6	
第 2 回	Accessの基本操作とデータベースの作成： 4つのオブジェクト、ビューの種類、オプションの設定、テンプレート		予習 p.7～p.27	
第 3 回	テーブルの作成： フィールドとレコード、主キー、リレーションシップ、参照整合性		予習 p.29～p.44	
第 4 回	テーブルの編集： フィールドの追加と削除、フィールドプロパティ、テーブルプロパティ		予習 p.45～p.68	
第 5 回	データシートビューの利用： データ検索と置換、オブジェクトの挿入、並べ替え、抽出、集計		予習 p.69～p.88	
第 6 回	クエリの作成 (1)： 選択クエリ、テーブル結合、抽出条件、並べ替え、演算フィールド		予習 p.89～p.102	
第 7 回	クエリの作成 (2)： フィールドの集計、パラメータクエリ、重複クエリ、クロス集計、ルックアップ、アクションクエリ		予習 p.103～p.116	
第 8 回	フォームの作成： ウィザード利用と空白フォーム、セクションとコントロール、プロパティ、サブフォーム		予習 p.117～p.150	
第 9 回	レポートの作成： セクションとコントロール、集計レポート、グループ化、宛名ラベル		予習 p.151～p.168	
第10回	フォームとレポートのデザイン編集： コントロールの選択、レイアウト、移動とサイズ変更、整列、プロパティ		予習 p.169～p.186	
第11回	他アプリケーションとの連携： オブジェクトコピー、図の挿入、データインポート、データエクスポート		予習 p.187～p.207	
第12回	データベースの管理： バックアップ、最適化と修復、分割、解析、セキュリティ、ナビゲーションフォーム		予習 p.207～p.228	
第13回	マクロとVBAの利用： マクロの作成と編集、埋め込みマクロ、データマクロ、VBAへの変換、プロシージャ		予習 p.229～p.250	
第14回	総合問題演習：第1回から第13回までの内容を反映した課題（教科書参照可）		復習 p.1～p.250	
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題（教科書参照不可）		復習 p.1～p.250	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％：第1回から第13回までの課題 10％：総合問題演習 30％：到達度確認演習			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（欠席1回につき5％減、遅刻1回につき2％減）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。			
教科書	「Access2016 基礎セミナーテキスト」日経BP			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワー	水曜日昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	情報処理基礎演習 I 【演習】			開 講 時 期	前期
担 当 教 員	持尾 弘司・一ノ瀬 元史・富永 信一・坂根 美津子・隅田 康明			単 位	1
授業の目的と概要	社会生活で必須とされるワードプロセッサ、プレゼンテーションソフト、表計算ソフト、データベースの使い方を身に付ける。 1. 文字データや画像データを利用した文書作成ができるようになる。 2. 文字データや画像データを利用してプレゼンテーションをすることができるようになる。 3. データを表形式で整理し処理・分析できるようになる。 4. データを永続化し利用することができるようになる。 毎回、テーマに沿って具体的な課題を作成する。教科書には細かな手順が記載されているので指示通りに作業を行い、完成したものを提出する。さらに、Word、PowerPoint、Excelについてのまとまった課題作成を各1回ずつ行う。				
到達目標	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。 4. Accessを用いて、関係データベースを作成し永続的にデータを活用することができる。				
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第 1回 メール、Web： ネット環境				予習	p.30～p.58
第 2回 基本的な文書の作成： タッチタイピング、文字変換、ページ設定、文字書式、段落書式				予習	p.62～p.82
第 3回 オブジェクトの取り扱い： 脚注、ヘッダーとフッター、表、図・写真、ワードアート				予習	p.83～p.103
第 4回 Word課題作成				復習	p.62～p.103
第 5回 プレゼンテーションの作成： プレゼンテーションの基礎、スライド管理、文字入力、レイアウト、図				予習	p.194～p.208
第 6回 プレゼンテーションの構成、書式： 発表の組み立て、書式、画面切替効果、アニメーション、スライドショー、印刷				予習	p.209～p.230
第 7回 PowerPoint課題作成				復習	p.194～p.230
第 8回 Excelの基本と関数の利用： データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参照、基本的な関数				予習	p.108～p.137
第 9回 書式の設定、グラフ： 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの作成、グラフの貼り付け				予習	p.138～p.160 p.184～p.186
第10回 高度な関数 1： RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR				予習	p.161～p.168
第11回 高度な関数 2： LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE				予習	p.168～p.172 p.186～p.188
第12回 リストデータベース： リストデータ、並べ替え、抽出、ピボットテーブル				予習	p.173～p.183
第13回 Excel課題作成				復習	p.108～p.190
第14回 関係データベースの基本： オブジェクト、テーブル、主キー、フィールド定義、並べ替え、抽出				予習	p.234～p.254
第15回 リレーションシップ、クエリ、入出力： リレーションシップ、選択クエリ、フォーム、レポート				予習	p.255～p.273
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	なし				
レポート	20％：通常提出 20％：Word課題 10％：PowerPoint課題 30％：Excel課題				
小テスト等	なし				
成果発表	なし				
受講態度他	20％（欠席1回につき5％減、遅刻1回につき2％減）				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	作業中、互いに教え合うことは可。ただし、周りの迷惑にならないように十分注意すること。それ以外の私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。				
教科書	矢野文彦 『情報リテラシー教科書』 オーム社（Windows 8 / Office 2013 + Access 対応版）				
指定図書	なし				
参考図書	授業中に適宜紹介				
オフィスワーク	水曜日昼休み（持尾）、金曜日昼休み（一ノ瀬）、授業の前後（富永、坂根、隅田）			メールアドレス	

授 業 科 目	情報処理基礎演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	持尾 弘司・一ノ瀬 元史・富永 信一・坂根 美津子・隅田 康明		単 位	1
授業の目的と概要	ワードプロセッサによる高度な文書作成の方法を身に付ける。 1. 文字データや画像データを記録し、整理することができるようになる。 2. データを活用した高度な文書作成ができるようになる。 3. 表やグラフの形でデータを提示することができる。 毎回、テーマに沿って具体的な課題文書を作成する。教科書には細かな手順が記載されているので指示通りに作業を行い、完成したものを提出する。さらに、二回の総合問題演習を行う。最終回に到達度確認テストを実施する。			
到達目標	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。 2. Wordの校正機能によって文書を誤りのないものにし、レビュー機能で変更履歴を管理できる。 3. Excelと連携して表やグラフの形でデータを整理・提示することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	文書の作成と整理： 新規文書、文字入力、文字の強調、保存と印刷		予習 p.1～p.14	
第 2 回	一般的なビジネス文書の作成： 基本ルール、インデント、均等割り付け、タブによる位置揃え、ルビ		予習 p.15～p.27	
第 3 回	シンプルなレポートや報告書の作成： 基本ルール、段落書式、罫線、箇条書き、行送り		予習 p.28～p.43	
第 4 回	複数宛先への送付文書： 差し込み印刷、メイン文書、データファイル、差し込みフィールド、宛名レベル		予習 p.44～p.56	
第 5 回	表で項目や数値を整理した文書： 表の挿入、表のレイアウト、表の書式、表の配置		予習 p.57～p.70	
第 6 回	イラストや図形を使ったビジュアルな文書： ワードアート、クリップアート、図表の作成と編集		予習 p.71～p.88	
第 7 回	図やグラフで情報を伝える文書： SmartArtの作成と編集、グラフの作成、テキストボックス		予習 p.89～p.101	
第 8 回	既存のデータを利用した文書の作成： 文書の組み合わせ、Excelデータの貼り付け、写真の挿入、テーマ		予習 p.102～p.114	
第 9 回	読みやすいレイアウトの長文作成： スタイルによる書式統一、段組、ドロップキャップ、ページ罫線		予習 p.115～p.125	
第10回	効率の良い長文の作成： アウトライン、文書構造の変更、検索と置換、移動、ウィンドウ分割と参照		予習 p.126～p.138	
第11回	長文の編集と加工： 表紙、目次、脚注、セクション、ヘッダーとフッター、ページ番号		予習 p.139～p.150	
第12回	共同作業と文書の保護： コメント、変更履歴の記録と反映、異なる文書の比較、文書の保護		予習 p.151～p.162	
第13回	総合問題演習： 総合問題1、総合問題2、総合問題3		予習 p.164～p.167	
第14回	総合問題演習： 総合問題4、総合問題5		予習 p.168～p.171	
第15回	到達度確認テスト		復習 p.1～p.171	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20％：通常提出 20％：総合問題演習（各回10％）			
小テスト等	40％：到達度確認テスト			
成果発表	なし			
受講態度他	20％（欠席 1 回につき5％減、遅刻1回につき2％減）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。			
教科書	ZUGA 『情報利活用ワープロ』日経BP社（Word 2013 / 2010 対応）			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワー	水曜日昼休み（持尾）、金曜日昼休み（一ノ瀬）、授業の前後（富永、坂根、隅田）	メールアドレス		

授 業 科 目	情報メディアの活用(司書教諭)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	持尾 弘司		単 位	2
授業の目的と概要	司書教諭に求められる情報メディアの活用能力を身に付ける。 1. 必要に応じ適切な情報メディアを選ぶことができるようになる。 2. 個々の情報メディアを使いこなすことができるようになる。 3. 情報メディアを学校教育に役立てることができるようになる。 4. 情報メディアの利用を促進することができるようになる。 高度情報社会、情報メディアの特性と選択、視聴覚メディアの活用について講義した後、プレゼンテーション、映像、データベース、Webページについて順次課題作成の演習を行う。最後に著作権とその保護について学ぶ。			
到達目標	1. 司書教諭に求められる情報リテラシーについて理解している。 2. 情報メディアの概要を把握している。 3. プレゼンテーションツールを幅広く活用することができる。 4. 映像メディアを利用してプロモーションを行うことができる。 5. Webを使って情報発信ができる。 6. ネットワークを通じたコミュニケーションを促すことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は学校図書館司書教諭課程の講習科目であり、学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図るねらいがある。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 高度情報社会、学校図書館、情報メディアの特性と選択			復習 講義内容	
第 2回 プレゼンテーション課題作成 1： データ取り込み、トリミング、スライド作成			予習 オンラインPowerPoint チュートリアル（初級）を実行	
第 3回 プレゼンテーション課題作成 2： テキスト挿入、場面切替効果、アニメーション			予習 オンラインPowerPoint チュートリアルを（中級）を実行	
第 4回 プレゼンテーション課題作成 3： ナレーション、効果音、BGM			予習 オンラインPowerPoint チュートリアル（上級前半）を実行	
第 5回 プレゼンテーション課題作成 4： 全体構成、タイミング設定、自動実行設定			予習 オンラインPowerPoint チュートリアル（上級後半）を実行	
第 6回 映像編集課題作成 1： データ取り込み、タイムライン配置、トリミング			復習 解説内容（映像データフォーマットおよびMovieMakerの概要）	
第 7回 映像編集課題作成 2： 場面切替効果、特殊効果、タイトル、エンドロール			復習 解説内容（主要な映像表現手法）	
第 8回 映像編集課題作成 3： ナレーション、効果音、BGM			復習 解説内容（映像と音の合成）	
第 9回 映像編集課題作成 4： 全体構成、ビルド、フォーラムへの投稿			復習 解説内容（映像編集と映像データの書き出し）	
第10回 データベースと情報検索 1： データベースの仕組み、テーブル、主キー、インデックス			予習 オンラインAccessチュートリアル（テーブル）を実行	
第11回 データベースと情報検索 2： リレーションシップ、クエリ			予習 オンラインAccessチュートリアル（クエリ）を実行	
第12回 データベースと情報検索 3： フォーム、レポート			予習 オンラインAccessチュートリアル（フォーム、レポート）を実行	
第13回 Web課題作成 1： トップページの作成、レイアウト、書式、HTML書出し			復習 解説内容（HTTPとHTMLの概要）	
第14回 Web課題作成 2： 情報検索ページの作成、レイアウト、書式、リンク設定、HTML書出し			復習 解説内容（高機能HTMLエディターの仕組みとWebページ作成）	
第15回 学校図書館メディアと著作権			復習 講義内容	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	25%：プレゼンテーション課題 25%：映像編集課題 10%：データベース課題 10%：Web課題 10%：講義内容確認課題			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%（欠席1回につき5%減、遅刻1回につき2%減）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワー	水曜日昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	女性・ジェンダー論①【講義】		開 講 時 期	前期	
担 当 教 員	喜多村 百合・武藤 桐子・赤枝 香奈子		単 位	2	
授業の目的 と概要	みなさんにとって明快な区分である男女の別は、普遍的・固定的ではなく、社会により異なり歴史的に変化してきたことが明らかとなっています。それをジェンダー(社会的文化的性差)と呼びます。この講義では、まず性差概念を整理したうえで、歴史や現代社会における性差をめぐる事象と諸課題を担当講師三人の専門領域を中心に検討します。 導入を喜多村が行い、前半では異文化におけるジェンダーを多面的に知ることをテーマに、インドを中心にその特徴と諸課題を理解します。中盤を赤枝が担当し、歴史におけるジェンダーについて、女性解放運動とのかかわりや、問題の変化や広がりを理解します。後半を武藤が担当し、日本におけるジェンダーについて、家族、労働、性などの身近な問題を中心に、歴史的視点を取り入れながら理解します。				
到達目標	①性差概念を理解し、差異化や制度化の歴史的な過程、およびその背景を理解し説明できる。 ②インドにおけるジェンダーのあり方や課題、可能性を理解し説明できる。 ③歴史に見られるジェンダーをめぐる問題やその変化を理解し説明できる。 ④日本社会におけるジェンダー問題や諸課題を理解し説明できる。				
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第 1回 導入Ⅰ：講義のねらいと性差概念のオリエンテーションⅠ				教科書第1章	
第 2回 導入Ⅱ：性差概念のオリエンテーションⅡ				教科書第8章	
第 3回 異文化に見るジェンダー：インドの社会・文化とジェンダーⅠ				指定図書①第3、6、14章	
第 4回 外部講師による特別講義				レポート作成	
第5回 異文化に見るジェンダー： インドの社会・文化とジェンダーⅡ				教科書unit19 指定図書②	
第6回 異文化に見るジェンダー：インドの女性の地位向上のあゆみ				教科書unit18 指定図書②第Ⅲ部4	
第7回 異文化に見るジェンダー：インドの女性の政治経済参加と課題				指定図書③4章、レポート作成	
第8回 歴史におけるジェンダー：日本における女性解放運動				教科書 unit 5, unit 16, unit 23	
第9回 歴史におけるジェンダー：売買春と戦時下・戦後の性暴力				教科書 unit 17, unit 20, unit 21	
第10回 歴史におけるジェンダー：セクシュアリティとジェンダー				教科書 unit 3, unit 14, 指定図書①（赤枝分）	
第11回 歴史におけるジェンダー：多様な性/生のあり方				教科書 unit22,unit 24、指定図書①（赤枝分）、レポート作成	
第12回 日本におけるジェンダー：性別役割分業と男女の働き方				教科書第2章、指定図書①第5章（武藤分）	
第13回 日本におけるジェンダー：家族をめぐる制度とジェンダー				教科書第2章	
第14回 日本におけるジェンダー：産む産まないをめぐる問題				教科書第7章unit20	
第15回 日本におけるジェンダー：暴力とジェンダー～DVを中心に				教科書第5章unit15、レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	なし				
レポート	中間および期末レポート（各講師ごとのテーマで作成）計3回 各30% （計90%）、特別講義5%				
小テスト等	なし				
成果発表	なし				
受講態度他	5%。なお初回導入二回後、講師ごとの4回の授業で、3回以上出席すること。				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日頃から女性・ジェンダーにかかわる新聞・雑誌記事、テレビニュースや番組などに関心を持って準備してほしい。				
教科書	千田有紀他『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣）				
指定図書	①伊藤公雄 『ジェンダーの社会学』 ②田中雅一他『南アジア社会を学ぶ人のために』 ③水島司編『叢書激動のインド第一巻変動のゆくえ』（赤枝、武藤分は、女性・ジェンダー論②③をそれぞれ参照）				
参考図書	①鈴木正崇編『南アジアの文化と社会を読み解く』 ②木村涼子編『よくわかるジェンダー・スタディーズ』③山下博司『インドを知る事典』（赤枝、武藤分は、女性・ジェンダー論②③をそれぞれ参照）				
オフィスアワー	喜多村（火5、木4） 赤枝（火4） 武藤（授業後、あるいはメールで）		メールアドレス		

授 業 科 目	女性・ジェンダー論②【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	喜多村 百合・武藤 桐子・赤枝 香奈子		単 位	2
授業の目的 と概要	みなさんにとって明快な区分である男女の別は、普遍的・固定的ではなく、社会により異なり歴史的に変化してきたことが明らかとなっています。それをジェンダー(社会的文化的性差)と呼びます。この講義では、まず性差概念を整理したうえで、歴史や現代社会における性差をめぐる事象と諸課題を担当講師三人の専門領域を中心に検討します。 導入を赤枝が行い、前半では歴史におけるジェンダーについて、女性解放運動とのかかわりや、問題の変化や広がりを理解します。中盤を武藤が担当し、日本におけるジェンダーについて、家族、労働、性などの身近な問題を中心に、歴史的視点を取り入れながら理解します。後半を喜多村が担当し、異文化におけるジェンダーを多面的に知るところをテーマに、インドを中心にその特徴と諸課題を理解します。			
到達目標	①性差概念を理解し、差異化や制度化の歴史的な過程、およびその背景を理解し説明できる。 ②インドにおけるジェンダーのあり方や課題、可能性を理解し説明できる。 ③歴史に見られるジェンダーをめぐる問題やその変化を理解し説明できる。 ④日本社会におけるジェンダー問題や諸課題を理解し説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 導入Ⅰ：講義のねらいと性差概念のオリエンテーション			教科書第1章	
第2回 導入Ⅱ：性差概念のオリエンテーション			教科書第8章	
第3回 歴史におけるジェンダー：日本における女性解放運動			教科書 unit 5, unit 16, unit 23	
第4回 外部講師による特別講義			レポート作成	
第5回 歴史におけるジェンダー：売買春と戦時下・戦後の性暴力			教科書 unit 17, unit 20, unit 21	
第6回 歴史におけるジェンダー：セクシュアリティとジェンダー			教科書 unit 3, unit 14 指定図書①	
第7回 歴史におけるジェンダー：多様な性／生のあり方			教科書 unit 22, unit 24 参考図書①、 レポート作成	
第8回 日本におけるジェンダー：性別役割分業と男女の働き方			教科書第3章	
第9回 日本におけるジェンダー：家族をめぐる制度とジェンダー			教科書第2章	
第10回 日本におけるジェンダー：産む・産まないをめぐる問題			教科書第7章 unit 20	
第11回 日本におけるジェンダー：暴力とジェンダー ～DVを中心に			教科書第5章 unit 15、レポート作成	
第12回 異文化に見るジェンダー：インドの社会・文化とジェンダーⅠ			指定図書①第3, 6, 14章（喜多村分）	
第13回 異文化に見るジェンダー：インドの社会・文化とジェンダーⅡ			教科書 unit 19 指定図書②（喜多村分）	
第14回 異文化に見るジェンダー：インドの女性の地位向上のあゆみ			教科書 unit 18 指定図書②第Ⅲ部4（喜多村分）	
第15回 異文化に見るジェンダー：インドの女性の政治経済参加と課題			指定図書③4章（喜多村分）、レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	中間および期末レポート(各講師ごとのテーマで作成)計3回 各30% (計90%)、特別講義5%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	5%。初回導入二回後、講師ごとの4回の授業で、3回以上出席する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日頃から女性・ジェンダーにかかわる新聞・雑誌記事、テレビニュースや番組などに関心を持って準備してほしい。			
教科書	千田有紀他『ジェンダー論をつかむ』有斐閣			
指定図書	①加藤秀一他『図解雑学 ジェンダー』ナツメ社 （喜多村分は女性・ジェンダー論①を、武藤分は女性・ジェンダー論③を参照）			
参考図書	①河口和也『クイア・スタディーズ』岩波書店 （喜多村分は女性・ジェンダー論①を、武藤分は女性・ジェンダー論③を参照）			
オフィスアワー	喜多村(火5、木4) 赤枝(火4) 武藤(授業後、あるいはメールで)	メールアドレス		

授 業 科 目	女性・ジェンダー論③【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	喜多村 百合・武藤 桐子・赤枝 香奈子		単 位	2
授業の目的と概要	みなさんにとって明快な区分である男女の別は、普遍的・固定的ではなく、社会により異なり歴史的に変化してきたことが明らかとなっています。それをジェンダー（社会的文化的性差）と呼びます。この講義では、まず性差概念を整理したうえで、歴史や現代社会における性差をめぐる事象と諸課題を担当講師三人の専門領域を中心に検討します。 はじめに導入を武藤が行い、日本におけるジェンダーについて、家族、労働、性などの身近な問題を中心に、歴史的視点を取り入れながら理解します。次に喜多村が担当し、異文化におけるジェンダーを多面的に知ることをテーマに、インドを中心にその特徴と諸課題を理解します。最後に赤枝が担当し、歴史におけるジェンダーについて、女性解放運動とのかかわりや、問題の変化や広がりを理解します。			
到達目標	①性差概念を理解し、その差異化と制度化の過程、およびその背景を理解し説明できる。 ②日本社会におけるジェンダー問題や諸課題を理解し説明できる。 ③インドにおけるジェンダーのあり方や課題、可能性を理解し説明できる。 ④歴史に見られるジェンダーをめぐる問題やその変化を理解し説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 導入Ⅰ：講義のねらいと性差概念のオリエンテーション			教科書第1章	
第2回 導入Ⅱ：性差概念のオリエンテーション			教科書第8章	
第3回 日本におけるジェンダー：性別役割分業と男女の働き方			教科書第3章	
第4回 外部講師による特別講義			レポート作成	
第5回 日本におけるジェンダー：家族をめぐる制度とジェンダー			教科書第2章	
第6回 日本におけるジェンダー：産む・産まないをめぐる問題			教科書第7章unit20	
第7回 日本におけるジェンダー：暴力とジェンダー ～DVを中心に			教科書第5章unit15、レポート作成	
第8回 異文化に見るジェンダー：インドの社会・文化とジェンダーⅠ			指定図書①第3、6、14章（喜多村分）	
第9回 異文化に見るジェンダー：インドの社会・文化とジェンダーⅡ			教科書unit19 指定図書②（喜多村分）	
第10回 異文化に見るジェンダー：インドの女性問題と地位向上のあゆみ			教科書unit18 指定図書②第Ⅲ部4（喜多村分）	
第11回 異文化に見るジェンダー：インドの女性の政治経済参加と課題			指定図書③4章（喜多村分）、レポート作成	
第12回 歴史におけるジェンダー：日本における女性解放運動			教科書 unit 5, unit 16, unit 23	
第13回 歴史におけるジェンダー：売買春と戦時下・戦後の性暴力			教科書 unit 17, unit 20, unit 21	
第14回 歴史におけるジェンダー：セクシュアリティとジェンダー			教科書 unit 3, unit 14 指定図書①（赤枝分）	
第15回 歴史におけるジェンダー：多様な性／生のあり方			教科書 unit 22, unit 24 参考図書①（赤枝分）、レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	中間および期末レポート（各講師ごとのテーマで作成）計3回 各30% （計90%）、特別講義5%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	5%。初回導入二回後、講師ごとの4回の授業で、3回以上出席すること。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日頃から女性・ジェンダーにかかわる新聞・雑誌記事、テレビニュースや番組などに関心を持って準備してほしい。			
教科書	千田有紀他『ジェンダー論をつかむ』有斐閣			
指定図書	①伊藤公雄 『ジェンダーの社会学』 ②高橋準『ジェンダー学への道案内』（喜多村分、赤枝分は女性・ジェンダー論①②を参照）			
参考図書	①加藤秀一他『図解雑学 ジェンダー』 ②江原由美子、山田昌弘『ジェンダーの社会学入門』（喜多村分、赤枝分は女性・ジェンダー論①②を参照）			
オフィスアワー	武藤（授業後、あるいはメールで） 喜多村（火5、木4） 赤枝（火4）	メールアドレス		

授 業 科 目	女性心理学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	洪田 登美子		単 位	2
授業の目的 と概要	人生80余年という長寿命化と少子化が急速に進む現代において、女性の性役割観や価値観が変容し、女性の生き方は多様化しています。女性が生き方を選択できるようになったことができますが、どのようなライフコースを選んでも、女性は男性以上に何度も人生の岐路に立たされ、選択を迫られることとなります。 この授業は、現代女性の生き方に影響を与えている生物学的要因、文化・社会的要因、心理的要因について考察します。その中で自分自身に向き合い、現代社会に生きる女性として自分らしい将来設計をすることを目的とします。			
到達目標	1.女性特有の心理臨床的問題とその問題に関わる文化・社会的要因について説明することができる。 2.女性の多様なライフコースとそれぞれのコースに想定される心理的な危機について具体的に述べることができる。 3.ワーク・ライフ・バランスについて自分の考えを述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福C (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション：	女性の発達とライフサイクル		女性やジェンダーに関連する新聞記事等を調べる	
第 2回 女性と男性の分かれ道			女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる	
第 3回 思春期における心理臨床：	女性と食行動		女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる	
第 4回 女性のライフコースとキャリア発達			厚生労働省HP「女子大学生就活ガイド」を読む	
第 5回 女性のキャリア発達とその関連要因			自分の経験をもとに考察するレポートを作成する	
第 6回 現代の結婚事情			レポートを作成する	
第 7回 親となるプロセス①：	妊娠・出産に関わる意思決定		身近な女性から妊娠・出産にまつわる話を聞く	
第 8回 親となるプロセス②：	現代の子育て事情		身近な女性から子育ての話聞く	
第 9回 ライフコースの調整とケア役割			どのような働き方をしたいか自分の考えをまとめる	
第10回 ケア・テイカーとしての女性			家庭を維持していくために誰がどのような役割を果たしているのか考える	
第11回 中年期女性の選択			アイデンティティの発達について復習しておく	
第12回 支え、支えられる中高年期			コンボイについて調べる	
第13回 うつと女性：	なぜ性差があるのか		講義内容の復習	
第14回 ジェンダーの問題としてDVを考える			居住地域の男女共同参画センターについて調べる	
第15回 国際比較から日本の女性を考える			ジェンダーギャップ指数について調べる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 定期試験（到達目標達成度を測るための論述問題）			
レポート	30％ レポート：授業の内容に関 連した新聞・雑誌の記事を用いた レポート 2500字程度 授業の中で返却します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ 出席状況と受講態度を勘案する			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	漠然と聞くのではなく、自己関与しながら受講してください。 授業中の携帯操作は厳禁です。			
教科書	毎回資料を配布			
指定図書	使用しない			
参考図書	肥田幸子・太田和佐・堀篤実・清水紀子・大見サキエ（著）『女性心理学 一現代を女性として生きるために』 唯学書房 園田雅代・平木典子・下山晴彦（著）『女性の発達臨床心理学』金剛出版			
オフィスアワー	月曜日4限		メールアドレス	

授 業 科 目	女性と経済（ワークライフバランスを含む）【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	斐 海善		単 位	2
授業の目的と概要	本講義は、日本の女性労働の実態と特徴、女性労働者の雇用促進政策、税・社会保障、他の先進国の取組など、今後女性が社会進出し、経済活動を行う上で知っておくべき労働関連基礎知識を身につけると共に、女性雇用が経済の成長にどのように繋がるかを理解することを目的とする。 女性労働問題を経済理論に基づいて説明し、女性労働における特徴と女性労働とかかわる諸問題、女性労働者の保護法案と雇用促進法案および税・社会保険問題などを学ぶ。			
到達目標	①女性の就業決定要因に影響を与える要因を経済理論に基づいて理解することができる。 ②女性の経済活動は社会的・制度的・経済的要因により影響し合っていることが理解できる。 ③女性の働き方は、少子高齢化、経済成長、社会保険などに関わることが確認できる。 ④今後、女性雇用者として働く上で知っておくべき雇用関連法律、社会保険制度の仕組みなどが理解できる。 ⑤今後女性の社会・経済的地位を高めるために必要な課題と改善策は何かを模索することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本授業は、 ①人間科学部の「保育士課程」の申請科目 ②全学部対象の「女性の生き方を考える副専攻」 ③全学部の共通科目DP 1「自己と向きあい、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」を充足するための授業科目です。 関連科目は、「経済学概論ⅠとⅡ」「アジア女性労働論」である。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業概要紹介、女性雇用が社会や経済に及ぼす影響		B5サイズのノートを準備する	
第2回	女性労働の経済理論①		女性の労働供給決定要因を調べる	
第3回	女性労働の経済理論②		女性が短時間雇用を選ぶ理由を調べる	
第4回	日本の女性雇用の特徴；M字型の原因		男性と女性の働き方の違いを考える	
第5回	M字型をなくすために必要な政策		出産前後休暇、育児休暇制度を調べる	
第6回	女性の非正規雇用の実態と増加背景		正規と非正規雇用の処遇格差を調べる	
第7回	ワークライフバランス実態と課題・女性雇用政策の流れ、男女共同参画社会		ワークライフバランス実現が必要な理由を考える	
第8回	海外事例；ドイツの教育制度、働き型、育児休業制度		ドイツの労働時間を調べる	
第9回	女性の経歴断絶と男女賃金格差		男女賃金格差の原因を考える	
第10回	日本企業の雇用調整の内容と特徴		雇い止め、早期退職、整理解雇の用語を調べる	
第11回	経歴断絶女性の再雇用政策と期待効果		女性が働き続けるために何が必要であるかを調べる	
第12回	社会保険と女性雇用者の加入実態		第3号被保険者問題を調べる	
第13回	雇用保護と雇用促進政策；女性雇用、高齢者雇用、非正規雇用を中心に		政策、法律をまとめる	
第14回	女性雇用率が高い先進国の事例		先進主要国の女性雇用率を調べる	
第15回	授業内容のまとめ。		なし	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	90％			
成果発表	0％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①テストは手書きノート持ち込み可能 ②B5サイズのノートを準備し、毎回の授業内容のポイントをまとめてください。 ③欠席が5回を超えると受験できない（就職活動、病気、その他の理由による欠席が5回を超えると相談が必要）。 ④授業内容に関係のない私語、授業中のスマートフォン・携帯電話の使用は禁止する。違反を見つけた場合は、受講態度から減点する。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし。毎回、プリントを配布します。			
オフィスワーク	月～水曜日の4限目（他の日時を希望する場合は、事前に訪問日時を相談してください）	メールアドレス		

授 業 科 目	女性と言語文化①【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大城 房美・高山 百合子		単 位	2
授業の目的と概要	本科目は、「女性の生き方を考える」副専攻の授業科目である。 ■この科目では、言語および言語による文化事象の中に社会的性差〈ジェンダー〉がどのように反映しているかを分析・考察していくことで、幅広い視野を獲得することができる。 主に日本語と英語を対象として、文学作品の他、映画、マンガなどサブカルチャーを含む幅広い文化領域を視野に入れて学んでいく。 ■言語文化においても、男女の力関係の不均衡が強く影響を与えている現実を明らかにしていくことで、女性の置かれている状況により自覚的になることを重要な目的とする。			
到達目標	女性と言語文化に関連するテーマを設定し、自分自身の視点から問題提起ができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は主に次のD P と関係する。 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 【他の「女性の生き方を考える」副専攻授業科目】 女性・ジェンダー論、女性と政治、女性と経済、キャリアデザイン基礎、ライフマネジメントⅠ・Ⅱ、こころと身体のフィットネス、日本語とジェンダー、仏教と女性、英語圏女性作家研究、アジアジェンダー論、アジア女性労働論、女性心理学、現代社会とジェンダー、女性とビジネス、現代社会と仏教、メディア産業論、」環境と倫理 など（くわしくは、学生便覧参照のこと）			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回：オリエンテーション、ベアテ・シロタ・ゴードンに関する映像の視聴…女性と言語文化2クラスの合同授業(8302)			配布したプリントを元に復習し、自分の意見をまとめること	
第2回：ベアテ・シロタ・ゴードンに関する映像の視聴…女性と言語文化2クラスの合同授業(8302)			配布したプリントを元に予習・復習を行い、自分の意見をまとめること	
第3回：少女文化（1）少女とは何か 少女雑誌の世界			関連する事象の紹介発表準備など	
第4回：少女文化（2）少女マンガ かわいいと自己表現			関連する事象の紹介発表準備など	
第5回：少女文化（3）欧米の場合 Wonder Woman			関連する事象の紹介発表準備など	
第6回：少女文化（4）世界に広がるHello Kitty			関連する事象の紹介発表準備など	
第7回：女性と言語文化 合同授業			関連する事象の紹介発表準備など	
第8回：女性文化：女性が描く			関連する事象の紹介発表準備など	
第9回：女性と言語文化 合同授業 (8302)			関連する事象の紹介発表準備など	
第10回：ヴァーチャルなことば「役割語」という視点			関連する事象の紹介発表準備など	
第11回：「女学生」の出現と〈てよだわ〉ことば			関連する事象の紹介発表準備など	
第12回：マスメディアとしての少女雑誌			関連する事象の紹介発表準備など	
第13回：フィクションの中の女性、翻訳の中の女性			関連する事象の紹介発表準備など	
第14回：女性の人称「おれ」「ぼく」をめぐって			関連する事象の紹介発表準備など講義の時に指示します。	
第15回：まとめ			これまでのノートの整理	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％（大城50点、高山50点）			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	■欠席する場合は担当教員に理由を伝えること。 ■テキストを使用しない講義も含むので、ノートはしっかりとること。 ■課題・レポートは、提出されたものを紹介するかたちで、返却に代えることとする。			
教科書	『女性マンガ研究』（青弓社 2015） プリント、画像、映像なども使用。			
指定図書	『ジェンダー研究を継承する』（人文書院2017）『文学批評女性と表現女性作家と語る（水田宗子対談・鼎談・シンポジウム集）』（城西大学出版会2014）The Only Woman in the Room: A Memoir of Japan, Human Rights, and the Arts			
参考図書	『美少女の美術史』『イメージとしての女性』『乙女の日本史』『乙女の世界史』など、中村桃子『女ことばと日本語』（岩波新書）、			
オフィスアワー	大城：金曜 3 講時（要メール連絡） 3 講時	高山：金曜	メールアドレス	

授 業 科 目	女性と言語文化②【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大城 房美・高山 百合子		単 位	2
授業の目的と概要	本科目は、「女性の生き方を考える」副専攻の授業科目である。 ■この科目では、言語および言語による文化事象の中に社会的性差〈ジェンダー〉がどのように反映しているかを分析・考察していくことで、幅広い視野を獲得することができる。 主に日本語と英語を対象として、文学作品の他、映画、マンガなどサブカルチャーを含む幅広い文化領域を視野に入れて学んでいく。 ■言語文化においても、男女の力関係の不均衡が強く影響を与えている現実を明らかにしていくことで、女性の置かれている状況により自覚的になることを重要な目的とする。			
到達目標	女性と言語文化に関連するテーマを設定し、自分自身の視点から問題提起ができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は主に以下のDPと関係する。 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 【他の「女性の生き方を考える」副専攻授業科目】 女性・ジェンダー論、女性と政治、女性と経済、キャリアデザイン基礎、ライフマネジメントⅠ・Ⅱ、こころと身体のフィットネス、日本語とジェンダー、仏教と女性、英語圏女性作家研究、アジアジェンダー論、アジア女性労働論、女性心理学、現代社会とジェンダー、女性とビジネス、現代社会と仏教、メディア産業論、環境と倫理 など（くわしくは、学生便覧参照のこと）			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回：オリエンテーション、ベアテ・シロタ・ゴードンに関する映像の視聴…女性と言語文化2クラスの合同授業(8302)			配布したプリントを元に復習し、自分の意見をまとめること	
第2回：ベアテ・シロタ・ゴードンに関する映像の視聴…女性と言語文化2クラスの合同授業(8302)			配布したプリントを元に予習・復習し、自分の意見をまとめること	
第3回：ヴァーチャルなことば「役割語」という視点			関連する事象の紹介発表準備など	
第4回：「女学生」の出現と〈てよだわ〉ことば			関連する事象の紹介発表準備など	
第5回：マスメディアとしての少女雑誌			関連する事象の紹介発表準備など	
第6回：フィクションの中の女性、翻訳の中の女性			関連する事象の紹介発表準備など	
第7回：女性と言語文化2クラスの合同授業			講義の時に指示します	
第8回 女性の人称「おれ」「ぼく」をめぐる			関連する事象の紹介発表準備など	
第9回 女性と言語文化2クラスの合同授業			講義の時に指示します	
第10回 （１）少女とは何か 少女雑誌の世界少女文化			関連する事象の紹介発表準備など	
第11回：（２）少女マンガ かわいいと自己表現			関連する事象の紹介発表準備など	
第12回：（３）欧米の場合 Wonder Woman			関連する事象の紹介発表準備など	
第13回：少女文化（４）世界に広がるHello Kitty			関連する事象の紹介発表準備など	
第14回：女性文化：女性を描く			関連する事象の紹介発表準備など	
第15回：まとめ （合同授業（8302）講義）			これまでのノートの整理	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％（大城50点、高山50点）			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	■欠席する場合は担当教員に理由を伝えること。 ■テキストを使用しない講義も含むので、ノートはしっかりとること。 ■課題・レポートは、提出されたものを紹介するかたちで、返却に代えることとする。			
教科書	『女性マンガ研究』（青弓社 2015） プリント、画像、映像なども使用。			
指定図書	『『少女の友』創刊100周年記念号 明治・大正・昭和ベストセクション』、『中原淳一の「女学生服装帖」』『『少女小説』の生成：ジェンダー・ポリティクスの世紀』			
参考図書	『美少女の美術史』『イメージとしての女性』『乙女の日本史』『乙女の世界史』、中村桃子『女ことばと日本語』（岩波新書）、寿岳章子『日本語と女』（岩波新書）			
オフィスアワー	大城：金曜 3 講時（要メール連絡） 3 講時	高山：金曜	メールアドレス	

授 業 科 目	女性と政治【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	浅田 淳一		単 位	2
授業の目的と概要	女性と政治の関係について学ぶ。 そもそも「政治」とは何かという原理論から出発し、先ず、政治学の歴史的発展を追う。 その上で、女性がどれほど、政治から遠ざけられ、抑圧されてきたかを確認し、18世紀以来の女性の政治参加への苦難の道のりを、多様な女性解放運動の潮流を紹介しながら辿っていく。 さらに、「女性による政治学」が、近代政治学の前提そのものを揺るがせる重要な批判的視点を提供していることを確認し、21世紀の政治が、女性の政治参加と「女性による政治学」を如何に強く要請しているかを考察する。			
到達目標	①政治とは何かを原理的に理解できる。 ②政治学の歴史の概要を理解できる。 ③女性が、如何に政治から遠ざけられ、抑圧されてきたかを理解することができる。 ④女性解放運動の歴史を構造的に把握することができる。 ⑤女性解放運動の諸潮流の主張を理解することができる。 ⑥「女性による政治学」が、政治学のパラダイムシフトを促している理由を理解することができる。 ⑦21世紀の政治が、女性の参加とその政治学を要求していることを理解することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 関連科目：政治学、女性ジェンダー論、女性と言語文化、女性と経済、総合講座（人権・平和）			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回：政治とは何か？ ボリスの学としての政治学の位置づけ			国家と地方自治体は、何が違うか？ 各自で考えてみる。	
第2回：古代の国家観 プラトンの「国家」とアリストテレスの「政治学」			民主主義って、本当に最善の政治制度なのか？ 各自で考えてみる。	
第3回：近代政治学の誕生 ホッブズの『リヴァイアサン』 ロックの『市民政府に論』			主権とはなにか？ 各自、具体的に考えてみる。	
第4回：ルソーの『社会契約論』			ルソー以外の社会契約説についても各自調べてみる。	
第5回：フランス革命と女性の政治参加			フランス革命やマリーアントワネットについて、これまでの学習を振り返る	
第6回：オランブ・ド・グージュ『女性と女性市民の権利の宣言』			現在の女性の権利と当時を比べてみる。	
第7回：女性解放運動の諸潮流Ⅰ（リベラル・フェミニズム）			男性の権利と女性の権利の異同について考えてみる。	
第8回：女性解放運動の諸潮流Ⅱ（社会主義フェミニズム）			資本主義体制の中での女性の立場について反省してみる。	
第9回：女性解放運動の諸潮流Ⅲ（第二波フェミニズム）			第一波フェミニズムと第二波フェミニズムを対比してみる。	
第10回：女性解放運動の諸潮流Ⅳ（ラディカル・フェミニズム）			自分自身の中に外から刷り込まれている「女性性」がないか反省してみる。	
第11回：女性解放運動の諸潮流（マルクス主義フェミニズム）			女性が被っている三重の差別について振り返ってみる。	
第12回：新しい流れⅠ（エコロジカル・フェミニズム）			女性と自然との関係について反省してみる。	
第13回：新しい流れⅡ（ケアの倫理に基づくフェミニズム）			男性中心の「正義の倫理」と「ケアの倫理」を対比してみる。	
第14回：近代政治のパラダイム批判としての「女性による政治学」			自由独立でない存在に対する「ケアの政治学」の必要性を考えてみる。	
第15回：21世紀の政治と女性			21世紀の政治が直面する問題に女性がどう関わるか考えてみる。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100%ただし、例外あり、ルールに関わる情報を見よ。			
レポート	0%各講義の最後に簡単な問題に答えてもらうが、特に成績には反映させない。			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	目に余る場合には、退出を要求し出席を取り消す場合がある。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語は厳禁。講義開始後30分以上遅刻した場合には入室は認めるが、出席としては認めない(欠席扱い)。テストの成績が合否のボーダーライン上にある場合には、受講態度を考慮する場合がある。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『女の人権宣言ーフランス革命とオランブ・ドゥ・グージュの生涯』 オリヴィエ・ブラン著 岩波書店 1995年			
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	女性とビジネス【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	武藤 桐子		単 位	2
授業の目的と概要	「女性の社会進出」がいわゆるようになって久しく、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法など法制度の整備や、女性の就業・再就業支援、起業支援等の施策も進められてきました。しかし、性別による差別や育児や介護等との両立の問題など、様々な課題がいまだに存在しています。この授業では、女性労働の現状や、労働に関する法制度、多様な働き方についての知識を身につけ、長期的な視点で自身のキャリアを考えることができるようになることを目指します。なお、グループでのディスカッションやゲストスピーカーによる講話を予定しています。			
到達目標	1 女性労働の現状や多様な働き方について説明することができる。 2 労働に関する法制度について基本的な知識を身につけ、具体的に理解することができる。 3 将来の自身のキャリアプランをイメージするにあたり、上記の知識を応用することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 イントロダクション			なし	
第2回 女性のライフコースを考える			配付資料を読み、疑問点について調べる。	
第3回 変化する社会・雇用のあり方			配付資料を読み、疑問点について調べる。	
第4回 ジェンダーからみた働き方の現状			配付資料を読み、疑問点について調べる。	
第5回 多様な働き方～雇用労働			配付資料を読み、疑問点について調べる。	
第6回 多様な働き方～起業・NPOで働く			配付資料を読み、疑問点について調べる。	
第7回 ゲストスピーカーを招いて①・小レポート			ゲストスピーカーへの質問を考える。小レポート（講話の感想）を書く。	
第8回 ゲストスピーカーを招いて②・小レポート			ゲストスピーカーへの質問を考える。小レポート（講話の感想）を書く。	
第9回 労働と法律～労働基準法①			配付資料を読み、疑問点について調べる。	
第10回 労働と法律～労働基準法②・男女雇用機会均等法①			配付資料を読み、疑問点について調べる。	
第11回 男女雇用機会均等法②			配付資料を読み、疑問点について調べる。	
第12回 労働と法律～育児・介護休業法			配付資料を読み、疑問点について調べる。	
第13回 セクシュアル・ハラスメント			配付資料を読み、疑問点について調べる。	
第14回 ワーク・ライフ・バランス・期末レポート課題発表			配付資料を読み、疑問点について調べる。期末レポート作成。	
第15回 これからのキャリアを考える			事前に将来のキャリアについて考えておく。期末レポート作成。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート60％、小レポート20％			
小テスト等	法律についての小テスト10％			
成果発表	なし			
受講態度他	授業への参加意欲・ディスカッション等への参加度10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	グループでのディスカッションには積極的に参加してください。ゲストスピーカーの回は、日程が前後する可能性があります。			
教科書	プリントを配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	金谷千慧子『働くこと』とジェンダー ービジネスの変容とキャリアの創造』明石書店 乙部由子『ライフコースからみた女性学・男性学 ー働くことから考える』ミネルヴァ書房			
オフィスワーク	授業後	メールアドレス		

授 業 科 目	女性と文学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	出雲 俊江		単 位	2
授業の目的 と概要	女性学の視点を踏まえつつ文学作品に描かれる世界に触れることによって、既存の思考の枠から自由になり、自身の視点で自己の周囲を見直す手がかりをつかむことを目指す。 提示したテーマに沿って取り上げられた文学作品を読み、女性学の提示する視点を踏まえつつ考察し、その交流を行う。			
到達目標	文学作品を、女性学の成果を踏まえつつ自らの視点で読むことができる。 作品を読んで感じたことや自分の論を文章で説明することができる。 伝えたいことを整理して口頭発表や討論をすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	本講義の概要。女性学の視点からの文学。		特に指定しない	
第2回	フェミニズム批評の仕事		レポート1「私の読書遍歴」（次回交流の準備として）	
第3回	私は物語の形をしている 交流「私の読書遍歴」		紹介の作品を読むなど	
第4回	テーマ「恋愛・結婚」 1 近代日本文学のテーマとしての「恋愛」		小レポート「私の恋愛・結婚観」（次回交流の準備として）	
第5回	テーマ「恋愛・結婚」 2 交流 レポート「私の恋愛・結婚観」		レポート「恋愛小説 読書レビュー」書く	
第6回	テーマ「家族」 1 文学における家族		小レポート 「私にとっての家族」（次回交流の準備として）	
第7回	テーマ「家族」 2 交流「私にとっての家族」		紹介の作品を読むなど	
第8回	テーマ「労働」 1 文学作品の中の女と仕事		小レポート 「私にとっての仕事」（次回交流の準備として）	
第9回	交流 私にとっての仕事		紹介した本を読むなど	
第10回	女性の作品を読む 山代巴『荷車の歌』		レポート「恋愛小説 読書レビュー」 提出	
第11回	山代巴『荷車の歌』（続き） 交流 「恋愛小説読書レビュー」		紹介の作品を読むなど	
第12回	山代巴『荷車の歌』（続き）		紹介の作品を読むなど	
第13回	女性文学の視点を踏まえて 女性文学の文学史		最終レポートにむけて	
第14回	現代の「女性文学」		多和田葉子『犬婬入り』ほか	
第15回	まとめに代えて 山代巴について 山代巴の方法		最終レポートへの取り組み	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行いません			
レポート	小レポート40％ 最終レポート50％			
小テスト等	行いません			
成果発表	行いません			
受講態度他	発言、交流・討議への参加10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	文学作品を中心とした開かれた自由な交流の機会になることを目指したいと思います。 いろいろな作品を紹介します。それらを読むことで、授業内容の理解がいつそう深まります。積極的に取り組んでください。			
教科書	特にありません			
指定図書	ありません			
参考図書	ありません			
オフィスアワー	水曜午後	メールアドレス		

授 業 科 目	時事アジア【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的 と概要	これまで大学で勉強してきたことを踏まえ、今日のアジア各地で起こっている政治、経済、社会などに関する時事問題を理解することが講義の目的です。地域ごとに話題のトピックをとりあげ、理解を深めていきます。同時に、時事問題に関するデータ収集方法を身につけます。 各回の講義は4つの部分からなります。 1.事前に指名された学生が、特定地域の時事問題をとりあげ話題提供をします。 2.その日にとりあげるトピックを決め、担当教員がトピックに関する基礎情報を提供します。 3.当該トピックについて各自がwebデータを収集し、分析、整理します。 4.指名された学生を中心に、各自が調べたことを報告し、それを担当教員が補足解説をして理解を深めます。			
到達目標	1.最近のアジア各地の政治、経済、社会の現状が説明できる。 2.最近、アジア各地が抱えている問題点、課題が説明できる。 3.時事問題について、自らデータを集め分析していくことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。 「現代インド事情」「現代東南アジア事情」「現代韓国事情」「現代中国と教育」などアジアの現代事情に関する科目を受講したうえで、更に直近の出来事としての時事問題を扱うこの講義を受ければ、更に理解を深めることができます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション 時事問題を学ぶ意義		第2回に備え情報収集	
第 2回	時事問題の情報収集方法		講義内容を踏まえ第3回に備え情報収集	
第 3回	東アジアの時事問題 1 中国		第3回用話題提供準備、第4回に備え情報収集、レポート1 準備	
第 4回	東アジアの時事問題 2 韓国		第4回用話題提供準備、第5回に備え情報収集、レポート1 準備	
第 5回	東アジアの時事問題 3 国際問題		第5回用話題提供準備、第6回に備え情報収集、レポート1 準備	
第 6回	東南アジアの時事問題 1 インドネシア、マレーシア、シンガポール		第6回用話題提供準備、第7回に備え情報収集、レポート2 準備	
第 7回	東南アジアの時事問題 2 ヴェトナム、ラオス、カンボジア		第7回用話題提供準備、第8回に備え情報収集、レポート2 準備	
第 8回	東南アジアの時事問題 3 フィリピン、タイ、ビルマ		第8回用話題提供準備、第9回に備え情報収集、レポート2 準備	
第 9回	南アジアの時事問題 1 インド		第9回用話題提供準備、第10回に備え情報収集、レポート3 準備	
第10回	南アジアの時事問題 2 パキスタン周辺		第10回用話題提供準備、第11回に備え情報収集、レポート3 準備	
第11回	南アジアの時事問題 3 ネパール、ブータンなど		第11回用話題提供準備、第12回に備え情報収集、レポート3 準備	
第12回	西アジアの時事問題 1 イラン		第12回用話題提供準備、第13回に備え情報収集、レポート4 準備	
第13回	西アジアの時事問題 2 アラブ諸国		第13回用話題提供準備、第14回に備え情報収集、レポート4 準備	
第14回	西アジアの時事問題 3 トルコ		第15回用話題提供準備、第15回に備え情報収集、レポート4 準備	
第15回	時事問題の総括		レポート4 準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 4回のミニ・レポート提出 15%×4			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 話題提供、各回報告			
受講態度他	10% 課題に基づき、きちんと資料収集			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合は退出してもらいます。 資料収集、報告などには積極的に参加してください。 第2回の時に、話題提供の順番を決めますので必ず出席してください。 その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	火14:50～16:20、水12:30～13:00、金12:30～13:00	メールアドレス		

授 業 科 目	実務英語Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	林 恵子		単 位	1
授業の目的 と概要	日常生活に必要な英語を理解し、使用できる、英検準2級レベルの英語運用能力を身に付ける。聞く、話す、読む、書くという英語の4技能を向上させ、実用英語技能検定試験の合格を目指す。			
到達目標	1. 日常生活の中での異文化理解に必要な英語運用能力を培う。 2. 日常生活及びビジネス社会の両方に於いて、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 Lesson 1			Lesson 1の予習（分からない単語等は調べておくこと）。pp. 9-11	
第2回 Lesson 2			Lesson 1の小テストの準備とLesson 2の予習。pp. 12-15	
第3回 Lesson 3			Lesson 2の小テストの準備とLesson 3の予習。pp. 16-19	
第4回 Lesson 4			Lesson 3の小テストの準備とLesson 4の予習。pp. 20-23	
第5回 Lesson 5			Lesson 4の小テストの準備とLesson 5の予習。pp. 24-27	
第6回 Lesson 6			Lesson 5の小テストの準備とLesson 6の予習。pp. 28-31	
第7回 小テスト（1）			Lesson 1-6の復習をして、小テストに備える。	
第8回 Lesson 7			Lesson 7の予習。pp. 32-35	
第9回 Lesson 8			Lesson 7の小テストの準備とLesson 8の予習。pp. 36-39	
第10回 Lesson 9			Lesson 8の小テストの準備とLesson 9の予習。pp. 40-43	
第11回 Lesson 10			Lesson 9の小テストの準備とLesson 10の予習。pp. 44-47	
第12回 Lesson 11			Lesson 10の小テストの準備とLesson 11の予習。pp. 48-51	
第13回 Lesson 12			Lesson 11の小テストの準備とLesson 12の予習。pp. 52-55	
第14回 小テスト（2）			Lesson 7-12の復習をして、小テストに備える。	
第15回 Interview Test			p. 71の問題カードについての予習。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％			
レポート	なし			
小テスト等	40％			
成果発表	なし			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・積極的なペア・ワークが求められます。 ・授業中の私語、居眠り、携帯電話の取り扱いは謹んでください。 ・授業中の勝手な教室の出入りはご遠慮ください。 ・テキスト及び辞書は必ず持参してください。			
教科書	Eiken Pre 2: Sure to Succeed （南雲堂）			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜に紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	実務英語Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	林 恵子		単 位	1
授業の目的 と概要	実用英語技能検定試験2級レベルが目指している日常生活や職場に必要な英語を理解し、英語で表現できる力を培う。			
到達目標	1．一次試験の筆記試験とリスニングテストに対応する英語力を培う。 2．二次試験の面接試験でイラストと英文をもとに、英語で質問に答えたり、自分の意見を述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 インTRODクシヨン			p. 5を読んでおくこと。	
第2回 Lesson 1			Lesson 1の予習。 pp. 8-11	
第3回 Lesson 2			Lesson 1の小テストの準備とLesson 2の予習。 pp. 12-15	
第4回 Lesson 3			Lesson 2 の小テストの準備とLesson 3の予習。 pp. 16-19	
第5回 Lesson 4			Lesson 3の小テストの準備とLesson 4の予習。 pp. 20-23	
第6回 Lesson 5			Lesson 4の小テストの準備とLesson 5の予習。 pp. 24-27	
第7回 小テスト			Lesson 1- 5の復習をして、小テストに備える。	
第8回 Lesson 6			Lesson 6の予習。 pp. 28-31	
第9回 Lesson 7			Lesson 6の小テストの準備とLesson 7の予習。 pp. 32-35	
第10回 Lesson 8			Lesson 7の小テストの準備とLesson 8の予習。 pp. 36-39	
第11回 Lesson 9			Lesson 8の小テストの準備とLesson 9の予習。pp. 40-43	
第12回 Lesson 10			Lesson 9の小テストの準備とLesson 10の予習。pp. 44-47	
第13回 Lesson 11			Lesson 10の小テストの準備とLesson 11の予習。pp. 48-51	
第14回 Lesson 12			Lesson 11の小テストの準備とLesson 12の予習。pp. 52-55	
第15回 二次試験			二次面接試験の予習。pp. 70-72	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	なし			
小テスト等	20％			
成果発表	なし			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・積極的なペア・ワークが求められます。 ・授業中の私語、居眠り、携帯電話の取り扱いは謹んでください。 ・授業中の勝手な教室の出入りをご遠慮ください。 ・テキスト及び辞書は必ず持参してください。			
教科書	英検2級 合格への道 (Eiken 2: Sure to Succeed) 坂部俊行著 南雲堂, 2015年			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜に紹介します			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	実用英語Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	高森 暁子		単 位	1
授業の目的 と概要	この科目は実用的な英語の運用能力の基礎を学び、英語を用いたコミュニケーションの多様な場面に対応できる能力を身につけることを目的とします。基本的な英語の聞き取りトレーニングと語彙の修得、文法事項の確認をまず行います。そのうえで日常生活の実践的な場面を想定したTOEIC形式の問題に取り組みます。			
到達目標	1. 英語の基本的な文法を理解して、日常生活の現実的な場面を想定した運用ができるようになる。 2. ナチュラル・スピードの英語を聞き取り、要点を把握することができる。 3. 実用的なコミュニケーションの場面にふさわしい基本的な語彙や表現を用いることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要説明、Pre-Test		テキスト予習 (p.22-29)	
第2回	オフィスで (自動詞と他動詞)		テキスト予習 (p.30-37)	
第3回	買い物 (形容詞、副詞、前置詞)		テキスト予習 (p.38-45)	
第4回	食事 (名詞と冠詞)		テキスト予習 (p.46-55)	
第5回	観光 (進行形)		テキスト予習 (p.56-63)	
第6回	宣伝・広告 (完了形)		テキスト復習 (p.22-63)	
第7回	前半のまとめ		テキスト予習 (p.64-71)	
第8回	数字 (不定詞)		テキスト予習 (p.72-79)	
第9回	日常生活 (動名詞)		テキスト予習 (p.80-89)	
第10回	エンターテインメント (関係代名詞と関係副詞)		テキスト予習 (p.90-97)	
第11回	交通 (複文)		テキスト予習 (p.98-105)	
第12回	職業 (受動態)		テキスト予習 (p.106-115)	
第13回	色々な国の英語1 (分詞)		テキスト予習 (p.116-125)	
第14回	色々な国の英語2 (比較表現)		テキスト復習 (p.64-125)	
第15回	Post Test (模擬問題)		テキスト復習 (p.22-125)	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%			
レポート	0%			
小テスト等	小テスト 20%			
成果発表	0%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席回数が5回を超えると単位修得の資格を失います。 毎回必ず辞書を携帯してください。 TOEIC (TOEIC IPを含む) 400点以上、またはTOEIC BRIDGE162点以上を取得している場合は、この科目の単位が認定されます。学生便覧の「資格認定」のページを確認のうえ、教務課で手続きを行ってください。			
教科書	田辺、湯本、Tozer、Pifer 著 『The TOEIC Test Trainer Target 350』 (Revised Edition) センゲージ ラーニング			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	金曜4時間目	メールアドレス		

授 業 科 目	実用英語Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	高森 暁子		単 位	1
授業の目的 と概要	この科目は「実用英語Ⅰ」に引き続き、実用的な英語の運用能力を高め、英語を用いたコミュニケーションの多様な場面に対応できる能力を身に着けることを目的とします。実際の日常会話で遭遇する英語のリズムとスピードに慣れる練習や、まとまった量の文章を効率よく読む練習を行います。そのうえで日常生活やビジネスの実際のな場面を想定したTOEIC形式の問題に取り組みます。			
到達目標	1. 実用的なコミュニケーションの場面にふさわしい語彙や表現を用いることができる。 2. ビジネスを含めた日常生活の場面における多様な英語話者の発話を聞き取ることができる。 3. フレーズ・リーディング、スキヤニング、スキミングを用いて、まとまった量の文章を効率的に読むことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 授業の概要説明、Pre-Test			テキスト予習 (p.22-29)	
第2回 予定 (動詞・5文型)			テキスト予習 (p.30-37)	
第3回 数量を尋ねる (名詞)			テキスト予習 (p.38-45)	
第4回 命令・依頼 (形容詞・副詞)			テキスト予習 (p.46-55)	
第5回 広告・宣伝 (フレーズリーディング)			テキスト予習 (p.56-63)	
第6回 時間を尋ねる (動名詞)			テキスト復習 (p.22-63)	
第7回 前半のまとめ			テキスト予習 (p.64-71)	
第8回 場所を尋ねる (to不定詞)			テキスト予習 (p.72-79)	
第9回 確認 (分詞)			テキスト予習 (p.80-87)	
第10回 留守電 (スキヤニング)			テキスト予習 (p.88-95)	
第11回 アドバイス (受動態)			テキスト予習 (p.96-103)	
第12回 誘い (比較)			テキスト予習 (p.104-111)	
第13回 申し出 (関係詞)			テキスト予習 (p.112-119)	
第14回 講演者紹介 (スキミング)			テキスト復習 (p.64-119)	
第15回 Post-Test (模擬問題)			テキスト復習 (p.22-119)	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%			
レポート	0%			
小テスト等	小テスト 20%			
成果発表	0%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席回数が5回を超えると単位修得の資格を失います。 毎回必ず辞書を携帯してください。 TOEIC (TOEIC IPを含む) 500点以上を取得している場合は、この科目の単位が認定されます。学生便覧の「資格認定」のページを確認のうえ、教務課で手続きを行ってください。			
教科書	山口、Pifer 著 『The TOEIC Test Trainer Target 470』 (Revised Edition) センゲージ ラーニング			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	金曜4時間目	メールアドレス		

授 業 科 目	児童・家庭福祉論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大西 良		単 位	2
授業の目的 と概要	現代社会における子どもおよび家族（家庭）の福祉（ウェルビーイング）を促進するため、子どもと家族（家庭）のニーズを明らかにし、ニーズに対応するためのミクロ・メゾ・マクロ的支援のあり方について包括的に理解できるようになることを目的としている。			
到達目標	・現代の子どもと家族の課題を質問されたときに具体的かつ幅広い視点から答えることができるようになる。 ・子どもに関する相談を受けたときに基本的な受け答えができるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 現代社会と子ども家庭の問題			教科書の第1章を読んで予習してくる	
第2回 子ども家庭福祉とは何か（1）：子ども家庭福祉の理念および子どもと家庭の権利保障			教科書の第2章を読んで予習してくる	
第3回 子ども家庭福祉とは何か（2）：児童福祉の歴史と歩み			授業で指示した課題を調べてくる	
第4回 家族ライフサイクルと子ども家庭福祉			授業で指示した課題を調べてくる	
第5回 子ども家庭福祉の課題（1）：子ども虐待・ネグレクトの現状			教科書の第4章第9節を読んで予習してくる	
第6回 子ども家庭福祉の課題（2）：子ども虐待・ネグレクトへの対応			教科書の第4章第9節を読んで予習してくる	
第7回 子ども家庭福祉の課題（3）：障がい児をもった家族の理解			教科書の第4章第2節を読んで予習してくる	
第8回 子ども家庭福祉の課題（4）：障がい児のための施策・制度			教科書の第4章第2節を読んで予習してくる	
第9回 子ども家庭福祉の課題（5）：子どもと貧困～見える貧困（絶対的貧困）～			授業で指示した課題を調べてくる	
第10回 子ども家庭福祉の課題（6）：子どもと貧困～見えにくい貧困（相対的貧困）～			授業で指示した課題を調べてくる	
第11回 子ども家庭福祉の課題（7）：不登校への理解と対応			授業で指示した課題を調べてくる	
第12回 子ども家庭福祉の課題（8）：非行問題への理解と対応			教科書の第4章第8節を読んで予習してくる	
第13回 子ども家庭福祉の課題（9）：ひとり親家庭の理解と支援			教科書の第4章第6節を読んで予習してくる	
第14回 子ども家庭福祉の課題（10）：ドメスティックバイオレンスの現状と課題			教科書の第4章第10節を読んで予習してくる	
第15回 まとめ			1～14回までの授業内容を復習してくる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	0％			
小テスト等	20％ 講義の中で課題を出すので、調べたこと等をまとめて提出すること			
成果発表	0％			
受講態度他	20％ 講義中に質疑応答や話し合いの時間を設けるので、積極的に参加すること			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 2/3（10回）以上の出席で定期試験の受験資格を得ることができる 2. 積極的な受講を求める			
教科書	「新・社会福祉士養成講座 第15巻 児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度」 第6版 中央法規			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で随時紹介する			
オフィスアワー	水曜日 3 講目および 4 講目	メールアドレス		

授 業 科 目	児童・家庭福祉論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大西 良		単 位	2
授業の目的 と概要	現代社会における子どもおよび家族（家庭）の福祉（ウェルビーイング）を促進するため、子どもと家族（家庭）のニーズを明らかにし、ニーズに対応するためのミクロ・メゾ・マクロ的支援のあり方について包括的に理解できるようになることを目的としている。			
到達目標	・現代の子どもと家族の課題を質問されたときに具体的かつ幅広い視点から答えることができるようになる。 ・子どもに関する相談を受けたときに基本的な受け答えができるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	子ども家庭福祉にかかわる法制度		教科書の第3章第1節を読んで予習してくる	
第2回	わが国における子ども家庭福祉の方向性		授業で指示した課題を調べてくる	
第3回	子ども家庭福祉の法体系（１）：児童福祉法		教科書の第3章第1節を読んで予習してくる	
第4回	子ども家庭福祉の法体系（２）：児童福祉の関連法		教科書の第3章第1節を読んで予習してくる	
第5回	子ども家庭福祉の実施体制（１）：実施機関と財源		教科書の第3章第3節を読んで予習してくる	
第6回	子ども家庭福祉の実施体制（２）：専門職の種類と役割		教科書の第3章第4節を読んで予習してくる	
第7回	子どもの社会的養護（１）：わが国における社会的養護の現状		教科書の第3章第2節を読んで予習してくる	
第8回	子どもの社会的養護（２）：家庭的養護の現状と課題		教科書の第4章第7節を読んで予習してくる	
第9回	子どもの社会的養護（３）：施設養護の現状と課題		教科書の第4章第7節を読んで予習してくる	
第10回	児童相談機関におけるソーシャルワーク		教科書の第5章第1節を読んで予習してくる	
第11回	児童施設におけるソーシャルワーク		教科書の第5章第2節を読んで予習してくる	
第12回	地域におけるソーシャルワーク		教科書の第5章第3節を読んで予習してくる	
第13回	スクールソーシャルワークの概要		授業で指示した課題を調べてくる	
第14回	スクールソーシャルワークの実際		授業で指示した課題を調べてくる	
第15回	まとめ		1～14回までの授業内容を復習してくる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	0％			
小テスト等	20％ 講義の中で課題を出すので、調べたこと等をまとめて提出すること			
成果発表	0％			
受講態度他	20％ 講義中に質疑応答や話し合いの時間を設けるので、積極的に参加すること			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 2/3（10回）以上の出席で定期試験の受験資格を得ることができる 2. 積極的な受講を求める			
教科書	「新・社会福祉士養成講座 第15巻 児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度」 第6版 中央法規			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で随時紹介する			
オフィスワー	水曜日 3 講目および 4 講目		メールアドレス	

授 業 科 目	児童英語教育研究Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	西島 裕里		単 位	2
授業の目的と概要	児童期（6歳～12歳）における英語教育について、民間の子ども英語教室と小学校での現状について比較する。 2020年度より小学校に外国語科が教科として導入される（高学年）前段階として、2018年度は新課程に備えた英語先行学習期間とし、5、6年生は年間50時間（45分×50回）の外国語活動（英語）が実施されることに鑑み、小学校での英語教育を具体的に知る。 今日の児童の実態に触れながら教材研究を行い、教える側に立ち、どのように指導したらよいのか理解する。 総じて、児童英語教育という分野での専門的知識を身に付け、児童に英語を教えるために必要な知識を実践に向けて習得する。			
到達目標	1、民間の子ども英語教室と小学校外国語活動及び外国語科のねらいの違いについて説明できる。 2、児童のための英語教育における教材（英語のうた・英語のゲーム・英語の絵本など）と、その活用法を理解できる。 3、児童対象の英語の授業について、その進め方や方法を考察し、実践に向けて調べたり準備ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	1、自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 2、英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	講義の概要説明・スケジュール		文部科学省HP閲覧（小学校外国語科・外国語活動について）	
第2回	児童英語教育の現状 / 民間子ども英語教室と小学校外国語科・外国語活動		大手子ども英会話教室HP閲覧	
第3回	教科書 / 子どもに英語を教えるために必要な知識や技術・能力①		子どもに英語を教えるために必要な知識や技術・能力の考察	
第4回	教科書 / 子どもに英語を教えるために必要な知識や技術・能力②		子どもに英語を教えるために必要な知識や技術・能力の考察	
第5回	教科書 / 教材研究①「英語のうた・チャンツ」		過去の英語の授業で歌った英語のうたのリスト作成	
第6回	教科書 / 教材研究②「英語のゲーム」		過去の英語の授業で行った英語ゲームのリスト作成	
第7回	教科書 / 教材研究③「英語の絵本」		過去に読んだ英語絵本のリスト作成	
第8回	教科書 / 教材研究④「さまざまな教科につなげる英語の授業」		これまでの教材研究のまとめ	
第9回	教科書 / 教材研究⑤「Hi, friends! 1」（電子黒板を使って）		指定図書に目を通しておくこと	
第10回	教科書 / 教材研究⑥「Hi, friends! 2」（電子黒板を使って）		指定図書に目を通しておくこと	
第11回	教科書 / 教材研究⑦「Hi, friends! Plus」 / 「Hi, friends! Story Books」		文部科学省HP閲覧 外国語活動補助教材について	
第12回	教科書 / 発達心理①「子どもとの関わり方・接し方」		身の回りにいる子どもたちの観察	
第13回	教科書 / 発達心理②「教室にいる不思議な子との関わり方～発達障害って？」		発達障害について告白している方々の声に耳を傾ける	
第14回	教科書 / 発達心理のまとめ・具体的な学習支援方法		発達心理についての復習	
第15回	これまでの復習と定期試験について		これまでの復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	20％ 定期試験期間中に60分間、100点満点の試験を行う。詳細は授業内で指示する。			
レポート	50％ 授業内で指示されたタイトルでレポートを完成させ提出すること。詳細は授業中に指示する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 授業内での発表・発言及び質問などの状況を勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出欠については各自で記録すること。 遅刻は10分までとする。 プリント教材を配布するので、紛失しないようファイルなどに保管すること。			
教科書	小泉清裕『[小学校]英語活動ネタのタネ』アルク			
指定図書	文部科学省『Hi, friends! 1& 2』文部科学省			
参考図書	デビッド・ポール『子ども中心ではじめる英語レッスン』ピアソン・エデュケーション			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	児童英語教育研究Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	西島 裕里		単 位	2
授業の目的と概要	前期「児童英語教育研究Ⅰ」に引き続き、小学校高学年で外国語活動（英語）の授業がすでに必修化されていること、また2020年度からは教科として外国語科が導入されることに鑑み、民間の子ども英語教室と小学校における英語教育はどのようなものかを踏まえた上で、専門的な知識と実践力を身に付ける。児童（6歳～12歳）対象の英語指導法については、実際の授業映像を見て、授業研究を行い学ぶ。 最後は、個人・ペアのいずれかに分かれ模擬授業発表を行うことで、これまで学んだ知識を実践する。			
到達目標	1. 民間の子ども英語教室と小学校における外国語活動（英語）・外国語科のねらについて理解し、模擬授業発表へつなげることができる。 2. 児童英語教育及び小学校外国語活動（英語）における教材を用いて、模擬授業発表への下調べ・準備ができる。 3. 児童対象の英語の授業について、その進め方や方法など考察し、指導案（レッスンプラン）を完成させ実践できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	講義の概要説明、「児童英語教育研究Ⅰ」（前期）の復習、クラスルーム・イングリッシュ		文部科学省HP閲覧（小学校外国語科・外国語活動について）	
第 2回	教科書 / 授業研究①「実際の授業映像視聴」（小学校高学年）		小学校英語活動授業風景を検索して見てみること	
第 3回	教科書 / 授業研究②「実際の授業映像視聴」（小学校中学年）		小学校英語活動授業風景を検索して見てみること	
第 4回	教科書 / 授業研究③「実際の授業映像視聴」（小学校低学年）		小学校英語活動授業風景を検索して見てみること	
第 5回	教科書 / 子どもに英語を教えるために必要な知識や能力（実践に向けて）		前期で学んだことの復習、または考察	
第 6回	教科書 / 指導案（レッスンプラン）の組み立て方①		「指導案」と「レッスン・プラン」の違いについて調べてみること	
第 7回	教科書 / 指導案（レッスンプラン）の組み立て方②		小学生の頃に受けた英語活動の授業を思い出してみること	
第 8回	教科書 / 指導案（レッスンプラン）の組み立て方③		自分の指導案用紙を作ってみよう	
第 9回	ミーティング①「授業スタイルの選択・テーマ決定・英語表現の選択」		選択したテーマに沿った英語表現や英単語のリスト作成	
第10回	ミーティング②「ターゲットとなる英語表現の決定と指導案作成」		指導案作成の際に必要な情報や英語うたの準備	
第11回	ミーティング③「指導案の完成・教材製作」		教材製作に必要な物の準備	
第12回	ミーティング④「教材完成・役割分担・リハーサル」		教材製作の完了	
第13回	個人・ペア別模擬授業発表①		模擬授業発表の準備	
第14回	個人・ペア別模擬授業発表②		模擬授業発表の準備	
第15回	模擬授業発表の総評 / 定期試験について		これまでの総復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	20％ 定期試験期間中に60分間、100点満点の試験を行う。詳細は授業内で指示する。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 個人・ペア別模擬授業発表の評価。詳細は授業内で指示する。			
受講態度他	30％ 授業内での発表・発言、及び質問などの状況を勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出欠については各自で記録すること。 遅刻は10分までとする。 プリント教材を配布するので、紛失しないようファイルに保管すること。			
教科書	小泉清裕『[小学校]英語活動ネタのタネ』アルク			
指定図書	文部科学省『Hi, friends! 1 & 2』文部科学省			
参考図書	デビット・ポール『子ども中心ではじめる英語レッスン』ピアソン・エデュケーション			
オフィスワーク	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	児童家庭福祉論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	山之内 輝美・大森 ちづる		単 位	2
授業の目的と概要	社会経済状況の変化に伴い、子どもたちの生活環境も大きく変化している。子どもや家族のおかれている現状を理解し、児童家庭福祉に関する理念や制度・施策、支援方法や内容等の知識を深め、課題を考察し、子どもの育ちや家族への支援の在り方を検討することを目的としている。 授業では講義が中心になるが、テキストや配布資料、視聴覚教材やPCを活用し、子どもや家族の実情や制度等についての理解を深め、問題意識をもって考え、知識を得てほしい。			
到達目標	①現代の子どもを取り巻く環境について考える。 ②児童家庭福祉の意義、理念、歴史について説明することができる。 ③児童福祉法等関係法制度や子ども・子育てビジョンについて説明することができる。 ④児童相談所などの関係機関や児童福祉施設について説明することができる。 ⑤障がいがあったり、虐待を受けたり家庭環境上等の支援を必要とする子どもとその家族についての実態や実情について理解し、調べ、発表することができる。 ⑥児童福祉専門職の役割や相談援助活動、ネットワークについて説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 心C (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 福C (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 福C (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション；授業内容		テキスト（1章pp.4-13）	
第2回	児童家庭福祉の理念、概念、歴史		テキスト（1章pp.13-24）	
第3回	児童家庭福祉に関する関係機関；児童相談所などの関係機関の役割と機能		テキスト（1章pp.30-35）	
第4回	児童家庭福祉の法制度・施策、児童福祉施設		テキスト（テキスト1章pp.25-29、第2章pp.44-55）	
第5回	子育て・子育て支援（1）；保育サービスの役割		テキスト（2章pp.55-65）	
第6回	子育て・子育て支援（2）；子育て支援		テキスト（2章pp.55-65）	
第7回	家庭環境上の支援を必要とする子どもたち（1）；社会的養護と家庭養護		テキスト（3章pp.98-108）	
第8回	家庭環境上の支援を必要とする子どもたち（2）；児童虐待		テキスト（3章pp.108-113）	
第9回	障がいのある子どもと家族への支援		テキスト（6章pp.148-163）	
第10回	小テスト（今までの学習から用語の確認）、次世代育成支援		今までの学習の復習	
第11回	家庭環境上の支援を必要とする子どもたち（3）；ひとり親家庭		テキスト（7章pp.170-185）	
第12回	家庭環境上の支援を必要とする子どもたち（4）；子どもの貧困		配布資料	
第13回	少年非行等への対応		テキスト（5章pp.120-141）	
第14回	児童家庭福祉の専門性と相談援助、ネットワーク		テキスト（8章pp.192-204）	
第15回	授業全体のまとめ		これまで学んだ授業全体を振り返る	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ レポートや視聴覚教材視聴の感想等提出課題			
小テスト等	30％			
成果発表	なし			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的に授業に参加するように。			
教科書	川地智子編『児童家庭福祉論 ―基本と事例―』学文社。			
指定図書	橋本好市・宮田徹編『保育と社会福祉』みらい、.森上史朗監修・大豆生田啓友編『最新保育資料集2018』ミネルヴァ書房。			
参考図書	日本こども家庭総合研究所編『日本子ども資料年鑑2018』KTC中央出版、『国民の福祉と介護の動向2017/2018』厚生労働統計協会。			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	児童家庭福祉論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	上原 真幸		単 位	2
授業の目的と概要	社会の状況により、児童の生活状況や、児童を取り巻く問題は変化する。変化の過程やその背景、近年の状況を把握するためにも、児童家庭福祉の理念や児童の権利の捉え方を理解することが不可欠となる。歴史の中でどのような法制度が定められてきたのか、現在どのような法制度があるのかを知り、児童家庭福祉を実施する立場としての知識を深める。また、知識を得ながら、日常の中にある児童家庭福祉問題や事件等に関心を持ち、各々に感想や意見を述べるができるようになることを目的とする。			
到達目標	①社会の中の児童家庭福祉に関する問題に気付き、挙げることができる。 ②法制度に明記される子どもの権利と権利擁護のための社会の仕組みを関連付けることができる。 ③各国や日本の児童家庭福祉の歴史的成り立ち、その変遷を読み取ることができる。 ④児童家庭福祉に関わる専門機関や施設の種類と、その役割を述べることができる。 ⑤児童虐待、少年非行、児童健全育成など、全ての子どもとその家庭の福祉について考えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 心C (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 福C (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 福C (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション ―児童家庭福祉とは何か、何を学ぶのか―		テキストに目を通しておく	
第2回	児童を取り巻く社会状況と児童の定義 ―社会、学校、家庭の変化と児童家庭福祉の意味―		新聞記事から児童に関する問題を探しておく	
第3回	児童家庭福祉の成り立ち ―諸外国の児童家庭福祉の展開―		児童労働や世界の児童の現状に関する資料を熟読しておく	
第4回	児童家庭福祉の成り立ち ―日本の児童家庭福祉の展開―		戦前・戦後の日本の児童に関する資料を熟読しておく	
第5回	児童の権利とは ―児童の権利の歴史的経緯と現代の日常的問題―		児童の権利に関する条約、児童憲章を熟読しておく	
第6回	児童家庭福祉の法律・法制度 ―児童家庭福祉に関する法制度について―		小六法を参考に児童に関する法律のワークシートを完成させておく	
第7回	児童相談所について ―児童相談所の仕組みと役割について―		児童相談所に関する資料を熟読しておく	
第8回	児童相談所の実際業務について ―相談受付から援助実施まで―		児童相談所の対応事例を熟読しておく	
第9回	社会的養護の実施 ―社会的養護と家庭的養護―		テキストの該当箇所を熟読しておく	
第10回	児童福祉施設について ―各児童福祉施設の役割・目的的理解―		児童福祉施設の種類を調べ、ワークシートを完成させてく	
第11回	要保護児童に関する日本の取り組み―歴史的経緯から現代の児童保護―		テキストの該当箇所を熟読しておく	
第12回	障害・障害児者の福祉 ―障害の理解、障害児への福祉と保育―		障害児に関する新聞記事を探し熟読しておく	
第13回	児童虐待の現状と課題 ―児童虐待の理解、対応と予防について―		児童虐待について、事例を熟読し考えをまとめておく	
第14回	非行問題の現状と理解 ―少年法と非行少年への対応と支援について―		テキストの該当箇所を熟読しておく	
第15回	児童健全育成 ―すべての子どもに対する児童家庭福祉の理解―		多文化児童への関りや子ども食堂等に関する資料を熟読しておく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70%（講義内容に全般に関する試験を行う）			
レポート	10%（講義内感想レポート等）			
小テスト等	―			
成果発表	―			
受講態度他	20%（講義内の発言、取り組みの姿勢等）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	資料等は印刷物を配布するため、講義中のスマートフォン等の電子機器類の使用は、厳しく禁止する。 日常的に、児童に関するニュースや新聞記事に関心を持ち、講義に参加すること。			
教科書	伊達悦子・辰巳隆『改訂 保育士をめざす人の児童家庭福祉』みらい 保育福祉小六法編集委員会編『保育福祉小六法』みらい			
指定図書	―			
参考図書	随時紹介する			
オフィスワー	前期：月曜3限、後期：金曜3限		メールアドレス	

授 業 科 目	児童福祉特論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	西原 尚之		単 位	2
授業の目的 と概要	「子ども虐待」や「子どもの貧困」など我々が長年目を背けてきた子どもに関する問題が近年あらわになってきた。また不登校や非行といった以前からある問題も解消の方向に向かっているとは言いがたい状況である。これらの問題を理解するには人とそれを取り巻く家族そして社会環境を複眼的に見つめる視点が必要になる。そこでこの授業では虐待ネグレクトや不登校など子どもと家庭に関する課題を幅広くとりあげ、問題を理解する枠組み（アセスメント）を学ぶ。そのうえで課題を抱えるケースに対してどのように支援していくかというソーシャルワークの方法論について学習していく。 担当教員が著した論文を授業外学修資料として提供し、論文作成の方法も同時に学べるようにする			
到達目標	１．子ども家庭福祉に関する問題を人と環境の視点から理解できるようになる ２．子どもと家庭に関する問題に関してある程度的確にアセスメントできるようになる ３．子どもと家庭に関する問題に対して有効な援助方法を選択できるようになる ４．論文作成の方法論が理解できるようになる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	－			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション		これまで行ってきた経験・実践・研究を整理しておく	
第 2回	子どもにとっての家族		事前配布資料を熟読しておく	
第 3回	子ども家庭福祉の具体的課題（１）：虐待ネグレクト①概要		事前配布資料を熟読しておく	
第 4回	子ども家庭福祉の具体的課題（２）：虐待ネグレクト②支援の基本的枠組み		事前配布資料を熟読しておく	
第 5回	子ども家庭福祉の具体的課題（３）：虐待ネグレクト③事例研究		事前配布資料を熟読しておく	
第 6回	子ども家庭福祉の具体的課題（４）：子どもの貧困①概要		事前配布資料を熟読しておく	
第 7回	子ども家庭福祉の具体的課題（５）：子どもの貧困②貧困と不登校		事前配布資料を熟読しておく	
第 8回	子ども家庭福祉の具体的課題（６）：社会的養護①施設養護の概要		事前配布資料を熟読しておく	
第 9回	子ども家庭福祉の具体的課題（７）：社会的養護②家庭養護の概要		事前配布資料を熟読しておく	
第10回	子ども家庭ソーシャルワーク（１）：アセスメント①ジェノグラムの描き方		事前配布資料を熟読しておく	
第11回	子ども家庭ソーシャルワーク（２）：アセスメント①ジェノグラムの読み方		事前配布資料を熟読しておく	
第12回	子ども家庭ソーシャルワーク（３）：児童相談所のソーシャルワーク①在宅援助		事前配布資料を熟読しておく	
第13回	子ども家庭ソーシャルワーク（４）：児童相談所のソーシャルワーク②家族再統合支援		事前配布資料を熟読しておく	
第14回	子ども家庭ソーシャルワーク（５）：施設ソーシャルワーク		事前配布資料を熟読しておく	
第15回	まとめ		1回から14回までの授業の復習をしておく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	30％			
小テスト等	－			
成果発表	30％			
受講態度他	40％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	子ども家庭福祉に関してあまり知識がない受講生は下記の参考図書を読んでおくことが望ましい			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	西澤哲『子ども虐待』講談社現代新書 池上彰編『日本の大課題 子ども貧困』ちくま新書			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	人権教育【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	栗山 俊之		単 位	2
授業の目的 と概要	人権の大切さを理解し、人権に関わる具体的な問題について、論理的に、様々な教材を用いながら授業することができるようになることを目指します。また、そのためのよりよい授業の組み立て方や、教材収集の方法を身に付けてください。なお、部落差別、水俣病、ハンセン病など、よく扱うテーマはありますが、実際にどのような人権問題を取り扱うかは時事により異なります。 ボランティアや現地研修を自ら行い、現代社会が抱える諸問題について理解し、その解決方法を模索することができるようになる。			
到達目標	1. 自らが受けた人権教育を整理し、検証できる。 2. 人権に関する現代的問題に関心をもつ。 3. 人権に関する授業を組み立てることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 講義の進め方			高校までに学習した人権に関する事柄を復習しておく	
第2回 人権とは何か			事前の配布プリントを読む①	
第3回 人権についての講義（人権を損なうもの）			事前の配布プリントを読む②	
第4回 人権にかかわる基本的学習①			事前の配布プリントを読む③	
第5回 人権にかかわる基本的学習②			事前の配布プリントを読む④	
第6回 人権にかかわる基本的学習③			事前の配布プリントを読む⑤	
第7回 人権にかかわる諸問題（以下14回まで、学生の意見を聞きながら具体的問題を取り上げます）①			事前の配布プリントを読む⑥	
第8回 人権にかかわる諸問題②			事前の配布プリントを読む⑦	
第9回 人権にかかわる諸問題③			事前の配布プリントを読む⑧	
第10回 人権にかかわる諸問題④			事前の配布プリントを読む⑨	
第11回 人権にかかわる諸問題⑤			事前の配布プリントを読む⑩	
第12回 人権にかかわる諸問題⑥			事前の配布プリントを読む⑪	
第13回 人権にかかわる諸問題⑦			事前の配布プリントを読む⑫	
第14回 人権にかかわる諸問題⑧			事前の配布プリントを読む⑬	
第15回 まとめ			もう一度、人権教育の意義について考察する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％ レポート試験			
レポート	40％ 講義終了前10分前に小レポートを課します			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	20％ 講義に向き合う姿勢			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自らが教える場合はどうかということを常に意識して講義に向き合ってください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します			
オフィスアワー	月曜4講目	メールアドレス		

授 業 科 目	人権教育【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	峰 司郎		単 位	2
授業の目的と概要	本講義は、これまで受けてきた人権教育を振り返り、人権教育に関する法規や人権問題を理解する。様々な人権課題について主体的に考え、解決しようとする意欲や態度を育てる。子どもたちの発達段階に応じた人権尊重の精神を育てるための多様な授業の在り方を紹介し実践意欲を育てる。社会にある人権問題に気づき、解決しようとする人権感覚を育てる。			
到達目標	・人権についての法規や歴史について学び、人権とは何かを理解することができる。 ・人権教育が世界的な課題であることを理解することができる。 ・社会にある多様な人権課題に気づく人権感覚を保つことができる。 ・「体験・参加・協力」をキーワードにした人権教育の学習活動を紹介し、人権教育への実践意欲をもつことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回：イントロダクション～人権・同和教育についての振り返り			自己紹介ゲーム、授業体験やイメージの交流	
第2回：人権とは何か～世界の人権条約と日本国憲法			世界人権宣言や世界の人権条約、憲法の人権規定について知る	
第3回：人権教育における個別の人権課題			資料～人権教育の指導方法等の在り方について【第三次とりまとめ】より	
第4回：「当事者として考える人権」			当事者（女性）として考える,多様な性・ジェンダ・LGBT	
第5回：「差別と区別」 1～グループ演習			「ちがいのちがいがい」の演習をとおして考えを交流する	
第6回：小学校の教科書にみる人権			現在の小学校6年生社会教科書の記述の変遷を知る	
第7回：中学校の教科書にみる人権			中学校の社会科歴史公民分野の記述の変遷を知る	
第8回：「差別と区別」 2～部落差別とは			6回7回の資料をもとに自分なりの考えをもち交流する	
第9回：多様化する差別～インターネット上の差別など差別の現状			インターネット上の書き込みなど差別時事象の現状を知る	
第10回：子どもの人権について～貧困、格差、いじめ、不登校などについて			新聞記事や資料をとおして子どもを取り巻く現状を知る	
第11回：福岡県同和教育副読本「かがやき」と福岡県人権教材DVD「あおぞら」			「かがやき」「あおぞら」など人権・同和教育教材の紹介、演習	
第12回：人権教育の課題としての自尊感情			自尊感情の大切さについて知り、自尊感情を高める演習を行う	
第13回：障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、部落差別解消推進法			2016年度に施行された3つの解消法について知る	
第14回：人権教育教育の現状			日本や世界の人権教育について知る	
第15回：これからの人権教育			体験的参加型、アクティブラーニングや幼児教育の実践例の紹介	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	4 0％ 記述型の試験を行う。			
レポート	なし			
小テスト等	4 0％ 講義ごとに感想を提出し、成績評価に加える。			
成果発表	なし			
受講態度他	2 0％ 出席日数、演習での発表や参加の様子も成績評価に加える。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1 毎回配布する資料は、整理保存しておくこと。定期試験時、配布資料のみ持ち込み可とする。 2 実践に使えるアイスブレイキングを授業前10分ぐらい取り入れる。 3 幼児教育の内容にも触れる。 4 プレゼンを使って講義を行うので、見えにくい色などが合ったら事前に教えてください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	福岡県同和教育副読本「かがやき」 DVD版「あおぞら」 小学校6年社会科上下 中学校社会科歴史・公民分野			
オフィスワー	授業の前後で相談に応じる		メールアドレス	

授 業 科 目	人体の構造と機能及び疾病【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	百瀬 義人		単 位	2
授業の目的と概要	公認心理師に必要なとなる医学の基礎的知識を身につけ、医療における基本的な考え方を理解すると同時に、認知症や障害が日常生活に及ぼす影響とそれに対する支援のあり方について考察しながら、論理的思考力、創造的思考力、問題解決力の他、社会の多様な問題を考えアプローチできる力を養うことを目的とする。この目的を達成するために心理分野に必要とされる医学的知識と医療における考え方を中心に、公認心理師の専門職としての実践に必要なレベルを常に意識する。入学初年次より精神保健福祉の対象となる様々な医学的側面を学ぶことにより公認心理師専門職志向ををしっかりと高めていく。			
到達目標	1.心身機能と身体構造について説明することができる。 2.先天性疾患、加齢に伴う疾患の概要について説明することができる。 3.障害の原因となる諸疾患の医学的側面について説明することができる。 4.リハビリテーションと生活機能分類について説明することができる。 5.認知症や障害が日常生活に及ぼす影響と、本人や家族に対する支援やケアのあり方について説明することができる。 6.健康に関する国の施策について説明することができる。 7.がん、難病等の心理に関する援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	人の成長・発達と老化（1）再生医療		予習pp.1-13。 配付資料を通読すること。	
第2回	人の成長・発達と老化（2）脳死		予習pp.14-24。 配付資料を通読すること。	
第3回	身体構造と心身の機能（1）血液成分		予習pp.29-31。 配付資料を通読すること。	
第4回	身体構造と心身の機能（2）水分と脱水		予習pp.28, 32-52。 配付資料を通読すること。	
第5回	身体構造と心身の機能（3）腎臓		予習pp.34-35。 配付資料を通読すること。	
第6回	疾病の概要（1）感染症		予習pp.103-106, 222-224。 配付資料を通読すること。	
第7回	疾病の概要（2）終末期医療と緩和ケア		予習pp.122-128。 配付資料を通読すること。	
第8回	障害の概要 認知症		予習pp.156-161。 配付資料を通読すること。	
第9回	リハビリテーションの概要		予習pp.174-192。 配付資料を通読すること。	
第10回	国際生活機能分類の基本的な考え方と概要		予習pp.193-203, 141-145。 配付資料を通読すること。	
第11回	日本の人口統計		予習pp.210-217。 配付資料を通読すること。	
第12回	国民健康づくり対策		予習pp.206-209, 218-221。 配付資料を通読すること。	
第13回	環境保健		予習pp.232-235。 配付資料を通読すること。	
第14回	学校保健		予習pp.236-238。 配付資料を通読すること。	
第15回	総合復習		第1回～第14回の配付資料を通読すること。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ （15回の講義内容に関する理解度について筆記試験を行い、50点満点とする）			
レポート	50％ （授業時に提出するレポート内容に応じて50-0点を配点する）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習箇所を明記している回は、授業前に予習をしてください。			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座Ⅰ 人体の構造と機能及び疾病 第3版』（中央法規）			
指定図書	なし			
参考図書	随時、図書や資料を紹介			
オフィスワーク	授業の前後。		メールアドレス	

授 業 科 目	人文地理学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	黒田 圭介		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義では、中・高校社会科教員として持っていてしかるべき人文地理学的な知識、及び地理学的な解析方法を学ぶ。また、地図読解の技能を身につけ、さらに、目的に応じて主題図や統計グラフを作成できる能力の育成を目的とする。地図に興味がある者や、地理学的な情報処理法を学びたい者は是非履修のこと。 人文地理学的な内容の講義とともに、毎回地図や統計情報を用いた解析方法を学ぶ。本講義では特に地図の再編集(土地利用区分の作成など)、人文地理学的な統計情報処理などを取り上げる。毎回課題作業を行い、課題の提出をもって出席とする。具体的な内容は各回ごとの授業内容を参照のこと。また、必要に応じてプロジェクターを用い視覚的に分かりやすい授業をこころがける。			
到達目標	＊特に高校地理Bにおける人分地理学的内容（農業、工業、商業、人工、土地利用等）を理解できる。 ＊地理学的な統計情報を的確にグラフ化、地図化できる。 ＊目的に応じて地図を加工し、新たな知見を得ることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 講義説明、連絡			＊予習のポイントは講義終了後に通知する。	
第2回 農業用水の開発と農業的土地利用の変化を読む			＊予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第3回 産業の発達と地形の改変を読む			＊予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第4回 治水対策と地形の変化を読む			＊予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第5回 断面図をつくる			＊予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第6回 標高値からブロックダイアグラムをつくる			＊予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第7回 土地利用図をつくる 前編			＊予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第8回 土地利用図をつくる 後編			＊予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第9回 散布図から日本の人口問題を考える			＊予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第10回 出荷額と販売額の散布図の作成			＊予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第11回 ブラジル人の分布を考える			＊予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第12回 都市圏の人口流動を考える			＊予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第13回 公示地価の等値線図をつくる			＊予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第14回 交通（特に航空）を流線図で考える			＊予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。	
第15回 まとめ、予備日			＊復習のポイントは講義終了後に通知する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％			
レポート	-			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	70％ 本講義では出席を重視し、かつ毎回課題を課す。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	＊内容は変更になることがある。 ＊正当な理由のある欠席は部分点を与えるので必ず届けること。 ＊予備知識は特に必要ないので、高校地理を受講していなくても履修できる。 ＊特別な事情を除いて、授業開始10分後以降の入室は認めない。 ＊テキストは直接書き込みページを切り取って提出するタイプのものなので、忘れないよう毎回必ず持参すること。また、毎回			
教科書	地理学演習帳（古今書院、内田和子・寄藤昂 編）			
指定図書	適宜紹介する			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	講義終了後	メールアドレス		

授 業 科 目	数学応用【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	飯塚 勝		単 位	2
授業の目的 と概要	この科目はこれまでに学んだ数学の基礎知識を確認しながら、数的推理、判断推理、空間把握といった数学的な思考法を様々な分野に応用する方法を学ぶことを目的としています。「場合の数」「確率」「データの整理」「統計」「図形」などについての簡単な演習問題を解きながら、日常生活の事象を数理的に捉え処理するための考え方の基礎を身につけます。受講生の状況を見ながら、担当者の判断で内容を変更することがあります（その場合は授業で説明します）。			
到達目標	1．「場合の数」「確率」「データの整理」「統計」「図形」といった分野における基本的な問題の解き方について説明することができる。 2．日常生活の諸問題について、数学的思考に基づいて論理的に思考し、解決することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
順列			今回の講義の復習	
組合せ			今回の講義の復習	
集合			今回の講義の復習	
事象の確率			今回の講義の復習	
確率分布			今回の講義の復習	
平均と分散			今回の講義の復習	
度数分布表と代表値			今回の講義の復習	
散布図と相関係数			今回の講義の復習	
統計学の考え方			今回の講義の復習	
統計的推定			今回の講義の復習	
統計的検定			今回の講義の復習	
直線と図形			今回の講義の復習	
三角形と円の性質			今回の講義の復習	
面積			今回の講義の復習	
まとめ			今回の講義の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	55% 定期試験期間中に、55点満点の試験（ノート、資料の持ち込み可）を行う。			
レポート	30% 毎回、授業内容に即した演習問題を提出する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 授業の受講態度の適切性についても成績評価に加える。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業中の私語、携帯電話等の操作、他の科目の学習は禁止する。			
教科書	プリントを配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワ－	授業の前後に相談に応じる	メールアドレス		

授 業 科 目	数学基礎【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	飯塚 勝・手嶋 俊明・安武 久洋・藤野 友和		単 位	2
授業の目的 と概要	この科目は中学校までに学んだ数学の基礎知識を確認しつつ、数的推理、判断推理、空間把握といった数学的な思考法の基礎を身につけることを目的としています。「数の計算」「式の計算」「方程式」「関数とグラフ」などについての簡単な演習問題を解きながら、日常生活の事象を数理的に捉え処理するための考え方の基礎を身につけます。受講生の状況を見ながら、担当者の判断で内容を変更することがあります（その場合は授業で説明します）。他者と協働して演習問題に取り組むこともあります。			
到達目標	1．「数の計算」「式の計算」「方程式」「関数とグラフ」といった分野における基本的な問題の解き方について説明することができる。 2．日常生活の諸問題について、数学的思考に基づいて論理的に思考し、解決することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
数の種類			今回の講義の復習	
数の演算			今回の講義の復習	
約数と倍数			今回の講義の復習	
素数と素因数分解			今回の講義の復習	
式の四則演算			今回の講義の復習	
式の展開			今回の講義の復習	
因数分解			今回の講義の復習	
不等式			今回の講義の復習	
比例関係			今回の講義の復習	
一次方程式と連立方程式			今回の講義の復習	
二次方程式			今回の講義の復習	
一次関数			今回の講義の復習	
二次関数の性質			今回の講義の復習	
二次関数の応用			今回の講義の復習	
まとめ			今回の講義の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	55% 定期試験期間中に、55点満点の試験（ノート、資料の持ち込み可）を行う。			
レポート	30% 毎回、授業内容に即した演習問題を提出する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 授業の受講態度の適切性についても成績評価に加える。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話等の操作、他の科目の学習は禁止する。			
教科書	プリントを配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーカー	授業の前後に相談に応じる	メールアドレス		

授 業 科 目	住まいと環境【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	豊増 美喜		単 位	2
授業の目的と概要	住まいはその国・地域の自然・文化・歴史とともに展開してきました。本講義は人間が健康で快適に生活するための住まいと環境に関する基礎知識を習得し、住まいを中心とする生活環境上の問題に関心を持ち、その課題の解決に向けて自ら考える力を養うことを目的としています。 日本の伝統的な住まいと自然環境、社会環境との繋がりを考えます。さらに、住まいに関する技術と人間居住の価値観等から住まいと環境のあり方を展望します。			
到達目標	1. 日本の風土気候と住まいの形について理解する。 2. 日本で起こる自然災害を理解し、防災・減災の手法および、被災からの生活の回復について自ら解決する能力を身につける。 3. 環境の問題を理解し、測定を通じて身近な生活環境の実態を知り、改善に取り組むことができる。 4. 環境に配慮した室内計画をデザインとして工夫し、創造することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 この授業で習得した知識や技能は環境共生社会を構成する住まいと環境を考える基礎知識となります。また2年次に開講される「住環境デザイン演習」はこの授業で学んだものを具体的に形に落としていく演習です。 その他、関連する科目として環境共生住宅に焦点化した「エコハウス論」や地域環境に視野を広げた「地域環境論」が2年次に開講されます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	日本の気候風土と住居		プリントを熟読すること	
第2回	安全を守る住まい ----- 日本の災害 防災と減災		プリントを熟読すること	
第3回	安全を守る住まい ----- 日本の災害 生活の回復		プリントを熟読すること	
第4回	我々をとりまく環境問題（1）空気汚染、廃棄物		プリントを熟読すること	
第5回	我々をとりまく環境問題（2）騒音・振動		プリントを熟読すること	
第6回	我々をとりまく環境問題（3）身の回りの騒音レベルの測定		測定レポートの作成	
第7回	住要求とプラン（1）間取りを考える		プリントを熟読すること	
第8回	住要求とプラン（2）集合住宅の事例		事例研究とレポートの作成	
第9回	住要求とプラン（3）戸建て住宅の事例		事例研究とレポートの作成	
第10回	環境に配慮した室内計画（1） ----- 対象室の選定		プリントを熟読すること	
第11回	環境に配慮した室内計画（2） ----- 家具の選択		プリントを熟読すること	
第12回	環境に配慮した室内計画（3） ----- 内装仕上げ材、窓装飾、家電製品の選択		プリントを熟読すること	
第13回	環境に配慮した室内計画（4） ----- 家具、家電製品のレイアウト		プリントを熟読すること	
第14回	環境に配慮した室内計画（5） ----- 設計趣旨のまとめ		発表原稿の準備	
第15回	環境に配慮した室内計画（6） ----- 発表		発表原稿の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％			
小テスト等	0％			
成果発表	20％			
受講態度他	20％ 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。 レポートはチェック後に次回の授業で返却する。			
教科書	プリントを配布します			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	図画工作Ⅰ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	一木 信治・岡山 万里・眞弓 真由美		単 位	1
授業の目的と概要	保育園、幼稚園、小学校の教育現場において、楽しい造形遊びや造形活動が実現できるように、保育所保育指針や幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領に基づいて、乳幼児の造形表現、小学校図画工作科の概要を把握し、必要な基礎的理論と知識、技能などについて修得を図ることを目的とする。 特に作品製作を中心にものをつくりだす喜びを味わいながら修得し、保育士・幼稚園教諭及び小学校教諭として必要な知識・技能の習得をめざす。また、美術作品鑑賞の考え方についてふれながら、自ら製作した作品を中心とした評価・鑑賞活動を行う。			
到達目標	・ 造形教育及び図画工作科の教育目標について説明することができる。 ・ 材料・用具の特性を理解し、その使用方法を説明することができる。 ・ 色彩を学び、表現の基礎について説明することができる。 ・ 作品の鑑賞について、そのあり方を説明することができる。 ・ 「表現」領域、小学校図画工作科の学習目標を理解し、その目標達成のための基本的内容を説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、初等教育コースのD P（3）-②-2「初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている」の達成に関わる教科です。ここで身に付けた図画工作科に関する基礎的な知識・技能や学習指導要領の内容は、2年次の図画工作Ⅱの授業を通して更に深化し、教職を目指す上でのベースになります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、子どもの造形表現の発達）		復習：別紙プリント「子どもの絵の発達段階」熟読	
第2回	保育所保育指針および幼稚園教育要領における「表現」及び小学校図画工作の目標と内容		復習：別紙プリント「目標と内容穴あき問題」	
第3回	造形表現活動①色彩についての基礎学習（1 2色相環、色の三要素、補色、類似色）		復習：別紙プリント「1 2色相環」	
第4回	造形表現活動②1 2色相環を使った平面構成作品の製作		復習：作品仕上げ	
第5回	造形表現活動③木版画の製作（下絵の転写、彫刻刀の種類、彫り跡の違い、白黒の配分）		復習：作品に応じた彫刻刀の選択	
第6回	造形表現活動④木版画の製作（線彫りと面彫りの違い）		復習：線彫り・麵彫りの練習	
第7回	造形表現活動⑤木版画の製作（刷りの基本、インクの量、ローラーの動かし方、バレンの使い方）		復習：作品仕上げ	
第8回	造形表現活動⑦混色による濃いめの彩色（絵の具の出し方、筆洗の使い方、混色の仕方）		復習：作品製作	
第9回	造形表現活動⑧混色による濃いめの彩色（筆に含ませる水の量）		復習：作品製作	
第10回	造形表現活動⑨混色による濃いめの彩色（意図をもった色づくりと配色計画）		復習：作品仕上げ	
第11回	造形表現活動⑩動くおもちゃ製作（基本形づくり、アイディアスケッチ）		復習：アイディアスケッチ	
第12回	造形表現活動⑪動くおもちゃ製作（動く仕組みづくり）		復習：丈夫で壊れない仕組みづくり	
第13回	造形表現活動⑫動くおもちゃ製作（飾りのデザイン、切り方、貼り方）		復習：作品仕上げ	
第14回	幼児・児童作品の鑑賞のあり方、造形・美術作品の鑑賞活動		復習：別紙プリント「先生のコメント」	
第15回	まとめ		なし	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	2 0 ％ 定期試験			
レポート	6 0 ％ 提出作品の完成度			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	2 0 ％ 授業への積極的参加度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・ 教職をめざす者として積極的な発言や授業への参加を期待する。 ・ 材料・用具等の忘れ物がないように気をつけること。			
教科書	小学校学習指導要領解説（図画工作編）、幼稚園教育要領（保育所保育指針）			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	高橋 淑子『色彩ナビ』 財団法人日本色彩研究所監修			
オフィスワー	月曜日 4 ・ 5 限		メールアドレス	

授 業 科 目	図画工作Ⅱ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	一木 信治・岡山 万里		単 位	1
授業の目的と概要	保育園、幼稚園、小学校の教育現場において、楽しい造形遊びや活動が実現できるように、保育所保育指針や幼稚園教育要領および小学校学習指導要領に基づいて、乳幼児の造形表現、小学校図画工作科の概要を把握し、必要な基礎的な理論と知識、技能などについて修得を図ることを目的とする。 また、実際に作品を製作する活動を通して、つくりだす喜びを味わいながら修得し、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭として必要な知識・技能の修得を目指す。特に美術養育に対する考えを深めながら、絵画的表現や版画・木工の実技及び鑑賞活動を行う。			
到達目標	・ 造形教育、美術教育の意義について説明することができる。 ・ 幼児造形教育や小学校図画工作科の理論と知識・技能を身につけると共に表現活動に効果的に応用することができる。 ・ 鑑賞活動を通じて、そのあり方を説明できる。 ・ 製作プロセス、用具材料の特性を理解した上で、計画的に製作することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、初等教育コースのD P（3）-②-2「初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている」の達成に関わる教科です。図画工作Ⅰで身に付けた図画工作科に関する基礎的な知識・技能や学習指導要領の内容を踏まえながら、電動糸のこぎりやエッチングプレス機などを使った作品製作を通して、更に深化した知識・技能を習得します。このことは、初等教科教育法（図画工作）で行う模擬授業を通して、より実践力を高めていくことにつながります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（授業計画、グループ編成）		予習：美術資料の通読	
第2回	造形表現活動①モダンテクニックの技法体験（マープリング、ドロッピング、吹き流し、デカルコマニー、染め紙）		復習：美術資料 p 64の技法練習	
第3回	造形表現活動②モダンテクニックの技法体験（フロッタージュ、コラーージュ、スパッタリング、パチック、スタンピング）		復習：美術資料 p 65の技法練習	
第4回	造形表現活動③モダンテクニックの技法を使った構想画製作		復習：美術資料 p 64,65の技法練習	
第5回 美術館）	造形表現活動④水彩絵の具による淡彩表現（いわさきちひろの生涯、代表的な作品、ちひろ美術館）		予習：美術資料 p 6,7淡彩画の描き方	
第6回	造形表現活動⑤水彩絵の具による淡彩表現（ぼかし、たらしこみによるにじみ技法）		復習：美術資料 p 6 にじみの練習	
第7回	造形表現活動⑥水彩絵の具による淡彩表現（いわさきちひろ作品の模写）		復習：模写の仕上げ	
第8回	造形表現活動⑦版画の種類と表現の違い（紙版画、木版画、ドライポイント、ステンシル、エッチング）		予習：美術資料 p 26～35通読	
第9回	造形表現活動⑧ドライポイントによる作品製作（陰影の表現）		予習：美術資料 p 26～35	
第10回	造形表現活動⑨ドライポイントによる作品製作（エッチングプレス機の各部名称、インクのふき取り）		復習：陰影の出し方練習	
第11回	造形表現活動⑩ドライポイントによる作品製作（エッチングプレス機の各部名称、インクのふき取り）		復習：作品の仕上げ	
第12回	造形表現活動⑪木工の基本（のこぎりや電動糸のこぎりを使った切断、ボンドを使った接合の仕方）		予習：美術資料 p 66～71	
第13回	造形表現活動⑫ジグソーパズルの製作（木取り、切断、中抜き）		復習：中抜きの練習	
第14回	造形表現活動⑬ジグソーパズルの製作（みがき、塗装、ワックスがけ）		復習：塗装の練習	
第15回	鑑賞活動とまとめ		製作した作品の自己評価及び他者評価	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	20％ 定期試験			
レポート	60％ 提出作品の完成度			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 授業への積極的参加度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・ 教職をめざす者として、授業への積極的な参加を期待する。 ・ 授業において必要な材料・用具などを忘れないように注意すること。			
教科書	美術資料（元気な福岡の美術資料付） 秀学社 京都市立芸術大学美術教育研究会編			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	阿部 宏行『いっしょに考えよう 図工のABC』 日本文教出版			
オフィスアワー	月曜日 4・5限		メールアドレス	

授 業 科 目	セールスマネジメント【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大橋 健治		単 位	2
授業の目的と概要	セールス（営業）は、創って（開発）、造って（製造）、売る（販売）という企業活動の最終段階（計画通りに販売する）を担っている。加えて、お客様の声（市場のニーズ）を開発に反映する役割も期待されている。我が国の企業の営業スタイルは、およそ、行動重視型、奉仕型、提案型、ワークショップ型の4類型に分けられるが、それぞれの類型によってマネジメントのあり方も変わってくる。本授業では、それぞれのタイプの営業の実例を題材にその効果的なマネジメントのあり方を考察することを目的とする。 授業の目的を効果的に達成するために、調べ学習（プレゼンテーションあり）を導入する。調べ学習を成立させるためには、個々の学生が責任を持って授業外学修に取り組み→授業において真摯プレゼンテーションを行い→クラス全体で積極的に質問を行い、気づきを内省するというプロセスが不可欠である。			
到達目標	1. 企業の中で営業が果たすべき役割が理解できる。 2. 営業の4類型とそのマネジメントのあり方が説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業）		シラバスの内容の吟味と履修の意思決定	
第2回	クラスビルディング演習		継続して受講予定の学生は必ずクラスビルディング演習に参加すること	
第3回	企業の中での営業の役割		配付プリントの事前学修・事後学修	
第4回	営業という仕事の魅力		配付プリントの事前学修・事後学修	
第5回	行動重視型営業のマネジメント①（教員によるケーススタディ）		配付プリントの事前学修・事後学修	
第6回	行動重視型営業のマネジメント②（学生によるケーススタディ）		学生個々人による事例の探索	
第7回	奉仕型営業のマネジメント①（教員によるケーススタディ）		配付プリントの事前学修・事後学修	
第8回	奉仕型営業のマネジメント②（学生によるケーススタディ）		学生個々人による事例の探索	
第9回	提案型営業のマネジメント①（教員によるケーススタディ）		配付プリントの事前学修・事後学修	
第10回	提案型営業のマネジメント②（学生によるケーススタディ）		学生個々人による事例の探索	
第11回	ワークショップ型営業のマネジメント①（教員によるケーススタディ）		配付プリントの事前学修・事後学修	
第12回	ワークショップ型営業のマネジメント②（学生によるケーススタディ）		学生個々人による事例の探索	
第13回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション）と質疑応答		成果発表の準備と授業内容の振り返り	
第14回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション）と質疑応答 レポートの提出		成果発表の準備と授業内容の振り返り	
第15回	授業のまとめと振り返り レポートの返却		本授業を履修した成果のまとめを作って参加する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 授業全体の振り返りとして自分が学んだこと、理解したことを記述のこと。			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ オーラル・プレゼンテーション			
受講態度他	50％ 調べ学習への貢献、クラス討議への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように、本授業では調べ学習を導入する。調べ学習を成立させる大前提は、個々の学生による責任をもった授業外学修と、教員との相互確認（質疑応答）である。これを怠る学生は授業の場に入ることを認めない（欠席扱いとする）。初回の授業で受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。			
教科書	プリントを配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日の昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	生活学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	岡本 文子		単 位	2
授業の目的 と概要	この講義では、生活学の中でもとりわけ衣生活について学んでいきます。 私たちは、日常当たり前のように衣生活に関わっていますが、それは先人の英知と技術によって支えられているものです。それらは、さまざまな快適性やファッション性を生みだしてきました。 現代のファッションデザインを学びながら、衣生活を快適に送る術を学んでいきましょう。			
到達目標	・日常生活の中で、身近な環境としての衣服の位置づけを理解し、自分自身の問題として取り組むことができる。 ・ファッションアイテムの名称とかたちを覚え、生活の中の状況に応じて使用することができる。 ・ファッションアイテムの服飾の歴史を踏まえた役割を理解し、生活に生かすことができる。 ・現在および将来に、日常生活においてファッションに関する知識に基づいた適切な判断ができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション、今後の授業の進め方、生活学で何を学ぶか			授業で配布する復習プリント等	
第2回 似合うということー1			授業で配布する復習プリント等	
第3回 似合うということー2			授業で配布する復習プリント等	
第4回 シルエットライン			授業で配布する復習プリント等	
第5回 プロポーション			授業で配布する復習プリント等	
第6回 カラーデザインのバリエーション			授業で配布する復習プリント等	
第7回 ネックラインのデザインバリエーション			授業で配布する復習プリント等	
第8回 シャツ&ブラウスのカラーデザイン			授業で配布する復習プリント等	
第9回 ジャンパーのデザイン			授業で配布する復習プリント等	
第10回 スリーブのデザインバリエーション			授業で配布する復習プリント等	
第11回 スカートのデザインバリエーション			復習プリント等	
第12回 バランス			授業で配布する復習プリント等	
第13回 セーター&カーディガンのデザインバリエーション			授業で配布する復習プリント等	
第14回 コートのデザインバリエーション			授業で配布する復習プリント等	
第15回 まとめ			授業で配布する復習プリント等	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	―			
レポート	―			
小テスト等	9 0 ％（授業中に行う定着確認プリント）			
成果発表	1 0 ％（授業中に行う基礎デザイン実習）			
受講態度他	―			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	教科書は使用しません。 毎回授業内容を確認する復習プリントを配布します。			
教科書	―			
指定図書	―			
参考図書	―			
オフィスアワー	金曜日 1 2 : 0 0 ～ 1 3 : 0 0	メールアドレス		

授 業 科 目	生活学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	豊増 美喜		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業では、生活の器である「住まい」の意味や成り立ちから、より良い住まい方を検討し、住まいに関する事象について、幅広く問題を提起しながら学んでいきます。 具体的には、日本の住まいの変遷を学び、現在に続いている自分の生活を見つめます。また、一人暮らしや、子どもの成長に応じた住まいのプランを概観することで、家族の形態や生活のスタイル、ライフステージ等による住要求の違いや、住要求をデザインとして表す手法を学びます。自分の生活を見つめ、安全で快適な、そして創意に満ちた魅力ある住まいを創造するための基礎的知識と技術を身につけましょう。			
到達目標	1. 日本の住居の変遷を知り、現代の住生活とのつながりを説明できる。 2. 生活の主体者として住要求を識別し、住要求を満たす、住まいの形をイメージすることができる。 3. ライフステージにあった住まいの選択をすることができる。 4. 健康で、安心・安全な住生活を送るための基礎的な知識を身につけ、生活に生かすことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 この授業で習得した知識や視座は現代社会を生きる上での基礎的な力となります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	住生活とは何か-----住まいのイメージと気候風土		プリントを熟読すること	
第2回	住居の変遷と住意識（1）-----竪穴式住居、寝殿造、書院造		教科書を熟読すること	
第3回	住居の変遷と住意識（2）-----町家、農家		教科書を熟読すること	
第4回	住居の変遷と住意識（3）-----近代日本の住宅		教科書を熟読すること	
第5回	生活様式と住居-----現代の住文化と起居様式		教科書を熟読すること	
第6回	住宅の選択と管理（1）-----家族周期と住要求		レポートの作成	
第7回	住宅の選択と管理（2）-----住宅に関する情報、購入と賃貸借		教科書を熟読すること	
第8回	住宅の選択と管理（3）-----住要求とプラン・図面を読む～若い世帯の住まい選び		レポートの作成	
第9回	住宅の選択と管理（4）-----住要求とプラン・図面を読む～高齢者の住まい選び		レポートの作成	
第10回	安全・安心と住まい-----防災・減災と住まい		プリントを熟読すること	
第11回	健康で快適な室内環境（1）-----温熱環境、光環境の調整		教科書を熟読すること	
第12回	健康で快適な室内環境（2）-----音環境の調整		教科書を熟読すること	
第13回	健康で快適な室内環境（2）-----空気環境の調整		教科書を熟読すること	
第14回	快適に暮らす住まい-----掃除の科学		プリントを熟読すること	
第15回	まとめと小テスト		プリントを熟読すること	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	20％			
小テスト等	60％			
成果発表	0％			
受講態度他	20％ 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	毎講義の冒頭に、前回の講義内容に関する質問を口頭で行うので、前回の講義内容を復習しておくこと。 図面プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。 レポートはチェック後に次回の授業で返却する。			
教科書	後藤久著「First Stage 精選住居学 (First Stageシリーズ)」実教出版			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	生活の科学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	速水 良晃		単 位	2
授業の目的と概要	物質的には豊かになっているが、効果が科学的に証明されていない栄養補助食品やダイエット食品、或いは家電製品等の過大広告、およびグルメやブランドや高価な品物を紹介する画一的なテレビ番組が氾濫している。このような一見科学的な言葉を使ったウソの情報を見破り、豊かにそして安全に過ごすために、科学の基本的考え方や新しい技術の仕組みを正しく理解できるようになることを目的とする。 教科書として選んだ本は、科学の分野毎の系統に沿って、生活の中の身近な現象を採り上げ、科学の基礎原理を分かりやすく説明してある。これらの多数のトピックの解説を通じて、「理科」の基礎的知識を学び、それを基に自らの生活を安全に快適に、そして持続可能な生活スタイルに変えていくことを工夫する。			
到達目標	① 授業で採り上げた各トピックについて、科学的説明ができる。 ② 科学的説明の論理性を身の回りの事象にも応用できる。 ③ 現代社会に氾濫している過大広告などのウソの情報を見破ることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 この授業は、上記 DP (2)-⑤ の達成に関わる科目である。同じ学部共通科目である「数学基礎」や「数学応用」や「生物のしくみ」なども一緒に受講すると理解が深まる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	ガイダンス：講義のねらい、トピック概説、第1章 水 最も身近な環境		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 1-12、テキスト予習 pp. 13-22	
第 2 回	第2章 大気 きれいな空気を求めて		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 13-22、テキスト予習 pp. 23-31	
第 3 回	第3章 大地 いのちと暮らしの基盤		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 23-31、テキスト予習 pp. 32-38	
第 4 回	第4章 環境化学物質 環境を蝕む		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 32-38、テキスト予習 pp. 39-48	
第 5 回	第5章 エネルギー 現状と将来		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 39-48、テキスト予習 pp. 49-56	
第 6 回	小テスト、第6章 不思議な水の性質		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 49-56、テキスト予習 pp. 57-62	
第 7 回	第7章 ものが燃えるとは		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 57-62、テキスト予習 pp. 63-72	
第 8 回	第8章 溶ける・洗う		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 63-72、テキスト予習 pp. 73-78	
第 9 回	第9章 くつつくとは		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 73-78、テキスト予習 pp. 79-86	
第10回	小テスト、第10章 色をつける (1) 光源色、吸収色、物体色		筑女ネット掲載資料 復習と予習、テキスト予習 pp. 79-86	
第11回	「海外学生交流プログラム」の準備		筑女ネット掲載資料 復習と予習、テキスト予習 pp. 79-86	
第12回	「海外学生交流プログラム」		筑女ネット掲載資料 復習と予習、テキスト予習 pp. 79-86	
第13回	第10章 色をつける (2) 視覚、色覚		テキスト復習 pp. 79-86、テキスト予習 pp. 87-94	
第14回	第11章 暮らしの中の金属		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 87-94、テキスト予習 pp. 95-103	
第15回	第12章 進化し続けるプラスチック、総合的な質問、まとめ、小テスト、授業評価		筑女ネット掲載資料、テキスト復習 pp. 95-103	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 毎回の学習記録（その中から有用な質問を毎回1つ以上すること、終了時提出、翌週返却）			
小テスト等	60％ 6回目と10回めの開始時、15回めの終了時に、それまでの内容についての小テスト（学習記録のみ持込可、各 20点）			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ 授業内容の理解を深める質問（内容と回数）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	分からない所を質問すれば、その内容に応じて加点するが、教科書に回答がそのまま書いてあるような質問や自分で調べれば直ぐ分かるような質問やギネスブック的な質問は対象としません。授業内容の理解を深めて、他の受講者の理解度も高まるような質問を歓迎する。 身の周りのいろいろな製品や、よく見かける広告など、その科学的内容を考えておくこと。 3回の小テスト（各20点）を1回でも欠席すれば、合格点に達することがかなり難しくなる。			
教科書	伊藤明夫 『環境・くらし・いのちのための化学の心』 裳華房			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業終了後、またはメールで相談		メールアドレス	

授 業 科 目	精神医学【講義】		開 講 時 期	通 年
担 当 教 員	西 浦 研 志		単 位	4
授業の目的 と概要	精神医学を体系的に、総論と各論を前後期にかけて学ぶので、履修登録は通年であり、前期のみ、もしくは後期のみの受講はできない。 最終学年時には精神保健福祉士国家試験に合格する。 精神保健福祉士の業務に必要な精神医学の基礎知識を体系的に学ぶ。 受講を通して、精神障害を抱える人に接するときの、適切な態度、留意点をも身につける。 座学にとどまらず、後期授業では学生自身が講師を果たす役割分担を体験できる。 授業材料として最新情報のDVD視聴もできる。 担当教員の国内外におよぶ現場経験に基づく知識と情報を介して、受講生は精神医療の歴史と現在の問題点について理解できる			
到達目標	1．精神医学・精神医療の歴史および概念を説明できる 2．精神医学的診断、治療の概要を説明できる 3．代表的精神疾患について概要を説明できる 4．精神保健福祉士国家試験において精神医学問題の60％以上を正答できる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 関連する科目：「心理学」「人間関係論」「医療人類学」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1、2回	精神医療の歴史と現状		教科書予習 第1章 DVD：統合失調症の現状 供覧	
第3、4回	精神医学の概念 精神疾患の診断		教科書予習 第2章、第3章	
第5、6回	代表的な精神疾患、 F0 器質性精神障害		教科書予習 第4章 第1節	
第7、8回	F1 精神作用物質使用による精神および行動の障害		教科書予習 第2節 DVD：薬物依存からの回復 供覧	
第9回	F2 統合失調症		教科書予習 第3節	
第10、11回	F3 気分障害		教科書予習 第4節	
第12、13回	F4 神経症性障害		教科書予習 第5節	
第14回	ストレス関連障害および身体表現性障害		教科書予習 第5節	
第15回	災害精神医学		教科書予習 第6節	
第16回	F5 生理的障害		教科書予習 第6節	
第17回	F6 パーソナリティ障害		DVD：境界例 供覧 第7節	
第18回	F7 知的障害		教科書予習 第8節	
第19回	F8 心理的発達の障害		DVD：自閉症 供覧 第9節	
第20回	F9 情緒の障害		教科書予習 第10節	
第21、22回	精神疾患の治療 I 薬物療法 II 身体療法 III 精神療法		教科書予習 第5章 第1、2節 第3節	
第23、24回	精神疾患の治療 IV リハビリテーション V 環境・社会療法		教科書予習 第4節 第5節	
第25、26回	人権擁護 入院形態 隔離・拘束 救急医療システム		教科書予習 第7章	
第27、28回	地域精神科医療		教科書予習 第8章	
第29回	司法精神医学		教科書予習 第6章 第5節	
第30回	差別と偏見		教科書全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	20％ 学期末にレポート提出を求め、理解度、説明能力の程度を評価する			
小テスト等	50％ 授業中、復習のテストを数回おこなう			
成果発表	希望する学生は後期、自分の関心のある課題について講義中に自己学習の成果を発表できる。加点の対象となる。			
受講態度他	30％ 出席、質問などによる積極性を評価する			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	本科目は精神保健福祉士国家試験受験のための指定科目である。同試験を受験する者は必修。			
教科書	「精神疾患とその治療」新・精神保健福祉士養成講座 1巻 第2版 中央法規 2016年			
指定図書	1) 渡辺雅幸『はじめての精神医学』中山書店 2) 青木省三『こころの病を診るということ』医学書院 3) 滝川一廣『子どものための精神医学』医学書院			
参考図書	随時、紹介する			
オフィスアワー	木の講義時間後	メールアドレス		

授 業 科 目	【閉講】精神医学特論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	西浦 研志		単 位	2
授業の目的 と概要	精神医学の基礎知識、方法論を学び、人間理解を深める。こうして、福祉、心理系だけでなく、言語、文科系分野の大学院生にとっても、自分の研究課題を適切に設定できる。			
到達目標	現代の精神医学、精神保健の話題のなかで、専門分野の学生として知っておくべき重要項目を学ぶ。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	精神医学の歴史的広がりを俯瞰し、心理学、社会学、言語学、法学との境界領域にわたる、常識 common senseを身に着ける。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	精神医学の歴史、医学・科学との位置付け、特殊性と普遍性		参考図書の紹介	
第2回	精神医学の概念 特殊性と普遍性		次回からの準備の説明	
第3回	身体と精神 睡眠 （以下の予定は受講生の希望によっては、変更する）		担当学生が文献まとめを交代して報告	
第4回	身体と精神 食べる 過食、肥満 やせ症		担当学生が文献まとめを交代して報告	
第5回	嗜好と依存 アルコール 薬物 タバコ ギャンブル		担当学生が文献まとめを交代して報告	
第6回	おとなの発達障害		担当学生が文献まとめを交代して報告	
第7回	労働者のメンタルヘルス、労働と人生		担当学生が文献まとめを交代して報告	
第8回	職場のうつ病 現代型うつ病とは		担当学生が文献まとめを交代して報告	
第9回	災害精神医学		担当学生が文献まとめを交代して報告	
第10回	PTSD		担当学生が文献まとめを交代して報告	
第11回	自殺		担当学生が文献まとめを交代して報告	
第12回	加齢と精神健康		担当学生が文献まとめを交代して報告	
第13回	差別と偏見		担当学生が文献まとめを交代して報告	
第14回	医療人類学と精神医学		担当学生が文献まとめを交代して報告	
第15回	自分の研究課題を精神医学の見方で発表		担当学生が文献まとめを交代して報告	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	第2回から第14回までの文献のまとめを講義のときに発表		50％	
小テスト等	なし			
成果発表	第15回 それまでの授業と自分のこれからの研究課題をどうつなげるか、計画発表		30％	
受講態度他	出席を含めて、積極性を評価する 20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義日程の数週間前までに、参考図書を通知する。 実際の講義の前に読了しておくのが大切。 単行本、雑誌の必要な部分のコピーを配布する。			
教科書	なし			
指定図書	図書室の蔵書から指定する。			
参考図書	その都度、提示する。			
オフィスワーカー	質問と相談は授業中、その後にいつでも良い		メールアドレス	

授 業 科 目	精神科ソーシャルワーク論Ⅰ(精神課程)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	益満 孝一		単 位	2
授業の目的と概要	本授業では精神保健福祉の理論と相談援助の展開について精神科リハビリテーションを中心に学び、精神保健福祉士としての役割と機能を理解することが目的である。 精神医療の特性と、精神障害者に対する支援の基本的考え方、精神科リハビリテーションの概念、知識、技術、そのプロセスについて学ぶことで、チーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割と機能について理解する。			
到達目標	1. 精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について説明できる。 2. 精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について説明できる。 3. 精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む）の知識と技術及び活用の方法を実践できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本科目は、①精神保健福祉課程の専門科目、②精神保健福祉士資格取得の指定科目「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」です。 卒業要件外でDPはありません。専門科目として、3 学年「専門的な社会福祉援助に必要となる専門的な知識や技術を学び、ソーシャルワーク実習においてそれらを実践的に体得する学修」として「⑤援助や支援の基礎的な技術を身につけ、活用することができる」のDPと関連づけられます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 精神保健医療福祉の歴史と動向①我が国の歴史と動向			事前学習はテキスト 第1章2	
第2回 精神保健医療福祉の歴史と動向②諸外国の制度の変遷			事前学習はテキスト 第1章3	
第3回 精神障害者支援の基本的考え方と必要な知識③我が国の精神保健福祉士の活動の歴史（社会防衛、Y問題、権利擁護、自立生活支援）			事前学習はテキスト 第3章1	
第4回 精神障害者支援の基本的考え方と必要な知識①精神障害者支援の理念（ノーマライゼーション、ストレングス、リカバリー、レジリエンス）			事前学習はテキスト 第3章2	
第5回 精神障害者支援の基本的考え方と必要な知識②精神障害者の人権擁護の思想（国連原則、欠格条項、インフォームド・チョイス、権利擁護システム）			事前学習はテキスト 第2章2	
第6回 精神障害者支援の基本的考え方と必要な知識④精神障害の概念、精神障害者の定義と特性			事前学習はテキスト 第3章2	
第7回 精神障害者支援の基本的考え方と必要な知識⑤労働、司法、教育領域における支援対象者			事前学習はテキスト 第3章2	
第8回 精神障害者支援の基本的考え方と必要な知識⑥自殺対策基本法、発達障害者支援法などの支援者			事前学習はテキスト 第3章2	
第9回 精神科リハビリテーションの概念と構成①リハビリテーションの歴史と概念			事前学習はテキスト 第4章1	
第10回 精神科リハビリテーションの概念と構成②リハビリテーションの理念			事前学習はテキスト 第4章2	
第11回 精神科リハビリテーションの概念と構成③精神科リハビリテーションの基本原則			事前学習はテキスト 第4章3	
第12回 精神科リハビリテーションの概念と構成④精神科リハビリテーションの実践原則			事前学習はテキスト 第4章4	
第13回 精神科リハビリテーションの概念と構成⑤精神科リハビリテーションの意義			事前学習はテキスト 第4章2	
第14回 精神科リハビリテーションの概念と構成⑥構成・対象・体系・実施期間			事前学習はテキスト 第5章	
第15回 まとめと振り返り（理解度の把握）			学習習熟度のために過去問題に取り組みましょう。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％。レポート試験（グループワークでのふりかえりのレポート、学期末のレポート）。			
小テスト等	30％。学習習熟度をみるために小テストを実施します。配付された過去問題をしっかり学習し専門的用語や知識を確実なものにしましょう。			
成果発表	なし			
受講態度他	30％。講義中に、適時質問などしますので、積極的に参加してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に小集団での話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加して対人関係能力を高めましょう。 資格取得の希望者は授業外学習として、ワークブック、過去問題集、ナビでの復習はこまめにして、専門用語の理解と説明できる力を高めましょう。コーチングによる学習方法についても教授する。			
教科書	福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉士シリーズ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』弘文堂			
指定図書	講義の際に紹介します			
参考図書	精神保健福祉士シリーズ『精神保健福祉士国家試験受験 ワークブック 2019 専門科目編』 中央法規出版、6月刊行			
オフィスワーク	火曜日 3時限目	メールアドレス		

授 業 科 目	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ(精神課程)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	益満 孝一		単 位	2
授業の目的 と概要	精神保健福祉の理論と相談援助の展開について学び、精神保健福祉士としての役割と機能を理解する。 精神科リハビリテーションのプロセス、 集団精神療法など医療機関における精神科リハビリテーションを学ぶことで、精神保健福祉士としての役割と機能を理解する。			
到達目標	精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む）の知識と技術及び活用の方法について説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	本科目は、①精神保健福祉課程の専門科目、②精神保健福祉士資格取得の指定科目「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」です。 卒業要件外でDPの科目名はありません。専門科目として、3 学年「専門的な社会福祉援助に必要となる専門的な知識や技術を学び、ソーシャルワーク実習においてそれらを実践的に体得する学修」として「⑤援助や支援の基礎的な技術を身につけ、活用することができる」のDPと関連づけられます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 精神科リハビリテーションのプロセス①リハビリテーション計画			事前学習はテキスト 第6章4	
第2回 精神科リハビリテーションのプロセス②リハビリテーション診断（評価）			事前学習はテキスト 第6章4	
第3回 精神科リハビリテーションのプロセス③アプローチの方法			事前学習はテキスト 第6章5	
第4回 医療機関における精神科リハビリテーションの展開①精神科専門療法（精神科作業療法）			事前学習はテキスト 第7章1-3	
第5回 医療機関における精神科リハビリテーションの展開①精神科専門療法（レクリエーション）			事前学習はテキスト 第7章1-3	
第6回 医療機関における精神科リハビリテーションの展開②精神科専門療法（集団精神療法）			事前学習はテキスト 第7章1-3	
第7回 医療機関における精神科リハビリテーションの展開③精神科専門療法（SST（生活技能訓練））			事前学習はテキスト 第7章1-3	
第8回 医療機関における精神科リハビリテーションの展開④精神科専門療法（行動療法）			事前学習はテキスト 第7章1-3	
第9回 医療機関における精神科リハビリテーションの展開④精神科専門療法（認知行動療法）			事前学習はテキスト 第7章1-3	
第10回 医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑤精神科デイケア、精神科ナイトケア			事前学習はテキスト 第7章4	
第11回 医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑥アウトリーチサービス（精神科退院前訪問指導、精神科訪問看護・指導）			事前学習はテキスト 第7章5	
第12回 医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑦家族教育プログラム（心理教育）			事前学習はテキスト 第7章6	
第13回 医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑧精神科チーム医療の概要と精神保健福祉士の役割			事前学習はテキスト 第8章1	
第14回 医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑨多職種との協働・連携と精神保健福祉士の役割			事前学習はテキスト 第8章2	
第15回 ままとめと振り返り（理解度の把握）			学習習熟を図るために、過去問題をしましょう。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	4 0％。レポート試験（グループワークでのふりかえりのレポート、学期末のレポート）。			
小テスト等	3 0％。習熟度テストをします。国家試験の問題に慣れることは、資格取得の最善の道です。配付された過去問題をしっかり学習し専門的用語や知識を確実なものにしましょう。			
成果発表	なし			
受講態度他	3 0％ 講義中に、適時質問や話し合いの時間をとりますので、積極的に受講してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に小集団での話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加して対人関係能力を高めましょう。			
教科書	福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉士シリーズ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』弘文堂（「精神科ソーシャルワーク論Ⅰ」に同じ。）			
指定図書	講義の際に紹介します。			
参考図書	精神保健福祉士シリーズ『精神保健福祉士国家試験受験 ワークブック 2 0 1 9 専門科目編』 中央法規出版、6 月刊行（「精神科ソーシャルワーク論Ⅰ」に同じ。）			
オフィスワー	火曜日 3 時限目		メールアドレス	

授 業 科 目	精神科ソーシャルワーク論Ⅲ(精神課程)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	益満 孝一		単 位	2
授業の目的 と概要	本授業では精神保健福祉の理論と相談援助の展開について学ぶ。			
到達目標	精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む）の展開について理解する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	本科目は、①精神保健福祉課程の専門科目、②精神保健福祉士資格取得の指定科目「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」です。 卒業要件外でDPに本科目名はありません。専門科目として、3 学年「専門的な社会福祉援助に必要な専門的な知識や技術を学び、ソーシャルワーク実習においてそれらを実践的に体得する学修」として「⑤援助や支援の基礎的な技術を身につけ、活用することができる」のDPと関連づけられます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	精神障害者の支援モデル 治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル		事前学習はテキスト 第 1 章2-5	
第 2 回	相談援助の過程と援助関係 1 インテーク・契約・アセスメント		事前学習はテキスト 第3章	
第 3 回	相談援助の過程と援助関係 2 プランニング・インターベンション・モニタリング		事前学習はテキスト 第3章	
第 4 回	相談援助の過程と援助関係 3 効果測定と支援の評価、終結とアフターケア		事前学習はテキスト 第3章	
第 5 回	相談援助のための面接技術 カウンセリング技法		事前学習はテキスト 第4章1	
第 6 回	個人を対象とした相談援助活動の実際 1 医療施設の事例分析		事前学習はテキスト 第5章1	
第 7 回	個人を対象とした相談援助活動の実際 2 地域移行支援施設の事例分析		事前学習はテキスト 第5章1	
第 8 回	個人を対象とした相談援助活動の実際 3 地域社会の事例分析		事前学習はテキスト 第5章1	
第 9 回	集団を活用した相談援助活動の実際 1 デイケアとグループワークの事例分析		事前学習はテキスト 第5章2	
第 1 0 回	集団を活用した相談援助活動の実際 2 SSTの事例分析		事前学習はテキスト 第5章2	
第 1 1 回	集団を活用した相談援助活動の実際 3 セルフヘルプグループの事例分析		事前学習はテキスト 第5章2	
第 1 2 回	家族調整・支援の実際と事例分析		事前学習はテキスト 第6章1	
第 1 3 回	家族療法的アプローチの理論と実際		事前学習はテキスト 第6章2-3	
第 1 4 回	スーパービジョンの意義、方法、展開		事前学習はテキスト 第7章	
第 1 5 回	コンサルテーションの意義、方法、展開		事前学習はテキスト 第7章	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	4 0％。レポート試験（グループワークでのふりかえりのレポート、学期末のレポート）。			
小テスト等	3 0％。学習習熟度をみるために小テストを実施します。配付された過去問題をしっかり学習し専門的用語や知識を確実なものにしましょう。			
成果発表	なし			
受講態度他	3 0％。講義中に、適時質問などしますので、積極的に参加してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に小集団での話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加して対人関係能力を高めましょう。			
教科書	福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉士シリーズ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』弘文堂			
指定図書	講義の際に紹介します			
参考図書	精神保健福祉士シリーズ『精神保健福祉士国家試験受験 ワークブック 2 0 1 9 専門科目編』 中央法規出版、6 月刊行（「精神科ソーシャルワーク論Ⅰ」に同じ。）			
オフィスワー	火曜日 3 時限目		メールアドレス	

授 業 科 目	精神科ソーシャルワーク論Ⅳ(精神課程)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	益満 孝一		単 位	2
授業の目的と概要	精神保健福祉の理論と相談援助の展開について学び、精神保健福祉士としての役割と機能を理解する。			
到達目標	1. 精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。 2. 精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解する。 3. 地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について理解する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本科目は、①精神保健福祉課程の専門科目、②精神保健福祉士資格取得の指定科目「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」です。 卒業要件外でDPに本科目名はありません。専門科目として、3 学年「専門的な社会福祉援助に必要な専門的な知識や技術を学び、ソーシャルワーク実習においてそれらを実践的に体得する学修」として「⑤援助や支援の基礎的な技術を身につけ、活用することができる」のDPと関連づけられます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	地域移行の対象及び支援体制とは		事前学習はテキスト 第8章	
第 2 回	地域移行における精神保健福祉士の役割		事前学習はテキスト 第8章3	
第 3 回	地域移行における精神保健福祉士と多職種連携 ACT、PACTの事例検討		事前学習はテキスト 第8章3	
第 4 回	地域移行を推進する制度、施策と協議会		事前学習はテキスト 第8章2	
第 5 回	地域移行の対象及び支援体制の事例検討		事前学習はテキスト 第8章4	
第 6 回	地域を基盤にした相談援助の主体と対象		事前学習はテキスト 第9章	
第 7 回	地域を基盤にした相談援助の事例検討		事前学習はテキスト 第9章	
第 8 回	地域に根ざしたリハビリテーション 地域ネットワーク		事前学習はテキスト 第9章	
第 9 回	精神障害者のケアマネジメント		事前学習はテキスト 第10章2	
第 1 0 回	精神障害者のケアマネジメントの具体的事例		事前学習はテキスト 第10章3	
第 1 1 回	地域における資源の動員とネットワークングの実際		事前学習はテキスト 第11章	
第 1 2 回	地域における資源の動員とネットワークングの具体的事例		事前学習はテキスト 第11章	
第 1 3 回	地域に根ざした包括的な支援活動の必要性和今後の課題		事前学習はテキスト 第 1 1 章	
第 1 4 回	地域に根ざした包括的な支援活動の諸外国の実践例		事前学習はテキスト 第11章	
第 1 5 回	我が国の包括的な地域精神保健福祉活動の事例		事前学習はテキスト 第12章	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	4 0 ％。レポート試験（グループワークでのふりかえりのレポート、学期末のレポート）。			
小テスト等	3 0 ％。習熟度テストをします。国家試験の問題に慣れることは、資格取得の最善の道です。配付された過去問題をしっかりと学習し専門的用語や知識を確実なものにしましょう。			
成果発表	なし			
受講態度他	3 0 ％ 講義中に、適時質問や話し合いの時間をとりますので、積極的に受講してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に小集団での話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加して対人関係能力を高めましょう。			
教科書	福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉士シリーズ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』弘文堂（「精神科ソーシャルワーク論 3」に同じ。）			
指定図書	講義の際に紹介します。			
参考図書	精神保健福祉士シリーズ『精神保健福祉士国家試験受験 ワークブック 2 0 1 9 専門科目編』中央法規出版、6 月刊行（「精神科ソーシャルワーク論Ⅰ」に同じ。）			
オフィスアワー	火曜日 3 時限目		メールアドレス	

授 業 科 目	精神保健学【講義】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	小山 宏子		単 位	4
授業の目的と概要	精神保健とは単に精神疾患の予防や治療にとどまらず、心の健康の保持、向上をめざした実践を行うことである。本講義では、専門職として学ぶのみでなく、ストレス社会といわれる現代社会において、周囲の人や自分自身の心の健康について考察することにより、適切なアプローチができるようになることを目的とする。 精神保健は非常に広い範囲・領域をもつため、時間的なわけ方（ライフサイクルとの関連）と空間的なわけ方(家庭・学校・職場・地域等場所との関連)の両方の立場から学習を進める。特に専門職としての知識にとどまらず、自分自身や家族、周囲の人たちの心の問題として身近なところから考察することができるように、随時関連テーマの映画等も教材とする。			
到達目標	1 ライフサイクルにおける精神保健の課題についての的確に説明することができる。 2 家族、学校教育、職場、地域の精神保健の視点からみた課題を身近な事例を通して理解し、簡潔に説明したり文章化することができる。 3 精神保健福祉の視点からみた現代社会の課題を説明し、専門職としての役割を説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回～2回	①精神保健の概要 ②精神保健の歴史と課題		予習 p 2～19	
第3回～4回	①ライフサイクルと発達課題 ②出生前・胎児期の発達課題		予習 p 20～28	
第5回～6回	①乳幼児期の発達課題 ②学童期・思春期の発達課題		予習 p 29～31	
第7回～8回	青年期・成人期の課題 ②壮年期・中年期の課題		予習 p 34～36	
第9回～10回	①老年期の課題 ②ストレスと精神の健康		予習 p 37～43	
第11回～12回	①精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ・現代日本の家族の特徴 ②育児の精神保健・発達障害		予習 p 80～85、 p 91～98	
第13回～14回	①社会的ひきこもりをめぐる精神保健 ②ひきこもり家族支援の方法論		予習 p 99～103	
第15回～16回	①家族相談の機関 ②家族相談における精神保健福祉士の役割		予習 p 114～125	
第17回～18回	①学校教育の課題とアプローチ ②教員の精神保健		予習 p 126～157	
第19～20回	①関与する専門職と関係法規 ②学校における精神保健福祉士の役割		予習 p 158～162	
第21回～22回	①精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ、現代日本の労働環境 ②うつ病、アルコール		予習 p 170～184	
第23回～24回	①精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割 ②発達障害、アルコール、薬物依存の対策		予習 p 204～223、関心のあるテーマを調べレポート	
第25回～26回	①うつ病、認知症、社会的ひきこもり対策 ②精神保健の対策と精神保健福祉士の役割まとめ		予習 p 224～239	
第27回～28回	①現代社会の課題とアプローチ-ニート、ホームレスと精神保健 ②ターミナルケアと精神保健		予習 p 252～270、280～287・関心のあるテーマをPCで調べレポート	
第29回～30回	①地域精神保健の諸活動-調査、資源開発、ネットワークづくり ②諸外国の精神保健活動と日本		予習 p 288～301、 p 312～321	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	20％（小テストを含む）			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	① 本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目であることを認識して下さい。 ② 欠席が事前に分かっている場合は（実習・研修等）、前もって届け出下さい。			
教科書	『精神保健の課題と支援』（新・精神保健福祉士講座 中央法規）			
指定図書	吉川武彦『これからの精神保健』南山堂			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	精神保健特論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	板井 修一		単 位	2
授業の目的と概要	人間の悩み苦しきは、こころの健康を阻害すると考えられてきました。しかし、むしろ苦悩を通して、精神的に成熟していく人を見ることも少なくありません。ストレスは必ずしも健康的健康の阻害要因ではないとする考えは、精神保健のパラダイム転換として注目されるようになってきました。この「健康生成論」の考え方を学ぶとともに、その視点から、こころの健康の維持・増進について考えることができるようになることを、授業の目的としています。			
到達目標	1 ストレスと疾病との関係について説明できるようになる。 2 健康生成論(salutogenesis)の考え方について説明できるようになる。 3 SOCの意味について説明できるようになる。 4 健康生成論(salutogenesis)の立場から、こころの健康についての援助計画が立てられるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、自らの専門的な知識を深めるとともに、複数の学問的課題の中心に関連性を求め、研究の視点を広げることをねらいとした、専門教育科目の位置づけられるものである。 したがって、従来の精神保健の考え方とは違う、新しい考え方について学びます。テキストを精読する形で授業を進めて行きますが、理解を深めるために、関連する論文や資料をあわせて読んでいきます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション・導入：問題提起			参考資料を読んでおく	
第 2回 健康の定義：WHOの健康の定義			参考資料を読んでおく	
第 3回 健康・病気の新しい見方：健康生成志向と疾病生成志向			テキスト p3－10 を読んでおく	
第 4回 健康・病気の新しい見方：ストレスは疾病生成的か			テキスト p10－18 を読んでおく	
第 5回 SOCとは何か：健康生成論とSOC(sense of coherence)			テキスト p10－18 を読んでおく	
第 6回 SOCとは何か：SOCの構成要素 把握可能感・処理可能感・有意味感			テキスト p19－39 を読んでおく	
第 7回 SOC概念と他の健康観：健康生成論の始まりとその後の広がり			テキスト p40－75 を読んでおく	
第 8回 SOC概念の測定：SOC質問票作成過程, 質問票の有効性と活用			テキスト p76－102 を読んでおく	
第 9回 SOCの発達：SOCの発達と人生経験 SOCを育てる			テキスト p103－148 を読んでおく	
第10回 対処の成功と健康への道：ストレスの健康への影響と強いSOC			テキスト p149－187 を読んでおく	
第11回 今後の課題：混沌からの秩序 集団特性としてのSOC			テキスト p188－218 を読んでおく	
第12回 SOCの視点から考える：障害をもつ人のこころの健康			テキスト p188－218 を読んでおく	
第13回 SOCの視点から考える：高齢者介護とこころの健康			テキスト p188－218 を読んでおく	
第14回 SOCの視点から考える：援助者の心の健康			テキスト p188－218 を読んでおく	
第15回 まとめ：今後のこころの健康づくりのあり方について考える			レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％ 講義と関連したテーマでレポートを求める。内容の完成度に応じて評価。			
小テスト等	0％			
成果発表	30％ 講義の中での質疑応答、発言内容に応じて評価。			
受講態度他	10％ 積極的な発言や質問を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	少人数の授業になります。授業は、テキストや関係する資料・文献を読み込みながら、議論を深めることで進めていきます。したがって、積極的に発言する姿勢を求めます。			
教科書	A.アントノフスキー著(山崎喜比古・吉井清子監訳)「健康の謎を解く」有信堂			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて、随時、参考資料を配布する。			
オフィスアワー	火曜日の3時間目		メールアドレス	

授 業 科 目	精神保健福祉援助演習(精神課程)【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	益満 孝一		単 位	4
授業の目的と概要	精神保健福祉援助の知識と技術に関する科目を基盤として、「精神保健福祉士」としての実践力について、構成的グループエンカウンター方式によるアクティブラーニングにより体験学習できる。 次に掲げる方法を用いて、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得する。さらに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことで、問題解決能力を高め支援力を培える。			
到達目標	本演習の到達目標はコーチング方式で次のような4段階で設定しています。各自の個別計画をもとに学習ができるように行います ①総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例について、政策や制度、社会資源について説明ができる。 ②具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイによる面談、グループによるリーダー体験）などを通して、「精神保健福祉士」としての態度や技術が実践できる ③認知行動療法、アサーション、カウンセリング技法など専門的技術を面接技術として実施できる。 ④「精神保健福祉実習・演習発表会」などで、気づきを基にした実習体験についてプレゼンテーションができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	本科目は、①精神保健福祉課程の専門科目、②精神保健福祉士資格取得の指定科目「精神保健福祉援助演習（専門）」です。 本科目は、 ①精神保健福祉士指定科目「精神保健福祉援助実習（基礎）」（社会福祉士資格取得の指定科目「相談援助演習」）と、 ②精神保健福祉士指定科目の講義科目，実習指導科目とともに，「精神保健福祉援助実習」を充実したものにするために，精神保健福祉士としての実践力をアクティブラーニングによって身につける科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1～2回	オリエンテーション。 精神保健福祉援助場面および過程の実践的習得 ①インテーク・契約・アセスメント・プランニン		事前学習はテキスト「第2章」	
第3～4回	精神保健福祉援助場面および過程の実践的習得 ②支援の実施・モニタリング・効果測定と支援の評価・終結とアフターケアについて		事前学習はテキスト「第2章」	
第5～6回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 退院支援、地域移行、地域生活継続に関する相談援助の過程の実技指導		事前学習はテキスト「事例4」、事後学習は「ふりかえりシート」の記録	
第7～8回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 退院支援、地域移行、地域生活継続に関する相談援助の過程の実技指導		事前学習はテキスト「事例5」、事後学習は「ふりかえりシート」の記録	
第9～10回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 退院支援、地域移行、地域生活継続に関する相談援助の過程の実技指導		事前学習はテキスト「事例6」、事後学習は「ふりかえりシート」の記録	
第11～12回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 社会的排除に関する相談援助の過程の実技指導		事前学習はテキスト「事例2」、事後学習は「ふりかえりシート」の記録	
第13～14回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 貧困・低所得に関する相談援助の過程の実技指導		事前学習はテキスト「事例18」、事後学習は「ふりかえりシート」の記録	
第15～16回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 ピアサポートに関する相談援助の過程の実技指導		事前学習はテキスト「事例20」、事後学習は「ふりかえりシート」の記録	
第17～18回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 自殺、ひきこもりなど地域保健に関する相談援助の過程の実技指導		事前学習はテキスト「事例10」、事後学習は「ふりかえりシート」の記録	
第19～20回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 教育、就労（雇用）に関する相談援助の過程の実技指導		事前学習はテキスト「事例15」、事後学習は「ふりかえりシート」の記録	
第21～22回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 精神科リハビリテーションに関する事例の理解		事前学習はテキスト「第7章」、事後学習は「ふりかえりシート」	
第23～24回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 危機状態にある精神保健福祉に関する事例の理解		事前学習はテキスト「事例12」、事後学習は「ふりかえりシート」	
第25～26回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 アウトリーチ・ケアマネジメン		事前学習はテキスト「事例11、13」、事後学習は「ふりかえりシート」	
第27～28回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 チームアプローチ・ネットワーキング		事前学習はテキスト「事例8、21」、事後学習は「ふりかえりシート」	
第29～30回	精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得 社会資源の活用・調整・開発 講義のふりかえり		事前学習はテキスト「事例7、22」、事後学習は「ふりかえりシート」	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％。レポート試験（「ふりかえりシート」，各学期末のレポート、ピア・ロールプレイ面談のプロセスレコード（30分程度））。			
小テスト等	なし			
成果発表	30％。精神保健福祉援助実習・演習発表会での発表。			
受講態度他	30％ 講義中に、適時質問や話し合いの時間をとりますので、積極的に受講してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に小集団での話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加して対人関係能力を高めましょう。面談のプロセスレコードをとり専門性が高まる教育方法を行います。実習では、生きづらさ，対人関係の苦手な方との出会いです。まず，実習生としてのあなたが対人関係能力が問われます。「ふりかえりシート」を配布しますので記録し提出すること。「ふりかえりシート」に記録することで，記録力と，グループワークやロールプレイの明確化・言語化の力を高めましょう。			
教科書	福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉シリーズ 精神保健福祉援助演習（専門）』弘文堂			
指定図書	講義の際に必要なに応じて紹介します。			
参考図書	福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉シリーズ 精神保健福祉援助演習（基礎）』弘文堂			
オフィスワー	火曜日 3時限目		メールアドレス	

授 業 科 目	精神保健福祉援助実習(精神課程)【実習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	新家 めぐみ・金 圓景・大西 良・大山 和宏・坂井 和美		単 位	4
授業の目的 と概要	実習先施設・機関における精神保健福祉援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得するとともに、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目的とする。また、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できることを目指している。			
到達目標	1. 利用者やその関係者、施設・機関等の職員等とのコミュニケーションをはかり、円滑な人間関係の形成ができる。 2. 利用者理解とそのニーズ把握及び支援計画の作成ができる。 3. 利用者やその関係者と援助関係の形成ができる。 4. 利用者やその関係者に対する権利擁護及び支援とその評価ができる。 5. 支援におけるチームアプローチの実践を体得できる。 6. 精神保健福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員としての役割と責任について理解できる。 7. 施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実践を理解でき、地域社会への働きかけができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	精神保健福祉士課程の専門科目である。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
原則として28日間（実習時間210時間）以上の配属実習を行うものとする。			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―				

授 業 科 目	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ（精神課程）【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	新家 めぐみ・金 圓景・大西 良・大山 和宏・坂井 和美		単 位	1
授業の目的と概要	本科目は、実習分野の中から実習指導者及び精神障害当事者・家族を招き実践現場の理解を深め、個別指導及び集団指導等により実習に係る基礎的な指導を行う。 実習先における支援の実態や実習に際しての基本的態度や精神保健福祉専門職に求められる価値・倫理・知識・技術及び記録法について理解を深める。			
到達目標	1．実習の目標や意義など実習全体の展開方法について理解することができる。 2．精神障害者や家族の現状と課題を理解することができる。 3．実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術について理解することができる。 4．実習における個人のプライバシーの保護と秘密保持について理解することができる。 5．実習記録ノートへの記録内容及び記録方法について理解することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	精神保健福祉士課程の専門科目である。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション			実習の意義と目的について考察	
第2回 現場に学ぶ①（当事者による講話）			課題② レポート作成と提出	
第3回 現場に学ぶ②（家族による講話）			課題② レポート作成と提出	
第4回 現場に学ぶ③（精神保健福祉士による講話）			課題② レポート作成と提出	
第5回 現場に学ぶ④（他職種による講話）			課題② レポート作成と提出	
第6回 精神科病院の概要 ― 沿革・歴史、根拠法と制度			課題③ 精神科病院の概要整理	
第7回 障害福祉サービス施設等の概要① ― 沿革・歴史、根拠法と制度			課題③ 障害福祉サービス施設等の概要について整理	
第8回 障害福祉サービス施設等の概要② ― 対象者とニーズ			課題③ 障害福祉サービス施設等の対象者とニーズについて整理	
第9回 行政機関の概要 ― 関連職種・業務とサービス内容			課題③ 行政機関の概要整理	
第10回 対人援助技術① ― 人権の尊重と共感的態度			課題④ 人権についての理解	
第11回 対人援助技術② ― 対人関係の構築に関する技術			課題④ 対人関係の構築についての理解	
第12回 秘密保持とプライバシー ― 個人情報保護法			課題⑤ 秘密保持、プライバシーについての理解	
第13回 倫理綱領と守秘義務 ― 精神保健福祉士法			課題⑤ 倫理綱領、精神保健福祉士法についての理解	
第14回 記録① ― 実習記録ノートの意義と書き方			課題⑥ 記録の書き方についての理解	
第15回 記録② ― 記録（メモ等）の取り方			記録（メモ等）の取り方についての理解	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 授業で指示するレポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 授業に対する主体性			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1．授業の進め方について、第1回めの授業で説明するので、指示に十分注意すること。 2．この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのこと、レポート等の提出期限は必ず守ること。 3．4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる）。 4．資格に係る科目のため別途指示します。 4．つねに実習支援センターとの連携を深め、主体的・意欲的に取り組むこと。			
教科書	『精神保健福祉援助実習の手引き』（筑紫女学園大学） ← 大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『精神保健福祉援助実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワー	質問等は実習支援センターを活用のこと		メールアドレス	

授 業 科 目	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ (精神課程)【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	新家 めぐみ・金 圓景・大西 良・大山 和宏・坂井 和美		単 位	1
授業の目的と概要	本科目は、精神保健福祉援助実習の事前指導を目的とする。 実習教育における実習の意義、位置づけ及び実習諸領域の特徴と関連業務の理解を深め、実習に際しての倫理・知識・技術及び記録法について具体的に学ぶとともに実習における実習目標および課題を設定した実習計画の作成方法を習得する。			
到達目標	1. 実習先の根拠法、サービス内容、対象者について理解できる。 2. 実習先に当てはめて倫理・知識・技術及び記録の実際について説明できる。 3. 実習場面を想定した守秘義務やプライバシーの保護ができる。 4. 実習中における実習記録ノートへの記録内容及び記録方法について習得できる。 5. 実習先における実習目標と課題を設定し実習計画書を作成できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	精神保健福祉士課程の専門科目である。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション ― 精神保健福祉援助実習の意義と目的			実習の意義と目的についての確認	
第2回 実習先の理解① ― 沿革、根拠法と制度的位置			実習先の沿革、根拠法などについてのレポート	
第3回 実習先の理解② ― 利用者理解、サービス内容			利用者理解、サービス内容などについてのレポート	
第4回 実習先の理解③ ― 関連職種（医療・看護等）との連携			関連職種との連携についてレポート	
第5回 実習先の理解④ ― 実習先機関・施設で必要とされる知識と技術			実習先で必要となる知識と技術についてのレポート	
第6回 実習計画書の作成① ― 実習計画書の意義と内容			実習計画書の作成・提出	
第7回 実習計画書の作成② ― 実習計画書の様式と書き方			実習計画書の作成・提出	
第8回 実習計画書の作成③ ― 実習計画の目標と課題の設定①（実習先の特徴）			実習計画書の作成・提出	
第9回 実習計画書の作成④ ― 実習計画の目標と課題の設定②（実習課題の明確化）			実習計画書の作成・提出	
第10回 実習計画書の作成⑤ ― 実習計画の目標と課題の設定③（実習課題達成のために必要なこと）			実習計画書の作成・提出	
第11回 実習記録ノートの書き方① ― 実習記録ノートの意義と内容			記録の実践	
第12回 実習記録ノートの書き方② ― 実習中の記録（メモ等）の取り方			記録内容の確認	
第13回 倫理綱領と守秘義務① ― 精神保健福祉士法と守秘義務			精神保健福祉士としての倫理	
第14回 倫理綱領と守秘義務② ― 個人情報保護法とプライバシー			個人情報、プライバシーへの配慮	
第15回 実習の心得 ― 実習教育スーパービジョンと巡回指導の意義			実習に向けての最終確認	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 実習計画書			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 授業に対する主体性			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのこと、レポート等の提出期限は必ず守ること。 2. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻 2 回＝欠席 1 回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる）。資格に係る科目のため別途指示します。 3. つねに実習支援センターとの連携を深め、主体的・意欲的に取り組むこと。			
教科書	『精神保健福祉援助実習の手引き』（筑紫女学園大学） ← 大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『精神保健福祉援助実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワー	質問等は実習支援センターを活用のこと	メールアドレス		

授 業 科 目	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ(精神課程)【演習】			開 講 時 期	前期
担 当 教 員	新家 めぐみ・金 圓景・大西 良・大山 和宏・坂井 和美			単 位	2
授業の目的 と概要	本科目は、精神保健福祉援助実習の事前及び実習中の指導を行う科目である。 障害福祉サービス施設等と精神科病院等における実習の意義、位置づけを明確にし、実習諸領域の特徴と関連業務の理解を深め、実習を通して倫理・知識・技術及び記録法を習得するため、実習目標及び課題を設定した実習計画について、必要な修正を行いながら充実した実習を行えるようにする。 精神保健福祉援助実習指導Ⅱで作成した実習計画について、実習先機関・施設への事前訪問と実習指導者との打ち合わせ、実習中の個別・集団でのスーパービジョンによる指導を行い、実習の充実を図る。				
到達目標	1. 実習先の根拠法、サービス内容、対象者について理解できる。 2. 実習先に当てはめて、倫理・知識・技術を理解することができる。 3. 実習場面を想定した守秘義務やプライバシーの保護ができる。 4. 実習中における「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法が習得できる。 5. 実習における目標と課題を設定し、実習計画書の検討と必要な修正ができる。				
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	精神保健福祉士課程の専門科目である。				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第 1回 実習事前訪問に関するオリエンテーション				障害福祉サービス施設等と精神科病院等への事前訪問について確認	
第 2回 障害福祉サービス施設等への事前訪問についての指導				障害福祉サービス施設等への事前訪問の内容整理	
第 3回 障害福祉サービス施設等におけるスーパービジョン（巡回指導）				実習中の課題整理	
第 4回 自立支援の実習事例についてグループ・スーパービジョン（帰校指導）				自立支援の実習事例について検討	
第 5回 就労支援・地域生活継続支援の実習事例についてグループ・スーパービジョン（帰校指導）				就労支援・地域生活継続支援の実習事例について検討	
第 6回 障害福祉サービス施設等における実習体験についてのグループ・スーパービジョン（帰校指導）				障害福祉サービス施設等での実習体験について検討	
第 7回 精神科病院等への事前訪問についての指導				精神科病院等への事前訪問の内容整理	
第 8回 精神科病院等におけるスーパービジョン（巡回指導）				実習中の課題整理	
第 9回 精神科病院等での業務（入退院相談の実際）に基づいたスーパービジョン（帰校指導）				入退院相談の実際について検討	
第10回 精神科病院等での業務（外来患者、急性期病棟患者への援助の実際）に基づいたスーパービジョン（帰校指導）				外来患者、急性期病棟患者への援助の実際について検討	
第11回 精神科病院等での業務（慢性期・認知症病棟患者への援助の実際）に基づいたスーパービジョン（帰校指導）				慢性期・認知症病棟患者への援助の実際について検討	
第12回 精神科病院等での業務（デイケア、家族会、医療スタッフ連携）に基づいたグループ・スーパービジョン（帰校指導）				デイケア、家族会、医療スタッフ連携について検討	
第13回 精神保健福祉援助実習での体験と実習事例についてグループ・スーパービジョン				精神保健福祉援助実習での体験と実習事例について検討	
第14回 精神保健福祉援助実習における事例研究に対する指導				事例検討	
第15回 精神保健福祉援助実習における自己覚知に関する指導				自己覚知について検証	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	なし				
レポート	20% 担当教員が指示するレポートなどの提出物				
小テスト等	なし				
成果発表	30% 事前訪問についての指導、巡回指導・帰校指導時の受け答えなど				
受講態度他	50% 特に実習先との関係づくりを重視した実習への取り組み態度				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. この授業では特に実習先指導者との関係が出てくるので、学ぶ姿勢や態度に十分注意すること。 2. 事前訪問や実習について、つねに担当教員や実習支援センターとの連絡や相談を行うこと。				
教科書	『精神保健福祉援助実習の手引き』（筑紫女学園大学） ← 大学から配布				
指定図書	なし				
参考図書	『精神保健福祉援助実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること				
オフィスワー	質問等は実習支援センターを活用のこと		メールアドレス		

授 業 科 目	精神保健福祉援助実習指導Ⅳ(精神課程)【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	新家 めぐみ・金 圓景・大西 良・大山 和宏・坂井 和美		単 位	2
授業の目的と概要	本科目は現場実習の事後学習を目的とする。事後学習は、実習前に学んだ精神医療、精神保健福祉についての知識が実践の場でのように展開されているのかについて、現場の体験をもとに整理することを目的とする。 また実習全体を振り返ることにより、自分自身の実習目的、実習課題の達成度の自己評価を行い、専門職として実践できる技術を身につけることを目的とする。			
到達目標	1. 実習報告会を通して実習課題の達成状況に関するレポートを作成できる。 2. 個別・グループによる実習教育スーパービジョンを通して実習全体を振り返ることができる。 3. 実習記録をもとに実習報告書を作成することができる。 4. 実習先の評価と自己評価を踏まえて、今後の学習課題を明らかにすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	精神保健福祉士課程の専門科目である。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 精神保健福祉援助実習の報告会①			課題① 報告レポートもしくはスライドの作成と報告	
第 2回 精神保健福祉援助実習の報告会②			課題① 報告レポートもしくはスライドの作成と報告	
第 3回 精神保健福祉援助実習の報告会③			課題① 報告レポートもしくはスライドの作成と報告	
第 4回 精神保健福祉援助実習の報告会④			課題① 報告レポートもしくはスライドの作成と報告	
第 5回 精神保健福祉援助実習の報告会⑤			課題① 報告レポートもしくはスライドの作成と報告	
第 6回 実習報告書の作成① ― 実習報告書の意義と目的			課題② 実習報告書の作成・提出	
第 7回 実習報告書の作成② ― 実習報告書の書き方			課題② 実習報告書の作成・提出	
第 8回 実習報告書の作成③ ― 実習報告書の第一次草稿作成			課題② 実習報告書の作成・提出	
第 9回 実習報告書の作成④ ― 実習報告書の第二次草稿作成			課題② 実習報告書の作成・提出	
第10回 実習報告書の作成⑤ ― 実習報告書の提出			課題② 実習報告書の作成・提出	
第11回 実習評価表と自己評価① ― 実習成果の振り返り			課題③ 実習の総括	
第12回 実習評価表と自己評価② ― 学習課題の抽出			課題③ 今後の学習課題の確認	
第13回 実習成果とディレンマ① ― 個別・集団指導			課題④ 実習で感じたディレンマ	
第14回 実習成果とディレンマ② ― 自己覚知			課題④ 自己覚知	
第15回 実習のまとめ			課題⑤ 実習の総括と学習課題について最終確認	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 実習報告書			
小テスト等	なし			
成果発表	25％ 実習報告会での報告			
受講態度他	25％ 授業に対する主体性			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのこと、レポート等の提出期限は必ず守ること。 2. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる）。資格に係る科目のため別途指示します。 3. つねに実習支援センターとの連携を深め、主体的・意欲的に取り組むこと。			
教科書	『精神保健福祉援助実習の手引き』（筑紫女学園大学） ← 大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『精神保健福祉援助実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスアワー	質問等は実習支援センターを活用のこと		メールアドレス	

授 業 科 目	精神保健福祉相談援助の基盤Ⅰ(精神課程)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	益満 孝一		単 位	2
授業の目的と概要	精神保健福祉士の役割と意義について理解する。精神保健福祉士の専門性，社会福祉士との協働などについて理解する。			
到達目標	1．精神保健福祉士の役割と意義について理解する 2．社会福祉士の役割と意義について理解する 3．相談援助の概念と範囲を理解し、精神保健福祉士の価値（基盤）を習得する 4．精神保健福祉士の相談援助の理念を習得する			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	本科目は、①精神保健福祉課程の専門科目、②精神保健福祉士資格取得の指定科目「精神保健福祉・相談援助の基盤」です。卒業要件外でDPに本科目名はありません。専門科目として、3学年「専門的な社会福祉援助に必要となる専門的な知識や技術を学び、ソーシャルワーク実習においてそれらを実践的に体得する学修」として「⑤援助や支援の基礎的な技術を身につけ、活用することができる」のDPと関連づけられます。 なお、保健医療福祉分野（精神保健福祉，医療福祉など）は，国家資格取得が必須です。専門職として，必要最低限度の知識が習熟できるように授業を展開します。授業外学習は大変重要です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション 現代社会における精神保健福祉士の役割と意義について			事前学習はテキスト 第2章1	
第2回 精神保健福祉士制度化の歩み			事前学習はテキスト 序章1	
第3回 精神保健福祉士の専門性			事前学習はテキスト 序章4－5	
第4回 社会福祉士及び介護福祉士法における位置づけ			事前学習は 配付資料	
第5回 社会福祉士の専門性			事前学習は 配付資料	
第6回 社会福祉士の役割と精神保健福祉士との協働			事前学習は 配付資料	
第7回 相談援助の定義			事前学習は 配付資料	
第8回 相談援助活動の定義と概念			事前学習は 配付資料	
第9回 相談援助の理念と価値			事前学習は 配付資料	
第10回 相談援助における権利擁護の概念と範囲			事前学習はテキスト 第4章1	
第11回 精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割			事前学習はテキスト 第4章2	
第12回 専門職倫理と倫理的ジレンマ			事前学習は配付資料	
第13回 ソーシャルワークの源流と形成過程			事前学習は配付資料	
第14回 日本におけるソーシャルワークの形成過程			事前学習は配付資料	
第15回 精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク			事前学習は第2章1	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％。レポート試験（グループワークでのふりかえりのレポート，学期末のレポート）。			
小テスト等	30％。学習習熟度をみるために小テストを実施します。配付された過去問題をしっかり学習し専門的用語や知識を確実なものにしましょう。			
成果発表	なし			
受講態度他	30％。講義中に、適時質問などしますので，積極的に参加してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	配布資料を中心に講義するが，テキストは予習時に事前学習すること。 受講態度は重視する。質問などに積極的に回答すること。 課題図書：中井久夫・山口直彦著，看護のための精神医学 第2版，医学書院，2004 本書の「統合失調症」「気分障害（うつ病，躁うつ病）」などを読み，精神障害者の生きづらさについて知り，支援者としての精神保健福祉士について理解を深めましょう。			
教科書	福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉シリーズ 精神保健福祉相談援助の基盤（専門）』弘文堂			
指定図書	講義時に教示する			
参考図書	いとう総研資格取得支援センター＝編集、見て覚える！社会福祉士国試ナビ2019、中央法規出版、8月刊行予定			
オフィスアワー	火曜日 3時限目		メールアドレス	

授 業 科 目	精神保健福祉相談援助の基盤Ⅱ(精神課程)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	益満 孝一		単 位	2
授業の目的と概要	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助、精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲、権利擁護、他職種連携などについて理解する。 本授業は各領域の事例などをもとに、ソーシャルワークの実践について学ぶ。最新の社会福祉・精神保健福祉領域における相談援助活動について学ぶ。			
到達目標	1.精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解し説明できる 2.精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解し説明できる 3.精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解し説明できる 4.精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチを含む）の意義と内容について理解し説明できる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本科目は、①精神保健福祉課程の専門科目、②精神保健福祉士資格取得の指定科目「精神保健福祉・相談援助の基盤」です。卒業要件外でDPに本科目名はありません。専門科目として、3学年「専門的な社会福祉援助に必要となる専門的な知識や技術を学び、ソーシャルワーク実習においてそれらを実践的に体得する学修」として「⑤援助や支援の基礎的な技術を身につけ、活用することができる」のDPと関連づけられます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション 精神保健福祉分野における相談援助活動について			事前学習はテキスト序章	
第2回 精神保健福祉分野における相談援助活動の対象			事前学習はテキスト第2章2	
第3回 精神保健福祉分野における相談援助活動の目的と意義			事前学習はテキスト第2章1	
第4回 精神保健福祉分野における援助活動の現状と今後の展開			事前学習はテキスト第2章1	
第5回 精神保健福祉士 の概念			事前学習はテキスト第2章1	
第6回 精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念とその業務			事前学習はテキスト第2章2	
第7回 医療機関（精神科病院、精神科診療所を含める）における専門職			事前学習はテキスト第3章1	
第8回 行政における福祉専門職			事前学習はテキスト第3章2	
第9回 保健所および精神保健福祉センターにおける専門職			事前学習はテキスト第3章2	
第10回 保護観察所における社会復帰調整官，労働行政機関等の専門職			事前学習は配付資料	
第11回 民間の施設・組織における専門職			事前学習はテキスト第3章3	
第12回 総合的・包括的な援助を支える理論			事前学習はテキスト第5章1	
第13回 総合的・包括的な援助の機能と概要			事前学習はテキスト第5章1	
第14回 多職種連携（チームアプローチ）の意義と概要			事前学習はテキスト第5章2	
第15回 多職種連携における精神保健福祉士の役割 講義のふりかえり			事前学習はテキスト第5章2	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％。レポート試験（学期末のレポートなど）。			
小テスト等	30％。習熟度テストをします。配付された過去問題をしっかり学習し専門的用語や知識を確実なものにしましょう。			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 講義中に、適時質問や話し合いの時間をとりますので、積極的に受講してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	配布資料を中心に講義するが、テキストは予習時に事前学習すること。 講義中に小集団での話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加して対人関係能力を高めましょう。授業外学習は、授業でおこなったところの過去問題をして、専門知識の習得を目指します。			
教科書	福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉シリーズ 精神保健福祉相談援助の基盤（専門）』弘文堂（「精神保健福祉相談援助の基盤Ⅰ」と同じ）			
指定図書	講義の際に紹介します。			
参考図書	いとう総研資格取得支援センター編集、見て覚える！社会福祉士国試ナビ2019、中央法規出版、8月刊行予定（「精神保健福祉相談援助の基盤Ⅰ」と同じ）			
オフィスワー	火曜日 3時限目	メールアドレス		

授 業 科 目	精神保健福祉論Ⅰ(精神課程)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小山 宏子		単 位	2
授業の目的と概要	「精神保健福祉論」は「精神保健福祉士」国家試験受験資格に係る指定科目において中心的位置づけの科目である。精神障害者の「相談援助活動」と「制度とサービスの総合作用」をふまえて精神障害者に関する法律の歴史を理解する。又、精神保健福祉士法における精神保健福祉士の役割について学び課題について考える。 ・精神障害者に関する法律については100年の歴史の概要を理解するために視聴覚教材を活用する。 ・精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割について現状を整理し、さらに課題についても考えていく。			
到達目標	・精神障害者に関する法律の歴史（精神障害者監護法から障害者総合支援法）と各法律の改正点について概要を説明することができる。 ・精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割について主要な関連業務を例に挙げ説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は「精神保健福祉士」国家試験受験資格に係わる科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：精神保健福祉論では何を学ぶか、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに位置づけ		授業の流れについてⅠ・Ⅱ・Ⅲのシラバスに目を通しておく	
第2回	第1章 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法ー相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービスの相互関係の理解		予習 教科書P2～11	
第3回	第2章 精神保健福祉法成立までの経緯と意義、その後の変化 第1節 精神病者監護法から精神保健福祉法成立までの経緯		予習 教科書P14～18	
第4回	第2節 精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯		予習 教科書P21～24	
第5回	第3節 精神保健福祉法成立の意義とその後の変化		障害者自立支援法～総合支援法への改正の課題と内容について教科書を読む	
第6回	第4節 障害者自立支援法成立による変化とその後の展開①		予習 教科書P29～34	
第7回	障害者総合支援法の現状と課題②		予習 教科書P33～34	
第8回	第3章 精神保健福祉法の概要 第1節 精神保健福祉法の構成		予習 教科書P36～51	
第9回	第2節 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割① 入院制度、精神科病院の処遇、精神保健福祉手帳		予習 教科書P52～60	
第10回	第2節 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割② 相談指導、成年後見制度の活用		予習 教科書P52～60	
第11回	第3節 最近の動向③		予習 教科書P61～75	
第12回	第4章 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス 第1節 障害者基本法と精神障害者施策とのかかわり		予習 教科書P78～84	
第13回	第2節 障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスの実際		予習 教科書P85～93	
第14回	第3節 精神障害者を対象とした福祉施策・事業		予習 教科書P94～132	
第15回	前期の授業のまとめ		復習 教科書P2～132	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％			
レポート	－			
小テスト等	20％			
成果発表	－			
受講態度他	－			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目は精神保健福祉士受験資格取得のための必須科目であるが、障害者自立支援法以後、社会福祉の援助対象者に精神障害者が明確に位置づけられたことから、精神保健福祉士国家試験受験資格課程生以外の社会福祉コース学生の聴講も勧める。			
教科書	『精神保健福祉に関する制度とサービス』新・精神保健福祉士養成校講座6 中央法規			
指定図書	－			
参考図書	『心を病むってどういうこと』ぶどう社、『わが家の母はピョーキです』サンマーク出版、 『シブナスの笑い』ラグーナ出版			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	精神保健福祉論Ⅱ (精神課程)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小山 宏子		単 位	2
授業の目的と概要	精神障害者に深く関連する制度について理解を深め、現場で精神保健福祉士として業務に関わる際に活用できるよう現状と課題について考察する。 精神保健福祉論Ⅱの学習内容の中で「社会福祉関連科目ですすでに学習した内容については復習をし、再確認をしていく。 医療観察法は近年精神保健福祉士に関わる新しい分野であるため、事例を中心に業務の理解をしていく。			
到達目標	・精神障害者に関連する社会保障制度（医療保険制度・介護保険制度）について概要を説明することができる。 ・更生保護制度、医療観察法における精神保健福祉士の業務と役割について簡潔に説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は「精神保健福祉士」国家試験受験資格に係わる科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 第5章 精神障害者に関連社会保障制度の概要 ①精神障害者と社会保障制度			予習 教科書P134～	
第2回 精神障害者に関連社会保障制度の概要 ②医療保険制度、介護保険制度			予習 教科書P137～158	
第3回 精神障害者に関連社会保障制度の概要 ③経済的支援に関する制度			予習 教科書P159～175	
第4回 第6章 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 ①行政組織と民間組織			予習 教科書P178～181	
第5回 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 ②インフォーマルな社会資源の役割			予習 教科書P182～200	
第6回 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 ③専門職や地域住民の役割と実際			予習 教科書P201～209	
第7回 第7章 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 ①刑事司法と更生保護			予習 教科書P212～225	
第8回 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 ②保護観察所と更生保護の担い手			予習 教科書P226～234	
第9回 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 ③司法・医療・福祉の連携の必要性和実際			予習 教科書P235～244	
第10回 第8章 医療観察法の概要と実際 ①医療観察法の意義と内容			予習 教科書P246～250	
第11回 医療観察法の概要と実際 ②医療観察法の審判と精神保健参与員の役割			予習 教科書P251～256	
第12回 医療観察法の概要と実際 ③入院医療、地域処遇、社会復帰調整官の役割と実際			予習 教科書P257～277	
第13回 第9章 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査 ①調査の意義、目的、対象、倫理			予習 教科書P280～293 復習「社会福祉調査法」	
第14回 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査 ②量的調査と質的調査			予習 教科書P294～325 復習「社会福祉調査法」	
第15回 精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱの総括			事前に講義で配布したレポートなど再度読み返しておく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 教科書や板書（ノートをとる）、参考文献等（授業中に示した過去問含む）を中心に出题します。			
レポート	20％ （小テスト含む） 授業中に3～4回ミニレポートを作成し提出してください。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	－			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目は精神保健福祉士受験資格取得のための必須科目である。			
教科書	『精神保健福祉に関する制度とサービス』新・精神保健福祉士養成校講座6 中央法規			
指定図書	－			
参考図書	『心を病むってどういうこと』ぶどう社、『わが家の母はビョーキです』サンマーク出版、 『シブナスの笑い』ラグーナ出版			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	精神保健福祉論Ⅲ(精神課程)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小山 宏子		単 位	2
授業の目的と概要	・精神障害の概念を理解したうえで精神障がい者の生活の実態を把握し人権について考察を深める。 ・精神障がい者の居住支援、雇用・就業支援の現状と課題について学び、精神保健福祉士の役割について理解する。			
到達目標	障がい者の中での精神障がい者の概念を説明することができる 精神障がい者の生活の実態を自分の言葉で説明することができる。 精神障がい者の人権について自分の考えを述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は「精神保健福祉士」国家試験受験資格に係わる科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 第1章	精神障がい者の概念 法律による精神障がい者の概念と特性		予習 p2～p24	
第2回 第2章	精神障がい者の生活の実際 ①精神障がい者の現状		予習 p26～p37	
第3回 第2章	精神障がい者の生活の実際 ②家族の現状、地域社会と精神障がい者		予習 p50～p58	
第4回 第3章	精神障がい者の生活と人権 ①生活支援の理念と概要		予習 p62～p71	
第5回 第3章	精神障がい者の生活と人権 ②精神障がい者の人権		予習 p72～p77	
第6回 第4章	精神障がい者の地域生活支援システム ①自立と社会参加のための地域生活支援システム		予習 p79～p85	
第7回 第4章	精神障がい者の地域生活支援システム ②相談援助、雇用・就業以外の就労、余暇活動		予習 p86～p99	
第8回 第4章	精神障がい者の地域生活支援システム ③ソーシャルサポートネットワーク、地域生活支援システムの実際		予習 p100～p133	
第9回 第5章	精神障がい者の居住支援 ①居住支援の歴史		予習 p134～p143、精神障がい者の居住の現状と課題について予習レポート	
第10回 第5章	精神障がい者の居住支援 ②居住の場の確保、支援の実際と精神保健福祉士の役割		予習 p144～p173	
第11回 第6章	精神障がい者の雇用、就業支援 ①就業支援制度の概要と歴史		予習 p175～p194	
第12回 第6章	精神障がい者の雇用、就業支援 ②就業に関わる専門職、支援の実際、近年の動向		予習 p195～p224、精神障がい者の就労の現状と課題について予習レポート	
第13回 第7章	行政における相談支援 ①市町村・都道府県における相談援助システム		予習 p225～p255	
第14回 第7章	行政における相談支援 ②行政における精神保健福祉士の役割と機能		予習 p256～p259	
第15回	精神保健福祉論Ⅲのまとめ・テスト		総括	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	－			
小テスト等	小テスト20％、最終テスト80％			
成果発表	－			
受講態度他	－			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	精神保健福祉論ⅠからⅡについては国家試験の問題を踏まえて復習をしながら精神保健福祉論を学んでいく			
教科書	『精神障がい者の生活支援システム』新・精神保健福祉士養成講座7 中央法規			
指定図書	無し			
参考図書	無し			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	政治学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	山中 亜紀		単 位	2
授業の目的と概要	私たちは、たくさんの人々とおなじ空間のなかでともに生活しています。しかし、「こんな生活がしたい!」という目標や欲求は、ひとりひとり異なりますし、「どうやって理想の生活を実現するか」という考え方も、様々です。そうした「違い」は、時として、深刻な争いを招くことになります。このような現実のなか、対立する意見を調整しながら、秩序や安定を生み出そうとするのが、「政治」の重要な営みです。そうした「政治」の営みと、私たちの暮らしとは、具体的にはどのようにかかわっているのでしょうか。 本講義では、「政治」について語るうえで、まずは理解しておかねばならない政治学の基礎知識を習得したいと思います。			
到達目標	1. 政治学において用いられる基礎用語を理解する。 2. 《政治とは何か?》という問いにたいして、概括的なイメージを抱くことができるようになる。 3. そうしたイメージを言葉で説明することができるようになる。 4. 日々報じられている政治ニュースと、わたしたちの日常生活とのつながりを意識する習慣を身につける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション：政治学を学ぶ意義		日々の時事ニュースについて疑問をもつことを心掛けてください	
第2回	政治とはなにか1：権力		予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第3回	政治とはなにか2：支配と正統性		予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第4回	政治の目標：自由民主主義		予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第5回	政治のしくみ1：立憲主義、三権分立		予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第6回	政治のしくみ2：議院内閣制、大統領制		予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第7回	政治のしくみ3：政党		予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第8回	政治とのかかわり1：選挙		予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第9回	政治とのかかわり2：利益集団		予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第10回	政治とのかかわり3：世論、マスメディア		予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第11回	政治の課題1：地方自治、住民参加		予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第12回	政治の課題2：社会福祉		予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第13回	グローバル化と政治1：主権国家体制		予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第14回	グローバル化と政治2：グローバル・イシュー		予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第15回	まとめ		予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	論述中心の試験を行います（70％）。論述問題では、「箇条書き、字句の羅列、図式化、ノートの転載」等は評価対象となりません			
レポート	なし			
小テスト等	授業状況をみて、中間テストを行う場合があります（実施する場合は事前に告知します）			
成果発表	なし			
受講態度他	コメント・シートへの記述内容および提出状況も評価対象（30％）となります。コメント・シートの詳細は「受講上の留意点」を参照のこと。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	コメント・シートとは、「受講姿勢の真摯さ」および「授業内容の理解度」を確認する一助として、授業中に適宜配布し、授業内容にかかわる質問や意見、設問・課題への回答などを記入するものです。コメント・シートは、知識や情報の正誤を問うものではありませんし、提出の事実それ自体に高い価値をおくもの（提出しさえすればそれでよいというもの）でもありません。自分なりの意見や、素朴な疑問や感想など、率直かつ誠実な姿勢で書かれているものを高く評価します。換言すれば、おざりな記述で			
教科書	使用しません（プリントを適宜配布します）			
指定図書	なし			
参考図書	川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会（2012年）			
オフィスワー	質問は授業時間の前後にお願いします		メールアドレス	

授 業 科 目	政治学概論（国際政治学を含む）【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	政治は、私たちの社会に大きな影響を及ぼしています。これから現代社会について勉強していくにあたり、社会の基礎をなしている政治を理解することは重要です。この講義は政治を理解するための分析視角である「政治学」の主要分野の基礎的な知識を習得することを目的としています。 現実の政治の中からトピックをとりあげ、それを手がかりに「政治学」の主要分野の基礎知識を身につけます。講義は「覚えること」を網羅的に列挙するのではなく、焦点を絞りながら「理解する」ための考え方を提示していきます。ただし現実の政治状況によって講義内容を一部変更することがありますので、ご了承ください。			
到達目標	1.日本の政治制度の概要と特徴について、説明できる。 2.与党の政権運営方法について、政治学的に説明できる。 3.政策決定過程における「鉄の三角同盟」の仕組みが説明できる。 4.政治学や現実の政治に関する基礎的文献を、自ら集めて分析していくことができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 この講義で政治学、および日本の政治の基礎を学んだうえで、「経済学概論(国際経済学を含む)」や「法学(国際法を含む)」と併せて履修すると、それぞれのDPを学んでいくのに必要な、社会科学の基礎を身につけることができます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション	政治学を学ぶとは		第2回用レジュメ、資料に基づき予習	
第 2回 投票行動(1)	棄権する理由とは		第2回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 3回 投票行動(2)	候補を選ぶ基準とは		第3回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 4回 選挙制度(1)	選挙制度の基礎		第4回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 5回 選挙制度(2)	日本の選挙制度とその特徴		第5回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 6回 政策決定過程	「鉄の三角同盟」とは		第6回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 7回 国会(1)	政策決定における与党の役割		第7回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 8回 国会(2)	政策決定における野党の役割		第8回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 9回 国会(3)	最近の動向		第9回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第10回 官僚制(1)	日本の官僚制度		第10回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第11回 官僚制(2)	日本の行政改革		第11回用レジュメ、資料に基づき予習復習、 期末レポート準備	
第12回 利益集団	「業界」の意向は反映されやすいのか		第12回用レジュメ、使用に基づき予習復習、 期末レポート準備	
第13回 政治思想	民主主義と国家の役割		第13回レジュメ、資料に基づき予習復習、 期末レポート準備	
第14回 政治体制	議院内閣制と大統領制		第14回レジュメ、資料に基づき予習復習、 期末レポート準備	
第15回 国際政治	国際政治体制		第15回レジュメ、資料に基づき予習復習、 期末レポート準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価)50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。 その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。			
教科書	北山俊哉、真淵勝、久米郁夫(編)『はじめて出会う政治学 第3版』有斐閣2009年			
指定図書	久米郁夫ほか(編)『政治学 補訂版』有斐閣2011年			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	水14:50～16:20、木12:30～13:30		メールアドレス	

授 業 科 目	政治学概論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	政治は、私たちの社会に大きな影響を及ぼしています。これから現代社会について勉強していくにあたり、社会の基礎をなしている政治を理解することは重要です。この講義は「政治学概論Ⅱ」と共に、政治を理解するための分析視角である「政治学」の主要分野の基礎的な知識を習得することを目的にしています。 現実の政治の中からトピックをとりあげ、それを手がかりに「政治学」の主要分野の基礎知識を身につけます。講義は「覚えること」を網羅的に列挙するのではなく、焦点を絞りながら「理解する」ための考え方を提示していきます。ただし現実の政治状況によって講義内容を一部変更することがありますので、ご了承ください。			
到達目標	1.日本の政治制度の概要と特徴について、説明できる。 2.与党の政権運営方法について、政治学的に説明できる。 3.政策決定過程における「鉄の三角同盟」の仕組みが説明できる。 4.政治学や現実の政治に関する基礎的文献を、自ら集めて分析していくことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 各地域の政治を理解するためには、日本の政治の仕組みや、政治学という「ものの見方」＝学問の基礎を身に付けておく必要があります。「政治学概論Ⅱ」や「アジア政治論」を履修することで、より理解を深めることができます。 また「経済学概論Ⅰ」や「経済学概論Ⅱ」、「アジア経済論」を履修することで、政治と密接に関係する経済(学)に関する理解を深めることができます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション 政治学を学ぶとは			第2回用レジュメ、資料に基づき予習	
第 2回 投票行動(1) 棄権する理由とは			第2回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 3回 投票行動(2) 候補を選ぶ基準とは			第3回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 4回 選挙制度(1) 選挙制度の基礎			第4回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 5回 選挙制度(2) 日本の選挙制度とその特徴			第5回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 6回 政策決定過程 「鉄の三角同盟」とは			第6回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 7回 国会(1) 政策決定における与党の役割			第7回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 8回 国会(2) 政策決定における野党の役割			第8回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 9回 国会(3) 最近の動向			第9回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第10回 官僚制(1) 日本の官僚制度			第10回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第11回 官僚制(2) 日本の行政改革			第11回用レジュメ、資料に基づき予習復習、 期末レポート準備	
第12回 利益集団 「業界」の意向は反映されやすいのか			第12回用レジュメ、使用に基づき予習復習、 期末レポート準備	
第13回 政治思想 民主主義と国家の役割			第13回レジュメ、資料に基づき予習復習、 期末レポート準備	
第14回 政治体制 議院内閣制と大統領制			第14回レジュメ、資料に基づき予習復習、 期末レポート準備	
第15回 国際政治 国際政治体制			第15回レジュメ、資料に基づき予習復習、 期末レポート準備	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価)50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。 その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。 「政治学概論Ⅱ」と併せて受講することが望ましいですが、どちらか一方だけを受講することも可能です。			
教科書	北山俊哉、真淵勝、久米郁夫(編)『はじめて出会う政治学 第3版』有斐閣2009年			
指定図書	久米郁夫ほか(編)『政治学 補訂版』有斐閣2011年			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスワー	水14:50～16:20、木12:30～13:30		メールアドレス	

授 業 科 目	政治学概論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	政治は、私たちの社会に大きな影響を及ぼしています。これから現代社会について勉強していくにあたり、社会の基礎をなしている政治を理解することは重要です。この講義は「政治学概論Ⅰ」と共に、政治を理解するための分析視角である「政治学」の主要分野の基礎的な知識を習得することを目的にしています。 現実の政治の中からトピックをとりあげ、それを手がかりに「政治学」の主要分野の基礎知識を身につけます。講義は「覚えること」を網羅的に列挙するのではなく、焦点を絞りながら「理解する」ための考え方を提示していきます。ただし現実の政治状況によって講義内容を一部変更することがありますので、ご了承ください。			
到達目標	1. 日本政府が行っている経済政策の背景が、政治学的に説明できる。 2. 日本の社会保障制度の課題が、政治学的に説明できる。 3. 日本の地方自治体が抱えている課題が、政治学的に説明できる。 4. 政治学や現実の政治に関する基礎的文献を、自ら集めて分析していくことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 各地域の政治を理解するためには、日本の政治の課題や、政治学という「ものの見方」＝学問の基礎を身に付けておく必要があります。「政治学概論Ⅰ」や「アジア政治論」を履修することで、より理解を深めることができます。 また「経済学概論Ⅰ」や「経済学概論Ⅱ」、「アジア経済論」を履修することで、政治と密接に係る経済(学)に関する理解を深めることができます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション 政治学を学ぶとは			第2回用レジュメ、資料に基づき予習	
第2回 市場の失敗、政府の失敗(1) 「小さな政府」の限界			第2回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第3回 市場の失敗、政府の失敗(2) 「大きな政府」の落とし穴			第3回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第4回 市場の失敗、政府の失敗(3) 日本の行財政改革			第4回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第5回 市場の失敗、政府の失敗(4) 最近の動向			第5回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第6回 福祉国家とそのゆくえ(1) 福祉国家の分類			第6回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第7回 福祉国家とそのゆくえ(2) 日本の社会保障制度			第7回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第8回 福祉国家とそのゆくえ(3) 最近の動向			第8回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第9回 地方自治(1) 日本の地方行政制度			第9回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第10回 地方自治(2) 市町村合併			第10回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第11回 地方自治(3) 三位一体の改革			第11回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第12回 地方自治(4) 地方政治の現状			第12回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第13回 地球規模の課題(1) 地球環境問題			第13回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第14回 地球規模の課題(2) 人権問題			第14回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第15回 世論とメディア			第15回レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価)50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。 その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。 「政治学概論Ⅰ」と併せて受講することが望ましいですが、どちらか一方だけを受講することも可能です。			
教科書	北山俊哉、真淵勝、久米郁夫(編)『はじめて出会う政治学 第3版』有斐閣2009年			
指定図書	久米郁夫ほか(編)『政治学 補訂版』有斐閣2011年			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	火14:50～16:20、水12:30～13:00、金12:30～13:00	メールアドレス		

授 業 科 目	生徒・進路指導【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	川野 司		単 位	2
授業の目的と概要	①教職を目指す人のために実践的指導力を修得する。 ②学校における生徒指導及び進路指導の課題を考え、その解決方法について学修する。 ③自らの意見や考えを相手に伝えることができるとともに、相手の意見や考えが傾聴できるようになる。 以上の3項目を修得するために、授業では小中学校のケースを取り上げ、討論型授業を行います。そのために、学生の皆さんは授業前に個別学習（予習）が必要です。予習ではテキストの「設問」と「考えてみよう」の回答をレポートにまとめることが大切です。			
到達目標	授業では、考える習慣（思考力）、コミュニケーション力、判断力と表現力など教職に必要な実践的指導力を修得するとともに、人間としての生き方などを修得します。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業についての説明とレポート課題の書き方の説明。教科書は2～31頁。		教科書2～31頁を読んでおく。	
第2回	Case21 生徒指導について考える。教科書175～180頁。		Case21の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第3回	Case1 学級担任になったA先生の不安を考える 教科書34～38頁		Case1の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第4回	Case3 基本的生活習慣について考える。教科書49～57頁		Case3の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第5回	Case4 学級崩壊の噂が出始めた担任と児童との関係を考える。教科書58～68頁		Case4の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第6回	Case6 家庭や地域との連携について考える 教科書77～85頁		Case6の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第7回	Case7 昼休みの怪我について考える。教科書86～90頁		Case7の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第8回	Case22 保護者からの相談について考える。教科書181～186頁		Case22の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第9回	Case23 学級崩壊について考える。教科書187～192頁		Case23の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第10回	Case24 体罰について考える。教科書 193～197頁		Case24の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第11回	Case26 不登校について考える（その2）。教科書203～207頁		Case26の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第12回	Case27 学校給食について考える。教科書208～211頁		Case27の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第13回	Case28 いじめについて考える。教科書212～216頁		Case28の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第14回	Case29 授業の中での規律づくりについて考える。教科書217～221頁		Case29の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第15回	Case30 学校における危機管理について考える。教科書222～226頁		Case30の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	20％			
レポート	25％ 課題のレポートは毎時間提出が必要です。全員が13回分の提出になります。			
小テスト等	なし			
成果発表	15％ 発表グループは与えられたCaseのプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをする班はレポート提出は必要ありません。			
受講態度他	40％（30％ 成績評価は、出席、レポート提出状況、プレゼンテーション発表、グループ討論での積極的参加などを総合的に評価します。10％ 授業の終わりに行う「授業の振り返りシート」（授業評価）は全項目に記載します。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①グループ発表はプレゼン原稿を授業前日までに川野宛にメールで送付する。発表班はレポート提出はありません。 ②授業は協同学習の場です。自らの学習に責任を持つとともに、班の仲間の学習にも班員は責任があります。携帯電話はバッグに入れておき、授業中は見てはいけません。			
教科書	川野司著『教師のためのケースメソッドで学ぶ実践力』昭和堂			
指定図書	川野司著『実践！学校教育入門－小中学校を考える』昭和堂 川野司著『教師のためのケースで学ぶ実践力』昭和堂			
参考図書	文部科学省『生徒指導必携』教育図書			
オフィスワーク	授業前後に相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	生徒・進路指導(中等教職)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松尾 公孝		単 位	2
授業の目的と概要	学校現場の日常は、教師と生徒との人間関係をはじめとして、生徒同士の人間関係、さらには家庭を背景として、様々な現象が生じている。一方では、喧嘩、いじめ、不登校、怠学、非行が見られる。また一方では、規律ある集団生活の中での学力の向上、人格の成長がある。生徒指導は前者への対応と見られがちではあるが、後者も含め、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質の行動を高めることをめざして行われる教育活動である。また、進路指導とは、生徒が自己の生き方を考え、主体的に進路を選択・決定し、生涯にわたって自己をよりよく生かしていくことのできる能力・態度などを育成することである。この授業では、教師としての資質を培うために、次の三点を主要な目的とする。学校現場の実態を理解すること。生徒を捉える客観的な視点を身につけること。生徒支援についての考えを深めること。			
到達目標	・学校現場での生徒指導、進路指導の現状と課題を述べることができる。 ・子どもを取り巻く環境との関連から児童・生徒を理解することができる。 ・生徒支援の実践について考察できる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	本授業は、教育職員免許法施行規則に定める「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」に該当し、以下の内容について学ぶ。 ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		事前に、本授業のシラバスを読む。	
第2回	生徒指導の基本		予習復習として、教科書P8～30を読む。	
第3回	生徒指導体制		予習復習として、教科書P31～43を読む。	
第4回	生徒指導と教師の姿		予習復習として、教科書P44～53を読む。	
第5回	生徒指導と法制度		予習復習として、教科書P54～68を読む。	
第6回	不登校の実態		予習復習として、教科書P73～81及び配布資料を読む。	
第7回	生徒指導と学級経営		予習復習として、教科書P82～89を読む。	
第8回	発達障害の実態		復習として、授業で配布した資料を読む。	
第9回	子どもの貧困の実態		復習として、授業で配布した資料を読む。	
第10回	子どもの問題行動		予習復習として、教科書P99～107を読む。	
第11回	いじめの実態		予習復習として、教科書P108～126及び配布資料を読む。	
第12回	少年非行		予習復習として、教科書P127～145及び配布資料を読む。	
第13回	キャリア教育		予習復習として、教科書P156～163を読む。	
第14回	授業で学んだことを発表する。		授業全体で学んだことを事前にまとめる。	
第15回	危機管理		予習復習として、教科書P164～169を読む。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験			
レポート	10% 適宜授業中に課します。			
小テスト等	10% 授業ごとの振り返り			
成果発表	20% 授業で学んだことを発表する。			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・学級を経営する教師として、生徒をどのようにとらえ、どのように接すれば、生徒の成長にに寄与できるのか、実践することを想定して積極的に授業に参加してほしい。 ・飲食、私語、携帯電話等の使用は厳禁。			
教科書	片山紀子『入門生徒指導』学事出版 2014			
指定図書	なし			
参考図書	諸富祥彦『新しい生徒指導の手引き』図書文化 2013 文部科学省『生徒指導提要』教育図書 2010 文部科学省『キャリア教育の手引き』教育出版 2011			
オフィスワー	授業後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	生物的環境論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	佐々木 浩		単 位	2
授業の目的 と概要	生物は、単細胞から多細胞へと進化し、様々な環境に適応 し、また環境に影響を与えることによって、多様な自然を作り上げています。講義では、形態、行動、生活史、社会構造などの多様性、遺伝子、個体、群集としての多様性とはどのようなものかを学び、自然を生物の面から理解することを目的としています。			
到達目標	・生物の進化について科学的に説明できるようになる。 ・生物とその環境との関係を説明できるようになる。 ・人間の進化を説明できるようになる。 ・人間と自然環境の関係について、自分の考えを述べられるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 講義概説			配布プリントの復習をして下さい。	
第2回 環境とは			配布プリントの復習をして下さい。	
第3回 自然観察の計画検討			講義の復習をして下さい。	
第4回 秋の自然観察 筑女の森での観察 自然を体感する (集中)			観察した植物を図鑑で確認する。	
第5回 秋の自然観察 筑女の星観察 (集中)			観察した星を図鑑で確認する。	
第6回 秋の自然観察 自動撮影による動物調査 (集中)			レポート作成	
第7回 生物の進化 共生説			配布プリントの復習をして下さい。	
第8回 生物の進化 パンアレン帯とオゾン層			配布プリントの復習をして下さい。	
第9回 生物の進化 進化のメカニズム 小テスト			配布プリントの復習をして下さい。	
第10回 種間関係			配布プリントの復習をして下さい。	
第11回 生態系			配布プリントの復習をして下さい。	
第12回 どんぐり調査			レポート作成	
第13回 生態系			配布プリントの復習をして下さい。	
第14回 動物の社会 小テスト			配布プリントの復習をして下さい。	
第15回 まとめ			講義の復習をして下さい。	
成 績 評 価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% レポート 各自 1回班 1回			
小テスト等	40% 小テスト 2回			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 理解度テストなどを随時実施			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	個人的事情による欠席はすべて欠席扱いとなります。第5,6,7回の講義は、筑女の森での自然観察を行い、学内にテントを張って宿泊して行います。夕食はBBQで、食費は各自負担となります。実施日は、10月13日 (土) 午後から14日 (日) 午前 (雨天の場合は、20日から21日) に実施します。この講義の履修者は全員参加となります。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜日 2講時	メールアドレス		

授 業 科 目	生物のしくみ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	関口 猛		単 位	2
授業の目的 と概要	人間は生物の一種なのですが、生活が自然とだんだん離れていくについでて、それを意識しないようになってきています。また、自然の一部である人間社会の急激な発展、変化は、他の生物との関係を変化させ、鳥インフルエンザ等の様々な問題を引き起こし、そして多くの生物を絶滅に追い込むなどの変化をもたらしています。この授業では、生物のしくみや、人間はどのような生物なのかを理解することにより、これからの人間のあり方を考えて、自己管理能力を高めることができるようになることを目的としています。			
到達目標	・生物の特徴を説明できるようになる。 ・自分の体のしくみについて説明できるようになる。 ・これからの人間のあり方や自分の生活について考えを述べられるようになる。 ・人間の生物としての面から自己管理が出来るようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	講義概説と生きていることの不思議。		講義した内容に関して自宅学習する。	
第 2回	体の構造 1 : 減るだけの細胞、補充される細胞		講義した内容に関して自宅学習する。	
第 3回	体の構造 2 : 神経細胞は減るが、シナプスは変化する		講義した内容に関して自宅学習する。	
第 4回	物質代謝：3ヶ月で体は別人		講義した内容に関して自宅学習する。	
第 5回	情報伝達： 神経系と内分泌系		講義した内容に関して自宅学習する。	
第 6回	免疫：花粉症にならないためには		講義した内容に関して自宅学習する。	
第 7回	生殖：オスとメスはなぜあるのか、		講義した内容に関して自宅学習する。	
第 8回	発生:iPS細胞とは 中間テスト (範囲 1 - 7 回)		講義した内容に関して自宅学習する。	
第 9回	遺伝：遺伝の仕組み		講義した内容に関して自宅学習する。	
第10回	遺伝：遺伝子		講義した内容に関して自宅学習する。	
第11回	植物の生き方		講義した内容に関して自宅学習する。	
第12回	植物と微生物の共存と闘い		講義した内容に関して自宅学習する。	
第13回	植物と人間の関り。		講義した内容に関して自宅学習する。	
第 1 4 回	地球生存圏		講義した内容に関して自宅学習する。	
第15回	生物の多様性の大事さ		講義した内容に関して自宅学習する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	あり 期末テスト（範囲第8-15回の講義）50％			
レポート	なし			
小テスト等	あり 中間テスト（範囲第 1 - 7 回の講義）30％			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 自宅学習の評価をします。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	個人的事情による欠席はすべて欠席扱いとなります。 試験は、ノート、配布資料を持ち込んでもいいです。ただし、出席日数が足りないと試験は受けられません。			
教科書	吉田邦久, 2012, 『好きになる生物学 第二版』 講談社 2000円+税			
指定図書	稲垣 栄洋 たたかう植物：仁義なき生存戦略 筑摩書房			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜日 講義の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	生命科学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	関口 猛		単 位	2
授業の目的 と概要	植物や動物（人間を含む）がどのようにして生きているかについていろいろな知識を得ることを目標とする。授業中に命に関するDVDを見て知識を深める。高等学校で学んだ生物の知識をもとにいくつかの単元に焦点を当てて理解する。さらに、生命の尊さを学ぶことを目的とする。			
到達目標	1. 植物や動物がどのようにして生きているか説明できる。2. 生物の持つ物質とそれらの働きについて理解できる。3. 遺伝について理解できる。4. 体を作る仕組みや守る仕組みを理解する。5.生物に関するニュースを理解できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	いのちの不思議－睡眠、冬眠について		講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。	
第2回	コーヒーに含まれるカフェインの働き		講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。	
第3回	植物の生き方		講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。	
第4回	植物と環境との関わり		講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。	
第5回	植物と動物との関わり		講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。	
第6回	植物と人間との関わり		講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。	
第7回	生物の生きている仕組み		講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。	
第8回	生活に役立つ人の遺伝－メンデルの遺伝		講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。	
第9回	生活に役立つ人の遺伝－遺伝子とは		講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。	
第10回	癌はどういうものか。		講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。	
第11回	遺伝と病気		講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。	
第12回	遺伝子組み換え生物（GMO）について		講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。	
第13回	健康を保つ仕組み－免疫に働く細胞		講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。	
第14回	健康を保つ仕組み－免疫の役割		講義で疑問に思ったことや面白いと思ったことについて調べる。	
第15回	健康を保つ仕組みの異常－アレルギー		配布プリントとノートを見て試験の準備をする。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％			
レポート	0％			
小テスト等	30％			
成果発表	0％			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	試験は、ノート、配布資料を持ち込んでも良い。			
教科書	たたかう植物：仁義なき生存戦略			
指定図書	とことんやさしいヒト遺伝子のしくみ 体型も性格も運動能力も病気のかかりやすさも左右する			
参考図書	よくわかる生物学			
オフィスアワー	講義の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	生命倫理【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	清水 満		単 位	2
授業の目的 と概要	現代応用倫理学の主要なテーマ・概念から初め、その後、生命倫理の場で基本的とみなされる考え方を学び、最終的には生命倫理が出てきた医療化された社会の問題を相対化する視点を得ます。 日常の諸問題でどのように考えればよいのか、毎回、問題が課され、自分で解答を作成します。その後、事例を通して、生命倫理にかんする基本的な考え方を講義します。			
到達目標	1, 医療化された現代社会で生きる一人の人間として、病気、出産、家族の介護などの個々の状況において、適切な対応ができる「判断力」を涵養する。 2, 上記の場において、自分の判断を客観的に説明できる力を身につける。 3, 教育、福祉など、ケア労働の場で将来働きたいと思っている者、あるいは育児・介護にかかわる者に、その基礎となる倫理観、人間観を培う一助とする。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 関連科目：哲学、倫理学、人間学			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	倫理学序論 なぜ「生命倫理」が出てきたか。		配布プリントを再読する。	
第2回	生命倫理の基礎（1）功利主義 難破船のパラドックス		配布プリントを復習し、自分の回答を書き直す。	
第3回	生命倫理の基礎（2）自由主義 ミル原理を学ぶ		配布プリントを復習し、自分の回答を書き直す。	
第4回	生命倫理の基礎（3）人格概念 カントの人格主義		配布プリントを復習し、自分の回答を書き直す。	
第5回	生命倫理の基礎（4）結婚・恋愛 進化生物学の成果		配布プリントを復習し、自分の回答を書き直す。	
第6回	生命倫理の場（1）プロフェッション概念とIC（インフォームド・コンセント）		配布プリントを復習し、自分の回答を書き直す。	
第7回	生命倫理の場（2）エンハンスメント 美容整形はよいことか		配布プリントを復習し、基礎概念を覚える。	
第8回	生命倫理の場（3）障害（しょうがい）学と障害者福祉		配布プリントを復習し、基礎概念を覚える。	
第9回	生命倫理の場（4）認知症と高齢者福祉		配布プリントを復習し、基礎概念を覚える。	
第10回	生命倫理の場（5）ケアとコミュニケーション メイヤロフのケア概念		配布プリントを復習し、基礎概念を覚える。	
第11回	生命倫理の場（6）ケアとコミュニケーションの実践例		配布プリントを復習する。	
第12回	生命倫理批判（1）悪の医療史 731部隊、アメリカのプルトニウム人体実験など		配布プリントを復習し、参考文献を読む。	
第13回	第9回 生命倫理批判（2）出生前検査の問題 「不幸な」子どもは不要か？		配布プリントを復習し、参考文献を読む。	
第14回	生命倫理批判（3）フーコーの調整的権力		配布プリントを復習し、参考文献を読む。	
第15回	まとめと補遺		配布プリントを復習し、参考文献を読む。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 講義で扱った基礎概念の客観的説明問題を課します。			
レポート	％			
小テスト等	20％ 講義で問題を出し、その回答をほぼ毎回書いてもらいます。不定期に回収します。			
成果発表	％			
受講態度他	％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	問題をほぼ毎回出しますので、誠実に回答してください。回答は講義を進める際に参考になるものを匿名で選び、検討材料にします。			
教科書	なし。毎回講義プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	講義プリントで、毎回指示します。			
オフィスアワー	講義のあと。	メールアドレス		

授 業 科 目	生理心理学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	岡村 尚昌		単 位	2
授業の目的と概要	本講義では、人間の行動や、心理的機能及び生理的機能を理解することを目的とします。近年、生理心理学的な心身関連の研究は、心理学の分野で広く応用され、とくに現代社会におけるストレスや心身の疾患などの問題を解決する大きな役割を担っています。この講義では、身体機能の生理学的基礎を踏まえながら、生理心理学の基礎的研究や臨床場面への応用を紹介します。また、心理的ストレスと心身疾患における諸問題についても生理心理学的立場から論じます。			
到達目標	①脳と心の関係について、その基礎知識を身につける。 ②生理心理学の講義で学んだ知識を、心理学研究に応用できるようになること。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 生理心理学の概要			脳と心の関係について調べる	
第2回 生理心理学の研究法			配布資料を熟読し、生理心理学の研究法を予習しておく	
第3回 脳の構造1：中枢神経活動			配布資料を熟読し、中枢神経活動について予習しておく	
第4回 脳の構造2：情動・記憶			配布資料を熟読し、情動・記憶について予習しておく	
第5回 脳と学習			配布資料を熟読し、脳と学習について予習しておく	
第6回 動機づけ			配布資料を熟読し、動機づけについて予習しておく	
第7回 ストレスと疾患1：ストレスとは何か			ストレスとは何かについて考えをまとめておく	
第8回 ストレスと疾患2：ストレスの生理心理学的メカニズム			配布資料を熟読し、ストレスと疾患について予習しておく	
第9回 ストレスと疾患3：心の病気と脳			心の病気と脳との関係について調べておく	
第10回 睡眠			睡眠と健康について調べておく	
第11回 薬物依存・ギャンブル依存と脳			配布資料を熟読し、薬物依存・ギャンブル依存と脳について予習しておく	
第12回 臨床心理学と脳科学1：ADHD			ADHDについて調べておく	
第13回 臨床心理学と脳科学2：自閉症			自閉症について調べておく	
第14回 臨床心理学と脳科学3：認知症			認知症について調べておく	
第15回 臨床心理学と脳科学4：犯罪			配布資料を熟読し、犯罪と脳と関係について予習しておく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 学んだことの復習として行う。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 講義対する意欲や参加態度も考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義をよく聴き、積極的に討論に参加してください。			
教科書	「生理心理学」 岡田 隆・廣中直行・宮森孝史 サイエンス社			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	講義の前後に相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	世界英語概説【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	蒲原 順子		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は「世界英語」について学びます。「世界英語 World Englishes」とは、「オーストラリア英語」「インド英語」「シンガポール英語」などのように、「イギリス英語と同じ機能を持ち多様な形態を内蔵する『自立した』英語」（テキストのより）のことです。それらの歴史的背景、発音、語彙、文法、将来に向けての展望など多面的に学び、それぞれの「英語」の特徴について知ること、また口頭で説明できることを目指します。また、世界英語を通じて、言語と社会が密接に関連していることを理解し、言語使用の社会的要因について分析したり議論して理解を深めます。従って、授業では、調べ学習を行いグループで情報を共有します。テキストを中心に学びますが、別途配布資料や、パワーポイント、 インターネットのyoutube、映画、などのメディアを通じてより具体的な情報をもとに学びます。			
到達目標	1.世界英語とは何かを理解し説明できる。 2.なぜ様々な英語の変種が各地で話されているのかを理解し説明できる。 3.それぞれの国で使われている英語の特徴を理解し説明できる。 4.英語の未来の姿を予測できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（授業の流れ、評価など）。導入：世界英語とは何かについて考える。		教科書 pp. i -vii	
第2回	イギリス英語とその方言 （1）ーイギリスにおける主要な言語接触：英語の歴史について学ぶ		教科書 pp.3-9	
第3回	イギリス英語とその方言 （2）ー容認発音、イングランドの方言：多様な方言の発音、文法、語彙について学ぶ（以下同様）。＊映画視聴		教科書 pp.10-17	
第4回	ケルト語地域の英語：歴史手背景を把握し、言語的特徴について学ぶ。＊短編映画視聴		教科書 pp.28-45	
第5回	アメリカ英語（1）ーアメリカ英語の歴史：歴史的背景を把握し、言語的特徴について学ぶ。		教科書 pp.51-56	
第6回	アメリカ英語（2）ー黒人英語、地域方言：言語的特徴を把握し、言語的特徴について学ぶ。		教科書 pp.56-63	
第7回	カナダ英語：歴史的背景を把握し、言語的特徴について学ぶ。		教科書 pp.63-66	
第8回	オーストラリア英語：歴史的背景を把握し、言語的特徴について学ぶ。		教科書 pp.67-78	
第9回	ニュージーランド英語：歴史的背景を把握し、言語的特徴について学ぶ。		教科書 pp.79-84	
第10回	インドの英語：歴史的背景を把握し、言語的特徴について学ぶ。		教科書 pp.93-109	
第11回	東南アジアの英語：歴史的背景を把握し、言語的特徴について学ぶ。		教科書 pp.120-136	
第12回	アフリカの英語：歴史的背景を把握し、言語的特徴について学ぶ。		教科書 pp.137-153	
第13回	カリブ海の英語：歴史的背景を把握し、言語的特徴について学ぶ。		教科書 pp.154-165	
第14回	ヨーロッパの英語：歴史的背景を把握し、言語的特徴について学ぶ。		教科書 pp.179-183	
第15回	東アジアの英語ー日本、韓国、中国、台湾：歴史的背景を把握し、言語的特徴について学ぶ。英語の未来について考察する。		教科書 pp.187-201	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	グループ内発表（調べ学習）20％			
受講態度他	10％ 授業への積極的な参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特になし			
教科書	田中春美・田中幸子編『World Englishesー世界の英語への招待』昭和堂			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で紹介します。			
オフィスアワー	講座開設中の水曜日14:00～14:30		メールアドレス	

授 業 科 目	世界史【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	清水 雅大		単 位	2
授業の目的 と概要	授業では古代から現代までの世界史をヨーロッパを中心に通観し、各時代の様々な歴史を一定のテーマや問題関心に基づいて見ていきます。そこから歴史を考えるための多様な見方・切り口を学びます（目的①）。前近代については現代日本社会とは異なる社会のありようを学び、私たちの「常識的な」価値観や行動様式を相対化する眼を養います（目的②）。近現代については現代世界の構成に直接的につながる歴史的諸要素を学び、現代世界が抱える諸問題を歴史的パースペクティブのなかで考える姿勢を身につけることを目指します（目的③）。			
到達目標	1．自らの具体的な問題関心と世界史を関連させて考えることができる。 2．現代日本社会とは異なる社会のありよう（多様な価値や行動規範など）を、具体的な事例を挙げて説明できる。 3．現代世界における諸問題について、それらの背景にある歴史的経緯を説明することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション： 授業概要と目的、授業の構成と進め方、成績評価、受講上の注意等の説明		配布レジュメ内容の復習	
第2回	古代世界における時間意識と「歴史」		『詳説世界史研究』第1章、第2章	
第3回	アレクサンドロス大王の虚像と実像		『詳説世界史研究』第1章1、2	
第4回	「英雄」カエサルの生涯から見る古代ローマ社会		『詳説世界史研究』第1章3	
第5回	イスラーム世界の形成と発展		『詳説世界史研究』第4章	
第6回	中世ヨーロッパにおけるキリスト教精神と「異端者」たち		『詳説世界史研究』第5章	
第7回	ヨーロッパから見たアジア・太平洋		『詳説世界史研究』第9章	
第8回	モノから見る近代世界		『詳説世界史研究』第9章	
第9回	「暗黒大陸」アフリカの歴史を考える		『詳説世界史研究』第13章～第16章	
第10回	第一次世界大戦期のヨーロッパと日本		『詳説世界史研究』第14章	
第11回	第二次世界大戦における戦時暴力		『詳説世界史研究』第14章	
第12回	「自由の国」アメリカのなかの不自由な人々		『詳説世界史研究』第14章	
第13回	冷戦と核の時代		『詳説世界史研究』第15章	
第14回	「ゆたかな社会」と飢える社会		『詳説世界史研究』第16章	
第15回	前期のまとめ、レポート作成の説明		「参考図書」の通読	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	40％			
小テスト等	60％			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	高校世界史を選択していなくても、世界の歴史に関心を持ち主体的に学ぶ意欲のある受講者は歓迎します。授業では世界史を「暗記する」のではなく「考える」ようにします。受講時の迷惑行為等（遅刻や私語など）は禁止です。			
教科書	なし（基本的にはレジュメを配布）			
指定図書	木村靖二・岸本美緒・小松久男編『詳説 世界史研究』山川出版社、2017年。木村靖二・岸本美緒・小松久男監修『詳説 世界史図録（第2版）』山川出版社、2017年。			
参考図書	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009年。			
オフィスアワー	授業の前後。	メールアドレス		

授 業 科 目	世界史Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	清水 雅大		単 位	2
授業の目的 と概要	授業では古代から現代までの世界史をヨーロッパを中心に通観し、各時代の様々な歴史を一定のテーマや問題関心に基づいて見ていきます。そこから歴史を考えるための多様な見方・切り口を学びます（目的①）。前近代については現代日本社会とは異なる社会のありようを学び、私たちの「常識的な」価値観や行動様式を相対化する眼を養います（目的②）。近現代については現代世界の構成に直接的につながる歴史的諸要素を学び、現代世界が抱える諸問題を歴史的パースペクティブのなかで考える姿勢を身につけることを目指します（目的③）。			
到達目標	1. 自らの具体的な問題関心と世界史を関連させて考えることができる。 2. 現代日本社会とは異なる社会のありよう（多様な価値や行動規範など）を、具体的な事例を挙げて説明できる。 3. 現代世界における諸問題について、それらの背景にある歴史的経緯を説明することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション： 授業概要と目的、授業の構成と進め方、成績評価、受講上の注意等の説明		配布レジュメ内容の復習	
第2回	古代世界における時間意識と「歴史」		『詳説世界史研究』第1章、第2章	
第3回	アレクサンドロス大王の虚像と実像		『詳説世界史研究』第1章1、2	
第4回	「英雄」カエサルの生涯から見る古代ローマ社会		『詳説世界史研究』第1章3	
第5回	イスラーム世界の形成と発展		『詳説世界史研究』第4章	
第6回	中世ヨーロッパにおけるキリスト教精神と「異端者」たち		『詳説世界史研究』第5章	
第7回	ヨーロッパから見たアジア・太平洋		『詳説世界史研究』第9章	
第8回	モノから見る近代世界		『詳説世界史研究』第9章	
第9回	「暗黒大陸」アフリカの歴史を考える		『詳説世界史研究』第13章～第16章	
第10回	第一次世界大戦期のヨーロッパと日本		『詳説世界史研究』第14章	
第11回	第二次世界大戦における戦時暴力		『詳説世界史研究』第14章	
第12回	「自由の国」アメリカのなかの不自由な人々		『詳説世界史研究』第14章	
第13回	冷戦と核の時代		『詳説世界史研究』第15章	
第14回	「ゆたかな社会」と飢える社会		『詳説世界史研究』第16章	
第15回	前期のまとめ、レポート作成の説明		「参考図書」の通読	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	40％			
小テスト等	60％			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	高校世界史を選択していなくても、世界の歴史に関心を持ち主体的に学ぶ意欲のある受講者は歓迎します。授業では世界史を「暗記する」のではなく「考える」ようにします。受講時の迷惑行為等（遅刻や私語など）は禁止です。			
教科書	なし（基本的にはレジュメを配布）			
指定図書	木村靖二・岸本美緒・小松久男編『詳説 世界史研究』山川出版社、2017年。木村靖二・岸本美緒・小松久男監修『詳説 世界史図録（第2版）』山川出版社、2017年。			
参考図書	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009年。			
オフィスアワー	授業の前後。	メールアドレス		

授 業 科 目	世界史Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	清水 雅大		単 位	2
授業の目的と概要	授業では、主にヨーロッパの近現代史を軸にした世界史を扱います。特にドイツを中心としたヨーロッパ近現代史の展開を、日本をはじめアジアとの関係や比較を通じて学びます。帝国主義から二つの世界大戦、冷戦の時代、ポスト冷戦の時代は現代世界の成立に直接的につながっています。近現代世界史を学ぶことを通じて、現代世界が抱える諸問題の淵源を理解するとともに、例えば歴史認識問題などの日本の現在の課題を考えるための歴史的視座を獲得することを目的としています。			
到達目標	1. ヨーロッパ近現代史のおおよその展開を、具体的な概念や出来事を挙げて説明することができる。 2. ヨーロッパ近現代史の展開が他の世界地域に与えた影響や、それとは反対に受けた影響を、具体的な事例を挙げて説明することができる。 3. 現在のヨーロッパやアジアにおける歴史認識の問題について、自身の見解や立場を科学的な知識に基づいて表明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション： 授業概要と目的、授業の構成と進め方、成績評価、受講上の注意等の説明		配布レジュメ内容の復習	
第2回	帝国主義の時代		映画『西部戦線異状なし』	
第3回	第一次世界大戦の展開と帰結		映画『バルトの楽園』	
第4回	ヴェルサイユ＝ワシントン体制下の国際関係 ——ヨーロッパとアジアにおける「国際協調」の時代		映画『俺たちに明日はない』	
第5回	ドイツにおけるヒトラー・ナチズムの台頭		石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』第1章～第2章	
第6回	ナチ・ドイツの国家と社会		石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』第3章～第7章	
第7回	第二次世界大戦の展開と帰結		映画『シンドラーのリスト』	
第8回	ナチズムとホロコースト（1）差別政策と社会的排除		「指定図書」第1章～第4章	
第9回	ナチズムとホロコースト（2）追放政策から民族虐殺へ		「指定図書」第5章～第14章	
第10回	ヨーロッパ戦後史——冷戦とヨーロッパ統合		映画『グッバイ、レーニン！』	
第11回	戦後ドイツにおける「過去の克服」の取り組み		映画『帰ってきたヒトラー』	
第12回	日本とドイツの関係史（1）「教師と生徒」の関係		映画『シーボルトとその子供たち』	
第13回	日本とドイツの関係史（2）「持たざる国」の同盟		映画『新しき土』	
第14回	日本とドイツの比較史		映画『イエロー・ケーキ』	
第15回	後期のまとめ、レポート作成の説明		「参考図書」の通読	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	40％			
小テスト等	60％			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	高校世界史を選択していなくても、世界の歴史に関心を持ち主体的に学ぶ意欲のある受講者は歓迎します。授業では世界史を「暗記する」のではなく「考える」ようにします。受講時の迷惑行為等（遅刻や私語など）は禁止です。			
教科書	なし（基本的にはレジュメを配布）			
指定図書	ヴァンゼー会議記念館編、山根徹也・清水雅大訳『資料を見て考えるホロコーストの歴史』春風社、2015年。			
参考図書	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009年。			
オフィスアワー	授業の前後。	メールアドレス		

授 業 科 目	世代文化論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	原 陽一郎		単 位	2
授業の目的 と概要	本授業では主に乳幼児期を中心にして、子どもがどのように周囲との関係のなかで文化を獲得し、さらにどのように変容するの かについて理解することを目的とする。なかでも子どもの文化における「生活」、「言葉」、「遊び」の重要性について考えてい く。また、自らも文化の担い手として子どもたちへの伝え方や、創造的に発想する力を身につける。 乳・幼児期の文化獲得は日常生活、あそびなどを土台としていることを具体的な資料や教材を通して理解する。特に乳・幼児 期の子どもたちを中心に、信頼関係の育み方や、社会環境の変化が文化の獲得にも影響を及ぼすことを認識する。			
到達目標	①乳・幼児期の子どもたちの生活と現代社会の課題を説明できる。 ②現代の乳幼児から青年期の文化の特徴を説明できる。 ③言葉を獲得するために人との関わりが必要不可欠であることを具体的に説明できる。 ④子どもの成長に必要な玩具を制作することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーションー文化ってなんだろうー		文化の具体的な内容について調べる。	
第2回	子どもの生活の文化1 乳児・幼児の生活は変わったのか		テキスト第1章から、子ども観や文化につ いて整理する。	
第3回	子どもの生活と文化2 児童期・青年期の文化		保育所保育指針と幼稚園教育要領か ら、保育観について確認する。	
第4回	言葉とところ1 0・1・2歳児のわらべうたと絵本		自身が子どもの頃好きだった絵本について レポートする。	
第5回	言葉とところ2 3・4・5歳児の絵本とお話		自身が子どもの頃好きだった遊びについて 資料を集める。	
第6回	言葉とところ3 乳・幼児期の総合な考察		現代の子どもの遊び文化について調べる。	
第7回	あそびの意義1 子どもの成長とあそび		テキスト第2章を読み、「現代の子どもの 遊びと生活」について知る。	
第8回	あそびの意義2 子どもの教育と玩具		自身の子ども時代と現代の子どもの玩具を 比較し、特徴をまとめておく。	
第9回	子どもの文化研究1 ①保育実践におけるあそびについて		テキスト4章の「子どもの文化財の解説と 実践」を読んでおく。	
第10回	子どもの文化研究1 ②おもちゃ道具の製作発表		子どもの言葉やイメージを育てる玩具につ いての資料を集める。	
第11回	子どもの文化研究1 ③おもちゃ道具の製作発表		子どもの言葉やイメージを育てる玩具を製 作する。	
第12回	子どもの文化研究2 ①保育実践における物語文化について		読み語り、素話を練習する	
第13回	子どもの文化研究2 ②コマ		コマの種類と遊び方について調べる	
第14回	子どもの文化研究2 ③あやとり、おはじき		あやとり、おはじきの種類と遊び方につ いて調べる	
第15回	子どもの文化を豊かにするために		子どもの文化状況に関する資料を集める	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 作品提出			
受講態度他	20% 挙手・発表などの受講態度を評価する			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	出席状況や授業の参加態度を重視します。			
教科書	松本峰雄編著『保育における子ども文化』2014年 わかば社			
指定図書	清水陽子・他編著『保育の理論と実践ーともに育ちあう保育者をめざしてー』2017年 ミネルヴァ書房			
参考図書	講義中に適宜紹介			
オフィスワ ーク	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	赤枝 香奈子		単 位	4
授業の目的 と概要	人々の性別や性にかかわるジェンダーやセクシュアリティという概念を手掛かりにしながら、さまざまな差異をもつ多様な人々が暮らしやすい社会（包摂的な社会）のあり方について考えます。前期はジェンダーやセクシュアリティ、社会的包摂にかんする基本的文献を読みます。途中、社会的包摂にかんする活動をしている団体関係者によるゲスト講義や活動団体の見学も予定しています。			
到達目標	1. ジェンダーやセクシュアリティが、現代社会の諸問題とどのように関連しているか理解できる。 2. 社会的包摂／社会的排除といった概念を理解し、それらをめぐる問題が現代社会にどのような形で表れているか理解できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		第1回の授業の復習	
第2回	ジェンダー／セクシュアリティと社会的包摂をめぐる問題について		配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第3回	ジェンダー／セクシュアリティと現代社会（1）		配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第4回	ジェンダー／セクシュアリティと現代社会（2）		配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第5回	ジェンダー／セクシュアリティと現代社会（3）		配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第6回	ジェンダー／セクシュアリティと現代社会（4）		配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第7回	ジェンダー／セクシュアリティと現代社会（5）		配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第8回	ゲスト講師による講義		配布資料を読み、疑問点を整理してくる。	
第9回	社会的包摂と社会的排除（1）		配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第10回	社会的包摂と社会的排除（2）		配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第11回	社会的包摂と社会的排除（3）		配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第12回	社会的包摂と社会的排除（4）		配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第13回	社会的包摂と社会的排除（5）		配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第14回	問題関心の整理		今後、研究したいテーマについて考えてくる。	
第15回	まとめ		夏休み中の研究計画を立ててくる。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％			
小テスト等	0％			
成果発表	45％			
受講態度他	5％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	前期は文献を読む作業を中心になります。授業では読んできた文献をもとに議論するので、事前に必ず文献を読み、要点や疑問点をまとめた上で授業に臨んでください。			
教科書	使用しない。			
指定図書	なし。			
参考図書	授業内で指示する。			
オフィスアワー	火曜4限	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	藤原 隆信		単 位	4
授業の目的と概要	＜ゼミテーマ：ソーシャルビジネスを研究・実践するゼミ＞ 本ゼミナールでは、私たちの身の回りにある多様な「社会問題」を、ビジネス（お金儲け）をしながら解決していく方法と理論を学んで行きます。同時に、地域社会や世界にも目を向け、具体的な実践活動（ビジネスの実践）に取り組んで行く予定です。ゼミⅠでは、「ソーシャルビジネス」や「社会貢献と仕事の関係」等に関する基礎的な理論を学ぶとともに、実践活動に向けたニーズ調査・準備を行います。このような「理論研究」と「実践活動」を通じて、経営学を総合的に学ぶとともに、「社会に貢献しながら働くこと」の意義を考えていきます。			
到達目標	①「ソーシャルビジネス」に関する基礎理論を理解し、説明できる。②「ソーシャルビジネス」の実践に必要な知識を身に付け、それを自分の言葉で説明できる。③上記①～②を前提に、「ソーシャルビジネス」の具体的な構想を描き、他人にプレゼンすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	はじめに ——なぜ今、ソーシャルビジネス（SB）なのか？		教科書の序章（pp.24-29）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第2回	文献研究と実践活動の検討 ——SBを始める前に考えておくべきこと		教科書の第1章（pp.32-41）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第3回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの仕組みづくり（１）：成立要件		教科書の第2章（pp.44-56）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第4回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの仕組みづくり（２）：マネタイズモデル		教科書の第2章（pp.56-73）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第5回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの仕組みづくり（３）：事業計画		教科書の第2章（pp.73-82）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第6回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの仕組みづくり（４）：財務計画・価格設定		教科書の第2章（pp.82-95）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第7回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの準備（１）：始動テスト		教科書の第3章（pp.98-110）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第8回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの準備（２）：経営資源（ヒト・カネ）		教科書の第3章（pp.110-127）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第9回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの準備（３）：経営資源（モノ・情報）		教科書の第3章（pp.128-138）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第10回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの開始（１）：サービスイン		教科書の第4章（pp.140-160）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第11回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの開始（２）：供給ライン（その①）		教科書の第4章（pp.160-176）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第12回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの開始（３）：供給ライン（その②）		教科書の第4章（pp.176-192）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第13回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの展開・発展（１）：スケールアップ		教科書の第5章（pp.194-207）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第14回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの展開・発展（２）：スケールアウト		教科書の第5章（pp.207-222）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第15回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの展開・発展（３）：制度化		教科書の第6章（pp.224-241）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	60％ 授業の進行に合わせて適宜、発表をしてもらいます。その内容で判断します。			
受講態度他	40％ 授業への出席状況や受講態度などを勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本ゼミナールでは、授業の中でチーム討議やチーム発表に取り組んでもらう予定にしています。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。			
教科書	駒崎弘樹『社会を変えたい人のためのソーシャルビジネス入門』PHP新書、2015年。			
指定図書	授業の中で適宜紹介する。			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12：20～13：10） ※事前に予約を取って下さい。		メールアドレス	

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	野中 亮		単 位	4
授業の目的と概要	地域生活を、特に文化の観点から研究することを主な目的とします。 おおまかな流れとしては、(1)地域生活と文化に関する理解を深めて、(2)個々の問題意識を明確にし、(3)実際に調査研究をおこなって、(4)簡単な報告書にまとめる、というものです。これらの研究を通じて、4年次の卒業研究に備えます。 フィールドワークなどで正規の時間外（週末や夏休み）にも研究活動を行います。また、研究テーマによっては、シラバスの予定変更や交通費などの負担が発生することもあり得ます。研究対象とする地域や文化現象は、日常的な調査が可能な福岡県内～九州北部地方を対象とする予定です。			
到達目標	・ 地域生活と文化に関する専門的な知識をもとに、研究課題を設定できるようになる ・ 設定した課題を研究するための、研究・調査の方法を身につける ・ 地域研究に関する研究成果の要点を整理できるようになる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 「専門ゼミナールⅡ」「卒業ゼミナールⅠ・Ⅱ」と連続する授業です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			配付資料の復習	
第2回 地域研究とはなにか1：地域研究に関する先行研究の学習			配付資料の読解とレジュメ作成	
第3回 地域研究とはなにか2：地域研究に関する先行研究の学習			配付資料の読解とレジュメ作成	
第4回 文化研究とはなにか1：文化研究に関する先行研究の学習			配付資料の読解とレジュメ作成	
第5回 文化研究とはなにか2：文化研究に関する先行研究の学習			配付資料の読解とレジュメ作成	
第6回 研究テーマ案の作成1：先行研究のポイント確認			文献、レジュメの再読と整理	
第7回 研究テーマ案の作成2：具体的なテーマと事例の探索			研究テーマ案および事例案の作成	
第8回 研究テーマ案の作成3：研究テーマの彫琢と事例案の絞り込み			事例に関する予備調査（文献調査）	
第9回 調査方法の検討			調査方法案の作成	
第10回 調査に慣れる1：文献収集			文献リストの作成	
第11回 調査に慣れる2：フィールドワーク			予備資料などの準備	
第12回 調査に慣れる3：インタビュー			インタビュー案の作成	
第13回 調査プランの策定1：テーマと事例の詳細決定			テーマおよび事例の決定案の作成	
第14回 調査プランの策定2：スケジュールと担当者			スケジュール調整の準備	
第15回 調査プランの確認と小括			調査プランのまとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 文献の概要報告やテーマ案の提案など、各回の報告を成果発表とみなします。			
受講態度他	50％ 成果発表以外のゼミ運営への貢献を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・ 出席は必須です。自分の担当については責任をもって取り組んでください。 ・ 全体を通じ、共同作業が多くなります。作業分担や報告の順番など、受講者同士でマメに連絡・相談・融通しあい、有意義な学びの場にしましょう。 ・ 野外活動があります。健康状態など配慮すべき事項がある場合は遠慮なく、というより必ず、早めに申し出てください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	谷富夫・芦田徹郎『よくわかる 質的社会調査』ミネルヴァ書房 佐藤郁哉『フィールドワーク：書を持って街へ出よう（増訂版）』新曜社			
オフィスアワー	月曜4限	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大橋 健治		単 位	4
授業の目的と概要	ビジネス組織（企業や自治体）で人材開発を考えるためには、日本企業の一般的な人事労務管理の仕組みを大きくつかんでおく必要がある。人事労務管理の制度には、当該組織の人材開発の考え方が色濃く反映されるからである。この授業では、ビジネス組織が求める人材を確保、育成し、人材が意欲的に仕事に取り組める環境を整備するために、戦後から今日に至るまで、日本企業の人事労務管理がどのように発展してきたのかを学ぶことを目的とする。 学び方の中心は「教えることを通じて深い学びを得る」という手法を採用する。すなわち、教科書を使って学生がゼミ生を教え、教員に示唆を与えるという方法をとる。この方法は、アクティブ・ラーニングの中でも最も高い学習効果が見込めるとされるもので、18世紀に活躍したフランスのモラリスト、ジョセフ・ジュベールの名言「教えることは二度学ぶこと」ともなっている。			
到達目標	1．人材開発の基盤としての人事労務管理の趨勢を語ることができる。 2．他者に学ばせる経験を通じて人材開発の環境づくりの重要性を語ることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要説明と進行方法の打ち合わせ		シラバスの通読と質問の準備	
第2回	ラーニングピラミッドと教育技法		プリントの通読と質問の準備	
第3回	第1章 企業経営と人事労務管理―人事労務管理の機能と担い手の授業実践		教科書第1章の熟読（全員）と授業設計及び授業準備（担当者）	
第4回	第2章 雇用管理―人と仕事の結びつきの授業実践		教科書第2章の熟読（全員）と授業設計及び授業準備（担当者）	
第5回	第3章 社内格付け制度と昇進管理―人事制度とその運用の授業実践		教科書第3章の熟読（全員）と授業設計及び授業準備（担当者）	
第6回	第4章 賃金管理―給与決定の仕組みの授業実践		教科書第4章の熟読（全員）と授業設計及び授業準備（担当者）	
第7回	第5章 労働時間管理―労働サービスの供給量と供給のタイミングの管理の授業実践		教科書第5章の熟読（全員）と授業設計及び授業準備（担当者）	
第8回	第6章 能力開発―能力を高める意義と方法		教科書第6章の熟読（全員）と授業設計及び授業準備（担当者）	
第9回	第7章 非正規従業員と派遣労働者―コンティンジェント・ワーカーの活用の授業実践		教科書第7章の熟読（全員）と授業設計及び授業準備（担当者）	
第10回	第8章 従業員の生活支援―企業の福利厚生制度の授業実践		教科書第8章の熟読（全員）と授業設計及び授業準備（担当者）	
第11回	第9章 労使関係管理―労働者の利益をいかに守るかの授業実践		教科書第9章の熟読（全員）と授業設計及び授業準備（担当者）	
第12回	第10章 人事労務管理の変遷と展望―歴史的・国際的な位置づけの授業実践		教科書第10章の熟読（全員）と授業設計及び授業準備（担当者）	
第13回	終章 幸せな職業人生を送るために		教科書終章の熟読（全員）と授業設計及び授業準備（担当者）	
第14回	方針管理と実施計画書の運用のしかたⅠ		プリントの通読と質問の準備	
第15回	方針管理と実施計画書の運用のしかたⅡ		実施計画書を作成してくる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 分担する回の授業設計（事前準備）と模擬授業の実施			
受講態度他	50％ 聞く（訊く）態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように、本授業では「教えることを通じて深い学びを得る」という手法を導入する。この手法を成立させる大前提は、授業を担当する学生と授業を受ける学生相互による責任をもった授業外学修と、教員との相互確認（質疑応答）である。これを怠る学生は授業の場に入ることを認めない（欠席扱いとする）。			
教科書	『新しい人事労務管理（第5版）』（有斐閣、2016、2,000円税別）			
指定図書	『マテリアル人事労務管理 新版』（有斐閣、2006、2,600円税別）			
参考図書	『新版 組織行動のマネジメント』（ダイヤモンド社、2009、2,800円税別）			
オフィスワーク	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	花野 裕康		単 位	4
授業の目的 と概要	「歌は世につれ世は歌につれ」と昔からよく言われる。歌は社会の影響を受けたものが流行し、流行している歌もまたその社会に影響を与えるということだ。そこでこのゼミでは、現代の音楽を通じて社会のありさまや変化を読み解いて行く。特にジャンルは問わない。邦楽・洋楽、ロック・それ以外、メジャー・インディーズ、何でもOKとする。自分自身が関心あり（←ここ重要）、なおかつ社会的にもある程度認知されている音楽（ジャンルやアーティスト）を自由に選び、適宜フィールドワークや調査を挟みながら、具体的実践的に「歌は世につれ世は歌につれ」を分析・理解・予測して行く。			
到達目標	①社会が音楽に与える影響について、総論的な視点から3分程度で要領よく口頭解説する事ができる。 ②音楽が社会に与える影響について、総論的な視点から3分程度で要領よく口頭解説する事ができる。 ③社会が音楽に与える影響について、個別具体的な音楽を取り上げ5分程度で要領よく口頭解説する事ができる。 ④音楽が社会に与える影響について、個別具体的な音楽を取り上げ5分程度で要領よく口頭解説する事ができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 本ゼミナールは、2年次に履修した「基礎専門ゼミナール」の発展版として、この基礎の上に立つ性格を持ちます。その他、「メディアと文化」「現代社会学概論 I&II」「消費社会論」さらにメディア社会コースの科目となりますが、「ポピュラー文化論」や「サブカルチャー論」なども関連がある科目となります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		ゼミの方針を理解し、各自で文章としてまとめる	
第2回	社会が音楽に与える影響（総論①）：昭和と音楽		ゼミで触れなかった「昭和と音楽」の関連性について、自力で調べておく	
第3回	社会が音楽に与える影響（総論②）：平成と音楽		ゼミで触れなかった「平成と音楽」の関連性について、自力で調べておく	
第4回	音楽が社会に与える影響（総論①）：歌に込められたメッセージ性と社会		戦後流行歌のメッセージ性について自説を交えながらまとめる	
第5回	音楽が社会に与える影響（総論②）：アーティストの社会的活動と社会		アーティストの社会的活動について賛否や自説を交えながらまとめる	
第6回	ゼミ生の関心に基づいてのグループ分け		グループ内で今後の進め方について話し合っておく	
第7回	グループごとの計画立案①：対象決定		決めた対象について基本的な情報を整理しておく	
第8回	グループごとの計画立案②：何をどのように調べるか		決めた対象について、分析する方針をグループ内でさらに話し合っておく	
第9回	グループごとの計画発表		グループ内の全員の役割分担が公平になるよう、話し合いを進めておく	
第10回	グループごとの調査①：オフライン方面（書籍等）		文献探索を進め、入手困難な文献について、入手経路を確保しておく	
第11回	グループごとの調査②：オンライン方面（ネット等）		ネット探索を進め、情報別に分類・整理しておく	
第12回	グループごとの調査③：フィールドワーク		フィールドノート（および音声、映像等）の整理を進めておく	
第13回	中間報告①（グループ前半）		自身のグループ報告の事前事後チェックと他グループの批評を進めておく	
第14回	中間報告②（グループ後半）		自身のグループ報告の事前事後チェックと他グループの批評を進めておく	
第15回	総括と専門ゼミナールⅡへの接続		専門ゼミナールⅡに向けて中間報告をいかに発展させて行くか文章化しておく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％（なおレポートは次週授業開始時[その週休んだ場合はそれ以降の授業開始時、また授業終了後の場合はオフィスアワー時]に返却する）			
小テスト等	なし			
成果発表	50％			
受講態度他	欠席やゼミに積極的に参加しない等、受講態度が芳しくない受講者に関しては、レポートの提出や成果発表をさせないことがある。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。これまでの自らの経験と知識とを総動員しながら考えつつ受講すること。授業に積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールで相談		メールアドレス	

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	須藤 遙子		単 位	4
授業の目的 と概要	メディア社会を文化経済・文化政治・文化政策の観点から研究する。 前半は、就活を念頭に置いた「読解力・文章力・発想力」を鍛える演習を中心とする。 後半は、各自の卒業研究に向けてのテーマ設定・資料収集・論文指導を行う。 適宜グループディスカッションを取り入れ、自分の意見を発表すると同時に、他人の意見をよく聞き尊重する姿勢を学ぶ。			
到達目標	・メディアの分析、またメディア企業への就職に必要な「読解力・文章力・発想力」を身につける。 ・プレゼンテーション能力を身につける。 ・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	メディア社会コースDP1：「現代メディア社会において、メディアならびにポピュラー文化に関する基本的な知識と技能の獲得を図る」 関連科目：メディアコンテンツ論、メディアリテラシー演習、文化と現代社会、文化政策論、文化産業論など			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。文章読解：絵本（１）。		絵本を読む。	
第2回	文章読解：絵本（２）。４年生による卒論中間発表・合同討議。		絵本を読む。	
第3回	文章読解：絵本（３）。４年生による卒論中間発表・合同討議。		児童文学を読む。	
第4回	文章読解：児童文学（１）。４年生による卒論中間発表・合同討議。		児童文学を読む。	
第5回	文章読解：児童文学（２）。４年生による卒論中間発表・合同討議。		映画を観る。合同ゼミ準備。	
第6回	合同ゼミ：映画分析（１）。		視聴した映画を調べる。合同ゼミ準備。	
第7回	合同ゼミ：映画分析（２）。		映画分析復習。児童文学を読む。	
第8回	文章読解：児童文学（３）。４年生による卒論中間発表・合同討議。		児童文学を読む。	
第9回	文章読解：児童文学（４）。４年生による卒論中間発表・合同討議。		児童文学を読む。	
第10回	文章読解：長編児童文学（１）。４年生による卒論中間発表・合同討議。		児童文学を読む。	
第11回	文章読解：長編児童文学（２）。４年生による卒論中間発表・合同討議。		児童文学を読む。	
第12回	文章読解：長編児童文学（３）。４年生による卒論中間発表・合同討議。		児童文学を読む。	
第13回	文章読解：長編児童文学（４）。４年生による卒論中間発表・合同討議。		児童文学を読む。	
第14回	文章読解：長編児童文学（５）。４年生による卒論中間発表・合同討議。		児童文学を読む。	
第15回	文章読解まとめ。卒論中間発表まとめ。		夏休みに読む短編編小説を決定。各自の卒論テーマ検討。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	０％			
レポート	４０％			
小テスト等	％			
成果発表	４０％（グループでの参加度、発表者としてのスキル）			
受講態度他	２０％（全体討論への参加態度も含める）			
受講上の留意 点・ルールに関わる 情報	夏に出席必須のゼミ合宿あり。 本（小説）をたくさん読むことが求められます。 ４年生の就活の進展に伴い、随時エントリーシートや小論文対策を行います。 その他、細かいルールに関しては、第１回目のオリエンテーションで説明します。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスワー	月曜日４限。	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	橋本 嘉代		単 位	4
授業の目的と概要	社会で役に立つ基本的な力を育成します。 ・調べる力 ― 対象となるテーマを掘り下げるために必要な情報を集める力 ― を伸ばす。 ・読む力 ― 文献や資料を読み、参考になりたい部分を抽出する力 ― を育成する。 ・書く力 ― 調べた事実と自分の主張を分け、整理して他人に伝える力 ― を鍛える。			
到達目標	・世論調査の結果やデータベースなどを用いて、テーマを掘り下げたり、主張の論拠として提示することができる。 ・必要な文献や資料を探すことができる。 ・本や資料を正しく引用することができる。 ・新聞や雑誌の記事のフォーマットを参考に、 わかりやすい文章を書くことができる。 ・どのようなテーマ設定で進めるべきか、世の中で必要とされているものは何か、といった「問い」を立て、能動的に学ぶ姿勢を身につける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス、編集会議		教科書『メディアの卒論』の第1章「テーマの決め方」を読む	
第2回	先輩の卒業制作の構成や文章の書き方、写真の撮り方を調べる		過年度の卒業制作に目を通す。一眼レフで写真を撮ってみる。	
第3回	文献の探し方、文献リスト、レジュメの書き方		文献リストの書き方を調べ、作成。文献を探し、入手し、読む（課題①）	
第4回	文献の引用の仕方		文献を読み、引用の仕方を見る。	
第5回	文献の内容報告		レジュメを書いてくる。全員の担当論文に目を通してくる。（課題②）	
第6回	編集会議		企画案を考えてくる（課題③）	
第7回	言説分析・内容分析の方法論を学び、実践する①		教科書第2章「ディスコース分析、内容分析」を読む	
第8回	言説分析・内容分析の方法論を学び、実践する②		分析してみたいメディアコンテンツを探す	
第9回	データベース活用① 契約データベースを使って、自分のテーマを掘り下げる		調べたいことを考えてくる	
第10回	データベース活用② e-stat で世論調査のエクセルデータをダウンロードし、グラフや表を作る		調べたいことを考えてくる	
第11回	新聞・雑誌記事のフォーマットに沿って、オリジナルの短い記事を書いてみる（課題④）		模倣したい記事、書きたいネタを探し、持参（お店紹介、流行現象など）	
第12回	文章の書き方、文字校正		ドラマ「校閲ガール」の視聴	
第13回	メディアコンテンツにおける画像の扱い方		使いたい写真の撮影、データの加工	
第14回	雑誌の企画提案書を書いてみる（課題⑤）		対象とする雑誌のバックナンバーの熟読、企画提案書の執筆	
第15回	夏休み・後期に向けての課題の明確化		スケジュール案の作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％（5回の課題） 添削し、授業中に戻します。口頭でのコメントの場合もあります。			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	40％（ディスカッションなどへの参加の度合い）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・PCを使わない日は、教室が変更になる場合があります。			
教科書	藤田真文、2011、『メディアの卒論』ミネルヴァ書房			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜12:30-15:00		メールアドレス	

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	一ノ瀬 元史		単 位	4
授業の目的 と概要	ネットワーク社会においては、ICTがくらしを支え、コミュニケーションのあり方を変化させ、またビジネスのあり方も変化させています。そこには、たくさんの情報システムの働きがあります。それを支えているのはいうまでもなくコンピュータです。ここではコンピュータの働きを知るために、デスクトップパソコンを組み立ててみて、構造を学びます。またネットワークについても基本的な知識を学び情報社会の仕組みについて概観できるようになることです。			
到達目標	a)コンピュータの仕組みが理解できる。 b)ネットワークの基本的な仕組みが理解できる c)情報システムの仕組みを概観できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 講義内容について DVD視聴		第2回の予習 CPU,マザーボードについて	
第2回	パソコンの構造について① CPU、マザーボード		第3回の予習 記憶装置について	
第3回	記憶装置 主記憶装置、補助記憶装置		予習 周辺機器 出力装置	
第4回	出力装置 ディスプレイ、プリンター		予習 周辺機器 入力装置、電源装置	
第5回	入力装置 キーボード、マウス 電源装置について		情報システムのインフラについて	
第6回	学外研修 NTT		見学研修レポート	
第7回	PC組立て 1		予習 組立てについて	
第8回	PC組立て 2 ケーブル配線		復習 組立てについて	
第9回	PC組立て 3		復習レポート	
第10回	OSやドライバソフトのインストール		復習 ソフトのインストールについてレポート	
第11回	その他のアプリケーションのインストール		プログラミングについて	
第12回	PC ネットワーク接続 動作確認		プログラム作成	
第13回	プログラム作成 1		プログラム作成	
第14回	プログラム作成 2		プログラム作成	
第15回	プログラム作成 3		プログラム作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％			
小テスト等	なし			
成果発表	20％			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑紫女学園大学の電子メールアドレス宛に送信された電子メールを少なくとも毎日1回は閲覧すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	水、金 15:00-17:30 メール等で事前に連絡をお願いします。	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	栗山 俊之		単 位	4
授業の目的 と概要	現代社会の諸問題の中から、自らの問題意識に従って研究テーマを選び出し、問題に関わる先行研究・書籍・メディア資料・現地資料等に触れながら問題の本質に迫る。 その時点までの研究成果を纏め、発表し、ゼミ生と討議しながら研修を進展させていく。			
到達目標	1、現代社会の諸問題から、自らの研究テーマを絞り込むことができる。 2、自ら見出した研究テーマについて、書籍、メディア資料、現地研修などを通して、掘り下げることができる。 3、研究を纏め、レジュメを作成し、発表することができる。 4、ゼミ生同士で各自の研究をもとに討議することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ゼミということ		ゼミ選択の動機について説明できるように	
第2回	ゼミの進め方		研究テーマ・現地研修に訪れたい場所について考える	
第3回	資料蒐集の方法		研究テーマに関する資料を探す	
第4回	研究成果を纏める		レジュメ見本について熟考	
第5回	レジュメに基づき発表①		レジュメを作って発表の準備	
第6回	レジュメに基づき発表②		レジュメを作って発表の準備	
第7回	現地研修（1）		分担箇所の説明ができるように（1）	
第8回	現地研修（2）		分担箇所の説明ができるように（2）	
第9回	現地研修（3）		分担箇所の説明ができるように（3）	
第10回	現地研修の成果発表①		現地研修の成果発表の準備①	
第11回	現地研修の成果発表②		現地研修の成果発表の準備②	
第12回	研究テーマの纏め方		研究成果を纏める手段を決める	
第13回	中間発表会①		中間発表の準備	
第14回	中間発表会②		中間発表の準備	
第15回	専門ゼミナールⅡの計画		専門ゼミナールⅡにおいて何をしたいのか考える	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	中間発表 50％			
受講態度他	レジュメ、討議への姿勢、講義に向き合う態度 50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	現地研修を行います。講義中に伝える諸注意を厳守してください。			
教科書	プリントを配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスワー	月曜 4 講目	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	吉野 嘉高		単 位	4
授業の目的と概要	吉野ゼミの課題、「取材に基づく映像コンテンツを制作する」ためには、まず取材に必要な「コミュニケーション能力」とは何かを理解する必要がある。採用面接でも重要視される「コミュニケーション能力」はおしゃべりを続ける力ではないし、周りの空気に合わせて透明人間のように振る舞うテクニックでもない。「対話」をする能力である。 この授業では、「対話」が少なくなりつつある私達の生活環境について理解を深めたうえで、実際の取材現場で発揮できる「コミュニケーション能力」＝「対話」のスキルを磨くことを目的とする。その能力を試すフィールドは「対馬」である。対馬では、あるテーマを「対話」によって掘り下げ、新たな事実や価値を探り当てることを目指す。			
到達目標	・コミュニケーション能力とは何かを説明できる。 ・対話とは何かを説明できる。 ・異質な他者と対話することができる。 ・状況に応じて質問を工夫することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（なぜ対馬なのか？なぜ3年次は番組化しないのか？）		テキストP11～P40熟読	
第2回	取材で求められる「コミュニケーション能力」とは		配布資料の熟読	
第3回	「会話」と「対話」の違いについて		配布資料の熟読	
第4回	”日本の縮図”としての対馬とは		配布資料の熟読	
第5回	対話を阻む要因①”その場の空気”とは		配布資料の熟読	
第6回	対話を阻む要因②”プライバシーの誤解”とは		配布資料の熟読 対馬についてのリサーチ	
第7回	対馬について情報交換&ディスカッション		配布資料の熟読	
第8回	取材のメソッド①取材依頼の仕方		配布資料の熟読	
第9回	取材のメソッド②問いの立て方		配布資料熟読	
第10回	取材のメソッド③思いの伝え方		配布資料の熟読	
第11回	取材のメソッド④会話のテンポ		テキストP77～P113熟読	
第12回	対馬の魅力、問題についてディスカッション		配布資料の熟読	
第13回	インタビュー撮影の仕方		配布資料の熟読	
第14回	インタビュー撮影の練習		配布資料の熟読	
第15回	まとめ（ディスカッション）		配布資料の熟読	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 対馬についてのレポート			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 締め切り日時を順守すること（20%）完成度（10%）			
受講態度他	40% 積極的な発言やゼミ全体への貢献度で評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業を休む場合は前日までに連絡すること。情報共有をすること。 5月頃、対馬で一泊二日のリサーチを行う。 受講生の価値観は多様化しているため、ゼミ運営は柔軟な姿勢が求められ、スケジュールにも変更が生じます。			
教科書	平田オリザ『わかりあえないことから』講談社現代新書			
指定図書	なし			
参考図書	吉野嘉高著『テレビ番組制作実践講座 企画・取材・編集のメソッド』樞歌書房、中島義道『＜対話＞のない社会』PHP新書、山田ズーニー『話すチカラをつくる本』知的生き方文庫			
オフィスアワー	火曜日昼休み（12:20～13:10）水曜日昼休み（12：20～13:10）	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	一木 順		単 位	4
授業の目的と概要	ポピュラー文化を通して現代社会の諸相について考えるということを主な目的とする。それによって、さまざまな政治的、経済的、社会的関係の中にとりこまれた自分自身が、社会とどのような関係を結んでいるのかを理解する。 また成果発表のための作業を通して、自ら問いを立てること、自らの思索を深めること、そのために他者との共同作業を行うこと、を実践する。			
到達目標	a) 自分が普段親しんでいるポピュラーメディア（映画、まんが、音楽、テレビなど）の中から自分で問題を発見することができる。 b) その問題について、先行研究、参考文献の検索、フィールドワーク、インタビュー、アンケートの実施などの調査を行うことができる。 c) 調査結果を文章にまとめて、その問題について自分の言葉で語ることができる。 d) 問題提起・研究経過・分析解釈を短時間で要約し、口頭発表し、質疑応答に答えて対話することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 「専門ゼミナール（一木）」を履修するうえで「映画・映像論」もあわせて履修することが望ましい。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 授業の概要の説明			なし	
第 2回 研究トピックの発表および質疑応答			それぞれの研究題材について、一人約10分の発表準備	
第 3回 映画を「読む」行為について			America on Film（配布資料）を読んでもくこと	
第 4回 映画を「読む」行為について			America on Film（配布資料）を読んでもくこと	
第 5回 「読み」の多様性①			『シンゴジラ（予定）』鑑賞レポート	
第 6回 「読み」の多様性②			担当者が指定した課題を行うこと	
第 7回 問いを立てる①			担当者が指定した課題を行うこと	
第 8回 問いを立てる②			担当者が指定した課題を行うこと	
第 9回 材料を集める①			文献リスト1（図書編）作成	
第10回 材料を集める②			文献リスト1（雑誌記事、論文編）作成	
第11回 材料をまとめる①			キーワードリストを完成させること	
第12回 材料をまとめる②			強制連結リストの作成	
第13回 研究計画表の作成			個人研究計画表の作成	
第14回 グループ活動			強制連結リストの手直し	
第15回 まとめ			なし	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	80% 授業内の小レポート60％、自分の発表についてのテーマ、アウトライン、文献一覧20%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	20% 授業内での取り組みを勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須である。授業に際しては、自分の担当部分、発表に関して責任を持って行うこと。やむを得ず自分の発表回に欠席せざるを得ないときは、自分の責任で他の人と発表を代ってもらふこと。			
教科書	適宜プリントを配布する			
指定図書	『America on Film』、 『映画分析入門』（ライアン）			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスアワー	木曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期	
担 当 教 員	荒巻 龍也		単 位	4	
授業の目的と概要	1) 映像（メディア）リテラシー演習を通して映像メディアに関する理解を深める。 2) 企画（コンテ作成）から撮影、編集までの映像作品（CM、PR動画など）を制作する。 3) テレビCM、ネット動画などを題材としたケーススタディにより、映像表現（方法）などを学び映像制作に活かしていく。 4) 映像関連産業（広告含む）などに関してケーススタディ、ビジネスモデル（BMG）分析などを行い、研究成果をまとめ・発表する。 ゼミ形式で「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業ゼミナールⅠ・Ⅱ」と継続して学びます。映像(産業含む) 関連の専門的な知識とスキルを身につけること、専門研究を通して研究方法や発信方法を磨くこと、ゼミ活動全般から自主性、協働性そしてコミュニケーション能力などのジェネリックスキルを身につけることを目指します。				
到達目標	1. 映像メディア全般ならびに 映像関連産業（広告含む）などに関してケーススタディなどを行い、研究成果をまとめたり、発表したりすることができるようになる。 2. 企画（コンテ作成）から撮影、編集までの映像作品（CM、PR動画など）を制作することができるようになる。 3. テレビCM、ネット動画などを題材としたケーススタディなどにより映像表現（方法）などを学び、映像制作に活かすことができるようになる。 4. ゼミ活動全般から自主性、協働性そしてコミュニケーション能力などのジェネリックスキルを身につけることができる。				
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。				
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など		
第1回 オリエンテーション 映像とは何か、映像の持つ影響力			まとめ課題1（映像の持つ影響力について）		
第2回 グループワーク演習(1) オリエンテーション～議論			実習課題1（議論）		
第3回 グループワーク演習(2) 議論～情報収集・発表			実習課題2（情報収集・発表）		
第4回 映像制作手順(1) 企画から撮影まで、撮影実習(1)			実習課題3（企画作成）		
第 5回 映像制作手順（2） 撮影実習(2)			実習課題4（ロケハン、絵コンテ作成）		
第 6回 映像リテラシー(1)テレビCM1 私たちとテレビコマーシャル			映像リテラシー課題1（テレビ番組のCM数量分析）		
第 7回 映像リテラシー(1)テレビCM2 CMで学ぶ映像言語			映像リテラシー課題2（CM映像言語分析）		
第 8回 映像リテラシー(1)テレビCM3 ターゲット・オーディエンス			映像リテラシー課題3（CMターゲット・オーディエンス分析）		
第 9回 映像制作（1）夏(1) 撮影(1) 撮影日程～撮影			映像制作課題1（撮影素材整理、テープ起こし）		
第 10回 映像制作（2）夏(2) 撮影(2) 撮影日程～撮影			映像制作課題2（撮影素材整理、テープ起こし）		
第 11回 映像制作手順（3） 撮影～編集まで			実習課題5（映像編集）		
第 12回 テキスト『映像メディアのつくり方』（1） 1章メディアを製作する、2章 メディアの種類と特徴			まとめ課題2		
第 13回 テキスト『映像メディアのつくり方』（2） 3章 テレビ番組のジャンル			まとめ課題3		
第14回 テキスト『映像メディアのつくり方』（3） 6章 CM、10章 CM制作			まとめ課題4		
第15回 映像編集手順(4) 実践～企画書・企画コンテ作成～			実習課題6（カップ麺企画、ACC学生CM）		
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	0% なし				
レポート	65% 映像制作課題（作品）(10%)、まとめ課題(15%)、実習課題（25%）、映像リテラシー課題（15%）				
小テスト等	0% なし				
成果発表	25% グループワーク（15%）、口頭発表・プレゼンテーション（10%）				
受講態度他	10% 受講態度、活動参加状況ならびに授業中やフォーラムでの発言など				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業では予習・復習が効果的にできるように、LMS（e-Learningシステム）である「筑女ネット」を利用しますので、少なくとも授業でわからなかったところの確認や授業に出席できなかった場合のフォローアップをしておいてください。提出した課題はその都度返却します。 授業ではグループで行う作業も多くなります。また4年生と共同でやることも多くなりますし、4年生の作品制作やレポート作成などに協力することもあります。				
教科書	なし（「筑女ネット」のオンライン教材ならびにプリント）				
指定図書	なし				
参考図書	授業でその都度紹介します。 久保田賢一 編著 『映像メディアのつくり方』 北大路書房				
オフィスアワー	火曜日2限目（10:50-12:20）、水曜日2限目（10:50-12:20）		メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】			開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小山 昌宏			単 位	4
授業の目的と概要	1. この授業は、卒業研究にいたるマンガ研究分野における基礎教養、テキスト読解力、課題設定力を身に着けることを目的とする。 2. マンガ研究分野から、卒業研究に向けた幾つかのテーマ候補をみつけだすことを目的とする。 3. 具体的には、講義前の教科書による予習、レジュメ（資料）のまとめによる知識の体系化、発表、討論による理解の深化を通して、立体的にゼミ討論内容を理解することを目的とする。 4. 3限は基礎読解、4限は著作権の学習、マンガ、アニメ、映画、舞台、ライブなどの作品鑑賞、プレゼン、討論をおこなう				
到達目標	1. マンガ表現の原理、その発展から日本のマンガの歴史、制作上の問題点、課題について説明することができる。 2. マンガメディア、マンガ文化の概要について、説明することができる。 3. 政府の文化政策とマンガ文化が有する諸問題点を発見し、それについて掘り下げ、考えることができ、その内容について報告ができる。 4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、独自の「マンガ観」を形成することができる。 5. ゼミ運営、参加を通して、テーマに関する知識運用、対話能力、企画力、表現力を向上させる。				
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第1回	3限・4限：オリエンテーション	ゼミナールの計画、全体日程、到達目標の確認、相談		教科書：マンガ研究13講（水声社） 回授業分を予習する	第2
第2回	3限：マンガ研究1	第1章：【教育論】 マンガ教育と学校（伊藤剛）	4限：自由課題	教科書：マンガ研究13講（水声社） 回授業分を予習する	第3
第3回	3限：マンガ研究2	第2章：【歴史論】 マンガ史はどのように記述されてきたのか？（遠藤広之）	4限：自由課題	教科書：マンガ研究13講（水声社） 回授業分を予習する	第4
第4回	3限：マンガ研究3	第3章：【文学論】 マンガ、文学、ライトノベル（大橋崇行）	4限：自由課題	教科書：マンガ研究13講（水声社） 回授業分を予習する	第5
第5回	3限：マンガ研究4	第4章：【表現論】 マンガ表現論の「歴史」とその展望（小山昌宏）	4限：自由課題	教科書：マンガ研究13講（水声社） 回授業分を予習する	第6
第6回	3限：マンガ研究5	第5章：【キャラクター論】 キャラクターを見る、キャラクターを読む（岩下朋世）	4限：自由課題	教科書：マンガ研究13講（水声社） 回授業分を予習する	第7
第7回	3限：マンガ研究6	第6章：【ジェンダー論】 マンガの／で、ジェンダーを考えること（西原麻里）	4限：自由課題	教科書：マンガ研究13講（水声社） 回授業分を予習する	第8
第8回	3限：マンガ研究7	第7章：【映像・芸術論】 マンガにみる複数の瞬間（増田展大）	4限：自由課題	教科書：マンガ研究13講（水声社） 回授業分を予習する	第9
第9回	3限：マンガ研究8	第8章：【記号論・物語論】 マンガにおける物語論の可能性（小池隆太）	4限：自由課題	教科書：マンガ研究13講（水声社） 回授業分を予習する	第10
第10回	3限：マンガ研究9	第9章：【産業論】 漫画を支える作家・編集者のあり方（玉川博章）	4限：自由課題	教科書：マンガ研究13講（水声社） 回授業分を予習する	第11
第11回	3限：マンガ研究10	第10章：【同人誌論】 インフラ整備からみる同人誌即売会・同人文化の成長	4限：自由課題	教科書：マンガ研究13講（水声社） 回授業分を予習する	第12
第12回	3限：マンガ研究11	第11章：【観光論】 「マンガ」と「観光」の重層的関係（岡本健）	4限：自由課題	教科書：マンガ研究13講（水声社） 回授業分を予習する	第13
第13回	3限：マンガ研究12	第12章：【ミュージアム論】 「メディア」としてのマンガミュージアム（伊藤遊）	4限：自由課題	教科書：マンガ研究13講（水声社） 回授業分を予習する	第14
第14回	3限：マンガ研究13	第13章：【海外受容論】 「マンガ」の「国籍」について（小田切博）	4限：自由課題	教科書：第15回の小テスト、研究発表の準備をおこなう	
第15回	小テスト（3年生：テキスト理解の確認） 研究報告（4年生：卒研のためのプレゼン）			発表テーマを創業研究の候補のひとつとしてストックしておく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	なし				
レポート	20％（作成資料の完成度）				
小テスト等	50％（テキストの理解確認）				
成果発表	20％（各回の報告、最終回のプレゼンを含む）				
受講態度他	10％（議論、討論への積極性を評価）				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 3限：教科書は毎回、担当者が要約し、レジュメを用意する。 4限：自由課題につき、オリエンテーションにて計画詳細を練る 2. マンガメディアの基礎を身に着けつげるためにテキストの精読をおこなう 3. 13講（章）あるので、8人（4年生含む）のうち、5人は2回担当当番になる。 4. 報告形式は、レジュメ（文章式）、パワーポイント（図解式）のどちらでもよい。				
教科書	小山昌宏・玉川博章・小池隆太編『マンガ研究13講』（水声社）				
指定図書	なし				
参考図書	小山昌宏『戦後「日本マンガ」論争史』（現代書館）、竹内オサム・西原麻里編『マンガ文化 55のキーワード』（ミネルヴァ書房）				
オフィスアワー	水曜日 4限目（14:50～16:20）・金曜日 3限目（13:10～14:40）		メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	岡本 文子		単 位	4
授業の目的 と概要	現代社会を生きる私たちの身に着けている衣服は、連綿と受け継がれてきた服飾史の延長線上にある。日常意識する機会の少ない衣服のしくみへの理解を深めることを通して、服飾と社会との関係に関心を持ち、服飾の社会的役割を理解することを目的としている。 本演習では、各自が服飾史やファッション・トレンドなどからテーマを設定し調査・分析を行う。その社会背景や特徴について理解を深め、最終的にテーマに沿った1つのデザインを決定する。 決定したデザインは後期専門ゼミナールⅡでトータル製作へ繋がる。			
到達目標	・「考えること」「立案すること」「計画すること」の重要性を認識し、日常のなかからさまざまな課題を見出すことができる。 ・現代社会と服飾史の関係について理解し、簡潔に説明できる。 ・現代社会と近現代のファッション・トレンドについて理解し、簡潔に説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（今後の進め方）		研究方法の整理	
第2回	資料・文献の検索		検索資料の整理	
第3回	資料収集（服飾史18世紀～19世紀）		当該資料の整理	
第4回	資料収集（服飾史19世紀）		当該資料の整理	
第5回	資料収集（服飾史20世紀）		当該資料の整理	
第6回	資料収集（ファッション・レンド 近代）		当該資料の整理	
第7回	資料収集（ファッション・トレンド現代）		当該資料の整理	
第8回	テーマ設定		これまでの資料整理	
第9回	テーマの背景（定義など）		資料収集	
第10回	テーマの資料収集（社会背景など）		資料収集	
第11回	テーマの特徴		資料収集	
第12回	レポート作成		レポート完成	
第13回	テーマデザインの検討		資料整理	
第14回	テーマデザインの決定		画像資料の整理	
第15回	まとめ		まとめの復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％			
小テスト等	0％			
成果発表	50％			
受講態度他	0％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	特になし			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	金曜日 12：00～13：00		メールアドレス	

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	栗木 明裕		単 位	4
授業の目的と概要	栗木ゼミ「健康的なライフスタイルを考えるゼミ」では人や生活についての調査や実験を通して理解を深め、生活環境や社会環境から健康を捉えて快適なライフスタイルを考えていく。 専門ゼミナールⅠでは、卒業研究に至る研究分野の基礎知識・技術を習得することを目的としている。そのため、ゼミで使用する研究方法をオムニバス形式で学び、自分自身の興味あるテーマを明確にする。これを基礎に専門ゼミナールⅡにおいて研究テーマを設定し、必要な関連資料の収集・整理を行い、研究計画書を作成して具体化していく。さらに、適宜作業内容をアウトプットすることにより、知識を深め体系化する。最終的には4年次の卒業ゼミナールⅠ・Ⅱへと発展し、研究論文としてまとめていくこととなる。			
到達目標	1.世間に流布されている様々な情報の中から必要な情報を収集し、見極める能力を養う（情報リテラシーを養う）。 2.自己のテーマに関する情報を自ら収集することができる。 3.自己のテーマに関する知識を吸収し、咀嚼して説明することができる。 4.研究を進めるための基本的な手順・手法について説明することができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション～ゼミの概要、授業の進め方の説明		研究分野の概要を調べる（予習）	
第2回	健康を知る		世界保健機構前文やその他の資料から自分なりの考えをまとめる（予習）	
第3回	健康情報（１）：衛生統計		指定した統計データを抽出する（予習）	
第4回	健康情報（２）：成人保健		現代のライフスタイルが招く健康問題を調査する（予習）	
第5回	健康情報（３）：身近な生活圏の情報		調査データや政策から考えられる社会の諸問題をまとめる（予習）	
第6回	健康情報（４）：ダイエットなど巷に流布する健康情報を読み解く		ゼミ生の興味に応じた情報を抽出し、まとめる（予習）	
第7回	人の動きを知る（１）：力学の基礎		ニュートンの法則を確認しておく（予習）	
第8回	人の動きを知る（２）：バイオメカニクスの方法（運動学的、生理学的手法）		配布資料を熟読する（予習）	
第9回	人の動きを知る（３）：測定		配布資料を熟読する（予習）	
第10回	人の動きを知る（４）：分析・考察		配布資料を熟読する（予習）	
第11回	生活環境とストレス（１）：現代社会とストレス		身の回りのストレスラーを調べる（予習）	
第12回	生活環境とストレス（２）：ストレスと向き合う		自分自身あるいは身近な人々の様子を観察する（予習）	
第13回	生活環境とストレス（３）：ストレスへの対処		ストレスへの対処法を考える（予習）	
第14回	スポーツを楽しむ：ダイエットや健康づくりに有用な身体活動を考える（企画・実践）		大学や太宰府などの生活環境を活かした身体活動を企画する（予習）	
第15回	まとめ（発表）と専門ゼミナールⅡへの準備		自己のテーマに関する調査状況をまとめる（予習）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 全授業中に1回課す（30％）授業ごとに小課題（30％）			
小テスト等	実施しない			
成果発表	30％（全授業中に1回課す）			
受講態度他	10％ 積極的な態度、発言 私語など受講態度が悪く、授業の進行や他の学生の妨げとなる場合は減点もあり得る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	専門ゼミナールは、卒業ゼミナールへとつながる大切な科目である。この科目で研究の方向性を定めて学びを深めていく。 自分自身で主体的に決断し、進めていかなくてはならないため、自身の興味を大切にして、自分自身で考えることを大切にする。 授業内容に応じて学外で授業を行うことがあるので、適宜指示する。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	水曜日12：20～14：40（事前連絡要）		メールアドレス	

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	安恒 万記		単 位	4
授業の目的 と概要	子どもと環境について、学生が自らの問題意識に即して調査、研究を行い、現代社会における子どもと環境に関する課題を見出し、深く考察することを目的とします。 研究課題に関する文献、資料に幅広く触れ、目的にあったデータ収集の方法、適切な分析、問題を発見する力や論理的能力、加えてそれを発表することでプレゼンテーション能力、さらに、討論やフィールドワークを通してコミュニケーション能力をも身に付けることを目的とします。			
到達目標	1.子どもと環境について、現代社会における問題・課題を発見することができる。 2.その問題・課題について、参考文献や先行研究の検索、フィールドワークやアンケートなどの調査を提案することができる。 3.その問題・課題について、適切にまとめることができる。 4.テーマに沿って論点を見つけ、ディスカッションすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		興味、関心のあるテーマを考える	
第2回	年間ゼミナール計画の策定①		参加イベントやフィールドワーク、ヒアリング調査の情報収集	
第3回	年間ゼミナール計画の策定②		参加イベントやフィールドワーク、ヒアリング調査の計画立案	
第4回	参考文献、先行研究の整理①		参考文献、先行研究の情報収集	
第5回	参考文献、先行研究の整理②		発表準備	
第6回	フィールドワークA		調査計画	
第7回	フィールドワークAまとめ		発表準備	
第8回	文献、先行研究輪読①		発表準備	
第9回	文献、先行研究まとめ①		発表準備	
第10回	文献、先行研究輪読②		発表準備	
第11回	文献、先行研究まとめ②		発表準備	
第12回	フィールドワークB		発表準備	
第13回	フィールドワークBまとめ		発表準備	
第14回	参加イベント計画案立案		発表準備	
第15回	まとめ		発表準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	50％			
受講態度他	50％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	積極的な参加を期待します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて適宜授業内で指示します。			
オフィスアワー	木曜日 10：50～12：20		メールアドレス	

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	竹熊 真波・田村 史子・小林 知美・横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	このゼミナールの目的は2つあります。1つは、自分自身でテーマを設定し、資料を収集・分析し、議論を組み立てて発表できるようになることです。もっとも本格的なゼミナールはこれが初めてですので、発表のための基礎的な技術を身につけることが、より具体的な目的になります。もう1つは、これまでアジアについて勉強してきたことを踏まえて、アジアの言語・文化・社会に対する理解を深めていくことです。 これら2つの目的のために、各自が2回発表を行い、それに対する質疑応答を行う形で、ゼミナールを進めていきます。 1回目の発表は、準備も含めて発表の形式に慣れるため、いくつかの共通テーマを設けそれに基づき各自のテーマを設定し、2回目の発表は発表内容の理解を深めるため、興味のあるテーマを自由に設定してもらう予定ですが、具体的な方法は受講者の意見も踏まえながら決めます。			
到達目標	1.アジアの言語・文化・社会に関する特定のテーマに関して、資料を収集・分析できるようになる。 2.調べたことに基づき、問題設定を立てて発表できるようになる。 3.他の人の発表について、そのポイントを理解し、適切な質問ができるようになる。 4.発表を踏まえ、問題設定を立て結論を導くようなレポートを作成できるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(4) -①これまでに獲得した知識・技能・考え方等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 「専門ゼミナールⅡ」で、専任教員の専門性を理解した上で、「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」を履修することによって「卒業論文」を作成することにつなげます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション	演習の目的と進め方		各人の問題関心にあわせて、その都度課題を指示する。	
第 2回 発表へ向けての準備	資料の調べ方、議論の組み立て方		設定された共通テーマに従い各自の発表準備をする。	
第 3回 発表と質疑応答	共通テーマ発表 1		発表者はその準備、それ以外も自身の発表に向けて準備を進める。	
第 4回 発表と質疑応答	共通テーマ発表 2		発表者はその準備、それ以外も自身の発表に向けて（含2回目）準備を進める	
第 5回 発表と質疑応答	共通テーマ発表 3		発表者はその準備、それ以外も自身の発表に向けて（含2回目）準備を進める	
第 6回 発表と質疑応答	共通テーマ発表 4		発表者はその準備、それ以外も自身の発表に向けて（含2回目）準備を進める	
第 7回 発表と質疑応答	共通テーマ発表 5		発表者はその準備、それ以外も自身の発表に向けて（含2回目）準備を進める	
第 8回 2回目の発表に向けての確認			各人の発表テーマを確定し、その準備を進める。	
第 9回 発表と質疑応答	個別テーマ発表 1		発表者はその準備、それ以外も自身の発表に向けて準備を進める。	
第10回 発表と質疑応答	個別テーマ発表 2		発表者はその準備、それ以外も自身の発表、レポートに向けて準備を進める。	
第11回 発表と質疑応答	個別テーマ発表 3		発表者はその準備、それ以外も自身の発表、レポートに向けて準備を進める。	
第12回 発表と質疑応答	個別テーマ発表 4		発表者はその準備、それ以外も自身の発表、レポートに向けて準備を進める。	
第13回 発表と質疑応答	個別テーマ発表 5		発表者はその準備、それ以外も自身の発表、レポートに向けて準備を進める。	
第14回 レポート作成について			期末レポート準備	
第15回 全体の総括			期末レポート準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 2回の発表（内容、プレゼンテーション）			
受講態度他	30% 他の受講生の発表に対するコメント			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。 第2回の時に、発表の順番を決めますので必ず出席してください。 その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	水14:50～16:20（横山）		メールアドレス	

授 業 科 目	専門ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	佐々木 浩		単 位	4
授業の目的と概要	本講義は、専門ゼミナールⅠ、Ⅱ、卒業ゼミナールⅠ、Ⅱと半期の講義が4回連続する講義の最初の半年となる。この2年間で、「自然と共生する地域デザイン」をテーマにし、特に、人間とその他の動物とがどう共生していくことが良いのかを考えていく。野生動物、家畜など様々な動物が身の回りにいるが、人間社会が大きく変化してきており、新しいより良き社会を作り出すために、関連資料の収集等による課題の探索、課題を解決するための研究計画の立案、調査の実施、結果の分析、具体的に地域においてそれを考え、実践することによって、課題発見、解決能力を身につけることを目的とします。これらの過程で、プレゼンテーションや論理的な議論の技術も学びます。この半年では、関連資料を収集して課題の探索を行い、解決策を模索するための研究計画を検討していくことが中心となります。			
到達目標	1.「自然と共生する地域デザイン」について、参考資料を収集して課題を発見することができる。 2.課題の解決策を模索するための研究計画を立案することができる。 3.課題の解決策を模索するため、論理的な議論ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		関心のあるテーマについて情報収集を行う。	
第2回	ゼミとしての年間計画の検討		関心のあるフィールドワークのリストアップ。	
第3回	ゼミとしての年間計画の検討		関心のあるフィールドワークのリストアップ。	
第4回	文献収集		各自の関心のある参考文献収集	
第5回	文献紹介1		文献を読んでレジメを作成してください。	
第6回	文献紹介2		文献を読んでレジメを作成してください。	
第7回	フィールドワーク1		必要な準備をしてください	
第8回	フィールドワーク2		必要な準備をしてください	
第9回	文献紹介3		文献を読んでレジメを作成してください。	
第10回	文献紹介4		文献を読んでレジメを作成してください。	
第11回	フィールドワーク3		必要な準備をしてください	
第12回	フィールドワーク4		必要な準備をしてください	
第13回	研修計画の検討1		情報収集をしてください。	
第14回	研修計画の検討2		情報収集をしてください。	
第15回	まとめ		発表準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	論文紹介のレジメ 40％ フィールドワークの報告 40％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的な参加を期待します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜日 3講時	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	野中 亮		単 位	4
授業の目的と概要	地域生活を、特に文化の観点から研究することを主な目的とします。 おおまかな流れとしては、(1)地域生活と文化に関する理解を深めて、(2)個々の問題意識を明確にし、(3)実際に調査研究をおこなって、(4)簡単な報告書にまとめる、というものです。これらの研究を通じて、4年次の卒業研究に備えます。 フィールドワークなどで正規の時間外（週末や夏休み）にも研究活動を行います。また、研究テーマによっては、シラバスの予定変更や交通費などの負担が発生することもあり得ます。研究対象とする地域や文化現象は、日常的な調査が可能な福岡県内～九州北部地方を対象とする予定です。			
到達目標	・地域生活と文化に関する専門的な知識をもとに、研究課題を設定できるようになる ・設定した課題を研究するための、研究・調査の方法を身に付ける ・地域研究に関する研究成果の要点を整理できるようになる ・自分の研究成果を整理し、卒業報告レベルの課題設定や研究・調査方法の策定ができるようになる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 「専門ゼミナールⅠ」から引き続き、「卒業ゼミナールⅠ・Ⅱ」につながる授業です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			前期の成果の確認	
第2回 実査と補足調査1			スケジュールの確認等、実査の準備	
第3回 実査と補足調査2			スケジュールの確認等、実査の準備	
第4回 実査と補足調査3			スケジュールの確認等、実査の準備	
第5回 調査データの整理1：概要報告			各自の調査データの概要をまとめ報告の準備をしておくこと	
第6回 調査データの整理2：調査データの精査			お互いの調査データに関する解釈・分析案を用意しておくこと	
第7回 報告書のプロット作成			仮説とデータを照らし合わせプロットを作成しておくこと	
第8回 報告書をまとめる1：調査の目的と概要			報告書の原稿を用意してくる	
第9回 報告書をまとめる2：先行研究のレビュー			報告書の原稿を用意してくる	
第10回 報告書をまとめる3：データの検討			報告書の原稿を用意してくる	
第11回 報告書をまとめる4：結論			報告書の原稿を用意してくる	
第12回 報告書原稿のしあげ			お互いの報告書に対するコメントを用意しておくこと	
第13回 卒業研究にむけて1：後期研究成果の総括			各自の研究成果の総括	
第14回 卒業研究に向けて2：研究課題の方向性の確認			各自の研究の方向性の立案	
第15回 まとめ			今年度の研究成果の整理	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 文献の概要報告やテーマ案の提案など、各回の報告を成果発表とみなします。			
受講態度他	50％ 成果発表以外のゼミ運営への貢献を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・出席は必須です。自分の担当については責任をもって取り組んでください。 ・全体を通じ、共同作業が多くなります。作業分担や報告の順番など、受講者同士でマメに連絡・相談・融通しあい、有意義な学びの場にしましょう。 ・野外活動があります。健康状態など配慮すべき事項がある場合は遠慮なく、というより必ず、早めに申し出てください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	谷富夫・芦田徹郎『よくわかる 質的社会調査』ミネルヴァ書房 佐藤郁哉『フィールドワーク：書を持って街へ出よう（増訂版）』新曜社			
オフィスアワー	月曜4限	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	花野 裕康		単 位	4
授業の目的と概要	前期の専門ゼミナールⅠで総論～個別具体的に（途中まで）検証した「歌は世につれ世は歌につれ」をさらに進めて分析・理解・予測して行く。各自の関心で組織されたグループごとの研究がメインになるので「個別具体的」な事例研究がメインとなる。ただし、適宜総論的な視点も取り入れることで、俯瞰的かつ重層的な事例研究が行えるようにグループ内でディスカッションを重ね、最終的に専門ゼミとしての最終報告を行えるまでに持って行く。専門ゼミナールⅠに引き続き、フィールドワークや調査も適宜取り入れて行く。			
到達目標	①グループ内のディスカッションを通して自身の事例研究を進めて行くことができるようになる ②フィールドワークや調査の段取りを理解・実行し、自身の事例研究を実証化することができるようになる ③自身が設定した個別具体的な「音楽」について、社会学的に5,6分で門外漢でも理解できるように説明することができる ④卒業制作に向けての方針と方向性を適切に把握し卒業ゼミナールへのシームレスな接続を準備できるようにになる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 本ゼミナールは2年次に履修した「基礎専門ゼミナール」の発展版および3年次前期「専門ゼミナールⅠ」の続編として、この基礎の上に立つ性格を持ちます。その他、「メディアと文化」「現代社会学概論 I&II」「消費社会論」さらにメディア社会コースの科目となりますが、「ポピュラー文化論」や「サブカルチャー論」なども関連がある科目となります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		前期専門ゼミナールⅠの中間報告をたたき台に自身のプランを文章化しておく	
第2回	総論の確認と発展①：社会から音楽へ		自身および自グループのテーマとの関連性を考え文章化しておく	
第3回	総論の確認と発展②：音楽から社会へ		自身および自グループのテーマとの関連性を考え文章化しておく	
第4回	最終報告への指針検討		中間報告を再確認し、グループごとに指針を確定しておく	
第5回	最終報告への指針発表①（グループ前半）		グループ内で当該指針を再確認し、さらに今後に向けた意見交換をしておく	
第6回	最終報告への指針発表②（グループ後半）		グループ内で当該指針を再確認し、さらに今後に向けた意見交換をしておく	
第7回	グループごとの調査①：文献探索		文献探索を進め、入手困難な文献について、入手経路を確保しておく	
第8回	グループごとの調査②：ネット探索		ネット探索を進め、情報別に分類・整理しておく	
第9回	グループごとの調査③：ネット調査		行ったネット調査の整理を進めておく	
第10回	グループごとの調査④：フィールドワーク		フィールドノート（および音声、映像等）の整理を進めておく	
第11回	プレ最終報告①（グループ前半）		自身のグループ報告の事前事後チェックと他グループの批評を進めておく	
第12回	プレ最終報告②（グループ後半）		自身のグループ報告の事前事後チェックと他グループの批評を進めておく	
第13回	最終報告③（グループ前半）		各自最終報告の「さらに先」を情報収集しておく	
第14回	最終報告④（グループ後半）		各自最終報告の「さらに先」を情報収集しておく	
第15回	総括と卒業ゼミナールへの接続		卒業ゼミナールに向けて最終報告をいかに発展させて行くか文章化しておく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％（なおレポートは次週授業開始時[その週休んだ場合はそれ以降の授業開始時、また授業終了後の場合はオフィスアワー時]に返却する）			
小テスト等	なし			
成果発表	50％			
受講態度他	欠席やゼミに積極的に参加しない等、受講態度が芳しくない受講者に関しては、レポートの提出や成果発表をさせないことがある。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。これまでの自らの経験と知識とを総動員しながら考えつつ受講すること。授業に積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールで相談		メールアドレス	

授 業 科 目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大橋 健治		単 位	4
授業の目的 と概要	この授業は、人材開発をテーマとした自らの研究計画書を完成させることを目的に行う。そのため、実施計画書（目的達成に向けた活動計画）を作り、月度毎にゼミ全体でレビューを行う。また、大橋が1～2年生の授業で行っているTBL（Team-Based Learning）を用いた授業の理論背景を学ぶとともに、Learning Assistantとして授業に参画するという体験学習をする。そして、ゼミ生同士が議論を進める中で気づき、自らの研究テーマを固めていくこととする。			
到達目標	1. 実施計画書（目的達成に向けた活動計画）を作りその月度レビューができる。 2. 自らの研究計画を創り上げ、問題意識、研究の背景、先行研究、研究の枠組み、実行計画をプレゼンテーションすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要説明と進行方法の打ち合わせ		シラバスの通読と質問の準備	
第2回	実施計画書のレビューと次月度に向けた課題の生成（夏休み分）		実施計画書をベースにした実績と課題の洗い出し	
第3回	TBLの理論（マイケルセン）と大橋のモデルの理解、および観察調査の視点		プリント（大橋の論文）の熟読と質問の準備	
第4回	TBLによる授業の観察調査の視点づくり		チーム討議、クラス討議の何を観察すればよいかを考えてくる	
第5回	TBLによる授業の観察調査の実施		定めた視点に基づいた授業の観察調査のまとめをする	
第6回	実施計画書レビューと次月度に向けた課題の生成（10月度分）		実施計画書をベースにした実績と課題の洗い出し	
第7回	TBLによる授業の観察調査の成果		観察調査の結果わかったことを整理してくる	
第8回	経験学習の理論		プリント（経験学習に関する研究論文）の熟読と質問の準備	
第9回	自らの研究テーマの探索Ⅰ		自らの研究テーマを考えてくる	
第10回	自らの研究テーマの探索Ⅱ		自らの研究テーマを考えてくる	
第11回	実施計画書レビューと次月度に向けた課題の生成（11月度分）		実施計画書をベースにした実績と課題の洗い出し	
第12回	研究計画書づくりⅠ（要領の説明と作成）		プリントの熟読と質問の準備	
第13回	研究計画書づくりⅡ（発表と質疑応答）		各自の研究計画書の完成とプレゼンテーションの準備	
第14回	研究計画書づくりⅢ（発表と質疑応答のつづき）		各自の研究計画書の完成とプレゼンテーションの準備	
第15回	研究活動について 授業のまとめ		特になし	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 実施計画書の作成とレビュー（25％）、研究計画書の作成とプレゼンテーション（25％）			
受講態度他	50％ 聞く（訊く）態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように、本授業では「教えあい学びあうことを通じて深い学びを得る」という手法を導入する。この手法を成立させる大前提は、授業を担当する学生と授業を受ける学生相互による責任をもった授業外学修と、教員との相互確認（質疑応答）である。これを怠る学生は授業の場に入ることを認めない（欠席扱いとする）。			
教科書	プリントを配布する			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	赤枝 香奈子		単 位	4
授業の目的 と概要	専門ゼミナールⅡで学んだ知識をもとに、各自の関心に従って研究テーマを決め、テーマに関連する先行研究の検討を行い、調査計画を立てます。それらについて授業内で報告した上で、実際に調査計画に従って、調査を行います。			
到達目標	1. 研究テーマを決め、先行研究を検討し、調査計画を立てることができる。 2. 調査計画に従って、調査を進めることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		研究テーマを考えてくる。	
第2回	研究テーマの検討		研究テーマの報告準備を行う。	
第3回	研究テーマの検討		研究テーマの報告準備を行う。	
第4回	先行研究の検討		先行研究を調べる。	
第5回	先行研究の検討		先行研究を調べる。	
第6回	先行研究の検討		先行研究の報告準備を行う。	
第7回	先行研究の検討		先行研究の報告準備を行う。	
第8回	調査計画の検討		調査計画について考える。	
第9回	調査計画の検討		調査計画について考える。	
第10回	調査計画の発表		調査計画の報告準備を行う。	
第11回	調査計画の発表		調査計画の報告準備を行う。	
第12回	調査の実施		調査計画に従って、調査を実施する。	
第13回	調査の実施		調査計画に従って、調査を実施する。	
第14回	調査の実施		調査計画に従って、調査を実施する。	
第15回	まとめ：卒業ゼミナールに向けて		春休み中の調査計画を立てる。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％			
小テスト等	％			
成果発表	45％			
受講態度他	5％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	調査テーマの決定、先行研究の検討、調査計画の立案、調査の実施、すべてにおいて、各自の主体的な関与が不可欠です。授業では、各自が考えた事柄、実践した調査について情報を共有し、互いに助言を行い、研究テーマにかんする理解を深めます。			
教科書	使用しない。			
指定図書	なし。			
参考図書	授業内で指示する。			
オフィスワー	水曜4限		メールアドレス	

授 業 科 目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	藤原 隆信		単 位	4
授業の目的 と概要	＜ゼミテーマ：ソーシャルビジネスを研究・実践するゼミ＞ 本ゼミナールでは、私たちの身の回りにある多様な「社会問題」を、ビジネス（お金儲け）をしながら解決していく方法と理論を学んで行きます。同時に、地域社会や世界にも目を向け、具体的な実践活動（ビジネスの実践）に取り組んで行く予定です。ゼミⅡでは、「ソーシャルビジネス」や「社会貢献と仕事の関係」等に関する発展的な理論を学ぶとともに、具体的な実践活動に取り組んで行く予定です。このような「理論研究」と「実践活動」を通じて、経営学を総合的に学ぶとともに、「社会に貢献しながら働くこと」の意義を考えていきます。			
到達目標	①「ソーシャルビジネス」に関する基本的な仕組みを理解し、説明できる。②「ソーシャルビジネス」の実践に必要な知識を応用して、具体的な活動を起こすことができる。③上記①～②を前提に、「ソーシャルビジネス」の実践活動を通じて得られたもの（知識・経験）と改善策について説明することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	はじめに：ソーシャルビジネス（SB）の実践を考える ——「Win」の累乗という考え方		教科書の「はじめに」（pp.1-13）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第2回	文献研究と実践活動のプラン作成（1） ——SBを成功に導く理由		教科書の第1章（pp.26-39）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第3回	文献研究と実践活動のプラン作成（2） ——「Win」の累乗を実現する「5C」		教科書の第1章（pp.40-64）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第4回	文献研究と実践活動のプラン作成（3） ——ケースで考える「Win」の作り方		教科書の第2章（pp.66-82）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第5回	文献研究と実践活動の実践準備（1） ——一緒に働く仲間に「Win」を作る①		教科書の第3章（pp.84-110）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第6回	文献研究と実践活動の実践準備（2） ——一緒に働く仲間に「Win」を作る①		教科書の第3章（pp.111-121）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第7回	文献研究と実践活動の実践準備（3） ——サービスの受け手に「win」を作る①		教科書の第4章（pp.124-143）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第8回	文献研究と実践活動の実践準備（4） ——サービスの受け手に「win」を作る②		教科書の第4章（pp.144-151）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第9回	文献研究と実践活動の実践準備（5） ——コミュニティに「win」を作る①		教科書の第5章（pp.154-168）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第10回	文献研究と実践活動の実践（1） ——コミュニティに「Win」を作る①		教科書の第5章（pp.169-178）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第11回	文献研究と実践活動の実践（2） ——出資者に「Win」を作る①		教科書の第6章（pp.180-196）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第12回	文献研究と実践活動の実践（3） ——出資者に「win」を作る②		教科書の第6章（pp.197-205）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第13回	文献研究と実践活動の実践（4） ——「競合」を「協業」に変えて「Win」を作る①		教科書の第7章（pp.208-224）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第14回	文献研究と実践活動の実践（5） ——「競合」を「協業」に変えて「Win」を作る②		教科書の第7章（pp.225-232）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第15回	まとめ：ソーシャルビジネスの（SB）の実践を振り返る ——「社会を良くしてお金を稼ぐ仕組み」とは？		教科書の「おわりに」（pp.241-248）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	60％ 授業の進行に合わせて適宜、発表をしてもらいます。その内容で判断します。			
受講態度他	40％ 授業への出席状況や受講態度などを勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本ゼミナールでは、授業の中でチーム討議やチーム発表に取り組んでもらう予定にしています。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。			
教科書	木暮真久『社会を良くしてお金も稼げるしくみのつくりにかた』ダイヤモンド社、2012年。			
指定図書	授業の中で適宜紹介する。			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12：20～13：10） ※事前に予約を取って下さい。		メールアドレス	

授 業 科 目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	岡本 文子		単 位	4
授業の目的 と概要	現代社会を生きる私たちの身に着けている衣服は、連綿と受け継がれてきた服飾史の延長線上にある。日常意識する機会の少ない衣服のしくみへの理解を深めることを通して、服飾と社会との関係に関心を持ち、服飾の社会的役割を理解することを目的としている。 本演習では、各自が服飾史やファッション・トレンドなどからテーマを設定し、実際にボディを使って、布地をカッティングし、トワルを製作することによって、イメージしたデザインを表現する。トワル製作では布地の特性や衣服のしくみを理解することができる。 完成した作品は写真撮影し、画像をデータとしてコンピュータに入力する。 この画像データは4年次の専門ゼミナールに繋がることになる。			
到達目標	・「考えること」「立案すること」「計画すること」の重要性を認識し、日常のなかからさまざまな課題を見出すことができる。 ・トワル製作を通して、布地の特性を理解し、その特性を説明できる。 ・トワル製作を通して、衣服のしくみと人体の関係を理解し、衣服のしくみについて説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション (今後の進め方)		研究方法の整理	
第2回	デザインと材料の選定		資料の整理	
第3回	デザインと製作計画		製作計画の確認、材料の確認	
第4回	トワル製作と衣服のしくみ (パニエ ディメンション)		ディテール製作	
第5回	トワル製作と衣服のしくみ (ボトム シルエット)		ディテール製作	
第6回	トワル製作と衣服のしくみ (ボトム 細部)		ディテール製作	
第7回	トワル製作と衣服のしくみ (トップス ベース)		ディテール製作	
第8回	トワル製作と衣服のしくみ (トップス 細部)		ディテール製作	
第9回	トワル製作と衣服のしくみ (コンポジション)		ディテール製作	
第10回	トワル製作と衣服のしくみ (バリエーション)		ディテール製作	
第11回	トワル製作と衣服のしくみ (デコレーション)		ディテール製作	
第12回	トワル製作と衣服のしくみ (ブレード)		ディテール製作	
第13回	トワル製作と衣服のしくみ (バランス)		ディテール製作	
第14回	トワル完成		デザインの確認、写真撮影準備	
第15回	写真撮影		撮影写真の整理	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	90%			
受講態度他	10%			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	特になし			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	金曜日 12:00～13:00		メールアドレス	

授 業 科 目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	荒巻 龍也		単 位	4
授業の目的と概要	1) 映像（メディア）リテラシー演習を通して映像メディアに関する理解を深める。 2) 企画（コンテ作成）から撮影、編集までの映像作品（CM、PR動画など）を制作する。 3) テレビCM、ネット動画などを題材としたケーススタディにより、映像表現（方法）などを学び映像制作に活かしていく。 4) 映像関連産業（広告含む）などに関してケーススタディ、ビジネスモデル（BMG）分析などを行い、研究成果をまとめ・発表する。 ゼミ形式で「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業ゼミナールⅠ・Ⅱ」と継続して学びます。映像(産業含む) 関連の専門的な知識とスキルを身につけること、専門研究を通して研究方法や発信方法を磨くこと、ゼミ活動全般から自主性、協働性そしてコミュニケーション能力などのジェネリックスキルを身につけることを目指します。			
到達目標	1. 映像メディア全般ならびに 映像関連産業（広告含む）などに関してケーススタディなどを行い、研究成果をまとめたり、発表したりすることができるようになる。 2. 企画（コンテ作成）から撮影、編集までの映像作品（CM、PR動画など）を制作することができるようになる。 3. テレビCM、ネット動画などを題材としたケーススタディなどにより映像表現（方法）などを学び、映像制作に活かすことができるようになる。 4. ゼミ活動全般から自主性、協働性そしてコミュニケーション能力などのジェネリックスキルを身につけることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 後期オリエンテーション、グループワーク演習（1） 問題可決のためのグループワーク			実習課題1（問題解決）	
第2回 グループワーク演習（2） 計画立案のためのグループワーク			実習課題2（計画立案）	
第3回 映像メディア関連企業研究(1) 基礎データ整理と組織図			まとめ課題1（基本データ、組織図）	
第4回 映像メディア関連企業研究(2) 決算と番組制作比率			まとめ課題2（決算、番組制作比率）	
第 5回 映像メディア関連企業研究(3) BMG（ビジネスモデル）			まとめ課題3（ビジネスモデル分析グループワーク）	
第 6回 映像メディア関連企業研究(4) 比較とまとめ			まとめ課題4（レポート）	
第 7回 撮影実習(1) 太宰府の秋(1) 撮影日程作成～撮影			映像制作課題1（撮影素材整理、テープ起こし含む）	
第 8回 撮影実習(2) 太宰府の秋(2) 撮影日程作成～撮影			映像制作課題2（撮影素材整理、テープ起こし含む）	
第 9回 テキスト『映像メディアの作り方』 5章 ドラマ、9章 ドラマ制作			実習課題3（ドラマ絵コンテ作成）	
第 10回 メディアリテラシー演習(1) ドラマ映像言語(1)			映像リテラシー課題1（ドラマ映像言語分析）	
第 11回 メディアリテラシー演習(2) グループワーク ドラマ映像言語(1)			映像リテラシー課題2（ドラマ映像言語グループワーク）	
第 12回 映像分析(1) 自治体動画分析（1） メタデータ分析			実習課題4（自治体動画メタデータ分析）	
第 13回 映像分析(2) 自治体動画分析（2） 表現分析			実習課題5（自治体動画表現分析）	
第14回 撮影実習(3) 太宰府の冬 撮影日程作成～撮影			映像制作課題3（撮影素材整理：テープ起こし含む）	
第15回 まとめ 映像制作・分析、メディア関連企業研究、メディアリテラシーなどに関する総括			まとめ課題5（レポート）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	65% 映像制作課題（作品）(15%)、まとめ課題(20%)、実習課題（20%）、映像リテラシー課題（10%）			
小テスト等	0% なし			
成果発表	25% グループワーク（15%）、口頭発表・プレゼンテーション（10%）			
受講態度他	10% 受講態度、活動参加状況ならびに授業中やフォーラムでの発言など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業では予習・復習が効果的にできるように、LMS（e-Learningシステム）である「筑女ネット」を利用しますので、少なくとも授業でわからなかったところの確認や授業に出席できなかった場合のフォローアップをしておいてください。提出した課題はその都度返却します。 授業ではグループで行う作業も多くなります。また4年生と共同でやることも多くなりますし、4年生の作品制作やレポート作成などに協力することもあります。			
教科書	なし（「筑女ネット」のオンライン教材ならびにプリント）			
指定図書	なし			
参考図書	授業でその都度紹介します。 久保田賢一 編著 『映像メディアのつくり方』 北大路書房			
オフィスアワー	火曜日2限目（10:50-12:20）、水曜日2限目（10:50-12:20）	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	須藤 遙子		単 位	4
授業の目的 と概要	メディア社会を文化経済・文化政治・文化政策の観点から研究する。 前半は、就活を念頭に置いた「読解力・文章力・発想力」を鍛える演習を中心とする。 後半は、各自の卒業研究に向けてのテーマ設定・資料収集・論文指導を行う。 適宜グループディスカッションを取り入れ、自分の意見を発表すると同時に、他人の意見をよく聞き尊重する姿勢を学ぶ。			
到達目標	・メディアの分析、またメディア企業への就職に必要な「読解力・文章力・発想力」を身につける。 ・プレゼンテーション能力を身につける。 ・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	前期ゼミ合宿の復習。就活にあたっての対策指導。		短編小説を読む。各自の卒業研究テーマ調査。	
第2回	文章読解（４）演習。		短編小説を読む。卒業テーマ調査。	
第3回	ブレインストーミング（４）演習。		短編小説を読む。卒業テーマ調査。	
第4回	小論文（４）演習。		短編小説を読む。卒業テーマ調査。	
第5回	映画（４）演習。		映画を観る。卒業テーマ調査。	
第6回	文章読解（５）演習。		中編小説を読む。卒業テーマ調査。	
第7回	ブレインストーミング（５）演習。		中編小説を読む。卒業テーマ調査。	
第8回	小論文（５）演習。		中編小説を読む。卒業テーマ調査。	
第9回	映画（５）演習。		映画を観る。卒業テーマ調査。	
第10回	文章読解（６）演習。		中編小説を読む。卒業テーマ調査。	
第11回	ブレインストーミング（６）演習。		中編小説を読む。卒業テーマ調査。	
第12回	小論文（６）演習。		中編小説を読む。卒業テーマ調査。	
第13回	映画（６）演習。		映画を観る。卒業テーマ調査。	
第14回	卒業研究中間プレゼン準備。		各自プレゼン資料修正。	
第15回	ゼミ合卒業研究中間プレゼン本番。		春休みに読む長編小説を決定。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	０％			
レポート	６０％			
小テスト等	％			
成果発表	２０％（グループでの参加度、発表者としてのスキル）			
受講態度他	２０％（全体討論への参加態度も含める）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	専門ゼミナールⅠに引き続き、本（小説）をたくさん読むことが求められます。 ３年次後期から本格化する就職活動を念頭に、就活に関する情報共有やエントリーシート指導などを随時行っていきます。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスアワー	金曜日３限。	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	橋本 嘉代		単 位	4
授業の目的 と概要	・段階的な実践形式で、コンテンツの企画・発信能力を育成する。 ・著作権、肖像権の知識を身につける。 ・3種類のオリジナルコンテンツを作り統合することで、実践的なスキルを身につける（下記は1ヶ月に1つずつのペースを想定）			
到達目標	・メディアコンテンツの企画を考え、ラフコンテや企画書の形にして提示することができる。 ・新聞や雑誌のフォーマットに沿って、タイトル・本文・リード・キャプションなどを書き分けることができる。 ・オリジナルコンテンツに必要な取材、撮影を手配し、実行することができる。 ・ページレイアウトソフトで簡単なコンテンツを制作することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、現代社会学部ビジネス社会コース・メディア社会コース・環境共生社会コースのD P⑤「現代社会の諸事象の中から問題を発見し、収集した情報を主体的に分析し、協働作業の中で議論し、その成果を発信できる。」を充足するための科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 夏休みの報告と企画会議			各自で作成した報告書によるプレゼン（課題①）	
第2回 企画の再検討とスケジュール策定			初回での指摘を反映させ、企画を練り直し、再検討	
第3回 コンテンツ①のラフコンテとダミーレイアウト作成・提出（課題②）			デザインを研究。参考にしたい雑誌などを持参	
第4回 コンテンツ①の取材、撮影、原稿執筆			取材、撮影、原稿執筆（他のコンテンツに関しても、随時、進めておく）	
第5回 コンテンツ①の原稿提出（課題③）			原稿執筆、修正	
第6回 コンテンツ①のページレイアウト →文字と画像の流し込み			レイアウトデザイン	
第7回 コンテンツ②のラフコンテとダミーレイアウト作成（課題④）			デザインを研究。参考にしたい雑誌などを持参	
第8回 コンテンツ②の原稿提出（課題⑤）			原稿執筆、修正	
第9回 コンテンツ②のページレイアウト →文字と画像の流し込み			レイアウトデザイン	
第10回 コンテンツ③のラフコンテとダミーレイアウト作成・提出（課題⑤）			デザインを研究。参考にしたい雑誌などを持参。必要に応じ、取材	
第11回 コンテンツ③の原稿提出（課題⑥）			原稿執筆、修正	
第12回 コンテンツ③のページレイアウト →文字と画像の流し込み			レイアウトデザイン	
第13回 表紙・目次などの制作			レイアウトデザイン	
第14回 3つのコンテンツ、表紙・目次などの統合・調整・提出（課題⑦）			レイアウトデザイン	
第15回 全体の総括			工夫したところ、反省点、今後の課題の整理	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％（課題②-⑦） 添削し、授業中に戻します。口頭でのコメントの場合もあります。			
小テスト等	0％			
成果発表	10％（課題①）			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・締め切りから逆算し、スケジュール管理をする習慣をつけましょう。			
教科書	編集の学校／文章の学校（監修）『エディターズ・ハンドブック 編集者・ライターのための必修基礎知識』雷鳥社			
指定図書	なし			
参考図書	ARENSKI『InDesignをフルに使うGirls Magazine DTP』技術評論社			
オフィスアワー	月曜12:30-15:00	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	一ノ瀬 元史		単 位	4
授業の目的 と概要	ここでは専門ゼミⅠで学んだことを踏まえ、発展させる。さまざまな情報システムの中から各自興味のあるシステムに注目し、その基本的な仕組みを理解し、活用する。さらにそれらが社会においてどのような位置づけにあり、われわれと関係しているか理解する。			
到達目標	1. 情報システムの基本的説明ができる 2. 動画やゲームの作成手法を説明できる。 3. それらが社会とどのように関わっているか説明できる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 社会の多様な問題に取り組む実践力を身につけ、現代社会を生きる自己実現をしましょう。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 授業の概要	ガイダンス はじめに、データの扱い		Ruby の準備	
第2回 基本的な使い方			演算子、型変換を復習、入出力関数について予習	
第3回 文字列と数値、変数への代入と出力			復習 制御構造 予習 ライブラリ関数	
第4回 比較演算子とブーリアン値			復習 ライブラリ関数 予習 入出力関数	
第5回 分数、平方根、三角関数			復習 入出力関数 予習 2次元配列	
第6回 文字列操作			復習 配列、ハッシュについて 予習	
第7回 配列、繰り返しについて			予習 ポインタ、関数	
第8回 クラスとメソッド			復習 ポインタ、関数 予習 記憶クラス、データ型	
第9回 インスタンス変数、論理式、論理演算子について			復習 記憶クラス、データ型の修飾 予習 複雑な演算子、構造体	
第10回 インスタンス変数の使い方			復習 演算子、構造体 予習 ファイル入出力	
第11回 トップレベルの処理について			プログラム作成	
第12回 クラス定義、メソッドの処理について			プログラム作成	
第13回 作品作成作業、研究レポート作成			プログラム作成、レポート作成	
第14回 作品作成作業、研究レポート作成			作品作成	
第15回 作品作成レポート作成			作品作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％			
小テスト等	なし			
成果発表	30％			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プログラム言語Rubyに関する書籍をみておきましょう			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	金 15：00-17:00 事前に連絡をお願いします。	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	一木 順		単 位	4
授業の目的と概要	ポピュラー文化を通して現代社会の諸相について考えるということを主な目的とする。それによって、さまざまな政治的、経済的、社会的関係の中にとりこまれた自分自身が、社会とどのような関係を結んでいるのかを理解する。			
到達目標	a) 自分が普段親しんでいるポピュラーメディア（映画、まんが、音楽、テレビなど）の中から自分で問題を発見することができる。 b) その問題について、先行研究、参考文献の検索、フィールドワーク、インタビュー、アンケートの実施などの調査を行うことができる。 c) 調査結果を文章にまとめて、その問題について自分の言葉で語ることができる。 d) 問題提起・研究経過・分析解釈を短時間で要約し、口頭発表し、質疑応答に答えて対話することができる。 e) 自分がまとめた議論を電子書籍で出版できる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 「専門ゼミナール（一木）」を履修するうえで「映画・映像論」もあわせて履修することが望ましい。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 授業の概要の説明			なし	
第 2回 ディスカッションの実際：ディベート準備			グループでのディベート準備	
第 3回 ディスカッションの実際：ディベート			ディベート準備	
第 4回 研究テーマについての発表			研究レポートの概要の提出（A4用紙1～2枚）	
第 5回 研究発表			ミニ発表	
第 6回 研究発表			ミニ発表	
第 7回 研究発表			レポートサマリーの提出	
第 8回 研究発表			レポートサマリーの提出	
第 9回 研究発表			レポートサマリーの提出	
第10回 研究発表			レポートサマリーの提出	
第11回 研究発表			レポートサマリーの提出	
第12回 研究発表			レポートサマリーの提出	
第13回 研究発表			レポートサマリーの提出	
第14回 まとめ			指定された課題を行うこと	
第15回 まとめ			指定された課題を行うこと	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60 % 授業内の小レポート30%、自分の発表をまとめた電子書籍ファイル30%			
小テスト等	—			
成果発表	30% 自分のテーマについての発表			
受講態度他	10% 受講態度を勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須である。 授業に際しては、自分の担当部分、発表に関して責任を持って行うこと。やむを得ず自分の発表回に欠席せざるを得ないときは、自分の責任で他の人と発表を代ってもらうこと。			
教科書	特に指定しない			
指定図書	『America on Film』、 『映画分析入門』（ライアン）			
参考図書	授業内で指示			
オフィスアワー	木曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小山 昌宏		単 位	4
授業の目的と概要	1. この授業は、卒業研究にいたる物語研究分野の基礎教養、テキスト読解力、課題設定力を身に付けることを目的とする。 2. 物語研究により、マンガメディア、アニメメディアを含む「ドラマ」を読み解く力を身に付け、様々な分析手法を用い、マンガ、アニメ、映画、ドラマ作品を自力で分析し、作品の物語分析、構造分析ができるようになる。 3. 具体的には、講義前の教科書による予習、レジュメ（資料）のまとめによる知識の体系化、発表、討論による理解の深化を通して、立体的にゼミ討論内容を理解し、作品分析（実践）することを目的とする。 4. 3限は基礎読解、4限は色彩、造形心理、音楽について学びつつ、マンガ、アニメ、映画、舞台、ライブなどの作品鑑賞、プレゼン、討論をおこなう			
到達目標	1. 物語論の基礎知識、物語分析、物語構造分析のための様々な手法を学び、実際にその手法を用いることができる。 2. マンガ、アニメ、映画、ドラマ、舞台などの作品を分析し、物語のメッセージ、隠された意図を映像分析の手法を併用して明らかにすることができる。 3. 期末レポートにいたる学習過程で、物語読解力を向上させ、討論による他者の意見を取り入れ、総合的に物語分析力を向上させる。 5. ゼミ運営、参加を通して、テーマに関する知識運用、対話能力、企画力、表現力を向上させる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション／教科書：はじめに：「現代の神話」としての映像作品／第1章：言語論的展開と主体問題			教科書： 物語構造分析の理論と技法 の「第1章」までを予習しておく	
第2回 3限 第1章：言語論／第2章：解釈学概観／第3章：神話学外観（小山解説） 4限：自由課題			教科書： 第2・3章を第2回目の授業までに予習する	
第3回 3限 第4章：物語論概説（小山解説） 4限：自由課題			教科書： 第4章の具体例を第4回目にあわせて準備する	
第4回 3限 第5章：隠喩理論（小山解説） 4限：自由課題			教科書： 第5章の具体例を第5回目にあわせて準備する	
第5回 3限 第6章：映画・映像論（小山解説） 4限：自由課題			教科書： 第6章の具体例を第6回目にあわせて準備する	
第6回 3限 第7章：心理学的基礎概念（小山解説） 4限：自由課題			教科書： 第7章の具体例を第7回目にあわせて準備する	
第7回 3限 第8章：典型ストーリーの抽出／第9章：シーケンス分析（小山解説） 4限：自由課題			教科書： 第8章・9章の具体例を第8回目にあわせて準備する	
第8回 3限 第10章：行為項分析（小山解説） 4限：自由課題			教科書： 第10章の具体例を第9回目にあわせて準備する	
第9回 3限 第11章：シーン分析（小山解説） 4限：自由課題			教科書： 第11章の具体例を第10回目にあわせて準備する	
第10回 3限 第12章：元型分析（小山解説） 4限：自由課題			教科書： 第12章の具体例を第11回目にあわせて準備する	
第11回 3限 第13章：深層構造の抽出（小山解説） 4限：自由課題			教科書： 第13章の具体例を第12回目にあわせて準備する	
第12回 3限 第14章：訴求構造の同定（小山解説） 4限：自由課題			教科書： 第14章を第13回目の授業までに予習する	
第13回 3限 第15章：CMの構造分析（小山解説） 4限：自由課題			教科書： 第15章を第13回目の授業までに予習する	
第14回 3限 第16章：子ども向けテレビ番組の構造分析（小山解説） 4限：自由課題			教科書： 第16章の具体例を第15回目にあわせて準備する	
第15回 3限 第16章の具体例報告 4限 卒研に向けたテーマ選定及びガイダンス			卒研ワークシートの完成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70％（期末レポート）			
小テスト等	なし			
成果発表	20％（各回の報告、プレゼンを含む）			
受講態度他	10％（議論、討論への積極性を評価）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 教科書は毎回、担当者が要約し、レジュメを用意する。別の担当者がチューターを務め、報告し、質疑応答、意見をだしあう 2. 14回分（16章）あるので、一人2回ずつ担当当番になる（4年生含む）。 3. 報告形式は、レジュメ（文章式）、パワーポイント（図解式）のどちらでもよい。 4. 報告担当にあたらな場合でも、討論に参加するために必ず、事前に文章を読み込んでおく。			
教科書	高田明典『物語構造分析の理論と技法：CM・アニメ・コミック分析を例として』（大学教育出版）			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で指示します			
オフィスアワー	水曜日 2限目（10:50～12:20）		メールアドレス	

授 業 科 目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	吉野 嘉高		単 位	4
授業の目的 と概要	1.一定のテーマに沿って、夏休み中に対馬の民泊を取材した後、短めの映像コンテンツを作成する。完成した映像コンテンツを視聴しながらディスカッションすることで「対話」や映像取材についての理解を深める。また学生の企画による映像コンテンツを制作する中、取材対象者とのコミュニケーションの取り方や実践的な撮影・編集メソッドを学ぶ			
到達目標	1.取材における「対話」の意味を、自らの体験も踏まえて説明できる。 2.取材における「コミュニケーション」の問題点を説明できる 3.撮影・編集メソッドを理解したうえで、情報共有しながら映像コンテンツを制作することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション&スケジュール確認		配布資料の熟読	
第 2回	対馬で撮影した映像素材の整理 ドキュメンタリー企画の検討①		素材の確認とリストの作成等	
第 3回	対馬で撮影した映像素材を編集 ドキュメンタリー企画の検討②		編集を終わらせること	
第 4回	編集した映像コンテンツの発表、ディスカッション		配布資料の熟読 企画に関するリサーチ	
第 5回	撮影の技法と取材ルール①		配布資料の熟読 企画に関するリサーチ	
第 6回	撮影の技法と取材ルール②		取材に関連するリサーチ 取材活動	
第 7回	取材についての検討 ①		取材に関するリサーチ 取材活動	
第 8回	取材についての検討 ②		配布資料の熟読	
第 9回	構成について検討①		配布資料の熟読	
第10回	構成について検討②		配布資料の熟読	
第11回	編集の技法 ①		配布資料の熟読	
第12回	編集の技法 ②		配布資料の熟読	
第13回	編集		編集作業	
第14回	編集		配布資料の熟読	
第15回	まとめ		期末レポートの作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ （期末レポート）			
小テスト等	なし			
成果発表	30%（締め切り日時を厳守すること20%、完成度10%）			
受講態度他	40%（積極的な発言やチームワークへの貢献度で評価）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	取材は取材対象者の都合が優先されるため、授業計画はスケジュールというより、映像コンテンツ制作に必要な作業の洗い出しでしかない。このためスケジュールに変更があることを理解いただきたい。来年6月に映像祭にエントリーすることが目標だが、、可能ならば今年度中に映像コンテンツを完成させたい。ケースバイケースで判断することになる。予期できない状況に柔軟に対応することもゼミの学びの一つである。「映像祭」見学は検討事項である。様々な事情があると思うが、取材回数や情報共有の有無も点数化する。（受講態度） 期末レポートは、他ゼミとまとめ方を統一する。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	吉野嘉高『テレビ番組制作実践講座』権歌書房			
オフィスアワー	火曜日昼休み（12:20～13:10）、水曜日昼休み（12:20～13:10)	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	安恒 万記		単 位	4
授業の目的と概要	子どもと環境について、学生が自らの問題意識に即して調査、研究を行い、現代社会における子どもと環境に関する課題を見出し、深く考察することを目的とします。 研究課題に関する文献、資料に幅広く触れ、目的にあったデータ収集の方法、適切な分析、問題を発見する力や論理的能力、加えてそれを発表することでプレゼンテーション能力、さらに、討論やフィールドワークを通してコミュニケーション能力をも身に付けることを期待します。			
到達目標	1.子どもと環境について、現代社会における問題・課題を発見することができる。 2.その問題・課題について、参考文献や先行研究の検索、フィールドワークやアンケートなどの調査を提案することができる。 3.その問題・課題について、適切にまとめることができる。 4.テーマに沿って論点を見つけ、ディスカッションすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		興味、関心のあるテーマを考える	
第2回	年間ゼミナール計画の策定①		参加イベントやフィールドワーク、ヒアリング調査の情報収集	
第3回	年間ゼミナール計画の策定②		参加イベントやフィールドワーク、ヒアリング調査の計画立案	
第4回	参考文献、先行研究の整理①		参考文献、先行研究の情報収集	
第5回	参考文献、先行研究の整理②		発表準備	
第6回	フィールドワークC		調査計画	
第7回	フィールドワークCまとめ		発表準備	
第8回	文献、先行研究輪読③		発表準備	
第9回	文献、先行研究まとめ③		発表準備	
第10回	文献、先行研究輪読④		発表準備	
第11回	文献、先行研究まとめ④		発表準備	
第12回	フィールドワークD		発表準備	
第13回	フィールドワークDまとめ		発表準備	
第14回	成果発表		発表準備	
第15回	まとめ		発表準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	50％			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的な参加を期待します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて適宜授業内で指示します。			
オフィスアワー	木曜日 10：50～12：20		メールアドレス	

授 業 科 目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	栗木 明裕		単 位	4
授業の目的 と概要	栗木ゼミ「健康的なライフスタイルを考えるゼミ」では人や生活についての調査や実験を通して理解を深め、生活環境や社会環境から健康を捉えて快適なライフスタイルを考えていく。 専門ゼミナールⅠでは、卒業研究に至る研究分野の基礎知識・技術を習得することを目的としている。そのため、ゼミで使用する研究方法をオムニバス形式で学び、自分自身の興味あるテーマを明確にする。これを基礎に専門ゼミナールⅡにおいて研究テーマを設定し、必要な関連資料の収集・整理を行い、研究計画書を作成して具体化していく。さらに、適宜作業内容をアウトプットすることにより、知識を深め体系化する。最終的には4年次の卒業ゼミナールⅠ・Ⅱへと発展し、研究論文としてまとめていくこととなる。			
到達目標	1.解決すべき現象、問題、疑問事項などの研究課題を絞り込み、研究テーマを決定する。 2.テーマに関する資料、参考文献、先行研究を調査し、その内容をまとめる。 3.研究計画を作成し、発表する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：授業の進め方の説明		シラバスの確認と専門ゼミナールⅠの内容を復習（予習）	
第2回	ゼミ研究概論		大学での学び、卒業までのスケジュールを確認する（予習）	
第3回	研究計画について		研究分野を選定する（予習）	
第4回	研究テーマ選定（1）		研究テーマを選定する（予習）	
第5回	研究テーマ選定（2）：発表・ディスカッション		研究テーマとその動機について発表準備をする（予習）	
第6回	情報収集（1）		研究に必要な情報・資料の収集方法を確認する（予習）	
第7回	情報収集（2）：発表・ディスカッション		研究に必要な資料をまとめて発表準備をする（予習）	
第8回	情報収集（3）：発表・ディスカッション		前回の発表で受けた助言をもとに修正する（追加資料を収集など）。（予習）	
第9回	研究方法の検討（1）		収集した資料から研究方法を検討する（予習）	
第10回	研究方法の検討（2）：発表・ディスカッション		発表準備をする（予習）	
第11回	研究方法の検討（3）：発表・ディスカッション		前回の発表で受けた助言をもとに修正する。	
第12回	研究計画書づくり（1）		計画書の作成手順に沿って計画書を作成する（予習）	
第13回	研究計画書づくり（2）：発表・ディスカッション		各自発表準備を行い疑問点などをまとめておく（予習）	
第14回	研究計画書づくり（3）：発表・ディスカッション		前回の発表で受けた助言をもとに修正し、各自の計画書の完成と発表準備	
第15回	まとめと卒業ゼミナールⅠへの準備		発表・ディスカッションで気づいた事項を整理する（予習）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 研究計画書			
小テスト等	実施しない			
成果発表	60％（全授業中に4回課す）			
受講態度他	10％ 積極的な態度、発言 私語など受講態度が悪く、授業の進行や他の学生の妨げとなる場合は減点もあり得る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	専門ゼミナールは、卒業ゼミナールへとつながる大切な科目です。この科目で研究の方向性を定めて学びを深めていきます。自分自身で主体的に決断し、進めていかなくてはならないので、みなさんの興味を大切にして、自分自身で考えることを大切にします。 研究テーマによっては学外調査を行うことがあるので、その都度指示します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日12：20～14：40（事前連絡要）		メールアドレス	

授 業 科 目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	崔 淑芬・田村 史子・喜多村 百合・妻 海善・羅 義圭・竹熊 真波・小林 知美・横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	「専門ゼミナールⅡ」の目的は、4年生で「卒業論文」を作成するための最終準備を行い、卒論テーマと担当教員を決めることにあります。 そのためには、「卒業論文」とはどのようなものかを知り、「卒業論文」執筆のため「卒業ゼミナールⅠ・Ⅱ」の指導を行う専任教員の研究はどのようなものかを正しく理解しなければなりません。また、論文執筆のための基礎的技術を身につけなくてはなりません。 この授業では、言語・社会・文化の各領域について、教員の専門の概要と卒業ゼミナールの指導内容を、オムニバス形式で学びます。 授業終盤では「卒業論文希望調査票」を提出し、担当教員を決定し、その後各卒業ゼミナールの見学を行います。			
到達目標	1、学科の専任教員の研究・教育に関して、その領域や内容について、具体的に説明することができる。 2、自分の問題意識にしたがって、論文のテーマを設定し、関連史料を収集・分析することができる。 3、文章を読んで、他人の意見を正しく理解し、的確に要約することができる。 4、自分の意見を、分かりやすくて的確に伝える文章を書くことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回（9月26日）	「専門ゼミナールⅡ」の目的と進め方（竹熊）		各自の学習カリキュラムと進路についての回顧と展望	
第2回（10月3日）	文化担当教員（小林）による専門の説明		講義に関するミニレポート執筆①	
第3回（10月10日）	進路オリエンテーション（進路支援班＋竹熊）		講義に関するミニレポート執筆②	
第4回（10月17日）	社会担当教員（妻）による専門の説明		講義に関するミニレポート執筆③	
第5回（10月24日）	特別講義Ⅰ「国際交流」（妻・羅）		講義に関するミニレポート執筆④	
第6回（10月31日）	文化担当教員（田村）による専門の説明		講義に関するミニレポート執筆⑤	
第7回（11月7日）	社会担当教員（喜多村）による専門の説明		講義に関するミニレポート執筆⑥	
第8回（11月14日）	社会担当教員（横山）による専門の説明		講義に関するミニレポート執筆⑦	
第9回（11月21日）	言語担当教員（羅）による専門の説明		講義に関するミニレポート執筆⑧	
第10回（11月28日）	中国語関係（石・崔）の専門の説明（竹熊）		講義に関するミニレポート執筆⑨	
第11回（12月5日）	社会担当教員（竹熊）による専門の説明、卒業論文希望調査票配付説明		講義に関するミニレポート執筆⑩、卒業論文希望調査票の提出	
第12回（12月12日）	特別講義2「先輩レクチャー」（妻）希望調査票の提出		講義に関するミニレポート執筆⑪	
第13回（12月19日）	卒業論文担当教員の発表、年明けの授業ならびに期末レポート執筆の説明（竹熊）		期末レポート執筆	
第14回（1月9日）	特別講義「現在アジアを学ぶ」※アジア塾の聴講（小林）（⇒補講1110、1117、1124のうち）		講義に関するミニレポート執筆⑫	
第15回（1月16日）	個別ゼミ指導・見学（各教員）（補講日時・内容は個別に指定）		各卒業ゼミナールの個別課題	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	期末レポート40％ 2月6日（水）締切。4,000～5,000字 3年生：卒ゼミ担当の先生に関連するテーマ、4年生：「アジア文化学科での4年間の学びを振り返って			
小テスト等	各回のミニレポートの提出と内容を評価します。各回5％（第1回、13回、15回を除く）計60％			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	4年次での学びの集大成「卒業論文」執筆に向けての準備の最終段階となる重要な科目ですので、そのつもりで取り組むこと。 各回のミニレポート・期末レポートの内容を充実させ、締め切りまでに提出してください。海外留学中の3年生は、履修はできませんが、卒業ゼミナールを履修する際の貴重な材料ですから、先生方の専門について個別に調べておいてください。4年生の履修方法については別途指示します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に指示します。			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照。	メールアドレス		

授 業 科 目	専門ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	佐々木 浩		単 位	4
授業の目的と概要	本講義は、専門ゼミナールⅠ,Ⅱ、卒業ゼミナールⅠ,Ⅱと半期の講義が4回連続する講義の2回目となる。この2年間で、「自然と共生する地域デザイン」をテーマにし、特に、人間とその他の動物とがどう共生していくことが良いのかを考えていく。野生動物、家畜など様々な動物が身の回りにいるが、人間社会が大きく変化してきており、新しいより良き社会を作り出すために、関連資料の収集等による課題の探索、課題を解決するための研究計画の立案、調査の実施、結果の分析、具体的に地域においてそれを考え、実践することによって、課題発見、解決能力を身につけることを目的とします。これらの過程で、プレゼンテーションや論理的な議論の技術も学びます。この半年では、関連資料を収集して課題の探索を行い、解決策を模索するための研究計画を検討し、予備的な調査を行うことが中心となります。			
到達目標	1.「自然と共生する地域デザイン」について、参考資料を収集して課題を発見することができる。 2.課題の解決策を模索するための研究計画を立案することができる。 3.課題の解決策を模索するため、論理的な議論ができる。 4.課題についてプレゼンテーションすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		夏休みの活動の報告。	
第2回	フィールドワーク1		必要な準備をしてください。事後の報告書を作成してください。	
第3回	フィールドワーク2		必要な準備をしてください。事後の報告書を作成してください。	
第4回	フィールドワーク3		必要な準備をしてください。事後の報告書を作成してください。	
第5回	文献紹介1		文献を読んでレジメを作成してください。	
第6回	文献紹介2		文献を読んでレジメを作成してください。	
第7回	文献紹介3		文献を読んでレジメを作成してください。	
第8回	計画発表内容の準備、議論1		必要な準備をしてください	
第9回	計画発表内容の準備、議論2		必要な準備をしてください	
第10回	卒論計画発表会予行演習		パワーポイントの準備をしてください。	
第11回	卒論計画発表		パワーポイントの準備をしてください。	
第12回	卒論計画の再検討		発表会の議論を参考に再検討をしてください	
第13回	卒論計画の決定		必要な準備をしてください	
第14回	卒論準備		必要な準備をしてください	
第15回	まとめ		発表準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	論文紹介のレジメ 30％ フィールドワークの報告 30％			
小テスト等	なし			
成果発表	卒論中間発表会 30％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的な参加を期待します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜日 2講時		メールアドレス	

授 業 科 目	ソーシャルビジネス論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	藤原 隆信		単 位	2
授業の目的 と概要	自然環境破壊や少子高齢化、雇用を取り巻く問題（ニートやワーキングプア、ホームレスの問題等）など、現代社会には多様な「社会問題（社会的課題）」が存在しています。そのような社会問題は、政府・自治体といった行政機関やボランティア団体・NPO法人といった非営利組織が、その解決に取り組むのが一般的でした。しかし近年、そのような社会問題の解決をビジネスの手法で（＝お金儲けをしながら）取り組む事業体（社会的企業）が出現しています。本科目では、社会的企業の具体的な事例を取り上げながら、ビジネスによって社会的な課題を解決する方法を学んでいくことにします。（※授業の進捗にあわせて外部講師を招いた授業も実施する予定です）			
到達目標	①現代の社会的課題をビジネスの手法で解決する事業体（社会的企業）について理解し、説明できる。②ソーシャルビジネスの仕組みや行動原理を説明できる。③自分自身の問題意識を元に、どのようなソーシャルビジネスに取り組んでみたいかを説明できる。④上記③について他者と意見交換し、組織的に取り組む方法を考える事ができる。⑤上記④で考えた方法を、発表することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	はじめに ——現代社会の多様な問題とソーシャルビジネス		あなたの身の回りにある「社会問題」について考えて来て下さい。	
第2回	日本で活躍する社会的企業（1） ——病児保育の問題を解決するNPO		第1回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。	
第3回	日本で活躍する社会的企業（2） ——ホームレス問題を解決する有限会社		第2回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。	
第4回	日本で活躍する社会的企業（3） ——ソーシャルビジネスを育成する株式会社		第3回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。	
第5回	世界で活躍する社会的企業（1） ——途上国と先進国の食糧問題を解決するNGO		第4回授業で配布する「授業前課題レポート」をやっけてきてください。	
第6回	世界で活躍する社会的企業（2） ——食品ロスを削減する流通企業		第5回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。	
第7回	女性視点で考えるソーシャルビジネス（1） ——女性の社会進出と女性起業家		第6回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。	
第8回	女性視点で考えるソーシャルビジネス（2） ——全国で盛り上がる「ママ起業」		第7回授業で配布する資料を読み、事前学習をしてきてください。	
第9回	ソーシャルビジネスの構想 ——ソーシャルビジネスの実践家による講演		事前配布された資料を読み、事前学習をしてきてください。	
第10回	学生視点で考えるソーシャルビジネス（1） ——グループディスカッション		あなたがやってみたいソーシャルビジネスを考えてきて下さい。	
第11回	学生視点で考えるソーシャルビジネス（2） ——グループ発表①		これまでの授業内容を踏まえてディスカッションの準備をしてきて下さい	
第12回	学生視点で考えるソーシャルビジネス（3） ——グループ発表②		これまでの授業内容を踏まえてグループ発表の準備をしてきて下さい。	
第13回	学生視点で考えるソーシャルビジネス（4） ——グループ発表③		これまでの授業内容を踏まえてグループ発表の準備をしてきて下さい。	
第14回	学生視点で考えるソーシャルビジネス（5） ——筑女現社・藤原ゼミの取り組み		筑女現社・藤原ゼミのFBを見て、その成果と課題を考えてきて下さい。	
第15回	おわりに ——私たちのできるソーシャルビジネス		これまでの授業内容を踏まえて個人発表の準備をしてきて下さい。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 期末レポート（30％）			
小テスト等	なし			
成果発表	40％ グループ発表（20％）、個人発表（20％）			
受講態度他	30％ 授業への出席状況や受講態度などを勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、授業の中で課題レポートの作成やチーム討議、チーム発表に取り組んでもらう予定にしています。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。			
教科書	担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスワー	火曜日の昼休み（12：20～13：10） ※事前に予約を取って下さい。		メールアドレス	

授 業 科 目	ソーシャルメディア論【講義】		開講時期	後期
担 当 教 員	古屋 啓子		単 位	2
授業の目的と概要	近年のソーシャルメディアの普及はめざましく、日常に不可欠なモノとしてあらたな流通や経済を生みだしている。それは従来のメディアのように一方的なものではなく、双方向の情報のやりとりだからこそ生まれた、つながりが誘因となっているのではないだろうか。 本講義では、事例やワークショップを交え、ソーシャルメディアがいかに人々の生活を変え、メディアをはじめとする社会にどのように影響を与えているのかを理解し、その可能性と問題点について考察する。			
到達目標	ソーシャルメディアの社会での役割を理解し説明できる。 ソーシャルメディアを正しく利用できる。 ソーシャルメディアの問題点について説明できる。 ソーシャルメディアの有効な活用法について紹介できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	歴史からたどるソーシャルメディア ～ソーシャルメディアってそもそも何だろう～		ソーシャルメディアの定義について調べてくる	
第2回	SNSでの「拡散」と「炎上」 ～2010年から顕著に増加しているのはなぜだろう～		予習 SNSでの「炎上」の例を調べてくる	
第3回	ソーシャルメディアと法とモラル ～キュレーションサイトは違法なのか～		予習 『NAVERまとめ』を見てくる	
第4回	ソーシャルメディアで読むニュース ～新聞、テレビ、ラジオの時代は終わったのか～		予習 気になったニュースについてメモしてくる	
第5回	災害から見たソーシャルメディア ～ソーシャルメディアは災害時に役に立つのだろうか～		予習 自分が災害にあったとき、必要な情報は何か考えてくる	
第6回	閉じられたコミュニティの活用～フォーラムを通してコミュニケーションについて考える～		予習 参加したくなるコミュニティについて考えてくる	
第7回	情報を発信するツールとしてのブログ～ブログを通して自分と向き合う～		予習 ブログ作成準備（自分のブログの内容、タイトル）	
第8回	ネットを通して得る情報～ユーチューバー、ブロガーの出現は何を物語っているか～		予習 『youtube』を見てくる	
第9回	コミュニティとしての空間と繋がり ～地元活性化は地元から起こるのだろうか～		予習 『instagram』『Twitter』を見てくる	
第10回	あらたな流通、消費者生成メディア ～ネット販売に不安はないのだろうか～		予習 『 minne』で買いたいものを見つけてくる	
第11回	急成長サービスクラウドファンディングの活用～クラウドファンディングは夢を叶えるのか～		予習 『CAMPFIRE』を見てくる	
第12回	人々が動かされる広告・ロコミ・キャンペーン ～人は何を決め手に行動するのだろうか～		予習 ロコミを参考にした体験をメモしてくる	
第13回	シェアリング・エコノミーがもたらす新たな経済 ～眠っている資産の活用は？～		予習 自分の身近に眠っている資産について考えてくる	
第14回	署名活動をサポートするオンライン署名サイト～オンライン署名は社会に受け入れられるか？～		予習 署名の体験について考えてくる	
第15回	まとめ		講義を振り返り、質問の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート（40％）			
小テスト等	授業内容に対する毎回の考察（50％）			
成果発表	なし			
受講態度他	授業での活発な態度（10％）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・コンピュータおよびWord、ブラウザ、メールの基本的操作ができること。 ・講義中にスマートフォンを使用する場合があります。 ・ブログやフォーラムの実体験をします。			
教科書	プリントを配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後、またはメールで相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	ソーシャルワーク演習Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	山崎 安則・新家 めぐみ・田中 茂實		単 位	2
授業の目的と概要	ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴでは、相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得することにより、理論と実践の統合を理解できるようになることを主な目的とする。 そこで、本演習Ⅰでは、相談援助に欠かすことのできない価値観や心構え、援助関係を形成するための基本概念について理解できるようになることを目的とする。その際には、社会福祉士に求められる理念、価値観、哲学的基礎、つまり専門職としての人間観を形成するための基本的な概念（キーワード）を、相談援助事例を通して理解できるようになることを目的とする。			
到達目標	1. 専門的な援助関係形成の重要な基盤である自己覚知ができる。 2. 専門的な援助関係形成の重要な基盤である基本的なコミュニケーション技術が習得できる。 3. 専門的な援助関係形成の重要な基盤である基本的な面接技術が習得できる。 4. 1～3を通して相談援助の基礎的素養が習得できる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 自己覚知（1）			自己の特性を理解する	
第 2回 自己覚知（2）			自他の違いを理解する	
第 3回 基本的なコミュニケーション技術習得（1）			言語的・非言語的なコミュニケーションを理解する	
第 4回 基本的なコミュニケーション技術習得（2）			言語的なコミュニケーションの技法を理解する	
第 5回 基本的なコミュニケーション技術習得（3）			非言語的なコミュニケーションの技法を理解する	
第 6回 ロールプレイ			言葉の二面性をまとめる	
第 7回 基本的な面接技術（1）			個別化の原則を理解する	
第 8回 基本的な面接技術（2）			受容、非審判的態度の原則を理解する	
第 9回 基本的な面接技術（3）			クライアントの自己決定を理解する	
第10回 基本的な面接技術（4）			バイステックの7原則をまとめる	
第11回 社会福祉士の倫理綱領			社会福祉士の倫理綱領をまとめる	
第12回 社会福祉士の行動規範			社会福祉士の行動規範をまとめる	
第13回 ソーシャルワークの価値			ソーシャルワークの価値を理解する	
第14回 グループワーク（1）			コミュニケーション技法をまとめる	
第15回 グループワーク（2）			ソーシャルワークの倫理と価値をまとめる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 課題①～⑥の詳細は、各教員から指示する レポートについては、適宜返却する			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 出席状況 ＋ 発表内容と水準、討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。 2. 資格にかかわる科目のため、4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる）。3. 演習による授業のため、当然のこととして学生の積極的な取り組みが求められる。＜重要＞2つの国家資格取得を希望する学生は、精神保健福祉士の取得希望調査に基づき、精神保健福祉士資格取得の指定科目「精神保健			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	黒木保博他編『社会福祉援助技術演習』ミネルヴァ書房 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授 業 科 目	ソーシャルワーク演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	山崎 安則・新家 めぐみ・田中 茂實		単 位	2
授業の目的と概要	ソーシャルワーク演習Ⅱでは、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、具体的な相談援助事例を取りあげながら、社会生活上の諸問題について理解し、問題の発生や解決課題を洞察し、その援助について総合的・包括的・実践的に習得することを目的とする。 社会生活・社会問題への視点から、具体的な課題別の相談援助事例等（集団に対する相談援助事例を含む）を活用するとともに、視覚教材の使用や現場訪問を含めて、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。			
到達目標	1. さまざまな生活上の苦難をかかえる人とその問題を理解することができる。 2. 個人、家族、地域の人々のつながりや地域に存在する機関や施設、公的・私的な社会資源を理解できる。 3. 生活問題発生 の機序、社会経済的問題や国家施策との関連について考え、その課題を指摘できる。 4. コミュニケーションスキルや援助関係の形成スキルが向上する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 社会生活・社会問題への視点			現代社会の諸課題をまとめる	
第 2回 社会的排除① アルコール依存等の社会的ストレス			アルコール依存症をめぐる諸課題をまとめる	
第 3回 社会的排除② 路上死、孤独死、自殺などの社会的孤立			社会的な孤立の現状を調べる	
第 4回 社会的排除③ 外国人などへの社会的排除			社会的に排除されている外国人の具体例を調べる	
第 5回 虐待① 家庭における児童や高齢者の虐待			在宅における虐待の現状を調べる	
第 6回 虐待② 施設における利用者への虐待			施設における虐待の現状を調べる	
第 7回 家庭内暴力① 福祉事務所、司法関係者による把握			家庭内暴力が把握されるまでの経緯を調べる	
第 8回 家庭内暴力② 母子生活支援施設、その他のシェルターにおける事例			母子生活支援施設について調べる	
第 9回 低所得者① ワーキングプア			ワーキングプアの現状を調べる	
第10回 低所得者② 生活保護受給者、救護施設等への入所者			生活保護受給者の現況をまとめる	
第11回 ホームレス① ホームレスの原因とその実態			ホームレスの現況をまとめる	
第12回 ホームレス② ホームレスの新たな形態（ネットカフェ難民など）			新たな形態のホームレスについて理解する	
第13回 その他の危機状態にある相談援助事例① 日常生活自立支援事業			日常生活自立支援事業を理解する	
第14回 その他の危機状態にある相談援助事例② 成年後見制度			成年後見制度を理解する	
第15回 その他の危機状態にある相談援助事例③ 自然災害・公害・薬害等			災害福祉を理解する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 課題①～④の詳細は、各教員から指示する レポートについては、適宜返却する			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 出席状況 ＋ 発表内容と水準、討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。 2. 4 回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻 2 回＝欠席 1 回とみなす）。資格に係わる科目のため別途指示します。 3. 演習による授業のため、当然のこととして学生の積極的な取り組みが求められる。			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	黒木保博他編『社会福祉援助技術演習』ミネルヴァ書房 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規 など			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授 業 科 目	ソーシャルワーク演習Ⅲ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	山崎 安則・金 圓景・福崎 千鶴		単 位	2
授業の目的 と概要	ソーシャルワーク演習Ⅲでは、ソーシャルワークの方法および地域福祉論の学修を踏まえ、演習Ⅱでとりあげた事例等を題材として、具体的な相談援助技術の習得を目的とする。あわせて地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、地域福祉活動推進の実際について習得することを目指している。 ソーシャルワーク実習を控えた時期であり、集団指導並びに個別指導により、実習現場でも想定される相談援助場面の事例や地域福祉の推進に係る事例をとりあげ、援助関係の形成や援助過程について理解をうながすとともに、その関連する地域における総合的・包括的支援を視野に入れた実技指導を行う。			
到達目標	１． ロールプレイングやグループワークを活用した演習により、コミュニケーション力、援助関係形成・面接技術の習得を図り、実習先において想定される相談援助の実際をより良く理解できる。 ２． フォーマル、インフォーマルな社会資源を生活問題の実際に合わせて有効活用するため、個人と環境の両側面からのアプローチについて理解を深めると共に、チームアプローチやネットワークキングの必要性が理解できる。 ３． 地域福祉活動におけるソーシャルワーカーの役割を学び社会資源の調整・開発の必要性について理解できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 相談援助場面及び相談援助の過程① アウトリーチとニーズ把握			アウトリーチについて調べる	
第 2回 相談援助場面及び相談援助の過程② インテーク			インテークを理解する	
第 3回 相談援助場面及び相談援助の過程③ アセスメントとプランニング			アセスメントを理解する	
第 4回 相談援助場面及び相談援助の過程④ 社会資源の活用・調整・開発			社会資源を調べる	
第 5回 相談援助場面及び相談援助の過程⑤ 支援の実施とチームアプローチ			チームアプローチを理解する	
第 6回 相談援助場面及び相談援助の過程⑥ ネットワークキング			ネットワークキングを理解する	
第 7回 相談援助場面及び相談援助の過程⑦ モニタリングと効果測定			モニタリングを理解する	
第 8回 相談援助場面及び相談援助の過程⑧ 終結とアフターケア			アフターケアの意味を理解する	
第 9回 地域福祉活動推進の実際① その意義			各自地域の福祉活動の状況を調べる	
第10回 地域福祉活動推進の実際② アウトリーチとニーズ把握			各自地域のニーズをまとめる	
第11回 地域福祉活動推進の実際③ 地域福祉の計画(1)			各自地域福祉計画を調べる	
第12回 地域福祉活動推進の実際④ 地域福祉の計画(2)			地域福祉計画内容を理解する	
第13回 地域福祉活動推進の実際⑤ ネットワークキング			各自地域のネットワークキング状況を調べる	
第14回 地域福祉活動推進の実際⑥ 社会資源の活用・調整・開発			各自地域に必要な資源を開発する	
第15回 地域福祉活動推進の実際⑦ サービスの評価			サービス評価の意味を理解する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 「授業外学習」欄を参照（詳細は講義時に指示する） レポートについては、適宜返却する			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 出席状況 ＋ 発表内容と水準、討論への参加度など			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	１． この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。 ２． ４回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻２回＝欠席１回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる）。資格に係わる科目のため別途指示します。 ３． 演習による授業のため、当然のこととして学生の積極的な取り組みが求められる。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	黒木保博他編『社会福祉援助技術演習』ミネルヴァ書房 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規			
オフィスワ ー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授 業 科 目	ソーシャルワーク演習Ⅳ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	山崎 安則・金 圓景・福崎 千鶴		単 位	2
授業の目的と概要	ソーシャルワーク演習Ⅳでは、ソーシャルワーク実習を経験した後の演習であることから、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行うことを目的とする。 ソーシャルワーク実習指導Ⅲとの関連性も視野に入れながら、演習クラスのそれぞれに異なる実習先の学生が個別体験を開示・共有し、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅲで学修してきた相談援助や地域福祉の推進に係る知識や技術について再確認し、実践的な知識や技術として一般化し体得できるようロールプレイングやグループワークを活用した実技指導を行う。			
到達目標	1. さまざまな福祉問題に直面する人々への、在宅や施設及び地域の福祉専門機関等の場で展開される相談援助や地域福祉活動の実際について、学生各自の実習での体験を一般化することができる。 2. 1について、専門的援助技術の知識や技術として概念化・理論化し、体系立てて理解することができる。 3. コミュニケーションスキルや援助関係の形成スキルが向上する。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	実習での個別体験の開示・共有		実習での個別体験を整理する	
第 2回	個別援助の視点と方法（１）		個別援助からインテークを理解する	
第 3回	個別援助の視点と方法（２）		個別援助からアセスメントを理解する	
第 4回	個別援助の視点と方法（３）		個別援助からプランニングを理解する	
第 5回	個別援助の視点と方法（４）		個別援助からモニタリングを理解する	
第 6回	個別援助の視点と方法（５）		個別援助からアフターケアを理解する	
第 7回	個別援助の視点と方法（５）		個別援助を振り返り、評価する	
第 8回	個別援助から支援課題検証（１）		個別援助から支援課題をまとめる	
第 9回	個別援助から支援課題検証（２）		機関別・制度別の支援課題をまとめる	
第10回	個別援助から支援課題検証（３）		個別課題から普遍的な課題をまとめる	
第11回	各種の援助場面での相談援助実践の概念化・体系化		相談援助に係る技術をまとめる	
第12回	地域福祉の基盤と開発（１）		事例から地域住民へのアウトリーチを理解し、まとめる	
第13回	地域福祉の基盤と開発（２）		事例からネットワークINGの現状を理解し、まとめる	
第14回	地域福祉の基盤と開発（３）		事例から地域の社会資源の開発を理解し、まとめる	
第15回	地域福祉の基盤と開発（４）		事例からサービス評価の意味を理解し、まとめる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 「授業外学習」欄を参照（詳細は講義時に指示する） レポートについては、適宜返却する			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 出席状況 ＋ 発表内容と水準、討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。 2. 資格にかかわる科目のくため、4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる。）。 3. 演習による授業のため、当然のこととして学生の積極的な取り組みが求められる。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	黒木保博他編『社会福祉援助技術演習』ミネルヴァ書房 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授 業 科 目	ソーシャルワーク演習Ⅴ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	山崎 安則・新家 めぐみ・大西 良・金 圓景		単 位	2
授業の目的 と概要	ソーシャルワーク演習Ⅴでは、各学生が専門職者として将来的に希望する道に見合った演習内容を主体的に選択する。特化したコースでは、ソーシャルワークのジェネリックな要素、即ち各分野や援助形態に共通する概念、知識、方法、社会資源の体系を、総合的・包括的にとらえながら、それらの要素をさまざまな場面に応じてスペシフィックに適用できる実践力を身につけることができることを目的とする。 ソーシャルワークに関する講義、演習、現場実習（後指導も含む）をすべて終了し、総括する科目として位置づけられる。学習してきた相談援助に関するさまざまな知識や技術が、現実場面の中で生かされるように、事例検討を主体とした演習とし、これまでに学んできたことを生きた知恵や技術に高めていく（7つの分野・領域より各自A及びBコース2分野を選定し、各専門分野の教員により個別、集団指導を行う）。			
到達目標	1．事例の個別性や複合性に目を向ける視点を養うことができる。 2．利用者の自己決定権を尊重し自立を促進させようとする姿勢や人権擁護・権利擁護の立場が理解できる。 3．コミュニケーションスキルや援助関係の形成スキルが向上する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	ミクロレベルでのソーシャルワークの実践（1）		ミクロレベルでのソーシャルワーク実践を理解する	
第 2 回	ミクロレベルでのソーシャルワークの実践（2）		クライアントの自己実現に向けた支援を理解する	
第 3 回	ミクロレベルでのソーシャルワークの実践（3）		クライアントのQOL向上に向けた支援を理解する	
第 4 回	ミクロレベルでのソーシャルワークの実践（4）		クライアントの権利擁護を理解する	
第 5 回	メゾレベルでのソーシャルワークの実践（1）		メゾレベルでのソーシャルワーク実践を理解する	
第 6 回	メゾレベルでのソーシャルワークの実践（2）		自助グループの活動を調べる	
第 7 回	メゾレベルでのソーシャルワークの実践（3）		自治体の独自福祉事業を調べる	
第 8 回	メゾレベルでのソーシャルワークの実践（4）		地域包括ケアシステムを理解する	
第 9 回	マクロレベルでのソーシャルワークの実践（1）		マクロレベルでのソーシャルワーク実践を理解する	
第10回	マクロレベルでのソーシャルワークの実践（2）		制度の狭間について理解する	
第11回	マクロレベルでのソーシャルワークの実践（3）		制度の狭間解決に向けたソーシャルワーク実践を理解する	
第12回	マクロレベルでのソーシャルワークの実践（4）		国内外の関連制度を調べる	
第13回	困難に直面している対象への支援		ミクロ・メゾ・マクロレベルでの支援内容を調べる	
第14回	困難に直面するリスクのある対象の早期発見・早期介入		早期発見・早期介入の重要性を理解する	
第15回	困難発生予防及び社会参加・活動支援		困難発生予防のために必要なソーシャルワークを理解する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 課題①②の詳細は、各教員から指示する 課題については、適宜返却する			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 出席状況 ＋ 発表内容と水準、討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1．授業の具体的な進め方について、掲示および第1回めのオリエンテーションで説明するので、指示に十分注意すること。 2．この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。 3．資格にかかわる科目のため、4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる）。			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	黒木保博他編『社会福祉援助技術演習』ミネルヴァ書房 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規			
ウェブサイト	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授 業 科 目	ソーシャルワーク実習【実習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	山崎 安則・池田 和彦・新家 めぐみ・金 圓景・大西 良		単 位	4
授業の目的 と概要	ソーシャルワーク実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理観・人間観、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目的とする。また、関連分野の専門職との連携のあり方及びその方法を実践的に理解できることを目指している。 実習生は実習指導者によるスーパービジョンを受け、ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等を通して、実習生及び実習指導者との連絡調整を行い、実習生の状況について把握し、実習教育スーパービジョンを活かした個別指導を行う。 また、実習中のスーパービジョンなどを通して、市民としての社会的責任や勤労観、卒業後の自己のキャリアを構想する力を身につけることも課題とする。			
到達目標	1. 利用者やその関係者、施設・機関の職員等とのコミュニケーション・スキルとチームワーク力を身につけることができる。 2. 利用者理解とそのニーズ把握及び支援計画の作成ができる。 3. 利用者やその関係者と援助関係の形成ができる。 4. 利用者やその関係者に対する権利擁護及び支援とその評価を展開する問題解決力を身につけることができる。 5. 支援におけるチームアプローチ（チームワーク力）の実際を体得できる。 6. 社会福祉士としての倫理観・人間観を身につけ、施設・機関の職員としての役割と責任について理解できる。 7. 施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実際を理解でき、地域社会への働きかけができる。 8. 実習全体を通した体験的・実践的な学習によって、社会福祉専門職に求められる知識・技能を身につけることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
年間を通じ24日間（実習時間180時間）以上の配属実習を行うものとする。			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—				

授 業 科 目	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	山崎 安則・池田 和彦・新家 めぐみ・金 圓景		単 位	1
授業の目的と概要	ソーシャルワーク実習の意義や相談援助に関する知識と技術について具体的かつ实际的に理解するとともに、社会福祉士に求められる資質、コミュニケーション・スキル等の技能、倫理観・人間観、自己に求められる課題把握等、基礎的な能力を習得する。 そのため、実習分野の中から実習指導者を学外講師として迎え、専門職に求められる知識や技術、資質や倫理、介護等の関連業務の内容やチームアプローチ等について実践現場に対する理解を深めたうえで、個別指導・集団指導を通して、実習分野の概要や相談援助の知識や技術、専門職に求められる倫理観・人間観や自己覚知、人権への配慮、および記録の意義等についての基本的な理解を深める。 また、これらの学習を通して、市民としての社会的責任や勤労観、卒業後の自己のキャリアを構想する力を身につけることも			
到達目標	1. 実習の意義と目的及び実習全体の展開方法について理解できる。 2. 利用者理解と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解できる。 3. 実習先で必要とされる相談援助の知識やコミュニケーション・スキル等の技術及び関連業務やサービスについて理解できる。 4. 実習先の施設・機関がチームによる支援（チームワーク力）で課題解決を行う（問題解決力）展開方法について理解できる。 5. 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の重要性を理解できる。 6. 実習記録の記録内容及び記録方法について理解できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	ソーシャルワーク実習・実習指導における個別及び集団指導の目的と意義		実習に取り組む姿勢・態度についてノート整理	
第 2回	現場に学ぶ① 児童福祉施設		レポート作成と提出（感想と考察）	
第 3回	現場に学ぶ② 障害者支援施設		レポート作成と提出（感想と考察）	
第 4回	現場に学ぶ③ 高齢者福祉施設		レポート作成と提出（感想と考察）	
第 5回	現場に学ぶ④ 行政機関		レポート作成と提出（感想と考察）	
第 6回	現場に学ぶ⑤ 社会福祉協議会・医療機関		レポート作成と提出（感想と考察）	
第 7回	社会福祉施設・機関の概要① ― 沿革・歴史、根拠法と制度		沿革・歴史、根拠法と制度についてノート整理	
第 8回	社会福祉施設・機関の概要② ― 対象者とニーズ		対象者とニーズについてノート整理	
第 9回	社会福祉施設・機関の概要③ ― 関連職種・業務とサービス内容		社会福祉施設・機関についてレポート作成と提出	
第10回	対人援助技術の方法① ― 人権の尊重と共感的態度		人権の尊重と共感的態度についてノート整理	
第11回	対人援助技術の方法② ― 対人関係の構築に関する技術		対人関係の構築についてノート整理	
第12回	対人援助技術の方法③ ― 倫理綱領と守秘義務		対人援助技術についてレポート作成と提出	
第13回	記録① ― ソーシャルワークにおける記録の意義（秘密保持・プライバシーを含む）		記録の意義についてノート整理	
第14回	記録② ― 実習記録ノートの記入方法		記録方法についてノート整理	
第15回	記録③ ― 記録（メモ等を含む）の取り方		記録についてレポート作成と提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％ 担当教員が指示するレポートなどの提出物			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	50％ 授業に対する主体性			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 授業の具体的な進め方について、第1回めの授業で説明するので、指示に十分注意すること。 2. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのこと、レポート等の提出期限は必ず守ること。 3. 4 回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻 2 回＝欠席 1 回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる）。資格に係わる科目のため別途指示します。			
教科書	『ソーシャルワーク実習の手引き』（筑紫女学園大学） ← 大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『ソーシャルワーク実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワー	質問等は常に実習支援センターを活用のこと	メールアドレス		

授 業 科 目	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	山崎 安則・池田 和彦・新家 めぐみ・大西 良・金 圓景		単 位	1
授業の目的と概要	ソーシャルワーク実習の事前指導を行い、相談援助に係る知識とコミュニケーション・スキル等の技術を体得するとともに、社会福祉士に求められる資質、技能、倫理観・人間観などを習得する。 各自の配属実習先施設・機関等についての理解を深め、実習先で事前の現場体験学習及び見学実習を行い、それらを踏まえて実習先で必要とされる相談援助の知識とコミュニケーション・スキル等の技術の理解のうえに、各自の実習目標および課題を設定した「実習計画書」を作成する。あわせて実習に臨むに当たって、個人のプライバシーの保護と守秘義務等の再認識や実習記録の意義と内容および方法などを習得する。 また、この過程を通して、市民としての社会的責任や勤労観、卒業後の自己のキャリアを構想する力を身につけることも課題とする。			
到達目標	1．実習先施設・機関等の利用者、サービス内容の理解を通して、社会福祉現場における問題解決力を身につけることができる。 2．相談援助の知識と技術並びに関連業務の内容及びチームアプローチの実際（チームワーク力）について体験的に理解できる。 3．実習での個人のプライバシーの保護や守秘義務の重要性を理解できる。 4．実習中の実習記録への記入内容及び方法について習得できる。 5．実習に臨んでの目標や課題を設定し、実習指導者・担当教員の指導のもと実習計画書を作成できる。 6．実習の事前学習を通して、社会福祉専門職に求められる知識・技能を身につけることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	ソーシャルワーク実習の目的と意義		実習に臨む姿勢・態度についてノート整理	
第 2回	実習先機関・施設の理解① ― 沿革、根拠法と制度的位置		機関・施設の総合的理解についてノート整理	
第 3回	実習先機関・施設の理解② ― 利用者理解、サービス内容		機関・施設利用者とサービスの理解についてノート整理	
第 4回	実習先機関・施設の理解③ ― 関連職種（介護や保育等）と連携		多職種連携の理解についてノート整理	
第 5回	実習先機関・施設の理解④ ― 実習先機関・施設で必要とされる知識と方法		知識と方法の理解についてノート整理	
第 6回	実習計画書の作成① ― 実習計画書の意義と内容		実習計画書の意義と内容についてノート整理	
第 7回	実習計画書の作成② ― 実習計画書の様式と書き方		実習計画書の様式と書き方についてノート整理	
第 8回	実習計画書の作成③ ― 実習計画の目標と課題設定①（実習先の特徴）		実習先の特徴についてノート整理	
第 9回	実習計画書の作成④ ― 実習計画の目標と課題設定②（実習課題の明確化）		実習課題の明確化と実習計画書の作成	
第10回	実習計画書の作成⑤ ― 実習計画の目標と課題設定③（実習課題達成のために必要なこと）		実習計画書の作成・提出	
第11回	実習記録ノートの書き方① ― 実習記録ノートの意義と内容		記録の意義と内容についてノート整理	
第12回	実習記録ノートの書き方② ― 実習中の記録（メモ等）の取り方		記録の方法についてノート整理	
第13回	倫理綱領と守秘義務① ― 社会福祉士及び介護福祉士法と守秘義務についてディスカッション		ソーシャルワーカーの倫理についてノート整理	
第14回	倫理綱領と守秘義務② ― 個人情報保護法とプライバシーについてディスカッション		個人情報、プライバシーへの配慮についてノート整理	
第15回	実習の心得について ― グループワークとディスカッション		実習に向けての最終確認	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％ 担当教員が指示するレポートなどの提出物			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	50％ 授業に対する主体性			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1．この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのこと、レポート等の提出期限は必ず守ること。 2．4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる）。資格に係わる科目のため別途指示します。 3．つねに実習支援センターとの連携を深め、主体的・意欲的に取り組むこと。			
教科書	『ソーシャルワーク実習の手引き』（筑紫女学園大学） ← 大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『ソーシャルワーク実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワー	質問等は常に実習支援センターを活用のこと	メールアドレス		

授 業 科 目	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	山崎 安則・池田 和彦・新家 めぐみ・大西 良・金 圓景		単 位	1
授業の目的と概要	ソーシャルワーク実習に向けた事前訪問（実習先指導者と実習計画の内容確認および修正、実習中の指示などの機会、原則として2回の訪問を行う）についての事前指導と事後指導、ならびに実習中の巡回訪問指導（週に1回行う）のための授業であり、ソーシャルワーク実習指導Ⅱで設定した学生各自の実習課題達成を確実なものとするを目的とする。 また、実習中のスーパービジョンなどを通して、市民としての社会的責任や勤労観、卒業後の自己のキャリアを構想する力を身につけることも課題とする。			
到達目標	1. 実習先機関・施設との間で実習計画の明確化を図ることができる。 2. 実習先機関・施設における職場実習の実際を把握できる。 3. 実習先機関・施設における職種実習の実際（現場における倫理観・人間観やコミュニケーション・スキル等）を把握できる。 4. 実習中における実習記録ノートへの記録内容と方法について吟味できる。 5. ソーシャルワーク実習における事例研究と自己覚知について理解を深めることができる。 6. スーパービジョンを通して、社会福祉専門職に求められる知識・技能（チームワーク力、問題解決力を含む）を身につけることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 実習先機関・施設への事前訪問の意義、実習中の具体的指導方法について			事前訪問および実習中の指導方法について確認	
第2回 実習先機関・施設への事前訪問（1回目）の事前指導			実習計画内容の確認と実習先指導者への説明の仕方	
第3回 実習先機関・施設への事前訪問（1回目）の事後指導			1回目事前訪問の成果と課題確認	
第4回 実習先機関・施設への事前訪問（1回目）をふまえた実習計画明確化についての指導（グループワークを含む）			実習先の現状に合った実習計画の明確化	
第5回 実習先機関・施設への事前訪問（2回目）の事前指導			1回目の事前訪問で確認した課題についての検討	
第6回 実習先機関・施設への事前訪問（2回目）の事後指導			2回目事前訪問の成果と課題確認	
第7回 実習先機関・施設への事前訪問（2回目）をふまえた実習計画明確化についての指導（グループワークを含む）			実習先の現状に合った実習計画の明確化	
第8回 職場実習の体験をふまえたスーパービジョン			職場実習の成果と課題確認	
第9回 職場実習に関する実習記録についての指導			現場での実習記録確認	
第10回 職種実習の体験をふまえたスーパービジョン			職種実習の成果と課題確認	
第11回 職種実習に関する実習記録についての指導			現場での実習記録の確認と修正	
第12回 ソーシャルワーク実習の体験をふまえたスーパービジョン（グループワークを含む）			ソーシャルワーク実習全体の成果と課題確認	
第13回 ソーシャルワーク実習に関する実習記録についての指導			実習記録全体の整理・点検	
第14回 ソーシャルワーク実習における事例研究に対する指導（発表とディスカッション）			実習中に接した事例についてのレポート作成	
第15回 ソーシャルワーク実習における自己覚知に関する指導（発表とディスカッション）			実習体験を通しての自己覚知と今後の課題について整理	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	20％ 担当教員が指示するレポートなどの提出物			
小テスト等	0％			
成果発表	30％ 事前訪問についての指導、巡回指導時の受け答えなど			
受講態度他	50％ 特に実習先との関係づくりを重視した実習への取り組み態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. この授業では特に実習先指導者との関係が出てくるので、学ぶ姿勢や態度に十分注意すること 2. 事前訪問や実習について不安があれば、すぐに担当教員や実習支援センターに相談すること			
教科書	『ソーシャルワーク実習の手引き』（筑紫女学園大学） ←大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『ソーシャルワーク実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワー	質問等は常に実習支援センターを活用のこと	メールアドレス		

授 業 科 目	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ【演習】			開 講 時 期	後期
担 当 教 員	山崎 安則・池田 和彦・新家 めぐみ・大西 良・金 圓景			単 位	1
授業の目的と概要	ソーシャルワーク実習の事後指導として、個別・集団指導を通して、実習での具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を修得する。 実習後の教育として、各自が事前に設定した実習計画書を中心として、各自の実習記録や実習体験を踏まえた振り返りを行い、演習クラス単位及び全体報告会や個別指導・集団指導を通して、具体的な体験や援助実践を総括し、専門職がもつべき倫理観・人間観、現場で求められるコミュニケーション・スキル等の実践的・専門的援助技術の課題を踏まえた実習報告書を作成する。 また、実習の事後学習を通して、市民としての社会的責任や勤労観、卒業後の自己のキャリアを構想する力を身につけることも課題とする。				
到達目標	1. 演習クラス及び全体での報告会を通して、各自の実習記録や体験を整理するレポートを作成できる。 2. 個別・グループによるスーパービジョンを通して、実習中の行動の意味づけ、ディレンマの解消等の振り返りができる。 3. 実習記録や体験を客観化し、実習総括レポートと実習報告書を作成できる。 4. 実習先の評価表と自己評価を踏まえて、各自の今後の学習課題を明らかにできる。 5. 事後学習を通して、社会福祉専門職に求められる知識・技能（チームワーク力、問題解決力を含む）を身につけることができる。				
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第 1回	ソーシャルワーク実習の報告会① ― プレゼンテーションとディスカッション			報告スライドの作成と報告	
第 2回	ソーシャルワーク実習の報告会② ― プレゼンテーションとディスカッション			報告スライドの作成と報告	
第 3回	ソーシャルワーク実習の報告会③ ― プレゼンテーションとディスカッション			報告スライドの作成と報告	
第 4回	ソーシャルワーク実習の報告会④ ― プレゼンテーションとディスカッション			報告スライドの作成と報告	
第 5回	ソーシャルワーク実習の報告会⑤ ― プレゼンテーションとディスカッション			報告スライドの作成と報告	
第 6回	実習報告書の作成① ― 実習報告書の意義と目的			実習報告書の意義と目的についてノート整理	
第 7回	実習報告書の作成② ― 実習報告書の書き方			実習報告書の書き方についてノート整理	
第 8回	実習報告書の作成③ ― 実習報告書の第一次草稿作成			実習報告書第一次草稿の作成・提出	
第 9回	実習報告書の作成④ ― 実習報告書の第二次草稿作成			実習報告書第二次草稿の作成・提出	
第10回	実習報告書の作成⑤ ― 実習報告書の提出			実習報告書の作成・提出	
第11回	実習評価表と自己評価① ― 実習成果の振り返り			実習の総括	
第12回	実習評価表と自己評価② ― 学習課題の発見と整理			今後の学習課題の確認	
第13回	実習成果とディレンマ① ― 個別・集団指導（グループワークとディスカッションを含む）			実習で感じたディレンマについて検討	
第14回	実習成果とディレンマ② ― 自己覚知（グループワークとディスカッションを含む）			自己覚知についてその内容の整理と検討	
第15回	実習のまとめ ― プレゼンテーションとディスカッション			実習の総括と学習課題について最終確認	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	0％				
レポート	50％ 実習報告書				
小テスト等	0％				
成果発表	25％ 実習報告会での報告				
受講態度他	25％ 授業に対する主体性				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのこと、レポート等の提出期限は必ず守ること。 2. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻 2 回＝欠席 1 回とみなす。なお、20 分以上の遅刻は欠席扱いとなる）。 3. つねに実習支援センターとの連携を深め、主体的・意欲的に取り組むこと。				
教科書	『ソーシャルワーク実習の手引き』（筑紫女学園大学） ← 大学から配布				
指定図書	なし				
参考図書	『ソーシャルワーク実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること				
オフィスワー	質問等は常に実習支援センターを活用のこと		メールアドレス		

授 業 科 目	ソーシャルワーク総論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大西 良		単 位	2
授業の目的と概要	現代社会における社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義を理解し、専門職としての知見を深める。 社会的に困難を抱える人々への相談援助の理念および相談援助の方法について学び、相談援助の専門職としての自覚と専門性を意識することを目的とする。またソーシャルワーク（相談援助）における社会的包摂と社会的排除などの重要な概念について理解する。			
到達目標	1. ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の役割と意義を理解する 2. ソーシャルワーク（相談援助）の理念を説明できる 3. ソーシャルワークの概念、構成要素、形成過程を理解する			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつなげるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	社会福祉士の役割と意義①：社会福祉士及び介護福祉士法		教科書の第1章を読んで予習してくる	
第2回	社会福祉士の役割と意義②：社会福祉士・精神保健福祉士の役割と協働		教科書の第1章を読んで予習してくる	
第3回	社会福祉士の役割と意義③：社会福祉士の専門性		授業で指示した課題を調べてくる	
第4回	ソーシャルワークの概念と範囲①：国際ソーシャルワーカー連盟の定義		教科書の第2章第1節を読んで予習してくる	
第5回	ソーシャルワークの概念と範囲②：社会福祉士の業務としての「相談援助」		授業で指示した課題を調べてくる	
第6回	ソーシャルワークの概念と範囲③：精神保健福祉士の業務としての「相談援助」		授業で指示した課題を調べてくる	
第7回	ソーシャルワークの構成要素：クライアント、ニーズ、ソーシャルワーカー、社会資源		教科書の第2章第2節を読んで予習してくる	
第8回	ソーシャルワークの形成過程①：慈善組織協会、セツルメント運動		教科書の第3章を読んで予習してくる	
第9回	ソーシャルワークの形成過程②：アメリカ、イギリス、日本におけるソーシャルワークの発展過程		教科書の第4章を読んで予習してくる	
第10回	相談援助の理念Ⅰ①：ソーシャルワーク実践と価値、人権尊重、社会正義		教科書の第5章第1・2節を読んで予習してくる	
第11回	相談援助の理念Ⅰ②：ソーシャルワーク実践と権利擁護		教科書の第5章第3節を読んで予習してくる	
第12回	相談援助の理念Ⅱ①：クライアントの尊厳と自己決定、自立支援		教科書の第6章第1節を読んで予習してくる	
第13回	相談援助の理念Ⅱ②：エンパワメントとストレングス視点		教科書の第6章第1節を読んで予習してくる	
第14回	相談援助の理念Ⅱ③：ノーマライゼーション		教科書の第6章第2節を読んで予習してくる	
第15回	相談援助の理念Ⅱ④：社会的包摂と社会的排除		教科書の第6章第2節を読んで予習してくる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	0％			
小テスト等	20％ 講義の中で課題を出すので、調べたこと等をまとめて提出すること			
成果発表	0％			
受講態度他	20％ 講義中に質疑応答や話し合いの時間を設けるので、積極的に参加すること			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 2/3（10回）以上の出席で定期試験の受験資格を得ることができる 2. 積極的な受講を求める			
教科書	「新・社会福祉士養成講座 第6巻 相談援助の基盤と専門職」 第3版 中央法規			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で随時紹介する			
オフィスワー	水曜日 3 講目および 4 講目		メールアドレス	

授 業 科 目	ソーシャルワーク総論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大西 良		単 位	2
授業の目的と概要	ソーシャルワーク総論Ⅰで学んだソーシャルワークの概念、相談援助の価値や理念を基礎として、相談援助に関わる専門職について理解する。また相談援助専門職の概念、専門職倫理と倫理的ジレンマなど相談援助の実際について理解することを目的とする。事例検討を通じて、ジェネラリスト・ソーシャルワークによる相談援助について学ぶ。			
到達目標	1. 相談援助にかかる専門職の概念と範囲を理解する。 2. 相談援助専門職の概念を理解する。 3. 専門職倫理と倫理的ジレンマについて理解を深める。 4. 総合的かつ包括的な相談援助の全体像について認識できる。 5. 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論を説明できる。 6. 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能を理解する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	専門職倫理と倫理的ジレンマ：専門職倫理の概念		教科書の第7章第1節を読んで予習してくる	
第2回	専門職倫理と倫理的ジレンマ：倫理綱領の意義と内容、日本社会福祉士会倫理綱領		教科書の第7章第2節を読んで予習してくる	
第3回	専門職倫理と倫理的ジレンマ：ソーシャルワーク実践における倫理綱領の活用		授業で指示した課題を調べてくる	
第4回	専門職倫理と倫理的ジレンマ：ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ		教科書の第7章第3節を読んで予習してくる	
第5回	総合的かつ包括的な相談援助の全体像：「総合的かつ包括的な相談援助」をめぐる動向		教科書の第8章第1節を読んで予習してくる	
第6回	総合的かつ包括的な相談援助の全体像：「総合的かつ包括的な相談援助」の背景		教科書の第8章第1節を読んで予習してくる	
第7回	総合的かつ包括的な相談援助の全体像：地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座		教科書の第8章第2節を読んで予習してくる	
第8回	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論：ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的		教科書の第9章第1節を読んで予習してくる	
第9回	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論：ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質		教科書の第9章第2節を読んで予習してくる	
第10回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲：社会福祉行政における専門職		教科書の第10章第1節を読んで予習してくる	
第11回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲：民間の施設、組織における相談援助専門職		教科書の第10章第2節を読んで予習してくる	
第12回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲：社会福祉関連領域・国際的な場ではたらく専門職		教科書の第10章第3節を読んで予習してくる	
第13回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能：予防機能、新しいニーズへの対応機能		教科書の第11章を読んで予習してくる	
第14回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能：多問題家族への支援、総合的支援機能		授業で指示した課題を調べてくる	
第15回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能：権利擁護機能、社会資源開発機能		授業で指示した課題を調べてくる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	0％			
小テスト等	20％ 講義の中で課題を出すので、調べたこと等をまとめて提出すること			
成果発表	0％			
受講態度他	20％ 講義中に質疑応答や話し合いの時間を設けるので、積極的に参加すること			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 2/3（10回）以上の出席で定期試験の受験資格を得ることができる 2. 積極的な受講を求める			
教科書	「新・社会福祉士養成講座 第6巻 相談援助の基盤と専門職」 第3版 中央法規			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で随時紹介する			
オフィスワー	水曜日 3 講目および 4 講目		メールアドレス	

授 業 科 目	ソーシャルワークの方法Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大西 良		単 位	2
授業の目的と概要	ソーシャルワーク（相談援助）実践の基本である展開過程を学習することでソーシャルワーカー（社会福祉士）としてクライアントを支援する具体的イメージを想起できるようになること。また将来専門職として働く際に、相談援助の過程を明確に意識化することができることを目的としている。			
到達目標	・「ソーシャルワーカーってどんな仕事をするの?」といった質問に対し自分なりに答えることができるようになる ・友達や周囲の人からの相談に今より少しだけ上手に対応できるようになる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	相談援助（ソーシャルワーク）展開の概要		教科書第1章を読んで予習してくる	
第2回	相談援助における援助関係（1）：援助関係を構築するための原則		教科書第4章の第1節を読んで予習してくる	
第3回	相談援助における援助関係（2）：バーステックの7原則		教科書第4章の第2節を読んで予習してくる	
第4回	相談援助における援助関係（3）：ソーシャルワークにおける援助関係の特徴		教科書第4章の第3～5節を読んで予習してくる	
第5回	相談援助の展開過程（1）：ケースの発見		教科書第5章の第1・2節、第8章を読んで予習してくる	
第6回	相談援助の展開過程（2）：インテーク①基本的原則		教科書第5章の第3節、第8章を読んで予習してくる	
第7回	相談援助の展開過程（3）：インテーク②面接の方法		教科書第5章の第3節、第8章、第12章を読んで予習してくる	
第8回	相談援助の展開過程（4）：アセスメント①アセスメントの方法		教科書第5章の第4・5節、第9章の第1節を読んで予習してくる	
第9回	相談援助の展開過程（5）：アセスメント②アセスメントツール		教科書第5章の第4～6節、第9章の第2・3節を読んで予習してくる	
第10回	相談援助の展開過程（6）：プランニングと支援（介入）		教科書第5章の第7・8節、第10章を読んで予習してくる	
第11回	相談援助の展開過程（7）：モニタリングと再アセスメント		教科書第6章の第1・2節、第11章の第1・2節を読んで予習してくる	
第12回	相談援助の展開過程（8）：終結・フォローアップ・事後評価・効果測定		教科書第6章の第3・4節、第11章の第3・4節を読んで予習してくる	
第13回	相談援助の実際（1）：居宅介護支援事業所SWの支援事例		授業で指示した課題を調べてくる	
第14回	相談援助の実際（2）：一般病院の医療SWの支援事例		授業で指示した課題を調べてくる	
第15回	まとめ		1～14回までの授業内容を復習してくる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	0％			
小テスト等	20％ 講義の中で課題を出すので、調べたこと等をまとめて提出すること			
成果発表	0％			
受講態度他	20％ 講義中に質疑応答や話し合いの時間を設けるので、積極的に参加すること			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 2/3（10回）以上の出席で定期試験の受験資格を得ることができる 2. 積極的な受講を求める			
教科書	「新・社会福祉士養成講座 第7巻 相談援助の理論と方法Ⅰ」 第3版 中央法規			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で随時紹介する			
オフィスワー	水曜日3講目および4講目		メールアドレス	

授 業 科 目	ソーシャルワークの方法Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大西 良		単 位	2
授業の目的 と概要	ソーシャルワーク（相談援助）の視点を生態学（エコロジカル）およびシステム理論の枠組みから理解すること。また多様な実践アプローチを学ぶことによってソーシャルワーカー（社会福祉士）が行う対人援助方法の深さと多様性が理解できるようになることを目的としている。			
到達目標	・自分がソーシャルワークを実践するときどのようなアプローチを好むかを意識化できるようになる ・事例を読んで（聞いて）その事例で用いたアプローチや方法がどのような理論に基づいているかを説明できるようになる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業全体のオリエンテーションおよびソーシャルワークの概要		教科書の第1章を読んで予習してくる	
第2回	ソーシャルワークの対象：人と環境へのシステム論的理解		教科書の第6章を読んで予習してくる	
第3回	ソーシャルワークのモデル：治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル		教科書の第6章を読んで予習してくる	
第4回	ソーシャルワークにおけるアプローチの変遷		教科書の第6章を読んで予習してくる	
第5回	ソーシャルワーク実践アプローチ（１）：心理社会アプローチと機能的アプローチ		教科書の第7章第1・2節を読んで予習してくる	
第6回	ソーシャルワーク実践アプローチ（２）：問題解決・課題中心アプローチ		教科書の第7章第3・4節を読んで予習してくる	
第7回	ソーシャルワーク実践アプローチ（３）：危機介入アプローチ		教科書の第7章第5節を読んで予習してくる	
第8回	ソーシャルワーク実践アプローチ（４）：行動変容アプローチ		教科書の第7章第6節を読んで予習してくる	
第9回	ソーシャルワーク実践アプローチ（５）：家族療法的アプローチ		授業で指示した課題を調べてくる	
第10回	ソーシャルワーク実践アプローチ（６）：エンパワメントアプローチ		教科書の第8章第1節を読んで予習してくる	
第11回	ソーシャルワーク実践アプローチ（７）：ナラティブアプローチ		教科書の第8章第2節を読んで予習してくる	
第12回	ソーシャルワーク実践アプローチ（８）：認知アプローチ		教科書の第8章第3節を読んで予習してくる	
第13回	事例考察によるアプローチの理解（１）：医療および学校領域における支援事例		授業で指示した課題を調べてくる	
第14回	事例考察によるアプローチの理解（２）：地域福祉領域における支援事例		授業で指示した課題を調べてくる	
第15回	まとめ		1～14回までの授業内容を復習してくる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	0％			
小テスト等	20％ 講義の中で課題を出すので、調べたこと等をまとめて提出すること			
成果発表	0％			
受講態度他	20％ 講義中に質疑応答や話し合いの時間を設けるので、積極的に参加すること			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 2/3（10回）以上の出席で定期試験の受験資格を得ることができる 2. 積極的な受講を求める			
教科書	「新・社会福祉士養成講座 第8巻 相談援助の理論と方法Ⅱ」 第3版 中央法規			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で随時紹介する			
オフィスワー	水曜日 3 講目および 4 講目		メールアドレス	

授 業 科 目	ソーシャルワークの方法Ⅲ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	益満 孝一		単 位	2
授業の目的と概要	ソーシャルワーク（相談援助）について、ケースマネジメント、グループワーク（集団による援助）、コーディネーションとネットワークングを理解する。さらに、ソーシャルワーカー（社会福祉士）として、対人援助の多様性と深さについて知見を深めることを目的とする。 ジェネラリストソーシャルワークによる対象者支援を学び、ケースマネジメント、グループワーク（集団による援助）、コーディネーションとネットワークングについて理解する。これらがソーシャルワークの臨床現場でどのように活用されているかについて学び、説明できる。ソーシャルワーク実習では個別支援計画、カンファレンスなど個別面接能力だけでなく、ケースマネジメント、グループワークを始め、小集団での対人関係能力が身につけられる。グループを活用した相談援助について、体験型学習を通して気づきなどが学べます。			
到達目標	講義により次の知的学習と、構成的グループエンカウンター方式によるアクティブラーニングで、体験的に学習できます。知的学習だけでなく、受講生同士の人間関係を基盤とした専門職としての技術と態度も獲得できます。 1. 相談援助における対象を理解する。 2. ケースマネジメントを理解する。 3. グループを活用した相談援助の理解を深める。 4. コーディネーションとネットワークングの認識ができる。 5. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発について検討する。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 相談援助における対象の理解ージェネラリストソーシャルワーク		事前学習はテキスト 第1章	
第 2回	ケースマネジメントとケアマネジメント① 意義、目的、方法、留意点		事前学習はテキスト 第2章	
第 3回	ケースマネジメントとケアマネジメント② ケアマネジメントの実践・ケアプラン		事前学習はテキスト 第2章	
第 4回	グループを活用した相談援助① 意義、目的、方法、留意点		事前学習はテキスト 第3章	
第 5回	グループを活用した相談援助② グループワークの定義と成立条件		事前学習はテキスト 第3章	
第 6回	グループを活用した相談援助③ 実践原則と治療的効果		事前学習はテキスト 第3章	
第 7回	グループを活用した相談援助④ グループワークの援助媒体		事前学習はテキスト 第3章	
第 8回	グループを活用した相談援助⑤ グループワークの展開過程		事前学習はテキスト 第3章	
第 9回	グループを活用した相談援助⑥ セルフヘルプ・グループ		事前学習はテキスト 第3章	
第10回	グループを活用した相談援助⑦ 当事者グループ・住民組織・課題グループ		事前学習はテキスト 第3章	
第11回	コーディネーションとネットワークング① 意義、目的、方法、留意点		事前学習はテキスト 第4章	
第12回	コーディネーションとネットワークング② 家族や近隣、サービス提供者間など多職種・多機関との連携を含むネットワークング		事前学習はテキスト 第4章	
第13回	コーディネーションとネットワークング ケア会議の意義と留意点		事前学習はテキスト 第4章	
第14回	アウトリーチ （意義、目的、方法、留意点）		事前学習は配付資料	
第15回	相談援助における社会資源の活用・調整・開発（意義、目的、方法、留意点）		事前学習はテキスト 第5章	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％。レポート試験（グループワークでのふりかえりのレポート、学期末のレポート）。			
小テスト等	30％。習熟度テストを国家試験をもとにします。国家試験の問題に慣れることは、資格取得の最善の道です。学習習熟度をみるために小テストを実施します。配付された過去問題をしっかりと学習し専門的用語や知識を確実なものにしましょう。			
成果発表	なし			
受講態度他	30％。対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。ソーシャルワーク実習が目前ですので、実習で役に立つ専門性の高い講義になります。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	配布資料をもとに講義を行います。講義の際に、説明しますが、身近な市町などの「介護保険」に関するパンフレット（高齢者支援など）を使用します。座席は指定席で行うことがあります。授業形態は受講生が積極的に参加できるアクティブ・ラーニングで、構成的グループエンカウンター方式による体験学習をします。講義を聴く場面と話し合いの場面のメリハリができるようにしましょう。人見知りなどで対人関係の苦手な方は配慮しますので、相談してください。			
教科書	『新・社会福祉士養成講座 第8巻 相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規			
指定図書	講義の際に紹介します			
参考図書	社会福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会編集、社会福祉士国家試験受験ワークブック2018（専門科目編）、中央法規出版、6月刊行予定			
オフィスワー	火曜日 3時限目		メールアドレス	

授 業 科 目	ソーシャルワークの方法Ⅳ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	福崎 千鶴		単 位	2
授業の目的と概要	ソーシャルワークの方法Ⅰ～Ⅲをふまえて関連講義と結びつけながら相談援助の方法を修得する。 相談援助場面における専門職としての価値・倫理および知識、技術を修得する。 相談援助場面における記録の意義、目的、様式について習熟し、個人情報保護の重要性を理解し、記録物の管理ができる。 スーパービジョンの意義、方法を理解し、自己評価により課題を明確化し改善点を確認できる。 事例を通して援助の実際を理解することを目的とする。 1.相談援助における記録や情報管理について理解する。 2.相談援助における個人情報保護の意義と重要性について理解する。 3.スーパービジョンの意義、重要性について学び、相談援助実践でスーパービジョンを活かすことができる。			
到達目標	1. 記録の意義を理解し、目的に応じた記録の書き方を習得する。 2. 相談援助におけるⅠＴ活用について理解する。 3. 個人情報保護の重要性や取り扱いについて理解できる。 4. 事例分析の意義・方法を理解し、支援方法を考えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	記録の意義と目的を理解する		課題:教科書を熟読し、記録の意義や目的について考察する	
第 2 回	記録の方法および留意点を理解する		課題:社会福祉実習で用いた記録物の取り扱い方法等について振り返る	
第 3 回	記録の様式と書き方 および目的に応じた記録の活用法を理解する		教科書を熟読し、目的に応じた記録の活用を知る	
第 4 回	相談援助における情報通信技術（ⅠＴ）活用の意義を理解する		課題:社会福祉現場におけるIT活用の現状を調べる	
第 5 回	相談援助におけるⅠＴ活用の現状を知る		課題:通常活用しているⅠＴ機器の現状と課題について考察する	
第 6 回	相談援助におけるⅠＴ活用の留意点を理解する		課題:ⅠＴ機器の有効活用とⅠＴ活用の可能性について考察する	
第 7 回	権利擁護活動における個人情報保護の重要性を理解する		課題:社会福祉実習現場での個人情報保護について考える	
第 8 回	相談援助における個人情報保護の意義と目的を理解する		課題:個人情報保護法やマイナンバー制度について調べる	
第 9 回	相談援助における個人情報保護の留意点を理解する		課題:相談援助における個人情報保護の取り扱いについて考察する	
第10回	スーパービジョンの意義、方法、留意点を理解する		課題:教科書を熟読し、スーパービジョンの意義、方法、留意点を理解する	
第11回	スーパービジョンの留意点を理解し実際どのように行われているのか理解する		課題:社会福祉実習体験を通してスーパービジョンを振り返る	
第12回	事例分析の意義、目的、方法、留意点を理解する		課題:社会福祉実習現場での事例について考察する	
第13回	相談援助の実際 事例分析―虐待ケースへの対応を理解する		虐待事例について新聞記事等を読み、生活課題や支援を考察する	
第14回	相談援助の実際 事例分析―DVケースへの対応を理解する		課題:DV事例についての新聞記事等を読み、生活課題や支援を考察する	
第15回	相談援助の実際 事例分析―ホームレス支援への支援を理解する		課題:ホームレスに関する新聞記事等を読み、生活課題や支援を考察する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	10％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 教員の一方的な講義形式のみではなく、随時学生より意見を求めたり質問を交えながら実施するため、予習復習を行い講義に臨むこと。なお、随時レポートなどの課題を課すため、提出物および提出期限は必ず守ること。 2. 2/3（10回）以上の出席でテスト受験資格を得ることができる。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる。 3. 毎回、レスポンスシートに「質問・感想を記入する。なお、適切な質問や感想が記入されていた場合、授業態度の評価として加算する。			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編集『相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版』中央法規 社会福祉士養成講座編集委員会編集『相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』中央法規			
指定図書	なし			
参考図書	授業の際に適宜指示する			
オフィスアワー	金曜日 16：30～18：00		メールアドレス	

授 業 科 目	総合講座（人権・平和）【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松下 博文・小川 直樹・浅田 淳一・一木 順・金見 倫吾		単 位	2
授業の目的と概要	人権・平和について、様々な視角から学ぶことによって、人権・平和を尊重しながら生きることができるようになる。 ともすればそのことに無自覚になりがちですが、人権・平和は常に私たちを支えています。 例えば日本国憲法は、人権について「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であって」、「過去幾多の試練に堪へ、現在及び将来の国民に対し、侵すことのできない永久の権利として信託されたもの」であり、「国民の不断的努力によってこれを保持しなければならない」と規定しています。では、「多年にわたる」「努力」によって「獲得」した「侵すことのできない永久の権利」を「保持」するために、どのような「不断的努力」が必要なのでしょう。 そもそも人権・平和とは、それを損なう差別や戦争とは何なのでしょう。そして私たちは、様々な人権・平和の問題とどのように向き合っていけばいいのでしょうか。ともに考えたいと思います。			
到達目標	1、人権・平和について具体的に述べることができる。 2、人権・平和を損なうものとしての差別や戦争について説明することができる。 3、現代社会における多種多様な人権・平和問題に関して、それぞれの問題性を明らかにすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつなげるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション、人権の成立（浅田担当）			この講義を履修した動機について考えてみてください	
第2回 人権の成立（浅田担当）			フランス人権宣言と自然法	
第3回 人権の成立（浅田担当）			フランス人権宣言と自然法	
第4回 日本国憲法と人権・平和（小川担当）			日本国憲法における人権・平和	
第5回 日本国憲法と人権・平和（小川担当）			日本国憲法における人権・平和	
第6回 日本国憲法と人権・平和（小川担当）			日本国憲法における人権・平和	
第7回 沖縄の人権と平和を考える①（松下担当）			「琉球処分」について	
第8回 沖縄の人権と平和を考える②（松下担当）			「人類館事件」について	
第9回 沖縄の人権と平和を考える③（松下担当）			「基地問題」について	
第10回 平和とは何か（金見担当）			①平和をめぐるさまざまな意見について調べてくる	
第11回 平和を作る人々（金見担当）			②非戦・平和に取り組んだ人物や団体について調べてくる	
第12回 平和運動の課題と展望（金見担当）			③平和運動の現在の課題や今後の展望について調べてくる	
第13回 人種差別について（一木担当）			なぜ人種差別は悪いのか、考えてみましょう	
第14回 『ミシシッピーバーニング』にみる黒人差別の在り方（一木担当）			映画の感想を書いてみましょう	
第15回 人種差別は誰を傷つけるのか、授業のまとめ（一木担当）			授業の振り返りをやってみましょう	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	50％ レポート試験を行う。14週目の授業時に課題について記載したプリントを配布する。			
小テスト等	20％ 担当教員によっては、講義終了時の10～15分間に小レポートを課す。			
成果発表	なし。			
受講態度他	30％ 講義に向き合う姿勢を評価。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	一木がコーディネーターを担当しています。質問等あれば尋ねてください。また、12月の人権講演会に参加して、レポート試験時のレポートボックスに、レポートとともに提出してください。感想文の提出により、加点します。			
教科書	プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	講義時に紹介します。			
オフィスアワー	授業前後に相談してください。他は、各先生担当科目のシラバス参照。	メールアドレス		

授 業 科 目	総合講座（生命）①【講義】			開 講 時 期	前期
担 当 教 員	浅田 淳一・佐々木 浩・速水 良晃・田尻 雅美・金見 倫吾			単 位	2
授業の目的と概要	「生命」は38億年前に誕生し、私たちが他の生き物とともにそれを引き継いでいます。また、人間は科学技術を発展させ、遺伝子操作や臓器移植、さらには、生殖医療や出生前診断などの医療の場において、「生命」をどう考えるかということが、突きつけられています。この授業では、「生命」について様々な立場からの考え方を学ぶことによって、自分自身の倫理観・人間観にも深く関わる「生命とは何か？」という問いを、自分自身の問題として考えることができるようになることを目的としています。また、授業で自ら自分の意見を発表することにより自分自身のコミュニケーション・スキルの向上にも務めてください。 この授業では、各教員がそれぞれの専門分野の知識を通して「生命」について講義をします。 生命の発生から現代社会がかかえる生命に関する課題まで、多くのテーマが様々な視点から語られますので、大いに興味をもって受講しましょう。なお、下記は予定です。				
到達目標	1. 生命を生み出した宇宙と地球の歴史について、生命と関連して説明ができる。 2. 生物の進化や人間の進化について説明できる。 3. 現代社会・医療がかかえる問題について、課題を明らかにしつつ自分の見解を述べることができる。 4. 仏教などの宗教における生命観をとおして、「私のいのちの受け止め」を問い直すことができる。				
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 関連科目：仏教学Ⅰ・Ⅱ、生命倫理、倫理学				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第 1 回	宇宙の歴史と生命（担当：速水）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第 2 回	地球の歴史と生命（担当：速水）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第 3 回	物質とエネルギーと生命のつながり（担当：速水）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第 4 回	生物の進化から見た命（担当：佐々木）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第 5 回	生物のつながりから見た命（担当：佐々木）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第 6 回	私たちの生活と生物の命（担当：佐々木）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第 7 回	生命と倫理の関係（担当：浅田）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第 8 回	「生命功利主義」の問題性（担当：浅田）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第 9 回	「授かりもの」としての生について（担当：浅田）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第10回	水俣病の歴史と現在（担当：田尻）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第11回	障害者の視点から見る胎児性水俣病（担当：田尻）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第12回	原田正純の足跡から学ぶ（担当：田尻）			授業で配布された資料をもとに、予習復習を行う。	
第13回	仏教の死生観（担当：金見）			新聞などにより、現代社会の医療状況について調べる。	
第14回	死とどう向き合うのか：ターミナル・ケア（担当：金見）			新聞などにより、現代社会の医療状況について調べる。	
第15回	生きる意味について考える（担当：金見）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	50％ 定期試験（授業で扱ったテーマを選んで問いに答える）				
レポート	0％				
小テスト等	－				
成果発表	0％				
受講態度他	50％ 課題レポート等による				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業外学習や課題については、各担当教員からの指示に従って下さい。 図書館で「生命」に関する図書・DVDなどを閲覧し、それぞれの授業で得た知識を確認することも必要です。				
教科書	なし				
指定図書	なし				
参考図書	担当者が授業において紹介します。				
オフィスアワー	授業の前後、または、各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス		

授 業 科 目	総合講座（生命）②【講義】			開 講 時 期	前期
担 当 教 員	浅田 淳一・佐々木 浩・速水 良晃・田尻 雅美・金見 倫吾			単 位	2
授業の目的と概要	「生命」は38億年前に誕生し、私たちが他の生き物とともにそれを引き継いでいます。また、人間は科学技術を発展させ、遺伝子操作や臓器移植、さらには、生殖医療や出生前診断などの医療の場において、「生命」をどう考えるかということが、突きつけられています。この授業では、「生命」について様々な立場からの考え方を学ぶことによって、自分自身の倫理観・人間観にも深く関わる「生命とは何か？」という問いを、自分自身の問題として考えることができるようになることを目的としています。また、授業で自ら自分の意見を発表することにより自分自身のコミュニケーション・スキルの向上にも務めてください。 この授業では、各教員がそれぞれの専門分野の知識を通して「生命」について講義をします。 生命の発生から現代社会がかかえる生命に関する課題まで、多くのテーマが様々な視点から語られますので、大いに興味をもって受講しましょう。なお、下記は予定です。				
到達目標	1．生命を生み出した宇宙と地球の歴史について、生命と関連して説明ができる。 2．生物の進化や人間の進化について説明できる。 3．現代社会・医療がかかえる問題について、課題を明らかにしつつ自分の見解を述べることができる。 4．仏教などの宗教における生命観をとおして、「私のいのちの受け止め」を問い直すことができる。				
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 関連科目：仏教学Ⅰ・Ⅱ、生命倫理、倫理学				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第 1 回	生物の進化から見た命（担当：佐々木）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第 2 回	生物のつながりから見た命 II（担当：佐々木）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第 3 回	私たちの生活と生物の命（担当：佐々木）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第 4 回	宇宙の歴史と生命（担当：速水）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第 5 回	地球の歴史と生命（担当：速水）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第 6 回	物質とエネルギーと生命のつながり（担当：速水）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第 7 回	仏教の生死観（担当：金見）			日常の中で自分自身が「生きている」と実感したことを振り返る	
第 8 回	仏教での生命観一つながりあういのちー（担当：金見）			日常の中で「生かされている」と感じたことをまとめる	
第 9 回	生きる意味を考える（担当：金見）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第10回	生命と倫理の関係（担当：浅田）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第11回	生命功利主義の問題性（担当：浅田）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第12回	「授かりもの」としての生について（担当：浅田）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第13回	水俣病の歴史と現在（担当：田尻）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第14回	障害者の視点から見る胎児性水俣病（担当：田尻）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
第15回	原田正純の足跡から学ぶ（担当：田尻）			授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	50％ 定期試験（授業で扱ったテーマを選んで問いに答える）				
レポート	0％				
小テスト等	－				
成果発表	0％				
受講態度他	50％ 課題レポート等による				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業外学習や課題については、各担当教員からの指示に従って下さい。 図書館で「生命」に関する図書・DVDなどを閲覧し、それぞれの授業で得た知識を確認することも必要です。				
教科書	なし				
指定図書	なし				
参考図書	担当者が授業において紹介します。				
オフィスアワー	授業の前後、または、各教員の手他科目のシラバスを参照		メールアドレス		

授 業 科 目	総合表現演習【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	今釜 亮・岡山 万里		単 位	1
授業の目的と概要	子どもの視点に立って、遊びや活動を豊かに展開するため、保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園等における保育・教育の内容を理解することを目指す。そして、身体表現、音楽表現、造形表現とともに言語表現等の表現活動に関する知識や技術を育成する。さらに保育、教育現場においてそれらを総合して具体的に展開するために、表現活動に係る教材等の活用および作成と、保育の環境構成および技術の習得をすることを目的とする。 授業では、グループに分かれて、ビデオや実践記録についての分析や考察、実技を行う。その他に表現について創意工夫した表現の発表を行い、それに対するコメントをグループ相互に行う。その際「子どもの視点に立つ」「子どもの発達や要求に配慮する」ことを前提とする。また、毎回授業での気づきや考察を「学びの軌跡」にまとめ、自らの学びを確認する。			
到達目標	1. 子どもの発達に応じて適切に言語表現に関する児童文化（絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等）を選択し、実技することができる。 2. 言語表現と身体表現、音楽表現、造形表現を関係づけて教材を制作し、演じることができる。 3. 保育、教育現場を想定し、子どもの経験と様々な表現活動を結びつけて環境構成を行い、遊びや活動を展開することができる。 4. 身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現を総合的に結びつける劇や人形劇等を協力して集団で仕上げていくことができる。 5. 子どもの視点に立ち、子どもの主体性や要求にもとづいた活動を実施することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	子どもの遊びや活動における表現活動（乳児期）、発表グループ分けと担当決め		課題：乳児の表現、遊びミニレポート、テーマ構想	
第2回	子どもの遊びや活動における表現活動（幼児期）		課題：幼児の表現、遊びミニレポート、テーマ構想	
第3回	子どもの遊びや活動における表現活動（ビデオ：あげは物語）、発表テーマ検討		課題：遊びミニレポート、発表内容構想	
第4回	子どもの遊びや活動における表現活動の実際、発表内容（構成）検討		課題：発表準備と課題、ミニレポート	
第5回	子どもの発達と児童文化（絵本、人形劇、紙芝居、ストーリーテリング等）（3歳未満）、発表構成検討		課題：発表準備と課題、ミニレポート	
第6回	子どもの発達と児童文化（絵本、人形劇、紙芝居、ストーリーテリング等）（3歳以上）、発表構成検討		課題：発表と課題、ミニレポー	
第7回	音楽表現（音づくり）、発表構成検討		課題：発表準備と課題、ミニレポート	
第8回	音楽表現（音あそび）		課題：ミニレポート	
第9回	身体表現（見立てあそび）、発表構成検討		課題：発表準備と課題、ミニレポート	
第10回	身体表現（運動あそび）、発表構成検討		課題：造形表現の教材製作、発表構成検討	
第11回	造形表現（教材製作）、発表構成検討		課題：発表準備と課題、ミニレポート	
第12回	総合表現の発表①（構成、検討）		課題：発表準備と課題、ミニレポート	
第13回	総合表現の発表②（教材、展開の確認）		課題：発表準備	
第14回	総合表現の発表③（予行練習）		課題：発表準備	
第15回	総合表現の発表④（仕上げ）		発表：レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％ ミニレポート（30％）、教材制作・準備（20％）			
小テスト等	0％			
成果発表	30％ 総合表現の発表の完成度および態度等			
受講態度他	20％ 授業集中度、意見、発表、練習参加、実務態度等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・音楽演習、体育Ⅰ・体育Ⅱ、図画工作Ⅰ、図画工作Ⅱ、保育内容演習（表現）等で学習した表現技術を基礎とする。 ・必要に応じてゲストティーチャーによる指導もある。 ・授業に対して積極的参加はもとより、最後は集団での表現活動の発表になるので、役割分担し協力して取り組むこと。			
教科書	プリントを配布			
指定図書	今井和子 『遊びこそ豊かな学び—乳幼児期に育つ感動する心と、考え・表現する力』 ひとなる書房 2013年			
参考図書	授業で適宜指示			
オフィスワー	前期：月・火昼休み、木2限		メールアドレス	

授 業 科 目	相談援助【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	上原 真幸		単 位	2
授業の目的と概要	子どもやその家庭を取り巻く様々な困難、問題を解決するためには、まず、困難な状況にある相手の状況や思いを知ることが不可欠となる。保育場面で求められる相談援助の方法・技術について理解する。基本的な相談面接の技法の獲得に加え、連絡帳や日常的な保護者への相談援助場面を想定し、具体的支援技術の習得を目的とする。その上で、事例検討を行い、必要な相談援助方法の選択と具体的支援への移行について考察する力を養う。			
到達目標	①相談援助の意義や機能、具体的展開方法を知り、各過程における援助者の留意点について述べることができる。 ②相談面接を行う上での基本的な方法を知り、それらを守りながら面接を行うことができる。 ③相談援助における記録の意味を知り、記録と援助の関連性について述べることができる。 ④保育におけるソーシャルワーク機能について理解し、必要性について説明することができる。 ⑤相談援助の在り方を、事例を通して考察することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 関連科目：社会福祉・家庭支援論・保育相談支援			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション ―保育士が行う相談援助の意味と必要性―		テキスト全体に目を通しておく	
第2回	相談援助とはなにか ―社会福祉の相談援助の特徴理解―		テキスト第1章を読んでおく	
第3回	保育の中の相談援助 ―連絡帳を通した相談と援助の理解―		テキスト事例を読んでおく	
第4回	相談援助の機能 ―生活課題理解と医学モデル、生活モデルについて―		テキスト第2章を読んでおく	
第5回	相談援助の視点と技術 ―相談援助の専門性とバイスティックの7原則について―		社会福祉援助技術の種類について一覧をまとめておく	
第6回	家庭に関わる相談援助の実例 ―事例から相談援助を理解する―		ワークシートを完成させておく	
第7回	自己覚知グループワーク ―自身の価値観を知る―		テキスト第4章を読んでおく	
第8回	ジェノグラムとエコマップ① ―図から情報を読み取る―		テキスト第7章を読んでおく	
第9回	ジェノグラムとエコマップ② ―事例から図を作成する―		ジェノグラムとエコマップルールの作成方法を復習しておく	
第10回	相談面接の実例 ―傾聴と相談面接実施時の留意事項について―		日常生活を振り返り、相手と話すときの意識・無意識についてまとめておく	
第11回	相談面接の実践 ―相談面接から家族問題を把握する―		架空の家族事例を作成しておく	
第12回	相談援助の過程と機関連携 ―ケースの発見から集結、ネットワークについて―		テキスト第10章を読んでおく	
第13回	情報収集・検討のグループワーク ―複数情報の収集と必要情報の精査―		テキスト第6章を読んでおく	
第14回	保育ソーシャルワークについて ―保育ソーシャルワークの理解と機能―		テキスト第13章を読んでおく	
第15回	まとめ ―保育に関わる相談援助―		テキスト、ノート等をまとめておく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70%（講義内容全般に関する試験を実施する）			
レポート	10%（講義内感想レポート等）			
小テスト等	―			
成果発表	―			
受講態度他	20%（講義内の発言、取り組みの姿勢等）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	資料等は印刷物を配布するため、講義中のスマートフォン等の電子機器類の使用は、厳しく禁止する。 日常的に児童家庭福祉等のニュースや新聞記事に目を通しておくこと。			
教科書	佐藤信隆・中西遍彦『演習・保育と相談援助』みらい			
指定図書	―			
参考図書	随時紹介する			
オフィスアワー	前期：月曜 3 限、後期：金曜3限		メールアドレス	

授 業 科 目	組織行動論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	藤原 隆信		単 位	2
授業の目的と概要	一般的に、企業経営にはヒト、モノ、カネ、情報といった経営資源が必要であると言われています。本科目では、このような経営資源の中の「ヒト（人的資源）」に焦点を当て、それを「個人」、「集団」、「組織」といった多様なレベルで学んで行くことにします。受講生の皆さんが、企業に就職して働きだすと必ず出会うであろう「やりがい」や「働きがい」に関する疑問、その背後にある「個人の欲求」や「動機づけ」の問題、さらには企業の業績を左右する「組織学習」や「リーダーシップ」の問題などを理解するための理論を学んでいきます。これらの知識を身に付けることで、「組織で働くこと」の意味や「自分にあった働き方」を自ら考えられるようになることを目指します。			
到達目標	①働く人々の「欲求」や「動機」を、自分自身の行動を例にして説明できる。②働く人々の「動機づけ（モチベーションアップ）」の方法を、自分自身の所属する組織を例にして説明できる。③組織を存続・発展させるための知識と能力を身につけ、自分の所属する組織で実践することができる。④上記①～③を踏まえ、どのように人材を活用すれば組織の業績が向上するのかを自分の言葉で説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	組織における個人の行動原理（1） ——組織に存在する三つの欲求		あなたが働く際に重視するもの（働く理由）は何かを考えてきて下さい。	
第2回	組織における個人の行動原理（2） ——目標設定と組織業績		あなたはどのような「目標」があれば頑張れるのかを考えてきて下さい。	
第3回	組織における個人の行動原理（3） ——VTRで考える組織行動（「目標設定」の重要性）		自分自身の「やる気の出し方」について考えてきて下さい。	
第4回	組織における個人の行動原理（4） ——討論&発表（「目標設定」の重要性）		「目標設定の重要性」について考え、討論&発表の準備をしてきて下さい。	
第5回	組織におけるモチベーション管理（1） ——組織内の公平性と個人のモチベーション		あなたがアルバイト先等で「不公平」と思うことを考えてきて下さい。	
第6回	組織におけるモチベーション管理（2） ——業績に対する期待と個人のモチベーション		あなたが仕事に対して抱えている期待は何ですか？考えてきて下さい。	
第7回	組織におけるモチベーション管理（3） ——VTRで考える組織行動（モチベーションの源泉は何か？）		自分自身の「モチベーションの源泉」について考えてきて下さい。	
第8回	組織におけるモチベーション管理（4） ——討論&発表（モチベーションの源泉は何か？）		「モチベーションの源泉」を考え、討論&発表の準備をしてきて下さい。	
第9回	組織の存続と発展を考える（1） ——組織学習理論①：組織を成功に導く要因		成功を続けている組織の特徴（その要因）は？考えてきて下さい。	
第10回	組織の存続と発展を考える（2） ——組織学習理論②：組織を失敗に導く要因		失敗を繰り返している組織特徴（その要因）は？考えてきて下さい。	
第11回	組織の存続と発展を考える（3） ——組織のリーダーシップ理論		あなたの身近にいる「リーダー」の特徴について考えてきて下さい。	
第12回	組織の存続と発展を考える（4） ——VTRで考える組織行動（現代社会で求められるリーダーとは？）		「現代社会で求められるリーダーの姿」を考えてきて下さい。	
第13回	現代社会で求められる組織行動（1） ——外部講師によるレクチャー①（現代社会で求められるもの）		事前学習課題をやってきて下さい（開催回の変更の可能性あり）	
第14回	現代社会で求められる組織行動（2） ——外部講師によるレクチャー②（私たちに求められるもの）		事前学習課題をやってきて下さい（開催回の変更の可能性あり）	
第15回	現代社会で求められる組織行動（3） ——討論&発表（現代社会で求められる組織行動とは？）		チームで話し合って発表の準備をしてきて下さい。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 期末レポート（30％）、講義内課題レポート（20％）			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ 授業の進行に合わせて適宜、チームでの討論&発表をしてもらいます。その内容で判断します。			
受講態度他	20％ 授業への出席状況や受講態度などを勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、授業の中で課題レポートの作成やチーム討議、チーム発表に取り組んでもらう予定にしています。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。			
教科書	担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12：20～13：10） ※事前に予約を取って下さい。		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	篠崎 真美		単 位	4
授業の目的 と概要	・専門ゼミナールⅠ・Ⅱの研究・学習内容を踏襲し、専門ゼミナールⅡで設定した各自の研究・調査テーマの確認と見直しをおこない、学生と教員で指導計画の確認・再設定をおこなう ・各自の研究・調査テーマにそった研究・調査内容と方法（インタビュー・フィールド調査）の策定をおこなう ・研究に必要な専門知識・分析方法を講義・演習①ー⑤によって補う ・夏休みに研究・調査をおこなえるように、夏休みと卒業ゼミナールⅡの研究・調査活動計画をたてる			
到達目標	自ら課題を抽出し、仮説をたて、分析・調査により、結論を導くことができる ①自ら研究テーマ・研究計画の設定をすることができる ②自ら研究計画にそった調査・研究ができる ③専門知識・分析方法を習得する ④研究経過や課題をプレゼンテーションで簡潔に説明することができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス・専門ゼミナールⅠ・Ⅱ研究・学習内容の確認（グループヒアリング）		専門ゼミナールⅠ・Ⅱ研究・学習内容をまとめてきてください	
第2回	研究テーマの確認（専門ゼミナールⅡ）・今後のゼミの進め方（個別ヒアリング）		専門ゼミナールⅡ研究テーマが決まっている人は説明してください	
第3回	講義・演習（研究テーマ設定のしかた）		復習：研究テーマの見直し	
第4回	講義・演習（研究・調査実施計画の策定のしかた）		復習：年間計画の策定	
第5回	講義・演習（先行研究の調査のしかた）		復習：先行研究調査	
第6回	講義・演習（資料検索と収集のしかた）		復習：資料収集	
第7回	講義・演習（調査・分析のしかた）		復習：調査・分析方法	
第8回	講義・演習①（受講生の研究テーマに沿った専門課題）		適宜指示します	
第9回	講義・演習②（受講生の研究テーマに沿った専門課題）		適宜指示します	
第10回	講義・演習③（受講生の研究テーマに沿った専門課題）		適宜指示します	
第11回	講義・演習④（受講生の研究テーマに沿った専門課題）		適宜指示します	
第12回	講義・演習⑤（受講生の研究テーマに沿った専門課題）		適宜指示します	
第13回	発表・討論：研究・調査計画の策定（夏休み・卒業ゼミナールⅡ）		予習：発表内容の準備（パワーポイント）	
第14回	発表・討論：先行研究の調査		予習：発表内容の準備（パワーポイント）	
第15回	発表・討論：資料検索・収集、小括（夏休みの研究・調査活動の明確化）		予習：発表内容の準備（パワーポイント）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	60％（各回の成果発表・報告）			
受講態度他	40％（全体討論への参加貢献度）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	出席必須 遅刻・早退・欠席は、事前に理由連絡をし承認をとること			
教科書	適宜紹介する			
指定図書	適宜紹介する			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスワ ーク	水曜日 5 講目 ＊事前にメールにて訪問日時を相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松崎 徹		単 位	2
授業の目的 と概要	本ゼミナールでは、講師が幅広く集めた、英語に見られる興味深い言語現象を受講生と一緒に分析しながら、英語の持つ不思議な魅力を体感していきます。			
到達目標	1. 英語には興味深い言語現象が数多く存在していることを理解できる。 2. そうした言語現象の多くにはきちんとした由来が存在していることが理解できる。 3. 上で学んだ言語現象の由来を類似した他の言語現象の説明にも応用できるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	導入問題の解答と解説		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第2回	英語の発音と綴りの不思議 (1) 【発音】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第3回	英語の発音と綴りの不思議 (2) 【綴り】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第4回	英語の発音と綴りの不思議 (3) 【発音と綴りの歴史】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第5回	アルファベットの不思議 (1) 【アルファベットの由来】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第6回	アルファベットの不思議 (2) 【アルファベットの種類】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第7回	アルファベットの不思議 (3) 【英語のアルファベットの歴史】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第8回	英語の数の不思議 (1) 【言語と数】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第9回	英語の数の不思議 (2) 【可算と不可算】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第10回	英語の数の不思議 (3) 【数詞】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第11回	英語の性別の不思議 (1) 【言語と性】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第12回	英語の性別の不思議 (2) 【英語の性の歴史】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第13回	英語の性別の不思議 (3) 【現代英語での性】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第14回	グループ発表 (1)		グループ発表準備	
第15回	グループ発表 (2)		グループ発表準備	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	30% 小テスト			
成果発表	50% グループ発表			
受講態度他	20% 授業での積極的な取り組みを考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・あらかじめ配布された予習プリントは次回の授業時までにかならず予習をしておいてください。また、授業で学んだことは、その日のうちに復習しておいてください。 ・授業は講義形式が主とはなりますが、本ゼミの受講生には授業がより活気あるものとなるよう、各自の積極的な参加と活発な意見の交換を期待します。 ・理解度の確認という目的で各単元の終了ごとに小テストを実施しますので、テストに備えて日ごろから講義内容の復習を心が			
教科書	プリント資料配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜指示します。			
オフィスアワー	火曜日 4 限目・水曜日 3 限目		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	三日月 雅子		単 位	2
授業の目的と概要	このゼミの主要課題は、Airline関連の分野で必要とされる実践的な英語力と基礎知識を身につけることです。この基本的な認識を基に、受講生は、Airline関連の各テーマを英語で読んで学び、基礎知識を養い、理解力を高めることを目的にします。さらに、その過程で論理的思考力、問題解決力、特定分野の知識・技能も身につくことができます。このゼミでは受講者の発表が中心となります。調べた内容を全員の前で効果的に発表できるよう技術的な側面も指導していきたいと思います。Airline関連の英語そのものがもつ規則性や特徴も同時に考察していきます。			
到達目標	1. Airline分野に関する英文のトピックを選び、その内容を正確に読み理解する。 2. 調べたことを、的確かつ正確な言葉で口頭発表をする。 3. 講義で学んだAirline分野の知識に関して知識を深める。 4. 講義中の質疑応答やディスカッションなどでコミュニケーションスキルを向上する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション			発表資料の作成準備	
第 2回 模擬発表			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料を精読	
第 3回 発表第1回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(1)を精読	
第 4回 発表第 2 回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(2)を精読	
第 5回 発表第 3 回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(3)を精読	
第 6回 発表第 4 回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(4)を精読	
第 7回 発表第 5 回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(5)を精読	
第 8回 発表第 6 回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(6)を精読	
第 9回 発表第 7 回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(9)を精読	
第10回 発表第 8 回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(8)を精読	
第11回 発表第 9 回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(9)を精読	
第12回 発表第 1 0 回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(1 0)を精読	
第13回 発表第 1 1 回(プレゼンテーション)			発表担当者は資料を作成。担当者以外も資料(1 1)を精読	
第14回 発表第 1 2 回(プレゼンテーション)			発表担当者は発表資料を作成・担当者以外も資料(1 2)を精読	
第15回 学習内容の質疑応答			学習内容の全体的復習	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 毎回の授業における課題。			
小テスト等	なし			
成果発表	60% 口頭発表。			
受講態度他	20% 積極的な参加(発表・質問等)。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学習態度(授業参加度・プレゼン発表)や 課題を重視する。 発表は十分な時間をかけ準備をして臨むこと。			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	特になし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスワー	火曜日：昼休み 水曜日：昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	宮原 牧子		単 位	2
授業の目的 と概要	ヴィクトリア朝時代のイギリスのバラッド詩を精読、鑑賞、翻訳します。翻訳とは、単なる訳ではありません。詩人の他の作品や伝記、時代背景など、さまざまな知識が必要です。真に作品を理解した上で、詩を翻訳しましょう。翻訳は、とても時間のかかる作業です。根気よく頑張りましょう。 なお、完成した翻訳作品は、『英国バラッド詩アーカイブ』（ http://literaryballadarchive.com/ ）に掲載されます。 担当作品は、責任をもって仕上げてください。 ①詩人と作品を選定します。（担当者・担当作品については第2回にリストを作成します） ②時代背景や伝記について調べます。また、詩人の他の作品も読みます。 ③作品を精読します。 ④試訳を全員で検討します。 ⑤翻訳作品を完成させます。			
到達目標	1．英詩を正確に読み、理解できる 2．文学用語、詩人、作品、時代背景に関する知識を深める 3．作品にふさわしい日本語で詩を訳すことができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション 「翻訳とは何か」		第2回の準備（作品の選定）	
第2回	ヴィクトリア朝時代の時代背景 論文の紹介		担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第3回	ヴィクトリア朝時代の社会の構造 論文の紹介		担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第4回	産業革命について 論文の紹介		担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第5回	詩人の伝記的背景について 研究書の紹介		担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第6回	作品の背景について 研究書の紹介		担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第7回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（1） 精読とは		担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第8回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（2） 辞書・辞典の活用		担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第9回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（3） 言葉の選択について		担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第10回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（4） グループ別作業		担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第11回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（5） グループによるディスカッション		担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第12回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（6） 誰にでも解る翻訳とは		担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第13回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション（7） 翻訳作品原案作成		担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第14回	翻訳作品の校正（1） グループによるディスカッション		担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第15回	翻訳作品の校正（2） 作品の完成		翻訳作品を完成させる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	―			
レポート	―			
小テスト等	―			
成果発表	70％ 翻訳作品の完成度により評価します。			
受講態度他	30％ 講義への参加度・受講態度などで評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして講義にのぞんでください。 やむを得ず発表の担当の回に欠席する場合は、当日の朝8時までに連絡すること。			
教科書	プリント			
指定図書	―			
参考図書	必要に応じて講義中にご紹介します。			
オフィスアワー	火曜日 4 限目		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	緒方 隆文		単 位	2
授業の目的と概要	目標 1：卒業ゼミナールを通して、言語・文化に関する専門知識を身につけ、深い人間理解ができるようになる。目標 2：英語理論を学び、言葉としての英語に関心を持つとともに、自ら探求する方法を身につける。目標 3：英語圏文化を、学んだり調べたりすることで、英語に対する理解を深め、様々な視点で英語をとらえることができるようになる。その過程で、論理的思考力、問題解決力、特定分野の知識・技能を身につける。 授業は基本、二部構成で進められる。前半では受講者は、自分のテーマによる発表を行う。自ら調べ、効果的に発表できるよう技術的な側面も学んでいく。後半ではプリントを用いて、言語理論(認知言語学)や英語学全般の内容を取り上げ学習する。英語そのものがもつ規則性・特徴を、言語理論に偏ることなく、幅広く見ていく。そうすることで、英語に対する理解を深め、英語そのものをことばとして楽しむことが期待されている。			
到達目標	1. 英語に関するテーマを一つ選び、期末レポートを書くことができる。 2. 調べたことを、口頭発表(2回)することができる。 3. 講義で学んだ特定分野の知識・技能に関して、自らの言葉で説明することができる。 4. 口頭発表など講義中に、質疑応答やディスカッションなど積極的に参加することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション, テーマ仮決め/情報検索と収集		情報検索と収集の復習、発表/レポート作成準備	
第 2 回	マインドマップの作り方, ハンドアウトの作り方		マインドマップの作り方の復習, 発表/レポート作成準備	
第 3 回	プレゼンテーションについて, 期末レポートの書き方		レポートの書き方の復習, 発表/レポート作成準備	
第 4 回	発表A(第1回)；認知言語学/英語学全般(オリエンテーション)		認知言語学の復習, 発表/レポート作成準備	
第 5 回	発表A(第2回)；認知言語学/英語学全般(Over の意味拡張<1>: 多義性について)		Over の意味拡張(1)の復習, 発表/レポート作成準備	
第 6 回	発表A(第3回)；認知言語学/英語学全般(Over の意味拡張<2>: 事例研究)		Over の意味拡張(2)の復習, 発表/レポート作成準備	
第 7 回	発表A(第4回)；認知言語学/英語学全般 (メタファー<1>: 理論的背景)		メタファー(1)の復習, 発表/レポート作成準備	
第 8 回	発表A(第5回)；認知言語学/英語学全般 (メタファー <2>: 方向付けのメタファー)		メタファー(2)の復習, 発表/レポート作成準備	
第 9 回	発表B(第1回)；認知言語学/英語学全般 (メタファー <3>: 容器のメタファー)		メタファー(3)の復習, 発表/レポート作成準備	
第10回	発表B(第2回)；認知言語学/英語学全般 (訳にあたって<1>: 翻訳原理)		訳にあたって(1)の復習, 発表/レポート作成準備	
第11回	発表B(第3回)；認知言語学/英語学全般 (訳にあたって<2>: 日英の視点の違い)		訳にあたって(2)の復習, 発表/レポート作成準備	
第12回	発表B(第4回)；認知言語学/英語学全般 (訳にあたって<3>: 事例研究)		訳にあたって(3)の復習, 発表/レポート作成準備	
第13回	発表B(第5回)；認知言語学/英語学全般 (ポライテネスストラテジー<1>: 理論)		ポライテネスストラテジー(1)の復習, 発表/レポート作成準備	
第14回	発表B(第6回)；認知言語学/英語学全般 (ポライテネスストラテジー<2>: 応用研究)		ポライテネスストラテジー(2)の復習, 発表/レポート作成準備	
第15回	総括: レポート最終指導, 学習内容の全体的復習		レポート仕上げ	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 期末レポートの他に、毎回の授業において課題が課せられる。なお提出した課題は、次の授業において返却される。			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 口頭発表が2回ある。			
受講態度他	20% 積極的な参加(発表・質問等)を考慮する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学習態度(授業参加度・プレゼン発表)や 課題/レポートを重視する。 発表やレポートはしっかりと時間をかけ準備をし、自分でも十分に満足のいくものにすること。 細かい授業のルールについては、第1回の授業で配布する。			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中、必要に応じて紹介する。			
オフィスワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(メール等で、予約することが望ましい)	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	石井 康仁		単 位	2
授業の目的 と概要	この卒業ゼミナールⅠでは、まず幼児が言語を習得する仕組みについて学びます。言語習得について様々な考え方がある中で、それが完全に模倣によるものか、あるいは人間が生まれつき持っている能力が発現するのか、その両方か、など考えながら学んでいきます。ことばを話すことは、人間の特徴の最たるものなので、人間を理解する上でも大事なことを考えていきます。			
到達目標	①幼児が言語を習得する仕組みについて理解し、説明できるようになる。 ②人間の言語能力というものがいかなるものか、深く理解し、説明できるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 イントロダクション			特になし	
第2回 幼児の言語習得について1（模倣説）			プリント資料1、指定図書	
第3回 幼児の言語習得について2（矯正説）			プリント資料2、指定図書	
第4回 幼児の言語習得について3（生得説1、概説）			プリント資料3、指定図書	
第5回 幼児の言語習得について4（生得説2、文法）			プリント資料4、指定図書	
第6回 幼児の言語習得について5（生得説3、音韻）			プリント資料5、指定図書	
第7回 幼児の言語習得について6（生得説の根拠）			プリント資料6、指定図書	
第8回 幼児の言語習得について7（生得説と経験論的説明の比較）			プリント資料7、指定図書	
第9回 幼児の言語習得について8（生得説と経験論的説明の統合）			プリント資料8、指定図書	
第10回 人間の言語能力について、ピッカートン説に基づき1			プリント資料9、指定図書	
第11回 人間の言語能力について、ピッカートン説に基づき2			プリント資料10、指定図書	
第12回 人間の言語能力について、ピッカートン説に基づき3			プリント資料11、指定図書	
第13回 人間の言語能力について、帯刀説に基づき1			プリント資料12、指定図書	
第14回 人間の言語能力について、帯刀説に基づき2			プリント資料13、指定図書	
第15回 前期のまとめ			プリント資料の復習、指定図書	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	学期末レポート 80％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	出欠については、履修規程にある通り（全15回の授業の3分の2の出席を必要とする）です。 出席することで理解が深まります。可能な限り出席しましょう。 尚、就職活動等で休む場合は事前に連絡して下さい。			
教科書	プリント資料（参考図書に挙げてある書物の1988年版）			
指定図書	デレック ピッカートン『言語のルーツ』大修館書店 帯刀益夫『われわれはどこから来たのか、われわれは何者か、われわれはどこへ行くのか』早川書房			
参考図書	V. Fromkin, R. Rodman & N. Hyams, _An Introduction to Language_ Wadsworth (2006)			
オフィスアワー	月曜日 4 時限目、火曜日 5 時限目		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	D.J. Wood		単 位	2
授業の目的 と概要	Students will: * develop their command of verbal linguistic patterns * analyze common conceptual features like experience processing and assimilation * learn how to grasp structure and logical development of spoken interaction; and * identify elements common to all communication and the themes which it includes. * use their own photos to ask and answer questions for communication			
到達目標	To present the nature of visual and aural communication for close study in relation to the overall meaning of such universal topics as the nature of teaching and learning, students: * deepen their ability to comprehend all the levels at which conversations operate to present the same orally. * develop the necessary analytical tools and skills to make insightful conclusions; and * learn and demonstrate the ability to write their questions, impressions and interpretation			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	Seminar orientation and interpersonal communication method introduction		Prepare assignment 2	
第 2回	Exchange of personal information, about recent activities for listening and expression and preparation of photos for communciative interaction		Prepare assignment 3	
第 3回	Exchange of personal information, about recent activities for listening and expression		Prepare assignment 4	
第 4回	Class report writing		Prepare assignment 5	
第 5回	Photo background studies introduction		Prepare assignment 6	
第 6回	Initial photo interpretation		Prepare assignment 7	
第 7回	Analysis of the detailed content of students' photos		Prepare assignment 8	
第 8回	Photo interpretation and iinteraction		Prepare assignment 9	
第 9回	Analysis of the detailed content of the photos		Prepare assignment 10	
第10回	Photo interpretation of individual photos in groups		Prepare assignment 11	
第11回	Advanced interpretation of students' photos		Prepare assignment 12	
第12回	Analysis of the overall content to identify its themes and expressive forms		Prepare assignment 13	
第13回	Review of the photo's content and meaning		Prepare assignment 14	
第14回	Report orientation		Prepare assignment 15	
第15回	First draft of photo report		Prepare assignment review	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ Class participation and contribution			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	履修規程第10条（2）に従います。			
教科書	Materials will be distributed			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays.	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	T.R. Honkomp		単 位	2
授業の目的と概要	The Cultural Contrasts seminar will focus primarily on the differences between American and Japanese cultures. Current media use cultural stereotypes of both Japanese and Western cultures to influence and send messages to their audiences. How do these messages reflect the work ethic, values, reputations, and national images that are prevalent in aspects of both societies? How have the images changed over the years and what direction will they go in the future? In addition to the cultural themes explored, an effort will be made in the seminar to increase fluency and student output in English. Videotape assignments will be used as a tool for production, correction and feedback analysis. Improved speaking abilities are expected to enhance participation in this seminar.			
到達目標	The seminar will consider situations presented by TV programs, movies & video, popular music and other forms of mass communication in both American and Japanese societies. The resulting contrasts will be analyzed and discussed. The seminar will look at the situations of people who have lived in both countries and analyze some of the cultural encounters they have experienced.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (4) -④これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 Seminar Introduction - Goals & Expectations Introduction to Stereotypes			Article on Cultural Stereotypes	
第 2回 American & Japanese Cultural Norms and Stereotypes			Handouts	
第 3回 American & Japanese Cultural Norms and Stereotypes Continued Introduction to video clips			Reading on Deep Culture vs. Shallow Culture	
第 4回 Presentation of Stereotypes in Media - American & Japanese			Assignment #1	
第 5回 Student Presentations of Stereotypes begin			Paper #1 due	
第 6回 Selected Scenes from Media - Analysis & Discussion Student Presentations of Stereotypes Continued			Readings from A Taste of Japan	
第 7回 Selected Scenes from Media - Analysis & Discussion Finish Student Presentations of Stereotypes			Readings from A Taste of Japan continued	
第 8回 Begin in-class Video #1			Handout	
第 9回 In-class Video #1 Continued			Readings from A Taste of Japan continued	
第10回 Finish In-class Video #1 Begin Essay Analysis Assignment			Assignment #2	
第11回 Student Presentations of Essay Analysis			Paper #2 due	
第12回 Student Presentations of Essay Analysis Continued Begin In-class Video #2			Finish readings from;A Taste of Japan	
第13回 Finish Student Presentations of Essay Analysis Continue In-class Video #2			Assignment Review	
第14回 Finish In-class Video #2 Comments and Discussion			Review vocabulary from semester vocab. list	
第15回 Semester Consolidation and Exam Review			Exam review sheet	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40% Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	35% Class participation and presentations (Papers) 25% Written assignments			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Evaluation in the Seminar is based on class participation,completion of assignments, attendance and exams. Students are encouraged to make a positive effort and have open communication.			
教科書	—			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Tuesday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 1st period (9:10-10:40)	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大城 房美		単 位	2
授業の目的と概要	研究課題：ポップカルチャーとアイデンティティ 英語は、国際共通語として、グローバルに文化をつないでいる。マンガ、アニメ、映画、小説、音楽、ゲーム、など、私たちが身近に触れている様々なコンテンツは、どのように消費されながら、私たちを想像／創造へとつなぐのか。ゼミでは、英語による表現でグローバルな視座から描かれた作品を扱いながら、多様な文化のあり方と私たちのアイデンティティのつながりを考察する。講義は、各ゼミ生が興味のあるポップカルチャーについて自由に紹介する small presentation と、各講義で考察する作品や論文のレジュメ作成担当者による問題提起からの議論の2部構成で進行する。また社会的実践例を学ぶため、公的施設の視察も行う。各回のテーマを自身の視点から考えると同時に、自分の意見をどう伝えればよりよく伝わるか、他のゼミ生たちはどう考えるのか、など、常に問題提起しながら、それぞれのテーマを共有する。			
到達目標	1. 「ジェンダー」論についての基本的な知識を習得し、分析・問題提起ができるようになる。 2. グローバルな視点から、文化受容について考察しその重要性を理解する。（ゼミでは、積極的に英語テキストを取り上げ、比較文化的視点から分析すること） 3. 「主体性表現」として文化表現を考察し、ジェンダーをはじめとしたアイデンティティと、現代社会に関する問題を自分の視点から考え、それに対する意見を述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 Introduction			講義の際に指示します。	
第 2回 北九州市漫画ミュージアム 訪問・視察（ミュージアムの予定により変更可能性有り）			講義で扱う内容についてリスポンス投稿。	
第 3回 Film Showing: Snow White (Disney)			講義で扱う内容についてリスポンス投稿。	
第 4回 「白雪姫」『お姫様とジェンダー』 ジェンダー論の基礎			講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。	
第 5回 Nightmare and Fairy Tale より "Cinderella"			講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。	
第 6回 『女性マンガ研究』第1章			講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。	
第 7回 Skim Chapter 1 Chapter 2			講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。	
第 8回 Skim Chapter 3 Chapter 4			講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。	
第 9回 Skim Chapter 5 Chapter 6			講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。	
第10回 『女性マンガ研究』より			講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。	
第11回 Dolltopia に 表現されるアイデンティティ "Self-Esteem" Ch1			講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。	
第12回 Dolltopia に 表現されるアイデンティティ "Self-Esteem" Ch2			講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。	
第13回 Dolltopia に 表現されるアイデンティティ "Self-Esteem" Ch3			講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。	
第14回 Dolltopia に 表現されるアイデンティティ "Self-Esteem" Ch4			講義で扱う内容について予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。	
第15回 まとめ グローバルに広がる女性とComics/MANGA 文化			講義の際に指示します。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 4000字以上。参考文献5点以上。引用処理を的確に行っていないものは不可。			
小テスト等	なし			
成果発表	レポートに含む			
受講態度他	20% 講義での活動(出席状況・発表・宿題など)を含む。 リスポンス20% 各講義について、質問やコメントなどを筑女ネットのフォーラムに投稿する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	＊発表のレジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価しない。 Presentationの準備 <レジュメの作成> Small presentationsの準備 (10分程度の発表) ・「ジェンダー」 ・「少女・女性MANGA」（英語圏で出版されている作品報告） ＊補講（時間割外講義）や学外講義の連絡に注意すること			
教科書	・「女性マンガ研究－欧米・アジア・日本を繋ぐMANGA」(青弓社) ・『新版大学生のためのレポート・論文術』（講談社） ・Skim (Groundwood Books ・Girl (Skim邦訳) ・DOLLTOPIA			
指定図書	Kawaii!: Japan's Culture of Cute, Cartoon Cultures: The Globalization of Japanese Popular Media, 『メディア文化を社会学する』			
参考図書	『女性学事典』『文学批評用語辞典』『マンガは越境する！』Graphic Women, Media, Gender and Identity (Routledge 2008)、The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture、英語版MANGA、マンガ関係の図書は請求番号726.1で検索			
オフィスワー	火曜日午後（予約を入れてください）		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小林 久泰		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業は、卒業論文を書くことを前提として、テーマの設定、先行研究の調査、資料や参考文献の探索と整理の方法を身につけることを目的とする。 論文を書くとはどういうことかということについて、最初の数回はガイダンスとして講義をする。その後、各自のテーマに沿って文献の探索、資料調査などを実際に行い、その結果をまとめる作業を進めていくこととなる。			
到達目標	1．自分の関心を論文のテーマとして設定できる。 2．テーマに関する先行研究を調査し、その内容をまとめることができる。 3．論文を書くために必要な資料、参考文献を自分で探すことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	イントロダクション：学術論文とは		資料収集、発表準備	
第 2回	テーマの設定		資料収集、発表準備	
第 3回	テーマに関する情報収集		資料収集、発表準備	
第 4回	アウトラインの作成		資料収集、発表準備	
第 5回	口頭発表とディスカッション：テーマ発表		資料収集、発表準備	
第 6回	論文の書式		資料収集、原稿執筆、発表準備	
第 7回	論述の方法：文章作法		資料収集、原稿執筆、発表準備	
第 8回	口頭発表とディスカッション：中間構想（1）		資料収集、原稿執筆、発表準備	
第 9回	口頭発表とディスカッション：中間構想（2）		資料収集、原稿執筆、発表準備	
第10回	参考文献リストの作り方		資料収集、原稿執筆、発表準備	
第11回	注・引用の形式		資料収集、原稿執筆、発表準備	
第12回	先行研究の評価		資料収集、原稿執筆、発表準備	
第13回	口頭発表とディスカッション：本論1（1）		資料収集、原稿執筆、発表準備	
第14回	口頭発表とディスカッション：本論1（2）		資料収集、原稿執筆、発表準備	
第15回	アウトラインの見直し		資料収集、原稿執筆、発表準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% テーマに沿って調査した結果の報告内容を評価する。			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 研究発表の内容を評価する。			
受講態度他	30% 授業への参加意欲、受講態度を評価する。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	意欲を持って積極的に取り組む姿勢のない者は指導できない。 週に1度は状況を報告すること。			
教科書	白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房			
指定図書	なし			
参考図書	適宜指示する。			
オフィスワー	月曜 2 講時	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	間瀬 玲子		単 位	2
授業の目的 と概要	フランス文化またはフランス文化が英語圏文化に与えた影響に関する資料を参考にしながら他のゼミ生と積極的に議論を行う。その議論を糧として独自の研究テーマを考える。前もって筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとにプレゼンテーションを行う。そして問題解決力と論理的思考力を駆使して、研究成果をレポートの形にまとめることを目的とする。			
到達目標	1 フランス文化またはフランス文化が英語圏文化与えた影響に関する研究テーマを自分で考えることができる。 2 配布資料の内容に関して議論を行うことができる。 3 筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとにプレゼンテーションをすることができる。 4 研究の成果をレポートにまとめることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (4) -④これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 授業の概要			予習 シラバスを前もって読む	
第 2回 歴史と文化の街パリ (オースマンの都市大改革)、テーマの立て方			予習 配布資料 (第2回)	
第 3回 歴史と文化の街パリ (デパート) 研究テーマ、研究概要、参考文献を提出する			予習 配布資料 (第3回)	
第 4回 パリの暮らし (パリの市場)			予習 配布資料 (第4回)	
第 5回 パリの暮らし (ワイン) 、参考文献の書き方			予習 配布資料 (第5回)	
第 6回 パリの暮らし (のみの市)			予習 配布資料 (第6回)	
第 7回 芸術と文化の首都 (パリの三大美術館)			予習 配布資料 (第7回)	
第 8回 各自の研究概要を発表する、研究概要を書いて提出する			予習 研究概要を考える	
第 9回 芸術と文化の首都 (グランプロジェ)			予習 配布資料 (第9回)	
第10回 芸術と文化の首都 (バンド・デシネ)			予習 配布資料 (第10回)	
第11回 芸術と文化の首都 (映画)			予習 配布資料 (第11回)	
第12回 発表資料の作り方、筑女ネットへのアップの仕方を学ぶ			予習 配布資料 (第12回) 基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す	
第13回 プレゼンテーションの仕方を勉強する、ボルドーワイン			予習 配布資料 (第13回) 基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す	
第14回 レポートの書き方、卒業まえに見てほしい映像作品			予習 配布資料 (第14回) 基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す	
第15回 中間発表			発表要旨を作成し、筑女ネットに前もってアップしておく	
成 績 評 価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 中間レポート (A4判 2枚以上)			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 中間発表を他のゼミ生の前で行う			
受講態度他	30% 質問等による授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑女ネットに授業の進度、最新情報を掲載しますので、頻繁にチェックしてください。			
教科書	教科書はありません。授業資料 (冊子体) を配布します。授業資料は前もって読んでおいてください。			
指定図書	西永良成「『レ・ミゼラブル』の世界」岩波書店、高橋明也『新生オルセー』新潮社、トリコロール『パリでしたい100のこと』自由国民社			
参考図書	田村毅 『フランス文化読本』 丸善出版			
オフィスアワー	木曜日 2 講時	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	崔 淑芬		単 位	2
授業の目的と概要	個別指導のもとで、発表・質疑応答・執筆を通じて、実社会で不可欠なプレゼンテーション能力・問題解決能力を高めることができる。 自らのテーマを見出し、独自の視点から考察を加えて論文を作成する。 前・後期に各2回発表し、それらの質疑応答を踏まえて論文をまとめ、卒業論文を仕上げることを目的とする。			
到達目標	・卒業ゼミナールを通じて、自己の卒業論文のテーマを設定できる。 ・データを分析し、資料や情報を収集することができる。 ・適切な文献資料を整理し、考察を加えることによって、論証を進めることができる。 ・結論を論理的に導き、卒業論文を作成することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-4 アジアへの理解に基づいて、多角的な視点から自らの考えを示すことができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・考え方等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス：卒業論文とは、資料の調べ方、論文の形式・構成など			個人別課題の学習、テーマの設定、資料の調査	
第2回 個別面談、テーマと研究法の指導			論文テーマを設定し、資料を調査しよう	
第3回 個別面談、指導			テーマを絞り、研究動向を整理しよう	
第4回 個別面談、指導			先行研究を調べ、まとめよう	
第5回 個別面談、研究法について指導			先行研究を調べ、まとめよう	
第6回 個別面談、指導			資料を調査、分析しよう	
第7回 個別面談、指導			中間発表の準備：資料を収集、検討し、レジュメを作成しよう	
第8回 第一回中間発表と質疑応答			テーマを絞り、資料を検討、分析し、研究動向を整理しよう	
第9回 データの分析方法、論証を進める			資料、データを分析する	
第10回 個別面談、論文作成の指導			論文執筆・進行のスケジュールを立てよう	
第11回 個別面談、論文作成の指導			論文執筆	
第12回 個別面談、論文作成の指導			論文執筆	
第13回 個別面談、論文作成の指導			論文執筆	
第14回 個別面談、論文構成の指導			発表の準備	
第15回 第二回発表・質疑応答・論文進行のスケジュール			前期の総括・夏休みの課題について計画を作成しよう	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20%中間報告レポート、			
小テスト等	なし			
成果発表	70%：論文、データの分析・論文発表会と質疑応答			
受講態度他	10%情報・意見交換を行い、積極性などを評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	研究情報に基づき意見交換を行い、適切な先行研究や文献資料の収集と検討に、真剣に取り組む。			
教科書	使用しない			
指定図書	個別に適切な文献資料を指示する。			
参考図書	個別に適切な文献資料を指示する。			
オフィスアワー	月曜：4限	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	田村 史子		単 位	2
授業の目的 と概要	目的：アジアの表現芸術に関する研究を指導します。対象として、音楽・舞踊・演劇・儀礼、などが含まれ、伝統的なものからポップなものまで、可能です。それを通して、人と社会、人と文化との関係をしっかりと捉え直すことを目的とします。 概要：演習を通じて、自分のテーマを選んでいきます。			
到達目標	1．3年間、アジアの文化について学んだことを、自分なりに整理することができる。 2．アジアの文化・社会についてじっくり考える機会を持てる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回第 1 回 ～2回 オリエンテーション	第 1 回 オリエンテーション		テーマ探し・資料集め	
第 2 回 オリエンテーション			テーマ探し・資料集め	
第3回テーマの検討			テーマ探し・資料集め	
第4回テーマの検討			テーマ探し・資料集め	
第5回テーマの検討			テーマ探し・資料集め	
第6回資料・材料の収集、実技研修、調査等の可能性を探る			テーマ探し・資料集め	
第7回資料・材料の収集、実技研修、調査等の可能性を探る			テーマ探し・資料集め	
第8回資料・材料の収集、実技研修、調査等の可能性を探る			テーマ探し・資料集め	
第9回テーマの絞り込み			テーマ探し・資料集め	
第10回テーマの絞り込み			テーマ探し・資料集め	
第11回テーマの絞り込み			テーマ探し・資料集め	
第12回レジュメの作成			テーマ探し・資料集め	
第13回レジュメの作成			テーマ探し・資料集め	
第14回レジュメの作成			テーマ探し・資料集め	
第15回レジュメの作成			テーマ探し・資料集め	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	6 0 ％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	4 0 ％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	興味を持てるテーマを見つけ出し、積極的に取り組むように努力してください。 回数は便宜的なもので、それぞれの進度によって変わってきます。			
教科書	随時プリントを用意。			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	喜多村 百合		単 位	2
授業の目的 と概要	本演習は、本学科の学びの集大成である卒業論文制作に向けての自主的な研究の計画と遂行、という位置づけを持つ。各自の関心に沿ってテーマを設定し、資料を収集する中から争点を絞りこみ中間報告を行う。それを踏まえた小論文を制作する中で、後期の作業課題を明らかにすることがねらいである。			
到達目標	①テーマ設定に際し、先行研究やその他の資料を収集・検討し、争点把握と論述方針を固める。 ②①の作業をまとめ、中間報告で報告。小論文を制作し、演習Ⅱにおける検討課題を設定する。 ③他のメンバーの研究に対し、積極的に批評ができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 導入①：卒業研究のねらいと進め方			課題設定	
第 2回 導入②：問題設定ほか作業内容の確認。報告スケジュールの決定			資料収集	
第 3回 報告とディスカッション			レジュメ制作	
第 4回 報告とディスカッション・課題指示			追加資料の検討	
第 5回 報告とディスカッション			レジュメ制作	
第 6回 報告とディスカッション：課題指示			追加資料の検討	
第 7回 報告とディスカッション・課題指示			レジュメ制作	
第 8回 報告とディスカッション：課題指示			テーマ発展の検討	
第 9回 報告とディスカッション・課題指示			テーマ発展の検討	
第10回 報告とディスカッション			テーマ発展の検討	
第11回 報告とディスカッション・課題指示			卒論執筆と章建て	
第12回 報告とディスカッション			卒論執筆と章建て	
第13回 報告とディスカッション・課題指導			卒論執筆と章建て	
第14回 中間報告とディスカッション			中間レポート作成方法	
第15回 中間報告とディスカッション・課題指示			中間レポート作成方法	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 期末レポート			
小テスト等	－			
成果発表	50%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	テーマ設定にあたり、資料収集と検討作業において自発的かつタフに行うことを期待します。同様に、他のメンバーの研究についても関心を持ち、問題提起できることを期待します。			
教科書	適宜プリントを配布			
指定図書	個別に指示			
参考図書	個別に指示			
オフィスアワー	火5、木4	メールアドレス		

授 業 科 目	【閉講】卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	卒業論文の製作に取り組むためのゼミナールです。 具体的には、A.東南アジアに関すること、またはB.日本を含むアジアの政治や社会などに関すること、のいずれかについて自分自身でテーマを設定し、資料を収集、分析し、議論を組み立てて卒業論文を製作することが、卒業ゼミナールⅡと併せて、このゼミナールの目的になります。 方法論としては、1.適切な研究テーマを設定する、2.テーマに沿った資料の収集分析し理解を深める、3.卒論に向けて議論を組み立てる技術を身につけること、を目指します。個別指導が中心になりますが、お互いに刺激しあうために報告の時間を重ねることがあります。中間発表での質疑応答も同様の趣旨から重視します。自分の欠点は解りにくいものですが、他人の欠点はすぐ解ります。いい意味でお互いに切磋琢磨してください。			
到達目標	1.調べるに足る十分な資料がある事柄を、研究テーマに設定できる。 2.研究テーマに従って、資料を収集分析できる。 3.調べたことに基づき、議論を組み立て中間発表ができる。 4.中間発表を踏まえ、問題設定を立て結論を導くようなレポートが作成できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 「専門ゼミナールⅠ」「専門ゼミナールⅡ」で身につけた資料の調べ方、まとめ方、レポートの書き方に関するスキルを踏まえ			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション	演習の目的と進め方		各人の問題関心にあわせて、その都度課題を指示する。	
第 2回 研究テーマを決定するための文献調査とその過程の報告1			各人の問題関心にあわせて、その都度課題を指示する	
第 3回 研究テーマを決定するための文献調査とその過程の報告2			各人の問題関心にあわせて、その都度課題を指示する。	
第 4回 研究テーマの概要報告			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第 5回 研究テーマに沿った資料収集分析と進捗状況の報告1			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第 6回 研究テーマに沿った資料収集分析と進捗状況の報告2			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第 7回 研究テーマに沿った資料収集分析と進捗状況の報告3			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第 8回 研究テーマに沿った資料収集分析と進捗状況の報告4			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第 9回 中間発表に向けて議論の立て方、発表方法の確認			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第10回 中間発表のためのレジュメの草案作成、個別指導1			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第11回 中間発表のためのレジュメの草案作成、個別指導2			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第12回 中間発表 発表と質疑応答1			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第13回 中間発表 発表と質疑応答2			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第14回 レポート作成について			期末レポート準備	
第15回 今後の課題の確認			期末レポート準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 中間発表（内容、プレゼンテーション）			
受講態度他	30% 各回の報告、他の受講生の発表に対するコメント			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	基本的に結果を求めます。期末レポートが十分なレベルに達するよう努めてください。 その他の事柄についてはオリエンテーション時にお伝えします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水14:50～16:20、木12:30～13:30		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	竹熊 真波		単 位	2
授業の目的と概要	卒業論文執筆という最終目標に向けて、卒業ゼミナールⅠでは、論文の書き方の基本を習得するとともに、日本やアジアの教育の現状と課題についての理解を深め、自己のテーマを絞り込むことを目的とする。 具体的に、テキストを輪読することを通じて論文の書き方の基本を学ぶ。次に、日本も含めたアジアの教育、アジアの子どもたちの現状、日本の教育の国際化等のなかから自分の関心のあるテーマを選択し、先行文献を調べ、小レポートを作成した上で、発表する。幾度かの受講生間のディスカッションを経た上で、最終的に卒業論文の具体的テーマと構成を決定する。最後に、卒業論文の第1章を想定してレポートを作成する。			
到達目標	・論文構成、文献検索の方法、著作権の所在など論文を書くための基本的知識を習得する ・日本とアジアの教育の現状と課題について批判的に考察できる ・自己の最も関心あるテーマについて、先行研究を検討し、他者に説明できる			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 *本ゼミを履修する前に「国際教育論」を履修していることが望ましい。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション（各人の関心ある領域の発表）		「卒業ゼミナールで研究したいこと」の再考	
第2回	テキストの輪読①論文作成の基本ルール		該当箇所（15－62頁）をあらかじめ読み、まとめておくこと	
第3回	テキストの輪読②文献・資料の集め方		該当箇所（63－104頁）をあらかじめ読み、まとめておくこと	
第4回	テキストの輪読③論文執筆スケジュール		該当箇所（135－150頁）をあらかじめ読み、まとめておくこと	
第5回	テキストの輪読④卒業論文の構造		該当箇所（158－194頁）をあらかじめ読み、まとめておくこと	
第6回	テキストの輪読⑤卒業論文作成の注意点		該当箇所（195－216頁）をあらかじめ読み、まとめておくこと	
第7回	課題レポート1の提出と発表、今後のテーマの設定		課題レポート1：レポートのアウトラインと執筆計画	
第8回	教員の研究分野の紹介		テーマ別発表の準備	
第9回	テーマ別発表と質疑応答① 日本の教育の課題		レジュメの作成等テーマ別発表の準備	
第10回	テーマ別発表と質疑応答② 教育の国際化		レジュメの作成等テーマ別発表の準備	
第11回	テーマ別発表と質疑応答③ 東アジア・東南アジアの教育		レジュメの作成等テーマ別発表の準備	
第12回	テーマ別発表と質疑応答④ 南アジアの教育		レジュメの作成等テーマ別発表の準備	
第13回	アジアの教育を研究するための視点と注意点		課題レポート2（卒論の序章に相当する部分）の作成準備	
第14回	各人の卒論構想発表会		質疑応答・教員の修正を受けてのレポートの修正	
第15回	課題レポート2の最終提出・卒論執筆計画書の提出		夏休みに取り組むべき課題の設定	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 課題レポート1、2、卒論構想・卒論執筆計画書（アウトライン） 添削指導後返却する			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ 課題レポート発表、テーマ別発表、卒論構想発表			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	4年前期は就活などと重なる時期ですが、やむを得ず休む場合は必ずゼミ教員に直接連絡を入れ、補講を受けてください。ゼミへの能動的な参加を期待します。			
教科書	小笠原喜康「新版 大学生のためのレポート・論文術」講談社現代新書			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜2、3時間目、火曜4時間目		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	石　其琳		単　位	2
授業の目的 と概要	自分で研究テーマを決め、自主性を持って研究資料の収集整理が出来ることを目的とする。 本授業は、ゼミ生全員に対して個別指導を行う。前期は主にテーマを決め、その研究テーマについて、資料を収集し整理しながら、数回の中間発表を通して、研究基盤のもとになる内容をまとめる。			
到達目標	自分の研究対象に対して積極的に資料の収集整理を行い、自分自身の思考表現によって、この研究成果を論文に作成することを目標とする。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 ⑤アジアの言語・社会・文化についての学修をもとに自己の関心を深め、多角的な視点から自らの考えを示すことができる。 中国及びアジア関係の科目すべて関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション（論文作成の注意点について説明する）		研究テーマを選定	
第 2 回	各自で研究計画を発表し、質疑問答を行う		レジュメを提出	
第 3 回	個別に研究内容を再検討し、最終的研究テーマを選定する。		各自研究資料収集整理	
第 4 回	各自で研究テーマの構想発表を行う		レジュメを提出	
第 5 回	各自の研究作業を始めて、随時に指導を行う。		各自研究資料収集整理	
第 6 回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。		各自研究資料収集整理	
第 7 回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。		各自研究資料収集整理	
第 8 回	全員による中間発表及び討論。		レジュメを提出	
第 9 回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。		各自研究資料収集整理	
第10回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。		各自研究資料収集整理	
第11回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。		各自研究資料収集整理	
第12回	全員による中間発表及び討論		レジュメを提出	
第13回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。		各自研究資料収集整理	
第14回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。		各自研究資料収集整理	
第15回	各自前期の総まとめとして発表を行う。		各自の研究資料まとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%　（レジュメによる発表）			
小テスト等	なし			
成果発表	50%　（前期の総まとめレポート）			
受講態度他	0%　（受講態度として、質問や発表による授業への積極性を参考にする。）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	・個別に指導する際、決められた課題に対して必ず積極的に取り込むこと。 ・個別指導のため、研究作業の進行状況などについてこまめに報告すること。			
教科書	個別指導のため、個別に指示をする。			
指定図書	－			
参考図書	－			
オフィスワ ーク	火、水、木、金		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	妻 海善		単 位	2
授業の目的と概要	興味があるテーマを選択し、卒業論文としてスムーズに作成し、仕上げて提出できるようになることを目的とする。 1. 論文の書き方を教える。 2. 韓国の社会、文化、歴史、政治、経済、他に北朝鮮を対象にテーマを選び、目次作成、資料収集を指導する。 3. 毎回の発表会で、まとめた内容に関してコメントし、次の報告日まで調べて書くように指導する。			
到達目標	1. 興味があるテーマを設定し、目次を立てて文章としてまとめるスキルを身に付けることができる。 2. 論文の作成方法で学んだスキルを、今後職場での報告書作成に生かすことができる。 3. 文献検索方法と能力、発表資料を作る方法、プレゼンテーションやコミュニケーションスキルをアップすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	総括指導、自己紹介、A,B,C組分け、図書長期貸し出し件、毎回提出物の説明、図書購入方法を説明する。		連絡先を教員に伝送する	
第 2回	パソコン室集合（USB持参、卒論の書き方説明）		課題①テーマと目次提出	
第 3回	A組；参考図書のリスト提出（図書5冊、その他10点）及び内容調べ（A4用紙3枚以上）		課題②準備	
第 4回	B組；参考図書のリスト提出（図書5冊、その他10点）及び内容調べ（A4用紙3枚以上）		課題②準備	
第 5回	C組；参考図書のリスト提出（図書5冊、その他10点）及び内容調べ（A4用紙3枚以上）		課題②準備	
第 6回	A組；中間報告（A4用紙5枚以上）		課題③準備	
第 7回	B組；中間報告（A4用紙5枚以上）		課題③準備	
第 8回	C組；中間報告（A4用紙5枚以上）		課題③準備	
第 9回	A組；中間報告（A4用紙8枚以上）		課題④準備	
第10回	B組；中間報告（A4用紙8枚以上）		課題④準備	
第11回	C組；中間報告（A4用紙8枚以上）		課題④準備	
第12回	A組；最終報告（A4用紙10枚以上）		課題⑤準備	
第13回	B組；最終報告（A4用紙10枚以上）		課題⑤準備	
第14回	C組；最終報告（A4用紙10枚以上）		課題⑤準備	
第15回	前期のまとめ		前期までの内容や資料を整理する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	課題80％（20点×5回）			
小テスト等	0％			
成果発表	中間報告書提出20％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①提出物はすべてパソコン入力し、参加人数分準備する。 ②報告日は必ず守ること、締切日を過ぎた課題は評価しない。 ③就職活動、病気、その他の理由による欠席は証明書提出要。 ④報告日に欠席が予想されるときは、ほかの曜日の報告者とお互いに交渉し、教員に知らせる。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワー	月～水曜日の昼休み（他の日時を希望する場合は、事前に訪問日時を相談してください）	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小林 知美		単 位	2
授業の目的 と概要	卒業論文執筆のために、各自の研究テーマを吟味して最終決定し、資料・参考文献を収集しテーマに接近する方法を考える。各自の仮テーマについて資料を収集し、それぞれの収集資料に検討を加え、テーマ決定に結びつける。テーマ決定の後、レジュメをつくり口頭発表する。授業の開始直後に、研究テーマ最終決定の助けとするため、美術・博物館への見学を行う。また学期中に地域文化財の実地見学をおこなう。夏休み中には合宿形式での中間報告会行って執筆作業の途中経過を確認する。			
到達目標	・卒業論文の研究テーマを具体的に説明することができる。 ・テーマに応じた参考資料の収集方法を習得し、その資料に的確な分析を加えることができる。 ・集めた資料・情報をもとに、内容を論議的に構成し、目次を作成することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	イントロダクション：ゼミの進め方について		研究テーマ（仮）についてのレポート執筆	
第 2 回	見学１：九州国立博物館常設展見学		見学レポート執筆	
第 3 回	研究テーマ（仮）の口頭発表		研究テーマに応じた資料収集と分析	
第 4 回	図書館での資料収集方法紹介		研究テーマに応じた資料収集と分析	
第 5 回	収集した資料の検討と意見交換		研究テーマに応じた資料収集と分析	
第 6 回	報告会１：研究テーマと収集資料の報告		研究テーマに応じた資料収集と分析	
第 7 回	報告会２：研究テーマと収集資料の報告		研究テーマに応じた資料収集と分析	
第 8 回	資料講読１：収集資料の講読と意見交換		講読資料の要約	
第 9 回	資料講読２：収集資料の講読と意見交換		講読資料の要約	
第10回	口頭表準備（内容の検討、レジュメの作り方と、画像スキャン方法）		口頭発表のためのレジュメと画像準備	
第11回	口頭発表１		口頭発表のためのレジュメと画像準備	
第12回	口頭発表２		口頭発表のためのレジュメと画像準備	
第13回	見学２：地域の文化財見学（行き先、日程は未定） ※第13回～第15回は時間外・学外授業形式で実施。		見学の予習	
第14回	見学２：地域の文化財見学（行き先、日程は未定）		見学の予習	
第15回	見学２：地域の文化財見学（行き先、日程は未定）		見学の予習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	０％			
レポート	０％			
小テスト等	０％			
成果発表	５０％			
受講態度他	５０％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	・卒業ゼミナールの主役は皆さんです。無断欠席は厳禁です。 ・見学を2回実施します。交通費・見学費は各自で負担してください。 見学１：九州国立博物館常設展見学（時間内） 見学２：地域の文化財見学（行き先・日程未定）			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスワ ーク	月曜日の昼休み	メ ー ル ア ド レ ス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	羅 義圭		単 位	2
授業の目的と概要	卒業論文の制作に取り組むためのゼミナールです。 具体的には、A.言語多文化主義に関すること、B.日本と韓国の識字教育に関すること、いずれかについて、自分自身のテーマを設定し、資料を収集し、分析し、そこから独自の視点をもって論文を作成する。 前・後期に各2回発表し、それらの質疑応答を踏まえて論文をまとめ、卒業論文を仕上げることを目的とする。			
到達目標	1.テーマ設定に際し、先行研究やそのほかの資料を収集・検討し、争点把握と論述方針を固める。 2.適切な文献資料を整理し、考察を加えることによって、論証を進めることができる。 3.調べたことに、議論を組み立て中間発表ができる。 4.【1】・【2】・【3】の作業をまとめ、中間報告で報告。演習Ⅱにおける検討課題を設定する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス：卒業研究のねらいと進め方		各人の問題関心にあわせて、その都度課題を提示する。	
第2回	個別面談、テーマと研究法の指導		各人の問題関心にあわせて、その都度課題を提示する。	
第3回	個別面談、指導		各人の問題関心にあわせて、その都度課題を提示する。	
第4回	個別面談、指導		各人の問題関心にあわせて、その都度課題を提示する。	
第5回	個別面談、指導		各人の問題関心にあわせて、その都度課題を提示する。	
第6回	個別面談、指導		中間発表の準備：資料を収集し、検討し、レジュメを作成しよう。	
第7回	個別面談、指導		中間発表のレジュメ準備	
第8回	第1回中間発表と質疑応答		テーマを絞り、資料を検討、分析し、研究内容を整理しよう	
第9回	データの分析方法、論証を進める		資料、データを分析する	
第10回	個別面談、論文作成の指導		卒論執筆と章立て	
第11回	個別面談、論文作成の指導		卒論執筆と章立て	
第12回	個別面談、論文作成の指導		卒論執筆と章立て	
第13回	個別面談、論文作成の指導		中間発表作成方法	
第14回	個別面談、論文作成の指導		中間発表作成方法	
第15回	第2回中間発表・質疑応答・論文進行のスケジュール		前期総括・夏休みの課題について計画を作成しよう	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 中間報告レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 論文、データの分析・論文発表会と質疑応答			
受講態度他	20％ 情報・意見交換を行い、積極性などを評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	テーマ設定にあたり、資料収集と検討作業において自発的に行い、第2回中間報告書が十分なレベルに達するよう努めること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜日・木曜日・金曜日 昼休み後		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	酒井(均)・渋田(登)・浅田(淳)・大霧(香)・榊(祐)・森田(理)・宇治(和)・針塚(進)		単 位	2
授業の目的 と概要	これまでの講義や演習の総括として、各学生がテーマを選択し、研究計画を立て、実施に向けた準備を進めていくことを目的とする。これらの過程を通して、心理学に関して自らが選択した問題について知識を深め、解決に導くための論理的思考力を身につける。 自らが設定した心理学に関するテーマに対して、心理学における様々な研究方法から適切なアプローチを決定し、研究計画の具体化を目指す。また、発表資料の作成、発表方法、議論の方法についても理解を深め、実践する。			
到達目標	①心理学に関するテーマを自ら見つけ、批判的視点を持ちながら、研究目標を設定することが出来る ②上記の目的について適切な研究方法を決定し、具体的な研究計画を組み立てることが出来る ③発表資料の作成や発表方法を具体的に選択し、実践することができる ④③の作業を通して、問題解決に必要な情報を集め、系統立てて説明することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 関連する科目としては、「心理専門演習」、「人間関係総合演習」、「心理学研究法」、「心理学統計法ⅠⅡ」などがあげられる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	論文の形式について①：論文の形式について		各自の文献を読み進める	
第 2回	論文の形式について②授業計画の作成：執筆にあたっての注意		文献を読み進める	
第 3回	授業計画の作成：テーマに基づいて、卒業ゼミナールⅠ・Ⅱを通じた年間計画作成		年間計画の作成	
第 4回	テーマの設定：研究テーマの選択、決定		文献収集し、読み進める	
第 5回	文献収集①：先行研究の検索		文献収集し、読み進める	
第 6回	文献収集②：先行研究における問題点の検討		研究の問いを立てる	
第 7回	文献収集③：各自の研究目標の具体化		研究の問いを立てる	
第 8回	発表・討論①：途中経過の発表、検討		発表資料の作成	
第 9回	発表・討論②：途中経過の発表、検討		発表資料の作成	
第10回	発表・討論③：途中経過の発表、検討		発表資料の作成	
第11回	発表・討論④：途中経過の発表、検討		発表資料の作成	
第12回	発表・討論⑤：途中経過の発表、検討		発表資料の作成	
第13回	研究計画の作成：研究の目的や意義の明確化、研究方法の検討		プレゼンテーションの準備	
第14回	卒研中間発表会：卒研についての研究計画、概要を発表		プレゼンテーションの準備	
第15回	全体のまとめと総括：各研究テーマの達成度や課題について検討		今後の課題を明確にする	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 研究計画、先行研究についてのレポート			
小テスト等	なし			
成果発表	40％ 研究計画、先行研究についての発表、中間発表含む			
受講態度他	20％ 発表に対する質疑応答			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業論文希望の人は詳細な研究計画の作成（目的、方法、質問紙の作成、実験計画など）が求められる。 成果発表は研究計画についての発表と中間発表の2回のを課題とする。			
教科書	指定なし			
指定図書	指定なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワー	浅田:火を除く昼休、酒井:水昼休、渋田:月4、大霧:火4 榊:火5、森田:金4、宇治:火水5、針塚水4	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	山崎(安)・池田(和)・徳永(勇)・高木(佳)・新家(め)・大西(良)・金(圓)		単 位	2
授業の目的 と概要	社会福祉を学ぶ過程で、学生自らが明確化したテーマを自覚的に追求し、テーマについての論理的思考力、さらには問題解決力を身につけることを目的とする。ソーシャルワーカーとしてはいうまでもなく、将来ひとりの職業人となるにあたって、ある状況に対する自分の考え方や態度を確立することは非常に重要だからである。 卒業ゼミナールは、社会福祉を学ぶ過程で、学生自らが明確化したテーマを自覚的に追求し、論理的思考力や問題解決力を身につけることを支援する科目で、大学生活を通じた集大成としての意味を持つ。具体的には、各専任教員がそれぞれの専門性を背景とした少人数ゼミを分担し、学生は自らのテーマに応じていずれかのゼミに所属する。学生各自が自らのテーマを設定でき、それにそった資料や文献の収集、報告・討論といったことが主たる内容となる。			
到達目標	1. 自ら取り組む研究テーマが設定できる。 2. 研究の視点を理解し、研究方法を身につけることができる。 3. 1・2の成果として「卒業研究」が作成できる。 4. 「卒業研究」を発表したり、それについて討議する能力が習得できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 卒業研究のテーマ設定			資料収集・検討	
第 2回 卒業研究のテーマ設定			資料収集・検討	
第 3回 卒業研究のテーマ設定			資料収集・検討	
第 4回 資料収集および研究方法の学習			発表資料（レジュメ）作成	
第 5回 資料収集および研究方法の学習			発表資料（レジュメ）作成	
第 6回 資料収集および研究方法の学習			発表資料（レジュメ）作成	
第 7回 卒業研究発表および討論			発表と討論	
第 8回 卒業研究発表および討論			発表と討論	
第 9回 卒業研究発表および討論			発表と討論	
第10回 卒業研究発表および討論			発表と討論	
第11回 卒業研究発表および討論			発表と討論	
第12回 卒業研究発表および討論			発表と討論	
第13回 中間報告会			プレゼンテーション	
第14回 中間報告会			プレゼンテーション	
第15回 中間報告会			プレゼンテーション	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 発表資料（レジュメ）を中心に評価する			
小テスト等	なし			
成果発表	25％ 研究発表の内容・水準			
受講態度他	25％ 出席状況 ＋ 討論への参加度など			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	1. 4年次のオリエンテーション時に、卒業研究・卒業論文についての説明を行うので必ず参加すること。 2. 毎回の授業の出席及び積極的な発言と参加態度が重要となる。			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	各教員による			
オフィスワ－	担当教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松本・板井・稲田・大元・古田・古賀野・Kumar・宮平・一木・北原・薄・平山・原・石原・原田・今釜・上原		単 位	2
授業の目的と概要	3年次科目「人間形成総合演習Ⅰ」「人間形成総合演習Ⅱ」を通して得た、幼児教育及び小学校教育などに関する研究課題について、自らの問題意識に即して調査・研究を行い、その発表と討論を行うことにより教育について深く考察することを目指す。 研究課題に関連する文献、資料に幅広く触れ、目的にあったデータ収集の方法、適切な分析・吟味、問題を発見する力や論理的思考能力、プレゼンテーション能力等を獲得することを目的とする。			
到達目標	1 課題の設定、調査方法の選択及び実施、結論やその吟味、研究成果の発表など、問題解決的な手法で研究することができる。 2 課題設定の理由（必要性・研究する価値）を明確にもち説明することができる。 3 課題について、客観的な事実を踏まえながら立論することができる。 4 他の学生の研究内容への質問や助言、意見交換などを積極的に行うことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（研究課題、今後の研究の進め方の確認）		3年次科目「人間形成総合演習ⅠⅡ」の進捗状況を整理する。	
第2回	研究報告の要件、様式、提出期日等について 研究状況報告・討議①（順を決め2名程度）		課題についての調査及び報告の準備	
第3回	研究状況報告・討議①（順を決め2名程度）		課題についての調査及び報告の準備	
第4回	研究状況報告・討議①（順を決め2名程度）		課題についての調査及び報告の準備	
第5回	研究状況報告・討議①（順を決め2名程度）		課題についての調査及び報告の準備	
第6回	研究状況報告・討議①（順を決め2名程度） ※ 研究題目の決定		課題についての調査及び報告の準備	
第7回	研究状況報告・討議②（順を決め2名程度）		課題についての調査及び報告の準備	
第8回	研究状況報告・討議②（順を決め2名程度）		課題についての調査及び報告の準備	
第9回	研究状況報告・討議②（順を決め3名程度）		課題についての調査及び報告の準備	
第10回	研究状況報告・討議②（順を決め3名程度）		課題についての調査及び報告の準備	
第11回	中間発表に向けた検討		中間発表の準備	
第12回	研究状況の中間発表（複数ゼミ合同で実施も可）		中間発表の準備	
第13回	研究状況の中間発表（複数ゼミ合同で実施も可）		中間発表の準備	
第14回	研究状況の中間発表（複数ゼミ合同で実施も可）		中間発表の準備	
第15回	進捗状況及び「卒業ゼミナールⅡ」の進め方の確認		中間発表の成果と課題の振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	20％（各回の研究状況報告の内容）			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	60％（卒業研究）			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各回の研究状況の発表の際にはレポート（卒業研究の原稿）を用いて報告すること。 他の学生の報告にも、積極的に質問や意見を述べること。			
教科書	特に定めない。			
指定図書	特に定めない。			
参考図書	『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房（購入済：1年次「基礎ゼミナール」で使用した教科書）			
オフィスワーク	担当教員の他科目のシラバスを参照すること。	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	岡本 文子		単 位	4
授業の目的 と概要	現代社会を生きる私たちの身に着けている衣服は、連綿と受け継がれてきた服飾史の延長線上にある。「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」に引き続き日常意識する機会の少ない衣服のしくみへの理解を深めることを通して、服飾と社会との関係に関心を持ち、服飾の社会的役割を理解することを目的としている。 さらに本演習では、「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」で理解したこと、身に付けたことを発展させ、製作した作品の画像をもとに、プログラミングの基礎を習得し、色彩の基礎知識・カラーコーディネートの知識を活用することを通して、現代社会における社会そのものや生活と色彩との関わりについて、体得することを目的としている。			
到達目標	・「考えること」「立案すること」「計画すること」の重要性を認識し、日常のなかからさまざまな課題を見出すことができる。 ・衣服のしくみを理解した上で必要に応じたパーツに分類することができる。 ・プログラミングの基礎を理解し活用することができる。 ・色彩の基礎知識を理解し活用することができる。 ・カラーコーディネートのテクニックを理解し活用することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（今後の進め方）		テーマに関する資料収集	
第2回	学外実習：布地に関する知識（レース等の布地の種類について、ブレードについて）		布地に関する知識の復習	
第3回	プログラミング① デザインソフトについて		画像の選択についての予習	
第4回	プログラミング② 画像の選択・画像の入力		パーツ分類計画についての予習	
第5回	プログラミング③ プログラムの書き換え		プログラムの確認	
第6回	プログラミング④ パーツ分類		パーツ分類の補習	
第7回	プログラミング⑤ マスキング（ベース）		マスキング（ベース）の補習	
第8回	プログラミング⑥ マスキング（トリミング）		マスキング（トリミング）の補修	
第9回	プログラミング⑦ プログラムの確認（マッピングの手法）		プログラムの確認の補習	
第10回	カラーコーディネートの計画		資料収集の補完	
第11回	カラーコーディネートのテーマ設定		カラーコーディネートのテクニックの復習	
第12回	カラーコーディネート① シミュレーション		カラーコーディネートのテクニックの復習	
第13回	カラーコーディネート② 作品画像の保存		作品画像の確認	
第14回	カラーコーディネート③ テーマとの整合性		作品画像の整理	
第15回	まとめ		「卒業ゼミナールⅡ」に向けて資料の整理	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	％			
レポート	％			
小テスト等	％			
成果発表	90％			
受講態度他	10％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	特になし			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	金曜日 12：00～13：00		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	一木 順		単 位	4
授業の目的 と概要	本ゼミでは文化遺産や自然遺産など地方都市の持つリソースを分析し、その魅力を発信するためのプロジェクトを行う。今年度は長崎県の平戸市を題材として扱い、グループごとにテーマを設定し、平戸市の魅力についてリサーチを行い、それを発信する。			
到達目標	1. 平戸市の歴史、文化、風土について説明できる 2. 平戸市の魅力について、それぞれでテーマを設定できる 3. テーマに従ってリサーチすることができる 4. 自分たちの発見をプレゼントしてまとめて発信できる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 授業の概要の説明			なし	
第 2回 平戸について知る①			指定された文献を読むこと	
第 3回 平戸について知る②			指定された文献を読むこと	
第 4回 平戸について知る③			指定された文献を読むこと	
第 5回 平戸について観る①			映画レポート「男はつらいよ」	
第 6回 平戸について観る②			映画レポート「あなたへ」	
第 7回 平戸について観る③			映画レポート「悪人」	
第 8回 平戸について調べる①			文献収集リストの作成	
第 9回 平戸について調べる②			それぞれで収集した文献を読む	
第10回 平戸研修計画の実際①			それぞれで検討したトピックについて調べる	
第11回 平戸研修計画の実際②			それぞれで検討したトピックについて調べる	
第12回 第1回平戸研修			研修計画を立てる	
第13回 第1回平戸研修			研修計画を立てる	
第14回 第1回平戸研修			研修計画を立てる	
第15回 まとめ			なし	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% 授業内の小レポート			
小テスト等	－			
成果発表	40% グループ発表			
受講態度他	20% 授業内での取り組みを勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須である。授業に際しては、自分の担当部分、発表に関して責任を持って行うこと。やむを得ず自分の発表回に欠席せざるを得ないときは、自分の責任で他の人と発表を代ってもらふこと。			
教科書	適宜プリントを配布する			
指定図書	指定しない			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスワー	木曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	栗山 俊之		単 位	4
授業の目的 と概要	現代社会の諸問題の中から、自らの問題意識に従って研究テーマを選び出し、問題に関わる先行研究・書籍・メディア資料・現地資料等に触れながら問題の本質に迫る。 その時点までの研究成果を纏め、発表し、ゼミ生と討議しながら研修を進展させていく。			
到達目標	1、現代社会の諸問題から、自らの研究テーマを絞り込むことができる。 2、自ら見出した研究テーマについて、書籍、メディア資料、現地研修などを通して、掘り下げることができる。 3、研究を纏め、レジュメを作成し、発表することができる。 4、ゼミ生同士で各自の研究をもとに討議することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	現代社会の諸事象の中から問題を発見し、収集した情報を主体的に分析し、協働作業の中で議論し、その成果を発信できる。 関連科目としては、基礎専門ゼミナールⅠ・Ⅱ、専門ゼミナールⅠ・Ⅱがあります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ゼミということ			ゼミ選択の動機について説明できるように	
第2回 ゼミの進め方			研究テーマ・現地研修に訪れたい場所について考える	
第3回 資料蒐集の方法			研究テーマに関する資料を探す	
第4回 研究成果を纏める			レジュメ見本について熟考	
第5回 レジュメに基づき発表①			レジュメを作って発表の準備	
第6回 レジュメに基づき発表②			レジュメを作って発表の準備	
第7回 現地研修（1）			分担箇所の説明ができるように（1）	
第8回 現地研修（2）			分担箇所の説明ができるように（2）	
第9回 現地研修（3）			分担箇所の説明ができるように（3）	
第10回 現地研修の成果発表①			現地研修の成果発表の準備①	
第11回 現地研修の成果発表②			現地研修の成果発表の準備②	
第12回 研究テーマの纏め方			研究成果を纏める手段を決める	
第13回 中間発表会①			中間発表の準備	
第14回 中間発表会②			中間発表の準備	
第15回 卒業ゼミナールⅡの計画			卒業ゼミナールⅡにおいて何をしたいのか考える	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	中間発表 50％			
受講態度他	レジュメ、討議への姿勢、講義に向き合う態度 50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	現地研修を行います。講義中に伝える諸注意を厳守してください。			
教科書	プリントを配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスワー	月曜 4 講目	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】			開 講 時 期	前期
担 当 教 員	赤枝 香奈子			単 位	4
授業の目的と概要	人々の性別や性にかかわるジェンダーやセクシュアリティという概念を手掛かりにしながら、さまざまな差異をもつ多様な人々が暮らしやすい社会（包摂的な社会）のあり方について考えます。前期はジェンダーやセクシュアリティ、社会的包摂にかんする基本的文献を読みます。途中、社会的包摂にかんする活動をしている団体関係者によるゲスト講義や活動団体の見学も予定しています。				
到達目標	1. ジェンダーやセクシュアリティが、現代社会の諸問題とどのように関連しているか理解できる。 2. 社会的包摂／社会的排除といった概念を理解し、それらをめぐる問題が現代社会にどのような形で表れているか理解できる。				
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション			第1回の授業の復習	
第2回	ジェンダー／セクシュアリティと社会的包摂をめぐる問題について			配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第3回	ジェンダー／セクシュアリティと現代社会（1）			配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第4回	ジェンダー／セクシュアリティと現代社会（2）			配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第5回	ジェンダー／セクシュアリティと現代社会（3）			配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第6回	ジェンダー／セクシュアリティと現代社会（4）			配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第7回	ジェンダー／セクシュアリティと現代社会（5）			配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第8回	ゲスト講師による講義			配布資料を読み、疑問点を整理してくる。	
第9回	社会的包摂と社会的排除（1）			配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第10回	社会的包摂と社会的排除（2）			配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第11回	社会的包摂と社会的排除（3）			配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第12回	社会的包摂と社会的排除（4）			配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第13回	社会的包摂と社会的排除（5）			配布資料を読み、内容をまとめてくる。	
第14回	問題関心の整理			今後、研究したいテーマについて考えてくる。	
第15回	まとめ			夏休み中の研究計画を立ててくる。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	0％				
レポート	50％				
小テスト等	0％				
成果発表	45％				
受講態度他	5％				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	前期は文献を読む作業を中心になります。授業では読んできた文献をもとに議論するので、事前に必ず文献を読み、要点や疑問点をまとめた上で授業に臨んでください。				
教科書	使用しない。				
指定図書	なし。				
参考図書	授業内で指示する。				
オフィスアワー	火曜4限		メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大橋 健治		単 位	4
授業の目的と概要	この授業は、人材開発をテーマとした自らの研究を進捗させることを目的に行う。そのため、実施計画書（目的達成に向けた活動計画）を作り、月度毎にゼミ全体でレビューを行う。また、大橋ゼミ所属の3年生の授業（専門ゼミナールⅠ）で行っている模擬講義の評価者として参画する。そして、適切な質問によって相手に啓発を与えるという学習をする。そのことによって、ゼミ生同士が質疑応答を繰り返していく中で気づき、自らの研究テーマを深めていくこととする。			
到達目標	1. 実施計画書（目的達成に向けた活動計画）を作りその月度レビューができる。 2. 自らの研究計画にそって、問題意識、研究の背景、先行研究、研究の枠組み、事例の分析の途中経過をプレゼンテーションすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①-これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要説明と進行方法の打ち合わせ		シラバスの通読と質問の準備	
第2回	ラーニングピラミッドと教育技法		プリントの通読と質問の準備	
第3回	実施計画と研究の進捗状況の発表①、3年生の模擬講義の評価		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第4回	実施計画と研究の進捗状況の発表②、3年生の模擬講義の評価		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第5回	実施計画と研究の進捗状況の発表③、3年生の模擬講義の評価		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第6回	実施計画と研究の進捗状況の発表④、3年生の模擬講義の評価		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第7回	実施計画と研究の進捗状況の発表⑤、3年生の模擬講義の評価		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第8回	実施計画と研究の進捗状況の発表⑥、3年生の模擬講義の評価		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第9回	実施計画と研究の進捗状況の発表⑦、3年生の模擬講義の評価		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第10回	実施計画と研究の進捗状況の発表⑧、3年生の模擬講義の評価		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第11回	実施計画と研究の進捗状況の発表⑨、3年生の模擬講義の評価		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第12回	実施計画と研究の進捗状況の発表⑩、3年生の模擬講義の評価		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第13回	実施計画と研究の進捗状況の発表⑪、3年生の模擬講義の評価		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第14回	実施計画と研究の進捗状況の発表⑫、3年生の模擬講義の評価		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第15回	後期にむけての課題提示		実施計画のリバイス	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 実施計画書の作成とレビュー（25％）、研究途中経過のプレゼンテーション（25％）			
受講態度他	50％ 聞く（訊く）態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように、本授業では自らの研究を進捗させるとともに、3年生の授業（専門ゼミナールⅠ）で行っている模擬講義の評価者として参画し、相互啓発的な学習をする。それを成立させる大前提は、自己の研究テーマの計画的な推進と学生相互啓発を促進させるリーダーシップが不可欠である。			
教科書	『新しい人事労務管理（第5版）』（有斐閣、2016、2,000円税別）、『20代で身につけたい質問力』（中経出版、2011、1,300円税別）			
指定図書	『マテリアル人事労務管理 新版』（有斐閣、2006、2,600円税別）			
参考図書	『新版 組織行動のマネジメント』（ダイヤモンド社、2009、2,800円税別）			
オフィスワーク	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	花野 裕康		単 位	4
授業の目的と概要	「歌は世につれ世は歌につれ」と昔からよく言われる。歌は社会の影響を受けたものが流行し、流行している歌もまたその社会に影響を与えるということだ。そこでこのゼミでは、現代の音楽を通じて社会のありさまや変化を読み解いて行く。特にジャンルは問わない。邦楽・洋楽、ロック・それ以外、メジャー・インディーズ、何でもOKとする。自分自身が関心あり（←ここ重要）、なおかつ社会的にもある程度認知されている音楽（ジャンルやアーティスト）を自由に選び、適宜フィールドワークや調査を挟みながら、具体的実践的に「歌は世につれ世は歌につれ」を分析・理解・予測して行く。なお本ゼミナールは「専門ゼミナールⅠ」と同時開講である。それゆえ受講者は昨年度に「専門ゼミナールⅠ」で学んだ内容を復習しつつ、今年度「専門ゼミナールⅠ」受講者の道案内をする役割も担っている。			
到達目標	①社会が音楽に与える影響について、総論的な視点から3分程度で要領よく口頭解説する事ができる。 ②音楽が社会に与える影響について、総論的な視点から3分程度で要領よく口頭解説する事ができる。 ③社会が音楽に与える影響について、個別具体的な音楽を取り上げ5分程度で要領よく口頭解説する事ができる。 ④音楽が社会に与える影響について、個別具体的な音楽を取り上げ5分程度で要領よく口頭解説する事ができる。 ⑤卒業論文・製作の中間報告をプレゼンテーションすることができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 関連科目は、3年次開講の「専門ゼミナールⅠ、Ⅱ」である。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		ゼミの方針を理解し、各自で文章としてまとめる	
第2回	社会が音楽に与える影響（総論①）：昭和と音楽		ゼミで触れなかった「昭和と音楽」の関連性について、自力で調べておく	
第3回	社会が音楽に与える影響（総論②）：平成と音楽		ゼミで触れなかった「平成と音楽」の関連性について、自力で調べておく	
第4回	音楽が社会に与える影響（総論①）：歌に込められたメッセージ性と社会		戦後流行歌のメッセージ性について自説を交えながらまとめる	
第5回	音楽が社会に与える影響（総論②）：アーティストの社会的活動と社会		アーティストの社会的活動について賛否や自説を交えながらまとめる	
第6回	ゼミ生の関心に基づいてのグループ分け		グループ内で今後の進め方について話し合っておく	
第7回	グループごとの計画立案①：対象決定		決めた対象について基本的な情報を整理しておく	
第8回	グループごとの計画立案②：何をどのように調べるか		決めた対象について、分析する方針をグループ内でさらに話し合っておく	
第9回	グループごとの計画発表		グループ内の全員の役割分担が公平になるよう、話し合いを進めておく	
第10回	グループごとの調査①：オフライン方面（書籍等）		文献探索を進め、入手困難な文献について、入手経路を確保しておく	
第11回	グループごとの調査②：オンライン方面（ネット等）		ネット探索を進め、情報別に分類・整理しておく	
第12回	グループごとの調査③：フィールドワーク		フィールドノート（および音声、映像等）の整理を進めておく	
第13回	中間報告①（グループ前半）		自身のグループ報告の事前事後チェックと他グループの批評を進めておく	
第14回	中間報告②（グループ後半）		自身のグループ報告の事前事後チェックと他グループの批評を進めておく	
第15回	総括と卒業ゼミナールⅡへの接続		卒業ゼミナールⅡに向けて卒業中間報告をいかに発展させて行くか文章化する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％（なおレポートは次週授業開始時[その週休んだ場合はそれ以降の授業開始時、また授業終了後の場合はオフィスアワー時]に返却する）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	欠席やゼミに積極的に参加しない等、受講態度が芳しくない受講者に関しては、レポートの提出や成果発表をさせないことがある。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。これまでの自らの経験と知識とを総動員しながら考えつつ受講すること。授業に積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールで相談		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	藤原 隆信		単 位	4
授業の目的と概要	＜ゼミテーマ：ソーシャルビジネスを研究・実践するゼミ＞ 本ゼミナールでは、私たちの身の回りにある多様な「社会問題」を、ビジネス（お金儲け）をしながら解決していく方法と理論を学んで行きます。同時に、地域社会や世界にも目を向け、具体的な実践活動（ビジネスの実践）に取り組んで行く予定です。ゼミⅠでは、「ソーシャルビジネス」や「社会貢献と仕事の関係」等に関する基礎的な理論を学ぶとともに、実践活動に向けたニーズ調査・準備を行います。このような「理論研究」と「実践活動」を通じて、経営学を総合的に学ぶとともに、「社会に貢献しながら働くこと」の意義を考えていきます。 ※「卒業ゼミ」では、3年生のゼミ生に対する指導を行って頂きます。自分自身が昨年度「学んだ」内容を、3年生に「教える」という視点でより深い学びにつなげてもらいます。			
到達目標	①「ソーシャルビジネス」に関する基礎理論を理解し、説明できる。②「ソーシャルビジネス」の実践に必要な知識を身につけ、それを自分の言葉で説明できる。③上記①～②を前提に、「ソーシャルビジネス」の具体的な構想を描き、他人にプレゼンすることができる。 ※「卒業ゼミ」では、3年生のゼミ生に対する指導を行って頂きます。自分自身が昨年度「学んだ」内容を、3年生に「教える」という視点でより深い学びにつなげてもらいます。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	はじめに ——なぜ今、ソーシャルビジネス（SB）なのか？		教科書の序章（pp.24-29）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第2回	文献研究と実践活動の検討 ——SBを始める前に考えておくべきこと		教科書の第1章（pp.32-41）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第3回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの仕組みづくり（1）：成立要件		教科書の第2章（pp.44-56）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第4回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの仕組みづくり（2）：マネタイズモデル		教科書の第2章（pp.56-73）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第5回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの仕組みづくり（3）：事業計画		教科書の第2章（pp.73-82）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第6回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの仕組みづくり（4）：財務計画・価格設定		教科書の第2章（pp.82-95）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第7回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの準備（1）：始動テスト		教科書の第3章（pp.98-110）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第8回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの準備（2）：経営資源（ヒト・カネ）		教科書の第3章（pp.110-127）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第9回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの準備（3）：経営資源（モノ・情報）		教科書の第3章（pp.128-138）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第10回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの開始（1）：サービスイン		教科書の第4章（pp.140-160）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第11回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの開始（2）：供給ライン（その①）		教科書の第4章（pp.160-176）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第12回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの開始（3）：供給ライン（その②）		教科書の第4章（pp.176-192）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第13回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの展開・発展（1）：スケールアップ		教科書の第5章（pp.194-207）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第14回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの展開・発展（2）：スケールアウト		教科書の第5章（pp.207-222）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第15回	文献研究と実践活動の検討 ——SBの展開・発展（3）：制度化		教科書の第6章（pp.224-241）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	60％ 授業の進行に合わせて適宜、発表をしてもらいます。その内容で判断します。			
受講態度他	40％ 授業への出席状況や受講態度などを勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本ゼミナールでは、授業の中でチーム討議やチーム発表に取り組んでもらう予定にしています。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。			
教科書	駒崎弘樹『社会を変えたい人のためのソーシャルビジネス入門』PHP新書、2015年。			
指定図書	授業の中で適宜紹介する。			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12：20～13：10） ※事前に予約を取って下さい。		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	野中 亮		単 位	4
授業の目的と概要	専門ゼミナールⅠ・Ⅱに引き続き、地域生活を、特に文化の観点から研究することを主な目的とします。 専門ゼミナールⅡで設定した各自の研究課題にそって調査・研究をすすめ、最終的に卒業研究としてまとめます。 フィールドワークなどで正規の時間外（週末や夏休み）にも研究活動を行います。また、研究テーマによっては、シラバスの予定変更や交通費の負担などが発生することもあり得ます。			
到達目標	・文献調査やフィールドワークを通じた地域調査を行うことができる ・自らの調査を通じて得たデータについて、卒業研究レベルでの分析をおこなうことができる ・自らの研究成果を論文、もしくは報告書の形式でまとめることができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」から引き続き、「卒業ゼミナールⅡ」につながる授業です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			専門ゼミナールⅠ・Ⅱの成果の確認	
第2回 研究テーマの見直しと修正			専門ゼミナールⅠ・Ⅱの成果を、テーマ設定の観点から精査しておくこと	
第3回 研究・調査計画の策定			見直した研究テーマにそって計画を考えておくこと	
第4回 文献データの収集と読解1：基本文献の検索と収集			各自の研究テーマに沿って、必要な基本文献を収集する	
第5回 文献データの収集と読解2：資料類の検索と収集			各自の研究テーマに沿って、必要な資料類を収集する	
第6回 文献データの収集と読解3：収集した文献・資料の読解のしかた			各自で収集した文献・資料を指示された方法で読解する	
第7回 文献データの収集と読解4：読解した資料の整理・活用のしかた			各自の読解の結果を指示された方法で整理しておく	
第8回 テーマの修正と構成案の策定1：テーマの精緻化			主に予備調査（文献調査）を元にテーマを考えておく	
第9回 テーマの修正と構成案の策定2：テーマに基づいた構成案の策定			調査法の検討なども含め、構成を考えておく	
第10回 文献収集の成果の報告			検索・収集した文献のリストを作成しておく	
第11回 野外調査計画の報告			採択する方法やスケジュール案を具体化して用意しておく	
第12回 野外調査項目の作成			野外調査での収集データに関する見通しを用意しておく	
第13回 調査・研究プランの策定1：テーマと事例、調査項目の詳細決定			卒業研究全体の構成や必要なデータを総合的に検討しておくこと	
第14回 調査・研究プランの策定1：スケジューリング			共同調査などの必要性・可能性を検討し、具体案を作成しておくこと	
第15回 調査・研究プランの確認と小括			調査・研究プランのまとめをしておくこと	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 各回の報告を成果発表とみなします。			
受講態度他	50％ 成果発表以外のゼミ運営への貢献を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・出席は必須です。自分の担当については責任をもって取り組んでください。 ・共同作業が多くなります。作業分担や報告の順番など、受講者同士でマメに連絡・相談・報告しあい、有意義な学びの場にしましょう。 ・野外活動があります。健康状態など配慮すべき事項がある場合は遠慮なく、というより必ず、早めに申し出てください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	谷富夫・芦田徹郎『よくわかる 質的社会調査』ミネルヴァ書房 佐藤郁哉『フィールドワーク：書を持って街へ出よう（増補版）』新曜社			
オフィスアワー	月曜4限	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期	
担 当 教 員	荒巻 龍也		単 位	4	
授業の目的と概要	1) 映像（メディア）リテラシー演習を通して映像メディアに関する理解を深める。 2) 企画（コンテ作成）から撮影、編集までの映像作品（CM、PR動画など）を制作する。 3) テレビCM、ネット動画などを題材としたケーススタディにより、映像表現（方法）などを学び映像制作に活かしていく。 4) 映像関連産業（広告含む）などに関してケーススタディ、ビジネスモデル（BMG）分析などを行い、研究成果をまとめ・発表する。 ゼミ形式で「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業ゼミナールⅠ・Ⅱ」と継続して学びます。映像(産業含む) 関連の専門的な知識とスキルを身につけること、専門研究を通して研究方法や発信方法を磨くこと、ゼミ活動全般から自主性、協働性そしてコミュニケーション能力などのジェネリックスキルを身につけることを目指します。				
到達目標	1. 映像メディア全般ならびに 映像関連産業（広告含む）などに関してケーススタディなどを行い、研究成果をまとめたり、発表したりすることができるようになる。 2. 企画（コンテ作成）から撮影、編集までの映像作品（CM、PR動画など）を制作することができるようになる。 3. テレビCM、ネット動画などを題材としたケーススタディなどにより映像表現（方法）などを学び、映像制作に活かすことができるようになる。 4. ゼミ活動全般から自主性、協働性そしてコミュニケーション能力などのジェネリックスキルを身につけることができる。				
この授業が目的として いるDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション 映像とは何か、映像の持つ影響力 *映像制作企画(1)				まとめ課題1（映像の持つ影響力について）	
第2回 グループワーク演習(1) オリエンテーション～議論				実習課題1（議論）	
第3回 グループワーク演習(2) 議論～情報収集・発表				実習課題2（情報収集・発表）	
第4回 映像制作手順(1) 企画から撮影まで、撮影実習(1) *映像制作企画(2)				実習課題3（企画作成）	
第 5回 映像制作手順(2) 撮影実習(2) *映像制作企画(3)				実習課題4（ロケハン、絵コンテ作成）	
第 6回 映像リテラシー(1)テレビCM1 私たちとテレビコマーシャル				映像リテラシー課題1（テレビ番組のCM数量分析）	
第 7回 映像リテラシー(1)テレビCM2 CMで学ぶ映像言語				映像リテラシー課題2（CM映像言語分析）	
第 8回 映像リテラシー(1)テレビCM3 ターゲット・オーディエンス				映像リテラシー課題3（CMターゲット・オーディエンス分析）	
第 9回 映像制作(1) 夏(1) 撮影(1) 撮影日程～撮影 *映像制作企画(4)				映像制作課題1（撮影素材整理、テープ起こし）	
第 10回 映像制作(2) 夏(2) 撮影(2) 撮影日程～撮影 *映像制作企画(5)				映像制作課題2（撮影素材整理、テープ起こし）	
第 11回 映像制作手順(3) 撮影～編集まで *映像制作企画(6)				実習課題5（映像編集）	
第 12回 テキスト『映像メディアのつくり方』(1) 1章メディアを製作する、2章 メディアの種類と特徴				まとめ課題2	
第 13回 テキスト『映像メディアのつくり方』(2) 3章 テレビ番組のジャンル				まとめ課題3	
第14回 テキスト『映像メディアのつくり方』(3) 6章 CM、10章 CM制作				まとめ課題4	
第15回 映像編集手順(4) 実践～企画書・企画コンテ作成～ *映像制作企画(7)				実習課題6（カップ麺企画、ACC学生CM）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	0% なし				
レポート	65% 映像制作課題（作品）(10%)、まとめ課題(15%)、実習課題（25%）、映像リテラシー課題（15%）				
小テスト等	0% なし				
成果発表	30% 映像制作企画（20%）、グループワーク（5%）、口頭発表・プレゼンテーション（5%）				
受講態度他	5% 受講態度、活動参加状況ならびに授業中やフォーラムでの発言など				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業では予習・復習が効果的にできるように、LMS（e-Learningシステム）である「筑女ネット」を利用しますので、少なくとも授業でわからなかったところの確認や授業に出席できなかった場合のフォローアップをしておいてください。提出した課題はその都度返却します。 授業ではグループで行う作業も多くなります。また3年生と共同でやることも多くなります。4年生は作品制作もしくはレポート作成などを年間を通して行います。				
教科書	なし（「筑女ネット」のオンライン教材ならびにプリント）				
指定図書	なし				
参考図書	授業でその都度紹介します。 久保田賢一 編著 『映像メディアのつくり方』 北大路書房				
オフィスアワー	火曜日2限目（10:50-12:20）、水曜日2限目（10:50-12:20)	メールアドレス			

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	橋本 嘉代		単 位	4
授業の目的と概要	社会で役に立つ基本的な力を育成します。 ・調べる力 ― 対象となるテーマを掘り下げるために必要な情報を集める力 ― を伸ばす。 ・読む力 ― 文献や資料を読み、参考になりたい部分を抽出する力 ― を育成する。 ・書く力 ― 調べた事実と自分の主張を分け、整理して他人に伝える力 ― を鍛える。			
到達目標	・世論調査の結果やデータベースなどを用いて、テーマを掘り下げたり、主張の論拠として提示することができる。 ・必要な文献や資料を探すことができる。 ・本や資料を正しく引用することができる。 ・新聞や雑誌の記事のフォーマットを参考に、 わかりやすい文章を書くことができる。 ・どのようなテーマ設定で進めるべきか、世の中で必要とされているものは何か、といった「問い」を立て、能動的に学ぶ姿勢を身につける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス、編集会議		教科書『メディアの卒論』の第1章「テーマの決め方」を読む	
第2回	先輩の卒業制作の構成や文章の書き方、写真の撮り方を調べる		過年度の卒業制作に目を通す。一眼レフで写真を撮ってみる。	
第3回	文献の探し方、文献リスト、レジュメの書き方		文献リストの書き方を調べ、作成。文献を探し、入手し、読む（課題①）	
第4回	文献の引用の仕方		文献を読み、引用の仕方を見る。	
第5回	文献の内容報告		レジュメを書いてくる。全員の担当論文に目を通してくる。（課題②）	
第6回	編集会議		企画案を考えてくる（課題③）	
第7回	言説分析・内容分析の方法論を学び、実践する①		教科書第2章「ディスコース分析、内容分析」を読む	
第8回	言説分析・内容分析の方法論を学び、実践する②		分析してみたいメディアコンテンツを探す	
第9回	データベース活用① 契約データベースを使って、自分のテーマを掘り下げる		調べたいことを考えてくる	
第10回	データベース活用② e-stat で世論調査のエクセルデータをダウンロードし、グラフや表を作る		調べたいことを考えてくる	
第11回	新聞・雑誌記事のフォーマットに沿って、オリジナルの短い記事を書いてみる（課題④）		模倣したい記事、書きたいネタを探し、持参（お店紹介、流行現象など）	
第12回	文章の書き方、文字校正		ドラマ「校閲ガール」の視聴	
第13回	メディアコンテンツにおける画像の扱い方		使いたい写真の撮影、データの加工	
第14回	雑誌の企画提案書を書いてみる（課題⑤）		対象とする雑誌のバックナンバーの熟読、企画提案書の執筆	
第15回	夏休み・後期に向けての課題の明確化		スケジュール案の作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％（5回の課題） 授業中に添削し、戻します。口頭でのコメントの場合もあります。			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	40％（ディスカッションなどへの参加の度合い）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・PCを使わない日は、教室が変更になる場合があります。			
教科書	藤田真文、2011、『メディアの卒論』ミネルヴァ書房			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜12:30-15:00		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	須藤 遙子		単 位	4
授業の目的 と概要	メディア社会を文化経済・文化政治・文化政策の観点から研究する。 前半は、就活を念頭に置いた「読解力・文章力・発想力」を鍛える演習を中心とする。 後半は、各自の卒業研究に向けてのテーマ設定・資料収集・論文指導を行う。 適宜グループディスカッションを取り入れ、自分の意見を発表すると同時に、他人の意見をよく聞き尊重する姿勢を学ぶ。			
到達目標	・メディアの分析、またメディア企業への就職に必要な「読解力・文章力・発想力」を身につける。 ・プレゼンテーション能力を身につける。 ・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	メディア社会コースDP1：「現代メディア社会において、メディアならびにポピュラー文化に関する基本的な知識と技能の獲得を図る」 関連科目：メディアコンテンツ論、メディアリテラシー演習、文化と現代社会、文化政策論、文化産業論など			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。文章読解：絵本（1）。		絵本を読む。卒業論文執筆・中間発表準備。就活対策の文章作成。	
第2回	文章読解：絵本（2）。卒論中間発表・討議。		絵本を読む。卒業論文執筆・中間発表準備。就活対策の文章作成。	
第3回	文章読解：絵本（3）。卒論中間発表・討議。		児童文学を読む。卒業論文執筆・中間発表準備。就活対策の文章作成。	
第4回	文章読解：児童文学（1）。卒論中間発表・討議。		児童文学を読む。卒業論文執筆・中間発表準備。就活対策の文章作成。	
第5回	文章読解：児童文学（2）。卒論中間発表・討議。		映画を観る。合同ゼミ準備。	
第6回	合同ゼミ：映画分析（1）。		視聴した映画を調べる。合同ゼミ準備。	
第7回	合同ゼミ：映画分析（2）。		映画分析復習。児童文学を読む。卒業論文執筆・中間発表準備。	
第8回	文章読解：児童文学（3）。卒論中間発表・討議。		児童文学を読む。卒業論文執筆・中間発表準備。就活対策の文章作成。	
第9回	文章読解：児童文学（4）。卒論中間発表・討議。		児童文学を読む。卒業論文執筆・中間発表準備。就活対策の文章作成。	
第10回	文章読解：長編児童文学（1）。卒論中間発表・討議。		児童文学を読む。卒業論文執筆・中間発表準備。就活対策の文章作成。	
第11回	文章読解：長編児童文学（2）。卒論中間発表・討議。		児童文学を読む。卒業論文執筆・中間発表準備。就活対策の文章作成。	
第12回	文章読解：長編児童文学（3）。卒論中間発表・討議。		児童文学を読む。卒業論文執筆・中間発表準備。就活対策の文章作成。	
第13回	文章読解：長編児童文学（4）。卒論中間発表・討議。		児童文学を読む。卒業論文執筆・中間発表準備。就活対策の文章作成。	
第14回	文章読解：長編児童文学（5）。卒論中間発表・討議。		児童文学を読む。卒業論文執筆・中間発表準備。就活対策の文章作成。	
第15回	文章読解まとめ。卒論中間発表まとめ。		夏休みに読む短編編小説を決定。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	40％			
小テスト等	％			
成果発表	40％（グループでの参加度、発表者としてのスキル）			
受講態度他	20％（全体討論への参加態度も含める）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	夏に出席必須のゼミ合宿あり。 3年生に引き続き、本（小説）をたくさん読むことが求められます。 また就活の進展に伴い、随時エントリーシートや小論文対策を行います。 その他、細かいルールに関しては、第1回目のオリエンテーションで説明します。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスアワー	月曜日4限。		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	安恒 万記		単 位	4
授業の目的 と概要	住環境に関する課題について、自らの問題意識に即してグループでの調査・研究を行い、発表と討論を行うことによって住環境について深く考察します。特に3年生と合同でのグループをまとめ、研究課題に関する文献、資料に幅広く触れ、目的に合ったデータを収集し、適切な分析を行い、発表と討論を行うことによって、課題発見能力や論理的な思考力、プレゼンテーション能力などを身につけることを目的とします			
到達目標	1.広く住環境について、現代社会における問題・課題を発見することができる。 2.その問題・課題について、参考文献や先行研究の検索、フィールドワークやアンケートなどの調査を提案することができる。 3.その問題・課題について、適切にまとめることができる。 4.テーマに沿って論点を見つけ、ディスカッションすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」の内容を整理する	
第2回	年間ゼミナール計画の策定①		年間計画を作成する	
第3回	年間ゼミナール計画の策定②		研究テーマ、研究方法、データの整理	
第4回	研究テーマ設定		研究テーマ、研究方法、データの整理	
第5回	研究状況の発表・討論①		発表資料の準備	
第6回	フィールドサーベイA		調査計画	
第7回	フィールドサーベイAまとめ		発表準備	
第8回	研究状況の発表・討論②		発表資料の準備	
第9回	研究状況の発表・討論③		発表資料の準備	
第10回	研究状況の発表・討論④		発表資料の準備	
第11回	研究状況の発表・討論⑤		発表資料の準備	
第12回	中間発表に向けた検討		中間発表のためのデータ整理	
第13回	中間発表準備		プレゼンテーション準備	
第14回	中間発表		プレゼンテーション準備	
第15回	まとめと総括		今後の課題の整理	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	50％			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的な参加を期待します			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	木曜日 10：50～12：20		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】			開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小山 昌宏			単 位	4
授業の目的と概要	1. この授業は、卒業研究にいたるマンガ研究分野における基礎教養、テキスト読解力、課題設定力を身に着けることを目的とする。 2. マンガ研究分野から、卒業研究に向けた幾つかのテーマ候補をみつけだすことを目的とする。 3. 具体的には、講義前の教科書による予習、レジュメ（資料）のまとめによる知識の体系化、発表、討論による理解の深化を通して、立体的にゼミ討論内容を理解することを目的とする。 4. 3限は基礎読解、4限は著作権の学習、マンガ、アニメ、映画、舞台、ライブなどの作品鑑賞、プレゼン、討論をおこなう				
到達目標	1. マンガ表現の原理、その発展から日本のマンガの歴史、制作上の問題点、課題について説明することができる。 2. マンガメディア、マンガ文化の概要について、説明することができる。 3. 政府の文化政策とマンガ文化が有する諸問題点を発見し、それについて掘り下げ、考えることができ、その内容について報告ができる。 4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、独自の「マンガ観」を形成することができる。 5. ゼミ運営、参加を通して、テーマに関する知識運用、対話能力、企画力、表現力を向上させる。				
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第1回 3限・4限：オリエンテーション	ゼミナールの計画、全体日程、到達目標の確認、相談			教科書：マンガ研究13講（水声社）	第2回授業分を予習する
第2回 3限：マンガ研究1 4限：自由課題	第1章：【教育論】 マンガ教育と学校（伊藤剛） 4限：自由課題			教科書：マンガ研究13講（水声社）	第3回授業分を予習する
第3回 3限：マンガ研究2 4限：自由課題	第2章：【歴史論】 マンガ史はどのように記述されてきたのか？（遠藤広之） 4限：自由課題			教科書：マンガ研究13講（水声社）	第4回授業分を予習する
第4回 3限：マンガ研究3 4限：自由課題	第3章：【文学論】 マンガ、文学、ライトノベル（大橋崇行） 4限：自由課題			教科書：マンガ研究13講（水声社）	第5回授業分を予習する
第5回 3限：マンガ研究4 4限：自由課題	第4章：【表現論】 マンガ表現論の「歴史」とその展望（小山昌宏） 4限：自由課題			教科書：マンガ研究13講（水声社）	第6回授業分を予習する
第6回 3限：マンガ研究5 4限：自由課題	第5章：【キャラクター論】 キャラクターを見る、キャラクターを読む（岩下朋世） 4限：自由課題			教科書：マンガ研究13講（水声社）	第7回授業分を予習する
第7回 3限：マンガ研究6 4限：自由課題	第6章：【ジェンダー論】 マンガの／で、ジェンダーを考えること（西原麻里） 4限：自由課題			教科書：マンガ研究13講（水声社）	第8回授業分を予習する
第8回 3限：マンガ研究7 4限：自由課題	第7章：【映像・芸術論】 マンガにみる複数の瞬間（増田展大） 4限：自由課題			教科書：マンガ研究13講（水声社）	第9回授業分を予習する
第9回 3限：マンガ研究8 4限：自由課題	第8章：【記号論・物語論】 マンガにおける物語論の可能性（小池隆太） 4限：自由課題			教科書：マンガ研究13講（水声社）	第10回授業分を予習する
第10回 3限：マンガ研究9 4限：自由課題	第9章：【産業論】 漫画を支える作家・編集者のあり方（玉川博章） 4限：自由課題			教科書：マンガ研究13講（水声社）	第11回授業分を予習する
第11回 3限：マンガ研究10 4限：自由課題	第10章：【同人誌論】 インフラ整備からみる同人誌即売会・同人文化の成長 4限：自由課題			教科書：マンガ研究13講（水声社）	第12回授業分を予習する
第12回 3限：マンガ研究11 4限：自由課題	第11章：【観光論】 「マンガ」と「観光」の重層的関係（岡本健） 4限：自由課題			教科書：マンガ研究13講（水声社）	第13回授業分を予習する
第13回 3限：マンガ研究12 4限：自由課題	第12章：【ミュージアム論】 「メディア」としてのマンガミュージアム（伊藤遊） 4限：自由課題			教科書：マンガ研究13講（水声社）	第14回授業分を予習する
第14回 3限：マンガ研究13 4限：自由課題	第13章：【海外受容論】 「マンガ」の「国籍」について（小田切博） 4限：自由課題			教科書：第15回の小テスト、研究発表の準備をおこなう	
第15回	研究報告（4年生：卒研のためのプレゼン）			発表テーマを創業研究の候補のひとつとしてストックしておく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	なし				
レポート	70％				
小テスト等	なし				
成果発表	20％（各回の報告、プレゼン）				
受講態度他	10％（議論、討論への積極性を評価）				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 3限：教科書は毎回、担当者が要約し、レジュメを用意する。 4限：自由課題につき、オリエンテーションにて計画詳細を練る 2. マンガメディアの基礎の上に、応用力を身に着ける。議論は3年生をリードする。 3. 13講（章）あるので、8人（3年生含む）のうち、5人は2回担当当番になる。 4. 報告形式は、レジュメ（文章式）、パワーポイント（図解式）のどちらでもよい。				
教科書	小山昌宏・玉川博章・小池隆太編『マンガ研究13講』（水声社）				
指定図書	なし				
参考図書	小山昌宏『戦後「日本マンガ」論争史』（現代書館）、竹内オサム・西原麻里編『マンガ文化 55のキーワード』（ミネルヴァ書房）				
オフィスアワー	水曜日 4限目（14:50～16:20）・金曜日 3限目（13:10～14:40）		メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	上村 真仁		単 位	4
授業の目的と概要	住民参加の地域づくりについて、特に地域固有の資源である自然や伝統文化、暮らしの視点からの研究や実践を行うことで、地域課題に主体的に関わり、その解決策を構想する力を養うことを目的とします。3年生の専門ゼミナールⅠ、Ⅱと合わせて開催します。前年度の専門ゼミナールⅡで企画・立案した研究計画・実践計画に基づき、調査（あるいは地域での実践活動）を進め、最終的には、卒業研究（あるいは実践報告）としてまとめます。※調査（あるいは地域での実践活動）とは、調査は卒業研究を、実践活動は、特定のフィールドでのまちづくりプロセスの企画・実施に参加し報告書を作成することを指す。			
到達目標	地域課題を発見しその解決策について研究あるいは、実践的な立場から地域の実情を踏まえた分析、提案を構想できるようになる 地域のステークホルダーとの良好なコミュニケーションを通じて、研究、実践を進めることができる 自らの研究、実践の成果を論文、もしくは研究、報告書としてまとめることができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション ゼミの目標の設定		予習 シラバスの熟読、復習 オリエンテーションの内容の復習	
第2回	研究・実践テーマの見直し グループワークのリード		専門ゼミナールの成果の見直し、深化	
第3回	研究・実践計画の策定 グループワークでの年間ゼミナール計画の策定		テーマ見直しに合わせた計画の修正を行う	
第4回	卒業研究・実践の準備 その1 4年生研究・実践計画の中間発表、合同討議		事例収集、レジュメ作成	
第5回	卒業研究・実践の準備 その2 4年生研究・実践計画の中間発表、合同討議		事例収集、レジュメ作成	
第6回	卒業研究・実践の準備 → フィールドワーク1 計画の作成		自分の研究・実践フィールドの絞り込み	
第7回	フィールドワーク1（事例調査）		対象フィールドでの情報収集と調査（ヒアリング、調査結果の取りまとめ）	
第8回	研究・実践計画の中間発表、合同討議		発表資料の作成	
第9回	卒業研究・実践の準備 → アイディア出しと論点整理（グループディスカッション）		情報収集、レジュメの作成	
第10回	現地調査・実践 その1 方法等の確定		情報収集、レジュメの作成	
第11回	現地調査・実践 その2 スケジュール検討、夏季フィールドワーク企画		フィールド関係者との事前調整	
第12回	ブレ調査 その1		現地での調査の準備、調整	
第13回	ブレ調査 その2		調査結果の取りまとめ	
第14回	詳細計画の検討 4年生研究・実践計画の中間発表、合同討議		発表資料の作成	
第15回	まとめ 夏学期間中の調査等計画の確認 4年生研究・実践計画の中間発表、合同討議		卒業ゼミナールⅡに向けた課題	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50％			
受講態度他	50％フィールドワークへの参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	参加者の主体的な事例調査及びフィールドワークにより進めます。夏季休暇などにおいてフィールドトリップを企画実施します（日程や場所については受講生の意向を踏まえて調整します。）フィールドワークなどで正規の時間外（週末や夏休み）にも活動を行います。また、研究・実践のテーマによっては、シラバスの予定変更や交通費などの負担が発生することもあります。授業の一部を小鳥居小路の町家で実施します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業時に指示します。			
オフィスアワー	月曜日3限、4限、水曜日3限、4限		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅠ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	高森 暁子		単 位	2
授業の目的と概要	英語文学を原作とする映画、演劇、ミュージカルを題材に、作り手が原作をどのような視点から解釈し、どのようなメッセージを発信しているか、さらにそれらがどう受容されてきたかを検証します。前期は、様々なメディアにおいて広く受容されているシェイクスピアの『ロミオとジュリエット』を題材に取り上げます。まずは原作の書かれた時代や文化的な背景を踏まえながら、原作を精読し、テキストを分析的に読む訓練をします。その後、複数のメディア作品と原作との比較を行います。それによって、翻案作品（映画など）について多角的な視点から理解することができるようになることを目指します。			
到達目標	1. 原作のストーリーや登場人物について細部まで正確に理解することができる。 2. 原作に描かれたテーマやモチーフを理解することができる。 3. 原作とその様々なメディア作品について、両者の違いを認識することができる。 4. それぞれのメディア作品の特徴や、どのような視点から制作されたものかを具体的に説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション 授業の進めかた、スケジュールの確認			『ロミオとジュリエット』（プロローグ、第1幕）に関する予習	
第2回 『ロミオとジュリエット』（プロローグ、第1幕）の研究、ディスカッション			『ロミオとジュリエット』（第2幕）に関する予習	
第3回 『ロミオとジュリエット』（第2幕）の研究、ディスカッション			『ロミオとジュリエット』（第3幕）に関する予習・課題	
第4回 『ロミオとジュリエット』（第3幕）の研究、ディスカッション			『ロミオとジュリエット』（第4幕）に関する予習・課題	
第5回 『ロミオとジュリエット』（第4幕）の研究、ディスカッション			『ロミオとジュリエット』（第5幕）に関する予習・課題	
第6回 『ロミオとジュリエット』（第5幕）の研究、ディスカッション			『ロミオとジュリエット』のテーマについて意見をまとめる	
第7回 『ロミオとジュリエット』のテーマに関する研究、ディスカッション			『ロミオとジュリエット』の映画版（ゼフィレリ監督作品）について調べる	
第8回 映画版（ゼフィレリ監督作品）研究			『ロミオとジュリエット』の映画版（ラーマン監督作品）について調べる	
第9回 映画版（ラーマン監督作品）研究			『ロミオとジュリエット』の映画版（ドナ監督作品など）について調べる	
第10回 映画版（ドナ監督作品など）研究			『ロミオとジュリエット』のバレエ版について調べること	
第11回 バレエ版（マクミラン振り付け作品）研究			『ロミオとジュリエット』の日本での舞台版について調べること	
第12回 舞台版研究（蜷川監督作品）研究			『ロミオとジュリエット』のミュージカル版について調べること	
第13回 ミュージカル版（『ウェストサイド物語』）研究			『ロミオとジュリエット』のマンガ・アニメ版について調べること	
第14回 英語マンガ版（Selfmade Hero制作作品）研究			『ロミオとジュリエット』映画版、舞台版、アニメ版、マンガ版の復習	
第15回 まとめ、前期レポートに関する指示			前期レポート作成の準備をすること	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40% 授業中のディスカッションへの積極的参加度、受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席回数が6回に達すると単位修得の資格を失います。			
教科書	1. William Shakespeare, Romeo and Juliet (Cambridge School Shakespeare) 2. ウィリアム・シェイクスピア 『ロミオとジュリエット』 ちくま書房（松岡和子訳）			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて授業中に指示します。			
オフィスアワー	金曜 4 時間目		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	篠崎 真美		単 位	4
授業の目的 と概要	・卒業ゼミナールⅠの振り返り ・各自研究・調査計画の見直し ・研究成果（卒業論文・研究成果物）の再設定 ・卒業論文の執筆指導 ・卒業研究発表の練習指導			
到達目標	これまで3年間で獲得した知識・技能を総合的に活用し、自らが立てた研究テーマを探究する力を獲得する。 ・研究・調査結果を論文・成果物に纏めることができる ・研究・調査をプレゼンテーションツールを用い、口頭発表することができる ・口頭発表後の質問に対して、端的に回答することができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①-1 これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	発表：夏休みの研究・調査報告（改善する課題の抽出、課題の解決方法の議論）		夏休みの研究・調査をPPTに纏めて、発表 @30分の準備をしてきてください	
第2回	発表：研究・調査計画の見直し、活動報告		第1回目の課題により研究・調査計画の見 直しをまとめてきてください	
第3回	発表：調査・分析：（個別指導）		個別の研究をすすめ、1週間の活動報告を 纏めてくる	
第4回	発表：調査・分析（全体指導）		個別の研究をすすめ、1週間の活動報告を 纏めてくる	
第5回	中間発表：執筆構成の改善（ゼミナール全員参加）		「卒業ゼミⅠ」目次（案）の再構成をし、 中間発表の準備をしてくる	
第6回	発表：執筆①報告（0章）		執筆：0章（はじめに）	
第7回	発表：執筆②報告（1章）		執筆：1章をまとめてくる	
第8回	発表：執筆③（2章）		執筆：2章をまとめてくる	
第9回	発表：執筆④（3章）		執筆：3章をまとめてくる	
第10回	発表：執筆⑤（4章）		執筆：4章をまとめてくる	
第11回	発表：執筆⑥（5章）		執筆：5章をまとめてくる	
第12回	発表：執筆⑦（おわりに）		執筆：おわりに	
第13回	発表・執筆⑧		執筆：個別の課題をすすめる	
第14回	卒業研究プレ発表：ゼミナール全員参加型		卒業研究発表の準備（作成）	
第15回	卒業研究発表：口頭試問		最終発表の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％（卒業論文・研究成果物）			
小テスト等	なし			
成果発表	30％（卒業研究発表）			
受講態度他	10％（全体討論への参加貢献度）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	出席必須 遅刻・早退・欠席は、事前に理由連絡をし、承認をとること			
教科書	適宜紹介する			
指定図書	適宜紹介する			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	水曜日 5 講目 ＊事前にメールにて訪問日時を相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	宮原 牧子		単 位	2
授業の目的と概要	前期に引き続き、ヴィクトリア朝時代のイギリスのバラッド詩を精読、鑑賞、翻訳します。より深い理解を基に、より完成度の高い翻訳を目指しましょう。 なお、完成した翻訳作品は、『英国バラッド詩アーカイブ』（ http://literaryballadarchive.com/ ）に掲載されます。担当作品は、責任をもって仕上げてください。 ①詩人と作品を選定します。（担当者・担当作品については第2回にリストを作成します） ②時代背景や伝記について調べます。また、詩人の他の作品も読みます。 ③作品を精読します。 ④試訳を全員で検討します。 ⑤翻訳作品を完成させます。			
到達目標	1．英詩を正確に読み、理解できる。 2．文学用語、詩人、作品、時代背景に関する知識を深める。 3．作品にふさわしい日本語で詩を訳すことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 前期完成作品の講評			第2回の準備（作品の選定）	
第2回 イントロダクション 「翻訳とは一その2」			担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第3回 詩の精読と翻訳、およびディスカッション（1） 詩人の背景を知る			担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第4回 詩の精読と翻訳、およびディスカッション（2） 時代背景を知る			担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第5回 詩の精読と翻訳、およびディスカッション（3） 言葉の選択について			担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第6回 詩の精読と翻訳、およびディスカッション（4） 担当箇所の発表			担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第7回 詩の精読と翻訳、およびディスカッション（5） グループによるディスカッション			担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第8回 詩の精読と翻訳、およびディスカッション（6） 検討作業			担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第9回 翻訳作品の校正（1） グループ1作品発表			担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第10回 翻訳作品の校正（2） グループ2作品発表			担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第11回 詩の精読と翻訳、およびディスカッション（9）			担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第12回 翻訳作品の校正（3） グループ別校正作業			担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第13回 翻訳作品の校正（4） グループ別作品発表			担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第14回 翻訳作品の校正（5） グループ別検討作業			担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読	
第15回 翻訳作品の完成 作品の発表			完成させた原稿を提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	―			
レポート	―			
小テスト等	―			
成果発表	70％ 翻訳作品の完成度により評価します。			
受講態度他	30％ 講義への参加度・受講態度などで評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして講義にのぞんでください。 やむを得ず発表の担当の回に欠席する場合は、当日の朝8時までに連絡すること。			
教科書	プリント			
指定図書	―			
参考図書	必要に応じて講義中にご紹介します。			
オフィスワー	水曜日3限目	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	緒方 隆文		単 位	2
授業の目的と概要	目標 1：卒業ゼミナールを通して、言語・文化に関する専門知識を身につけ、深い人間理解ができるようになる。目標 2：英語理論を学び、言葉としての英語に関心を持つとともに、自ら探求する方法を身につける。目標 3：英語圏文化を、学んだり調べたりすることで、英語に対する理解を深め、様々な視点で英語をとらえることができるようになる。その過程で、論理的思考力、問題解決力、特定分野の知識・技能を身につける。 授業は基本、二部構成で進められる。前半では受講者は、自分のテーマによる発表を行う。自ら調べ、効果的に発表できるよう技術的な側面も学んでいく。後半ではプリントを用いて、言語理論(認知言語学)や英語学全般の内容を取り上げ学習する。英語そのものがもつ規則性・特徴を、言語理論に偏ることなく、幅広く見ていく。そうすることで、英語に対する理解を深め、英語そのものをことばとして楽しむことが期待されている。			
到達目標	1. 英語に関するテーマを一つ選び、期末レポートを書くことができる。 2. 調べたことを、口頭発表(2回)することができる。 3. 講義で学んだ特定分野の知識・技能に関して、自らの言葉で説明することができる。 4. 口頭発表など講義中に、質疑応答やディスカッションなど積極的に参加することができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション；認知言語学/英語学全般(語用論<1>：会話の格率)		語用論(1)の復習，発表/レポートの作成準備	
第 2 回	ディスカッション・質疑応答の仕方；認知言語学/英語学全般(語用論<2>：遂行動詞)		語用論(2)の復習，発表/レポートの作成準備	
第 3 回	発表C(第1回)；認知言語学/英語学全般(語用論<3>：比喩表現)		語用論(3)の復習，発表/レポートの作成準備	
第 4 回	発表C(第2回)；認知言語学/英語学全般(語形成<1>：派生と複合)		語形成(1)の復習，発表/レポートの作成準備	
第 5 回	発表C(第3回)；認知言語学/英語学全般(語形成<2>：逆成・省略・頭文字語他)		語形成(2)の復習，発表/レポートの作成準備	
第 6 回	発表C(第4回)；認知言語学/英語学全般(語形成<3>：音象徴・混成・異分析他)		語形成(3)の復習，発表/レポートの作成準備	
第 7 回	発表C(第5回)；認知言語学/英語学全般(アイロニー<1>：アイロニーの公式))		アイロニー(1)の復習，発表/レポートの作成準備	
第 8 回	発表C(第6回)；認知言語学/英語学全般(アイロニー<2>：アイロニーの対象))		アイロニー(2)の復習，発表/レポートの作成準備	
第 9 回	発表D(第1回)；認知言語学/英語学全般(アイロニー<3>：類似表現との比較)		アイロニー(3)の復習，発表/レポートの作成準備	
第10回	発表D(第2回)；認知言語学/英語学全般(描写の立場<1>：表現における視点)		描写の立場(1)の復習，発表/レポートの作成準備	
第11回	発表D(第3回)；認知言語学/英語学全般(描写の立場<2>：実証研究)		描写の立場(2)の復習，発表/レポートの作成準備	
第12回	発表D(第4回)；認知言語学/英語学全般(描写の立場<3>：日英比較)		描写の立場(3)の復習，発表/レポートの作成準備	
第13回	発表D(第5回)；認知言語学/英語学全般(オノマトペ<1>：具体例とその対応関係)		オノマトペ(1)の復習，発表/レポートの作成準備	
第14回	発表D(第6回)；認知言語学/英語学全般(オノマトペ<2>：日英比較)		オノマトペ(2)の復習，発表/レポートの作成準備	
第15回	総括：レポート最終指導，学習内容の全体的復習		レポート仕上げ	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 期末レポートの他に、毎回の授業において課題が課せられる。なお提出した課題は、次回の授業において返却される。			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 口頭発表が2回ある。			
受講態度他	20% 積極的な参加(発表・質問等)を考慮する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学習態度(授業参加度・プレゼン発表)や 課題/レポートを重視する。 発表やレポートはしっかりと時間をかけ準備をし、自分でも十分に満足のいくものにすること。 細かい授業のルールについては、第1回の授業で配布する。			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中、必要に応じて紹介する。			
オフィスワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(メール等で、予約することが望ましい)	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大城 房美		単 位	2
授業の目的 と概要	このゼミは、ポップカルチャーが私たちのアイデンティティについて提起する問題について考え、現代に生きる私たちの女性観やジェンダー観を問いなおし、私たちと社会の関わりを考えてゆくことを目的とする。 各ゼミ生が準備する発表を通して、アイデンティティに関する自分自身の価値観を分析し、問い直す。そして、公的機関を実際に訪問し視察することで、社会とそれぞれの問題のつながりを含めて考えてゆく。 各ゼミ生は、それぞれ研究発表テーマと扱う作品を決め、発表前にアウトラインを他のゼミ生に配布できるよう、準備すること。 。 OHCやPOWERPOINT、DVDなどのビジュアルな機器と配布資料を活用し、よりよく伝わる発表をめざすこと。各発表は15分から20分程度。 各発表者は筑女ネットのフォーラムから、ディスカッションリストを立ち上げ、そこに発表前の準備に関することを投稿する。 発表後、他の学生は、そこからリ spons をを投稿すること。			
到達目標	1. 大学に入ってつちかかってきた英語力をフルに活用する。（ゼミでは、積極的に英語テキストを取り上げ、比較文化的視点から分析すること） 2. グローバルな視点から、様々な文化のフォームに現れるジェンダーに関する問題を提起し、分析する。 3. 性と現代社会に関する問題を自分の視点から考え、それに対する意見を述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回 Introduction			講義の際に指示します。	
第 2 回 各学生による自由研究発表計画についての報告 ＊海外、特に英語／英語圏文化との関連から、自由研究のテーマをたてること＊			発表の概要、アウトラインを考えること。	
第 3 回 福岡市男女共同参画センター「アミカス」、または北九州市漫画ミュージアム視察・施設見学（施設の予定により変更可能性有り）			訪問施設について下調べをしておくこと。 リ spons 投稿。	
第 4 回 福岡市男女共同参画センター「アミカス」、または北九州市漫画ミュージアム視察・話し合い・図書室でのリサーチ（施設の予定により変更可能性有り）			訪問施設についての質問を考えておくこと。 リ spons 投稿	
第 5 回 九州マンガ交流部会参加（研究発表会）、ディスカッション			発表テーマについて、下調べをする。発表についてリ spons 投稿。	
第 6 回 各学生による自由研究発表、ディスカッション			発表についてリ spons 投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作	
第 7 回 各学生による自由研究発表、ディスカッション。			発表についてリ spons 投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。	
第 8 回 各学生による自由研究発表、ディスカッション			発表についてリ spons 投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。	
第 9 回 各学生による自由研究発表、ディスカッション			発表についてリ spons 投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。	
第10回 各学生による自由研究発表、ディスカッション			発表についてリ spons 投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。	
第11回 各学生による自由研究発表、ディスカッション			発表についてリ spons 投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。	
第12回 各学生による自由研究発表、ディスカッション。			発表についてリ spons 投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。	
第13回 各学生による自由研究発表、ディスカッション。			発表についてリ spons 投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。	
第14回 各学生による自由研究発表、ディスカッション。			発表についてリ spons 投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。	
第15回 最終レポートのテーマ発表とディスカッション。			最終レポートのアウトライン作成。最終レポートの作成準備。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% レポートは4000字以上。参考文献5点以上。引用処理が的確でないものは不可。			
小テスト等	リ spons 20% 各講義について、質問やコメントなどを筑女ネットのフォーラムに投稿する			
成果発表	レポートに含む			
受講態度他	20% 講義での活動(受講状況・発表・宿題など)を含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	＊レジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価しない 発表担当については、次の2点の準備をすること。 発表前：アウトラインの準備（筑女ネットでディスカッションリストをつくる）、発表当日：レジュメ配布。 ＊学外講義は、訪問施設の予定によりスケジュールを調整。現地集合。集合時間などはゼミで確認する。			
教科書	前期に購入したテキストと指定図書、他。各発表担当者がレジュメを準備。発表前に、筑女ネットを通して、発表テーマ、アウトライン等を告知する。発表後各学生は筑女ネットにリ spons をを投稿する。			
指定図書	Anime explosion! 『学生・研究者のための使える!PowerPointスライドデザイン』 Manga and the representation of Japanese history			
参考図書	『Critical Approaches to Comics』、A Comics Studies Reader (UP of Mississippi)、The Manga Guide to the Universe, Manga Shakespeare Series (Romeo and Juliet 他)、その他英語版MANGA、マンガ関係の図書は請求番号726.1で検索			
オフィスワー	火曜日午後（予約をしてください）		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	D.J. Wood		単 位	2
授業の目的と概要	Students will: * develop their command of verbal linguistic patterns * analyze common conceptual features like experience processing and assimilation * learn how to grasp structure and logical development of spoken interaction; and * identify elements common to all communication and the themes which it includes. * use their own photos to ask and answer questions for communication			
到達目標	To present the nature of visual and aural communication for close study in relation to the overall meaning of such * universal topics as the nature of teaching and learning, students: * deepen their ability to comprehend all the levels at which conversations operate to present the same orally. * develop the necessary analytical tools and skills to make insightful conclusions; and * learn and demonstrate the ability to write their questions, impressions and interpretation			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	Seminar orientation and interpersonal communication method introduction		Prepare assignment 2	
第 2回	Information sharing about recent activities for listening and expression/preparation of photos for interaction		Prepare assignment 3	
第 3回	Exchange of personal information, about recent activities for listening and expression		Prepare assignment 4	
第 4回	Class report writing		Prepare assignment 5	
第 5回	Photo background studies introduction		Prepare assignment 6	
第 6回	Initial photo interpretation		Prepare assignment 7	
第 7回	Analysis of the detailed content of students' photos		Prepare assignment 8	
第 8回	Photo interpretation and interpretation		Prepare assignment 9	
第 9回	Analysis of the detailed content of the photos		Prepare assignment 10	
第10回	Photo interpretation of individual photos in groups		Prepare assignment 11	
第11回	Advanced interpretation of students' photos		Prepare assignment 12	
第12回	Analysis of the overall content to identify its themes and expressive forms		Prepare assignment 13	
第13回	Review of the photo's content and meaning		Prepare assignment 14	
第14回	Report orientation		Prepare assignment 15	
第15回	First draft of photo report		Prepare review assignment	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ Class participation and contribution			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条（2）に従います。			
教科書	Materials will be distributed			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays.		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松崎 徹		単 位	2
授業の目的 と概要	前期に引き続き本ゼミナールでは、講師が幅広く集めた、英語に見られる興味深い言語現象を受講生と一緒に分析しながら、英語の持つ不思議な魅力を体感していきます。			
到達目標	1. 英語には興味深い言語現象が数多く存在していることを理解できる。 2. そうした言語現象の多くにはきちんとした由来が存在していることが理解できる。 3. 上で学んだ言語現象の由来を類似した他の言語現象の説明にも応用できるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	導入問題の解答と解説		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第2回	英語の主語の不思議 (1) 【諸言語の主語】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第3回	英語の主語の不思議 (2) 【英語の主語】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第4回	英語の助動詞の不思議 (1) 【助動詞の定義】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第5回	英語の助動詞の不思議 (2) 【助動詞の起源】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第6回	英語の時制の不思議 (1) 【英語と日本語の時制】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第7回	英語の時制の不思議 (2) 【完了時制の仕組み】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第8回	学期末レポート面談 (1)		レポートプロポーザル作成	
第9回	学期末レポート面談 (2)		レポートプロポーザル作成	
第10回	英語の「不規則」の不思議 (1) 【不規則動詞と規則動詞】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第11回	英語の「不規則」の不思議 (2) 【不規則動詞の歴史】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第12回	英語の「不規則」の不思議 (3) 【不規則動詞の未来】		授業の既習事項の復習および配布プリントの予習	
第13回	学期末レポート中間発表 (1)		中間発表準備	
第14回	学期末レポート中間発表 (2)		中間発表準備	
第15回	学期末レポート中間発表 (3)		中間発表準備	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	30% 小テスト			
成果発表	50% 学期末レポート			
受講態度他	20% 授業での積極的な取り組みを考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・あらかじめ配布された予習プリントは次回の授業時までにかならず予習をしておいてください。また、授業で学んだことは、その日のうちに復習しておいてください。 ・授業は講義形式が主とはなりますが、本ゼミの受講生には授業がより活気あるものとなるよう、各自の積極的な参加と活発な意見の交換を期待します。 ・理解度の確認という目的で各単元の終了ごとに小テストを実施しますので、テストに備えて日ごろから講義内容の復習を心が			
教科書	プリント資料配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜指示します。			
オフィスワー	水曜日 3 限目・金曜日 2 限目		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	三日月 雅子		単 位	2
授業の目的と概要	このゼミの主要課題は、Airline関連の分野で必要とされる実践的な英語力と基礎知識を身につけることです。この基本的な認識を基に、受講生は、Airline関連の各テーマを英語で読んで学び、基礎知識を養い、理解力を高めることを目的にします。さらに、その過程で論理的思考力、問題解決力、特定分野の知識・技能も身につくことができます。 後期は、Airline関連の英語そのものがもつ規則性や特徴を、文法および意味論の立場から、時に語用論の見解を交えながら考察していきます。ゼミは受講者の発表を軸に進めます。調べた内容を全員の前で効果的に発表できるよう技術的な側面も指導していきたいと思います。			
到達目標	1. Airline分野に関する英文のトピックを選び、その内容を正確に読み理解する。 2. 調べたことを、的確かつ正確な言葉で口頭発表をする。 3. 講義で学んだAirline分野の知識に関して知識を深める。 4. 講義中の質疑応答やディスカッションなどでコミュニケーションスキルを向上する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 前期の講評と後期の発表テーマ決め			発表資料の配布と学習方法についての提案と説明	
第 2回 発表第1回	テーマ（１）についてのディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成、担当者以外も資料（１）を精読	
第 3回 発表第 2回	テーマ（２）についてのディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成、担当者以外も資料（２）を精読	
第 4回 発表第 3回	テーマ（３）についてのディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成、担当者以外も資料（３）を精読	
第 5回 発表第 4回	テーマ（４）についてのディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成、担当者以外も資料（４）を精読	
第 6回 発表第 5回	テーマ（５）についてのディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成、担当者以外も資料（５）を精読	
第 7回 発表第 6回	テーマ（６）についてのディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料（６）を精読	
第8回 発表第 7回	テーマ（７）についてのディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成、担当者以外も資料（７）を精読	
第 9回	AirlineとTourism関連の論文（１）の読解		論文（１）の予習	
第10回	AirlineとTourism関連の論文（２）の読解		論文（２）の予習	
第11回	AirlineとTourism関連の論文（３）読解		論文（３）の予習	
第12回	卒業発表のテーマ決め		各自テーマを考えて持ち寄る	
第13回	卒業発表		発表担当者は資料を作成、担当者以外も発表資料を精読	
第14回	卒業発表		発表担当者は資料を作成、担当者以外も発表資料を精読	
第15回	卒業発表		発表担当者は資料を作成、担当者以外も発表資料を精読	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20％ 毎回の授業の課題			
小テスト等	なし			
成果発表	60％ 口頭発表。			
受講態度他	20％ 積極的な参加(発表・質問等)。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学習態度（授業参加度・プレゼン発表）や 課題を重視する。 発表は十分な時間をかけ準備をして臨むこと。			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	特になし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日：昼休み 金曜日：昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	T.R. Honkomp		単 位	2
授業の目的と概要	The second semester of this seminar is a continuation of the first semester. The seminar will focus primarily on the differences between American and Japanese cultures. Current media use cultural stereotypes of both Japanese and Western cultures to influence and send messages to their audiences. How do these messages reflect the work ethic, values, reputations, and national images that are prevalent in aspects of both societies? How have the images changed over the years and what direction will they go in the future?			
到達目標	The seminar will consider situations presented by TV programs, movies & video, popular music and other forms of mass communication in both American and Japanese societies. The resulting contrasts will be analyzed and discussed. The seminar will look at the situations of people who have lived in both countries and analyze some of the cultural encounters they have experienced.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	Semester Introduction Second Semester Goals & Expectations Begin Real-Life Cross-Cultural Experience Assignment		Review assignment sheet; prepare presentation schedule	
第 2回	Begin In-class Video #1- Culture Characteristics in Business Practices Students begin Real-Life Cross-Cultural Presentations		Handout	
第 3回	Student Presentations Continued In-class Video #1 Continued		Reading handout continued	
第 4回	Student Presentations Continued Finish In-class video #1		Paper #1 due	
第 5回	野球 vs. Baseball Begin selected readings on baseball and Japanese Sports Culture		Read assigned article; review question sheet	
第 6回	野球 vs. Baseball Continued Students present findings from article		Reading of article continued	
第 7回	Finish 野球 vs. Baseball Wrap up In-class Video #2 and discussion questions		Finish article reading; question sheet answer review	
第 8回	Introduction to Cultural Adjustment Assignment		Handout	
第 9回	Begin Student Presentations on Cultural Adjustment Assignment		Reading handout continued	
第10回	Student Presentations on Cultural Adjustment Continued		Assignment #2	
第11回	Begin In-class Video #3		Paper #2 due	
第12回	In-class Video #3 Continued Begin Culture Shock Discussion		Readings from Culture Shock in Japan	
第13回	Finish In-class Video #3 Culture Shock Discussion and Analysis		Readings from Culture Shock in Japan	
第14回	Student Presentations & Discussion		Finish Culture Shock in Japan	
第15回	Semester Wrap-up and Exam Review		Exam review sheet	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40 % Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	35 % Class participation and presentations 25% Written assignments and papers			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Evaluation in the Seminar is based on class participation, completion of assignments, attendance and exams. Students are encouraged to make a positive effort and have open communication.			
教科書	Culture Shock in Japan Andy Boon MacMillan LanguageHouse			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Monday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 2nd period (10:50-12:20)	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小林 久泰		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、卒業論文の完成に向けて、前期に引き続き資料、参考文献の収集と読解に取り組み、論文としてまとめる方法を身につけることを目的とする。 前期の成果を基に問題点を整理し、さらに不足した資料などを補いながら、実際に自分の見解をまとめていく作業をしていく。 最終的に卒業論文を完成させるために、具体的に指導していく演習となる。			
到達目標	１．必要な資料を正確に読解し、批判的に分析することができる。 ２．資料を基に自分の見解を論理的な文章で書くことができる。 ３．研究の結果を正しい書式に則って論文にまとめることができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(１) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (２) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (２) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (３) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (４) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	最終アウトラインの作成		資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成	
第 2回	口頭発表とディスカッション：本論２（１）		資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成	
第 3回	口頭発表とディスカッション：本論２（２）		資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成	
第 4回	進行状況の確認と指導		資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成	
第 5回	口頭発表とディスカッション：本論３（１）		資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成	
第 6回	口頭発表とディスカッション：本論３（２）		資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成	
第 7回	口頭発表とディスカッション：本論４（１）		資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成	
第 8回	口頭発表とディスカッション：本論４（２）		資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成	
第 9回	進行状況の確認と指導		資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成	
第10回	進行状況の確認と指導		資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成	
第11回	進行状況の確認と指導		資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成	
第12回	卒業論文の原案完成		発表準備	
第13回	口頭発表とディスカッション：最終発表（１）		発表準備	
第14回	口頭発表とディスカッション：最終発表（２）		発表準備	
第15回	編集作業		編集作業	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	70% 提出された論文の内容を評価する。卒論として完成できなくても、演習の成果をレポートにまとめなければならない。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	30% 演習への参加意欲、準備の完成度を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	意欲を持って積極的に取り組む姿勢のない者は指導できない。 週に1度は状況を報告すること。			
教科書	白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房			
指定図書	なし			
参考図書	適宜指示する。			
オフィスワー	金曜 4 講時	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	石井 康仁		単 位	2
授業の目的 と概要	卒業ゼミナールⅡでは、前期の卒業ゼミナールⅠで学んだこと（幼児の言語習得および人間の言語能力について）に基づいて、児童英語教育の方法論について、概論から始め、具体的な方法について学んでいきます。			
到達目標	①児童英語教育法について、概論的な理解を得て、説明できるようになる。 ②児童英語教育法について、具体的な教授法を一通り実践できるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 児童英語教育法について、概説			なし	
第2回 児童英語教育法について 2（TPR他）			プリント資料 1	
第3回 児童英語教育法について 3（TPRの応用）			プリント資料 2	
第4回 児童英語教育法について 4（フォニックス他）			プリント資料 3	
第5回 児童英語教育法について 5（ジャズチャンツ 1）			プリント資料 4	
第6回 児童英語教育法について 6（ジャズチャンツ 2）			プリント資料 5	
第7回 児童英語教育法について 7（英語の歌 1）			プリント資料 6	
第8回 児童英語教育法について 8（英語の歌 2）			プリント資料 7	
第9回 児童英語教育法について 9（英語の読み聞かせ）			プリント資料 8	
第10回 児童英語教育法について 1 0（英語の読み聞かせ 2）			プリント資料 9	
第11回 児童英語教育法について 1 1（英語の会話 1）			プリント資料 1 0	
第12回 児童英語教育法について 1 2（英語の会話 2）			プリント資料 1 1	
第13回 児童英語教育法について 1 3（英語の作文 1）			プリント資料 1 2	
第14回 児童英語教育法について 1 4（英語の作文 2）			プリント資料 1 3	
第15回 まとめ			プリント資料の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	学期末レポート 5 0％			
小テスト等	なし			
成果発表	児童英語模擬授業 3 0％			
受講態度他	2 0％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	出欠については、履修規程にある通り（全 1 5 回の授業の 3 分の 2 の出席を必要とする）です。 出席することで理解が深まります。可能な限り出席しましょう。 尚、就職活動等で休む場合は事前に連絡して下さい。			
教科書	プリント資料（W. Scott & L. Ytreburg, 『Teaching English to Young Children』, Longmanから抜粋）			
指定図書	金森 強『小学校の英語教育－指導者に求められる理論と実践』教育出版			
参考図書	随時紹介します			
オフィスアワー	水曜日 5 時限目、木曜日 2 時限目	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	間瀬 玲子		単 位	2
授業の目的 と概要	卒業ゼミナールⅠに続き、フランス文化またはフランス文化が英語圏文化に与えた影響に関する配布資料を参考にしながら他のゼミ生と積極的に議論を行う。その議論の過程で前期に考えた研究テーマに検討を加え、決定する。前もって筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとにプレゼンテーションを行う。そして問題解決能力 と論理的思考力を駆使して、研究成果を最終レポートにまとめることを目的とする。			
到達目標	1 自分で考えたフランス文化またはフランス文化が英語圏文化に与えた影響に関する研究テーマを再検討し、探究することができる。 2 配布資料の内容に関して議論を行うことができる。 3 筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとにプレゼンテーションをすることができる。 4 研究の成果をレポートにまとめることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 授業の概要			予習 シラバスを前もって読む	
第 2回 生活という名の文化 (グルメ)			予習 配布資料 (第2回)	
第 3回 生活という名の文化 (ワイン)			予習 配布資料 (第3回)	
第 4回 生活という名の文化 (ファッション、ブランド)			予習 配布資料 (第4回)	
第 5回 さまざまな芸術のかたち (ミュージカル)			予習 配布資料 (第5回)	
第 6回 さまざまな芸術のかたち (オペラ、バレエ)			予習 配布資料 (第6回)	
第 7回 さまざまな芸術のかたち (印象派)			予習 配布資料 (第7回)	
第 8回 研究テーマの決定について議論を行う			準備 研究概要を考える	
第 9回 世界の都パリ (地下鉄)			予習 配布資料 (第9回)	
第10回 世界の都パリ (ルーヴル美術館、オルセー美術館)			予習 配布資料 (第10回)	
第11回 世界の都パリ (パリを見下ろすモニュメント)			予習 配布資料 (第11回)	
第12回 発表資料の作成の仕方			予習 配布資料(第12回) 基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す	
第13回 プレゼンテーションをきわめる			予習 配布資料(第13回) 基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す	
第14回 レポートの書き方			予習 配布資料(第14回) 基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す	
第15回 研究発表会			発表要旨を作成し、筑女ネットにアップする	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 最終レポート(A4版8枚、参考文献・図版を含む)			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 研究発表			
受講態度他	30% 質問等による授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑女ネットに授業の進度、最新情報を掲載しますので、頻繁にチェックしてください。			
教科書	教科書はありません。授業資料(冊子体)を配布します。			
指定図書	レミントン・ノーマン『ブルゴーニュのグラン・クリュ』白水社、斎藤泰弘『ダ・ヴィンチ絵画の謎』中央公論新社、エリザベス・マシー『ヴェルサイユ』小学館			
参考図書	三浦信孝 『現代フランス社会を知るための62章』明石書店、渡辺諒『フランス・ミュージカルへの招待』春風社			
オフィスワー	水曜日3講時	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	竹熊 真波		単 位	2
授業の目的と概要	本授業は、「卒業ゼミナールⅠ」での学修を踏まえて、日本やアジアの教育についての理解を深めるとともに、本格的な卒業論文の執筆を行うこと通して論理的思考力や問題解決力の向上を図ることを目的とする。 具体的に、本授業では「研究目的と章立て」を学生間で確認することを中心に進めていく。論文執筆の目標は11月末、その後、形式や文章表現のチェックなどの細かい作業を行う。1月はレジュメの作成と報告会・反省会を予定している。			
到達目標	・研究目的の明確化や論文構成について具体的に実行できる ・多くの先行研究に触れ、テーマについての理解を深め、批判的に思考できる ・インタビューやフィールドワークなど研究に独創的な手法や視点の導入を試みることができる ・著作権などに留意しながら論文として文章化できる ・卒業論文作成を通して自身の大学生としての学習の総まとめを行う			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・考え方を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	卒論執筆計画の確認・レポートの返却		収集した文献の整理と講読	
第2回	卒論構想の発表（卒論テーマと研究目的、章立て、参考文献リスト）		他者の意見を踏まえ、卒論構想を再考する	
第3回	論文の進捗状況の報告と指導①序章、本章前半の執筆		序章、本章を執筆。	
第4回	論文の進捗状況の報告と指導②本章中間部分の執筆		本章を執筆。	
第5回	論文の進捗状況の報告と指導③本章後半の執筆		本章を執筆	
第6回	論文の進捗状況の報告と指導④終章の執筆		終章を執筆	
第7回	卒論中間発表会		書き上げた本章部分をもとに研究目的を再考する	
第8回	論文の進捗状況の報告と指導⑤序章・本章前半の修正		自身の論文を批判的に読み返し、修正を加える	
第9回	論文の進捗状況の報告と指導⑥本章後半・終章の修正		自身の論文を批判的に読み返し、修正を加える	
第10回	卒論の完成とゼミ教員への提出		論文の形式通りとなっているか、最終確認を行う	
第11回	卒論の修正・文献リストの整理		誤字脱字などがないか、最終確認を行う	
第12回	卒論の印刷、提出		卒論レジュメの作成	
第13回	卒論レジュメの提出と指導		卒論レジュメの修正と発表準備	
第14回	卒論発表会		論文の輪読・相互評価	
第15回	卒業ゼミナール全体のまとめ		これまでの学修を振り返る	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20％ 卒論レジュメ（卒業論文の内容については別途卒業論文において評価する） レジュメ集を作成、配布する			
小テスト等	なし			
成果発表	40％ 卒論構想発表、卒論中間発表会等での発表			
受講態度他	40％ 卒論執筆への取り組みの状況を中心として評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	後期が始まって、卒業論文を提出するまであっという間です。先行文献は、インターネット情報だけでなく、書籍也大いに活用してください。また、可能な限り第1次資料にあたることを肝要です。そのためにも夏休みのうちにたくさんの本に目を通しておい てください。 なお、前期に引き続き就活などで授業に出席できない場合は、必ず事前に連絡を入れ、補講を受けてください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	個別に指導する			
オフィスアワー	月曜2、3限、火曜4限		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	崔 淑芬		単 位	2
授業の目的 と概要	個別指導のもとで、発表・質疑応答・執筆を通じて、実社会で不可欠なプレゼンテーション能力・問題解決能力を高めることができる。 自らのテーマを見出し、独自の視点から考察を加えて論文を作成する。 前・後期に各2回発表し、それらの質疑応答を踏まえて論文をまとめ、卒業論文を仕上げることを目的とする。			
到達目標	・卒業ゼミナールを通じて、自己の卒業論文のテーマを設定できる。 ・データを分析し、資料や情報を収集することができる。 ・適切な文献資料を整理し、考察を加えることによって、論証を進めることができる。 ・結論を論理的に導き、卒業論文を作成することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・考え方等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス：論文の進行、資料を分析し、論証を進める			テーマを絞り、研究課題について後期の計画を作成しよう	
第2回 個別面談、論文作成の指導			論文執筆	
第3回 個別面談、論文作成の指導			論文執筆	
第4回 個別面談、論文作成の指導			論文執筆	
第5回 個別面談、論文作成の指導			論文執筆	
第6回 個別面談、論文作成の指導			中間発表の準備：資料を検討し、レジュメを作成しよう	
第7回 第三回中間発表と質疑応答			論文執筆	
第8回 個別面談、論文作成の指導			論文執筆	
第9回 個別面談、論文作成の指導			論文執筆	
第10回 個別面談、論文作成の指導			論文執筆	
第11回 個別面談、論文作成の指導			論文執筆	
第12回 個別面談、論文作成の指導			論文執筆	
第13回 個別面談、論文作成の指導			論文執筆	
第14回 個別指導、論文の訂正			論文を訂正し、研究成果発表の準備：資料をまとめ、検討し、レジュメを作成	
第15回 第四回研究成果の発表・質疑応答			論文を訂正し、提出しよう	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20%中間報告レポート、			
小テスト等	なし			
成果発表	70%：論文、データの分析・論文発表会と質疑応答			
受講態度他	10%情報・意見交換を行い、積極性などを評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	研究情報に基づき意見交換を行い、適切な先行研究や文献資料の収集と検討に、真剣に取り組む。			
教科書	使用しない。			
指定図書	個別に適切な文献資料を指示する。			
参考図書	個別に適切な文献資料を指示する。			
オフィスワー	月曜：4限	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	妻 海善		単 位	2
授業の目的 と概要	興味があるテーマを選択し、卒業論文としてスムーズに作成し、仕上げて提出できるようになることを目的とする。 1. 前期の続きで、文献を読み、内容を深化させるよう指導する。 2. 完成度を高めて卒論として提出できるよう指導する。			
到達目標	1. 興味があるテーマを設定し、目次を立てて文章としてまとめるスキルを身に付けることができる。 2. 論文の作成方法で学んだスキルを、今後職場での報告書作成に生かすことができる。 3. 文献検索方法と能力、発表資料を作る方法、プレゼンテーションやコミュニケーションスキルをアップすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・考え方を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	A組報告（A4用紙15枚程度）		課題①準備	
第 2 回	B組報告（A4用紙15枚程度）		課題①準備	
第 3 回	C組報告（A4用紙15枚程度）		課題①準備	
第 4 回	A組編集（A4用紙15枚程度）		課題②準備	
第 5 回	B組編集（A4用紙15枚程度）		課題②準備	
第 6 回	C組編集（A4用紙15枚程度）		課題②準備	
第 7 回	A組論文仕上げる（A4用紙15枚程度）		課題③準備	
第 8 回	B組論文仕上げる（A4用紙15枚程度）		課題③準備	
第 9 回	C組論文仕上げる（A4用紙15枚程度）		課題③準備	
第10回	論文報告-1		報告準備	
第11回	論文報告ー 2		報告準備	
第12回	卒論編集ー 1		論文を編集する	
第13回	卒論編集ー 2		卒論を仕上げる	
第14回	最終校正作業		卒論を仕上げる	
第15回	論文提出、両面コピー提出		論文提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	課題 60％（20点×3回）			
小テスト等	0％			
成果発表	論文の完成度 40％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①提出物はすべてパソコン入力し、参加人数分準備する。 ②報告日は必ず守ること、締切日を過ぎた課題は評価しない。 ③欠席は5回を超えないように！（就職活動、病気、その他の理由による欠席が5回を超えると相談が必要）。 ④報告日に欠席が予想されるときは、ほかの曜日の報告者とお互いに交渉し、教員に知らせる。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワ－	月～水曜日の昼休み（他の日時を希望する場合は、事前に訪問日時を相談してください）	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	喜多村 百合		単 位	2
授業の目的 と概要	本演習は、前期に引き続き、学科の学びの集大成である卒業論文を制作するための研究的位置づけを持つ。 演習Ⅱでは、前期で収集検討した議論をさらに精緻化し、最終報告を経て論文として完成させるのが目的である。 すべて個人指導。前半は論述を総合化する作業を、後半では執筆作業を指導する。11月中旬に最終報告を行い、卒論完成につなげる。			
到達目標	①資料収集・検討作業を通し、前期の議論をさらに深化・精緻化させ、最終報告にまとめる。 ②上を踏まえて論述の修正をし、卒論を完成させる。 ③他のメンバーの研究に対し、積極的に批評ができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・考え方等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	導入：卒論制作の作業確認		文献・資料の検討	
第 2回	個別指導		文献・資料の検討	
第 3回	個別指導		文献・資料の検討	
第 4回	個別指導		論文制作	
第 5回	個別指導		論文制作	
第 6回	個別指導		レジュメ作成	
第 7回	経過報告		論文制作	
第 8回	個別指導		論文制作	
第 9回	個別指導		論文制作	
第10回	個別指導		論文制作	
第11回	個別指導		論文制作	
第12回	個別指導		論文制作	
第13回	個別指導		レジュメ作成	
第14回	最終報告		レジュメ作成	
第15回	最終報告・ディスカッション・課題指示		卒論完成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	卒業論文/研究レポート			
小テスト等	－			
成果発表	70%			
受講態度他	30%			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	前期に引き続き、テーマをめぐる議論をさらに発展、深化させ、卒業論文として結実させることに最善を尽くしてください。 同様に、他のメンバーの研究についても継続的にコメントし、問題提起ができるよう期待します。			
教科書	適宜プリントを配布			
指定図書	個別に指示			
参考図書	個別に指示			
オフィスワー	月3、水4	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	卒業論文の製作に取り組むためのゼミナールです。 具体的には、A.東南アジアに関すること、またはB.日本を含むアジアの政治や社会などに関すること、のいずれかについて自身でテーマを設定し、資料を収集、分析し、議論を組み立てて卒業論文を製作することが、卒業ゼミナールⅠと併せて、このゼミナールの目的になります。卒業論文を提出しない場合は、それに代わるものとして、卒業レポートを作成することになります。 いずれにせよ、議論を組み立てて文章にまとめていきます。 個別指導が中心になりますが、お互いに刺激しあうために報告の時間を重ねることがあります。 最終発表での質疑応答も同様の趣旨から重視します。			
到達目標	1.前期の成果を発展させ、資料の収集分析を行い、テーマに関する理解を深めることができる。 2.調べたことに基づき、議論を組み立て最終発表ができる。 3.最終発表を踏まえ、卒業論文を書き上げることができる。 4.卒業論文を提出しない場合は、卒業レポートを書き上げることができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・考え方等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション	演習の目的と進め方		各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第 2回 進捗状況の報告1			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第 3回 最終発表に向けての確認、進捗状況の報告			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第 4回 最終発表のためのレジュメの草案作成、個別指導1			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第 5回 最終発表のためのレジュメの草案作成、個別指導2			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第 6回 最終発表のためのレジュメの草案作成、個別指導3			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第 7回 最終発表、発表と質疑応答1			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第 8回 最終発表、発表と質疑応答2			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第 9回 論文の書き方に関する最終確認			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第10回 論文の文章化作業、個別指導1			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第11回 論文の文章化作業、個別指導2			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第12回 論文の文章化作業、個別指導3			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第13回 論文の文章化作業、個別指導4			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第14回 論文未提出者のレポート作成作業1			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第15回 論文未提出者のレポート作成作業2			各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 卒業論文または期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 最終発表（内容、プレゼンテーション）			
受講態度他	30% 各回の報告、他の受講生の発表に対するコメント			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	基本的に結果を求めます。 卒業論文あるいは期末レポートが十分なレベルに達するよう努めてください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火14:50～16:20、水12:30～13:00、金12:30～13:00		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	田村 史子		単 位	2
授業の目的 と概要	目的：卒業演習Ⅰに引き続き演習を行います。卒業演習Ⅱは、グループごと、もしくは個人で行い、夏休みの間の研究や調査や実技研修の成果に鑑み、選択したテーマの妥当性を再検討、卒業論文レベルの成果の発表に向けてまとめに入ります。 概要：個人単位で、論文にまとめていきます。			
到達目標	1．3年間、アジアの文化について学んだことを、自分なりに整理することができる。 2．アジアの文化についてじっくり考える機会を持てる。 3．一定レベルの日本語を用いて、自己の意図を確実に表現し、他者に伝えることのできる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・考え方を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回テーマの決定 論文作成			資料集め・執筆	
第2回テーマの決定 論文作成			資料集め・執筆	
第3回テーマの決定 論文作成			資料集め・執筆	
第4回テーマの決定 論文作成			資料集め・執筆	
第5回テーマの決定 論文作成			資料集め・執筆	
第6回テーマの決定 論文作成			資料集め・執筆	
第7回テーマの決定 論文作成			資料集め・執筆	
第8回テーマの決定 論文作成			資料集め・執筆	
第9回テーマの決定 論文作成			資料集め・執筆	
第10回テーマの決定 論文作成			資料集め・執筆	
第11回テーマの決定 論文作成			資料集め・執筆	
第12回テーマの決定 論文作成			資料集め・執筆	
第13回テーマの決定 論文作成			資料集め・執筆	
第14回テーマの決定 論文作成			資料集め・執筆	
第15回テーマの決定 論文作成			資料集め・執筆	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	％			
レポート	6 0 ％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	4 0 ％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	興味を持てるテーマを見つけ出し、積極的に取り組むように努力してください。			
教科書	随時プリントを用意。			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワーク	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	石　其琳		単　位	2
授業の目的 と概要	自分で研究テーマを決め、自主性を持って研究資料の収集整理が出来ることを目的とする。 本授業は、ゼミ生全員に対して個別指導を行う。後期は前期において行った研究作業の成果を更に具体的にまとめ、文章化を行 い論文として仕上げていく作業を進める。			
到達目標	自分の研究対象に対して積極的に資料の収集整理を行い、自分自身の思考表現によって、この研究成果を論文に作成することを目 標とする。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2　アジアの諸地域社会事情について概要を説明 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・考え方等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課 題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	前期の成果を論文にまとめるため、今後の作業過程について発表する。		レジュメを提出	
第 2回	論文を仕立てる構成を考え、質疑問答を行う。		レジュメを提出	
第 3回	前期の研究成果をもとに論文の目次を立て検討する。		レジュメを提出	
第 4回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。		進行状況に関するレジュメを提出	
第 5回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。		進行状況に関するレジュメを提出	
第 6回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。		進行状況に関するレジュメを提出	
第 7回	全員による中間発表及び討論。		進行状況に関するレジュメを提出	
第 8回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。		進行状況に関するレジュメを提出	
第 9回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。		進行状況に関するレジュメを提出	
第10回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。		進行状況に関するレジュメを提出	
第11回	全員による中間発表及び討論。		進行状況に関するレジュメを提出	
第12回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。		進行状況に関するレジュメを提出	
第13回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。		進行状況に関するレジュメを提出	
第14回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。		進行状況に関するレジュメを提出	
第15回	各自後期の総まとめとして発表を行う。		論文の提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%　（レジュメなどによる発表）			
小テスト等	なし			
成果発表	50%　（後期の総まとめレポートまたは論文）			
受講態度他	0%　（受講態度として、質問や発表による授業への積極性を参考にする。）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	・個別に指導する際、決められた課題に対して必ず積極的に取り込むこと。 ・個別指導のため、研究作業の進行状況などについてこまめに報告すること。			
教科書	個別指導のため、個別に指示をする。			
指定図書	－			
参考図書	－			
オフィスワ ーク	火、水、木、金		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	羅 義圭		単 位	2
授業の目的 と概要	卒業論文の制作に取り組むためのゼミナールです。 具体的には、A.言語多文化主義に関すること、B.日本と韓国の識字教育に関すること、いずれかについて、自分自身のテーマを設定し、資料を収集し、分析し、そこから独自の視点をもって論文を作成する。 前・後期に各2回発表し、それらの質疑応答を踏まえて論文をまとめ、卒業論文を仕上げることを目的とする。			
到達目標	1.テーマ設定に際し、先行研究やそのほかの資料を収集・検討し、争点把握と論述方針を固める。 2.適切な文献資料を整理し、考察を加えることによって、論証を進めることができる。 3.調べたことに、議論を組み立て中間発表ができる。 4.【1】・【2】・【3】の作業をまとめ、中間報告で報告。演習Ⅱにおける検討課題を設定する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス：卒論制作の作業確認		文献・資料の検討	
第2回	個別面談、論文作成の指導		論文執筆	
第3回	個別面談、論文作成の指導		論文執筆	
第4回	個別面談、論文作成の指導		論文執筆	
第5回	個別面談、論文作成の指導		論文執筆	
第6回	個別面談、論文作成の指導		中間発表の準備：資料を検討し、レジュメを作成しよう	
第7回	第3回中間発表と質疑応答		論文執筆	
第8回	個別面談、論文作成の指導		論文執筆	
第9回	個別面談、論文作成の指導		論文執筆	
第10回	個別面談、論文作成の指導		論文執筆	
第11回	個別面談、論文作成の指導		論文執筆	
第12回	個別面談、論文作成の指導		論文執筆	
第13回	個別面談、論文作成の指導		論文執筆	
第14回	個別面談、論文の訂正		論文を訂正し、研究成果発表の準備	
第15回	研究成果の発表・質疑応答		論文を訂正し、提出しよう	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 中間報告レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 論文、データの分析・論文発表会と質疑応答			
受講態度他	20％ 情報・意見交換を行い、積極性などを評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	テーマ設定にあたり、資料収集と検討作業において自発的に行い、研究成果の発表において、十分なレベルに達するよう努めること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	火曜日・木曜日・金曜日 昼休み後		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小林 知美		単 位	2
授業の目的 と概要	各自の研究テーマに従って卒業論文の執筆をすすめ、完成にいたることを目的とします。指導はグループ形式とし、毎回研究の進行状況を報告し、グループ内での意見交換を経て、研究テーマや方法を改善し、最終的な論文完成へと進んでいきます。学期中に中間報告会、論文提出後に公開の口頭発表会を行います。最後に、ゼミ全員の論文を印刷し「卒業論文集」を作成します。			
到達目標	・ 決定した研究テーマにそって、資料を収集し、論文形式にのっとり執筆し、卒業論文を完成させる。 ・ 自分の卒論の骨子を、AV機材やレジュメを用いて的確に人に伝えることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・考え方等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 個人指導 1：資料の検討・進行状況の報告など			収集資料	
第 2回 個人指導 2：資料の検討・進行状況の報告など			資料検討と論文執筆	
第 3回 個人指導 3：資料の検討・進行状況の報告など			資料検討と論文執筆	
第 4回 個人指導 4：資料の検討・進行状況の報告など			資料検討と論文執筆	
第 5回 個人指導 5：資料の検討・進行状況の報告など			後期報告会の準備	
第 6回 後期報告会：日程（ ）※日時調整、全員参加			資料検討と論文執筆	
第 7回 個人指導 6：内容の検討を経て卒論完成に至る			資料検討と論文執筆	
第 8回 個人指導 7：内容の検討をへて卒論完成に至る			資料検討と論文執筆	
第 9回 個人指導 8：内容の検討をへて卒論完成に至る			資料検討と論文執筆	
第10回 個人指導 9：内容の検討をへて卒論完成に至る			資料検討と論文執筆	
第11回 個人指導 10：内容の検討をへて卒論完成に至る			資料検討と論文執筆	
第12回 論文提出：締め切り日（ ）※締切厳守			口頭発表会の準備	
第13回 卒論発表会 ※第13回～第15回分、年度のゼミ生を含めての公開形式。（ @ ）参加必須。			冊子編集	
第14回 卒論発表会 ※第13回～第15回分、年度のゼミ生を含めての公開形式。（ @ ）参加必須。			冊子編集	
第15回 冊子編集 ※第13回～第15回分、年度のゼミ生を含めての公開形式。（ @ ）参加必須。			冊子編集	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	－			
成果発表	50％			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒論完成だけでなく、口頭発表会と卒論冊子編集への参加も義務とします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	酒井(均)・渋田(登)・浅田(淳)・大霧(香)・榊(祐)・森田(理)・宇治(和)・針塚(進)		単 位	2
授業の目的 と概要	卒業ゼミナールⅠにおいて設定した研究テーマに基づいた計画の具体化を行なう。目的や問題に対する結果を分析し、考察としてまとめ、卒業研究として執筆を目指す。 研究計画に沿って、先行研究の講読、問題点の整理、データ収集、結果の分析や考察を進める。心理学論文の読み方や執筆のルールなどについても十分理解し、引用の仕方、論理的な文章作成を実践できるようにする。			
到達目標	①研究計画に基づいて、先行研究やデータの収集、分析を行なうことが出来る ②先行研究を検索、収集し、問題点や課題を明確化できる ③先行研究を踏まえた上で、研究計画にそって目的、方法、結果、考察を文章で表現することが出来る ④③の実践を通して、心理学において特化した問題を、客観的視点から分析し、論理的に解決することが出来る			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(4)-①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 関連する科目としては、「卒業ゼミナールⅠ」、「心理専門演習」、「人間関係総合演習」、「心理学研究法」、「心理学統計法ⅠⅡ」などがあげられる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	論文の形式について：論文の形式や執筆の再確認		論文の形式と書き方について復習	
第 2回	研究計画の再検討：前期に作成した計画の見直しと修正		宿題	
第 3回	文献収集：先行研究における問題点の検討		宿題	
第 4回	卒業研究の構成 発表①：研究テーマに沿った卒業論文・研究の目次（構成）を作成		課題：目次（構成）を作成、文献を読み進める	
第 5回	卒業研究の構成 発表②：研究テーマに沿った卒業論文・研究の目次（構成）を作成		課題：目次（構成）を作成、文献を読み進める	
第 6回	卒業研究の構成 発表③：研究テーマに沿った卒業論文・研究の目次（構成）を作成		課題：目次（構成）を作成、文献を読み進める	
第 7回	データ収集①：計画に基づいたデータの収集、分析方法		課題：データの収集と分析	
第 8回	データ収集②：データ分析、考察の方向性決定		課題：データの収集と分析	
第 9回	発表・討論 1－1：執筆要項に沿っているか形式等確認作業		課題：執筆	
第10回	発表・討論 1－2：執筆要項に沿っているか形式等確認作業		課題：執筆	
第11回	発表・討論 2－1：研究計画と執筆内容の整合性確認作業		課題：発表資料の作成、執筆	
第12回	発表・討論 2－2：研究計画と執筆内容の整合性確認作業		課題：発表資料の作成、執筆	
第13回	発表・討論 2－3：研究計画と執筆内容の整合性確認作業		課題：発表資料の作成、執筆	
第14回	卒研発表会		課題：発表会の資料の準備、抄録原稿の準備	
第15回	全体のまとめと総括		抄録の最終確認	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 研究計画、先行研究についての論文、あるいはレポート			
小テスト等	なし			
成果発表	40％ 研究計画、先行研究についての中間発表、最終発表を含む			
受講態度他	20％ 発表に対する質疑応答			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	特になし			
教科書	指定なし			
指定図書	指定なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスア ワー	浅田:火を除く昼休、酒井:火昼休、渋田:月4、大霧: 月2、榊:火5、森田:火2、宇治:火水昼休、針塚水2	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	山崎(安)・池田(和)・徳永(勇)・高木(佳)・新家(め)・大西(良)・金(圓)		単 位	2
授業の目的 と概要	社会福祉を学ぶ過程で、学生自らが明確化したテーマを自覚的に追求し、論理的思考力、さらには問題解決力を身につけることを目的とする。ソーシャルワーカーとしてはいうまでもなく、将来ひとりの職業人となるにあたって、ある状況に対する自分の考え方や態度を確立することは非常に重要だからである。 卒業ゼミナールは、社会福祉を学ぶ過程で、学生自らが明確化したテーマを自覚的に追求し、論理的思考力や問題解決力を身につけることを支援する科目で、大学生活を通じた集大成としての意味を持つ。具体的には、各専任教員がそれぞれの専門性を背景とした少人数ゼミを分担し、学生は自らのテーマに応じていずれかのゼミに所属する。学生各自が自らのテーマを設定でき、それにそった資料や文献の収集、報告・討論といったことが主たる内容となる。			
到達目標	1．自ら取り組む研究テーマが設定できる。 2．研究の視点を理解し、研究方法を身につけることができる。 3． 1・2の成果として「卒業研究」が作成できる。 4．「卒業研究」を発表したり、それについて討議する能力が習得できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 卒業研究発表および討論			発表と討論	
第 2回 卒業研究発表および討論			発表と討論	
第 3回 卒業研究発表および討論			発表と討論	
第 4回 卒業研究発表および討論			発表と討論	
第 5回 卒業研究発表および討論			発表と討論	
第 6回 卒業研究発表および討論			発表と討論	
第 7回 卒業研究または卒業論文の執筆（文章）指導			執筆と個別・集団指導	
第 8回 卒業研究または卒業論文の執筆（文章）指導			執筆と個別・集団指導	
第 9回 卒業研究または卒業論文の執筆（文章）指導			執筆と個別・集団指導	
第10回 卒業研究または卒業論文の執筆（文章）指導			執筆と個別・集団指導	
第11回 卒業研究または卒業論文の執筆（文章）指導			執筆と個別・集団指導	
第12回 卒業研究または卒業論文の執筆（文章）指導			執筆と個別・集団指導	
第13回 卒業研究または卒業論文の執筆（文章）指導			執筆と個別・集団指導	
第14回 卒業研究または卒業論文の研究成果確認			卒業研究または卒業論文の総括	
第15回 卒業研究または卒業論文の研究成果確認			卒業研究または卒業論文の総括	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 発表資料（レジュメ）、卒業研究・卒業論文を中心に評価する			
小テスト等	なし			
成果発表	25％ 研究発表の内容・水準			
受講態度他	25％ 出席状況 ＋ 討論への参加度など			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	1．4年次のオリエンテーション時に、卒業研究・卒業論文についての説明を行うので必ず参加すること。 2．毎回の授業の出席及び積極的な発言と参加態度が重要となる。			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	各教員による			
オフィスワ－	担当教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松本・板井・稲田・大元・古田・古賀野・Kumar・宮平・一木・北原・薄・平山・原・石原・原田・今釜・上原		単 位	2
授業の目的と概要	4年次科目「卒業ゼミナールⅠ」を通して取り組んできた各自の研究課題を追究し、成果物としてまとめること及びその概要を説明するとともに質疑応答ができることを目的とする。 研究課題に関連する文献、資料に幅広く触れ、目的にあったデータ収集の方法、適切な分析・吟味、問題を発見する力や論理的思考能力、プレゼンテーション能力等を獲得することを目的とする。			
到達目標	1 課題の設定、調査方法の選択及び実施、結論やその吟味、研究成果の発表など、問題解決的な手法で研究に臨むことができる。 2 課題設定の理由（必要性・研究する価値）を明確にもち説明することができる。 3 課題について、客観的な事実を踏まえながら立論することができる。 4 研究の成果を論文としてまとめることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	研究状況の報告・討議①（順を決め2名程度）		課題についての調査及び報告の準備	
第2回	研究状況の報告・討議①（順を決め2名程度）		課題についての調査及び報告の準備	
第3回	研究状況の報告・討議①（順を決め2名程度）		課題についての調査及び報告の準備	
第4回	研究状況の報告・討議①（順を決め2名程度）		課題についての調査及び報告の準備	
第5回	研究状況の報告・討議①（順を決め2名程度）		課題についての調査及び報告の準備	
第6回	個別指導		研究上の課題の整理と修正事項の確認	
第7回	個別指導		研究上の課題の整理と修正事項の確認	
第8回	研究状況の報告・討議②（順を決め2名程度）		課題についての調査及び報告の準備	
第9回	研究状況の報告・討議②（順を決め2名程度）		課題についての調査及び報告の準備	
第10回	研究状況の報告・討議②（順を決め3名程度）		課題についての調査及び報告の準備	
第11回	研究状況の報告・討議②（順を決め3名程度）		課題についての調査及び報告の準備	
第12回	卒業研究発表会の準備		卒業研究の浄書	
第13回	卒業研究発表会（複数ゼミ合同で実施可）		発表の準備と発表後の振り返り	
第14回	卒業研究発表会（複数ゼミ合同で実施可）		発表の準備と発表後の振り返り	
第15回	卒論研究発表会（複数ゼミ合同で実施可）		発表の準備と発表後の振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	20％（各回の研究状況報告等の内容）			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	60％（卒業研究）			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各回の研究状況の発表の際にはレポート（卒業研究の原稿）を用いて報告すること。 卒業研究の様式や提出期限を遵守できるよう研究を進めること。			
教科書	特に定めない。			
指定図書	特に定めない。			
参考図書	『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房（購入済：1年次「基礎ゼミナール」で使用した教科書）			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照すること。	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	岡本 文子		単 位	4
授業の目的 と概要	現代社会を生きる私たちの身に着けている衣服は、連綿と受け継がれてきた服飾史の延長線上にある。「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」に引き続き日常意識する機会の少ない衣服のしくみへの理解を深めることを通して、服飾と社会との関係に関心を持ち、服飾の社会的役割を理解することを目的としている。 さらに本演習では、「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」で理解したこと、身に付けたことを発展させ、製作した作品の画像をもとに、プログラミングの基礎を習得し、色彩の基礎知識・カラーコーディネートの知識を活用することを通して、現代社会における社会そのものや生活と色彩との関わりについて、体得することを目的としている。			
到達目標	・「考えること」「立案すること」「計画すること」の重要性を認識し、日常のなかからさまざまな課題を見出すことができる。 ・衣服のしくみを理解した上で、現代社会の衣服の役割について説明できる。 ・色彩の基礎知識を活用することを通して、現代社会と色彩との関わりについて説明できる。 ・カラーコーディネートのテクニックの活用を通して、現代社会とカラーコーディネートとの関わりについて説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション (今後の計画)		学外調査の資料収集	
第2回	学外調査 (衣生活の地域差異について)		学外調査の資料収集	
第3回	学外調査のまとめ		資料の整理と補完	
第4回	製作の成果発表準備① (製作資料の整理)		製作資料の補完	
第5回	製作の成果発表準備② (発表資料作成)		発表資料作成	
第6回	製作の成果発表準備③ (発表原稿作成・質問紙作成)		発表原稿・質問紙作成	
第7回	製作の成果発表 (Aグループ)		発表内容 (質問紙内容) の復習	
第8回	製作の成果発表 (Bグループ)		発表内容 (質問紙内容) の復習	
第9回	製作の成果発表 (Cグループ)		発表内容 (質問紙内容) の復習	
第10回	製作の成果発表反省会		発表内容 (質問紙内容) の復習	
第11回	製作レポート執筆 (テーマの社会背景とデザインの特徴)		テーマの社会背景とデザインの特徴資料の補完	
第12回	製作レポート執筆 (製作過程)		製作過程資料の補完	
第13回	製作レポート執筆 (プログラミングの過程)		プログラミングの過程資料の補完	
第14回	製作レポート執筆 (考察)		考察資料の補完	
第15回	まとめ (製作レポート提出)		レポートの補完	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	%			
レポート	%			
小テスト等	%			
成果発表	90%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特になし			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	金曜日 12:00～13:00		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	一木 順		単 位	4
授業の目的 と概要	本ゼミでは文化遺産や自然遺産など地方都市の持つリソースを分析し、その魅力を発信するためのプロジェクトを行う。今年度は長崎県の平戸市を題材として扱い、グループごとにテーマを設定し、平戸市の魅力についてリサーチを行い、それを発信する。			
到達目標	1. 平戸市の歴史、文化、風土について説明できる 2. 平戸市の魅力について、それぞれでテーマを設定できる 3. テーマに従ってリサーチすることができる 4. 自分たちの発見をプレゼントしてまとめて発信できる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 授業の概要の説明			なし	
第 2回 平戸研修の振り返り①			指定された文献を読むこと	
第 3回 平戸研修の振り返り②			指定された文献を読むこと	
第 4回 平戸の魅力発信に向けて①			それぞれが設定したプロジェクトを進めること	
第 5回 平戸の魅力発信に向けて②			それぞれが設定したプロジェクトを進めること	
第 6回 プロジェクト中間発表①			各グループが10分間のプレゼンを行うこと	
第 7回 プロジェクト中間発表②			各グループが10分間のプレゼンを行うこと	
第 8回 平戸の魅力発信に向けて③			中間発表の振り返りを行うこと	
第 9回 平戸の魅力発信に向けて④			それぞれが設定したプロジェクトを進めること	
第10回 平戸の魅力発信に向けて⑤			それぞれが設定したプロジェクトを進めること	
第11回 最終発表に向けて①			それぞれが設定したプロジェクトを進めること	
第12回 最終発表に向けて②			それぞれが設定したプロジェクトを進めること	
第13回 最終発表に向けて③			それぞれが設定したプロジェクトを進めること	
第14回 最終発表①			各グループが10分間のプレゼンを行うこと	
第15回 まとめ			なし	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% 授業内の小レポート			
小テスト等	－			
成果発表	40% グループ発表			
受講態度他	20% 授業内での取り組みを勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須である。授業に際しては、自分の担当部分、発表に関して責任を持って行うこと。やむを得ず自分の発表回に欠席せざるを得ないときは、自分の責任で他の人と発表を代ってもらうこと。			
教科書	適宜プリントを配布する			
指定図書	指定しない			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスワー	木曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	栗山 俊之		単 位	4
授業の目的 と概要	現代社会の諸問題の中から、問題に関わる先行研究・書籍・メディア資料・現地資料等に触れながら問題の本質に迫る。 その時点までの研究成果を纏め、発表し、ゼミ生と討議しながら研修を進展させていく。 研究の成果を纏め、発表する。			
到達目標	1、自ら見出した研究テーマについて、書籍、メディア資料、現地研修などを通して、掘り下げることができる。 2、研究を纏め、レジュメを作成し、発表することができる。 3、ゼミ生同士で各自の研究をもとに討議することができる。 4、研究成果を纏め、発表することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	現代社会の諸事象の中から問題を発見し、収集した情報を主体的に分析し、協働作業の中で議論し、その成果を発信できる。 関連科目としては、基礎専門ゼミナールⅠ・Ⅱ、専門ゼミナールⅠ・Ⅱがあります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 現地研修①			研修テーマに従って調べる①	
第2回 現地研修②			研修テーマに従って調べる②	
第3回 現地研修③			研修テーマに従って調べる③	
第4回 現地研修の成果発表①			現地研修の成果発表の準備①	
第5回 現地研修の成果発表②			現地研修の成果発表の準備②	
第6回 現地研修の計画立案			現地研修を計画する	
第7回 現地研修④			研修テーマに従って調べる④	
第8回 現地研修⑤			研修テーマに従って調べる⑤	
第9回 現地研修⑥			研修テーマに従って調べる⑥	
第10回 現地研修の成果発表③			現地研修の成果発表の準備③	
第11回 現地研修の成果発表④			現地研修の成果発表の準備④	
第12回 卒業研究趣旨説明会			卒業研究を要約しておく	
第13回 卒業研究発表会①			発表の準備①	
第14回 卒業研究発表会②			発表の準備②	
第15回 卒業研究発表会③			発表の準備③	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	中間発表 50％			
受講態度他	レジュメ、討議への姿勢、講義に向き合う態度 50％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	現地研修を行います。講義中に伝える諸注意を厳守してください。			
教科書	プリントを配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスワー	月曜 4 講目	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	赤枝 香奈子		単 位	4
授業の目的 と概要	専門ゼミナールおよび卒業ゼミナールⅠで学んだ知識をもとに、各自の研究テーマに沿って卒業研究を進めます。授業内で適宜、報告を行い、卒業論文を完成させます。			
到達目標	1．研究テーマを決め、先行研究を検討し、調査を実施することができる。 2．研究結果を卒業論文にまとめることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		後期のスケジュールを考えてくる。	
第2回	卒業研究の検討		進捗状況の報告準備を行う。	
第3回	卒業研究の検討		進捗状況の報告準備を行う。	
第4回	補充調査の実施		適宜、補充調査を行い、卒業研究を進める。	
第5回	補充調査の実施		適宜、補充調査を行い、卒業研究を進める。	
第6回	補充調査の実施		適宜、補充調査を行い、卒業研究を進める。	
第7回	卒業研究の発表		草稿の報告準備を行う。	
第8回	卒業研究の発表		草稿の報告準備を行う。	
第9回	卒業論文の執筆		卒業論文を執筆する。	
第10回	卒業論文の執筆		卒業論文を執筆する。	
第11回	卒業論文の執筆		卒業論文を執筆する。	
第12回	卒業論文の執筆		卒業論文を執筆する。	
第13回	卒業論文の完成		卒業論文の修正を行う。	
第14回	卒業論文の完成		卒業論文を完成させる。	
第15回	まとめ		大学4年間の振り返りを行う。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％			
小テスト等	％			
成果発表	35％			
受講態度他	5％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	調査テーマの決定、先行研究の検討、調査計画の立案、調査の実施、すべてにおいて、各自の主体的な関与が不可欠です。授業では、各自が考えた事柄、実践した調査について情報を共有し、互いに助言を行い、研究テーマにかんする理解を深めます。			
教科書	使用しない。			
指定図書	なし。			
参考図書	授業内で指示する。			
オフィスアワー	水曜4限	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大橋 健治		単 位	4
授業の目的 と概要	この授業は、人材開発をテーマとした自らの卒業論文の完成をめざして作業を進捗させることを目的に行う。そのため、実施計画書（目的達成に向けた活動 計画）を作り、月度毎にゼミ全体でレビューを行う。			
到達目標	1. 実施計画書（目的達成に向けた活動計画）を作りその月度レビューができる。 2. 自らの研究計画にそって、問題意識、研究の背景、先行研究、研究の枠組み、事例の分析、結論といった露文の作法にのっとり卒業論文を完成させることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要説明と進行方法の打ち合わせ		シラバスの通読と質問の準備	
第2回	実施計画と研究の進捗状況の発表①		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第3回	実施計画と研究の進捗状況の発表②		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第4回	実施計画と研究の進捗状況の発表③		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第5回	実施計画と研究の進捗状況の発表④		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第6回	実施計画と研究の進捗状況の発表⑤		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第7回	実施計画と研究の進捗状況の発表⑥		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第8回	実施計画と研究の進捗状況の発表⑦		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第9回	実施計画と研究の進捗状況の発表⑧		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第10回	実施計画と研究の進捗状況の発表⑨		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第11回	実施計画と研究の進捗状況の発表⑩		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第12回	実施計画と研究の進捗状況の発表⑪		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第13回	実施計画と研究の進捗状況の発表⑫		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第14回	実施計画と研究の進捗状況の発表⑬		実施計画のリバイスとプレゼンテーションの準備	
第15回	社会人になることにむけての課題提示		実施計画書の最終リバイスと成果のプレゼンテーション準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 卒業論文の出来栄			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 実施計画書の作成とレビュー（25％）、研究成果（卒業論文）の作成過程のプレゼンテーション（25％）			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように、本授業では自らの卒業論文の完成をめざして作業を進捗させることに集中することが肝要である。その他のプライベートな行事とのスケジュールリングを図り、自律的に学習をする姿勢が不可欠である。			
教科書	『新しい人事労務管理（第5版）』（有斐閣、2016、2,000円税別）			
指定図書	『マテリアル人事労務管理 新版』（有斐閣、2006、2,600円税別）			
参考図書	『新版 組織行動のマネジメント』（ダイヤモンド社、2009、2,800円税別）			
オフィスアワー	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	花野 裕康		単 位	4
授業の目的と概要	前期の卒業ゼミナールⅠで総論～個別具体的に（途中まで）検証した「歌は世につれ世は歌につれ」をさらに進めて分析・理解・予測して行く。各自の関心で組織されたグループごとの研究がメインになるので「個別具体的に」な事例研究がメインとなる。ただし、適宜総論的な視点も取り入れることで、俯瞰的かつ重層的な事例研究が行えるようにグループ内でディスカッションを重ね、最終的に専門ゼミとしての最終報告を行えるまでに持って行く。卒業ゼミナールⅠに引き続き、フィールドワークや調査も適宜取り入れて行く。なお本ゼミナールは「専門ゼミナールⅡ」と同時開講である。それゆえ受講者は昨年度に「専門ゼミナールⅡ」で学んだ内容を復習しつつ、今年度「専門ゼミナールⅡ」受講者の道案内をする役割も担っている。			
到達目標	①グループ内のディスカッションを通して自身の事例研究を進めて行くことができるようになる ②フィールドワークや調査の段取りを理解・実行し、自身の事例研究を実証化することができるようになる ③自身が設定した個別具体的な「音楽」について、社会学的に5,6分で門外漢でも理解できるように説明することができる ④卒業論文・製作を完成させ、その概要をプレゼンテーションすることができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 関連科目は、前期開講「卒業ゼミナールⅠ」および3年次開講の「専門ゼミナールⅠ、Ⅱ」である。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		前期卒業ゼミナールⅠの中間報告をたたき台に自身のプランを文章化しておく	
第2回	総論の確認と発展①：社会から音楽へ		自身および自グループのテーマとの関連性を考え文章化しておく	
第3回	総論の確認と発展②：音楽から社会へ		自身および自グループのテーマとの関連性を考え文章化しておく	
第4回	最終報告への指針検討		中間報告を再確認し、グループごとに指針を確定しておく	
第5回	最終報告への指針発表①（グループ前半）		グループ内で当該指針を再確認し、さらに今後に向けた意見交換をしておく	
第6回	最終報告への指針発表②（グループ後半）		グループ内で当該指針を再確認し、さらに今後に向けた意見交換をしておく	
第7回	グループごとの調査①：文献探索		文献探索を進め、入手困難な文献について、入手経路を確保しておく	
第8回	グループごとの調査②：ネット探索		ネット探索を進め、情報別に分類・整理しておく	
第9回	グループごとの調査③：ネット調査		行ったネット調査の整理を進めておく	
第10回	グループごとの調査④：フィールドワーク		フィールドノート（および音声、映像等）の整理を進めておく	
第11回	プレ最終報告①（グループ前半）		自身のグループ報告の事前事後チェックと他グループの批評を進めておく	
第12回	プレ最終報告②（グループ後半）		自身のグループ報告の事前事後チェックと他グループの批評を進めておく	
第13回	最終報告③（グループ前半）		各自最終報告の「さらに先」を情報収集しておく	
第14回	最終報告④（グループ後半）		各自最終報告の「さらに先」を情報収集しておく	
第15回	総括と最終報告（卒業成果の報告）		ゼミナール最終報告の準備を整えておく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％（なおレポートは次週授業開始時[その週休んだ場合はそれ以降の授業開始時、また授業終了後の場合はオフィスアワー時]に返却する）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	欠席やゼミに積極的に参加しない等、受講態度が芳しくない受講者に関しては、レポートの提出や成果発表をさせないことがある。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。これまでの自らの経験と知識とを総動員しながら考えつつ受講すること。授業に積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	藤原 隆信		単 位	4
授業の目的と概要	＜ゼミテーマ：ソーシャルビジネスを研究・実践するゼミ＞ 本ゼミナールでは、私たちの身の回りにある多様な「社会問題」を、ビジネス（お金儲け）をしながら解決していく方法と理論を学んで行きます。同時に、地域社会や世界にも目を向け、具体的な実践活動（ビジネスの実践）に取り組んで行く予定です。ゼミⅡでは、「ソーシャルビジネス」や「社会貢献と仕事の関係」等に関する発展的な理論を学ぶとともに、具体的な実践活動に取り組んで行く予定です。このような「理論研究」と「実践活動」を通じて、経営学を総合的に学ぶとともに、「社会に貢献しながら働くこと」の意義を考えていきます。 ※「卒業ゼミ」では、3年生のゼミ生に対する指導を行って頂きます。自分自身が昨年度「学んだ」内容を、3年生に「教える」という視点でより深い学びにつなげてもらいます。			
到達目標	①「ソーシャルビジネス」に関する基本的な仕組みを理解し、説明できる。②「ソーシャルビジネス」の実践に必要な知識を応用して、具体的な活動を起こすことができる。③上記①～②を前提に、「ソーシャルビジネス」の実践活動を通じて得られたもの（知識・経験）と改善策について説明することができる。 ※「卒業ゼミ」では、3年生のゼミ生に対する指導を行って頂きます。自分自身が昨年度「学んだ」内容を、3年生に「教える」という視点でより深い学びにつなげてもらいます。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -① これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	はじめに：ソーシャルビジネス（SB）の実践を考える ——「Win」の累乗という考え方		教科書の「はじめに」（pp.1-13）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第2回	文献研究と実践活動のプラン作成（1） ——SBを成功に導く理由		教科書の第1章（pp.26-39）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第3回	文献研究と実践活動のプラン作成（2） ——「Win」の累乗を実現する「5C」		教科書の第1章（pp.40-64）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第4回	文献研究と実践活動のプラン作成（3） ——ケースで考える「Win」の作り方		教科書の第2章（pp.66-82）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第5回	文献研究と実践活動の実践準備（1） ——一緒に働く仲間に「Win」を作る①		教科書の第3章（pp.84-110）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第6回	文献研究と実践活動の実践準備（2） ——一緒に働く仲間に「Win」を作る①		教科書の第3章（pp.111-121）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第7回	文献研究と実践活動の実践準備（3） ——サービスの受け手に「Win」を作る①		教科書の第4章（pp.124-143）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第8回	文献研究と実践活動の実践準備（4） ——サービスの受け手に「Win」を作る②		教科書の第4章（pp.144-151）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第9回	文献研究と実践活動の実践準備（5） ——コミュニティに「Win」を作る①		教科書の第5章（pp.154-168）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第10回	文献研究と実践活動の実践（1） ——コミュニティに「Win」を作る①		教科書の第5章（pp.169-178）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第11回	文献研究と実践活動の実践（2） ——出資者に「Win」を作る①		教科書の第6章（pp.180-196）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第12回	文献研究と実践活動の実践（3） ——出資者に「Win」を作る②		教科書の第6章（pp.197-205）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第13回	文献研究と実践活動の実践（4） ——「競合」を「協業」に変えて「Win」を作る①		教科書の第7章（pp.208-224）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第14回	文献研究と実践活動の実践（5） ——「競合」を「協業」に変えて「Win」を作る②		教科書の第7章（pp.225-232）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
第15回	まとめ：ソーシャルビジネスの（SB）の実践を振り返る ——「社会を良くしてお金を稼ぐ仕組み」とは？		教科書の「おわりに」（pp.241-248）を読んで事前学習をしておいて下さい。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	60％ 授業の進行に合わせて適宜、発表をしてもらいます。その内容で判断します。			
受講態度他	40％ 授業への出席状況や受講態度などを勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本ゼミナールでは、授業の中でチーム討議やチーム発表に取り組んでもらう予定にしています。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。			
教科書	木暮真久『社会を良くしてお金も稼げるしくみのつくりにかた』ダイヤモンド社、2012年。			
指定図書	授業の中で適宜紹介する。			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12：20～13：10） ※事前に予約を取って下さい。		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	野中 亮		単 位	4
授業の目的と概要	専門ゼミナールⅠ・Ⅱ、卒業ゼミナールⅠに引き続き、地域生活を、特に文化の観点から研究し、最終的に卒業研究を完成させることを目的とします。 卒業ゼミナールⅠで設定した各自の研究課題にそって調査・研究をすすめ、卒業研究を完成させます。 フィールドワークなどで正規の時間外（週末や夏休み）にも研究活動を行います。また、研究テーマによっては、シラパスの予定変更や交通費の負担などが発生することもあり得ます。			
到達目標	・文献調査やフィールドワークを通じた地域調査を行うことができる ・自らの調査を通じて得たデータについて、卒業研究レベルでの分析をおこなうことができる ・自らの研究成果を論文、もしくは報告書の形式でまとめることができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業ゼミナールⅠ」から引き続き、卒業研究を完成させる授業です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			前期および夏休み中の調査・研究成果の確認	
第2回 補足調査の検討			文献調査や野外調査で収集したデータが十分かどうか確認しておくこと。	
第3回 補足調査の実施1：調査計画の確認			未収集データ・追加データの収集計画を立てておくこと。	
第4回 補足調査の実施2：追加データの確認			収集したデータを整理しておくこと。	
第5回 卒業研究の執筆1：構成の報告			卒業研究の構成案を用意しておくこと	
第6回 卒業研究の執筆2：データ分析			収集したデータの集計や仮分析を済ませておくこと。	
第7回 卒業研究の執筆3：報告書構成とデータの照合			構成案と整理済みデータに齟齬がないか確認しておくこと。	
第8回 卒業研究の執筆4：序章			卒業研究の該当箇所の原稿を用意してくること。	
第9回 卒業研究の執筆5：先行研究のレビュー			卒業研究の該当箇所の原稿を用意してくること。	
第10回 卒業研究の執筆6：データの分析			卒業研究の該当箇所の原稿を用意してくること。	
第11回 卒業研究の執筆7：データからの推論			卒業研究の該当箇所の原稿を用意してくること。	
第12回 卒業研究の執筆8：論旨の再検討			ここまでの原稿の論理に齟齬がないか確認しておくこと。	
第13回 卒業研究の執筆9：結論			結論部分を執筆し、全体の見直しをおこなうておくこと。	
第14回 卒業研究の執筆10：最終校正			文献リストや添付資料も含めた構成作業をおこなうておくこと。	
第15回 卒業研究の提出			完成した卒業研究を提出できる状態にしておくこと。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 各回の報告を成果発表とみなします。			
受講態度他	50％ 成果発表以外のゼミ運営への貢献を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・出席は必須です。自分の担当については責任をもって取り組んでください。 ・共同作業が多くなります。作業分担や報告の順番など、受講者同士でマメに連絡・相談・報告しあい、有意義な学びの場にしましょう。 ・調査・研究は思い通りに進まないのが当たり前です。あせらず、地道に作業を積み重ねましょう。 ・野外活動があります。健康状態など配慮すべき事項がある場合は遠慮なく、というより必ず、早めに申し出てください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	谷富夫・芦田徹郎『よくわかる 質的社会調査』ミネルヴァ書房 佐藤郁哉『フィールドワーク：書を持って街へ出よう（増補版）』新曜社			
オフィスアワー	月曜4限		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	荒巻 龍也		単 位	4
授業の目的 と概要	1) 映像（メディア）リテラシー演習を通して映像メディアに関する理解を深める。 2) 企画（コンテ作成）から撮影、編集までの映像作品（CM、PR動画など）を制作する。 3) テレビCM、ネット動画などを題材としたケーススタディにより、映像表現（方法）などを学び映像制作に活かしていく。 4) 映像関連産業（広告含む）などに関してケーススタディ、ビジネスモデル（BMG）分析などを行い、研究成果をまとめ・発表する。 ゼミ形式で「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業ゼミナールⅠ・Ⅱ」と継続して学びます。映像(産業含む) 関連の専門的な知識とスキルを身につけること、専門研究を通して研究方法や発信方法を磨くこと、ゼミ活動全般から自主性、協働性そしてコミュニケーション能力などのジェネリックスキルを身につけることを目指します。			
到達目標	1. 映像メディア全般ならびに 映像関連産業（広告含む）などに関してケーススタディなどを行い、研究成果をまとめたり、発表したりすることができるようになる。 2. 企画（コンテ作成）から撮影、編集までの映像作品（CM、PR動画など）を制作することができるようになる。 3. テレビCM、ネット動画などを題材としたケーススタディなどにより映像表現（方法）などを学び、映像制作に活かすことができるようになる。 4. ゼミ活動全般から自主性、協働性そしてコミュニケーション能力などのジェネリックスキルを身につけることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 後期オリエンテーション、グループワーク演習（1） 問題可決のためのグループワーク ＊映像制作ロケハン			実習課題1（問題解決）	
第2回 グループワーク演習（2） 計画立案のためのグループワーク			実習課題2（計画立案）	
第3回 映像メディア関連企業研究(1) 基礎データ整理と組織図 ＊映像制作撮影準備(1)			まとめ課題1（基本データ、組織図）	
第4回 映像メディア関連企業研究(2) 決算と番組制作比率 ＊映像制作撮影準備(2)			まとめ課題2（決算、番組制作比率）	
第 5回 映像メディア関連企業研究(3) BMG（ビジネスモデル）			まとめ課題3（ビジネスモデル分析グループワーク） ＊映像制作撮影(1)	
第 6回 映像メディア関連企業研究(4) 比較とまとめ			まとめ課題4（レポート） ＊映像制作撮影(2)	
第 7回 撮影実習(1) 太宰府の秋(1) 撮影日程作成～撮影			映像制作課題1（撮影素材整理、テープ起こし含む）	
第 8回 撮影実習(2) 太宰府の秋(2) 撮影日程作成～撮影			映像制作課題2（撮影素材整理、テープ起こし含む）	
第 9回 テキスト『映像メディアの作り方』 5章 ドラマ、9章 ドラマ制作			実習課題3（ドラマ絵コンテ作成）	
第 10回 メディアリテラシー演習(1) ドラマ映像言語(1) ＊映像制作編集(1)			映像リテラシー課題1（ドラマ映像言語分析）	
第 11回 メディアリテラシー演習(2) グループワーク ドラマ映像言語(1) ＊映像制作編集(2)			映像リテラシー課題2（ドラマ映像言語グループワーク）	
第 12回 映像分析(1) 自治体動画分析（1） メタデータ分析 ＊映像制作編集(3)			実習課題4（自治体動画メタデータ分析）	
第 13回 映像分析(2) 自治体動画分析（2） 表現分析 ＊映像制作編集(4)			実習課題5（自治体動画表現分析）	
第14回 撮影実習(3) 太宰府の冬 撮影日程作成～撮影 ＊映像制作発表準備			映像制作課題3（撮影素材整理：テープ起こし含む）	
第15回 まとめ 映像制作・分析、メディア関連企業研究、メディアリテラシーなどに関する総括 ＊映像制作発表			まとめ課題5（レポート）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	60% 映像制作課題（作品）(10%)、まとめ課題(20%)、実習課題（20%）、映像リテラシー課題（10%）			
小テスト等	0% なし			
成果発表	35% 映像制作(20%)、映像制作発表(5%)、グループワーク（5%）、口頭発表・プレゼンテーション（5%）			
受講態度他	5% 受講態度、活動参加状況ならびに授業中やフォーラムでの発言など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業では予習・復習が効果的にできるように、LMS（e-Learningシステム）である「筑女ネット」を利用しますので、少なくとも授業でわからなかったところの確認や授業に出席できなかった場合のフォローアップをしておいてください。提出した課題はその都度返却します。 授業ではグループで行う作業も多くなります。また3年生と共同でやることも多くなります。4年生は作品制作もしくはレポート作成などを年間を通して行います。			
教科書	なし（「筑女ネット」のオンライン教材ならびにプリント）			
指定図書	なし			
参考図書	授業でその都度紹介します。 久保田賢一 編著 『映像メディアのつくり方』 北大路書房			
オフィスアワー	火曜日2限目（10:50-12:20）、水曜日2限目（10:50-12:20)	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	橋本 嘉代		単 位	4
授業の目的と概要	・段階的な実践形式で、コンテンツの企画・発信能力を育成する。 ・著作権、肖像権の知識を身につける。 ・3種類のオリジナルコンテンツを作り統合することで、実践的なスキルを身につける（下記は1ヶ月に1つずつのペースを想定）			
到達目標	・メディアコンテンツの企画を考え、ラフコンテや企画書の形にして提示することができる。 ・新聞や雑誌のフォーマットに沿って、タイトル・本文・リード・キャプションなどを書き分けることができる。 ・オリジナルコンテンツに必要な取材、撮影を手配し、実行することができる。 ・ページレイアウトソフトで簡単なコンテンツを制作することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	夏休みの報告と企画会議		各自で作成した報告書によるプレゼン（課題①）	
第2回	企画の再検討とスケジュール策定		初回での指摘を反映させ、企画を練り直し、再検討	
第3回	コンテンツ①のラフコンテとダミーレイアウト作成・提出（課題②）		デザインを研究。参考にしたい雑誌などを持参	
第4回	コンテンツ①の取材、撮影、原稿執筆		取材、撮影、原稿執筆（他のコンテンツに関しても、随時、進めておく）	
第5回	コンテンツ①の原稿提出（課題③）		原稿執筆、修正	
第6回	コンテンツ①のページレイアウト →文字と画像の流し込み		レイアウトデザイン	
第7回	コンテンツ②のラフコンテとダミーレイアウト作成（課題④）		デザインを研究。参考にしたい雑誌などを持参	
第8回	コンテンツ②の原稿提出（課題⑤）		原稿執筆、修正	
第9回	コンテンツ②のページレイアウト →文字と画像の流し込み		レイアウトデザイン	
第10回	コンテンツ③のラフコンテとダミーレイアウト作成・提出（課題⑤）		デザインを研究。参考にしたい雑誌などを持参。必要に応じ、取材	
第11回	コンテンツ③の原稿提出（課題⑥）		原稿執筆、修正	
第12回	コンテンツ③のページレイアウト →文字と画像の流し込み		レイアウトデザイン	
第13回	表紙・目次などの制作		レイアウトデザイン	
第14回	3つのコンテンツ、表紙・目次などの統合・調整・提出（課題⑦）		レイアウトデザイン	
第15回	全体の総括		工夫したところ、反省点、今後の課題の整理	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％（課題②-⑦） 添削後、授業中に戻します。口頭でのコメントの場合もあります。			
小テスト等	0％			
成果発表	10％（課題①）			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・締め切りから逆算し、スケジュール管理をする習慣をつけましょう。			
教科書	編集の学校／文章の学校（監修）『エディターズ・ハンドブック 編集者・ライターのための必修基礎知識』雷鳥社			
指定図書	なし			
参考図書	ARENSKI『InDesignをフルに使うGirls Magazine DTP』技術評論社			
オフィスアワー	月曜12:30-15:00	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	須藤 遙子		単 位	4
授業の目的 と概要	メディア社会を文化経済・文化政治・文化政策の観点から研究する。 前半は、就活を念頭に置いた「読解力・文章力・発想力」を鍛える演習を中心とする。 後半は、各自の卒業研究に向けてのテーマ設定・資料収集・論文指導を行う。 適宜グループディスカッションを取り入れ、自分の意見を発表すると同時に、他人の意見をよく聞き尊重する姿勢を学ぶ。			
到達目標	・メディアの分析、またメディア企業への就職に必要な「読解力・文章力・発想力」を身につける。 ・プレゼンテーション能力を身につける。 ・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	メディア社会コースDP1：「現代メディア社会において、メディアならびにポピュラー文化に関する基本的な知識と技能の獲得を図る」 関連科目：メディアコンテンツ論、メディアリテラシー演習、文化と現代社会、文化政策論、文化産業論など			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	前期ゼミ合宿の復習。		長編小説を読む。各自の卒業研究テーマ決定。	
第2回	文章読解：長編小説（１）。卒業研究中間発表・討議。		長編小説を読む。卒業論文執筆。	
第3回	文章読解：長編小説（２）。卒業研究中間発表・討議。		長編小説を読む。卒業論文執筆。	
第4回	文章読解：長編小説（３）。卒業研究中間発表・討議。		長編小説を読む。卒業論文執筆。	
第5回	文章読解：長編小説（４）。卒業研究中間発表・討議。		長編小説を読む。卒業論文執筆。	
第6回	文章読解：長編小説（５）。卒業研究中間発表・討議。		長編小説を読む。卒業論文執筆。	
第7回	合同ゼミ（１）：担当教員研究発表・質疑応答。		教員の研究テーマ・分析手法をふまえ、卒業テーマ深化。	
第8回	合同ゼミ（２）：担当教員研究発表・質疑応答。		教員の研究テーマ・分析手法をふまえ、卒業テーマ深化。学術書を読む。	
第9回	文章読解：学術書（１）。卒業研究中間発表・討議。		学術書を読む。卒業論文執筆。	
第10回	文章読解：学術書（２）。卒業研究中間発表・討議。		学術書を読む。卒業論文執筆。	
第11回	文章読解：学術書（３）。卒業研究中間発表・討議。		学術書を読む。卒業論文執筆。	
第12回	文章読解：学術書（４）。卒業研究中間発表・討議。		学術書を読む。卒業論文執筆。	
第13回	文章読解：学術書（５）。卒業研究中間発表・討議。		学術書を読む。卒業研究プレゼン準備。	
第14回	文章読解：学術書（６）。卒業研究プレ発表・討議。		各自プレゼン資料修正。	
第15回	ゼミ合同卒業研究発表。		2年間の復習。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	70％（卒業論文）			
小テスト等	％			
成果発表	20％（卒業研究発表）			
受講態度他	10％（全体討論への参加態度も含める）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	専門ゼミナールⅡに引き続き、本（小説）をたくさん読むことが求められます。 3年生への就活に関する情報共有やエントリーシート・アドバイスなどを随時行っていきます。 大学生活の集大成となる卒業論文を完成させます。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスワー	月曜日4限。	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	安恒 万記		単 位	4
授業の目的 と概要	住環境に関する課題について、自らの問題意識に即してグループでの調査・研究を行い、発表と討論を行うことによって住環境について深く考察します。特に3年生と合同でのグループをまとめ、研究課題に関する文献、資料に幅広く触れ、目的に合ったデータを収集し、適切な分析を行い、発表と討論を行うことによって、課題発見能力や論理的な思考力、プレゼンテーション能力などを身につけることを目的とします			
到達目標	1.広く住環境について、現代社会における問題・課題を発見することができる。 2.その問題・課題について、参考文献や先行研究の検索、フィールドワークやアンケートなどの調査を提案することができる。 3.その問題・課題について、適切にまとめることができる。 4.テーマに沿って論点を見つけ、ディスカッションすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		「卒業ゼミナールⅠ」の内容を整理する	
第2回	年間ゼミナール計画の見直し		年間計画を見直す	
第3回	研究状況の発表・討論①		研究テーマ、研究方法、データの整理	
第4回	研究状況の発表・討論②		研究テーマ、研究方法、データの整理	
第5回	研究状況の発表・討論③		発表資料の準備	
第6回	研究状況の発表・討論④		調査計画	
第7回	研究状況の発表・討論⑤		発表準備	
第8回	研究状況の発表・討論⑥		発表資料の準備	
第9回	研究状況の発表・討論⑦		発表資料の準備	
第10回	研究状況の発表・討論⑧		発表資料の準備	
第11回	研究状況の発表・討論⑨		発表資料の準備	
第12回	卒論発表に向けた検討		卒論発表のためのデータ整理	
第13回	卒論発表準備		プレゼンテーション準備	
第14回	卒論発表		プレゼンテーション準備	
第15回	まとめと総括		振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	50％			
受講態度他	50％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	積極的な参加を期待します			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワー	木曜日 10：50～12：20		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】			開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小山 昌宏			単 位	4
授業の目的と概要	1. この授業は、卒業研究にいたる物語研究分野の応用、テキスト読解力、執筆力を身に付けることを目的とする。 2. 物語研究により、マンガメディア、アニメメディアを含む「ドラマ」を読み解く力を身に付け、様々な分析手法を用い、マンガ、アニメ、映画、ドラマ作品を自力で分析し、作品の物語分析、構造分析ができるようになる。 3. 具体的には、講義前の教科書による予習、レジュメ（資料）のまとめによる知識の体系化、発表、討論による理解の深化を通して、立体的にゼミ討論をリードし、作品分析（実践）をおこない、各自テーマにあわせて卒業研究（執筆）をおこなう 4. 3限は基礎読解、4限は、各自研究テーマにみあう分野について学びつつ、マンガ、アニメ、映画、舞台、ライブなどの作品鑑賞、プレゼン、討論をおこなう				
到達目標	1. 物語論の基礎知識、物語分析、物語構造分析のための様々な手法を用い、卒業研究レポートを制作する。 2. マンガ、アニメ、映画、ドラマ、舞台、ライブなどの作品を分析し、物語のメッセージ、隠された意図を映像分析の手法を併用して明らかにすることができる。 3. 卒業研究レポートにいたる学習過程で、物語読解力を向上させ、討論による他者の意見を取り入れ、総合的に物語分析力を向上させる。 4. ゼミ運営、参加を通して、テーマに関する知識運用、対話能力、企画力、表現力を向上させる。				
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション／教科書：はじめに：「現代の神話」としての映像作品／第1章：言語論的展開と主体問題				教科書： 物語構造分析の理論と技法 の「第1章」までを予習しておく	
第2回 3限 第1章：言語論／第2章：解釈学概観／第3章：神話学外観（小山解説） 4限：自由課題				教科書： 第2・3章を第2回目の授業までに予習する	
第3回 3限 第4章：物語論概説（小山解説） 4限：自由課題				教科書： 第4章の具体例を第4回目にあわせて準備する	
第4回 3限 第5章：隠喩理論（小山解説） 4限：自由課題				教科書： 第5章の具体例を第5回目にあわせて準備する	
第5回 3限 第6章：映画・映像論（小山解説） 4限：自由課題				教科書： 第6章の具体例を第6回目にあわせて準備する	
第6回 3限 第7章：心理学的基礎概念（小山解説） 4限：自由課題				教科書： 第7章の具体例を第7回目にあわせて準備する	
第7回 3限 第8章：典型ストーリーの抽出／第9章：シーケンス分析（小山解説） 4限：自由課題				教科書： 第8章・9章の具体例を第8回目にあわせて準備する	
第8回 3限 第10章：行為項分析（小山解説） 4限：自由課題				教科書： 第10章の具体例を第9回目にあわせて準備する	
第9回 3限 第11章：シーン分析（小山解説） 4限：自由課題				教科書： 第11章の具体例を第10回目にあわせて準備する	
第10回 3限 第12章：元型分析（小山解説） 4限：自由課題				教科書： 第12章の具体例を第11回目にあわせて準備する	
第11回 3限 第13章：深層構造の抽出（小山解説） 4限：自由課題				教科書： 第13章の具体例を第12回目にあわせて準備する	
第12回 3限 第14章：訴求構造の同定（小山解説） 4限：自由課題				教科書： 第14章を第13回目の授業までに予習する	
第13回 3限 第15章：CMの構造分析（小山解説） 4限：自由課題				教科書： 第15章を第13回目の授業までに予習する	
第14回 限 第16章：子ども向けテレビ番組の構造分析（小山解説） 4限：自由課題				教科書：	
第15回 3限・4限 卒研研究報告会				卒研報告会	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	なし				
レポート	90％（卒業研究・卒業論文）				
小テスト等	なし				
成果発表	10％				
受講態度他	なし				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 教科書は毎回、担当者が要約し、レジュメを用意する。別の担当者がチューターを務め、報告し、質疑応答、意見をだしあう 2. 14回分（16章）あるので、一人2回ずつ担当当番になる（3年生含む）。3年生をリードする。 3. 報告形式は、レジュメ（文章式）、パワーポイント（図解式）のどちらでもよい。 4. 4限の自由課題は、テキストの具体事例報告、卒研の各自個別課題の発表となる				
教科書	高田明典『物語構造分析の理論と技法：CM・アニメ・コミック分析を例として』（大学教育出版）				
指定図書	なし				
参考図書	授業内で指示します				
オフィスアワー	水曜日 2限目（10:50～12:20）		メールアドレス		

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	上村 真仁		単 位	4
授業の目的 と概要	地域づくりについて学ぶこと、特に地域固有の資源である自然や伝統文化、暮らしを継承する視点からの研究・地域での実践を行うことで、地域課題に主体的に関わり、その解決策を構想する力を養うことを目的とします。3年生の専門ゼミナールⅠ、Ⅱとの協働での開催とします。前年度の専門ゼミナールⅡで企画・立案した研究計画・実践計画に基づき、調査（あるいは地域での実践活動）を進め、最終的には、卒業研究（あるいは実践報告）としてまとめます。※調査（あるいは地域での実践活動）とは、調査は卒業研究を、実践活動は、特定のフィールドでのまちづくりプロセスの企画・実施に参加し報告書を作成することを指す。			
到達目標	地域課題を発見しその解決策について研究あるいは、実践的な立場から地域の実情を踏まえた分析、提案を構想できるようになる 地域のステークホルダーとの良好なコミュニケーションを通じて、研究、実践を進めることができる 自らの研究、実践の成果を論文、もしくは研究、報告書としてまとめることができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	夏期における卒業研究・実践等の進捗報告		夏期活動成果の取りまとめ	
第2回	卒業研究・実践テーマの見直し		夏期成果をもとに見直し、深化	
第3回	環境コース合同 卒業研究等発表会 討議		研究・実践の実施と発表資料の作成	
第4回	卒業研究・実践のための情報収集と分析 その1 研究・実践の中間発表、討議		情報収集、レジュメ作成	
第5回	卒業研究・実践のための情報収集と分析 その2 研究・実践の中間発表、討議		情報収集、レジュメ作成	
第6回	卒業研究・実践のためのフィールドワーク 計画の作成		補足調査の計画を検討する	
第7回	卒業研究・実践のためのフィールドワーク（現地調査）		対象フィールドでの情報収集と調査（ヒアリング、調査結果の取りまとめ）	
第8回	研究・実践の取りまとめ方針の発表、討議		発表資料の作成	
第9回	卒業研究・実践の報告書取りまとめ（背景、目的、位置付け、方法）		報告書執筆作業	
第10回	卒業研究・実践の報告書取りまとめ（本論、調査データ、実践内容）		報告書執筆作業	
第11回	卒業研究・実践の報告書取りまとめ（結論・まとめ）		報告書執筆作業	
第12回	卒業研究・実践の報告書取りまとめ（素案提出）		報告書作成	
第13回	関係者へのフィードバック資料作成		報告書修正	
第14回	関係者へのフィードバック		発表資料の作成	
第15回	まとめ 卒業研究・実践報告会		大学4年間の振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％（卒業研究・実践報告書）			
小テスト等	なし			
成果発表	20％（中間、最終発表会）			
受講態度他	20％（ゼミ運営への積極的参加など）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	参加者の主体的な事例調査及びフィールドワークにより進めます。フィールドワークなどで正規の時間外（週末や夏休み）にも活動を行います。また、研究・実践のテーマによっては、シラバスの予定変更や交通費などの負担が発生することもあります。授業の一部を小鳥居小路の町家で実施します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業時に指示します。			
オフィスアワー	月曜日3限、4限、水曜日3限、4限		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業ゼミナールⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	高森 暁子		単 位	2
授業の目的 と概要	前期「卒業ゼミナールⅠ」で学んだ研究手法をもとに、後期は各自が選んだ文学作品を対象に、それぞれの特徴や改作の意味を考えていきます。原作がどのように解釈され、映画や舞台作品において表現され、どう受容されてきたのかについて考察します。その内容を各自原稿にまとめ、プレゼンテーションを行います。プレゼンテーション後に、そこで取り上げられたテーマや、浮かび上がってきた問題点について、全員で議論を行います。			
到達目標	1. 原作の内容を正しく理解し、そのテーマやモチーフについて説明することができる。 2. 原作とその様々なメディア作品について、互いの違いを認識し、批評的に分析することができる。 3. それぞれのメディア作品の特徴や、どのような視点から制作されたものかを具体的に説明することができる。 4. それぞれのメディア作品が、どのような人々によって、どう受容されているのかを調べることができる。 5. 自らの研究成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション		プレゼンテーションで取り上げる作品を最終決定する	
第 2 回	プレゼンテーションの方法について		様々なプレゼンテーションを動画サイトで閲覧し、ヒントを得る	
第 3 回	教師による模擬プレゼンテーション		学生によるプレゼンテーション(1)で扱う文学作品について調べる。	
第 4 回	学生によるプレゼンテーション(1)と、それに関する全員による議論		学生によるプレゼンテーション(2)で扱う文学作品について調べる。	
第 5 回	学生によるプレゼンテーション(2)と、それに関する全員による議論		学生によるプレゼンテーション(3)で扱う文学作品について調べる。	
第 6 回	学生によるプレゼンテーション(3)と、それに関する全員による議論		学生によるプレゼンテーション(4)で扱う文学作品について調べる。	
第 7 回	学生によるプレゼンテーション(4)と、それに関する全員による議論		学生によるプレゼンテーション(5)で扱う文学作品について調べる。	
第 8 回	学生によるプレゼンテーション(5)と、それに関する全員による議論		学生によるプレゼンテーション(6)で扱う文学作品について調べる。	
第 9 回	学生によるプレゼンテーション(6)と、それに関する全員による議論		学生によるプレゼンテーション(7)で扱う文学作品について調べる。	
第10回	学生によるプレゼンテーション(7)と、それに関する全員による議論		学生によるプレゼンテーション(8)で扱う文学作品について調べる。	
第11回	学生によるプレゼンテーション(8)と、それに関する全員による議論		学生によるプレゼンテーション(9)で扱う文学作品について調べる。	
第12回	学生によるプレゼンテーション (9) と、それに関する全員による議論		学生によるプレゼンテーション (10) で扱う文学作品について調べる。	
第13回	学生によるプレゼンテーション (10) と、それに関する全員による議論		学生によるプレゼンテーション(11)で扱う文学作品について調べる。	
第14回	学生によるプレゼンテーション (11) と、それに関する全員による議論		学生によるプレゼンテーション(12)で扱う文学作品について調べる。	
第15回	学生によるプレゼンテーション (12) と、それに関する全員による議論。後期レポートに関する説明。		後期レポートの作成準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40%（期末レポート）			
小テスト等	なし			
成果発表	40%（プレゼンテーション）			
受講態度他	20%（議論への積極的な参加を求めます）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席回数が6回に達すると単位修得の資格を失います。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	金曜 4 時間目	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	鷹野 恵		単 位	4
授業の目的 と概要	卒業論文は、4年間の学びの集大成である。その集大成に見える形に作り上げることが本授業の目的とする。 そのために、提出までのスケジュール管理、文献の収集と読み込み、論文執筆、教員とゼミ生同士のコミュニケーションなど多岐に亘る技能が求められる。これらは社会人としての生活に必要な技能であり、卒業論文はその一つの事前訓練であると位置づけられる。各自、自己管理と問題意識を持ち、豊かな創造力を身につけることが期待される。			
到達目標	(1) 日本語教育学に関わる領域の一般的な知識を身につける。 (2) 先行研究をまとめ、独自性のある研究課題を設定することができる。 (3) 研究課題に沿った研究方法、考察を行い、明快かつ首尾一貫した論文を書くことができる。 (4) 授業内でディスカッションに参加し、相互に研究内容を深め合うことができる。 (5) まとめた論文を複数の人の前で口頭発表し、質疑応答に対応することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1～2回	ガイダンス		課題（1）文献講読	
第3～4回	全体講義（卒業論文執筆方法の全般、発表準備）		課題（2）文献購読	
第5～6回	発表準備（テーマの第一案を持ち寄り討議）		個人発表準備	
第7～8回	第1回個人発表		課題（3）全体構想	
第9～10回	第1回個人発表		課題（4）目次	
第11～12回	第1回個人発表		課題（5）先行研究概観	
第13～14回	第1回個人発表		課題（6）先行研究の整理と研究課題再設定	
第15回	第1回個人発表		論文執筆	
第16～17回	全体講義（進捗報告）		論文執筆	
第18～19回	第2回個人発表		論文執筆	
第20～21回	第2回個人発表		論文執筆	
第22～23回	第2回個人発表		論文執筆	
第24～25回	第2回個人発表		論文執筆	
第26～28回	第2回個人発表		論文執筆	
第29～30回	口頭試問、総括		要旨作成、論文の全体修正	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ 前期・後期各1回の発表と質疑応答			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	●スケジュール管理を入念にし、早めに取り組むこと。 ●発表会では積極的にディスカッションに参加すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	個別に指示する			
オフィスアワー	火曜2限 ※事前にメールで連絡のこと		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	森田 真也		単 位	4
授業の目的と概要	この講義は、日本、及び沖縄等の文化や社会についての研究を進め、卒業論文を執筆することを目的としたものである。そして、資料収集と分析、論文執筆を通して、総合的な学習経験から創造的な思考力を獲得する。そのため講義には、履修者（ゼミ生）が、各自の問題意識、研究テーマを持って出席してもらう。 講義は、教室で行なうものと研究室での個別指導となる。具体的な進め方としては、前期は論文作成の方法等の解説、レジュメを作成しての各自の研究テーマ、論文構成に関する口頭発表、全体でのディスカッション、あわせて適時、個別指導を行なっていく。後期は、個別指導が中心となる。中間レポートの提出、最終的な論文の提出だけではなく、論文の執筆プロセスにあわせた文章添削、論文の構成等の指導を行なう。			
到達目標	・日本・沖縄・東アジアの諸地域の文化や社会に関わる研究の見識を深め、研究論文を作成する。 ・資料収集と整理、分析、論文作成といった総合的な学習経験から、創造的な思考力を獲得し、社会の多様な問題を考えアプローチする力を獲得する。 なお、卒業論文は、各自の問題意識や興味を活かして、自分自身で資料を収集して分析しながら書き進んでもらうが、研究論文である以上、オリジナルな論文としての体裁、分量、ある程度のレベルが要求される。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は主に以下のDPと関係します。 (2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。 (2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。 (2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。 (2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 ～ 3回：	研究論文とは何かー研究テーマの設定と資料収集、整理・分析についてー		卒業論文の執筆手順について理解する	
第 4 ～ 7回：	口頭発表とディスカッション（１）ー研究テーマについてー		研究テーマの設定と発表準備	
第 8回：	論文の構成について		論文の構成と目次案作成について理解する	
第 9 ～12回：	口頭発表とディスカッション（２）ー論文の構成と目次案についてー		目次案作成と発表準備	
第13回：	個人面談		目次案、論文の構成の修正を行なう	
第14 ～15回：	中間報告会		内容整理と発表準備	
第16回：	卒論の執筆について		卒論執筆の手順と指導方法について理解する	
第17 ～20回：	個別指導（１）ー論文の構成と添削指導ー		卒論執筆、添削指導、修正	
第21回：	卒論の提出について		卒論の提出方法について理解する	
第22 ～25回：	個別指導（２）ー論文の添削指導ー		卒論執筆、添削指導、修正	
第26回：	卒論提出（１２月２０日１７時）		卒論執筆、最終調整	
第27回：	卒論発表会について		卒論発表の方法について理解する	
第28 ～30回：	卒論発表会（２月上旬）		卒論発表会の準備	
ー			ー	
ー			ー	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	無し。			
レポート	60％ 「中間レポート」、「卒業論文」の内容を評価する。			
小テスト等	無し。			
成果発表	20％ 口頭での研究発表を数回行ない評価する。			
受講態度他	20％ 論文作成過程、研究姿勢、取り組みを評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席・遅刻の場合は必ず連絡すること。論文の進行状況に従い、積極的に研究室に相談に来ること。 2万字以上、１２月２０日の締め切りを厳守すること。 2月上旬に卒論発表会をする。 （次年度ゼミ希望者は、３年時に「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい）			
教科書	無し。			
指定図書	無し。			
参考図書	各自の研究テーマに従い指導する。			
オフィスワー	前期：水曜日の昼休み 後期：火曜日の昼休み（その他随時相談を受け付ける）	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	安永 美恵		単 位	4
授業の目的と概要	4年間の学びの集大成として、卒業論文を完成させることを目的とする科目です。各自研究テーマを設定し、適切な研究方法を決め、提出期日までに完成させます。選択した研究対象を読み抜き、読み解き、日本語・日本文学分野の知識や技能を活用して、個性を生かした論文を作成します。自ら構想を立て、論述することにより、論理的な思考力を身につけます。また、問題解決力や自己管理能力を高めることができます。授業では、中間報告や構想発表を通して、ゼミ生相互に意見交換や情報交換を行い、互いの研究内容に関心を持つことにより、近世文学に関する情報を共有しながら、理解を深めていきます。後期は特に個別面談に重点を置き、各自の個性を生かした論文執筆が行えるように助言します。			
到達目標	1.自分の興味・関心から、卒業論文の研究テーマを見出すことができる。 2.適切な研究方法を見出すことができる。 3.現在の研究状況を把握し、自分の視点を持つことができる。 4.資料を適切に使用し、論理的に構想をたてることができる。 5.客観性を維持しつつ、一貫性のある、オリジナルな論文を書くことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は主に以下のDPと関係します。 (2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。 (2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。 (2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。 (2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション： 卒論とは	年間スケジュール確認		課題：研究テーマを決める	
第 2回 テーマ設定			課題：研究テーマを決める	
第 3回 文献資料の調査と収集			課題：資料収集	
第 4～ 6回 作品理解のための近世文学史の確認			課題：資料収集	
第 7～ 9回 テーマと研究方法			課題：研究方法を考え、調査する	
第10～14回 中間発表と質疑応答			課題：研究方法を考え、調査する	
第15回 前期研究のまとめと、夏季休暇期間の研究計画			課題：研究計画 レポート（9月20日締切り）	
第16～18回 後期の計画と論文構想の具体例			課題：論文の構想をたてる	
第19～24回 構想発表			課題：論文の構想を立て、執筆する	
第25回 下書き完成			課題：この時間までに下書き提出	
第26回 問題解決から完成へ			課題：論文執筆	
第27回 推敲と提出時の注意点			課題：論文執筆	
第28回 卒業論文の完成と提出			課題：卒業論文を完成させ、提出する	
第29回 ゼミのまとめと卒論発表会準備			課題：発表会の準備	
第30回 卒論発表会			課題：発表会の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 卒業論文、レポートを対象とする。			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ 中間発表会、構想発表会、卒論発表会。			
受講態度他	20％ 演習、授業への積極的な態度を考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業論文は自分自身の研究であることを認識し、各自で計画的、積極的に研究を進めること。 面談に来る際は、関係資料を持参すること。 面談希望者は、できるだけ事前に連絡してください。			
教科書	なし。各自が、テーマに沿って作品の本文や注釈書を準備する。配布プリント。			
指定図書	なし。			
参考図書	『新版近世文学研究事典』（おうふう）、『日本古典文学大辞典』（岩波書店）。その他、授業時、または個別に指示する。			
オフィスアワー	前期： 火曜昼休み、金曜 5 限 後期： 火曜 5 限、木曜昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	桐島 薫子		単 位	4
授業の目的と概要	中国文学（日本との比較を含む）・漢字文化の諸問題・その他関連する内容について興味あるテーマを設定し、先行研究を把握することができる。オリジナル部分を有する発表を分かり易く行うことができる。発表を踏まえ、的確な資料で論証し、論旨明快な論文にまとめることができる。 また、発表・質疑応答・執筆を通じて、実社会で不可欠なプレゼンテーション能力・問題解決力を高めることができる。前・後期に各 1 回発表し、それらの質疑応答を踏まえて論文をまとめることができる。			
到達目標	1 興味を持った事柄についてディスカッションし、研究テーマを決めることができる。 2 設定したテーマについて、現段階での研究状況を把握することができる。 3 新しい発見・違った角度からの見方など（オリジナル部分）を的確な資料で論証することができる。 4 上記 1～3 を分かり易く 20～30分程度で発表した後、質疑応答することができる。 5 上記 4 を踏まえて、適切な文献資料を示しながら論旨明快な論文を書くことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に以下のDPの達成に関わる科目です。(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。 (2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。(2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。 (2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。(3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。(3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」。 主に、「中国文学概論」、「漢字と故			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1～ 2回	ガイダンス、全体での交流・意見交換・テーマの発表		テーマについて考えておく	
第 3～ 4回	全体講義（昨年の事例・資料の収集と検討・発表準備の方法）		先行研究をまとめる、配布プリントを読む、前期発表準備	
第 5～ 6回	第一回発表の準備（テーマについてのディスカッション・面談を含む）		発表準備（目次案、タイトルについて考える）	
第 7～ 8回	第一回発表（各自20～30分）と質疑応答、先行研究の踏襲とオリジナル性について		発表準備（目次・テーマの再考）	
第 9～10回	第一回発表（各自20～30分）と質疑応答、論証方法と論文構想について		発表準備（目次・テーマの決定）	
第11～12回	第一回発表（各自20～30分）と質疑応答、題目・目次・各章の関連性		発表準備（論文構想を基にしたレジュメ作り）、質疑応答の反映	
第13～14回	第一回発表（各自20～30分）と質疑応答、参考文献の表記		発表準備（論文構想を基にしたレジュメ作り）、質疑応答の反映	
第15回	第一回発表（各自20～30分）と質疑応答、前期の総括、夏休みの課題〔以上、前期〕		発表内容や質疑応答についてのまとめ	
第16～17回	全体講義（発表から論文へ）		夏休みに取り組んだ成果のまとめ	
第18～19回	第二回発表の準備（題目・目次の確認・面談を含む）		発表準備（前期発表との関連を考える、目次の再チェック）、文章化	
第20～21回	第二回発表（各自20～30分）と質疑応答）、題目と目次の修正について		発表準備（後期発表の仕上げ）、文章化	
第22～23回	第二回発表（各自20～30分）と質疑応答）、注釈について		発表準備（後期発表の仕上げ）、論文としてまとめる	
第24～25回	第二回発表（各自20～30分）と質疑応答）、論証の補強について		発表準備（後期発表の仕上げ）、論文としてまとめる	
第26～28回	第二回発表（各自20～30分）と質疑応答、論文の仕上げ、		論文の修正、概要の作成、口頭試問の準備	
第29～30回	論文の修正、論文集用の概要作成、口頭試問		論文の修正、概要の作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 発表資料と質疑応答をもとにした論文（修正作業を含む）、到達目標 5 への取り組み。修正後の論文については、「卒論概要集」及び「卒業論文集」を作成して、履修者に配布します。			
小テスト等	なし			
成果発表	40％ 前・後期各 1 回の発表と質疑応答、報告会（後期）、到達目標 1～4 への取り組み。			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①自身の発表においては段取りを考え周到に準備して臨み、他の人の発表においては積極的に質問や感想を述べること。 ②具体的なスケジュール表を授業中に配布。			
教科書	配布プリント			
指定図書	なし			
参考図書	各自の発表内容に応じて適宜紹介			
オフィスワー	前期：火曜昼休み、水曜 4 限 後期：火曜 4 限、木曜昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	中村 万里		単 位	4
授業の目的 と概要	卒業論文は、日本語・日本文学科での学修の集大成として取り組む必修科目である。 日本語の様々な課題の中から自らのテーマを見出し、独自の視点から考察を加えて論文を作成する。この過程全体を通して、課題の発見、問題点や資料の整理・分析、論理的な思考により解を導き、明確に論述して成果を発信するという、一連の作業が求められる。テーマそのものは大学での学習内容（に過ぎない？）かもしれないが、これらの作業は、今後社会人・職業人として求められる思考・行動のシミュレーションとなるはずである。 集合日と面談を交えながら作業を進めていく。発表、報告等の集合日のレジュメはもとより、面談の際にも作業経過と相談内容の分かる文書を必ず作成し、提示すること。 初めての論文を執筆する期間として、4～12月の9ヶ月間は短い。4年間の勉学の成果を一つのテーマに集約するつもりで、真剣に取り組むことを期待する。			
到達目標	(1) 日本語に関し、適切な課題を選んで立論することができる。 (2) 先行研究を整理し、必要なデータを収集することができる。 (3) データを分析し、論証を進めることができる。 (4) 結論を論理的に導き、明快に論述することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 論文とは	：文体、形式、構成など		自らのテーマについて考察を進めておこう	
第2回 テーマ発表会			レジュメを作成しておこう	
第3回 日本語学研究法	：分野、資料、研究法		テーマと研究法について考察しよう	
第4回 SNSによるゼミ運営			情報交換を実践しよう	
第5～7回 個別面談			テーマを絞り、研究動向を整理しよう	
第8回 経過報告会			レジュメを作成することで研究段階を確認しよう	
第9～12回 個別面談	：研究計画作成		資料・研究方法を選び、計画を作成しよう	
第13～15回 個別面談	：研究計画報告		研究計画に従い、データ収集を開始しよう	
第16回 中間報告会			レジュメ及び中間報告書提出	
第17～19回 個別面談	：資料分析、理論構築		論文作成	
第20～22回 個別面談	：題目・構成計画		論文作成	
第23回 構想発表会			題目・論文構成計画（目次）提出	
第24～26回 個別面談	：論文提出		論文提出	
第27～29回 個別面談	：口頭試問		研究成果発表原稿作成	
第30回 論文報告会			研究成果発表原稿提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	－			
小テスト等	－			
成果発表	70％ ：論文及び成果発表原稿			
受講態度他	30％ ：各種提出物及び情報交換における積極性などを評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・個別面談は、空き時間を利用して適宜行う。 ・研究を進める過程で、ゼミメンバーによるSNSを構築し、情報交換を行うことを計画している。異なるテーマであっても、研究法その他参考になることは多い。積極的に活用されることを期待する。 ・このゼミでは、研究成果を広く公開することを想定するところまでを課題としてとらえている。もちろん、論文が最大の表現手段であるが、これに加えて何らかの（冊子形式またはホームページなど）成果発表媒体を作成し、次年度ゼミへのアドバイスとする予定である。論文提出後卒業までの間に、この作業が加わるので注意しておいていただきたい。			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	個別に指示する。			
オフィスワー	木曜日2講目	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通 年
担 当 教 員	松下 博文		単 位	4
授業の目的 と概要	4年間の集大成として、近現代文学に関わる領域から、各自課題を自由に選択し、論文を制作することを目指す。 大学での学修をもとに各自の知的興味・関心を深め、卒業論文において自らの考えを明確に伝える。			
到達目標	①自らの課題について深く考察することができる。 ②文章を論理的に組み立てることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	卒業論文入門		資料作成 基礎資料	
第 2回	テーマの再確認		資料作成 テーマ資料	
第 3回	資料収集法（1）		資料作成 テーマ資料	
第 4回	資料収集法（2）		資料作成 テーマ資料	
第 5回	発表		資料作成 発表資料	
第 6回	発表		資料作成 発表資料	
第 7回	発表		資料作成 発表資料	
第 8回	発表		資料作成 発表資料	
第 9回	発表		資料作成 発表資料	
第10回	中間レポート提出		中間レポート資料作成	
第11回	レポート再考		資料作成 再考レポート作成	
第12回	構想発表		資料作成 構想資料	
第13回	卒業論文提出		論文の最終チェック	
第14回	卒業論文検証		論文の最終チェック	
第15回	口頭試問		試問の為の資料作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 前期1回、後期1回、中間レポート提出。添削して返却します。			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 資料をしっかりと作って発表すること。			
受講態度他	10% 自覚を持って取り組むこと。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	提出物は必ず期限までに提出すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日12時30分～13時		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	宇野 智行		単 位	4
授業の目的 と概要	宗教学・仏教学に関わる研究をすすめる、研究論文を作成する。自己の選択したテーマについて統合的な学習をすすめた上で、創造的思考力を養う。その研究成果を「卒業論文」という作品として表現することを目的とする。 本授業では、四年間の集大成として「卒業論文」の作成を目指す。前期は主に卒論作成のための具体的なテクニックについて講義を行う。後期は、中間発表を複数回行い、読者を意識した論文の完成を目標とする。各自の卒業論文は『卒業論文集』として製本し、卒業式時に学びの証しとして配布する。			
到達目標	1. 必要な資料を収集した上で、それを正確に読解し、批判的に分析することができる。 2. 資料を適切に使用して、論理的な文章を作成することができる。 3. 正しい書式に則って、研究成果を学術論文に纏めることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は主に以下のDPと関係します。 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1- 2回	学術論文とは何か・資料論・資料収集法		テーマ発表準備	
第 3- 4回	口頭発表とディスカッション：テーマとアプローチ		テーマ発表準備	
第 5- 6回	論文の構成・テーマ発表		第 1 回中間発表準備	
第 7- 8回	論文の書式・論述の方法		第 1 回中間発表準備	
第 9-10回	口頭発表とディスカッション：第 1 回中間発表		原稿執筆・第 2 回中間発表準備	
第11-12回	参考文献表・脚注の作り方		原稿執筆・第 2 回中間発表準備	
第13回	学術論文の読解と評価		原稿執筆・第 2 回発表準備	
第14-15回	口頭発表とディスカッション：第 2 回中間発表		卒論作成 ・ 資料収集 ・ 資料分析 ・ 原稿執筆 ・ 文献表作成	
第16-17回	口頭発表とディスカッション：第 3 回中間発表		卒論作成 ・ 資料収集 ・ 資料分析 ・ 原稿執筆 ・ 文献表作成	
第18-20回	個別指導（1）		卒論作成 ・ 資料収集 ・ 資料分析 ・ 原稿執筆 ・ 文献表作成	
第21-22回	口頭発表とディスカッション：第 4 回中間発表		卒論作成 ・ 資料収集 ・ 資料分析 ・ 原稿執筆 ・ 文献表作成	
第23-25回	個別指導（2）		卒論作成 ・ 資料収集 ・ 資料分析 ・ 原稿執筆 ・ 文献表作成	
第26-27回	口頭発表とディスカッション：第 5 回中間発表		卒論作成 ・ 資料収集 ・ 資料分析 ・ 原稿執筆 ・ 文献表作成	
第28-29回	口頭試問		最終発表準備	
第30回	口頭発表とディスカッション：最終発表		最終発表準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	（研究発表）30％：全6回 （卒業論文）40％：論文の内容により評価 10％：体裁・表記・表現力により評価			
受講態度他	（受講態度）10％：発表への取り組み （口頭試問）10％：論文内容把握、推敲能力により評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	全力を尽くして、主体的に論文作成に取り組むことが求められる。論文作成にあたり、最大限教員を利用すること。9月に合宿を開催し、中間発表を行う。20000字以上、締め切りを厳守すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	各自のテーマに従い、指示する。			
オフィスアワー	前期：火曜日15：00-16：20 後期：連絡の上、随時受け付ける。	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年	
担 当 教 員	高山 百合子		単 位	4	
授業の目的 と概要	卒業論文は、日本語・日本文学科での学修の集大成として取り組む必修科目である。日本語の様々な課題の中から自らのテーマを見出し、独自の視点から考察を加えて論文を作成する。この過程全体を通して、課題の発見、問題点や資料の整理・分析、論理的な思考により解を導き、明確に論述して成果を発信する。この一連の取り組みは、今後社会人・職業人として求められる問題発見・問題解決行動のシミュレーションである。 年間のスケジュールを睨みながら、論文作成を進めていく。小学校以来の学びの最終段階であることを自覚し、一つ一つの過程を確実に進めて、自らの集大成としていく。				
到達目標	(1) 日本語に関し、適切な課題を選んで立論することができる。 (2) 先行研究を整理し、必要なデータを収集することができる。 (3) データを分析し、論証を進めることができる。 (4) 結論を論理的に導き、明快に論述することができる。				
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は主に以下のDPと関係する。 (2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。 (2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。 (2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」				
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション；論文とはどのようなものか		小調査の発表準備；発表資料を作成しておく		
第2回	小調査発表会（1）		小調査の発表準備；発表資料を作成しておく		
第3回	小調査発表会（2）		テーマと研究法について考える		
第4回	日本語学研究法：分野、資料、研究法		テーマと研究法について考える		
第5～7回	テーマ決定（個別面談を含む）		テーマを絞り、研究動向を整理する		
第8回	経過報告会		研究計画原案作成		
第9～12回	研究計画作成（個別面談を含む）		資料・研究方法を選び、計画を作成する		
第13～15回	個別面談：研究計画報告		研究計画に従い、データ収集を行う		
第16回	中間報告会		発表資料及び中間報告レポート提出		
第17～19回	個別面談：資料分析、理論構築		論文作成		
第20～22回	個別面談：題目・構成計画（章立て）		論文作成		
第23回	構想発表会		題目・論文構成計画（目次）提出		
第24～26回	個別面談：論文提出		論文提出		
第27～29回	個別面談：口頭試問		研究成果発表原稿作成		
第30回	論文報告会		研究成果発表原稿提出		
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	特になし				
レポート	特になし				
小テスト等	特になし				
成果発表	90％：卒業論文、および成果発表原稿				
受講態度他	10％：各種発表、報告における積極性などを評価に加味する。				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	◇課題提出などの締め切りを守って、論文の完成を目指し、段階を踏んで進めていってもらいたい。 ◇課題やレポートは、添削・評価し、原則として授業中にコメントを付して返却する。				
教科書	岩崎美紀子「知」の方法論『』（岩波書店）				
指定図書	特になし				
参考図書	個別に指示する				
オフィスアワー	【前期】月曜3・4講時、水曜4・5講時 【後期】水曜5講時、木曜2講時	メールアドレス			

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	時里 奉明		単 位	4
授業の目的と概要	卒論のテーマは、①日本の歴史と文化（主に近代）、②博物館、の範囲で設定する。自らの問いを卒論のテーマとして設定し、自ら研究を進めることを学ぶ。そうした研究の成果を論理的な文章にすることを目指す。大学時代の集大成として、自分の作品を完成させること。前期、夏休み、後期でそれぞれ研究の成果を報告し、全員でより良いものになるように協力する。 前期は卒論指導と同時に、1冊の本を読む。夏休み中に中間報告、後期は授業中に最終報告を行う。卒論提出後に全員で完成版を報告する。その間、枚数を設けて数回提出させ、個別指導を行う。			
到達目標	1 興味のあるテーマを設定し、論理的な思考を文章にまとめることができる。 2 テーマに関する資料を図書館やインターネットを使って調査、収集できる。 3 報告を行い、文章を提出することによって、論文完成までの段取りと労力を理解できる。 4 先人たちの研究のなかで自分の卒論を確認できる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(2)-②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。 (2)-③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。 (2)-④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。 (2)-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	ガイダンス：卒論のねらい スケジュールと履修方針の確認		課題（スケジュールを知る）	
第 2 回～ 6 回	テーマの概要を報告 テキスト（山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』）を使用しながらテーマの設定、先行研究の整理、資料の調査と収集、執筆の仕方について指導する		課題（論文作成の手順を理解する）	
第 7 回～12 回	読書会：テキスト（井上勝生『幕末・維新』）を読む。毎回数人、担当の箇所をレジュメを使って報告する。		課題（論文を整理する、報告の準備）	
第13回～14回	夏休み前、研究の成果を報告する		課題（論文の形式を理解する）	
第15回	今後のスケジュールの確認		課題（期末レポートを提出する）	
第16回	夏休みゼミ合宿：卒論報告		課題（論文の作成を進め、報告を準備する）	
第17～27回	卒論最終報告		課題（論文の作成を進める、11月前後に中間論文を提出する）	
第28回	卒論提出の確認		課題（卒論の形式を確認する）	
第29回	卒論提出後の指導		課題（報告の確認）	
第30回	卒論報告会		課題（報告の準備）	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 卒業論文（途中、文章の提出を含む）			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 卒論報告とテキスト報告（口頭発表と質疑応答）			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	評価は卒業論文の内容によるが、完成にいたるまでのプロセスを重視したい。日ごろの取り組みが大切で、授業時の欠席や遅刻は厳しく指導する。夏休み中のゼミ合宿、卒論報告会は全員参加すること。			
教科書	山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』平凡社新書（2001年） 井上勝生『幕末・維新』岩波新書（2006年）			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に紹介する。			
オフィスアワー	金曜日の昼休み。研究室にいる時はいつでも。	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	小野 望		単 位	4
授業の目的と概要	卒業論文は、日本語・日本文学科での学修の集大成として取り組む必修科目である。日本語の様々な課題の中から自らのテーマを見出し、独自の視点から考察を加えて論文を作成する。この過程全体を通して、課題の発見、問題点や資料の整理・分析、論理的な思考により解を導き、明確に論述して成果を発信するという、一連の作業が求められる。テーマそのものは大学での学修内容（に過ぎない）かもしれないが、これらの作業は、今後社会人・職業人として求められる思考・行動のシミュレーションとなるはずである。 集合日と面談を交えながら作業を進めていく。発表、報告等の集合日のレジュメはもとより、面談の際にも作業経過と相談内容の分かる文書を必ず作成し、提示すること。初めての論文を執筆する期間として、4～12月の9ヶ月間は短い。4年間の勉学の成果を一つのテーマに集約するつもりで、真剣に取り組むことを期待する。			
到達目標	(1) 日本語に関し、適切な課題を選んで立論することができる。 (2) 先行研究を整理し、必要なデータを収集することができる。 (3) データを分析し、論証を進めることができる。 (4) 結論を論理的に導き、明快に論述することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、主に以下のDPと関連しています。 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 論文とは	：文体、形式、構成など		自らのテーマについて考察を進めておこう。	
第2回 テーマ発表会			レジュメを作成して発表に臨もう。	
第3回 日本語学研究法	：分野、資料		配付資料を熟読し、様々な分野とその資料を確認しよう。	
第4回 日本語学研究法	：研究法		配付資料を熟読し、様々な研究法を確認しよう。	
第5～7回 個別面談			テーマを絞り、研究動向を整理しよう。	
第8回 経過報告会			レジュメを作成し発表することで、自らの研究段階を確認しよう。	
第9～12回 個別面談	：研究計画作成		資料・研究方法を選び、計画を作成しよう。	
第13～15回 個別面談	：研究計画報告		研究計画に従い、データ収集を開始しよう。	
第16回 中間報告会			レジュメ作成及び中間報告書提出。	
第17～19回 個別面談	：資料分析、理論構築		論文作成。	
第20～22回 個別面談	：題目・構成計画		論文作成。	
第23回 構想発表会			題目・論文構成計画（目次）提出。	
第24～26回 個別面談	：論文提出		論文提出。	
第27～29回 個別面談	：口頭試問		研究成果発表原稿作成。	
第30回 論文報告会			研究成果発表原稿提出。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10％：中間報告レポート			
小テスト等	0％			
成果発表	80％：論文及び論文発表会等			
受講態度他	10％：経過報告会、個別面談における資料作成、発言の積極性などを評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・個別面談は、空き時間を利用して適宜行う。 ・研究を進める過程で、ゼミメンバーによる情報・意見交換を行う。異なるテーマであっても、研究法その他参考になることは多い。積極的に活用されることを期待する。 ・このゼミでは、研究成果を広く公開することを想定するところまでを課題としてとらえている。もちろん、論文が最大の表現手段であるが、これに加えて卒論概要を作成し、成果報告書として次年度ゼミへのアドバイスとする予定である。論文提出後卒業			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	個別に指示する。			
オフィスアワー	月曜：5 講時、火曜：5 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	出雲 俊江		単 位	4
授業の目的 と概要	自分にとっての本質的な問いにつながる問題を研究テーマとして設定し、自ら研究をすすめることを学びます。 研究の成果を論理的に文章にして発表する力をつけることを目指します。 それぞれの設定したテーマについての発表・討議を通じて、研究を深めてゆきます。 担当者のレジュメを中心とした発表と質疑応答を基本的な形式とします。			
到達目標	・ 自分の問題としての、研究テーマを設定する。 ・ 設定したテーマと同じ問題や近い問題について、これまで考えられてきたことについて知る。（参考文献の検索・文献を読む） ・ 自分の考えを論文の形で論理的に述べる。（論文の構成・引用・論述について学ぶ）			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 「近・現代文学演習Ⅰ・Ⅱ」または「教職課程の科目群」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	ガイダンス		講義の際に指示します	
第 2回	テーマの設定		発表担当者は発表の準備	
第 3回	テーマの設定		発表担当者は発表の準備	
第 4回	テーマの設定		発表担当者は発表の準備	
第 5回	資料検索・文献講読の仕方		発表準備	
第 6回	研究発表		発表担当者は発表の準備	
第 7回	研究発表		発表担当者は発表の準備	
第 8回	構想発表会		発表準備（全員）	
第 9回	研究発表		発表担当者は発表の準備	
第10回	中間発表		発表準備（全員）	
第11回	個別相談または少人数での研究発表		研究内容資料の準備	
第12回	個別相談または少人数での研究発表		研究内容資料の準備	
第13回	個別相談または少人数での研究発表		研究内容資料の準備	
第14回	論文提出		講義の際に指示します	
第15回	総括		講義の際に指示します	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない			
レポート	80％ 卒業論文			
小テスト等	行わない			
成果発表	卒論発表会を行う。 卒業論文集作成。			
受講態度他	20％ 討議への参加状況			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	卒論演習は、自分の問題を立て、自分で考えるという卒業論文制作の孤独な営みを、互いに支えあう場です。自分の問題にも、他の人の問題にも、真摯に向き合うことを求めます。			
教科書	講義の際に指示します			
指定図書	使用しない			
参考図書	使用しない			
オフィスアワー	水曜日お昼休み・3・4 限		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年	
担 当 教 員	緒方 隆文		単 位	4	
授業の目的と概要	目的1：卒業論文を書くことで、言語・文化に関する専門知識を身につけ、深い人間理解ができるようになる。目的2：言語としての英語または英語圏文化を、学んだり調べたりすることで、英語に対する理解を深め、様々な視点で英語をとらえることができるようになる。目的3：自ら設定したテーマを、探求する方法を身につける(調査・分類・執筆)。その過程で、論理思考力、問題解決力を培うとともに、特定分野の知識・技能を身につけ、自己管理能力をも養う。 前期は卒業ゼミナールと別に時間がとられ、全体指導が数回ある。研究の方法・手順を学ぶとともに、テーマを絞り込み研究の下準備を行っていく。後期は個別指導を受けていく。各自アポイントメントを取り、途中経過を指導教員から助言・指示を得て、作成作業を進めていく。内容への指導に集中できるよう、スタイル・スベリング等、指導前にきちんと確認し適切なものにしておくことが望まれる。				
到達目標	1. 英語に関するテーマを一つ設定し、卒業論文を書くことができる。 2. テーマに関することを、図書やインターネットを使い、情報を収集することができる。 3. 収集した資料や情報を、適確に分類し、活用することができる。 4. 資料や情報をもとに、オリジナルな論考または視点を入れて、文章にまとめることができる。 5. 卒業論文の内容に関して、適切に説明することができる。 6. 特定分野の知識・技能を説明することができる。				
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第 1- 2回	テーマの決め方(プリント配布) /テーマ仮提出			テーマを決めるための情報収集およびテーマ決定	
第 3- 4回	MindMappingの書き方/ Mindmapの仮作成			テーマに関するMindMappingの作成	
第 5- 6回	プロポーザル/ プロポーザル(Map)作成			全体像および資料等をもとに、プロポーザルの作成	
第 7- 8回	文献リストとフォーム/ 文献リストの作成			収集したあるいはこれからする文献のリストを作成する	
第 9-10回	資料の収集方法/ プロポーザル(Map) 提出			資料の収集法の確認と計画、プロポーザルの作成	
第11-12回	文献リスト1 提出 / 文献収集			文献を収集する。それと同時に文献を読破していく。	
第13-14回	原稿の書き方			原稿を書き始める。夏休みの計画をたてる	
第15回	夏休み計画の作成/ 文献リスト2			夏休み: Mappingを修正、原稿は半分程度まで書く	
第16-17回	原稿(2分の1)と全体図(Map) 提出・相談			研究の方向と、全体像の確認を行い。原稿の加筆・修正を行う	
第18-19回	内容指導			指導を踏まえ、原稿の加筆・修正を行う	
第20-21回	原稿(3分の2)と全体図(Map) 提出・相談			指導を踏まえ、原稿の加筆・修正を行う	
第22-23回	内容指導			指導を踏まえ、原稿の加筆・修正を行う	
第24-25回	原稿(全部)と全体図(Map) 提出・相談			指導を踏まえ、原稿の加筆・修正を行う	
第26-27回	原稿の最終分量に達成 提出・相談			指導を踏まえ、原稿の加筆・修正を行う	
第28-30回	最終チェック期間 提出・相談 / 卒業論文提出			指導を踏まえ、原稿の最終確認を行い提出	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など				
定期試験	なし				
レポート	20% 途中定期的に、卒論内容の提出が課せられる。なお提出した課題は、次回の授業において、返却される。				
小テスト等	なし				
成果発表	50% 卒業論文 (学生便覧の規定に従うこと)。				
受講態度他	30% 卒論指導の受講状況、経過報告、口頭発表、ハンドアウト、卒論取組み度等を考慮し判断する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる。				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒論提出の期日を厳守すること。遅れて提出した場合は、不合格とする。 卒論は提出すればよいというものではなく、その途中経過も重視する。そのため途中経過において決められたことを実行しない場合、評価に大きく影響する。細かいルールは、初回授業において配布する。				
教科書	プリントを配布する。				
指定図書	特になし				
参考図書	適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(メール等で、予約することが望ましい)	メールアドレス			

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	大城 房美		単 位	4
授業の目的 と概要	現代文化論／女性学・ジェンダー学／英語文学・文化に関するテーマを設定し、自分の視点から問題提起しながら、資料収集・作品分析を行い、自分の主張を論文にまとめることができる。 前期は論文の構成やテーマ設定を含むスタイルに関する部分を、後期は論文の執筆をし、適宜面談を行いながら指導する。			
到達目標	(1)現代文化論／女性学・ジェンダー学／英語文学・文化に関するテーマを設定する。 (2) 資料収集・作品分析を行い、先行研究を把握する。 (3) 自分の主張を論文にまとめる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1－2回	Introduction 文献収集の基礎を確認する		資料収集『大学生のためのレポート論文術』の文献収集を読む	
第3－4回	卒業論文の構成やスケジュールを確認する		『大学生のためのレポート論文術』の卒業論文の箇所を読む	
第5－6回	卒業論文のスタイルを確認する		『大学生のためのレポート論文術』の書き方の約束を読む	
第7－8回	テーマ設定と資料リストの提出と確認		資料収集とテーマ構想	
第9－10回	アウトラインの提出		資料収集とアウトライン構想	
第11－12回	各章についてのアウトライン		資料収集とアウトライン構想	
第13－14回	「はじめに」		資料収集 論文執筆	
第15回	前期の成果を提出（テーマ、アウトライン、「はじめに」、資料リスト）		前期の成果をまとめる	
第16－17回	全体の構想を確認 各章のアウトライン構想		論文執筆	
第18－30回	各章ごとに提出、その都度確認・修正		論文執筆	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	80％提出された卒業論文による評価。			
受講態度他	20％前期の成果提出を含む。卒業論文完成に至るまでの受講態度。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	前期中に、前期の成果（テーマ、アウトライン、はじめに、資料リスト）を提出すること。			
教科書	『新版 大学生のためのレポート・論文術』（小笠原喜康）			
指定図書	『A Manual for Writers of Research Papers, Theses, and Dissertations. 9th ed』（2018）『A Pocket Style Manual 8th ed』（2017）『これから論文を書く若者のために 大改訂増補版』（酒井聡樹）			
参考図書	論文の内容により指導			
オフィスアワー	授業の前後（要メール連絡）		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	三日月 雅子		単 位	4
授業の目的と概要	卒業論文では、卒業ゼミナールⅠ・Ⅱで行う研究を更に深め、その研究成果を論文にまとめます。前期は卒業ゼミナールと別に時間をとり、全体指導を数回行います。研究の方法・手順を学ぶとともに、テーマを絞り込み研究の下準備を行います。後期は個別指導です。各自アポイントメントを取り、途中経過に関して指導教員から助言・指示を得て、作成作業を進めていきます。内容への指導を受ける前に、卒論のスタイル・スペリング等を確認し適切なものしておくことが望まれます。			
到達目標	1. 航空関連の英語に関するテーマを一つ設定し、卒業論文を書くことができるようになること。 2. テーマに関することを、図書やインターネットを使い情報を収集すること。 3. 収集した資料や情報を適確に分類し、活用すること。 4. 資料や情報をもとに、オリジナルな論考または視点を入れて論文としてまとめること。 5. 卒業論文の内容に関して、適切に説明することができるようになること。 6. 特定分野の知識・技能を説明することができるようになること。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1－2回	テーマ決定までのスケジュールと手順		テーマを決めるための情報収集	
第 3－4回	テーマの設定		図書館およびWeb上で関連文献を収集	
第 5－6回	アウトラインの作成		資料等をもとにアウトラインを作成する	
第7－8回	文献収集および文献リスト＃1の作成		収集済み、および未収集文献のリストを作成する	
第 9-10回	修正プロポーザルの作成および提出		収集した資料を基に修正プロポーザルを作成する	
第11-12回	文献リスト＃2作成および提出		文献を継続収集しながら、同時に文献を精読していく	
第13-14回	ドラフトの書き方		ドラフトを書き始める。夏休みの計画をたてる	
第15回	夏休み計画の作成/ 文献リスト＃3提出		夏休み：ドラフトは半分程度まで書く	
第16-17回	ドラフト(2分の1)提出および面談		研究の方向性と全体像の確認を行う	
第18-19回	内容指導		指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う	
第20-21回	ドラフト(3分の2)提出および面談		指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う	
第22-23回	内容指導		指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う	
第24-25回	ドラフト(全部)提出および面談		指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う	
第26-27回	最終分量に到達したドラフトの提出・面談		指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う	
第28-30回	最終確認 / 卒業論文提出		指導を踏まえ、ドラフトの最終確認を行い提出する	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 途中定期的に、卒論のドラフト提出が課せられる			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 卒業論文(学生便覧の規定に従うこと)			
受講態度他	30% 卒論指導の受講状況、経過報告、口頭発表、ハンドアウト、卒論取組み度等を考慮し判断する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒論提出の期日を厳守すること。期限を守れなかった場合は不合格とする。卒論はその作成過程も重視される。そのため、授業計画に明記されたことを実行できない場合は評価に大きく影響する。			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	前期 火曜日：昼休み、水曜日：昼休み 金曜日：昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担 当 教 員	D.J. Wood		単 位	4
授業の目的 と概要	Students choose a topic of interest to research and deepen their understanding of by presenting their findings in the form of a thesis			
到達目標	Students acquire knowledge of a subject of interest to them and apply the necessary analytical and expressive skills to take their grasp further			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 proposal submission			Prepare for class 2 assignment	
第 2回 detailed chapter by chapter description			Prepare for class 3 assignment	
第 3回 chapter description feedback for rewriting			Prepare for class 4 assignment	
第 4回 rewritten chapter description check			Prepare for class 5 assignment	
第 5回 final version of chapter description			Prepare for class 6 assignment	
第 6回 first draft of thesis in accordance with the revised proposal			Prepare for class 7 assignment	
第 7回 initial feedback on the first draft of the thesis			Prepare for class 8 assignment	
第 8回 follow-up comments and rewriting of the first draft			Prepare for class 9 assignment	
第 9回 review of the reworked first draft			Prepare for class 10 assignment	
第10回 final outline thesis draft proposal presentation			Prepare for class 11 assignment	
第11回 extension of the thesis parameters to include all relevant background perspective			Prepare for class 12 assignment	
第12回 first rewrite including the additional perspectives			Prepare for class 13 assignment	
第13回 confirmation of the rewritten version			Prepare for class 14 assignment	
第14回 oral presentation of the rewrite for feedback			Prepare for class 15 assignment	
第15回 tentative final version submission			Prepare for review assignment	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条（2）に従います。			
教科書	All study materials will be arranged in class			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays.	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通 年
担 当 教 員	宮原 牧子		単 位	4
授業の目的 と概要	卒業論文では、卒業ゼミナールⅠ・Ⅱで行う研究を更に深め、その研究成果を論文にまとめます。 和文で論文を執筆する場合は20,000字以上、英文の場合は8,000語以上とします。 論文提出後に口頭試問を行います。			
到達目標	1. 英詩を正確に読み、理解できる。 2. 文学用語、詩人、作品、時代背景に関する知識を深める。 3. 先行研究について十分に調査することができる。 4. 作品を「分析・批評」する独自の視点を持つことができる。 5. 「テーマ」定め、論文の構成を考えることができる。 6. 参考資料や文献を正しく参照・引用することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
卒論スケジュールについて			詩人・作品の選定	
第2・3・4回 作品読解			文献収集	
第5・6回 文献収集結果報告			アウトライン作成	
第7回 アウトラインの作成（A4用紙1～2枚）・質疑応答			論文作成	
第8・9回 論文作成指導			論文作成	
第10・11・12・13・14回 第1稿の執筆（毎週、途中経過を報告）			論文作成	
第15回 中間発表(1)			論文作成	
第16回 論文作成指導			論文作成	
第17・18・19回 第2稿の執筆（毎週、途中経過を報告）			論文作成	
第20回 中間発表(2)			論文作成	
第20・21・22回 最終稿作成指導（毎週、途中経過を報告）			論文校正・発表会準備	
第23回 卒業ゼミナール内発表会			論文作成	
第24・25回 最終稿作成作成指導			論文校正	
第26・27回 最終チェック			論文校正・提出	
第28・29・30回 口頭試問			最終原稿提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	80％ 提出された論文で評価します。			
小テスト等	—			
成果発表	20％ 口頭試問で評価します。			
受講態度他	—			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	1・2年次で履修すべき全ての必修科目の単位を修得した人（編入生を除く）だけが、この科目を履修できます。 卒論提出の期日を厳守すること。遅れて提出した場合は、不合格とします。			
教科書	—			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスワー	火曜日 4 限目	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	松崎 徹		単 位	4
授業の目的と概要	卒業論文を書くことで、言語・文化に関する専門知識を身につけ、深い人間理解ができるようになる、言語としての英語または英語圏文化を学んだり調べたりすることで、英語に対する理解を深め、様々な視点で英語をとらえることができるようになる、自ら設定したテーマを探究する方法(調査・分類・執筆)を身につけることができる、などがこの授業の目的である。具体的な指導のスケジュールとしては、前期は卒業ゼミナールと別に時間をとり、全体指導を数回行っていく。研究の方法・手順を学ぶとともに、テーマを絞り込み研究の下準備を行っていく。後期は個別指導が中心となるので、各自アポイントメントを取り、指導教員から助言・指示を受けながら論文の作成作業を進めていく。なお、教員からの指導が円滑に進むように、誤字・脱字等がないか指導前に確認しておくことが望まれる。			
到達目標	1. 英語に関するテーマを一つ設定し、卒業論文を書くことができる。 2. テーマに関することを、図書やインターネットを使い、情報を収集することができる。 3. 収集した資料や情報を、適確に分類し、活用することができる。 4. 資料や情報をもとに、オリジナルな論考または視点を入れて、文章にまとめることができる。 5. 卒業論文の内容に関して、適切に説明することができる。 6. 特定分野の知識・技能を説明することができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1- 2 回	テーマ決定までの手順/ テーマ仮提出		テーマを決めるための情報収集およびテーマ決定	
第 3- 4 回	文献調査		図書館およびWeb上で関連文献を調査	
第 5- 6回	プロポーザル作成		資料等をもとに、プロポーザルを作成する	
第 7- 8回	文献収集および文献リスト# 1 の作成		収集済み、および未収集文献のリストを作成する	
第 9-10回	修正プロポーザルの作成および提出		収集した資料を基に修正プロポーザルを作成する	
第11-12回	文献リスト# 2 作成および提出		文献を継続収集しながら、同時に文献を精読していく	
第13-14回	ドラフトの書き方		ドラフトを書き始める。夏休みの計画をたてる	
第15回	夏休み計画の作成/ 文献リスト# 3 提出		夏休み：ドラフトは半分程度まで書く	
第16-17回	ドラフト(2分の 1)提出および面談		研究の方向性と全体像の確認を行う	
第18-19回	内容指導		指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う	
第20-21回	ドラフト(3分の2)提出および面談		指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う	
第22-23回	内容指導		指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う	
第24-25回	ドラフト(全部)提出および面談		指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う	
第26-27回	最終分量に到達したドラフトの提出・面談		指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う	
第28-30回	最終確認 / 卒業論文提出		指導を踏まえ、ドラフトの最終確認を行い提出する	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 途中定期的に、卒論のドラフト提出が課せられる			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 卒業論文(学生便覧の規定に従うこと)			
受講態度他	30% 卒論指導の受講状況、経過報告、口頭発表、ハンドアウト、卒論取組み度等を考慮し判断する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒論提出の期日を厳守すること。期限を守れなかった場合は、不合格とする。卒論は提出すればよいというものではなく、その作成過程も重視する。そのため、授業計画に明記されたことを実行できない場合は評価に大きく影響する。詳細については、初回授業においてプリントを配布する。			
教科書	特になし。			
指定図書	特になし。			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	前期：火曜日 4 限目・水曜日 3 限目 後期：水曜日 3 限目・金曜日 2 限目	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開講時期	通年
担当 教 員	T.R. Honkomp		単 位	4
授業の目的 と概要	The embarkation and subsequent completion of a graduation thesis is a highly individualistic experience and its process and success are largely dependent on the effort of the student who authors the paper. The Graduation Thesis is subject to the rules, requirements and procedures that are indicated in the student handbook and all students writing a thesis should be aware of them.			
到達目標	From the advisor’ s perspective it is important that students adhere to a year-long timetable in order to ensure a timely finish. That timetable includes completion of the following steps sequentially, although some flexibility is possible depending on individual circumstances: thesis statement, general outline, detailed outline, research ideas and suggestions, incremental pages of production, rough draft, final rough draft and final paper.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	Thesis statement; define and narrow thesis statement		Prepare thesis statement; prepare research options for discussion	
第 2回	General outline; edit general outline and indicate research directions		Begin Research	
第 4回	General outline; edit general outline and indicate research directions		Continued	
第 8回	Detailed outline; refine outline and confirm research directions		Research	
第10回	Detailed outline; refine outline and confirm research directions		Research	
第12回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback		Research	
第14回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback		Research	
第16回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback		Research	
第18回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback		Research	
第20回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback		Research	
第22回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback		Research	
第24回	First rough draft Editing and correction continued		Research	
第26回	First rough draft All references and research properly noted		Final editing	
第28回	Final rough draft; All references and research properly noted		Processes	
第30回	Final paper Final check and confirmation for university requirements		Review Final Paper; self assessment feedback	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	20% Adherence to time schedule (Paper) 80% Completion of Graduation Thesis			
受講上の留意 点・ルールに関 わる情報	Graduation Thesis papers must be written in English. It is asked that only students who are serious about doing research and about completing the paper take this course. Students should be aware that the graduation thesis paper is due near the end of December. Effort should be made to adhere to this deadline.			
教科書	—			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Tuesday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 1st period (9:10-10:40)	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	小林 久泰		単 位	4
授業の目的と概要	宗教・文化に関する研究をすすめ、研究論文を作成する。自分で選択したテーマについて統合的な学習をすすめ、創造的思考力を養う。その研究成果を「卒業論文」という作品として表現することを目的とする。 4年間の大学生活の集大成として「卒業論文」を作成していく。前期は主に卒論作成のための具体的なテクニックについて講義をする。後期は、中間発表を複数回行い、読者を意識した論文の完成を目標とする。各自の卒業論文は『卒業論文集』として製本する。			
到達目標	1．必要な資料を収集した上で、それを正確に読解し、批判的に分析することができる。 2．資料を適切に使用して、論理的な文章を作成することができる。 3．正しい書式に則って、研究成果を学術論文に纏めることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	学術論文とは何か		発表準備	
第 2- 4回	テーマの選定とアウトラインの作成		資料収集、発表準備	
第 5回	口頭発表とディスカッション：テーマ発表		資料収集、発表準備	
第 6- 7回	論文の書式・論述の方法		資料収集、発表準備	
第 8- 9回	口頭発表とディスカッション：構想中間		資料収集、発表準備	
第10-12回	論文作法：参考文献リスト・注記・引用の作り方、先行研究の評価		原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成	
第13-14回	口頭発表とディスカッション：本論 1		原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成	
第15-16回	アウトラインの見直しと最終アウトライン作成		原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成	
第17-18回	口頭発表とディスカッション：本論 2		原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成	
第19回	進行状況の確認と指導		原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成	
第20-21回	口頭発表とディスカッション：本論 3		原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成	
第22-23回	口頭発表とディスカッション：本論 4		卒論作成・資料収集・資料分析・原稿執筆・文献表作成	
第24-27回	進行状況の確認と指導		原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成	
第28-29回	口頭発表とディスカッション：最終発表		原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成	
第30回	編集作業		編集作業	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	30％：研究発表（全6回）			
受講態度他	（受講態度）10％：発表への取り組み（口頭試問）10％：論文内容把握能力、推敲能力により評価 （卒業論文）40％：論文の内容により評価 10％：体裁・表記・表現力により評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	全力を尽くして、主体的に論文作成に取り組むことが求められる。 9月に合宿を開催し、中間発表を行う。 字数、締め切りを厳守すること。			
教科書	白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房			
指定図書	なし			
参考図書	各自のテーマに従い、適宜指示する。			
オフィスワー	月曜 2 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通 年
担 当 教 員	崔(淑)・石(其)・裴(海)・竹熊(真)・田村(史)・喜多村(百)・小林(知)・横山(豪)・羅(義)		単 位	4
授業の目的 と概要	担当の各専任教員の個別指導のもとで卒業論文の作成、またはこれにかわる卒業制作を仕上げることを目的とする。授業は、すべて自身の「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」担当の教員の指導にしたがう。			
到達目標	・卒業ゼミナールを通じて、自分の卒業論文のテーマを再考し、最終決定に至る。 ・自分のテーマについて、様々な方法で資料や情報を収集し、分析することができる。 ・独自に集めた資料や情報を整理し、考察を加えることによって、卒業論文を作成する、または卒業制作を仕上げるができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・考え方等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第 2回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第 3回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第 4回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第 5回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第 6回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第 7回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第 8回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第 9回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第10回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第11回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第12回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第13回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第14回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
第15回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。			個人別課題の学習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100％ 卒業論文または制作			
小テスト等	－			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業論文の提出期限を厳守すること。学生便覧に示される規定を確認すること。			
教科書	各教員の指示に従うこと			
指定図書	各教員の指示に従うこと			
参考図書	各教員の指示に従うこと			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバス参照	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	酒井(均)・渋田(登)・浅田(淳)・大霧(香)・榊(祐)・森田(理)・宇治(和)・針塚(進)		単 位	4
授業の目的 と概要	自らが設定した課題に対して、研究計画に基づいたデータ分析や文献研究を行い、卒業論文という形式にまとめる。研究成果を心理学研究法に則してまとめることで、論理的な思考や客観的に問題を解決する力を身につける			
到達目標	①創造的思考力を用いて、心理学に関わる問題を設定し、心理学の研究方法に即した研究計画が立てられる ②研究計画に基づいて、データを測定するために必要なアプローチを選択することが出来る ③客観的指標に基づいたデータ収集、あるいは文献研究を行なうことが出来る ④得られた結果を論理的にまとめ、客観的視点から考察を導き出すことが出来る ⑤問題や研究計画などを論文にまとめ、その成果を論理的に説明し、発表できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 基本的な事柄については卒業家研究と同時並行で行う。各ゼミの卒業研究Ⅰ、Ⅱを参照。 設定するテーマの範囲は、人間の発達・臨床心理にかかわるもの、およびこれらに関するものとする。卒業論文には卒業研究より高いレベルの内容が求められる。なお、本学、他大学を問わず大学院進学希望者は必ず履修する必要がある。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1・ 2回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照		テーマの設定、情報の収集	
第 3・ 4回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照		テーマの設定、情報の収集	
第 5・ 6回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照		テーマの設定、情報の収集	
第 7・ 8回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照		テーマの設定、情報の収集	
第 9・10回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照		テーマの設定、情報の収集	
第11・12回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照		テーマの設定、情報の収集	
第13・14・15回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照		プレゼンの準備（中間発表）	
第16回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照		データの整理、論文執筆及び推敲	
第17・18回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照		データの整理、論文執筆及び推敲	
第19・20回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照		論文執筆及び推敲	
第21・22回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照		論文執筆及び推敲	
第23・24回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照		論文執筆及び推敲	
第25・26・27回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照		論文執筆及び推敲	
第28・29回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照		プレゼンの準備（最終発表）	
第30回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照		プレゼンの準備（最終発表）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 卒業論文、抄録の提出			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 卒論発表会にて、プレゼンテーションを行う。			
受講態度他	20% 口答試問			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	口答試問では、主査（担当ゼミ教員）、副査（学科の他の専任教員1名）の2名の先生をまじえ、論文について質疑を行う。該当学生は、指定された時間で卒業論文の概要を説明することが求められる。卒論発表会では、心理学科専任教員と在学生に対して発表を行う。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	各ゼミによる			
オフィスワーク	担当教員の他科目のシラバスを参照してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	山崎(安)・池田(和)・徳永(勇)・高木(佳)・新家(め)・大西(良)・金(圓)		単 位	4
授業の目的と概要	卒業ゼミナールでの取り組みをさらに深化・発展させ、各専任教員による個別指導のもとで、「卒業論文」を作成することを目的とする。 卒業研究での取り組みをさらに深化・発展させ、各専任教員による個別指導のもとで、「卒業論文」を作成する。「卒業論文」のテーマ範囲は、社会福祉、人権・社会問題及び人間の福祉に関する諸課題とする。 卒業論文の履修は、学生各自の大学での個別の研究の総括として、「卒業研究」での課題を超えて、それぞれの研究テーマをより深く追求・発展させたいとする学生及び上級学校（大学院等）への進学を考えている学生を対象とする。			
到達目標	1．自ら取り組む研究テーマが設定できる。 2．研究の視点を理解し、研究方法を身につけることができる。 3． 1・2の成果として「卒業論文」が作成できる。 4．「卒業論文」を発表したり、それについて討議する能力が習得できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1～3回	卒業論文のテーマ設定		資料収集・検討	
第4～6回	資料収集および研究方法の学習		発表資料（レジュメ）作成	
第5～12回	卒業論文発表および討論		発表と討論	
第13～15回	中間報告会		プレゼンテーション	
第16～21回	卒業論文発表および討論		発表と討論	
第22～30回	卒業論文の研究成果確認		卒業論文の総括	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
―			―	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ 卒業論文の審査を主とする			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 口頭試問での受け答えなど			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	4年次のオリエンテーション時に、卒業論文についての説明を行うので必ず参加すること。			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	各教員による			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	松本・板井・稲田・大元・古田・古賀野・Kumar・宮平・一木・北原・薄・平山・原・石原・原田・今釜・上原		単 位	4
授業の目的と概要	4年次科目「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」を通して取り組む各自の研究課題について、卒業論文としてまとめること及びその概要を口頭で述べ、質疑応答ができることを目的とする。 各自が設定したテーマについて、担当教員の指導のもと卒業論文の作成を行う。 論文制作やその発表を通して、目的にあったデータ収集方法、適切な分析・吟味、問題を発見する力や論理的思考能力、文章構成能力等を獲得することを目的とする。なお、研究の成果物をまとめる「卒業論文」の要件は、内容の程度や基準となる文字数等で「卒業研究」の要件を超えたものとして別途定める。			
到達目標	1 課題の設定、調査方法の選択及び実施、結論やその吟味、研究成果の発表など、問題解決的な手法で研究に臨むことができる。 2 課題設定の理由（必要性・研究する価値）を明確にもち説明することができる。 3 課題について、客観的な事実を踏まえながら立論することができる。 4 研究の成果を卒業論文としてまとめることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。		課題についての調査及び報告の準備	
第2回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。		課題についての調査及び報告の準備	
第3回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。		課題についての調査及び報告の準備	
第4回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。		課題についての調査及び報告の準備	
第5回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。		課題についての調査及び報告の準備	
第6回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。		課題についての調査及び報告の準備	
第7回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。		課題についての調査及び報告の準備	
第8回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。		課題についての調査及び報告の準備	
第9回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。		課題についての調査及び報告の準備	
第10回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。		課題についての調査及び報告の準備	
第11回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。		課題についての調査及び報告の準備	
第12回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。		課題についての調査及び報告の準備	
第13回	卒業論文発表会（複数ゼミ合同で実施可）		発表及び口述試問の準備と発表後の振り返り	
第14回	卒業論文発表会（複数ゼミ合同で実施可）		発表及び口述試問の準備と発表後の振り返り	
第15回	卒論論文発表会（複数ゼミ合同で実施可）		発表及び口述試問の準備と発表後の振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	課さない。			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	80％（卒業論文の内容及び口述試問）			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業論文の様式や提出期限を遵守できるよう研究を進めること。			
教科書	特に指示しない。			
指定図書	特に指示しない。			
参考図書	『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房（購入済：1年次「基礎ゼミナール」で使用した教科書）			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照すること。	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	須藤 圭		単 位	4
授業の目的と概要	卒業論文は、大学での学びの集大成です。 この授業では、日本古代文学（上代、中古）をテーマにした卒業論文を作成します。論文を書くことはとても難しい作業ですが、ゼミでの発表、討議、個別指導によって、優れた論文に仕上げることを目指します。			
到達目標	◆以下の３つの能力を獲得することを目指します。 1 テーマに関する研究状況・研究史を的確に把握することができる。 2 論理的に考え、分析し、その結果を文章化することができる。 3 研究をとおして、多彩で広がりのある価値観を身につけることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス・どうして、卒業論文を書くのか？		◆卒業論文を書くための手順を理解しましょう。	
第2回	発表 いま、考えていること		◆研究テーマを熟考しましょう。	
第3回	調査・研究① 作品を熟読する		◆授業をふまえて、研究をふかめましょう。	
第4回～第5回	調査・研究② 疑問点を調べる		◆授業をふまえて、研究をふかめましょう。	
第6回～第7回	調査・研究③ テーマを見定める		◆授業をふまえて、研究をふかめましょう。	
第8回～第9回	調査・研究④ 先行研究をさがす		◆授業をふまえて、研究をふかめましょう。	
第10回～第14回	発表		◆発表をとおして、課題を見つけましょう。	
第15回	夏休みの課題（ここまで前期）		◆卒業論文をいちど書いてみましょう。	
第16回	夏休みの取り組みの報告		◆ここまでの取り組みをふりかえってみましょう。	
第17回	調査・研究⑤ 論文の構成を考える／ロジックを組む		◆授業をふまえて、研究をふかめましょう。	
第18回～第23回	発表		◆発表をとおして、課題を見つけましょう。	
第24回	調査・研究⑥ 注釈を付ける		◆授業をふまえて、研究をふかめましょう。	
第25回	調査・研究⑦ 見直しをする		◆授業をふまえて、研究をふかめましょう。	
第26回～第27回	卒業論文の完成と提出		◆優れた卒業論文を書き上げましょう。	
第28回～第30回	口頭試問・卒論発表会に向けた準備（ここまで後期）		◆分かりやすく伝えることを心がけましょう。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	◆レポート（６０％）。中間レポート、卒業論文を評価します。			
小テスト等	なし。			
成果発表	◆プレゼンテーション（２０％）。きちんと調べて、しっかりとした報告を心がけましょう。			
受講態度他	◆ディスカッション（２０％）。毎回、意欲的に議論に加わりましょう。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	◆適宜、個別指導を行います。 ◆折々に、九州国立博物館などに出かける機会を設けます。 ◆なお、受講生の人数によって、スケジュールを変更することもあります。授業のテーマ・概要に変更はありません。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	◆以下の本の関連する部分を必ず読んでおきましょう。 ◎『平安文学研究ハンドブック』（和泉書院、２００４年）			
オフィスアワー	前期・月４限／後期・水４限	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	間瀬 玲子		単 位	4
授業の目的 と概要	フランス文化が英語圏文化に与えた影響の中から卒業論文のテーマを自分で考えて選ぶ。選んだテーマに基づいて学術的な観点から文献を収集する。前期は他の学生の前で中間発表を行う。その後中間レポートを提出する。後期は担当教員の指導のもとで卒業論文を完成し、口頭試問において卒業論文に関する質問に答えることができることを目的とする。			
到達目標	1 フランス文化が英語圏文化に与えた影響の中から自分で卒業論文のテーマを見つけることができる。2 自分で選んだテーマに基づいて研究資料を収集することができる。3 筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとに他の学生の前で中間発表を行うことができる。4 研究の成果の一部を中間レポートにまとめることができる。5 中間レポートを再検討し、研究を更に進めることができる。6 筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとに他の学生の前でプレゼンテーションを行うことができる。7 論理的思考力や問題解決力を駆使して、研究の成果を卒業論文にまとめることができる。8 口頭試問において卒業論文に関する質問に答えることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回～第 2回	卒業論文のテーマを考える。		課題（テーマの概略）	
第 3回～第 4回	卒業論文のテーマを決定する。		課題（テーマ決定）	
第 5回～第 6回	卒業論文の章・節を考える。		課題（章・節の案）	
第 7回～第 8回	卒業論文の章・節を決定する。		課題（章・節決定）	
第 9回～第10回	参考文献を収集する。		課題（参考文献一覧表）	
第11回～第12回	参考文献の分析		課題（参考文献分析）	
第13回～第14回	筑女ネットに発表要旨をアップし、中間発表の準備を行う。		課題（発表要旨準備）	
第15回～第16回	中間発表会で発表を行い、中間レポートを作成する。		課題（中間レポート）	
第17回～第18回	中間レポートを見直す		課題（中間レポート見直し）	
第19回～第20回	文献収集を行う。		課題（文献収集）	
第21回～第22回	卒業論文の下書きを提出する。		課題（卒業論文の下書き）	
第23回～第24回	卒業論文の問題箇所を訂正する。		課題（卒業論文の下書き）	
第25回～第26回	卒業論文を提出する。		課題（卒業論文の見直し）	
第27回～第28回	研究発表要旨、発表原稿を作成する。		課題（研究発表要旨、発表原稿）	
第29回～第30回	口頭試問の準備及び口頭試問		課題（口述試験の準備）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	8 0 ％ 卒業論文			
小テスト等	なし			
成果発表	2 0 ％ 口頭試問			
受講態度他	なし			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	英語学科の規定に従い、卒業論文を完成させてください。論文提出後に口頭試問を行います			
教科書	教科書はありません。			
指定図書	寺本敬子『パリ万国博覧会とジャポニズムの誕生』思文閣出版、熊谷英人『フランス革命という鏡』白水社、渡辺真弓『パリ・オペラ座へようこそ』青林社			
参考図書	三浦信孝 『現代フランス社会を知るための6 2 章』明石書店			
オフィスワ ーク	前期は木曜日 2 講時、後期は水曜日 3 講時。個別指導が必要です。メールで前もって相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	高森 暁子		単 位	4
授業の目的 と概要	英語文学、文化、言語に関するテーマについて、卒業論文を作成することを目的とします。オリジナルな視点を持ってテーマを設定することが、論文作成の第一歩であり、最終的に良い論文になるかどうかを左右します。テーマ選びの段階から話し合い、結論まで首尾一貫した議論ができるよう指導をします。論文提出後には口頭試問を行ないます。			
到達目標	1. 論文にふさわしい適切な言語表現ができる。 2. 自ら設定したテーマについて、独自の視点をもって発展的に思考することができる。 3. 自分の考えを論理的かつ説得力のある文章で論じることができる。 4. 参考資料や文献を正しく参照・引用することができる。 5. 議論の流れを考えて、論文の構成を考えることができる。 6. 研究と論文の執筆を、1年間計画的に継続することができる。 7. 論文作法を実につけ、書式を整えることができる。 8. 自分の論文の内容を明確かつ論理的に説明することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション			作品およびテーマの絞り込み	
第 2- 3回 テーマの設定			研究計画作成に向けた準備	
第 4- 5回 研究計画の作成			資料の収集の方法について調べる	
第 6- 8回 資料・文献の収集と整理			先行研究に関する情報を収集する	
第 9-10回 先行研究調査			論文の構成を検討する	
第11-13回 論文構成の決定			論文作法について調べる	
第14回 論文書式と体裁の確認			中間報告をまとめる	
第15回 中間報告			論文作成	
第16-24回 論文作成			論文を通読して点検する	
第25回 論文点検			指摘を受けた箇所を修正する	
第26回 論文校正			指示に従って論文を構成しなおす	
第27回 論文校正			指示に従って内容を修正する	
第28回 論文校正			指示に従って文言を修正する	
第29回 口頭試問準備			口頭試問に向けた想定練習	
第30回 口頭試問			口頭試問の振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% 提出された論文			
小テスト等	なし			
成果発表	10% 口頭試問			
受講態度他	10% 自発的にアイディアを出し、継続的に執筆に取り組む姿勢を評価する			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	1・2年次で履修すべき全ての必修科目の単位を修得した人（編入生を除く）だけが、この科目を履修できます。決まった授業時間はないので、相談のうえ指導のスケジュールを決めます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	金曜 4 時間目	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文・制作（再）【演習】			開 講 時 期	通年
担 当 教 員	間瀬 玲子			単 位	4
授業の目的 と概要	フランス文化またはフランス文化が英語圏文化に与えた影響の中から卒業論文のテーマを自分で考えて選ぶ。選んだテーマに基づいて学術的な観点から文献を収集する。前期は他の学生の前で中間発表を行う。その後中間レポートを提出する。後期は担当教員の指導のもとで卒業論文を完成し、口頭試問において卒業論文に関する質問に答えることができることを目的とする。				
到達目標	1 フランス文化またはフランス文化が英語圏文化に与えた影響の中から自分で卒業論文のテーマを見つけることができる。2 @自分で選んだテーマに基づいて研究資料を収集することができる。3 筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとに他の学生の前で中間発表を行うことができる。4 研究の成果の一部を中間レポートにまとめることができる。5 中間レポートを再検討し、研究を更に進めることができる。6 筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとに他の学生の前でプレゼンテーションを行うことができる。7 論理的思考力や問題解決力を駆使して、研究の成果を卒業論文にまとめることができる。8 口頭試問において卒業論文に関する質問に答えることができる。				
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など					
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第 1回～第 2回	卒業論文のテーマを考える。			課題（テーマの概略）	
第 3回～第 4回	卒業論文のテーマを決定する。			課題（テーマ決定）	
第 5回～第 6回	卒業論文の章・節を考える。			課題（章・節の案）	
第 7回～第 8回	卒業論文の章・節を決定する。			課題（章・節決定）	
第 9回～第10回	参考文献を収集する。			課題（参考文献一覧表）	
第11回～第12回	参考文献の分析			課題（参考文献分析）	
第13回～第14回	筑女ネットに発表要旨をアップし、中間発表の準備を行う。			課題（発表要旨準備）	
第15回～第16回	中間発表会で発表を行い、中間レポートを作成する。			課題（中間レポート）	
第17回～第18回	中間レポートを見直す			課題（中間レポート見直し）	
第19回～第20回	文献収集を行う。			課題（文献収集）	
第21回～第22回	卒業論文の下書きを提出する。			課題（卒業論文の下書き）	
第23回～第24回	卒業論文の問題箇所を訂正する。			課題（卒業論文の下書き）	
第25回～第26回	卒業論文を提出する。			課題（卒業論文の見直し）	
第27回～第28回	研究発表要旨、発表原稿を作成する。			課題（研究発表要旨、発表原稿）	
第29回～第30回	口頭試問の準備及び口頭試問			課題（口述試験の準備）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	なし				
レポート	8 0 ％ 卒業論文				
小テスト等	なし				
成果発表	2 0 ％ 口頭試問				
受講態度他	なし				
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	規定に従い、卒業論文を完成させてください。規定は登録した受講生に説明します。論文提出後に口頭試問を行います。				
教科書	教科書はありません。				
指定図書	寺本敬子『パリ万国博覧会とジャポニスムの誕生』思文閣出版、熊谷英人『フランス革命という鏡』白水社、渡辺真弓『パリ・オペラ座へようこそ』青林社				
参考図書	三浦信孝 『現代フランス社会を知るための6 2 章』明石書店				
オフィスワ ーク	前期は木曜日 2 講時、後期は水曜日 3 講時。個別指導が必要です。メールで前もって相談してください。	メールアドレス			

授 業 科 目	卒業論文・制作（再）【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	荒巻 龍也		単 位	4
授業の目的 と概要	【論文】映像メディア（産業含む）ならびに映像メディアコンテンツについて調査・研究し、より深く理解する。 論文の書き方を書式も含めて理解し、調査・研究した内容についてまとめ、論文にする。 【シナリオ】シナリオの書き方を理解し、実際にシナリオを書いてみる。 【制作】映像コンテンツ作成の一連の流れ（企画から編集、完成まで）を理解する。 理解した一連の流れを実践し、映像作品を完成させる。			
到達目標	【論文】1. 卒業論文の書き方を理解し、研究論文を書くことができるようになる。 2. テーマを設定し、調査・研究した内容をまとめ、卒業論文として書き上げることができるようになる。 【シナリオ】1. シナリオが何であるかを理解できるようになる。 2. シナリオを書くことができるようになる。 【制作】1. 企画に基づいて構成・シナリオ、絵コンテなどを作成し撮影することができるようになる。 2. 撮影した素材をもとに編集し、映像作品を作り上げることができるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	基本的には「卒業ゼミナール」の延長で、個人指導を中心に行います。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1～ 2回	卒業論文・制作指導（1）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第 3～ 4回	卒業論文・制作指導（2）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第 5～ 6回	卒業論文・制作指導（3）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第 7～ 8回	卒業論文・制作指導（4）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第 9～10回	卒業論文・制作指導（5）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第11～12回	卒業論文・制作指導（6）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第13～14回	卒業論文・制作指導（7）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第15～16回	卒業論文・制作指導（8）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第17～18回	卒業論文・制作指導（9）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第19～20回	卒業論文・制作指導（10）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第21～22回	卒業論文・制作指導（11）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第23～24回	卒業論文・制作指導（12）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第25～26回	卒業論文・制作指導（13）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第27～28回	卒業論文・制作指導（14）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第29～30回	卒業論文・制作指導（15）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	90% 卒業論文、卒業制作（シナリオもしくは映像作品）の提出			
小テスト等	0% なし			
成果発表	10% 卒業論文、卒業制作の発表（会）			
受講態度他	0% なし			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	【卒業論文】映像メディア（産業含む）ならびに映像コンテンツに関する内容のものとします。（放送メディアに関するものでも可）和文で制作し、原則として20000字以上とする。A4版に印字する。詳細は後日指示します。 【シナリオ】200字詰め原稿用紙換算で60枚程度とします。詳細は後日指示します。 【卒業制作】アニメーションは5分以上、ドラマは10分以上、ドキュメンタリーは15分以上とします。その他の映像作品の場合は指示に従ってください。作品以外にも企画書、シナリオ、絵コンテなども提出します。			
教科書	なし（「筑女ネット」のオンライン教材ならびにプリント）			
指定図書	なし			
参考図書	授業でその都度紹介します。			
オフィスアワー	前期：火曜日2限目、水曜日2限目 後期：火曜日2限目、水曜日2限目	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文・制作（再）【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	一木 順		単 位	4
授業の目的と概要	自ら設定したテーマに向けて、リサーチ、立論および論文執筆を行い、規定の期日までに完成させる 授業は基本的に個別指導として行う。 中間報告は「卒業ゼミナールⅠ、Ⅱ」の時間を利用して行うこととする。			
到達目標	4年間の集大成として卒業論文を完成させることができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 卒論スケジュールの概略についての説明			なし	
第 2回 卒論テーマについてのディスカッション			卒論テーマ（A4用紙1～2枚）提出 提出期限 5/31/2015	
第 3回 文献収集および検討			参考文献リスト（所定の用紙で10枚）提出 8/30/2015	
第 4回 アウトラインの作成			なし	
第 5回 アウトラインの作成（A4用紙1～2枚）			アウトライン提出期限7月31日	
第 6回 第一回中間発表と質疑応答（卒業ゼミナールの時間内に行う）			論文作成	
第 7回 第1稿の執筆			論文作成	
第 8回 第1稿の執筆			第一稿期限9月30日	
第 9回 第二回中間発表と質疑応答（卒業ゼミナールの時間内に行う）			30分程度の口頭発表および20分の質疑応答に備えること	
第10回 最終稿の完成に向けて			最終稿執筆	
第11回 最終稿の完成に向けて			最終稿執筆	
第12回 最終稿の完成に向けて			最終稿執筆	
第13回 最終稿の完成に向けて			最終稿執筆	
第14回 最終稿の完成に向けて			最終稿執筆	
第15回 口頭試問			提出期限 12/21/2015	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	20%			
小テスト等	—			
成果発表	80%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業論文は以下の要項にしたがって執筆すること 1．内容としてはアメリカ文化、アメリカ社会、メディア文化などに限る。 2．分量としては、和文であれば20,000字程度、英文であれば8,000語程度 3．提出締め切りは12月20日（火）午後5時 中間での提出期限に遅れた場合は、卒論提出を認めないことがある			
教科書	なし			
指定図書	適宜指示する			
参考図書	卒論テーマに応じて、適宜指導する			
オフィスワー	木曜日の昼休み。研究室は3305（3号館3階）	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文・制作（再）【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	高森 暁子		単 位	4
授業の目的 と概要	英語圏文学、文化、言語、メディアに関するテーマについて、卒業論文を作成することを目的とします。 和文で論文を執筆する場合は、20,000字以上、英文の場合は8,000語以上とします。論文提出後には口頭試問が行われます。			
到達目標	1. 論文にふさわしい適切な言語表現ができる。 2. 自ら設定したテーマについて、独自の視点をもって発展的に思考することができる。 3. 自分の考えを論理的かつ説得力のある文章で論じることができる。 4. 参考資料や文献を正しく参照・引用することができる。 5. 議論の流れを考えて、論文の構成を考えることができる。 6. 研究と論文の執筆を、1年間計画的に継続することができる。 7. 論文作法を身につけて、書式や体裁を整えることができる。 8. 自分の論文の内容を明確かつ論理的に説明することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など				
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション			作品およびテーマの絞込み	
第 2- 3回 テーマの設定			研究計画作成に向けた準備	
第 4- 5回 研究計画の作成			資料の収集の方法について調べる	
第 6- 8回 資料・文献の収集と整理			先行研究に関する情報を収集する	
第 9-10回 先行研究調査			論文の構成を検討する	
第11-13回 論文構成の決定			論文作法について調べる	
第14回 論文書式と体裁の確認			中間報告をまとめる	
第15回 中間報告			論文作成	
第16-24回 論文作成			論文を通読して点検する	
第25回 論文点検			指摘を受けた箇所を修正する	
第26回 論文校正			指示に従って論文を構成しなおす	
第27回 論文校正			指示に従って内容を修正する	
第28回 論文校正			指示に従って文言を修正する	
第29回 口頭試問準備			口頭試問に向けた想定練習	
第30回 口頭試問			口頭試問の振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% 提出された論文			
小テスト等	なし			
成果発表	10% 口頭試問			
受講態度他	10% 自発的にアイディアを出し、継続的に執筆に取り組む姿勢を評価する			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	1・2年次で履修すべき全ての必修科目の単位を修得した人（編入生を除く）だけが、この科目を履修できます。 決まった授業時間はないので、相談のうえ指導のスケジュールを決めます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワ	金曜 4 時間目	メールアドレス		

授 業 科 目	卒業論文・制作（再）【演習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	橋本 嘉代		単 位	4
授業の目的と概要	【論文】社会現象など、関心のあるテーマについて、マスメディアやソーシャルメディアなどとの関連を考え、調査・研究することで、 より深く理解する。 論文の書き方を書式も含めて理解し、調査・研究した内容についてまとめ、論文にする。 【制作】 雑誌コンテンツ作成の一連の流れ（企画から編集、完成まで）を理解する。 理解した一連の流れを実践し、作品を完成させる。			
到達目標	【論文】 1. 卒業論文の書き方を理解し、研究論文を書くことができるようになる。 2. テーマを設定し、調査・研究した内容をまとめ、卒業論文として書き上げることができるようになる。 【制作】 1. 企画に基づいて構成・コンテを作成し、取材・撮影ができるようになる。 2. 撮影した素材をもとに編集し、雑誌コンテンツを作り上げることができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	基本的には「卒業ゼミナール」の延長で、個人指導を中心に行います。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1～ 2回	卒業論文・制作指導（1）		論文執筆、コンテ作成、コンテンツ企画	
第 3～ 4回	卒業論文・制作指導（2）		論文執筆、コンテ作成、コンテンツ制作準備	
第 5～ 6回	卒業論文・制作指導（3）		論文執筆、コンテ修正、コンテンツ制作準備	
第 7～ 8回	卒業論文・制作指導（4）		論文執筆、コンテ修正、コンテンツ制作準備	
第 9～10回	卒業論文・制作指導（5）		論文執筆、コンテ修正、コンテンツ制作準備	
第11～12回	卒業論文・制作指導（6）		論文執筆、コンテンツ制作	
第13～14回	卒業論文・制作指導（7）		論文執筆、コンテンツ制作	
第15～16回	卒業論文・制作指導（8）		論文執筆、コンテンツ制作	
第17～18回	卒業論文・制作指導（9）		論文執筆、コンテンツ仮提出	
第19～20回	卒業論文・制作指導（1 0）		論文執筆、コンテンツ修正	
第21～22回	卒業論文・制作指導（1 1）		論文執筆、コンテ作成、コンテンツ修正	
第23～24回	卒業論文・制作指導（1 2）		論文提出、コンテンツ修正	
第25～26回	卒業論文・制作指導（1 3）		論文へのフィードバック、コンテンツ提出	
第27～28回	卒業論文・制作指導（1 4）		論文再提出、コンテンツ最終調整・提出	
第29～30回	卒業論文・制作指導（1 5）		論文・コンテンツへの講評、フィードバック	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	90% 卒業論文、卒業制作（雑誌風コンテンツ）の提出			
小テスト等	0% なし			
成果発表	10% 卒業論文、卒業制作の発表（会）			
受講態度他	0% なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	【卒業論文】社会現象など、関心のあるテーマについて、マスメディアやソーシャルメディアなどとの関連を考えるもの。和文で制作し、原則として20000字以上とする。A4版に印字する。詳細は後日指示します。 【卒業制作】表紙・裏表紙を含め、8ページ以上（4の倍数）の雑誌風コンテンツとします。詳しくは指示に従ってください。作品以外にも企画書、コンテなども提出します。			
教科書	柳田寛之、2011、『DTP 印刷 デザイン の基本』玄光社			
指定図書	なし			
参考図書	授業でその都度紹介します。			
オフィスアワー	水曜12:30~1:00		メールアドレス	

授 業 科 目	ソフトウェア演習A【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	神屋 郁子		単 位	1
授業の目的 と概要	Microsoft Wordは、ビジネスで活用されているワープロソフトである。本講義では、Microsoft Wordの基本操作と発展的内容を学習し、Wordを活用するために必要な基本機能や操作方法から、図形や写真を効果的に使って魅せる文書の作成方法や見出しやヘッダー・フッターを設定して、長文を効率よく操作するテクニックまで幅広く学習する。			
到達目標	社会人としてビジネスの場で必要なビジネス文書、装飾的なチラシなどを、Wordの機能を存分に使い、自分の力で効率良く作成できるようにすることを目標とする。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回：Wordの基礎知識・文字の入力（基礎）			復習（教科書：基礎編第1章・第2章）	
第2回：文章の作成（基礎）			復習（教科書：基礎編第3章）	
第3回：表の作成（基礎）			復習（教科書：基礎編第4章）	
第4回：文章の編集（基礎）			復習（教科書：基礎編第5章）	
第5回：表現力をアップする機能（基礎）			復習（教科書：基礎編第6章）	
第6回：便利な機能・実践演習（基礎）			復習（教科書：基礎編第7章・総合問題）	
第7回：小テスト1回目（基礎）			復習（教科書：基礎編総合問題）	
第8回：図形や図表を使った文章の作成（応用）			復習（教科書：応用編第1章）	
第9回：写真を使った文書の作成・差し込み印刷（応用）			復習（教科書：応用編第2章・第3章）	
第10回：長文の作成（応用）			復習（教科書：応用編第4章）	
第11回：文章の校閲（応用）			復習（教科書：応用編第5章）	
第12回：Excelデータを利用した文書の作成・便利な機能（応用）			復習（教科書：応用編第6章・第7章）	
第13回：実践演習（応用）			復習（教科書：応用編総合問題）	
第14回：小テスト2回目（応用）			復習復習（教科書：応用編総合問題）	
第15回：まとめ			復習（教科書：基礎編総合問題・応用編総合問題）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30%			
レポート	40％（授業ごとに提出）			
小テスト等	20％（2回）			
成果発表	なし			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・教科書は必ず購入し持参すること。 ・欠席した場合も、講義資料には必ず目を通し、講義資料や教科書を参考にレポートに取り組み、欠席した分をフォローすること。			
教科書	「よくわかる Microsoft Word 2013 基礎 Windows 10/8.1/7対応」（FOM出版）2,000円（税別） 「よくわかる Microsoft Word 2013 応用 Windows 10/8.1/7対応」（FOM出版）2,000円（税別）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワ－	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	ソフトウェア演習B【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	劉 楠		単 位	1
授業の目的 と概要	Microsoft Excelは、ビジネスで活用されている表計算ソフトである。本講義では、Microsoft Excelの基本操作と発展的事項を学習し、基本機能や操作方法から、いろいろな関数や複合グラフ、テーブルの作成や管理などの機能まで幅広く学習する。問題集での演習を随時取り入れるようにし、受講生の習得状況の確認と学びの定着を図る。			
到達目標	ビジネスの場でMicrosoft Excelを使い必要な表を作成したり、活用できたりするようになることを目標とする。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ワークシートやブックを作成し、ブック内を移動する		復習（教科書 1-1、1-2）	
第2回	ワークシートやブックの書式を設定し、オプションと表示をカスタマイズする		復習（教科書 1-3、1-4）	
第3回	配布するためにワークシートやブックを設定する （第1章 小テスト）		復習(教科書 1-5、第1章全体の復習)	
第4回	セルやセル範囲にデータを挿入し、書式を設定する		復習（教科書 2-1、2-2）	
第5回	データをまとめる、整理する （第2章 小テスト）		復習(教科書 2-3、第2章全体の復習)	
第6回	テーブルを作成する、管理する		復習（教科書 3-1）	
第7回	テーブルのスタイルと設定オプションを管理する		復習（教科書 3-2）	
第8回	テーブルをフィルターする、並べ替える （第3章 小テスト）		復習(教科書 3-3、第3章全体の復習)	
第9回	関数を使用してデータを集計する		復習（教科書 4-1）	
第10回	関数を使用して条件付きの計算を実行する		復習（教科書 4-2）	
第11回	関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する （第4章 小テスト）		復習(教科書 4-3、第4章全体の復習)	
第12回	グラフを作成する		復習（教科書 5-1）	
第13回	グラフを書式設定する		復習（教科書 5-2）	
第14回	オブジェクトを挿入する、書式設定する （第5章 小テスト）		復習(教科書 5-3、第5章全体の復習)	
第15回	これまでの小テストの総解説		復習（教科書 全体の復習）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0			
レポート	なし			
小テスト等	80％ （合計5回分）			
成果発表	なし			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書は必ず購入し持参すること。 また、欠席した場合も、講義資料には必ず目を通し、講義資料や教科書を参考に練習問題（小テスト）に取り組み、欠席した分をフォローすること。 なお、授業の進捗状況は受講生の習得状況に合わせて変更される可能性がある。			
教科書	「よくわかるマスター MOS Excel 2013 対策テキスト&問題集 Windows 10/8.1/7対応」（FOM出版）2,000（税別）			
指定図書	－			
参考図書	「Excel 最強の教科書【完全版】」藤井直弥，大山啓介著（SBクリエイティブ株式会社出版）定価1,580（税別）			
オフィスワー	授業の前後にご相談ください	メールアドレス		

授 業 科 目	ソフトウェア演習C【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	古屋 啓子		単 位	1
授業の目的 と概要	社会人の基礎力として欠かせないプレゼンテーションは、情報を的確に伝えるだけでなく、相手を説得し、行動を促進することが求められる。そこには、論理的思考能力、確かな日本語コミュニケーション力、豊かな表現力など社会人として必要とされる能力が凝縮されている。 本講義では、PowerPointの基礎的な操作能力を習得するだけでなく、実際にプレゼンテーションを作成し、発表する体験を通して社会で通用するプレゼンテーション技術の習得を目的とする。			
到達目標	・ PowerPointの基本的な操作を習得し、プレゼンテーションを作成できる。 ・ プレゼンテーションの配布資料を印刷することができる。 ・ PowerPointを使用してプレゼンテーションを実施することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 テキスト第1章 PowerPointとプレゼンテーションの基礎知識 プレゼンテーションとは何か、PowerPointの起動から終了までの操作確認と講義の説明			テキストの準備 シラバスを読んでおく	
第2回 テキスト第2章 PowerPointとプレゼンテーションの作成 プレゼンテーションとは何か、スライドの作成から実行、発表者用ノートと配布資料を印刷する			予習（テキスト第2章） 復習（テキスト第1章）	
第3回 テキスト第3章 訴求力のあるスライドの作成の基本 表、グラフ、図解による表現方法を理解する			予習（テキスト第3章） 復習（テキスト第2章）	
第4回 テキスト第4章 訴求力のあるスライドの作成 表、グラフ、図形、SmartArtグラフィックを加工する			予習（テキスト第4章） 復習（テキスト第3章）	
第5回 テキスト第8章 オートデモの作成 アニメーションの設定、目的別スライドショーの作成			予習（テキスト第8章） 復習（テキスト第4章）	
第6回 画像やワードアートの挿入 引用と著作権 画像やワードアートの挿入と編集、練習問題 画像の加工、インターネットの素材の活用、知的財産			復習（テキスト第8章）	
第7回 プレゼンテーション課題作成			課題作成のため素材や資料などの準備	
第8回 プレゼンテーション課題作成			課題作成のため素材や資料などの準備	
第9回 プレゼンテーション課題作成 発表			課題完成、課題発表の練習	
第10回 プレゼンテーション課題作成 発表			課題完成、課題発表の練習	
第11回 テキスト第5章 紙面づくりの基本 紙面づくりの流れと基本を確認する			予習（テキスト第5章）	
第12回 テキスト第6章 瓦版の作成 ページレイアウト、図形、ワードアート、テキストボックス、画像を配置する			予習（テキスト第6章） 復習（テキスト第5章）	
第13回 テキスト第7章 カタログ冊子の作成 Word文書からスライドの作成、スライドマスターの編集			予習（テキスト第7章） 復習（テキスト第6章）	
第14回 総合問題			復習（テキスト第6章）	
第15回 まとめ			講義を振り返り、質問の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実技試験（50％）			
レポート	なし			
小テスト等	総合問題（10％）			
成果発表	プレゼン課題提出・発表（30％）			
受講態度他	授業に対する意欲（10％）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	コンピュータおよびWord、ブラウザ、メールの基本的操作ができること。 提出物は欠席された場合も後日自習をし提出してください。			
教科書	『よくわかる Microsoft PowerPoint 2013 ビジネス活用編』FOM出版			
指定図書	なし			
参考図書	『よくわかる Microsoft PowerPoint 2013 基礎』FOM出版			
オフィスワ－	授業の前後、またはメールで相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	ソフトウェア演習D【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	富永 信一		単 位	1
授業の目的 と概要	本演習は、データベースソフトの操作方法等に習熟するための演習を中心に行い、資格検定試験に合格できる程度の実力を養成する。データベースソフトであるMicrosoft Accessの基本的な使い方を確認し、その応用的な使い方まで身に付けることを可能とする。同ソフトウェアで何が出来るのか理解し、簡単なデータベースを作成したり、既存のデータベースをカスタマイズしたりする事ができるようになることを目標とする。			
到達目標	1. リレーショナルデータベースについて説明することができる。 2. 簡単なデータベースを設計し作成することができる。 3. Microsoft Accessの操作ができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス、データベース概説			データベースについての復習	
第2回 データベースの要素：テーブル			テーブルに関する復習	
第3回 データベースの要素：リレーションシップ			リレーションシップに関する復習	
第4回 データベースの要素：クエリ			クエリに関する復習	
第5回 データベースの要素：フォーム			フォームに関する復習	
第6回 データベースの要素：レポート			レポートに関する復習	
第7回 小テスト			小テストに関する復習	
第8回 SQL			SQL についての復習	
第9回 正規化			正規化についての復習	
第10回 データベースの作成：テーブルとリレーションシップ			作成したデータベースのテーブルとリレーションシップについて見直す	
第11回 データベースの作成：クエリ			作成したデータベースのクエリについて見直す	
第12回 データベースの作成：フォーム			作成したデータベースのフォームについて見直す	
第13回 データベースの作成：レポート			作成したデータベースのレポートについて見直す	
第14回 総まとめ			全体の復習	
第15回 小テスト			小テストに関する復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	授業中に提示される課題 40%			
小テスト等	小テスト 20% x 2			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度 20%			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	私語厳禁。			
教科書	「30時間でマスター Access2013」 実教出版			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介する			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	体育Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	宮平 喬・古田 瑞穂		単 位	1
授業の目的 と概要	本授業では、遊びを通じて子どもの基本的な運動機能の発達に必要な体の使い方を学ぶ。それを踏まえ、指導に必要な創造的な思考力を身に付けることを目的としている。また、適切な運動遊びを安全に指導・援助ができる能力を身に付け、子どものモデルになる保育・教育者として優れた所作や運動の模範ができることを目的にしている。			
到達目標	・ 遊具を用いた基本的な遊びを実践することができる。 ・ 遊びを通じた運動を子どもに指導することができる。 ・ 音楽と人の動きをうまくコーディネートし、表現することが可能となる。 ・ 運動あそびの楽しさを知り、安全に指導・援助することができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この授業は、体育指導の基盤をつくる内容であり、発展的内容を目指す体育Ⅱへつながる科目であり、かつ3年次の初等教科教育法（体育）に活用されます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション（授業の目的、計画、課題等）、体ならし			子どもの遊び、運動に関する知識を得ておく（予習）	
第2回 ダンス・ステップ			基本的なダンス・ステップを調べる（予習）	
第3回 子どもの体操・ダンス			子ども向けの体操について調べる（予習）	
第4回 小型遊具を用いた遊び ①フープ フープを用いた表現運動			ナワトビの基本技術を習得しておく（予習）	
第5回 小型遊具を用いた遊び ②縄跳び 縄跳びを用いた表現運動			授業で学んだナワトビの技の完成度を上げる（復習）	
第6回 小型遊具を用いた遊び ③ボール ボールを用いた表現運動			実技テストの練習（復習）	
第7回 複数の小型遊具を組み合わせた運動（フープ、縄跳び、ボール） 3種の遊具を用いた表現運動			実技テストの練習（復習）	
第8回 大型遊具を用いた遊び ①マット運動、②跳び箱の基本運動			実技テストの練習（復習） 運動創作発表の準備（予習）	
第9回 大型遊具を用いた遊び ①マット運動、②跳び箱、③鉄棒の基本運動			実技テストの練習（復習） 運動創作発表の準備（予習）	
第10回 大型遊具を用いた遊び ①マット運動、②跳び箱、③鉄棒、④平均台の基本運動			実技テストの練習（復習） 運動創作発表の準備（予習）	
第11回 大型遊具と小型遊具を融合させた遊び			実技テストの練習（復習） 運動創作の発表準備（予習）	
第12回 運動創作の発表			実技テストの練習（復習） 運動創作発表の準備（予習）	
第13回 運動創作の発表			実技テストの練習（復習） 運動創作発表の準備（予習）	
第14回 運動創作の発表			実技テストの練習（復習） 運動創作発表の準備（予習）	
第15回 授業総括及び授業評価			授業で実施した運動遊びについて整理・分類し知見とする（復習）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	5% 成果発表に対する学習指導案			
小テスト等	20% 実技テストは、小型遊具と大型遊具を用いて行う。原則として課題達成まで行う。			
成果発表	25% 音楽を用いた運動遊びをグループで考案し発表を行う。 原則として必須の課題である。 発表した作品はビデオ撮影し最終週に鑑賞し自己評価をする。			
受講態度他	50% 受講態度が悪い学生は10～50%減点する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	安全のため髪をまとめ、爪を伸ばさないこと。 子どもの気持ちに戻って実技を行うことが望ましい。 身体運動を通じて常に保育者の立場になって運動あそびを考えるよう心がける。 授業進行を妨げたり、他の受講者の妨げとなるような行為はしないこと。			
教科書	河田隆「幼児体育教本」 同文書院			
指定図書	特になし			
参考図書	柳沢秋孝『柳沢運動プログラムー基礎編ー』オフィスエム 細江文利 「新版 体育の学習」 光文書院			
オフィスワー	月曜日の12:20-13:10（宮平） 月曜日・水曜日12:20-13:10（古田）		メールアドレス	

授 業 科 目	体育Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	宮平 喬・古田 瑞穂		単 位	1
授業の目的と概要	幼少期から児童期までの身体運動の重要性を認識し、状況に応じたプログラムを作成し実践する能力を身に付ける。養育者や指導者にとって神経系の発達が著しいゴールデンエイジ期の遊びの重要性は認識済みである。その理論をどう展開し、実践していくかが授業の核になる。 人間が作り出した多様な遊びを体現しながら、創造的思考力を養うことを目的とする。 また、模擬指導実習、模擬授業を通じて、運動（あそび）の展開・指導方法・安全管理について学び、教育者としての資質を高めることを目的とする。			
到達目標	・ 課題となる運動を模倣し再現できる。 ・ 遊びを通じた運動の指導ができる。 ・ 幼小学校教育指導要領（体育）に準じた授業計画と体育の実技指導ができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この授業は、体育の模擬授業（簡易）を行う。体育Ⅰで学習した能力を指導法へ変換させたものであり、かつ3年次の初等教科教育法（体育）につながる科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（授業の目的、計画、課題等）		指定の参考書、参考図書に目を通す。（予習）	
第2回	表現遊びの展開と指導方法		テキストA,Bの「表現」に関する箇所を理解しておく。	
第3回	伝承あそびの展開と指導方法		伝承遊びに関する情報を収集しておく。（予習）	
第4回	歩・走の運動（動きの理解と気づき）及び学生による模擬授業（単元毎）		テキストA「走運動」,B「健康」に関する箇所を理解しておく。（予習）	
第5回	走・跳運動（動きの理解と気づき）及び学生による模擬授業（単元毎）		テキストA「跳運動」,B「健康」に関する箇所を理解しておく。（予習）	
第6回	ゲーム、ボール運動遊び及び学生による模擬授業（単元毎）		テキストA「ゲーム型」,B「健康」に関する箇所を理解しておく。（予習）	
第7回	ボールを使ったゲームの展開及び学生による模擬授業（単元毎）		テキストA「ゲーム」,B「健康」に関する箇所を理解しておく。（予習）	
第8回	器械運動（マット、跳び箱、平均台）及び学生による模擬授業（単元毎）		テキストA「マット」,B「健康」に関する箇所を理解しておく。（予習）	
第9回	器械運動（跳び箱）及び学生による模擬授業（単元毎）		テキストA「跳び箱」,B「健康」に関する箇所を理解しておく。（予習）	
第10回	器械運動（マット、跳び箱の組み合わせ）及び学生による模擬授業（単元毎）		テキストA「マット、跳び箱」,B「健康」に関する箇所を理解しておく。	
第11回	器械運動（鉄棒の支持・回転）及び学生による模擬授業（単元毎）		テキストA「鉄棒」,B「健康」に関する箇所を理解しておく。（予習）	
第12回	器械運動（鉄棒の組み合わせ技）及び 学生による模擬授業（単元毎）		テキストA「鉄棒」,B「健康」に関する箇所を理解しておく。（復習）	
第13回	小テストの実施及び学生による模擬授業（単元毎）		課題となる小テストの練習 小型遊具	
第14回	小テストの実施及び学生による模擬授業（単元毎）		課題となる小テストの練習 大型遊具	
第15回	実技テスト、授業総括及び授業評価		運動の必要性和実際を結びつけ、知見を整理する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％ なし			
レポート	10％ 体づくり運動（5％）・簡易な模擬授業の指導案（5％）			
小テスト等	20％ 伝承遊び（コマ、竹馬、けん玉）			
成果発表	20％ 体づくり運動の実施（5％）・簡易な模擬授業の実施（15％） 模擬授業の終了後、相互評価を行う。			
受講態度他	50％ 受講態度が悪い学生は10％～50％減点する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・教育の現場に立つことを常に頭にいれて授業に参加する。 ・安全性の保持のため、髪をまとめ、爪をのばさない。 ・運動に適した服装・シューズを準備する。 ・体づくり運動、模擬授業担当者は、備品、時間、内容等をしっかり準備すること。 ・用事のある方は、事前にメールをください。 ・条件が整えば、水泳も行います。			
教科書	河田隆「幼児体育教本」同文書院			
指定図書	特になし			
参考図書	細江文利『新版 体育の学習（福岡版）』光文書院（1－6）、文部科学省『小学校学習指導要領解説（体育編）』東洋館出版社＜テキストA＞、文部科学省『幼稚園教育要領』教育出版＜テキストB＞			
オフィスアワー	月曜日12:20-13:10 （宮平） 月・水曜日12:20-13:10（古田）		メールアドレス	

授 業 科 目	体験－アジア音楽【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	田村 史子		単 位	2
授業の目的 と概要	目的：アジアには、多様なパフォーマンス・アーツ（音楽・舞踊・演劇などの上演芸術）があります。このような芸術の多くは、何世代にもわって口承で伝えられてきたもので、人々の感性や考え方を 知る上で、とても重要な手がかりを与えてくれます。この実習では、インドネシアの伝統的な合奏音楽である“ガムラン”の演奏を実際に学び、それを通してアジア文化の実践的な理解を目指します。また、自らが学んだ異文化を他の人々に伝達する方法を学びます。 概要：ガムランは日本の雅楽や西洋のオーケストラにも匹敵するアジアを代表する合奏音楽です。日本の伝統音楽とも西洋の音楽とも全く 異なった独自の構造を持っています。この実習ではその原理を実践的に学びます。			
到達目標	1. ガムランの楽器の構造を理解し、その響きにあった演奏法を習得する。 2. 基礎的な楽曲を理解し、或る程度実際に合奏できるようになる。 3. 他の人々に自分の学んだことを伝達することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 ・関連する主な科目は下記のとおり。 アジア芸能史、アジア生活文化概論、体験－アジアの舞踊[演習]			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	ジャワ・ガムランの実技（1）楽器の構造の理解 音の出し方 ①		復習・予習	
第 2回	ジャワ・ガムランの実技（1）楽器の構造の理解 音の出し方 ②		復習・予習	
第 3回	ジャワ・ガムランの実技（2）合奏の基礎 ①		復習・予習	
第 4回	ジャワ・ガムランの実技（2）合奏の基礎 ②		復習・予習	
第 5回	ジャワ・ガムランの実技（2）合奏の基礎 ③		復習・予習	
第 6回	「ジャワ・ガムランを通して知る人々の生活と考え方・感じ方」 ①		復習・予習	
第 7回	ジャワ・ガムランの実技（3）楽曲の合奏 ①		復習・予習	
第 8回	ジャワ・ガムランの実技（3）楽曲の合奏 ②		復習・予習	
第 9回	ジャワ・ガムランの実技（3）楽曲の合奏 ③		復習・予習	
第10回	「ジャワ・ガムランを通して知る人々の生活と考え方・感じ方」②		復習・予習	
第11回	ガムランの実技の伝達 （1）どのようにして理解してもらうか		復習・予習	
第12回	ガムランの実技の伝達 （2）どのようにして合奏を成立たせるか		復習・予習	
第13回	ガムランの実技の伝達 （2）どのようにして合奏を成立たせるか		復習・予習	
第14回	総括 九州国立博物館でのガムラン・ワークショップ指導体験 （授業時間外に実施します）		復習・予習	
第15回	総括 九州国立博物館でのガムラン・ワークショップ指導体験 （授業時間外に実施します）		復習・予習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	0％			
小テスト等	50％ 2～3回、実技の小テストを行う。			
成果発表	25％ ガムランワークショップで、学外の人に合奏のやり方を伝達する。			
受講態度他	25％ 積極的な参加が求められる。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	1. 「体験－アジア音楽実習」と「体験－アジア舞踊実習」の両方を受講してください。片方 のみの受講は認めません。 2. 実技用の教材が必要です（参考テープ等）。授業の中で指示します。 3. 授業の進行によって回数等の変更があります。 4. 九州国立博物館でワークショップ指導体験をします。授業時間外（土曜日から日曜日）に実施します。			
教科書	随時プリントを用意。			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワ ーク	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してくださ い	メ ー ル ア ド レ ス		

授 業 科 目	体験－アジア舞踊【演習】		開講時期	後期
担 当 教 員	田村 史子		単 位	2
授業の目的と概要	目的：「体験－アジア音楽実習」にひきつづき、インドネシアの伝統舞踊である“ジャワ舞踊”を学びます。この実習では、舞踊の基礎を学び、アジアの身体感への理解を試みます。ガムランの演奏も継続して学び、音楽と舞踊の関係の理解に進みます。音楽の構造や身体の動きに現れたとアジアの宇宙観を、実技を通じて体感することができれば、アジアの文化のより深い理解を得ることができるとでしょう。また、人前で演奏し指導するために、合奏することのより深い意味を学びます。 概要：独自の構造と価値観を持つガムランとジャワ舞踊を、さらに深く学んでいきます。実践が中心ですが、その背景となる文化理解も深め ていきます。			
到達目標	1. ジャワ舞踊の基礎を学ぶ。 2. 合奏における楽器と楽器の演奏上の関係をより詳しく学ぶ 3. ジャワ舞踊の小品を学び、音楽と舞踊の関係を把握する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 ・関連する主な科目は下記のとおり。 アジア生活文化概論、アジア芸能史、体験－アジアの音楽[演習]			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 ジャワ舞踊の実技	(1)	体の動かし方・呼吸法 ①	復習・予習	
第 2回 ジャワ舞踊の実技	(2)	体の動かし方・呼吸法 ②	復習・予習	
第 3回 講義	「ジャワ舞踊の特徴」		復習・予習	
第 4回 ジャワ舞踊の実技	(3)	基礎的な振りの練習 ①	復習・予習	
第 5回 ジャワ舞踊の実技	(4)	基礎的な振りの練習 ②	復習・予習	
第 6回 講義	「ジャワ舞踊を通して知る人々の生活と考え方・感じ方」		復習・予習	
第 7回 ジャワ・ガムラン実技	(1)	より高度な楽曲の合奏を学ぶ ①	復習・予習	
第 8回 ジャワ・ガムラン実技	(2)	より高度な楽曲の合奏を学ぶ ②	復習・予習	
第 9回 ジャワ舞踊の実技	(5)	基礎的な振りの練習 ③	復習・予習	
第10回 ジャワ舞踊の実技	(3)	舞踊小品の練習 ①	復習・予習	
第11回 ジャワ舞踊の実技	(4)	舞踊小品の練習 ②	復習・予習	
第12回 ジャワ・ガムランと舞踊の実技	(1)		復習・予習	
第13回 ジャワ・ガムランと舞踊の実技	(2)		復習・予習	
第14回 総括	九州国立博物館でのガムランと舞踊・ワークショップ指導体験 (授業時間外に実施します) ①		復習・予習	
第15回 総括	九州国立博物館でのガムランと舞踊・ワークショップ指導体験 (授業時間外に実施します) ②		復習・予習	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	50% 2～3回、実技の小テストを行う。			
成果発表	0%			
受講態度他	50% 積極的な参加が求められる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 「体験－アジア音楽実習」と「体験－アジア舞踊実習」の両方を受講してください。片方 のみの受講は認めません。 2. 実技用の教材が必要です(舞踊の練習用の布、参考テープ等)。授業の中で指示します。 3. 授業の進行によって回数等の変更があります。 4. 九州国立博物館でワークショップ指導体験をします。授業時間外(土曜日から日曜日)に実施します。			
教科書	随時プリントを用意。			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください		メールアドレス	

授 業 科 目	体験－伝統文化【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小林 知美		単 位	2
授業の目的 と概要	テーマ：伝統美術 日本の伝統的絵画である日本画や、近代以前の彫刻の主流をなしていた仏像などの美術作品は、現代の日本人にとってあまりなじみのない存在といえます。この授業では、調査を通して美術作品に接近しそれを歴史的に考察するという美術史学の方法論を身につけ、それによって伝統文化の歴史に接近することを目的とします。 概要：伝統的美術作品を鑑賞する方法について、まずは教室で基礎的な知識を学び、その上で、教室外・学外での実地調査を行います。調査対象によっては、専門学芸員の指導のもと、文化財調査の基礎を学びます。実地調査は、時間外・学外授業として実施します。			
到達目標	・ 伝統的美術作品を鑑賞し、その作品について美術史的解説をすることができる。 ・ 美術作品の実地調査の方法について具体的に説明し、実践することができる。 ・ 実地調査の成果を調書としてまとめることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：授業の目的と方法		地域の伝統的美術作品の情報収集	
第2回	絵画Ⅰ：分類		ミニレポート	
第3回	絵画Ⅱ：歴史		ミニレポート	
第4回	絵画Ⅲ：調査方法		ミニレポート	
第5回	絵画Ⅴ：実地調査 ※時間外・学外授業としてまとめて実施します（詳細未定）		調書作成のための調べもの	
第 6 回	絵画Ⅳ：実地調査 ※時間外・学外授業としてまとめて実施します（詳細未定）		調書作成のための調べもの	
第7回	絵画Ⅴ：調書作成		完成調書の提出と意見交換	
第8回	彫刻Ⅰ：分類		ミニレポート	
第9回	彫刻Ⅱ：歴史		ミニレポート	
第10回	彫刻Ⅲ：調査方法		ミニレポート	
第11回	彫刻Ⅳ：実地調査の予習		ミニレポート	
第12回	彫刻Ⅴ：実地調査 ※時間外・学外授業としてまとめて実施します（詳細未定）		作品解説のための調べもの	
第13回	彫刻Ⅵ：実地調査 ※時間外・学外授業としてまとめて実施します（詳細未定）		作品解説のための調べもの	
第14回	彫刻Ⅶ：作品解説（400字程度）の執筆		作品解説の執筆	
第15回	まとめ：「伝統的美術作品（自由テーマ）」の口頭発表と意見交換		授業全体の振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 第7回で提出する作品調書（30%）と第14回で書く作品解説（30%）			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 第15回での「伝統的美術作品（自由テーマ）」の口頭発表と意見交換における参加姿勢			
受講態度他	20% 実地調査での参加姿勢、調査成果としての調書や解説の執筆内容			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	実地調査の際の交通費、見学費は各自で負担する（観世音寺の場合、拝観料は学生300円）。 調書の書式や素材は筑女ネットにUPしているものを使用。 この実習では、現在も信仰の対象となっている仏像や、社寺や個人が代々守り伝えてきた作品を対象としするため、作品の調査時には十分配慮して行動すること。			
教科書	なし			
指定図書	西川京太郎監修・八尋和泉編集『仏像を旅する九州・沖縄編』至文堂（1992）、東京芸術大学大学院文化財保存学日本画研究室『図解日本画の伝統と継承』東京美術（2002）。			
参考図書	なし			
オフィスワ ーク	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	体験－ミュージック・セラピー【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	田村 史子		単 位	2
授業の目的と概要	目的：音楽は不思議な力を持つ。言葉には表すことのできない深い思いを伝えたり、人と自然や超自然的な存在との交流を可能にしたりする。また、心や体に障がいを持つ人たちが、音楽によって自由に動けるようになる瞬間さえある。この授業では、ミュージック・セラピー（音楽療法）について基本的なことを学んだ後、実際に、障がいを持つ人たちのグループとともにガムランを用いて体験プログラムを行う。体験のための音楽としてガムランを用いるので、体験－アジア音楽実習・アジア舞踊実習を履修していることが望ましい。 概要：アジアの音楽は、その構造の中に、さまざまな立場の人々が、ともに輝き、精神的に豊かに生きていくための知恵と力が組み込まれている。その力を感じ取るために、理論的・実践的に学び、実際に、地域の知的障がいを持つ人たちと交流会を持って、学んだことを実践する。			
到達目標	1. ミュージック・セラピー（音楽療法）について基本的なことを理解する。 2. 音楽（“ガムラン”）を用いて、障がいを持つ人たちと交流することを理解する。 3. さまざまな人たちとの“ともいき”の可能性について考える支点を得る。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 関連科目：体験－アジア音楽[演習]、体験－アジア舞踊[演習]、			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 導入：	ミュージック・セラピー（音楽療法）について		復習と予習	
第2回 導入：	ガムランの持つ力について		復習と予習	
第3回 実技：	ガムランの実技の研修①		復習と予習	
第4回 実技：	ガムランの実技の研修②		復習と予習	
第5回 実技：	ガムランの実技の研修③		復習と予習	
第6回 実技：	ガムランの実技の研修④ 障がいを持つ人た ちとの交流会 （1 1 月中の日曜日）		復習と予習	
第7回 実技：	ガムランの実技の研修⑤ 障がいを持つ人た ちとの交流会 （1 1 月中の日曜日）		復習と予習	
第8回音楽の力：	交流会の分析から学ぶ		復習と予習	
第9回音楽の力：	よりよい演奏を目指す		復習と予習	
第10回音楽の力：	よりよい演奏を目指す		復習と予習	
第11回音楽の力：	音楽と人と社会のかかわりについて		復習と予習	
第12回音楽の力：	音楽と人と社会のかかわりについて		復習と予習	
第13回実技：	ガムランの実技の研修⑥ 障がいを持つ人た ちとの交流会 （1 2 月中の日曜日）		復習と予習	
第14回実技：	ガムランの実技の研修⑥ 障がいを持つ人た ちとの交流会 （1 2 月中の日曜日）		復習と予習	
第15回	：交流会の結果を検討し問題点・青果などについてまとめる		復習と予習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	％			
レポート	5 0 ％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	5 0 ％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 自ら体験することがすべてです。積極的な関与を求めます。 2. 交流会は2回、授業外の時間帯に行われます。本学で行われる場合と、学外で行われる場合があります。その場合の交通費は自己負担です。			
教科書	随時プリントを用意			
指定図書	生野里花『音楽療法師のしごと』			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		

授 業 科 目	体験－ミュージアムで学ぶアジア【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	田村 史子・小林 知美		単 位	2
授業の目的と概要	目的：太宰府は、「まるごと博物館」と呼ばれるように、歴史文化の豊かな地域です。 この地域性を活かし、学外の博物館・遺跡見学や文化活動の体験を通して、現在の我々の生活が、アジアとの文化交流の上に成り立っていることを学びます。 概要：授業内容は二部構成。一部（第1回～第9回）ではアジアの歴史について、二部（第10回～第15回）では現代アジアについて学びます。一部では、太宰府という屋根のないミュージアム（博物館や史跡など）に足を運び、実地体験を通して歴史を学びます。二部では、福岡市アジア文化賞受賞者の様々な活動を知ること、現代国際社会におけるアジアの現状と課題を考えます。 担当教員や学外講師による講義と実地体験を組み合わせ、実際の知見を身につけます。			
到達目標	・ミュージアムに親しみ、自ら訪れ、楽しみながら学ぶ姿勢を身につける。 ・五感を通じた体験のなかで見出した印象や疑問を、言葉として表現することができる。 ・太宰府の歴史文化について、そのアジアにおける位置づけを、具体的に説明することができる。 ・現代の国際社会におけるアジアの現状と課題について、具体的な例をあげて説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -⑥人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション		各自の授業スケジュール確認をする。	
第 2 回	合同授業「アジアの中の日本美術～九州国立博物館文化交流展示室見学にむけて～」（小林）		見学に備えて講義内容を復習する。	
第 3 回	特別授業「博物館の多様性～九州国立博物館バックヤードツアーにむけて～」（外部講師）		見学に備えて講義内容を復習する。	
第 4 回	特別授業「古代の太宰府～太宰府史跡見学にむけて～」（外部講師）		レポート①「太宰府の歴史～講義と体験を通して～」の準備。	
第 5 回	太宰府史跡見学（田村、小林） 実施予定日未定 ※雨天の場合延期。第5～7回合同授業。		レポート②「ミュージアム体験記（九博文化交流展示室とバックヤード）」	
第 6 回	太宰府史跡見学（田村、小林） 実施予定日未定 ※雨天の場合延期。第5～7回合同授業。		レポート②「ミュージアム体験記（九博文化交流展示室とバックヤード）」	
第 7 回	太宰府史跡見学（田村、小林） 実施予定日未定 ※雨天の場合延期。第5～7回合同授業。		レポート①「太宰府の歴史～講義と体験を通して～」準備	
第 8 回	Aクラス：九州国立博物館バックヤードツアー（田村）／Bクラス：九州国立博物館文化交流展示室見学（小林）		レポート②「ミュージアム体験記（九博展示室とバックヤード）」準備	
第 9 回	Aクラス：九州国立博物館文化交流展示室見学（小林）／Bクラス：九州国立博物館バックヤードツアー（田村）		レポート②「ミュージアム体験記（九博展示室とバックヤード）」準備	
第10回	合同授業「私のアジア学～音を通して知るアジアの人々の生活と考え方～」（田村）		レポート③「私のアジア学（ミュージアム、アジア文化賞に関して）」準備	
第11回	合同授業「私のアジア学（ミュージアム、アジア文化賞に関して）」（学科講師）		レポート③「私のアジア学」準備	
第12回	合同授業「私のアジア学～仏教説話画の展開～」（小林）		レポート③「私のアジア学（ミュージアム、アジア文化賞に関して）」準備	
第13回	合同授業「アジア文化の多様性～福岡市アジア文化賞の受賞者から～」（田村）		「福岡市アジア文化賞」関連資料探索	
第14回	「福岡市アジア文化賞～誕生と軌跡～」（外部講師）		「福岡市アジア文化賞」関連資料探索	
第15回	総括		これまでの振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％ レポート3本（各20％）			
小テスト等	－			
成果発表	0％			
受講態度他	40％ 授業への参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ここでいうミュージアムとは、施設とは限りません。主に近隣の九州国立博物館を授業での見学先としますが、ほかの施設・遺跡も対象とします。毎回、集合場所や時間などを必ず確認してください。見学に際しては、安全やマナーを各自でじゅうぶんに心がけること。 レポートの提出期限は、①「太宰府の歴史～講義と体験を通して～」、②「ミュージアム体験記（九博展示室とバックヤード）」、③「私のアジア学（ミュージアム、アジア文化賞に関して）」。			
教科書	なし			
指定図書	森弘子『太宰府発見』海鳥社（第2刷）、九州国立博物館『いにしへの旅』西日本新聞社（増補版2005）、加藤暁子・福岡アジア文化賞委員会事務局『アジアと考えるアジア』西日本新聞社（2014）。			
参考図書	太宰府市・太宰府市教育委員会・太宰府市文化スポーツ振興財団『まるごと太宰府歴史展』（2012）ほか、適宜紹介します。			
オフィスワー	（田村） （小林）月曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	大衆文化史【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小山 昌宏		単 位	2
授業の目的と概要	1. この授業は、大衆文化史、主にマンガメディアの基礎知識、マンガ文化が時代、社会与えた影響について学ぶ。 2. 第1～3回は、マンガの定義、現在にいたる外観を、東西の古典的作品について歴史的意義とともに学び、第4～7回は、さらにテーマごとにその歴史を掘り下げ、第8～15回は、マンガ固有の現代的課題についてトピック別に解題する。 3. 1・2により、マンガメディアの生成、マンガ文化の歴史、その概要に関する基礎知識を身につけることを目的とする。 4. 具体的には、講義後のデジタル「資料」による復習、リアクションペーパーまとめによる復習（振り返り）を踏まえ、立体的に講義内容を理解することを目的とする。			
到達目標	1. マンガの歴史、文化の概要、その発展から日本マンガへの発展について説明することができる。 2. マンガメディア、マンガ文化の概要について説明することができる。 3. マンガ文化が有する諸問題点を発見し、それについて掘り下げ、考えることができ、その内容について報告ができる。 4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、自分独自の「マンガ観」を形成することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	マンガとは何か? ～西欧コミックの源流からコミック雑誌の誕生まで		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第2回	「江戸漫画」史から「明治漫画」史へ ～近代日本漫画の成立と西欧諷刺精神について		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第3回	戦後サブカルチャーのマンガ史 ～「資本マンガ」「ガロ」「COM」からSFの時代へ		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第4回	手塚治虫マンガ論 ～現代マンガに与えた手塚治虫の影響とは？		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第5回	マンガ雑誌・栄枯盛衰史 ～マンガ雑誌の市場占有率にみる消えたマンガ雑誌の推移		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第6回	少年ジャンプ論 ～ライバル誌を見据えた成功の仕組（コンセプト・専属契約・打ち切り）		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第7回	ギャグ・パロディマンガ史 ～ユーモアマンガ・パロディマンガからギャグアニメへ		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第8回	恋愛マンガ論 ～あだち充「タッチ」・咲坂伊緒「アオハライド」にみる恋愛表象の変化		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第9回	原発マンガ史 ～偽・手塚治虫「よみがえるジャングルの歌声」から、ももち麗子「デイジー」まで		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第10回	マンガ論争論 ～マンガ表現の基準、表現規制の歴史、表現の自由について		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第11回	マンガ図書館・ミュージアム論 ～その歴史、機能、役割について		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第12回	マンガ著作権論 ～人格権と複製権：「トレース」「同人誌」「マンガ家と原作者」を視軸に		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第13回	マンガ・メディアミックス論 ～ドラマ化の課題と電子コミックの未来		報告会のためのテーマ選定	
第14回	マンガ産業論 ～コミックマネージメントの課題（佐藤秀峰「漫画貧乏」を読む）		報告会のための資料作成	
第15回	まとめ 報告会 全体討論		報告会を受け、レポート作成準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％（期末レポート1回）、20％（授業毎のリアクションペーパー（感想・質問：出席表）)の内容を加味いたします			
小テスト等	なし			
成果発表	20％（第15回授業時に、事前に選定したテーマに基づき、報告の上、全体討論をおこないます）			
受講態度他	第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 教科書はありません。毎回レジュメ（プリント資料）を配布いたします。また授業内で使用する資料はデジタル資料（筑女ネット）にアップします。 2. この授業では、リアクションペーパー内容について、適宜次回授業のはじめに振り返り紹介いたします（復習） 3. 1・2により、最終報告会にいたる学習成果が、期末レポート作成に活かされます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	小山昌宏・玉川博章・小池隆太編『マンガ研究13講』（水声社）、小山昌宏『戦後「日本マンガ」論争史』（現代書館）			
オフィスアワー	水曜日 2 限目（10:50～12:20）		メールアドレス	

授 業 科 目	対照言語学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	高井 岩生		単 位	2
授業の目的と概要	留学生と接していると、我々日本人からは想像もできないような間違いをよく聞く。彼らの目には、日本語はどのように映っているのだろうか。日本語を客観的に捉えるには、他の言語と比較し、その相違点を見つけ出すのが有効である。本講義では、日本語と英語、中国語（場合によれば他の言語）との比較を通して、特に日本語教育に繋がるような日本語の特性を明らかにすることを目的とする。			
到達目標	日本語と英語・中国語の音韻、統語、語用の各分野の相違点を理解する。日本語の誤用例を分析し、原因を見つけることができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日文（3）-②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 日文（3）-②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 英語（3）-①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 英語（3）-②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、参考図書、資料の紹介など）		日本語学に関する書籍を読んでおくこと。	
第2回	対照言語学の概論（方法論と実例）		前回の授業で配布した資料を熟読すること。	
第3回	学習者の誤用（音声と表記の誤用）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第4回	日本語の音声（子音と母音、音節とモーラ）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第5回	英語・中国語の音声（子音と母音、音節とモーラ）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第6回	誤用分析(音声と表記)		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第7回	学習者の誤用（文法）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第8回	日本語の文法（自他動詞、格助詞、ハとガ、テイル形など）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第9回	英語・中国語の文法（自他動詞、前置詞、介詞、主語と主題、アспект、テンスなど）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第10回	誤用分析（文法）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第11回	学習者の誤用（ポライトネス、発話行為、言外の意味など）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第12回	日本語（ポライトネス、発話行為、言外の意味など）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第13回	英語・中国語（ポライトネス、発話行為、言外の意味など）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第14回	誤用分析（ポライトネス）		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
第15回	授業のまとめ、授業評価アンケート、試験について		前回の授業時に配布したプリントを読み直しておくこと。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 積極的な授業参加を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語・スマホの閲覧は原則的に禁止します。授業内容で分からないところがあれば、そのままにせずに、調べたり、質問する習慣をつけましょう。			
教科書	使用せず。プリント配布			
指定図書	特になし。必要があれば、授業中に紹介する。			
参考図書	特になし。必要があれば、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後、またはメールで相談		メールアドレス	

授 業 科 目	対人コミュニケーション論Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	中村 万里		単 位	2
授業の目的 と概要	対人コミュニケーションにはバーバルコミュニケーション（言葉によるもの）とノンバーバルコミュニケーション（言葉によらないもの）がある。日本における対人コミュニケーションをマナーを通して学ぶことを目的とする。 教科書を用いて、対人コミュニケーションの具体的なことを学ぶ。また、江戸しぐさについても触れる。講義においては、就職のための実践的な指導も行う。			
到達目標	1.コミュニケーションを理解・説明できる。 2.対人コミュニケーションを理解・説明できる。 3.マナーを学び、説明できる。 4.相互承認を学ぶことができる。 5.就職対策ができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション			授業の復習	
第 2回 コミュニケーションとは			授業の復習	
第 3回 対人コミュニケーションとは			授業の復習	
第 4回 コミュニケーションと江戸しぐさ			授業の復習	
第 5回 マナーと江戸しぐさ			授業の復習	
第 6回 ことば遣いのマナー			授業の復習、テキスト熟読	
第 7回 敬語の使い方			授業の復習、テキスト熟読	
第 8回 立ち居振る舞いのマナー			授業の復習	
第 9回 話し方のマナー			授業の復習、テキスト熟読	
第10回 聞き方のマナー			授業の復習、テキスト熟読	
第11回 気くばりのマナー			授業の復習、テキスト熟読	
第12回 席次のマナー			授業の復習、テキスト熟読	
第13回 食事のマナー			授業の復習	
第14回 ビジネスのマナー			授業の復習	
第15回 まとめ			授業の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	7 0％ 期末試験			
レポート	2 0％ 小レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	1 0％ 出席状況			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	プリント配布			
指定図書	中村万里他『実践 日本語表現ワークブック』晄印書館 中村万里他『入門 日本語学ワークブック』双文社出版			
参考図書	中村万里『人とうまく話せますか』双文社出版			
オフィスワ－	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	対人コミュニケーション論Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	中村 万里		単 位	2
授業の目的 と概要	対人コミュニケーションⅠで学んだことを踏まえて、日本における対人コミュニケーション（バーバル、ノンバーバル）について知ることを目的とする。 教科書を用いて、対人コミュニケーションを具体的に学ぶ。また講義においては就職のための実践的な指導も行う。			
到達目標	1.対人コミュニケーションを説明できる。 2.マナーとコミュニケーションを説明できる。 3.マナーを通して、就職対策をすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション		授業の復習	
第 2回	マナーとコミュニケーション（1）		授業の復習	
第 3回	マナーとコミュニケーション（2）		授業の復習	
第 4回	訪問のマナー（1）		授業の復習、テキスト熟読	
第 5回	訪問のマナー（2）		授業の復習、テキスト熟読	
第 6回	来客対応のマナー（1）		授業の復習、テキスト熟読	
第 7回	来客対応のマナー（2）		授業の復習、テキスト熟読	
第 8回	電話のマナー（1）		授業の復習、テキスト熟読	
第 9回	電話のマナー（2）		授業の復習、テキスト熟読	
第10回	手紙のマナー		授業の復習、テキスト熟読	
第11回	手紙の書き方		授業の復習、テキスト熟読	
第12回	はがき・封筒の書き方		授業の復習、テキスト熟読	
第13回	FAX・Eメールの書き方		授業の復習、テキスト熟読	
第14回	履歴書・エントリーシートの書き方		授業の復習、テキスト熟読	
第15回	まとめと就職対策		授業の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 期末試験			
レポート	20％ 小レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ 出席状況			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	プリント			
指定図書	中村万里他『実践 日本語表現ワークブック』 晝印書館 中村万里他『入門 日本語学ワークブック』 双文社出版			
参考図書	中村万里『人とうまく話せますか』 双文社出版			
オフィスワ－	木曜日2講目	メールアドレス		

授 業 科 目	太宰府学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	井上 理香		単 位	2
授業の目的と概要	皆さんが学生生活を送る太宰府は、いにしへの昔からさまざまな歴史事象の舞台となってきました。教科書をひもとくと、そこに登場する地名や人物の足跡・伝説などが、街の至る所に遺っています。市の面積の17%にも及ぶ広大な史跡地は、福岡都市圏の中でも貴重な自然環境を有して多くの人々に親しまれ、太宰府展行宮への参拝客を含めて、年間1千万人もの観光客が訪れる街として全国に知られています。 この授業を通して、歴史・文化と共に歩んできた太宰府という地域の特徴と、その風土を守り伝えてきた人々の取り組みを学び、若い皆さんが、永いバトンリレーの一奏者となって、さらに次の世代へ太宰府の魅力を伝えていただく契機とします。			
到達目標	1. 大学の所在地である「太宰府」の主要な史跡や文化財について、自分の言葉で説明することができる。 2. 生活の中で太宰府の歴史や文化が感じられる場所・空間を発見し、現代社会と歴史的遺産とを関連づけて認識できる。 3. 伝統文化が守り伝えられてきた背景を知り、分かりやすく冊子に表現することで、理論的思考とコミュニケーション・スキルを磨く。 4. 太宰府の魅力を身近な人々に伝える行為を通じて、史跡の保存・広報普及に寄与する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション、「歴史とみどり豊かな文化のまち」の背景 (授業の目標、課題・成果物について、授業の進め方と評価、基礎知識の確認)		教科書『太宰府紀行』、参考図書『目でみる太宰府』通覧。【レポート】	
第2回	大宰府の成立と役割 (当時の国際情勢とともに大宰府を理解)		教科書の「遠の朝廷1300年」を読んでおく。	
第3回	菅原道真と太宰府天満宮・さいふまいり (菅原道真の生涯と天神信仰)		教科書「太宰府天満宮と光明寺」を読んでおく。	
第4回	【学外授業①】太宰府天満宮見学とおもてなしの心を学ぶ(第5回とあわせて行う) ※入館料は各自負担		レポート作成(第4・5回分を合わせて)	
第5回	【学外授業①】大宰府天満宮見学とおもてなしの心を学ぶ(第4回とあわせて行う) ※入館料は各自負担		【レポート】(第4・5回分を合わせて)	
第6回	四王寺山と宝満山 (現在、ハイキングで賑わう二つの山の歴史的背景と変遷)		教科書「四王寺山」「宝満山」を読んでおく。	
第7回	【学外授業②】史跡のまち太宰府を歩く(第8回とあわせて行う)		レポート作成(第7・8回分を合わせて)	
第8回	【学外授業②】史跡のまち太宰府を歩く(第7回とあわせて行う)		【レポート】(第7・8回分を合わせて)	
第9回	文化のまち太宰府 (「太宰府学」の誕生と「文化のまち」への胎動)		授業前に天満宮参道を歩き、石碑をさがしておく。	
第10回	博覧会から博物館へ (幕末明治の太宰府から九州国立博物館の誘致・建設まで)		開講中に展覧会を見学しておく。	
第11回	【学外授業③】九州国立博物館見学(第12回とまとめて行う)		レポート作成(第11・12回分を合わせて)	
第12回	【学外授業③】九州国立博物館見学(第11回とまとめて行う)		【レポート】(第11・12回分を合わせて)	
第13回	太宰府観光と現代のまちづくり (人口の百倍もの観光客はなぜ来るか)		事前に配布の資料を通覧しておく。	
第14回	史跡の保存・活用と人々の暮らし (太宰府の歴史文化遺産とは何か)		【レポート】(第13・14回分を合わせて)	
第15回	全体総括。各人の成果発表・プレゼンテーション (「太宰府案内パンフレット」を各自で作成し、合評会を行う。)		「太宰府パンフレット」作成、プレゼン後提出。【総括レポート】	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% レポート提出(①太宰府のイメージ、②天満宮見学、③史跡巡り、④九博見学 ⑤観光まちづくり・史跡保存)(8点×5回)			
小テスト等	0%			
成果発表	30% ①成果物(パンフレット)制作と、最終回プレゼンテーション(人に伝える)(15点) ②全体総括レポート(15点)			
受講態度他	30% ①積極的な授業への参加と発言を求めます。私語禁止。(10点) ②各回の授業内容に応じたミニレポートの提出(5点/回×4回)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・学外授業では、交通手段及び集合/解散場所に留意し、訪問先での節度ある行動をお願いします。 ・最終回は「はじめて太宰府を訪れる人」を対象に「太宰府案内パンフレット」を各自制作し、プレゼン後に提出して下さい。 ・学習成果を「太宰府検定」でぜひ試してみてください(任意)。太宰府で学んだことが履歴書でもPRできる絶好の機会となるでしょう。			
教科書	(財)古都大宰府保存協会編『太宰府紀行』海鳥社、同『目で見る太宰府』			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	中・近世文学演習Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	安永 美恵		単 位	2
授業の目的と概要	近世文学作品の演習を通して、当該分野の基礎的な知識・技能を身につけることを目的とする科目です。これまで得た知識を活用しつつ、主体的に作品を読み疑問点を解決します。具体的には、本文を翻字し、解釈するための参考書籍を知り、これを使用して、正確な本文解釈ができるようになることです。また、発表や質疑応答を通して、資料の意味や自分の考えを説明伝達し、意見交換することも学びます。ここでは、井原西鶴の浮世草子作品を取り上げ、古典利用と、世の「人ごころ」を描くとされる作品の世界を理解します。また、浮世草子の特長でもある当代性を反映した表現や、人情の描写を味わい、鑑賞します。演習は、話の長短により、一話を3～4回で進める予定。担当者は担当範囲の演習発表を行い、他は、質問・意見を述べ、互いに意見交換を行う予定です。			
到達目標	1 版本影印による本文を翻字し、読むことができる。 2 根拠となる適切な用例・資料を用いて、正確な解釈をすることができる。 3 適切な資料・参考文献を使用して、発表資料を作ることができる。 4 発表に際しては、発表内容を準備し、他の受講生が理解できるように伝えることができる。 5 興味のあるテーマを設定し、文章構成を考え、レポートにまとめることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 1年次の「中・近世文学概論」、2年次の「中・近世文学講読」Ⅰ・Ⅱで得た知識を活用します。「中・近世文学演習Ⅱ」と合わせて、同時代作品に対する読解力、問題意識を高めます。4年次の「卒業論文」で江戸時代の資料を読解し、研究するための、基礎的な内容を含みます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回 ガイダンス：	授業のねらい、作品紹介、発表資料について		課題：作品理解（参考資料、テキスト解説）	
第 2 回 担当割当て決定：	担当希望日調整、発表資料について		課題：担当箇所の関係資料調査	
第 3 回 作者：	西鶴略年譜		課題：文献調査	
第 4 回 作品：	西鶴の浮世草子について		課題：文献調査	
第 5 回 調査手順：	用例調査、工具書（道具としての書籍）の利用		課題：発表資料作成	
第 6 回 発表準備：	翻字方法、発表に関する質疑応答		課題：発表資料作成	
第 7 回 発表と質疑応答：			課題：発表準備 予習：演習予定範囲	
第 8 回 発表と質疑応答：			課題：発表準備 予習：演習予定範囲	
第 9 回 発表と質疑応答：			課題：発表準備 予習：演習予定範囲	
第10回 発表と質疑応答：			課題：発表準備 予習：演習予定範囲	
第11回 発表と質疑応答：			課題：発表準備 予習：演習予定範囲	
第12回 発表と質疑応答：			課題：発表準備 予習：演習予定範囲	
第13回 発表と質疑応答：			課題：発表準備・レポート準備 予習：演習予定範囲	
第14回 発表と質疑応答：			課題：発表準備・レポート準備 予習：演習予定範囲	
第15回 まとめ			課題：レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 期末レポート（担当した範囲に関するもの）			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 口頭発表と質疑応答			
受講態度他	20％ 質問・意見等討議への参加状況など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講生は、演習範囲の予習で、疑問点を整理しておくことが望ましい。受講生は責任を持って担当箇所の発表を行うこと（一話を数人で分担するので、途中で抜けることのないように）。尚、担当は個人単位または二人組を予定しているが、受講生数により、担当形式やスケジュール、取り扱う作品を変更することがある。そのため、上記の演習発表範囲は、仮のものと理解しておいて欲しい。卒業論文で近世文学を取り扱う可能性のある場合は、受講しておくこと。			
教科書	プリント配布。伊地知鐵男編『仮名変体集』新典社。（但し、他の授業ですでに『字典 かな』笠間書院 を購入している場合はそれでよい）。			
指定図書	なし。			
参考図書	授業時に一覧を配布するほか、適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜昼休み、金曜 5 限		メールアドレス	

授 業 科 目	中・近世文学演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	安永 美恵		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、近世文学作品を主体的に読む力をつけることを目的としている。本文を解釈するだけでなく、作品に対して自分なりの問題意識を持てることが望ましい。プリント資料作成や、発表内容を伝える力も培い、同時に、他の参加者との意見交換によって理解を深めることができる。調査・検討結果をレポートにまとめることにより、論理的思考力も養うことができる。作品は、井原西鶴の『西鶴諸国はなし』を取り上げ、各話ごとに異なる世界を扱っている奇談集の様々な資料に触れることにより、知識の幅を広げたい。多様な読みの可能性があるので、積極的に謎解きに関わって欲しい。原則的に、1回一人から二人担当予定。なお、受講生数により、授業計画を一部変更することがある。			
到達目標	1 本文の影印版をもとに翻字し、注釈書の諸注を参照後、語釈・注・挿絵の説明をつけることができる。 2 語釈、通釈の根拠となる適切な用例を掲出することができる。 3 出典や他作品との比較を行うことができる。 4 担当した話に対しての自分なりの見解を述べるができる。 5 工具書や参考文献を適切に使用して調査し、発表資料（レジュメ）を作成して、内容を分かりやすく説明できる。 6 興味のあるテーマを設定し、文章構成を考え、的確にまとめることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 1年次の「中・近世文学概論」、2年次の「中・近世文学講読」Ⅰ・Ⅱ、「古典文学基礎演習」で学んだ知識を活用する科目です。「中・近世文学演習Ⅰ」と合わせて、近世文学への理解を深めることができ、4年次の「卒業論文」で、同時代の資料を取り扱うための、基礎的な内容を含みます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	ガイダンス： 講義のねらい、作品紹介、発表資料について		課題：作品理解	
第 2回	作品と創作： 『西鶴諸国はなし』の世界。		課題：作品理解	
第 3回	担当スケジュール、担当箇所決め： 実習などの予定があればこの日に調整		課題：文献・資料の調査・収集	
第 4回	作品と資料：一話（原則的に演習外の作品）を読む。		課題：文献・資料の調査・収集	
第 5回	PCスポット授業： 国文学研究資料館データベース利用方法他		課題：発表資料作成	
第 6回	発表準備： 出典探索、参考文献の利用		課題：発表資料作成	
第 7回	発表準備： 同時代資料、地図の見方		課題：発表準備 予習：授業予定作品を読む	
第 8回	発表と質疑応答：「見せぬ所は女大工」前半		課題：発表準備 予習：授業予定作品を読む	
第 9回	発表と質疑応答：「見せぬ所は女大工」後半		課題：発表準備 予習：授業予定作品を読む	
第10回	発表と質疑応答：「不思議の足音」前半		課題：発表準備 予習：授業予定作品を読む	
第11回	発表と質疑応答：「不思議の足音」後半		課題：発表準備・レポート準備 予習：授業予定作品を読む	
第12回	発表と質疑応答：「残る物とて金の鍋」前半		課題：発表準備・レポート準備 予習：授業予定作品を読む	
第13回	発表と質疑応答：「残る物とて金の鍋」後半		課題：発表準備・レポート準備 予習：授業予定作品を読む	
第14回	発表と質疑応答：「命に替わる鼻の先」		課題：レポート準備 予習：授業予定作品を読む	
第15回	まとめ、レポート作成準備		課題：レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 期末レポート（担当した章に関するもの）			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 口頭発表と質疑応答			
受講態度他	20％ 質問・意見			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回の作品を事前に読んでおくこと。また、担当決定後は責任を持って発表すること。なお、受講生数により、担当形式やスケジュール、取り上げる作品と章を変更することがある。そのため、上記は仮の範囲として理解しておくこと。 卒業論文で近世文学を選択する可能性のある場合は、必ず受講してほしい。			
教科書	配布プリント。伊地知鐵男編『仮名変体集』新典社。（但し、他の授業ですでに『字典 かな』笠間書院を購入している場合はそれを使用してよい）。			
指定図書	なし。			
参考図書	『新日本古典文学大系』岩波書店、『新編日本古典文学全集』小学館、『対訳西鶴全集』明治書院。西鶴作品他については授業時に一覧を配布する。			
オフィスアワー	火曜 5 限、木曜昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	中・近世文学概論（日本文学史を含む）【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	安永 美恵		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、日本文学のうち、中世文学、近世文学を対象として、その概要を知り、文学史的な基礎知識を得ることを目的としています。古代と近代との間に当るこの時期には、社会が大きく変化しました。文学にも変遷があり、多様化が進みます。そのため全体を全て扱うことはできませんが、前時代の継承と新しい展開に着目しつつ、作品の一部を読み、その変化について理解を得られるよう進めます。文学における表現にも、様々な考え方があることを知り、現代の表現との関わりにも関心をもってもらいたいと考えています。なお、文学史的な変遷を把握することは、文学だけでなく、言語や文化分野の理解にも役立ちます。			
到達目標	1 中世文学と近世文学について、文学史の概要を理解し、説明できる。 2 授業で学んだ作品を通して、代表的な文学観や文芸思潮、表現技法を説明することができる。 3 授業で学んだ作品について、作者、成立の背景、文学史的な意義を説明できる。 4 授業で学んだ作品について、自分なりの鑑賞文を書くことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	：授業概要説明・中世文学概観		テキスト予習、「中世」概説	
第 2回	：新古今集の時代		テキスト予習、「中世」第1章1．2	
第 3回	：連歌の展開		テキスト予習、「中世」第1章3．4	
第 4回	：説話		テキスト予習、「中世」第3章1	
第 5回	：軍記物語		テキスト予習、「中世」第3章2	
第 6回	：日記・紀行・随筆		テキスト予習、「中世」第5章	
第 7回	：近世文学概観 雅と俗		テキスト予習、「中世」第6章、「近世」概説、序章	
第 8回	：古典教養の浸透		テキスト予習、「近世」第7章	
第 9回	：文学観		テキスト予習、「近世」第3章	
第10回	：漢詩文		テキスト予習、「近世」第3章	
第11回	：和歌和文		テキスト予習、「近世」第1章	
第12回	：狂歌		テキスト予習、「近世」第1章2	
第13回	：俳諧		テキスト予習「近世」第2章	
第14回	：近世小説 仮名草子・浮世草子		テキスト予習、「近世」第5章1、2	
第15回	：近世小説 読本、まとめ		テキスト予習「近世」第5章3～10、試験準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 期末定期試験（講義内容を対象とする。到達目標1～4の達成。持ち込み不可）。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	40％ 講義内容について課す課題への回答（用紙回収）。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・授業中は、読み・考えることに集中する。これを中断するような行為（授業中の入退室、授業に関係のない私語など）は慎みましょう。 ・文学史について的小テストの内容、範囲は、授業で別途指示します。			
教科書	久保田淳編『日本文学史』おうふう、配布プリント			
指定図書	なし。			
参考図書	『新編日本古典文学全集』小学館 『新日本古典文学大系』岩波書店 他			
オフィスアワー	火曜 5 限、木曜昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	中・近世文学講読Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	安永 美恵		単 位	2
授業の目的と概要	日本の中・近世の文学作品を取り上げ、作品を読む講義を通して、日本語・日本文学分野の文学作品を読むための基礎知識を身につけることを目的とする科目です。近世の文学では、全時代までの古典に関する知識を素材として取り入れることが多く、特徴ともなっています。この講義では、古典をどのように利用してきたかに注目して、いくつかの作品を読みます。同時に、その一つの完成とされる『おくのほそ道』の長く読み継がれてきたすぐれた文章を味わって鑑賞します。 ・『源氏物語』、西行、および歌枕に関する古典に注目して読んでいきます。			
到達目標	1 授業で取り上げた作品について、古典作品が、どのように利用されたのか、具体的に説明することができる。 2 授業で取り上げた作品について、正しく解釈することができる。 3 紀行文としての『おくのほそ道』の特徴を説明することができる。 4 作品に対して、学んだことを踏まえて、自分の視点で鑑賞文を書くことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス 授業の目的と概要説明			テキスト解説を読む	
第2回 連歌から俳諧へ			配布プリント（連歌）復習	
第3回 江戸時代の俳諧 貞門・談林			配布プリント（貞門と談林）復習	
第4回 芭蕉と俳諧			配布プリント（芭蕉関係）の復習	
第5回 古典知識の浸透			配布プリントの復習	
第6回 西鶴の浮世草子			配布プリントの復習	
第7回 『おくのほそ道』 発端・旅立ち			「旅立」に関する課題に取り組む	
第8回 『おくのほそ道』 日光			テキスト本文を読む。	
第9回 『おくのほそ道』 那須野			テキスト本文を読む。	
第10回 『おくのほそ道』 遊行柳			「那須野」に関する課題に取り組む	
第11回 『おくのほそ道』 白河の関			テキスト本文「殺生石・遊行柳、白河の関」を読む。	
第12回 『おくのほそ道』 松島			テキスト本文「宮城野」～「松島」を読む。	
第13回 『おくのほそ道』 象潟			テキスト本文「出羽三山」～「象潟」を読む。	
第14回 『おくのほそ道』 多太神社			テキスト本文「市振」「～「大垣」を読む。	
第15回 『おくのほそ道』 全体の構成、まとめ			試験準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％（到達目標1～4の達成）			
レポート	20％（課題提出）			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	20％ 授業時に、鑑賞文あるいは授業内容に関する記述を課すものを含める。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・授業中は、読み・考えることに集中する。これを妨害する行為（私語、授業中の入退室、携帯電話利用（電源切り忘れ）、など）は慎むこと。 ・授業中の指示に従って、課題を提出すること。 ・授業では、一部分のみを読んでいますますが、受講生は全文を読んでおいってください。			
教科書	額原退蔵『新版 おくのほそ道 現代語訳/曾良随行日記付き』角川学芸出版			
指定図書	なし。			
参考図書	・授業時に指示する。			
オフィスアワー	火曜昼休み、金曜 5 限		メールアドレス	

授 業 科 目	中・近世文学講読Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	安永 美恵		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、近世の読本『雨月物語』を取り上げ、これを読むことにより、現代とは異なる近世小説の世界を理解できるようになることを目的としています。具体的には、1、構想や文章の表現に、和漢の古典がどのように利用されているか。2、作品の背景となる歴史・思想や、作者の人間把握はどのようなものであるか。という点に着目し、この時代の文学への理解を深めます。特に、高い評価を受けている文体の、緻密な表現を読み解くことは、読解力、洞察力を培うことにつながります。現代語訳によるストーリー把握だけでは不十分です。配布する資料や、他の話と合わせて読み、普遍的な価値がどこに見いだせるかを考えてもらえるよう期待します。			
到達目標	1 授業で取り上げた作品を理解し、内容について説明することができる。 2 典拠とその利用の意図を指摘し、説明することができる。 3 注目すべき表現や挿絵等について、表現の意図を考察することができる。 4 授業内容を踏まえて、作品の主題について考察し、考えを述べることができる。 5 作者と作品について、文学史上の位置と意義を述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	『雨月物語』について		テキストの解説を読む。	
第 2回	作者・上田秋成について		テキスト 「序」を読む。	
第 3回	「序」を読む		テキスト「菊花の約」を読む。	
第 4回	「白峰」を読む1 登場人物と場		テキスト「浅茅が宿」を読む。	
第 5回	「白峰」を読む2 保元物語		課題：「白峰」「菊花の約」「浅茅が宿」について	
第 6回	「白峰」を読む3 天狗		テキスト「白峰」を読む	
第 7回	「白峰」を読む4 怪異 と 主題		テキスト「仏法僧」を読む	
第 8回	天狗の登場する話		配布資料 『春雨物語』『目一つの神』を読む	
第 9回	『春雨物語』『目一つの神』		テキスト「蛇性の淫」を読む	
第10回	「蛇性の淫」を読む1 発端 登場人物と場		テキスト「吉備津の釜」を読む	
第11回	「蛇性の淫」を読む 2 怪異 出典		課題：「吉備津の釜」の登場人物との相違点	
第12回	「蛇性の淫」を読む 3 性		テキスト「青頭巾」を読む	
第13回	「蛇性の淫」を読む 4 変化		作品の「怖さ」について考える	
第14回	「蛇性の淫」を読む 5 視点		テキスト、配布資料の復習	
第15回	講義のまとめと試験について		試験準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 期末テスト（到達目標1～4の達成）			
レポート	20％ 課題（2回）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ コメントペーパーへの記載（授業時に課す課題に対して）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・ 授業中は、読み・考えることに集中する。これを妨害する行為（私語、授業中の入退室、携帯電話利用（電源切り忘れ）、など）は慎むこと。 ・ 授業中の指示に従って、課題を提出すること。			
教科書	上田秋成著 鶴月洋『改定版 雨月物語 現代語訳付』角川ソフィア文庫			
指定図書	無し。			
参考図書	新編日本古典文学全集78『英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語』小学館、井上泰至『春雨物語』角川ソフィア文庫 その他は、授業時に指示する。			
オフィスアワー	火曜 5 限、木曜昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	中国現代文学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	石 其琳		単 位	2
授業の目的と概要	「中国文学」は歴史が長く、古典より現代へと転形しつづけている。この講義は、新世紀の中国文学として、そのモダンからポストモダンへの実態を理解し、その問題点を考察することが目的とする。 中国現代文学の発展は、時代と共に範疇を拡大し続けている、特に新ジャンル「微型小説」を確立させたことを理解できる。現代中国文学の広義的創作視点から、「華文学」作品の地域性を重要視することが不可欠である。特にアジア文化を学習する上で、「中国現代文学」から「世界華文学」として展開し、アジア地域の作品が描く現実の理解を深め、作品が提示するさまざまな問題を啓発学習する。			
到達目標	1. 新世紀の中国文学について、その成立と展開過程を認識し、説明できる。 2. 中国現代文学の新しいジャンルの「微型小説」の確立を理解しし、説明できる。 3. 中国現代文学の領域、特に[微型小説]創作の地域性の視点より、「世界華文学」の位置づけと重要性を述べることができる。 4. 現在世界華文学の作品内容表現から、さまざまな問題点を具体的に説明することが出来る。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。 ④アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる。 ⑤アジアの言語・社会・文化についての学習をもとに自己の関心を深め、多角的な視点から自らの考えを示すことができる。 中国の少数民族文化・現代中国と教育・中国語関連科目などすべて関連する。 東アジア入門・南アジア入門・西アジア入門・東南アジア入門・現代中国語と教育・アジア生活文化概論・比較文化論・アジア文化人類学・シルクロード文化交流史・人文地理学・自然地理学・地誌学・などの科目に関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 新世紀の中国文学概論Ⅰ（現代文学への転形）			ミニレポートを提出	
第 2回 新世紀の中国文学概論Ⅱ（五四新文化運動について）			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 3回 新世紀の中国文学概論Ⅲ（モダンからポストモダンへの確立）			各回講義内容についてミニレポート提出	
第 4回 言語と文学（口頭文学の歴史と現代への展開）			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 5回 文学作品の映画化とその表現問題			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 6回 現代文学大系における台湾現代文学の社会意識の変遷			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 7回 中国現代文学の新ジャンルの「微型小説」について			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 8回 「中国現代微型小説」の作品購読～その表現と社会的意義			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 9回 世界華文学への視角とアジア地域への展開			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第10世界女性華文学への視角			各回講義内容につい てミニレポートを提出	
第11回 世界華文学作品の講読（香港作家の作品について）			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第12回 世界華文学作品の講読（シンガポール作家の作品について）			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第13回 世界華文学作品の講読（マレーシア作家の作品について）			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第14回 世界華文学作品の講読（インドネシア作家の作品について）			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第15中国現代文学および世界華文学についての総まとめ			総まとめのレポートを提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% （毎授業中提出するミニレポート）			
小テスト等	なし			
成果発表	20% （総まとめのレポート）			
受講態度他	0% （出席状況を学習態度として参考にする）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎講義後、当日の講義内容に関する小課題（ミニレポート）をその場で書き、提出することをしなければならないので、欠席をしないよう注意すること。授業に対しての質疑も小課題に記入することが出来る。質疑に対し、必要に応じて次の授業で返答する。			
教科書	プリント資料配布			
指定図書	①「土地と靈魂」 王幼華 著 中国書店 ②新しい中国文学史 藤井省三／大木康 著 ③ 中国を読む「新語：二十一世紀の大国」 莫邦富著 日本放送出版協会			
参考図書	中国20世紀文学 中国文芸研究会 編 白帝社			
オフィスアワー	火、水、木、金		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	王 晓芳		単 位	1
授業の目的と概要	この授業では大学で初めて中国語を学ぶ人を対象とし、履修者が中国語の基礎的な文法を学んで初級の簡単なコミュニケーション能力を身につけること、発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方を身につけることを目標とする。 学ぶ教科書の範囲は、第6課までで、第7課以降は、「中国語Ⅱ」で学習する。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	1 発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。 2 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。 3 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。 4 授業で学んだ内容に関し、簡単な会話・ヒアリングをすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に以下のDPの達成に関わる科目である。 （2）-①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 後期に開講される「中国語Ⅱ」は、この科目で学んだ内容を基礎として、より高度な表現を学んでいく。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	発音のポイント1～4		CDを聞く。発音を練習する。	
第2回	発音のポイント5～7		CDを聞く。発音を練習する。	
第3回	発音のポイント8～12		CDを聞く。発音を練習する。	
第4回	第一課 自己紹介 本文とポイント		CDを聞く。単語を覚える。	
第5回	第一課の復習と練習		文法、練習問題の復習	
第6回	第二課 妹が2人います 本文とポイント		CDを聞く。単語を覚える。	
第7回	第二課の復習と練習		文法、練習問題の復習	
第8回	第三課道を尋ねる 本文とポイント		CDを聞く。単語を覚える。	
第9回	第三課の復習と練習		文法、練習問題の復習	
第10回	第四課 買物 本文とポイント		CDを聞く。単語を覚える。	
第11回	第四課の復習と練習		文法、練習問題の復習	
第12回	第五課 アルバイト 本文とポイント		CDを聞く。単語を覚える。	
第13回	第五課の復習と練習		文法、練習問題の復習	
第14回	第六課 車の運転を習う 本文とポイント		CDを聞く。単語を覚える。	
第15回	第六課の復習と練習		文法、練習問題の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	なし			
小テスト等	2 0 ％			
成果発表	なし			
受講態度他	2 0 ％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は少しずつ進めるので、できるだけ毎回出席をすること。			
教科書	児野道子・鄭高咏著『ちからになる中国語』金星堂			
指定図書	なし			
参考図書	中日辞典			
オフィスワー	授業の前後に相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	関 久美子		単 位	1
授業の目的と概要	この授業では大学で初めて中国語を学ぶ人を対象とし、中国語の基礎的な文法を学んで初級の簡単なコミュニケーション能力を身につける。また、発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方をマスターする。 学ぶ教科書の範囲は、第6課までで、第7課以降は、「中国語Ⅱ」で学習する。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	1 発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。 2 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。 3 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。 4 授業で学んだ内容に関し、簡単な会話・ヒアリングをすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に以下のDPの達成に関わる科目である。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 後期に開講される「中国語Ⅱ」は、この科目で学んだ内容を基礎として、より高度な表現を学んでいく。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 発音学習1…ピンイン・声調・単母音・複合母音			発音プリント1を解いてピンイン・声調について理解する。	
第2回 発音学習2…nとng・子音・有気音と無気音・そり舌音			発音プリント2を解いて子音・そり舌音について理解する。	
第3回 発音学習3…声調変化・アル化音・発音の総復習			発音プリント3を解いて中国語の発音について復習する。	
第4回 第1課 自己紹介…文法ポイント学習（人称代名詞・断定の動詞“是”・動詞述語文・名前の尋ね方）			プリント第1課を解きながら新出文法を理解する。	
第5回 第1課 自己紹介…文法ポイントの復習・本文・練習問題			本文発音を聞いて音読練習をし、本文を書写する。	
第6回 第2課 二人の妹…文法ポイント学習（数字の表現・年齢の表現・副詞“也”と“都”）			プリント第2課を解きながら新出文法を理解する。	
第7回 第2課 二人の妹…文法ポイントの復習・本文・練習問題			本文発音を聞いて音読練習をし、本文を書写する。	
第8回 文化理解 中国文化を紹介するDVD			DVDの感想文を提出する。	
第9回 第3課 道を尋ねる…文法ポイント学習・本文・練習問題			新出文法を理解する。本文発音を聞いて音読練習をし、本文を書写する。	
第10回 第4課 買い物…文法ポイント学習（指示代名詞・形容詞述語文・助動詞“想”“要”）			プリント第4課を解きながら新出文法を理解する。	
第11回 第4課 買い物…文法ポイントの復習・本文・練習問題			本文発音を聞いて音読練習をし、本文を書写する。	
第12回 第5課 アルバイト…文法ポイント学習（「少し」の表現・程度補語・「しっかりと～する」の表現）			プリント第5課を解きながら新出文法を理解する。	
第13回 第5課 アルバイト…文法ポイントの復習・本文・練習問題			本文発音を聞いて音読練習をし、本文を書写する。	
第14回 第6課 運転の練習……文法ポイント学習（二つの“了”・助動詞“会”“能”“打算”）			プリント第6課を解きながら新出文法を理解する。	
第15回 第6課 運転の練習……文法ポイントの復習・本文・練習問題			本文発音を聞いて音読練習をし、本文を書写する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	定期試験…60％			
レポート	ノート提出…10％			
小テスト等	プリント提出…10％			
成果発表	％			
受講態度他	受講態度20％（質問や発表など、授業の積極的参加を考慮する）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ノートに教科書の本文を写し、予習をすること。毎課ごとに宿題のプリントを提出すること。			
教科書	児野道子・鄭高咏『ちからになる中国語』金聖堂			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に随時紹介			
オフィスアワー	火曜日1限目の授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	中国語Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	王 震緒		単 位	1
授業の目的 と概要	この授業では大学で初めて中国語を学ぶ人を対象とし、履修者が中国語の基礎的な文法を学んで初級の簡単なコミュニケーション能力を身につけること、発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方を身につけることを目標とする。 学ぶ教科書の範囲は、第6課までで、第7課以降は、「中国語Ⅱ」で学習する。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	1 発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。 2 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。 3 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。 4 授業で学んだ内容に関し、簡単な会話・ヒアリングをすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、主に以下のDPの達成に関わる科目である。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 後期に開講される「中国語Ⅱ」は、この科目で学んだ内容を基礎として、より高度な表現を学んでいく。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		自習用ダウンロード音声を聞く	
第2回	「発音のポイント」：中国語の基礎		自習用ダウンロード音声を聞く	
第3回	「発音のポイント」：中国語の基礎		自習用ダウンロード音声を聞く	
第4回	「自己紹介」：AはBです、人称代名詞、疑問詞など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第5回	「自己紹介」：AはBです、人称代名詞、疑問詞など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第6回	「妹がふたりいます」数字の言い方、年齢の言い方、副詞など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第7回	「妹がふたりいます」数字の言い方、年齢の言い方、副詞など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第8回	「道をたずねる」：方位詞、年月日・曜日・時刻など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第9回	「道をたずねる」：方位詞、年月日・曜日・時刻など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第10回	「買物」：指示代名詞、形容詞など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第11回	「買物」：指示代名詞、形容詞など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第12回	「アルバイト」：程度補語など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第13回	「アルバイト」：程度補語など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第14回	「車の運転を習う」：完了形、助動詞など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第15回	「車の運転を習う」：完了形、助動詞など		自習用ダウンロード音声を聞く	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	90％			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業中は静寂を守る。携帯電話の使用は禁止。			
教科書	児野道子他『ちからになる中国語』金星堂			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	桐島 薫子		単 位	1
授業の目的 と概要	この授業では大学で初めて中国語を学ぶ人を対象とし、中国語の基礎的な文法を学んで初級の簡単なコミュニケーション能力を身につける。また、発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方をマスターする。 学ぶ教科書の範囲は、第6課までで、第7課以降は、「中国語Ⅱ」で学習する。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	1、発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。 2、教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。 3、教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。 4、授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、主に以下のDPの達成に関わる科目である。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 後期に開講される「中国語Ⅱ」は、この科目で学んだ内容を基礎として、より高度な表現を学んでいく。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス・発音のポイント①（音調・単母音）		配付プリントの講読	
第2回	発音のポイント②（重母音と子音）		教科書「発音のポイント」、配付プリントの復習	
第3回	発音のポイント③（子音・音調符号の位置・音調の変化）、単語の発音練習		教科書「発音のポイント」、配布プリントの復習	
第4回	第1課 自己紹介：本文とポイント（人称代名詞・名前の問い方と答え方・動詞・疑問詞）		教科書第1課の予習	
第5回	第1課 自己紹介：本文の復習と練習問題		教科書第1課の復習、学習シート	
第6回	第2課 妹が2人います：本文とポイント（数字と年齢の言い方・副詞・「有」・動詞）		教科書の第2課の予習	
第7回	第2課 妹が2人います：本文の復習と練習問題		教科書第2課の復習、学習シート	
第8回	第3課 道をたずねる：本文とポイント（方位詞・年月日曜日の言い方・「在」・語気助詞など）		教科書第3課の予習	
第9回	第3課 道をたずねる：本文の復習と練習問題		教科書第3課の復習、学習シート	
第10回	第3課 道をたずねる（本文）、第4課 買い物：本文とポイント（指示代名詞・助数詞・形容詞・助動詞・疑問詞など）、小テストの説明①		教科書第4課の予習	
第11回	第4課 買い物：本文とポイント（指示代名詞・助数詞・形容詞・助動詞・疑問詞など）、小テストの説明②		教科書第4課の復習、学習シート	
第12回	第4課 買い物：本文とポイント（指示代名詞・助数詞・形容詞・助動詞・疑問詞など）、買い物：本文の復習と練習問題		教科書第5課の予習	
第13回	小テスト（第1～3課の内容）、第5課 アルバイト：本文とポイント（有点儿と一点儿・程度補語など）		教科書第5課の復習、学習シート	
第14回	小テストの返却と復習、第5課 アルバイト：本文の復習と練習問題、第6課 車の運転を習う：本文とポイント（二つの了・助動詞）		教科書第6課の予習	
第15回	第6課 車の運転を習う：本文の復習と練習問題、定期試験について		第6課の復習、学習シート、定期試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％（到達目標1～3について、教科書の全般についての習熟度）			
レポート	10％（各課の学習シートに取り組む。反復練習して復習に役立てる。到達目標1～3への取り組み）授業中に、取り組み状況をチェックする。			
小テスト等	20％（到達目標1～3について、教科書の前半部分の習熟度）。採点後に返却し、解説する。			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（参加態度と習熟度。到達目標1～4への取り組み）。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・積極的な参加態度で臨むこと。 ・予習、復習を行うこと。			
教科書	児野道子・鄭高咏著 『ちからになる中国語』 金星堂			
指定図書	なし			
参考図書	・相原 茂・石田 知子・戸沼 市子著 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』 同学社 ・『中日辞典』『日中辞典』 小学館、『標準中国語辞典』 白帝社、その他は授業中に指示する。			
オフィスアワー	火曜昼休み、水曜4限		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大塚 佐織		単 位	1
授業の目的と概要	この授業では大学で初めて中国語を学ぶ人を対象とし、中国語の基礎的な文法を学んで初級の簡単なコミュニケーション能力を身につける。また、発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方をマスターする。学ぶ教科書の範囲は、第6課までで、第7課以降は、「中国語Ⅱ」で学習する。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	1 発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。 2 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。 3 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。 4 授業で学んだ内容に関し、簡単な会話・ヒアリングをすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に以下のDPの達成に関わる科目である。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 後期に開講される「中国語Ⅱ」は、この科目で学んだ内容を基礎として、より高度な表現を学んでいく。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス・発音のポイント（声調・単母音）		教科書・配布プリントの復習・CDを聞く	
第2回	発音のポイント（重母音・子音）		教科書・配布プリントの復習・CDを聞く	
第3回	発音のポイント（子音の復習・声調符号の位置・声調の変化）		教科書・配布プリントの復習・CDを聞く	
第4回	第1課 自己紹介 文法ポイント（人称代名詞・名前の問い方と答え方・動詞・疑問詞）		教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第5回	第1課 自己紹介 本文・ドリル		文法・ドリルの復習・CDを聞く	
第6回	第2課 妹が2人います 文法ポイント（数字と年齢の言い方・副詞・動詞「有」）		教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第7回	第2課 妹が2人います 本文・ドリル		文法・ドリルの復習・CDを聞く	
第8回	第3課 道をたずねる 文法ポイント（方位詞・年月日曜日の言い方・動詞「在」）		教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第9回	第3課 道をたずねる 本文・ドリル		文法・ドリルの復習・CDを聞く	
第10回	第4課 買い物 文法ポイント（指示代名詞・助数詞・形容詞・助動詞・疑問詞・金額の言い方）		教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第11回	第4課 買い物 本文・ドリル		文法・ドリルの復習・CDを聞く	
第12回	第5課 アルバイト 文法ポイント（有点儿・一点儿・程度補語など）		教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第13回	第5課 アルバイト 本文・ドリル		文法・ドリルの復習・CDを聞く	
第14回	第6課 車の運転を習う 文法ポイント（二つの了、助動詞「会」と「能」、打算）		教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第15回	第6課 車の運転を習う 本文・ドリル・定期試験について		期末試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	％			
小テスト等	20％（各課で行う）			
成果発表	％			
受講態度他	10％（遅刻・私語厳禁）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・私語厳禁。 各課で行われた小テストのやり直しの提出。 予習・復習を行うこと。 積極的な授業への参加。			
教科書	児野道子・鄭高咏著『ちからになる中国語』金星堂			
指定図書	授業中に紹介する。			
参考図書	『日中辞典』『中日辞典』小学館、その他、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	中国語Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	王 震 緒		単 位	1
授業の目的 と概要	この授業では「中国語Ⅰ」を学び終えた人を対象とし、履修者が基礎段階のやや複雑な文法を学んで初級のコミュニケーション能力を身につけること、発音をマスターすることを目標とする。 学ぶ教科書の範囲は、第7課から13課までである。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、発音することができる。 2 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して中国語を書くことができる。 3 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。 4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、「中国語Ⅰ」に続き、主に以下のDPの達成に関わる科目である。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	「電話をかける」：進行形、前置詞など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第2回	「電話をかける」：進行形、前置詞など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第3回	「ディズニーランド」：経験文、連動文など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第4回	「ディズニーランド」：経験文、連動文など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第5回	「進歩した！」：比較表現、方向補語など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第6回	「進歩した！」：比較表現、方向補語など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第7回	「スマートフォン」：使役形、禁止表現など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第8回	「スマートフォン」：使役形、禁止表現など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第9回	「スキー」：結果補語、動作状態の持続、選択疑問文など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第10回	「スキー」：結果補語、動作状態の持続、選択疑問文など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第11回	「財布」：可能補語、強調文など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第12回	「財布」：可能補語、強調文など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第13回	「試験」受身形、理由の言い方など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第14回	「試験」受身形、理由の言い方など		自習用ダウンロード音声を聞く	
第15回	後期のまとめ		自習用ダウンロード音声を聞く	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	90％			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業中は静寂を守る。携帯電話の使用は禁止する。			
教科書	児野道子『ちからになる中国語』金星堂			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	桐島 薫子		単 位	1
授業の目的と概要	この授業では「中国語Ⅰ」を学び終えた人を対象とし、基礎段階のやや複雑な文法を学んで初級のコミュニケーション能力を身につける。また、発音をマスターする。 学ぶ教科書の範囲は、第7課から13課までである。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、さらに発音することができる。 2 教科書（第7～13課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して中国語を書くことができる。 3 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。 4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、「中国語Ⅰ」に続き、主に以下のDPの達成に関わる科目である。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 前期の復習、第7課 電話をかける：本文（語句）とポイント&ミニ練習（動作の進行・前置詞・快～了など）			教科書第7課の予習	
第2回 第7課 電話をかける：ポイント&ミニ練習			教科書第7課の復習、学習シート	
第3回 第7課 電話をかける：会話文、自習プリントと学習シートの配布と説明、8課 ディズニーランド：本文（語句）			教科書第8課の予習	
第4回 第8課 ディズニーランド：ポイント&ミニ練習（経験の表現・時間と回数・動詞重ね型・連動文）			教科書第8課の復習、学習シート	
第5回 第8課 ディズニーランド：ポイント&ミニ練習、会話文			教科書第9課の予習	
第6回 第9課 進歩した！：本文（語句）とポイント&ミニ練習（比較表現・前置詞・動詞+一下・方向補語）			教科書第9課の復習、学習シート	
第7回 小テストの説明・学習方法など、第9課 進歩した！：ポイント&ミニ練習			教科書 小テストの準備	
第8回 第9課 進歩した！：ポイン&ミニ練習、会話文の解説			教科書 小テストの準備	
第9回 第9課 進歩した！：会話文、小テストの確認など			教科書 小テストの準備、第10課の予習、復習	
第10回 第10課 スマートフォン：本文（語句）とポイント&ミニ練習（使役形・助動詞・禁止表現・太～了）			教科書 小テストの準備 第10課の復習、学習シート	
第11回 小テスト（第7～9課）、第10課：ポイント&ミニ練習、会話文			教科書 第10課の復習、学習シート、第11課の予習	
第12回 小テスト返却と復習、第11課スキー：本文（語句）、ポイント&ミニ練習（結果補語・持続の表現・選択疑問文・動詞+起来）			教科書 第11課の復習、第12課の予習	
第13回 第11課 スキー：会話文、第12課 財布：本文（語句）、ポイント&ミニ練習（「把」・可能補語・是～的・前置詞）			教科書第11課の復習、学習シート、第12課の復習、第13課の予習	
第14回 第12課 財布：会話文、第13課 試験：本文（語句）とポイント&ミニ練習（受身形・理由の言い方など）			教科書第12課の復習、学習シート、第13課の復習、定期試験の準備	
第15回 第13課 試験：会話文、定期試験について、まとめ（検定試験の練習を含む）			13課の復習、学習シート、定期試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ （到達目標1～3について、教科書の全般の習熟度）			
レポート	10％ （各課の学習シートに取り組む。反復練習して復習に役立てる。到達目標1～3への取り組み）授業中に、取り組み状況をチェックする。			
小テスト等	20％ （到達目標1～3について、教科書の前半部分の習熟度）。採点後、授業中に返却し、解説する。			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ （授業への積極的な参加態度。到達目標1～4への取り組み）。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・積極的な参加態度で臨むこと。 ・予習、復習を行うこと。			
教科書	児野道子・鄭高咏 『ちからになる中国語』 金星堂			
指定図書	なし			
参考図書	・相原 茂・石田 知子・戸沼 市子著 『why?にこたえるはじめての中国語の文法書』 同学社 ・『中日辞典』 『日中辞典』 小学館、 『標準中国語辞典』 白帝社、その他は授業中に指示する。			
オフィスアワー	火曜 4 限 、木曜昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	関 久美子		単 位	1
授業の目的と概要	この授業では「中国語Ⅰ」を学び終えた人を対象とし、基礎段階のやや複雑な文法を学んで初級のコミュニケーション能力を身につける。また、発音をマスターする。 学ぶ教科書の範囲は、第7課から13課までである。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、発音することができる。 2 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して中国語を書くことができる。 3 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。 4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、「中国語Ⅰ」に続き、主に以下のDPの達成に関わる科目である。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 第7課	電話…文法ポイント学習（進行形の“在”・前置詞の“在”・“快～了”・電話番号の表現）		プリント第7課を解いて新出文法について理解する。	
第2回 第7課	電話…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を音読練習し、本文を書写する。	
第3回 第8課	ディズニーランド…文法ポイント学習（経験の表現・回数・動詞の重ね型・連動文）		プリント第8課を解いて新出文法について理解する。	
第4回 第8課	ディズニーランド…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を音読練習し、本文を書写する。	
第5回 第9課	進歩した…文法ポイント学習（比較・前置詞“給”・動詞＋“一下”・方向補語）		プリント第9課を解いて新出文法について理解する。	
第6回 第9課	進歩した…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を音読練習し、本文を書写する。	
第7回 第10課	スマートフォン…文法ポイント学習（使役・助動詞“可以”・禁止・“太～了”）		プリント第10課を解いて新出文法について理解する。	
第8回 第10課	スマートフォン…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を音読練習し、本文を書写する。	
第9回 第11課	スキー…文法ポイント学習（結果補語・持続の“着”・選択疑問文）		プリント第11課を解いて新出文法について理解する。	
第10回 第11課	スキー…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を音読練習し、本文を書写する。	
第11回 第12課	財布…文法ポイント学習（“把”構文・可能補語・“是～的”）		プリント第12課を解いて新出文法について理解する。	
第12回 第12課	財布…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を音読練習し、本文を書写する。	
第13回 第13課	試験…文法ポイント学習（受身表現・理由の言い方）		プリント第13課を解いて新出文法について理解する。	
第14回 第13課	試験…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を音読練習し、本文を書写する。	
第15回	後期の復習		後期の学習を復習する。身近な環境で使われている中国語をさがす。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	定期試験…60％			
レポート	ノート提出…10％			
小テスト等	プリント提出…10％			
成果発表	0％			
受講態度他	受講態度…20％（質問や発表など、授業への積極的参加を考慮する）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ノートに教科書の本文を写し、予習をすること。毎課ごとに宿題のプリントを提出すること。			
教科書	児野道子・鄭高咏『ちからになる中国語』金聖堂			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	火曜日1限目の授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大塚 佐織		単 位	1
授業の目的 と概要	この授業では「中国語Ⅰ」を学び終えた人を対象とし、基礎段階のやや複雑な文法を学んで初級のコミュニケーション能力を身につける。 また、発音をマスターする。 学ぶ教科書の範囲は、第7課から13課までである。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、発音することができる。 2 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して中国語を書くことができる。 3 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。 4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、「中国語Ⅰ」に続き、主に以下のDPの達成に関わる科目である。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 中国語Ⅰの復習			第1～6課の復習	
第2回 第7課 電話をかける 文法ポイント（動作の進行を表す「在」、前置詞の「在」、「快～了」、電話番号の言い方など）			教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第3回 第7課 電話をかける 本文・ドリル			文法・ドリルの復習・CDを聞く	
第4回 第8課 ディズニーランド 文法ポイント（経験の表現・時間と回数・動詞の重ね型・連動文）			教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第5回 第8課 ディズニーランド 本文・ドリル			文法・ドリルの復習・CDを聞く	
第6回 第9課 進歩した！ 文法ポイント（比較表現・前置詞・動詞＋一下・方向補語）			教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第7回 第9課 進歩した！ 本文・ドリル			文法・ドリルの復習・CDを聞く	
第8回 第10課 スマートフォン 文法ポイント（使役形・助動詞・禁止表現・太～了）			教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第9回 第10課 スマートフォン 本文・ドリル			文法・ドリルの復習・CDを聞く	
第10回 第11課 スキー 文法ポイント（結果補語・持続の表現・選択疑問文・動詞＋起来）			教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第11回 第11課 スキー 本文・ドリル			文法・ドリルの復習・CDを聞く	
第12回 第12課 財布 文法ポイント（「把」・可能補語・「是～的」・前置詞「从～到」）			教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第13回 第12課 財布 本文・ドリル			文法・ドリルの復習・CDを聞く	
第14回 第13課 試験 文法ポイント（受身・理由の言い方など）			教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第15回 第13課 試験 本文・ドリル・まとめ			期末試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	％			
小テスト等	20％（各課で行う）			
成果発表	％			
受講態度他	10％（遅刻・私語厳禁）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	遅刻・私語厳禁。 各課で行われた小テストのやり直しの提出。 予習・復習を行うこと。 積極的な授業への参加。			
教科書	児野道子・鄭高咏著『ちからになる中国語』金星堂			
指定図書	授業中に紹介する。			
参考図書	『日中辞典』『中日辞典』小学館、その他、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	中国語Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	王 曉芳		単 位	1
授業の目的 と概要	この授業では「中国語Ⅰ」を学び終えた人を対象とし、履修者が基礎段階のやや複雑な文法を学んで初級のコミュニケーション能力を身につけること、発音をマスターすることを目指す。 学ぶ教科書の範囲は、第7課から13課までである。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、発音することができる。 2 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して中国語を書くことができる。 3 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。 4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、「中国語Ⅰ」に続き、主に以下のDPの達成に関わる科目である。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 前期の復習			第七課の予習	
第2回 第七課 電話をかける 本文とポイント			CDを聞く。単語を覚える。	
第3回 第七課の復習と練習			文法、練習問題の復習	
第4回 第八課 ディズニーランド 本文とポイント			CDを聞く。単語を覚える。	
第5回 第八課の復習と練習			文法、練習問題の復習	
第6回 第九課 進歩した 本文とポイント			CDを聞く。単語を覚える。	
第7回 第九課の復習と練習			文法、練習問題の復習	
第8回 第十課 スマートフォン 本文とポイント			CDを聞く。単語を覚える。	
第9回 第十課の復習と練習			文法、練習問題の復習	
第10回 第十一課 スキー 本文とポイント			CDを聞く。単語を覚える。	
第11回 第十一課の復習と練習			文法、練習問題の復習	
第12回 第十二課 財布 本文とポイント			CDを聞く。単語を覚える。	
第13回 第十二課の復習と練習			文法、練習問題の復習	
第14回 第十三課 試験 本文とポイント			CDを聞く。単語を覚える。	
第15回 第十三課の復習と練習			文法、練習問題の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	なし			
小テスト等	20％			
成果発表	なし			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は少しずつ進めるので、できるだけ毎回出席をすること。			
教科書	児野道子・鄭高咏著『ちからになる中国語』金星堂			
指定図書	なし			
参考図書	中日辞典			
オフィスワー	授業の前後に相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語Ⅲ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	王 曉芳		単 位	1
授業の目的 と概要	中国語学習を通して、現代中国の社会、文化に対する理解を深める。コミュニケーションの能力を養成するための練習を行う。テキスト以外に、プリント、視聴覚的な教材も併用して、中国語で「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」ことができることを目的とする。中国語の勉強によって、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力を向上させる。国際的視点から思考する力を育てる。			
到達目標	1 基本的な文法や語彙の使い方について、理解することができる。 2 教科書の文書から必要な情報を読み取り、理解することができる。 3 中国語検定試験4級程度の表現力を身につけ、3級を目指すための基礎能力を修得する。 4 中国語と中国社会についての知識・技能を身につけることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、「中国語Ⅱ」に続き、共通科目のDP3.「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	中国の朝食	単語・会話・文法	CDを聞く。単語を覚える。	
第 2回	中国の朝食	短文・練習	文法、練習問題の復習	
第 3回	タクシーに乗る	単語・会話・文法	CDを聞く。単語を覚える。	
第 4回	タクシーに乗る	短文・練習	文法、練習問題の復習	
第 5回	「高価」な映画	単語・会話・文法	CDを聞く。単語を覚える。	
第 6回	「高価」な映画	短文・練習	文法、練習問題の復習	
第7回	第1課～第3課の復習		第1 課～第3 課の復習	
第 8回	割り勘と傾斜割り勘	単語・会話・文法	CDを聞く。単語を覚える。	
第 9回	割り勘と傾斜割り勘	短文・練習	文法、練習問題の復習	
第10回	お腹をくだす	単語・会話・文法	CDを聞く。単語を覚える。	
第 1 1 回	お腹をくだす	短文・練習	文法、練習問題の復習	
第 1 2 回	ネットショッピング	単語・会話・文法	CDを聞く。単語を覚える。	
第 1 3 回	ネットショッピング	短文・練習	文法、練習問題の復習	
第 1 4 回	復習第4課～第6課		第4 課～第6 課の復習	
第 1 5 回	授業のまとめ		期末試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	定期試験60％			
レポート	－			
小テスト等	小テストなど20％			
成果発表	－			
受講態度他	20％ 質問や発表などによる授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は少しずつ進めるので、できるだけ毎回出席をすること。 予習、復習をよくすること。 授業中に無駄話をしないこと。			
教科書	「中国語への道―浅きより深きへ 改訂版」 内田慶市 など 著 金星堂			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワ－	授業の前後に相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語Ⅲ【演習】			開 講 時 期	前期
担 当 教 員	荀 暁崢			単 位	1
授業の目的 と概要	中国語の基礎を習得した学生を対象に、初歩的な文法を復習しながら、さらに語彙の量を増やし、長めの文を読解できることで、中国語の読解力とコミュニケーション能力を養い、自分の身近な話題を中国語で話すことができることをめざす。 授業では初級よりさらなる読解力および表現力のレベルアップを図って準中級のテキストを使う。従って、ピンインローマ字を見て正しく発音できることと基礎文法をマスターしていることが望ましい。1 2 課構成のテキストを、2 週間で1 課ずつ読み進む予定である。1 週目は文法を説明しながら作文の練習をする。2 週目は本文の日本語訳をしながら音読とドリルなどをする。日本語訳を予習していてください。コミュニケーションを取るために語彙数を増やしていくことも肝要です、日頃から短時間でも、単語や常套表現の暗唱を心がけましょう。一年通して「話す・読む・書く・聴く」という四つの方面からバランスよく学びましょう。				
到達目標	1、準中級の学習事項を理解できること。 2、やや長めの作文ができること。 3、教科書に即した会話を話すことができること。 4、正確な発音ができる上、やや長めの文を流暢に音読できること。				
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第1回 初級の復習（プリントを配布する予定）				P10第1課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第2回 第1課 「中国に行こう」 学習事項：助動詞“可以”と“要”の用法・主述述語文・目的語が主述句				P10本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第3回 第1課 「中国に行こう」 復習および練習				P14第2課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第4回 第2課 「ウーロン茶を飲もう」 学習事項：原因理由を表す“因為”・逆接を表す“可是”・語気助詞				P14本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第5回 第2課 「ウーロン茶を飲もう」 復習および練習				P18第3課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第6回 第3課 「友だちをつくろう」 学習事項：連動文・“是…的”の文・疑問詞				P18本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第7回 第3課「友だちをつくろう」 復習および練習				P22第4課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第8回 第4課 「長城に登ろう」 学習事項：“了”の3つの用法・副詞“就”				P22本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第9回 第4課 「長城に登ろう」 復習および練習				P26第5課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第10回 第5課 「漢字を覚えよう」 学習事項：結果補語・副詞“有点儿”・仮定を表す“要是”				P26本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第11回 第5課 「漢字を覚えよう」 復習および練習				P30第6課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第12回 第6課 「街を歩こう」 学習事項：存現文・接続詞“又～又～				P30本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第13回 第6課 「街を歩こう」 復習および練習				P 3 0 引き続き音読練習と単語の暗唱	
第14回 中国映画を鑑賞する予定				配布された鑑賞シートを完成してください	
第15回 前期まとめ 総合練習を実施および解答解説				前期の学習内容をよく確認した上、繰り返し復習してください。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	期末試験50％				
レポート	なし				
小テスト等	平常点50％（筆記小テスト30％、単語テスト・発音テスト・課題提出20％）				
成果発表	なし				
受講態度他	日頃学習への取り組みおよび受講態度も加味する。中検や暗唱大会の参加者は、成績に加点する。				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・予習・復習を怠らないこと。 ・欠席は三分の一を超えないこと。				
教科書	『新版 中国語さらなる一步』 尹 景春・竹島 毅 著 白水社				
指定図書	なし				
参考図書	なし				
オフィスワー	火曜日昼休み（12：30-13：00）なるべく授業前後にご相談ください。			メールアドレス	

授 業 科 目	中国語Ⅳ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	王 曉芳		単 位	1
授業の目的 と概要	前期の学習内容を踏まえて学習を進める。後期は中国語の実用会話や文章の理解力と読解実力を向上することができる。 ①前期学んだ知識の復習しながら、更に充実した文章力と会話力を身につけることができる。 ②練習問題を一つひとつ自力で解かせて、中国語文法、現代中国語文章に関する理解度と運用能力を高めることができる。 ③中級の実践的なコミュニケーション能力を身につけることができる。			
到達目標	①基礎的な知識を踏まえ、文章の単語・読解・文法など多様な練習を通じて、総合的な知識を身につけることができる。 ②練習問題を自分の力で解かせて、理解度と運用能力を確認することを主眼とする。 ③中国語コミュニケーションの更なるステップアップすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、「中国語Ⅰ」に続き、共通科目のDP3.「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 第7課「余り男」「余り女」	単語・会話・文法		CDを聞く。単語を覚える。	
第2回 第7課	短文・練習		文法、練習問題の復習	
第3回 第8課	大学生は、アルバイトは控え、たくさん勉強すべきです		単語・会話・文法	
第4回 第8課	短文・練習		文法、練習問題の復習	
第5回 第9課	感謝を表す習慣		単語・会話・文法	
第6回 第9課	短文・練習問題		文法、練習問題の復習	
第7回 第7～第9課	復習		第7課～第9課内容の復習	
第8回 第10課	若者の就職観		単語・会話・文法	
第9回 第10課	短文・練習		文法、練習問題の復習	
第10回 第11課	月光族		単語・会話・文法	
第11回 第11課	短文・練習		文法、練習問題の復習	
第12回 第12課	海外での中国語との意外な出会い		単語・会話・文法	
第13回 第12課	短文・練習		文法、練習問題の復習	
第14回 第10～第12課	復習		第10課～第12課の復習	
第15回	授業のまとめ		期末試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	定期試験60％			
レポート	－			
小テスト等	小テストなど20％			
成果発表	－			
受講態度他	20％ 質問や発表などによる授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は少しずつ進めるので、できるだけ毎回出席をすること。授業中に無駄話をしないこと。			
教科書	内田 慶市・奥村 加代子・張 軼欧著 「中国への道」 準中級編 浅きより深きへ 改訂版 金星堂			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語Ⅳ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	荀 暁崢		単 位	1
授業の目的 と概要	中国語の基礎を習得した学生を対象に、初歩的な文法を復習しながら、さらに語彙の量を増やし、長めの文を読解できることで、中国語の読解力とコミュニケーション能力を養い、自分の身近な話題を中国語で話すことができることをめざす。 授業では初級よりさらなる読解力および表現力のレベルアップを図って準中級のテキストを使う。従って、ピンインローマ字を見て正しく発音できることと基礎文法をマスターしていることが望ましい。1 2 課構成のテキストを、2 週間で1 課ずつ読み進む予定である。1 週目は文法を説明しながら作文の練習をする。2 週目は本文の日本語訳をしながら音読とドリルなどをする。日本語訳を予習しててください。コミュニケーションを取るために語彙数を増やしていくことも肝要です、日頃から短時間でも、単語や常套表現の暗唱を心がけましょう。一年通して「話す・読む・書く・聴く」という四つの方面からバランスよく学びましょう。			
到達目標	1、準中級の学習事項を理解できること。 2、やや長めの作文ができること。 3、教科書に即した会話を話すことができること。 4、正確な発音ができる上、やや長めの文を流暢に音読できること。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 前期の復習（プリントを配布する予定）			P34第7課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第2回 第 7 課 「中国映画を見よう」 学習事項：状態の持続を表す“着”・副詞“再”・部分否定			P34本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第3回 第 7 課 「中国映画を見よう」 復習および練習			P38第8課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第4回 第 8 課 「シルクを買おう」 学習事項：方向補語・使役文・疑問詞の不定用法			P38本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第5回 第 8 課 「シルクを買おう」 復習および練習			P42第9課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第6回 第 9 課 「中華を食べよう」 学習事項：可能補語・強調表現			P42本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第7回 第 9 課 「中華を食べよう」 復習および練習			P46第10課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第8回 第10課 「太極拳を習おう」 学習事項：目的を表す“為了”・推測を表す“会”・“～了”の用法			P46本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第9回 第10課 「太極拳を習おう」 復習および練習			P50第11課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第10回 第11課 「水滸伝を楽しもう」 学習事項：結果補語・受身文			P50本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第11回 第11課 「水滸伝を楽しもう」 復習および練習			P54第12課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第12回 第12課 「春節を過ごそう」 学習事項：“快～了”の用法・介詞“把”			P54本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第13回 第12課 「春節を過ごそう」 復習および練習			P58の予習 音読の練習と和訳を予習しておく。	
第14回 「手紙を書こう」 学習事項：手紙文の日本語訳およびポイント確認			課題のプリントを配布する予定。	
第15回 後期まとめ 総合練習を実施および解答解説			後期の学習内容をよく確認した上、繰り返し復習してください。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	期末試験50％			
レポート	なし			
小テスト等	平常点50％（筆記小テスト30％、単語テスト・発音テスト・課題提出20％）			
成果発表	なし			
受講態度他	日頃学習への取り組みおよび受講態度も加味する。中検や暗唱大会の参加者は、成績に加点する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・予習・復習を怠らないこと。 ・欠席は三分の一を超えないこと。			
教科書	『新版 中国語さらなる一步』 尹 景春・竹島 毅 著 白水社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日昼休み（12：30-13：00） なるべく授業前後にご相談ください。		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語ガイド試験対策【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	陳 青鳳		単 位	1
授業の目的 と概要	本授業は、中国語のガイド試験に対応する総合的な実力を向上するものである。 ①短期間の訓練で、受験に必要な文法・読解・中国語翻訳実力などを習得することができる。 ②ガイドに関わる中国語の会話・リスニングなどの練習を通して、中国語のレベルを高めることができる。 ③現代中国語の学習を通じて、中国の社会や文化を理解することができる。 ④語学以外に、日本地理・歴史・経済などの知識を身につけることができる。 本講義では、過去の中国語のガイド試験問題に取り組み、併せて模擬試験を行い、授業内では中国語を聞き・話すことに重点を置く。豊富な試験問題の練習、ヒアリングの繰り返し訓練を通じて受験能力を向上させる。また、配布した資料をもとにして自分で要点をまとめる能力を養うことができるように訓練する。			
到達目標	通訳案内士試験の第1次試験は、邦文の日本地理・歴史・経済・一般常識の4科目で、第2次試験は中国語であるので、以下を到達目標とする。 ①これまでに学習した知識をふまえ、更に中国語観光通訳士の資格を取得し、中国の言語や文化に対する関心と理解を深めるとともに、観光や教育などの仕事に従事する人材を育成することができる。 ②過去の試験問題を分析しながら、日本地理・歴史・経済などの科目に的をしぼって効率的に勉強することができる。 ③過去問題、模擬問題を繰り返し練習し、問題の解答力や読む力を向上させることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 中国語ガイド試験とは：資格の意義と授業計画の説明			予習	
第2回 前半：日本地理①・後半：中国語自己紹介			復習・予習 会話の暗唱	
第3回 前半：日本地理②・後半：中国語ガイド会話①			復習・予習 会話の暗唱	
第4回 前半：日本地理③・後半：中国語ガイド会話②			復習・予習 会話の暗唱	
第5回 前半：日本歴史①・後半：中国語ガイド会話③			復習・予習 会話の暗唱	
第6回 前半：日本歴史②・後半：中国語ガイド会話④			復習・予習 会話の暗唱	
第7回 前半：日本歴史③・後半：中国語ガイド会話⑤			復習・予習 会話の暗唱	
第8回 前半：日本経済①・後半：中国語ガイド会話⑥			復習・予習 会話の暗唱	
第9回 前半：日本経済②・後半：中国語ガイド会話⑦			復習・予習 会話の暗唱	
第10回 前半：日本経済③・後半：中国語短文訳の訓練①			復習・予習 会話の暗唱	
第11回 前半：日本経済④・後半：中国語短文訳の訓練②			復習・予習 会話の暗唱	
第12回 前半：日本産業①・後半：中国語短文訳の訓練③			復習・予習 会話の暗唱	
第13回 前半：日本産業①・中国語短文訳の訓練④			復習・予習 会話の暗唱	
第14回 前半：日本産業①・中国語短文訳の訓練⑤			復習・予習 会話の暗唱	
第15回 総合復習			試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％			
レポート	30％ 毎回配布する資料をまとめること 指定した課題の提出			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ 指定したテーマを中国語で発表する			
受講態度他	10％ 授業中、他人の迷惑になるような行為は厳しく処置します 携帯の使用、遅刻、無断退室などは禁止します			
受講上の留意 点・ルールに関 わる情報	①積極的に授業へ参加し、授業中の私語は慎むこと。 ②毎回の課題を期限内に提出すること。 ③配布した資料は必ずまとめて製本すること。			
教科書	なし。講義時にプリントを配布する。			
指定図書	なし。			
参考図書	①『国家試験・通訳ガイド』一ツ橋書店 ②『中国語短文会話800』スリーエーネットワーク			
オフィスアワー	火曜日（授業の前後）		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語検定 A【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	崔 淑 芬		単 位	1
授業の目的 と概要	本講義は、中国語の検定試験（日本中国語検定協会実行）3級から1級まで、検定試験に対応する総合的な実力を養成する授業です。授業の内容としては、それぞれ学年の語学レベルに合わせながら、検定試験の語彙・文法・聞き取り・長文・翻訳などを練習し、出題率の高い問題や重点的な問題,間違いやすい部分を短期での訓練を受け、試験に対応実力を身につけ、読解力・リスニングレベルを高めます。			
到達目標	1. 中国語検定の受験に必要な能力、文法・読解・中国語翻訳実力などを修得することができる。 2. 試験の出題ポイントを押さえ短期での訓練を受け、試験に対応実力を身につけることができる。 3. 中国語検定を受験することにより、自分の目指す目標を身近に設定し、無理なく確実に実力を延ばしていくことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 中国語検定の受験に必要な能力を身につけることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス： 本授業の概要、目標、授業の進め方、模擬テスト			到達目標を設定すること	
第2回 第90回 のリスニング試験問題（1）の分析・聞き取り練習			リスニング試験問題の復習； 予習：第90回 リスニング試験問題（2）	
第3回 リスニング試験問題（2）の分析、聞き取り練習			リスニング試験問題（2）の復習； 予習： 第91回リスニング試験問題（1）	
第4回 リスニング試験問題（1）の分析・聞き取り練習			リスニング試験問題の復習； 予習：第91回 のリスニング試験問題（2）	
第5回 リスニング試験問題（2）の分析・聞き取り練習			リスニング試験問題の復習； 予習：第92回 リスニング試験問題（1）	
第6回 リスニング試験問題（1）の分析・聞き取り練習			リスニング試験問題の復習； 予習：第92回 リスニング試験問題（2）	
第7回 リスニング試験問題（2）の分析・聞き取り練習			リスニング試験問題の復習； 予習：第90～93回 筆記試験問題（1）	
第8回 筆記試験問題（1）の分析・模擬小テスト			試験問題（1）の復習； 予習：第90～93回 筆記試験問題（2）	
第9回 筆記試験問題（2）の分析・模擬小テスト			試験問題（2）の復習； 予習：第90～93回 筆記試験問題（3）	
第10回 筆記試験問題（3）の分析・模擬小テスト			試験問題（3）の復習； 予習：第90～93回 筆記試験問題（4）	
第11回 筆記試験問題（4）の分析・模擬小テスト			試験問題（4）の復習； 予習：第90回 筆記試験問題（5）	
第12回 第90回 筆記試験問題（5）翻訳の分析・模擬小テスト			試験問題（5）の復習； 予習：第91回 筆記試験問題（5）	
第13回 第91回 筆記試験問題（5）翻訳の分析・模擬小テスト			試験問題（5）の復習； 予習：第92～93回 筆記試験問題（5）	
第14回 第92～93回 筆記試験問題（5）翻訳の分析・模擬小テスト			筆記試験問題（5）翻訳のまとめ復習	
第15回 試験問題の総復習			リスニング試験問題・筆記試験問題の総括復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	35％ 期末テスト			
レポート	なし			
小テスト等	30％模擬テスト			
成果発表	なし			
受講態度他	35％ 出席状況、授業態度関わる姿勢などをふまえ総合的な判定する。			
受講上の留意点・ルール に関わる情報	積極的に授業へ参加、授業中の私語は慎むこと。 リスニング問題に関しては、試験まで毎日聴くことを心がけてください。 教科書の練習問題やまとめのプリントで復習を大切にしながら、学習した内容の再確認。			
教科書	日本中国語検定協会編『中検問題集』光生館出版			
指定図書	日本中国語検定協会編『中検練習帳』光生館出版			
参考図書	『資格にチャレンジ中級中国語』白帝社 ほか、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	金曜日 4限目		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語検定 B【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	崔 淑 芬		単 位	1
授業の目的 と概要	本講義は、中国語の検定試験（日本中国語検定協会実行）準4級から4級まで、それに対応する総合的な実力を養成する授業である。中国の経済発展、国際社会での役割などを考慮すると将来性抜群の資格です。 授業の内容としては、それぞれ学年の語学レベルに合わせながら、検定試験の語彙・文法・聞き取り・長文・翻訳などを練習し、出題率の高い問題や重点的な問題,間違いやすい部分を短期での訓練を受け、試験に対応実力を身につけ、読解力・リスニングレベルを高めます。.			
到達目標	1. 中国語検定の受験に必要な能力、文法・読解・中国語翻訳実力などを修得することができる。 2. 試験の出題ポイントを押さえ短期での訓練を受け、試験に対応実力を身につけることができる。 3. 中国語検定を受験することにより、自分の目指す目標を身近に設定し、無理なく確実に実力を延ばしていくことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス：	本授業の概要、目標、授業の進め方、模擬テスト		到達目標を設定する	
第2回 第90回	リスニング試験問題（1）の分析・聞き取り練習		リスニング試験問題の復習； 予習：第90回リスニング試験問題（2）	
第3回 リスニング試験問題（2）	の分析、聞き取り練習		リスニング試験問題（2）の復習； 予習：第91回リスニング試験問題（1）	
第4回 リスニング試験問題（1）	の分析・聞き取り練習		リスニング試験問題の復習； 予習：第91回のリスニング試験問題（2）	
第5回 リスニング試験問題（2）	の分析・聞き取り練習		リスニング試験問題の復習； 予習：第92回リスニング試験問題（1）	
第6回 リスニング試験問題（1）	の分析・聞き取り練習		リスニング試験問題の復習； 予習：第92回リスニング試験問題（2）	
第7回 リスニング試験問題（2）	の分析・聞き取り練習		リスニング試験問題の復習； 予習：第90～93回筆記試験問題（1）	
第8回 筆記試験問題（1）	の分析・模擬小テスト		試験問題（1）の復習； 予習：第90～93回筆記試験問題（2）	
第9回 筆記試験問題（2）	の分析・模擬小テスト		試験問題（2）の復習； 予習：第90～93回筆記試験問題（3）	
第10回 筆記試験問題（3）	の分析・模擬小テスト		試験問題（3）の復習； 予習：第90～93回筆記試験問題（4）	
第11回 筆記試験問題（4）	の分析・模擬小テスト		試験問題（4）の復習； 予習：第90回筆記試験問題（5）	
第12回 第90回	筆記試験問題（5）翻訳の分析・模擬小テスト		試験問題（5）の復習； 予習：第91回筆記試験問題（5）	
第13回 第91回	筆記試験問題（5）翻訳の分析・模擬小テスト		試験問題（5）の復習； 予習：第92～93回筆記試験問題（5）	
第14回 第92～93回	筆記試験問題（5）翻訳の分析・模擬小テスト		筆記試験問題（5）翻訳のまとめ復習	
第15回 試験問題の総括復習			リスニング試験問題・筆記試験問題の総括復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	35％			
レポート	なし			
小テスト等	30％			
成果発表	なし			
受講態度他	35％ 出席状況、授業態度関わる姿勢などをふまえ総合的な判定する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的に授業へ参加、授業中の私語は慎むこと。 リスニング問題に関しては、試験まで毎日聴くことを心がけてください。 教科書の練習問題やまとめのプリントで復習を大切にしながら、学習した内容の再確認。			
教科書	日本中国語検定協会編『中検問題集』光生館出版			
指定図書	日本中国語検定協会編『中検練習帳』光生館出版			
参考図書	『資格にチャレンジ中級中国語』白帝社 ほか、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	金曜日 4限目		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語作文Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	陳 青 鳳		単 位	2
授業の目的 と概要	本講座は、中国語の学習において、「読む・書く・聞く・話す」の四能力のうち、特に「書く」に重点を置く。中国語の作文の基本的仕組みを理解しながら、学んだ知識を使って応用的な練習を行い、中国語の正確かつ効率的な運用能力を養成し、中国語で作文する力を身につけ、自分のことや日常生活で必要なことを、中国語で書いて表現できることを目的とする。 初・中級段階に学んだ基本文型を活かし、実用性のある文章を作ることができるように指導する。基礎文法を確実に定着し、より高度な文章の解説を行う。 基本的に、二回で一課のペースで進める。			
到達目標	1、よく使われる単語を簡体字で表記することができる。 2、基本的な文法事項を身につけることができる。 3、単文と複文の練習を通して、中国語で自分の伝えたいことを中国語で表現できるようになる。 4、実用出来る中国語の会話や通信文を習得することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 カイダンス：講義のねらい・内容・注意事項・作文のつくり方・中国語文章の記号			予習：p p. 6～7	
第2回 第1課：文章の読解、文法の説明			予習：p p. 8～9	
第3回 第1課の練習問題と文法復習			予習：p p. 10～11	
第4回 第2課：文章の読解、文法の説明			予習：p p. 12～13	
第5回 第2課の練習問題と文法復習			予習：p p. 14～15	
第6回 第3課：文章の読解、文法の説明			予習：p p. 16～17	
第7回 第3課の練習問題と文法復習			予習：p p. 18～23	
第8回 指定テーマに沿って中国語作文の作成			復習：第1～3課の構文	
第9回 第4課：文章の読解、文法の説明			予習：p p. 24～25	
第10回 第4課の練習問題と文法復習			予習：p p. 26～29	
第11回 第5課：文章の読解、文法の説明			予習：p p. 30～31	
第12回 第5課の練習問題と文法復習			予習：p p. 32～35	
第13回 第6課：文章の読解、文法の説明			予習：p p. 36～37	
第14回 第6課の練習問題と文法復習			予習：p p. 38～41	
第15回 総合復習			復習：第1～6課の構文	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％			
レポート	20％ 毎回の中国語自作文の課題の提出			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ 課題の発表。			
受講態度他	10％ 出席状況、受講態度に関わる姿勢などをふまえ総合的な判定をする 授業中、他人の迷惑になるような行為は厳しく処置します			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	①積極的に授業へ参加し、充分に復習と予習をすること。授業中の私語は慎むこと。 ②自習的な学習態度で、作文課題を忘れないで提出すること。 ③電子辞書或いは中日辞書を持参すること。			
教科書	中国語読解のコツ（本間史、張明傑 著）（KINSEIDO）			
指定図書	なし			
参考図書	参考文献は随時、紹介する。			
オフィスアワー	火曜日（授業の前後）		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語作文Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	陳 青 鳳		単 位	2
授業の目的 と概要	本講座は、前期の学習を続け、中国語の作文の基本的仕組みを理解しながら、更に充実した文章力と会話力を身につけることができる。中国語の正確かつ効率な運用能力を養成し、中国語で作文する力を身につけ、学習した知識を使って、自分のことや日常生活に必要なことを、中国語で書いて表現できることを目的とする。 後期は第7～12課の文章を学習する。 前期学習したことに積み上げて、さらに単語を覚え、中国語の文章を流暢に読む、解説することができ、それを活用して短文を書くことができる。 基本的に、二回で一課のペースで進める。			
到達目標	1、現代中国語の文章を解説、理解することができる。 2、基本的な文法事項を身につけ、簡体字で表記することができる。 3、単文と複文の練習を通して、中国語で自分の伝えたいことを中国語で表現できるようになる。 4、実用出来る中国語の会話や通信文を習得することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 カイダンス：講義のねらい・内容・注意事項・作文のつくり方・中国語文章の記号			第1課～第6課の復習	
第2回 第7課：文章の読解、文法の説明			予習：pp.42～43	
第3回 第7課の練習問題と文法復習			予習：pp.44～47	
第4回 第8課：文章の読解、文法の説明			予習：pp.48～49	
第5回 第8課の練習問題と文法復習			予習：pp.62～63 50～53	
第6回 第9課：文章の読解、文法の説明			予習：pp.54～55	
第7回 第9課の練習問題と文法復習			予習：pp.56～59	
第8回 指定テーマに沿って中国語作文の作成			復習：第7～9課の構文	
第9回 第10課：文章の読解、文法の説明			予習：pp.60～61	
第10回 第10課の練習問題と文法復習			予習：pp.62～65	
第11回 第11課：文章の読解、文法の説明			予習：pp.66～67	
第12回 第11課の練習問題と文法復習			予習：pp.68～71	
第13回 第12課：文章の読解、文法の説明			予習：pp.72～73	
第14回 第12課の練習問題と文法復習			復習：pp.74～77	
第15回 総合復習			復習：第7～12課の構文	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％			
レポート	20％ 毎回の中国語自作文 課題の提出			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ 課題の発表。			
受講態度他	10％ 出席状況、受講態度に関わる姿勢などをふまえ総合的な判定をする 授業中、他人の迷惑になるような行為は厳しく処置します			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	①積極的に授業へ参加し、充分に復習と予習をすること。授業中の私語は慎むこと。 ②自習的な学習態度で、作文課題を忘れないで提出すること。 ③電子辞書或いは中日辞書を持参すること。			
教科書	中国語読解のコツ（本間史、張明傑 著）（KINSEIDO）			
指定図書	なし			
参考図書	参考文献は随時、紹介する。			
オフィスアワー	火曜日（授業の前後）		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語初級Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	石 其琳・李 俊華		単 位	2
授業の目的と概要	大学で初めて中国語を学ぶ人を対象とする。 ・授業で学ぶ現代の中国語と古代の中国語（高校国語で取り扱う「漢文」）との違いを理解することができる。 ・現代中国語の基礎的な文法を学び、初級の簡単なコミュニケーション能力を身につけることができる。 ・発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方を身につけることができる。 この授業で学ぶ教科書の範囲は、第5課まで。第6課以降は、「中国語初級Ⅱ」で学習する。一年を通じ、週二回の授業で一冊の教科書を学び終える。他に中国の映画、歌などを教材として、言葉に関わる中国社会の日常生活習慣についても学習する。			
到達目標	1 発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。 2 教科書（第5課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。 3 教科書（第5課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。 4 授業で学んだ内容に関し、簡単な会話・ヒアリングをすることができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。 アジア文化学科DP1:アジア地域で使われる言語のひとつを用いて、基礎的な会話ができる。 中国語中級Ⅰ・Ⅱ、中国語上級Ⅰ・Ⅱ、中国語通訳、中国語作文、ビジネス中国語、中国語通訳ガイド対策、中国現代文学、東アジア入門などの科目に関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 中国語概論			指定図書「日中同形異義語」を読む。	
第 2・ 3回 発音（音とピンイン、四声と軽声）・トレーニング			小テストと発表のため発音の課題がある。	
第 4・ 5回 発音（単母音、複母音）・トレーニング			小テストと発表のため発音の課題がある。	
第 6・ 7回 発音（子音、声調記号の位置）・トレーニング			小テストと発表のため発音の課題がある。	
第 8・ 9回 発音（ピイン表記、声調の変化）・トレーニング			小テストと発表のため発音の課題がある。	
第10・11回第1課（語順、副詞「也」「都」、人称代名詞）			小テストと発表の課題がある。	
第12・13回第1課（指示代名詞、～的、家族の言い方）・トレーニング			小テストと発表の課題がある。	
第14・15回第2課（在、有、方位詞、所有）			小テストと発表の課題がある。	
第16・17回第2課（所有、地名・国と首都）・トレーニング			小テストと発表の課題がある。	
第18・19回第3課（物や人の数え方、時間の言い方、几と多少）			小テストと発表の課題がある。	
第20・21回第3課（時間を表わす語の位置）・トレーニング			小テストと発表の課題がある。	
第22・23回第4課（動詞述語文、連動文、二つ目的語を持つ動詞）			小テストと発表の課題がある。	
第24・25回第4課（介詞）・トレーニング			小テストと発表の課題がある。	
第26・27回第5課（形容詞述語文、程度副詞）			小テストと発表の課題がある。	
第28・29回 第5課（選択疑問文）・トレーニング 第30回 前期まとめの総合発表			前期まとめの総合発表の課題がある。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	10% （期末テスト）			
レポート	10% （関連学習課題&レポート）			
小テスト等	75% （各課学習後の発表&小テスト）			
成果発表	5% （総合課題発表）			
受講態度他	0% （出席状況を学習態度として参考にする）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	語学の学習は、積み重ねが大切である。この授業は特に小テストを頻繁に行うため、日常復習することが必要である。			
教科書	『中国語初級トレーニング』三修社			
指定図書	①『おぼえておきたい日中同形異義語 300』 ②『中国大陸、台湾で役に立つ中国語図解辞典』 ③『漢語量詞図解詞典 漢英版』			
参考図書	『実用日中・中日辞典』隆美出版			
オフィスワー	石：火、水、木、金 李：授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	中国語初級Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	石 其琳・李 俊華		単 位	2
授業の目的 と概要	「中国語初級Ⅰ」を学び終えた人を対象とする。 ・現代中国語の基礎段階のやや複雑な文法を学び、初級のコミュニケーション能力を身につけることができる。 ・現代中国語の発音をマスターすることができる。 この授業で学ぶ教科書の範囲は、第6課から12課まで。一年を通じ、週2回の授業で一冊の教科書を学び終える。他に中国の映画、歌などを教材として、言葉に関わる中国社会の日常生活習慣について学習する。			
到達目標	1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、発音することができる。 2 教科書（第6～12課）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。 3 教科書（第6～12課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。 4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。 アジア文化学科DP1:アジア地域で使用される言語のひとつを用いて、基礎的な会話ができる。 中国語中級Ⅰ・Ⅱ、中国語上級Ⅰ・Ⅱ、中国語通訳、中国語作文、ビジネス中国語、中国語通訳ガイド対策、中国現代文学、東アジア入門などの科目に関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1・2回 第6課（比較の表現）			小テスト発表の課題がある。	
第 3・4回 第6課（状態方法の指示代名詞）・トレーニング			小テストと発表の課題がある。	
第 5・6回 第7課（程度補語）			小テストと発表の課題がある。	
第 7・8回 第7課（能願助動詞）・トレーニング			小テストと発表の課題がある。	
第 9・10回 第8課（完了態「了」、否定副詞「没有」）			小テストと発表の課題がある。	
第11・12回 第8課（変化を表示「了」）・トレーニング			小テストと発表の課題がある。	
第13・14回 第9課（時間の長さ回数、経験態）			小テストと発表の課題がある。	
第15・16回 第9課（進行式、持続態）・トレーニング			小テストと発表の課題がある。	
第17・18回 第10課（結果補語、介詞「从」「到」）			小テストと発表の課題がある。	
第19・20回 第10課（方向補語）・トレーニング			小テストと発表の課題がある。	
第21・22回 第11課（可能補語、動詞重ね型、是～的の文）			小テストと発表の課題がある。	
第23・24回 第11課（存現文）・トレーニング			小テストと発表の課題がある。	
第25・26回 第12課（使役文、受身文）			小テストと発表の課題がある。	
第27・28回 第12課（処置文）・トレーニング			小テストと発表の課題がある。	
第29回 後期範囲の総合発表 第30回 総まとめと復習			範囲の復習課題がある。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	10%（期末テスト）			
レポート	10%（関連学習課題&レポート）			
小テスト等	75%（各課学習後の発表&小テスト）			
成果発表	5%（総合課題発表）			
受講態度他	0%（出席状況を学習態度として参考にする）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	語学の学習は、積み重ねが大切である。この授業は特に小テストを頻繁に行うため、日常復習することが必要である。			
教科書	『中国語初級トレーニング』三修社			
指定図書	①『おぼえておきたい中国語生活会話300』 ②『ネイティブが話す中国語「単語、熟語、決まり文句」』 ③『図説中国文化』漢日対照			
参考図書	『日中・中日辞典』隆美出版 『中日辞典』小学館 『日中辞典』小学館			
オフィスワ ーク	石：火、水、木、金 李：授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	中国語上級Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	石 其琳		単 位	2
授業の目的 と概要	・この授業は、初級、中級の学習を終えた人を対象とする。 ・週2回の授業を通して、聞く、読む、話す、書くことを総合的に訓練し、中国語上級レベルの語学力を身につけることを目的とする。 概要①テキストをもとに、自分で翻訳し、会話練習をプレゼンテーション方式で行なう。②作文練習をした内容について、一対一の口頭試問を行なう。映像材料の中国のテレビ番組、映画、インターネット上各分野の資料を補助教材として、実践的に使う。更に現在コミュニケーションの手段として欠かせないメールの中国語で送受信と入力法などについても学習する。			
到達目標	1 現在中国に関する新聞、中国語ウェブサイトなどさまざまな情報源を自力で収集し、応用することができる。 2 さまざまな場において、授業で身につけた語学力を効率よく使いこなせることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 ①アジア地域で使用されている諸言語の一つを用いて、基礎的な会話ができる。 中国語初級Ⅰ・Ⅱ、中国語中級Ⅰ・Ⅱ・中国語作文・ビジネス中国語・中国語通訳・中国現代文学・中国語通訳ガイド対策東アジア入門などの科目と関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1・3回	⑦マクドナルドどこにある？ ⑧小心拉肚子。		各回会話発表宿題あり	
第 2・4回	プリント資料1・2の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第 5・7回	⑨午后有小雨。 ⑩旗袍真漂亮。		各回会話発表宿題あり	
第 6・8回	プリント資料3・4の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第 9・11回	PCの中国語入力練習（中国語の設定からピンイン入力）		各回テスト形式課題あり	
第10・12回	プリント資料5・6の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第13・15回	PCの中国語入力練習（文章の作成）		各回テスト形式課題あり	
第14・16回	プリント資料7・8の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第17・19回	PCの中国語入力練習（メールの作成と送受信）		各回テスト形式課題あり	
第18・20回	プリント資料9・10の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第21・23回	映像材料の翻訳などの演習（TV番組内容、ウェブ中国語サイト資料など）		各回テスト形式課題あり	
第22・24回	プリント資料11・12の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第25・27回	映像材料の翻訳などの演習（TV番組内容、ウェブ中国語サイト資料など）		各回テスト形式課題あり	
第26・28回	プリント資料13・14の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第29回	総合発表		宿題・補助課題提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	25%（①宿題10% ②補助課題の提出物15%）			
小テスト等	70%（①毎授業の発表35% ②毎授業の口頭試問35%）			
成果発表	5%（総合発表）			
受講態度他	0%（出席状況を学習態度として参考にする）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	・毎回の授業は、さまざまな形式で発表することが要求されるため、予習することが絶対に欠かせない。 ・毎回ヒアリングの宿題も別に提示するが、必ず提出すること。 ・授業中辞典を持参する必要もあるので、各自で用意すること。			
教科書	『トーク・トピックス』白帝社			
指定図書	①『ことばの周辺』 ②『漢語新詞語』（2011） ③『中国語考えるヒント』			
参考図書	『中日辞典』小学館 『日中辞典』小学館			
オフィスワ ーク	火、木、金	メールアドレ ス		

授 業 科 目	中国語上級Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	石 其琳		単 位	2
授業の目的 と概要	・この授業は、初級、中級の学習を終えた人を対象とする。 ・週2回の授業を通して、聞く、読む、話す、書くことを総合的に訓練し、中国語上級レベルの語学力を身につけることを目的とする。 授業概要：①テキストをもとに、自分で翻訳し、会話練習をプレゼンテーション方式で行なう。 ②作文練習をした内容について、一対一の口頭試問を行なう。 他に中国のテレビ番組、映画、インターネット上各分野の資料を補助教材として、実践的に使う。更に現在コミュニケーションの手段として欠かせないメールの中国語で送受信と入力法などについても学習する。			
到達目標	1 現在中国に関する新聞、インターネットなどさまざまな情報源を自力で収集し、応用することができる。 2 さまざまな場において、授業で身につけた語学力を効率よく使いこなせることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 ①アジア地域で使用されている諸言語の一つを用いて、基礎的な会話ができる。 中国語初級Ⅰ・Ⅱ、中国語中級Ⅰ・Ⅱ・中国語作文・ビジネス中国語・中国語通訳・中国現代文学・中国語通訳ガイド対策東アジア入門などの科目と関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1・3回	①新環境 新朋友（トレーニング）②哥哥還是大学生（トレーニング）		各回会話発表宿題あり	
第 2・4回	プリント資料1・2の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第 5・7回	③誕生日おめでとう！（トレーニング）④サッカーできる？（トレーニング）		各回会話発表宿題あり	
第 6・8回	プリント資料3・4の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第 9・11回	⑤味道好極了！（トレーニング）⑥我不買、隨便看看（トレーニング）		各回会話発表宿題あり	
第10・12回	プリント資料5・6の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第13・15回	ウェブ中国語サイト情報資料の検索、翻訳の練習		各回テスト形式課題あり	
第14・16回	プリント資料7・8の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第17・19回	ウェブ中国語サイト情報資料の検索、翻訳の練習		各回テスト形式課題あり	
第18・20回	プリント資料9・10の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第21・23回	映像材料の翻訳などの練習（TV番組内容）		各回テスト形式課題あり	
第22・24回	プリント資料11・12の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第25・27回	映像材料の翻訳などの練習（TV番組内容）		各回テスト形式課題あり	
第26・28回	プリント資料13・14の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第29回	総合発表		各回宿題あり	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	25%（宿題10% 補助課題の提出物15%）			
小テスト等	70%（①毎授業の発表35% ②毎授業の口頭試問35%）			
成果発表	5%（期末総合発表）			
受講態度他	0%出席状況を学習態度として参考にする。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	・毎回の授業は、さまざまな形式で発表することが要求されるため、予習することが絶対に欠かせない。 ・毎回ヒアリングの宿題も別に提示するが、必ず提出すること。 ・授業中辞典を持参する必要もあるので、各自で用意すること。			
教科書	『トーク・トピックス』白帝社			
指定図書	①『誤用から学ぶ中国語』白帝社 ②『最新兩岸用詞差異対照手冊』靈活文化社 ③『ことばの文化背景』			
参考図書	『中日辞典』小学館 『日中辞典』小学館			
オフィスワ ーク	火、水、木、金	メールアドレス		

授 業 科 目	中国語中級 I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	崔 淑 芬		単 位	2
授業の目的 と概要	初級で学んだ単語や文法知識をさらに広げながら、総合的な中国語力をつけます。 1 年次で学習した基礎中国語の発音・文法をふまえ、実用会話、短篇文章を読解し、コミュニケーション能力を高めます。標準語の発音・漢字の書き方・文法など3点に焦点を当て、聞き・話す・書くことに重点を置き、中級中国語の知識、やや複雑な会話文と平易な文章を分析することを通じて、中国の社会や文化を理解し、中級程度の中国語の総合的な実力の向上を図ります。無理なく学ぶことによって、中国語を学ぶことの楽しさを実感させ、学力の確実な定着を目指します。			
到達目標	1. 正しく中国語の発音することができる。 2. 文法を理解し、中国語の文章を読むことができる。 3. 聞き・話すことに重点を置き、日常会話を行うことができる。 4. 言語の背景にある文化,社会を理解し、中国語で簡単に説明することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス： 授業の概要、計画、進め方； テキスト第1課 単語・読解			配布資料：教室用語； テキスト予習. p.6第1課 【中国の朝食】 会話	
第2回 教室用語（1）と第1課会話の発音・朗読			会話暗唱； 予習.: 教室用語（2）・第1課短文（pp.8）	
第3回 会話発表と教室用語（2）・第1課短文の文法・読解			短文復習； 予習.: 教室用語（3）・第2課会話（pp.10）	
第4回 教室用語（3）と第2課「タクシーに乗る」会話の発音・朗読			会話暗唱；予習.: 教室用語（4）・第2課短文（pp.12）	
第5回 会話発表と教室用語（4）と第2課短文の文法・読解			短文復習； 予習.: 教室用語（5）・第3課会話（pp.14）	
第6回 教室用語（5）と第3課「高価な映画」会話の発音・朗読			会話暗唱；予習.: 教室用語（6）・第3課短文（pp.16）	
第7回 会話発表と教室用語（6）・第3課短文の文法・読解			短文復習； 予習.: 教室用語（7）・第4課会話（pp.18）	
第8回 教室用語（7）と第4課「割り勘」会話の発音・朗読			会話暗唱；予習.: 教室用語（8）・第4課短文（pp.20）	
第9回 会話発表と教室用語（8）・第4課短文の文法・読解			短文復習； 予習.: 教室用語（9）・第5課会話（pp.22）	
第10回 教室用語（9）と第5課「お腹をくだす」会話の発音・朗読			会話暗唱；予習.: 教室用語（10）・第5課短文（pp.24）	
第11回 会話発表と教室用語（10）・第5課短文の文法・読解			短文復習； 予習.: 教室用語（11）・第6課会話（pp.2）	
第12回 教室用語（11）と第6課「ネットショッピング」会話の発音・朗読			会話暗唱；予習.: 教室用語（12）・第6課短文（pp.28）	
第13回 会話発表と教室用語（12）・第6課短文の文法・読解			短文復習； 予習.: 教室用語（13）・第7課会話（pp.30）	
第14回 教室用語（13）と第7課「余り男・余り女」会話の発音・朗読			会話暗唱；第1～7課の復習	
第15回 会話発表と総復習			教室用語・第1～7課の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	35％			
レポート	なし			
小テスト等	30％			
成果発表	なし			
受講態度他	35％ 出席状況、授業態度関わる姿勢などをふまえ総合的な判定する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	「急がず・焦らず・着実に」を指導方針とし、積極的に声を出す指導を展開して、コミュニケーション能力を高めていきます。 授業時に定期的に単語小テストを実施し、学習定着度を細やかに確認しています。 積極的に授業へ参加、充分に復習と予習することが望ましい。授業中の私語は慎むこと。			
教科書	内田 慶市・奥村 加代子・張 軼欧著『中国への道』金星堂			
指定図書	孟広学・本間史『変化する中国』 ・『中国は今』 白水社			
参考図書	『中国語辞典』 白水社 、『中日辞典』 三省堂 ほか、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	火曜日3講目・金3講目		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語中級Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	崔 淑芬		単 位	2
授業の目的 と概要	前期の学習内容を踏まえて学習を進める。後期は中国語の実用会話や文章の理解力と読解実力を向上することができます。学習したことに積み上げる形で、更に単語を覚え、実用会話、短篇文章を読解し、コミュニケーション能力を高めます。聞き・話す・書くことに重点を置き、会話や文章を流暢に読む・話す・解読することができ、中国語の総合的な実力の向上を図ります。無理なく学ぶことによって、中国語を学ぶことの楽しさを実感させ、学力の確実な定着を目指します。 実践的なコミュニケーション能力を身につけるため、これまでに学んだ中国語教室用語を活かして、出来るだけ中国語で授業を進めていきます。また、言語の背景にある文化、社会を理解し、総合的な中国語力をつけます。			
到達目標	①学んだ知識の地固めをしつつ、更に充実した会話力を身につけることができる。 ②練習問題の一つひとつ自力で解かせて、理解度と運用能力を高めることができる。 ③実践的なコミュニケーション能力を身につけ、総合的な実力の向上することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 授業の概要、計画、進め方； 教室用語1～13復習			教室用語復習； 予習：教室用語（14）・第7課短文（pp.32）	
第2回 教室用語（14）と第7課「余り男・余り女」短文の文法・読解			短文復習； 予習：教室用語（15）・第8課会話（pp.34）	
第3回 教室用語（15）と第8課「アルバイトは控え」会話の発音・朗読			会話暗唱；予習：教室用語（16）・第8課短文（pp.36）	
第4回 会話発表・教室用語（16）と第8課短文の文法・読解			短文復習； 予習：教室用語（17）・第9課会話（pp.38）	
第5回 教室用語（17）と第9課「感謝を表す習慣」会話の発音・朗読			会話暗唱；予習：教室用語（18）・第9課短文（pp.40）	
第6回 会話発表・教室用語（18）と第9課短文の文法・読解			短文復習； 予習：教室用語（19）・第10課会話（pp.42）	
第7回 教室用語（19）と第10課「若者の就職観」会話の発音・朗読			会話暗唱； 予習：教室用語（20）・第10課短文（pp.44）	
第8回 会話発表・教室用語（20）と第10課短文の文法・読解			復習； 教室用語1～20	
第9回 教室用語小テスト・第10課短文の解釈			短文復習； 予習：第11課会話（pp.46）	
第10回 第11課「月光族」会話の発音・朗読			会話暗唱；予習：第11課短文（pp.48）	
第11回 会話発表・第11課短文の文法・読解			短文復習； 予習：第12課会話（pp.50）	
第12回 第12課「意外な出会い」会話の発音・朗読			会話暗唱； 予習：第12課短文（pp.52）	
第13回 会話発表・第12課短文の文法・読解			短文復習； 予習：短文作成	
第14回 自作短文発表会			テキスト復習：第7～12課	
第15回 会話・総復習			教室用語・テキストの復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	35％			
レポート	なし			
小テスト等	30％			
成果発表	なし			
受講態度他	35％ 出席状況、授業態度関わる姿勢などをふまえ総合的な判定する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	「急がず・焦らず・着実に」を指導方針とし、積極的に声を出す指導を展開して、コミュニケーション能力を高めていきます。 授業時に定期的に単語小テストを実施し、学習定着度を細やかに確認しています。 積極的に授業へ参加、充分に復習と予習することが望ましい。授業中の私語は慎むこと。			
教科書	内田 慶市・奥村 加代子・張 軼欧著『中国への道』金星堂			
指定図書	孟広学・本間史『変化する中国』 ・『中国は今』 白水社			
参考図書	『中国語辞典』 白水社 、『中日辞典』 三省堂 ほか、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	火 4限目・金 3限目		メールアドレス	

授 業 科 目	中国語通訳【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	崔 淑 芬		単 位	2
授業の目的と概要	学習してきた中国語の文法、語彙を使って、通訳の訓練方法を通した、オーラルコミュニケーションのスキル向上をねらいとします。正しい発音と基礎的な語彙を身につけることから出発し、リスニング・スキルの向上、また、中日・日中逐次/同時通訳を実践すると同時に、読解及び聴解能力の強化、語彙、専門知識の習得を目指します。正しく的確に通訳することができるような基礎的な力をつけ、その運用ができるようにします。リスニングを主に実際に通訳の実技訓練を行い、日本語・中国語に関わらず、コミュニケーション能力の向上も目指し、会話を通訳養成の現場で使われている練習方法を使って、トレーニングしていきます。			
到達目標	①通訳、異文化間コミュニケーションに関する基礎的知識を習得する。 ②コミュニケーション能力を磨き、通訳の技法の初歩を学ぶ。 ③種類、心得、マナーなどについて知る。簡単な会話のやりとりが通訳できるようになる ④言語の背景にある文化,社会を理解しながら、実践的な逐次・同時通訳訓練を行う。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 本授業の概要、目標、授業の進め方・通訳とはどのような仕事か			予習：事前に配布する語彙リスト・通訳の種類、通訳者になるためには	
第2回 通訳する上でのマナー、種類； 通訳実技(1) (同時通訳の初歩)			訳文発音の復習； 予習：通訳実技(2)	
第3回 通訳実技(2) (同時通訳の初歩) 通訳訓練法の講義と実践：自己紹介の通訳 (1)			訳文の復習； 予習：自己紹介の通訳 (2)	
第4回 通訳訓練法の講義と実践：自己紹介の通訳 (2)			自己紹介訳文の復習； 予習：自己紹介の通訳 (3)	
第5回 通訳訓練法の講義と実践：自己紹介の通訳 (3)			自己紹介訳文の復習； 予習：簡単なスピーチ通訳 (1)	
第6回 スピーチの通訳 (1)、訳出ができるようになるまで練習			スピーチ通訳の復習； 予習：簡単なスピーチ通訳 (2)	
第7回 スピーチ通訳 (2)、訳出ができるようになるまで練習			スピーチ通訳の復習； 予習：簡単なスピーチ通訳 (2)	
第8回 スピーチ通訳 (2)、訳出ができるようになるまで練習			スピーチ通訳の復習； 予習： 簡単なスピーチ通訳 (3)	
第9回 スピーチ通訳 (3)、訳出ができるようになるまで練習			スピーチ通訳の復習； 予習： 出迎え・案内通訳 (1)	
第10回 出迎え・案内通訳 (1) 訳出ができるようになるまで練習			訳文の復習； 予習：出迎え・案内通訳 (2)	
第11回 出迎え・案内通訳 (2) 訳出ができるようになるまで練習			訳文の復習； 予習：出迎え・案内通訳 (3)	
第12回 出迎え・案内通訳 (3) 訳出ができるようになるまで練習			訳文の復習； 予習：送別会通訳 (1)	
第13回 送別会通訳 (1) 訳出ができるようになるまで練習			訳文の復習； 予習：送別会通訳 (2)	
第14回 送別会通訳 (2) 訳出ができるようになるまで練習			訳文の復習； 予習：送別会通訳 (3)	
第15回 送別会通訳 (3) ・総括復習			復習文まとめ練習	
成 績 評 価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	40% 日文中訳、中文日訳			
レポート	なし			
小テスト等	20%			
成果発表	20%			
受講態度他	20% 飲食厳禁。携帯電話使用不可。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的に授業へ参加、充分に復習と予習することが望ましい。 授業中の私語は慎むこと。 復習（毎回出される課題）を確実にこなすこと。			
教科書	プリント教材			
指定図書	なし			
参考図書	『中日辞典』、塚本慶一著『中国語通訳への道』大修館書店ほか、授業中に随時紹介していく。			
オフィスワー	火曜：4限		メールアドレス	

授 業 科 目	中国の少数民族文化【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	石 其琳		単 位	2
授業の目的と概要	中国の人口は9割以上の漢民族と55の少数民族で構成されている。少数民族は中国全ての異気候と地形（平地、高山、砂漠、草原、島など）の地域に分布し居住しているため、自然と人文の地理環境に大きな影響を受け、文化伝統の発展と生活習慣に相違性が見られる。授業で身につけた上述の知識を通して、長年各少数民族が漢民族や他の少数民族との地理的背景及び歴史文化の関わり、そして現代化による生活変化の実態を理解し、その問題点を考察することが目的とする。 少数民族の地理的生活環境と風俗習慣（結婚、家族、服飾、住居、食、禁忌、宗教など）の基本知識を学習する。そして近年継続してきた少数民族に関する私個人の研究調査結果を随時に加え、映像資料などを使用して、中国社会に存在するもう一つの顔としての少数民族の実体理解を深め、同時に彼らが今日現代化を進める過程で直面するさまざまな問題を啓発学習する。			
到達目標	1．中国は多民族国家であることを認識し、説明できる。 2．各少数民族の生活形態と文化伝統習慣がその居住する自然と人文的地理の要素と深くかかわることを理解しし、説明できる。 3．中国文化における少数民族の歴史文化的重要性を述べることができる。 4．現在中国少数民族が抱えるさまざまな問題点を具体的に説明することが出来る。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。 ④アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる。 東アジア入門・南アジア入門・西アジア入門・東南アジア入門・現代中国語と教育・現代中国文学・アジア生活文化概論・比較文化論・アジア文化人類学・シルクロード文化交流史・人文地理学・自然地理学・地誌学・などの科目に関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 概論 1（映像資料による中国少数民族の简单介绍）			ミニレポートを提出	
第 2回 概論 2（人口、行政区画など）			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 3回 概論 3（少数民族分布の概要－各民族の居住地の地形と生活様式）			各回講義内容についてミニレポート提出	
第 4回 概論 4（少数民族の認定）			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 5回 概論 5（50年代民族の状態と問題点）			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 6回 概論 6（少数民族の識別と問題点）			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 7回 概論 7（少数民族の政策と問題点）			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 8回 概論 8（中国民族問題の特徴）			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第 9回 少数民族の伝統と現代の諸問題 1（モンゴル族、チベット族を中心に）			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第10回 少数民族の伝統と現代の諸問題 2（回族を中心に）			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第11回 少数民族の伝統と現代の諸問題 3（新疆自治区のウエグル族など）			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第12回 少数民族の伝統と現代の諸問題 4（納西族―母系社会のモソ人を中心に）			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第13回 都会の中の少数民族の諸問題			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第14回 少数民族の現代化問題まとめ 1（※経済発展と地理環境問題）			各回講義内容についてミニレポートを提出	
第15少数民族の現代化問題まとめ 2（※経済発展、歴史文化伝統の問題）			総まとめのレポートを提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% （毎授業中提出するミニレポート）			
小テスト等	なし			
成果発表	20% （総まとめのレポート）			
受講態度他	0% （出席状況を学習態度として参考にする）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎講義後、当日の講義内容に関する小課題（ミニレポート）をその場で書き、提出することをしなければならないので、欠席をしないよう注意すること。授業に対しての質疑も小課題に記入することが出来る。質疑に対し、必要に応じて次の授業で返答する。			
教科書	プリント資料配布			
指定図書	①『概説 中国の少数民族』 ② 『中国少数民族の自治と慣習法』 ③『中国少数民族服飾北方編・南方編』（DVD）			
参考図書	『中国少数民族事典』			
オフィスワー	火、水、木、金		メールアドレス	

授 業 科 目	【閉講】中国文化特論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	桐島 薫子		単 位	2
授業の目的と概要	授業では、日本に多大な影響を与えた中国の文化を概観し、その特徴を把握していきます。 また、日本がどのように中国の文化を学び受容してきたのかや、現代に古典を学ぶ意義についても考えます。 具体的には、古代中国の女性故事に関する作品を取り上げます。			
到達目標	1 中国文化を概観し、その特徴を述べることができる。 2 授業で学んだ中国の女性故事について、特徴及び日本への影響を、説明することができる。 3 現代に古典を学ぶ意義について、見解を述べることができる。 4 授業内容に関連したテーマを設定し、資料を用いて自身の見解を、文章で的確に伝えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	ガイダンス、中国に関する基礎知識、古典文献の読解に関する習熟度のアンケート		復習：配布プリント、文献の講読、自身の基礎知識のチェックをする	
第 2回	習熟度の調査の結果・今後の進め方について		予習：文献の講読や調査	
第 3回	前漢の歴史と女性故事①		予習：訓読の練習、作品の内容調査	
第 4回	前漢の女性故事②と中国文化への影響		予習：作品の時代背景の確認	
第 5回	前漢の女性故事③と日本文化への影響		予習：日本の文学・文化に与えた影響について考察する	
第 6回	前漢の女性故事に関するまとめと、ディスカッション		復習：前漢の女性故事に関するまとめ	
第 7回	後漢の歴史と後漢の女性故事①		予習：作品の内容調査	
第 8回	後漢の女性故事②と中国文化への影響		予習：作品の時代背景の確認	
第 9回	後漢の女性故事③と日本文化への影響		予習：日本の文学・文化に与えた影響について考察する	
第10回	後漢の女性故事に関するまとめと、デキスカッション		予習：後漢の女性故事に関するまとめ	
第11回	唐の歴史と女性故事①		予習：作品の内容調査	
第12回	唐の女性故事②と中国文化への影響		予習：作品の時代背景の確認	
第13回	唐の女性故事③と日本文化への影響		予習：日本の文学・文化に与えた影響について考える	
第14回	唐の女性故事に関するまとめと、ディスカッション		予習：唐の女性故事に関するまとめ	
第15回	中国古典における魯迅の女性観、全体のまとめ、レポートについて		レポート準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ （授業内容に関連したテーマを設定し、資料を用いて自身の見解を述べるレポート）。添削して、返却します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ （授業中のディスカッションや発表・質疑応答）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・毎年、学部での専門の違いにより中国古典に関する習熟度が異なる受講生が履修しているため、最初に基礎知識や読解に関するアンケート調査を行います。講義は、その結果を反映し、進めていく予定です。			
教科書	・配布プリント			
指定図書	なし			
参考図書	・授業中に指示する。			
オフィスアワー	火曜昼休み、水曜 4 限		メールアドレス	

授 業 科 目	中国文学演習Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	桐島 薫子		単 位	2
授業の目的と概要	日本の文学や言語に大きな影響を与えた唐代の詩歌（漢詩）を学びます。具体的には、代表的詩人である白楽天（白居易）の作品を取り上げます。官僚として活躍した白楽天は苦しい時もありましたが、いつも人生の充実と喜びを追求し、詩に表現しました。授業では、主に近体詩（律詩・絶句）を読み解きながら、彼の人生・思想・家族・友人・時代背景などについて理解していきます。 また、唐代の伝奇小説についても学んでいきます。具体的には、「人虎伝」（中島敦「山月記」の原作）・「李娃伝」といった小説を取り上げます。これらの作品を通じて、当時の社会制度や風潮について理解を深めていきます。			
到達目標	1 担当する作品の資料を収集・検討し、自身の考えを反映した発表資料（レジュメ）を作ることができる。 2 レジュメをもとに、自らの考えを口頭で分かり易く伝えることができる。 3 日本文学に大きな影響を与えた白楽天の作品を読み解き、ディスカッションを通じて、理解を深めることができる。 4 興味のあるテーマを自ら設定し、考察した内容を、文章によつて的確に表現することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に以下のDPの達成に関わる科目です。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 この授業では、1年後期「中国文学概論」、「漢字と故事成語」、2年「中国文学講読ⅠⅡ」、3年前期「漢文読解」等で培った知識や読解力を更に発展的に向上させることができます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	ガイダンス、白楽天（白居易）とその詩風、日本への影響		教科書『白楽天』p3-5、『漢文まとめと要点』p7-8, 41-42、44を読む	
第 2 回	白楽天について（その一生と詩）		『白楽天』p8-28を読む、担当希望作品を考えておく（複数）	
第 3 回	担当作品の希望調査と定、参考文献について		『漢文まとめと要点』p35-22・p210-217、『白楽天』の担当箇所を読む	
第 4 回	発表資料の作り方、詩歌概論（魏晉南北朝～唐代）、近体詩について		発表作品の参考文献を収集する	
第 5 回	P C スポット授業（漢籍データベースについて、ワードで訓点入力）		参考文献の収集、レジュメ作成	
第 6 回	発表について①（漢籍データベースの活用、参考文献の検討、課題の発見）		レジュメ作成、課題の発見と解決方法を考える	
第 7 回	発表について②（課題の解決、プレゼンテーション方法・質疑応答）		レジュメ作成、プレゼンテーション方法を考える	
第 8 回	発表：第一部 少年時代から退官まで①「賦得古原草送別」他、質疑応答		発表準備、『漢文まとめと要点』p48、『白楽天』p34、70講読	
第 9 回	発表：第一部 少年時代から退官まで②「春題湖上」他、質疑応答		発表準備、配布プリント（山月記）講読、科挙と文人について考える	
第10回	発表：第一部 少年時代から退官まで③「九年十一月二十一日感事而作」他		発表準備、『白楽天』p42、83、95、104を読む	
第11回	発表：第二部 愛する人に語り、好きなものを詠う①「八月十五日夜禁中獨直對月憶元九」他		発表準備、『白楽天』第一部の作品群の復習	
第12回	発表：第二部 愛する人に語り、好きなものを詠う②「別春爐」他		発表準備、『白楽天』p127、配布プリント講読（李娃伝）を読む	
第13回	発表：第二部 愛する人に語り、好きなものを詠う③「八月十五日夜同諸客玩月」他		発表準備、配布プリント講読（李娃伝）を読む、唐代の恋・結婚を考える	
第14回	発表：第二部 愛する人に語り、好きなものを詠う④「江樓宴別」他、レポートの書き方		「人虎伝」「李娃伝」の感想まとめ、『白楽天』第二部の作品類の復習	
第15回	唐代の小説「人虎伝」・「李娃伝」（ディスカッション）、まとめ		レポートの見直し、仕上げ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 期末レポート（発表やディスカッションを通じ興味をもったテーマを設定。到達目標4への取り組み）。提出されたレポートは、添削して返却します。			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ （発表のレジュメの作成と口頭発表と質疑応答。到達目標1、2への取り組み）			
受講態度他	20％ （質疑応答・ディスカッションへの積極的な参加態度。到達目標2、3への取り組み）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	① 詩については担当者による発表、小説については読書会形式のディスカッションを予定しています。 ② P C 演習室でのスポット授業を取り入れ、インターネットを活用した漢籍検索の実践的スキルを身につけます。 ③ 発表は個人を基本としますが、受講者数に応じグループで行ったり授業計画を一部変更したりする場合もあります。 ④ 受講者数によりスケジュールに変更が生じた場合は、授業中に配布する「発表スケジュール表」で伝えます。			
教科書	①下定雅弘著『ビギナーズ・クラシックス中国の古典 白楽天』（角川ソフィア文庫） ②森野繁夫・佐藤利行著『漢文まとめと要点』（白帝社）			
指定図書	①岡村 繁著『新釈漢文大系99 白氏文集3』（明治書院）、②岡村 繁著『新釈漢文大系105 白氏文集9』（明治書院）、 ③岡村 繁著『新釈漢文大系107 白氏文集11』（明治書院）			
参考図書	①『白居易研究年報』、②『大漢和辞典』第1～12巻 諸橋轍次著（大修館書店）、③『漢語大詞典』第1～12冊 漢語大詞典編集委員会編纂（同出版社）、その他、授業中に適宜紹介。			
オフィスアワー	火曜昼休み、水曜4限		メールアドレス	

授 業 科 目	中国文学演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	桐島 薫子		単 位	2
授業の目的 と概要	中国の恋の歌を、テーマとして取り上げます。 具体的には、前漢の武帝と李夫人・唐の玄宗皇帝と楊貴妃に関する歴史物語から生まれた恋愛の詩（古詩）を読み解き、その表現の特徴を把握していきます。また、傾国と呼ばれた女性像に対する考え方の変遷についても考察を加えていきます。 作品としては、特に「長恨歌」について詳しく学びます。作者である白楽天（白居易）、小説「長恨歌伝」、日本への影響（『源氏物語』・『枕草子』・歴史小説・演劇・民間伝承など）についても理解を深めていきます。			
到達目標	1 担当する作品の資料を収集・検討し、自身の考えを反映した発表資料（レジュメ）を作ることができる。 2 レジュメをもとに、自らの考えを口頭で分かり易く伝えることができる。 3 日本文学に大きな影響を与えた白楽天の作品を読み解き、ディスカッションを通じて理解を深めることができる。 4 興味のあるテーマを自ら設定し、考察した内容を、文章によつて的確に表現することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、主に以下のDPの達成に関わる科目です。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」。 この授業では、1年後期「中国文学概論」、「漢字と故事成語」、2年「中国文学講読ⅠⅡ」、3年前期「漢文読解」、「中国文学演習Ⅰ」等で培った知識や読解力を更に発展的に向上させることができます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	ガイダンス、中国の恋の歌について、白楽天の古詩について		中国の恋の歌関連資料、教科書p44を読む	
第 2 回	「長恨歌」について、「長恨歌」に引用された女性、発表レジュメ・方法・参考文献について		「長恨歌」関連資料を読む、発表担当希望箇所を考えておく（複数）	
第 3 回	武帝と李夫人、「長恨歌」担当部分の希望調査・決定		「武帝と李夫人」関連資料を読む、発表担当作品の参考文献を収集する	
第 4 回	武帝と李夫人、玄宗と楊貴妃、女性像に対する見方の変遷（魯迅の女性観を含む）		参考文献の収集、レジュメ作成	
第 5 回	専門的辞書・漢籍データベースの活用方法		参考文献の収集と検討、レジュメ作成	
第 6 回	発表について①（参考文献の収集と分析・漢字ソフトの使い方・課題の発見）		発表準備、資料のまとめ、プレゼンテーション方法について考えておく	
第 7 回	発表について②（参考文献資料の検討・課題の解決・プレゼンテーション方法の検討）		発表準備、配布プリント「長恨歌伝」を読む	
第 8 回	発表：「長恨歌」の第1段		発表準備、発表レジュメの復習	
第 9 回	発表：「長恨歌」の第1段、関連作品		発表準備、発表レジュメの復習、配布プリント「長恨歌伝」を読む	
第10回	発表：「長恨歌」の第2段		発表準備、発表レジュメの復習・「長恨歌伝」の内容を理解する	
第11回	発表：「長恨歌」の第3段		発表準備、発表レジュメの復習・「長恨歌伝」の詳細を理解する	
第12回	発表：「長恨歌」の第4段前半		発表準備、発表レジュメの復習・「長恨歌伝」と「長恨歌」の比較をする	
第13回	発表：「長恨歌」の第4段後半、レポートについて		発表準備、発表レジュメの復習・「長恨歌伝」と「長恨歌」の比較をまとめる	
第14回	関連作品（「長恨歌伝」他）について①、日本への影響		レポートの準備	
第15回	まとめ		レポートの見直し・仕上げ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 期末レポート（発表やディスカッションを通じ興味をもったテーマを設定。到達目標4への取り組み）。提出されたレポートは、添削して返却します。			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ （発表レジュメの作成と口頭発表と質疑応答。到達目標1、2への取り組み） 発表後には、講評やレポートに発展させていくためのアドバイスをを行います。			
受講態度他	20％ （質疑応答やディスカッションへの積極的な参加態度。到達目標2、3への取り組み）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	① 詩については担当者による発表、小説については読書会形式のディスカッションを予定しています。 ② 発表は個人を基本としますが、受講者数に応じグループで行ったり授業計画を一部変更したりする場合があります。 ③ 受講者数によってスケジュールに変更が生じた場合は、授業中に配布する「発表スケジュール表」にて知らせます。			
教科書	①配布プリント ②森野繁夫・佐藤利行著『漢文まとめと要点』（白帝社）			
指定図書	①近藤春雄著『白氏文集と国文学 新楽府・秦中吟の研究』（明治書院）、②下定雅弘著『長恨歌―楊貴妃の魅力と魔力―』（勉誠出版）、③竹村則行著『楊貴妃文学史研究』（研文出版）			
参考図書	①『ビギナーズ・クラシックス中国の古典 白楽天』下定雅弘（角川ソフィア文庫）、②『白居易研究年報』、その他、授業中に適宜紹介。			
オフィスアワー	火曜4限、木曜昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	中国文学概論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	桐島 薫子		単 位	2
授業の目的 と概要	日本の文学や言葉に多大な影響を与えた中国古典文学を学びます。具体的には、詩歌（漢詩）と文章（史伝文学）について、先秦から三国時代にかけての代表的な作品を取り上げます。 また、作者・時代背景・地理・表現形式・特徴・後世（晋～唐）・日本への影響を理解していきます。さらに、作品を読んだり、比較したりすることで、表現形式や特徴に対する理解を深め、鑑賞能力も身につけていきます。			
到達目標	1 授業で学んだ作品に関する事項（作者・時代背景・地理・表現形式や特徴・後世への影響）について説明することができる。 2 授業で学んだ作品を理解し、鑑賞することができる。 3 授業で学んだ作品が日本の文学や文化に与えた影響について、具体的に説明することができる。 4 授業で学んだ作品を通して、現代に古典を学ぶ意義について、自らの見解をまとめ文章で的確に伝えることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、主に以下のDPの達成に関わる科目です。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 この授業では、1年後期の「漢字と故事成語」で学ぶ漢字の字体の変遷や故事成語の時代背景を理解したり、2年の「中国文学講読ⅠⅡ」、3年の「中国文学演習ⅠⅡ」で取り上げる作品を理解したりするための基礎的な内容を学んでいきます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	ガイダンス（授業の目的・内容・進め方・評価方法等）、身近な中国文学、中国の歴代王朝		配布プリント「身近な中国文学」を読む	
第 2 回	『詩経』①（日本への影響・時代背景）		教科書の『詩経』関連箇所（板書の目次の前半部分）や配布プリントを読む	
第 3 回	『詩経』②（内容の特徴・成立事情）		教科書の『詩経』関連（板書の目次の後半部分）や配布プリントを読む	
第 4 回	『詩経』③（作品）、孔子について（『詩経』・『春秋』との関連）		学習シート1に取り組む（第7回まで継続）	
第 5 回	孔子の生涯と文学作品への影響など		教科書の「孔子」関連箇所や配布プリントを読む	
第 6 回	『楚辞』①（『詩経』との比較・日本への影響・時代背景）		教科書の『楚辞』関連（板書の目次の前半部分）を読む	
第 7 回	『楚辞』②（屈原・作品）		教科書の『楚辞』関連（板書の目次の後半部分）、配布プリントを読む	
第 8 回	『春秋』と『春秋左氏伝』		教科書の「史伝文学」1関連（板書の目次全部）を読む	
第 9 回	『戦国策』と『国語』		学習シート2に取り組む（第12回まで継続）	
第10回	『史記』①（日本への影響・時代背景）		教科書の「史伝文学」2関連（板書の目次の前半部分）を読む	
第11回	『史記』②（司馬遷と武帝）		教科書の「史伝文学」2関連（板書の目次の後半部分）を読む	
第12回	『史記』③（作品、後世への影響）		教科書の「史伝文学」2関連（板書の目次全体）を復習	
第13回	四言詩（『詩経』）・五言詩・七言詩、六朝～唐の詩歌の特徴、漢代の詩歌①（武帝と楽府）		教科書の「漢詩」関連（板書の目次の前半部分）、配布プリントを読む	
第14回	漢代の詩歌②（楽府詩について）、後漢時代と五言詩（古詩十九首）		教科書の「漢詩」関連（板書の目次の後半部分）、配布プリントを読む	
第15回	三国時代と五言詩・文芸評論、定期試験について		定期試験の準備	
成 績 評 価	割 合（％）、種 類・評 価 基 準 など			
定期試験	70％（教科書・配布プリント・返却済み学習シート・参考書籍の持ち込み可。到達目標1～4の習熟度）			
レポート	20％ 詩歌（漢詩）と文章（史伝文学）に関する学習シート2回の提出（到達目標1～3への取り組み）。学習シートは、チェックの後、コメントを付けて返却します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ 授業中への積極的な参加態度（到達目標1～4への取り組み）。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①授業にはしっかり出席し、必要事項は指示に従って確実に記録すること。 ②配布プリントは、きちんと整理しておくこと。 ③各作品とも、最初に「授業の目次」（学習項目と対応する教科書のページ・配付資料）を板書する。 ④上記③を参照し、予習・復習・課題学習シートに取り組むこと。			
教科書	・森野繁夫・佐藤利行著『漢文まとめと要点』白帝社 ・配布プリント			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	火曜 4 限、木曜昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	中国文学講読Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	桐島 薫子		単 位	2
授業の目的と概要	初心者向けの読み物として、中国と日本で愛読された『蒙求（もうぎゅう）』を取り上げます。『蒙求』は、有名な人物のエピソードを四字熟語（標題）で表し、原話をもとにした注文（漢文）を付けたものです。「螢の光、窓の雪」の歌詞や夏目漱石の名前の原話も『蒙求』にあります。 1 『蒙求』の「標題（四字熟語）」とその注文・注釈を通じ、物語り世界を理解しながら、漢文の語法を学びます。 2 漢字能力・読解力を身につけていきます。 3 『蒙求』が日本に与えた影響や創作の意義について、学んでいきます。			
到達目標	1 授業で学んだ『蒙求』と「標題」（四字熟語）を理解し、説明することができる。 2 日本における『蒙求』の影響を理解し、説明することができる。 3 注文（漢文）について、書き下し文に従って訓点を付けることができる。 4 注文（漢文）について、語法や語釈を理解しながら、現代語訳することができる。 5 注文（漢文）について、重要な語法を含む文章は白文で理解することができる。（各項目の「学習シート」で指導）			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に以下のDPの達成に関わる科目です。 （3）-②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 この授業では、1年後期の「中国文学概論」の内容を発展させ、日本に影響を与えた中国の歴史や文学に関する作品を読み、読解力を養成していきます。また、1年後期の「漢字と故事成語」と関連させながら、実践的な漢字能力も向上させていきます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス、『蒙求』について、学んだ人々（平安貴族、鎌倉武士、吉田松陰、福沢諭吉等）		配布プリント・教科書p94-100を読む	
第2回	『蒙求』の注（中国の注釈、日本 江戸時代の注釈・地図など）		配布プリントの講読・教科書p101-112を読む	
第3回	漢文語法の復習		配布プリント・教科書 p 114-143の学習	
第4回	三国志（蜀）①：時代背景・標題と徐注の訓読み		配布プリント・教科書 p 114-143の学習	
第5回	三国志（蜀）②：語釈・現代語訳		配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート1	
第6回	三国志（蜀）③：補足説明、視聴覚教材		配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート1	
第7回	三国志（魏・呉）①：標題と徐注の訓読み・現代語訳		配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート2	
第8回	三国志（魏・呉）②：補足説明		配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート2	
第9回	三国志（魏）①：標題と徐注の訓読み・現代語訳・補足説明		配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート3	
第10回	三国志（魏）②：現代語訳・補足説明、『蒙求』に出てくる女性		配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート3	
第11回	貴族社会で活躍した才女の話①：時代背景		配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート4	
第12回	貴族社会で活躍した才女の話②：時代背景・標題と徐注の訓読		配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート4	
第13回	貴族社会で活躍した才女の話③：語釈・現代語訳、語法に関する課題の提出		配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート4	
第14回	貴族社会で活躍した才女の話④：補足説明		配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート4	
第15回	日本における『蒙求』の影響、まとめ、定期試験について		学習シート1～4の総復習、定期試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％（到達目標1～5の習熟度）			
レポート	15％（語法に関する課題1回。到達目標3～5の取り組み）。チェックした後、返却します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	15％（授業中の発表と質疑応答、及び参加態度。到達目標1～5の取り組み）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	① 漢和辞典を活用して予習し、「学習シート」を活用して復習する。 ② 毎年、漢字や漢文の習熟度が異なる学生が履修するため、「到達目標」を分かり易く示しています。「到達目標」1～4は「基礎」レベル、5は「応用」レベル。各自の受講目的に合わせ目指すレベルに取り組み、意欲が出て来たらより高いレベルにチャレンジしましょう。			
教科書	①森野繁夫・佐藤利行著『漢文 まとめと要点』（白帝社） ②配布プリント			
指定図書	なし			
参考図書	財団法人日本漢字能力検定協会著『漢検 2級 ハンディ漢字学習』改訂版（新書判） その他、授業中に指示する。			
オフィスアワー	火曜昼休み、水曜4限		メールアドレス	

授 業 科 目	中国文学講読Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	柴田 篤		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業の目的は以下の3つである。中国思想の特質とその展開とに関する知識を広げる。日本の文化にも深い影響を与えた中国伝統文化に対する理解を深める。漢文訓読の技術を高める。 授業は、先ず漢籍分類法や中国思想史の流れと基礎知識などについて、基本的内容を講義形式で説明する。さらに、それらの思想の原典について、講読形式を用いながら読解を進める。取り上げる作品としては『論語』を中心とする。『論語』は、中国の古典中の古典であるが、日本人にも好まれ、日本の古典とも言える。重要な文章を選んで読解することによって、『論語』の世界を味わいながら、漢文訓読法を修得していく。また、漢文訓読の基礎を再確認するために、漢文法の基本について、プリントにより例文を各自が読む時間を設ける。			
到達目標	①中国思想の内容とその特色に関する正しい知識を有するようになる。 ②漢文訓読法によって中国古典作品の原典資料を精確に読むことができるようになる。 ③中国の古典がいかに日本文化に影響を与えているかについて考えることができるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	中国思想史に関する基礎知識（1）（漢籍分類法と漢文訓読法）		授業内容の復習	
第 2回	中国思想史に関する基礎知識（2）（中国思想史と『論語』）		授業内容の復習	
第 3回	『論語』の世界（1） 一学而篇（前半）読解		授業内容の復習	
第 4回	『論語』の世界（2） 一学而篇（後半）読解		授業内容の復習	
第 5回	『論語』の世界（3） 一為政篇（前半）読解		授業内容の復習	
第 6回	『論語』の世界（4） 一為政篇（後半）読解		授業内容の復習	
第 7回	『論語』の世界（5） 一八いつ篇読解		授業内容の復習	
第 8回	『論語』の世界（6） 一里仁篇読解		授業内容の復習	
第 9回	『論語』の世界（7） 一公治長篇読解		授業内容の復習	
第10回	『論語』の世界（8） 一雍也篇読解		授業内容の復習	
第11回	『論語』の世界（9） 一子罕篇読解		授業内容の復習	
第12回	『論語』の世界（10） 一先進篇読解		授業内容の復習	
第13回	『論語』の世界（11） 一顔淵篇読解		授業内容の復習	
第14回	『論語』の世界（12） 一憲問篇読解		授業内容の復習	
第15回	授業内容のまとめ		授業内容の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	90％ 授業内容全般にわたる記述問題、持ち込み不可			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	漢文読解に対する意欲を持つこと。授業中に私語をしないこと。教科書は各自必ず持参すること。			
教科書	金谷治訳注『論語』（岩波文庫）			
指定図書	なし。			
参考図書	『角川 新字源』（角川書店）あるいは他の漢字辞典。その他、授業中に紹介。			
オフィスアワー	授業前後の時間帯。		メールアドレス	

授 業 科 目	中等教育実習指導(中等教職)【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	栗山 俊之・出雲 俊江・竹熊 真波		単 位	1
授業の目的と概要	本授業は、教育実習を有意義なものとするために、その心構えを確かなものとし、実習の概要と目的について確認し、実習中の過ごし方などの実的な準備を目指すものである。 具体的には、教育実習の事前指導として、まず教育実習日誌や担当授業の準備の確認を行う。また現職教員による特別講義、近隣校への参観などを通じ、教育実習のイメージ化を図り、心構えを確かなものにする。 実習後の事後指導としては、教育実習報告会を開催し、教育実習の成果と反省を学生間で相互評価するとともに、総括レポートの作成を通じて教育実習全体を再考する。			
到達目標	①自らの実習への心構えを深める。 ②地元の学校への参観や現職教員による講話を通じ、学校の実情を把握し、教育活動における自らの課題を見出す。 ③教育実習に向けて、社会人としての基本的なマナーや責任能力を身につける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本授業は、教育職員免許法施行規則における「教育実習」に該当し、「教育実習にかかる事前及び事後の指導」を行うものと規定されるものである。従って、当年度「教育実習Ⅰ」または「教育実習Ⅱ」として教育実習を行う者が受講する。 なお、本授業は、後期開講の「教職実践演習（中・高）」と連動している。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（事前打ち合わせ持参書類の作成）		提出すべき書類の完成	
第2回	実習中の過ごし方についての諸注意（実習の意義と法令についての確認など）		実習日誌の確認	
第3回	実証実習についての諸注意 1（学習指導案について）		学習指導案の作成・提出	
第4回	実証実習についての諸注意 2（板書、筆順等について）		板書計画の作成	
第5回	学校参観		感想レポートの作成	
第6回	現職教員による特別講義		感想レポートの作成	
第7回	先輩による特別講義（教員採用試験合格報告会）		感想レポートの作成	
第8回	実習報告・反省会		礼状、実習総括レポートの作成	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	4 0％ 感想レポート、教育実習日誌ならびに実習総括レポート（感想レポートと教育実習日誌については確認後返却する。実習総括レポートは添削指導後、報告集を作成する）			
小テスト等	なし			
成果発表	2 0％ 模擬授業や実習報告会等			
受講態度他	4 0％ 授業への取り組み、実際の教育実習の状況等により総合的に判断する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・授業では、一社会人としての行動ができるよう、スーツ着用、印鑑持参で臨むこと。 ・欠席の際には必ず担当まで事前に連絡を入れること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、特別支援学校教育要領・学習指導要領 江守賢治『正しくきれいな字を書くための漢字筆順ハンドブック 第三版』（三省堂 2012）			
オフィスアワー	月曜 4 限（竹熊）、火曜3限（栗山）		メールアドレス	

授 業 科 目	中等教育原理(中等教職)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	竹熊 真波		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義は、教職課程の理論的学習の導入として、教育の理念や思想、教育の法体系、教育制度の概要、家庭教育や学校教育の課題など、「教育」の諸側面を様々な角度から検討し、また議論することを通じ、教育のあり方について自ら考える力を向上させることを目的とする。 具体的には、教育の理念や思想といった理論的事項や教育制度や改革の動向について講義するとともに、日本の教育の課題に関する調べ学習やディベートを通じて、能動的な理解を図るものとする。			
到達目標	①教育の意義や理念、法体系について、具体的かつ批判的に考察できる。 ②教育の思想について時系列的に概要を説明できる。 ③家庭教育・学校教育の現状や諸問題について多様な視点からアプローチし、議論を構成できる。 ④教育制度や改革の状況について理解し、教育の在り方について自分なりの考えを持つことができる。 ⑤受講者と適宜グループを組み、意見交換を行い、一定の結論を得ることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、1年後期開講の「教職入門」に引き続き開講されるもので、教育職員免許法施行規則に定める「教育の基礎理論に関する科目」に該当し、以下の内容について学ぶ。 ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 本授業は、2年後期開講の「教育史」と深く関連している。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	イントロダクション		問題点の整理	
第 2回	教育の意義／ディベート解説		ディベート・リサーチ開始	
第 3回	教育の基本理念の変遷（小テスト①）／ディベートグループ、テーマの確定		戦前と戦後の理念の相違について整理しておく（テキスト3～25頁）	
第 4回	教育の法体系（小テスト②）		教育基本法前文と第1条を暗記しておく（テキス26～31頁）	
第 5回	教育の思想（小テスト③）		思想家の名前とその著作等を整理しておく（テキスト32～43頁）	
第 6回	ディベート・リサーチ結果の発表／ディベートの肯定・否定の決定／質疑応答の練習		各人A4・2枚（2000字）以上のレポートの作成・提出	
第 7回	公教育と学校（小テスト④）		学習指導要領の熟読（テキスト46～63頁）	
第 8回	学校教育史・教育行財政（小テスト⑤）		西洋や日本の近代学校成立史を整理しておく（テキスト64～81頁）	
第 9回	現代教育の課題～家庭・学校・地域社会等～（小テスト⑥）		自身のディベートのテーマと照らし合わせる（テキスト84～117頁）	
第10回	教育改革の動向（小テスト⑦）		文部科学省HPにアクセスし、答申などを確認する（テキスト120～143頁）	
第11回	高校訪問（110周年の記念行事への参加）		A4・1枚以上のレポートの提出	
第12回	教育改革の今後の動き／ディベート大会の準備		教育再生実行会議等、教育改革の最新動向を確認する	
第13回	ディベート大会①グループ前半		ディベートの準備と反省	
第14回	ディベート大会②グループ後半		ディベートの準備と反省	
第15回	まとめ・ディベート結果発表		定期試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％			
レポート	20％ 授業後の小レポート、ディベートルリサーチ結果に関するレポート（A4・2枚、2,000字以上）（確認後返却）			
小テスト等	10％ 小テストの結果			
成果発表	20％ ディベートへの取り組み状況			
受講態度他	0％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	教職履修生には、将来的に教職に就くことを前提に、それにふさわしい履修態度を求める。			
教科書	竹熊真波『教員を目指す学生のための教育原理』中川書店			
指定図書	なし			
参考図書	第一回目の授業の際、参考文献一覧を配布する。			
オフィスアワー	月曜3限、水曜4限		メールアドレス	

授 業 科 目	聴覚障がい者の心理と教育【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	中野 桂子		単 位	2
授業の目的 と概要	聴覚障害の定義や分類、生理・病理を踏まえた上で、聴覚障害児の言語的・認知的・社会的・心理的側面について、基本的な事項について理解する。また、聴覚特別支援学校の教育課程や具体的な教育内容と指導方法について理解し、実践力の基礎を身につける。引いては、教職への動機づけを図る。			
到達目標	・伝音性難聴と感音性難聴の特性について述べることができる。 ・聴覚障害児の認知・言語的特徴について説明することができる。 ・聴覚特別支援学校の実際の概要について説明できる。 ・指文字を始め、簡単な手話ができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	感覚の生理（1 感覚）		テキスト1章（pp.9～11）の熟読	
第2回	感覚の生理（2 感覚の一般的性質）		テキスト1章（pp.12～14）の熟読	
第3回	耳（1 感覚の発生）		テキスト5章（pp.53～57）の熟読	
第4回	耳（2 人の聴覚）		テキスト5章（pp.58～60）の熟読	
第5回	耳（3 聴覚障害 4 生きられる世界）		テキスト5章（pp.61～64）の熟読	
第6回	聴覚と言語（1 耳）		テキスト6章（pp.65～67）の熟読	
第7回	聴覚と言語（2 聴覚の機能）		テキスト6章（pp.68～69）の熟読	
第8回	聴覚と言語（3 平衡感覚）		テキスト6章（pp.69～70）の熟読	
第9回	聴覚と言語（4 声および言語）		テキスト6章（pp.70～72）の熟読	
第10回	耳鼻咽喉疾患（病理） 1 外耳炎 急性中耳炎 2 滲出性中耳炎 先天性感音難聴		テキスト7章（pp.73～75）の熟読	
第11回	耳鼻咽喉疾患（病理） 3 鼻出血 小児副鼻腔炎 4 アデノイド増殖症 口蓋扁桃肥大 声帯結節		テキスト7章（pp.76～78）の熟読	
第12回	ろうの子どもの世界（1 眼の進化）		テキスト8章（pp.79～86）の熟読	
第13回	ろうの子どもの世界（2 伝え合いをうむもの——文字言語・手話の学習）		テキスト8章（pp.86～88）の熟読	
第14回	ろうの子どもの世界（3 志向的性向——眼の働き）		テキスト8章（pp.88～93）の熟読	
第15回	ろうの子どもの世界（4 明との出会い——明晰、外向、行動的、能動的、空間的世界）		テキスト8章（pp.94～98）の熟読	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％			
レポート	10％ 聴覚障害者の心理・生理・病理をふまえた上での具体的な支援や教育（指文字や手話など）について			
小テスト等	10％ 耳の構造・機能および耳の疾患について			
成果発表	なし			
受講態度他	日常におけるさまざまな人との出会いを大切にしながら、授業にしっかりと参加し、聴覚障害者についての理解を深めていきましょう。			
受講上の留意 点・ルールに関 わる情報	1 教科書をよく読むこと（予習・復習をする） 2 人の話をよく聞く（聴く）こと 3 授業中ノートをしっかりととり、自分の学習課題を積極的に見つけて、その課題に取り組むこと。 4 障害者への理解を深めるとともに、人と人との関わりについて、日常生活での自らの言動をも振り返ること。			
教科書	中野桂子『視覚・聴覚障害児の心理・生理・病理学的研究』中川書店			
指定図書	中野桂子『病弱・障害児の心理・生理・病理学的研究』中川書店			
参考図書	中野桂子『知的障害児の心理・生理・病理学的研究』中川書店、中野桂子『肢体不自由児の心理・生理・病理学的研究』中川書店			
オフィスワー	授業の前後および昼休みに対応します。		メールアドレス	

授 業 科 目	調査データの扱い方【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	野中 亮		単 位	2
授業の目的 と概要	社会調査に必要な統計学の基礎を修得することを目的とします。計量系社会調査の文献読解と調査の実施において必要な統計の基礎知識を修得します。			
到達目標	・推測統計学を理解し、使いこなすことができる。 ・多変量解析の基本を理解し、表計算ソフト等で実際に演算できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 社会調査士資格取得のための必須科目(D科目に該当)て？す。資格取得を目指す場合、「データからみる社会」「調査データの集め方」「調査データの読み方」「社会調査実習演習」「質的調査法」「量的調査法」とあわせて単位取得してください（最後の2つはいずれか一方でもよい）。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 統計学と社会調査 keywords: 推測統計学			講義ノートで復習しておくこと。	
第2回 基本統計量1：データの傾向 keywords: 最頻値、中央値、平均値、はずれ値			教科書第5章の予復習（参考図書4-4）	
第3回 基本統計量：データの散らばり keywords: 散布度、分散、四分位範囲、標準偏差、変動係数、不偏分散と不偏標準偏差			教科書第5章の予復習（参考図書4-5）	
第4回：分布のゆがみ keyword: 尖度と歪度、正規分布、正規分布と標準偏差			教科書第8章の予復習（参考図書4-6）	
第5回：確率論の基礎1 keywords: 確率論			教科書第11章の予復習（参考図書4-7）	
第6回：確率論の基礎2 keywords:検定と推定、帰無仮説、有意水準、自由度			教科書第11章の予復習（参考図書4-7）	
第7回：推定の確かさ keyword: 母集団と標本、標本誤差、標準誤差と区間推定、標本数の決め方			教科書第10章の予復習（参考図書4-8）	
第8回：量的変数の関連性 keyword: 相関、相関係数、偏相関係数			教科書第6章の予復習（参考図書4-9）	
第9回：質的変数の関連性 keyword: 属性相関係数とクロス集計、独立性の検定			教科書第12章の予復習（参考図書4-10）	
第10回：質的変数と量的変数の関連性 keyword: 平均値の差の検定、t検定、分散分析			教科書第11章の予復習（参考図書4-12）	
第11回：変数の関連性への他の変数の影響1 keyword: 疑似相関、変数のコントロール、エラボレーション			教科書第12章、参考図書の246-9頁を予復習	
第12回：変数の関連性への他の変数の影響2 keyword: 疑似相関、変数のコントロール、エラボレーション			教科書第12章、参考図書の246-9頁を予復習	
第13回：データからの予測1 keyword: 回帰分析			教科書13章の予復習（参考図書4-13）	
第14回：データからの予測2 keyword: 重回帰分析			教科書13章の予復習（参考図書4-13）	
第15回：最終レポートの作成について			レポートの作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 学期末にレポートを課します。30点			
小テスト等	70％ 毎回小課題を課します。5点×14回＝70点			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・コンピュータ演習室で演習形式で授業を行います。 ・授業外学修の時間は180分程度を想定しています。 ・毎回予習と復習を兼ねた簡単な宿題を課します。2回目以降の授業では、最初に宿題の確認を行います。			
教科書	石村貞夫、石村友二郎『SPSSでやさしく学ぶ統計解析』東京図書			
指定図書	なし			
参考図書	篠原清夫 他『社会調査の基礎 社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂			
オフィスアワー	月曜4限	メールアドレス		

授 業 科 目	調査データの集め方【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	赤枝 香奈子		単 位	2
授業の目的 と概要	社会調査の種類や調査方法の決め方、調査のプロセスを理解した上で、調査票やインタビューなどによるデータの収集の仕方やデータの整理方法を学びます。			
到達目標	1. 社会調査の企画・設計から、データの収集、さらに収集したデータを整理するまでのプロセスを理解し、調査に必要な具体的スキルを身につけることができる。 2. 1. で修得した知識やスキルを応用しながら、実際に調査テーマを設定し、調査票を作ることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 社会調査の目的			教科書 2-1 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第2回 調査の方法と決め方			教科書 2-2 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第3回 社会調査のプロセスと先行研究の検討			教科書 2-3 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第4回 社会調査のデザイン			教科書 2-4 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第5回 テーマの決定と仮説の構成			教科書 2-4 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第6回 サンプリング (1) 全数調査と標本調査、無作為抽出			教科書 2-5、2-6 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第7回 サンプリング (2) 標本数と誤差			教科書 2-7 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第8回 サンプリング (3) サンプリングの諸方法			教科書 2-8 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第9回 調査票の作成 (1)			教科書 2-9 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第10回 調査票の作成 (2)			教科書 2-9 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第11回 調査の実施方法 (1) 調査票の配布・回収			教科書 2-10 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第12回 調査データの整理 (1) エディティング、コーディング、データクリーニング			教科書 2-11 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第13回 調査の実施方法 (2) インタビューの仕方			教科書 2-12 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第14回 調査データの整理 (2) フィールドノートの作成			教科書 2-13 (教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。)	
第15回 データの分析に向けて			教科書 (復習) 調査票の提出、レポート作成のための作業	
成 績 評 価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20%			
小テスト等	75% (授業内での小テストおよび調査票作成などの課題)			
成果発表	なし			
受講態度他	5% (課題への取り組み具合や受講態度についても成績評価に含める)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業では、学んだ知識をもとに実際に調査票を作成するなど、社会調査のプロセスの一部を体験してもらいます。そのためにはまず、身の回りや社会で起こっている出来事について日ごろから関心をもち、注意深く観察し、自分が調査によって何を知りたいか、考えてみるようにしましょう。また、実際に行ってもらう調査体験では、授業外での作業 (宿題等) にかかなりの時間が必要になります。積極的な受講態度で授業に臨んでください。			
教科書	篠原清夫、清水強志、榎本環、大矢根淳編『社会調査の基礎：社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂			
指定図書	なし			
参考図書	轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法』法律文化社			
オフィスアワー	水曜4限	メールアドレス		

授 業 科 目	調査データの読み方【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	橋本 嘉代・森 康司・劉 楠		単 位	2
授業の目的 と概要	・官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文を読んで、データが示す意味を理解できる力を養い、統計解析ソフトSPSSを用いて基本的なデータ分析ができるようになることを目指します。 ・データの読み取り方や、グラフの見方、グラフ作成のしかたといった情報リテラシーを身につけることをめざします。 ・社会調査士資格取得に必要な「C科目」（基本的な資料とデータの分析）に対応しています。			
到達目標	1. 単純集計、度数分布、代表値、散布度などの、数で示された記述統計データを読み、理解することができる 2. グラフを見て、その意味を理解したり、データをもとに自分でグラフを作り、わかりやすい資料にまとめることができる 3. クロス集計など、複数の変数の関連をみることができる 4. 因果関係と相関関係の違いを説明することができる 5. 質的データの読み方と基本的なまとめ方を理解している 6. 統計分析ソフト「SPSS」の基本的な操作を習得する			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	調査データを「読む」とは？		教科書を入手し、目次に目を通す。小テスト対策	
第2回	データの入力（教科書第1章）		1章の予習・復習。小テスト対策	
第3回	データの変換、選択、並べ替え（教科書第2章）		2章の予習・復習。小テスト対策	
第4回	グラフの特徴と描き方（教科書第3章）		3章の範囲の予習・復習。小テスト対策	
第5回	単純集計：度数分布表とヒストグラム①（教科書第4章）		4章の範囲の予習・復習。小テスト対策	
第6回	単純集計：度数分布表とヒストグラム②（教科書第4章）		4章の範囲の予習・復習。小テスト対策	
第7回	基礎統計量：平均値、中央値、分散など（教科書第5章）		5章の範囲の予習・復習。小テスト対策	
第8回	質的データの読み方と簡単なまとめ方 ①観察法		課題（授業中に指示）	
第9回	質的データの読み方と簡単なまとめ方 ②インタビュー		新聞・雑誌などのインタビュー記事を読んで、書き方をみる	
第10回	質的データの読み方と簡単なまとめ方 ③ドキュメント分析		配布された分析対象のドキュメントに目を通す（＝予習）	
第11回	相関関係（教科書第6章）		6章の範囲の予習・復習。小テスト対策	
第12回	クロス集計（教科書第12章）		12章の範囲の予習・復習。小テスト対策	
第13回	演習：クロス集計		最終レポート課題用データ分析	
第14回	最終レポート提出		最終レポート課題用データ分析。レポート作成	
第15回	最終レポート修正(教員からのフィードバックコメントをふまえ、修正)		疑問点があれば授業時に質問できるようにしておく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	30％ 授業の最終回に戻します。			
小テスト等	70％			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・統計分析ソフトSPSSを使用します。コンピュータ演習室1と一部の自習室で使えます。 ・理解度の確認のために1回10点満点の小テストや課題を実施します。欠席が多いと点数が減るので注意。			
教科書	石村貞夫・石村友二郎『SPSSでやさしく学ぶ統計解析』第5版（東京書籍）			
指定図書	なし			
参考図書	篠原清夫ほか編『社会調査の基礎－社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂（A,B科目の教科書）			
オフィスアワー	月曜12:30-15:00（橋本） 授業の前後（森、劉）	メールアドレス		

授 業 科 目	地域環境論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	上村 真仁		単 位	2
授業の目的と概要	私たちの暮らしは生物多様性を基盤とする生態系サービスに支えられている。大量生産、大量消費、大量廃棄を特徴とする経済優先の社会は、資源やエネルギーの過剰な利用により、自然環境の破壊や自然資源の枯渇、生物多様性の減少を引き起こしてきた。こうした生態系サービスの劣化は、暮らしの豊かさを損なう一因ともいえる。本講義では、「持続可能な開発目標」が2030年までに解決すべき17の項目に掲げた課題を理解するとともに、その解決に向けた地域レベルでの生物多様性の保全と地域活性化の両立に取り組む事例を通して、未来の世代にとっても暮らしやすい持続可能な地域を創造するための基本的な考え方を学び、次代の地域を担う人材に求められる価値観の醸成を図ることを目的とする。			
到達目標	都市・地域を取り巻く環境問題について理解し、その要因について説明することが出来るようになる。 身近な環境問題に関心を持ち、情報収集が出来るようになる。 地域レベルでの生物多様性保全の多様なアプローチを理解し、持続可能な社会の将来像を構想することが出来る。 環境と地域をテーマに、グループディスカッションにおいて、自分の考えを表明することが出来る。 他の人の意見等を踏まえて、自分の意見を見直し、レポートに取りまとめることが出来る。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	地域環境論について 授業の進め方、環境問題の認識チェック		地域の暮らしと関わりの深い環境問題について1つ調べて来てください。	
第2回	地域環境論のベースとなる考え方 持続可能な地域づくりとは		エコロジカルフットプリントについて調べて来てください。	
第3回	なぜ環境保全はうまくいかないか？ 地域に根ざした環境保全とは		事前に配布する論考を読んで考えをまとめてきてください。	
第4回	地域レベルでの生物多様性保全 事例1 コミュニティによるサンゴ礁の保全		配布資料の読み込み、レジュメ作成	
第5回	地域レベルでの生物多様性保全 事例2 多様な主体が連携した里海づくり		配布資料の読み込み、レジュメ作成	
第6回	地域レベルでの生物多様性保全 事例3 世界自然遺産の登録による保全		配布資料の読み込み、レジュメ作成	
第7回	地域レベルでの生物多様性保全 事例4 生き物ブランドによる保全		配布資料の読み込み、レジュメ作成	
第8回	フィールド視察 太宰府近郊での住民による生物多様性保全事例の視察		視察準備	
第9回	フィールド視察のまとめ グループワークによる報告書の作成		視察の内容をまとめてきてください。	
第10回	地域レベルでの生物多様性の保全を促進する機能 地域のカタリスト		配布資料の読み込み、レジュメ作成	
第11回	環境保全と地域 順応的なガバナンスの必要性		配布資料の読み込み、レジュメ作成	
第12回	グループディスカッション（生物多様性の保全のために学生ができること） 情報収集と議論		自分たちができる持続可能な地域づくりへの提案を考えてきてください。	
第13回	グループワーク（生物多様性の保全のために学生ができること） 提案取りまとめ		発表資料の作成	
第14回	グループ発表		グループで、パワーポイントによる発表資料を作成してきてください。	
第15回	まとめ 地域環境保全の必要性		期末レポートの作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 「身近な環境を住民が守ることの意義」に関するレポート 1200文字			
小テスト等	なし			
成果発表	グループ発表 30％（フィールドワーク、保全策提案）、個人ワークの発表（希望者 加点）			
受講態度他	30％ グループワークへの貢献度、フィールドワークへの参加で評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対馬市と本学のインターンシップ覚書に基づく、対馬での長期インターンシップ（夏季休暇中）を希望する学生は本科目を積極的に受講することが望ましい。本科目では、グループワークを予定している。グループメンバーに迷惑とならないよう、積極的な議論への参加、出席をするように。また、地域づくりの現場の視察（福岡県内）を計画している。交通費等の詳細については第1回の授業までに概算を提示する予定。			
教科書	なし			
指定図書	地域環境学、佐藤哲／菊池直樹 編、東京大学出版会 なぜ環境保全はうまくいかないか、宮内泰介 編、新泉社			
参考図書	フィールドサイエンティスト、佐藤哲、東京大学出版会			
オフィスワーク	月曜日3限、4限、水曜日3限、4限		メールアドレス	

授 業 科 目	地域社会学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	徳永 勇		単 位	2
授業の目的 と概要	地域社会は、私たちににとって家族に次ぎ最も基礎的な社会集団であるが、都市化の進展とともに、濃密なコミュニケーションと相互扶助のネットワークは、地域社会から失われてきた。しかし、災害発生時に明らかとなるコミュニティの潜在能力の重要性はいうまでもなく、急速に少子高齢化が進んでいる現在、地域社会の福祉機能の重要性も看過すべきではない。人間が直面する心理・社会的諸問題や諸課題は、地域社会という舞台の上で生起する。それら問題・課題を解決していくには、地域社会の人・インフラ・情報等の資源を有効に活用していく必要がある。 本講では、農村・都市社会学の研究実績をふまえ、地域社会の変容過程と現状、問題点とその解決策について理解を深め、説明、構想できるようにすることを目的とし、あわせて地域福祉の計画と実践に不可欠の知見を呈示し、実現可能な良きコミュニティ像の模索を行う。			
到達目標	1.地域社会を分類する概念について説明できる。 2.近隣住区論の考え方を説明できる。 3.自治体と国家のあるべき関係について説明できる。 4.都市化の社会学理論について説明できる。 5.都市型社会の特徴について説明できる。 6.福祉機能を備えた地域社会のあり方を構想できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福C (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 地域社会と集団類型			予習 講義ノートpp.1-2	
第 2回 家族と近隣住区			予習 講義ノートp.2	
第 3回 自治体と国家			予習 講義ノートpp.2-3	
第 4回 農村ー都市の乖離説と連続説			予習 講義ノートp.4	
第 5回 日本社会の農村的特質			予習 講義ノートp.4	
第 6回 アーバンイズムの特質			予習 講義ノートp.5	
第 7回 都市問題の展開			予習 講義ノートp.5	
第 8回 都市化の過程			予習 講義ノートp.6	
第 9回 都市型社会の特徴			予習 講義ノートp.6	
第10回 ボランタリー・アソシエーションと地域社会			予習 講義ノートp.7	
第11回 パーソナル・ネットワークと地域社会			予習 講義ノートp.8	
第12回 有限責任のコミュニティ			予習 講義ノートp.8	
第13回 防災福祉空間としての地域社会			予習 講義ノートp.9	
第14回 少子高齢化と地域社会			予習 講義ノートpp.9-10	
第15回 コミュニティと福祉計画			予習 講義ノートpp.10-11	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％：テーマ選択、論述式の筆記試験で評価する。持ち込みは配布プリント、自筆ノートのみ可。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	せっかく受講する授業なのだから、わからないこと、疑問に思うことがあれば積極的に質問してほしい。質問や意見は、メールでも受け付け、授業の冒頭で回答する。			
教科書	使用しない。			
指定図書	森岡清志編『地域の社会学』有斐閣（2008）、中筋直哉・五十嵐泰正編著『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房（2013）、広井良典・小林正弥編著『コミュニティ』勁草書房（2010）			
参考図書	講義中に、適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜日3限・火曜日2限。		メールアドレス	

授 業 科 目	地域社会学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	野中 亮		単 位	2
授業の目的と概要	地域社会学の基礎的な視点と方法を学び、地域社会のアクチュアルな問題を理解することを目的とします。都市祭礼の事例研究を素材に、日本の都市祭礼の一般的な構造、祭礼構造と地域構造の関係性およびその変化の原因について理解し、合わせて祭礼を通じた日本の地域社会の変化に関する総合的な知見を得る事をめざします。			
到達目標	・日本の地域社会における伝統文化の機能について説明できる。 ・日本の地域社会の変容を祭礼という文化現象を通じて説明でき、実際の地域生活や行政・企業活動においてその知識を活用する方法を身につける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 「家族社会学」や「現代社会と地域」等とあわせて履修することで、より深い理解が得られます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	地域社会学／宗教社会学とは		社会学の研究対象としての「地域」と「宗教」を説明できるようにしておく事	
第2回	地域社会学の基礎理論：論点の整理と研究例		region と community の違いを説明できるようにしておく事	
第3回	宗教社会学の基礎理論：儀礼論		デュルケームの儀礼論の概略を説明できるようにしておく事	
第4回	日本の祭論：柳田国男と折口信夫		「神事」と「催事」の関係性を説明できるようにしておく事	
第5回	伝統的祭礼と地域1：京都府京都市の祇園祭		自治組織の近代化と祭礼組織の弱体化について説明できるようにしておく事	
第6回	伝統的祭礼と地域2：福岡県福岡市の博多祇園山笠		文化の伝播と祭礼による都市制御機能について説明できるようにしておく事	
第7回	あたらしい祭1：高知県高知市のよさこい祭		イベント型祭礼の特徴と祭礼の移植について説明できるようにしておく事	
第8回	あたらしい祭2：北海道札幌市のYOSAKOI ソーラン祭		イベント型祭礼の組織化について説明できるようにしておく事	
第9回	地方都市と祭1：熊本県熊本市の火の国祭		祭の「失敗例」のポイントがどこにあるのか説明できるようにしておく事	
第10回	地方都市と祭2：熊本県熊本市の藤崎宮秋季例大祭		伝統的祭礼と近代的価値観との軋轢を具体的に説明できるようにしておく事	
第11回	伝統的祭礼の変容1：大阪府岸和田市のだんじり祭		伝統的祭礼の巨大化と観光資源化について説明できるようにしておく事	
第12回	伝統的祭礼の変容2：大阪府岸和田市のだんじり祭		祭礼の文化的ネットワークについて説明できるようにしておく事	
第13回	伝統的祭礼の変容3：大阪府堺市のだんじり祭		ピアグループによる祭礼組織の変質について説明できるようにしておく事	
第14回	伝統的祭礼の変容4：大阪府堺市のだんじり祭		祭礼（組織）の変化と地域社会の変化について説明できるようにしておく事	
第15回	まとめ：地域構造と祭礼		祭礼組織と地域構造の関係性について説明できるようにしておく事	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート100％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・「授業外学修」の欄は、主に復習を念頭に設定しています。時間は180分程度を想定しています。 ・教科書を使用しないので、毎回のノートが大事です。板書が読みにくい、話が聞き取りにくい場合はすぐに指摘してください。 ・私語には厳格に対処します。快適な学びの場の維持に協力してください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	芦田徹郎『祭りと宗教の現代社会学』世界思想社 松平誠『都市祝祭の社会学』有斐閣			
オフィスアワー	月曜4限	メールアドレス		

授 業 科 目	地域デザイン【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	上村 真仁		単 位	2
授業の目的と概要	環境問題の深刻化や価値観の多様化、人口減少社会の到来など都市や地域を取り巻く環境変化が著しい現代社会において、豊かな地域社会を実現するためには、生活環境（空間）のデザインに加えて、社会関係（コミュニティ）のデザインが重要な意義を持つようになっている。 本講義では、豊かな暮らしを実現するために取り組まれてきた都市、地域デザインの考え方とともに、地域住民を主体としたまちづくりの理念や実践事例を学ぶことで、望ましい地域像を構想するための価値観を醸成することを目的とする。 また、地域デザイン演習に向けて、地域主体のまちづくりを進めるために重要となる地域調査、分析評価、多様な関係者の合意形成、地域の将来像を具体化するための手法に関する基礎的知識を習得する。			
到達目標	都市や地域の活性化に関するまちづくり事例を通じて、現状での課題や基礎的な用語や手法などに関する知識を習得する。 各地で実施されている地域デザイン事例を調べ、何が地域の課題で、その解決のためにどのようなプロセスで、どのように対策を講じ、その結果、地域がどう変わったかを分析・評価できるようになる。 全国の地域活性化事例において活用されている地域資源を体系的に把握し、その利活用の手法について理解する。 利害関係者の合意形成を構築する必要性について理解を深めるとともに、合意を促すための手法を習得する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業のイメージの共有 まちづくりとは何か？		課題図書の中から1冊を選び読んできてください。	
第2回	プランニングするということ まちづくりの歴史		課題図書を読んできてください。	
第3回	まちづくりと合意形成		課題図書の中から1冊を選び読んだ内容をもとに発表資料を作成する	
第4回	まちづくりの進め方		発表の準備（PP作成、ハンドアウト）	
第5回	まちづくり事例 その1 安全・安心まちづくり 課題図書発表 1		配布資料を読んできてください。発表の準備（PP作成、ハンドアウト）	
第6回	まちづくり事例 その2 景観まちづくり 課題図書発表 2		配布資料を読んできてください。発表の準備（PP作成、ハンドアウト）	
第7回	まちづくり事例 その3 中心市街地活性化 課題図書発表 3		配布資料を読んできてください。	
第8回	まちづくり事例 その4 地球環境時代のまちづくり 課題図書発表 4		配布資料を読んできてください。	
第9回	太宰府市歴史的風致維持向上計画について（太宰府天満宮門前6町まちづくり協議会の取り組み）		太宰府参道周辺の歴史的な景観について下見をしてきてください。	
第10回	グループワーク その1 門前町の暮らしに関するヒアリング調査		門前町の人々に聞きたいことを考えてきてください。	
第11回	グループワーク その2 門前町の資源の発掘（現地調査）		発見した資源について調べてきてください。	
第12回	グループワーク その3 門前町調査の取りまとめ（地図の作成）		グループで地図を作成してきてください。	
第13回	グループワーク その4 地図を使った町歩き（地図発表）		現地調査の成果をグループ毎に取りまとめてきてください。	
第14回	グループ発表 その5 まち歩きガイドの実施		自分たちの作った地図を作ってガイドができるようにして来ててください。	
第15回	まとめと振り返り		振り返りを行ってください。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	90％ （課題図書についての発表 30％ 資源カルテ作成 20％ マップ作成 20％ 発表 20％）により評価する			
受講態度他	10％ グループワーク等への参加の積極性により評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、まちづくりに関連した課題図書を一人1冊読んだ上で、その内容について授業で発表をしていただきます。また、授業の中でグループでの太宰府の門前町での調査を行ない、地域マップを作成してもらいます。グループのメンバーに迷惑をかけないよう、積極的に参加するようにしてください。授業の一部を小鳥居小路の町家で実施します。			
教科書	担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。			
指定図書	1. 調査されるという迷惑「フィールドに出る前に読んでおく本」宮本常一、安溪遊地 みずのわ出版 2. コミュニティデザイン 人がつながるしくみをつくる 山崎亮 学芸出版社			
参考図書	服部圭郎 未来社 4. 若者のためのまちづくり 服部 圭郎 岩波ジュニア新書			
オフィスアワー	月曜日 2 限、3 限、4 限、水曜日 4 限		メールアドレス	

授 業 科 目	【閉講】地域デザイン演習【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	上村 真仁		単 位	2
授業の目的と概要	地域デザイン演習は、地域に関わる様々な立場の人々が集い、地域の課題に向き合い、その解決策を考え、協働により解決する一連のプロセスにおいて必要となる知識や技術を演習形式で体験し、習得することを目的とする。 本演習では、前半にロールプレイやグループワークを行い地域デザインを模擬体験します。後半ではグループで太宰府のまちづくりを紹介する広報紙の作成を課題として、地域調査の企画・設計、地域住民への聞き取り調査を実施し、地域活性化に活用可能な地域資源カルテを作成します。			
到達目標	1. ロールプレイや模擬体験により地域デザインを構想する手法、手順などを身につける。 2. フィールド調査の計画立案により、現地調査の企画を立てられるようになる。 3. 調査計画に基づき調査を実施できるようなる。 4. 地域住民との良好なコミュニケーションにより必要な情報を収集できるようになる。 5. 調査結果を取りまとめ分かりやすいプレゼンテーションができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 地域デザイン演習の実施方法		自分の関心のある地域、テーマを考えてくる。	
第2回	ロールプレイ 土地利用問題に関する架空の審議会 背景情報の読み込み		公聴会での発表の準備をしてきてください	
第3回	ロールプレイ 土地利用問題に関する架空の審議会による 公聴会の開催		体験を通じて考えたことをワークシートに記入してきてください。	
第4回	グループワーク 大学キャンパスを対象とした人と野生生物のための計画づくり 背景情報の収集		グループで対象地域の背景情報を調べてきて発表できるようにしてください。	
第5回	グループワーク 背景情報に基づくキャンパス改変計画の検討		地域計画を取りまとめ発表できるようにしてきてください。	
第6回	グループワーク 人と野生生物が共生したキャンパス提案取りまとめ		グループで検討を進めてきてください。	
第7回	太宰府門前町の現地視察		事前の配布資料を読んできてください。	
第8回	太宰府門前町のまちづくりについて学ぶ 小鳥居小路のについて外部講師レクチャー		聞き取りの計画を作成してきてください。	
第9回	フィールド演習 課題：太宰府門前町の地域資源カルテを作成する 課題の前提条件の説明		太宰府門前町の取り組みを調べてくる	
第10回	地域資源の掘り起こし調査の企画及び取材の計画		聞き取りにより埋もれた資源の発掘をします。調査方法を検討してくること。	
第11回	現地取材 その1（関係者ヒアリングの実施）		調査対象、項目などを検討し、アポイントを取っておく。	
第12回	現地取材 その2（地域資源の発掘）		調査対象、項目などを検討し、アポイントを取っておく。	
第13回	資源カルテの作成		カルテにまとめるために聞き取り内容をまとめてきてください。	
第14回	グループワーク 地域資源の活用方策の検討		類似の地域資源を活用したまちづくり事例を調べてくる。	
第15回	グループ発表とまとめ		相互評価によるフィードバックを踏まえ修正したデータを提出をしてください	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	60％ （グループ提案 20%、取材等の内容・ヒアリング記録 20%、地域資源カルテ 20%）			
受講態度他	40％ ロールプレイ、グループワークへの参加、貢献度により評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本講義は、現場での調査と授業外学習をグループで実施しなければより良い成果が得られません。グループのメンバーや地域の方々に迷惑をかけないように、各自が責任を持って授業に参加してください。授業の一部を小鳥居小路の町家で実施します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します。			
オフィスアワー	月曜日 3 限、4 限、水曜日 3 限、4 限		メールアドレス	

授 業 科 目	地域と文化【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松本 常彦		単 位	2
授業の目的 と概要	九州という地域と深い関わりがある文化表象について学習することを通じて、地域と文化の双方に関わる人間観についての理解を深める。地域と文化が背負っている歴史性や風土性について理解を深めることで、社会を多様な価値観から考える複眼的で人間的な思考力を養う。自分たちが暮らしている地域とその文化表象の関係についての理解を創造的思考力によって発展させ、文化的に発信していくような情報発信能力の土台を築く。 時期的には、19世紀から現在まで、地域としては九州とくに福岡を中心に、地域と文化との多様な関係性について考える。一つには、問題の多様性自体に目覚めることが必要となる。言説ジャンルとしては芸能や文芸が中心で、素材としては新聞や雑誌や書籍など活字メディアが検討対象になる。ただし、テキストの解釈というより、それを通して、地域と文化表象との関係を考察することが中心となる。			
到達目標	地域と文化との関係について、既成の一般的な把握とは異なる、歴史的で人間的な理解の届いた観察ができる視座を学習する。地域と文化は、ともに人間認識や社会的規範と深く関係することを理解し、そのことを通じて人間観や社会観の更新を図る。上記の成果として、具体的な資料に基づきながら、地域と文化との関係について紹介するパンフレットを作成する。また、地域からの発信という視点を持つことで、社会と自己との関係性やメディアリテラシーの重要性についても認識する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 後期全体についての授業概要の説明			配布資料を読む	
第 2回 地域と文化を考えるための問題点1 地域とは何か			配布資料を読む	
第 3回 地域と文化を考えるための問題点2 文化とは何か			配布資料を読む	
第 4回 地域と文化を考えるための問題点3 地域と文化との関係			地域と文化の概要について自分を事例とした報告書の作成	
第 5回 博多の芸能1			配布資料を読む	
第 6回 博多の芸能2			配布資料を読む	
第 7回 博多の芸能3			配布資料を読む	
第 8回 博多の芸能4			博多の芸能について、二六字川柳や博多なぞなぞなどの自作品を提出	
第 9回 雑誌が映し出す明治・大正の福岡1			配布資料を読む	
第10回 雑誌が映し出す明治j・大正の福岡2			配布資料を読む	
第11回 雑誌が映し出す明治・大正の福岡3			「筑紫史談」の報告書を作成する	
第12回 雑誌が映し出す昭和の博多1			配布資料を読む	
第13回 雑誌が映し出す昭和の博多2			配布資料を読む	
第14回 雑誌が映し出す昭和の博多3			地域情報誌についての報告書作成	
第15回 地域と文化という問題についてのまとめ			試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	20％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中に無断で教室を出た場合は、受講を認めない			
教科書	使用しない。資料は複写を授業時に配布する。			
指定図書	配布資料に記載			
参考図書	『福岡県史』、『福岡市史』、『福岡県百科事典』			
オフィスアワー	金曜日午前中の授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	地域とメディア【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	富永 倫子		単 位	2
授業の目的 と概要	放送とは、単なる情報を流す・伝えるだけのものではありません。 様々な項目・条件・材料をコーディネートし、配慮した中で一つの番組を提供します。特にローカルメディアは地域との密着は欠かせません。 この授業では、ラジオを中心に、地域とメディアとの関わりを各ジャンルで習得し、放送という分野でメディアに求められるもの、メディアが求めるもの、地域や企業・産業との関わり合いを学習し、放送というメディアの役割を理解する。実際に現場を見学したり、番組を企画し、放送・情報伝達、地域とのコミュニケーションを学んでいきます。 どの仕事に就いても、恐らく役に立つと思われる、講義になればと思います。			
到達目標	1. 放送というメディアの特徴や性質を理解し、説明、実践することができる 2. あらゆる情報や状況の中から、きちんと判断・選択し、理解を深めることができる 3. 学習・経験の先に問題提起ができる 4. 実際にメディアに触れ役割を理解することができる 5. アイディアや企画のポイントをつかみ、条件に基づいて様々な対応が出来るようになる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション (授業の主旨、進め方、アンケートによる自己紹介、予習復習の仕方説明)		シラバスの確認、授業内容の復習	
第2回	地域と番組というメディアの関わり合い～情報生ワイド番組		授業前後でのRKBラジオ指定の番組視聴予復習、配布資料に目を通すこと	
第3回	地域と番組というメディア～スポーツ番組 (野球・サッカー・ラグビー・バスケット・五輪等)		授業前後にホークス中継視聴で予復習 配布資料に目を通すこと	
第4回	地域と番組というメディア～音楽番組、音楽が入る番組		授業前後でのRKBラジオ指定の番組視聴予復習、配布資料に目を通すこと	
第5回	地域と番組というメディア～投稿、SNS、インターネット		授業前後でのRKBラジオ指定の番組視聴予復習、配布資料に目を通すこと	
第6回	地域と番組というメディア～スナッピーとエリア		授業前後でのRKBラジオ指定の番組視聴予復習、配布資料に目を通すこと	
第7回	RKB毎日放送見学、その他		授業前後でのRKBラジオ指定の番組視聴予復習	
第8回	報道・災害とメディア～中継、ボランティア、インタビュー		授業前後でのRKB指定の番組視聴予復習	
第9回	ラジオまつり、各イベント		RKBのHPでのレポートを予習チェック	
第10回	視聴者・聴取者 また、その対応		授業前後でのRKBラジオ指定の番組視聴予復習、配布資料に目を通すこと	
第11回	地域とスポンサー・ラジオ&TVショッピング		授業前後でのRKBラジオ指定の番組視聴予復習、配布資料に目を通すこと	
第12回	あなたが作るラジオ番組①～グループに分かれて制作 企画・構成		下準備	
第13回	あなたが作るラジオ番組②～グループに分かれて制作 制作		素材準備	
第14回	あなたが作るラジオ番組③～グループに分かれて制作 発表・意見交換・講評		配布資料に目を通すこと	
第15回	地域とメディアの関わり合い、そして将来・・・まとめ発表		最終レポート準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ （ 講義中の意見、感想などの積極性 ）			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ （ 番組企画・制作の取り組み ）			
受講態度他	20％ （ 積極的な発言・意見交換 ）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	講義内容上、時事内容など報道に関する情報・今を意識する話題・音楽などを取り上げていきます。番組やニュース・新聞・雑誌などできるものをチェックし予習・復習をしてください。			
教科書	なし （ スマートフォン若しくはPCに無料アプリRadikoをダウンロードしてもらっても構いません ）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後 火曜日9時～12時の予定		メールアドレス	

授 業 科 目	地域福祉論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	山崎 安則		単 位	2
授業の目的と概要	地域福祉の歴史的発展過程を通して地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解していきます。また、地域福祉の主体と対象について理解を深めるとともに、地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について学ぶことを目的とします。 地域福祉の理念や内容について、歴史的発展過程や現代社会における今日的役割を明らかにしたうえで、わが国の地域福祉施策と住民主体の原則を理解し、新しい社会福祉システムとしての地域福祉の意義と役割について考察していきます。			
到達目標	①地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解できる。 ②地域福祉の主体と対象について理解できる。 ③地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 地域福祉の概念と範囲			予習：テキストP2～P5	
第 2回 地域福祉の理念と地域自立生活支援			予習：テキストP41～P42	
第 3回 福祉コミュニティの形成と社会的包摂			予習：テキストP28～P30	
第 4回 地域の捉え方と福祉圏域			予習：テキストP44～P49	
第 5回 地域福祉におけるアウトリーチの意義			予習：テキストP9～P11	
第 6回 地域福祉の主体形成と福祉教育			予習：テキストP58～P74	
第 7回 地域福祉の対象と普遍化			予習：テキストP6～P8	
第 8回 社会福祉法と地域福祉の推進			予習：テキストP21～P30	
第 9回 社会福祉協議会の役割と実際			課題：社会福祉協議会の広報紙（社協だより）の収集	
第10回 地方自治体の役割と地域福祉計画			課題：市町村の広報誌の収集	
第11回 社会福祉法人とNPO法人の役割とボランティア活動			課題：ボランティア活動に参加	
第12回 自治会における民生委員・児童委員の役割と実際			課題：自治会活動に参加	
第13回 新しい生活課題と地域福祉			予習：テキストP14～P18	
第14回 地域住民の役割と専門職との連携の実際			予習：テキストP52～P53	
第15回 地域福祉推進における住民参加の意義と実際			予習：テキストP54～P56	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 定期試験（持ち込みはありません）			
レポート	10％ 中間レポート			
小テスト等	ーなし			
成果発表	20％フィールドワーク（地域貢献活動）			
受講態度他	20％ 履修規定・受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義では、視聴覚機器を使用します。また、講義に併せて最新のデータや資料等をプリントとして配布していきますので、しっかりと記録やノートに整理しておいてください。			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『地域福祉の理論と方法』―地域福祉論 第3版 中央法規 2015年			
指定図書	『地域福祉時代の社会福祉協議会』山本主税他編著 中央法規 2003年			
参考図書	『社協の底力』伊賀市社会福祉協議会編 中央法規 2008年			
オフィスワー	火曜日を除く昼休み時間（12:20～13:10）		メールアドレス	

授 業 科 目	地域福祉論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	山崎 安則		単 位	2
授業の目的 と概要	地域福祉の推進方法について、地域援助技術としてのコミュニティワークの理論学習に加え、具体的にネットワーキング、社会資源の開発・活用・調整、福祉ニーズの発見と把握、地域トータルケアシステムの構築方法、福祉サービスの評価方法など、コミュニティワーカーに必要とされる知識と技術の習得をめざします。 地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際について学ぶとともに、地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）における技術と実践力を身につけていきます。			
到達目標	①地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法及びその実際が理解し実践できる。 ②地域福祉の推進方法について理解し実践できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	ソーシャルサポートネットワークの意義と役割		予習：テキストP134～P142	
第 2回	ソーシャルサポートネットワークの展開と手法		予習：テキストP143～P153	
第 3回	ソーシャルサポートネットワークづくりと実際		予習：テキストP156～P171	
第 4回	社会資源の概念		予習：テキストP214～P216	
第 5回	社会資源の活用法とコーディネート		予習：テキストP217～P221	
第 6回	社会資源の開発と公的サービス		予習：テキストP222～P231	
第 7回	福祉のまちづくりとソーシャルアクション		予習：テキストP233～P236	
第 8回	質的な福祉ニーズの把握方法と実際		予習：テキストP244～P247	
第 9回	量的な福祉ニーズの把握方法と実際		予習：テキストP248～P251	
第10回	地域トータルケアシステムの意義と役割		予習：テキストP254～P260	
第11回	地域トータルケアシステムの展開方法		予習：テキストP265～P268	
第12回	地域トータルケアシステムの組織化と実際		予習：テキストP270～P277	
第13回	福祉サービスの評価の目的とシステム		予習：テキストP282～P288	
第14回	福祉サービスのプロセス評価の方法と実際		予習：テキストP289～P294	
第15回	第三者評価事業と運営適正化委員会の実際		予習：テキストP295～P297	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 定期試験（持ち込みはありません）			
レポート	10％ 中間レポート			
小テスト等	ーなし			
成果発表	20％フィールドワーク（地域貢献活動）			
受講態度他	20％ 履修規定・受講態度			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	講義では、視聴覚機器を使用します。また、最新のデータや資料等をプリントとして配布していきますので、しっかりと記録やノートに整理しておいてください。			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『地域福祉の理論と方法』―地域福祉論第3版 中央法規 2015年			
指定図書	『地域福祉概説』明石書籍			
参考図書	『国民生活白書』内閣府2014年			
オフィスワー	火曜日を除く昼休み時間（12:20～13:10）		メールアドレス	

授 業 科 目	地球惑星科学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	藤本 晶子		単 位	2
授業の目的 と概要	私たちが生活する地球は、広大な宇宙を構成する天体の1つであるとともに、太陽、個体としての地球、地球上の大気現象が相互に結びつき合う複雑な体系を有します。地球惑星科学とは、地層や化石に刻まれた地球の歴史を紐解くことにより地球の過去を明らかにし、宇宙・地上における多様な観測を複合することにより地球の現在・未来を探求する学問です。この授業では、地球惑星科学のさまざまな諸現象に触れながら、地球の成り立ちやその特徴を理解します。そして確かな知識を体得することにより、身近な地球惑星科学現象について考察でき、自分の言葉で説明できることを目的とします。			
到達目標	1：地球惑星科学における諸現象を具体的に列挙・分類することができる。 2：地球惑星科学における諸現象について基本原理・法則に基づいて説明できる。 3：身の回りの地球惑星科学現象に興味を持ち、それらを適切な基本法則と結びつけることができる。 4：地球惑星科学に関する独自の世界観を構築する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業のイントロダクション：地球惑星科学における諸現象の空間・時間スケール		地球惑星科学に関連する諸現象を挙げる	
第 2回	天文（1）	宇宙のひろがり	ビックバン理論について調べる	
第 3回	天文（2）	太陽系の誕生と終焉	太陽系の惑星を列挙する	
第 4回	天文（3）	彗星とオーロラ	オーロラを観測できる地域・条件を調べる	
第 5回	気象（1）	雲ができるしくみ	低気圧と高気圧で異なる天気の違いを調べる	
第 6回	気象（2）	台風の発生とその進路	季節によって異なる台風の進路について調べる	
第 7回	気象（3）	日本の気候（四季）	日本の四季をきめている要因とは何か考える	
第 8回	気象（4）	異常気象	異常気象の具体例をあげる	
第 9回	地殻変動（1）	プレートテクトニクスとブルームテクトニクス	プレートテクトニクスについて調べる	
第10回	地殻変動（2）	地震	過去に日本付近で起きた主な地震を列挙する	
第11回	地殻変動（3）	火山	日本列島の火山分布について調べる	
第12回	地球史（1）	先カンブリア時代～古生代	地球の誕生は今から約何億年前か調べる	
第13回	地球史（2）	中生代～新生代	恐竜が繁栄した時代を調べる	
第14回	日本の自然環境と自然災害		具体的な自然災害を挙げる	
第15回	地球惑星科学の視点から見る、これからの地球環境問題		今後取り組むべき環境問題について考える	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	4 0％（定期試験：授業にて取り扱う地球惑星科学諸現象について、基本原理・法則に基づいて説明できる）			
レポート	4 0％（毎講義内に小レポートを実施）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	2 0％（受講態度、質疑等による授業への貢献度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席、遅刻、途中退出、授業中の私語は慎むこと。 毎講義受講前に、「授業外学修など」に記載している内容について各自で事前学修すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	地誌学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	黒田 圭介		単 位	2
授業の目的と概要	本講義では、地誌学的な解析作業で最も重要な机上作業、すなわち、国土地理院発行地形図の読解技術の修得をテーマとする。地形図に散りばめられた地図記号は地域の様相を的確に表現している。これを正確に読み解き、地図を用いて地域の土台（自然環境）と人々の営み（歴史、文化、産業）を考察できる人材の輩出を目標とする。中学校社会科教員、高校地歴の教員、塾・予備校の地歴科講師等を目指しているものは、地図(地形図)について本格的に学ぶチャンスはそうそうないので、是非履修のこと。 毎回地形図を用いて地域の自然環境と土地利用、歴史、文化、産業の関係などを考察する。毎回課題作業を行い、課題の提出をもって出席とする。具体的な内容は各回ごとの授業内容を参照のこと。			
到達目標	*様々な地図(地形図等)を正しく読めるようになり、さらに目的に沿った地図を自ら描けるようになる。 *地域の構造を文理両面から総合的に解釈できるようになる。 *日本の諸地域における自然、歴史、文化、人間活動について理解を深めることができる。 *ある事象について地理学的な視点を持って調査・解析・考察し、報告できるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 地誌学とは？			講義中に指示する	
第2回 地図を読むための基礎知識			地図記号に親しむ	
第3回 地形図の説明、縮尺と方位			東西南北をきちんと理解する	
第4回 山地の生活			等高線について復習する	
第5回 扇状地と土地利用			扇状地の地形について復習する	
第6回 台地と沖積平野の土地利用			沖積平野の形成について復習する	
第7回 自然堤防の土地利用			畑の水田の分布の違いを復習する	
第8回 河岸段丘の土地利用			河岸段丘の形成について復習する	
第9回 離水海岸の土地利用			海岸平野の地名について復習する	
第10回 沈水海岸の土地利用			リアス海岸にまつわる地形について復習する	
第11回 砂州・砂嘴・陸繋島の土地利用			砂州の形成について復習する	
第12回 さんご礁の土地利用			さんご礁でできた島の土地利用について復習する	
第13回 条里村・塊村・名田百姓村・散村			人為的影響のつよい村落形態について復習する	
第14回 新田集落・路村・屯田兵村			路村の特徴について復習する	
第15回 城下町			城下町の道路の特徴について復習する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30% 試験の他に、講義中に小レポートを課す。			
レポート	-			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	70% 本講義では出席を重視し、かつ毎回課題を課す。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	*正当な理由がある欠席は、必ず欠席届を提出すること。 *テキスト（新編コンターワーク地形図学習の基礎 最新版）を必ず持参すること。このテキストに書き込みつつ講義を進めるため、忘れた場合は出席点が与えられないので注意すること。 *毎回色鉛筆が必要。100円ショップのものでよいので購入しておくこと。 *特別な事情を除いて、授業開始10分後以降の入室は認めない。			
教科書	新編コンターワーク地形図学習の基礎 最新版（帝国書院、帝国書院編集部編）			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスワー	講義終了後	メールアドレス		

授 業 科 目	知的障がい(コミュニケーション障がい)者の心理【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	今村 亜子		単 位	2
授業の目的と概要	コミュニケーションとはなにか？またその障がいとは？コミュニケーションの重要な手段である「ことば」に着目し、さまざまな障がいについて学んでいきます。ことばの障がいとコミュニケーション障がいは、同じではありません。知的な障がいとコミュニケーションとの関係について教科書を読み進めます。またコミュニケーション障がいの多様な領域があることを知るために毎回、各障害を解説し、当事者の手記や映像などの資料を通じて、それぞれの心理面について考えていきます。もっとも重要なことは、コミュニケーションがうまくいかない原因は、どちらか一方にだけあるのではなく、関係性の中にあるという視点です。コミュニケーションの諸相と障がいについての基礎知識と「エピソードの重要性」を、講義形式で解説します。毎回の授業開始時に前回のポイントを要約していきます。授業時間内にミニレポートを作成します。			
到達目標	①各論の基礎知識を理解する。②実際に、どのような生活上の困り感が生じるかについて推論する。③相互理解のプロセスを図式化する。④具体的な事例を通じて自分ならどう接するか具体的にのべられるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回 乳幼児の発達 理解・表出・対人コミュニケーションの各側面から理解する			教科書p7～p18。ICFについての資料（1）を読む	
第 2 回 「子どもの言語獲得の主要な段階」 表情、身振り、遊び、指さし、初語、不在の表象という各段階のおおまかなイメージをもち、その意義について考察する。			教科書p18～p34。ICFについての資料（2）を読む	
第 3 回 「子どもの言語獲得の主要な段階」 語彙爆発、語結合文という各段階のおおまかなイメージをもち、そのメカニズムについて考察する。			教科書p35～p40。ことばの伝達の流れを図式化する。	
第4回 「障害の分類」「純粹」な言語障害とコミュニケーション障害を理解する。			教科書p41～p56。ことばの伝達の流れを図式化する。	
第5回 「発達障がい」 資料、当事者手記から語用論の着眼点を理解する。			教科書 p56～p72を読む。	
第 6 回 「きこえの障害とことばの発達」ヘレン・ケラーの自伝から音声言語の特性を理解する。			「きこえない・きこえにくい子どもたち」を理解し支援を考える	
第 7 回「脳性麻痺」左足の画家、クリスティの自伝をもとに、表出に制約の多い障害と周囲との関係について考察する。			運動面に制約のある子どもたちを理解し支援を考える	
第 8 回 「重度心身障がいのある子どもたち」寄り添って歩む記録をもとに、間主観性について考察する。			ことば以外のコミュニケーション手段について具体的に検討する。	
第 9 回 「知的障がい」（乳幼児～幼児期）の発達の諸相を学ぶ。			ことばの遅れがある子どもたちを理解し支援を考える。	
第10回 「知的障がい」（学童期）の発達の諸相を学ぶ。			ICFの視点から障がいがあるこどもたちの学校生活について考える	
第11回 「知的障がい」（成人期）の社会参加について学ぶ			ICFの視点から障がいがある人たちの就労、社会参加について考える	
第12回 「読み書き障害」発達性ディスレクシア、発達の遅れに伴う文字習得の遅れなど、文字に関わる事象を考察する。			読み書きの困難さをもつ子どもへの個別対応の配慮を考察する。	
第13回「吃音」についてのエビデンスを知り、理解を深める。			吃音を理解し支援を考える	
第14回 治療・教育の実際を学ぶ			教科書 p108～p140より、臨床でのプランニングを学び教育へ応用する。	
第15回 コミュニケーション障がい者の心理（関係性からの理解）について授業で知ったことを元にまとめる			授業全体のまとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 筆記試験			
レポート	30％ 毎回提出（キーワードやポイントが理解できているか。自分の考えを述べているか。）			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	コミュニケーション障がいを緩和する糸口をみつけていたための情報を集め、検証、修正する力をつける授業です。毎回要約とレポートの提出し、持ち帰らないでください。最終講で全員に返却します。必要に応じて座席指定を行います。スマホ等の使用は授業評価の時以外には自粛してください。途中退出するときは一時退出でも必ずレポートを提出してください。欠席、遅刻、早退の理由をレポートに書いてください。試験をうけるためには、規定通り10回以上の出席が必要です。			
教科書	ロラン・ダノン＝ボワロー著加藤義信、井川真由美訳『子どものコミュニケーション障害』白水社（ISBN978-4-560-50914-2）			
指定図書	中川信子『ことばの遅れのすべてがわかる本』講談社			
参考図書	秦野悦子編『ことばの発達入門』大修館書店（ISBN978-4-11062-3-C3047）			
オフィスワーク	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授 業 科 目	知的障がい者の教育【講義】			開 講 時 期	後期
担 当 教 員	酒井 均			単 位	2
授業の目的と概要	知的障がいを中心とした発達障がい教育の歴史と現状、基本的理解、教育課程、指導の方法がわかる。各々の幼児・児童・生徒のニーズを正確に把握し、適切に対応できる教育課程のありかた、支援教育のありかたについての理解を深める。 知的障がいを中心とした発達障がい教育の歴史と現状、基本的理解、教育課程、指導の方法の概説を学んでいく。各々の幼児・児童・生徒のニーズを正確に把握し、適切に対応できる教育課程のありかた、支援教育のありかたについての理解と深化を目指すしていく。				
到達目標	知的障がい教育の歴史と現状、基本的理解、教育課程、指導の方法について説明できる。 各々の幼児・児童・生徒のニーズを正確に把握し、適切に対応できる教育課程のありかた、支援教育のありかたについて説明できる。				
この授業が目的としているDPや関連する科目など	心C (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。2 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション			ショートレポート	
第2回	知的障がいの基本的理解 1 障がいとは			ショートレポート	
第3回	知的障がいの基本的理解 2 障害児教育とは			ショートレポート	
第4回	知的障がいの基本的理解 3 特殊教育から特別支援教育へ			ショートレポート	
第5回	知的障がいの歴史と教育 1 知的障がいに伴う障がい教育（盲教育）の歴史と現状			ショートレポート	
第6回	知的障がいの歴史と教育 2 知的障がいに伴う障がい教育（聾教育）の歴史と現状			ショートレポート	
第7回	知的障がいの歴史と教育 3 知的障がい教育の歴史と現状			ショートレポート	
第8回	知的障がいの歴史と教育 4 知的障がいに伴う障がい教育（肢体不自由）の歴史と現状			ショートレポート	
第9回	知的障がいの歴史と教育 5 知的障がいに伴う障がい教育（病弱・虚弱）の歴史と現状			ショートレポート	
第10回	知的障がいの歴史と教育 6 知的障がいに伴う障がい教育（言語障害）の歴史と現状			ショートレポート	
第11回	知的障がいの歴史と教育 7 知的障がいに伴う障がい教育（情緒障害）の歴史と現状			ショートレポート	
第12回	知的障がいの歴史と教育 8 知的障がいに伴う障がい教育（重度・重複障害）の歴史と現状			ショートレポート	
第13回	知的障がいの歴史と教育 9 知的障がいに伴う障がい教育（発達障害）の歴史と現状			ショートレポート	
第14回	特別支援教育における教育課程			ショートレポート	
第15回	自立活動			最終レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	なし				
レポート	ショートレポート30％ 最終レポート70％				
小テスト等	なし				
成果発表	なし				
受講態度他	なし				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の最後にショートレポートをだします。 遅刻・早退は3回で1回の欠席とみなします。				
教科書	なし				
指定図書	なし				
参考図書	『特別支援学校教育指導要領』文部科学省				
オフィスアワー	火曜日お昼休み（12時30分～13時）		メールアドレス		

授 業 科 目	知的障がい者の心理・生理・病理【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	洪田 登美子		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業は、生理・病理といった器質的要因をふまえながら、知的障がい児・者の発達や行動特徴、ライフステージに応じた支援について理解することを目的とします。さらに、知的障がいとの併存が多い自閉症スペクトラム障害、肢体不自由、感覚障害について理解を深めます。最後に、環境との関わりの中で生じる問題として二次障がいについて学び、その予防としての環境調整や支援について考察できることを目的とします。			
到達目標	1. 発達段階ごとに知的障がい者の心理・行動特性について述べることができる。 2. 自閉症スペクトラム障がいを併存している知的障がい者の行動特性とその支援について述べることができる。 3. 一次性併存障がいと二次障がいについて簡潔な文章で説明することができる。 4. ライフステージに応じた支援について述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 授業の概要 ・ DVD視聴			復習、中間レポートのための図書を探す	
第 2回 知的障がいとは			中間レポートのための図書を探す	
第 3回 乳幼児期の発達過程とアセスメント			中間レポートのための図書を読む	
第 4回 児童期の発達過程と支援			中間レポートのための図書を読む	
第 5回 ダウン症候群の発達の特徴			中間レポートのための図書を読む	
第 6回 ウィリアムズ症候群の発達の特徴			中間レポートのための図書を読む	
第 7回 自閉スペクトラム症(1) ： 自閉スペクトラム症とは、 乳幼児期の行動特徴			中間レポートを作成する	
第 8回 自閉スペクトラム症(2) ： 学童期の行動特徴と支援			中間レポートを作成する	
第 9回 自閉スペクトラム症(3) ： こだわり行動とパニックへについて			中間レポートを作成する	
第10回 ： 就労に向けて、職場でみられる問題、DVD視聴			障がい者の就労の現状について情報収集する	
第11回 青年以降の発達過程と支援、強度行動障害			映画や小説に登場する障がい児・者がどのように描かれているかを調べる	
第12回 肢体不自由者の心理・生理・病理、DVD視聴			映画や小説に登場する障がい児・者がどのように描かれているかを調べる	
第13回 聴覚障がい者と視覚障がい者の心理・生理・病理			これまでの授業内容を振り返り、復習する	
第14回 1 次性併存障がいと 二次性併存障がい			これまでの授業内容を振り返り、復習する	
第15回 親ときょうだいにとっての障がい			知的障がい者の家族支援について調べる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 定期試験			
レポート	30％ 中間レポート ： 障がい者または、障がい者の家族によって書かれた本を読み、レポートを作成する。 A4用紙2枚 授業内で返却予定			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	中間レポートは、障がい当事者の視点から障がいを理解するために課しています。図書リストの本はどれも読みやすい本なので、早めに選び読むことを勧めます。授業内容の理解が深くなると思います。			
教科書	毎回資料を配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	梅谷忠男・生川善雄・堅田明義（編著） 『特別支援児の心理学』 北大路書房 図書リストは授業で配布し、筑女ネットにも掲載する			
オフィスアワー	月曜日4講目、水曜日昼休み(12:30～13:00)		メールアドレス	

授 業 科 目	知的障がい・発達援助の技法【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	森田 理香		単 位	2
授業の目的と概要	本授業では心身に障がい、主に知的障がい・発達障がいをもつ幼児、児童、または生徒に対する援助について学ぶ。まずは、心身に障がいをもつ者へ援助を行うためには、対象となる児童、生徒の特徴を正確に理解することが必要であるため、子どもに関するアセスメントについて学ぶ。また、障がい児者の特性に応じた様々な援助技法について、それぞれの特徴や有効性、対応方法について理解する。 さらに、実際の現場で行われている援助について学び、実際に適用することができるようになることが目的である。			
到達目標	1. 心身に障がいがある幼児、児童又は生徒へのアセスメントについて説明することができる。 2. さまざまな発達援助の技法について、その特徴や有効性について説明することができる。 3. 障がい児者に対して、発達援助の技法を実施することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 「知的障がい者の心理・生理・病理」、「心理アセスメントⅠ」はこの科目を理解するための基礎となります。 また、この科目を発展させるものに「臨床心理学特講」、「臨床心理実習」、「特別支援学校教育実習」などがあげられます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション 障がいの種類と特徴		障がいを持ちながら生活をするとはどのようなことか考えをまとめる	
第 2 回	障がい児者のアセスメントの理論と実際		心理アセスメントについての復習	
第 3 回	応用行動分析 理論① 行動のとらえ方		“気になる行動”を行動レベルで書き起こす	
第 4 回	応用行動分析 理論② 指導法		“気になる行動”について機能的に行動を理解し、書き出す	
第 5 回	応用行動分析 実際① 行動の強化子		“気になる行動”の強化子について復習する	
第 6 回	応用行動分析 実際② 指導案の作成		応用行動分析を使って、指導案を作成する	
第 7 回	応用行動分析に関するミニテスト、ペアレントトレーニング		応用行動分析に係るレポートの作成	
第 8 回	臨床動作法① 理論		配布資料を読む	
第 9 回	臨床動作法② 実際		動作法体験について記述する。さらに、その考察を行う。	
第10回	TEACCHプログラム		TEACCHプログラムについて復習する	
第11回	構造化① 理論		構造化の種類、具体的な方法について復習する	
第12回	構造化② 実際		日常の中にある構造化をいくつか見つけて、レポートを作成する	
第13回	ソーシャルストーリーズ 理論		ソーシャルストーリーズの理論について復習	
第14回	ソーシャルストーリーズの作成		各自、ソーシャルストーリーズを作成	
第15回	まとめ		最終レポートの作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100％ 授業中に指示します テーマごとに4～5回レポート課題を出します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	積極的な態度で学ぶことを求めます			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	実技を含む授業なので、遅刻厳禁。 臨床動作法の回は動きやすい服装で参加してください。			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	金曜 4 限	メールアドレス		

授 業 科 目	地理学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大浦 瑞代		単 位	2
授業の目的 と概要	さまざまな地図を読み解いて，地域を多角的に捉えることにより，地理学的な考え方を理解することができる。 講義の前半（第1回～第7回）では身近な地域を対象とし，後半（第8回～第15回）では国内を対象とした事例を扱う。			
到達目標	①多様な地図を読解できる ②地域を多角的に捉えられる ③地域を地理学的観点から説明できる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として，物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	導入：身近な地域		身近な地域の地図を入手する	
第2回	観光名所の描写		入手した地図の現地を歩く	
第3回	旧跡の描写		講義で扱った図の内容を確認する	
第4回	地名の命名		興味のある地名について調べる	
第5回	様々な主題図		他の事例を調べる	
第6回	新旧地形図		地形図の凡例を確認する	
第7回	絵図と地形図		レポート課題①に取り組む	
第8回	地域を捉える視点		視点の特徴を確認する	
第9回	信仰の空間		寺社に詣でて調べる	
第10回	地域と方言		レポート課題②に取り組む	
第11回	文化的景観		興味のある選定地について調べる	
第12回	歴史的災害の継承①水害		他の事例を調べる	
第13回	歴史的災害の継承②地震津波		レポート課題③に取り組む	
第14回	歴史的災害の継承③火山		他の事例を調べる	
第15回	総括		全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	75％ レポートを3回課す（課題は講義中に提示）。返却は，次回のレポート提出までにおこなう。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	25％ 意欲的な態度を考慮する			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	色鉛筆・ものさしを持参。 欠席に正当な理由がある場合は，欠席届を提出すること。			
教科書	毎回，プリントを配布			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	哲学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	清水 満		単 位	2
授業の目的 と概要	現代社会を生きる自己を実現するための幅広い教養と特定分野の知識・技能の獲得に役立つように、近代哲学の考え方、とくに承認論と表現的人間観を学び、自分の生きる現実に応用して、適切な判断力を身につけることをめざします。 応用力をつけ、理解しやすくするために、日常的な現実、児童教育、芸術文化などの場面に即して、講義していきます。			
到達目標	1，人間の生き方、社会に対する自分なりの視点、把握を獲得する。 2，人間のコミュニケーションについて、本質的な理解を得て、生活の中で実践できる。 3，身体、表現、芸術などについて、自分なりの理解を得て、生活の中で実践できる。 4，生活、教育、労働の場で、他者に対する適切なコミュニケーション、配慮ができる判断力を身につける。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 関連科目：倫理学、人間学			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション 表現と承認		配布プリントを復習する。	
第2回	デンマークに学ぶ表現教育のあり方		テキストの第一章を事前に読んでおく。	
第3回	表現ワークショップ 身体を動かす		ノウハウを覚えて自分で生かせるようにする。	
第4回	承認論（１）：カントの人格主義		テキストの第三章を事前に読んでおく。配布プリントを復習する。	
第5回	承認論（２）：フィヒテの相互承認論		指定図書『フィヒテの社会哲学』の指定箇所を読む。	
第6回	承認論（３）：ヘーゲルの相互承認論		配布プリントを復習する。指定DVDを鑑賞する。	
第7回	表現のメディアとしての身体論		テキスト第二章を事前に読んでおく。	
第8回	表現のメディアとしての身体論：バレエに見る身体論（１）		指定DVDを鑑賞する。	
第9回	表現のメディアとしての身体論：バレエに見る身体論（２）		配布プリントを復習する。	
第10回	哲学は美をどうとらえるか（１）：カントの美の概念		テキスト第四章を事前に読んでおく。	
第11回	哲学は美をどうとらえるか（２）：ヘーゲルの美の概念		指定図書『表現芸術の世界』第一部第一章を読んでおく。	
第12回	生活と美：ウィリアム・モリス		テキスト第七章を事前に読んでおく。	
第13回	生活と美：カノコユリの村		配布プリント、参考図書を読む。	
第14回	旅の思索（１）：デカルト		指定する参考図書を読む。	
第15回	旅の思索（２）：「モーターサイクルダイアリー」		指定する参考図書を読む。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 知識ではなく、講義・文献を読んで、自分で考察したことを書いてもらい、講義の習得度合いを評価します。			
レポート	0％			
小テスト等	20％ 不定期に、講義の終わりに考えたことを、リフレクション・カードとして課します。			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。ワークショップなど参加型の授業は積極的に参加してください。			
教科書	清水 満『共感する心、表現する身体』（新評論）			
指定図書	清水 満『フィヒテの社会哲学』（九州大学出版会）、清水 満、小松和彦、松本健義『表現芸術の世界』（幼児教育・知の探求11、萌文書林）			
参考図書	清水 満『生のための学校』（新評論）			
オフィスアワー	講義のあと。	メールアドレス		

授 業 科 目	哲学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	浅田 淳一		単 位	2
授業の目的と概要	ギリシャに始まる西洋哲学の歴史を知り、それが理性中心主義という主旋律を奏でてきたことを確認する。西洋哲学の伝統を継承しつつ、その限界を超えていこうとするルソーの哲学について知る。さらに学んできた知識を用いて「哲学が如何にして現代の諸課題に答えうるか」を自ら考察する。 この講義では、「生きるための知恵」の探求から始まった西洋哲学の歴史をたどりつつ、いつのまにか忘れ去られたこの哲学の最初の問いに立ち返って現代にも通じる課題に挑戦したルソーの哲学について学ぶ。			
到達目標	1. 西洋の哲学が、「生きるための知恵」の探求から存在論へ向かっていく道筋をたどることができる。 2. 西洋の哲学の特徴として理性が重視されるに至った道筋をたどることができる。 3. 人間が理性を持つことの利点と欠点を整理して述べることができる。 4. ルソーの人間観について体系的に説明することができる。 5. 学んできた哲学の知識を、現代の我々の課題に応用することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 関連科目：倫理学、人間学			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	哲学とは： philo-sophosが初めて登場した文脈		課題（何のために大学に来たのか？自分なりに考えてみる）	
第 2回	哲学するとは？： あなたは幸福の島に住みますか？		課題（幸福の島について、自分なりに具体的に考えてみる）	
第 3回	ギリシャ自然哲学：存在への問いの始まり		課題（「はかなくないもの」について、自分なりに考えてみる）	
第 4回	ピタゴラスとエレア学派：理性中心主義の確立		課題（「感覚的に経験できないが考えることができるもの」を挙げてみよう）	
第 5回	ソフィストの哲学：存在論への最初の批判		課題（ソフィストの哲学の現代性を考慮にいれて、自分の哲学とする考える）	
第 6回	理性の肯定的側面と否定的側面：屁理屈の問題点		課題（人間は理性を持つことで本当に幸福になったのか考えてみる）	
第 7回	中世の哲学（普遍論争）：神は存在するのか？		課題（神は存在するかどうか、自分なりに真剣に考えてみる）	
第 8回	近代哲学の夜明け：デカルトの合理論		課題（絶対に疑い得ない真理について、自分はどうか考えるか）	
第 9回	西洋哲学の批判的継承者ルソー：ルソーの生涯		課題（ルソーの生き方について、自分の考えをまとめてみる）	
第10回	ルソーの人間観：理性に対する感情の優位		教科書（『人間不平等起源論』の当該箇所を読んでくる）	
第11回	ルソー哲学の体系：市民と人間について		教科書（『人間不平等起源論』の当該箇所を読んでくる）	
第12回	『人間不平等起源論』読解：現代社会の批判的検討		教科書（『人間不平等起源論』の当該箇所を読んでくる）	
第13回	ルソーに於ける疎外の克服①『エミール』		課題（ルソーの主著『エミール』について調べてくる）	
第14回	ルソーに於ける疎外の克服②『社会契約論』		課題（ルソーのもう一つの主著『茶会契約論』について調べてくる）	
第15回	講義全体のまとめ		課題（講義全体を自分のノートを見ながら振り返り講義全体の主張を確認）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％ ただし、例外あり、ルールに関わる情報を見よ。			
レポート	各講義の最後に簡単な問題に答えてもらうが、特に成績には反映させない			
小テスト等	ーなし			
成果発表	ーなし			
受講態度他	目に余る場合には、退出を要求し出席を取り消す場合がある。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語は厳禁。講義開始後30分以上遅刻した場合には入室は認めるが、出席としては認めない(欠席扱い)。テストの成績が可否のボーダーライン上にある場合には、受講態度を考慮する場合がある。			
教科書	『人間不平等起源論』（ルソー）岩波文庫			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	テレビ論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	荒巻 龍也		単 位	2
授業の目的と概要	1. 映像メディアならびにテレビの歴史などについての理解を深める。 2. テレビ（放送）のしくみや社会的側面を理解する。 3. テレビのビジネス的側面や技術的側面を理解する。 4. 海外のテレビ事情について理解を深める。 現代社会において最も生活に溶け込み、最も影響力のあるメディアの一つであるテレビについて、様々な角度から考察し、理解していきます。テレビの歴史、番組、社会的側面、経済的側面、技術的側面などを様々な資料を元に考察していきます。あわせて海外におけるテレビの現状やテレビの未来についても考察していきます。			
到達目標	1. テレビの歴史について説明することができるようになる。 2. テレビのしくみ、システム、ビジネス、技術などを説明することができるようになる。 3. 海外のテレビ状況について説明できるようになる。 4. 現状を踏まえて、これからのテレビについて考察することができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要、授業計画、授業の進め方・受け方、テレビとは何か		復習（配布資料再読）	
第2回	テレビの歴史1（映像メディアの誕生からテレビの誕生まで）		テキスト・関連資料の熟読→課題1、教材等の復習	
第3回	テレビの歴史2（テレビの誕生から発展）		テキスト・関連資料の熟読→課題2、教材等の復習	
第4回	テレビ番組		テキスト・関連資料の熟読→課題3、教材等の復習	
第5回	メディアコンテンツとしてのテレビ番組		テキスト・関連資料の熟読→課題4、教材等の復習	
第6回	テレビCMとテレビビジネス		テキスト・関連資料の熟読→課題5、教材等の復習	
第7回	視聴率とテレビビジネス		テキスト・関連資料の熟読→課題6、教材等の復習	
第8回	前半のまとめ、レポート課題1について、テレビ技術(1)		これまでの復習、テキスト・関連資料の熟読→課題7、教材等の復習	
第9回	テレビ技術(2)		テキスト・関連資料の熟読→課題8、教材等の復習	
第10回	テレビと社会1（法律・規制、行政・政策など）		テキスト・関連資料の熟読→課題9、教材等の復習	
第11回	テレビと社会2（文化、社会生活など）		テキスト・関連資料の熟読→課10、教材等の復習	
第12回	海外テレビ事情1（アメリカ、イギリス）		テキスト・関連資料の熟読→課題11、教材等の復習	
第13回	海外テレビ事情2（アジア、その他の地域）		テキスト・関連資料の熟読→予題12、教材等の復習	
第14回	テレビの現状、レポート課題2について		テキスト・関連資料の熟読→課題13、教材等の復習	
第15回	新しいテレビ、これからのテレビ全体のまとめと発表		これまでの教材等の復習→レポート課題2	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％ なし			
レポート	80％ レポート課題1（前半のまとめ）（20％）、レポート課題2（テレビの現状と未来について）（20％）、予習・授業中・復習課題（40％）			
小テスト等	0％ なし			
成果発表	10％ 発表、グループワーク、アンケート回答など			
受講態度他	10％ 授業の振り返りならびに授業に対する積極性（グループワーク参加）など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業はプリントならびに筑女ネットのPowePoint教材等を利用して進めていきます。授業中に必ずしも筑女ネットを閲覧する必要はありませんが、予習・復習ならびに課題においては筑女ネットの閲覧が必須になります。筑女ネット教材の閲覧・利用が確実にできるようにしておいてください。 授業中にほぼ毎回、予習（テキスト・関連資料の熟読）、復習（授業内容）に関する課題に取り組んで、提出してもらいます。この課題は適宜返却します。授業中は私語などもなく、集中して受講してください。			
教科書	なし（プリントならびに「筑女ネット」のオンライン教材）			
指定図書	なし			
参考図書	トリプルウイン著 『徹底図解 放送のしくみ』 新星出版社 藤竹 暁著 『図説 日本のメディア』 NHKブックス（NHK出版）			
オフィスアワー	火曜日2限目（10:50-12:20）、水曜日2限目（10:50-12:20）	メールアドレス		

授 業 科 目	天文学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	藤本 晶子		単 位	2
授業の目的 と概要	私たちの住む地球は宇宙を構成する天体の1つであるとともに、私たち人間も宇宙を構成する要素の1つである。つまり宇宙を知 ることは、私たち人間自身の存在意義を考えることでもある。天文学とは、宇宙の誕生・進化・未来を探究する学問である。この 授業では、天文学の基礎知識・歴史を体得することで、人間活動・技術の進歩に伴う天文・宇宙に関する学問の発展について、自 分の宇宙観に基づき説明できることを目的とする。			
到達目標	1：天文学における諸現象を具体的に列挙・分類することができる。 2：宇宙に関連する諸現象を、天文学の基本原理・法則に基づいて説明できる。 3：日常的に天文に関連する事象に関心を持ち、それらを適切な基本法則と結びつけることができる。 4：宇宙に関する独自の世界観を構築する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業のイントロダクション：天文学が扱う諸現象の空間・時間スケール		宇宙の領域範囲について自説をまとめる	
第2回	天文学の歴史的所見：暦の成り立ちと歩み		日頃、私たちが利用している暦は何か調べ る	
第3回	太陽・月・地球		日食と月食の違いについて確認する	
第4回	太陽系の惑星		すべての惑星の名前を列挙する	
第5回	太陽系の小天体		小天体の種類を列挙する	
第6回	太陽系の誕生		惑星形成モデル「京都モデル」について調 べる	
第7回	地球の誕生		地球が誕生したのは約何億年前か調べる	
第8回	恒星（太陽）の一生		ブラックホールとは何か調べる	
第9回	星座の成り立ち		黄道十二星座をすべて列挙する	
第10回	地球の自転と公転：天動説と地動説		天動説と地動説の違いについて調べる	
第11回	惑星の運動		内惑星と外惑星の視運動の違いを挙げる	
第12回	銀河と宇宙の構造		「天の川」の正体について調べる	
第13回	宇宙観の発展		ビッグバン理論について調べる	
第14回	宇宙開発史		国際宇宙ステーションについて調べる	
第15回	天文学の将来：宇宙の探求		日本の惑星探査の歴史を調べる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％（期末レポート：計1回提出）、40％（毎講義内に小レポートを実施）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％（受講態度、質疑等による授業への貢献度）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	欠席、遅刻、途中退出、授業中の私語は慎むこと。 毎講義受講前に、「授業外学修など」に記載している内容について各自で事前学修すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	データから見る社会【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	野中 亮		単 位	2
授業の目的と概要	社会調査の実施に必要な基本的な知識を身につけることを目的とします。実際の統計データや調査報告書等を題材に、社会調査および調査データの収集・利用方法・解釈・分析法についての知見を修得します。			
到達目標	・日本における代表的な調査（センサス等）の概略を説明でき、その活用ができる。 ・量的・質的調査のデータや分析方法の特性について理解し、調査の成果物を読み解くことができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 社会調査士資格取得のための必須科目(A科目に該当)て？す。資格取得を目指す場合、「調査データの集め方」「調査データの読み方」「調査データの扱い方」「社会調査実習演習」「質的調査法」「量的調査法」とあわせて単位取得してください（最後の2つはいずれか一方でもよい）。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 社会調査とは			講義のノートを復習し、要点を整理しておくこと。	
第2回 社会調査の歴史			教科書1-2等を使って予復習しておくこと。	
第3回 社会調査の種類(1)			教科書1-5等を使って予復習しておくこと。	
第4回 社会調査の種類(2)			教科書1-5等を使って予復習しておくこと。	
第5回 社会調査の方法			教科書1-6等を使って予復習しておくこと。	
第6回 量的調査			参考図書2のpp.34-41等を使って予復習しておくこと。	
第7回 質的調査			参考図書1の第8, 9章等を使って予復習しておくこと。	
第8回 調査倫理とは			教科書1-4等を使って予復習しておくこと。	
第9回 資料の検索と利用法			参考図書1の第2章等を使って予復習しておくこと。	
第10回 官庁統計の利用法			教科書1-7等を使って予復習しておくこと。	
第11回 量的データの読み方と利用法			教科書1-7、参考図書1のpp.50-63等を使って予復習しておくこと。	
第12回 質的データの読み方と利用法			講義資料を使って復習中心に学習しておくこと。	
第13回 調査報告書の読み方(1)			教科書3-1～3-4等を使って復習中心に学習しておくこと。	
第14回 調査報告書の読み方(2)			教科書3-5～3-7等を使って復習中心に学習しておくこと。	
第15回 調査報告書の読み方(3)			これまで配布した資料等を元に、前期全体の学習事項を整理しておくこと。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	定期試験100％。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・教科書を使用しますが、随時別資料も配付するので注意すること。 ・授業外学修の時間は180分程度を想定しています。 ・私語には厳格に対応します。快適な学びの場の維持に協力してください。			
教科書	篠原清夫 他『社会調査の基礎 社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂			
指定図書	なし			
参考図書	1 大谷信介 他『新・社会調査へのアプローチ 論理と方法』ミネルヴァ書房 2 轟亮 他『入門・社会調査法[第2版]』法律文化社			
オフィスアワー	月曜4限	メールアドレス		

授 業 科 目	統計学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	花野 裕康		単 位	2
授業の目的と概要	統計学と聞くと「数学は苦手なんだけど…」と尻込みする諸君もいることと思う。しかしこれは誤解である。統計学は数学ではない。数学は使うが、あくまで「道具として便利なものだけを使い回す」だけだ。だから数学が苦手でも、そんなに心配しなくていい。統計学を使うことができれば、頭の中で想像するだけでは、またネットやテレビのニュースを眺めるだけでは分からない、現代社会のいろいろな側面が数値の形で客観的に捉えられる。この授業では、記述統計を一通り、また推測統計の初歩を学ぶ。そのことで、自らデータを集めたり、またデータを与えられたりした時点で、それを統計学的に整理し推測して、「正しい社会のありさま」を提示することができるようになる。統計学を学ぶことで、巷に転がっている「社会の誤解」を統計学を武器に正すことができるようになる、これが最終的な目的である。			
到達目標	①社会の理解のためになぜ統計学が必要なのか、自分の言葉で説明できる ②記述統計に関して、その原理を理解するとともに、素データが与えられれば自力で一通りの分析ができる ③推測統計に関して、その原理を理解するとともに、素データが与えられれば自力で初歩的な分析ができる			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 本科目は、同時に開講されている学部共通科目「数学一般」「数学応用」「自然科学」の応用的な性格を持つとともに、「人間関係論」「マイノリティを生きる」「生命倫理」「人間学」等で扱う題材の基礎データを生み出し理解するための科目として、これらの科目と併せて受講することで、社会の諸問題に対して理解が深まります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 授業の進め方・統計学とは何か			2種の統計学について、その特性を復習しておく	
第2回 データの種類			2種および4種のデータについて、その特性を復習しておく	
第3回 データの「雰囲気」①：代表値			種々の代表値に関して復習し、データを用いて実際に計算してみる	
第4回 データの「雰囲気」②：平均と偏差			平均値と標準偏差について復習し、データを用いて実際に計算してみる	
第5回 データの標準化			基準値と偏差値について復習し、データを用いて実際に計算してみる	
第6回 確率①：確率とは			確率の発想そのものについて確実に理解すべく復習しておく	
第7回 確率②：正規分布			正規分布について復習し、例示となりそうなデータを探してみる	
第8回 確率③：様々な分布			t分布とF分布について、グラフと表の見方を復習し理解を確実にしておく	
第9回 データの関連性①：相関			相関の発想、その利点と限界とを復習して実例を探してみる	
第10回 データの関連性②：相関係数と相関比			相関係数と相関比に関して復習し、データを使って実際に計算してみる	
第11回 検定①：検定とは			検定の発想そのものについて確実に理解すべく復習しておく	
第12回 検定②：独立性検定			独立性検定について復習し、データを使って実際に計算してみる	
第13回 検定③：仮説			仮説の発想そのものについて確実に理解すべく復習しておく	
第14回 検定④：同一性検定			同一性検定について復習し、データを使って実際に計算してみる	
第15回 授業のまとめとエクセルによる計算			これまでに学習した統計学的分析をエクセルの関数を使用して計算してみる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100％（毎回の授業にて実施するものと、授業後に自宅で解答してもらうものがある。その積み重ねで評価する。なおレポートは次週授業開始時[その週休んだ場合はそれ以降の授業開始時、また授業終了後はオフィスアワー時]に返却する）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	欠席や授業に積極的に参加しない等、受講態度が芳しくない受講者はレポートの提出資格を与えないことがある。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。これまでの自らの経験と知識とを総動員しながら考えつつ受講すること。講義者（花野）とのやり取りに積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス		

授 業 科 目	東南アジア近現代史【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	東南アジア近現代史について、現存の東南アジアの国々の成立過程に着目し、そのダイナミズムを理解することがこの講義の目的です。個々の出来事よりも、むしろそれがなぜ起こったのか、また後の時代にどのような影響を及ぼしたのか、を中心に学びます。その中で、日本占領期が東南アジアに及ぼした影響についても理解を深めていきます。東南アジアの近代は、ヨーロッパの到来と植民地の形成に始まります。植民地支配を行った側の支配の論理と実態、そして支配された側が自らの国を作っていた民族主義の論理と運動を、地域ごとに学びます。その過程の中で、日本占領期の意義を確認していきます。			
到達目標	1. 欧米各国による東南アジアの植民地化の経緯と、その違いを説明できる。 2. 東南アジアの人びとが民族意識に目覚め、自らの国を作っていた経緯が説明できる。 3. 東南アジアにおける日本占領期の意義と影響について説明できる。 4. 東南アジアの近現代史に関する文献を、自ら集めて分析することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 この講義で東南アジア各地の歴史を学んだうえで、「東アジア近現代史」や「南アジア近現代史」、「西アジア近現代史」といった異なる地域の近現代史を学び、それぞれの地域を比較すると特徴がより理解できます。また東南アジアにおける日本占領期の意義と影響を理解したうえで、「近代日本とアジア」を履修すると、日本の側の論理を理解することができます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション 東南アジア近現代史を学ぶことの意義		第2回用レジュメ、資料に基づき予習	
第 2 回	前近代の東南アジア		第2回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 3 回	交易の時代		第3回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 4 回	スペイン・イギリスの植民地支配		第4回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 5 回	オランダ・フランスの植民地支配		第5回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 6 回	原住民エリートの覚醒		第6回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 7 回	民族主義運動の展開(1)フィリピン		第7回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 8 回	民族主義運動の展開(2)インドネシア		第8回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 9 回	民族主義運動の展開(3)ヴェトナム		第9回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第10回	日本の南方関与		第10回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第11回	日本軍政のインパクト		第11回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第12回	日本軍政の位置づけ(1)インドネシアの事例		第12回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第13回	日本軍政の位置づけ(2)今日の視点から		第13回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第14回	独立国家の誕生		第14回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第15回	今日の東南アジア		第15回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価)50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。 その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	火14:50～16:20、水12:30～13:00、金12:30～13:00		メールアドレス	

授 業 科 目	東南アジア入門【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	アジア、とりわけ東南アジアについてこれから勉強していくためには、まずその地域に対して興味関心を持つことが重要です。そのために、東南アジアに関する基礎知識と、特徴的な事柄について学び、理解していくことがこの講義の目的です。併せて、今日の東南アジアにおいて日本がどのように位置づけられているのかを知り、日本とアジアの関係について理解を深めます。東南アジアと一口に言っても、そこに属する11カ国の歴史、社会、文化などは多様性に富みます。この講義では、その違いよりも東南アジア各国に共通する特徴について理解を深めていきます。とりわけ日本と異なる点、日本であまり紹介されていないけれども重要な点についての認識を高めていきます。			
到達目標	1. 東南アジアの基本的な地域的特性、日本との違いを説明できる。 2. 東南アジアの社会や文化、人びとの暮らしについて具体的に列挙できる。 3. これから東南アジアについて勉強していく意欲に繋がる、興味関心を持つことができる。 4. 東南アジアに関する基礎的文献を、自ら集めて分析していくことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 この講義で東南アジアに関する基礎知識を身に着けたうえで、「東アジア入門」や「南アジア入門」、「西アジア入門」という他地域の入門科目を併せて履修することで、東南アジアの地域的特性をより理解することができます。また「現代東南アジア事情」や「アジア政治論」などの、より詳しい内容の科目を履修することで、理解を深めることができます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回 オリエンテーション	アジアとは、東南アジアとは		第2回用レジュメ、資料に基づき予習	
第 2 回 東南アジアへの誘い	マレーシアの事例		第2回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 3 回 東南アジアの国ぐに(1)	各国の基礎知識 島嶼部		第3回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 4 回 東南アジアの国ぐに(2)	各国の基礎知識 大陸部		第4回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 5 回 東南アジアの遺跡(1)	ボロブドゥールとバガン遺跡群		第5回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 6 回 東南アジアの遺跡(2)	アンコールワット		第6回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 7 回 海に生きる人びと(1)	漂海民とは		第7回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 8 回 海に生きる人びと(2)	漂海民と環境問題		第8回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第 9 回 東南アジアの宗教(1)	概論		第9回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第10回 東南アジアの宗教(2)	上座仏教		第10回用レジュメ、資料に基づき予習復習	
第11回 イスラーム概論(1)	イスラームの基礎知識		第11回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第12回 イスラーム概論(2)	ムスリムの日常生活		第12回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第13回 インドネシアン・ポップあれこれ			第13回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第14回 東南アジアの中にみるニッポン(1)	モノ・ヒト・ソフト		第14回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
第15回 東南アジアの中にみるニッポン(2)	東南アジアから見る日本		第15回用レジュメ、資料に基づき予習復習、期末レポート準備	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価)50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。 その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	水14:50～16:20、木12:30～13:30		メールアドレス	

授 業 科 目	特別活動指導論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松本 和寿・石原 努		単 位	2
授業の目的と概要	学習指導要領に示された目標や内容についての理解を図るとともに、具体的な指導法や評価の視点、評価方法を理解し、小学校教育の中での特別活動や総合的な学習の時間の意義について考える。 授業では、講義だけでなく、指導案（展開）の作成や場面指導なども取り入れる。 特別活動（第8回まで）を松本が担当し、総合的な学習の時間（第9回以降）を石原が担当する。			
到達目標	1 特別活動・総合的な学習の時間の目標、内容、指導・評価等について理解し、説明することができる。 2 基本的な指導法について理解を深め、具体的場面を想起しながら授業を構想することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この科目は、3年次までの「初等教科教育法（各科目）」及び「初等教育実習指導」、4年次「教職実践演習（幼・小）」、に関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション・学習指導要領における特別活動の位置づけ		高等学校までの特別活動の内容について整理する。	
第2回	特別活動の目標と四つの活動とのかかわり		学習指導要領の該当部分をまとめる。	
第3回	学級活動の目標と活動の実際、指導法		学級活動の展開を考える。	
第4回	児童会活動の目標と活動の実際、指導法		児童会活動の展開を考える。	
第5回	クラブ活動の目標と活動の実際、指導法		クラブ活動の展開を考える。	
第6回	学校行事の目標と活動の実際、指導法		学校行事の展開を考える。	
第7回	特別活動の評価		各活動の評価の規準を考える。	
第8回	特別活動と他の教科・領域等との関連		他の領域と関連させた指導計画を考える。	
第9回	総合的な学習の時間のねらいと意義		総合の意義とねらいをまとめる。	
第10回	総合的な学習の時間の計画立案・実践・評価		計画立案の際の留意点をまとめる。	
第11回	総合的な学習の時間における教師の指導技術		他教科等との相違点を踏まえ、指導技術についてまとめる。	
第12回	総合的な学習の時間の実際「地域との連携」		「地域」を主とした活動展開を考える。	
第13回	総合的な学習の時間の実際「国際交流」		「国際交流」を主とした活動展開を考える。	
第14回	総合的な学習の時間の実際「生命・福祉」		「生命・福祉」を主とした活動展開を考える。	
第15回	総合的な学習の時間の実際「伝統・文化」		「伝統・文化」を主とした活動展開を考える。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	4 0 ％			
小テスト等	なし			
成果発表	4 0 ％			
受講態度他	2 0 ％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教職履修生には、将来的に教職に就くことを前提に、それにふさわしい履修態度を求めます。 ワークシートの答えは、筑女ネットにアップしますが（時間割→当該科目→当該ファイル）、ただ答えを書き写すのではなく、あらかじめテキストや解説書の指定された個所を読みながら穴埋めに取り組み、正誤を確認した上で授業に臨んでください。			
教科書	小学校学習指導要領解説 特別活動編、小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編、小学校学習指導要領解説 総則編			
指定図書	授業の際に指示する。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	特別活動指導論(中等教職)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	竹熊 真波		単 位	2
授業の目的と概要	本授業は、「特別活動指導論」という講義名ではあるが、平成29年度に行われた学習指導要領の改訂と平成31年度からの教職課程の改訂に対応して、「総合的な学習の時間の指導法」についても取り扱うものとする。本授業の目的は、「特別活動」および「総合的な学習の時間（高校は探求の時間）」の教育課程上の位置づけや目標などを理解すること、さらに、特別活動の具体的内容と目標、並びに両者の指導方法・評価について実践的に理解することである。 授業の概要としては、毎回の授業のはじめに、当番により朝の会（SHR）を想定した模擬授業を班別に行ったあと、授業テーマに沿ってあらかじめ予習（穴埋め）をしておいたプリントの解説をし、ミニテストを実施する。その後、話し合い活動等の体験学習へと移行する。 また、実践的活動として2泊3日の合宿を企画・実施することを通じて、特別活動並びに総合的な学習の時間の実践的理解を図			
到達目標	①特別活動の意義、目標及び内容を理解できる。 ②特別活動の指導の在り方を体験的に理解できる。 ③総合的な学習の時間の意義や、各学校における目標及び内容を定める際の考え方を理解できる。 ④総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けることができる。 ⑤特別活動ならびに総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。 ・特別活動の指導法 さらに、後期に開講される「特別活動演習」に連動する科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション：授業の進め方：グループ決め等		配布資料の穴埋め（以後毎回）、事前レポートの提出	
第 2 回	特別活動の位置づけと教育的意義		（当番）次回のSHRの準備	
第 3 回	特別活動の目標と内容		（当番）次回のSHRの準備	
第 4 回	特別活動の変遷（合宿についての話し合い）		（当番）次回のSHRの準備	
第 5 回	学級会活動・ホームルーム活動		（当番）次回のSHRの準備	
第 6 回	生徒会活動・部活動		（当番）次回のSHRの準備 （全員）合宿の準備	
第 7 回	学校行事		（当番）次回のSHRの準備	
第8回	特別活動の指導計画（学習指導案）と評価		（全員）合唱曲の練習（以後本番まで毎回）	
第 9 回	特別活動と各教科、道徳及び生徒指導等との関連		（当番）次回のSHRの準備	
第10回	総合的な時間の意義と原理		（当番）次回のSHRの準備	
第11回	総合的な学習の時間の目標と内容		（当番）次回のSHRの準備	
第12回	総合的な学習の時間の指導計画と評価		（全員）合唱大会の準備	
第13回	特別活動の実践的理解：合唱リハーサル／本番		（当番）次回のSHRの準備	
第14回	総合的な学習の時間の実践的理解：学生による探究的な学習成果のプレゼンテーション		（当番）次回のSHRの準備	
第15回	授業の総括		これまでの学修の振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	4 0％ 授業で得た知見をもとに具体的な事例を説明し、自説を展開できる。			
レポート	なし			
小テスト等	2 0％ 授業の最後に小テストを行うことがある			
成果発表	2 0％ 実践的活動や週番としての取り組み			
受講態度他	2 0％ 課題の提出状況、合宿への参加状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教職履修生には、将来的に教職に就くことを前提に、それにふさわしい履修態度を求めます。 配布資料については、筑女ネットに穴埋めをしたものをアップしていますが、単に答えを書き写すのではなく、まずテキストや解説書を読みながら自身で解き、筑女ネットを通じて答え合わせをしたうえで、授業に臨むようにしてください。			
教科書	『中学校学習指導要領解説 特別活動編』、『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（平成3 0年以降出版次第）			
指定図書	なし			
参考図書	伊東毅『未来の教師におくる特別活動論』武蔵野美術大学出版局、北村文夫『指導法 特別活動』玉川大学出版部、渡辺邦雄・緑川哲夫・桑原憲一編著『特別活動指導法』日本文教出版等			
オフィスアワー	木曜 2 限		メールアドレス	

授 業 科 目	特別活動実習(中等教職)【実習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	竹熊 真波		単 位	1
授業の目的と概要	演劇の発表というアクティブ・ラーニングを通して、特別活動の教育的意義を体験的に学ぶことを目的とする。具体的に身に付けてほしい力は、①現代社会で必要な豊かな人間性、コミュニケーション能力、他者との調整能力。②教師の実践的な資質としてのリーダーシップ、企画力、表現力である。 履修者は、前期のうちから、自主的に活動を開始するものとする。まずは、5月末に実施される教職合宿に参加し、テーマや役割分担などを決定し、具体的な方向付けを図る。本格的な練習は後期開始前の9月初旬より開始し、後期開始後はリハーサルを重ねる。あくまで「全員で創る」、「自分たちの力で創る」を原則として、素材決め、脚本作り、役決め、演技練習、音響・照明の構成などを行い、学園祭時にその成果を発表する。			
到達目標	・演劇制作を通して、授業を行う上で必要な構成力、表現力を獲得する。。 ・創作の過程で自らの意見を伝え、人の意見を聞き、様々な葛藤を乗り越える力を身につける。 ・与えられた役割を遂行するのみならず、新たな役割を自ら見つけ出し、果たすことができる。 ・一つのことを成し遂げた達成感を味わい、集団活動の意義についての理解を深める。 ・イベントの開催には周囲の理解・協力が不可欠であることを理解し、感謝の心を持つことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本授業は、中等教職課程の「教科又は教職に関する専門科目」に位置づけられる科目であり、本学教職課程の目標でもある「1．教職に関する使命感、2．確かな学力と実践的指導力、3．豊かな人間性」のうち、特に「3．豊かな人間性」の醸成を目的とするものである。 本授業は、前期開講の「特別活動指導論」と関連し、授業において知識として学んだ「特別活動」のなかの「学校行事」、「文化的行事」に属する学校劇を体験的に学ぶものとして設定されている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 チーム毎の通し稽古			台詞を全て覚えておく	
第2回 劇の相互評価			活動日誌の作成	
第3回 舞台練習 1 （チーム毎に舞台の立ち位置や照明の位置等を設定）			劇の修正点を改善する	
第4回 劇の内容の確認 1 （チーム毎に脚本等を修正）			活動日誌の作成	
第5回 舞台練習 2 （大道具、衣装、照明、音響等の設定と確認）			必要な道具等を揃えておく	
第6回 劇の内容の確認 2 （脚本等の調整）			活動日誌の作成	
第7回 舞台練習 3 （大道具、衣装、照明、音響等の確定）			本番に近い形に仕上げておく	
第8回 劇の内容の確認 3 （脚本等の確定）			活動日誌の作成	
第9回 合同リハーサル（含：合唱） （最初から最後までを通し稽古）			劇と劇の間の移動も含めた練習	
第10回 合同リハーサルの反省 （先生・先輩からの評価）			活動日誌の作成	
第11回 最終リハーサル(補講対応)			反省を生かした練習	
第12回 本番発表（学園祭初日・午前）			－	
第13回 メタディスカッション（学園祭初日・午後）			－	
第14回 反省・批評会			レポートの作成	
第15回 まとめ（1月の最終講義）			個人面談を通して劇の意義、自身の教職の適性を再考する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 指定された課題について、11月中に提出 （レポートは添削指導後レポート集を作成）			
小テスト等	10％ 活動日誌など提出物の提出状況			
成果発表	50％ 教職劇への取り組み			
受講態度他	10％ 面談指導の結果			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教職生としての自覚を持って主体的に取り組むこと。指定図書は5月末に実施される教職合宿までに熟読しておくこと。今回は5月スタートとし、7月中に脚本を作成し、キャストの決定を行うこと。8月の活動は中止し、9月より練習を再開することとする。活動中止中は、定期試験の学習をはじめ、海外研修、福祉実習、採用試験対策合宿などの自己の研鑽に努めてほしい。 後期以降は、あくまでも授業優先であることも念頭に置いた上で、各自スケジュール管理、健康管理をしっかりとしておくこと。			
教科書	なし			
指定図書	平田オリザ『演劇入門』講談社現代新書			
参考図書	菅井建『中学生・高校生のための劇作り9か条』晩成書房、かめおかゆみこ『演劇やろうよ！指導者篇』青弓社			
オフィスワー	金曜 3 限		メールアドレス	

授 業 科 目	特別支援学校教育実習(中等教職)【実習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	酒井 均		単 位	3
授業の目的と概要	本講義は、特別支援学校教員免許取得希望者が、教育実習を通じて、教育現場や教師の仕事の実際を理解し、これまでに学んできた「教職に関する科目」ならびに「特別支援教育に関する科目」における理論的な知識を応用する力を身につけ、自己の教師としての適性を再考することを目的とする。 教育実習は、大きく分けて「観察実習」、「参加実習」、「実証（教壇・実地）実習」に分けられる。実習の基本的な流れとしては、先生方の授業や生徒達の様子、学校の規則等を「観察」し、ホームルームでの点呼や掃除の指導など徐々に学校や学級での教育活動に「参加」した上で、最終的に指導教員の下で指導案を作成し、実際に授業を行う（実証実習）こととなる。 実習に際しては、社会人としてのマナー（服装、言葉遣い、時間厳守など）や健康管理に留意し、指導の先生方や生徒とも自ら積極的にコミュニケーションをとり、常に能動的に行動することが望まれる。			
到達目標	・教育に対する理解を深め、教職に就くことの適性を判断する ・教師としての実践的力量を経験的・実践的に形成する ・教師としての職業倫理を経験的に培う			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
基本的には9月から12月にかけて2週間特別支援学校での実習となる。実習校の状況によっては6月から7月の受け入れもあり得る。			－	
第1週目 観察実習・参加実習 1週目中旬から（時には初日から）実証実習が開始される場合が多い			事前の教材研究を十分に行う	
第2週目 実証実習 指導教員の助言をしっかりと受け止め、授業を改善し、研究授業につなげる			授業準備と反省	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	
－			－	

授 業 科 目	特別支援教育総論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	酒井 均		単 位	2
授業の目的 と概要	障がいについて知り、その特徴についての理解を深める。 個々の障がいに応じた発達を援助する方法についての理解を深める。 個々の障がいに対する教育の理解を深める。 発達において大きな課題となる障がいについて学習していきます。最近よく話題にのぼる発達障害についても詳しく学習していきます。 それぞれの障がいの特徴を理解し、その支援（教育・法制度も含む）について学習していきます。			
到達目標	障がいについてその特徴を説明できる。 障がいに応じた発達を援助する方法を説明できる。 障がいに応じた教育を説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。2 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション			レポート作成	
第 2回 障がいについて			レポート作成	
第 3回 知的障がいについて 特徴と教育			レポート作成	
第 4回 自閉スペクトラム症 (ASD)について 特徴と教育 その1			レポート作成	
第 5回 自閉スペクトラム症 (ASD)について 特徴と教育 その2			レポート作成	
第 6回 ADHDについて 特徴と教育			レポート作成	
第 7回 LDについて (1) 特徴と教育			レポート作成	
第 8回 LDについて (2) サブタイプの特徴と教育			レポート作成	
第 9回視覚覚障がいについて 特徴と教育			レポート作成	
第10回 聴覚障がいについて 特徴と教育			レポート作成	
第11回 コミュニケーション障がいについて 特徴と教育			レポート作成	
第12回 運動障がいについて 特徴と教育			レポート作成	
第13回 重度・重複障がいについて 特徴と教育			レポート作成	
第14回特別支援教育とは			レポート作成	
第15回 家族支援とまとめ			レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ショートレポート30％、最終レポート70％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度も参考にします			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	毎回授業の最後に課題を出します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『特別支援学校教育指導要領』文部科学省			
オフィスワ ーク	水曜日12：30～13：00 生息地8号館 4F	メールアドレス		

授 業 科 目	ドイツ語 I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	清水 満		単 位	1
授業の目的と概要	ドイツ語の文法、用法を学び、ドイツ語とドイツ文化に対する関心と理解を育む。初級ドイツ語の運用ができるようになる。 ドイツ語の文法、用法をドリルを通して習得する。視聴覚教材を利用して、生きたドイツ語やドイツ文化を理解できるようになる。			
到達目標	ドイツ語の初級文法事項をマスターし、かんたんなドイツ語を読み、挨拶程度ができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	イントロダクションとアルファベット、発音		事前にCDの発音部分を聞く。	
第 2回	発音の続き。挨拶と季節、曜日を覚える。		事前にCDの発音部分を聞く。	
第 3回	動詞の人称変化の学習 I		この章で学んだことをCDを使い復習する。 自宅学習用プリントをする	
第 4回	ヨーロッパの町と暮らしを視聴覚教材で学ぶ。		授業で指示した文献を読む。	
第 5回	動詞の人称変化の学習 2		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第 6回	名詞の学習		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第 7回	冠詞の格変化の学習		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第 8回	所有冠詞の学習		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第 9回	命令形の学習		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第10回	前置詞の学習 1		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第11回	前置詞の学習 2		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第12回	不規則動詞の学習		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第13回	助動詞の学習		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第14回	未来形の学習		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第15回	これまでの復習		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 通常の定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	－			
成果発表	30％ 問題の解答を積極的にした人は評価されます。			
受講態度他	20％ 宿題をしているか、辞書を持参しているかを見る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	週一回の講義だけで、新しい言葉を習得するのははっきりいって無理です。自習用課題ドリルを配布するので、その課題をすることが受講条件になります。毎回当たりますので、予習をしっかりとして下さい。とくにCDを聴いて書き取り練習をして下さい。 積極的に発表などを行えば、評価が有利になります。 私語は厳禁です。 辞書は必携。持参しない人は欠席扱いになります。経済的に購入困難な人は古本屋、ブックオフなどでの購入をお勧めします			
教科書	春日正男、松澤淳『おいしく学ぶドイツ語』郁文堂、『アポロン独和辞典』同学社 辞書は手持ちの電子辞書（ドイツ語）でも可。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の後	メールアドレス		

授 業 科 目	ドイツ語Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	清水 満		単 位	1
授業の目的 と概要	ドイツ語の文法、用法を学び、ドイツ語とドイツ文化に対する関心と理解を育む。初級ドイツ語の運用ができるようになる。 ドイツ語の文法、用法をドリルを通して習得する。視聴覚教材を利用して、生きたドイツ語やドイツ文化を学ぶ。 前期からの継続になります。			
到達目標	ドイツ語の初級文法事項をマスターし、かんたんなドイツ語を読み、挨拶程度ができるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 分離動詞の学習			教科書のこの章の問題の予習・復習をする。 CDを聴く。	
第 2回 再帰動詞の学習			教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第 3回 形容詞の格変化の学習			教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第 4回 形容詞の名詞化動詞の三要素の学習			教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第 5回 動詞の三要素の学習			教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第 6回 完了形の学習 1			教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第 7回 完了形の学習 2			教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第 8回 視聴覚教材によるドイツ文化の学習			授業で指示した文献を読む。	
第 9回 比較級の学習			教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第10回 不定詞句の学習			教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第11回 関係代名詞の学習 1			教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第12回 関係代名詞の学習 2			教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第13回 受動形の学習			教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第14回 接続法の学習 1			教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
第15回 接続法の学習 2			教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。CDを聴く。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 通常の定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	－			
成果発表	30％ 問題の解答を積極的にした人は評価されます。			
受講態度他	20％ 宿題をしているか、辞書を持参しているかを見る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	週一回の講義だけで、新しい言葉を習得するのははっきりいって無理です。自習用課題ドリルを配布するので、その課題をすることが受講条件になります。毎回当たりますので、しっかり予習をして下さい。とくにCDを聴いて書き取り練習をして下さい。 積極的に発表などを行えば、評価が有利になります。 私語は厳禁です。辞書は必携。持参しない人は原則受講ができません。			
教科書	春日正男、松澤淳『おいしく学ぶドイツ語』郁文堂 、『アポロン独和辞典』同学社 辞書は手持ちの電子辞書でも可。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の後	メールアドレス		

授 業 科 目	道徳教育指導論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	薄 千里		単 位	2
授業の目的と概要	道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容・指導・評価等について理解し、学習指導案の作成と模擬授業を通じて、道徳科の授業ができる実践的な指導力を身に付ける。 授業においては、講義を通じて道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容・指導・評価等について理解する。個人及びグループワークを通じて、ねらいの設定、教材の分析、学習指導案と教材・教具の作成、模擬授業、その分析と考察を行い、実践的な指導力を身に付ける。			
到達目標	1 道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容・指導・評価等について理解し、説明することができる。 2 作成の手順に沿って学習指導案を作成することができる。 3 基本的な学習指導過程に沿って模擬授業を行うことができる。 4 模擬授業について、授業の視点に沿って分析し考察することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 この科目は、「初等教科教育法（各科目）」及び「初等教育実習指導」、4年次「教職実践演習（幼・小）」に関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	道徳教育の目標、道徳科の目標、小学校学習指導要領の改正、「心に残っている道徳の授業」		道徳教育の目標、道徳科の目標を確認する。	
第2回	道徳科の内容、指導計画の作成、道徳科の指導		道徳科の内容を確認する。教材を精読する。	
第3回	道徳科の授業の体験、学習指導案作成について、教材の活用について		道徳科の授業を振り返り、ノートにまとめる。	
第4回	学習指導案の作成 1 ねらい、教材分析、学習指導過程		教材を精読し、分析する。	
第5回	学習指導案の作成 2 教材提示・発問・話し合い活動・書く活動の工夫		学習指導案を作成する。	
第6回	学習指導案の作成 3 板書を生かす工夫、表現活動・説話等の工夫		学習指導案を作成し、提出の準備をする。	
第7回	学習指導案の作成 4 教材作成		学習指導案の提出。教材作成。	
第8回	模擬授業と分析・考察 1 教材提示の工夫		模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う	
第9回	模擬授業と分析・考察 2 発問の工夫		模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。	
第10回	模擬授業と分析・考察 3 話し合い活動の工夫		模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。	
第11回	模擬授業と分析・考察 4 書く活動の工夫		模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。	
第12回	模擬授業と分析・考察 5 表現活動の工夫		模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。	
第13回	模擬授業と分析・考察 6 板書を生かす工夫、説話等の工夫		模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。	
第14回	道徳性の理解と評価		「解説」を読み、ノートにまとめる。	
第15回	道徳教育の目標、道徳科の目標、模擬授業、講義内容等から道徳科の指導のあり方と「心に残っている道徳		道徳教育の目標等について整理し、記述できるようにする。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	4 0 ％			
小テスト等	なし			
成果発表	4 0 ％（模擬授業）			
受講態度他	2 0 ％（グループ・全体討議の参加状況を含む。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	模擬授業への取組み、討議の状況を重視する。 将来教職に就くことを前提に、それにふさわしい態度で受講すること。 配布資料をファイルしていくこと。			
教科書	文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成29年6月）			
指定図書	なし			
参考図書	文部科学省「小学校学習指導要領」（平成29年3月）			
オフィスアワー	水曜日午後	メールアドレス		

授 業 科 目	道徳教育指導論(中等教職)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	薄 千里		単 位	2
授業の目的と概要	道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容・指導・評価等について理解し、学習指導案の作成と模擬授業を通じて、道徳科の授業ができる実践的な指導力を身に付ける。 授業においては、講義を通じて道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容・指導・評価等について理解する。個人及びグループワークを通じて、ねらいの設定、教材の分析、指導案と教材・教具の作成、模擬授業、その分析と考察を行い、実践的な指導力を身に付ける。。			
到達目標	1 道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容・指導・評価等について理解し、説明することができる。 2 作成の手順に沿って学習指導案を作成することができる。 3 基本的な指導過程に沿って模擬授業を行うことができる。 4 模擬授業について、授業の視点に沿って分析し考察することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、中等教職課程授業科目（教職に関する専門科目）、免許法施行規則に定める科目区分等における「教職課程及び指導法に関する科目」の「道徳の指導法」に該当する科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	道徳教育の目標、道徳科の目標、中学校学習指導要領改正、「心に残っている道徳の授業」		道徳教育の目標、道徳科の目標を確認する。	
第2回	道徳科の内容、指導計画の作成、道徳科の指導		道徳科の内容を確認する。教材を精読する	
第3回	道徳科の授業の体験、学習指導案作成について、教材の活用について		道徳科の授業を振り返り、ノートにまとめる。	
第4回	学習指導案の作成 1 ねらい、教材分析、学習指導過程		教材を精読し、分析する。	
第5回	学習指導案の作成 2 教材提示・発問・話し合い活動・書く活動の工夫		学習指導案を作成する。	
第6回	学習指導案の作成 3 板書を生かす工夫、表現活動・説話等の工夫		学習指導案を作成し、提出の準備をする。	
第7回	学習指導案を作成 4 教材作成		学習指導案の提出。教材作成。	
第8回	模擬授業と分析・考察 1 教材提示の工夫		模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。	
第9回	模擬授業と分析・考察 2 発問の工夫		模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。	
第10回	模擬授業と分析・考察 3 話し合い活動の工夫		模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。	
第11回	模擬授業と分析・考察 4 書く活動の工夫		模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。	
第12回	模擬授業と分析・考察 5 表現活動の工夫		模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。模擬授業の準備を行う。	
第13回	模擬授業と分析・考察 6 板書を生かす工夫、説話等の工夫		模擬授業の振り返りを行い、レポートを作成する。	
第14回	道徳性の理解と評価		「解説」を読み、ノートにまとめる。	
第15回	道徳教育の目標、道徳科の目標、模擬授業、講義内容等から道徳科の指導のあり方と「心に残っている道徳の授業」について考察		道徳教育の目標等について整理し、記述できるようにする。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	4 0 ％			
小テスト等	なし			
成果発表	4 0 ％（模擬授業）			
受講態度他	2 0 ％（グループ・全体討議の参加状況を含む。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	模擬授業への取組み、討議の状況を重視する・将来教職に就くことを前提に、それにふさわしい態度で受講すること。 配布資料をファイルしていくこと。			
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成2 9 年 6 月）			
指定図書	なし			
参考図書	文部科学省「中学校学習指導要領」（平成2 9 年 3 月）			
オフィスアワー	水曜日午後	メールアドレス		

授 業 科 目	動物と社会【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	佐々木 浩		単 位	2
授業の目的と概要	人間と身近な動物との関わりについて、様々な面から学ぶことを目的としています。人間が動物とどのようにつき合ってきたかは、民族、国、宗教などによって異なります。また、時代の変化とともに、その関係も変わって来ています。本講義では、殺処分などのペットの問題、野生生物の絶滅の問題、人口が減少する中で農林水産業との軋轢で生じている害獣問題、ペットを放す等から増えて来た外来種の問題など、身近な問題を材料に、今後の動物との関係を考えて行きます。			
到達目標	・人間と他の動物との関係について自分の意見を述べられるようになる。 ・宗教と動物の関係について説明できるようになる。 ・人間と他の動物との関係の現状について説明できるようになる。 ・これらの問題点を理解した上で、解決策について考えることができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (4) -①-これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 概論			本紹介を行う本を読み始めてください。	
第2回 ペットの問題 概説			配布プリントを復習して下さい。	
第3回 ペットの問題 討論			見学先の情報収集をして下さい。	
第4回 福岡市東部動物愛護管理センター（または地域猫現場）見学			見学後、レポート作成1。	
第5回 諸問題2：野生動物保護管理とまちづくり 概説			配布プリントを復習して下さい。	
第6回 諸問題2：野生動物保護管理とまちづくり 討論			見学先の情報収集をして下さい。	
第7回 諸問題2：獣害現地見学（筑紫野市萩原区）			見学後、レポート作成2。	
第8回 諸問題3：動物園のあり方 概説			配布プリントを復習して下さい。	
第9回 諸問題3：動物園のあり方 討論			見学先の情報収集をして下さい。	
第10回 動物園見学（福岡市動物園または大牟田市動物園）			見学後、レポート作成3。	
第11回 本紹介 前半			レジメ作成	
第12回 本紹介 後半			レジメ作成	
第13回 諸問題4：産業動物			配布プリントを復習して下さい。	
第14回 動物観 議論			レポート作成4	
第15回 まとめ			復習して下さい。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	レポート 4回	レジメ1回	75％	
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	25％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	個人的事情による欠席は全て欠席扱いとなります。現地見学が3回あり、交通費は自費となります。また、動物愛護管理センターの見学は平日となりますので、履修者の講義受講状況を見ながら決めます。日程が調整できない場合は、10月6日（土）（雨天の場合は7日）に地域猫現場見学とします。獣害現場見学は10月20日（土）（雨天の場合は21日）、動物園見学は11月10日（土）（雨天の場合は11日）に実施します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜日 2講時		メールアドレス	

授 業 科 目	読書と豊かな人間性(司書教諭)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	出雲 俊江		単 位	2
授業の目的と概要	読書の意義、児童生徒の発達と読書、児童生徒の読書生活の活性化・習慣化、教科等の学習指導と読書、司書教諭の役割などについて考察する。 さまざまな指導方法について、実際に取り組み、発表を行う。地域の小中学校の学校図書館見学を行う。			
到達目標	1 読書の意義と目的を理解し、読書教育の歴史と動向を考察する。 2 児童生徒の読書能力と興味の発達について理解を深める。 3 児童生徒向け図書の種類と内容について関心を深め、図書の選択と活用・提供についての知識を深める。 4 児童生徒と図書を繋ぐ様々な手法、各教科等での読書指導を理解し、実践力を養う。 5 学校教育における組織的・計画的に行う読書の指導について理解を深めるとともに、発達段階に応じた読書の指導や家庭、地域、公共図書館など（国際子ども図書館を含む）との連携について理解を深める。 6 学習指導における読書活動を考察し、実践力を養う。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	学校図書館司書教諭資格取得のための科目です。 教員免許取得予定者および取得者のみ受講できます。 関連科目「学校経営と学校図書館」「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	「読書と豊かな人間性」についてのオリエンテーション		読書タイムの本の選書	
第 2回	現代における読書の意義と特質		配布された資料を基に現代における読書の意義について自分の考えをまとめる	
第 3回	学校における読書		課題 自分自身の学校生活における読書について振り返る	
第 4回	発達段階と読書①発達課題と幼少年期の読書指導		課題 わたしのすすめる幼少期の図書の選定（グループ討議）	
第 5回	発達段階と読書②発達課題と中・高校期読書指導		課題 わたしのすすめる中・高校期の図書の選定（グループ討議）	
第 6回	読書指導の実例 小学校		読書指導についてまとめる	
第 7回	読書指導の実例 中学校・高等学校		中学校、高等学校における読書指導についてまとめる	
第 8回	さまざまな読書指導 リーディングワークショップによる読書指導（グループ活動）		リーディングワークショップの指導法についてまとめる、読書指導の準備	
第 9回	さまざまな読書指導 ①紙芝居、読み聞かせ②アニメーション③ミニシアター④ブックトーク、ブックディベート		読書指導の準備	
第10回	読書指導の発表		読書指導の準備	
第11回	読書指導の発表		読書指導の準備、報告	
第12回	学校図書館訪問		訪問の準備	
第13回	生涯学習への読書、読書材の選択		生涯学習へ向けた司書教諭の働き掛けについてまとめる	
第14回	家庭、地域、公共図書館等との連携		公共図書館と学校図書館の連携についてまとめる	
第15回	読書活動における司書教諭の役割、児童生徒の読書活動の推進		児童生徒の読書指導に果たす司書教諭の役割についてまとめる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	30％ 学校図書館訪問レポート 訪問を適切に行い、簡潔にまとめて報告ができる。 20％ 読書活動についてのレポート 簡潔に要点を述べている。			
小テスト等	なし			
成果発表	3 0％ 読書活動の発表 グループで工夫した発表をしている。 発表を聞いて的確なコメントをすることができている。			
受講態度他	2 0％ 真面目に誠実に受講しまとめのメモを提出している。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	児童図書の紹介、評論などに興味と関心を深め、書店や図書館などで、自主的に児童図書を見たり読んだりする機会を作る心掛けが大切です。子どもと本を繋ぐいろいろな手法に関心をもち、書店や図書館などでそれについての資料も手にとるようにしましょう。			
教科書	『シリーズ学校図書館学第4巻 読書と豊かな人間性』 全国学校図書館協議会 「シリーズ学校図書館学」編集委員会編 2011.4			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日午後		メールアドレス	

授 業 科 目	乳児保育【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	原田 博子		単 位	2
授業の目的 と概要	乳児保育の理念と役割を知る。 保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 3歳未満児の生活と遊びについて理解する。 乳児保育の実際を理解する。 この授業は乳児保育についての理解を深めるため、教科書を中心に 乳児保育の置かれている現状から実際の保育内容まで詳細に学ぶ。			
到達目標	乳児保育の役割について述べることができる。 月齢に応じた発達の理解とともに生活と遊びについて具体的に述べることができる。 さまざまな保護者への対応の必要性について理解することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。2 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 ・子どもの保健演習			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	社会背景から考える乳児保育の必要性		課題レポート 「理想のライフスタイル」について	
第2回	乳児保育の成立について（歴史と現状）		グループ課題 「認可外保育所」についてグループ内の意見を基にレポート	
第3回	乳児院について		課題レポート 「乳児院の現状」を踏まえた乳児保育の必要性について	
第4回	保育所保育指針について		課題レポート 「保育士の資質向上」のために必要なことについて	
第5回	保育所保育指針における乳児保育のポイント（発達過程と保育のつながり/保育における配慮事項）		保育所保育指針における乳児保育のポイントの復習	
第6回	乳児保育における複数担任制		グループ課題 「伝統行事」についてグループ内で調べたことを基にレポート	
第7回	保育所で過ごす1日の流れ（年齢別デイリープログラム）		課題レポート 「コラム05」を読んで考えたこと	
第8回	保護者との連携		グループ課題「さまざまな文化の違い」についてグループ内で調べたこと	
第9回	保育環境の衛生管理		グループ課題 「コラム07」を読んでグループ内で議論報告	
第10回	かみつき・ひっかきへの対応		グループ課題「乳児保育の保育士に必要な資質」についてグループ内で議論	
第11回	安全管理（SIDS/乳幼児揺さぶられ症候群/薬）		SIDS/乳幼児揺さぶられ症候群とはどんな症状なのか復習する	
第12回	保育園と幼稚園の違い		課題レポート 保育園と幼稚園の違いについて	
第13回	ふれあいあそび（人形を使って）		乳児にふさわしいと思う絵本を選び、読んでくる	
第14回	乳児にふさわしい絵本		乳児への絵本読みで大切と思うことをまとめる	
第15回	医療保育士の現状（ゲストティーチャーの話）		課題レポート 医療現場での保育士の役割などまとめる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	個人課題レポート提出 5回 35%			
小テスト等	なし			
成果発表	グループ課題レポート提出 5回 35%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度が評価の対象になっています。事情がある場合はお知らせください。			
教科書	編著者 志村聡子『はじめて学ぶ 乳児保育』同文書院			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜日4限	メールアドレス		

授 業 科 目	日中交流史【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	崔 淑 芬		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義では、日本と中国の交流の歴史を、アジアの交流史の中に位置づけながら多角的に考察し、中国文化との比較の視点も念頭に、日本文化の特質について考える。これらアジア世界の互いの交流史などの諸相を総合的に学ぶことによって、アジアの社会・風俗、文化異同点などの諸方面についての知識と理解を深め、交流の歴史を把握することによって、国際化時代に対応できる柔軟な思考力を身につけるようになることを目的とする。また、日・中の現地で調査した資料、取材した映像を使用し、レジュメの作成などにより講義を展開していく。			
到達目標	日本と中国、更に東アジア地域の文化・社会・互いの交流史などに対する視野の広い見方、考え方を学ぶことで、“自ら調べ、自ら考える”分野の探究を深める。 1、専門の講義で自分がもっとも興味・関心をもつ専門領域を深く掘り下げることができる。 2、近年あらためて注目されているアジア世界の形成について考えることができる。 3、アジア世界の文化・社会・歴史に対する理解を深めることができる。 4、物事を幅広い視点から理解する能力を身につけることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 講義内容の説明およびスケジュール			日中交流史を考える視点	
第2回 徐福東渡上陸地の謎			徐福とは	
第3回 鑑真の伝教			鹿児島の上陸記念地	
第4回 遣隋使・遣唐使の経緯・影響			聖徳太子の摂政と遣隋使	
第5回 西安の青龍寺と空海			奈良・平安時代の国交	
第6回 阿倍仲麻呂と興慶宮の記念碑			博多文化交流の特徴	
第7回 謝国明と博多			鎌倉幕府時代の日・宋民間貿易	
第8回 栄西と日本の茶文化			「喫茶養生記」安土桃山時代の特徴	
第9回 千利休と茶の湯			安土桃山時代の特徴	
第10回 20世紀初頭頃の留日学生			日清戦争の影響	
第11回 日本人教習の招聘			日本人教習とは	
第12回 孫文と宮崎滔天・梅屋庄吉			辛亥革命とは	
第13回 魯迅と東北大学の藤野先生			魯迅とは	
第14回 21世紀の日本留学特徴			日本の留学生受け入れの政策	
第15回 日中交流史の特徴			レポートの作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	20％			
受講態度他	50％ 出席状況、議論への参加姿勢などを見るとともに、発表などによって行う			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に必ず出席し、積極的な授業参加を望む。授業中の私語は慎むこと。			
教科書	使用しない。各テーマの参考プリントを配布する。			
指定図書	衛藤藩吉著『近代東アジア国際関係史』（東京大学出版会・2004年） 王曉秋著・木田知生訳『中日文化交流史話』（日本エディタースクール出版部、2000年）			
参考図書	竹内実編『日中国交基本文献集』（上・下巻・蒼蒼社・1993年） 崔淑芬著『日中交流の軌跡』（中国書店・2016年） ほか、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	火曜日3講目		メールアドレス	

授 業 科 目	西アジア近現代史【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大津 忠彦		単 位	2
授業の目的と概要	目的：西アジアのおもに19世紀以降の歴史概略を理解し、それが欧米ばかりではなく、日本の政治・経済・文化と密接に関わっていることを学びます。 概要：西アジア（≒中東）をめぐるこんにちの諸問題の要因を、第一次世界大戦前後以降の西アジアにおける民族・宗教・国際関係にたどって考えます。歴史地図や映像史料等をパワーポイントで示しつつ授業進行します。			
到達目標	・オスマン帝国の衰退に伴う欧州諸国の西アジア侵入について、具体的事例を挙げて説明することができる。 ・「パレスチナ問題」を西アジアの民族および国際関係の視点から説明することができる。 ・西アジアの石油をめぐる歴史について、欧米・「OPEC」・日本との関わりを含めて説明することができる。 ・ソ連崩壊（1991年）以降の西アジアの変容具合を、実例に即して説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	（3）-②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 この科目と共に、「西アジア入門」、「海域文化交流史」、「シルクロード文化交流史」、「アジアの建築」を受講すると相互の理解が深まります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	はじめに：「西アジア近現代史」の地域・時代設定		課題①：西アジア地図制作（地勢図および第一次世界大戦時国割）	
第2回	西アジアの地勢、自然環境		第3回までに課題①を提出	
第3回	西アジアの民族と宗教		第3回までに課題①を提出	
第4回	紛争・対立の現況とその歴史的基		課題②：西アジアの民族・宗教問題に関する報道記事検索と考察	
第5回	「オスマン帝国」の末期：西アジア混乱の内因		第6回までに課題②を提出	
第6回	第一次世界大戦前後：欧州介入による混乱		第6回までに課題②を提出	
第7回	アラブとユダヤの対立：「パレスチナ問題」と「中東戦争」		課題③：課題②の近現代史的考察に資する参考文献検索とその紹介	
第8回	油田の発見（1938年）：ダンマーム（サウジアラビア）、ブルガン油田（クウェート）		第10回までに課題③を提出	
第9回	「OPEC」創設（1960年9月）		第10回までに課題③を提出	
第10回	「イラン・イスラーム革命」（1979年）		第10回までに課題③を提出	
第11回	ユネスコ世界遺産登録（1981年）「エルサレムの旧市街とその城壁群」		課題④：西アジアの「石油資本主義」について（ネット記事検索）	
第12回	イラン・イラク戦争（1980年9月22日～1988年8月20日）		第12回までに課題④を提出	
第13回	「湾岸戦争」（1990年8月2日～1991年2月末日）		課題⑤西アジア近現代史に関わる「ユネスコ世界遺産登録」を探す	
第14回	ソ連崩壊（1991年）と西アジア		第15回までに課題⑤を提出	
第15回	まとめ		第15回までに課題⑤を提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
レポート	－			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50％ ②時々的小テスト成果や提出課題成果他を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	上記「成績評価に関する情報」欄の、①と②の判定組合せが「秀&秀」・「秀&優」を秀、「秀&良」・「優&優」を優、「秀&可」・「優&良」・「優&可」・「良&良」を良、「良&可」・「可&可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。 「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。受講態度の良否は成績評価に大きく影響します。講義の進行に集中し自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前夜		メールアドレス	

授 業 科 目	西アジア入門【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大津 忠彦		単 位	2
授業の目的と概要	目的：西アジアとは、アジアの西寄域をさす呼称です。その多様な地勢・風土に種々の文明が興亡しました。イスラム教、キリスト教、ユダヤ教等の諸宗教が誕生し、民族模様とからまり、様々な問題がこんにちなお困難で未解決のまま推移しているところです。このような西アジアの社会や文化に触れるときの基礎的素養を身につけます。そして、日本から遠隔の地「西アジア」をこれまでより身近な地として認識できるようになる事を目的とします。 概要：西アジアの自然と文化諸相をパワーポイントやビデオ画像を使って学びます。西アジアと近代文明との関係を「石油」について、西アジアの民族問題、宗教、「食」については、歴史を古代史にまで遡って考えます。また、日本との関わりを「異文化理解」の視点から、明治期資料の一部を読んで探ります。			
到達目標	・西アジアに属する国々を、正しく地図上に列挙することができる。 ・西アジアの自然と人々の住まい方を関係づけることができる。 ・西アジアを「農耕・牧畜」発祥の地として、その要因を含めて説明することができる。 ・「イエルサレム」を民族・宗教の視点から説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」この科目と共に、「西アジア入門」、「アジアの建築」を受講すると相互の理解が深まります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	「西アジア」概観 - その (1) : 「西アジア」、「中東」、「オリエント」という呼称		課題①：地図による西アジア理解	
第 2 回	「西アジア」概観 - その (2) : 国々と地勢・風土の特性		第3回までに課題①を提出	
第 3 回	西アジアの住まいと住まい方		第3回までに課題①を提出	
第 4 回	西アジアの砂漠とラクダ		課題②：西アジア報道レポート -その (1)	
第 5 回	西アジアの「世界遺産」とナツメヤシ		第6回までに課題②を提出	
第 6 回	西アジアの「石油」と近代文明		第6回までに課題②を提出	
第 7 回	西アジアと民族 - その (1) : クルド人と「クルド問題」		課題③：日本からの「西アジア・ツアー」レポート	
第 8 回	西アジアの食 - その (1) : 「農耕・牧畜」の発祥地		第9回までに課題③を提出	
第 9 回	西アジアの食 - その (2) : パンとビールの発祥地		第9回までに課題③を提出	
第10回	西アジアと民族 - その (2) : ユダヤ人と「パレスティナ問題」		課題④：西アジア報道レポート -その (2)	
第11回	聖地エルサレム：多民族・多宗教の共存		第12回までに課題④を提出	
第12回	西アジアと「イスラーム」 - その (1) : 「イスラーム」という生活規範		第12回までに課題④を提出	
第13回	西アジアと「イスラーム」 - その (2) : 「コーラン」と他の啓示宗教		課題⑤：西アジア報道レポート -その (3)	
第14回	日本人の西アジア発見、異文化実体験のあゆみ		第15回までに課題⑤を提出	
第15回	「西アジア入門」総括		第15回までに課題⑤を提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％ ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50％ ②受講態度（含、時々の小テスト成果や提出課題成果）を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・上記「成績評価に関する情報」欄の、①と②の判定組合せが「秀&秀」・「秀&優」を秀、「秀&良」・「優&優」を優、「秀&可」・「優&良」・「優&可」・「良&良」を良、「良&可」・「可&可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。 ・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。受講態度の良否は成績評価に大きく影響します。講義の進行に集中し自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	日本芸能論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	飯冨 章宏		単 位	2
授業の目的と概要	能楽は日本の伝統芸能のひとつである。中世という時期に日本古来の芸能を融合し、舞台芸術にまで高めた。その後の様々な日本芸能の基幹ともなった。そのことを理解しながら、能楽という伝統芸能の魅力を学んでいく。能楽を題材としながらもその他の古典芸能の豊かな魅力への理解を深める。 ・古代から近世までの日本の伝統芸能史の概略。 ・代表的な能楽の曲の分析。 ・世阿弥の芸能論の研究。 ・実際の能楽やその他の芸能の映像学習。 ・現代の日本文化への影響の研究。			
到達目標	実技体験や映像を利用して実践的な知識を身につけ、古典芸能が現代に伝承される意味を知って、現代日本文化の歴史的背景を説明できるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 能楽を知ろう。能「猩々乱」を観る。			能楽について図書、ビデオ、ネット情報などで事前学習する。	
第 2回 翁猿楽について			レポート：「能舞台」（400字）配布資料を参考にすること。	
第 3回 日本芸能史 能楽以前			レポート：「能の音楽」（400字）配布資料を参考にすること。	
第 4回 初番能『高砂』			レポート：講義中に指示	
第 5回 修羅能『清経』			レポート：講義中に指示	
第 6回 鬘物能『井筒』			レポート：講義中に指示	
第 7回 現在物能『隅田川』			レポート：講義中に指示	
第 8回 切能『船弁慶』			レポート：講義中に指示	
第 9回 仏教思想の影響『歌占』『求塚』			レポート：講義中に指示	
第10回 観阿弥の能『通小町』			レポート：講義中に指示	
第11回 世阿弥の演劇論『風姿花伝』			レポート：講義中に指示	
第12回 世阿弥以降の能『道成寺』			レポート：講義中に指示	
第13回 安土桃山江戸期の能			レポート：講義中に指示	
第14回 近世演劇への影響『改作の功罪』？ドナルドキーン			レポート：講義中に指示	
第15回 近代文学と能『草枕』漱石文学への能楽の影響			レポート：講義中に指示	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない。			
レポート	40％、E-mailによるレポート提出もある。			
小テスト等	出席カード裏の記述を考慮する。疑問、異見も歓迎する。			
成果発表	最終講義後、レポートを課す事がある。			
受講態度他	60％、受講態度が著しく悪いものは別途レポートを課す。授業出席を重視する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	映像を多用する。映像をしっかりと鑑賞しないと受講の意味がない。 レポートは簡潔にして、主旨明瞭を心がけること。 礼儀・作法も日本文化の特質である。まじめな受講を望む。			
教科書	配布レポートによる。			
指定図書	渡辺淳一『秘すれば花』講談社、林望『すらすら読める風姿花伝』講談社 田中健次『図解 日本音楽史』東京堂出版			
参考図書	天野文雄『能に憑かれた権力者』講談社選書メチエ、渡辺睦子・増田正造『マンガ能百番』、新潮日本古典集成（第4回）『世阿弥芸術論集』新潮社			
オフィスアワー	開講日12時より講義開始まで	メールアドレス		

授 業 科 目	日本国憲法【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	高木 佳世子		単 位	2
授業の目的と概要	1.「人権」とは何か、国家による人権侵害がどのように起きるのかを学ぶ。 2.人権規定についての概要と代表的な裁判例について学ぶ。 3.統治機構の役割と三権相互の関係について検討する。 4.平和主義、憲法改正について現在の議論状況を把握する。			
到達目標	1.「人権」とは何か、自分にとってどのような意味があるのかを説明できる。 2..立憲主義について説明できる。 3.現実の社会で起きている事象に憲法の観点をあてはめ、批判的にとらえることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	人権、憲法というアイディアが生まれてきた歴史		配付資料を見直して復習する。	
第2回	人権とは何かーハンセン病問題に関する映像教材の視聴		感想文作成	
第3回	日本国憲法が保障する基本的人権／人権の享有主体／公共の福祉／私人間効力		配付資料を見直して復習する。	
第4回	幸福追求権		配付資料を見直して復習する。	
第5回	法の下での平等		配付資料を見直して復習する。	
第6回	精神的自由権（１）思想・良心の自由、信教の自由		配付資料を見直して復習する。	
第7回	精神的自由権（２）学問の自由・表現の自由		配付資料を見直して復習する。	
第8回	経済的自由権		配付資料を見直して復習する。	
第9回	生存権／子どもの貧困		配付資料を見直して復習する。	
第10回	教育を受ける権利／労働基本権		配付資料を見直して復習する。	
第11回	国会		配付資料を見直して復習する。	
第12回	内閣／財政／地方自治		配付資料を見直して復習する。	
第13回	裁判所と違憲審査権		配付資料を見直して復習する。	
第14回	日本国憲法の制定経緯（映像視聴）		感想文作成	
第15回	平和主義／憲法改正の手続きと限界		配付資料を見直して復習する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％			
小テスト等	20％（映像視聴の感想文）			
成果発表	なし			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。			
教科書	なし			
指定図書	中西新太郎・箕輪明子編著『〔第2版〕キーワードで読む現代日本社会』（旬報社）			
参考図書	工藤達朗編『やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる憲法〔第2版〕』（ミネルヴァ書房、2013年） 初宿正典ほか編『目で見る憲法〔第4版〕』（有斐閣、2011年）			
オフィスアワー	金曜4限	メールアドレス		

授 業 科 目	日本国憲法【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	森 俊輔		単 位	2
授業の目的 と概要	「日本国憲法」の条文の意味をただ学問的な意味で学習するのでは、一過性の知識しか得ることができません。本講義では、これまでに日本で実際に起こった多くの具体的な事件を知ることを通して、「日本国憲法」が私たちの生活にどのように関連しているのかを理解します。 また、法的思考力を高め、様々な社会事象を考察する能力を身につけることを目的とします。			
到達目標	1. 「日本国憲法」を体系的に理解した上で、現代の諸問題を法的に評価して説明することができる。 2. 立憲主義の意味を理解した上で、現在の憲法改正の動きについて自分なりの意見を述べるすることができる。 3. これまでの憲法判例の動きを理解したうえで、今後我が国で起こり得る法的な諸問題を具体的に述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	「法」の意義と「憲法」 ～立憲主義～		Unit 0～1	
第2回	日本国憲法の成り立ちと国民主権		Unit 2～4	
第3回	平和主義		Unit 12	
第4回	基本的人権 （人権享有主体性、人権の限界等）		Unit 13	
第5回	包括的基本権（新しい人権）		Unit 28～29	
第6回	法の下での平等		Unit 27	
第7回	精神的自由権 1 （思想良心の自由、信教の自由）		Unit 14～16	
第8回	精神的自由権 2 （表現の自由）		Unit 17～20	
第9回	人身の自由		Unit 23	
第10回	経済的自由権（職業選択の自由、営業の自由、財産権）		Unit 21～22	
第11回	社会権（生存権、教育を受ける権利、労働三権）		Unit 24～26	
第12回	国務請求権、参政権等		Unit 5	
第13回	立法権と地方自治		Unit 6～7,11	
第14回	行政権と財政		Unit 8	
第15回	司法権と違憲審査		Unit 9～10	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	・講義の90分間で学んだことを自分の言葉で表現できるレベルにまで高めることが求められますから、一定程度の復習が必要不可欠です。 ・過度な私語が続く場合には、退出してもらうことがあります。			
教科書	片桐直人・井上武史・大林啓吾 『一步先への憲法入門』 有斐閣			
指定図書	なし			
参考図書	安念潤司ほか 『憲法を学ぶための基礎知識 論点・日本国憲法 （第2版）』 東京法令出版 渋谷秀樹ほか 『憲法1 人権 （第5版）』『憲法2 統治 （第5版）』 有斐閣			
オフィスワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	(外)日本語A【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	井手 玲奈		単 位	2
授業の目的 と概要	このクラスは論文作成の基礎を身につけている日本語中級後半～上級レベルの学習者を対象とする。上級レベルの書き言葉や文法を確認しながら、いろいろな種類の文を書いていき、大学で求められるレポートや課題の作成を目指す。日本語Bの授業時間は1回につき3時間（2コマ）である。授業前半で文章で使う文法・文字・表記・語彙の確認・練習をし、後半で実際の論文を作成する。毎回のフィードバックを踏まえて、書き直しも行う。			
到達目標	書き言葉・文法・表現の理解。 授業で出されるいろいろな分野のレポートの作成。 見たり読んだりして得た情報から自分の意見をまとめ文を作成。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は「外国人留学生及び海外帰国生科目」です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 表記・文体の復習		履修している科目で出された課題等	
第2回	小論文によく使われる表現（客観性のある文章にするための文末表現）		履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策	
第3回	小論文によく使われる表現（助詞のような働きをする言葉）		履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策	
第4回	段落（段落と中心文）		履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策	
第5回	段落（中心文と支持文）		履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策	
第6回	要約文を書く（中心文がはっきりしている文）		履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策	
第7回	要約文を書く（中心文がはっきりしていない文）		履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策	
第8回	説明文を書く（具体的な表現）		履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策	
第9回	説明文を書く（客観的に書くために）		履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策	
第10回	意見文を書く（事実と意見）		履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策	
第11回	意見文を書く（意見を述べる文のスタイル）		履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策	
第12回	事実を示す方法（数値を示す）		履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策	
第13回	事実を示す方法（公の事実を示す）		履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策	
第14回	小論文のはじめと終わり（序）		履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策	
第15回	小論文のはじめと終わり（本論と結び）		履修している科目で出された課題等	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％			
レポート	0％			
小テスト等	30％			
成果発表	20％			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中は日本語を話し、クラスのメンバーと協力しながらクラス活動を積極的に行う。 他の科目で出た課題・レポート等があれば、授業に持参する。			
教科書	友松悦子「小論文への12のステップ」スリーエーネットワーク			
指定図書	石黒圭「留学生のためのここが大切文章表現のルール」スリーエーネットワーク			
参考図書	アカデミックジャパニーズ研究会 「改訂版大学・大学院 留学生の日本語」アルク			
オフィスアワー	メールにて要相談	メールアドレス		

授 業 科 目	(外)日本語B【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	占部 匡美		単 位	2
授業の目的 と概要	日本語で書かれた論文を読む能力の基礎を身に着ける。良いレポート・論文に求められる条件やレポート・論文の改善方法について学ぶ。また、レポートや卒業論文の執筆時に必要な論文を集める方法、論文の整理の仕方も学ぶ。全体を通じて、大学での学業に必要な語彙を増やし、文法や発音、待遇表現を学習する。 2時限続けての開講となる。最初の時限では、前回の内容の確認テストと復習を行う。次の時限では、新しい内容の学習と練習を行う。毎週教科書の内容を予習・復習する。自分が履修する科目の課題について調査し、報告する。さらに、他科目のための実際のレポートや発表を持ち寄り、見直したり、批評したりする。			
到達目標	① 日本語で書かれた論文を読む能力の基礎を身に着ける ② レポート・論文に必要な条件と構成を理解する ③ 履修後も自分自身でレポート・論文を読み書きしていくための批評能力を身に着ける ④ 論文の集め方を学ぶ ⑤ 論文の整理の仕方を学ぶ			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は「外国人留学生及び海外帰国生科目」です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1週	オリエンテーション（目的・現状・課題の把握）、第1課「異文化適応」の学習		準備：教科書を購入し、持参 予習：第1課を読み、問題を解いてくる	
第2週	第1課「異文化適応」のテスト、第2課「いじめ」の学習		準備：第1課テスト内容の学習 予習：第2課を読み、問題を解いてくる	
第3週	第2課「いじめ」のテスト、第3課「衝動買いを誘導する」の学習		準備：第2課テスト内容の学習 予習：第3課を読み、問題を解いてくる	
第4週	第3課「衝動買いを誘導する」のテスト、第4課「おいしい食感の理由」の学習		準備：第3課テスト内容の学習 予習：第4課を読み、問題を解いてくる	
第5週	第4課「おいしい食感の理由」のテスト、第5課「日本人の意識―結婚と家庭に関する40年の変容―」の学習		準備：第4課テスト内容の学習 予習：第5課を読み、問題を解いてくる	
第6週	第5課「日本人の意識―結婚と家庭に関する40年の変容―」のテスト、第6課「フリーター問題」の学習		準備：第5課テスト内容の学習 予習：第6課を読み、問題を解いてくる	
第7週	第6課「フリーター問題」のテスト、第7課「安全でおいしい水を飲むために」の学習		準備：第6課テスト内容の学習 予習：第7課を読み、問題を解いてくる	
第8週	第7課「安全でおいしい水を飲むために」のテスト、第8課「『まじめ』という言葉」の学習		準備：第7課テスト内容の学習 予習：第8課を読み、問題を解いてくる	
第9週	第8課「『まじめ』という言葉」のテスト、第9課「がん告知」の学習		準備：第8課テスト内容の学習 予習：第9課を読み、問題を解いてくる	
第10週	第9課「がん告知」のテスト、第10課「論文を読む①全体構成・序論」の学習		準備：第9課テスト内容の学習 予習：第10課を読み、問題を解いてくる	
第11週	第10課「論文を読む①全体構成・序論」のテスト、第11課「論文を読む②本論その1」の学習		準備：第10課テスト内容の学習 予習：第11課を読み、問題を解いてくる	
第12週	第11課「論文を読む②本論その1」のテスト、第12課「論文を読む③本論その2」の学習		準備：第11課テスト内容の学習 予習：第12課を読み、問題を解いてくる	
第13週	第12課「論文を読む③本論その2」のテスト、第13課「論文を読む④結論」の学習		準備：第12課テスト内容の学習 予習：第13課を読み、問題を解いてくる	
第14週	第13課「論文を読む④結論」のテスト、第14課「論文を読む⑤総合練習」の学習		準備：第13課テスト内容の学習 予習：第14課を読み、問題を解いてくる	
第15週	第14課「論文を読む⑤総合練習」のテスト、総復習		準備：第14課テスト内容の学習 予習：教科書全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	学期初めに、履修科目と課題の一覧表を提出する			
小テスト等	各課の確認テスト70％			
成果発表	なし			
受講態度他	毎回の授業活動の成果30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	① 教科書を購入し、毎回持参する ② 毎回、予習・復習する ③ クラスメイトと協力する ④ 授業では日本語を使用する。外国語で話さない ⑤ 授業活動以外のことをしない			
教科書	アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アルク			
指定図書	なし			
参考図書	アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語①読解編』アルク アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語②作文編』アルク			
オフィスアワー	授業の前夜		メールアドレス	

授 業 科 目	(外)日本語C【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	池澤 明子		単 位	2
授業の目的 と概要	日本語で論文を書く方法の基礎を身に着ける。論文で使用する表現や語彙、論文の構成・章立て、各章に必要な内容、文系の論文で用いられる調査方法を学ぶ。 2時限続けての開講となる。最初の時限では、前回の内容の確認テストと応用レポートの批評を行う。次の時限では、新しい課の内容の学習と練習を行う。自分が履修する科目の課題について調査し、報告する。さらに、他科目のための実際のレポートや発表を持ち寄り、見直したり、批評したりする。			
到達目標	① 日本語で論文を書く方法の基礎を身に着ける ② 論文で使用する表現や語彙を習得する ③ 論文に必要な条件を理解する ④ 論文の構成・章立ての仕方を学ぶ ⑤ 文系の論文で用いられる調査方法を学ぶ ⑥ 履修後も自分自身でレポート・論文を読み書きしていくための批評能力を身に着ける			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は「外国人留学生及び海外帰国生科目」です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1週	オリエンテーション（目的・現状・課題の把握）、第1課「作文の基本（1）」の学習		準備：教科書を購入し、持参。履修科目と課題一覧を作成し、持参	
第2週	第1課「作文の基本（1）」のテストと応用レポートの批評、第2課「作文の基本（2）」の学習		準備：第1課テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参	
第3週	第2課「作文の基本（2）」のテストと応用レポートの批評、第3課「課題の提示」の学習		準備：第2課テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参	
第4週	第3課「課題の提示」のテストと応用レポートの批評、第4課「目的の提示」の学習		準備：第3課テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参	
第5週	第4課「目的の提示」のテストと応用レポートの批評、第5課「定義と分類」の学習		準備：第4課テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参	
第6週	第5課「定義と分類」のテストと応用レポートの批評、第6課「図表の提示」の学習		準備：第5課テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参	
第7週	第6課「図表の提示」のテストと応用レポートの批評、第7課「変化の形容」の学習		準備：第6課テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参	
第8週	第7課「変化の形容」のテストと応用レポートの批評、第8課「対比と比較」の学習		準備：第7課テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参	
第9週	第8課「対比と比較」のテストと応用レポートの批評、第9課「原因の考察」の学習		準備：第8課テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参	
第10週	第9課「原因の考察」のテストと応用レポートの批評、第10課「列挙」の内容の学習		準備：第9課テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参	
第11週	第10課「列挙」のテストと応用レポートの批評、第11課「引用」の学習		準備：第10課テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参	
第12週	第11課「引用」のテストと応用レポートの批評、第12課「同意と反論」の学習		準備：第11課テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参	
第13週	第12課「同意と反論」のテストと応用レポートの批評、第13課「帰結」の学習		準備：第12課テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参	
第14週	第13課「帰結」のテストと応用レポートの批評、第14課「結論の提示」の学習		準備：第13課テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参	
第15週	第14課「結論の提示」のテストと応用レポートの批評		準備：第14課テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	各課の応用レポート42％			
小テスト等	各課の確認テスト42％			
成果発表	なし			
受講態度他	授業活動の成果16％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	① 教科書を購入し、毎回持参する ② 毎回の授業前に、テストの準備と応用レポートの執筆をする ③ クラスメイトと協力する ④ 授業では日本語を使用する。外国語で話さない ⑤ 授業活動以外のことをしない			
教科書	アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』アルク			
指定図書	なし			
参考図書	アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語②作文編』アルク アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アルク			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語意味論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小野 望		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は、日本語学の基幹科目として設置されているものである。 意味を伝え、意味を理解することは、言語の主要な機能である。「意味」のあり方について理論的に考察するとともに、実際に語の意味を調べ、意味分析を行う。これらの作業を通して自らの言語感覚を豊かにする。同時に、言語の体系性を認識することを目的とする。 本講では、認知論の立場から「意味とは何か」について考える。認知論の特徴の一つは、言語使用者がものごとをどのようにとらえるかという自己分析が重要な位置を占めることにある。普段、何気なく使い分けている語はどのように区別されているのか、自らの語感を精査して探りだしてみよう。そして、その結果がどのように理論化され、体系化されていくのか、その過程を追っていこう。			
到達目標	(1) 言語にとって「意味とは何か」ということが説明できる。 (2) 「認知意味論」の特徴である「主体的なとらえ方」について、実例を示して説明できる。 (3) 「カテゴリー化とプロトタイプ論」について、実例を示して説明できる。 (4) 意味の拡張（変化）のメカニズムについて説明できる。 (5) 比喻の種類について、実例を示して説明できる。 (6) 「多義語」「類義語」の分析を通して、意味関係を明示できる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	この科目は、主に以下のDPと関連しています。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 「日本語学概論」での学びを基礎として、「日本語文法論」とともに受講することで、日本語のしくみをより深く理解することが可能となります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション・言語にとって意味とは何か？ 言語は人間のどのような能力と関係するのか？		課題：最近気になる言葉は？ その理由は？	
第 2回	さまざまな認知能力（異なる視点、異なる予測） 「上り坂／下り坂」同じ坂道なのに異なる言い方ができるのは何故？		課題：認知意味論の考え方整理シート	
第 3回	さまざまな認知能力（異なるレベル） 「魚／白身魚／タイ・ヒラメ・・・」		参考プリント：赤ちゃん認知実験	
第 4回	さまざまな認知能力（重要性の選択） 人混みの中に「彼」の姿が浮かび上がることはありませんか？		参考プリント：カテゴリー化とプロトタイプ論	
第 5回	カテゴリー化とプロトタイプ論 「りんごのようなホップ」は何色？		課題：カテゴリー化整理シート	
第 6回	百科事典的意味 「男の中の男」ではない男達は男？		参考プリント：意味分析諸説	
第 7回	意味分析の方法 「昨日」と「前日」どう違う？		課題：意味分析整理シート	
第 8回	合成語を手がかりに意味のあり方を考える 「花」＋「束」＝「花束」？		課題：合成のプロセスを考える	
第 9回	意味の拡張：意味の拡張（変化）のメカニズム 「職場の花」はどんな花？		課題：比喻表現を探そう	
第10回	メタファーの認知基盤 「食べすぎるとブタになる」		参考プリント：メタファー	
第11回	シネクドキーの認知基盤 あなたの筆箱に「筆」は入っていますか？		参考プリント：メトニミー・シネクドキー	
第12回	メトニミーの認知基盤 「お手洗い」に行く目的は？		課題：比喻整理シート	
第13回	比喻から多義語へ：三種の比喻の関係、多義語と単義語 「ダイコクバシラ」はどんな柱？		課題：意味分析の方法整理シート	
第14回	意味分析の方法 「帰りのアシがない！」はどんな足？		課題：意味分析演習	
第15回	意味分析の方法 「かわいい」はどんなもの？		課題：類義語分析	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	4 0％：筆記試験を行う。			
レポート	0％			
小テスト等	5 0％：授業中の課題（重要トピックに関する整理シート、意味分析など）			
成果発表	0％			
受講態度他	1 0％：観察報告：語の意味に関して、授業時に小報告を求めることがある。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・参考プリントを読んで講義に参加し、講義内容と合わせて各回のテーマをまとめていきましょう。重要なトピックについては、整理シートを配布し、授業中の課題（または宿題）とします。 ・シラバスに沿った授業の流れとは別に、各自で選んだ語（好きなことば等々）の意味を調べ、報告することを求めます（観察報告）。 ・スクリーン上にプレゼンテーションを提示するので、最前列付近の照明を落とします。			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	吉村公宏著『はじめての認知言語学』 佐藤信夫著『レトリック感覚』講談社学術文庫 ほか、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	月曜日：4 講時、火曜日：5 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語音声論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	高山 百合子		単 位	2
授業の目的 と概要	国語教育、日本語教育で役立つ日本語音声と、音声言語一般に関する知識、および教授法を身に付けることを目標に、基本的な知識の習得と、発音、朗読、スピーチ、話し合い、敬語運用などの実践的な活動を併せて行う。 ■日本語の音声・音韻・音声言語に関する基礎的な知識を、国語教育、日本語教育の場、および外国語習得の際に活かせるように、コミュニケーションの観点から整理・評価できるようになる。 ■日本語の構造や特徴について説明することができるようになる。			
到達目標	（１）日本語の音声・音韻、および音声言語のあり方について、その基本的なしくみを知り、正しい知識を身に付ける。 （２）日本語の音声・音韻・音声言語に関する基礎的な知識を、国語教育、日本語教育の場、および外国語習得の際に活かすことができる。（３）対人コミュニケーションの力を高める。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は主に次のDPと関係する。 （３）-②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 【関連する科目】 日本語学概論Ⅰ・Ⅱ、日本語表記論、日本語文法論、対照言語学 など			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回；オリエンテーション／音声言語教育、音声と音韻（音素）			予習；テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。	
第2回；日本語の音の単位――モーラ（拍）と音節――			予習；テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。	
第3回；日本語の母音と子音（１）――概要――			予習；テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。	
第4回；日本語の母音と子音（２）――各単音、異音――			予習；テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。	
第5回；アクセントとイントネーション、プロミネンスなど			予習；テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。	
第6回；言語音と表記、音声言語と書記言語			予習；テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。	
第7回；コミュニケーション、コミュニケーション力			予習；テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。	
第8；朗読をする			予習；テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。	
第9回；聴く、話す――メモと要約――			予習；テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。	
第10回；聴く、話す――ブレイン・ストーミングで内容を作る――			予習；テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。	
第11回；スピーチ――型を使って話す――			予習；テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。	
第12回；話し合う、話し合わせる			予習；テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。	
第13回；待遇表現（１）――敬語の分類――			予習；テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。	
第14回；待遇表現（２）――謙譲語を中心に――			予習；テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。	
第15回；まとめ			復習；不明個所などを整理して、質問などできるようにしておくこと。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	7 0 ％			
レポート	1 0 ％			
小テスト等	2 0 ％			
成果発表	とくに点数化はしないが、評価の際に考慮する。			
受講態度他	とくに点数化はしないが、評価の際に考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	◇講義と演習形式とを交えながら授業を行う。グループ活動や発表の機会も多くなるので、柔軟かつ積極的に対応して欲しい。 ◇予習・復習、課題の提出などはきちんと行うこと。シラバスをよく読んで、テキストの該当箇所は事前に読んでおくこと。 ◇課題やレポートは、添削・評価し、原則として授業中にコメントを付して返却する。 ■テキストを購入しなければ受講できない。			
教科書	山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語音声・音声言語 改訂版』くろしお出版、プリント併用			
指定図書	特になし			
参考図書	斎藤 純男（よしお）『日本語音声学入門 改訂版』三省堂 ほか、授業中に必要に応じて提示する。			
オフィスアワー	月曜 3・4 講時、水曜 4・5 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語学演習Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	高山 百合子		単 位	2
授業の目的 と概要	この科目は、日本語学の発展科目として設置されている。 ◇日本語の構造、特徴を理解し、それを日本語の歴史的变化の中に位置づけて説明できるようになる。 ◇調査対象の言語・表現上の特徴を捉え、そこに課題を設定することができる。 ◇その課題をどのように捉え、解決しないしは説明するか、順序立てて考えていくことができる。 九州大学萩野文庫蔵「今昔物語抄」を対象に、中世前期日本語の様相を知ることが目的とする。 文献による日本語史研究の第一歩として、まず資料を詳細に読み解いていくことから始める。いわゆる宣命体の漢字カタカナ交じり文で、表記史の上からも注目されるが、今昔物語集はもちろん、打聞集との関連もあり、さらに宇治拾遺物語など他の説話			
到達目標	(1) 「今昔物語抄」の表記・文体に慣れ、宣命体漢字カタカナ交じり文が、おおよそ読み解けるようになる。 (2) 現代語の表現、ことば遣い、語彙などとの違いに気付き、その背景にある言語変化を理解することができる。 (3) 説話文学の在り方を理解し、説話の魅力を楽しむことができる。 (4) くずし字辞典類、および古辞書などの工具書を活用することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は主に以下のDPと関係する。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 【関連する科目】 日本語学概論Ⅰ・Ⅱ、日本語音声論、日本語表記論、日本語文法論、日本語意味論 など 古代文学講読Ⅰ・Ⅱ、古代文学演習Ⅰ・Ⅱ、中・近世文学講読Ⅰ・Ⅱ、中・近世文学演習Ⅰ・Ⅱ など			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション；説話概説		テキスト「解題」を通読し、「今昔物語抄」のイメージを掴む。	
第2回	テキスト読解（皆などで少しずつ読もう）（1）、今昔物語集概説		テキスト下読み（第1話つづき）	
第3回	テキスト読解（皆などで少しずつ読もう）（2）、演習の仕方について		テキスト下読み（各自の担当話）	
第4回	中世語概説（1）、演習手順説明		担当箇所発表準備	
第5回	中世語概説（2）、古辞書概説		担当箇所発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み（第1話）	
第6回	第1話前半 演習発表①		担当箇所発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み（第1話）	
第7回	第1話後半 演習発表②		担当箇所発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み（第2話）	
第8回	第2話 演習発表③		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み（第3話）	
第9回	第3話 演習発表④		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み（第4話）	
第10回	第4話 演習発表⑤		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み（第5話）	
第11回	第5話 演習発表⑥		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み（第7話）	
第12回	第7話 演習発表⑦		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み（第9話）	
第13回	第9話前半 演習発表⑧		テキスト下読み（解題）	
第14回	テキスト「解題」をめぐって		最終レポートの準備開始	
第15回	まとめ		最終レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	特になし			
レポート	50％ 発表に対する質疑等も考慮して、発表内容をレポートとしてまとめる。			
小テスト等	特になし			
成果発表	50％ 演習発表を行う。			
受講態度他	発表準備、発表の積極性を視ると同時に、質問、意見の真摯さも視る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	◇演習担当者には、詳細な発表資料の作成、および真摯な発表、受講者には、テキスト演習箇所の下読み、前向きな受容的姿勢、と同時に批判的判断を求めます。その両者が相まって、活発な質疑応答が展開されることを期待しています。 ◇課題やレポートは、授業中などにコメントを付して直接返却します。			
教科書	迫野虔徳『今昔物語抄』（和泉書院）			
指定図書	特になし			
参考図書	今昔物語集、宇治拾遺物語、打聞集、その他、具体的な工具書については授業中に指示する。			
オフィスアワー	月曜3・4講時、水曜4・5講時		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語学演習Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	中村 万里		単 位	2
授業の目的 と概要	日本語の歴史を知るうえで文献資料の果たす役割は非常に大きい。文献資料（平曲譜本）を用いて中世から現代に至るまでの日本語の変遷を知ingことを目的とする。 本演習では近世期の平曲譜本（平曲の発音や旋律を示すため、曲節や節博士その他の注記を施した本）を用いて、中世から現代に至るまでの日本語の歴史を学ぶ。平曲は平家物語を琵琶の間奏に合わせて語る音曲の称であるが、演習では録音資料やDVDなどを使用する。またグループによる演習発表を行う。			
到達目標	1.古辞書を引くことができる。 2.日本語の音韻史が説明できる。 3.日本語の文法史が説明できる。 4.日本語の語彙史が説明できる。 5.日本語史が理解できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション		授業の復習	
第 2回	古辞書の説明		授業の復習	
第 3回	古辞書の引き方		授業の復習	
第 4回	変体かなの読み方		授業の復習	
第 5回	平曲と平曲譜本の説明		授業の復習	
第 6回	平曲譜本の読みと発表（1）		授業の復習、プリント予習	
第 7回	平曲譜本の読みと発表（2）		授業の復習、プリント予習	
第 8回	平曲譜本の読みと発表（3）		授業の復習、プリント予習	
第 9回	平曲譜本の読みと発表（4）		授業の復習、プリント予習	
第10回	平曲譜本の読みと発表（5）		授業の復習、プリント予習	
第11回	平曲譜本の読みと発表（6）		授業の復習	
第12回	平曲譜本の読みと発表（7）		授業の復習、プリント予習	
第13回	平曲譜本の読みと発表（8）		授業の復習、プリント予習	
第14回	平曲譜本の読みと発表（9）		授業の復習、プリント予習	
第15回	まとめ		授業の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 期末レポート			
レポート	10％ 小レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 発表			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	尾崎家平家正節のプリント配布			
指定図書	奥村三雄『平曲譜本の研究』桜楓社			
参考図書	渥美かをる『平家物語の基礎的研究』大学堂書店			
オフィスアワー	木曜日2講目		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語学演習Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小野 望		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は、日本語学の発展科目として設置されているものである。本講では『万葉集』を、江戸時代の注釈書『萬葉代匠記』に従って読み進めることで、(1)古代日本語の様相を知るだけでなく、その後の(2)日本語研究の歴史・方法、(3)古代文学受容の歴史にも目を向けることを目的とする。 具体的な演習作業は、概ね次の通り。 (1)代匠記担当部分の翻刻作業（参考となる活字本が図書館にあります） (2)担当部分についての現代の注釈書（数冊）記述の確認 (3)解説が必要な語句、事項等の抽出。これらに関する調査、分析（辞書、注釈書、索引等を利用） (4)配付資料の作成、口頭発表			
到達目標	(1) 近世の注釈書（『代匠記』）を翻刻し、その解釈と考え方を整理して示すことができる。 (2) 万葉和歌の表記・用語に慣れ、現代の諸注釈を参照して語釈をすることができる。 (3) 語釈に際し、必要な用例を検索・整理し、根拠として示すことができる。 (4) 日本語の構造や特徴、言語変化の歴史への理解に基づき、担当歌を解釈することができる。 (5) 担当歌の背景にある、古代日本の思考法や社会・文化の様相について説明することができる。 (6) 担当歌について説明すべき課題を発見し、適切な資料を示しながら解説することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、主に以下のDPと関連しています。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 「日本語学概論Ⅰ・Ⅱ」「日本語音声論」「日本語表記論」などの学修をもとに、「古代文学講読・古代文学演習」など文学の科目とともに受講することで、日本語のしくみを歴史的に深く理解することが可能となります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 『万葉集』の基礎知識			『万葉集』および上代の日本語について、知識をまとめておこう。	
第2回 調査手順の解説 注釈書、辞典類、索引、関連論文の参照方法			指定図書の他、諸注釈書について確認しておこう。	
第3回 参考解釈例 巻一／1、雄略御製「籠もよ 美籠持ち 此の岡に 菜摘ます兒」			サンプルを参考に、翻刻の方法を確認しよう。	
第4回 参考解釈例 巻一／2、舒明御製「倭には 群山あれど 取りよるふ 天香具山」			サンプルを参考に、注釈書の利用と解釈の方法を確認しよう。	
第5回 翻刻作業演習、担当歌演習発表 巻二／85「君が行き 日長くなりぬ」			手分けして翻刻作業をしよう。	
第6回 担当歌演習発表 巻二／97「み薦ける 信濃の真弓 引かずして」、109「大船の 津守が占に 告らむとは」			「相聞」について調べておこう。	
第7回 担当歌演習発表 巻二／124「人皆は 今は長しと たけと言へど」、125「橘の 蔭履む路の 八街に」			助動詞「つ・ぬ」の違いを理解しよう。長歌の表現法に注目しよう。	
第8回 担当歌演習発表 巻二／133「小竹の葉は み山もさやに さやげども」			「乱」の意味、歌語の音に注目しよう。	
第9回 担当歌演習発表 巻二／142「家に有れば 筥に盛る飯を」、156「三諸の 神の神杉」			難訓歌について検討しよう。	
第10回 担当歌演習発表 巻二／147「天の原 振りさけ見れば」、149「人はよし 念ひやむとも」			挽歌の慣用表現を調べてみよう。	
第11回 担当歌演習発表 巻二／165「うつそみの 人にある吾や」、166「磯の上に 咲ける馬酔木を 手折らめど」			大津皇子について調べてみよう。	
第12回 最終発表準備 巻二／167、207、208			代匠記翻刻を完成し、レジュメ作成を開始しよう。	
第13回 最終発表準備 巻二／167、207、208			代匠記現代語訳を完成し、注釈すべき項目について調べて、レジュメを作成。	
第14回 担当歌演習発表 巻二／167「天地の 初の時の 久方の 天の河原に」			人麻呂の皇太子への挽歌の格調を味わおう。	
第15回 担当歌演習発表 巻二／207「天飛や 軽の路は 吾妹児が 里にしあれば」			人麻呂の妻への挽歌を読み、宮廷歌との違いを感じてみよう。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない。			
レポート	30％ 期末レポート（発表内容のまとめ）			
小テスト等	0％			
成果発表	50％ 演習担当部分の配付資料及び発表			
受講態度他	20％ 最終担当部分（167.207.208番歌）のレジュメ原稿提出			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・受講者数によって、授業の運営法が変わることがあります（担当の分量、回数など）。 ・演習科目ですから、担当部分について報告することはもちろん、他の報告についての意見をまとめ、発言するなどの行動を求めます。 ・取り組み方によって成果は大きく異なってきます。考える力を高めるとともに、よりよいコミュニケーションの主体となることも目標の一つとして、積極的に参加しましょう。			
教科書	プリントを配付する（『萬葉代匠記』巻二初校本写）			
指定図書	『契沖全集第1巻（萬葉代匠記）』（築島裕ほか、岩波書店1972-）			
参考図書	『萬葉集註釈』（澤瀉久孝、中央公論社1982-） 『万葉集全注』（伊藤博ほか、有斐閣1983-）			
オフィスアワー	月曜日：5講時、火曜日：5講時		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語学演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	中村 万里		単 位	2
授業の目的 と概要	日本語学演習Ⅰを踏まえて、中世から現代に至るまでの日本語の変遷を知ることが目的とする。 本演習は近世期の平曲譜本を用いて、中世から現代までの日本語の歴史を学ぶ。なお録音テープやDVDなども使用する。またグループによる演習発表を行う。			
到達目標	1.平曲譜本を読むことができる。 2.文献国語史を説明できる。 3.方言国語史を説明できる。 4.平曲を語るすることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション		授業の復習	
第 2回	平曲と平曲譜本		授業の復習	
第 3回	文献国語史		授業の復習	
第 4回	方言国語史		授業の復習	
第 5回	平曲譜本の読解と発表（1）		授業の復習、プリント予習	
第 6回	平曲譜本の読解と発表（2）		授業の復習、プリント予習	
第 7回	平曲譜本の読解と発表（3）		授業の復習、プリント予習	
第 8回	平曲譜本の読解と発表（4）		授業の復習、プリント予習	
第 9回	平曲譜本の読解と発表（5）		授業の復習、プリント予習	
第10回	平曲譜本の読解と発表（6）		授業の復習、プリント予習	
第11回	平曲譜本の読解と発表（7）		授業の復習、プリント予習	
第12回	平曲譜本の読解と発表（8）		授業の復習、プリント予習	
第13回	平曲譜本の読解と発表（9）		授業の復習、プリント予習	
第14回	平曲を語る（1）		授業の復習	
第15回	まとめ		授業の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 期末レポート			
レポート	10％ 小レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 出席状況			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	尾崎家本平家正節のプリント配布			
指定図書	奥村三雄『平曲譜本の研究』桜楓社			
参考図書	渥美かをる『平家物語の基礎的研究』大学堂書店			
オフィスアワー	講義の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語学演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	高山 百合子		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は、日本語学の発展科目として設置されている。 ◇日本語の構造、特徴を理解し、それを日本語の歴史的变化の中に位置づけて説明できるようになる。 ◇調査対象の言語・表現上の特徴を捉え、そこに課題を設定することができる。 ◇その課題をどのように捉え、解決ないしは説明するか、順序立てて考えていくことができる。 九州大学萩野文庫蔵「今昔物語抄」を対象に、中世前期日本語の様相を知ることが目的とする。 文献による日本語史研究の基礎的作業として、前期演習Ⅰに引き続き、資料を詳細に読み解いていくことを重視する。いわゆる宣命体の漢字カタカナ交じり文で、表記史の上からも注目されるが、今昔物語集はもちろん、打開集との関連もあり、さらに宇			
到達目標	(１) 「今昔物語抄」の表記・文体に慣れ、宣命体漢字カタカナ交じり文が、相当程度読み解けるようになる。 (２) 現代語の表現、ことば遣い、語彙などとの違いに気付き、用例を集め、ある程度分析することができる。 (３) 説話文学の在り方を理解し、説話の魅力を論じることができる。 (４) 具体例に基づき、その背景にある言語変化を踏まえて、中世語の特徴について部分的にでも説明することができる。 (５) 全体として、注釈を付けながら読み進めていく作業となる。そのような読解の方法に慣れ、習得する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は主に以下のDPと関係する。 (３) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (３) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (４) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 【関連する科目】 日本語学概論Ⅰ・Ⅱ、日本語音声論、日本語表記論、日本語文法論、日本語意味論 など 古代文学講読Ⅰ・Ⅱ、古代文学演習Ⅰ・Ⅱ、中・近世文学講読Ⅰ・Ⅱ、中・近世文学演習Ⅰ・Ⅱ など			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション；中世語概説、演習の仕方について		自分なりのテーマを探す。担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。	
第2回	担当箇所演習発表（１）		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み①	
第3回	担当箇所演習発表（２）		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み②	
第4回	担当箇所演習発表（３）		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み③	
第5回	担当箇所演習発表（４）		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み④	
第6回	担当箇所演習発表（５）		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み⑤	
第7回	担当箇所演習発表（６）		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み⑥	
第8回	担当箇所演習発表（７）		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み⑦	
第9回	担当箇所演習発表（８）		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み⑧	
第10回	担当箇所演習発表（９）		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み⑨	
第11回	担当箇所演習発表（10）		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み⑩	
第12回	担当箇所演習発表（11）		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み⑪	
第13回	担当箇所演習発表（12）		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み⑫	
第14回	担当箇所演習発表（13）		担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。テキスト下読み⑬	
第15回	まとめ		最終レポートの準備を始める。自らの発表課題を深化させる。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	特になし			
レポート	50％ 各自が選んだテーマについて、発表に対する質疑等も考慮して最終レポートをまとめる。			
小テスト等	特になし			
成果発表	50％ 演習発表を行う。			
受講態度他	発表準備、発表の積極性を視ると同時に、質問、意見の真摯さも視る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	◇演習担当者には、詳細な発表資料の作成、および真摯な発表、受講者には、テキスト演習箇所の下読み、前向きな受容的姿勢、と同時に批判的判断を求めます。その両者が相まって、活発な質疑応答が展開されることを期待しています。 ◇課題やレポートは、授業中などにコメントを付して直接返却します。			
教科書	迫野虔徳『今昔物語抄』（和泉書院）			
指定図書	特になし			
参考図書	今昔物語集、宇治拾遺物語、打開集、その他、具体的な工具書については授業中に指示する。			
オフィスアワー	水曜 5 講時、木曜 2 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語学演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小野 望		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は、日本語学の発展科目として設置されているものである。本講では『万葉集』を、江戸時代の注釈書『萬葉代匠記』に従って読み進めることで、(1)古代日本語の様相を知るだけでなく、その後の(2)日本語研究の歴史・方法、(3)古代文学受容の歴史にも目を向けることを目的とする。 具体的な演習作業は、概ね次の通り。 (1)代匠記プリント担当部分の翻刻作業（参考となる活字本が図書館にあります） (2)担当部分についての現代の注釈書（数冊）記述の確認 (3)解説が必要な語句、事項等の抽出。これらに関する調査、分析（辞書、注釈書、索引等を利用） (4)配付資料の作成、口頭発表			
到達目標	(1) 近世の注釈書（『代匠記』）を翻刻し、その解釈と考え方を整理して示すことができる。 (2) 万葉和歌の表記・用語に慣れ、現代の諸注釈を参照して語釈をすることができる。 (3) 語釈に際し、必要な用例を検索・整理し、根拠として示すことができる。 (4) 日本語の構造や特徴、言語変化の歴史への理解に基づき、担当歌を解釈することができる。 (5) 担当歌の背景にある、古代日本の思考法や社会・文化の様相について説明することができる。 (6) 担当歌について説明すべき課題を発見し、適切な資料を示しながら解説することができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	この科目は、主に以下のDPと関連しています。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①-これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 「日本語学概論Ⅰ・Ⅱ」「日本語音声論」「日本語表記論」などの学修をもとに、「古代文学演習」等の文学科目とともに受講することで、日本語のしくみを歴史的に深く理解することが可能となります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 『万葉集』の基礎知識			『万葉集』および上代日本語について、知識を整理しておこう。	
第2回 翻刻練習と調査方法の解説、担当部分割当 注釈書、辞典類、索引、関連論文の参照方法			指定図書の他、諸注釈書について確認しておこう。	
第3回 準備作業演習 図書館にて、翻刻確認、注釈書類の調査作業			割当部分の翻刻を行い、不明箇所、調べるべき部分を特定しておくこと。	
第4回 担当歌演習発表 巻三／245「開ける如まこと貴く」、303「なぐはしき稲見の海の」			注目点：245：「奇」の訓、303：「隠る」の活用	
第5回 担当歌演習発表 巻三／304「大王の遠の朝廷と」、311「梓弓引く豊国の」、328「青丹よし寧楽の京師は」			注目点：304：人麻呂の宮廷歌人的表現、311：「恋」の訓、328：「薫如」の訓	
第6回 情報基盤講習会			人間文化研究機構の統合検索システム（nihonint）担当者大内先生の講演	
第7回 担当歌演習発表 巻三／329「やすみしし吾が王の」、330「藤浪の花は盛りに」			注目点：329：「所念」訓、330：「けり」意味	
第8回 担当歌演習発表 巻三／331「吾が盛りまたをちめやも」、332「吾が命も常にもあらぬか」、333「浅茅原つばらつばら			注目点：331：「をちめやも」解釈、332「常有奴可」訓、333「曲曲」訓	
第9回 担当歌演習発表 巻三／334「わすれ草吾が紐に付く」、335「吾が行きは久にはあらじ」			注目点：334：萱草の効用、335「瀬者不成而」訓	
第10回 担当歌演習発表 巻三／336「しらぬひ筑紫の綿は」、337「憶良らは今は罷らむ」、338「験なき物を念はずは」			注目点：336：「いまだは着ねど」解、337：音に注目、338：讃酒歌	
第11回 担当歌演習発表 巻三／339「酒の名を聖とおほせし」、340「いにしへの七の賢しき」、341「賢しみと物言ふよりは」			注目点：旅人、中国文学の影響	
第12回 担当歌演習発表 巻三／342「言はむすべせむすべ知らず」、343「中々に人とあらずは」、344「あなみにく賢しらをす			注目点：讃酒歌	
第13回 担当歌演習発表 巻三／345「価なき宝と言ふとも」、346「夜光る玉と言ふとも」、347「世間の遊びの道に」			注目点：345：「豈まきめやも」、346「豈しかめやも」、347「可有良師」	
第14回 担当歌演習発表 巻三／348「このよにし楽しくあらば」、349「生ける者つひにも死ぬる」、350「黙然居りて賢らする			注目点：348：吾はなりなむ、349「楽をあらな」、350「黙然」訓	
第15回 担当歌演習発表 巻三／351「世間を何物に譬へむ」			注目点：「旦開」訓	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない。			
レポート	20％ 期末レポート（発表内容のまとめ）			
小テスト等	0％			
成果発表	50％ 演習担当部分の配付資料及び発表			
受講態度他	30％ 各回発表に対する質疑等の小レポート			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・受講者数によって、授業の運営法が変わることがあります（担当の分量、回数など）。 ・筆記試験（16回目、定期試験）は行いません。 ・演習科目ですから、担当部分について報告することはもちろん、他の報告についての意見をまとめ、発言するなどの行動を求めます。 ・取り組み方によって成果は大きく異なってきます。考える力を高めるとともに、よりよいコミュニケーションの主体となること			
教科書	プリントを配付する（『萬葉代匠記』巻三初校本写）			
指定図書	『契沖全集第2巻（萬葉代匠記）』（築島裕ほか、岩波書店1972-）			
参考図書	『萬葉集註釈』（澤瀉久孝、中央公論社1982-） 『万葉集全注』（伊藤博ほか、有斐閣1983-）			
オフィスアワー	月曜日：4講時、火曜日：5講時		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語学概論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	中村 万里		単 位	2
授業の目的 と概要	私たちが日常何気なく使っている日本語について、様々な視点から「日本語」とは何か、日本語がどのような要素から全体として成り立っているのかを考えます。また、講義を通して「日本語力」の育成を目指します。 教科書の章段ごとに日本語の様々な面を考えます。また、ワークシートを使って日本語学の基本としての文章表現についても考えます。			
到達目標	1.日本語学の基本的な用語・定義などの説明ができる。 2.日本語の音声・音韻について説明ができる。 3.日本語の文法・敬語について説明ができる。 4.日本語の系統について説明ができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション		日本語の復習	
第 2回	音声・音韻①（音声・音韻とは何か）		予習：教科書Ⅱ、復習：教科書付属ワークシート	
第 3回	音声・音韻②（プロソディーと音韻史）		予習：教科書Ⅱ、復習：教科書付属ワークシート	
第 4回	文法①（文法と文法論）		予習：教科書Ⅲ、復習：教科書付属ワークシート	
第 5回	文法②（三大文法学説と文法史）		予習：教科書Ⅲ、復習：教科書付属ワークシート	
第 6回	敬語①（敬語とは）		予習：教科書Ⅳ、復習：教科書付属ワークシート	
第 7回	敬語②（尊敬語・謙譲語・丁寧語・丁寧語・美化語とマニュアル敬語）		予習：教科書Ⅳ、復習：教科書付属ワークシート	
第 8回	音声・音韻、文法、敬語のまとめ		教科書Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、復習：教科書付属ワークシート	
第 9回	言語の特質		予習：教科書Ⅰ、復習：教科書付属ワークシート	
第10回	日本語の特質①		予習：教科書Ⅰ、復習：教科書付属ワークシート	
第11回	日本語の特質②		予習：教科書Ⅰ、復習：教科書付属ワークシート	
第12回	音声・音韻のまとめ		授業の復習	
第13回	文法・敬語のまとめ		授業の復習	
第14回	日本語のまとめ		授業の復習	
第15回	日本語学のまとめ		授業の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 期末試験			
レポート	20％ 小テスト			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ 出席状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	中村万里ほか『入門 日本語学ワークブック』暁印書館			
指定図書	庵功雄『新しい日本語学入門』			
参考図書	必要に応じ、授業の中で紹介します。			
オフィスアワー	講義の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	日本語学概論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	中村 萬里		単 位	2
授業の目的 と概要	日本語学概論Ⅰを踏まえたうえで、私達が日常何気なく用いている日本語について、改めて様々な視点から見通すことを目的とします。また「ことば」とは何か、日本語がどのような要素から全体として成り立っているのかを認識することで、多様な問題にアプローチし、考える力を養います。			
到達目標	・日本語学の研究分野・研究法について、基本的な用語・定説などが説明できる。 ・日本語の語彙について、分類・記述の仕方にはどのようなものがあるかが説明できる。 ・日本語の文字・表記の複雑なシステムについて、歴史的な視点を踏まえた上で現在の状況が説明できる。 ・日本語の文章・文体について、和文・変体漢文・和漢混淆文などの様式とそれらの行われた事情が説明できる。 ・日本語の系統について、現在の通説とその意義とが説明できる。 ・日本語学の諸問題について、自ら調べ、考えることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション（本授業の全体的な説明）・言語の特質		予習：教科書Ⅰ章、復習：教科書付属ワークシート	
第 2回	語彙・意味①語彙とは		予習：教科書Ⅴ章 1、復習：教科書付属ワークシート	
第 3回	語彙・意味②語義		予習：教科書Ⅴ章 2、復習：教科書付属ワークシート	
第 4回	語彙・意味③語構成		予習：教科書Ⅴ章 3、復習：教科書付属ワークシート	
第 5回	語彙・意味④語彙史と辞書		予習：教科書Ⅴ章 4、復習：教科書付属ワークシート	
第 6回	文字・表記①文字とは		予習：教科書Ⅵ章 1、復習：教科書付属ワークシート	
第 7回	文字・表記②日本の文字		予習：教科書Ⅵ章 2、復習：教科書付属ワークシート	
第 8回	文字・表記③仮名遣い		予習：教科書Ⅵ章 3、復習：教科書付属ワークシート	
第 9回	文字・表記④文字史		予習：教科書Ⅵ章 4、復習：教科書付属ワークシート	
第10回	文章・文体①文章とは		予習：教科書Ⅶ章 1、復習：教科書付属ワークシート	
第11回	文章・文体②文体とは		予習：教科書Ⅶ章 2、復習：教科書付属ワークシート	
第12回	文章・文体③文体史		予習：教科書Ⅶ章 3、復習：教科書付属ワークシート	
第13回	言語生活①言語生活とは		予習：教科書Ⅷ章、復習：教科書付属ワークシート	
第14回	方言①		予習：教科書Ⅸ章、復習：教科書付属ワークシート	
第15回	方言②		予習：教科書Ⅸ章、復習：教科書付属ワークシート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	なし			
小テスト等	20％			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（課題の自主設定など、積極的な態度を評価します）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	中村萬里ほか『入門 日本語学ワークブック』暁印書館			
指定図書	庵功雄『新しい日本語学入門』			
参考図書	必要に応じ、授業の中で紹介します。			
オフィスワー	講義の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	日本語教育演習Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	鷹野 恵		単 位	2
授業の目的と概要	「外国語としての日本語」を教えるための実的な技能を身につけることが目的です。 効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらいのかを知り、できるようになることを目指します。 国内・国外で日本語を教えるための土台を作ること重点が置かれる。 また、即戦力としての人材を育成するため、現場に即した授業の展開のしかたを念頭に進行される。 授業は、原則教科書に沿い、進めます。適宜、ワークショップ形式の演習を行い、体験を通した学びを目指します。 また、都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。			
到達目標	・日本語教師としての実務をひと通り学び、主に、初級レベルの授業をひととおりこなせるようになる。 ・<Plan-Do-See>のステップにより、日本語教師が授業前に行うこと、実際のパフォーマンス、ふりかえりというサイクルを習得する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 日文 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 日文 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 アジア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		初級の全体像についてふりかえる	
第2回	初級の授業の全体像		担当箇所の教案の作成	
第3回	授業案作成（1） 全ての素案を立てる		担当箇所の教案の作成	
第4回	授業案作成（2） アイデアを可視化する		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第5回	模擬授業と検討内容（1） 第8・9課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第6回	模擬授業と検討内容（2） 第9・10課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第7回	模擬授業と検討内容（3） 第10・11課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第8回	模擬授業と検討内容（4） 第12課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第9回	模擬授業と検討内容（5） 第13課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第10回	模擬授業と検討内容（6） 第14課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第11回	模擬授業と検討内容（7） 第14・15課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第12回	模擬授業と検討内容（8） 第16・17課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第13回	模擬授業と検討内容（9） 第18課		テスト作成	
第14回	模擬授業と検討内容（9） 第19課		ふりかえり	
第15回	まとめ		レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 詳細は最初の授業で指示します。			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 教案および模擬授業・実習を評価します。			
受講態度他	20％ 学習活動への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。 また、ペアとの協働を意識し、どうすればよりよい授業ができるかを考え、積極的なディスカッションを期待します。 交換留学生を対象とす実習も実施します。積極的にコミュニケーションをはかり、日本語学習者の学習過程を観察、分析してください。			
教科書	『みんなの日本語 初級Ⅰ 本冊 第2版』（スリーエーネットワーク）			
指定図書	なし			
参考図書	『初級を教える人のための文法ハンドブック』白川博之監修（スリーエーネットワーク） 『初級日本語文法と教え方のポイント』市川保子（スリーエーネットワーク）			
オフィスアワー	火曜 5 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語教育演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	鷹野 恵		単 位	2
授業の目的 と概要	「外国語としての日本語」を教えるための実的な技能を身につけることが目的です。 効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらいのかを知り、できるようになることを目指します。 国内・国外で日本語を教えるための土台を作ること重点が置かれます。 また、即戦力としての人材を育成するため、現場に即した授業の展開のしかたを念頭に、授業を進めます。 授業は、原則教科書に沿い、進めます。適宜、ワークショップ形式の演習を行い、体験を通した学びを目指します。 また、都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。			
到達目標	・日本語教師としての実務をひと通り学び、主に、初級レベルの授業をひととおりこなせるようになる。 ・<Plan-Do-See>のステップにより、日本語教師が授業前に行うこと、実際のパフォーマンス、ふりかえりというサイクルを習得する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 日文 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 日文 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 アジア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		初級の全体像についてふりかえる	
第2回	初級の授業の全体像		担当箇所の教案の作成	
第3回	授業案作成（1） 全ての素案を立てる		担当箇所の教案の作成	
第4回	授業案作成（2） アイデアを可視化する		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第5回	模擬授業と検討内容（1） 第8・9課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第6回	模擬授業と検討内容（2） 第9・10課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第7回	模擬授業と検討内容（3） 第10・11課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第8回	模擬授業と検討内容（4） 第12課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第9回	模擬授業と検討内容（5） 第13課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第10回	模擬授業と検討内容（6） 第14課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第11回	模擬授業と検討内容（7） 第14・15課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第12回	模擬授業と検討内容（8） 第16・17課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第13回	模擬授業と検討内容（9） 第18課		テスト作成	
第14回	模擬授業と検討内容（9） 第19課		ふりかえり	
第15回	まとめ		レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 詳細は最初の授業で指示します。			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 教案および模擬授業を評価します。			
受講態度他	20% 学習活動への積極的参加			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。 また、ペアとの協働を意識し、どうすればよりよい授業ができるかを考え、積極的なディスカッションを期待します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『初級を教える人のための文法ハンドブック』白川博之監修（スリーエーネットワーク） 『初級日本語文法と教え方のポイント』市川保子（スリーエーネットワーク）			
オフィスアワー	火曜 5 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語教育法AⅠ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	鷹野 恵		単 位	2
授業の目的と概要	「外国語としての日本語」を教えるための基礎知識と技能を身につけることが目的です。 効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらよいのかを考えます。 国内・国外で日本語を教えるための土台を作ること重点が置かれます。 授業は、原則教科書に沿い、進めます。 また、都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。			
到達目標	・日本語教師としての技能を身につける最初の段階として、基礎的な知識を学び、日本語教育の全体像を知ること。 ・主にはどのような学習者がおり、どのように日本語を学んでいるかについての知識を教材分析等を通し、知見を深めます。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 日文 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第2回	言語としての日本語		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第3回	日本語の音声		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第4回	日本語の文法（１）品詞		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第5回	日本語の文法（２）動詞・形容詞の活用		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第6回	日本語の文法（３）日本語のレベルと文法の関係他		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第7回	文字・表記（１）ひらがなの教え方		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第8回	文字・表記（２）漢字の教え方		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第9回	語彙		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第10回	社会言語学（１）ことばの使い分けとは		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第11回	社会言語学（２）文法外のコミュニケーション		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第12回	心理学（１）学習（learning）とは？		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第13回	心理学（２）心理学と日本語教育の関わり		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第14回	第二言語習得（１）第二言語を学ぶプロセスとは		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第15回	第二言語習得（２）第二言語習得を促すものとは		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	20％			
レポート	40％ 詳細は最初の授業で指示します。			
小テスト等	20％ 詳細は最初の授業で指示します。			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 学習活動への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。			
教科書	『新・はじめての日本語教育Ⅰ』高見澤孟他（アスク）			
指定図書	なし			
参考図書	『みんなの日本語 初級Ⅰ 本冊』（スリーエーネットワーク） 『みんなの日本語 初級Ⅱ 本冊』（スリーエーネットワーク）			
オフィスアワー	火曜 2 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語教育法AⅡ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	鷹野 恵		単 位	2
授業の目的と概要	「外国語としての日本語」を教えるための基礎知識と技能を身につけることが目的です。 効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらいのかを考えます。 国内・国外で日本語を教えるための土台を作ることに重点を置きます。 授業は、原則教科書に沿い、進めます。適宜、ワークショップ形式の演習を行い、体験を通した学びを目指します。 また、都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。			
到達目標	・日本語教師としての技能を身につける最初の段階として、基礎的な知識を学び、日本語教育の全体像を知ること。 ・主には各レベルの学習者にどのように授業を行うのかを知ること。 ・本授業は、学んだことを実際にやってみる「日本語教育演習Ⅰ・Ⅱ」への前段階としての位置づけがあります。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 日文 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第2回	日本語教師の役割		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第3回	日本語を教えるということ		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第4回	初級の教え方（1）発音		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第5回	初級の教え方（2）会話		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第6回	初級の教え方（3）文字		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第7回	初級の教え方（4）読解		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第8回	中上級の教え方（1）会話		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第9回	中上級の教え方（2）聴解		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第10回	中上級の教え方（3）読解		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第11回	中上級の教え方（4）情報収集		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第12回	中上級の教え方（5）その他のクラス指導		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第13回	評価と試験		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第14回	いろいろな外国語教授法		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第15回	ふりかえり		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	20％ 詳細は最初の授業で指示します。			
レポート	30％ 詳細は最初の授業で指示します。			
小テスト等	30％ 詳細は最初の授業で指示します。			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 学習活動への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。			
教科書	『新・はじめての日本語教育2』高見澤孟他（アスク）			
指定図書	なし			
参考図書	『みんなの日本語 初級Ⅰ 本冊』（スリーエーネットワーク） 『みんなの日本語 初級Ⅱ 本冊』（スリーエーネットワーク）			
オフィスワー	木曜 1 講時	メールアドレス		

授 業 科 目	日本語教育法 B I 【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	鷹野 恵		単 位	2
授業の目的 と概要	「外国語としての日本語」を教えるための実的な技能を身につけることが目的です。 効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらいのかを知り、できるようになることを目指します。 国内・国外で日本語を教えるための土台を作ること重点を置きます。 授業は、原則、ワークショップ形式で行い、体験を通した学びを目指します。 また、都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。			
到達目標	・日本語教師としての実務をひと通り学び、初級から上級までの学習者を対象とした授業ができるようになることを目標とします。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 日文 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 日文 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 日文 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 英語 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 アジア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第2回	いろいろなシラバス		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第3回	第二言語の習得の様相		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第4回	初級の授業の全体像		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第5回	初級の授業 導入(1)学習者に気づきを与える導入とは		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第6回	初級の授業 導入(2)導入のバリエーション		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第7回	初級の授業 基本練習(1)流暢さと自動化を促すパターンプラクティスとは		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第8回	初級の授業 基本練習(2)パターンプラクティスのバリエーション		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第9回	初級の授業 応用練習(1)「自分のことば」で話すための活動とは		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第10回	初級の授業 応用練習(2)応用練習のバリエーション		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第11回	初級の授業 応用練習(3)応用練習の留意点		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第12回	初級の教材分析(1)文型シラバスの教材		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第13回	初級の教材分析(2)文型シラバス以外の教材		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第14回	授業案検討		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第15回	まとめ		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 詳細は最初の授業で指示します。			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 詳細は最初の授業で指示します。			
受講態度他	20％ 学習活動への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。			
教科書	『みんなの日本語 初級 I 本冊 ※第2版』（スリーエーネットワーク） ※第1版ではありません			
指定図書	適宜、提示します。			
参考図書	『初級を教える人のための文法ハンドブック』白川博之監修（スリーエーネットワーク） 『初級日本語文法と教え方のポイント』市川保子（スリーエーネットワーク）			
オフィスアワー	月曜 3 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語教育法BⅡ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	鷹野 恵		単 位	2
授業の目的 と概要	「外国語としての日本語」を教えるための実的な技能を身につけることが目的です。 効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらいのかを知り、できるようになることを目指します。 授業は、国内・国外で日本語を教えるための土台を作ることに重点が置かれます。 授業は、原則教科書に沿い、進めます。適宜、ワークショップ形式の演習を行い、体験を通した学びを目指します。 また、都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。			
到達目標	・日本語教師としての実務をひと通り学び、中級の学習者を対象とした授業ができるようになることを目標とします。 ・教案の書き方や教具の作成ができるようになることを目指します。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 日文 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 日文 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 日文 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 英語 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 アジア (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第2回	中級の授業の体験		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第3回	中級の授業の構成		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第4回	教材分析（1）分析の観点の整理		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第5回	教材分析（2）発表		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第6回	効果的な教材の利用		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第7回	教具作成		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第8回	クラスコントロール		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第9回	模擬授業（1）第2課		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第10回	模擬授業（2）第3課		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第11回	模擬授業（3）第4課		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第12回	模擬授業（4）第5課		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第13回	模擬授業（5）第7課		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第14回	模擬授業（6）第8課		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第15回	模擬授業（7）第9課		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 詳細は最初の授業で指示します。			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 教案や教具について発表し評価します。			
受講態度他	20％ 学習活動への積極的参加			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。			
教科書	『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）			
指定図書	なし			
参考図書	『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』白川博之監修（スリーエーネットワーク） 『中級日本語文法と教え方のポイント』市川保子（スリーエーネットワーク）			
オフィスワー	月曜 5 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語教材研究【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	鷹野 恵		単 位	2
授業の目的と概要	「外国語としての日本語」を教えるための基礎知識と技能を身につけることが目的です。 教材・教具は教師が授業をするうえでもっとも重要な道具です。その道具を「見る目」を身につけることを目的とします。 授業は、プリントによって進めます。また、調べ学習、グループ学習、体験等を通した学びを目指します。 また、都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。			
到達目標	・ 現在、現場で多く採用されている日本語の教科書を題材に分析を行い、各教材の特徴を理解することができる。 ・ 教材の特徴を理解したうえで、使用方法についていくつかの道筋を立てることができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 日文 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 教具とは何か			①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第2回 日本語教材選択の視点			①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第3回 学習者を知る ―レディネス調査・ニーズ調査―			①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第4回 教科書の構成			①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第5回 教科書の種類（一般成人・留学生、ビジネスパーソン、技術研修生、年少者）			①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第6回 教材分析（１）初級：構造シラバス			①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第7回 教材分析（２）初級：構造シラバス以外			①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第8回 教材分析（３）中級：一般成人・留学生対象			①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第9回 教材分析（４）中級：一般成人・留学生対象以外			①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第10回 教科書以外の教具―カード類、音声教材―			①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第11回 教材使用法検討（１）初級の場合			①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第12回 教材使用法検討（２）中級の場合			①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第13回 教材使用法検討（３）上級の場合			①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第14回 日本語教育の現状―留学生・技術研修生・年少者・海外―			①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第15回 まとめ			①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％			
レポート	20％（全2回）テーマは原則自由。①授業前半の内容から、②授業全体の内容から ※必ず、参考図書2冊以上を読み、引用しながら書くこと			
小テスト等	なし			
成果発表	30％（全2回）①教材分析、②教材作成			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・ 欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。 ・ ペアまたはグループによる活動があります。相手とのコミュニケーションを積極的にとるよう心掛けてください。			
教科書	『みんなの日本語 初級Ⅰ 本冊 ※第2版』（スリーエーネットワーク） ※第1版ではありません			
指定図書	なし			
参考図書	吉岡英幸（2008）『徹底ガイド 日本語教材』凡人社 国際交流基金（2008）『教材開発』ひつじ書房			
オフィスワー	木曜4講：メールで連絡を事前に行うこと	メールアドレス		

授 業 科 目	日本語とジェンダー【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	高山 百合子		単 位	2
授業の目的と概要	私たちの言語行動は、社会の支配関係からさまざまな影響・制約を受けている。この授業では、その影響・制約のうち、ジェンダーの観点から、歴史的な変化・変遷も考慮に入れながら日本語・日本語表現を観察し、その構造や特徴の概要を説明できるようになることが目的である。「～らしさ」の固定観念に捕われることなく、自由なものの見方で取り組んでいきたい。 ■「ジェンダー」とは何だろうか。また、「ことば」と「ジェンダー」の関係を考えるというのはどういうことか。我々のイメージの中にある女ことば・男ことば（女性語・男性語）とはどういうもので、その実態は何なのか。女ことばの歴史や、現代のことばづかいを振り返りながら、その本質を改めて問い直し、日本語とジェンダーとの関わりについて、いちおうの見解を出していきたい。 ■テキストの読解をもとに、担当するテーマについて考え、発表する演習形式を取り入れて、授業を進める。			
到達目標	1. 日本語のジェンダー的な側面が観察でき、それについて客観的な評価ができる。 2. 日本語のしくみの面白さ、奥深さを認識することで、ことば全体に興味をもてるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は主に以下のDPと関係する。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 【関連する科目】 女性と言語文化（共通科目）、日本語学概論Ⅰ・Ⅱ、女性と文学 など			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回：オリエンテーション／「ジェンダー」の概念について――木下恵介映像作品「女の園」より			感想レポート作成①	
第 2回：「ジェンダー」の概念について――ベアテ・シロタ・ゴードンのドキュメンタリー映像作品より			感想レポート作成②	
第 3回：ジェンダー概念の現在			感想レポート作成③	
第 4回：ジェンダーと言語研究、「位相語」としての女性語・男性語			テキスト予習（各自担当箇所を決定）	
第 5回：「女ことば」の歴史概観			テキスト予習（はじめに、序章）	
第 6回：テキスト序章から考える			テキスト予習（第1章）	
第 7回：テキスト第1章担当者、まとめ、考察など発表			テキスト予習（第2章）	
第 8回：テキスト第2章担当者、まとめ、考察など発表			テキスト予習（第3章）	
第 9回：テキスト第3章担当者、まとめ、考察など発表			テキスト予習（第4章）	
第10回：テキスト第4章担当者、まとめ、考察など発表			テキスト予習（第5章）	
第11回：テキスト第5章担当者、まとめ、考察など発表			テキスト予習（第6章）	
第12回：テキスト第6章担当者、まとめ、考察など発表			テキスト予習（第7章）	
第13回：テキスト第7章担当者、まとめ、考察など発表			テキスト予習（第8章）	
第14回：テキスト第8章担当者、まとめ、考察など発表			感想レポート④	
第15回：[ディスカッション]；「現代の女性語」、授業のまとめ			期末レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	特になし			
レポート	感想レポート〈20％〉、期末レポート〈30％〉			
小テスト等	なし			
成果発表	担当箇所演習発表〈50％〉			
受講態度他	遅刻・欠席を含め、ディスカッションへの参加状況など、評価の際考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	（1） ことばと「ジェンダー」との関わりを自分自身の問題ととらえ、自らの考えを深めていく積極性を重視したい。グループワーク、ディスカッションなどには前向きに取り組んでほしい。 （2） テキストはあらかじめ通読しておくこと。 （3） 課題やレポートは、原則として授業中にコメントを付して返却する。			
教科書	中村桃子『女ことばと日本語』（岩波新書）			
指定図書	金水敏『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』（岩波書店）、定延利之『日本語社会のぞきキャラくり』（三省堂）			
参考図書	中村桃子『〈性〉と日本語―ことばが作る女と男』NHKブックス（No. 1096）、寿岳章子『日本語と女』（岩波新書）、金水敏『〈役割語〉小辞典』（研究社）			
オフィスアワー	月曜3・4講時、水曜4・5講時		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語の現在【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	中川 茂		単 位	2
授業の目的と概要	文章や言葉での表現力を磨き、価値観が多様化する中でも諸課題に的確に対応することを目指します。 日本語の4技能を適切に使用し、実社会での生活力やコミュニケーション能力を高めることを目指します。 具体的な時事ニュースや話題などを素材に、報道の文章が事象をどう伝えようとしているのか、情報伝達の背景や工夫を考察します。 現代社会の多様な出来事に関心を持ち、基礎的な知識を幅広く身に付けます。 社会問題の本質を正しく理解し、改善に向けて主体的に価値判断する力を養います。			
到達目標	1、新聞記事など報道文章を参考に、的確で説得力のある文章を書くことができる。 2、ニュースや話題に詳しくなり、自分なりの意見や感想をしっかりと持つことができる。 3、社会人に必要な「報告、連絡、相談」などで、分かりやすく論理的な話し方、書き方ができる。 4、社会の課題や利害関係の複雑さを理解し、多様性を認め合うことの大切さを、思い起こすことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は主として以下のDPと関連します。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 【関連科目】 「マスコミュニケーション論」、「マスメディアの表現」など			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション。授業の概要や計画、授業の進め方、受け方の留意点など。		気になるニュースのチェック	
第2回	ニュースとは何か。気になるニュース。偽ニュース。模擬取材・原稿執筆。		気になるニュースのチェック	
第3回	メディアとは、情報社会とは。意思伝達の仕組み。「情報偏食」の罠。		気になるニュースのチェック	
第4回	報道の現場。的確に、簡素に、分かりやすく伝えるために。工夫、努力、試行錯誤、葛藤。		気になるニュースのチェック	
第5回	文章の書き方（上）。文章の種類、表現の多様性、間違いやすい用語、人権への配慮。		エッセイを書く	
第6回	文章の書き方（下）。プレゼンテーション文、紹介文、案内文。構成や書き出しの知恵。		エッセイを書く	
第7回	活字メディアとデジタルメディア。双方の長所や短所。スマホとの上手な付き合い方。		気になるニュースのチェック	
第8回	時代、世相と言言葉の変遷。変わる語義、定着する新語、若者言葉の常識と非常識。		新語・流行語のチェック	
第9回	編集という仕事（上）。取材、材料収集、執筆。すべての要となる「企画力」		雑誌特集の企画を考える	
第10回	編集という仕事（下）。売れる本の企画書を作成してみよう。カギは視点、問題意識、表現方法。		売れる本の企画を考える	
第11回	主権者教育。若者の社会参加の意義や課題。騙されない賢い消費者、ブラックバイトの現実。		マララさんのノーベル賞受賞演説を読む	
第12回	進む社会の国際化。求められる多様性への寛容さ。多言語サービス。国際感覚。		国際化関連のニュースをチェック	
第13回	東アジア大交流時代。九州・福岡の果たすべき役割と可能性を探る。		国際化関連のニュースをチェック	
第14回	男女共同参画社会。多様な働き方の現在と今後。セクハラ、マタハラ。企業の社会的責任。		共同参画関連のニュースをチェック	
第15回	総まとめ。社会人に求められる能力、資質、課題探究力。		気になるニュースのチェック	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ エッセイ、雑誌特集の企画書、売れる本の企画書など。 レポートは適宜返却します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 授業での積極的な発言や態度、対応などを考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は講義形式で行います。毎回資料を準備し、質問や意見など対話を重視して進めます。テレビや新聞、スマホなどで、折に触れニュースや話題に接してください。そのうえで、感心したり、怒りを感じたり、評価が難しかったりする事柄や表現を、心にとどめておくよう心掛けてください。			
教科書	教科書なし。 プリントを配布。			
指定図書	なし。 1，2度、当日の朝刊。			
参考図書	外山滋比古 「日本語の作法」（新潮文庫） 本多勝一 「日本語の作文技術」（朝日新聞出版）			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	日本語表記論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小野 望		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は、日本語学の基幹科目として設置されているものである。 日本語の表記様式成立の経緯をたどることにより、言語学の課題としての文字・表記論について理解する。それとともに、文化的・社会的存在として言語を位置付け、豊かな言語感覚と適切な表現力を身につけることを目的とする。 日本語表記の最大の特徴は、複数の文字種（漢字・ひらがな・カタカナ・アルファベット・顔文字（^_^;））を交用することにある。このような表記形態は、独自の文字を持たない段階で中国語の文字である漢字を受け容れてから、千年以上に及ぶさまざまな経緯の上に成り立ったものだ。そして、その歴史は、文字・表記の推移にとどまらず、語彙・文章様式と密接に関わってきた。私たちが毎日使っている「文字」とは何なのか、どうしてこう書くのか、将来どうなるだろうか。さまざまな疑問を解く鍵を、日本語の歴史の中から探してみよう。			
到達目標	(1) 言語にとって「文字とは何か」ということが説明できる。 (2) 私たちが使っている文字の種類、性質を説明できる。 (3) それぞれの文字種の使用の経緯から、表記と文体を関係づけて述べることができる。 (4) 現代日本語表記の課題を列挙し、意見を述べることができる。 (5) 日本語表記の将来についての予測を、具体的に述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、主に以下のDPと関係しています。 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 「日本語学概論」の学びを基礎として、「日本語音声論」とともに受講することで、日本語のしくみについてより深く理解することが可能となります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	文字とは何か	：「文字」の定義、役割、種類	参考プリント（文字の役割） 課題：トイレマークは文字か？	
第 2 回	文字の歴史	：表意文字から表音文字へ	参考プリント（古代文字の姿、表語文字から表音文字へ）を読む。	
第 3 回	漢字の歴史	：東アジアの文字の歴史	参考プリント（文字と文化） 課題：文字の種類整理シート	
第 4 回	日本語の表記	：表記－用語－文体に関連がある	参考プリント（表記の実態） 課題：日本語表記の特色	
第 5 回	日本語と漢字	：上代：漢字を受容するということとは？	参考プリント（漢字の受容）を読み、概要を整理する。	
第 6 回	日本語と漢字（2）	：上代～中古：日本語を書くということ	参考プリント（上代の表記） 課題：日本語と漢字整理シート	
第 7 回	日本語と漢字	：漢字の受容～仮名の成立	参考プリント（上代表記の留意点）を読み、概要を整理する。	
第 8 回	古代表記行動の二面性	：理解と表現	参考プリント（仮名の成立）を読み、概要を整理する。	
第 9 回	「場」の違い	：ひらがな文と漢字カタカナ交じり文	参考プリント（仮名と文体） 課題：仮名の成立整理シート	
第10回	表記と文体	：書かれたものは残る	参考プリント（表記と文体）を読み、概要を整理する。	
第11回	表記のルール	：定家仮名遣いと歴史的仮名遣い	参考プリント（仮名遣い）を読み、概要を整理する。	
第12回	表記のルール	：現代仮名遣い・常用漢字	参考プリント（表記のルール） 課題：表記ルール整理シート	
第13回	日本語表記の課題	：日本語に正書法はあるのか？	参考プリント（迷う書き分け）を読み、概要を整理する。	
第14回	カタカナの勢力拡大	：漢字・漢語が減るとラクですか？	参考プリント（カタカナ語）を読む。 課題：表記の課題整理シート	
第15回	日本語表記の将来	：どうなる？ 日本語（^o^）	参考プリント（未来予測）を読み、概要を整理する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 期末レポートを提出（2000字程度）（提示する複数テーマから1課題を選択）			
小テスト等	40％ 授業中の課題（整理シート等）を評価の対象とする。			
成果発表	0％			
受講態度他	20％ 観察報告 予め指定するトピックについて、表記の実例を観察採集し、授業時に報告を求めることがある。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・配布プリントを読んで講義に参加し、講義内容と合わせて各回のテーマについてまとめましょう。 ・スクリーン上にプレゼンテーションを提示する場合、最前列付近の照明を落とすことがあります。 ・上記プレゼンテーションほか、講義概要・参考プリント・課題用紙等を筑女ネットに提示します。 ・各種提出物は全て評価に加えます。欠席時の課題についても、筑女ネットの講義概要を参照して提出しましょう。 ・筆記試験（16回目）は行いません。必ず期末レポートを提出すること。			
教科書	使用しない。各テーマの参考プリントを配布する。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	佐竹秀雄・佐竹久仁子著『ことばの表記の教科書』ペレ出版 ほか、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	月曜日：5 講時、火曜日：5 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語表現演習Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小野 望		単 位	2
授業の目的 と概要	この科目は、日本語学の基幹科目として設置されているものである。 自立した社会人として必要なコミュニケーション能力を身につけるため、「読む・書く・聞く・話す」の基礎的技能を改めて意識的に学修する。 具体的には、下記の授業計画に従って基礎知識を確認し、実践的演習（文章作成）と指導を繰り返し行う。			
到達目標	(1) 文章作成の基礎知識を習得し、正確で分かりやすい文章を書くことができる。 (2) 論理的かつ効果的な話し方・文章作成法を身につけて、コミュニケーションを円滑に行うことができる。 (3) 「書く」ために必要な、資料等の読解力、発想力、構成力、表現力などの能力を向上させる。 (4) 自己理解を深め、長所を伸ばし、弱点を補えるようになる。 (5) 社会の多様な問題を発見し、関係する情報・知識を使って、解決策を論理的に考察することができる。 (6) 言語規則や社会的マナーに配慮して、適切な表現を選択することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は、主に以下のDPと関連しています。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 「マス・メディアの表現、プレゼンテーション演習、オフィスコミュニケーション」等のコミュニケーションに関する科目群や、 「日本語音声論、日本語表記論、日本語文法論、日本語意味論」等の日本語の構造に関する科目群と合わせて学修することで、総			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	「伝える」ということ：本講が目指すもの		課題：本科目における各自の目標	
第2回	分かりやすさのポイント		課題：道教え	
第3回	自己紹介文の作成		課題：3分間自己紹介原稿を作成する	
第4回	文構造について考える		課題：文章表現体験の報告	
第5回	文構造について考える		課題：自己紹介文の自己点検 表現基礎ワークシート1	
第6回	「ありありと」表現すること		課題：表現基礎ワークシート2	
第7回	文章の趣向：回帰型の構成		課題：表現基礎ワークシート3	
第8回	執筆メモに従ってエッセイを書く		課題：エッセイ執筆	
第9回	文章作成の手順		課題：表現基礎ワークシート4	
第10回	論理性について考える		課題：「モノゴトを明快にする論理力」を要約する	
第11回	論理性を意識して文章を作成する		課題：意見文を書く	
第12回	推薦文を書こう 作品の面白さを伝え、読んでもらうための推薦文を書こう		課題：推薦書籍の選定	
第13回	推薦文分析		課題：推薦文の例を収集し、要件を分析する	
第14回	推薦文執筆		課題：選定した書籍の推薦文を完成する。	
第15回	推薦文集の作成		課題：推薦文集の批評（自己評価、全体評価） （最終レポート）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20％：最終レポート			
小テスト等	0％			
成果発表	50％：自己紹介文、エッセイ、推薦文などの文章作成			
受講態度他	30％：その他の提出課題			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・各種提出物等は全て評価に加えます。欠席時の課題についてもプリント、筑女ネットなどを参照して提出しましょう。 ・筆記試験(16回目)は行いません。 ・提出された文章は、添削・評価し、原則として授業中にコメントを付して返却します。また、それらの文章を印刷・配付して互いに批評等を行うことがあります。なお、これらは現代日本語の資料として保存し、データとして使用することがあります。いずれの場合も、筆者等の個人情報 は削除して使用、保存することとします。			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	樋口裕一著『ホンモノの文章力』（集英社新書）ほか、授業中に紹介する。			
オフィスワー	月曜日：5講時、火曜日：5講時	メールアドレス		

授 業 科 目	日本語表現演習Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	中村 万里		単 位	2
授業の目的 と概要	コミュニケーションの基本である「話す、聞く、書く、読む」の4つの言語活動について、様々な方法によるトレーニングを通じ、それぞれの技術の向上を目指します。本演習では、主に「話す、聞く」を学びます。併せて、日本語の構造・社会的機能についても認識を深めることにより、現代社会を生きる上で求められる総合的な「日本語力」を身につけます。			
到達目標	1.社会人としてふさわしいマナーを身につけることができる。 2.コミュニケーションを円滑にする、論理的かつ効果的な話し方を身につけることができる。 3.敬語に習熟し、人間関係を良好に保つことができる。 4.音声情報を注意深く聞き取り、会話での対応・メモやノートなど文字情報化の双方に習熟することにより、問題解決力・論理的思考力を身につけることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		授業の復習	
第2回	マナーを身につける（1）基礎		予習：教科書p.7、復習：教科書付属ワークシート	
第3回	マナーを身につける（2）応用		予習：教科書p.8、復習：教科書付属ワークシート	
第4回	伝わる話し方をする（1）伝える方法		予習：教科書pp.10-12、復習：授業の復習	
第5回	伝わる話し方をする（2）わかりやすく伝える		予習：教科書pp.13－14、復習：教科書付属CD	
第6回	敬語を学ぶ（1）尊敬語・謙譲語Ⅰ		予習：教科書pp.15－16、復習：授業の復習	
第7回	敬語を学ぶ（2）謙譲語Ⅱ・丁寧語・美化語		予習：教科書pp.17－19、復習：教科書付属ワークシート	
第8回	聞き方に注意する（1）聞き上手は話し上手		予習：教科書p.20、復習：授業の復習	
第9回	聞き方に注意する（2）感じのよいあいづちを打つ		予習：教科書p.21、復習：授業の復習	
第10回	聞いたことを書き取る（1）メモの取り方		予習：教科書pp.22-24、復習：教科書付属ワークシート	
第11回	聞いたことを書き取る（2）ノートの取り方		予習：教科書pp.25-29、復習：教科書付属ワークシート	
第12回	朗読を味わう（1）草枕・雨ニモマケズ・春のめざめ		予習：教科書pp.30-32、復習：教科書付属CD	
第13回	朗読を味わう（2）枕草子・方丈記・寿限無		予習：教科書pp.33-35、復習：教科書付属CD	
第14回	朗読を味わう（3）伊豆の踊子・羅生門		予習：教科書pp.36-37、復習：教科書付属CD	
第15回	まとめ		授業の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	55％（期末レポート25％、第2・3、6・7、10・11の各回〈上記「授業計画」参照、以下同じ〉の提出物30％）			
小テスト等	20％（第4・5、8・9の各回に実施）			
成果発表	15％（第12～14回）			
受講態度他	10％（課題の自主設定など、積極的な態度を評価します）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	様々なテーマを取り扱います。しっかり予習・復習を行ってください。			
教科書	中村万里ほか『実践 日本語表現ワークブック』暁印書館			
指定図書	中村万里『人とうまく話せますか』双文社出版 中村万里ほか『入門 日本語学ワークブック』双文社出版			
参考図書	中村万里『使える！マナーの鉄則100』双文社出版			
オフィスワー	講義の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	日本語表現演習Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	高山 百合子		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は、日本語の4技能のうち、とくに「読み、書く力」を実践的に身につけていくことを直接の目的とする。「読み、書く力」が付いていけば、論理的思考力を高めていくことができる。ひいてはコミュニケーション力の総合的なレベルアップをめざす。 4年次に「卒業論文」に取り組み、まとめ上げる力につなげることも具体的な目標である。 ■正確でわかりやすい文章を〈書く〉ことに重点を置いて、演習形式で文章作成を実践していく。また、発表やスピーチ等の機会を作り、音声表現も練習する。 ■「書く力」をつけるためには、じつは頭の中に理想とする文章がイメージできることが必須の条件である。そのためには、多くの文章を読んでいくことが必要となる。文章の題材作りのためにも、文章の読解を積極的に行う。			
到達目標	(1) 起承転結の型を使って、正確でわかりやすい文章が書けるようになる。 (2) 発表やスピーチ等の機会を得て、音声表現も起承転結の型を意識できるようになる。 (3) 〈書く〉ために必要な、資料等の読解力、発想力、構成力、表現力などの力を向上させる。 (4) 実作を行う中で、自己理解を深め、長所を伸ばし、弱点が補えるようになる。 (5) 言語規則や社会的マナーに配慮して、適切な表現を選択することができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	この科目は主に以下のDPと関係する。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 【関連する科目】 対人コミュニケーション論、マスメディアの表現、オフィスコミュニケーション 日本語音声論、日本語表記論、日本語文法論、日本語意味論 など			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：授業目標の確認、授業計画の説明、各自の目標設定他		自分自身の到達目標の設定・確認、課題プリント；練習問題（1）	
第2回	文章表現の全体像（正確でわかりやすい文章とは）		課題プリント；練習問題（2）	
第3回	要約を含めた実作と評価・講評他（実作は課題としてあらかじめ提出させておくこともある。以下同じ）（1）		課題作成①	
第4回	要約を含めた実作と評価・講評他（2）		課題作成②	
第5回	要約を含めた実作と評価・講評他（3）		課題作成③	
第6回	要約を含めた実作と評価・講評他（4）		課題作成④	
第7回	主題の展開・段落構成のあり方など		課題作成⑤	
第8回	実作と評価・講評他（5）		課題作成⑥	
第9回	実作と評価・講評他（6）		課題作成⑦	
第10回	わかりやすい文章表現		課題作成⑧	
第11回	実作と評価・講評他（7）		課題作成⑨	
第12回	実作と評価・講評他（8）		課題作成⑩	
第13回	音声表現の全体像（わかりやすい発表・スピーチとは）		課題作成⑪	
第14回	発表・スピーチの実践		課題作成⑫	
第15回	まとめ		課題作成⑬	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	30％（3回程度実作を行なう）			
小テスト等	特になし			
成果発表	評価の際に加味する。			
受講態度他	評価の際には、出席状況を加味する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	◇国語辞典を持参してくること。 ◇課題が成績評価の対象になるので、期限を守って提出すること。 ◇受講生の作成した文章は、添削・評価し、原則として授業中にコメントを付して返却する。			
教科書	岩崎美紀子『「知」の方法論』（岩波書店）、プリント併用			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワーク	月曜3・4講時、水曜4・5講時		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語表現演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	高山 百合子		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は、日本語の4技能のうち、前期の「読み、書く力」に「話す力」を加え、それらを実践的に身につけていくことを直接の目的とする。「読み、書き、話す力」が付いていけば、論理的思考力を高め、表現する力につながる。ひいてはコミュニケーション力の総合的なレベルアップをめざす。 4年次に「卒業論文」に取り組み、まとめ上げる力につなげることも具体的な目標である。 ■論理的で説得力のある文章を〈書く〉ことに重点を置いて、演習形式で文章作成を実践していく。また、発表やスピーチ等の機会を作り、音声表現も自然に行えるように練習する。 ■〈書く〉ためには、資料等の読解力、発想力、構成力、表現力などが必要となる。その一つ一つがどうあればいいのかを授業で明らかにし、各自の現状を認識する。実作を行う中で、長所を伸ばし、弱点が補えるように努める。			
到達目標	(1) 様々な文章の仕組みを理解し、目的に応じた文書を作成することができる。 (2) 豊かな発想と確かな構成力を身につけ、効果的なコミュニケーションを図ることができる。 (3) 事実と意見の違いをわきまえ、論理的で説得力のある文章を作成することができる。 (4) 実作を行う中で、自己理解を深め、長所を伸ばし、弱点が補えるようになる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	この科目は主に以下のDPと関係する。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 【関連する科目】 対人コミュニケーション論、マスメディアの表現、オフィスコミュニケーション 日本語音声論、日本語表記論、日本語文法論、日本語意味論 など			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：授業目標の確認、授業計画の説明、各自の目標設定他		自分自身の到達目標の設定・確認、課題プリント；練習問題（1）	
第2回	文章表現の全体像（正確でわかりやすい文章とは）		課題プリント；練習問題（2）	
第3回	要約を含めた実作と評価・講評他（実作は課題としてあらかじめ提出させておくこともある。以下同じ）（1）		課題作成①	
第4回	要約を含めた実作と評価・講評他（2）		課題作成②	
第5回	要約を含めた実作と評価・講評他（3）		課題作成③	
第6回	要約を含めた実作と評価・講評他（4）		課題作成④	
第7回	主題の展開・段落構成のあり方など		課題作成⑤	
第8回	実作と評価・講評他（5）		課題作成⑥	
第9回	実作と評価・講評他（6）		課題作成⑦	
第10回	論理的で説得力のある文章表現		課題作成⑧	
第11回	実作と評価・講評他（7）		課題作成⑨	
第12回	実作と評価・講評他（8）		課題作成⑩	
第13回	音声表現の全体像（論理的で説得力のある発表・スピーチとは）		課題作成⑪	
第14回	発表・スピーチの実践		課題作成⑫	
第15回	まとめ		課題作成⑬	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	30％（3回程度実作を行なう）			
小テスト等	特になし			
成果発表	評価の際に加味する。			
受講態度他	評価の際には、出席状況を加味する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	◇国語辞典を持参してくること。 ◇課題が成績評価の対象になるので、期限を守って提出すること。 ◇受講生の作成した文章は、添削・評価し、原則として授業中にコメントを付して返却する。 ◇口頭発表の機会をなるべく多く作る。			
教科書	日本語表現演習Ⅰに引き続き、岩崎美紀子『「知」の方法論』（岩波書店）を使用。プリント併用			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワーク	水曜5講時、木曜2講時	メールアドレス		

授 業 科 目	日本語表現演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小野 望		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は、日本語学の基幹科目として設置されているものである。 自立した社会人として必要なコミュニケーション能力を向上させるため、豊かな表現力の獲得を目指す。 今学期は、「読書・書籍・図書館」をテーマに、本を取り巻くさまざまな問題を考え、その大切さや課題について情報発信するシミュレーションを試みる。 具体的には、本に関わる人としての自分の役割を仮想し（本好きの読者、書店の店員、図書館員、メディア等の書評記事担当者など）、その立場からの情報・意見を発信する文章等を作成する。さらに、同じ役割のチームで作成した文章等を発表し合い、このテーマについての議論を深めながら、実践的な表現力を高めていく。			
到達目標	(1) 様々な文章の仕組みを理解し、目的に応じた文書を作成することができる。 (2) 豊かな発想と確かな構成力を身につけ、効果的なコミュニケーションを図ることができる。 (3) 事実と意見の違いをわきまえ、論理的で説得力のある文章を作成することができる。 (4) チーム内の共同作業を通じて、自己と他者との考えの相違点・共通点を理解し、より深い考察に到達できる。 (5) 社会の多様な問題を発見し、関係する情報・知識を使って、解決策を論理的に考察することができる。 (6) 言語規則や社会的マナーに配慮して、適切な表現を選択することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、主に以下のDPと関連しています。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 「マス・メディアの表現、プレゼンテーション演習、オフィスコミュニケーション」等のコミュニケーションに関する科目群や、「日本語音声論、日本語表記論、日本語文法論、日本語意味論」等の日本語の構造に関する科目群と合わせて学修することで、			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	本講の目的と方法・「読書・書籍・図書館」について		課題（小レポート）「読書・書籍・図書館」について考えをまとめる	
第2回	役割決定（書店の店員、図書館の司書…） 情報発信者としての役割を決定する		ポップ作成準備：書籍を選定し持参する	
第3回	ポップ（1）作成開始 選定した書籍に対し、各自の役割を意識してポップを作成する		ポップ内容の精選	
第4回	ポップ（1）仕上げ ポップを仕上げた後、批評会を行う		各作品の表現、デザインを分析する	
第5回	チーム結成 「お薦め本展示会」のためのチーム結成		課題（チームレポート）展示会の企画経過報告	
第6回	「お薦め本」の選定 図書館蔵書から「お薦め本」を選定する		各自、役割の立場から薦める本を選定する	
第7回	展示会のための手続き：依頼文・招待文作成		事務的依頼文と、招待の手紙文作成、役割を分担して書く。	
第8回	「お薦め本」ポップと推薦文の作成		課題（小レポート）推薦文とポップを完成させる	
第9回	展示会レイアウト作成 各チーム内で、展示全体の検討会&作業		チームレポート：企画経過報告（推薦文・ポップについて）	
第10回	展示レイアウト完成 推薦文・ポップを壁新聞にレイアウトする		チームレポート：進捗状況チェックリスト	
第11回	展示会・批評会		各チーム展示の表現と「伝わること」を分析する	
第12回	本や読書を取り巻く社会の現状を考える		情報収集	
第13回	課題の背景を分析し、現状をまとめる		課題（小レポート）アウトラインの作成	
第14回	本・読書を取り巻く課題について論ずる		課題（レポート）資料を集め、小論文にまとめる	
第15回	作品集の作成と意見交換会		課題（レポート）作品集を読み感想をまとめる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％：小レポート、チームレポート等の提出物を評価の対象とする。			
小テスト等	0％			
成果発表	10％：作成したポップ、展示レイアウトを評価する。			
受講態度他	30％：各種課題、チーム課題への積極的な取り組み、議論への参加態度を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・各種提出物等は全て評価に加えます。・筆記試験(16回目)は行いません。 ・提出された文章は、添削・評価し、原則として授業中にコメントを付して返却します。また、それらの文章を印刷・配付して互いの検討材料に使うことがあります。なお、これらは現代日本語の資料として保存し、データとして使用することがあります。いずれの場合も、筆者等の個人情報は削除して保存、使用することとします。 ・各自の取り組み方によって到達度は大きく異なっていきます。よりよいコミュニケーションの主体となることを目標に、積			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	授業中に紹介する。			
オフィスアワー	月曜日：4 講時、火曜日：5 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語表現演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	中村 万里		単 位	2
授業の目的と概要	コミュニケーションの基本である「話す、聞く、書く、読む」の4つの言語活動について、様々な方法によるトレーニングを通じ、それぞれの技術の向上を目指します。本演習では、主に「書く、読む」を学びます。併せて、日本語の構造・社会的機能についても認識を深めることにより、現代社会を生きる上で求められる総合的な「日本語力」を身につけます。学生が主体となって様々な「話す、聞く、書く、読む」活動を行い、組みあがってゆく授業です。			
到達目標	1.目的と用途に即した文章の理解・作成の仕方を身につけることができる。 2.コミュニケーションを効果的に行うための文章発想力・構成力を身につけることができる。 3.事実と意見の違いをわきまえ、説得力の大きい文章を作成する力を身につけることができる。 4.与えられた文章・自らが伝えたい事柄双方を、それぞれ適切に要約する作業に習熟することにより、問題解決力・論理的思考を身につけることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		授業の復習	
第2回	目的と用途を理解する		予習：教科書：pp38-41、復習：教科書付属ワークシート	
第3回	新聞を読む		予習：教科書pp42－46、復習：教科書付属ワークシート	
第4回	発想をまとめる（1）考えをまとめる		予習：教科書pp47－48、復習：教科書付属ワークシート	
第5回	発想をまとめる（2）データをまとめる		予習：教科書pp49－50、復習：教科書付属ワークシート	
第6回	構成を考える（1）論理展開力を鍛える		予習：教科書p51、復習：教科書付属ワークシート	
第7回	構成を考える（2）分析力・企画力を鍛える		予習：教科書p52、復習：教科書付属ワークシート	
第8回	説明文と意見文を書く（1）事実と意見との違い		予習：教科書pp53－55、復習：教科書付属ワークシート	
第9回	説明文と意見文を書く（2）説明文と意見文の書き方		予習：教科書pp56－57、復習：教科書付属ワークシート	
第10回	原稿用紙・レポートの書き方（1）原稿用紙の書き方		予習：教科書pp58－59、復習：教科書付属ワークシート	
第11回	原稿用紙・レポートの書き方（2）レポートの書き方		予習：教科書pp60－61、復習：教科書付属ワークシート	
第12回	手紙・Eメールの書き方（1）手紙の書き方		予習：教科書pp62－64、復習：教科書付属ワークシート	
第13回	手紙・Eメールの書き方（2）Eメールの書き方		予習：教科書pp65－67、復習：教科書付属ワークシート	
第14回	履歴書・エントリーシートの書き方（1）履歴書の書き方（1）		予習：教科書pp 6 8－6 9、復習：教科書付属ワークシート	
第15回	履歴書・エントリーシートの書き方（1）（2）エントリーシートの書き方（1）		予習：教科書pp 7 0－7 1、復習：教科書付属ワークシート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	9 0％（期末レポート 3 0％、第2～15の各回＜上記「授業計画」参照＞の提出物60％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（課題の自主設定など、積極的な態度を評価します）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	様々なテーマを取り扱います。しっかり予習・復習を行ってください。			
教科書	中村万里ほか『実践 日本語表現ワークブック』暁印書館			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、授業の中で紹介します。			
オフィスワー	講義の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	日本語文書作成【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小川 暢祐・巢山 優希・小松 明日佳・村上 義明		単 位	1
授業の目的 と概要	本演習は、日本語による表現を意識的に対象化することで問題点を把握し、文章を上達させることを目的とする。結果として明快で整合性ある文書を作成できるようになる。 1. 母語である日本語を意識的な対象として捉え直すことができる。 2. 日本語の基本的な言語事実を論理的に説明できるようになる。 3. 文書の目的に応じて適切な表現・記述ができるようになる。 毎回、まず技能編の解説を受けてその内容を理解する。その後練習問題に取り組み、知識の定着を図る。 別途、知識編に対応した小テストにも取り組む。			
到達目標	1. 読点、語順等基本的な語法を理解している。 2. 表現選択について明確な基準を確立している。 3. 事実と意見の書き分けが正確にできる。 4. 接続詞を正しく使うことができる。 5. 文脈や状況に合わせて文の長さを的確に設定できる。 6. 敬語の規範について十分に理解している。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（授業の目指すところと進め方）		復習 授業内容	
第2回	【技能編】 話し言葉と書き言葉 【知識編】 漢字の読み方と言葉の意味（難読語その１）		予習 p.6～11 p.70	
第3回	【技能編】 文の組み立て 【知識編】 漢字の読み方と言葉の意味（難読語その２）		予習 p.12～p.15 p.71	
第4回	【技能編】 視点 【知識編】 漢字の読み方と言葉の意味（文脈によって意味とよみのかわるもの）		予習 p.16～p.19 p.72～73	
第5回	【技能編】 文のつなぎ方 【知識編】 同音・同訓異義語の使い分け（その１）		予習 p.20～p.25 p.74～p.75	
第6回	【技能編】 意味の限定 【知識編】 同音・同訓異義語の使い分け（その２）		予習 p.26～p.29 p.76～p.77	
第7回	【技能編】 言葉の順序 【知識編】 同音・同訓異義語の使い分け（その３）		予習 p.30～p.33 p.78～p.79	
第8回	【技能編】 定義・分類の表現 【知識編】 類義語の使い方		予習 p.34～p.39 p.80～p.81	
第9回	【技能編】 比較・対照の表現 【知識編】 対義語の使い方		予習 p.40～p.45 p.82～p.83	
第10回	【技能編】 列挙・順序・因果関係の表現 【知識編】 言葉の呼応		予習 p.46～p.51 p.84～p.85	
第11回	【技能編】 引用の表現 【知識編】 定型表現・慣用句		予習 p.52～p.54 p.86～p.87	
第12回	【技能編】 敬語 【知識編】 四字熟語		予習 p.56～p.61 p.88～p.89	
第13回	【技能編】 注意すべき敬語 【知識編】 仮名づかい・送り仮名の使い方		予習 p.62～p.67 p.90～p.91	
第14回	作文演習１： 自己紹介文 附録2： 履歴書の書き方		復習 p.6～p.95	
第15回	作文演習２： 論証的な文 附録1： 原稿用紙の使い方		復習 p.6～p.95	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	72％：第2回から第13回までの練習問題解答および小テスト 18％：作文演習１、２（各9％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（欠席１回につき5％減、遅刻は１回につき2％減）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。			
教科書	名古屋大学日本語表現研究会 『日本語表現ノート』 三弥井書店			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後（小川、村上、小松、巢山）	メールアドレス		

授 業 科 目	日本語文法論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	高山 百合子		単 位	2
授業の目的と概要	この授業の大きな目的は、日本語の文の仕組みを知り、現実に行われている文を分析し、概要を説明する力を付けることである。 ◇文法的に〈正しい〉か、〈正しくない〉か、正誤の問題は決して簡単なものではないことを学ぶことで、日本語を客観的に観察する目を養う。それが、ひいては日本語の運用能力を高め、コミュニケーション・スキルを向上させることにつながる。 ◇ 学校文法（橋本文法）とは異なる文法論を検討しながら、その長所と短所を理解することができる。 ◇ それらの学習を通して、文法的に考えることの楽しさを味わうことができる。 ◇ 「文法」は決して暗記科目ではなく、用例を集めて分析することで、論理的思考力を高めていく〈考える〉科目であること			
到達目標	(1) 現代日本語の文の基本的な構造を知り、文の成り立ちのしくみを理解できるようになる。 (2) 学校文法の問題点を押さえた上で、各人の言語データを内省し、日本語を分析するための基礎的な力を付ける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は主に以下のD P と関係する。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。 【関連する科目】 日本語学概論Ⅰ・Ⅱ、日本語音声論、日本語表記論、対照言語学 など			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション／学校文法について		テキスト通読	
第2回	形態論（1）；形態素、語、品詞など、文法論の単位		課題プリント（品詞分類）	
第3回	形態論（2）；活用①		課題プリント（活用①）	
第4回	形態論（3）；活用②・ラ抜き現象など		課題プリント（活用②）	
第5回	語順と格		課題プリント（格助詞）	
第6回	文の基本構造と文法カテゴリ		課題プリント（カテゴリごとの語形）	
第7回	ヴォイス（1）；自動詞と他動詞		課題プリント（有対動詞の確認）	
第8回	ヴォイス（2）／受動と使役		課題プリント（受動文の例文作成）	
第9回	中間テスト／時間を表す表現（1）；テンス		課題プリント（タの用法確認）	
第10回	時間を表す表現（2）；アスペクト		課題プリント（スルーシテイルの意味）	
第11回	時間を表す表現（3）；アスペクトと動詞の分類		課題プリント（テンスとの関係）	
第12回	モダリティ（ムード）		課題プリント（多様な形式）	
第13回	主語と主題（ハとガ）		課題プリント（ハとガー用法の違い）	
第14回	とりたて		課題プリント（とりたて助詞の用法）	
第15回	まとめ		総復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	5 0 ％			
レポート	なし			
小テスト等	5 0 ％；中間テスト			
成果発表	なし			
受講態度他	課題プリントの提出状況など、評価の際に加味する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	◇テキストを購入しなければ受講できない。 ◇テキストはあらかじめ通読しておくこと。文法用語を確実に押さえながら理解してほしい。 ◇ノートをきちんと取ること。 ◇課題やレポートは、原則として授業中にコメントを付して返却する。			
教科書	山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』（くろしお出版）			
指定図書	特になし			
参考図書	テキスト178、179ページ参照。 文法辞典・事典の類			
オフィスアワー	水曜 5 講時、木曜 2 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	日本語方言論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	中村 万里		単 位	2
授業の目的 と概要	方言とは何か、また日本各地の方言を概観した後、九州方言を多角的に学ぶことを目的とする。 本講義では日本語学概論（一年生）のテキスト（『入門 日本語学ワークブック』双文社出版）を用いて方言を概説した後、九州方言（主に福岡方言）について学ぶ。福岡方言については『即訳！ふくおか方言集』を用いて進める。講義において、DVDや録音資料などを用いる。			
到達目標	1.方言について説明できる。 2.九州方言を説明できる。 3.福岡方言を説明できる。 4.各自の方言を説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション			授業の復習	
第 2回 方言とは			授業の復習	
第 3回 方言区画・方言史			授業の復習、プリント予習	
第 4回 方言研究法			授業の復習、プリント予習	
第 5回 日本の方言			授業の復習、プリント予習	
第 6回 九州の方言			授業の復習、プリント予習	
第 7回 福岡方言（１）－福岡の方言			授業の復習、プリント予習	
第 8回 福岡方言（２）－筑前の方言			授業の復習、プリント予習	
第 9回 福岡の方言（３）－筑後の方言			授業の復習、プリント予習	
第10回 福岡の方言（４）－豊前の方言			授業の復習、プリント予習	
第11回 方言と民話			授業の復習	
第12回 方言とマスメディア			授業の復習	
第13回 方言と音楽			授業の復習	
第14回 方言教育			授業の復習	
第15回 まとめ			授業の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	7 0 ％ 期末試験			
レポート	2 0 ％ 小レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	1 0 ％ 出席状況			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	プリント配布			
指定図書	中村万里『即訳！ふくおか方言集』西日本新聞社 奥村三雄『九州方言の史的研究』桜楓社			
参考図書	中村万里他『入門 日本語学ワークブック』双文社出版 金田一春彦『日本語方言の研究』東京堂出版			
オフィスワー	講義の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	日本語方言論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	中村 万里		単 位	2
授業の目的 と概要	日本語方言論Ⅰを踏まえて、日本各地（主に九州地方）の方言を学ぶことを目的とする。 日本語方言論Ⅰで学んだことを復習した後、各自がフィールドワークを行い発表する。発表においてはグループ分けする場合がある。尚、受講者が多い場合は講義形式に変更する。			
到達目標	1.方言を説明できる。 2.九州方言を説明できる。 3.福岡方言を説明できる。 4.各自の方言を説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-2 日本語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション			授業の復習	
第 2回 方言と共通語			授業の復習、プリント予習	
第 3回 方言の機能と形成			授業の復習、プリント予習	
第 4回 方言の研究			授業の復習、プリント予習	
第 5回 日本の方言			授業の復習、プリント予習	
第 6回 九州の方言			授業の復習、プリント予習	
第 7回 福岡の方言			授業の復習、プリント予習	
第 8回 方言の発表（1）			授業の復習、プリント作成	
第 9回 方言の発表（2）			授業の復習、プリント作成	
第10回 方言の発表（3）			授業の復習、プリント作成	
第11回 方言の発表（4）			授業の復習、プリント作成	
第12回 方言の発表（5）			授業の復習、プリント作成	
第13回 方言の発表（6）			授業の復習、プリント作成	
第14回 方言の現在と未来			授業の復習	
第15回 まとめ			授業の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	7 0 ％ 期末試験			
レポート	1 0 ％ 小レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	1 0 ％			
受講態度他	1 0 ％ 出席状況			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	プリント配布			
指定図書	中村万里『即訳！ふくおか方言集』西日本新聞社 平山輝男『日本のことばシリーズ』明治書院			
参考図書	中村万里他『入門 日本語学ワークブック』双文社出版 国立国語研究所『日本のふるさとことば集成』国書刊行会			
オフィスアワー	講義の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	日本史【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	横山 尊		単 位	2
授業の目的と概要	本講義は政治・外交史を中心とした日本近現代史の入門的講義です。現代社会の成立ちを知る上で、歴史の素養は不可欠であり、それに無知なままでは大学の様々な講義の理解にも大きな支障を来す可能性が高いでしょう。本講義は特に江戸時代後期から現代に至るまでの政治、外交の歴史を学びなおすことで、その状況の克服を図ります。 講義では、幕末における西洋の衝撃から、21世紀の政治にいたる140年余りの日本政治を、外交と権力、すなわち対外問題とそれに対する日本の政治権力の対応を中心に解説します。その際、福岡の地域史のほか、政治思想史や文化史など関連分野にも目配りします。 本講義は、主に中学、高校で歴史や日本史を学んだが、苦手である、あるいは授業が現代まで終わらなかった、高校で日本史を履修していない、などの学生が受講することを想定しています。			
到達目標	①近現代日本の政治・外交史をめぐる問題の基礎的知識を習得し、中学・高校で学習した歴史・日本史の学習内容を定着、発展させること。②現在の政治・外交問題の歴史的形成のあり方を、東アジアを中心としたグローバルな観点から理解すること。 ③こうした視野の獲得を通して、現代の政治・外交問題のニュースを理解する素養となるだけでなく、本学での関連講義を理解する上での基礎体力も形成する。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 導入―幕藩体制の政治的特質と西洋の衝撃			講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第2回 明治国家の建設			講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第3回 士族反乱と自由民権運動			講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第4回 明治憲法体制の成立			講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第5回 議会政治の定着			講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第6回 日清・日露戦争			講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第7回 韓国併合、満州問題、中国革命への対応			講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第8回 日露戦後から第一次大戦期における政党政治の発展			講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第9回 大正後期における国際協調と政党内閣			講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第10回 軍部の台頭―満州事変から二・二六事件まで			講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第11回 日中戦争と日米戦争			講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第12回 敗戦・占領・講和			講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第13回 自民党政治の発展			講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第14回 国際秩序の変容と冷戦の終焉			講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第15回 総括―冷戦後の政権交代と21世紀の政治			講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％			
レポート	％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本講義は高等学校の日本史レベルの復讐が主ですが、ご自身でも教科書などを利用して予習、復習するなどの努力をしなければ、知識の理解、定着は困難でしょう。			
教科書	なし。講義レジュメに従って講義を進めます。			
指定図書	なし			
参考図書	北岡伸一『日本政治史―外交と権力』有斐閣（2011年） 坂野潤治『日本近代史』筑摩書房（2012年）			
オフィスアワー	講義の休憩時間の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	日本史Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	時里 奉明		単 位	2
授業の目的と概要	目的：現代の日本社会はどのようにして成り立ったのか、各時代のトピックを取り上げ、その起源について解説する。その際、日本の内外からどのような影響を受けてきたかを考慮しながら話を進めたい。歴史は暗記ではない。歴史の見方や考え方をちょっと変えれば、今までとは違った歴史像が立ち現れてくることがわかるだろう。それに気づくことが、この授業のねらいである。 概要：この授業は、日本史の全体を対象とした基礎編である。後期の「日本史Ⅱ」は、鉄からみた日本史になっており、応用編である。			
到達目標	1 日本の歴史の流れを説明することができる。 2 現代日本はいかにして成り立ったのか、その起源を確認することができる。 3 日本史を世界史のなかに位置づけて理解することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 関連する科目は「日本史Ⅱ」。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス 「日本史」とは何か			「日本史」を学ぶこと-現状と課題	
第2回 時代区分			なぜ歴史を時代区分するのか？	
第3回 「日本人」の成り立ち（映像）-旧石器・縄文・弥生時代			レポート①（1500年以前の年表作成）	
第4回 「日本」の誕生-古墳・奈良時代			レポート①は第6回まで	
第5回 「日本」の東と西-平安時代			レポート①は第6回まで	
第6回 鎌倉仏教-鎌倉時代			レポート①は第6回まで	
第7回 室町文化-室町時代			レポート①の見直し	
第8回 九州国立博物館見学-戦国・安土桃山時代			見学の課題	
第9回 北海道と沖縄			レポート②（1500年以後の年表作成）	
第10回 「鎖国」とは何か？-江戸時代			レポート②は第12回まで	
第11回 「立国」の明治-明治時代			レポート②は第12回まで	
第12回 「大正デモクラシー」の時代-大正時代			レポート②は第12回まで	
第13回 「戦争」の昭和-昭和戦前期			レポート②の見直し	
第14回 世界の中の日本-昭和戦後期・平成時代			全体の復習	
第15回 まとめ			定期試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 定期試験			
レポート	20％ レポート2回			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 出席状況や受講態度（見学課題を含む）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回プリントを配布するが、授業の内容を理解しながらメモをとること。授業の内容や場所を変更することがあるので、注意しておくこと。高校日本史の教科書、参考書、年表などを持参しておくことよい。			
教科書	なし			
指定図書	佐々木潤之介ほか編『概論日本歴史』吉川弘文館（2000年）			
参考図書	授業中に紹介する。			
オフィスアワー	金の昼休み。研究室にいる時はいつでも。	メールアドレス		

授 業 科 目	日本史Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	時里 奉明		単 位	2
授業の目的と概要	目的：「鉄」は歴史を動かしてきた金属である。鉄が人類の歴史で果たしてきた役割は大きい。たとえば現在、私たちの身の回りをとってみても、鉄は鍋やフライパンの日用品から自動車、船、飛行機などに使われている。一方、戦艦や戦闘機は戦争のために開発され、人類が築いてきた文明を破壊している。今後も鉄は人類にその功罪をもたらし続けるだろう。この授業では、日本における鉄の歴史を古代から現代を通し、興味あるトピックをとりあげて解説する。 概要：鉄というモノを対象にすると、どのような日本の歴史が描けるのか、前期に開講する「日本史Ⅰ」と対比してみると、面白いだろう。歴史はいかようにも編むことができることを学ぶ。			
到達目標	1 日ごろあまり気にとめない鉄について関心をもち、知識を得ることができる。 2 日本における鉄の歴史の流れを理解できる。 3 鉄が人類にもたらした功罪を説明できる。 4 レポートを作成して、鉄に関する自分の考えをまとめることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 この科目と「日本史Ⅰ」を受講すると、視野が広がる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス：講義のねらい・スケジュールと履修方針の確認		内容の確認	
第2回	鉄のルーツをさぐる		課題プリントを配布	
第3回	鉄の到来：弥生時代の鉄		課題プリントを提出	
第4回	鉄と金の比較：プリントをもとにディスカッション		鉄の特徴を復習する	
第5回	九州国立博物館見学		見学レポート①（弥生・古墳時代の展示品）	
第6回	『風土記』にみる鉄ほか：奈良時代の鉄		見学レポート①は第7回まで	
第7回	日本刀とは何か：平安・鎌倉時代の鉄		見学レポート①は第7回まで	
第8回	日本刀を作る（DVD鑑賞）		日本刀の復習	
第9回	鉄砲と鉄船：戦国時代の鉄		鉄砲の復習	
第10回	九州国立博物館見学		見学レポート②（鎌倉・室町時代の展示品）	
第11回	たたら製鉄とは何か：江戸時代の鉄(1)		見学レポート②は第13回まで	
第12回	たたら製鉄の完成：江戸時代の鉄(2)		見学レポート②は第13回まで	
第13回	反射炉と高炉（溶鋳炉）：江戸時代の鉄(3)		見学レポート②は第13回まで	
第14回	官営八幡製鉄所の誕生：明治・大正時代の鉄		期末レポートの準備	
第15回	世界有数の鉄鋼生産国へ：昭和・平成時代の鉄 まとめ		期末レポートの準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ 見学レポート2回と期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 教室及び見学地の授業態度（課題プリント提出を含む）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プリントを配布するので、講義の内容を理解しながらメモをとること。			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	窪田蔵郎『鉄から読む日本の歴史』講談社学術文庫（2003年）			
参考図書	講義中に紹介する。			
オフィスワー	金の昼休み。研究室にいる時はいつでも。	メールアドレス		

授 業 科 目	日本思想史【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	横山 尊		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義では〈ジェンダー〉と〈セクシュアリティ〉という切り口から、近世、近代の日本の思想・文化を見通すものです。 〈ジェンダー〉とは生物学的な性別以上に社会的・文化的に形成される性別、あるいはそれを研究する分野を言います。そこにはどうしても歴史的思考が必要になります。 ジェンダーを扱うことは男と女の関係性を社会、文化的に論じることであります。その関係性とは、例えば、恋愛、結婚、家庭であり、性生活（売買春も含む）でしょう。だからジェンダー研究は、〈セクシュアリティ〉の研究にもつながっていきます。 本講義はこれら〈性〉がいかに歴史のなかで政治、社会、文化と関係を切り結んだかを論じ、明治期から戦後を通した長いスパンを扱うことで、高校日本史とは異なるかたちで近世・近代史の全体像を洗いなおすものです。			
到達目標	第一に、ジェンダー、セクシュアリティの歴史の基礎知識を習得し、それを通して歴史を通史とは違った切り口から把握する視点を身につけること。 第二に、男性、女性といった性を自明とせず、思想・文化史的に社会文化の関係性の中で根源的に捉えなおす思考を身につけること。 いずれも思想史・歴史学に留まらず、政治学、社会学、教育学などの多様な学問を学ぶ基礎となる教養です。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回 導入—〈ジェンダー〉〈セクシュアリティ〉という観点から日本近代をみる意味			配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第 2 回 江戸から明治における離婚の変容			配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第 3 回 江戸時代に武家の女性は弱かったのか？			配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第 4 回 国母・美子皇后を創出する			配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第 5 回 「文明」の課題—男女同権・一夫一婦・売淫婦人			配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第 6 回 女性参政権問題から教育勅語へ			配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第 7 回 近代家族とセクシュアリティ			配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第 8 回 新しい女・モダンガール・良妻賢母			配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第 9 回 植民地台湾の「モダンガール」現象とファッションの政治化			配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第10回 資生堂という企業—化粧品製造・販売の戦略と文化			配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第11回 国防婦人会—銃後における婦人動員のシンボルと実態			配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第12回 "戦後における性風俗産業の叢生と売春防止法"			配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第13回 「家族計画」が登場するまで—避妊と中絶をめぐる制度と運動			配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第14回 優生学運動から新優生学へ—出生前診断の現在を考えるために			配布したレジュメ、参考文献に基づき授業内容を復習	
第15回 結論			配布したレジュメに基づき授業内容を復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％（論述試験、持ち込み可）			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	20％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	講義中に指示します			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	関口すみ子『御一新とジェンダー—获生徂徠から教育勅語まで』東京大学出版会（2005年）、伊藤るり、坂本ひろ子、タニ・E・パロウ編『モダンガールと植民地近代—東アジアにおける帝国・資本・ジェンダー』岩波書店（2010年）			
オフィスアワー	講義前後の休み時間	メールアドレス		

授 業 科 目	日本事情【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	森田 真也		単 位	2
授業の目的と概要	講義の目的は、文化表象に潜む政治性・暴力性、アジアや沖縄等の諸地域との歴史的関係から、現在もつづく植民地主義の諸問題について考察していくことにある。また、マイノリティの問題についての事例を提示して、多文化社会としての日本、そこに横たわる課題について考える。なお、日本や世界のマイノリティ問題、近・現代の植民地主義を考察の対象に置くことは、現代社会にあるさまざまな問題をいかに捉えていくかという思考力と実践力、さらには倫理観や人間観を獲得していくことにつながる。具体的には、最初に文化表象と文化の政治性の問題について解説する。ここでは、特に映画、絵画、小説、CM、漫画等に見られる一方的イメージの投影の暴力性を考える。つづいて、現在もつづく沖縄、アジアの植民地主義の問題、国民国家と日本民族論、日本のマイノリティ、日本の中にある多様な文化等について取上げる。			
到達目標	・文化表象にある政治性や暴力性についての認識を深めることが出来る。 ・日本とアジア・沖縄の近現代史における植民地主義の諸問題について理解出来る。 ・マイノリティ問題、日本文化の多様性、日本社会にある差別や偏見の諸問題について理解出来る。 ・マイノリティ問題、植民地主義の問題を考えることで、社会人としての的確な倫理観・人間観を獲得することが出来る。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	日文（2）-⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日文（3）-②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 アジア（3）-②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 主に「文化人類学」と関連します。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回：	社会と文化をとらえるにあたって		授業の目的と内容について理解する	
第 2 回：	日本の社会と文化を考える上での視点		授業の視点について理解する	
第 3 回：	近代国民国家と日本民族論－「日本人」とは何か－		東アジアの近代と日本認識について考える（資料の通読）	
第 4 回：	文化表象の問題（1）－日本から異文化をみる－		文化表象の問題点について考える（資料の通読）	
第 5 回：	文化表象の問題（2）－異文化としてみられる日本－		文化表象の問題点について考える（資料の通読）	
第 6 回：	日本とアジアの近代と植民地主義（1）－日本と沖縄の関係－		東アジアの近代と植民地主義について考える（資料の通読）	
第 7 回：	日本とアジアの近代と植民地主義（2）－日本の中の沖縄－		東アジアの近代と植民地主義について考える（資料の通読）	
第 8 回：	日本とアジアの近代と植民地主義（3）－日本と東アジアの関係－		東アジアの近代と植民地主義について考える（資料の通読）	
第 9 回：	エスニシティとエスニック・アイデンティティ		エスニック・アイデンティティについて考える（資料の通読）	
第10回：	海外の日本文化－海外で暮らす日系移民社会－		エスニック・アイデンティティについて考える（資料の通読）	
第11回：	多文化社会としての日本（1）－日本の中のマイノリティ（在日韓国・朝鮮人）－		日本の中のマイノリティ問題について考える（資料の通読）	
第12回：	多文化社会としての日本（2）－日本の中のマイノリティ（華人・華僑）－		日本の中のマイノリティ問題について考える（資料の通読）	
第13回：	多文化社会としての日本（3）－日本の中のマイノリティ（アイヌ）－		日本の中のマイノリティ問題について考える（資料の通読）	
第14回：	文化表象とオリエンタリズム－ハリウッド映画を中心として－		文化表象の問題点について具体的な事例から考える	
第15回：	まとめ		授業全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 期末テスト（自筆ノート、配布プリント持込可、論述形式）。			
レポート	無し。			
小テスト等	無し。			
成果発表	無し。			
受講態度他	20％ 受講態度。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。 就職活動や病気等で欠席する場合、早急に手続きを行ない、適時、必要な書類を提示すること。			
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。			
指定図書	無し。			
参考図書	サイード・E.W、今沢紀子訳『オリエンタリズム』（上・下）平凡社（1993年）。 講義中、適時紹介する。			
オフィスアワー	金曜日昼休み（12:30-13:00）		メールアドレス	

授 業 科 目	(外)日本事情A【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	荀 暁 崢		単 位	2
授業の目的と概要	日本は七～八世紀に中国文化を受け入れ、十九世紀後半以降、欧米文化を受容しましたが、外国の文化を受け入れながら、それを日本的なものに適合させ、古い伝統は捨てることがなかった。最近では、日本の漫画、アニメ、Jポップス、ファッションなどのポップカルチャーが世界各地で広く受け入れられるという現象が進んでいます。本講義では、「和」を大切にする日本の独特の洗練された豊かな文化や芸術、風習について取り上げながら、現在起こっている出来事にも注意を払い、さまざまな角度から日本の事情について考えていく。			
到達目標	・日本の文化や風習について理解できる。 ・日本に関するさまざまな事象について理解できる。 ・現代ニッポンの社会と文化のあり様についての認識を深めることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は「外国人留学生及び海外帰国生科目」です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	「サクラ」の花と日本人の美しさ（1） 春の花		課題を配布	
第2回	「サクラ」の花と日本人の美しさ（2） 桜の潔さ		テーマについての感想レポート	
第3回	世界に飛び出すポップカルチャー（1） 恥の文化		課題を配布	
第4回	世界に飛び出すポップカルチャー（2） 海外で日本文化の受容		テーマについての感想レポート	
第5回	日本人とお茶（1） 天平文化・栄西・利休		課題を配布する	
第6回	日本人とお茶（2） 現在に伝わる日本人のお茶の心		テーマについての感想レポート	
第7回	日本人と「間」の関係（1） 日本人の贅沢「ゆとり」		課題を配布	
第8回	日本人と「間」の関係（2） 「間」を保つため		テーマについての感想レポート	
第9回	神々が相談する国と日本の神話について（1） 日本の神話に戻ってみる		課題を配布	
第10回	神々が相談する国と日本の神話について（2） 「天孫降臨」の神話から始まる皇室		テーマについての感想レポート	
第11回	震災で見せた日本人の規律性（1） 日本人と地震		課題を配布	
第12回	震災で見せた日本人の規律性（2） 地域社会		テーマについての感想レポート	
第13回	夏といえば怪談話（1） 日本人に語られる幽霊たち		課題を配布	
第14回	夏といえば怪談話（2） 怪談が流行する背景		テーマについての感想レポート	
第15回	まとめ		課題を配布	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	期末試験 50％			
レポート	レポート、課題 50％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	日頃学習への取組および受講態度も加味する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・欠席は三分の一を超えないこと。			
教科書	適時講義用のプリントを配布する。（教科書等の購入の必要はない）			
指定図書	なし			
参考図書	・水谷修・佐々木瑞枝 等編 『日本事情ハンドブック』 大修館書店 ・田中俊明 監修 『日本・中国・朝鮮 東アジア三国史』 日本実業出版社			
オフィスワー	なるべく授業前後にご相談ください。		メールアドレス	

授 業 科 目	(外)日本事情B【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	荀 暁崢		単 位	2
授業の目的 と概要	日本は七～八世紀に中国文化を受け入れ、十九世紀後半以降、欧米文化を受容しましたが、外国の文化を受け入れながら、それを日本的なものに適合させ、古い伝統は捨てることがなかった。最近では、日本の漫画、アニメ、Jポップス、ファッションなどのポップカルチャーが世界各地で広く受け入れられるという現象が進んでいます。本講義では、「和」を大切にする日本の独特の洗練された豊かな文化や芸術、風習について取り上げながら、現在起こっている出来事にも注意を払い、さまざまな角度から日本の事情について考えていく。			
到達目標	・日本の文化や風習について理解できる。 ・日本に関するさまざまな事象について理解できる。 ・現代ニッポンの社会と文化のあり様についての認識を深めることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は「外国人留学生及び海外帰国生科目」です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	お盆の風習（1） 祖先霊崇拝の起源		課題を配布	
第2回	お盆の風習（2） 日本のお盆の風習		テーマについての感想レポート	
第3回	日本の秋について（1） 「〇〇の秋」といわれる良い季節		課題を配布	
第4回	日本の秋について（2） 「食欲の秋」と食の文化		テーマについての感想レポート	
第5回	日本の祭り（1） 人々の生活からみる身近な「祭り」		課題を配布	
第6回	日本の祭り（2） 日本三大祭り物語		テーマについての感想レポート	
第7回	少子化問題と社会保障制度（1） 少子化の影響		課題を配布	
第8回	少子化問題と社会保障制度（2） 社会保障制度の課題		テーマについての感想レポート	
第9回	東洋の美女（1） 小野小町が詠んだ和歌		課題を配布	
第10回	東洋の美女（2） 小野小町から見る平安時代の女性		テーマについての感想レポート	
第11回	大航海時代の日本（1） 黄金の国ジバング		課題を配布	
第12回	大航海時代の日本（2） 宣教師たちが見たジバング		テーマについての感想レポート	
第13回	新しい年を迎える「師走」の風物詩（1） 「師」が「走る」		課題を配布	
第14回	新しい年を迎える「師走」の風物詩（2） 鳥と師走と神の使い		テーマについての感想レポート	
第15回	まとめ		課題	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	期末試験 50％			
レポート	レポート、課題 50％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	日頃学習への取組および受講態度も加味する。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	・欠席は三分の一を超えないこと。			
教科書	適時講義用のプリントを配布する。（教科書等の購入の必要はない）			
指定図書	なし			
参考図書	・水谷修・佐々木瑞枝 等編 『日本事情ハンドブック』 大修館書店 ・田中俊明 監修 『日本・中国・朝鮮 東アジア三国史』 日本実業出版社			
オフィスアワー	火曜日昼休み（12：30-13：00）、なるべく授業前後にご相談ください。		メールアドレス	

授業科目	日本伝統文化演習【演習】			開講時期	前期
担当教員	野村 万禄			単 位	1
授業の目的と概要	狂言は、650年前に誕生した笑いの芸能です。 狂言の特徴としては、道具をほとんど使用せず、現実社会の人々を登場人物として素顔で演じます。役者自身の台詞と動きだけで生きた人間の喜怒哀楽を表現していくという観点から狂言の世界と現代社会の相違点や関連性を探る。 実際に能楽堂での研修授業を行うことにより想像力を豊かにし創造的思考力を育成し、学習成果をレポートにまとめることにより、論理的思考力を高めることを目的とする。 本講座では、狂言の代表的な小道具の一つである扇を使用し、昔流行した小謡（歌）小舞（踊り）を実践的に学ぶ。また筆記授業では、室町時代から変わらない笑いの普遍性に迫る。さらに、ビデオ鑑賞や能楽堂での研修授業を行い、日本文化の美学や心とは何かを肌で感じて貰う。				
到達目標	①狂言の所作を通して、現代社会に欠けている礼儀作法、忍耐力、様式美を身体で表現できる。 ②狂言の決められた型を理解し、その中で自由に表現できる。 ③狂言の舞台を通して、何もない空間でも想像力を働かせ、考える力や感受性を養うことができる。 ④狂言の笑いは、なぜ現代でも通じるのかを説明できる。 ⑤古典と新作の違い、狂言とは何かを説明できる。 ⑥実技試験を行うことで授業全体の総合的能力を培ち、技能を習得できる。				
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。				
授業計画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション・発声・小謡「鶴亀の舞」 日本の芸能、散楽と雅楽			授業内容の復習	
第2回	狂言と能の違いについて・ビデオ鑑賞「隠狸」、小謡「鶴亀の舞」 猿楽から能楽へ			授業内容の復習	
第3回	狂言と能の人物について・ビデオ鑑賞「附子」、小謡「鶴亀の舞」 庶民の代表 太郎冠者			授業内容の復習	
第4回	狂言の笑い風刺劇・ビデオ鑑賞「茸」「昆布売」、小謡「柳の下」 中世の下克上			授業内容の復習	
第5回	古典と新作について・ビデオ鑑賞「唐人相撲」「子ほめ」、小謡「柳の下」 江戸時代から明治時代へ			授業内容の復習	
第6回	小謡「鶴亀の舞」「柳の下」暗記・ビデオ鑑賞「末広がり」 狂言の祝言性			授業内容の復習	
第7回	小謡「鶴亀の舞」「柳の下」暗記・ビデオ鑑賞「川上」 喜劇の中の悲劇			授業内容の復習	
第8回	小舞「柳の下」・舞の修得 礼儀作法、正しい正座			授業内容の復習	
第9回	小舞「柳の下」・舞の修得 扇の扱い方			授業内容の復習	
第10回	小舞「柳の下」・舞の修得 舞と踊りの違い			授業内容の復習	
第11回	小舞「柳の下」・舞の修得 伝統芸能の伝承			授業内容の復習	
第12回	小舞「柳の下」・舞の修得、狂言の台詞「盆山」 台詞の抑揚、中世の動物達			授業内容の復習	
第13回	能楽堂での研修授業(大濠公演能楽堂：7/14)			研修授業についてのレポート作成	
第14回	小舞「柳の下」・舞の修得、狂言の台詞「盆山」 擬音語・擬態語			授業内容の復習	
第15回	小舞「柳の下」実技テスト 文化と教育と未来			授業内容の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	60％ 狂言小謡・狂言小舞				
レポート	20％ 能楽堂での研修授業の感想				
小テスト等	なし				
成果発表	なし				
受講態度他	20％ 授業への積極的参加を考慮します。				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特に能楽堂での研修授業において、上演中の私語や携帯電話、写真撮影、飲食は禁止。 実践授業で使用する扇の取り扱いには十分注意する。				
教科書	小謡のプリント配布。				
指定図書	なし				
参考図書	なし				
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス		

授 業 科 目	日本の詩歌【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松下 博文		単 位	2
授業の目的と概要	①「万葉集」の世界と沖縄・奄美に伝わる古代歌謡「おもろさうし」の世界を比較しながら、古代人の心性をたどる。 ②日本の詩情と南島の詩情の違いを楽しむ。			
到達目標	①日本人の心性に思いを寄せることができる。 ②南島人の心性に思いを寄せることができる。 ③詩歌の基礎知識を身につける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	「万葉集」について（その１）		予習 「万葉集」について事典で調べる。	
第 2 回	「万葉集」について（その２）		予習 「万葉集」について事典で調べる。	
第 3 回	「おもろさうし」について（その１）		予習 「おもろさうし」について事典で調べる。	
第 4 回	「おもろさうし」について（その２）		予習 「おもろさうし」について事典で調べる。	
第 5 回	古代日本国家と古琉球		予習 3 9 ～ 5 2 ページ	
第 6 回	古代の世界観と神観念		予習 5 3 ～ 7 4 ページ	
第 7 回	太陽信仰について		予習 7 5 ～ 9 7 ページ	
第 8 回	古代歌謡の人々たち		予習 9 8 ～ 1 1 9 ページ	
第 9 回	歴史を拓いた英雄たち		予習 1 1 9 ～ 1 3 2 ページ	
第10回	地方文化と中央文化		予習 1 3 3 ～ 1 5 1 ページ	
第11回	アマミク神話と稲作の道		予習 1 5 2 ～ 1 8 6 ページ	
第12回	「をなり神信仰」を追う		予習 1 8 7 ～ 2 0 9 ページ	
第13回	古代歌謡の世界を読み解く①		予習 万葉時代と古琉球時代の相違を事典で調べる	
第14回	古代歌謡の世界を読み解く②		予習 万葉時代と古琉球時代の相違を事典で調べる	
第15回	古代歌謡の世界を読み解く③		予習 万葉時代と古琉球時代の相違を事典で調べる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	1 0 0 ％ 授業のテーマに沿ってレポート提出。レポート三回提出。確認後適宜返却します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席（欠席扱い）させます。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物は出さないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	外間守善『おもろさうし（上）』（岩波文庫）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日 1 2 時 3 0 分～1 3 時まで		メールアドレス	

授 業 科 目	日本美術史【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小林 知美		単 位	2
授業の目的と概要	アジアの多様な文化を理解するため、日本の美術の流れを、縄文時代から江戸時代にいたるまでの各時代を代表する作品を中心にたどります。映像によって作品をよく観察し、文献史料を読むことで当時の人々の意識や制作の背景などを理解し、見ることと知ることの両方面から作品に接近し、日本美術の特徴と変化の過程を把握することを目的とします。また、近隣の寺院あるいは美術館・博物館に見学に行き、本物の作品を見るという体験をすることで、作品鑑賞の重要性を体得してもらいます。			
到達目標	・美術に親しむための前提条件として、積極的に実地見学の機会をもとうとする姿勢を身につける。 ・近隣の寺院や美術館・博物館での見学を通して、美術鑑賞の体験を深める。 ・日本の美術の歴史の流れを、時代ごとの代表的作品の名称をあげて説明できるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日文 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 アジア (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	イントロダクション：「見る」ということ／美術史学の方法		日本美術史についての参考資料探し	
第 2回	参考資料紹介		地元作品についての参考資料探し	
第 3回	見学 1：九州国立博物館常設展 ※時間外、学外授業として実施します。		「日本美術史のなかの地元作品」（レポート 1）執筆	
第 4回	縄文・弥生・古墳時代		「日本美術史のなかの地元作品」（レポート 2）執筆準備	
第 5回	飛鳥・奈良時代前期		「日本美術史のなかの地元作品」（レポート 2）執筆準備	
第 6回	奈良時代後期Ⅰ		「日本美術史のなかの地元作品」（レポート 2）執筆準備	
第 7回	奈良時代後期Ⅱ		「日本美術史のなかの地元作品」（レポート 2）執筆準備	
第 8回	平安時代前期		「日本美術史のなかの地元作品」（レポート 2）執筆	
第 9回	平安時代後期Ⅰ		「私にとっての日本美術」（レポート 3）執筆準備	
第10回	平安時代後期Ⅱ		「私にとっての日本美術」（レポート 3）執筆準備	
第11回	平安時代後期Ⅲ		「私にとっての日本美術」（レポート 3）執筆準備	
第12回	鎌倉・南北朝時代		「私にとっての日本美術」（レポート 3）執筆準備	
第13回	室町時代		「私にとっての日本美術」（レポート 3）執筆準備	
第14回	見学 2：寺院、美術館・博物館での作品見学※時間外、学外授業として実施します		「私にとっての日本美術」（レポート 3）執筆準備	
第15回	見学 2：寺院、美術館・博物館での作品見学※時間外、学外授業として実施します。		「私にとっての日本美術」（レポート 3）執筆	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	80％ レポート 1（20％）、レポート 2（30パーセント）、レポート 3（30パーセント）			
小テスト等	－			
成果発表	0％			
受講態度他	20％ 授業への参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	見学を2回おこないます。時間外、学外授業ですので、実施日時や集合場所を確認すること。 見学 1 は九州国立博物館常設展で観覧料は無料。見学 2 の行き最は未定です。交通費と見学費は各自負担です。			
教科書	なし			
指定図書	辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会（2012第8刷）、辻惟雄『日本美術の表情』角川書店（1995再版）、戸田禎佑『日本美術の見方』角川書店（1997）。			
参考図書	授業中に指示します。			
オフィスアワー	月曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	日本文化演習Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	森田 真也		単 位	2
授業の目的と概要	講義の目的は、日本文化の多様性を考えるために主に沖縄を取り上げ、その文化的特性、日本との共通性を考察していくことにある。講義では、さまざまな分野から沖縄の現在を知り、その文化的な特徴や奥の深さを感じてほしいと思う。さらには沖縄の抱えている現代的課題を、同時代にある私たち自身のものとしてとらえてもらいたい。沖縄の現在を考えるために、主に食の習慣、音楽と芸能、パフォーマンス、言語等の特徴的な事例を示しながら講義を進めていく。また、小説、映画やドラマ等において沖縄がどのように描かれてきたのかについても検証する。さらには、琉球王国から沖縄県へのあゆみ、国内外への移民、沖縄戦、基地問題、近年のアイデンティティ模索の現状をも取上げ、沖縄が直面してきた近現代史を日本やアメリカとの関係から考察していく。			
到達目標	・ 沖縄の文化的特性について理解出来る。 ・ 沖縄と日本との比較から、文化的共通性について理解出来る。 ・ 日本とアメリカとの歴史的関係から、沖縄社会が抱える課題について考察出来るようになる。 ・ 沖縄を通して日本文化の多様性について理解することで、自己認識を深め、創造的思考力を獲得することが出来る。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①-これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 主に「日本文化演習Ⅱ」と関連します。また、「民俗学Ⅰ」、「民俗学Ⅱ」とも関係します。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回：	沖縄と日本の文化をとらえるにあたって		授業の目的と内容について理解する	
第 2 回：	沖縄の概要（１）－地理・言語等－		沖縄の概要について理解する（資料の通読）	
第 3 回：	沖縄の概要（２）－歴史・信仰等－		沖縄の概要について理解する（資料の通読）	
第 4 回：	沖縄の食文化（１）－伝統的な食文化－		沖縄の食文化の特徴を考える（資料通読）	
第 5 回：	沖縄の食文化（２）－アメリカ文化の影響－		沖縄の食文化の特徴を考える（資料通読）	
第 6 回：	沖縄の文学（１）－文学からみる沖縄と日本の関係－		沖縄の文学の特徴を考える（資料通読）	
第 7 回：	沖縄の文学（２）－金城哲夫とウルトラマン－		沖縄の文学の特徴を考える（資料通読）	
第 8 回：	沖縄音楽の潮流（１）－島唄から１９８０年代まで－		沖縄の音楽の特徴を考える（資料通読）	
第 9 回：	沖縄音楽の潮流（２）－１９９０年代から現代まで－		沖縄の音楽の特徴を考える（資料通読）	
第10回：	沖縄のパフォーマンス－エイサーの現代的展開－		沖縄の芸能の現代的展開について考える（資料の通読）	
第11回：	沖縄を舞台とした映画・ドラマ		沖縄を描くマスメディアの課題を考える（資料の通読）	
第12回：	沖縄のお笑い（１）－沖縄の笑いと芸能－		沖縄の笑いの特徴を考える（資料の通読）	
第13回：	沖縄のお笑い（２）－沖縄の笑いと社会批判－		沖縄の笑いの特徴を考える（資料の通読）	
第14回：	奄美の音楽文化		奄美の音楽の特徴を考える（資料通読）	
第15回：	まとめ		授業全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	無し。			
レポート	７５％ 期末レポート。			
小テスト等	無し。			
成果発表	無し。			
受講態度他	２５％ 受講態度。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。 「日本文化演習Ⅰ」を履修する者は、「日本文化演習Ⅱ」を履修することが望ましい。 ４年次の「卒業論文」のゼミを希望する者は、「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」を履修することが望ましい。 原則、他学科からの受講は認めない。			
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。			
指定図書	無し。			
参考図書	赤嶺政信『沖縄の神と食の文化』青春出版社（２００３年）。 外間守善『沖縄の歴史と文化』中公新書（１９８６年）。			
オフィスアワー	月曜日昼休み（12:30-13:00）		メールアドレス	

授 業 科 目	日本文化演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	森田 真也		単 位	2
授業の目的と概要	講義の目的は、日本文化の多様性を考えるために主に沖縄を取り上げ、その文化的特性、日本との共通性を考察していくことにある。そのため講義では、特に沖縄の民俗宗教、精神文化の領域にテーマをしばって考えていく。そして、沖縄の現在に生きる伝統的な信仰の在り方と社会構造の特質、日本との違いや共通点について解説していく。 沖縄には、日本本土とは違った独自の伝統的な民俗宗教が生活の中に生きている。そこで中心となるのは女性の存在である。日本本土と共通するもの、違うもの、中国・台湾、朝鮮半島と共通するもの、オセアニアの諸地域と共通するものがある。沖縄の伝統的な宗教生活を考えるために、各地の祭礼、聖地、神話、祖先祭祀と親族組織、霊魂観、他界観、シャーマニズム、宗教者、祭祀組織、民俗芸能等を取り上げながら、主に精神文化の領域と社会構造を中心に解説していく。			
到達目標	・ 沖縄の文化的特性について理解出来る。 ・ 沖縄と日本との比較から、文化的共通性について理解出来る。 ・ 沖縄の民俗宗教、沖縄の精神文化について理解を深めることが出来る。 ・ 沖縄を通して日本文化の多様性について理解することで、自己認識を深め、創造的思考力を獲得することが出来る。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①-これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 主に「日本文化演習Ⅰ」と関連します。また、「民俗学Ⅰ」、「民俗学Ⅱ」とも関係します。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回：	沖縄の概要－地理・言語・歴史等－		授業の目的と内容、沖縄の概要について理解する	
第 2 回：	沖縄の霊魂観と魔物（１）－死霊（シニマプイ）と生霊（イチマプイ）－		沖縄の霊魂観の特徴を考える（資料の通読）	
第 3 回：	沖縄の霊魂観と魔物（２）－魔物（マジムン）・妖怪と心霊スポット－		沖縄の霊魂観の特徴を考える（資料の通読）	
第 4 回：	沖縄のシャーマニズム（１）－シャーマンに成る－		沖縄のシャーマニズムを考える（資料の通読）	
第 5 回：	沖縄のシャーマニズム（２）－シャーマンの役割－		沖縄のシャーマニズムを考える（資料の通読）	
第 6 回：	沖縄の祖先祭祀と親族組織（１）－共同で祖先を祀る－		沖縄の祖先祭祀の特徴を考える（資料の通読）	
第 7 回：	沖縄の祖先祭祀と親族組織（２）－父系親族組織について－		沖縄の祖先祭祀の特徴を考える（資料の通読）	
第 8 回：	研究発表と資料収集・卒論について		研究発表と資料収集・卒論のゼミについて理解する	
第 9 回：	沖縄の祭祀と世界観（１）－来訪神と他界観－		沖縄の祭祀の特徴を考える（資料の通読）	
第10回：	沖縄の祭祀と世界観（２）－御嶽と聖地－		沖縄の祭祀の特徴を考える（資料の通読）	
第11回：	沖縄の祭祀と世界観（３）－女性司祭者とオナリ神信仰－		沖縄の祭祀の特徴を考える（資料の通読）	
第12回：	沖縄の祭祀と世界観（４）－祭祀組織の現在－		沖縄の祭祀の特徴を考える（資料の通読）	
第13回：	沖縄の祭祀と世界観（５）－村落祭祀と民俗芸能－		沖縄の祭祀の特徴を考える（資料の通読）	
第14回：	琉球舞踊について		沖縄の芸能の特徴を考える（資料の通読）	
第15回：	まとめ		授業全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	無し。			
レポート	7 5 ％ 期末レポート。			
小テスト等	無し。			
成果発表	無し。			
受講態度他	2 5 ％ 受講態度。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。 「日本文化演習Ⅱ」を履修する者は、「日本文化演習Ⅰ」を履修することが望ましい。 4 年次の「卒業論文」のゼミを希望する者は、「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」を履修することが望ましい。 原則、他学科からの受講は認めない。			
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。			
指定図書	無し。			
参考図書	赤嶺政信『沖縄の神と食の文化』青春出版社（2 0 0 3 年）。 リーブラ.P.W『沖縄の宗教と社会構造』弘文堂（1 9 7 4 年）。			
オフィスアワー	火曜日昼休み（12:30-13:00）		メールアドレス	

授 業 科 目	日本文化演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	時里 奉明		単 位	2
授業の目的と概要	目的：この授業は、日本近代史に関するテキストを取り上げ、読書会を行う。テキストは、加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』。本年2018年は、明治維新から150年という節目の年である。現在明治を賛美する風潮がもつばらだが、他方で明治は太平洋戦争に至った元凶という見方もある。この150年間を太平洋戦争（1941-1945）を軸に前半と後半に大別すると、前半は戦争続きの時代であり、それとは対照的に後半は戦争のない時代が続いているのがわかる。本テキストは前半を対象に構成しており、それを通読することによって、歴史から何を学んだらよいかをともに考えたい。 概要：報告者はテキストの一部を担当してそれぞれ発表する。テキストを精読して、「戦争」に対する著者の見方、考え方を理解し、日本近代史の主要なテーマについて考える。			
到達目標	1 著者の主張を理解し、整理することができる。 2 参加者の質疑応答を通して、自分の意見をまとめることができる。 3 日本近代史の主要なテーマについて、確認することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①-これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 関連する科目は、「日本史Ⅰ」、「日本史Ⅱ」、「ビジュアル日本史」。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス：講義のねらい スケジュールと履修方針の確認		課題（履修の確認）	
第2回	テキストの説明、日本の近代を学ぶことの意義		課題（テキストの理解）	
第3回	口頭発表のやり方、参考文献の集め方など		課題（口頭発表の理解）	
第4回	口頭発表①		テキストを読む、発表準備	
第5回	口頭発表②		テキストを読む、発表準備	
第6回	口頭発表③		テキストを読む、発表準備	
第7回	口頭発表④		テキストを読む、発表準備	
第8回	口頭発表⑤		テキストを読む、発表準備	
博物館見学、あるいは映像鑑賞（予定）			戦争をどのように表現しているのか、ディスカッションの準備	
第10回	口頭発表⑥		テキストを読む、発表準備	
第11回	口頭発表⑦		テキストを読む、発表準備	
第12回	口頭発表⑧		テキストを読む、発表準備	
第13回	口頭発表⑨		テキストを読む、発表準備	
第14回	口頭発表⑩		テキストを読む、発表準備	
第15回	テキストのまとめ		歴史から何を学ぶか	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ 口頭発表と質疑応答			
受講態度他	50％ 口頭発表の取り組みや質疑応答など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	初回のガイダンスは、必ず出席すること。4年次の「卒業論文」を希望する者は、ゼミ分けの参考にするので履修しておきたい。 講義中に博物館へ行ったり、当時の映像を鑑賞することを予定している。			
教科書	加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』（新潮文庫、2016年）			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に紹介する。			
オフィスアワー	火の昼休み。研究室にいる時はいつでも。		メールアドレス	

授 業 科 目	日本文化研究入門【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	時里 奉明・森田 真也・木本 拓哉		単 位	2
授業の目的と概要	文化の定義，文化研究の意義についての知識を得る．宗教・思想という概念的文化が生活基盤に流れていることを理解する．歴史を学ぶことにより，日本文化の形成・発展のあり方を学ぶ．民俗・習慣などへのアプローチを通じて，地域的生活文化についての理解を深める． この授業は，日本文化研究についてのオリエンテーションの意味で開講します．しかし，「日本文化学」といった学問分野を意図しているわけではなく，3人の教員それぞれの分野（宗教学・歴史学・民俗学）からどのように日本文化にアプローチするのか，日本文化を理解することにどのような意義があるのかについて，理解を深めることを目指します．また，文化理解の手法を通じて，現代社会における様々な問題解決の糸口を探ってみましょう．			
到達目標	1．文化を学ぶことの意義について説明することができる． 2．自分が興味を持つ文化について，資料を収集・分析することができる． 3．文化研究のアプローチ方法に則って，ある「文化」について説明することができる． 4．論理的思考力をもって研究成果を表現することができる．			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる． 「日本文化演習Ⅰ」「日本文化演習Ⅱ」等、日本文化に関する科目と関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 宗教から見る日本文化（１）—イントロダクション・文化とは何か—：担当者 木本			課題①宗教学関連レポート	
第 2回 宗教から見る日本文化（２）—日本人は無宗教か—： 担当者 木本			課題①宗教学関連レポート	
第 3回 宗教から見る日本文化（３）—宗教的自意識—： 担当者 木本			課題①宗教学関連レポート	
第 4回 宗教から見る日本文化（４）—宗教観の比較文化論—： 担当者 木本			課題①宗教学関連レポート	
第 5回 宗教から見る日本文化（５）—異文化理解—： 担当者 木本			課題①宗教学関連レポート	
第 6回 歴史から見る日本文化（１）—イントロダクション・歴史は役に立つか—： 担当者 時里			課題②歴史学関連レポート	
第 7回 歴史から見る日本文化（２）—従軍慰安婦をめぐる論争—： 担当者 時里			課題②歴史学関連レポート	
第 8回 歴史から見る日本文化（３）—従軍慰安婦論争と歴史学—： 担当者 時里			課題②歴史学関連レポート	
第 9回 歴史から見る日本文化（４）—「日本人」のアイデンティティ—： 担当者 時里			課題②歴史学関連レポート	
第10回 歴史から見る日本文化（５）—歴史像を提示すること—： 担当者 時里			課題②歴史学関連レポート	
第11回 民俗から見る日本文化（１）—イントロダクション・文化を考える視点—： 担当者 森田			課題③民俗学関連レポート	
第12回 民俗から見る日本文化（２）—伝統と現代—： 担当者 森田			課題③民俗学関連レポート	
第13回 民俗から見る日本文化（３）—文化を比較する—： 担当者 森田			課題③民俗学関連レポート	
第14回 民俗から見る日本文化（４）—地域を考える—： 担当者 森田			課題③民俗学関連レポート	
第15回 民俗から見る日本文化（５）—民俗学のススメ—： 担当者 森田			課題③民俗学関連レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% レポート3回			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40% 受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	3名の担当者から指示されたレポートは全て提出すること．一つでも提出されない場合は単位を認定しない．			
教科書	授業時に担当者から指示．			
指定図書	なし			
参考図書	授業時に担当者から指示．			
オフィスアワー	川尻：金曜の昼休み 時里：金曜の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	日本文化特論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	永淵 道彦		単 位	2
授業の目的と概要	研究とは、現在に身を置くことではない。研究対象の時代に歩んで行き、その時代に身を置くことである。テキストや資料への切り込みとして第一義に留意すべきことである。本講義では、現代日本の文化的揺籃期である、大正時代における文化事象を探究し、併せて探究の方法を学ぶことを目的とする。 まず、大正期の文化事象の基盤である整備されだす女子高等教育について考え、その上で、大正期の文化事象の一つである児童文学のルネサンスと称される童話童謡時代を取り上げて考察したい。具体的には、芥川龍之介「秋」を教材として、女子大学の才媛である、主人公信子の夢と挫折を通して、大正期の女子高等教育について考察する。豊島与志雄の童話「天下一の馬」等を題材として、童話童謡時代の文学理念である童心主義の功罪を通して、大正期の児童文学のルネサンスの特質を考察する。			
到達目標	1、日本文化における日本近代・大正期のテキストや資料について説明できる。 2、日本近代・大正期の文化事象についてのテキストや資料の叙述に着眼し調査研究ができる。 3、日本児童文化並びに児童文学における視野や知識を得ることができる。 4、各自の研究テーマと日本文化とを関連させて考察することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	－			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（日本近代、大正期の文化事象の概観）		関連資料を読む	
第2回	芥川龍之介「秋」の主人公・信子をめぐって①（大正期女子高等教育と信子の進路）		関連資料、テキストの読み込み	
第3回	芥川龍之介「秋」の主人公・信子をめぐって②（信子の新婚生活への考察）		関連資料、テキストの読み込み	
第4回	芥川龍之介「秋」の主人公・信子をめぐって③（姉妹の葛藤と信子の挫折）		関連資料、テキストの読み込み	
第5回	芥川龍之介「秋」の主人公・信子の夢と挫折への考察		関連資料、テキストの読み込み	
第6回	大正期・児童文学ルネサンスとその後の児童文学の流れ		関連資料、テキストの読み込み	
第7回	児童文学、並びに童話の概念、特質について		関連資料、テキストの読み込み	
第8回	「赤い鳥」誌の童話「天下一の馬」について①（作品の分析と読解）		関連資料、テキストの読み込み	
第9回	「赤い鳥」誌の童話「天下一の馬」について②（作品主題の把握と問題点の討議）		関連資料、テキストの読み込み	
第10回	「赤い鳥」誌の童話「コーカサスの禿鷹」について①（作品の分析と読解）		関連資料、テキストの読み込み	
第11回	「赤い鳥」誌の童話「コーカサスの禿鷹」について②（作品主題の把握と問題点の討議）		関連資料、テキストの読み込み	
第12回	「赤い鳥」誌の童話「天狗笑」について（作品の分析と読解、討議）		関連資料、テキストの読み込み	
第13回	「赤い鳥」誌の童話「彗星の話」について①（作品の分析と読解）		関連資料、テキストの読み込み	
第14回	「赤い鳥」誌の童話「彗星の話」について②（作品主題の把握と問題点の討議）		関連資料、テキストの読み込み	
第15回	総 括（問題提起とレポート作成について）		関連資料情報と点検	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％			
レポート	60％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出来るだけ多くの参考文献を読むことを心掛けてほしい。			
教科書	永淵道彦『豊島与志雄・童話の世界』花書院、配布のプリントなど			
指定図書	講義中に指示			
参考図書	講義中に指示			
オフィスアワー	木曜日の午後	メールアドレス		

授 業 科 目	日本文化特論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	森田 真也		単 位	2
授業の目的と概要	この講義では、民俗学の立場から、現代日本社会を人々の日常的実践と思考を通して読み解いていく。そして、近代以降、日本社会が直面してきた課題、現在の都市的生活者や地域社会が抱えもつ課題を、生活者の立場からとらえていく。また、あわせて日本社会の多様な問題に対して、生活者の視点から批判的に検証し、実践的にアプローチする力を培う。 この講義では、日本社会を「文化」をめぐる諸問題からとらえなおしていく。そして、近年、日本社会で散見されるような民俗文化の活用の試みと、地域社会を生きる人々の営みと思考にあるギャップや矛盾点について考えていく。そのため、日本、沖縄における「文化資源化」の事例、具体的には、地域社会の民俗文化を活用した観光による地域振興、文化政策等の議論を、講義、研究論文の輪読と発表、ディスカッションを通して批判的に検証していく。			
到達目標	・人々の日常的実践と思考の在り方を、現場に則しながら考察する視点を獲得することが出来る。 ・近代以降の日本社会の変化と課題について理解することが出来る。 ・日本社会の多様な問題に対して、批判的に検証し、実践的にアプローチする力を身につけることが出来る。 ・文献の輪読と議論によって、論旨を読み取り、自らの見解を明確にまとめることが出来る。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	専門的な知識を深めるとともに、複数の学問的課題の中心に関連性を求め、研究の視点を広げる。 「フィールド・ワーク」（森田真也担当）と関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回：	文化から社会を見通す視点―本講義のねらい―		授業の目的と内容について理解する	
第 2 回：	民俗学と文化人類学における日本研究		民俗学と文化人類学の特徴について理解する（資料の通読）	
第 3 回：	文化の資源化の諸問題（１）―民俗文化とフォークロリズム―		文化の資源化とは何か理解する（資料の通読）	
第 4 回：	文化の資源化の諸問題（２）―観光と地域振興―		観光と地域振興の関係について考える（資料の通読）	
第 5 回：	文化の資源化の諸問題（３）―地域社会と文化政策―		地域社会と文化政策の課題について考える（資料の通読）	
第 6 回：	文化の資源化の諸問題（４）―地方と都市の関係―		観光から地方と都市の関係について考える（資料の通読）	
第 7 回：	文献の輪読とディスカッション①		文献の読解・内容整理	
第 8 回：	文献の輪読とディスカッション②		文献の読解・内容整理	
第 9 回：	文献の輪読とディスカッション③		文献の読解・内容整理	
第10回：	文献の輪読とディスカッション④		文献の読解・内容整理	
第11回：	文献の輪読とディスカッション⑤		文献の読解・内容整理	
第12回：	文献の輪読とディスカッション⑥		文献の読解・内容整理	
第13回：	海外（諸外国）の文化の資源化の事例から		海外の事例と比較して考える	
第14回：	文化の資源化の課題		文化の資源化の課題と可能性について考える	
第15回：	講義の総括		授業全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	無し。			
レポート	４０％ 期末レポート。			
小テスト等	無し。			
成果発表	４０％ 論文の輪読と研究発表を数回行ない、質疑応答をする。			
受講態度他	２０％ 研究姿勢を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	輪読する論文（文献）については、講義中に指示する。事前に読んでおくこと。 積極的な受講を希望する。 受講者の人数によって、輪読論文、講義計画の変更の可能性もある。			
教科書	無し。状況に応じて資料を配布する。			
指定図書	岩本通弥編『ふるさと資源化と民俗学』吉川弘文館（２００７年）。〈本学図書館所蔵〉			
参考図書	講義中に適時紹介する。			
オフィスアワー	木曜日昼休み（12:30-13:00）		メールアドレス	

授 業 科 目	日本文化論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	横山 尊		単 位	2
授業の目的と概要	テーマ：〈人口と移民〉からみる近代日本 人口は、内部的には出生・死亡・結婚（離婚）、移動といった要因で変動します。それらがどう組み合わせたり、人口が変動したかが人口研究の課題となってきました。逆に、人口変動が社会や経済、文化に影響を与えることもあります。例えば、現在日本が直面する少子高齢化は、社会保障の問題をはじめとし、日本の社会・経済・文化を大きく変える可能性を秘めています。本講義は、近世から現代日本を対象にその様相を論じます。 同時に、本講義は、人の移動、移民に焦点を当てます。実は1920年代から1970年代頃の50年余りにわたり、日本は積極的な移民送出国でした。一方で、20世紀末から外国人の大量流入にも直面しています。本講義は、在日朝鮮人や1970年代の女性外国人労働者などの国内のマイノリティやそれに伴う差別問題にも着目しながら、その様相を論じていきます。			
到達目標	第一に近代日本の人口や移民をめぐる問題の基礎的知識を習得し、政治・社会・文化との関係性の中で捉える視野を獲得すること。 第二に、出生・死亡・結婚・移動を中心とした人びとの多様な生の営みを、人種主義やマイノリティをめぐる問題と絡め、歴史的な見地から捉える視点を身につけること。 こうした視野の獲得は、現代の人口問題やグローバル社会への理解にも大きく寄与するでしょう。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	前期の日本文化論Ⅰ、後期の日本思想史も履修すれば、本授業で得られる理解は深まるでしょう。 特に日本思想史と併せた学習は〈身体〉〈ジェンダー〉〈セクシュアリティ〉の知見を深める上で有意義でしょう。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	<人口と移民>から近代日本をみる意味		プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第2回	江戸時代の結婚・出産・死亡―歴史人口学の世界		プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第3回	人口調節装置としての江戸時代の都市―都市は「蟻地獄」？		プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第4回	日本人の海外渡航解禁と「国際結婚」の成立		プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第5回	ハワイの日本人移民―ハワイ王国の滅亡前と後		プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第6回	北米の日本人移民排斥運動とアメリカ政府		プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第7回	ブラジル移民政策と日本移民―米国排日運動の反響		プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第8回	満州国農業移民が映し出す社会帝国主義		プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第9回	黄禍論・人種主義と日本人の自画像		プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第10回	1920-1940年代の人口政策構想―人口政策確立要綱に至るまで		プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第11回	大日本帝国と朝鮮人の移動		プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第12回	大日本帝国の崩壊と引揚・復員―そして博多港・二日市療養所		プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第13回	シベリア抑留と戦後日本―ソ連共産主義の「収容所列島」の中で		プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第14回	「家族計画」が登場するまで―避妊と中絶をめぐる制度と運動		プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第15回	総括と展望：日本が人口減少社会になるまで―今後の日本人口と労働移民問題		プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％（持ち込み可）			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日本の歴史・文化に関心を有する人はもちろん、東アジア全体の歴史・文化や、政治学、経済学に関心を有する人たちの受講を歓迎します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	鬼頭宏『人口から読む日本の歴史』講談社学術文庫、2000年〔原1983年〕 山田迪生『船にみる日本人移民史』中公新書、1998年			
オフィスアワー	講義時間前後の休憩時間		メールアドレス	

授 業 科 目	日本文学の現在【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松本 常彦		単 位	2
授業の目的と概要	I T 革命後の情報通信産業の世界的展開に率いられるかたちで、グローバル化が進行する現在において、「他者」の問題は、いっそう深刻になっている。この授業では、日本の現代小説を通して、「他者」とそれを「読む地平」の二つを考察することを目的とする。 概要を問題のメニューとして示すなら、「他者とはだれか」、「他者を読むためのモデル」、「内なる他者」、「他者の声」、「何が他者をつくるのか」、「他者の表象」、「私という他者」、「他者を読む地平」などが問題群となる。 以上の問題群を日本の現代小説に即して考える。 「他者」とそれを読む「地平」の問題が、文学の次元の問題にとどまらず、人間や世界の理解と不可分であることを理解し、授業のテーマを通して、自発的に人間や世界を読む姿勢を養成すること。			
到達目標	小説に含まれる種々のメッセージについて、まずは文意に即した解釈ができるようになること。 次に、そのメッセージが内包する「他者」性について読者の地平という条件を考慮しながら読解できるようになること。 最終的な到達目標としては、小説のメッセージを自身の問題意識にまで高め、その問題意識を種々の資料やデータによって検証しつつ、一定の見解にして発信できること。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	講義全体の概要について：講義の目的・ 作家・作品の紹介		シラバスをよく読んで受講すること	
第 2回	「他者」とそれを読むための「地平」の問題について：日本の現代文化における「他者」表象のバリエーションについて		次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる	
第 3回	「他者とはだれか」：異形のものとしての「他者」と近接した「他者」		次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる	
第 4回	「他者を読むためのモデル」：村上春樹の短編小説を素材として		次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる	
第 5回	「内なる他者」：村上春樹の短編テキストを素材として		次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる	
第6回	「他者の声」を読む 1：川上弘美の短編テキストを素材として		次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる	
第 7回	「他者の声」を読む 2：川上弘美の短編テキストを素材として		次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる	
第 8回	「他者の声」を読む 3：川上弘美の短編テキストを素材として		次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる	
第 9回	「他者」としての「時間」 1：朝吹真理子の短編テキストを素材として		次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる	
第10回	「他者」としての「時間」 2：朝吹真理子の短編テキストを素材として		次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる	
第11回	「他者の表象」 1：非対称的コミュニケーションの導入		次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる	
第12回	「他者の表象」 2：非対称的コミュニケーションの導入 2		次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる	
第13回	「私という他者」 1：私小説の現在		次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる	
第14回	「私という他者」 2：私小説の現在		次週までに授業中に指示した配布資料を読んでくる	
第15回	「他者を読む地平」について		試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	授業の進度や理解度に応じて課す場合がある。 そのときは、定期試験と合わせて総合的に評価する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業を受講する上での一般的なルールを守る。			
教科書	本文をプリントで配布する			
指定図書	配布資料に記載			
参考図書	配布資料に記載			
オフィスアワー	金曜日の講義時間の前後	メールアドレス		

授業科目	人間科学概論【講義】		開講時期	前期
担当教員	宇治 和貴・石原 努・高木 佳世子・針塚 進		単 位	2
授業の目的と概要	「人間とは何者か」「どのような生きものか」ということについて、認識を深め理解の幅を広げるのがこの授業の目的です。人間は複雑で多様な生きものです。さまざまな不合理や矛盾を抱えながらも、全体として一つのまとまりのある存在として生きているのが人間でもあります。この講義では、人間科学部での学びの基盤となる人間理解の視点を自分のものとするとともに、人間支援の基本的な姿勢と方法を身につけることを目的としたものです。 授業は、4人の異なる専門領域をもつ教員による、オムニバス形式のリレー講義で進めます。社会福祉学の立場から3回、心理学の立場から6回、教育学の立場から3回、仏教の立場から3回の講義を行います。			
到達目標	1. 人間が複雑多様な存在であることを説明できる。 2. 人間が不合理で矛盾に満ちた存在でありながら、一つのまとまりのある存在であることが説明できる。 3. 人間理解の方法について説明することができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができます。「幅広い視野」 心C (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 全学共通科目や学部共有科目を履修することで、広い視野から人間理解につながります。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 教育学①「人間の成長と教育」(石原)			ノート整理	
第 2回 教育学②「学習と教育」(石原)			ノート整理	
第 3回 教育学③「豊かな人間性と教育」(石原)			ノート整理と小レポート作成	
第 4回 人を動かすところの仕組み(針塚)			ノート整理	
第 5回 自己を見つめる(針塚)			ノート整理	
第 6回 他者を理解する(針塚)			ノート整理	
第 7回 人と人とのつながり(針塚)			ノート整理	
第 8回 こころを育てる(針塚)			ノート整理	
第 9回 こころを支える(針塚)			ノート整理とレポート作成	
第10回 貧困とは何か(高木)			配付資料を見直して復習する。	
第11回 貧困の原因は何か(高木)			配付資料を見直して復習する。	
第12回 社会福祉が「権利」であるとはどういうことか(高木)			配付資料を見直して復習する。	
第13回 仏教の人間観①「いのち」の重さ(宇治)			ノート整理	
第14回 仏教の人間観②「いのち」の平等について(宇治)			ノート整理	
第15回 仏教の人間観③「いのち」の受けとめ手(宇治)			ノート整理とレポート作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学部での学びの基礎になるものです。真摯な態度での受講を求めます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	各教員から、必要に応じ随時指示をします。			
オフィスワーカー	授業の前後、または、各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授 業 科 目	人間科学概論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	山崎 安則・宇治 和貴・石原 努・針塚 進		単 位	2
授業の目的 と概要	「人間とは何者か」「どのような生きものか」ということについて、認識を深め理解の幅を拡げるのがこの授業の目的です。人間は複雑で多様な生きものです。さまざまな不合理や矛盾を抱えながらも、全体として一つのまとまりのある存在として生きているのが人間でもあります。この講義では、人間科学部での学びの基盤となる人間理解の視点を自分のものとするとともに、人間支援の基本的な姿勢と方法を身につけることを目的としたものです。 授業は、4人の異なる専門領域をもつ教員による、オムニバス形式のリレー講義で進めます。社会福祉学の立場から3回、心理学の立場から6回、教育学の立場から3回、仏教の立場から3回の講義を行います。			
到達目標	1. 人間が複雑多様な存在であることを説明できる。 2. 人間が不合理で矛盾に満ちた存在でありながら、一つのまとまりのある存在であることが説明できる。 3. 人間理解の方法について説明することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心C (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 全学共通科目や学部共有科目を履修することで、広い視野から人間理解につながります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 教育学①「人間の成長と教育」(石原)			ノート整理	
第 2回 教育学②「学習と教育」(石原)			ノート整理	
第 3回 教育学③「豊かな人間性と教育」(石原)			ノート整理とレポート作成	
第 4回 人を動かすこころの仕組み(針塚)			ノート整理	
第 5回 自己を見つめる(針塚)			ノート整理	
第 6回 他者を理解する(針塚)			ノート整理	
第 7回 人と人とのつながり(針塚)			ノート整理	
第 8回 こころを育てる(針塚)			ノート整理	
第 9回 こころを支える(針塚)			ノート整理とレポート作成	
第10回 ノーマライゼーションの理念と歴史(山崎)			ノート整理	
第11回 デンマーク流「幸せの国」のつくり方(山崎)			ノート整理	
第12回 デンマークに学ぶ日本の福祉(山崎)			ノート整理と小レポート作成	
第13回 仏教の人間観①「いのち」の重さ(宇治)			ノート整理	
第14回 仏教の人間観②「いのち」の平等について(宇治)			ノート整理	
第15回 仏教の人間観③「いのち」の受けとめ手(宇治)			ノート整理とレポート作成	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学部での学びの基礎になるものです。真摯な態度での受講を求めます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	各教員から、必要に応じ随時指示をします。			
オフィスアワー	授業の前後、または、各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授 業 科 目	人間科学概論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小野 望・崔 淑芬・小川 直樹		単 位	2
授業の目的と概要	本科目は当研究科の基礎教育科目として1年次前期におかれる必修科目である。当研究科における学修のガイダンスとしての役割をもつ同時に、人間存在に関する広汎な学問体系のなかに、学生自身が自己の研究テーマに関連する重要な考え方と知識を見いだすことができることを目的とする。 3人の教員によるオムニバス形式の講義で行う。それぞれの教員の専門分野からの講義内容は、①女性学の社会的視点―その推移と現状―からみる人間理解と人間支援、②言語学の分野からみた人間理解、人間支援、③福祉学の分野からみた人間理解、人間支援の3部からなる。全体のオリエンテーション、最終の2回の全体討論を除いて残り12回の講義を各教員が4回ずつ担当する。			
到達目標	1. 人間理解・人間支援に関して心理、人文、社会科学のそれぞれの観点から考察できる 2. 自己の研究テーマに関して、関連諸科学の考え方を援用して考察を進めることができる。 3. 自己の研究の進め方に関して、当研究科で得られた知識をもとにその概要を考察し、発表できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	全体オリエンテーション：人間科学、理解と支援、研究方法		自らの研究テーマ、目標のまとめ。教員の紹介する参考図書の読書	
第 2 回	女性学概論		教員の紹介する女性学に関する参考図書の読書	
第 3 回	過去における女性の生き方		参考図書を読み、女性の生き方の変遷を整理する	
第 4 回	女性の社会的地位の変遷		参考図書を読み、女性の社会的地位の変遷を整理する	
第 5 回	女性学に関する現状と課題		歴史的状況を踏まえ、女性学の現状と課題を考察する	
第 6 回	言語とは何か 言語学の対象、目的の概要		参考資料「言語学概説」を読み、言語学の対象と目的を整理する	
第 7 回	言語学から見る人間理解 言語と思考の関係		参考資料「コミュニケーション論」を読み、言語と思考の関係を整理する	
第 8 回	言語学から見る社会理解 コミュニケーション研究の概要		参考資料「ポライトネス」を読み、社会理解の方法論として考える。	
第 9 回	言語学における研究アプローチの具体例 敬意表現研究の一例		参考資料「敬意表現」を読み、敬語の位置付けについて考察する	
第10回	「福祉学」、その学問的位置づけ		教員の紹介する参考図書の読書	
第11回	展開―関係性希薄の時代と福祉をめぐる論点		参考図書を読み、現代社会の人間関係と福祉について考察する	
第12回	地域研究からみた人間理解、人間支援		参考図書を読み、地域研究の視点を整理する	
第13回	研究アプローチの具体例 一個人・家族／地域・自治体／民間非営利		事前課題に取り組み、報告する	
第14回	全体討論(1) 学生発表「研究をどうすすめていくか」		配付資料を準備し、自身の研究について発表する	
第15回	全体討論(2) 学生発表「研究をどうすすめていくか」		配付資料を準備し、自身の研究について発表する	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% 筆記試験(16回目)は行わない。			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	60% 2回の全体討論のなかでの発表内容を主たる評価対象とする。			
受講態度他	40% 各授業への参加態度、討論での質疑応答の内容などを主たる評価対象とする。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	大学院における講義を教員とともに作り上げるという意識が求められる。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	それぞれの担当教員が随時紹介する。			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授 業 科 目	人間関係総合演習【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	酒井(均)・ 渋田(登)・ 浅田(淳)・ 大霧(香)・ 榊(祐)・ 森田(理)・ 宇治(和)・ 針塚(進)		単 位	2
授業の目的 と概要	心理学やその関連領域に関するテーマ設定し、文献研究を通して学習を深化することができる。 調べた成果を発表し、討論することができる。 個々の学生が選択したテーマを元に文献研究等で学習した成果をまとめ発表していく。その後、学生相互の討論や教員からの助言を通して、さらに深化させていく。			
到達目標	① 心理学やその関連領域について関心のあるテーマを設定し、先行研究の文献検索が適切に行なえる ② 先行研究をまとめ、効果的な発表できる。 ③ 卒業ゼミナールに向けて、問題を解決、考察するための研究計画を立てることができる ④ 他者の発表に対して創造的、論理的意見を述べ、議論を深めることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 関連する科目としては、「心理専門演習」、「心理学研究法」、「心理学統計法ⅠⅡ」、「発達臨床演習」などがあります。 また、この科目は「卒業ゼミナールⅠⅡ」へと発展します。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション			各自研究テーマについて調べておく。	
第 2回 テーマの設定			テーマに関する先行研究の検索	
第 3回 先行研究の整理			先行研究の講読	
第 4回 発表・討論①： 先行研究の整理、問題点の明確化			先行研究についてまとめたレジュメを作成	
第 5回 発表・討論②： 先行研究の整理、問題点の明確化			先行研究についてまとめたレジュメを作成	
第 6回 発表・討論③： 先行研究の整理、問題点の明確化			先行研究についてまとめたレジュメを作成	
第 7回 研究計画の作成			研究テーマを具体化するための計画を作成	
第 8回 発表・討論①：研究計画について、途中経過の発表、検討			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第 9回 発表・討論②：研究計画について、途中経過の発表、検討			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第10回 発表・討論③：研究計画について、途中経過の発表、検討			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第11回 発表・討論④：研究計画について、途中経過の発表、検討			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第12回 発表・討論⑤：研究計画について、途中経過の発表、検討			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第13回 発表・討論⑥：研究計画について、途中経過の発表、検討			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第14回 発表・討論⑦：研究計画について、途中経過の発表、検討			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第15回 まとめ			復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
小テスト等	なし			
成果発表	30% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
受講態度他	30% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
受講上の留意 点・ルールに関 わる情報	毎回の出席は必須条件、遅刻も厳禁 資料の丸写し、インターネットを用いてのコピー＆ペーストは厳禁 自分の見解を加味した上で資料を作成し発表を行う。			
教科書	各担当教員による			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	浅田:火を除く昼休、酒井:火昼休、渋田:水4、大霧: 月2、榊:火5、森田:火2、宇治:火水昼休、針塚水2		メールアドレス	

授 業 科 目	人間関係総合演習【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	徳永 勇・高木 佳世子・新家 めぐみ		単 位	2
授業の目的と概要	社会福祉（ソーシャルワーク）に関連する研究テーマを自ら設定し、自覚的・主体的に追究することを通して、論理的かつ実践的な思考力および問題解決能力を身につけることを目的とする。ソーシャルワーカーとしてはいうまでもなく、将来ひとりの職業人となるにあたって、ある状況に対する自分の考え方や態度を確立することは非常に重要だからである。 人間関係総合演習（ゼミナール）は、社会福祉（ソーシャルワーク）に関連する研究テーマを自ら設定し、自覚的・主体的に追究することを通して、論理的かつ実践的な思考力および問題解決能力を身につけることを支援する科目で、これまでの学習内容を総合的に体得するという意味を持つ。具体的には、各専任教員が少人数のゼミを分担し、学生はいずれかのゼミに所属する。学生各自が自らのテーマを設定し、それにそった資料や文献の収集、報告・討論といったことが主たる内容となる。			
到達目標	1. 自ら取り組む研究テーマが設定できる。 2. 研究の視点を理解し、研究方法を身につけることができる。 3. 研究成果を発表したり、それについて討議する能力が習得できる。 4. 次年度の「卒業研究」作成に向けた計画を立てることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 研究テーマの設定			資料収集・検討	
第 2回 研究テーマの設定			資料収集・検討	
第 3回 研究テーマの設定			資料収集・検討	
第 4回 資料収集および研究方法、レジュメ作成方法の学習			発表資料（レジュメ）作成	
第 5回 資料収集および研究方法、レジュメ作成方法の学習			発表資料（レジュメ）作成	
第 6回 資料収集および研究方法、レジュメ作成方法の学習			発表資料（レジュメ）作成	
第 7回 研究発表および討論			発表と討論	
第 8回 研究発表および討論			発表と討論	
第 9回 研究発表および討論			発表と討論	
第10回 研究発表および討論			発表と討論	
第11回 研究発表および討論			発表と討論	
第12回 研究発表および討論			発表と討論	
第13回 研究発表および討論			発表と討論	
第14回 研究発表および討論			発表と討論	
第15回 全体のまとめ ― 卒業研究・卒業論文作成に向けて			発表と討論	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 演習での研究発表、メンバー間の討論や教員からの指導などをふまえ、レポートを作成			
小テスト等	なし			
成果発表	25％ 研究発表の内容・水準			
受講態度他	25％ 出席状況 ＋ 討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 履修登録オリエンテーション時に指定されたゼミ（クラス）で履修登録し、所属したゼミを担当する教員の指導を受けることになる。 2. 毎回の授業の出席及び積極的な発言と参加態度が重要となる。			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	各教員による			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授 業 科 目	人間関係文献講読Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	浅田 淳一		単 位	2
授業の目的と概要	心理学の文献を正確に読解し、適切な日本語に翻訳できるようになること。また、それによって、心理学を引き続き研究できる他大学の大学院を受験して合格できる英語の読解力を身につけること。 心理学の入門書 INTRODUCTION TO PSYCHOLOGY, (Ann L.Weber)を、各自で読んで適切な日本語に翻訳し、毎時間ごとにその翻訳をチェックしながら、英文法を復習し、心理学の英語文献の翻訳に慣れていくことを目指す。			
到達目標	1. 英語の基本的な文法を理解し、その知識を英語の翻訳に適宜応用することが出来る。 2. 心理学の基本的な概念を英語で理解することができる。 3. 心理学の基本的な用語を英語で覚えていることができる。 4. 他大学の大学院の英語の入試問題を、辞書を使って時間をかければ読解し翻訳することができる。 5. 何故、そのように翻訳したかを、文法的に説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 関連科目：心理学概論Ⅰ・Ⅱ			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	本講義の目的と授業方法についての説明とテキストの配布		Text予習	
第 2 回	Preface		Text予習(v - vi)	
第 3 回	Chap.1 The Origins and Scope of Psychology①(Introduction)		Text予習(p.1-.2)	
第 4 回	Chap.1 The Origins and Scope of Psychology②(The History of Psychology)		Text予習(p.3-8)	
第 5 回	Chap.1 The Origins and Scope of Psychology③(Professional Psychology)		Text予習(p.9-12)	
第 6 回	Chap.1 The Origins and Scope of Psychology④(Therapeutic Roots of Psychology)		Text予習(p.13-15)	
第 7 回	Chap.1 The Origins and Scope of Psychology⑤(Popular Psychology)		Text予習(p.15-18)	
第 8 回	Chap.2 Research Methods and Statistics①(Basic and Applied Research)		Text予習(p.19-20)	
第 9 回	Chap.2 Research Methods and Statistics②(The Experimental Method)		Text予習(p.20-24)	
第10回	Chap.2 Research Methods and Statistics③(Other Research Methods)		Text予習(p.24-26)	
第11回	Chap.2 Research Methods and Statistics④(Methods of Analysis)		Text予習(p.26-30)	
第12回	Chap.3 The Physiological Basis of Behavior①(The Nervous System)		Text予習(p.31-34)	
第13回	Chap.3 The Physiological Basis of Behavior②(The Central Nervous System)		Text予習(p.34-38)	
第14回	Chap.3 The Physiological Basis of Behavior③(The Endocrine System)		Tex予習(p.39-40)	
第15回	Chap.3 The Physiological Basis of Behavior④(Resume)		Text予習(p.40-41)	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0			
レポート	0			
小テスト等	0			
成果発表	80% 到達目標の各項目をその都度チェックする。			
受講態度他	20% 遅刻などせず、講義に集中して受講しているか。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講は、本気で大学院受験を考えている学生に限る。特に大学院を目指さない学生の参加も認めるが、しっかり予習して来ない学生は、途中で受講を禁ずる場合もある。 評価は、平常点で行うので試験・レポートは課さないが、受講態度と予習状況を重視するので注意!!			
教科書	コピー資料を配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	火曜日を除く昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	人間関係文献講読Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担 当 教 員	浅田 淳一		単 位	2
授業の目的 と概要	心理学の文献を正確に読解し、適切な日本語に翻訳できるようになること。また、それによって、心理学を引き続き研究できる他大学の大学院を受験して合格できる英語の読解力を身につけること。 心理学の入門書 INTRODUCTION TO PSYCHOLOGY, (Ann L.Weber)を、各自で読んで適切な日本語に翻訳し、毎時間ごとにその翻訳をチェックしながら、英文法を復習し、心理学の英語文献の翻訳に慣れていくことを目指す。			
到達目標	1. 英語の基本的な文法を理解し、その知識を英語の翻訳に適宜応用することが出来る。 2. 心理学の基本的な概念を英語で理解することができる。 3. 心理学の基本的な用語を英語で覚えていることができる。 4. 他大学の大学院の英語の入試問題を、その指示に従って時間内に読解し解答することができる。 5. 何故、そのように翻訳したかを、文法的に説明することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 関連科目：心理学概論Ⅰ・Ⅱ			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	本講義の目的と授業方法についての説明とテキストの配布		Text予習(p.42-45)	
第 2 回	Chap.4 State of Consciousness①(Sleep)		Text予習(p.45-46)	
第 3 回	Chap.4 State of Consciousness②(Hypnosis)		Text予習(p.46-48)	
第 4 回	Chap.4 State of Consciousness③(Drugs)		Text予習(p.48-49)	
第 5 回	Chap.4 State of Consciousness④Resume)		Text予習(p.49-p.50)	
第 6 回	Chap.5 Sensation and Perception①(Senses)		Text予習(p.51-55)	
第 7 回	Chap.5 Sensation and Perception②(Other Senses)		Text予習(p.55-56)	
第 8 回	Chap.5 Sensation and Perception③(Perception)		Text予習(p.56-60)	
第 9 回	Chap.5 Sensation and Perception④(Illutions)		Text予習(p.60-64)	
第10回	Chap.6 Learning and Behavior①(Learning)		Text予習(p.65-66)	
第11回	Chap.6 Learning and Behavior②(Classical Conditioning)		Text予習(p.66-69)	
第12回	Chap.6 Learning and Behavior③(Operant Conditioning)		Text予習(p.70-76)	
第13回	Chap.7 Memory①(Retention)		Text予習(p.77-78)	
第14回	Chap.7 Memory②(The Biological Basis of Memory)		Tex予習(p.78-79)	
第15回	Chap.7 Memory③(Theories of Forgetting)		Text予習(p.79-82)	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0			
レポート	0			
小テスト等	0			
成果発表	80%到達目標の各項目をその都度チェックする。			
受講態度他	20%遅刻などせず、講義に集中して受講しているか。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	受講は、本気で大学院受験を考えている学生に限る。特に大学院を目指さない学生の参加も認めるが、 しっかり予習して来ない学生は、途中で受講を禁ずる場合もある。 評価は、平常点で行うので試験・レポートは課さないが、受講態度と予習状況を重視するので注意!!			
教科書	コピー資料を配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	火曜日を除く昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	人間関係論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	岡村 尚昌		単 位	2
授業の目的 と概要	コミュニケーションの知識と技法を学ぶことにより、自己や他者理解を深め、日常の人間関係を良好に保つ能力を身につけると同時に、様々な人間関係に対応できるスキルを身につけることを目的とします。			
到達目標	1. 自己を理解する理論と基礎的技術を身に付ける。 2. 対人援助における人間関係について説明できるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：人間関係論の基本的視点		対人援助における人間関係について調べる	
第2回	自分と他者の関係性		配布プリントを熟読し、自己を理解する理論を調べる	
第3回	自分と他者のコミュニケーション		配布プリントを熟読し、自分と他者のコミュニケーションについて考える	
第4回	人間関係の生涯発達		配布プリントを熟読し、人間関係の生涯発達について予習しておく	
第5回	集団の中での行動パターン		配布プリントを熟読し、集団の中での行動パターンについて調べる	
第6回	家族関係		家族の人間関係について調べる	
第7回	夫婦関係		配布プリントを熟読し、夫婦のライフサイクルについて調べる	
第8回	親子関係		親子関係と子供の発達について調べる	
第9回	教師と学生との関係		教師と学生の人間関係について意見をまとめる	
第10回	職場の人間関係		配布プリントを熟読し、職場の人間関係について予習しておく	
第11回	援助専門職者の人間関係①：臨床心理学領域を中心にして		援助専門職者の人間関係について調べる	
第12回	援助専門職者の人間関係②：高齢者との人間関係		配布プリントを熟読し、高齢者との人間関係について意見をまとめる	
第13回	援助専門職者の人間関係③：福祉領域を中心として		配布プリントを熟読し、福祉領域における人間関係について予習しておく	
第14回	ソーシャル・サポートとQOL向上		ソーシャル・サポートとQOL向上について考えをまとめる	
第15回	総括		人間関係論で学んだことのポイントを整理する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 学んだことの復習として行う。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 講義対する意欲や参加態度も考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義をよく聴き、積極的に討論に参加してください。 配布プリントは毎回持参してください。			
教科書	教科書は特に指定せず、毎回講義プリントを配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	講義の前後に相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	人間学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	浅田 淳一		単 位	2
授業の目的と概要	「宇宙における人間の地位」について自分なりの考えが持てるようになること。そして、特に人間を「生きている者」として捉えた場合のその特性について理解し、さらに、男と女という二つの性に分かれて生きていることの意味、そして、その両性がより平等にそしてより幸福に生きていくための倫理を自ら考えていけるようになること。 「宇宙における人間の地位とはどのようなものなのか?」。これが、哲学的人間学の最も根本的な問いである。 本講義では、まずこの問いに真正面から答えようとした哲学者として、プラトンとアリストテレスとルソーをとりあげ、彼らの人間観を紹介する。その上で、特に生きている存在として、しかも男と女として生きている存在としての人間の振る舞いと、その倫理について考えてみる。			
到達目標	1. プラトン・アリストテレス・ルソーの人間観を理解し述べることができる。 2. 「生きている者」としての人間の特徴を説明することができる。 3. 生物としての男と女について、その違いを客観的に説明することができる。 4. 人間としての男と女が、平等にしかも幸福に生きていくための倫理学を構想することができる。 5. 自分自身が確立した人間観から、「生命倫理の問題」を考えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 関連科目：倫理学、哲学、女性・ジェンダー論、女性と政治、総合講座（人権・平和）、マイノリティを生きる			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 哲学的人間学の問い：「宇宙における人間の地位」とは？			課題（宇宙の中での人間の地位の特殊性について各自考えてみる）	
第 2回 プラトンの人間観：魂と肉体の峻別・人間＝理性の主体			課題（プラトニックラブについて、自分だったらどうかかんがえるか）	
第 3回 アリストテレスの人間観：人間＝成長し・運動し・考える存在			課題（植物・他の動物と人間を比べたときの人間の特徴とは何か）	
第 4回 ルソーの人間観：人間＝感じながら・考え・意志する存在			課題（ルソーの人間観をプラトンやアリストテレスの人間観と比較する）	
第 5回 「生物」としての人間の特徴とはⅠ：裸のサル？			課題（何故、人間は裸（毛が生えていない）のか考えてみる）	
第 6回 「生物」としての人間の特徴とはⅡ：パンツをはいたサル？			課題（何故、人間は衣服を来ているのか？考えてみる）	
第 7回 生物としての男と女Ⅰ：何故有性生殖が必要か？			課題（何故生物は、非常に効率の悪い有性生殖を選んだのか?）	
第 8回 生物としての男と女Ⅱ：何故、男はスケベなのか？			課題（男がスケベな理由について考えてみよう！！）	
第 9回 生物としての男と女Ⅲ：何故、女は男の地位とお金に弱いのか？			課題（あなたは、イケメンならフリーターでもいいですか?）	
第10回 人間としての男と女Ⅰ：自然主義的誤謬を避けよ！！			課題（人間以外に約束をする動物がいるかどうか考えてみよう）	
第11回 人間としての男と女Ⅱ：男の幸福と女の幸福（共通点・相違点）			課題（人間としての男女の幸福について考えてみよう）	
第12回 人間としての男と女Ⅲ：負け犬は本当に負け犬か？			課題（30代未婚・子なしの女性は本当に不幸なのか、考えてみよう）	
第13回 男女平等の実現：区別は差別か？			課題（男女の平等について具体的に考えてみよう）	
第14回 男女が共に幸福な社会：貴女が男だったら自分と結婚するか？			課題（貴方のような男性がいたとすれば、貴方は彼と結婚するか考えてみる）	
第15回 自分の人間観とは？			課題（あなたにとっての「人間」について自分なりに考えてみる）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％ ただし、例外あり、ルールに関わる情報を見よ。			
レポート	なし			
小テスト等	各講義の最後に簡単な問題に答えてもらうが、特に成績には反映させない			
成果発表	なし			
受講態度他	目に余る場合には、退出を要求し出席を取り消す場合がある。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語は厳禁。講義開始後30分以上遅刻した場合には入室は認めるが、出席としては認めない(欠席扱い)。 テストの成績が可否のボーダーライン上にある場合には、受講態度を考慮する場合がある。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『男と女の倫理学』ナカニシヤ出版 篠原駿一郎・浅田淳一 『幸福の薬を飲みますか?』ナカニシヤ出版 細川亮一			
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	人間形成総合演習【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	人間形成専攻専任教員		単 位	2
授業の目的と概要	卒業ゼミナール（または卒業論文）へ向けて、自分自身の問題意識を深化させたり、自らの研究能力を向上させたりすることを目的とする。 自らの問題意識に基づいたテーマを設定し、そのテーマについて調査・研究を行いながら、グループワークをしたり、討論したりする。			
到達目標	卒業ゼミナールもしくは卒業論文・卒業研究のテーマを決定することができる。 研究していく上で必要な問題設定、文章構成、資料の扱い方などを習得することができる。 他の学生との生産的な議論を行うことができる。 卒業論文・卒業研究作成に必要な資料を収集し、その資料を自分なりにまとめることができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	初C（3）-②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C（3）-②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C（3）-②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C（3）-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C（3）-②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 既習内容を多面的に捉え直し、自らの考えを構築していくことが期待されます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（演習の進め方・研究の方法の説明など）		追究するテーマの大枠を明確にしておく。	
第2回	研究の進め方①（テーマの決定方法等）		追究したいテーマの大枠について発表できるように準備する。	
第3回	研究の進め方②（研究方法等）		研究の進め方をまとめたり、発表の準備（資料作成等）をしたりする。	
第4回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名）		発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第5回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名）		発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第6回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名）		発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第7回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名）		発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第8回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名）		発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第9回	研究方針の再構成		1回目の発表・討論を踏まえ、研究内容や進め方を再構成する。	
第10回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名）		発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第11回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名）		発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第12回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名）		発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第13回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名）		発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第14回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名）		発表資料の作成、発表テーマの事前学習（他者）	
第15回	中間報告会		各自の発表準備や以後の研究の進め方について検討する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。			
教科書	授業の際に指示する。			
指定図書	授業の際に指示する。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスアワー	担当教員の他科目のシラバスを参照してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	人間形成特殊講義Ⅰ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	平山 静男・徳野 光昭		単 位	2
授業の目的と概要	授業の前半では、小学校教員として必要な基礎的指導力を身につけることができるようになることを目的とする。 基礎的指導力については、実践的な指導場面を取り上げながら演習を行う。 授業の後半では、教科を横断した環境教育の指導力を身につけることができるようになることを目的とする。 環境教育の指導力では、小学校における環境教育の推進、小学校における環境教育の指導の展開、小学校における実践事例について学び、具体的な小学校における環境学習メニューを考案する。			
到達目標	1, 小学校教員として必要な基礎的指導力について、自分なりの学級経営の方針を抱き文章等に表現することができる。 2, 与えられた問題場面に即した児童への生活指導を、学級担任の話として模擬的に行うことができる。 3, 持続可能な社会の構築と環境教育の重要性について説明することができる。 4, 学校における環境教育について説明することができる。 5, 具体的な小学校における環境学習メニューを作成することができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 この科目は、「人間形成特殊講義Ⅱ」「人間形成特殊講義Ⅲ」と関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション。小学校教員としての基礎的学力（数学）「数・式・計算について法則を使って問題を解こう」（徳野）		資料を使って数学基礎の復習をする。	
第2回	小学校教員としての基礎的学力（数学）「方程式・不等式について公式を活用して問題を解こう」（徳野）		資料を使って方程式・不等式の公式を復習する。関数、グラフの予習。	
第3回	小学校教員としての基礎的学力（数学）「1次関数について関数とグラフを使って問題を解こう」（徳野）		資料を使って1次関数の発展問題を解く。2次関数のグラフの予習。	
第4回	小学校教員としての基礎的学力（数学）「2次関数について関数とグラフを使って問題を解こう」（徳野）		資料を使って2次関数の発展問題を解く。平面図形の性質の予習。	
第5回	小学校教員としての基礎的学力（数学）「平面図形について図形の性質を活用して問題を解こう」（徳野）		資料を使って平面図形の発展問題を解く。立体図形について予習。	
第6回	小学校教員としての基礎的学力（数学）「立体図形について図形の性質を活用して問題を解こう」（徳野）		資料を使って立体図形の発展問題を解く。確率について予習。	
第7回	小学校教員としての基礎的学力（数学）「確率・統計について事象を数理的に捉え、分析し問題を解こう」（徳野）		資料を使ってデータの整理と分析の復習をする。7回までのまとめをする。	
第8回	小学校教員としての基礎的学力（数学）「数学のまとめをし発展問題を解こう」（総合演習、テスト）（徳野）		数学の学習のまとめをするとともに関連する問題に取り組む。	
第9回	持続可能な社会の構築と環境教育（平山）		配付資料の復習	
第10回	学校における環境教育（平山）		配付資料の復習	
第11回	小学校における環境教育の推進（平山）		環境学習メニューの検討	
第12回	小学校における環境教育の指導の展開（平山）		環境学習メニューの検討	
第13回	小学校における実践事例（平山）		環境学習メニューの検討、環境学習メニューの発表準備	
第14回	具体的な小学校における環境学習メニューの発表（平山）		発表内容の振り返り	
第15回	具体的な小学校における環境学習メニューの改善案の発表（平山）		発表内容の振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	20％。小学校教員としての基礎的指導力で実施する。			
小テスト等	50％。小学校教員としての基礎的指導力（数学）で実施する。			
成果発表	20％。。小学校教員としての基礎的指導力で実施する。			
受講態度他	10％。受講上の留意点・ルールに即して評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・私語は厳禁。 ・正当な理由なく欠席しないこと。 ・欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。 ・参加型の授業になるので主体的な取組を望む。 ・数学においては毎回小テストを行うので授業外学習をしっかりと行うこと。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	授業内容に応じて適宜紹介する。			
オフィスワー	徳野は授業の前後、平山は火曜日3限		メールアドレス	

授 業 科 目	人間形成特殊講義Ⅱ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松本 和寿・竹熊 真波		単 位	2
授業の目的と概要	本科目は、教育現場の今日的課題や日本の教育政策の動向等について、教育原理や教育史の知見を適用して検討し教育者としての考えを形成するとともに、教育実践と理論を結ぶものの見方や考え方、考察の仕方などを身に付けることを目的とする。 講義は、第6回までを教育史中心、それ以降を教育原理中心のオムニバス形式で行い、各回、授業者が教育現場の実際や教育政策の動向に関する情報を提供する。			
到達目標	1 教育現場の今日的課題や日本の教育政策の動向について考察し教育者としての考えをもつことができる。 2 教育に関する諸課題について教育実践と教育理論を関連させながら多面的に考察する態度を身に付けることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この科目は、3年次「人間形成特殊講義Ⅰ」と関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション・近世までの日本の学校		配布資料を熟読しシラバスに即した授業外学修の計画を立てる。	
第2回	西洋の教育思想		前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。	
第3回	子ども観の変化と教育方法の変遷（西洋）		前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。	
第4回	子ども観の変化と教育方法の変遷（日本）		前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。	
第5回	近代以降の日本の学校		前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。	
第6回	西洋の教育理論・教育改革		前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。	
第7回	日本の教育制度、学校組織、教育行政		前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。	
第8回	初等・中等教育の教育課程		前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。	
第9回	中教審答申と新しい教育		前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。	
第10回	新学習指導要領の柱		前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。	
第11回	新学習指導要領の要点（各教科）		前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。	
第12回	新学習指導要領の要点（道徳、特別活動等）		前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。	
第13回	人権教育		前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。	
第14回	学校教育の諸問題		前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。	
第15回	まとめ		前回の授業の際に配布された資料に目を通し問題を解く。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 教育の諸課題についてのレポートを課します。			
小テスト等	60％ 教育原理や教育史の基本的知識について数問のテストを実施します。			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ 授業での発言や質問等積極的な態度を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・教員採用試験を受験する学生の履修を望みます。 ・予習、復習を欠かさず行うことを履修の条件とします。			
教科書	なし 授業の際に資料を配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	文部科学省『学習指導要領解説』（各教科編）※教科教育法の授業で購入したものを使用。 竹熊真波『教育原理－教員を目指す学生のために－』中川書店			
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	人間形成特殊講義Ⅲ【講義】		開講時期	後期
担 当 教 員	平山 静男・石原 努		単 位	2
授業の目的 と概要	小学校・中学校の教員として、身に付けておく必要のある「教育法規」「教育心理」について学修することを目的とする。講義前半の「教育法規」では、教員として理解をしておく必要のある法的知識について学修する。講義後半の「教育心理」では、学校現場で活用することのできる、児童生徒の発達や学習理論、評価の方法等について学修する。			
到達目標	・教員として必要な基本的な法的知識を身に付けることができる。 ・児童生徒の発達や心理、また、学校現場で活用することのできる学習理論や評価方法等について理解することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 この科目は、「人間形成特殊講義Ⅰ」「人間形成特殊講義Ⅲ」と関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション、講義の概要説明、法規の基礎・基本		復習（配付資料をもとに）	
第2回	最新7法を読み解く		復習（配付資料をもとに）	
第3回	教育法規を読み解く：教職員の服務、教員の研修、学校保健・安全計画		復習（配付資料をもとに）	
第4回	教育法規を読み解く：全体の奉仕者、教育の基本理念、政治教育の中立性		復習（配付資料をもとに）	
第5回	教育法規を読み解く：義務教育、教育行政の中立性、教育委員会の組織		復習（配付資料をもとに）	
第6回	教育法規を読み解く：児童・生徒の懲戒、教育の目的・目標、保健・給食（食育）		復習（配付資料をもとに）	
第7回	教育法規を読み解く：教育を受ける権利、教育の機会均等、児童・生徒の保護		復習（配付資料をもとに）	
第8回	教育法規を読み解く：学校の設置者、教育を受けさせる義務、懲戒、教科書の定義・使用義務、学校の施設・設備		復習（配付資料をもとに）	
第9回	教育心理学の歴史		教育心理学の歴史に関連する内容をまとめ復習する。	
第10回	教育心理に関連の深い心理学者（発達理論に関する人物）		各心理学者の考え方等についてまとめる。	
第11回	教育心理に関連の深い心理学者（学習理論に関する人物）		各心理学者の考え方等についてまとめる。	
第12回	適応・不適応・人格について		適応・不適応・人格の理論やその測定方法についてまとめる。	
第13回	学級集団について		学級集団の形成過程や教師のリーダーシップについてまとめる。	
第14回	教育評価について		教育評価の方法等についてまとめる。	
第15回	教育心理に関するまとめ		第9～14回までに学修した教育心理について復習する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	70％ 学修した内容に関する小テストを実施する。詳細は、授業内で指示する。			
成果発表	20％ 学修した内容をまとめたものを発表する。詳細は、授業内で指示する。			
受講態度他	10％ 授業への真摯な取組、積極的な態度等を考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・気持ちのよい履修態度で臨むこと。 ・毎時間の学修内容を必ず復習して小テストに臨むこと。 ・指示された内容がある場合は、必ず、予習・復習を行うこと。			
教科書	特に指定しない			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	『教員採用試験対策セサミノート1「教職教養」』 七賢出版			
オフィスアワー	各担当教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授 業 科 目	人間福祉特論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	高木 佳世子		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義は、人間が人間らしく生きるうえで必要な社会的条件としての社会保障が果たすべき役割と課題について検討することを目的とする。 まず、社会保障が権利として保障されるようになった経緯及び当初目指されていた方向性を確認する。 そのうえで、戦後日本において、人間が人間らしく生きるこの意味を問い、「人間裁判」とも称された朝日訴訟を採りあげ、その経緯と歴史的・社会的意義について考察する。 講義の後半では、こうした検討、考察を踏まえ、近年の社会保障制度改革の動向と問題点をテキストを通して学び、社会保障のあり方を明らかにすることとしたい。			
到達目標	1. 人間が人間らしく生きるとはいかなる意味をもつのかを説明できる。 2. 朝日訴訟の概要と経緯を理解し、その今日的意義について説明できる。 3. 近年の社会保障制度改革の概要と問題点について説明できる。 4. 社会保障のあり方について自分なりの考えをまとめることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	後期開講の「社会福祉学特論」と関連する科目である。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 日本国憲法において社会権が保障されるようになった経緯			社会権の内容についての検討	
第2回 社会保障制度の体系的理解			社会保障制度をバラバラではなく、体系的に理解することの検討	
第3回 日本国憲法と社会保障 ― 生活保護裁判の社会的意義			生存権保障と生活保護制度について検討	
第4回 朝日訴訟（人間裁判）とは何か			朝日訴訟の全体像について検討	
第5回 朝日訴訟（人間裁判）の社会的背景と経緯			朝日訴訟が起こった社会的背景と経緯について検討	
第6回 朝日訴訟（人間裁判）の歴史的・社会的意義			朝日訴訟がもった歴史的・社会的意義について検討	
第7回 戦後社会保障の展開			戦後社会保障の展開について検討	
第8回 消費税増税と安倍政権の社会保障改革			テキスト第1章	
第9回 生活保護制度改革			テキスト第2章	
第10回 子ども・子育て支援新制度			テキスト第3章	
第11回 医療制度改革			テキスト第4章	
第12回 介護保険制度改革			テキスト第4章	
第13回 公的年金制度改革			テキスト第5章	
第14回 社会保障改革のゆくえと課題			テキスト第6章およびテキスト出版以降の動向	
第15回 社会保障のあり方について			社会保障のあり方について検討	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50％（朝日訴訟、社会保障改革について指示した課題の発表）			
受講態度他	50％（課題発表、討論など、講義への主体的参加度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	○後期開講の「社会福祉学特論」との連続性があるが、本科目のみ履修されても差し支えない。 ○大学院の授業なので、教員が一方的に講義を行うのではなく、受講生に発表を課し、講義中にも意見を求めることになる。したがって、受身の姿勢ではなく、主体的な問題意識をもって受講してほしい。			
教科書	伊藤周平『社会保障改革のゆくえを読む』（自治体研究社、2015年）を使用するが、詳細は講義時に指示する。			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスアワー	金曜4限	メールアドレス		

授 業 科 目	認知・学習心理学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	榊 祐子		単 位	2
授業の目的 と概要	人間の心は「知・情・意」と密接に結びついているといわれているが、「認知心理学」は、「知」の側面から人間を理解しようとする学問である。心理学では比較的新しい分野である認知心理学において、記憶や言語といった人間の知識や認識に関連した機能のしくみやその働きについて学ぶことを目指す。「学習心理学」では、生得的な基盤や過去の体験、さらに現在の環境といった様々な要因のもとで、人間の学習行動がどのように獲得されるのかという問題について理解を深める。我々が外界からの情報や刺激を取り入れたり、様々な学習を通して体験したことを、どのように知識や経験として蓄積しているのか、そのプロセスを以下の内容に沿って学んでいく。			
到達目標	①知覚の処理システムについて具体例を用いて述べることができる ②記憶の構造や仕組みを整理し、実証的研究から明らかになったことを説明することができる ③日常生活における学習行動を条件づけのプロセスを使い説明することができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心C (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 福C (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。2			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	ガイダンス：授業の概要と受講にあたっての留意点の説明		認知・学習心理学のイントロダクションの復習	
第 2回	学習心理学とは：学習とは、研究の方法		学習の定義についての復習	
第 3回	古典的条件づけ①：古典的条件づけの定義と分類		古典的条件づけの定義についての復習	
第 4回	古典的条件づけ②：古典的条件づけの獲得、消去		古典的条件づけの生起のプロセスについての復習	
第 5回	オペラント条件づけ①：オペラント条件づけの定義と分類		オペラント条件づけの生起のプロセスについての復習	
第 6回	オペラント条件づけ②：オペラント条件づけの基礎、強化		オペラント条件づけの強化のプロセスについての復習	
第 7回	概念、記憶と学習：概念学習、イメージの記憶		概念とイメージについての復習	
第 8回	まとめ①		学習心理学の全体像についての復習	
第 9回	認知心理学とは：「認知」とは、認知心理学の成立		認知心理学の定義についての復習	
第10回	知覚：見るということ、空間知覚		知覚のプロセスについての復習	
第11回	記憶のしくみ①：記憶のシステム		記憶のシステムについての復習	
第12回	記憶のしくみ②：忘却と検索		忘却と検索のプロセスについての復習	
第13回	概念と言語：カテゴリー、言語の獲得		概念と言語獲得についての復習	
第14回	知識と表象：知識としての記憶、スキーマ理論		知識とスキーマ理論についての復習	
第15回	まとめ②		認知心理学の全体像についての復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 学習、認知に関するテストを実施			
レポート	20％ 授業中にショートレポートを作成			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ 授業に関する質問やコメントの内容			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退出は慎むこと。 簡単な実験を実施することがありますので、遅刻をしないよう留意してください。			
教科書	指定なし			
指定図書	指定なし			
参考図書	梅本・大山・岡本 『心理学 心のはたらきを知る』 サイエンス社 北尾・中島・井上・石玉 『グラフィック心理』 サイエンス社			
オフィスアワー	火曜日 5 限		メールアドレス	

授 業 科 目	発達心理学Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大 薨 香		単 位	2
授業の目的 と概要	人は受精から死ぬまで生涯発達していく。本授業では胎児期、乳幼児期、児童期までを中心とし、発達について学ぶことを目的とする。認知機能の発達、感情・社会性の発達、自己と他者の関係のあり方など心理学的な視点から学びを深めていく。さらに、発達障害等を含む非定型発達についての基礎的な知識を身につける。また、子どもを理解するための視点や子どもが健やかに成長していくための援助の在り方についても理解を深める。			
到達目標	・各時期の発達の特徴を説明することが出来る。 ・認知・人間関係・情緒など諸側面の発達について概観を述べる事が出来る。 ・子どもの発達と周囲の大人からの働きかけについて述べる事が出来る。 ・発達障害等を含む非定型発達について説明することが出来る。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 な ど	
第1回 生涯発達心理学とは			教科書はしがき、0章の復習 ミニレポ ー ト	
第2回 各時期における発達の特徴・発達の理論			教科書1章の復習 復習プリントへの準 備	
第3回 胎児期の発達			教科書2章の復習 復習プリントへの準 備	
第4回 乳幼児期の認知の発達			教科書3章の復習 復習プリントへの準 備	
第5回 コミュニケーションと人間関係の発達（1） アタッチメントの発達			教科書第4章の復習 復習プリントへの 準備	
第6回 コミュニケーションと人間関係の発達（2） アタッチメントの個人差			教科書第4章の復習 復習プリントへの準 備	
第7回 言語の発達（1） ことばが芽生えるまで			教科書5章の復習 復習プリントへの準 備	
第8回 言語の発達（2） 幼児期の言語発達			教科書5章の復習 復習プリントへの準 備	
第9回 遊びの発達			教科書5章の復習 復習プリントへの準 備	
第10回 自己の発達			教科書6章の復習 復習プリントへの準備	
第11回 感情の発達			教科書7章の復習 復習プリントの準備	
第12回 仲間関係・社会性の発達			教科書7章の復習 復習プリントへの準備	
第13回 児童期の思考の発達（1） 学校での学び			教科書8章の復習 復習プリントへの準 備	
第14回 児童期の思考の発達（2） 動機づけ			教科書8章の復習 期末試験への準備	
第15回 非定型発達への理解 				

授 業 科 目	発達心理学Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	板井 修一		単 位	2
授業の目的と概要	の科目は、基礎科目のうちの人間理解に関する科目である。学部における4年間の学びや研究に必要な理論・技法を身につけ、そのうえでひとの心の発達とはどういうことかを理解するための科目である。 思春期と青年期は、人の一生のなかでも、身体的・精神的に大きな成長、変化を体験する時期でもある。青年期は疾風怒濤の時代と表現されることもあるように、精神的に不安定になる危険性を孕んでいるが、アイデンティティの獲得が発達課題ともなる重要な時期でもある。その後の成人期は、仕事や子育てに没頭する時期でもあるが、中年期には心の揺らぎが生ずる危機を孕んだ時期でもある。老年期は人生の完結期とも言われるが、さまざまな心の拠り所としていたものを失う、「喪失を体験する危機の時でもあります。授業は、各発達段階の特徴について、理解し説明できるようになることを目的とする。			
到達目標	1. 各発達段階の特性を理解し、説明することができる。 2. 各発達段階における発達課題について、的確に説明することができる。 3. 各発達段階における適応上のつまずきと病気について、説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 この講義と関連する科目として「発達心理学Ⅰ」があり、併せて受講することによって、人間の一生を見通した発達の理解ができるようになる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	思春期の特性、第二次的性徴と身体的発達		自分の思春期体験について振り返りまとめる	
第 2回	思春期の心理と危機		自分の思春期を振り返り、親や大人との関係について分析・整理	
第 3回	青年期の特色		「アイデンティティ」とは何かについて調べる	
第 4回	青年期の心理特性（1）青年中期		アイデンティティ獲得をテーマとした映画を視聴	
第 5回	青年期の心理特性（2）青年後期		視聴した映画について内容を分析・整理	
第 6回	青年期の発達課題		自分のアイデンティティ確立のプロセスと現状について点検しまとめる	
第 7回	成人期の特色		成人期に関係した配布資料を読む	
第 8回	成人期の心理と中年の危機		中年世代の心理的危機について、さまざまな情報源から実例を探す	
第 9回	成人期の発達課題		親の生き方から、成人期の発達課題を点検・整理する	
第10回	老年期の特色		老年期に関連する配布資料を読む	
第11回	老化に伴う身体的変化		廊下に伴う身体的変化とエイジズムについて調べる	
第12回	老年期の心理		高齢者の自殺について調べる	
第13回	老年期の発達課題		高齢者の生き甲斐について調べる	
第14回	ターミナル期の心理的課題		ターミナルケアについて調べる	
第15回	総括		総括で話した、授業内容のポイントについて復習する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験			
レポート	0%			
小テスト等	40% [（期日内提出5点＋内容5点）×4回=40点]			
成果発表	0%			
受講態度他	授業の進行を妨げるような私語については、厳しく注意します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義をよく聴き、ノートにきちんとまとめること。4つの発達段階ごとに、まとめの小テストを実施する。授業外学習として出された課題は、各自ファイルを作成し整理をする。提出を求め、点検をすることがある。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて随時紹介をする。			
オフィスアワー	火曜日の3時間目		メールアドレス	

授 業 科 目	発達と教育【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	酒井 均・石原 努		単 位	2
授業の目的と概要	本講義は、幼児・児童・生徒の各発達段階の特徴、諸側面の発達過程とその特徴を学び、近年の子どもたちに特徴的にみられる発達の様相や問題について考察することにより、子どもの心身の発達についての理解を深めることを目的とする。さらに特別支援教育において対象とされる発達障害の概要とその支援方法や支援体制についても学習することを目的とする 近年の子どもたちは発達上の問題を多く抱えている。本講義では、子どもの発達についての理解を深める中で、教育実践への活用を目指した学習をすすめていく。さらに、発達障害に対する正しい知識と支援の方法をあわせて身につけていってほしい。学生には、日ごろから教育や子どもに関係する事柄に関心を持ち、情報の収集に努めてほしい。			
到達目標	・乳幼児期から青年期までの発達段階の特徴を述べることができる。 ・ソーシャルスキル、ことばの発達過程について説明することができる。 ・発達上の問題について考察し、必要な教育活動・支援について自分の見解を述べることができる。 ・発達障害について説明でき、その支援方法について述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 「学校心理学」や「教育心理」の科目も受講することで、児童生徒に関するより深い理解につながります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション		ショートレポート	
第 2回	発達について		ショートレポート	
第 3回	発達段階の特徴 乳児期～幼児期		ショートレポート	
第 4回	発達段階の特徴 児童期～青年期		ショートレポート	
第 5回	ソーシャルスキルの発達（1） 乳幼児期～児童期		ショートレポート	
第 6回	ソーシャルスキルの発達（2） 思春期～成人期		ショートレポート	
第 7回	ことばの発達（1） 乳児期～幼児期の発達		ショートレポート	
第 8回	ことばの発達（2） 児童期～青年期の発達		ショートレポート	
第 9回	発達・教育支援の方法 アセスメント		ショートレポート	
第10回	発達・教育支援の方法 ABA		ショートレポート	
第11回	発達・教育支援の方法 BAA ソーシャルスキルトレーニング		ショートレポート	
第12回	発達・教育支援の方法 サバイバルスキルトレーニング		ショートレポート	
第13回	発達・教育支援の方法 感覚統合		ショートレポート	
第14回	発達障がいについて		ショートレポート	
第15回	家族支援について		最終レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	毎回のショートレポート30％、最終レポート70％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度については、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭等にふさわしい態度を求めます。遅刻、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	「よくわかる発達心理学」「よくわかる発達障害」 ミネルヴァ書房			
オフィスワーク	担当教員の他科目のシラバスを参照してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	発達と教育(中等教職)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	水内 良子		単 位	2
授業の目的と概要	本講義は、幼児・児童・生徒（障がいのある幼児・児童・生徒を含む）の各発達段階の特徴、諸側面の発達過程とその特徴を学び、近年の子供たちに特徴的にみられる発達の様相や問題について考察することにより、子どもの心身の発達についての理解を深めることを目的とする。			
到達目標	乳幼児期から青年期までの発達段階の特徴を述べることができる。言葉・社会性・認知の発達について説明することができる。発達上の問題について考察し、必要な教育活動・支援について自分の見解を述べることができる。発達障害について理解し、その支援方法について述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育の基礎理論に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 発達とは		ショートレポート	
第2回	発達段階の特徴 （１）乳幼児期		ショートレポート	
第3回	発達段階の特徴 （２）児童期		ショートレポート	
第4回	発達段階の特徴 （３）青年期のアイデンティティ		ショートレポート	
第5回	発達段階の特徴 （４）青年期の問題		ショートレポート	
第6回	言葉の発達		ショートレポート	
第7回	社会性の発達		ショートレポート	
第8回	認知の発達		ショートレポート	
第9回	障がいについて 概論		ショートレポート	
第10回	発達障がいについて （１）ASD		ショートレポート	
第11回	発達障がいについて （２）ADHD		ショートレポート	
第12回	発達障がいについて （３）LD		ショートレポート	
第13回	家族支援		ショートレポート	
第14回	発達を測る		ショートレポート	
第15回	まとめ		最終レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	毎回のショートレポート３０％、最終レポート７０％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	－			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度については、教職生にふさわしい態度を求めます。遅刻、私語、携帯電話の使用は厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	それぞれの時間で紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	発達臨床演習（家族）【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	森田 理香		単 位	2
授業の目的と概要	現代社会では、かつて存在していた地縁・血縁・社縁による子育て支援のシステムが失われ、核家族が地域社会の中で孤立し子育てをしなければならない状況が生まれています。また個食・孤食という言葉に象徴されるように、家族団らんの象徴であった食卓の風景も大きく変化しています。家族を取り巻く環境と共に、家族の在り方も変わりつつあるようです。この授業では、文献を通して現代家族が抱える諸問題と家族支援について考察することを目的とします。具体的には、各自が興味あるテーマを設定し文献収集、資料を作成して発表します。受講生全員でそのテーマについて考え、討論します。			
到達目標	1. 現代家族の多様な問題を考察することができる。 2. 選んだテーマと目的に沿って文献を収集し、資料を作成することができる。 3. 効果的なプレゼンテーションによって、自分の意見や主張を人に伝えることができる。 4. 他者の意見を聞き、自らの意見を適切に表明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション	：授業のねらいと進め方		課題①各自のテーマを考える	
第 2回 発表テーマの検討、意見交換			テーマを設定して文献を検索する	
第 3回 発表テーマの決定、発表予定者の決定			文献収集し、発表のアウトラインを考える	
第 4回 各自が選んだテーマについて発表し、討論する			課題②レジュメの作成、発表の準備	
第 5回 各自が選んだテーマについて発表し、討論する			発表資料の作成、発表の準備	
第 6回 各自が選んだテーマについて発表し、討論する			発表資料の作成、発表の準備	
第 7回 各自が選んだテーマについて発表し、討論する			発表資料の作成、発表の準備	
第 8回 各自が選んだテーマについて発表し、討論する			レジュメの作成、発表の準備	
第 9回 各自が選んだテーマについて発表し、討論する			発表資料の作成、発表の準備	
第10回 各自が選んだテーマについて発表し、討論する			発表資料の作成、発表の準備	
第11回 各自が選んだテーマについて発表し、討論する			発表資料の作成、発表の準備	
第12回 各自が選んだテーマについて発表し、討論する			発表資料の作成、発表の準備	
第13回 各自が選んだテーマについて発表し、討論する			発表資料の作成、発表の準備	
第14回 各自が選んだテーマについて発表し、討論する			発表資料の作成、発表の準備	
第15回 総括			期末レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	―			
レポート	50% （期末レポート40％、授業内でのミニレポート10％）			
小テスト等	―			
成果発表	30% 発表内容、発表の方法、質疑応答の仕方			
受講態度他	20% 他の学生の発表へ積極的関心、討論への参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ねらいを明確にして、レジュメを作成し、発表してください。 質疑応答を通してそれぞれの理解を深めていくために、全員の積極的発言を求めます。			
教科書	使用しない			
指定図書	なし			
参考図書	日本家族心理学会編 『家族心理学年報』 金子書房			
オフィスアワー	火曜日2講目、またはメールで相談		メールアドレス	

授 業 科 目	発達臨床演習（障がい児・者）【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	針塚 進		単 位	2
授業の目的 と概要	本授業は、障がい児・者の障がい特性・心理的特性と、障がい児・者を取り巻く社会的状況について理解を深めることを目的とする。具体的には、各自が設定したテーマについて文献収集し、資料を作成して、発表をする。さらにディスカッションを通して互いに理解を深めていく。			
到達目標	1．選んだテーマについて情報収集し、適切な発表資料を作成することができる。 2．効果的なプレゼンテーションを通して問題提起をすることができる。 3．発表者のプレゼンテーションについて自分の意見をまとめ、的確に伝えることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回オリエンテーション：授業の進め方の説明、発表テーマの検討			発表テーマを考える	
第2回テーマの設定、意見交換			テーマについての情報収集、発表の目的を設定する	
第3回グループに分かれてのテーマを深める			発表資料の作成、準備	
第4回発表とディスカッション			発表資料の作成、準備	
第5回発表とディスカッション			発表資料の作成、準備	
第6回発表とディスカッション			発表資料の作成、準備	
第7回発表とディスカッション			発表資料の作成、準備	
第8回発表とディスカッション			発表資料の作成、準備	
第9回発表とディスカッション			発表資料の作成、準備	
第10回発表とディスカッション			発表資料の作成、準備	
第11回発表とディスカッション			発表資料の作成、準備	
第12回発表とディスカッション			発表資料の作成、準備、期末レポートの準備	
第13回発表とディスカッション			発表資料の作成、準備、期末レポートの準備	
第14回発表とディスカッション			発表資料の作成、準備、期末レポートの準備	
第15回まとめ			期末レポートの作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	期末レポート30％、授業中のミニレポート20％			
小テスト等	0％			
成果発表	30％			
受講態度他	20％ 積極的な質問やディスカッションへの参加態度を評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	発表は問題意識を明確に行い、積極的なディスカッションを求めます。 発表者の欠席、授業中の携帯電話の操作は厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	各自のテーマに対して授業中に提示			
オフィスアワー	水曜日・木曜日の午後	メールアドレス		

授 業 科 目	発達臨床演習（女性）【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	森田 理香		単 位	2
授業の目的と概要	現在、女性の生き方は多様化し、多くの選択肢が与えられています。本授業では女性の人生について心理学的な立場から理解することを目的とします。授業では文献を通して、女性のライフサイクルにおける課題や葛藤について考察します。具体的には、各自が関心のあるテーマを絞り、文献を収集し、発表資料を作成し、さらに、発表を行います。また、他者の発表に対して自分の意見を表明することが出来ることになることも求めます。人前でいかに自分の意見や主張を発言できるか重視します。			
到達目標	1．女性のライフサイクルにおける心理的な課題や葛藤について自分なりのテーマを見つける。 2．女性のライフサイクルにおける課題について文献を収集し、資料を作成する。 3．効果的なプレゼンテーションの方法で自分の意見や主張を述べることが出来る。 4．他者の発表に対して、自分の意見を表明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 テーマの設定、文献検索、資料作成、発表に関しては「基礎ゼミナールⅠ」で基礎的なスキルを身に着け、本講義ではそのスキルを応用します。また、「女性心理学」では女性の生涯発達についてさらに深く学ぶことが出来ます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション 講義のねらい、課題、進め方の確認		各自テーマの設定を行う	
第 2回	課題設定、発表予定者の決定、意見交換		テーマを設定し、文献を検索する	
第 3回	グループ討論① 絵本を通して考える		グループ討論のテーマについて振り返る	
第 4回	グループ討論② 結婚の条件		グループ討論のテーマについて振り返る	
第 5回	グループ討論③ 子育てについて		グループ討論のテーマについて振り返る	
第 6回	グループ討論④ 共働き世帯の現実		グループ討論のテーマについて振り返る	
第 7回	グループ討論⑤ マタハラ、パタハラとは		グループ討論のテーマについて振り返る	
第 8回	発表、討論① 担当者による成果発表、討論		発表資料の作成、発表、振り返り	
第 9回	発表、討論② 担当者による成果発表、討論		発表資料の作成、発表、振り返り	
第10回	発表、討論③ 担当者による成果発表、討論		発表資料の作成、発表、振り返り	
第11回	発表、討論④ 担当者による成果発表、討論		発表資料の作成、発表、振り返り	
第12回	発表、討論⑤ 担当者による成果発表、討論		発表資料の作成、発表、振り返り	
第13回	発表、討論⑥ 担当者による成果発表、討論		発表資料の作成、発表、振り返り	
第14回	発表、討論⑦ 担当者による成果発表、討論		発表資料の作成、発表、振り返り	
第15回	全体のまとめ		期末のレポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	6 0％（学期末のレポート40％、ミニレポート10％+授業内での課題10％）			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ 口頭発表（レジュメの作り方、プレゼンテーション）、質疑応答（コメントや質問に対する答え）			
受講態度他	20％ 人の発表に対するコメント、質問に対してポイントを加算します。 私語、居眠りはポイントを減点します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各自が責任を持って発表を行うこと。遅刻厳禁。 受講者数によって、授業の内容を変更することがあります。その場合は、授業の中で説明します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 2限		メールアドレス	

授 業 科 目	発達臨床演習（児童・青年）【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大 霧 香		単 位	2
授業の目的と概要	児童期から青年期においては、人間関係が広がり、心身が急激な変化遂げていく時期でもあるが、一方で心理的に不安定な状態陥りやすい時期でもある。学習上の問題、学校におけるいじめや不登校の問題、親との関係性の問題、進路選択の問題など臨床的な課題は多岐にわたる。 本授業では児童期・青年期特有の心理的課題や諸問題について知ること、およびそれに対する支援について理解していくことを目的とする。この授業では自分が関心を持つ児童期・青年期におけるテーマについて説明することが出来るようになること、さらに様々なテーマに関し自分なりの意見や考えを述べる事が出来るようになることを目的とする。			
到達目標	1. 児童期・青年期の心理的特徴や諸問題について調べることが出来る。 2. 児童期・青年期の心理的な課題およびその支援について説明することが出来る。 3. 児童や青年が直面する課題やその支援について自分の考えを述べる事が出来る。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション	テーマ、文献について		テーマについて考える	
第2回 文献講読 ①	(児童期)	意見交換	ミニレポート	
第3回 文献講読 ②	(青年期)	意見交換	ミニレポート	
第4回 発表・討論	(発表者1)	口頭発表・討論	資料作成	ミニレポート
第5回 発表・討論	(発表者2)	口頭発表・討論	資料作成	ミニレポート
第6回 発表・討論	(発表者3)	口頭発表・討論	資料作成	ミニレポート
第7回 発表・討論	(発表者4)	口頭発表・討論	資料作成	ミニレポート
第8回 発表・討論	(発表者5)	口頭発表・討論	資料作成	ミニレポート
第9回 発表・討論	(発表者6)	口頭発表・討論	資料作成	ミニレポート
第10回 発表・討論	(発表者7)	口頭発表・討論	資料作成	ミニレポート
第11回 発表・討論	(発表者8)	口頭発表・討論	資料作成	ミニレポート
第12回 発表・討論	(発表者9)	口頭発表・討論	資料作成	ミニレポート
第13回 発表・討論	(発表者10)	口頭発表・討論	資料作成	ミニレポート
第14回 発表・討論	(発表者11)	口頭発表・討論	資料作成	ミニレポート
第15回 まとめ	総合評価・講評		期末レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート40％ 授業ごとのミニレポート30％			
小テスト等	なし			
成果発表	30％			
受講態度他	受講態度が悪い場合は減点する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	演習に主体的に取り組み、発表を行うこと。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 4 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	発達臨床演習（成人・老年）【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	板井 修一		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、成人・老年期に焦点をあてながら、発達支援・発達臨床の具体的な援助技法や実践的なアプローチを学ぶものである。 この半世紀の間に日本では急速に長寿化が進み、高齢者は長い成人期と長い老年期を過ごすことになった。超高齢社会のフロントランナーである日本の高齢者がサクセスフル・エイジングを実現するためには、先ず長期化した成人期と老年期について理解し、長い人生を自ら設計することが必要と言える。 この授業は、私たちが人生の主人公として主体性を持って自分らしく最後まで生活していくためには、どのような内的資源と外的資源が必要か考察することを目的とする。具体的には、成人期と老年期についていくつかのテーマのもとで各自がテーマを選択し、文献収集・発表し、ディスカッションによって理解を深めていく。			
到達目標	1. 成人期と老年期の心理的課題とその支援について、説明することができる。 2. サクセスフル・エイジングを可能にするために必要な内的・外的資源について、自らの考えを述べることができる。 3. 選んだテーマの発表を通して問題提起をすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 この授業の基礎には11年次科目「発達心理学Ⅱ」が位置づけられます。また、この授業での学びは、4年次の「卒業ゼミナールⅠ・Ⅱ」や「卒業論文」に発展して行くことが期待されます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション： 授業の目的と進め方		事前配布された次回資料に目を通す	
第2回	成人期のストレスと老年期のサクセスフルエイジング 授業で扱うテーマを概観する		配布資料をもとに担当希望のテーマを考える	
第3回	担当テーマと発表スケジュールの確認		事前配布された次回の文献を精読。 発表担当者は発表資料を作成する	
第4回	成人期① 発表と討論 日本人の職業意識 働き中毒 燃え尽き症候群		事前配布された次回の文献を精読。 発表担当者は発表資料を作成する	
第5回	成人期② 発表と討論 失業 リストラ 転職		事前配布された次回の文献を精読。 発表担当者は発表資料を作成する	
第6回	成人期③ 発表と討論 アルコール依存 ギャンブル依存 買い物依存		事前配布された次回の文献を精読。 発表担当者は発表資料を作成する	
第7回	成人期④ 発表と討論 DV PTSD		事前配布された次回の文献を精読。 発表担当者は発表資料を作成する	
第8回	成人期⑤ 発表と討論 空の巣症候群 共依存		事前配布された次回の文献を精読。 発表担当者は発表資料を作成する	
第9回	成人期⑥ 発表と討論 成人期の精神障害 働き盛りの自殺 うつ病		事前配布された次回の文献を精読。 発表担当者は発表資料を作成する	
第10回	老年期① 発表と討論 老年期の精神障害 認知症		事前配布された次回の文献を精読。 発表担当者は発表資料を作成する	
第11回	老年期② 発表と討論 介護 老々介護 介護負担		事前配布された次回の文献を精読。 発表担当者は発表資料を作成する	
第12回	老年期③ 発表と討論 高齢者虐待		事前配布された次回の文献を精読。 発表担当者は発表資料を作成する	
第13回	老年期④ 発表と討論 リハビリテーション		事前配布された次回の文献を精読。 発表担当者は発表資料を作成する	
第14回	老年期⑤ 発表と討論 サクセスフルエイジング QOL 生きがい		事前配布された次回の文献を精読。 発表担当者は発表資料を作成する	
第15回	老年期⑥ 発表と討論 ターミナルケア		期末レポートの作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	4 0 ％ 期末レポート課題の内容の質を評価する。			
小テスト等	0％			
成果発表	4 0 ％ 発表内容・発表態度・発表資料。			
受講態度他	2 0 ％ ディスカッションでの質疑応答における積極的参加を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	成人期・老年期を考える場合、喪失によるネガティブな側面と臨床的な問題に比重がおかれがちであるが、その発達段階のポジティブな側面についても理解を深めたい。 事前に資料(文献)を配付するので、必ず精読したうえ参加すること。 発表は問題意識を明確に行い、積極的なディスカッションを求める。 発表者の欠席は厳禁。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	なし。			
オフィスアワー	火曜日の3時間目		メールアドレス	

授 業 科 目	発達臨床演習（乳・幼児）【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	榊 祐子		単 位	2
授業の目的 と概要	現代の日本社会において、乳幼児期の子どもたちを取り巻く環境には大きな変化がみられる。家族だけでなく、社会全体で子どもたちの成長に関わる現状を理解し、具体的にどのような支援が行なわれているのか検討する。最終的に、地域における支援策について、実践計画を立てることを目的とする。乳幼児期の発達やその特徴について再確認し、現代社会が乳幼児期の子どもたちをどのように支えているのか具体的な実践活動を検証する。それらの活動を通して、乳幼児に対するよりよい支援のあり方を具体的に説明できる力を身につける。			
到達目標	①乳幼児期の子どもたちに対する育児や支援の現状や変遷について調べることが出来る ②地域社会（福岡やその近辺）で実際にどのような子育て支援が行なわれているのか調べ、問題点や課題を具体的に説明することが出来る			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション：授業の構成、進め方について		授業のイントロダクションについて復習	
第 2回	文献検索、論文収集：文献検索や論文収集の方法についての確認		文献検索	
第 3回	研究計画作成：テーマの選択とグループ分け、発表までの計画作成		発表にについての研究計画作成	
第 4回	テキスト講読・発表①		予習（発表予定のトピックの講読）	
第 5回	テキスト講読・発表②		予習（発表予定のトピックの講読）	
第 6回	テキスト講読・発表③		予習（発表予定のトピックの講読）	
第 7回	テキスト講読・発表④		予習（発表予定のトピックの講読）	
第 8回	テキスト講読・発表⑤		復習（発表予定のトピックの講読）	
第 9回	子育て支援プロジェクト作成①		プロジェクトに関するテーマ、問題点、課題の整理	
第10回	子育て支援プロジェクト作成②		プロジェクトに関する実践例や現状の整理	
第11回	子育て支援プロジェクト作成③		発表資料の作成	
第12回	発表・討論① 自分たちが出来る子育て支援プロジェクト		子育て支援プロジェクトに関する振り返り	
第13回	発表・討論② 自分たちが出来る子育て支援プロジェクト		子育て支援プロジェクトに関する振り返り	
第14回	発表・討論③ 自分たちが出来る子育て支援プロジェクト		子育て支援プロジェクトに関する振り返り	
第15回	まとめ：各研究テーマの達成度や課題について検討		達成度や今後の課題についての振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 発表した内容についてレポートにまとめる			
小テスト等	－			
成果発表	40％ 乳幼児期に関するテーマについての発表			
受講態度他	10％ 発表に対する質疑応答への態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退出は慎むこと。			
教科書	無藤隆・佐藤恵理子 訳 『子どもの養育に心理学がいえること』 新曜社			
指定図書	指定なし			
参考図書	指定なし			
オフィスアワー	火曜日5限	メールアドレス		

授 業 科 目	発達臨床心理学Ⅱ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大 薊 香		単 位	2
授業の目的 と概要	人は受精してから死まで様々な変化をとげていく。その過程で様々な困難にも出会い、発達的な問題・心理的な問題が生じることもある。本講義では思春期、青年期、成人期、老年期におけるその発達的な特徴を心理学的な視点から理解することを目的とする。さらに各時期に起こりうる臨床的な問題や心理臨床的支援について知ることを目的とする。			
到達目標	・各時期における発達上の課題について述べる事が出来る。 ・各時期に起こりやすい発達の問題・心理的問題について説明することが出来る。 ・各時期に応じた心理臨床的支援について述べる事が出来る。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション		授業の復習	
第 2回	適応、不適応について		資料の通読・授業の復習	
第 3回	パーソナリティ形成とこころの問題		資料の通読・授業の復習	
第 4回	心理臨床学的支援の基礎		資料の通読・授業の復習	
第 5回	思春期①：思春期の発達課題		資料の通読・授業の復習	
第 6回	思春期②：思春期の心理的問題（学校への適応）		ミニレポート①への準備	
第 7回	思春期③：思春期の心理的問題（こころの病を中心に）		ミニレポート①への準備	
第 8回	思春期④：思春期の心理的問題（障がいを中心に）		ミニレポート①への準備	
第 9回	青年期①：青年期の発達課題		資料の通読・授業の復習	
第10回	青年期②：青年期の心理的問題		ミニレポート①	
第11回	成人期①：成人期の発達課題		資料の通読・授業の復習	
第12回	成人期②：成人期の心理的問題		ミニレポート②への準備	
第13回	老人期①：老年期の発達課題		資料の通読・授業の復習	
第14回	老人期②：老年期の心理的問題		ミニレポート②	
第15回	総括・まとめ		レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	レポート65％			
レポート	ミニレポート30％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	5％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	資料を配布するので、各自ファイルを用意すること			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に紹介する。			
オフィスアワー	火曜日 4 講目	メールアドレス		

授 業 科 目	博物館概論(博物館学芸員)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	時里 奉明		単 位	2
授業の目的と概要	目的：この授業では、「博物館とは何か」について学ぶ。まず、私にとって博物館って何だろうと自問自答してほしい。それをふまえたうえで、博物館の制度、歴史、種類について基本的な問題を学習する。最終的に博物館は地域社会にとってどのような存在なのかを検討する。この講義を通して、私における博物館、社会における博物館を考える。 概要：授業を通して、私にとって博物館とは何か、社会にとって博物館とは何か、について答えを持つようにしたい。そして実際に博物館を訪れること。人文系博物館と関連する、歴史、民俗、考古、美術の科目に広く興味をもつことを希望する。			
到達目標	1 博物館とは何かという問いに答えることができる。 2 博物館が制度的な存在であることを理解できる。 3 博物館の歴史を説明できる。 4 博物館が多種多様であることを理解できる。 5 レポートを作成することによって、論理的な思考をまとめることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、博物館学芸員課程の専門科目である。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	ガイダンス：スケジュールと履修方針の確認 私にとって博物館とは何か？		課題（評価の確認と心構え）	
第 2回	博物館の制度（１）：博物館法		課題（博物館法第2条は暗記する）	
第 3回	博物館の制度（２）：関連法規（文化財保護法）		課題（レポート①太宰府市の文化財）	
第 4回	博物館の制度（３）：博物館法の分類、学芸員制度		課題（レポート①は第5回まで）	
第 5回	博物館の制度（４）：組織と運営、国際機構		課題（レポート①は第5回まで）	
第 6回	博物館の現状と課題（ディスカッション）		課題（現状と課題を理解する）	
第 7回	博物館の歴史（１）：ヨーロッパ		課題（レポート② 『ミュージアムの思想』について感想文）	
第 8回	博物館の歴史（２）：ルーブル美術館（ビデオ鑑賞） アメリカ		課題（レポート②は第9回まで）	
第 9回	博物館の歴史（３）：日本		課題（レポート②は第9回まで）	
第10回	博物館の種類（１）：①総合 ②人文系		課題（レポート③博物館の調査）	
第11回	博物館の種類（２）：③自然系		課題（レポート③は12回まで）	
第12回	現代社会と博物館（１）：地域社会と博物館		課題（レポート③は第12回まで）	
第13回	現代社会と博物館（２）：社会福祉と博物館		課題（期末レポートの作成）	
第14回	現代社会と博物館（３）：情報化社会と博物館		課題（期末レポートの作成）	
第15回	まとめ		課題（期末レポートの作成）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	85％ 学期中レポート3回と期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	15％ 毎回授業の感想を提出、簡単なテストを含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回授業の感想を提出し、出欠を確認する。感想はコメントをつけて、次回の授業で返却する。欠席、遅刻は厳禁、最初の授業で説明する。授業中はディスカッション、質疑応答など行うので、積極的な姿勢をお願いしたい。			
教科書	毎回プリントを配布する。			
指定図書	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』芙蓉書房出版（2012年）			
参考図書	講義中に紹介する。			
オフィスアワー	金の昼休み。研究室にいる時はいつでも。	メールアドレス		

授 業 科 目	博物館教育論(博物館学芸員)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	高松 麻美		単 位	2
授業の目的と概要	近年博物館は、社会における生涯学習意欲の高まりを背景に、充実した教育活動の実施を求められています。そのため博物館は、資料の収集や保管、調査研究といった取り組みの成果を、展示などを介していかに分かりやすく利用者へ伝えるか、工夫を続けてきました。 この授業では、博物館で行われている教育活動を具体的に学び、利用者に寄り添った博物館教育について知識と実践方法を身につけることを目的としています。			
到達目標	・博物館で学ぶ意義について自身の考えを述べるができる。 ・博物館で行われている教育活動の具体例を列挙できる。 ・博物館ならではの教育プログラムを立案できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、博物館学芸員課程の専門科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス——博物館教育とは		復習：学校教育との違いについて理解する。	
第2回	利用者が求める博物館教育		復習：利用者の実態について理解する。	
第3回	博物館教育の形態と担い手		復習：具体的な教育活動について理解する。	
第4回	博物館教育の例①——展示における工夫		復習：展示上の工夫や関連の補助教材について理解する。	
第5回	博物館教育の例②——体験型展示の意義		復習：体験型展示の利点と問題点について理解する。	
第6回	博物館教育の例③——講演会・講座・イベントの立案と運営		復習：開催意図や実施までの具体的な流れについて理解する。	
第7回	課題制作——教育プログラムの作成		課題：教育プログラムを作成し、発表の準備をする。	
第8回	成果発表		復習：他者の発表を振り返り学習を深める。	
第9回	博物館教育の例④——資料データベースの公開		復習：情報公開の利点と問題点について理解する。	
第10回	博物館と学校の連携——授業での利用、学芸員の養成		復習：博物館と学校の連携について理解する。	
第11回	博物館と地域の連携——講師派遣、資料の貸出し		復習：博物館と地域の連携について理解する。	
第12回	博物館ボランティア		復習：ボランティアの実態について理解する。	
第13回	博物館教育の評価と課題、展望		復習：博物館教育が抱えている課題について理解する。	
第14回	学外授業——太宰府市文化ふれあい館見学		復習：博物館での実際の取り組みについて理解する。	
第15回	まとめ		課題：期末レポートを作成する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ 教育プログラムを作成し、口頭発表			
受講態度他	30％ 授業への参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回、A 7サイズ程度の出席カードを配布します。授業の感想や質問を記入して提出することで出席とみなします。このカードは、コメントをつけて次回の授業で返却します。 学外授業における見学地への交通費は、各自の負担とします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	博物館経営論(博物館学芸員)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大津 忠彦		単 位	2
授業の目的と概要	目的：博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養い、学芸員としての社会的問題意識と実践意欲の大小が博物館経営にとって重要であることを理解することが目的です。そのために、まずは博物館の実情と問題を、いくつかの具体例について検討・考察します。そして、学芸員は「人類共通の文化財」を社会に生かし、次代に伝える責任を自覚し、新鮮な感性を磨きつづけることが切に望まれること、そしてこのことが博物館経営における学芸員の基であることを認識します。 概要：博物館の経営にかかわる諸問題の実情事例を、講義での解説・考察の材料に提示して授業を進行します。「芸術文化に関わる経営学」の財政、人事的困難さ、「高度情報化社会」において博物館が求められる対応の多様性・柔軟性がどのように工夫されているか、その具体例・問題点を理論面と実践面より再検証します。			
到達目標	・博物館経営と一般企業経営との類似点・差異（博物館経営の特性）を具体的に挙げて説明することができる。 ・博物館経営における関連分野の多様性について、具体的に挙げて説明することができる。 ・博物館活性化のための具体的方策（アイデア）を提案することができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、博物館学芸員課程の専門科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 再考：博物館の社会的使命			「博物館法」第2条の暗唱	
第2回 博物館の経営内容と関連周辺状況			「博物館法」第2条の暗唱	
第3回 博物館経営の担い手と受益者			課題①：近隣の博物館事情レポート	
第4回 博物館経営原理：理念と現実			第5回までに課題①を提出	
第5回 「ミュージアム・マネジメント」－その（1）：知的充実感			第5回までに課題①を提出	
第6回 「ミュージアム・マネジメント」－その（2）：非日常的充足感			課題②：博物館経営問題に関わる報道事例の探査	
第7回 博物館経営と博物館施設			第8回までに課題②を提出	
第8回 博物館経営と「組織」			第8回までに課題②を提出	
第9回 博物館の人材と財政課題			課題③：「博物館建替え」要不要問題事例を考える	
第10回 博物館経営－我が国における歴史的変遷			第11回までに課題③を提出	
第11回 外国の博物館経営事情			第11回までに課題③を提出	
第12回 博物館経営と地域社会			課題④：博物館活性化への提言	
第13回 博物館経営と高度情報化社会			第15回までに課題④を提出	
第14回 博物館経営における新戦略とその可能性			第15回までに課題④を提出	
第15回 「博物館経営論」総括			第15回までに課題④を提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	50％ ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	50％ ②受講態度（含、時々的小テスト成果や「授業外学習」課題提出成果）を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・上記「成績評価」、「割合（％）、種類・評価基準など」欄の、①と②の判定組合せが「秀&秀」・「秀&優」を秀、「秀&良」・「優&優」を優、「秀&可」・「優&良」・「優&可」・「良&良」を良、「良&可」・「可&可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。 ・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。講義の進行に集中し、自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	博物館資料保存論(博物館学芸員)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	加藤 和歳		単 位	2
授業の目的 と概要	博物館には長い年月を越えて遺されてきた数多くの美術工芸品、古文書や考古資料などが保存、展示公開されており、わたしたちの歴史や文化を護り、伝えていく場所として役割を果たしています。この授業では、主に歴史系博物館における資料保存および展示環境を科学的に捉え、資料が良好な状態で保存されていくための考え方や具体的な取り組みの理解を目的とします。 資料は保存するだけではなく、多くの人たちに見ていただくことが重要です。資料という「もの」と、観覧者や学芸員という「ひと」との関係を考え、博物館が「もの」にも「ひと」にも優しい施設になるよう、そのあり方や手法を文化財保存環境の立場から考えます。			
到達目標	1. 博物館資料が保存上、置かれている現状を知り、劣化させる要因やメカニズムを科学的な視点で理解できるようになる。 2. 多様な種類、材質をもつ博物館資料の科学的調査、保存修復手法を理解し、適切な資料保存対策に関する考え方や基礎的な知識を身につけることができ、博物館での実務がわかるようになる。 3. 資料という「もの」と観覧者や学芸員という「ひと」との関係を考え、博物館が「もの」にも「ひと」にも優しい施設となるよう、文化財保存環境の立場から、そのあり方や手法を具体的に述べるができるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は、博物館学芸員課程の専門科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	イントロダクション		課題：博物館にどのような種類の資料が展示されているか調べる	
第 2回	資料の保存環境 1（温度・湿度・光とその対策）		課題：博物館の環境と身近な生活環境を比較し、違いを考える 1	
第 3回	資料の保存環境 2（室内の空気汚染とその対策）		課題：博物館の環境と身近な生活環境を比較し、違いを考える 2	
第 4階	資料の保存環境 3（博物館周辺の大気汚染とその対策）		課題：博物館の環境と身近な生活環境を比較し、違いを考える 3	
第 5回	資料の保存環境 4（生物被害とその対策 IPM:総合的有害生物管理）		課題：博物館の環境と身近な生活環境を比較し、違いを考える 4	
第 6回	資料の保存環境 5（地震・水害等気象災害による被害と対策）		課題：博物館のリスクを考える 1	
第 7回	資料の保存環境 6（梱包・輸送・火災・盗難・人的破壊による被害とその対策）		課題：博物館のリスクを考える 2	
第 8回	資料の劣化と科学的調査 1（考古資料）		課題：博物館のリスクを考える 3	
第 9回	資料の劣化と科学的調査 2（美術工芸品・古文書・典籍・歴史資料）		課題：博物館のリスクを考える 4	
第10回	資料の保存修復の考え方と実際（考古資料・古文書・典籍・歴史資料）		課題：博物館等で行われる保存の工夫を調べる 1	
第11回	博物館資料保存の現場（現地研修：九州歴史資料館）		課題：博物館等で行われる保存の工夫を調べる 2	
第12回	資料の保存対策 1（伝統的な保存対策）		課題：博物館等で行われる保存の工夫を調べる 3	
第13回	資料の保存対策 2（文化財公開施設に関する法規と資料保存に関する倫理）		課題：博物館等で行われる保存の工夫を調べる 4	
第14回	博物館における資料の保存と活用（展示・収蔵から野外、景観・歴史的環境まで）		課題：博物館等で行われる保存の工夫を調べる 5	
第15回	まとめ		課題：期末レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 期末レポートを提出してもらいます。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 出席・授業への参加姿勢を重視します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回、異なるテーマについて授業を行うので遅刻・欠席・早退しないようにしてください。第11回の授業は現地集合、現地解散とします。各自、交通費を用意してください（最寄り駅：西鉄天神大牟田線 三国ヶ丘駅）入館料は不要。授業中、 中学校理科第一分野程度の用語が出てきて戸惑うことがあるかもしれませんが、文系に軸足を置いた内容としています。			
教科書	毎回、プリントを配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	①三浦定俊 佐野千絵 木川りか 『文化財保存環境学（第2版）』 朝倉書店 ②京都造形芸術大学編 『文化財のための保			
オフィスワ－	授業後＋メール		メールアドレス	

授 業 科 目	博物館資料論(博物館学芸員)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大津 忠彦		単 位	2
授業の目的と概要	目的：博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養います。何がどのように収集され、どのように活用されているのかについて具体例を参考に考察します。 概要：博物館の「資料」に関する役割のうち、その収集、保管、活用についての具体的手法や留意点・問題点を学びます。博物館が所蔵する資料は、その博物館ばかりでなく社会情勢の変遷を具現していることを国内外の事例から理解し、将来に継承して行くべき公的財産であり、学芸員の果たすべき責務を考えます。			
到達目標	・博物館資料の様々な収集法について具体的に述べることができる。 ・企業博物館とその所蔵資料の具体例を列挙することができる。 ・博物館資料の安全性に関し、保管（収蔵）と活用（展示ほか）の視点から留意点を説明することができる。 ・博物館資料の様々な活用法について、具体的に述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、博物館学芸員課程の専門科目です。 この授業は全学D P ②の「現代社会を生きる自己を実現するための幅広い教養と特定分野の知識・技能を獲得している。」、全学D P ③「社会の多様な問題に取り組む実践力を身につけている。」、日本語・日本文学科DP④「日本文化の構造や特徴について説明することができる」、英語学科D P ④「英語を活かすための職業上の知識や技能の基礎を身につけている」、アジア文化学科のDP④「アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる。」という目的の達成に関わる科目です。この科目と共に、「博物館概論」、「博物館展示論」を受講すると相互の理解が深まります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回 「博物館資料」と博物館法第2条			課題①：「博物館 法」第2条の暗唱	
第 2 回 「博物館資料」の実際：東京国立博物館と「湯島聖堂博覧会」			課題①：「博物館 法」第2条の暗唱	
第 3 回 「博物館資料」の実際：東京国立博物館の収蔵品事例			課題②：近隣博物 館に「重要文化 財」を捜す	
第 4 回 なにが、どのようにして博物館資料になるのか：様々な収集法とその実態			課題②：近隣博物 館に「重要文化 財」を捜す	
第 5 回 なにが、どのようにして博物館資料になるのか：博物館資料収集法における留意点			課題②：近隣博物 館に「重要文化 財」を捜す	
第 6 回 「企業博物館」（日本）の収蔵品事例より：石橋コレクション、出光コレクション			課題③：1品レポ ート（企業博物館）	
第 7 回 「企業博物館」（日本）の収蔵品事例より：白鶴美術館、大倉集古館			課題③：1品レポ ート（企業博物館）	
第 8 回 「博物館資料」の収集、来歴：外国の事例よりーアシュモレアン博物館			課題④：1品レポ ート（欧州博物館）	
第 9 回 「博物館資料」の収集、来歴：外国の事例よりー大英博物館・ルーブル美術館ー			課題④：1品レポ ート（欧州博物館）	
第10回 「博物館資料」：継承すべき「文化遺産」			課題④：1品レポ ート（欧州博物館）	
第11回 博物館資料の保管ー安全性の優越ー			課題⑤：九州国立 博物館の展示法 レポート	
第12回 博物館資料の活用ー展覧会ー			課題⑤：九州国立 博物館の展示法 レポート	
第13回 博物館資料と教育、医療、福祉			課題⑤：九州国立 博物館の展示法 レポート	
第14回 博物館資料と学芸員ー多様性と望まれる「創意」			上記課題①～⑤ の再点検・提出	
第15回 博物館資料論総括			上記課題①～⑤ の再点検・提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	50％ ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	50％ ②受講態度（含、時々の小テスト成果や提出課題成果）を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・上記「成績評価に関する情報」欄の、①と②の判定組合せが「秀&秀」・「秀&優」を秀、「秀&良」・「優&優」を優、「秀&可」・「優&良」・「優&可」・「良&良」を良、「良&可」・「可&可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。 ・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。受講態度の良否は成績評価に大きく影響します。講義の進行に集中し自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。			
教科書	ありません。			
指定図書	ありません。			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	博物館情報・メディア論(博物館学芸員)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大橋 光雄		単 位	2
授業の目的と概要	授業では、メディアの意義と博物館情報・メディアの理論、それに博物館における情報発信と博物館と知的財産について用途や必要性を理解しさらに活用していく方法を考えていきます。 いま急速に発展する電子メディアから溢れ出る多様な情報化社会と教育のかかわりについて考察し進めていく。 学校教育・社会教育・生涯学習機関（博物館、図書館等における視聴覚メディア利用の意義と実際について理解する。視聴覚教育の歴史、各種メディアの機能、すぐれた教材例、すぐれた実践例について学び、その特性と機能を理解し、それを教育の場でどのように生かせばよいかを考える。			
到達目標	博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解する 博物館の情報提供と活用等に関する基礎的能力を養う 博物館を情報とメディアの活用によって活性化に導く			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	この科目は、博物館学芸員課程の専門科目です。 関連する科目： 生涯学習概論/博物館概論/博物館経営論/博物館資料論/博物館資料保存論/博物館展示論/博物館情報・メディア論/博物館教育論 博物館実習			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	進化する博物館（博物館情報・メディア論の解説）		アミューズメント について調べてみる	
第2回	メディア としての博物館（視聴覚教育メディア論の発展）		ユビキタスについて調べてみる	
第3回	情報とメディアの基礎 1（情報とはなにか？）		メディアとしての博物館について調べてみる	
第4回	情報とメディアの基礎 2（メディアとはなにか？）		利用方法について調べてみる	
第5回	博物館情報・メディアの心理と学習		利用方法について調べてくる資料 ドキュメンテーションとデータベース化	
第6回	博物館メディアリテラシー		利用方法について調べてくる	
第7回	メディアを活用した展示手法 1		映像展示について調べてみる	
第8回	メディアを活用した展示手法 2 （ICT社会の中の博物館）		ICTについて調べてくる	
第9回	情報から情報発信へ		情報発信の方法について調べてくる	
第10回	博物館のインターネットの活用		ICTについて調べてみる	
第11回	デジタルアーカイブスの現状と課題（権利処理の方法）		デジタルアーカイブス管理運営について調べてくる	
第12回	メディアによるユニバーサルの手法		多文化教育について調べてみる	
第13回	情報とメディアの法的問題 1 制作と利用方法 知的財産（著作権等）		著作権等について調べてくる	
第14回	情報とメディアの法的問題 2 個人情報（肖像権等）		個人情報について調べてくる	
第15回	近未来の博物館		メディアの課題 権利処理について調べてくる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	5 0％この授業をきっかけとして、いかに考えて、それを理解出来たかを評価する。			
レポート	4 0％この授業をきっかけとして、いかに考えて、それを表現することが出来たかを評価する。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	1 0％質問や感想発表等による授業への積極的参加を考慮します。 視聴覚機材等の準備操作をおこなう。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎講義の初めに前回の振り返りと配布資料の説明をおこなう。			
教科書	適宜 プリント配布			
指定図書	『視聴覚メディアと教育』玉川大学出版部&樹村房 『博物館映像展示論』雄山閣			
参考図書	授業の中で適宜紹介 DVDも含む 『博物館と情報』中央新書			
オフィスワー	授業後に質問を受ける。		メールアドレス	

授 業 科 目	博物館実習(博物館学芸員)【実習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	森田 真也・小林 知美		単 位	3
授業の目的と概要	この講義の目的は、博物館・美術館についての知識を獲得し、博物館学芸員の実務と研究について理解し、その技能を身につけることにある。また、あわせて現代社会における博物館・美術館、学芸員の役割について学外実習において実践的に学ぶことから、市民としての社会責任を理解し、社会人として生きる力を培う。なお、博物館実習は、前期の学内実習（博物館見学を含む）と主に夏休み期間中に各博物館・美術館等で実施される学外実習で構成されている。 学内実習：民俗学（森田）、美術史（小林）の２クラスに分かれ、学芸員に必要な技能を学ぶ。年二回、博物館・美術館見学に行く（事前・事後の「見学レポート」提出）。 学外実習：各博物館が準備しているプログラムによって行なわれる。実習期間はほぼ２週間。この間、「実習日誌」をまとめる。実習後、報告会を行ない、「学外実習レポート」を提出する。年度末に冊子『学芸員の星たち』を編集する。			
到達目標	・博物館・美術館についての知識を深めることが出来る。 ・博物館学芸員の実務と研究について理解することが出来る。 ・博物館学芸員の基礎的技能を身につけることが出来る。 ・学外実習を通して、市民としての社会責任について理解し、社会人として生きる力を獲得することが出来る。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	博物館に関する知識や技能を習得し、博物館学芸員の資格を取得する。 博物館に関する科目、「生涯学習概論」「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」の全てに関係する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回：	博物館実習について		授業の目的と内容、進め方について理解する	
第 2 ～11回：	学内実習（１）民俗学…森田		課題① 民俗学実習 具体的課題は担当教員の指示に従うこと	
第 2 ～11回：	学内実習（２）美術史…小林		課題② 美術史実習 具体的課題は担当教員の指示に従うこと	
第12回：	九州国立博物館見学		事後レポート	
第13～14回：	博物館・美術館見学		見学事前レポート・事後レポート	
第15回：	学外実習オリエンテーション		実習館に関する事前リサーチ	
第16～27回：	学外実習（各博物館・美術館） 実習期間中、各館のプログラムに従い学芸員の指導を受け、「実習日誌」を作成する		（課題）（予習）（復習）各実習館の担当者の指示に従うこと	
第28～29回：	博物館・美術館見学		見学事前レポート・事後レポート	
第30回：	学外実習報告会		学外実習内容の整理、発表、レポート	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	無し。			
レポート	見学レポート、学外実習レポート等 ２０％。			
小テスト等	無し。			
成果発表	無し。			
受講態度他	学内実習 ３０％。受講態度 ２０％（無断欠席をしないこと）。学外実習 ３０％。学外実習の評価は、実習を担当する博物館・美術館による。「実習日誌」の記述も評価に関係する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	用意する必要があるものは、講義中に指示する。また、掲示板等を確認し、オリエンテーションや報告会には必ず出席すること。博物館見学の際、土日を利用することがある。その際、博物館施設への入場料等は自己負担となる場合もある。集団での移動となる。欠席、遅刻の際には連絡すること。受講態度に問題がある場合、学外実習にいけないこともある。 この講義は、学外の博物館とも関係する。自覚と積極的な意思を持って臨むこと。 提出物の期限が守られない場合は単位を「不可」とすることがある。			
教科書	無し。			
指定図書	無し。			
参考図書	各教員が授業中に個別に指示する。			
オフィスアワー	水曜日昼休み（12:30～13:00）。		メールアドレス	

授 業 科 目	博物館展示論(博物館学芸員)【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大津 忠彦		単 位	2
授業の目的と概要	目的：展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養い、博物館における展示とは、博物館資料を通してのコミュニケーションのひとつであり、モノを見せることを社会的使命とする博物館にとってもっとも大切な表舞台に関わることを理解することが目的です。 概要：博物館の展示にかかわる基本的課題を、理論と、実践（展示作業）上の技術的視点より考察します。博物館展示論は、対象物たるモノ（博物館資料）の真価を、どのように来館者に伝えるか、そのコミュニケーションに関わる、創意・工夫が求められる実践論です。実際の博物館展示事例を参照しつつ、博物館利用者側および博物館側の双方の立場から、博物館展示の諸問題を考察します。			
到達目標	・博物館における「展示」の特異性を博物館学的に説明することができる。 ・博物館展示における基本的留意事項、工夫を実例に即して説明することができる。 ・博物館展示には、学芸員のほか、様々な業種がふかく関わることを具体例を挙げて説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、博物館学芸員課程の専門科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	「博物館展示論」概観		「博物館法」第2条の暗唱	
第2回	博物館展示の実例検討ーその①		「博物館法」第2条の暗唱	
第3回	博物館展示の実例検討ーその②		課題①：近隣の博物館展示実態レポート（その①）	
第4回	博物館展示の意義・原理		第5回までに課題①を提出	
第5回	「博物館展示」をめぐる利用者（来館者）vs博物館		第5回までに課題①を提出	
第6回	博物館展示と「展示室」		課題②：展覧会開催関連業界レポート（その①）	
第7回	博物館展示環境 ーその①：構造的条件		第8回までに課題②を提出	
第8回	博物館展示環境 ーその②：生理的・心理的条件		第8回までに課題②を提出	
第9回	博物館展示方法 ーその①：展示作業		課題③：展覧会開催関連業界レポート（その②）	
第10回	博物館展示方法 ーその②：見せ方の基本技術		第11回までに課題③を提出	
第11回	博物館展示方法 ーその③：見せ方の創意・工夫		第11回までに課題③を提出	
第12回	展示の歴史的変遷と博物館		課題④：近隣の博物館展示実態レポート（その②）	
第13回	博物館展示の将来像と課題		第15回までに課題④を提出	
第14回	再考：博物館展示と学芸員の責務		第15回までに課題④を提出	
第15回	「博物館展示論」総括		第15回までに課題④を提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	50％ ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	50％ ②受講態度（含、時々の小テスト成果や「授業外学習」課題提出成果）を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・上記「成績評価」、「割合（％）、種類・評価基準など」欄の、①と②の判定組合せが「秀&秀」・「秀&優」を秀、「秀&良」・「優&優」を優、「秀&可」・「優&良」・「優&可」・「良&良」を良、「良&可」・「可&可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。 ・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。講義の進行に集中し、自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	はじめての手話【実技】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	本田 いずみ・山口 沙希・市川 杏奈		単 位	1
授業の目的と概要	手話は目で見える言葉であり、聴覚障害者にとってはお互いの意思疎通を図るために有効なコミュニケーション手段としてなくてはならないものである。最近では、テレビのニュースやドラマ、マンガなど、私たちの日常生活の中でも手話を目にする機会が増えてきている。 本講義では、聴覚障害者への理解とコミュニケーション手段（言語）としての手話について、その特徴や、基本的な日常会話を中心に、指文字・口話・筆談・空書・ジェスチャーなどを取り混ぜながら、様々なコミュニケーション・スキルについて、講義と実技を通して学んでいく。			
到達目標	1. 聞こえ、聴覚障害についての正しい理解ができる。 2. 指文字や日常生活に必要な手話単語を覚え、表現できる。 3. 手話で基本的な日常会話（読み取りも含む）、コミュニケーションができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	聴覚障害者の生活と手話		ミニ・レポート	
第 2回	大学で学ぶ聴覚障害者の実情 ― 筑紫女学園大学での取り組み（MSG）		ミニ・レポート	
第 3回	表情と物の形		手話表現の復習	
第 4回	指文字と数字の表し方		手話表現の復習	
第 5回	自己紹介・あいさつ （誕生日・年齢・家族）		手話表現の復習	
第 6回	主な手話単語		手話表現の復習	
第 7回	趣味（スポーツ、読書、料理など）		手話表現の復習 ミニテスト①	
第 8回	時制と単位		手話表現の復習 ミニテスト②	
第 9回	学校・職場での会話		手話表現の復習 ミニテスト③	
第10回	買い物・旅行での会話		手話表現の復習 ミニテスト④	
第11回	病院での会話		手話表現の復習 ミニテスト⑤	
第12回	手話スピーチ① （自己表現と相手の読み取り）		手話表現の復習	
第13回	手話スピーチ②（自己表現と相手の読み取り、指文字読み取り）		手話表現の復習	
第14回	手話技能検定模擬試験 第1回		手話技能検定模擬試験の復習	
第15回	手話技能検定模擬試験 第2回		手話技能検定模擬試験の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10％ 講義時に提出するミニ・レポート			
小テスト等	70％ 第14回および第15回目の講義で行う手話技能検定模擬試験および授業内でのミニテスト（全5回）			
成果発表	20％ 第12回および第13回目に行う手話スピーチ			
受講態度他	点数化はしないが、教員の指示に従い、真剣かつ積極的に受講していることが前提となる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義の時間帯のみで手話技術を習得することは困難なので、毎回復習をしておくこと。また、NHKで放送されている「みんなの手話」「ワンポイント手話」「ろうを生きる 難聴を生きる」「こども手話ウィークリー」「手話ニュース」などを視聴して学習を深めること。 手話技能検定や全国手話検定なども実施されているので、興味のある学生は挑戦してほしい。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に指示する			
オフィスアワー	本田、市川、山口：講義終了後		メールアドレス	

授 業 科 目	表象文化論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	一木 順		単 位	2
授業の目的 と概要	表象とは人間の営みの中で生み出された多様な文化事象を対象として、それを生み出した時代や社会との関係性について分析し、そこに現れた人間の意識を理解しようとするものである。本講義では、表象文化論という考え方について、4つのポイント、すなわち「関係的概念」「イメージ分析」「政治性の追求」「理論化」について理解することを目的とする。さらに、「表象」概念の基礎を理解するだけでなく、さまざまな領域を横断して人間の創造行為を捉えなおすことで、表象文化という概念が、現代社会および人間のありようへの知的な批判装置として機能することを理解することを求めたい。			
到達目標	1. 「表象」という観点について説明することができる 2. 表象論に基づいて、現代文化を分析することができる。 3. 自らの分析に基づいて、現代文化の政治性を説明することができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回：授業のイントロダクション			特になし	
第2回：「表象」とは何か―「表象」の範囲			指定された文献を読むこと：『America on Film』 pp.3-12	
第3回：「表象」とは何か―「表象」と「鑑賞」と			指定された文献を読むこと：『America on Film』 pp.13-19	
第4回：「表象」とは何か			指定された文献を読むこと	
第5回：イメージの中の政治-『マダムバタフライ』から			『蝶々夫人』について調べること	
第6回：イメージの中の政治-『マダムバタフライ』と日本への視線			指定された文献を読むこと	
第7回：イメージの中の政治-『ミスサイゴン』から			『ミスサイゴン』について調べること	
第8回：イメージの中の政治-西洋にとってのアジア			指定された文献を読むこと	
第9回：文化の中の政治―サイドの議論から			指定された文献を読むこと	
第10回：文化の中の政治―フィスクの議論から			指定された文献を読むこと	
第11回：表象された「パールハーバー」			『パールハーバー』（2001）の鑑賞レポート作成	
第12回：表象された「パールハーバー」			『永遠のゼロ』（2014）の鑑賞レポート作成	
第13回表象された「パールハーバー」―文化の政治学とは			指定された文献を読むこと	
第14回：ポピュラー文化についての議論			任意のポピュラー文化について調べること	
第15回：ポピュラー文化の政治学			それぞれが選んだ文化を分析すること	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	20％ 授業前課題の提出 40％ コンセプトマップ（詳細は授業内で指示する）			
小テスト等	0％			
成果発表	20％ 授業内でのグループプレゼンテーション			
受講態度他	20％ 受講態度や授業内でのディスカッションへの参加度を勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業の各回の内容は事前に指定された授業前課題の内容に基づいて構成されているので、授業前課題を必ず行って授業に参加すること。 授業内でのディスカッションやグループプレゼンへの参加は必須である。			
教科書	特になし			
指定図書	エドワード・サイード『オリエンタリズム』（ちくま学芸文庫） 渡辺保ほか『表象文化研究』（放送大学教育振興会）			
参考図書	授業内で指示します			
オフィスワー	木曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	比較文化特論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	崔 淑芬		単 位	2
授業の目的と概要	現代はグローバリゼーションによって、世界のあらゆる地域の人々が好むと好まざるとにかかわらず、何らかの形で直接的・間接的な関係を持たざるを得ない状況になってきている。こうした現代に生きる我々にとって、多文化共存・共生に対する理解・交流のための知識とスキルは不可欠である。本講座では、この国際化時代に対応できる柔軟な思考力を身につけるため、総合的に中国の教育とアジア地域の文化をとらえ、特に中国・日本・韓国における文化的異同点の比較研究を通して、少人数クラスにおいて、“自ら調べ、自ら考え”、多文化に対する理解を深め、さらに比較研究水準を高め、現代が抱えるさまざまな問題を自立的に解決できるようになることを目的とする。 学生同士の意見交換を行いながら、多文化であることによって生じた摩擦や問題を設定、これを解決、対応する方法を議論し、それを考えることによって、文化の多様性、相互的な関係を考察する。			
到達目標	①比較教育の観点から教育の役割を考え、論理的な思考力や創造性、表現力、洞察力などを培うとともに、主体的問題を切り拓くことのできる実力を身につけることができる。 ②アジア文化圏についての異文化を学び、理解を深め、さらに日本との比較を通して外国文化の背景を学び、多角的な多文化理解することによって、国際化時代に対応できる柔軟な思考力を身につけることができる。 ③身近な素材から異文化の受容、変貌、発展を考え、「多文化」であることによって生じた摩擦や問題を解決する実力を身につけ、多文化共生の社会・人づくりを考える前提として、世界の様相や日本の状況を把握し、自分の興味に沿った応用法を発見することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	論理的な思考力や創造性、表現力、洞察力などを培うとともに、さらに日本との比較を通して外国文化の背景を学び、多角的な多文化理解することによって、国際化時代に対応できる柔軟な思考力を身につける。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス、「地域性と世界性」			多文化とは何か	
第2回 多文化共生に関わる諸問題①			多文化教育の型、全体討議	
第3回 多文化共生に関わる諸問題②			多宗教社会の構造、宗教とナショナリズム	
第4回 多文化共生社会の宗教と教育① 民族と宗教（内モンゴル・チベットを中心とする）			イスラム教、民族教育のとらえ方	
第5回 多文化共生社会の宗教と教育② 教育と宗教（ウイグル・回族のイスラム教を中心とする）			福祉施設の現状	
第6回 福祉施設SOS「子どもの村」（1）			福祉施設の問題	
第7回 福祉施設「子どもの村」（2）			ジェンダー社会論、労働社会	
第8回 女子教育・社会進出の現状と諸問題①			女子教育の進展	
第9回 女子教育・社会進出の現状と諸問題②			少子化社会の構成	
第10回 少子化社会①現状			青少年の教育問題	
第11回 少子化社会②教育、諸問題			日本の留学生受け入れ政策	
第12回 教育の国際化、30万人留学生の受け入れ①			留学生の実態	
第13回 教育の国際化、海外留学の現状②			現代の教育社会が抱える教育課題を取り上げ	
第14回 多文化・多民族化の進行に伴って生じる問題			現代社会が抱える問題	
第15回 受講者の関心によるテーマの研究、全体討議、総括まとめ			レポートの作成、提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	％			
レポート	30％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	70％ 受講態度関わる姿勢などをふまえ総合的に判定する。 積極的に検討問題に取り込む授業へ参加、総合判断した上で一定基準に達した者を相対評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自ら積極的に発言、真剣に取り組むことが望ましい。 必要に応じて、参加する学生にも文献・資料の講読や発表などを担当してもらう。			
教科書	教科書は使用しない予定。必要に応じプリントなどを配付する			
指定図書	教室で適宜指示する			
参考図書	随時、紹介する			
オフィスアワー	火曜日4限目	メールアドレス		

授 業 科 目	比較文化論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小林 知美		単 位	2
授業の目的と概要	テーマ：日韓芸術比較 すぐれた芸術作品をみると人は感動を覚えるものであるが、そのような感動を出発点として、作品を生み出した時代や地域についての知識を深め、それらを受容していた人々の思いに接近することができる。アジアの多様な文化を理解するため、この授業では、韓国と日本の芸術作品を比較しながら鑑賞し、それぞれの作品の作られた国のその時代の歴史を知ることが目的とします。授業の方法は、まず実体験や映像をとおして作品を鑑賞し、次に文献資料によってその作品の制作背景などに関する知識を身につけ、見ることと知ることの両面から作品に接近します。			
到達目標	・芸術作品を鑑賞し、作品の特徴を把握して、言葉によって描写することができる。 ・韓国と日本の歴史的時代区分と、それぞれの時代の宗教と歴史について概説できる。 ・両国の歴史的時代区分ごとに代表的な芸術作品の名称をあげて説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日文 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 アジア (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション：「比較」芸術史の試み&実地見学の説明		課題①見学作品のレポートと、図書館の参考書からの知見をまとめる	
第 2 回	比較美術 1：古墳		課題①を第4回目までに提出	
第3回	見学：九州国立博物館常設展見学※九博玄関集合、持参：学生証、鉛筆とメモ帖		課題①を第4回目までに提出	
第4回	比較美術 2：金属工芸		課題①を第4回目までに提出	
第5回	比較美術 3：仏像		課題②能楽に関する自由レポート	
第 6 回	比較美術 4：仏画		課題②を第7回目までに提出	
第 7 回	比較芸術 1：仮面と仮面劇 1		課題②を第7回目までに提出	
第 8 回	比較芸術 2：仮面と仮面劇 2		課題③実地見学レポート	
第 9 回	比較美術 5：宮廷絵画		課題③を第11回目までに提出	
第10回	比較美術 6：民衆絵画		課題③を第11回目までに提出	
第11回	比較美術 7：漆工		課題③を第11回目までに提出	
第12回	比較美術 8：陶磁器		課題④自由テーマ：日韓芸術比較から考えたこと	
第13回	まとめ		課題④を1月最終授業までに提出	
第14回	実地見学 (A見学&聴講、B能楽鑑賞のいずれかを選択)		課題③を第11回目までに提出	
第15回	実地見学 (A見学&聴講、B能楽鑑賞のいずれかを選択)		課題③を第11回目までに提出	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	80％(①～④各20％)、提出先：レポートボックス(ボックスを間違えないこと)、文字数：1200字程度、参考文献明記、タイトルは自分で考えて付けること。各回締切：「第〇回目」⇒その週末の16時。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	○学外見学を2回行います。1回目は九州国立博物館常設展(10月8日授業時間に実施、9：20博物館玄関集合、学生証提示で無料)です。 2回目の見学はA展覧会见学&聴講またはB能楽鑑賞のいずれか選択式です。交通費・チケットは各自負担のこと。 A「浄土九州」展見学&聴講、於福岡市博物館、10月13日(土)14：30～17：30、高大生900円、聴講は事前予約必要。 B「塩津能の会」鑑賞、於大濠能楽堂、11月24日(土)13：00～16：30、学生(事前受付必要)1000円、授業で参加者を事前受付			
教科書	なし			
指定図書	鄭干澤・並木誠士編『韓国の美術・日本の美術』昭和堂(2002)、吉良文男『いまこそ知りたい朝鮮半島の美術』小学館(2002)、『日韓で一緒に読みたい韓国史』明石書店(2014)。			
参考図書	菊竹淳一・吉田宏志責任編集『世界美術大全集 東洋編 第10巻 高句麗・新羅・高麗』小学館(1998) 菊竹淳一・吉田宏志責任編集『世界美術大全集 東洋編 第11巻 朝鮮王朝』小学館(1999)			
オフィスアワー	水曜日の昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	比較文学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	間瀬 玲子		単 位	2
授業の目的 と概要	比較文学は、19世紀にヨーロッパで生まれた学問である。言語の境界を超えて普遍的な文学理論をうちたてようとするものである。この授業では比較文学の研究の歴史、方法、領域を学ぶことを目的とする。そして比較文学とは何か、こんにち比較文学を考えることの意味を明らかにすることを目的とする。			
到達目標	1．比較文学の歴史、方法、領域を説明することができる。 2．比較文学を考えることの意味を明らかにすることができる。 3．比較文学研究の国際的な動向を説明することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 関連科目 1年次 言語学、芸術文化論、哲学 2年次 メディアと文化			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	授業の進め方 何ゆえに比較文学なのか		予習 シラバスを読む	
第 2回	境界の問題 （外国、諸外国文学）		予習 授業資料（第2回）	
第 3回	境界の問題 （世界文学、比較の境界線）		予習 授業資料（第3回）	
第 4回	外国作品の受容 （受容の美学、受容の歴史）		予習 授業資料（第4回）	
第 5回	外国作品の受容（受容であって、影響ではない？ 展望）		予習 授業資料（第5回）	
第 6回	文学と言語（原語における作品、翻訳の作品）		予習 授業資料（第6回）	
第 7回	文学と言語（展望）		予習 授業資料（第7回）	
第 8回	神話と文学形式（神話の活力、文学の働き）		予習 授業資料（第8回）	
第 9回	神話と文学形式（神話、国際的なあるいは普遍的な？展望）		予習 授業資料（第9回）	
第10回	各国文学の比較史（道具と表現、問題）		予習 授業資料（第10回）	
第11回	各国文学の比較史（いくつかの見通し）		予習 授業資料（第11回）	
第12回	比較詩学へむけて （詩学それとも諸詩学？、比較（諸）詩学		予習 授業資料（第12回）	
第13回	比較詩学へむけて（一般詩学、比較詩学）		予習 授業資料（第13回）	
第14回	国際比較文学会の動向		予習 授業資料（第14回）	
第15回	授業の総括と比較文学研究の実践		予習 授業資料（第15回）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	5 0％ 授業の内容に関する複数の設問			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	5 0％ 受講態度及び授業への積極的参加			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業前に必ず授業資料を読んでおいてください。 筑女ネットに授業資料（補足）をアップします。			
教科書	教科書はありません。授業資料を配布します。			
指定図書	神楽坂ブック倶楽部編『文豪とアルケミスト』新潮社、小川公代『文学とアダプテーション』春風社、リンダ・ハッチオン『アダプテーションの理論』晃洋書房			
参考図書	授業中に適宜指示します。			
オフィスワー	水曜日 4 講時	メールアドレス		

授 業 科 目	東アジア近現代史【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	白土 悟		単 位	2
授業の目的 と概要	東アジアの近現代史は、日本、朝鮮半島、中国における国内革命運動および欧州列強との政治闘争を軸とした民族間の憎悪と闘争の時代であったと言える。その複雑な様相を知ることは、現代日本の置かれている東アジアおよび世界における位置づけを理解することになる。 本講義では、日本の明治近代国家の成立を起点にして、朝鮮半島、中国で生じた革命運動、日本との戦争と植民地政策、中華人民共和国の成立と欧米のアジア政策について考察することにした。			
到達目標	日本の明治維新と自由民権運動について理解する。 東アジア近現代史の中での日本の位置づけを理解する。 日本による朝鮮半島の植民地化と現代の南北問題について理解する。 中国の辛亥革命と社会主義革命について理解する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	日本における明治近代国家の成立と展開 ①明治維新と明治政府の近代化政策		資料集の指示したところを読んでおくこと	
第2回	日本における明治近代国家の成立と展開 ②士族の反乱と自由民権運動と福岡		前回指示した資料を読んでおくこと	
第3回	日本における明治近代国家の成立と展開 ③日清・日露戦争		前回指示した資料を読んでおくこと	
第4回	中国における封建国家の衰亡 ①清国の衰亡		前回指示した資料を読んでおくこと	
第5回	中国における封建国家の衰亡 ②洋務運動と戊戌の変法		前回指示した資料を読んでおくこと	
第6回	中国における封建国家の衰亡 ③欧米列強による中国の半植民地化		前回指示した資料を読んでおくこと	
第7回	中国における封建国家の衰亡 ④日本留学生の革命運動		前回指示した資料を読んでおくこと	
第8回	中国における近代国家の成立と展開 ①辛亥革命と軍閥		前回指示した資料を読んでおくこと	
第9回	中国における近代国家の成立と展開 ②中国共産党の成立と土地革命		前回指示した資料を読んでおくこと	
第10回	中国における近代国家の成立展開 ③日中戦争と太平洋戦争		前回指示した資料を読んでおくこと	
第11回	中国における社会主義国家の成立 ①国共内戦		前回指示した資料を読んでおくこと	
第12回	中国における社会主義国家の成立 ②朝鮮戦争と中国		前回指示した資料を読んでおくこと	
第13回	中国における社会主義国家の成立 ③社会主義革命—社会意識と経済体制の改造		前回指示した資料を読んでおくこと	
第14回	中国における社会主義国家の成立 ④社会主義経済建設—改革開放政策		前回指示した資料を読んでおくこと	
第15回	中国の政治大国化とアジア・太平洋の安全保障の課題		前回指示した資料を読んでおくこと	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	最終レポート 100%			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	欠席6回以上は「無資格」とする			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	毎回出席を確認する			
教科書	配布資料			
指定図書	なし			
参考図書	山辺健太郎『日韓併合史』岩波書店、1966年。加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日新聞社、2009年			
オフィスワ－	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	東アジア地誌【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	白土 悟		単 位	2
授業の目的 と概要	東アジアの人々の社会経済生活と自然環境との関係を理解した上で、各地の人々が直面する問題を理解することを目的とする。 東アジアは中国、朝鮮半島、モンゴルを含む広大な地域である。現代では国家は一つの経済単位として国内市場を形成するとともに、世界経済の一部となっている。いかなる辺境の社会経済も閉鎖されたものではなく、国内の他の地域や世界の他の国々と密接に結びついている。このような基本的視点を以て東アジアに対する地誌学的認識を高めることにより、日本の社会経済をより正確に理解できるようになるだろう。 授業では東アジアの社会経済、特に経済大国化して周辺国家や世界に大きな影響力をもつ中国を中心に、その政治・経済の動向、それと関連する自然環境、人口問題、農村と都市の社会問題、世界との関わりについて考えることにしたい。			
到達目標	東アジアの社会経済（産業構造）と自然環境の関係について説明ができるようになる。 中国の現代政治・経済政策について説明できるようになる。 中国の自然環境と人口問題（人口政策、高齢化、都市集中など）について説明できるようになる。 中国の農村と都市の社会問題について説明できるようになる。 中国と世界との関わり（大陸横断経済圏、留学政策など）について説明できるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	東アジアの社会経済と自然環境―朝鮮半島		資料集の指示するところを読んでおくこと	
第2回	東アジアの社会経済と自然環境―モンゴル		前回指示した資料を読んでおくこと	
第3回	東アジアの社会経済と自然環境―中国の気候と地形と産業構造		前回指示した資料を読んでおくこと	
第4回	東アジアの社会経済と自然環境―中国の環境問題		前回指示した資料を読んでおくこと	
第5回	中国の現代政治 ①社会主義革命と社会主義建設		前回指示した資料を読んでおくこと	
第6回	中国の現代政治 ②改革開放以後の展開		前回指示した資料を読んでおくこと	
第7回	中国の改革開放経済 ①特区経済と長江デルタ地域		前回指示した資料を読んでおくこと	
第8回	中国の改革開放経済 ②西部大開発と少数民族問題		前回指示した資料を読んでおくこと	
第9回	中国の人口問題 ①人口構造と人口政策		前回指示した資料を読んでおくこと	
第10回	中国の人口問題 ②都市問題と農村労働力の地域移動		前回指示した資料を読んでおくこと	
第11回	中国の人口問題 ③食文化と食糧問題		前回指示した資料を読んでおくこと	
第12回	中国の農村問題		前回指示した資料を読んでおくこと	
第13回	中国と世界との関わり ①経済の海外進出		前回指示した資料を読んでおくこと	
第14回	中国と世界との関わり ②留学派遣政策と留学生受け入れ政策		前回指示した資料を読んでおくこと	
第15回	中国と世界との関わり ③「一帯一路」経済圏構想		前回指示した資料を読んでおくこと	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	最終レポート 100%			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	欠席6回以上は「無資格」とする。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回出席を確認する			
教科書	配布資料			
指定図書	なし			
参考図書	上野和彦編『世界地誌シリーズ ②中国』朝倉書店、2011年。竹内実『現代中国の展開』NHKブックス、1987年			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	東アジア入門【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	妻 海善		単 位	2
授業の目的と概要	アジアの中でも中国（香港含む）、台湾、韓国、北朝鮮を東アジアと定義し、これらの国の基礎的知識、行政区分、近現代における政治変化及び社会経済変化の特徴と流れを学ぶことを目的とする。 ①東アジア諸国の社会経済発展の歩みと背景、今後の展望を説明する。 ②韓国、中国、モンゴル、香港、台湾の基礎的な知識、近現代の歴史、政治、経済の流れを学ぶ。			
到達目標	1. 東アジア各国の個別事情に関して説明することができる。 2. 東アジア各国のお互いの関連性について比較しながら説明することができる。 3. 東アジア諸国と日本の歴史・政治及び経済関係等を体系的に理解することができる。 4. 東アジア諸国と日本との今後の課題やあり方に関して自分の見解を述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	授業概要紹介、座席配置、東アジア地図、東アジアとは		東アジアの地理的、経済的定義を調べる	
第 2 回	東アジア経済、東アジアの目覚ましい発展		東アジアの経済発展の背景を調べる	
第 3 回	日本と東アジアの経済関係、日中韓歴史		日本経済と東アジア経済の関係を調べる	
第 4 回	韓国の基礎知識、韓国の独立と韓国政府樹立		戦後から韓国政府樹立までの歴史を調べる	
第 5 回	朝鮮戦争と南北分断		朝鮮戦争の背景と経緯、その被害を調べる	
第 6 回	戦後の韓国の政治経済		韓国の経済発展の流れを調べる	
第 7 回	韓国と北朝鮮-1		韓国と北朝鮮の関係変化を調べる	
第 8 回	韓国と北朝鮮-2		韓国と北朝鮮の経済関係を調べる	
第 9 回	モンゴルの基礎知識、中国の基礎知識、中国の行政		モンゴル経済の発展の流れを調べる	
第10回	中国の政治経済；中華民国建国から戦前まで		中国の近代史を調べる	
第11回	中国の政治・経済；戦後から1970年代まで		戦後からの中国の政治・経済の流れをまとめる	
第12回	中国の改革開放政策		改革開放政策の特徴をまとめる	
第13回	近年の中国の政治と経済動向		近年中国が抱えている問題を調べる	
第14回	中国、香港、台湾経済		香港経済、台湾経済の特徴を調べる	
第15回	全体のまとめ		全体のまとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	0％			
小テスト等	9 0 %			
成果発表	0％			
受講態度他	1 0 %			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①B5サイズのノートを準備し毎回の授業の内容をまとめておく。 ②小テストには手書きノートのみ持ち込可。 ③欠席が5回を超えると受験できない（就職活動、病気、その他の理由による欠席が5回を超えると相談が必要） ④授業内容に関係のない私語、スマートフォン・携帯電話の使用は禁止する。違反を見つけた場合は、受講態度から減点する。			
教科書	プリントは毎回の授業時に配る。			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で適宜紹介			
オフィスアワー	月～水曜日の昼休み（他の日時を希望する場合は、事前に訪問日時を相談してください）	メールアドレス		

授 業 科 目	ヒンディー語Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	清水 晶子		単 位	1
授業の目的 と概要	ヒンディー語は、ヒンディー映画の普及により広範囲で通用する言葉です。ヒンディー語の学習を通して、インドの伝統、文化、慣習を理解できるように授業をします。インドを旅行する設定の教科書をもとにして、基礎的な文法、現地で実際に使えるヒンディー語の会話文、役に立つ語彙を中心に習得します。授業の中では、言葉の学習のほかに、どのようにしてインドで生活し、人々と交流してきたか体験に基づいてお話したいと考えています。			
到達目標	(１) ヒンディー語の文字を覚える (２) 教科書の例文の読み書きができるようになる (３) ヒンディー語の簡単な会話が理解できる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(２) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (３) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ヒンディー語の文字と発音について		教科書の「はじめに」を読む	
第2回	第1課 あいさつのことば、語順		前回の授業の復習	
第3回	第1課 人称代名詞、コビュラ(he)動詞		練習問題1の提出	
第4回	第2課 男性名詞・女性名詞（主格の単数形・複数形）		前回の授業の復習	
第5回	第2課 男性形容詞・女性形容詞（主格の単数形・複数形）		前回の授業の復習	
第6回	第3課 後置詞と後置格（名詞・形容詞）		前回の授業の復習	
第7回	第3課 後置詞と後置格（名詞・形容詞）		前回の授業の復習	
第8回	第4課 命令表現・依頼表現		前回の授業の復習	
第9回	第4課 所有表現		練習問題2の提出	
第10回	第5課 目的語と後置詞		前回の授業の復習	
第11回	第5課 「必要です」（不変化述語）の表現		前回の授業の復習	
第12回	第1課・第2課の振り返り		これまでの授業の復習及び教科書付属のCDを聴く	
第13回	第3課・第4課の振り返り		これまでの授業の復習及び教科書付属のCDを聴く	
第14回	第5課の振り返り		これまでの授業の復習及び教科書付属のCDを聴く	
第15回	第1－5課で学習した表現、文法のまとめ		これまでの授業の復習及び教科書付属のCDを聴く	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ 最終レポート（2000字以上）・書き取り・練習問題の提出			
小テスト等	10％			
成果発表	－			
受講態度他	10％ 授業への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書付属のCDを繰り返し聴き、ヒンディー語の音に慣れる。例文の音読、聴き取り、書き取りに心がける。			
教科書	町田和彦 『ニューエクスプレス ヒンディー語』 白水社			
指定図書	－			
参考図書	－			
オフィスワー	授業の前後、メール		メールアドレス	

授 業 科 目	ヒンディー語Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	清水 晶子		単 位	1
授業の目的 と概要	日常で使用される頻度の高い名詞や動詞を覚えて、いろいろの場面での会話に対応できるようにします。ヒンディー語 [I] の授業で習得したヒンディー語とインドに関する知識を踏まえて、どのようにしたら積極的に自分の方からコミュニケーションがとれる（発信できる）ようになるか考えていきます。インドについて関心のある分野を持ち、将来もインドと親しく関わっていけるような授業にしたいと思います。			
到達目標	(1) ヒンディー語で簡単な会話ができるようになる (2) ヒンディー語で簡単な文章が表現できるようになる (3) 語彙を増やす			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 第6課 未来形 不確定未来			第6課の会話文を読む	
第2回 第6課 未来形と助詞 (hi, to, bhi, tak)			前回の授業の復習	
第3回 練習問題3 (コピュラ動詞、一般動詞の未来形)			第6課の書き取り (提出)	
第4回 第7課 一般動詞とコピュラ動詞の現在表現			第7課の会話文を読む	
第5回 第7課 現在形と念を押す表現 (na)			前回の授業の復習	
第6回 現在の言い方例文 (プリント)			第7課の書き取り (提出)	
第7回 第8課 過去形 (コピュラ動詞の過去形、一般動詞の完了分詞)			第8課の会話文を読む	
第8回 第8課 過去形 (コピュラ動詞の過去形、一般動詞の完了分詞)			前回の授業の復習	
第9回 過去の言い方例文 (プリント)			第8課の書き取り (提出)	
第10回 練習問題4 (現在形)			練習問題4 (現在形) の3、4の提出	
第11回 第9課 動詞 (未完了表現、完了表現)			第9課の会話文を読む	
第12回 第9課 動詞 (未完了表現、完了表現)			前回の授業の復習	
第13回 練習問題5 (過去の習慣、現在完了)			第9課の書き取り (提出)	
第14回 第10課 進行表現 (現在形、過去形)			第10課の会話文を読む	
第15回 第10課 現在進行形、過去進行形)			第10課の書き取り (提出)	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% レポート(2000 - 2500字)			
小テスト等	20% 書き取り、練習問題の提出			
成果発表	－			
受講態度他	20% 授業への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書を復習し、ヒンディー語の「読む、聞く、話す、書く」のそれぞれのレベルアップに努める。			
教科書	町田和彦 『ニューエクスプレス ヒンディー語』 白水社			
指定図書	－			
参考図書	－			
オフィスワー	授業の前後、メール	メールアドレス		

授 業 科 目	病弱教育【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大 薊 香		単 位	2
授業の目的 と概要	病弱児の医学的・心理学的特徴を理解し、病弱教育について理解を深め、病弱児の教育課程や指導方法、支援のあり方を知ることが目的とする。本授業では病弱児の教育の歴史と現状、基本的理解、教育課程、指導の概説を学ぶ。また院内学級における教育課程や交流教育についても学んでいく。			
到達目標	・病弱児の心理的・医学的特徴について説明できる。 ・病弱児の教育について説明できる。 ・病弱児の指導や支援のあり方について述べる事が出来る。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	病弱児に対する基本的理解		授業内容の復習	
第2回	病弱教育の現状		ミニレポート、授業内容の復習	
第3回	病弱児における教育課程概論（歴史を含む）		配布資料の通読、授業内容の復習	
第4回	病弱児の学習特性と教育課程		配布資料の通読、授業内容の復習	
第5回	病弱児における教育課程及び指導法（幼稚園）		学習指導要領の指定ページを通読する、授業内容の復習	
第6回	病弱児における教育課程及び指導法（小学校）		学習指導要領の指定ページを通読する、授業内容の復習	
第7回	病弱児における教育課程及び指導法（中学校・高等学校）		学習指導要領の指定ページを通読する、授業内容の復習	
第8回	教科指導（１） 各教科		配布資料の通読、授業内容の復習	
第9回	教科指導（２） 学習の工夫		配布資料の通読、授業内容の復習	
第10回	教科指導（３） 自立活動との関連から		配布資料の通読、授業内容の復習	
第11回	院内学級における教育課程及び指導法（１）学習指導		配布資料の通読、授業内容の復習	
第12回	院内学級における教育課程及び指導法（２）生活指導		ミニレポート	
第13回	病弱児の心理特性と教育		ミニレポート	
第14回	交流教育について（院内交流・学校間交流）		配布資料の通読、授業内容の復習	
第15回	まとめ		定期試験への準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 定期試験			
レポート	25％ ３回のミニレポート			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	５％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	資料を配布しますので、各自ファイルを用意してください。			
教科書	指定しない			
指定図書	特になし			
参考図書	谷川弘治・駒松仁子・松浦和代・夏路瑞穂編 『病気の子どもの心理社会的支援入門』 ナカニシヤ出版 文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領』 海文堂出版			
オフィスワー	月曜日 ２講時・昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	病弱者の心理・生理・病理【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大 薊 香		単 位	2
授業の目的 と概要	病弱者の心理的な特徴や生理・病的な特徴を知ることが目的とする。さらに病弱者に対する対応について理解を深める。また、病弱者のハイリスクとしての極低出生体重児（極小未熟児）についても学習する。病弱者の定義を学習した後、それぞれの心理や生理、病理の特徴をつかみ基礎的な対応や病弱者の支援についてを学習する。			
到達目標	・病弱者の心理・生理・病的特徴について説明することができる。 ・病弱者の病気の概要や病気に対する注意点について説明することができる。 ・病弱者に対する基礎的な対応を述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 病弱者とは			復習	
第2回 極低出生体重児の心理・生理・病理（1）	極低出生体重児とは		ミニレポート① 授業内容の復習	
第3回 極低出生体重児の心理・生理・病理（2）	ハイリスク児への支援		ミニレポート① 授業内容の復習	
第4回 腎疾患の心理・生理・病理（1）	腎疾患とは		ミニレポート② 授業内容の復習	
第5回 腎疾患の心理・生理・病理（2）	腎疾患の子どもが抱えやすい問題とその対応について		ミニレポート② 授業内容の復習	
第6回 心疾患の心理・生理・病理	心疾患とその子どもが抱えやすい問題とその対応について		ミニレポート② 授業内容の復習	
第7回 小児の糖尿病・肥満の心理・生理・病理			ミニレポート② 授業内容の復習	
第8回 てんかんの心理・生理・病理（1）	てんかんとは		ミニレポート③ 授業内容の復習	
第9回 てんかんの心理・生理・病理（2）	発作に対する対応とてんかんを持つ人への配慮について		ミニレポート③ 授業内容の復習	
第10回 小児がんの心理・生理・病理（白血病を中心に）			ミニレポート③ 授業内容の復習	
第11回 アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理（1）	ぜんそくを中心に		ミニレポート④ 授業内容の復習	
第12回 アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理（2）	食物アレルギーを中心に		ミニレポート④ 授業内容の復習	
第13回 病弱者の家族への支援（1）	家族の思い		ミニレポート④ 授業内容の復習	
第14回 病弱者の家族への支援（2）	家族への支援		ミニレポート④ 授業内容の復習	
第15回 まとめ			復習、期末レポートへの準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 期末レポート 35% ミニレポート（4回）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	5％ 受講態度を考慮します。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	プリントを配布しますので、ファイルを用意して下さい。 事前に授業計画に書かれている疾患について自己学習をしておいて下さい。			
教科書	使用しない			
指定図書	特になし			
参考図書	谷川弘治・駒松仁子、松浦和代・夏路瑞穂編 『病気の子どもの心理社会的支援入門』 ナカニシヤ出版 小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著 『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』 ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	火曜日 4 講時	メールアドレス		

授 業 科 目	ビオトープ論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	伊豫岡 宏樹・石橋 知也		単 位	2
授業の目的と概要	本講義は、生物多様性の縮小原因や影響、ビオトープ保全の意義、生物が多様であることの意義、ビオトープ保全の方法、生息環境の多様性と生物の多様性、などに着目し、生態学の概念、ビオトープの全体像、環境関連法、計画手法、施工手法などについて理解を深めること、また風景のとらえ方に関する基礎知識、主に景観工学の理論について理解を深めること、これらを目的とする。加えて、生態学的・景観工学的な視点を持った計画立案を行うための基礎的な知識を実践的に養う。さらに、日本におけるビオトープ保全・創出の事例等に触れながら、「ビオトープ管理士（計画、施工）」の資格取得への足掛かりとなる知識を身につけることも視野に入れている。			
到達目標	・ビオトープの概念について理解することができる ・生物多様性の価値について理解し、基本的な生態系の構成について説明できる ・風景のとらえ方に関する基礎知識について理解することができる ・生態学的・景観工学的な視点でビオトープの簡易な計画ができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	生物多様性とは1（種多様性・生物多様性・生物多様性の価値）		配布資料の熟読	
第2回	生物多様性とは2（自然淘汰・共存・相互作用）		配布資料の熟読	
第3回	生物生息環境の変化・回復・管理1（生物多様性に係る法整備・環境容量）		配布資料の熟読	
第4回	生物生息環境の変化・回復・管理2（外来生物・指標生物・九州での事例紹介）		配布資料の熟読	
第5回	風景について・景観把握モデル・視覚と景観・モノのカタチ		配布資料の熟読	
第6回	空間のスケール・風景の使い心地・体験する風景・風景とイメージ・住民参加の風景づくり		配布資料の熟読	
第7回	風景の規範・自然地理条件・地形と土地利用・地形の「つくり」		配布資料の熟読	
第8回	近世城下町の都市計画・近代都市計画の導入・自然に則した暮らしの景・機能の読み解き・暮らしの「しつらえ」		配布資料の熟読	
第9回	ビオトープ計画ワークショップ（事例探求1）		事例調査	
第10回	ビオトープ計画ワークショップ（事例探求2）		事例調査	
第11回	ビオトープ計画ワークショップ（基本案づくり1）		基本案づくり	
第12回	ビオトープ計画ワークショップ（基本案づくり2）		基本案づくり	
第13回	ビオトープ計画ワークショップ（詳細案づくり1）		詳細案づくり	
第14回	ビオトープ計画ワークショップ（詳細案づくり2）		詳細案づくり・プレゼンテーション準備	
第15回	ビオトープ計画プレゼンテーション		講義全体をとおした復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 事例研究についてのレポート（授業と並行し、授業外学修として一定期間を設け取り組む）			
小テスト等	20% 授業中に課す小テスト			
成果発表	30% 第15回でのプレゼンテーションの内容評価を基本とする			
受講態度他	20% 第9回から第14回までの取り組み姿勢、その他の授業全体での参加状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	とくになし			
教科書	配布資料を用います			
指定図書	リチャードB.ブリマック・小堀洋美「保全生物学のすすめ（改訂版）」文一総合出版、鷲谷いずみ・矢原徹一「保全生態学入門ー遺伝子から景観までー」文一総合出版、小林一郎・風景デザイン研究会「風景のとらえ方・つくり方ー九州実践編」共立出版			
参考図書	なし（必要に応じて紹介します）			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	ビジュアル日本史【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	時里 奉明		単 位	2
授業の目的と概要	目的：【映像でみる昭和戦前期の日本】 「動く映像」が発明されたのは、1895年のことである。それ以来、ここ120年の世界の出来事は「動く映像」によって記録されてきた。19世紀末に登場した「動く映像」は、20世紀とともに歩んできたと言ってよい。そうした数多い映像のなかから、「昭和戦前期」の「日本」を対象をしぼって鑑賞し、当時の人々の暮らしや考え方を学び、時代の実相を理解する。 概要：映像はおもに『映像の世紀』、『新・映像の世紀』、NHKスペシャル、映画を用いる。映像を上映したあと、感想や小テストをはさみながら、解説を行う。			
到達目標	1 映像の登場と普及について説明できる。 2 昭和戦前期の日本が戦争へと傾いていく様子を実感できる。 3 現在を過去と関連づけるとともに、現在を相対化する視点を得ることができる。 4 レポートを作成することによって、論理的思考をまとめることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 「日本史Ⅰ」、「日本史Ⅱ」と合わせて学ぶとよい。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス：講義のねらい スケジュールと履修方針の確認		映像で歴史を学ぶことの意味を考える。	
第2回	映像鑑賞：「20世紀の幕開け」（『映像の世紀』第1集）		映像の登場を知る。	
第3回	講義：映像の特性について		映像の特性について学ぶ。	
第4回	映像鑑賞：「百年の悲劇はここから始まった」（『新・映像の世紀』第1集）		第一次世界大戦を学ぶ。	
第5回	講義（前回映像）&映像鑑賞：「時代は独裁者を求めた」（『新・映像の世紀』第2集）		独裁者を学ぶ。	
第6回	講義：1930年代の世界		世界の動向を知る。	
第7回	映像鑑賞&講義：「よみがえる昭和初期の日本」①（NHKスペシャル）		日中戦争前の日本を知る。	
第8回	映像鑑賞&講義：「よみがえる昭和初期の日本」②		日中戦争後から太平洋戦争前の日本を知る。	
第9回	講義：1930年代の日本		日本の動向を知る。	
第10回	映像鑑賞&講義：「よみがえる昭和初期の日本」③		太平洋戦争開戦から終戦後までの日本を知る。	
第11回	1940年代の日本		日本の動向を知る。	
第12回	映画鑑賞&講義：「この世界の片隅に」①（片渕須直、2016年）		戦争の実態を知る。	
第13回	映画鑑賞&講義：「この世界の片隅に」②		戦争の実態を知る。	
第14回	講義：庶民にとっての戦争		庶民にとっての戦争とは何か。	
第15回	まとめ：映像でみる昭和戦前期の日本		期末レポートの作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 期末レポート			
小テスト等	20％ 講義中に行う			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 映像を上映したあとに、感想文を提出（時間内）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	映像がテキストなので出席を重視する。上映の時、簡単な感想を書いて提出する。遅刻、早退は厳禁。大幅な遅刻は欠席とみなす。スケジュール、上映作品を変更することがある。			
教科書	映像に関するプリントを配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に紹介する。			
オフィスアワー	水の昼休み。研究室にいる時はいつでも。	メールアドレス		

授 業 科 目	ビジネス英語【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	野中 誠司		単 位	2
授業の目的 と概要	企業活動がグローバル化した結果、世界の人々とコミュニケーションを行うための共通手段として、英語の重要性がますます高まっている。この授業では、ビジネスの現場で求められる基本的な英語力を身につけることを第1目的とする。また、ビジネス分野における知識・技能を活用して、コミュニケーション・スキル、論理的思考力、問題解決能力など社会生活に必要な基礎的技能の習得および向上を第2目的とする。 教科書には必要最低限のことしか書かれていないので、補足説明を行う。そのための板書を毎回行うので、専用ノートを必ず準備しておくこと。また、教科書の内容に準拠した音声ファイルを出版社の指定サイトからダウンロードして、予習・復習に活用すること。			
到達目標	1. ビジネスの現場に必要な単語や表現を理解し、それらを口頭と文章で再生することができる。 2. ビジネスに関連した英文を音声で聞いたり、精読や多読によって、その内容が理解できる。 3. ビジネス分野における知識・技能を、自己にふさわしい将来設計（キャリアプランニング）に活用できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 Introductions :	初対面の挨拶や仕事内容の説明		予習pp.8-15	
第2回 Introductions :	初対面の挨拶や仕事内容の説明		予習pp.8-15	
第3回 Telephone Calls :	電話の応答や伝言の受け方		予習pp.16-23	
第4回 Telephone Calls :	電話の応答や伝言の受け方		予習pp.16-23	
第5回 Making an Appointment :	約束のとりつけや変更		予習pp.32-39	
第6回 Making an Appointment :	約束のとりつけや変更		予習pp.32-39	
第7回 Receiving a Visitor :	受付での来客対応や空港などでの出迎え		予習pp.40-47	
第8回 Receiving a Visitor :	受付での来客対応や空港などでの出迎え		予習pp.40-47	
第9回 Presentations 1 :	プレゼンテーションを始める際の挨拶や概要説明		予習pp.56-63	
第10回 Presentations 1 :	プレゼンテーションを始める際の挨拶や概要説明		予習pp.56-63	
第11回 Presentations 2 :	プレゼンテーションで新製品を紹介する		予習pp.64-71	
第12回 Presentations 2 :	プレゼンテーションで新製品を紹介する		予習pp.64-71	
第13回 Presentations 3 :	プレゼンテーションを締めくくる際の質疑応答		予習pp.72-79	
第14回 Presentations 3 :	プレゼンテーションを締めくくる際の質疑応答		予習pp.72-79	
第15回 まとめ			復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	なし			
小テスト等	30%			
成果発表	なし			
受講態度他	20%：主体的かつ積極的に参加している点を評価する。無条件で付与される出席点ではない。無断欠席および遅刻は回数に関係なく減点する。10分以上の遅刻も欠席とみなす。無断欠席6回で受講放棄とみなし、名簿から氏名を削除する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 開講日から教科書を使用するので、事前に購入しておくか、必要な箇所をコピーするなどして授業に出席すること。教科書なしで授業に参加した場合は、最終評価から減点などのペナルティーを科す。第2回以降の授業にもこのルールを適用する。 2. 名簿順に座席を指定するので、指定された席にすわること。座席の要望があれば、開講日に受けつけるので申し出ること。 3. 病気、忌引などやむをえない理由で欠席した場合は、客観的な証明書類を後日必ず提出すること。提出がない場合、無断欠席として処理する。			
教科書	Tae Kudo (2018), “Successful Office English,” National Geographic Learning			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスワーカー	授業の前後に相談のこと。		メールアドレス	

授 業 科 目	ビジネス英語 I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	佐藤 勇治		単 位	1
授業の目的 と概要	この授業では、グローバル化の時代にビジネスに影響を与える諸要因と、それらが英語でどのように表現されているかを理解することを目的とする。その結果として、ビジネス世界で必要とされる英語での読解力と表現力を身につけることも目的である。具体的には、税制などの政治の動き、株価や為替変動などの経済の動きなど、ビジネスに影響を与える諸要因を扱うことで、ビジネス界にかかわる英語を学んでいく。			
到達目標	この授業を履修することで、1．ビジネスを取り巻く諸要因の一端が理解できるようになり、2．ビジネスに関わる諸事象の英文資料を読み理解する基礎知識を身に着け、3．ビジネスに関わる諸事象を英語で表現できるようになることが到達目標である。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ビジネスと英語の関わりについて		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第2回	国政と税とビジネス		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第3回	外国為替の変動		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第4回	物価、失業率、景気見通し		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第5回	株価の動き		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第6回	マーケットシェア競争		課題レポートに取り組むこと	
第7回	資金交渉		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第8回	知的財産権と特許訴訟		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第9回	自然災害と企業損益		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第10回	ビジネス情報		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第11回	共同事業		課題レポートに取り組むこと	
第12回	経済予測		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第13回	国際経済機関		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第14回	労務問題		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第15回	国際金融		定期試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	40％(学期中に所定の課題に対してレポートを2回提出)			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	ビジネスを取り巻く政治や経済の動きを日頃からテレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどから知るように努めること。特に英語でそれらの情報がどのように表現されているかに留意すること。受講に際し指定された教科書の部位を読み、問に答え、また課題に取り組むことで本科目の狙いを達成するように努めること。			
教科書	佐藤哲三（他）、『Let's Enjoy Business English』、南雲堂			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介する			
オフィスワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	ビジネス英語Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	佐藤 勇治		単 位	1
授業の目的 と概要	一連の国際ビジネス過程と、それぞれの段階で必要となる英語コミュニケーションとビジネス知識を学ぶことが、この授業の目的である。そのために、仮想企業であるGlobal Auto株式会社が、新興市場である東南アジア諸国への売り込みをはかるために、市場調査から始まり、製品企画、生産、輸出、販売、収益決算と株主への還元に至るまでを一連の物語として学んで行く。			
到達目標	下記の二つが到達目標である。 1. 市場調査から新製品の開発、販売、利益の確保と株主への配当という、一連の企業活動に関するビジネス知識の基礎を知ること。 2. 上記1の一連のビジネス過程に必要な、英語コミュニケーションの知識と技能を習得すること。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 授業概要の説明			教材の指定個所を読み問いに答えること	
第2回 会社紹介			同上	
第3回 市場調査			同上	
第4回 製品企画会議			同上	
第5回 試作品紹介／評価			同上	
第6回 資金調達			課題レポートに取り組むこと	
第7回 販売企画会議			教材の指定個所を読み問いに答えること	
第8回 生産計画			同上	
第9回 取引先選定			同上	
第10回 売買契約			同上	
第11回 輸出／輸入			課題レポートに取り組むこと	
第12回 広報宣伝			教材の指定個所を読み問いに答えること	
第13回 販売／支払			同上	
第14回 決算／株主への還元			同上	
第15回 授業のまとめ			定期試験の準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	40％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	経営学等のビジネスに関する様々な知識を日頃から得るように努めること。また、ビジネス英語に関する知識も併行して学ぶように努めること。ビジネス英語Iを履修していることが望ましいが、未履修でも問題なく参加することができる。			
教科書	毎回の授業内容に関係したプリント教材を配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	日本商工会議所（編）、『ビジネス英語検定3級／2級公式テキスト』改訂版、日本能率協会マネジメントセンター、2013			
オフィスワ ーク	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	ビジネス韓国語【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	羅 義圭		単 位	2
授業の目的 と概要	市場経済主義を中心に、国家間の壁が低くなりつつ異なる言語・文化間の移動や社会の変化によって、韓国語の需要も高まっている。現在、日本では韓国企業も進出しており、両国間の貿易も益々強化される一方で、ビジネスで通用できる韓国語を求めている会社も増えている。 本講義では、就職先として韓国語を身につける必要がある学生のニーズに合わせ、現場で実践できる言葉を学習する。それと並行しながら、韓国のビジネスドラマを媒介にして、韓国の企業文化の理解にも努める。			
到達目標	1.韓国のビジネス文化を理解し、表現の土台とする。 2.ロールプレイの練習方法で自分の置かれる場面をイメージ化し、そこから対応できる表現を身につける。 3.日常会話に慣れている韓国語から脱皮し、少々硬い表現にも慣れるように努める。 4.韓国語の独特な言い回しを身につける。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス 初対面の挨拶・名刺交換		資料のブレイズ予習・練習	
第2回	取引先への訪問		資料のブレイズ予習・練習	
第3回	電話対応Ⅰ		資料のブレイズ予習・練習	
第4回	電話対応Ⅱ		資料のブレイズ予習・練習	
第5回	同僚の引っ越しパーティ(韓国の異文化を体験)		資料のブレイズ予習・練習	
第6回	文章作成・履歴書		履歴書作成	
第7回	グループごとイベント案内文作成		イベントの計画書作成	
第8回	グループごと発表		ブレイズ暗記・練習	
第9回	会議		資料のブレイズ暗記・練習	
第10回	ビジネスメール		メールの作成・送信	
第11回	会食		資料のブレイズ・暗記	
第12回	日常のトラブル		ビジネスドラマでのトラブルを見る	
第13回	ビジネスで出会う韓国料理ー実習1(韓国のチヂミ)		料理のレシピの作成及び会話	
第14回	韓国料理を通しての異文化について(討論)ー実習2(韓国風のおでん料理)		異文化について報告書作成	
第15回	別れ・見送り		まとめ	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 授業での課題「イベント案内文」(20%) 「日本の商品の一つを選び、プレゼンテーションの内容」を書く。(30%) レポートについては、適宜返却します。			
小テスト等	10%			
成果発表	20% グループイベント課題(15%)、グループ発表(15%)			
受講態度他	20% 出席点検(受講態度、積極性などを考慮)			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	・韓国語Ⅰ・Ⅱを受講した人、またはそれに準ずる語学力を持っている人が対象。 ・授業でのグループ発表でもあるので、積極的に授業に参加することが望ましい。 ・欠席が5回を超えると評価しない(就職活動、病気、その他の理由による欠席は5回の中でカウントする)。			
教科書	プリントは毎回の授業時に配布。欠席した人は次の授業時にお渡しする。			
指定図書	なし			
参考図書	幡野 泉/ 呉 敬雅『シゴトの韓国語』(基礎編) 三修社			
オフィスワー	火曜日・木曜日・金曜日の昼休み後		メールアドレス	

授 業 科 目	ビジネスコミュニケーション【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	篠崎 真美		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業の目的は、日本社会特有の社会人としての心構え・コミュニケーション力・ビジネスマナーを学ぶことで、日本のビジネスコミュニケーション能力を身につけることにある。また、更にグローバルビジネスにおけるビジネスマナー等を比較して学ぶことで、多様な価値観を尊重したファシリテーション能力といった、グローバルな「コミュニケーション・スキル」も磨く。 TBL (Team-Based Learning) の実践により、組織の基本単位であるチームにおいて、他者と協働して課題に取り組むことができる「チームワーク力」と物事を筋道立てて考えることができる「論理的思考能力」を養う。			
到達目標	①日本・グローバルビジネスにおける「コミュニケーション・スキル」を習得する ②常に「論理的思考能力」をもち、客観的な根拠をもとに発言・議論することができる ③「チームワーク力」により、多様な価値観を尊重し、他者と協働して、課題の成果を出すことができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス（演習TBLの進め方・演習ルール・チーム分け・自己紹介など）		将来就職先として考えている産業・企業を3つ挙げてきてください	
第2回	ステップ1 社会人としての自覚を持とう		予習：教科書ステップ1,3頁－22頁 を読んできてください	
第3回	ステップ2 プロ意識を持とう		予習：教科書ステップ2,23頁－38頁	
第4回	ステップ3 組織内のコミュニケーションを考えよう		予習：教科書ステップ3,39頁－60頁	
第5回	ステップ4 1対1のコミュニケーションを考えよう		予習：教科書ステップ4,61頁－82頁	
第6回	ステップ5 自分の意見をしっかり伝えよう		予習：教科書ステップ5,83頁－98頁	
第7回	ステップ6 効果的なプレゼンテーションをしよう		予習：教科書ステップ6,99頁－128頁	
第8回	ステップ7 ビジネスマナーを身に付けよう		予習：教科書ステップ7,129頁－148頁	
第9回	外部講師による講座（11/18 現代社会学部教養講座） *第10回いずれかとなる。		レポートもしくは感想文提出。＊講義前に説明します	
第10回	ステップ8 言葉づかいで印象を変えよう *第9回いずれかとなる		予習：教科書ステップ8,149頁－168頁	
第11回	ステップ9 電話のマナーとコツを身に付けよう		予習：教科書ステップ9,169頁－196頁	
第12回	ステップ10 社外の人と接するときのマナーとコツを身に付けよう		予習：教科書ステップ10,197頁-222頁	
第13回	プレゼンテーション演習①（役割分担・骨子作成・情報収集・アウトプットの明確化）		グループワークの課外作業	
第14回	プレゼンテーション演習②（資料作成・発表練習）		グループワークの課外作業	
第15回	プレゼンテーション演習③（発表・評価）		グループワークの課外作業	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% （講義のコメント・質問：毎回講義終了時に（10分）提出）＊次回の講義の始めに回答します			
小テスト等	なし			
成果発表	40% （プレゼンテーション演習④発表の成果）＊評価は、筑女ネットコメント及びメールにて行います			
受講態度他	30% （授業の積極的参加：グループワークでの討議への貢献度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・早退厳禁（遅刻・早退3回を1回の欠席とみなす）			
教科書	富士通エフ・オー・エム株式会社『ビジネスコミュニケーションスキルを磨く10のステップ<改訂版>』FOM出版（2014）			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスワーク	水曜日 5 講目 ＊事前にメールにて訪問日時を相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	ビジネス実務演習Ⅰ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大橋 健治		単 位	2
授業の目的と概要	企業であれ公共事業体であれ、組織は目標をもって活動する。ビジネス実務とは、チームが担う課題達成に向けた仕事（協働）と、個々人が担う役割達成に向けた仕事（個働）の二つの側面からみた活動である。本授業では、この協働と個働の二側面からビジネス実務を学び、職場で大切にされる価値観や職場での身の処し方の基本を修得することを目的とする。 授業の目的を効果的に達成するために、TBL（Team-Based Learning）を導入する。TBLを成立させるためには、個々の学生が責任を持って授業外学修に取り組み→授業において真摯にチームで討議を行い→クラス全体で討議を行うとともに→教員からのメッセージを受け取り、気づきを内省するというプロセスが不可欠である。			
到達目標	1. ビジネス実務の概念が理解できる。 2. ビジネス実務に就く上で必要となる基礎知識を身につけることができる。 3. ビジネス実務に就く上での持論を語ることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス（演習の内容と方針の説明）		シラバスの内容の吟味と履修の意思決定	
第2回	TBLのしくみ		シラバスの内容の吟味と履修の意思決定	
第3回	第1章 ビジネス実務とは何か		受講ノートの指示に沿った教科書第2章の事前学修・事後学修	
第4回	第2章 ビジネスとは何か		継続して受講予定の学生は必ずチームビルディング演習に参加すること	
第5回	第3章 ビジネスの管理Ⅰ 利益		受講ノートの指示に沿った教科書第3章の事前学修・事後学修	
第6回	第4章 ビジネスの管理Ⅱ 組織と人材		受講ノートの指示に沿った教科書第4章の事前学修・事後学修	
第7回	第5章 ビジネスの管理Ⅲ 社会・経済・法規・倫理		受講ノートの指示に沿った教科書第5章の事前学修・事後学修	
第8回	第6章 個人業務とマネジメント		受講ノートの指示に沿った教科書第6章の事前学修・事後学修	
第9回	第7章 協働業務とマネジメント		受講ノートの指示に沿った教科書第7章の事前学修・事後学修	
第10回	第8章 キャリアデザインと能力開発		受講ノートの指示に沿った教科書第8章の事前学修・事後学修	
第11回	第9章 ビジネスコミュニケーションⅠ 職場		受講ノートの指示に沿った教科書第9章の事前学修・事後学修	
第12回	第10章 ビジネスコミュニケーションⅡ 会議		受講ノートの指示に沿った教科書第10章の事前学修・事後学修	
第13回	第11章 ビジネス実務に大きな影響を与える要因 グローバル化		成果発表の準備と授業内容の振り返り	
第14回	成果発表と質疑応答 受講ノートの提出		成果発表の準備と授業内容の振り返り	
第15回	授業のまとめと振り返り 受講ノートの返却		過去14回の授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 受講ノートの提出（最終ページに授業全体の振り返りを必ず記述のこと）			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ オーラル・プレゼンテーション			
受講態度他	50％ TBLへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように、本授業ではTBL（Team-Based Learning）を導入する。TBLを成立させる大前提は、個々の学生による自らとチームの仲間の学修への責任をもった授業外学修と、教員との相互確認（質疑応答）である。これを怠る学生は授業の場に入ることを認めない（欠席扱いとする）。初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し、受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。			
教科書	九州TBL研究会が作成した「ビジネス実務総論」の教科書をプリントにして配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日の昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	ビジネス実務演習Ⅱ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大橋 健治		単 位	2
授業の目的と概要	企業やビジネス自治体などのビジネス組織は目標をもって活動する。ビジネス実務とは、チームが担う課題達成に向けた仕事（協働）と、個々人が担う役割達成に向けた仕事（個働）の二つの側面からみた活動である。本授業では、この協働と個働の二側面からビジネスマナーの基本を学び、職場で大切にされる価値観や職場でのマナーの基本を修得することを目的とする。 授業の目的を効果的に達成するために、ロールプレイング（役割演技）を中心としたアクティブ・ラーニング（能動的学修）を導入する。アクティブ・ラーニングを成立させるためには、個々の学生が責任を持って授業外学修に取り組み、学生一人ひとりが真摯にロールプレイング（役割演技）を行い、クラス全体でビジネス組織で必要とされるマナーの意味を内省するというプロセスが不可欠である。			
到達目標	1. ビジネス実務の概念が理解できる。 2. ビジネス実務に就く上で必要となる基礎知識を身につけることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業）		シラバスの内容の吟味と履修の意思決定	
第2回	クラスビルディング		事後学習 クラスビルディングでの気づき	
第3回	PART 1 服装・身だしなみのマナー		受講ノートの指示に沿ったPART 1のプリントの事前学修・事後学修	
第4回	PART 2 挨拶・言葉づかいのマナー		受講ノートの指示に沿ったPART 2のプリントの事前学修・事後学修	
第5回	PART 3 電話のマナー		受講ノートの指示に沿ったPART 3のプリントの事前学修・事後学修	
第6回	PART 4 社内でのマナー		受講ノートの指示に沿ったPART 4のプリントの事前学修・事後学修	
第7回	PART 5 訪問先でのマナー		受講ノートの指示に沿ったPART 5のプリントの事前学修・事後学修	
第8回	PART 6 接客のマナー		受講ノートの指示に沿ったPART 6のプリントの事前学修・事後学修	
第9回	PART 7 接待のマナー		受講ノートの指示に沿ったPART 7のプリントの事前学修・事後学修	
第10回	PART 8 お付き合いのマナー		受講ノートの指示に沿ったPART 8のプリントの事前学修・事後学修	
第11回	ビジネス文書の基本、メールのマナーとタブー		受講ノートの指示に沿ったプリントの事前学修・事後学修	
第12回	応用問題のロールプレイング		受講ノートの指示に沿ったプリントの事前学修・事後学修	
第13回	成果発表と質疑応答		成果発表の準備と授業内容の振り返り	
第14回	成果発表と質疑応答 受講ノートの提出		成果発表の準備と授業内容の振り返り	
第15回	授業のまとめと振り返り 受講ノートの返却		本授業を履修した成果のまとめを作って参加する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 受講ノートの提出（最終ページに授業全体の振り返り〔レポート型式〕を必ず記述のこと）（受講ノートは最終回に返却します）			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ スライドを用いたプレゼンテーション			
受講態度他	50％ アクティブ・ラーニングへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように、本授業ではロールプレイング（役割演技）を中心としたアクティブ・ラーニングを導入する。アクティブ・ラーニングを成立させる大前提は、個々の学生による責任をもった授業外学修である。これを怠る学生は授業の場に入ることを認めない（欠席扱いとする）。初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し、受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。			
教科書	プリントを配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	ビジネス中国語【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	王 震 緒		単 位	2
授業の目的 と概要	中国と関わっていく上で、語学的なテクニックは言うに及ばず、文化、風習などを知っておくことが、物事をスムーズに運ぶためには必要不可欠であるとの認識から、この半期の授業では、語学のみならず、時事問題を通して中国に対する理解を深めることを目的とします。 文法の習得、長文和訳、会話、スキットの内容に関するコメントを要求する授業をしていきます。学生を指名し、質問に答えさせるという形式をとります。講義や、進捗状況によってはビデオ鑑賞をも行う予定です。 テキストのみならず、随時プリントを配布して長文訳や会話の練習も行う予定です。			
到達目標	中国語の読解力を強化するとともに、ビジネスの場における簡単な会話の習得を目指します。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション		第 1 課の予習	
第 2回	第 1 課「中国概況」文法説明		第 1 課の予習	
第 3回	第 1 課「中国概況」訳、ヒアリング、スピーキング		これまでやったことの復習	
第 4回	第 2 課「中国人の食生活」文法説明		第 2 課の予習	
第 5回	第 2 課「中国人の食生活」訳、ヒアリング、スピーキング		第 2 課の復習	
第 6回	第 3 課「中国の祝祭日」文法説明		第 3 課の予習	
第 7回	第 3 課「中国の祝祭日」訳、ヒアリング、スピーキング		第 3 課の復習	
第 8回	ビデオ鑑賞		これまでやったことの復習	
第 9回	第 4 課「家族間のあいさつ」文法説明		第 4 課の予習	
第10回	第 4 課「家族間のあいさつ」訳、ヒアリング、スピーキング		第 4 課の復習	
第11回	第 5 課「交際上のマナー」文法説明		第 5 課の予習	
第12回	第 5 課「交際上のマナー」訳、ヒアリング、スピーキング		第 5 課の復習	
第13回	ビデオ鑑賞		これまでやったことの復習	
第14回	復習		中国語新聞など、実際の文章の閲読	
第15回	復習		中国語新聞など、実際の文章の閲読	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 定期試験の結果を最重視します。			
レポート	随時指示します。			
小テスト等	－			
成果発表	大学の発表時期に準じます。			
受講態度他	30％ 授業中の発表など、授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	履修にあたっては初級中国語の単位を習得している必要があるのみならず、中国に興味を持っている必要があります。 けだし、初級段階の学習とは異なり、当クラスでは中国に対する興味こそが、充実した授業にするためのモチベーションだと判断するからです。教科書・辞書必携（電子辞書も可）。			
教科書	池上貞子ほか『新・中国ってこんな国！ -日々是変化-』朝日出版社			
指定図書	-			
参考図書	－			
オフィスワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	ビジネスと倫理【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	藤原 隆信		単 位	2
授業の目的と概要	「ブラック企業」。現在、多くの若者がこのような企業の犠牲になっています。本科目では、非倫理的な企業としての「ブラック企業」を題材にし、そのような企業（企業経営）が若者だけでなく、雇用のあり方や消費者、さらには日本社会全体にどのような悪影響を及ぼしているのかを学んでいきます。このような学びを通じて、現代社会における「企業の社会的責任」や「倫理的な経営」について考えていくことにします。なお、本授業では、授業の目的を達成するためにアクティブ・ラーニングを導入し、受講生の自律的学習を促すことをめざします。			
到達目標	①「ブラック企業」の実態を理解し、その具体的な事例を説明できる。 ②「ブラック企業」が若者の雇用・労働環境や社会全体に与える影響について説明できる。 ③「ブラック企業」を自ら識別し、自らの雇用・労働環境に関してよりよい選択ができるようになる。 ④現代社会で求められている「企業の社会的責任」や「倫理的な経営」について説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	はじめに ——そもそも「倫理」とは何か？		あなたのイメージする「ブラック企業」の要素を考えてきて下さい。	
第2回	ブラック企業の実態（1） ——ブラック企業が登場する歴史的・社会的背景		テキスト第1章のp.15～p.23を読み、事前学習課題をしてきてください。	
第3回	ブラック企業の実態（2） ——IT企業Y社の事例		教科書第1章のp.23～p.42を読み、事前学習課題をしてきてください。	
第4回	ブラック企業の実態（3） ——衣料品販売X社の事例		教科書第1章のp.42～p.63を読み、事前学習課題をしてきてください。	
第5回	ブラック企業の実態（4） ——若者を死に至らしめるブラック企業		教科書第2章（p.65～p.76）を読み、事前学習を課題してきてください。	
第6回	ブラック企業の特徴（1） ——ブラック企業の「偽装された給料」		教科書第3章のp.77～p.92を読み、事前学習課題をしてきてください。	
第7回	ブラック企業の特徴（2） ——ブラック企業と「偽装された労働時間」		教科書第3章のp.92～p.101を読み、事前学習課題をしてきてください。	
第8回	ブラック企業の特徴（3） ——ブラック企業の「辞めさせる技術」		教科書第4章（p.103～p.122）を読み、事前学習課題をしてきてください。	
第9回	ブラック企業から自分を守る ——ブラック企業への「対応方法」		教科書第5章（p.123～p.146）を読み、事前学習課題をしてきてください。	
第10回	社会問題としてのブラック企業（1） ——ブラック企業が脅かす「若者の将来」		教科書第6章のp.147～p.164を読み、事前学習課題をしてきてください。	
第11回	社会問題としてのブラック企業（2） ——ブラック企業が脅かす「社会の安定」		教科書第6章のp.164～p.177を読み、事前学習課題をしてきてください。	
第12回	社会問題としてのブラック企業（3） ——ブラック企業と「就職活動」		教科書第7章のp.179～p.198を読み、事前学習課題をしてきてください。	
第13回	社会問題としてのブラック企業（4） ——ブラック企業と「雇用の崩壊」		教科書第7章のp.198～p.217を読み、事前学習課題をしてきてください。	
第14回	ブラック企業から社会を守る ——ブラック企業をなくす社会的な戦略		教科書第8章（p.219～p.240）を読み、事前学習を課題してきてください。	
第15回	授業のまとめと成果発表 ——現代社会と企業倫理		これまでの授業をふり振り返り、成果発表の準備をしてきて下さい。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 受講ノートの提出（最終ページに授業全体の振り返りを必ず記述のこと）			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ オーラル・プレゼンテーション			
受講態度他	40％ アクティブ・ラーニングへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本授業はアクティブ・ラーニングで運営します。アクティブ・ラーニングの前提は学生による事前学修への誠実な取り組みであり、授業への無遅刻・無欠席も重要な要素です（※やむを得ない遅刻・欠席は可能な限り事前に連絡を入れること）。なお、初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し受講に関するルールについて説明するので、本科目を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加して下さい。			
教科書	今野晴貴『ブラック企業——日本を食いつぶす妖怪』文春新書、2012年。			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12：20～13：10） ※事前に予約を取って下さい。		メールアドレス	

授 業 科 目	ビジネス文書作成【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	藤村　やよい		単　　位	2
授業の目的 と概要	ビジネスにおいて、相手に情報をわかりやすく正確に伝えるために、伝えるべき情報を文書で示すことは重要な仕事です。その際にビジネス文書作成者の作成能力や人柄が問われるので、正確で信用できる文書や「見直し」の重要性について理解し、正確で信頼できるビジネス文書作成や心のこもった文書を作成するための知識や技術を身につけます。 ビジネス文書には、社外文書（社交文書を含む）と社内文書があります。特に会社を代表して書く社外文書は、会社の信用にかかわります。そのため基本形式にしたがった正確なビジネス文書の書き方や心のこもった社交文書の書き方を学びます。さらに縦書きの手書きのお礼状、封筒・はがきなどの書き方や文書作成に関連する知識・技術を学びます。			
到達目標	1．基本形式にしたがったビジネス文書を作成することができる。 2．ビジネス文書特有の慣用句を使った文書作成ができる。 3．信頼のある正確な文書を作成することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回　ビジネス文書とは			予習（p 5-32）シラバスや教科書の目次等を見て授業概要を把握してください	
第 2回　ビジネス文書の種類、特徴、作成の心構え			予習（p 33-34）、授業で学んだことを理解できるまで復習してください	
第 3回　文書作成の要点、社外文書と社内文書			予習(p35-37)、授業で学んだことを理解できるまで復習してください	
第 4回　社外文書の基本形式			予習（p 38-41）、授業で学んだことを理解できるまで復習してください	
第 5回　社外文書の書き方			予習（p 42-49）、授業で学んだことを理解できるまで復習してください	
第 6回　社外文書の例			予習（p50-56）、授業で学んだことを理解できるまで復習してください	
第 7回　社交文書の書き方			予習（p 57-66）、授業で学んだことを理解できるまで復習してください	
第 8回　社内文書の基本形式と書き方			予習（p 67-71）、授業で学んだことを理解できるまで復習してください	
第 9回　社内文書の例			予習（72-84、142-147）、授業で学んだことを理解できるまで復習してくださ	
第10回　縦書きの書き方と手書きのポイント			予習（p 85-90）、授業で学んだことを理解できるまで復習してください	
第11回　縦書きの社交文書			予習（140-141）、課題「お礼状の作成」	
第12回　封筒・はがき・返信はがきの書き方			予習（p 91-103、109）、授業で学んだことを理解できるまで復習	
第13回　郵便の知識、機密文書の取り扱い			予習(p68)、授業で学んだことを理解できるまで復習してください	
第14回　添削後の課題返却および解説「社外文書・お礼状」			返却後の添削内容を理解する	
第15回　文書の整理・保管・活用、文書表現関連知識			予習(p123-134)、授業で学んだことを理解できるまで復習してください	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	7 0 ％　筆記試験			
レポート	1 0 ％　課題の未提出者は受験資格なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	2 0 ％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	課題の提出は、締切日を厳守すること。提出された課題は、添削して返却し、解説を行います。			
教科書	石井典子、三村善美『ビジネス文書実務』早稲田教育出版			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します			
オフィスワーク	授業の前後に相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	ファッション文化論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	岡本 文子		単 位	2
授業の目的と概要	西洋服飾史のうち、１８世紀から２０世紀のファッションを題材にします。その時代の社会背景とファッションは密接に関連しています。ファッションの特徴を調査・分析し、社会の動向や政治・経済との関連を理解することによって、服飾の役割、意義を知ることができます。また、現代の社会生活や服飾の役割の比較を行い、現代社会を生きる私たちにとって衣生活がどのような意味を持つのかについても考えていきます。			
到達目標	・１７世紀のファッションについて、その特徴を挙げ、社会背景について説明できる。 ・１８世紀のファッションについて、その特徴を挙げ、社会背景について説明できる。 ・１９世紀のファッションについて、その特徴を挙げ、社会背景について説明できる。 ・２０世紀のファッションについて、その特徴を挙げ、社会背景について説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（今後の授業の進め方、発表内容の枠組みと構想）		発表内容の枠組みと構想の整理	
第2回	発表準備（調査・分析）		発表準備（調査・分析）の整理	
第3回	発表準備（スライド作成・レジュメ作成）		発表（スライド作成・レジュメ作成）の補完	
第4回	発表準備（発表原稿作成・質問紙作成）		発表準備（発表原稿作成・質問紙作成）の補完	
第5回	発表 「１７世紀バロックスタイル」 「オランダスタイル」 「フランス・モード誕生」		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第6回	発表 「バレ・ド・ラ・レーヌ」 「サーカシア」 「ポロネーズ」		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第7回	発表 「１８世紀ロココスタイル」 「１９世紀クラシックスタイル」		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第8回	発表 「１９世紀クラシックスタイル」 「１９世紀ロマン主義スタイル」		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第9回	発表 「１９世紀クリノリンスタイル」 「１９世紀バスルススタイル」		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第10回	発表 「女子服近代化Ⅰ（ブルーマー女史）」 「Ｓカーブ・シルエット」		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第11回	発表 「ベル・エポック」 「女子服の近代化Ⅱ」		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第12回	発表 「ボーイッシュ・スタイル」 「ギャルソンヌ・スタイル」		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第13回	発表 「ミリタリー・ルック」 「ニュー・ルック以降（ライン時代）」		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第14回	発表 「キュロットスカート登場」 「パンタロン・ルック」		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第15回	発表 「十二単衣ファッション（平安時代）」 「桃山時代のファッション」 「江戸時代のファッション」		日本服飾史の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	０％			
レポート	０％			
小テスト等	５０％			
成果発表	４０％			
受講態度他	１０％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習をして、次回の授業に臨んでください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	金曜日 １２：００～１３：００		メールアドレス	

授 業 科 目	ファイナンス【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	守田 弘美		単 位	2
授業の目的と概要	金融の自由化・国際化にともない金融商品はより多様化、複雑化しています。また、長引く景気低迷により金利水準は過去に例を見ない低いレベルに達しています。そのような中、それぞれの生活設計や目的に合わせて金融商品を適切に利用選択する知識・判断力を身に付けることはとても大切なことです。 本講義では、家計管理・生活設計の重要性を理解し、金融経済の基礎となる重要な事項（金利、インフレ、デフレ、為替、リスク・リターン等）や各金融商品の特徴について理解することを目的とします。さらに、資産形成において重要となるアセットアロケーション（資産配分）の考え方や、確定拠出年金、少額投資非課税制度（NISA）などのより実務的な制度についても理解し金融リテラシー（知識・判断力）の向上を目指します。			
到達目標	①預金、債券、株式、投資信託、外貨建て商品などの基本的な商品性を理解し、説明することができる。 ②金利の計算等、各種金融に関する計算ができるようになる。 ③金利の変動要因、景気や為替との関係性を理解し、説明することができる。 ④金融経済情勢に応じた金融商品の利用選択ができるようになる。 ⑤ライフプランに合わせて資金計画をたて、その目的に応じた適切な金融商品やローンを選択することができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション：金融とはなにか？		予習不要。金融と経済の関係について復習すること。	
第2回	預貯金と金利の計算① 単利と複利		指定する計算課題をやってくること。(宿題)	
第3回	預貯金と金利の計算② 預金商品と金利と景気の関係		金利の計算がスムーズにできるように復習すること。	
第4回	為替リスクと外貨建て商品① 為替とは		為替に関する計算の復習をすること。	
第5回	為替リスクと外貨建て商品② 外貨建て商品の特徴		為替に関する計算の復習をすること。	
第6回	債券① 基本的仕組みと債券の種類		金融機関のホームページから指定する課題について各自調べること。(宿題)	
第7回	債券② 利回り計算		債券の利回り計算について復習すること。	
第8回	株式① 基本的仕組み		ネットを活用し指定する課題について各自調べること。(宿題)	
第9回	株式② 投資指標の計算		株式の投資指標の計算について復習すること。	
第10回	投資信託① 基本的仕組みと種類		ネットを活用し指定する課題について各自調べること。(宿題)	
第11回	NISAと確定拠出年金① NISA（少額投資非課税制度）		配布資料を熟読し授業内容を復習すること。	
第12回	NISAと確定拠出年金② 確定拠出年金		配布資料を熟読し授業内容を復習すること。	
第13回	アセットアロケーションとポートフォリオ		授業内容を復習すること。	
第14回	金融の歴史からわかること		授業内容を復習すること	
第15回	まとめ		なし	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％ 各金融商品の特徴、各種計算について出題。60分間で行われる試験の点数（100点満点）			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	30％ 課題（宿題）についてや、その他適宜授業内で取り上げるテーマについて個人やグループで口頭発表			
受講態度他	30％ 授業内でのディスカッションやグループワークの参加度や貢献度を含む。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	使用する・しないにかかわらず、毎回電卓を持参してください。 欠席、遅刻は可能な限り理由とともに事前連絡すること。事前連絡できない場合は次回出席時に理由とともに報告してください。 。やむを得ない事情の欠席以外は成績評価に影響します。			
教科書	なし。授業内で配布するプリントを使用。			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	フィールド・ワーク【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	山崎 安則		単 位	2
授業の目的 と概要	平成の福祉改革によって、わが国の社会福祉のあり方も“地域”を重要なフィールドとして再編・再構築が進んでいます。本講義では、地域福祉計画の策定の意義とその展開手法について、フィールド・ワーク（地域踏査）を通して実践的に学んでいきます。 授業では、各自の研究テーマに基づく地域を指定し、既存の関連資料や地方自治体が刊行している行政報告書や行政資料等の収集と住民への意識調査等を通して、その町的生活問題や福祉問題などを収集・整理・分析を行い、最終的に報告及びレポートを作成します。			
到達目標	①フィールド・ワーク（地域踏査）の概念を理解し説明できる。 ②地域踏査の技法を用いて情報の収集を行い課題の抽出・整理・分析ができる。 ③報告レポートにまとめて発表することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	－			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 フィールド・ワーク「概念と手法」	研究テーマの設定（各自の研究目的の明確化）		指定図書P115～P116	
第 2回 フィールド・ワーク「対象と課題設定」	研究テーマの対象（各自の研究対象の具体化）		指定図書P117～P121	
第 3回 フィールド・ワーク「グループディスカッション」	研究テーマの共有化（各自の研究テーマの明確化）		指定図書P122～P132	
第 4回 フィールド・ワーク「地域踏査①」			地域診断に必要な量的・質的な視点に立って具体的な調査を行う	
第 5回 フィールド・ワーク「地域踏査②」			必要なデータの収集と地域診断を行う	
第 6回 フィールド・ワーク「地域踏査③」			収集したデータの分析を行う	
第 7回 フィールド・ワーク「中間発表」			現時点での情報の整理・分析をデータにより発表する	
第 8回 フィールド・ワーク「地域踏査④」			修正や見直しを通して、再度調査の手法を考える	
第 9回 フィールド・ワーク「地域踏査⑤」			アンケート調査や面接による技法を用いて調査をすすめる	
第10回 フィールド・ワーク「地域踏査⑥」			行政等が作成している計画書などの収集	
第11回 フィールド・ワーク「計画書の作成」			KJ法などの手法により情報を整理する（課題を明らかにする）	
第12回 フィールド・ワーク「計画書の作成」			抽出された課題の解決を手法を考える	
第13回 フィールド・ワーク「計画書の発表」			パワーポイントを活用し、地域の課題と解決手法を提案できる	
第14回 報告レポートの作成			発表をレポートにまとめる	
第15回 発表とまとめ			作成したレポートの提出と発表	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 期末レポート			
小テスト等	－			
成果発表	20％ 中間発表・期末発表			
受講態度他	20％ 履修規定・受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自分が暮らしているまちや地域のことに関心を向け、市の広報紙や社協だよりなどの地域の情報誌を収集するなど主体的に取り組んでください。また、各自の地域踏査の状況に応じて随時、助言・支援などのスーパービジョンを行っていきます。			
教科書	なし			
指定図書	武川正吾編『地域福祉計画ーガバナンス時代の社会福祉計画ー』有斐閣アルマ			
参考図書	牧里毎治他編著『協働と参加の地域福祉計画』ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み時間（12:20～13:10）	メールアドレス		

授 業 科 目	フィールド・ワーク【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	榊 祐子		単 位	2
授業の目的 と概要	グローバル化する社会において日本でも増加傾向にある外国人、特に留学生に対する支援のあり方やその方法、実践活動について学ぶことを目的とする。福岡における留学生支援の実態やボランティア活動、交流プログラムへの参加を通して、課題や問題点などを認識、考察する力を身につける。 異文化適応のプロセスや多文化間カウンセリングなどの基本的知識や理論について概説し、留学生が抱える問題や現状を具体的な例を用いながら説明する。さらに、留学生の生活支援やボランティア活動、多文化理解プログラムなどを体験し、そこから見えてきた課題や検討すべき問題、自らが学んだ点などを発表、ディスカッションを通じて理解を深めたい。			
到達目標	到達目標 1．異文化適応のプロセスを自分の体験を通して説明することが出来る 2．留学生が直面している問題や留学生を取り巻く日本社会の現状について自ら調べることが出来る 3．多文化理解プログラムやボランティア活動の体験を通して見えてきた問題を具体的に述べる事が出来る			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	－			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション：授業の進め方、講義概要について		自分の研究領域の研究方法の確認	
第 2回	研究、実践活動の基礎：		自らのテーマに関する研究計画の作成	
第 3回	異文化適応とは：カルチャーショックと適応のプロセス		カルチャーショックのプロセスについて体験レポート作成	
第 4回	多文化間カウンセリング：文化にかかわるカウンセリングの基本的な理解		カウンセリングの基本的概念の復習	
第 5回	留学生と日本社会①：日本における留学生政策と現状		留学生政策と現状について調べる	
第 6回	留学生と日本社会②：留学生を取り巻く問題		異文化理解に関わる活動を調査	
第 7回	心理学研究方法：心理学における研究計画の立て方		実習の目的、課題を整理	
第 8回	課外実習計画書作成：実習の目的や活動計画の明確化		実習計画書作成	
第 9回	課外実習：留学生の生活支援やボランティア活動、多文化理解プログラムへの参加①		実習の振り返り	
第10回	課外実習：留学生の生活支援やボランティア活動、多文化理解プログラムへの参加②		実習の振り返り	
第11回	課外実習：留学生の生活支援やボランティア活動、多文化理解プログラムへの参加③		実習の振り返り	
第12回	実習報告書作成：課外実習での体験から課題や問題点を考察		実習報告書作成	
第13回	発表：課外実習の総括と自己評価①		実習報告書をもとに発表レジュメ作成	
第14回	発表：課外実習の総括と自己評価②		実習報告書をもとに発表レジュメ作成	
第15回	総括		復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 課外実習の活動報告と課題や問題点の検討			
小テスト等	－			
成果発表	40％ 課外実習計画書、体験報告書の作成と発表			
受講態度他	20％ 講義、演習、及び発表への積極的態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	留学生支援や多文化理解などの領域に関心を持ち、ボランティア活動やプログラムを自ら選択し、参加するという積極的姿勢が求められる。			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワー	火曜日5限	メールアドレス		

授 業 科 目	フィールド・ワーク【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大西 良		単 位	2
授業の目的 と概要	近年、子どもたちが直面する生活困窮の実態や貧困による不利の連鎖、いわゆる「子どもの貧困」問題に社会的な注目が集まっている。 本講義では、子ども食堂や学習支援等の地域活動への参加を通じて、社会福祉の観点から子どもの貧困問題について深く考察するとともに、人々の生活や暮らしを捉える視点や方法、社会的問題に向き合う創造的思考力を養うことを目的とする。 この講義では、最初にフィールドワークの考え方、社会調査の方法（量的、質的調査法）、フィールドワークや子どもの貧困問題に関する論文や資料を提示する。そして、フィールドワークと社会調査を基にした研究発表を行い、ディスカッションを通じて考察を深める。			
到達目標	1. フィールドワークの考え方や技法について理解することができる。 2. フィールドワークの実践をもとにした研究方法について理解することができる。 3. 社会調査を通じて、社会的問題の課題抽出、整理・分析ができる。 4. 社会に向き合う創造的思考力と実践力を身につけることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など				
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	フィールドワークの考え方～本講義の目的とねらい～		課題	
第2回	フィールドワーク、子どもの貧困問題に関する論文・資料の輪読①		課題	
第3回	フィールドワーク、子どもの貧困問題に関する論文・資料の輪読②		課題	
第4回	フィールドワークの技法①～社会調査の基礎～		課題	
第5回	フィールドワークの技法②～量的調査の方法～		課題	
第6回	フィールドワークの技法③～質的調査の方法～		課題	
第7回	子ども食堂や学習支援等のフィールドワーク（活動）に参加①		課題	
第8回	子ども食堂や学習支援等のフィールドワーク（活動）に参加②		課題	
第9回	子ども食堂や学習支援等のフィールドワーク（活動）に参加③		課題	
第10回	フィールドワークの振り返りと課題整理①		復習	
第11回	フィールドワークの振り返りと課題整理②		復習	
第12回	研究発表①～口頭発表とディスカッション～		発表準備	
第13回	研究発表②～口頭発表とディスカッション～		発表準備	
第14回	研究発表③～口頭発表とディスカッション～		発表準備	
第15回	講義の総括		復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	40％ 期末レポート			
小テスト等	0％			
成果発表	40％ 研究発表			
受講態度他	20％ 受講態度や研究姿勢			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	専攻や研究テーマは問わないが、子ども食堂や学習支援等の地域活動へ主体的に参加する意思のある者の履修が望ましい。 受講人数によって、講義計画の変更の可能性もある。			
教科書	なし 適宜資料等を配布する			
指定図書	なし			
参考図書	松本伊智朗他編著 『子どもの貧困ハンドブック』 かもがわ出版（2016年）			
オフィスワー	水曜日 3 講時、 4 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	【閉講】フィールド・ワーク【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	森田 真也		単 位	2
授業の目的 と概要	この講義では、文化人類学的・民俗学的な視点から、地域社会の人々の営みや思考、また実際に生起しているような諸問題について、フィールドワークをもとに研究する手法を学ぶことを目的とする。そして、フィールドワークという行為の持つ認識論的問題点、政治性の問題点についても解説し、文化表象の諸問題にまで考察を進める。また、あわせて人々の生活の現場をとらえる視点や方法を学ぶことで、社会に向き合う創造的思考力を培う。 この講義では、最初にフィールドワークの考え方、成立や発展、インタビュー調査の方法（質的調査方法）、現場での具体的課題等を提示する。そして、フィールドワーク（現地調査）に内在する諸問題について触れる。その後、フィールドワークに関わる論文の輪読と発表、実際に何らかの調査をもとにした研究発表を行なってもらい、ディスカッションをしていく。			
到達目標	・フィールドワークの考え方や技法について理解することが出来る。 ・フィールドワークの実践をもとにした研究方法について理解することが出来る。 ・フィールドワークと文化表象に内在する諸問題について理解を深めることが出来る。 ・社会に向き合う創造的思考力と実践力を身につけることが出来る。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	専門的な知識を深めるとともに、複数の学問的課題の中心に関連性を求め、研究の視点を広げる。 「研究基礎」、そして「日本文化特論Ⅱ」（森田真也担当）と関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回：	フィールドワークの考え方ー本講義のねらいー		課題	
第 2 回：	フィールドワークの成立と発展		課題	
第 3 回：	フィールドワークの技法		課題	
第 4 回：	フィールドワークへの懐疑		課題	
第 5 回：	フィールドワークをもとにした研究（１）ー沖縄の祭祀と基地問題ー		課題	
第 6 回：	フィールドワーク関連の論文の輪読①		課題 発表準備 文献の読解	
第 7 回：	フィールドワーク関連の論文の輪読②		課題 発表準備 文献の読解	
第 8 回：	フィールドワーク関連の論文の輪読③		課題 発表準備 文献の読解	
第 9 回：	フィールドワーク関連の論文の輪読④		課題 発表準備 文献の読解	
第10回：	フィールドワークをもとにした研究（２）ー沖縄の祭祀（映像資料）を読み解くー		課題	
第11回：	院生の研究発表（１）ー口頭発表とディスカッションー		課題 発表準備 文献の読解	
第12回：	院生の研究発表（２）ー口頭発表とディスカッションー		課題 発表準備 文献の読解	
第13回：	院生の研究発表（３）ー口頭発表とディスカッションー		課題 発表準備 文献の読解	
第14回：	フィールドワークの課題		復習	
第15回：	講義の総括		復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	無し。			
レポート	４０％ 期末レポート。			
小テスト等	無し。			
成果発表	４０％ 論文の輪読と研究発表を数回行ない、質疑応答をする。			
受講態度他	２０％ 研究姿勢を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	専攻、テーマは問わないが、何らかの形でインタビュー調査、アンケート調査、地域調査、現地調査をもとにした研究を進める意志のある者の履修が望ましい。 論文の輪読、広意のフィールドワークをもとにした研究発表をしてもらう（卒業論文、修士論文のテーマと同じでなくてもかまわない）。 受講者の人数によって、輪読論文、講義計画の変更の可能性もある。			
教科書	無し。状況に応じて資料を配布する。			
指定図書	無し。			
参考図書	岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法』有斐閣（２０１６年） 佐藤郁哉『フィールドワーク：増訂版』新曜社（２００６年）			
オフィスワー	木曜日昼休み（12:30-13:00）		メールアドレス	

授 業 科 目	フィールド・ワーク【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大 薨 香		単 位	2
授業の目的 と概要	母子臨床のあり方や実践活動について理解することを目的とする。子どもの発達を理解し、母親の不安等をどのように受け止めるのか、母子の関係性をどのように見ていくかなど母子臨床の現場での体験を積み重ねながら学びを深めていく。本授業ではフィールドワークの基礎である参与観察について理解した上で、フィールドに赴き、データを収集する。それらのデータをまとめ、最終的に自分のテーマを決定して報告書を作成する。 フィールドとしては極低出生体重児を対象とした母子グループを考えている。（第2、第4水曜日 9：00～13：00）			
到達目標	1．母子臨床のあり方、実践活動について説明することが出来る。 2．フィールドに赴き、データを収集する。 3．データの中から自らの関心と照らし合わせ、テーマを選定する。 4．テーマに沿ってフィールドで得た情報を記述し、考察する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など				
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 な ど	
第 1回	オリエンテーション：講義の進行について、関心領域の確認		課題：文献のまとめ	
第 2回	研究法：心理学の研究法としてのフィールドワーク		課題：文献のまとめ	
第 3回	観察法		課題：文献のまとめ	
第 4回	臨床現場への参加		課題：フィールド におけるデータ収集	
第 5回	臨床現場への参加		課題：フィールド におけるデータ収集	
第 6回	臨床現場への参加		課題：フィールド におけるデータ収集	
第 7回	臨床現場への参加		課題：フィールド におけるデータ収集	
第 8回	中間のまとめとテーマの設定		課題：データをまとめること、テーマの設定を考えること	
第 9回	臨床現場への参加		課題：フィールド におけるデータ収集	
第10回	臨床現場への参加		課題：フィールド におけるデータ収集	
第11回	臨床現場への参加		課題：フィールド におけるデータ収集	
第12回	臨床現場への参加		課題：フィールド におけるデータ収集	
第13回	臨床現場への参加		課題：フィールド におけるデータ収集	
第14回	臨床現場への参加		課題：フィールド におけるデータ収集	
第15回	まとめ：最終的な考察、報告書作成		復習 データをまとめてレポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ レポート （事前レポート20％、最終レポート60％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ フィールドにおける参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・心理あるいは福祉、教育領域の基礎的な知識を有していることが望ましいです。 ・設定されている講義時間以外の時間を課題実習に振り替えることがあります。 ・継続的な母子臨床活動に参加するためグループの終了まで参加することを求めます。具体的には、講義期間終了後（2月）までの参加となります。 ・課外実習時の交通費は自己負担となります。 ・守秘義務をしっかりと守ってください。			
教科書	プリント配布			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に適宜紹介する			
オフィスワー	月曜2限・昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	布教法(本願寺派教師)【講義】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	高石 双樹・北嶋 文雄		単 位	4
授業の目的 と概要	布教の意義・方法・心得を学び、原稿を作成し、実際に布教することができるようになる。 “すべてのものの救い”を願う浄土真宗は、その教えを他者と共有しようとする布教伝道と不可分である。本講義では、布教について、まずその意義や方法・心得について学び、次いで実演に向けて布教案を作成して、実演・講評を行う。そして、その繰り返しによって、より良い布教ができるようになることを目指す。			
到達目標	1、布教の意義・作法・心得を理解することができる。 2、布教案を作成することができる。 3、布教することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回～第4回 布教の意義①：浄土真宗の布教とは	～お釈迦さまの生涯と布教の意義～		お釈迦さまの生涯について予習・自習をしてください。	
第5回・第6回 布教の実演①：布教案作成・実演	「仏教との出遇いを語る」		できるだけお寺のご法座、もしくは礼拝アワーに聴聞してください。	
第7回～第10回 布教の心得：布教する者の認識のあり方	～親鸞聖人のみ教えと布教～		親鸞聖人の生涯について予習・自習をしてください。	
第11回・第12回 布教の実演②：布教案作成・実演	「仏教の言葉との出遇いを語る」		できるだけお寺のご法座、もしくは礼拝アワーに聴聞してください。	
第13回～第15回 布教の実演③：布教案作成・実演	「浄土真宗という仏教を考える」		これまで作成した布教案を、より広げ、深めるふりかえりをしてください。	
第16回～第19回 布教の方法：布教を行うときの作法を学ぶ	～浄土真宗のあゆみと布教～		浄土真宗の歴史について予習・自習をしてください。	
第20回・第21回 布教の実演④：布教案作成・実演	「苦悩する人を意識して語る」		できるだけお寺のご法座、もしくは礼拝アワーに聴聞してください。	
第22回～第25回 布教の意義②：自らに対して仏教を語る	～現代における布教実践～		私たちの身近な課題に目を向けた布教について予習・自習をしてください。	
第26回・第27回 布教の実演⑤：布教案作成・実演	「苦悩する人を意識して語る」		できるだけお寺のご法座、もしくは礼拝アワーに聴聞してください。	
第28回～第30回 布教の実演⑥：布教案作成・実演	「仏教に出遇った喜びを語る」		これまで作成した布教案を、より広げ、深めるふりかえりをしてください。	
-			-	
-			-	
-			-	
-			-	
-			-	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	20％ 布教案を評価。			
小テスト等	なし。			
成果発表	40％ 布教実演を評価。			
受講態度他	40％ 講義に向き合う姿勢を評価。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	浄土真宗の教えにふれ、それを他者と共有するための学びを通して、人間的に成長していくことを目標にして講義をすすめます。 。様々な困難も担当教員や他の学生と協力しながら、乗り越えてください。 尚、上記の講義とテーマについては、講師の担当日程や進行状況によって、変更が生じます。			
教科書	『浄土真宗聖典 註釈版 第二版』 本願寺出版			
指定図書	なし。			
参考図書	講義時に紹介します。			
オフィスアワー	講義後	メールアドレス		

授 業 科 目	福祉科教育法Ⅰ(中等教職)【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	高石 伸人		単 位	2
授業の目的 と概要	高等学校教育における福祉科教育の意義について学び、それらの重要性について考察することにより、その価値を認識できるようになる。このために、まず、高等学校教育の目的を理解し、福祉科教育の内容がそれとどのように関係し、位置づけられているかを理解する。そして、それを踏まえて福祉科教育を担当する教員としての基礎的・実践的能力を身につける。 本講義では、福祉科教育を担当する教師をイメージして、これに関する知識と実践に重きを置き、前半では福祉科教育の内容を中心に、後半では個人発表や模擬授業を通じて、教育実践力を習得することができるように展開し、各自を教育力を高める。			
到達目標	本講義を受講することにより、高等学校教育の目的を理解し、福祉科教育の重要性を認識する。また、単なる知識としてだけでなく、これを基礎として実践能力を習得する。さらに、教師としての姿勢、授業の内容、教材研究などの授業に臨む態度を身につけ、福祉科教師として授業を展開することができるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育の基礎理論に関する科目」に該当し、以下の内容について学ぶ。 ・高等学校福祉科の教育法 ・教育課程の意義及び編成の方法 また、社会福祉関係科目、人権や医療、国際関係等の関連科目についても積極的に履修すること。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション、高等学校教育の目的と福祉科教育		教育基本法の再読	
第2回	福祉科教育の意義及び編成		ミランドラ「人間の尊厳について」を再読	
第3回	高等学校学習指導要領と福祉科教育		学習指導要領の復習	
第4回	福祉科教育の内容		福祉科科目の編成と内容の復習	
第5回	福祉科教育の指導法		指導方法の創意・工夫についての復習	
第6回	教科「社会福祉基礎」の考え方、内容及び具体的展開方法		教科書「社会福祉基礎」の内容の復習	
第7回	学習指導案の作成方法		指導案作成方法の復習・確認	
第8回	学習指導案の作成		学習指導案の作成と発表準備	
第9回	模擬授業（1） 評価表による評価 教員のコメント		模擬授業の課題整理と発表準備	
第10回	模擬授業（2） 評価表による評価 教員のコメント		模擬授業の課題整理	
第11回	模擬授業の振り返り、フィールドワークの目的と事前学習		事前学習の課題整理	
第12回	フィールドワークⅠ～福祉問題の現場を歩く～		フィールドワークの反省と発表準備	
第13回	模擬授業（3） 評価表による評価 教員のコメント		模擬授業の課題整理と発表準備	
第14回	模擬授業（4） 評価表による評価 教員のコメント		模擬授業の課題整理	
第15回	福祉科教育の実践課題と福祉科教員の役割		全体の授業内容の復習とまとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ 学習指導案の評価 50％ 模擬授業の評価			
受講態度他	30％ 質問等による授業への積極的参加を考慮			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	遅刻や無断欠席はしないようにお願いします。発表時間の遅刻等は他の受講生に迷惑をかけることになるので注意してください。			
教科書	『社会福祉基礎』実教出版			
指定図書	なし			
参考図書	二文字理明他編著『福祉科教育学』明石書店 学習指導要領			
オフィスアワー	火曜日の授業前30分		メールアドレス	

授 業 科 目	福祉科教育法Ⅱ(中等教職)【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	高石 伸人		単 位	2
授業の目的と概要	高等学校福祉科の福祉に関する科目の中から、おもに「コミュニケーション技術」「介護総合演習」の内容を取り上げ、学習指導要領に基づく教育法について学ぶ。福祉科教育法Ⅰの基礎の上に、総合的な指導計画及び授業計画を作成して授業を実施できるよう、福祉科教育の担当者としての専門的な資質を身につける。「総合的学習の時間」における福祉的な内容の取扱い、地域との連携による生涯学習の位置づけの福祉教育なども取り上げる。前期に引き続き学習指導案を作成して模擬授業も行う。			
到達目標	自ら指導計画を作成し、それに基づき高校の授業さながらの模擬授業を展開し、相互に評価することを通じて、指導法や技術を向上させ、高等学校福祉科教員としての実践力を高める。あわせて、社会の多様な問題を考え、アプローチする実践力の習得も目指す。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育の基礎理論に関する科目」に該当し、以下の内容について学ぶ。 ・高等学校福祉科の教育法 ・教育の方法及び技術（ICTの活用を含む） また、社会福祉関係科目、人権や医療、国際関係等の関連科目についても積極的に履修すること。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	高校福祉科の教育目標と教育内容の考え方		教育目標と教育内容の関連（連続性）を確認	
第2回	教科「コミュニケーション技術」の考え方、内容及び具体的展開方法		コミュニケーションの基礎について復習	
第3回	教科「介護総合演習」の考え方、内容及び具体的展開方法		ケアの思想についての復習	
第4回	「コミュニケーション技術」の内容理解		コミュニケーションと援助技術について復習	
第5回	「介護総合演習」の内容理解		介護事例の復習	
第6回	福祉科教育の教材研究（1）～教材研究の考え方		扱った教材内容の復習	
第7回	福祉科教育の教材研究（2）～教材研究の実際		自己推薦教材の選定	
第8回	学習指導案の作成		指導案の作成と発表準備	
第9回	模擬授業（1） 評価表による評価 教員のコメント		模擬授業の課題整理と発表準備	
第10回	模擬授業（2） 評価表による評価 教員のコメント		模擬授業の課題整理	
第11回	フィールドワークⅡ～地域連携による福祉教育～		フィールドワークの反省と模擬授業の発表準備	
第12回	模擬授業（3） 評価表による評価 教員のコメント		模擬授業の課題整理と発表準備	
第13回	模擬授業（4） 評価表による評価 教員のコメント		模擬授業の課題整理	
第14回	「総合的学習の時間」と福祉教育		総合的学習のねらいと活動内容の復習	
第15回	全体評価 「高校福祉科教員のあるべき姿」について		福祉科教員の役割と職業倫理の復習とまとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ 学習指導案の評価 50％ 模擬授業の評価			
受講態度他	30％ 質問等による授業への積極的参加を考慮			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	模擬授業の評価は、学生各自の判断に基づいて記述するものとし、私情を交えたり個人攻撃は厳に慎むこと。また、評価を受けた側は真摯に受け止め、必要に応じて意見を交わし、異存がある場合は指導教員に申し出る。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	二文字理明他編著『福祉科教育学』明石書店 学習指導要領			
オフィスワーク	火曜日の授業前30分		メールアドレス	

授 業 科 目	福祉計画論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	山崎 安則		単 位	2
授業の目的 と概要	2000（平成12）年の社会福祉法の改正によって地域福祉の推進が揚げられ、平成の市町村合併以降身近なところで地域福祉計画や地域福祉活動計画の策定が進行しています。そこで本講義では、地域福祉計画を取り上げ、その意義や目的さらに策定過程や方法の基礎的知識と技術を学んでいきます。 授業では、20人単位のグループを編成し架空の市町村の住民として策定作業に関わっていきます。具体的にはKJ法によるワークショップを通して、その市町村の生活課題や福祉問題などを収集・整理・分析を行い、その解決に向けた計画書を策定し、各グループが発表していきます。最後には、学生個人が住民懇談会への案内状（チラシ・広報紙）を作成し評価しあいます。			
到達目標	①地域福祉計画の意義と目的が説明できる。 ②地域福祉計画を策定することができる。 ③課題の整理や分析を通して説明ができる。 ④図表を使ってチラシや広報紙を作成することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回わが国の社会福祉計画法の概念と遠隔			予習：テキストP104～P109	
第2回社会福祉計画の類型と地域福祉計画の範囲と性格			予習：テキストP112～P124	
第3回地域福祉計画の概要「理念と範囲」			予習：テキストP126～P135	
第4回地域福祉計画の策定①「グループ分けと手順の説明」			課題：地域の課題を調べる	
第5回地域福祉計画の策定②「ワークショップとKJ法」			課題：地域の課題を整理する	
第6回地域福祉計画の策定③「生活課題や福祉問題の抽出」			課題：地域の課題を抽出する	
第7回地域福祉計画の策定④「生活課題や福祉問題の収集と整理」			課題：地域の課題をまとめる	
第8回地域福祉計画の策定⑤「生活課題や福祉問題を分析」			課題：地域の課題を分析	
第9回地域福祉計画の策定⑥「中間発表（課題・問題）」			課題：大版用紙に記入（プレゼンテーション）	
第10回地域福祉計画の策定⑦「生活課題・福祉問題の解決方法の検討」			課題：解決方法（アイデア）を収集	
第11回地域福祉計画の策定⑧「計画書の作成（レイアウトの検討）」			課題：他市町村の計画書を参照	
第12回地域福祉計画の策定⑨「計画書の作成（下書き）」			課題：デザインを考える	
第13回地域福祉計画の策定⑩「計画書の発表（地域住民の参加）」			課題：プレゼンテーションの方法を検討	
第14回広報紙・チラシによるプレゼンテーション			課題：各自で作成したチラシの評価	
第15回地域福祉計画とまちづくり			課題：地域公民館で発表	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	定期試験なし 50％課題の提出			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	20％地域貢献活動（フィールドワーク）			
受講態度他	30％履修規定・受講態度・出席状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自分が暮らしているまちや地域のことに関心を向け、行政の広報紙や社協だよりなどの地域情報を収集するなど主体的に取り組んでほしい。また、演習ではグループごとの策定状況に応じて助言・支援などのスーパービジョンを行います。			
教科書	新・社会福祉士養成講座編『福祉行財政と福祉計画』中央法規 第4版 2015年			
指定図書	島津淳也編著『地域福祉計画の理論と実践』ミネルヴァ書房			
参考図書	牧里毎治編著『共同と参加の地域福祉計画』ミネルヴァ書房			
オフィスワー	火曜日を除く昼休み時間（12:20～13:10）	メールアドレス		

授 業 科 目	福祉社会学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	園田 浩之		単 位	2
授業の目的と概要	この授業では、福祉社会学の視点と、そこで扱われているいくつかの問題について紹介してゆく。授業の目的は、ときに福祉をめぐる私たちの常識を問い直しながら、私たちの「生きづらさ」をめぐる現実を多面的に理解してもらうこと、そのための視点と考え方を紹介することにある。福祉をめぐるイメージ（または既知と未知）を超えて、柔軟に現実を見つめなおすセンスを養うことに主眼をおく。また、社会福祉が向き合うさまざまな「生きづらさ」をめぐる、それらを生み出す社会的・時代背景にさかのぼってその成り立ちを理解し、いまある社会とそこに生きる私たち自身の抱える問題に気づいてもらうために、社会学的なものの考え方の基礎にも親しんでもらう。			
到達目標	(1) 生きづらさや生きることの不安に関係した福祉のテーマを取り上げながら、自らの生きる現実を多面的に・柔軟に（ときに批判的に）とらえるために必要なリテラシーやクリティカル・シンキングの姿勢や視点を身につける。②自らの生きる現代社会がどのような問題を抱え込んでいるかを多面的に理解し、それをできる限りクリアに・丁寧に言語化することができる。それらの学びを通じて、ものの見方と思考、そして言葉による表現の柔軟性を高める。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	現代社会に生きることの不安 福祉社会学への招待		配布資料とノートをもとに、初回の内容をふりかえる	
第2回	生の脆さ① 「日常生活」の成り立ちから考えてみる		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第3回	生の脆さ② 自由に生きることを支えるものについて		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第4回	障害をめぐる① 生きづらさがつくり出されるとき		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第5回	障害をめぐる② ふたつの視点		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第6回	障害をめぐる② 障害学の発想 自立と依存をめぐる①		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第7回	自立と依存をめぐる① 「自立」の意味を問い直す		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第8回	自立と依存をめぐる② 「自立」の意味を書き換える（再定義する） つながりの中の生		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第9回	ふつうに生きることの困難さ 現代の貧困をめぐる① 見える貧困/見えない貧困		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第10回	ふつうに生きることの困難さ 現代の貧困をめぐる② 「貧困」の捉え方		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第11回	ふつうに生きることの困難さ 貧困をめぐる③ 社会問題としての貧困		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第12回	社会的排除と包摂① 貧困から社会的排除へ		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第13回	社会的排除と包摂② 「自己責任」という見方を問い直してみる		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第14回	社会的排除と包摂③ 社会的排除と生きづらさの問題		配布資料とノートをていねいに読み返す	
第15回	「生きづらさ」「生きやすさ」を社会学することの意義		配布資料とノートをていねいに読み返す	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 講義中に示した重要な概念や視点、事柄の説明を正しく理解し、それを適切・説得的な言葉で表現できること			
レポート	10％ 学期中に講義内容とリンクした小レポートを課す場合がある。			
小テスト等	なし。ただし、理解の適切さを確かめる意味で、講義内容に関する問いかけを行うことはある（受講態度の項目も参照）			
成果発表	なし。			
受講態度他	10％ 講義中のコミュニケーション（質疑・やりとり）を含む、講義への実質的な参加は重んじる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修を希望する人たちは、必ず「初回の講義」から出席して下さい。受講上のルールや留意点の詳細は、教室で説明します。			
教科書	教科書は使用しません。スライド（パワーポイント）と、そのつど配布するプリント（配布資料）で講義を進めます。			
指定図書	なし			
参考図書	講義の進行に応じて、さらに知りたくなった人・より深く考えたくなった人たちに、思考の糧・補助線になりそうなもの（場合によっては、「本」以外のものも）を紹介していけたらと思っています。			
オフィスアワー	質問や連絡等は、講義の前後に教室で直接うかがいます（いつでも、遠慮なくどうぞ）	メールアドレス		

授 業 科 目	フランス語Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	中 軽 米 明 子		単 位	1
授業の目的 と概要	授業の目的としては、フランス語と高校時代まで慣れ親しんできた外国語である英語との間に、どのような共通点がありどのような違いがあるかを認識しつつ、簡単なフランス語表現を習得することである。また、それによって異文化交流に積極的になることである。 授業では、教科書を中心に最小限のフランス語文法とフランス語表現を学習する。原則として、その日の授業で学んだフランス語表現は、その日の授業時間内に暗記する（授業時間内にできるだけ暗記の時間を設けます）。次の授業でも復習する。			
到達目標	①最小限のフランス語文法を説明できる。 ②15以上のフランス語表現を話すことができる。 ③15以上のフランス語表現を書くことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	フランス語のアルファベット（アルファベ）、基本の挨拶表現		予習（pp.3-4）	
第2回	基本の挨拶表現（続き）、発音と綴り字		復習（pp.4-5）	
第3回	名詞と冠詞		復習（p.6）	
第4回	「これは～です」という表現、文化紹介		復習（pp.7-8）	
第5回	主語、基本の動詞		復習（p.10, p.12）	
第6回	動詞を使った簡単な表現、曜日、数詞（1）、文化紹介		復習（p.11）	
第7回	「私は日本人です」などの表現、形容詞		復習（p.14）	
第8回	形容詞（続き）、文化紹介		復習（pp.15-16）	
第9回	「～を持っている」という表現、否定文		復習（p.18）	
第10回	疑問文、文化紹介		復習（pp.18-20）	
第11回	よく使う不規則動詞、「この～」、「私の～」という表現		復習（p.22）	
第12回	外出に関わる表現、数詞（2）、文化紹介		復習（pp.23-24）	
第13回	「行く」、「来る」という表現、12か月、四季		復習（pp.26-27）	
第14回	「いつ?」、「どこ?」などの表現、数詞（3）		復習（pp.26-28）	
第15回	文化紹介、今学期の補足と復習		定期試験に備えての復習	
成 績 評 価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	70% 定期試験期間中に、70点満点の筆記テストを行います。			
レポート	毎回、授業時間終了前の10～15分程度、暗記のための時間を設けます。各自紙片にフランス語表現を書いて練習してもらい、授業終了時に回収します。返却はしませんが、指摘が必要な場合に限り、翌週にコメントします。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 授業への積極的参加度を評価			
受講上の留意点・ルールに関する情報	授業時間外での予習をした、しなかったに関係なく、とにかく授業に毎回出席することが大事です。授業時間に集中しましょう。私語は厳禁。			
教科書	久富健 『エスプラナード1』 朝日出版社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	フランス語 I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	木下 樹親		単 位	1
授業の目的 と概要	この授業の目的は、フランス語のつづり字と発音体系の関係を把握し、簡単な会話表現を習得することと、現代フランスの社会や文化についての基礎知識を身につけることです。 そのため、わかりやすく楽しい教科書で発音と文法を学習し、その応用表現を口頭と筆記の両面で反復練習します。またコラムの頁でフランス文化の一端を見たり、学習内容に応じてフランスのポップスをときどき聴いたりします。			
到達目標	1. フランス語のつづり字を見て、正しい発音ができるようになる。 2. 自己紹介に始まる会話表現を覚え、運用することができるようになる。 3. フランスの諸文化の基礎的な特徴を述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	ガイダンス、アルファベと綴り字記号		予習 pp.2-3	
第 2 回	基本的な挨拶表現、発音		予習 pp.4-5	
第 3 回	名詞と冠詞（1）		予習 pp.6-7	
第 4 回	名詞と冠詞（2）、パリの区		予習 pp.8-9	
第 5 回	主語人称代名詞と第 1 群規則動詞（1）		予習 pp.10-11	
第 6 回	主語人称代名詞と第 1 群規則動詞（2）、パリの通り		予習 pp.12-13	
第 7 回	動詞etre、形容詞（1）		予習 pp.14-15	
第 8 回	動詞etre、形容詞（2）、カルチェ・ラタン		予習 pp.16-17	
第 9 回	動詞avoir、否定文と疑問文（1）		予習 pp.18-19	
第10回	動詞avoir、否定文と疑問文（2）、パン屋さん		予習 pp.20-21	
第11回	不規則動詞prendreとfaire、指示形容詞と所有形容詞（1）		予習 pp.22-23	
第12回	不規則動詞prendreとfaire、指示形容詞と所有形容詞（2）、パリの交通		予習 pp.24-25	
第13回	不規則動詞allerとvenir、疑問副詞（1）		予習 pp.26-27	
第14回	不規則動詞allerとvenir、疑問副詞（2）、フランスのヴァカンス		予習 pp.28-29	
第15回	フランス語の文のしくみ、授業のまとめと復習		予習 pp.30-31、理解が行き届いていない事項があればチェックしておく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	5 5 ％ 定期試験（文法、読解、単語）			
レポート	0 ％			
小テスト等	1 5 ％ 特に重要な事項の復習（主に、聞き取り形式で）			
成果発表	0 ％			
受講態度他	3 0 ％ 質問や発表による授業への積極的参加			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	教科書出版社のWEBサイトが提供している音声聴きながら予・復習をしてください。 授業には積極的に参加し、不明な点や疑問点があれば、遠慮なく尋ねてください。			
教科書	久富健、小谷奈津子、森真太郎『エスプラナード1』朝日出版社			
指定図書	なし			
参考図書	仏和辞典を授業中に紹介します。			
オフィスワ ー	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	フランス語Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	間瀬 玲子		単 位	1
授業の目的 と概要	わかりやすく楽しい教科書を使いながら、フランス語のコミュニケーション能力を身につける。また教科書の内容に即した映像を見ながら、フランス文化を理解することができるようになることを目的とする。 フランス語のコミュニケーション能力を身につけるために最小限の文法と役立つ表現を勉強する。またフランス語学習を通してフランスの文化、社会に関するさまざまな情報に触れる。パリの映像を見ながら、フランスとフランス語を身近に感じながら学ぶ。登場人物の短い会話を繰り返し言うことにより、フランス語を習得する。			
到達目標	1. 最小限のフランス語文法を説明できる。 2. 簡単なフランス語表現を話すことができる。 3. 読み・書き・話す・聞くという4技能をバランスよく身につける。 4. フランス文化の基礎を説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 関連科目 文学部 フランス語Ⅱ、フランス語Ⅲ、フランス語Ⅳ、比較文学、言語学 人間科学部 フランス語Ⅱ			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	フランス本土とは？ アルファベット、綴り字記号		予習 pp.2-3	
第 2回	基本的な挨拶表現、発音		予習 pp.4-5	
第 3回	名詞、冠詞、国名の単語		予習 pp.6-7	
第 4回	リエゾン等、フランスの首都パリの主要建造物（ルーヴル美術館など）		予習 pp.8-9	
第 5回	主語人称代名詞、動詞、曜日、数詞		予習 pp.10-11	
第 6回	動詞の続き、パリの主要建造物から街並みを眺める		予習 pp.12-13	
第 7回	不規則動詞、形容詞、国籍・身分・職業に関する単語		予習 pp.14-15	
第 8回	形容詞による不定冠詞の変形、パリの学生街（カルチュ・ラタン）		予習 pp.16-17	
第 9回	不規則動詞、否定文、疑問文、動物に関する単語		予習 pp.18-19	
第10回	さまざまな否定表現、パン屋さんで買い物をする、カフェ文化を学ぶ		予習 pp.20-21	
第11回	不規則動詞、指示形容詞、所有形容詞、衣類・色・数詞に関する単語		予習 pp.22-23	
第12回	人称代名詞の強勢形、パリの地下鉄、フランス国鉄		予習 pp.24-25	
第13回	動詞の活用、近接未来・近接過去、疑問副詞、月・四季・数詞に関する単語		予習 pp.26-27	
第14回	前置詞と定冠詞の縮約、7月・8月のヴァカンス地		予習 pp.28-29	
第15回	授業の総括		筑女ネットの授業資料を復習する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 定期試験（文法、読解、単語）			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 質問や発表による授業への積極的参加			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	予習箇所を明記している回は、授業前に必ず予習をしてください。 筑女ネット（LMS）にアップしている授業資料を積極的に活用してください。			
教科書	久富 健 『エスプラナード 1』朝日出版社			
指定図書	田中幸子『フランス語で話す 自分のこと 日本のこと』白水社、トリコロールパリ『パリが楽しくなる！かんたんフランス語』パイインターナショナル、富田正一『完全予想仏検5級 [改訂版]』駿河台出版社			
参考図書	仏和辞典、参考書等は授業中に紹介します。			
オフィスアワー	木曜日 2 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	フランス語Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	間瀬 玲子		単 位	1
授業の目的 と概要	フランス語Ⅰに続き、わかりやすく、楽しく学ぶことができる教科書を使いながら、フランス語のコミュニケーション能力を身につける。また教科書の内容に即した映像を見ながら、フランス文化を理解することができるようになることを目的とする。フランス語のコミュニケーション能力を身につけるために最小限の文法と役立つ表現を勉強する。またフランス語学習を通してフランスの文化、社会に関するさまざまな情報に触れる。			
到達目標	1. 最小限のフランス語文法を説明できる。 2. 簡単なフランス語表現を話すことができる。 3. 読み・書き・話す・聞くという4技能をバランスよく身につける。 4. フランス文化の基礎を説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 関連する科目 文学部 フランス語Ⅰ、フランス語Ⅲ、フランス語Ⅳ、比較文学、言語学 人間科学部 フランス語Ⅰ			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	句読記号、文の形態、文の要素		予習 pp.30-31	
第 2 回	補語人称代名詞、疑問代名詞、疑問形容詞、スポーツ・数詞に関する単語		予習 pp.32-33	
第 3 回	非人称構文、パリの空港から市内までの交通手段、フランスのサマータイム		予習 pp.34-35	
第 4 回	比較級と最上級、命令形、花に関する単語		予習 pp.36-37	
第 5 回	パリのパサージュの特徴		予習 pp.38-39	
第 6 回	過去分詞、直説法複合過去、時を現す語・表現		予習 pp.40-41	
第 7 回	フランスと日本の交流		予習 pp.42-43	
第 8 回	代名動詞、1日・家の中・数詞に関する単語		予習 pp.44-45	
第 9 回	パリ市内の美術館		予習 pp.46-47	
第10回	半過去、中性代名詞、身体・数詞に関する単語		予習 pp.48-49	
第11回	フランス文学（言葉と歴史）		予習 pp.50-51	
第12回	関係代名詞、強調構文、位置を表す前置詞・ホテル用語		予習 pp.52-53	
第13回	フランスの哲学		予習 pp.54-55	
第14回	フランス語の2大文法ポイント、単純未来、条件法		予習 pp.56-63	
第15回	授業のまとめ		範囲の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 定期試験（文法、読解、単語）			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 質問や発表による授業への積極的参加			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	予習箇所を明記している回は、授業前に予習をしてください。 筑女ネット（LMS）にアップしている授業資料を積極的に活用してください。			
教科書	フランス語Ⅰで使用した久松健『エスプラナード1』朝日出版社を使います。授業前に準備しておいてください。			
指定図書	明石伸子『フランス語でEメール』駿河台出版社、トリコロール・パリ『おしゃべりがはずむ フランスの魔法のフレーズ』白水社、小倉博史『CD付 仏検対策4級問題集』（改訂版）、白水社			
参考図書	授業の中で適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 3 講時	メールアドレス		

授 業 科 目	フランス語Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	木下 樹親		単 位	1
授業の目的 と概要	この授業の目的は、「フランス語Ⅰ」の履修を踏まえ、フランス語のつづり字と発音体系の関係を把握し、簡単な会話表現を習得することと、現代フランスの社会や文化についての基礎知識を身につけることです。 そのため、わかりやすく楽しい教科書で発音と文法を学習し、その応用表現を口頭と筆記の両面で反復練習します。またコラムの頁でフランス文化の一端を見たり、学習内容に応じてフランスのポップスをとときどき聴いたりします。			
到達目標	1. フランス語のつづり字を見て、正しい発音ができるようになる。 2. 自己紹介に始まる会話表現を覚え、運用することができるようになる。 3. フランスの諸文化の基礎的な特徴を述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	補語人称代名詞、疑問代名詞、疑問形容詞（1）		予習 pp.32-33	
第 2回	補語人称代名詞、疑問代名詞、疑問形容詞（2）、サマータイム		予習 pp.34-35	
第 3回	比較級と最上級、命令形（1）		予習 pp.36-37	
第 4回	比較級と最上級、命令形（2）、パリのパサージュ（小路）		予習 pp.38-39	
第 5回	複合過去（1）		予習 pp.40-41	
第 6回	複合過去（2）、フランスと日本		予習 pp.42-43	
第 7回	代名動詞（1）		予習 pp.44-45	
第 8回	代名動詞（2）、パリの美術館		予習 pp.46-47	
第 9回	半過去、中性代名詞（1）		予習 pp.48-49	
第10回	半過去、中性代名詞（2）、フランス文学		予習 pp.50-51	
第11回	関係代名詞、強調構文、不規則動詞pouvoirとvouloir（1）		予習 pp.52-53	
第12回	関係代名詞、強調構文、不規則動詞pouvoirとvouloir（2）、フランス哲学		予習 pp.54-55	
第13回	2大文法ポイントまとめ、単純未来、指示代名詞（1）		予習 pp.56-59	
第14回	単純未来、指示代名詞（2）、プロヴァンス地方		予習 pp.60-61	
第15回	条件法、授業のまとめと復習		予習 pp.62-64、理解が行き届いていない事項があればチェックしておく	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	55％ 定期試験（文法、読解、単語）			
レポート	0％			
小テスト等	15％ 特に重要な事項の復習（主に、聞き取り形式で）			
成果発表	0％			
受講態度他	30％ 質問や発表による授業への積極的参加			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	教科書出版社のWEBサイトが提供している音声聴きながら予・復習をしてください。 授業には積極的に参加し、不明な点や疑問点があれば、遠慮なく尋ねてください。			
教科書	フランス語Ⅰで使用した久富、小谷、森『エスプラナード1』を継続して使います。			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	フランス語Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	中軽米 明子		単 位	1
授業の目的と概要	授業目的としては、フランス語Ⅰで学んだフランス語表現に加えて、さらに多くの表現を習得する。それによって、フランス人と実際にコミュニケーションをとりたいという欲求を高める。 授業ではフランス語Ⅰと同様に、教科書を中心に最小限のフランス語文法とフランス語表現を学習する。原則として、その日の授業で学んだフランス語表現は、その日の授業時間内に暗記する（授業時間内にできるだけ暗記の時間を設けます。）。次回の授業でも復習する。			
到達目標	①最小限のフランス語文法を説明できる。 ②フランス語Ⅰで覚えたフランス語表現に加えて、さらに15以上のフランス語表現を話すことができる。 ③フランス語Ⅰで覚えたフランス語表現に加えて、さらに15以上のフランス語表現を書くことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	目的語表現、「何が（何を）～?」、「誰が（誰を）～?」などの疑問文		復習(p.32)	
第2回	時間、天候の表現、数詞（1）、文化紹介		復習（pp.33-34）	
第3回	比較級、最上級		復習（p.36）	
第4回	命令形、文化紹介		復習（pp.36-38）	
第5回	過去を表現する		復習(p.40)	
第6回	「昨日」など過去の時を表す語、文化紹介		復習（pp.41-42）	
第7回	「起床する」、「就寝する」などの表現		復習（p.44）	
第8回	日常生活を表現する、数詞（2）、文化紹介		復習（pp.45-46）	
第9回	過去を語るもう一つの表現		復習（pp.48-50）	
第10回	代名詞、身体を表す語、数詞（3）、文化紹介		復習（pp.44-45）	
第11回	関係代名詞		復習（p.52, p.54）	
第12回	ホテルの予約をする、文化紹介		復習（p.53）	
第13回	未来を表現する		復習（p.58）	
第14回	「もし～ならば」という表現、文化紹介		復習（p.62）	
第15回	文化紹介、今学期の補足と復習		定期試験に備えての復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 定期試験期間中に70点満点の筆記テストを行います。			
レポート	毎回、授業時間終了前の10～15分程度、暗記の時間を設けます。各自紙片にフランス語表現を書いて練習してもらいます。授業終了時に回収します。返却はしませんが、必要な指摘があるときに限り、翌週にコメントします。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 授業への積極的参加度を評価。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業時間外での予習をした、しなかったに関係なく、とにかく授業に毎回出席することが大事です。授業時間に集中しましょう。私語は厳禁。			
教科書	フランス語Ⅰに引き続き、久富健『エスプラナード1』朝日出版社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	フランス語Ⅲ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	間瀬 玲子		単 位	1
授業の目的 と概要	フランス語Ⅰ・Ⅱに続き、フランス語の基礎的なコミュニケーション能力を身につける。また教科書の内容に即したDVDを見ながら、フランス文化の基礎的な事柄を理解することができるようになることを目的とする。フランス語の細かい文法事項を網羅的に勉強するのではなく、文法をできる限り簡略化して、より自由に自発的に会話ができるようになることを目標とする。主人公クレールが日本にいるアキ子にメールをしてフランスの地方料理を巡る旅を報告します。			
到達目標	1. 基礎的な文法を説明できる。 2. フランス語の短い会話を行うことができる。 3. 筑女ネットにアップした音声を取り取ることができる。 4. フランス語の短い文章を日本語に訳すことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 関連科目 文学部 フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、フランス語Ⅳ、比較文学、言語学			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	クレール、旅に出る		予習 pp.1	
第 2 回	フランスの地方料理、綴り字		予習 pp.2-3	
第 3 回	アルザス地方（ロレーヌ風キッシュ）、複合過去、代名動詞		予習 pp.4-5	
第 4 回	練習問題、聞き取り、インタビュー		予習 pp.6-7	
第 5 回	アルザス地方（シュクルート）、半過去、大過去		予習 pp.8-9	
第 6 回	練習問題、聞き取り、インタビュー		予習 pp.10-11	
第 7 回	料理を作ろう 1 （ロレーヌ風キッシュ）、地方の名産物		予習pp.12-13	
第 8 回	ブルゴーニュ地方（エスカルゴ）、関係代名詞、命令形と補語人称代名詞、序数		予習 pp.14-15	
第 9 回	練習問題、聞き取り、インタビュー		予習 pp.16-17	
第10回	ブルゴーニュ地方（ブルゴーニュワイン）、現在分詞、ジェロンディフ、疑問代名詞		予習 pp.18-19	
第11回	練習問題、聞き取り、インタビュー		予習 pp.20-21	
第12回	料理を作ろう 2 （若鶏の赤ワイン煮）、アルコール飲料		予習 pp.22-23	
第13回	ローヌ・アルプ地方（サヴォワ風フォンデュ）受動態、最上級、副詞		予習 pp.24-25	
第14回	練習問題、聞き取り、インタビュー		予習 pp.26-27	
第15回	授業の総括		教科書と筑女ネットを見ながら復習を行う	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％定期試験（文法、読解、単語）			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 質問や発表による授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習箇所を明記している回は、授業前に予習をしてください。 筑女ネット（LMS）にアップしている授業資料は積極的に活用してください。			
教科書	藤田裕二 『新・彼女は食いしん坊！2』朝日出版社			
指定図書	小島慶一『やさしいフランス語の発音 改訂版』語研、ガストン・ルルー『フランス語で読むオペラ座の怪人』IBCパブリッシング グ、久松健一『【新版】フランス語 聴聴力』駿河台出版社			
参考図書	授業中に適宜紹介します。			
オフィスワー	木曜日 2 講時	メールアドレス		

授 業 科 目	フランス語Ⅳ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	間瀬 玲子		単 位	1
授業の目的 と概要	フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに続き、フランス語の基礎的なコミュニケーション能力を身につける。また教科書の内容に即したDVDを見ながら、フランス文化の基礎的な事柄を理解することができるようになることを目的とする。フランス語の細かい文法事項を網羅的に勉強するのではなく、文法をできる限り簡略化して、より自由に自発的に会話ができるようになることを目標とする。			
到達目標	1. 基礎的な文法を説明できる。 2. フランス語の短い会話を行うことができる。 3. 筑女ネットにアップした音声聞きながら音声問題を解くことができる。 4. フランス語の長い文章を日本語に訳すことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2)-①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 関連科目 文学部 フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、フランス語Ⅲ、比較文学、言語学			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	ローヌ・アルプ地方2（チーズ）、強調構文、中性代名詞、年号		予習 pp.28-29	
第 2 回	練習問題、聞き取り、インタビュー		予習 pp.30-31	
第 3 回	料理を作ろう！3（ドフィーフ風グラタン）、チーズ		予習 pp.32-33	
第 4 回	プロヴァンス地方（ブイヤベース）、条件法現在、条件法過去		予習 pp.34-35	
第 5 回	練習問題、聞き取り、インタビュー		予習 pp.36-37	
第 6 回	プロヴァンス地方 2（ラタトゥイユ）、接続法現在、接続法過去		予習 pp.38-39	
第 7 回	練習問題、聞き取り、インタビュー		予習 pp.40-41	
第 8 回	料理を作ろう！4（ラタトゥイユ）、食材		予習 pp.42-43	
第9回	ブルターニュ地方（クレープ）、間接話法、時制の一致		予習 pp.44-45	
第10回	練習問題、聞き取り、インタビュー		予習 pp.46-47	
第11回	ブルターニュ地方2（魚介類の盛り合わせ）、前置詞、接続詞、場所を表す表現、論理を表す表現		予習 pp.48-49	
第12回	練習問題、聞き取り、インタビュー		予習 pp.50-51	
第13回	料理を作ろう！5（ガトー・ブルトン）、お菓子		予習 pp.52-53	
第14回	付録 綴り字、複合過去、代名動詞		予習 pp.53-54	
第15回	授業の復習		筑女ネットの授業資料を復習する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％定期試験（文法、読解、単語）			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 質問や発表等による授業への積極的な参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習箇所を明記している回は、授業前に教科書の予習をしてください。 筑女ネット（LMS）にアップしている授業資料を積極的に活用してください。			
教科書	フランス語Ⅲで使用した藤田裕二『新・彼女は食いしん坊！2』朝日出版社を使います。授業前に教科書を準備しておいてください。			
指定図書	稲垣直樹『対訳 フランス語でよむ「レ・ミゼラブル」』白水社、塩谷祐人『対訳 フランス語で読む「恐るべき子どもたち』白			
参考図書	授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日3講時		メールアドレス	

授 業 科 目	仏教学Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小林 久泰		単 位	2
授業の目的 と概要	本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。 釈尊の生涯をたどりながら、日本をはじめ世界中に広まった仏教という教えを説いた釈尊の人物像に迫る。そのうえで、自分の生き方を振り返り、より広い視点から人生を考える時間をもつ。それにより、人間にとって宗教がどのような意味を持つのかについて考察を深める。			
到達目標	1. 宗教が何を目的としているかについて説明することができる。 2. 釈尊の生涯に起こった主要な出来事について説明することができる。 3. 釈尊の教えに照らして自分自身の生き方を振り返ることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 この授業は、「仏教学Ⅱ」および「親鸞・人と思想Ⅰ」「親鸞・人と思想Ⅱ」と関連する科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	イントロダクション：宗教を学ぶ意味		復習・課題レポート	
第 2回	宗教が目指すもの		復習・課題レポート	
第 3回	世界の中の仏教		復習・課題レポート	
第 4回	仏教成立以前の宗教：バラモン教		復習・課題レポート	
第 5回	仏教成立以前の宗教：沙門たち		復習・課題レポート	
第 6回	釈尊の誕生		復習・課題レポート	
第 7回	少年時代の釈尊		復習・課題レポート	
第 8回	出家の動機：四門出遊		復習・課題レポート	
第 9回	苦行生活とその放棄		復習・課題レポート	
第10回	成道：縁起の理法		復習・学期末レポート	
第11回	説法の躊躇と梵天勧請		復習・学期末レポート	
第12回	はじめての説法：初転法輪		復習・学期末レポート	
第13回	布教活動：様々な人たちとの出会い		復習・学期末レポート	
第14回	入滅：釈尊の遺言		ノートまとめ・全講義の復習・学期末レポート	
第15回	まとめ		ノートまとめ・全講義の復習・学期末レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	法話レポート（10％）・課題レポート（10％）・学期末レポート（20％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60％ 毎回の「感想ラベル」の記述内容および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とし、遅刻・私語・居眠りなどは減点します。毎回授業終了時に「感想ラベル」を書いて提出すること。			
教科書	龍谷ミュージアム編『釈尊と親鸞』法蔵館、および配布プリント			
指定図書	なし			
参考図書	授業中、適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜 3 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	仏教学Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	宇野 智行		単 位	2
授業の目的と概要	本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。 本学建学の精神である仏教はいかなる要請によって生まれたのか、仏教の目指すところはどこにあるのか、インドの思想的・社会的背景を学習しながら、釈尊の教えとその現代的意義について考える。また、仏教の倫理観・人間観を学ぶことにより、今一度、「わたし」を見つめ直す機会とする。			
到達目標	1. 宗教が何を目的としているかについて、説明することができる。 2. 釈尊の生涯に起こった出来事について、主要な事項を説明することができる。 3. 釈尊の教えを通じて、自分の生き方について自分で振り返ることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は主に以下のDPと関係します。 (1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 また、「仏教学Ⅱ」「親鸞・人と思想Ⅰ」「親鸞・人と思Ⅱ」と関連する科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 イントロダクション			復習（宗教のイメージ）	
第 2回 宗教とは何か①：道徳，哲学との相違			復習（実存的苦の解決）	
第 3回 宗教とは何か②：科学，政治との相違			復習（苦の超越）	
第 4回 仏教以前の宗教①：バラモン教			復習（祭式万能主義）・課題レポート作成「宗教のはたらき」	
第 5回 仏教以前の宗教・思想②：唯物論			復習（快楽至上主義）・課題レポート作成「宗教のはたらき」	
第 6回 仏教以前の宗教・思想③：ジャイナ教			復習（苦行至上主義）・課題レポート作成「宗教のはたらき」	
第 7回 釈尊の誕生：古代インドの社会状況			復習（王子としての生まれ）・課題レポート作成「宗教のはたらき」	
第 8回 若き釈尊の悩み：苦しみとは何か			復習（四門出遊）	
第 9回 釈尊の出家と苦行：苦しみを超越する方法			復習（釈尊の苦行生活）	
第10回 釈尊の覚り：縁起の法			復習（苦楽中道・降魔成道）	
第11回 釈尊の説法：苦しみと煩惱			復習（初転法輪）	
第12回 釈尊の入滅：真実の世界			復習（涅槃寂静）・学期末レポート作成「苦しみへの対処法」	
第13回 仏教と現代社会			復習（仏教の現在性）・学期末レポート作成「苦しみへの対処法」	
第14回 仏教における幸せとは何か			復習（苦滅と幸福）・学期末レポート作成「苦しみへの対処法」	
第15回 まとめ			全講義の復習・学期末レポート作成「苦しみへの対処法」	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	法話レポート（10％）・課題レポート（10％）・学期末レポート（20％）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	60％ 毎回の「講義の感想／意見」および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とする。遅刻・私語・居眠りなどは減点する。毎回授業終了時（10分間）に、「講義の感想／意見」を書いて提出すること。提出のない場合は大幅な減点対象とする。			
教科書	プリント配布・筑紫女学園大学・短期大学部編『仏教を学ぶために』学術図書出版社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日15：00-16：20		メールアドレス	

授 業 科 目	仏教学Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	宇治 和貴		単 位	2
授業の目的 と概要	本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。 釈尊の生涯を、テキストに添って学ぶ。まず、ビデオや資料を用いて感心がもてるようにしたい。そのうえで、釈尊が説いた仏教の思想内容を学ぶ。最終的には、自分たちにとって、仏教で教えることが如何なる意味を持つかを主体的に考えることができるようになる。			
到達目標	1． 釈尊の生涯について、誕生から涅槃までを学ぶ。 2． 釈尊がさとした内容が、どのようなものであったかを説明することができる。 3． 仏教の教えが、自分にとってどのようなものであるかを述べるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）		「私語をすること」について課題カード提出	
第2回	宗教とは何か		「宗教」について課題カード提出	
第3回	現代社会における仏教に対する誤解		「社会」について課題カード提出	
第4回	仏教の基本的性格		「仏教」について課題カード提出	
第5回	釈尊以前の仏教		「インド」について課題カード提出	
第6回	釈尊の生涯（誕生）		課題 レポート①「世界宗教について考える」	
第7回	釈尊の生涯（青年時代とその宗教状況）		課題 レポート①「世界宗教について考える」	
第8回	釈尊の生涯（四門出遊と出家）		課題 レポート①「世界宗教について考える」	
第9回	釈尊の生涯（修行）		釈尊の「修行」について課題カード提出	
第10回	釈尊の生涯（成道とその内容）		釈尊の「成道」について課題カード提出	
第11回	釈尊の生涯（初転法輪）		釈尊の「初転法輪」について課題カード提出	
第12回	釈尊の生涯（弟子たちの特色）		「釈尊の弟子」について課題カード提出	
第13回	釈尊の生涯（晩年の釈尊）		課題 レポート②「釈尊の生涯について学ぶ」	
第14回	釈尊の生涯（最後の説法）		レポート②「釈尊の生涯について学ぶ」	
第15回	まとめ ―私たちの生活と仏教―		課題 レポート②「釈尊の生涯について学ぶ」	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話・メールなどは厳禁です。学内で開催される全学礼拝などに参加してください。			
教科書	釈尊の道―その生涯と教え―			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスワー	火～木の3講目	メールアドレス		

授 業 科 目	仏教学Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	金見 倫吾		単 位	2
授業の目的 と概要	本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。 人間にとって宗教がどのような意味を持つのかを学んだ上で、仏教が成立した当時のインドの思想的・社会的背景を知ることを通して、仏教の特徴について考察します。釈尊の生涯を学習することで、自己のあり方をじっくりと見つめ直す時間を持ちましょう。			
到達目標	1、諸宗教のなかで仏教がどのような特徴を持っているのかを説明できる。 2、釈尊の生涯における主要なエピソードを説明できる。 3、釈尊の生涯を手がかりとして、自己の生き方を省みることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		予習：13～14頁	
第2回	宗教とは何か		予習：14～16頁	
第3回	諸宗教のなかの仏教		予習：17～26頁	
第4回	仏教成立の背景—古代インドの思想的・社会的状況—		予習：29～32頁	
第5回	釈尊の誕生		予習：32～34頁	
第6回	青年期の釈尊		予習：34～36頁	
第7回	四門出遊と出家		予習：37～39頁	
第8回	修行		予習：40～43頁	
第9回	成道		予習：43～48頁	
第10回	初転法輪		予習：48～52頁	
第11回	おもな弟子たち		予習：52～58頁	
第12回	晩年の釈尊		予習：58～62頁	
第13回	最後の説法		予習：62～64頁	
第14回	現代社会と仏教		現代社会の諸問題を仏教に関連づけて考える	
第15回	まとめ		期末レポート提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％（課題2回20％、期末レポート30％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 毎講義時に提出する感想・意見の内容および受講態度により評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話の使用など、他の受講生の妨げとなる行為は厳禁です。 毎回教科書を持参して出席のこと。 全学礼拝・礼拝アワー、また講義で紹介した講演会等に積極的に参加してください。			
教科書	小山一行『釈尊の道』（山喜房仏書林）			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	仏教学Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	栗山 俊之		単 位	2
授業の目的と概要	本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。 本学建学の精神である仏教はいかなる要請によって生まれたのか、仏教の目指すところはどこにあるのか、インドの思想的・社会的背景を学習しながら、釈尊の教えとその現代的意義について考えてみましょう。また、仏教の倫理観・人間観を学ぶことにより、今一度、「わたし」を見つめ直す機会にしてください。			
到達目標	1. 宗教が何を目的としているかについて、説明することができる。 2. 釈尊の生涯に起こった出来事について、主要な事項を説明することができる。 3. 釈尊の教えを通じて、自分の生き方について自分で振り返ることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 「仏教学Ⅱ」「親鸞・人と思想Ⅰ」「親鸞・人と思想Ⅱ」と関連する科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション			仏教を学ぶことの意味について	
第2回 筑紫女学園、その建学の精神・校訓			『聖典』に掲載されている建学の精神・校訓を読んでください	
第3回 建学の精神にもとづく様々な活動（東日本大震災、インド、京都・奈良研修など）			仏教とボランティアや、インド、京都・奈良の関係について調べてください	
第4回 仏教行事の実際（全学礼拝）			仏教行事に参加してみての感想を提出してください	
第5回 人間について①			現代の私たちが抱える様々な課題について考えてみましょう①	
第6回 人間について②			現代の私たちが抱える様々な課題について考えてみましょう②	
第7回 宗教とは			身近にある宗教について、あなたはどうか考えますか	
第8回 インド概説			インドについて	
第9回 仏教誕生以前のインド社会			バラモン教・カースト制度について調べてください	
第10回 釈尊の誕生			一人ひとりの尊さについて	
第11回 人権講演会			講師について調べておいてください	
第12回若き釈尊の苦悩・「四門出遊」			存在そのものが不可避免的に抱える不条理について・生老病死について	
第13回 出家と苦行			覚りへの道、真実との出会いについて	
第14回 釈尊の覚り			無我ということ	
第15回 まとめ			前期の講義を振り返ってください	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	全学礼拝・礼拝アワーレポート（20％）・学期末レポート（30％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 毎回の「講義の感想／意見」および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とする。毎回授業終了時（10分間）に、「講義の感想／意見」を書いて提出すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	月曜 4 講目	メールアドレス		

授 業 科 目	仏教学Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小林 久泰		単 位	2
授業の目的 と概要	仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、仏教の人間観・世界観を通じて、生きることを考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ直す視点を身につける。 前期で学んだ釈尊の生涯を確認しつつ、仏教の基本的な教えを学ぶ。また、釈尊の入滅後、仏教教団がどのように展開していったのかを概観する。そのうえで、現代社会に生きる私たちにとって仏教がどのような意味を持つかを考えていく。			
到達目標	1． 釈尊の思想の基本的内容を説明できる。 2． 仏教の現代的意味について自分の見解を表明できる。 3． 仏教的な視点から、自分自身の生き方を振り返ることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 この授業は、「仏教学Ⅰ」および「親鸞・人と思想Ⅰ」「親鸞・人と思想Ⅱ」と関連する科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	釈尊の生涯の復習		復習・課題レポート	
第 2回	根源的な勘違い：無常・苦・無我		復習・課題レポート	
第 3回	四つの真理：苦しみの原因とその消滅		復習・課題レポート	
第 4回	八つの正しい道：両極端を離れる		復習・課題レポート	
第 5回	縁起という世界観		復習・課題レポート	
第 6回	心の安らぎ：涅槃寂静		復習・課題レポート	
第 7回	釈尊入滅後の仏教の展開と大乘仏教運動		復習・課題レポート	
第 8回	慈悲：平等とは何か		復習・課題レポート	
第 9回	智慧：沈黙は語る		復習・課題レポート	
第10回	世俗と勝義		復習・学期末レポート	
第11回	菩薩とは		復習・学期末レポート	
第12回	業報思想とその超越		復習・学期末レポート	
第13回	仏教に対する様々な誤解		復習・学期末レポート	
第14回	仏教の人生観：限りある生命をいかに生きるか		ノートまとめ・全講義の復習・学期末レポート	
第15回	まとめ		ノートまとめ・全講義の復習・学期末レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	法話レポート（10％）・課題レポート（10％）・学期末レポート（20％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60％ 毎回の「感想ラベル」の記述内容および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とし、遅刻・私語・居眠りなどは減点します。毎回授業終了時に「感想ラベル」を書いて提出すること。			
教科書	龍谷ミュージアム編『釈尊と親鸞』法蔵館、および配布プリント			
指定図書	なし			
参考図書	授業中、適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜 3 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	仏教学Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	宇野 智行		単 位	2
授業の目的と概要	仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、仏教の人間観・世界観を通じて、生きることを考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ直す視点を身につける。 「縁起」「無我」などの釈尊の教えについて講義する。また、「人間としていかに生きるか」「人間は死後どうなるのか」など、現代人が抱える思想的問題に対して仏教が示す指針を考察して、「自分」を見つめ直す時間とする。			
到達目標	1. 仏教の中心教義である「縁起」について説明することができる。 2. 釈尊の死後の世界についての見解について、自己の意見を表明することができる。 3. 仏教が提供する人間観・倫理観を通じて、自己と向き合い、自己を取り巻く世界を振り返ることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は主に以下のDPと関係します。 (1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 また、「仏教学Ⅰ」「親鸞・人と思想Ⅰ」「親鸞・人と思想Ⅱ」に関連する科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	はじめに：仏教学Ⅰの復習		復習（釈尊のまなざし）	
第 2回	釈尊の教え①：中道		復習（『初転法輪經』の記述）	
第 3回	釈尊の教え②：四聖諦（苦諦・集諦）		復習（苦の生起の因果関係）	
第 4回	釈尊の教え③：四聖諦（滅諦・道諦）		復習（苦滅の因果関係）	
第 5回	釈尊の教え④：八正道（1）		復習（生活をととのえる）	
第 6回	釈尊の教え⑤：八正道（2）		復習（心をととのえる）・課題レポート作成「私のつながり」	
第 7回	釈尊の教え⑥：縁起		復習（縁起的世界観）・課題レポート作成「私のつながり」	
第 8回	釈尊の教え⑦：無我		復習（相対的実在）・課題レポート作成「私のつながり」	
第 9回	仏教から見る輪廻①：バラモン教の実体的輪廻観		復習（輪廻の起源）・課題レポート作成「私のつながり」	
第10回	仏教から見る輪廻②：実体的輪廻の否定		復習（無我説と輪廻）	
第11回	仏教から見る輪廻③：釈尊の無記		復習（釈尊の輪廻に対する態度）	
第12回	業報思想①：釈尊が説く「業」		復習（現世の行為）・学期末レポート作成「輪廻転生とわたしの生活」	
第13回	業報思想②：出生差別の解消		復習（釈尊の平等主義）・学期末レポート作成「輪廻転生とわたしの生活」	
第14回	アンペードカルと仏教		復習（仏教への改宗）・学期末レポート作成「輪廻転生とわたしの生活」	
第15回	まとめ：仏教の人間観		全講義の復習・学期末レポート作成「輪廻転生とわたしの生活」	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	法話レポート（10％）・課題レポート（10％）・学期末レポート（20％）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	60％ 毎回の「講義の感想／意見」および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とする。遅刻・私語・居眠りなどは減点する。毎回授業終了時（10分間）に、「講義の感想／意見」を書いて提出すること。提出のない場合は大幅な減点対象とする。			
教科書	プリント配布・筑紫女学園大学・短期大学部編『仏教を学ぶために』学術図書出版社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日13：10-14：40		メールアドレス	

授 業 科 目	仏教学Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	宇治 和貴		単 位	2
授業の目的 と概要	仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、仏教の人間観・世界観を 通じて、生きることを考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ 直す視点を身につける。			
到達目標	1. 民族宗教と普遍宗教の違いをしる。 2. 仏教で教える価値観の一つは用語とともに説明できるようになる。 3. 仏教の思想を学ぶことで、現代社会が抱える問題を見つめなおすことができるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 釈尊の生涯を振り返る			「夏休みに学んだこと」についての課題カード提出	
第2回 さとりの構造			「さとり」についての課題カード提出	
第3回 釈尊の悟り （縁起・因果の法則）			「縁起」についての課題カード提出	
第4回 悟りからみた世界 （無常・無我・涅槃）			「無常・無我」についての課題カード提出	
第5回 心のふしぎ （仏教の認識論）			「仏教の認識論」についての課題カード提出	
第6回 業と輪廻思想			「業」についての課題カード提出	
第7回 さとりへの道 （八正道・中道）			課題 レポート①「釈尊の悟りの内容について」	
第8回 さとりの実践 （慈悲と智慧について）			課題 レポート①「釈尊の悟りの内容について」	
第9回 さとりの実践 （慈悲と愛について）			課題 レポート①「釈尊の悟りの内容について」	
第10回 初期仏教教団の形成			「初期仏教教団」についての課題カード提出	
第11回 大乘仏教の起こりについて			「大乘仏教」についての課題カード提出	
第12回 愛しさと切なさとの慈悲と			「慈悲」についての課題カード提出	
第13回 人間関係で苦しむあなたへ			「苦」についての課題カード提出	
第14回 苦の解決方法について			課題 レポート②「現在の仏教教団の課題」	
第15回 自分を見つめる視点の獲得「智慧」			課題 レポート②「現在の仏教教団の課題」	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話・メールなどは厳禁です。学内で開催される全学礼拝などに参加してください。			
教科書	釈尊の道―その生涯と教え―			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	火～木の3講目	メールアドレス		

授 業 科 目	仏教学Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	金見 倫吾		単 位	2
授業の目的 と概要	仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、仏教の人間観・世界観を通じて、生きることを考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ直す視点を身につける。 前期に学んだ釈尊の生涯を踏まえ、「縁起」「無我」などの釈尊が説いた基本的な教えについて講義します。また、「人間としていかに生きるか」「死についてどう考えるか」「いのちをどうみるか」など、現代人にとって重要な課題に対し仏教が示す指針をもとに考察して、「自分」と「社会」を見つめ直しましょう。			
到達目標	1. 釈尊の教えの基本的内容を説明することができる。 2. 仏教の現代的意義について自分の意見を表明することができる。 3. 仏教の人間観・倫理観を通じて、自分自身と向き合い、社会のあり方を深く見つめ直すことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 前期のふりかえり			前期の講義内容と夏休みの学び・体験を反省する	
第2回 さとりの構造（1）四諦			予習：71～76頁	
第3回 さとりの構造（2）八正道			予習：71～76頁	
第4回 さとりの体験（1）縁起			予習：76～81頁	
第5回 さとりの体験（2）因果			予習：81～83頁	
第6回 さとりから見た世界 無常・無我・涅槃（三法印）			予習：83～89頁	
第7回 心のふしぎ（仏教の認識論）			予習：89～93頁	
第8回 死後の世界（1）仏教の靈魂観			予習：94～97頁	
第9回 死後の世界（2）業・輪廻思想			予習：97～100頁	
第10回 さとりへの道（知識と智恵／八正道・中道）			予習：101～107頁	
第11回 さとりの実践			予習：107～114頁	
第12回 初期の仏教教団（サンガ／カースト制社会）			予習：117～122頁	
第13回 教団の分裂			予習：122～128頁	
第14回 現代インドのなかの仏教			予習：アンバードカルについて調べる	
第15回 まとめ			期末レポート提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％（課題2回20％、期末レポート30％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 毎講義時に提出する感想・意見の内容および受講態度により評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話の使用など、他の受講生の妨げとなる行為は厳禁です。 毎回教科書を持参して出席のこと。 全学礼拝・礼拝アワー、また講義で紹介した講演会等に積極的に参加してください。			
教科書	小山一行『釈尊の道』（山喜房仏書林）			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授 業 科 目	仏教学Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	栗山 俊之		単 位	2
授業の目的 と概要	仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、仏教の人間観・世界観を通じて、生きることを考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ直す視点を身につける。 「縁起」「無我」などの釈尊の教えについて講義します。また、「人間としていかに生きるか」「死についてどう考えるか」など、現代人が抱える思想的問題に対して仏教が示す指針を考察して、「自分」を見つめ直しましょう。 本学建学の精神である仏教はいかなる要請によって生まれたのか、仏教の目指すところはどこにあるのか、インドの思想的・社会的背景を学習しながら、釈尊の教えとその現代的意義について考えてみましょう。また、仏教の倫理観・人間観を学ぶことにより、今一度、「わたし」を見つめ直す機会にしてください。			
到達目標	1. 仏教の中心教義である「縁起」について説明することができる。 2. 釈尊の死についての見解について、自己の意見を表明することができる。 3. 仏教が提供する人間観・倫理観を通じて、自己と向き合い、自己を取り巻く世界を振り返ることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 「仏教学Ⅰ」「親鸞・人と思想Ⅰ」「親鸞・人と思想Ⅱ」と関連する科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	はじめに：仏教学Ⅰの復習		仏教学Ⅰを振り返ってください	
第2回	不可思議なる世界		「不思議」ということ	
第3回	坐を立て、あらゆるものの救いへ		自利利他ということ	
第4回	初転法輪「縁起」		関係の中での存在	
第5回	釈尊の教団		サンガ	
第6回	釈尊の説法①		対機説法	
第7回	釈尊の説法②		賢愚	
第8回	釈尊の説法③		善悪	
第9回	釈尊の死		ブッタ最後の旅	
第10回	釈尊滅後の仏教の展開		上座部仏教と大乘仏教	
第11回	あらゆるものの救いという願い		阿弥陀如来	
第12回	仏教、日本へ		日本の仏教受容と親鸞までの日本仏教の展開	
第13回	仏教に出会った人びと①		親鸞	
第14回	仏教に出会った人びと②		宮沢賢治	
第15回	まとめ		後期を振り返ってください	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	全学礼拝・礼拝アワーレポート（20％）・学期末レポート（30％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 毎回の「講義の感想／意見」および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とする。毎回授業終了時（10分間）に、「講義の感想／意見」を書いて提出すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	月曜 4 講目		メールアドレス	

授 業 科 目	仏教学特論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	宇野 智行		単 位	2
授業の目的 と概要	この科目は、本研究科の主題である「人間科学」のうち、「人間とは何か」というテーマを思想的に理解するための基幹科目として設置されているものであり、仏教の視点からの人間理解を深めることを目的とする。 仏教とは何かということを導入として学び、仏教研究の方法・経典資料について概説、その上で仏教教義の歴史的展開の跡をたどることとする。また、現代社会において仏教の思想がいかなる意味を持ち得るかを考え、自己と向き合うと共に社会人として生きる意義を考える。			
到達目標	1. 仏教の開祖釈尊の生涯と仏教の思想的な特色について、説明することができる。 2. 一定のテーマに関する参考文献、資料を探して整理し、レポートにまとめることができる。 3. 仏教の人間観について自分の見解を述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業を受講した後、「仏教文化特論」を受講すると一層仏教に対する理解が深まります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション：科目の意義、目的、授業計画について		予習：教科書 pp.8-17.	
第 2回	仏教の特色		予習：教科書 pp.18-31.	
第 3回	仏教の平等主義		予習：教科書 pp.32-39.	
第 4回	仏教学と経典資料		予習：教科書 pp.42-53.	
第 5回	仏伝文学と仏教史		予習：教科書 pp.54-64.	
第 6回	釈尊の生涯①：誕生から出家まで		予習：教科書 pp.65-78.	
第 7回	釈尊の生涯②：出家から成道まで		予習：教科書 pp.79-93.	
第 8回	釈尊の生涯③：成道から涅槃まで		予習：教科書 pp.98-106.	
第 9回	仏教教義①：中道		予習：教科書 pp.107-126.	
第10回	仏教教義②：沈黙の意味		予習：教科書 pp.150-160.	
第11回	仏教教義③：四聖諦		予習：教科書 pp.161-168.	
第12回	仏教教義④：縁起説		予習：教科書 pp.184-190.	
第13回	仏教教義⑤：空思想		予習：教科書 pp.206-215.	
第14回	仏教教義⑥：唯識思想		予習：教科書 pp.216-234.	
第15回	まとめ：菩薩というあり方		全講義の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	提出レポート30％ 期末レポート40％			
小テスト等	－			
成果発表	0％			
受講態度他	30％ 授業への参加意欲、受講態度を評価する。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業は、教科書のうち前週に指定した箇所を熟読した上で出席すること。			
教科書	長尾雅人著『仏教の源流』（中公文庫）			
指定図書	なし。			
参考図書	授業中に指示する。			
オフィスアワー	火曜日14：50-16：20		メールアドレス	

授 業 科 目	仏教とビジネス【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	篠崎 真美		単 位	2
授業の目的と概要	この授業の目的は、世界宗教とビジネスの関連性を理解した上で、仏教の信仰心がビジネスに与える影響を考察することにより、本学の仏教・真宗の教えを深く理解し、自らのキャリア・生き方を構想することにある。 日本では、近世以降全国的に活躍した近江商人は神仏を篤く信仰し「三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）」の経営理念を持った。 近現代においても松下幸之助氏（パナソニック創業者）や稲森和夫氏（京セラ創業者）、柳井正氏（ファーストリテイリング創業者）など、仏教の信仰心を企業活動に活かす経営者は枚挙に遑がない。これら日本の有数な起業家のケーススタディー（事例研究）から、仏教の信仰心とビジネスの関連性を分析するとともに、ビジネスのなかにある仏教の教えをゲストスピーカーの話から紐解き、自らのキャリアと生き方を構想することができるようになる。			
到達目標	①宗教全般とビジネスの関連性を説明することができる ②仏教の信仰心がビジネスに与えた影響を考察することができる ③日本の起業家が仏教・真宗の信仰心をビジネスに活かしているケーススタディーを学ぶことで、自らのキャリアを構想し述べるすることができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			予習：「仏教学Ⅰ・Ⅱ」と「親鸞人と思想Ⅰ・Ⅱ」の振返り	
第2回 世界宗教とビジネス①（キリスト教、ユダヤ教、イスラム教）			予習：事前に指定資料を読んでくること	
第3回 世界宗教とビジネス②（ジャイナ教、仏教）			予習：事前に指定資料を読んでくること	
第4回 世界と日本における仏教と社会システム①（大乘仏教）			予習：仏教学・親鸞人と思想の復習	
第5回 世界と日本における仏教と社会システム②（上座部仏教）			課題レポート①宗教とビジネス	
第6回 仏教・真宗の人生観			課題レポート①宗教とビジネス	
第7回 仏教と近江商人			課題レポート①宗教とビジネス	
第8回 真宗の信仰心とビジネス			課題レポート②ケーススタディ	
第9回 真宗の信仰心とビジネス：ケーススタディ①（伊藤忠商事）			課題レポート②ケーススタディ	
第10回 真宗の信仰心とビジネス：ケーススタディ②（京セラ）			課題レポート②ケーススタディ	
第11回 真宗の信仰心とビジネス：ケーススタディ③（ファーストリテイリング）			課題レポート②ケーススタディ	
第12回 真宗の信仰心とビジネス：ケーススタディ④（パナソニック）			課題レポート②ケーススタディ	
第13回 真宗の信仰心とビジネス：ケーススタディ⑤（生命保険会社）			課題レポート③ゲストスピーカー	
第14回 ゲストスピーカー：経営に活かす信仰心			課題レポート③ゲストスピーカー	
第15回 総括			課題レポート③ゲストスピーカー	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	75％（20％ x レポート①②③、15％講義のコメント・質問） *次回の講義の始めに回答します			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	25％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・早退厳禁（遅刻・早退3回を1回の欠席とみなす）			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	水曜日 5 講目 ＊事前にメールにて訪問日時を相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	仏教と文学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	二宮 愛理		単 位	2
授業の目的と概要	仏教は、日本への伝来以降、長い年月を経て人々の生活に密着し、その一部となっていました。文学の中で仏教がどのように取り上げられているか、もしくは空気のようにあって当たり前のように描かれているか。日本古典文学の重要な位置を占める『源氏物語』を題材に、その中に登場する仏教について、これまでに身につけた知識と合わせて理解を深めることを目的としています。 *授業中に扱うテーマの順序は、状況を見て入れ替える可能性があります。			
到達目標	1. 『源氏物語』中の仏教的な要素が見られる場面について、概要を理解し、説明できる。 2. 『源氏物語』の成立時代や作者、時代背景や環境についての仏教的な要素を説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			『源氏物語』についての知識をおさらいしておく。	
第2回 源氏物語の仏教行事 法華八講			前回の授業の内容を復習しておく。	
第3回 源氏物語の仏教行事 法華八講			前回の授業の内容を復習しておく。	
第4回 源氏物語の仏教行事 五壇法			前回の授業の内容を復習しておく。	
第5回 源氏物語の仏教行事 五壇法			前回の授業の内容を復習しておく。	
第6回 源氏物語の仏教行事 浮舟の出家			前回の授業の内容を復習しておく。	
第7回 源氏物語の仏教思想と信仰			前回の授業の内容を復習しておく。	
第8回 源氏物語の仏教思想と信仰			前回の授業の内容を復習しておく。	
第9回 源氏物語の仏教思想と信仰			前回の授業の内容を復習しておく。	
第10回 源氏物語の仏教思想と信仰			前回の授業の内容を復習しておく。	
第11回 源氏物語の仏教思想と信仰			前回の授業の内容を復習しておく。	
第12回 源氏物語の仏教的表現			前回の授業の内容を復習しておく。	
第13回 源氏物語の仏教的表現			前回の授業の内容を復習しておく。	
第14回 源氏物語の仏教的表現			前回の授業の内容を復習しておく。	
第15回 まとめ			前回の授業の内容を復習しておく。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	40％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	PCでのノート取り、カメラでの板書撮影（無音であっても）はご遠慮ください。（障がいのある学生への支援の場合を除く）			
教科書	授業中に資料を配布します。			
指定図書	授業中に紹介します。			
参考図書	授業中に紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	仏教美術史【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小林 知美		単 位	2
授業の目的と概要	テーマ：日本の仏教絵画「日本における浄土教美術の展開」 日本の仏教絵画を対象とし、日本の仏教絵画の黄金期である平安時代の作品を中心的に取り上げ、映像で鑑賞し、その仏教美術としての意味や作品の思想的背景を学びます。また、実地見学により自分の目で作品を見ることで、教室で得た知識を確実なものにします。 日本の仏教絵画の名品を、その主題ごとにわけて、映像によって紹介していきます。作品を見て描かれた仏の特徴を発見し、その仏の意味や作品の作られた歴史的背景についての知識を深めていきます。また作品の研究史の紹介をとおして美術史学研究の現状についても言及します。			
到達目標	・ 仏教絵画を鑑賞し、特徴を把握して、言葉で描写できる。 ・ 仏教美術の基本である、ほとけの4分類について、その名称と意味と形の特徴を説明できる。 ・ 実地見学をとおして身近な仏教美術作品にふれ、その作品についての説明ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 日文 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 アジア (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	イントロダクション：美術史学の方法論～様式論、図像学、＋「浄土九州」見学準備～ 10月4日		課題①図書館で仏教美術史関連資料を探し、要約する。	
第2回	参考文献紹介 10月18日		課題①参考文献要約準備 締切10月19日（金）	
第 3 回	ほとけの分類（如来・菩薩・明王・天） 10月25日		課題②見学・聴講レポート執筆	
第 4 回	日本における浄土教美術の展開（1）：インド 11月1日		課題②見学・聴講レポート準備 締切11月16日（金）	
第 5 回	日本における浄土教美術の展開（2）：中国 11月8日		課題②見学・聴講レポート準備 締切11月16日（金）	
第 6 回	日本における浄土教美術の展開（3）：奈良時代 11月15日		課題②見学・聴講レポート準備 締切11月16日（金）	
第 7 回	日本における浄土教美術の展開（4）：平安時代その1 ※補講11月16日（金）5限		課題③自由テーマレポート執筆	
第 8 回	日本における浄土洋美術の展開（5）：平安時代その2 11月20日		課題②を第8回目までに提出	
第 9 回	日本における浄土教美術の展開（6）：鎌倉時代 11月29日		課題③自由テーマ	
第10回	日本における浄土教美術の展開（7）：まとめ 12月6日		課題③自由テーマレポート準備 締切1月25日（金）	
第11回	仏教絵画さまざま（1）：密教絵画 12月13日		課題③自由テーマレポート準備 締切1月25日（金）	
第12回	仏教絵画さまざま（2）：垂迹画 12月20日		課題③自由テーマレポート準備 締切1月25日（金）	
第13回	まとめ 1月10日		課題③自由テーマレポート準備 締切1月25日（金）	
第14回	学外見学・聴講（10月13日 福岡市博物館「浄土九州」展）		課題②見学・聴講レポート	
第15回	学外見学・聴講（10月13日 福岡市博物館「浄土九州」展）		課題②見学・聴講レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	90％（①～③各30％）、提出先：レポートボックス（ボックスを間違えないこと）、文字数：1200字程度、参考文献明記、タイトルは自分で考えて付けること。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	○学外見学を行います。交通費・見学費（大学生900円）は各自負担。○見学対象：「浄土九州」展、場所：福岡市博物館（福岡市早良区百道浜3－1－1）、日時：10月13日（土）13：30～16：30※うち14：00～15：30は講演聴講○聴講対象：須藤弘敏「救いのほとけ」、場所：福岡市博物館講堂、日時：10月13日（土）14：00～15：30※要事前予約。 ○上記の聴講が出来ない場合下記を聴講して下さい。11月4日（日）13：00～16：00「阿弥陀信仰の地方展開」、場所：筑紫女学院大学スクワ・ヴァディーホール、無料。			
教科書	なし			
指定図書	町田甲一『仏像入門』創元社（1991年初版）、有賀祥隆『仏画の鑑賞基礎知識』至文堂（1996年）			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日の昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	仏教福祉【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	宇治 和貴・金見 倫吾		単 位	2
授業の目的 と概要	この講義では、仏教者の社会的活動の歴史を概観し、日本社会における社会的弱者の生活失態の把握に努めるとともに、仏教が本来救済活動をどのようなものとみなすべきであったのかを考えてみたい。			
到達目標	1. 古代から現代に至る各時代において、社会的弱者がどのような状況に置かれ、いかに生きてきたかを述べることができる。 2. それぞれの時代のなかで、社会的弱者の救済のために仏教者がどのような社会的活動を行ってきたのかを説明することができる。 3. 仏教者の社会的活動が日本社会に果たしてきた役割とその課題について、自分の意見を述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心C (3) -②-1 人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）		感想カードを提出	
第2回	仏教福祉を学ぶことの意義		感想カードを提出	
第3回	仏教と福祉はどう結びつくのか		感想カードを提出	
第4回	親鸞の思想と福祉の関係性について		感想カードを提出	
第5回	現代社会の抱える課題と仏教Ⅰ		感想カードを提出	
第6回	現代社会の抱える課題と仏教Ⅱ		感想カードを提出	
第7回	平安時代における穢れの意識の展開		感想カードを提出	
第8回	中世被差別民の形成と仏教		感想カードを提出	
第9回	鎌倉仏教と救済事業		感想カードを提出	
第10回	幕藩体制下での仏教救済事業		感想カードを提出	
第11回	明治維新と仏教側の対応		感想カードを提出	
第12回	仏教慈善事業の一環としての仏教保育事業		感想カードを提出	
第13回	戦時厚生事業と仏教		感想カードを提出	
第14回	戦後社会福祉の展開と仏教		感想カードを提出	
第15回	まとめ		感想カードを提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％ 講義中に提出のレポートで評価します。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50％ 受講態度から総合的に判断します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義で配布するプリントや、講義中に使用した用語などで分からないことは辞書で調べる努力をしてください。			
教科書	適宜プリント配布			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスワー	火～木の3講目		メールアドレス	

授 業 科 目	仏教福祉特論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	西原 尚之		単 位	2
授業の目的 と概要	洋の東西を問わず、福祉制度が存在していなかった時代において宗教は人々の生命、生活、精神を守るために大きな役割を担ってきた。西洋ではキリスト教が中東ではイスラム教がそしてわが国では主に仏教がその中核的な機能を果たしてきたといえる。本講義ではまず仏教がその思想（平等・利他）を土台にしてどのような福祉的活動を実践してきたかを検討する。そのうえで、現代の諸課題に目をむけ仏教的な視点から分析をくわえる。最後に具体的な対人支援活動の基盤にある仏教の実践的な知恵を検討する。			
到達目標	1． 仏教が歴史的に担ってきた福祉的役割を説明できる 2． 現代の諸問題について仏教的な視点から問題点を説明できる 3． 対人援助で用いられる技術の基盤にある仏教の実践的知恵を説明できる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	－			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション		仏教と福祉という言葉について自分なりのイメージをまとめておく	
第 2回	仏教福祉とは何か		仏教と福祉の関わりについて復習	
第 3回	仏教が果たしてきた福祉的役割（１）：古代・中世		配布資料による予習	
第 4回	仏教が果たしてきた福祉的役割（２）：近世		配布資料による予習	
第 5回	仏教が果たしてきた福祉的役割（３）：近代		配布資料による予習	
第 6回	現代の福祉的課題における仏教の意義（１）：社会的排除		社会的排除について調べておく	
第 7回	現代の福祉的課題における仏教の意義（２）：マイノリティの問題		L G B Tについて調べておく	
第 8回	現代の福祉的課題における仏教の意義（３）：格差・貧困		格差や貧困について自分の考え方をまとめておく	
第 9回	現代の福祉的課題における仏教の意義（４）：災害被害		災害被害者の置かれた状況をまとめておく	
第10回	現代の福祉的課題における仏教の意義（５）：命の選別		優生思想について調べておく	
第11回	実践学としての仏教（１）：権利擁護		アドボカシーとソーシャルアクションの言葉の意味を調べておく	
第12回	実践学としての仏教（２）：システム論と縁の概念		システム論の考え方を調べておく	
第13回	実践学としての仏教（３）：心理療法における仏教思想の貢献（内省的心理療法）		本授業の復習	
第14回	実践学としての仏教（２）：心理療法における仏教思想の貢献（その他の技法群）		本授業の復習	
第15回	まとめ		レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	５０％ 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	５０％ 質疑や意見等授業への積極的な参加を考慮する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	福祉や宗教に関する身の回りの出来事について注意を払っておくこと。 資料として配布するプリントは、予め目を通して授業に臨むこと。			
教科書	なし、必要に応じてプリント配布。			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワー	授業後	メールアドレス		

授 業 科 目	仏教文化特論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	宇野 智行		単 位	2
授業の目的 と概要	インドの宗教の中に生まれた「出家」というあり方を考察し、日常を離れた宗教の特質を学ぶ。また、「出家者」や「聖者」をどのように捉えるのかについて、インドから日本への様々な文化（説話・文学・芸能）の伝播と相違について学ぶ。 インドのパラモン教・ジャイナ教・仏教という三大宗教における在家と出家というあり方について、様々な文献を読解しつつ、それぞれの宗教的特徴を考察する。また、修行・苦行という出家者の生活とその評価に関して、日本の説話・能・歌舞伎などに与えたインド文化の影響を考察し、文化の相違点を明らかにする。			
到達目標	1. インドの在家と出家の違い、沙門文化の特徴について説明ができる。 2. インド文化の日本文化への影響、両者の相違点について説明ができる。 3. 具体的な文化の伝播・影響を考慮しつつ、異文化理解についての意見を述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	この授業を受講する前に「仏教学特論」を受講しておくことが望ましい。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 序論：科目設定の意義・目的について			配布資料の予習（祭式主義）	
第 2回 パラモンとは何か			配布資料の予習（出家主義）	
第 3回 沙門とは何か			配布資料の予習（『マハーバーラタ』）	
第 4回 叙事詩に見る苦行者：リシュヤシュリング			配布資料の予習（ジャイナ教）	
第 5回 ジャイナ教の苦行者：ヴァルカラチーリン			配布資料の予習（『ジャータカ』）	
第 6回 ジャータカに現れる一角			配布資料の予習（『マハーヴァストゥ』『仏本行集経』）	
第 7回 大乘經典に現れる一角			配布資料の予習（リシパタナ伝説）	
第 8回 鹿野苑の伝説			配布資料の予習（『大智度論』）	
第 9回 漢訳に見る一角			配布資料の予習（久米仙人説話・『今昔物語集』）	
第10回 日本の説話文学に見る一角			配布資料の予習（謡曲テキスト）	
第11回 能「一角仙人」			配布資料の予習（歌舞伎十八番テキスト）	
第12回 歌舞伎十八番「鳴神」			配布資料の予習（『雲絶間雨夜月』）	
第13回 近世の仏教説話			資料整理とプレゼンテーション準備	
第14回 プレゼンテーション			授業全体の資料整理	
第15回 まとめ：文化の伝播と相違			授業全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 期末レポートにより理解度・論理的思考を評価。			
小テスト等	なし			
成果発表	40％ 比較文化についての口頭発表			
受講態度他	30％ 質問に対する回答などにより講義への参加意欲を評価。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	受講者には、様々な資料の分析をした上でのプレゼンテーションを課す。			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	多岐にわたるため、授業内で紹介する。			
オフィスワー	火曜日昼休み（12：30-13：00）		メールアドレス	

授 業 科 目	仏教文化論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	毛利 俊英		単 位	2
授業の目的 と概要	日本に伝来した仏教が、当時の人々にどのような思想的影響を与えたのか、その変遷の歴史を理解することを目的とする。それを通じて、日本における仏教文化や死生観の変遷をも理解する。			
到達目標	1. 仏教伝来から鎌倉仏教までの歴史の変遷を説明することができる。 2. 仏教伝来後の日本の仏教文化の特色を説明することができる。 3. 仏教の変遷史を通して、自分なりの死生観を考えてみることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 仏教の基本教義			課題レポート（１）の作成に向けた資料収集	
第2回 「死」～仏教を理解するために①			課題レポート（１）の作成に向けた資料収集	
第3回 「生」～仏教を理解するために②			課題レポート（１）の作成	
第4回 仏教伝来 飛鳥の仏教			課題レポート（２）の作成に向けた資料収集	
第5回 南都六宗			課題レポート（２）の作成に向けた資料収集	
第6回 山林修行・神仏習合			課題レポート（２）の作成に向けた資料収集	
第7回 入唐求法			課題レポート（２）の作成に向けた資料収集	
第8回 王城鎮護			課題レポート（２）の作成に向けた資料収集	
第9回 御霊思想			課題レポート（２）の作成に向けた資料収集	
第10回 欣求浄土			課題レポート（２）の作成に向けた資料収集	
第11回 末法の到来			課題レポート（２）の作成	
第12回 法然の専修念仏			全講義の復習・学期末レポート作成に向けた資料収集	
第13回 戒律の興隆			全講義の復習・学期末レポート作成に向けた資料収集	
第14回 親鸞の悪人正機			全講義の復習・学期末レポート作成に向けた資料収集	
第15回 まとめ			全講義の復習・学期末レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 課題レポート2回（10％×2）・学期末レポート（20％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60％ 受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語など他者に迷惑のかかる行為は慎んでください。			
教科書	プリント配付			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	文化遺産論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	横山 尊		単 位	2
授業の目的 と概要	この講義は、文化遺産とは何か、いかなる状況に置かれ、いかなる道筋をたどっていくのかということの基礎的教養と思考の材料を提供するものです。 例えば、2011年に山本作兵衛の炭坑画と記録文書が世界記憶遺産に、2015年に九州・山口などの近代化産業遺産が「明治日本の産業革命遺産」の名でユネスコの世界文化遺産に登録されました。一方、東日本大震災や熊本地震で文化財のレスキューの必要性が叫ばれています。これらの過去を伝え、今を遺す営為はどこから来てどこへ向かうのでしょうか、あるいは誰が担いどう社会や政治の影響を受けるのでしょうか。 この講義は、博物館、文化財保護、図書館やアーカイブスなどの幅広い観点から歴史と現在を横断しつつ、現在の課題を見通すことを試みます。			
到達目標	1. 文化遺産、歴史資料、情報資源とその輪郭について全体的な理解を身につけ、説明できる。 2. 文化遺産・歴史資料とその保護の歴史を、日本近現代史の全体的な流れの中に位置づけて理解できる。 3. 情報資源の来歴を理解し、その今後について自分なりの議論を展開できる。 4. 講義の内容を参考文献などを通して深め、試験などの場で論理的に説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス：講義のねらい		講義プリントや参考文献による復習	
第2回	博物館論① ミュージアムから博物館へ		講義プリントや参考文献による復習	
第3回	博物館論② 「帝国」空間の博物館		講義プリントや参考文献による復習	
第4回	博物館論③ 民族学博物館の歴史とミュージアムの美術館化		講義プリントや参考文献による復習	
第5回	文化財保護論① 近現代日本の文化財保護をめぐる制度と政治		講義プリントや参考文献による復習	
第6回	文化財保護論② 聖蹟とツーリズム：宮崎の場合		講義プリントや参考文献による復習	
第7回	文化財保護論③ 文化財返還をめぐる国際政治		講義プリントや参考文献による復習	
第8回	世界遺産論① 「世界遺産」は誰がどのように決めるのか？		講義プリントや参考文献による復習	
第9回	世界遺産論② 「明治日本の産業革命遺産」（2015）が世界遺産になった過程		講義プリントや参考文献による復習	
第10回	世界遺産論③ 「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」（2017）の課題		講義プリントや参考文献による復習	
第11回	情報資源論① 図書館、記録メディアの誕生と近代化		講義プリントや参考文献による復習	
第12回	情報資源論② アーカイブスと公文書管理法		講義プリントや参考文献による復習	
第13回	情報資源論③ デジタルアーカイブとデジタル人文学の来歴、現在、課題		講義プリントや参考文献による復習	
第14回	文化遺産の課題① 災害と文化遺産：阪神淡路大震災・東日本大震災・熊本地震		講義プリントや参考文献による復習	
第15回	文化遺産の課題② まとめ		講義プリントや参考文献による復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％（論述、持ち込み可）			
レポート	％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	20％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	講義中に指示します。			
教科書	毎回プリントを配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	九州史学会・史学会編『過去を伝える、今を遺すー歴史資料、文化遺産、情報資源は誰のものか』（山川出版社、2015年）など。			
オフィスアワー	講義終了後の休憩時間		メールアドレス	

授 業 科 目	文化観察演習【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	森田 真也		単 位	2
授業の目的と概要	講義の目的は、フィールドワークを通して、日本の文化や社会について理解を深めることにある。この講義では、文化を観察することの意味を考えながら、実際に現場に足を運び、自分の眼で見ることに重点をおく。実際、現場を歩き、見て、聞いて、記録する。そして、現場をフィールドワークすることの面白さと、それをまとめることの難しさを体験し、創造的思考力を鍛える。 この講義では、最初に学内でフィールドワークの考え方の概説を行なう。その後、学外に出て様々な文化を観察することに主眼を置く。そのため主体的な参加を期待する。太宰府市・筑紫野市周辺等の博物館・美術館、遺跡、祭礼等の見学を考えている。学外見学について具体的にいつどこにいくかは、開講されてから相談して決定する。			
到達目標	・フィールドワークの技法や考え方の基礎について理解することが出来る。 ・大学周辺のフィールドワークを通して、地域社会について知ることが出来る。 ・現場に足を運ぶことで、日本の文化や社会について直接的な理解を深めることが出来る。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 「文化人類学」「民俗学Ⅰ」「民俗学Ⅱ」と関係します。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回：	文化を観察する意味		授業の目的と内容について理解する	
第 2 回：	文化を観察する方法		フィールドワークの方法と特徴について理解する	
第 3 回：	大学周辺を歩く（１）－太宰府を中心として－		探訪地についての事前調べ	
第 4 回：	大学周辺を歩く（２）－筑紫野を中心として－		探訪地についての事前調べ	
第 5 回：	大学周辺を歩く（３）－九州国立博物館の見学－		探訪地についての事前調べ	
第 6 回：	大学周辺を歩く（４）－宝満宮竈門神社－		探訪地についての事前調べ	
第 7 回：	大学周辺を歩く（４）－宝満宮竈門神社－		探訪地についての事前調べ	
第 8 回：	映像資料を見る（１）－沖縄の祖先祭祀－		映像資料の読み方について理解する（資料の通読）	
第 9 回：	映像資料を見る（２）－華僑・華人の祭礼－		映像資料の読み方について理解する（資料の通読）	
第10回：	学外見学（１）－場所未定－		探訪地についての事前調べ	
第11回：	学外見学（１）－場所未定－		探訪地についての事前調べ	
第12回：	学外見学（２）－場所未定－		探訪地についての事前調べ	
第13回：	学外見学（２）－場所未定－		探訪地についての事前調べ	
第14回：	大学周辺を歩く（５）－石穴稲荷神社－		探訪地についての事前調べ	
第15回：	まとめ		授業全体の復習とレポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	無し。			
レポート	3 0％ 期末レポート。			
小テスト等	無し。			
成果発表	無し。			
受講態度他	7 0％ 受講態度を重視する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	常に教室で講義をするわけではない。まずは大学周辺をまわる。設定されている講義時間を、2 回（4 回分）、土日等の学外での現地見学に振替える。その際、交通費、博物館施設等への入場料、食費等は自己負担となる。集団で行動するため、遅刻や欠席の場合、事前に連絡をすること。最初に計画を立てるので、第 1 回、第 2 回の講義に必ず出席すること。 なお、履修希望者が多い場合、人数制限（2 0 人）をすることもある（別途指示）。			
教科書	無し。			
指定図書	無し。			
参考図書	講義中、適時紹介する。			
オフィスアワー	金曜日昼休み（12:30-13:00）		メールアドレス	

授 業 科 目	文化産業論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	須藤 遙子		単 位	2
授業の目的 と概要	文化経済概念をもとに、メディア企業やコンテンツ産業の現状を学ぶ。 メディア企業をはじめ企画・宣伝への就職を希望する学生を念頭に、グループワークにより文化産業のターゲットやイベント展開を分析する。 また、毎回講義内容とは別に、自分が体験した文化産業イベントを順番に発表してもらいます。			
到達目標	・文化産業の現状を理解すると同時に、「文化」という概念が批判的に考察できる。 ・国家政策における「文化」の位置付けを把握する。 ・フランクフルト学派の理論などから、ポピュラー文化の政治性について考える。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。		文化産業にはどのようなものがあるか考える。	
第2回	映画産業分析の手法概説・グループ分け。		これまで観た映画について考える。	
第3回	映画産業分析 1。グループ討論。 各グループで映画作品を一つ決めて、分析を行う。		グループで決定した映画を各自分析してくる。	
第4回	映画産業分析 2。グループ発表。		映画産業についての分析レポート。	
第5回	音楽産業・音楽イベント分析の手法概説・グループ分け。		これまで体験した音楽産業・音楽イベントについて考える。	
第6回	音楽産業分析 1。グループ討論。 各グループで映画作品を一つ決めて、分析を行う。		グループで決定した音楽イベント等を各自分析してくる。	
第7回	音楽産業分析 2。グループ発表。		音楽産業についての分析レポート。	
第8回	ゲーム・インターネット産業分析の手法概説・グループ分け。		これまで体験したゲーム・インターネットコンテンツについて考える。	
第9回	ゲーム・インターネット産業分析 1。グループ討論。 各グループで映画作品を一つ決めて、分析を行う。		グループで決定したゲーム・インターネットコンテンツを各自分析してくる。	
第10回	ゲーム・インターネット産業分析 2。グループ発表。		ゲーム・インターネット産業についての分析レポート。	
第11回	NHKスタジオ見学。 メディア文化産業としてのテレビ産業を考察する。		見学レポート。	
第12回	西日本新聞見学。 メディア文化産業としての新聞産業を考察する。		見学レポート。	
第13回	コンテンツ産業政策 1：日本		日本のコンテンツ産業政策を復習。	
第14回	コンテンツ産業政策 2：諸外国		諸外国のコンテンツ産業政策を復習。	
第15回	まとめ		復習。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	70％（テーマごとにミニレポートを書いていただきます）			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	30％（グループ討論への参加態度を重視します）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	第11回と第12回に予定しているNHKと西日本新聞の見学は、先方との日程調整があるためシラバスが前後する可能性が高いです。授業での告知をよく確認のうえ、シラバス変更を了承のこと。 対面でのコミュニケーション能力養成のため、メールでの連絡は原則禁止とします。用件のある学生は授業前後やオフィスアワーに直接話しにきてください。 その他、細かいルールに関しては、第1回目のオリエンテーションで説明します。			
教科書	なし。適宜プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスアワー	月曜 4 限。	メールアドレス		

授 業 科 目	文化人類学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	森田 真也		単 位	2
授業の目的と概要	講義の目的は、同時代にある人間の多様性と共通性を認め、そこから自分たちの存在について問い直していくことにある。そのためこの講義では、日本だけでなく、異なる民族、異なる社会、地域の文化的特質を取り上げ考察の対象とする。それは、異文化を知り、理解する試みから、自分たちの文化、さらには現代の社会にある諸問題について考えていくことである。 最初に文化人類学の学問的特質や方法、対象、発展の歴史について触れる。そして、人種・民族・国家、女と男という人の分類とアイデンティティの諸問題について考える。その後、毎週、下記のようなスケジュールで、文化的、社会的領域からトピックを設定して、解説していく。 文化に「高い」、「低い」はない。私たちと異なる文化的営みは、その社会でなんらかの意味を持っている。それらの比較を通して、他者を理解することの困難さや面白さを知り、また自らを振り返る機会としてほしい。			
到達目標	・異文化を知り、自文化についての認識を深めることが出来る。 ・人間の文化の多様性と共通性について理解することで、論理的、創造的思考力を獲得出来る。 ・自分たちの常識や価値観をとらえなおすことで、健全な人間観を獲得することが出来る ・現代世界における社会の諸問題を的確に考察出来るようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 主に「日本事情」と関連します。興味を持った人は、「民俗学Ⅰ」、「民俗学Ⅱ」も受講してみてください。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回：	「文化」を考える意味		授業の目的と内容について理解する	
第 2 回：	文化人類学とはどのような学問なのか		文化人類学の学問的特徴について理解する（資料の通読）	
第 3 回：	文化人類学はどのように生まれ発展してきたのか		文化人類学の学史について理解する（資料の通読）	
第 4 回：	「文化」とは何だろうかー「文化」というフィルターー		見る、聞くという行為の客観性について考える（資料の通読）	
第 5 回：	人種・国家・民族という枠組みは客観的なものなのか		人種・国家・民族という枠組みの客観性について考える（資料の通読）	
第 6 回：	女らしさ男らしさの基準は世界で共通なのか		女と男という区分の客観性について考える（資料の通読）	
第 7 回：	ワールドミュージックとエスニック・アイデンティティ		音楽とアイデンティティの関係について考える（資料の通読）	
第 8 回：	人はなぜ人生を区切るのかー通過儀礼と人の一生ー		人の一生と区切りの意味について考える（資料の通読）	
第 9 回：	呪術的行為は今でも信じられているのか		呪術的行為の社会的意味について考える（資料の通読）	
第10回：	神や死者の言葉を伝えるシャーマンは迷信か		シャーマンの社会的役割について考える（資料の通読）	
第11回：	人は死をどのようにとらえてきたのか		死者を供養することの社会的意味について考える（資料の通読）	
第12回：	タトゥーやピアスに抵抗はありますかー変工される身体ー		身体と社会の関係について考える（資料の通読）	
第13回：	先住民の現在（１）ー社会構成と生活ー		先住民のおかれた社会的位置付けについて考える（資料の通読）	
第14回：	先住民の現在（２）ー権利と問題ー		先住民の権利と抱える課題について考える（資料の通読）	
第15回：	まとめ		授業全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	8 0％ 期末テスト（自筆ノート、配布プリント持込可、論述形式）。			
レポート	無し。			
小テスト等	無し。			
成果発表	無し。			
受講態度他	2 0％ 受講態度。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。			
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。			
指定図書	無し。			
参考図書	山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード』有斐閣（１９９7年）。講義中、適時紹介する。			
オフィスアワー	水曜日昼休み（12:30-13:00）		メールアドレス	

授 業 科 目	文化政策論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	須藤 遙子		単 位	2
授業の目的 と概要	現代における「文化」とは何かを、政治や経済との結びつきで考える。 村おこしのような小さなものから、オリンピックのような国家規模のものまで、様々な文化政策について学ぶ。			
到達目標	・レジュメを使つての発表ができる。 ・オリンピックや万博等を例に、国家政策における「文化」の位置付けを把握する。 ・地方自治体における文化行政について理解を深める。特にゆるキャラを使った観光行政に焦点を当てる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。文化政策とは。		文化政策にはどのようなものがあるか考える。	
第2回	文化行政概説。分析方法説明。		分析する九州内の市町村を調べる。	
第3回	行政主催の文化活動。発表。		分析する九州内の市町村を調べる。	
第4回	市民主催の文化活動。発表。		分析する九州内の市町村を調べる。	
第5回	観光政策とゆるキャラ① 概説と分析方法説明。		分析する九州内の観光地を調べ、レジュメを作る。	
第6回	観光政策とゆるキャラ② レジュメを配布しての発表。		復習と引き続きレジュメ作り。	
第7回	観光政策とゆるキャラ③ 引き続きレジュメを配布しての発表。		復習。	
第8回	「聖地巡礼」と文化行政① 概説と分析方法説明。		分析する「聖地」について調べ、レジュメを作る。	
第9回	「聖地巡礼」と文化行政② 発表。		分析する「聖地」について調べ、レジュメを作る。	
第10回	「聖地巡礼」と文化行政③ 引き続き発表。		万博について調べる。	
第11回	万博の歴史と役割。		オリンピックについて調べる。	
第12回	【特別授業】文化政策としての労働政策：進路支援課就活イベント参加		就活準備を進めると同時に「リクルート」と国の労働政策との関連を考える。	
第13回	東京オリンピック1964。		2020年の東京オリンピックについて調べる。	
第14回	東京オリンピック2020。		復習。	
第15回	まとめ		復習。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％			
小テスト等	0％			
成果発表	40％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関する情報	受講者の人数を見て、個人発表かグループワークかを決定します。 授業内の私語・スマートフォン使用厳禁。対面でのコミュニケーション能力養成のため、メールでの連絡は原則禁止とします。 用件のある学生は授業前後やオフィスアワーに直接話しにきてください。 その他、細かいルールに関しては、第1回目のオリエンテーションで説明します。			
教科書	なし。適宜プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスアワー	月曜 4 限。	メールアドレス		

授 業 科 目	文化とグローバリズム【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	一木 順		単 位	2
授業の目的 と概要	この講義ではグローバリゼーションの中でのポピュラー文化のありようについて考えていきます。人間が作り出したモノの総称としての文化は、すべての人間がそれぞれの時代や社会の影響から逃れることができないという意味において、本来強い「ローカリティ」を背負っています。21世紀のグローバリゼーションの流れの中では、人もモノも、そして文化も国境を越えて移動し、変容していきます。この講義ではアフリカ系アメリカ人の情念の文化ともいえるヒップホップがどのようにグローバル化していったのかを追いかけることで、文化の移動と変容のダイナミズムについて理解してもらいたいと思います。			
到達目標	1. グローバリゼーション下における文化の変容について説明できる。 2. ヒップホップの歴史と広がりについて説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回：授業のイントロダクション			なし	
第2回：文化のグローバリゼーションとは			指定された文献に目を通すこと	
第3回：文化の「グローバル化」「ローカル化」			指定された文献に目を通すこと	
第4回：ヒップホップを生んだ社会・時代―『ワイルドスタイル』を通して①			映画鑑賞レポート	
第5回：ヒップホップを生んだ社会・時代―『ワイルドスタイル』を通して②			指定された文献に目を通すこと	
第6回：ヒップホップ文化の誕生			指定された文献に目を通すこと	
第7回：ヒップホップ文化と黒人性①			指定された文献に目を通すこと	
第8回：ヒップホップ文化と黒人性②			指定された文献に目を通すこと	
第9回：ヒップホップ文化の世界発展			指定された文献に目を通すこと	
第10回：日本におけるヒップホップ文化①―『サイタマノラッパー』を通して			映画鑑賞レポート	
第11回：日本衣おけるヒップホップ文化②			指定された文献に目を通すこと	
第12回：日本語ラップの「日本語化」①			指定された文献に目を通すこと	
第13回：日本語ラップの「日本語化」②			指定された文献に目を通すこと	
第14回：新しいアイデンティティとヒップホップ			指定された文献に目を通すこと	
第15回：まとめ			なし	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 詳細は授業内で指示する			
レポート	30％ 授業内で指示される小レポート			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	20％ 受講態度などを勘案する			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業に関わる授業外課題を必ず行って参加すること			
教科書	とくになし			
指定図書	I・コンドリー『日本のヒップホップー文化グローバリゼーションの〈現場〉』（NTT出版）、N・ジョージ『ヒップホップアメリカ』（ロッキングオン）			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	文化と芸術【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	岡本 文子		単 位	2
授業の目的 と概要	イタリアルネッサンスから現代までの芸術作品を鑑賞します。ただ絵画などの作品のタイトルや芸術家の名前を知識として知るだけでなく、画材や作家のエピソード、社会的背景などの周縁の情報も取り入れて、多角的な視点から作品を理解し、「芸術とは感動」であることを体得することを目的としています。 この授業はイタリア・ルネッサンスから現代までの代表的な芸術家について、具体的な作品をスクリーンで見ながら、作品や作家の背景やエピソードを知り、クイズ形式でプリントに記入していきます。			
到達目標	・各自が好きな芸術家を挙げ、なぜその作品に惹かれるのかを説明できる。 ・作品のマチエールによる違いを画材や技法から説明できる。 ・芸術家と作品、社会的背景を関連づけて理解し、説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション、芸術とは、画材のいろいろ、鑑賞の観点		授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 2 回	太宰府の芸術家		授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 3 回	イタリアルネッサンス（１）		授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 4 回	イタリアルネッサンス（２）		授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 5 回	ピエール・オーギュスト・ルノワール		授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 6 回	フィンセント・ファン・ゴッホ		授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 7 回	クロード・モネ		授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 8 回	葛飾北斎		授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第 9 回	アルベール・アンカー		授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第10回	パブロ・ピカソ		授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第11回	アルフォンス・ミュシャ（１）		授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第12回	アルフォンス・ミュシャ（２）		授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第13回	芸術と化学		授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第14回	デザイン実習		授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
第15回	マウリッツ・エッシャー		授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	―			
レポート	―			
小テスト等	9 0 % 各回に行う前回の定着確認プリント			
成果発表	1 0 % デザイン実習			
受講態度他	―			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書は使用しません。毎回授業内容確認プリントを配布します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	火曜日 １２：００～１３：００		メールアドレス	

授 業 科 目	文化と現代社会【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	間瀬 玲子		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義は、現代社会における文化のありようについての概説的な知識を得ることを目的とする。社会において文化がどのような機能を果たすのかについて、グラムシやフーコーらの理論に依拠しつつ理解する。一方、社会の中で周縁化された人々にとって、文化が対抗的な機能を持つことについてのディック・ヘブディッジやジョン・フィスクの議論も紹介する。本講義を通して、現代社会における文化の役割について導入的な機能を持つことが期待されている。			
到達目標	1. フーコー、グラムシ、フィスク、ヘブディッジの理論の概要を説明できる。 2. フランスの文化の多様性を説明できる。 3. フランスの現代社会の諸問題を説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。 関連科目 1年次 メディア論、ポピュラー文化論、 2年次 ポピュラー文化演習、文化表象演習			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の進め方、フランスの基礎データ		予習 シラバスを読む	
第2回	ミシェル・フーコー、アントニオ・グラムシ、ジョン・フィスク、ディック・ヘブディッジの理論（概要）		予習 授業資料（第2回）	
第3回	文化① マンガ		予習 授業資料（第3回）	
第4回	文化② ワイン		予習 授業資料 （第4回）	
第5回	文化③ クレオール		予習 授業資料（第5回	
第6回	文化④ 学校		予習 授業資料（第6回）	
第7回	文化⑤ グラン・プロジェ		予習 授業資料（第7回）	
第8回	文化⑥ 地域言語		予習 授業資料（第8回）	
第9回	文化⑦ モード		予習 授業資料（第9回）	
第10回	現代社会① 移民		予習 授業資料（第10回）	
第11回	現代社会② 文化政策		予習 授業資料（第11回）	
第12回	現代社会③ 言語政策		予習 授業資料 （第12回）	
第13回	現代社会④ コルシカ問題		予習 授業資料（第13回）	
第14回	現代社会⑤ フランスと植民地		予習 授業資料（第14回）	
第15回	現代社会⑥ シャルリ・エブド事件		予習 授業資料（第15回）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 授業内容に即した複数の設問			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 受講態度及び授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑女ネットに授業資料（補足）をアップしますので、頻繁にチェックしてください。また授業資料の復習をするようにしてください。			
教科書	なし。授業資料を配布します。			
指定図書	吉田弘美『ニューエクスプレス バスク語』白水社、アトリエ・セントー『鬼火』祥伝社、森千香子『排除と抵抗の郊外』東京大学出版会			
参考図書	授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 3 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	文化表象演習【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小山 昌宏		単 位	2
授業の目的と概要	1. この授業は、現代にいたるマンガの画像分析、アニメの映像分析を軸に、映画鑑賞、アニメ鑑賞を通してその制作方法と技術、物語分析に関する基礎知識を身につけ、作品の画像、映像の解析ができる力量を身につけることを目的とする。 2. 具体的には、講義と映像分析、演習（実習、討論、質疑応答）による授業進行をおこない、各授業毎のリアクションペーパー（復習：振り返り）を活かした確実な技法取得をめざすことを目的とする。			
到達目標	1. 慣れ親しんでいるマンガメディアに関する画像分析手法を身につけることができる。 2. 同様にアニメメディアに関する映像分析手法を身につけることができる。 3. 物語研究の基礎知識について身に着けることができる。 3. マンガメディアのアニメメディアへの変換によるメディアミックス手法、映像演出の差異について学び、物語構造、創造の実際に関与できる知識と力量を身につける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	絵巻物の読解 ～「鳥獣戯画」から「北斎漫画」まで、その読み解き方について学ぶ（講義）		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第2回	マンガ表現読解 ～「正ちゃんの冒険」から「ジョジョ」まで、表現技法の進化と効果について学ぶ（講義）		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第3回	マンガ技法分析 ～遠近法視点から「アマチュア作品」を読解する（講義）		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第4回	マンガ表象分析 ～キャラの「かわいい」と「萌え」について考える ※討論		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第5回	映像表象分析 ～2つの「時をかける少女」 大林宣彦（映画）と細田守（アニメ）を読む（講義）		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第6回	マンガ物語演習 ～羽海野チカ「冬の麒麟」をドラマ化する ※実技と実演		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第7回	アニメ映像分析（ポジショニングとモーション） ～「1stガンダム」「まど☆マギ」を題材に学ぶ ※講義と実習		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第8回	アニメ楽曲分析（音楽の演出） ～アニソン代表曲の魅力について学ぶ ※視聴と講義		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第9回	アニメ声優・キャラクター分析 ～宮崎アニメ「俳優」の声の演技に学ぶ ※演習と講義		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第10回	アニメコンティニューイティ分析 ～マンガ「スラムダンク」のアニメ演出について学ぶ ※実技と実演		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第11回	アニメ映画鑑賞1－1 ～ フライシャー兄弟「バツタ君町に行く」鑑賞		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第12回	アニメ映画分析1－2 ～フライシャー兄弟「バツタ君町に行く」 ※討論		配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第13回	アニメ映画鑑賞2－1 ～原恵一「クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ！モーレッツ大人帝国」鑑賞		報告会に向けたテーマ選定をおこなう	
第14回	アニメ映画分析2－2 ～原恵一「クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ！モーレッツ大人帝国」解析 ※討論		報告会に向けた準備をおこなう	
第15回	まとめ 期末レポート概要・3分間スピーチ		期末レポート作成をおこなう	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％（期末レポート）、15％（授業ごとのリアクションペーパー内容）			
小テスト等	0％			
成果発表	15％（15回報告会のプレゼン）			
受講態度他	10％（授業内でのセッションへの参加意欲、発言）を加味します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 教科書はありません。適宜プリントを配布します。講義以外に、実技、実演、実習、討論、報告を織り交ぜ、体感と体得を目的とします。 2. 毎回、リアクションペーパー内容を活かし、要点整理の上、適宜授業のはじめに振り返り紹介いたします（復習） 3. 第15回目は、期末レポート提出に向けた受講者のプレゼン（3分間スピーチ）をおこないます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスアワー	水曜日 2 限目（10:50～12:20）		メールアドレス	

授 業 科 目	文学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松下 博文		単 位	2
授業の目的 と概要	①『古事記』の現代語訳を読むことを通して、自らの教養と文学的感性を高めることを目指す。 ②『古事記』を通して古代日本の神話的世界に触れることを目指す。			
到達目標	①テキストの背景にある歴史的事象を読み取ることができる。 ②活字の羅列としてのテキストを、辛抱強く読むことができる。 ③自己と向き合い、社会人としての基本的な資質を形成し、確かな倫理観と人間観を身につける。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 風土記入門（１）			風土記について文学事典で調べる	
第 2回 風土記入門（２）			風土記について文学事典で調べる	
第 3回 畿内			予習 ７～２５ページ	
第 4回 東海道			予習 ２６～５４ページ	
第 5回 東山道			予習 ５５～６０ページ	
第 6回 北陸道			予習 ６１～７５ページ	
第 7回 山陰道			予習 ７６～８６ページ	
第 8回 山陽道			予習 ８７～１０７ページ	
第 9回 南海道			予習 １０７～１１５ページ	
第10回 西海道 1 筑前国風土記・筑後国風土記			予習 １１６～１２４ページ	
第11回 西海道 2 豊前国風土記・豊後国風土記			予習 １２５～１３０ページ	
第12回 西海道 3 肥前国風土記・肥後国風土記			予習 １３１～１４０ページ	
第13回 西海道 4 日向国風土記・大隅国風土記			予習 １４１～１６６ページ	
第14回 西海道 5 薩摩国風土記			予習 １６７～１８０ページ	
第15回 西海道 6 老岐国風土記・対馬国風土記			予習 １８１～２００ページ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	１００％ 作品の進み具合によって、その都度レポートを要求する。確認後適宜返却します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席（欠席扱い）させます。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物を置かないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	三浦佑之『風土記の世界』（岩波新書）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日 １２時３０分～１３時		メールアドレス	

授 業 科 目	文学の周辺【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	須藤 圭		単 位	2
授業の目的 と概要	文学は、いつも、わたしたちの身近に溢れています。文学は、書籍というかたちをとるだけでなく、マンガや映画、演劇になったり、地域の名所を生みだす淵源になったりすることがあります。 この授業では、こうした文学の諸相をたどりながら、その現代的意義を考えます。文学それじたいの読解はもちろん大切ですが、周辺をめぐることによって、「文学」なるものについて深く考えていくことを期待します。			
到達目標	◆以下の3つの能力を獲得することを目指します。 1 文学のバリエーションを理解できる。 2 文学がマンガや映画、演劇などに与えた影響を説明できる。 3 文学がもたらす現代的意義を理解し、現代社会を見つめることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス・文学作品だけが文学じゃない！		◆「文学」とは、はたして、何か、考えておきましょう。	
第2回	文学はいつも身近に溢れている		◆身近な「文学」をさがしてみましょう。	
第3回	文学と地域①・太宰府と文学		◆授業でとりあげた場所に行ってみましょう。	
第4回	文学と地域②・聖地巡礼		◆授業でとりあげた場所を調べてみましょう。	
第5回	文学とメディア①・マンガ		◆授業でとりあげたマンガを読んでみましょう。	
第6回	文学とメディア②・映画		◆授業でとりあげた映画を観てみましょう。	
第7回	文学とメディア③・アニメ、ゲーム		◆授業でとりあげたアニメを観て、ゲームに取り組みましょう。	
第8回	文学とメディア④・舞台、演劇		◆授業でとりあげた舞台、演劇を鑑賞してみましょう。	
第9回	ことばを見つめる		◆複数の辞書を見比べてみましょう。	
第10回	文学を描く		◆授業でとりあげた絵画のことを調べてみましょう。	
第11回	文学を超訳する① 近代文学		◆授業でとりあげた文学を読んでみましょう。	
第12回	文学を超訳する② 古典文学		◆授業でとりあげた文学を読んでみましょう。	
第13回	文学を現代語訳する		◆授業でとりあげた文学を読んでみましょう。	
第14回	文学は国境を越える		◆世界における日本文学の翻訳事情を調べてみましょう。	
第15回	まとめ・現代社会における文学の価値		◆この授業で学んだことの復習をしましょう。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	◆期末レポート（60％）。授業内容の理解度をはかるためのレポートを課します。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	◆コメントカード（40％）。課題への回答や質問、意見を書いてもらいます。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	◆日頃から多くの文学に接するほか、日本文学を題材としたテレビ番組なども積極的に視聴し、知識を深めてください。			
教科書	◆プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	なし。			
オフィスワー	月4限	メールアドレス		

授 業 科 目	文芸創作Ⅰ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	田代 俊一郎		単 位	2
授業の目的 と概要	受講生で企画を決め、取材、執筆、撮影、装丁まで行う。冊子として記録に残す。これまで「太宰府天満宮ガイド」「ウソ、鶯、木うそ」を刊行。地域貢献本としても評価を受けています。			
到達目標	企画の立て方や原稿の書き方をはじめ、それをどう発信していくかを学び、実社会、実生活に役立てる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			冊子の草案作り	
第2回 企画会議			課題の草案作り	
第3回 現地取材			課題の準備	
第4回 現地取材			課題の準備	
第5回 企画のタイトル案会議			課題の草案作り	
第6回 企画のレイアウト会議			課題の草案作り	
第7回 原稿書き			課題の下書き	
第8回 原稿書き			課題の下書き	
第9回 装丁案会議			課題の草案作り	
第10回 装丁完成			課題の草案作り	
第11回 本作り			課題の草案作り	
第12回 本作り			課題の草案作り	
第13回 完成作品の宣伝と広報			課題の完成、広報の仕方について考える	
第14回 完成作品の宣伝と広報			課題の完成、広報の仕方について考える	
第15回 全体の総括			制作から完成までを振り返る	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	100％ 冊子への寄稿。			
受講態度他	なし			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	私語、遅刻は厳禁。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	文芸創作Ⅱ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	田代 俊一郎		単 位	2
授業の目的 と概要	「文芸創作Ⅰ」では取材という形の創作だったが、後期のⅡでは実際に小説を書き上げ、条件に合った文学賞に応募し、創作集も刊行する。 これまで「１３０９」を２号まで刊行している。			
到達目標	書くという行為がいかに想像力、創造力が必要であるかを学び、そこに到達する方法論を身につける。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(２) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (２) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (３) -②-1 日本語の４技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (４) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス 書くという行為について		課題の準備	
第2回	テーマ会議		小説執筆の準備	
第3回	テーマについての資料収集		小説の準備	
第4回	テーマについての資料収集		小説の準備	
第5回	テーマについての名作を読む		小説の準備	
第6回	テーマについての名作を読む		小説の準備	
第7回	各自の構想発表		小説の準備	
第8回	各自の構想発表		小説の準備	
第9回	原稿書きと修正		小説の執筆	
第10回	原稿書きと修正		小説の執筆	
第11回	相互批評		執筆中の小説の読み込み	
第12回	相互批評		執筆中の小説の読み込み	
第13回	本もしくは冊子作り		創作集完成のための準備	
第14回	本もしくは冊子作り		創作集完成のための準備	
第15回	まとめと総括		創作集の完成と過程の振り返り	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	創作集の寄稿、100%			
受講態度他	なし			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	私語、遅刻厳禁			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	プレゼンテーション演習【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	小野 望		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は、日本語学の発展科目として設置されているものである。 プレゼンテーションは、単なる発表・説明の技術を問うものではない。それらはもちろん重要であるが、その前にまず、伝えるべき課題を設定して調査し、自分が納得することが必要だ。その上で、どう伝えたいか、何を言えばよいか、相手は何を求めているか、総合的に判断しながらストーリーを組み立て、必要なデータをそろえ、発表資料を作成していくことになる。 課題の発見、考察と解決、自己認識と他者理解、論理構成と口頭発表、まさに総合的な能力を必要とするものである。これらは社会に出て求められる能力でもある。自己実現のためにも、実践の機会を活用しよう。			
到達目標	(1)日本語の構造を十分に理解し、適切な語彙・文体を用いてプレゼンテーション資料・文章作成ができる。 (2)さまざまな情報メディアの特質を十分に理解し、それを活用したプレゼンテーション資料作成ができる。 (3)発表の場の要素《人・時・場所》に応じて、適切な配慮行動を含めた口頭プレゼンテーションができる。 (4)就職試験等の口頭面接におけるプレゼンテーション能力を高めて、適切な自己表現・受け応えができる。 (5)集団内における自己表現・他者理解の能力を高めて、個性的なプレゼンテーションができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、主に以下のDPと関連しています。 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (3) -②-1 日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を適切に使用することができる。 (4) -①これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。「課題探究力」 「日本語表現演習Ⅰ・Ⅱ」とともに受講することで、多様な自己表現の方法を身につけ、コミュニケーション力の向上を図ること			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	プレゼンテーション概説 プレゼンテーションの構成要素		プレゼンテーションに対するイメージをまとめる。	
第 2 回	プレゼンテーションイメージ 参考：プレゼンテーションには型がある		身近なプレゼンテーション場面について考える。	
第 3 回	スライド作成演習 NHKニュース解説原稿		ニュース解説原稿をもとに、スライドを作成する。	
第 4 回	スライド作成演習		ニュース解説原稿をもとに、スライドを完成させる。	
第 5 回	プレゼンテーション観察 前回作成スライド、TVニュースの映像		何を見せるか、視覚情報を考える。次回まで、5分間プレゼンストーリー。	
第 6 回	プレゼンテーション作成準備 プレゼンの型、スライドデザインのポイント		参考プレゼンをもとに、スライドを計画する。	
第 7 回	プレゼンテーション作成演習		参考プレゼンを分析し、スライドデザインを考える。	
第 8 回	プレゼンテーション作成演習		プレゼン予行演習。	
第9回	プレゼンテーション実践（1）		プレゼンテーション発表と意見交換。各発表について批評コメントを報告。	
第10回	プレゼンテーション実践（1）		プレゼンテーション発表と意見交換。各発表について批評コメントを報告。	
第11回	プレゼンテーション作成演習		スライド計画とストーリー作成を並行して完成させる。	
第12回	プレゼンテーション準備		スライド・配付資料を分けて作成する。	
第13回	プレゼンテーション準備		プレゼン予行演習。配付資料の準備。	
第14回	プレゼンテーション実践（2）		プレゼンテーション発表と意見交換。各発表について批評コメントを報告。	
第15回	プレゼンテーション実践（2）		プレゼンテーション発表と意見交換。各発表について批評コメントを報告。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	3 0 ％ 授業時の小レポート内容（作業のまとめ、発表のまとめ等）を評価する。			
小テスト等	0％			
成果発表	5 0 ％ プレゼンテーション実践時に作成した発表資料、および発表行動・質問行動を評価する。			
受講態度他	2 0 ％ 課題提出マナー・出席意欲・自分を磨こうという意欲を 評価する。 適宜 授業中に設定する課題等を 評価に加える。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・受講者数によって、授業の運営方法（発表を行う授業回数、各自の発表時間など）が変わることがあります。 ・基本的に筑女ネットを使った授業となります。 ・演習科目ですから、自らテーマを設定し、それについて調査報告することはもちろん、他の報告・発表についての意見をまとめ、発言するなどの行動（web上の）を求めます。 ・取り組み方によって成果は大きく異なってきます。考える力を高めるとともに、よりよいコミュニケーションの主体となること			
教科書	使用しない。必要に応じ、筑女ネット上に参考資料を提示する。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	脇山真治著『プレゼンテーションの教科書』日経デザイン ほかに授業中に紹介する。			
オフィスワーク	月曜日：4 講時、火曜日：5 講時		メールアドレス	

授 業 科 目	ベンチャー起業論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	古田 龍輔		単 位	2
授業の目的と概要	この授業で言う「ベンチャー」とは、創業後に急成長を遂げる数少ない新興企業のことです。いま現存する大企業も、創業時には数名の社員しかいない場合がほとんどで、その後の急成長を経て巨大化していますから、元ベンチャーなのです。ベンチャーが誕生する原動力として、この授業では「コンセプト」と「ビジネスモデル」という概念を中心に取り上げます。そして、これらの概念を使ってグループで事業計画を立案できるようになることが、この授業の目的です。ここまで体験しておけば、それ以後に見聞する現実の会社の動きに敏感になれるだろうし、3年次以降に就職先を選択する際にも、経営の良し悪しを判断できる眼力が備わると期待します。なお、コンセプトとビジネスモデルを正しく理解していれば、営利企業だけではなく、非営利組織を立ち上げる場合にも大いに威力を発揮しますので、将来は非営利分野で仕事をしたい人にも有益な授業だと思います。			
到達目標	1 会社というものがどのように創業され成長または倒産するのかを理解することができる。 2 現存する元ベンチャーのビジネスモデルを解明するか、または新規事業でのビジネスモデルの提案をすることができる。 3 グループで作成したビジネスモデル課題を、受講生全員の前で効果的に発表することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回目	イントロダクション：ベンチャー型の起業とは何か？		指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第2回目	まず事業計画を考えるグループワーク（GW）		指定資料を読んで事業計画のアイデアを練っておく。	
第3回目	最初の事業計画の発表会		発表の準備をしておく。	
第4回目	コンセプトの考え方について講義		指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第5回目	コンセプトのある事業計画づくりGW		指定資料を読んで事業案にふさわしいコンセプトを考えておく。	
第6回目	コンセプト付き事業計画の発表会とビジネスモデルの講義1		指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第7回目	ビジネスモデルの講義2		指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第8回目	ビジネスモデルの考案するGW		事業案にふさわしいビジネスモデルを考えておく。	
第9回目	ビジネスモデルの発表会		発表の準備をしておく。	
第10回目	ビジネスモデルを再検討するGW1		指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第11回目	ビジネスモデルを再検討するGW2		指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第12回目	事業計画の最終プレゼンテーション		最終プレゼンの準備をしておく。	
第13回目	地元の女性起業家との対話		指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第14回目	女性と起業について講義		指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第15回目	総まとめ＋授業評価		14回の授業を通じて学習したと思う内容を書いて提出する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30% 定期試験中に60分間で行われる試験の点数（100点満点）			
レポート	30% 指定資料を読んで提出する予習シートの評価点			
小テスト等	なし			
成果発表	40% グループ課題の評価点			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	無断欠席をしたら、受講を放棄したものと見なします。やむを得ず欠席する場合は、必ずメールなどで事前に連絡すること。ただし、連絡すれば欠席はいくらでも出来るというわけではありません。			
教科書	とくになし			
指定図書	とくになし			
参考図書	とくになし			
オフィスワーク	木曜日の2講目以降と金曜日の2講目に時間が取れます。	メールアドレス		

授 業 科 目	保育・教職実践演習(幼稚園)【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	原 陽一郎・原田 博子・上原 真幸・岡山 万里		単 位	2
授業の目的と概要	これまでの授業や実習を通して学んできた、保育者となるために必要な能力を再認識し、専門職として必要な実践力を向上させることを目的とする。教育や保育をはじめ、人権、環境、平和、健康、家族などのテーマについて、情報収集、分析、ディスカッション等を行う。また、教育や保育について分析し、判断する能力を向上させながら、最終的には、保育者として必要な教育や保育のための方法や技術を習得することを目的とする 概要としては、図書館やインターネットを通じての情報収集や、これまでの実践を振り返りながら、自らの課題を発見し、その課題について調べたことををレポートにまとめるとともに、授業内でのプレゼンテーションと学生同士でディスカッションを行う。また、保育教材の製作をも実践していく。			
到達目標	1. 保育に関する自発的で、応用力をもった学習能力・問題解決能力を身につける。 2. 現代社会の諸問題や保育に関する現代的課題について、適切に分析や検討を行うことができる。 3. 問題を発見し、その問題を解決する過程を理解し、その内容を再検討することができる。 4. 幼稚園や保育所等での実習経験を基に、保育活動のシミュレーションができる。 5. 保育者としての資質や能力について確認し、コミュニケーション・スキルや実践力を向上させる。 6. 保育のための教材・教具を駆使することができ、自分自身でも製作することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。2 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 この科目は、保育士・幼稚園教諭資格取得の為の必修科目であり全ての科目と関連しています。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	乳幼児期の子育ちに関する問題を整理する① おとなの子育てスキルの不足		講義で提起された社会的課題に関して調べる	
第2回	乳幼児期の子育ちに関する問題を整理する② 情報に振り回されているおとなたち		講義で提起された社会的課題について分析する	
第3回	乳幼児期の子育ちに関する問題を整理する③ 子どもの育ちに起こっている問題		自分が取り組みたい社会的課題についてその原因について考察する	
第4回	子育ちの課題解決のための保育の具体的検討① どの問題にアプローチするのか		社会的課題解決のための具体的保育について考える	
第5回	子育ちの課題解決のための保育の具体的検討② 保育場面でのアプローチの方法とは		社会的課題解決のための具体的保育を組み立てる	
第6回	課題解決の方策① 愛着形成を促進するために		課題解決のための保育について発表する	
第7回	課題解決の方策② 生活リズムの改善のために		課題解決のための保育について発表する	
第8回	課題解決の方策③ 子どもたちの文化性を高めるために		課題解決のための保育について発表する	
第9回	グループ・ディスカッションⅠ 子どもたちの課題と向き合う①		情報収集	
第10回	グループ・ディスカッションⅡ 保育者の役割について考える②		情報収集	
第11回	グループ活動Ⅲ 現場で役立つ保育技術①		課題⑤「園行事企画書作成」	
第12回	グループ活動Ⅳ 現場で役立つ保育技術②		課題⑤「園行事企画書作成」	
第13回	グループ活動Ⅴ 発達障害についての理解を深める		発達障害の子どもたちの生きている世界について具体的に理解する	
第14回	グループ活動Ⅵ 発達障害の子どもへの支援を具体的に考える		子どもの抱えている問題に対するアプローチを具体的に考える	
第15回	保育者として望まれる資質や能力について、授業全体のまとめ		各自の課題設定	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60%			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 課題研究の発表をそれぞれ評価する			
受講態度他	10% 課題研究への取り組み方を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	個人での発表も行うが、グループでの情報収集、話し合い、発表が中心となるので、各自が、主体的に責任をもってグループ活動に参加すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する			
オフィスワー	後期 木曜日2限		メールアドレス	

授 業 科 目	保育原理【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大元 千種		単 位	2
授業の目的と概要	保育とは何かについて考察し、理解を深める。さらに、保育者、あるいは子どもに関わる者として必要な保育についての基本的な視点や姿勢を身につけることを目的とする。 授業では、家庭や社会の変容から現代の保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園等の保育施設についての意義と目的について考える。「子ども・子育て関連3法」による保育制、及び2017年改訂の幼稚園教育要領、保育所保育指針等について理解し、これからの保育、就学前教育について考察する。また、子どもの発達にとっての集団や活動・遊びの重要性についてもふれながら、子ども観や発達観を検討する。さらに、先人達の保育思想や構想した保育施設等を概観することによって、時代や国を越えて現代にも生かすべき子ども観や保育観などについて理解を深めていく。最後に、授業での学びから、わが国の保育・就学前教育の課題について、自分の言葉で説明できるように考察す			
到達目標	1. 保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園等の保育施設の特徴を的確に説明することができる。 2. 制度としての保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園の目的や役割について、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて的確に説明することができる。 3. 保育の内容と方法の基本について説明することができる。 4. 「子ども・子育て関連3法」にもとづく新制度の特徴を説明することができる。 5. 保育の思想とそれに伴う保育施設の歴史的変遷を理解し、説明することができる。 6. 現代の保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園等保育施設の課題について、自分の意見を述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 関連科目：保育者論、教育原理、教育史、児童家庭福祉論、社会的養護、社会的養護内容、社会福祉論、幼児理解、発達と教育等			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	保育とは何か～理念と概念について：子どもの最善の利益を考慮した保育		予習：第1章 宿題：保育所と幼稚園の対比表	
第 2回	制度としての保育の場～保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園		予習：第1章、保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園の概要	
第 3回	保育所保育の原則		予習：第1章	
第 4回	現代の保育・就学前教育の課題		予習：第1章	
第 5回	保育所保育指針と幼稚園教育要領①：幼稚園教育要領の流れ		予習：第補章、保育所保育指針、幼稚園教育要領	
第 6回	保育所保育指針と幼稚園教育要領②：保育所保育指針の流れ		予習：第補章、保育所保育指針、幼稚園教育要領	
第 7回	子ども・子育て支援新制度について		予習：子ども・子育て支援関連3法	
第 8回	保育における活動の構造と保育の方法～保育の構造を考える		宿題：「あそび」「生活」「課業」「行事」の特徴と意義	
第 9回	保育における活動の構造と保育の方法～「あそび」「生活」「課業」「行事」の特徴と意義		予習：保育形態とは	
第10回	保育における活動の構造と保育の方法～保育形態の特徴		予習：保育形態とは	
第11回	保育の思想と歴史的変遷①：諸外国の保育の思想と歴史		予習：第3章	
第12回	保育の思想と歴史的変遷②：諸外国の保育の思想と保育・幼児教育施設		予習：第3章	
第13回	保育の思想と歴史的変遷③：日本の保育思想と保育・幼児教育施設		予習：第3章、第4章、第5章	
第14回	わが国の幼稚園、保育所の変遷と課題①保育施設の創設期～明治期～		予習：第3章、第4章、第5章	
第15回	わが国の幼稚園、保育所の変遷と課題②大正デモクラシーから戦前、戦中の保育		予習：第3章、第4章、第5章	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 期末テスト			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	20％ 毎授業時の「学びの軌跡」で授業への参加態度を確認する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・授業はシラバスの予定に沿って行。教科書通りではないが、関連の章は記載しているので、教科書は授業前に読んでおくこと。 ・社会情勢や制度改変等により、授業計画を変更する場合がある。その都度伝達したうえで授業の予定を変更する。 ・授業中、随時質問するので、主体的授業参加をすること。			
教科書	民秋 言他(編著) 『新保育ライブラリーシリーズ 保育原理(新版)』 北大路書房 2014年 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 2017			
指定図書	子どもと保育総合研究所代表／森上史朗(監修) 大豆生田啓友・三谷大紀(編) 『最新保育資料 2018』 ミネルヴァ書房 @2018年			
参考図書	青木一・深谷敏作・秋葉秀則 『保育幼児教育体系 第5巻10』労働旬報社 浦辺史・宍戸健夫・村山祐一(編) 『保育の歴史』 青木書店 1981年			
オフィスワー	月曜日昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	保育者論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大元 千種		単 位	2
授業の目的と概要	現代の幼稚園や保育所等保育施設に何が求められているのかを考える。さらに、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂をふまえ、幼稚園教諭、保育士、保育教諭等保育者の社会的位置づけとその専門性及び保育者として必要な様々な協働について考察する。また、近年の社会的状況を理解し、子どもや親たちを受けとめ、保育ニーズに対応できるような保育者としての態度を養成することを目的とする。 保育実践の分析やビデオ視聴などによって、具体的に現代の幼稚園や保育所の保育の質を考える。保育実践や外国の取り組みを手がかりに保育、子育て支援の基本や保育者の専門性について理解を深める。授業の多くは講義形態であるが、視聴覚教材（ビデオ）や保育実践例等をととして、より具体的・実践的に理解する。また、毎回授業での気づきや考察を「学びの軌跡」にまとめ、自らの学びを確			
到達目標	1. 幼稚園教諭、保育士、保育教諭等の保育者の役割と倫理について、例をあげて説明することができる。 2. 保育者の資格、要件、責務について説明することができる。 3. 保育実践記録から保育の実際をイメージし、分析・評価することができる。 4. 子どもが主体的・対話的で深い学びができる保育における保育者の役割について説明できる。 5. 「保育の質」の視点や、保育者の専門性および資質について意見を述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 関連科目：保育原理、教育原理、児童家庭福祉、社会的養護			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	保育者（幼稚園教諭、保育士、保育教諭等）の役割と倫理について		予習：第1章	
第 2回	：保育者の制度的位置づけ：資格・要件・責務についての比較		予習：幼稚園教諭と保育士の違いについて調べる	
第 3回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育における保育者の位置づけ		予習：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園を読む	
第 4回	保育者の専門性とは①：養護と教育		予習：第2章、第8章	
第 5回	保育者の専門性とは②：資質、能力について		予習：第8章	
第 6回	保育者の専門性とは③：保育の省察について		予習：第7章	
第 7回	保育者の専門性とは④：事例検討		予習：第3章、第4章	
第 8回	保育者の協働①：保育と保護者支援にかかわる協働		予習：第6章	
第 9回	保育者の協働②：専門職間及び専門機関との連携		予習：保育に関わる関係機関について調べる	
第10回	保育者の役割①：子どもとともに心と体を動かす		予習：第 4 章	
第11回	保育者の役割②：豊かな文化や自然との出会いをつなぐ		予習：第5章	
第12回	主体的・対話的で深い学びを保障する保育事例紹介		課題：事例分析	
第13回	主体的・対話的で深い学びを保障する保育保育者の		課題：主体的・対話的で深い学びを保障する保育者の役割についてまとめる	
第14回	世界の保育から学ぶ保育者の専門性①：レッジョ・エミリア市の保育・幼児教育の特徴		課題：外国の保育者に求められる専門性について調べる	
第15回	世界の保育から学ぶ保育者の専門性②：レッジョ・エミリア市の保育者の専門性		復習：	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 期末テスト			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	20％ 毎授業時の「学びの軌跡」で授業への参加態度を確認する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業はシラバスに従って行うので、教科書とおりに進捗しない。また、急な社会情勢や制度変更等諸事情により、予定のシラバスを変更する場合がある。その場合はその都度授業で伝達する。教科書以外の参考資料を多く使用するので、必ず各自で資料等を整理しておくこと。また、毎回授業での気づきや考察を「学びの軌跡」にまとめ、自らの学びを確認すること。			
教科書	汐見稔幸・大豆田啓友（編）『保育者論』 ミネルヴァ書房 2010年			
指定図書	平松知子『子どもが心のかっとうを超えるとき』 ひとなる書房 2012年 平松智子『おとなだっとうわかってもらえて安心したい』 ひとなる書房 2012年			
参考図書	佐藤学（監修）、ワタリウム美術館（企画・編集）『驚くべき学びの世界 レッジョ・エミリアの用事教育』 東京カレンダー 2011年			
オフィスアワー	月曜日昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	保育心理【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	S. Kumar		単 位	2
授業の目的 と概要	人間は生まれてからどのような発達段階を得て、成長していくことの理解。それに関して、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期の理解。それぞれの発達段階で知能の発達、情緒の発達、社会性の発達などを理解しながら学ぶ。また、保育士という職業的自立につながる発達段階の知識を身につける。実際に乳幼児の成長の時期に見られる心理面の内容の理解。			
到達目標	人間の成長として、発達の段階、様々な学習と記憶のプロセスと理論、考え方、人格の形成や人間の行動についての理解する。保育心理の適切な理解や判断力を身につけることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 保育心理学とは何か			保育心理の定義の理解課題	
第 2回 保育心理の範囲と応用			保育と心理学者についての復習	
第 3回 乳児期の運動と知能の発達			発達についての復習	
第 4回 反射運動			乳児期発達の課題の復習	
第 5回 乳児期の反射の種類			反射についての課題	
第 6回乳児期の発達チェック			乳児期の遊びの課題	
第 7回幼児期の発達チェック			幼児期の遊びや仲間関係についての課題	
第 8回 幼児期の運動、情緒の発達			幼児期の運動遊び課題	
第 9回幼児期の知能と言語の発達について			模倣、創造遊び、言語発達課題	
第10回乳幼児期の 社会性の発達について			集団遊び課題、仲間関係と社会性の形成	
第11回 ピアジェの発達段階			ピアジェの発達段階理解課題	
第12回学習とは何か			学習のプロセス、記憶、短期記憶と長期記憶の理解課題、動機付け	
第13回 学習の理論			学習理論課題	
第14回性格の要因や形成について			投影法心理テストの理解課題	
第15回 授業全体の理解と総まとめ			総合的保育心理の理解	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	9 0％筆記試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	1 0％ （私語 5％、遅刻 3％、授業中携帯電話の使用など 2％）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	講義の際に指示します			
教科書	指定しない （資料配布）			
指定図書	なし			
参考図書	勝地三郎 監修『新教育心理』ナカニシヤ出版 岩田純一・佐々木正人・石田勢津子・落石幸子『児童の心理学』			
オフィスワ－	Surender Kumar ー 授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	保育実習Ⅰ【実習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	大元 千種		単 位	4
授業の目的と概要	保育実習は、これまで大学において学習してきた心理学、教育学、保育、福祉、保健、保育内容等の専門科目・教養科目等の理論を基礎として、保育の実際にあたり、指導技術を実践する。それによって、理論と実践の統合をはかり、専門的知識・技術および豊かな人間性をかねそなえた保育士を育成することを目的とする。 保育実習Ⅰでは、保育所実習において、保育所生活に参加し、乳幼児への理解を深める。それとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務及び他の職員との連携について学ぶ。施設実習においては、居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深める。それとともに、居住型児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務及び他の職員との連携について学ぶ。			
到達目標	1. 実習保育所、施設の日課と職員を理解する。 2. 保育所の乳幼児や児童福祉施設利用者、職員に積極的に関わることができる。 3. 実習生としての謙虚さと積極性をもち、状況にふさわしい言動を取ることができる。 4. 問題意識や実習課題をもって実習に取り組み、今後の課題を明確にすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 関連科目：保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱ、保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲ、その他保育士科目全般			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 保育所での実習についての事前指導：学内オリエンテーション			課題：実習準備、実習生調書、保育実習計画書	
第 2回 保育所での実習についての事前指導：実習施設			課題：実習準備	
第 3回 保育所での実習についての事前指導：学内最終オリエンテーション			課題：実習準備	
第 4回 実習10日間			課題：保育所の指導と各自の実習計画に基づく実習	
第 5回実習10日間			課題：保育所の指導と各自の実習計画に基づく実習	
第 6回 実習10日間			課題：保育所の指導と各自の実習計画に基づく実習	
第 7回 事後指導：実習保育所内での反省会			課題：『保育実習日誌』整理、「保育実習報告」、「園レポート」	
第 8回 事後指導：大学内での総括と今後の課題			課題：お礼状、反省と次の実習にむけての課題	
第 9回居住型児童福祉施設での実習についての事前指導：学内オリエンテーション			課題：実習準備、実習生調書、保育実習計画書	
第10回 居住型児童福祉施設での実習についての事前指導：学内直前オリエンテーション			課題：実習準備	
第11回 実習10日間			課題：実習施設の指導と各自の実習計画に基づく実習	
第12回 実習10日間			課題：実習施設の指導と各自の実習計画に基づく実習	
第13回 実習10日間			課題：実習施設の指導と各自の実習計画に基づく実習	
第14回 事後指導：実習保育所内での反省会			課題：『保育実習日誌』整理、「保育実習報告」、「園レポート」	
第15回 事後指導：大学内での総括と今後の課題			課題：お礼状、反省と次期実習にむけての課題	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	30％ 実習先事前学習（10％）、実習生調書・実習計画書（10％）、実習報告書・実習園レポート（10％）			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	70％ オリエンテーション出席（10％）、実習評価（50％）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	保育所と居住型児童福祉施設の両方での実習を行わなければならない。 提出物の期日を厳守、無断欠席、遅刻厳禁。健康管理に注意。報告、連絡、相談の徹底			
教科書	なし			
指定図書	厚生労働省（編）『保育所保育指針 解説書』 フレーベル館 2008年			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスワーク	（実習指導担当 大元）月曜日昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	保育実習Ⅱ【実習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	大元 千種		単 位	2
授業の目的と概要	これまで大学において学習してきた専門科目・教養科目の理論を基礎にして、保育の実際にあたり、私道技術を実践する。それによって理論と実践の統合をはかり、専門知識・技術および豊かな人間性をかねそなえた保育士を育成することを目的とする。 自らの保育課題を明確にし、さらなる学びへと発展させていく。 3年次後期の保育実習Ⅱでは、保育所保育を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。子どもや家庭の福祉ニーズに対する理解を深め、判断力を養うとともに、子育て支援に必要な能力を培う。			
到達目標	1. 問題意識や実習課題をもって実習に取り組み、保育所の保育を実践する。 2. 保育所の保育士として必要な資質、能力、技術等を習得し、部分保育、一日保育で生かすことができる。 3. 保育所の職員の協働体制について理解を深める。 4. 保育所の行う子育て支援について理解を深める。 5. 今後の課題を明確にすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 関連科目：保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱ、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅲ、その他保育士科目全般			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 事前指導：学内オリエンテーション（保育所実習…10日間）			実習準備、実習生紹介状、保育実習計画書	
第 2回 事前指導：学内直前オリエンテーション			課題：実習準備	
第 3回 事前指導：実習保育所でのオリエンテーション			課題：実習準備	
第 4回 保育所実習1日目			課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による	
第 5回 保育実習2日目			課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による	
第 6回 保育実習3日目			課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による	
第 7回 保育実習4日目			課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による	
第 8回 保育実習5日目			課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画によるに	
第 9回 保育実習6日目			課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による	
第10回 保育実習7日目			課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による	
第11回 保育実習8日目			課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による	
第12回 保育実習9日目			課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による	
第13回 保育実習10日目			課課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による	
第14回 事後指導：実習保育所での実習の総括			課題：『保育実習日誌』、「保育実習報告」、「園レポート」	
第15回 事後指導：大学での実習の総括			課題：お礼状、実習反省と今後の課題	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	30％ 実習先についての事前学習（10％）、実習生調書・実習計画書（10％）、実習報告書・園レポート（10％）			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	70％ オリエンテーション出席（10％）、実習評価（50％）、保育実習日誌（10％）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	保育実習Ⅱと保育実習Ⅲを同時に履修することはできない。 提出物の期日を厳守。無断欠席。遅刻厳禁。健康管理に注意。報告、連絡、相談の徹底。			
教科書	なし			
指定図書	『平成29年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 チャイルド本社 2017年			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスワーク	（実習指導担当 大元）月曜日昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	保育実習Ⅲ【実習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	大元 千種		単 位	2
授業の目的と概要	保育実習は、これまで大学において学習してきた専門科目・教養科目等の理論を基礎として、保育の実際にあたり、指導技術を実践する。それによって、理論と実践の統合をはかり、専門的知識・技術および豊かな人間性をかねそなえた保育士を育成することを目的とする。さらに自らの保育課題を明確にし、さらなる学びへと発展させていく。 3年次後期の保育実習Ⅲでは、保育所以外の児童福祉施設、その他社会福祉施設の養護を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。子どもや家庭の福祉ニーズに対する理解を深め、判断力を養うとともに、子育て支援に必要な能力を養う。			
到達目標	1. 問題意識や実習課題をもって実習に取り組み、児童福祉施設、その他の社会福祉施設の保育を実践する。 2. 児童福祉施設、社会福祉施設の保育士として必要な資質、能力、技術等を習得し、実習で生かすことができる。 3. 福祉施設の職員の協働体制について理解するとともに、その中での保育士の役割について考える。 4. 児童福祉施設の行う子育て支援について理解を深める。 5. 今後の課題を明確にすることができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 関連科目：保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱ、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ、その他保育士科目全般			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 事前指導：大学内オリエンテーション			課題：実習準備、実習調書、実習計画書	
第 2回 事前指導：大学内直前オリエンテーション			課題：実習準備	
第 3回 事前指導：実習施設オリエンテーション			課題：実習準備	
第 4回 保育実習1日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第 5回 保育実習2日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第 6回 保育実習3日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第 7回 保育実習4日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第 8回 保育実習5日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第 9回 保育実習6日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第10回 保育実習7日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第11回 保育実習8日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第12回 保育実習9日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第13回 保育実習10日目			課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による	
第14回 事後指導：実習施設での実習反省			課題：『保育実習日誌』整理、「保育実習報告」、「園レポート」	
第15回 事後指導：大学内での実習報告とまとめ			課題：お礼状、反省と今後の課題	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	30％ 実習先についての事前学習（10％）、実習生調書・実習計画書（10％）、実習報告書・園レポート（10％）			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	70％ 直前オリエンテーション出席（10％）、実習評価（50％）、保育実習日誌（10％）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	保育実習Ⅱと保育実習Ⅲを同時に履修することはできない。 提出物の期日を厳守。無断欠席。遅刻厳禁。健康管理に注意。報告、連絡、相談の徹底。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスワーク	（実習指導担当 大元）月曜日昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	保育実習指導Ⅰ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大元 千種・原田 博子・上原 真幸・岡山 万里		単 位	2
授業の目的と概要	保育実習指導Ⅰにおいては、保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、保育士としての基礎的な実践力を養成することを目的としている。主として保育実習Ⅰ（児童福祉施設）にむけて必要な知識、技能や倫理などについて修得し、各自の実習課題を明確化していく。本授業は、教科書のほかに、視聴覚教材や実際の実習日誌等により具体的、実践的に実習準備を進めていく。 本授業そのものが実習の事前指導であることを自覚し、主体的に学修していく。 「保育実習Ⅰ」を実施するにあたって必ず受講しなければならない科目となっている。さらに3年前期の「保育実習指導Ⅱ」の基礎ともなる。 保育実習に際して、本実習指導の他に学内での実習オリエンテーション、各実習施設における事前指導等も授業時間外に実施さ			
到達目標	1. 実習生として保育現場に入るための課題を明確に持つことができる。 2. 挨拶、返事、言葉遣い、姿勢等実習生としての基本を身につける。 3. 手遊びや絵本の読み聞かせなど対象者を考慮して実践できる。 4. 実習日誌の記入、指導案の作成を適切にできる。 5. 対象年齢や状況に応じた教材研究ができる。 6. 実習後の反省により、実習での学びと次の実習にむけての課題を明確にすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 関連科目：保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅱ、保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲ、その他保育士科目全般			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 保育実習の意義：保育実習についての目的と意義について			復習：実習についての理解	
第 2回 保育実習Ⅰ（施設）事前学習、保育実習Ⅰ（保育所）実習にむけての準備			課題：保育実習Ⅰ（施設）事前学習まとめ、保育実習Ⅰ（保育所）内	
第 3回 保育実習についての基本（１）：基本的文書表現と漢字、平仮名、片仮名書き取り			課題：漢字、平仮名、片仮名書き取り	
第 4回 保育実習についての基本（２）：実習施設の特徴と役割			課題：各自の実習施設についての特徴と役割をまとめる	
第 5回 保育実習についての基本（３）：障がいについての理解と支援			課題：障がいについてまとめる	
第 6回 実習前指導：先輩ゼミと実習課題（保育実習施設の特徴、実習計画）			課題：実習事前学習を深める	
第 7回 保育の記録：記録をとることの意味、実習日誌の書き方			課題：日誌の模写	
第 8回 指導計画①：実習計画書や指導案作成について			課題：実習計画書の作成、指導案作成	
第 9回 指導計画②：指導案における教材研究			課題：遊びや制作等教材を研究する	
第10回 保育実習にむけて①：指導案検討			課題：遊びの検討、教材の作成	
第11回 保育実習にむけて②模擬保育			課題：模擬保育にむけて準備・練習、保育実習準備	
第12回 保育実習にむけて③：施設の事例検討			課題：事例の分析	
第13回 保育実習にむけて④面談			課題：実習の準備や体調管理、心がけなど確認	
第14回 施設実習にむけて直前準備：お礼状の書き方、場面記録			課題：施設実習にむけての準備、場面記録	
第15回 保育実習にむけてのまとめ			課題：施設実習の振り返り、保育所実習準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	60％ 実習施設事前学習、授業課題、指導案など			
小テスト等	－			
成果発表	20％ 教材研究、指導案の発表準備含む			
受講態度他	20％ 出席状況の他、意見の発表や配布用紙で授業への参加態度を確認する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	主体的に授業に参加をすること。 授業は4名の教員によって行い、状況によってシラバスの順番や内容が変更される場合がある。その場合は事前に受講生に連絡し、実施する。 無断欠席、遅刻、早退は認められない。3回以上の欠席、遅刻については、状況によっては特別な課題を付与するこや、実習延期となる場合がある。授業中に手遊びや絵本の読み聞かせ、設定保育の模擬保育等保育実技の発表を行う。教材研究の一環で、「わ			
教科書	安部和子・増田まゆみ・小櫃智子 『最新保育講座 保育実習（第2版）』 ミネルヴァ書房 2014年 大元千種(監修) 『書き方・あそび・保育のコツがわかる 実習の日誌と指導案サポートブック 』ナツメ社 2016年			
指定図書	石橋裕子・林幸範（編集） 『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』 同文書院 2013年 小林育子・長島和代・権藤真織・安齊智子 『幼稚園・保育所・施設 実習ワーク』 萌文社 2006年			
参考図書	田上貞一郎 2010 保育者になるための国語表現 萌文書林			
オフィスワー	各教員の他の担当教科のシラバス参照		メールアドレス	

授 業 科 目	保育実習指導Ⅱ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大元 千種・原田 博子・上原 真幸・原 陽一郎		単 位	1
授業の目的と概要	保育実習指導Ⅰの内容を受け、実習の反省、評価、総括を行う。その上で、保育実習Ⅰ（保育所）および保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲにむけて、保育実習Ⅰ（施設）で生じた課題をさらに明確化し、自らの課題設定のもとに知識・技術の修得等を深め、将来の保育士としての実践的力量を高めていくことを目的とする。 実習振り返りや記録、指導案の相互検討、および模擬保育による実践をもとにした検討など受講生の主体的かつ協同の学修を行う。つねに主体的に授業に取り組むことが期待される。 本授業の他に学内での実習オリエンテーション、各保育実習先において事前指導等が実施される。			
到達目標	1. 実習にむけての課題、計画、準備を主体的に取り組むことができる。 2. 健康管理、挨拶、返事、言葉遣い、姿勢等実習生としての基本を確実に身につける。 3. 自分の実践をふりかえり課題を明確にし、自ら取り組む。 4. 他の実習生の模擬保育等の実践についての確に分析することができる。 5. 保育実習で適切な配慮を行うことができるように、子どものことばや行動を理解し意味づけることができる。 6. 活動指導案の作成、教材研究について習熟し、指導案作成と実践をすることができるようになる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 関連科目：保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲ、その他保育士科目全般			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 授業概要および保育実習Ⅰ（施設）の振り返りを踏まえて保育実習Ⅰ（保育所）の実習計画			授業での課題：各自の実習課題設定、教材研究	
第 2回 保育実習Ⅰ（保育所）にむけて実習生調書と実習計画書作成			授業での課題：実習保育所の事前学習、実習生調書、計画書作成、教材製作	
第 3回 実習施設（保育所）の特徴と役割			授業での課題：実習にむけての事前学習、教材研究等	
第 4回 記録および実習日誌について			授業での課題：実習にむけての教材研究	
第 5回 教材研究と部分指導案作成（指導案ラフスケッチ）…製作活動と運動遊び			授業での課題：部分実習指導案のラフスケッチ…製作活動と運動遊び	
第 6回 指導案作成			授業での課題：指導案にもとづく模擬保育にむけての準備	
第 7回 保育所実習にむけて① 模擬保育および検討（その1 導入について）			授業での課題：模擬保育準備、全日指導案（責任実習）の下書き	
第 8回 保育所実習にむけて② 模擬保育および検討（その2 展開について）			授業での課題：模擬保育準備、全日指導案（責任実習）作成	
第 9回 保育所実習にむけて③ 模擬保育および検討（その3 まとめについて）			授業での課題：全日指導案（責任保育）作成	
第10回 保育所実習にむけて④ 全日指導案（責任保育）の検討および保育実習Ⅰ（保育所）に向けての確認（お礼状と持ち物チェック等）			授業での課題：実習準備	
第11回 保育実習Ⅰ（保育所）事後指導における実習の総括と評価①（実習報告書と実習園レポートをもとに、実習での学び、気づきと自己の課題の明確化）			授業での課題：指導案検討、保育実習Ⅱ、Ⅲの実習計画書下書き	
第12回 第 2回 保育所実習事後指導にける実習の総括と評価②（場面記録をもとに、利用者や子ども理解と配慮についての考察と自己評価）			授業での課題：保育実習Ⅱ、Ⅲの実習計画書作成	
第13回 保育実習ⅡまたはⅢにむけて① Ⅱ…模擬保育準備、Ⅲ…実習施設について事前学習			授業での課題：Ⅱ…指導案、模擬保育、Ⅲ…実習施設についての学習	
第14回 保育実習ⅡまたはⅢにむけて② Ⅱ…模擬保育検討（導入、展開）、Ⅲ…実習施設に応じた教材研究、準備			授業での課題：Ⅱ…指導案、模擬保育、Ⅲ…実習施設に応じた準備	
第15回 保育実習ⅡまたはⅢにむけて③ Ⅱ…模擬保育検討（教材研究、環境構成の検討）、Ⅲ…実習施設に応じた教材研究、準備／保育実習Ⅱ、Ⅲにむけての最終確認			授業での課題：場面記録、手作り教材	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	―			
レポート	60％ 実習課題、日誌、指導案、実習まとめ、場面記録、手作り教材等			
小テスト等	―			
成果発表	20％ 教材研究準備と発表の態度			
受講態度他	20％ 意見発表や配布用紙で授業への参加態度を確認。毎授業時の「学びの軌跡」で授業への参加態度を確認し、評価の対象に含む。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	主体的な授業への参加と課題意識を持つことを期待する。 原則として無断欠席、遅刻、早退は認められない。状況によっては特別に課題を付加する。教科書を使用するが、授業の進行は教科書どおりではない。また、上記の授業計画は場合によっては変更することがある。授業外に開催する実習オリエンテーションにも必ず参加すること。所定の服装、身だしなみに注意すること。			
教科書	安部和子・増田まゆみ・小櫃智子 『最新保育講座 保育実習（第2版）』 ミネルヴァ書房 2014年 大元千種(慣習) 『書き方・あそび・保育のコツがわかる 実習の日誌と指導案サポートブック 』ナツメ社 2016年			
指定図書	財団法人幼少年教育研究所（編著） 『遊びの指導 乳・幼児編』 同文書院 2009年			
参考図書	授業で紹介する。			
オフィスアワー	各教員の他の担当教科のシラバス参照		メールアドレス	

授 業 科 目	保育相談支援【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	原 陽一郎		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は保育士資格取得のための必修科目であり、保育に関する専門的知識・技術を背景としながら、保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して保育相談、助言ができるようになることを目的とする。 このために、現代の保護者・育児をとりまく状況の理解とともに、保育相談支援の意義・基本と、事例を通して実践のための自己の課題を把握していく。			
到達目標	① 保育相談支援の意義や基本的視点について理解する ② 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する ③ 保護者支援の基本を理解する ④ 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 この科目は、家庭支援論・相談支援と関連しています。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 保育相談支援の意義と基本視点 保育相談支援とは何か		ふだんの生活や実習で見かけた親子関係をまとめる	
第2回	保育士の業務と保育相談支援の原理		教科書第1章p.1～19を読む	
第3回	保育相談支援の価値と倫理		全国保育士会倫理綱領を読む	
第4回	信頼関係を築く受容と自己決定、相談の実際事例		信頼関係の捉え方を理解する・ラポールについて考察する	
第5回	子どもの最善の利益の重視 子どもの成長の喜びの共有、相談の実際事例		子どもの権利条約を読む	
第6回	社会資源との連携・協力、相談の実際事例		連携・協力の対象となる地域資源や関係機関を復習する	
第7回	保育を基盤とした保育相談支援、相談の実際事例		保護者の気になる姿をまとめる	
第8回	保育相談支援の方法と技術、相談の実際事例		保育相談支援で必要とされる保育技術についてまとめる	
第9回	保育相談支援の展開、相談の実際事例		援助行為の道筋を復習する	
第10回	保育所における保育相談支援、相談の実際事例		これまでまとめた事例の支援の方法を検討する	
第11回	地域子育て支援における保育相談支援、相談の実際事例		子育てサロン、子育て支援センターなどの役割を復習する	
第12回	児童福祉施設における保育相談支援、相談の実際事例		児童福祉施設の目的と利用者の状況について復習する	
第13回	子どもの虐待について、相談の実際事例		虐待が起きる要因について復習する	
第14回	子育て相談のポイント		現在の保護者の状況について、新聞などの記事を集める	
第15回	保育相談支援の評価		保育要録について復習する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 基本的事項について			
レポート	30％ 事例レポートの作成			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	10％ 挙手・発表などの受講態度を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	将来、保護者・児童の指導者となるにふさわしい履修態度を求める			
教科書	柏女霊峰・橋本真紀 「保育相談支援（新・プリマーズ 保育）」 ミネルヴァ書房(2016)			
指定図書	なし			
参考図書	大谷保育協会 「ほいくしんり」 エイデル研究所(2010～			
オフィスアワー	火曜日 5限目		メールアドレス	

授 業 科 目	保育内容演習（環境）【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	原 陽一郎		単 位	2
授業の目的と概要	保育内容の領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことが目標である。その基盤として、乳幼児期の教育は保育者が「自発的、意欲的に関わるような環境を構成」することによって「生活と遊びを通して総合的に」おこなうことが必要である。 よって本講義では、領域「環境」の教育目標達成のための「環境の構成力」を獲得するために、物的環境・人的環境・社会及び自然の事象についての理解を深めることを目的とする。			
到達目標	①周囲のさまざまな環境で興味を持ったことを実験・観察し、その面白さを具体的に説明する。 ②子どもの育ちにとって適切な環境を考える基礎とその理由を具体的に説明する。 ③指導案を作成する。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 領域「環境」のねらいと内容			要領・指針の領域「環境」の項目を読む	
第2回 領域「環境」の指導上の留意点			要領・指針の領域「環境」の指導上の留意点についてまとめる	
第3回 領域「環境」の保育実践の動向			上記要領・指針を読み、領域「環境」について理解する	
第4回 領域「環境」の実践のために① 周囲環境での「面白さ」を見つける			実験・観察する事象を決め、これらについての資料を集めておく	
第5回 領域「環境」の実践のために② 「面白さ」の内容を明らかにする			実験・観察を実施し、その事象についての知識を具体化する	
第6回 領域「環境」の実践のために③ 「面白さ」を多面的に把握する			実験・観察を実施し、その事象についての知識を具体化する	
第7回 情報機器の活用法 体験を補完する			体験を補完するものとしての情報機器の活用法について理解する	
第8回 指導案の作成① 3歳未満児			3歳未満児の保育内容を検討して指導案を作成する	
第9回 指導案の作成② 3歳児			3歳児の保育内容を検討して指導案を作成する	
第10回 指導案の作成③ 4歳児			4歳児の保育内容を検討して指導案を作成する	
第11回 指導案の作成④ 5歳児			5歳児の保育内容を検討して指導案を作成する	
第12回 模擬保育① 3歳未満児、3歳児			模擬保育を実践し、そのふり返りを通して改善点を考える	
第13回 模擬保育② 4歳児、5歳児			模擬保育を実践し、そのふり返りを通して改善点を考える	
第14回 小学校教科とのつながり① 生活科との関連			生活科の学習指導要領を読む	
第15回 小学校教科とのつながり② 理科との関連			理科の学習指導要領を読む	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％ 基本的項目についての理解を問う			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ ①興味を持った事象のプレゼン 30％ ②指導案の提出 20％			
受講態度他	10％ 講義で提起した各種体験の課題などの遂行状況、意見発表など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	興味を持った事象については資料をプレゼンが必要となるので、丁寧に準備すること。 指導案は、そこで興味を持ったものから作成しても構わない。			
教科書	小田豊・湯川秀樹編 『保育内容 環境』 北大路書房(2009)			
指定図書	小泉英明・秋田喜代美・山田俊之『幼児期に育つ「科学する心」』 小学館(2007)			
参考図書	戸田拓夫 「おり紙ヒコーキ大集合BOOK」 いかだ社(2014)			
オフィスワー	木曜2限（原）	メールアドレス		

授 業 科 目	保育内容演習（環境）【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	平山 静男		単 位	2
授業の目的 と概要	保育内容「環境」のねらいと内容、内容の取扱いを説明することができるようになることを目的とする。あわせて、具体的に模擬保育を行うことができるようになることを目的とする。さらに、模擬保育後の協議を踏まえて模擬保育の改善案を作成することができるようになることを目的とする。 授業は、領域「環境」のねらい及び内容に関する理解、領域「環境」の各内容毎の模擬保育とその協議及びその過程を通しての各内容の理解深化、保育の改善案の作成から成る。			
到達目標	1， 領域「環境」に関する基礎知識を説明することができる。 2， 教材を研究し、指導計画をつくることができる。 3， 指導計画に従って模擬保育を行うことができる。 4， 模擬保育後の協議を踏まえて、保育の改善案を作成することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 この科目は、「初等生活科概論」「初等教科教育法（生活）」と関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション。「環境」とは、子どもを取り巻く環境の変化		復習（配付資料の振り返り）	
第2回	領域「環境」のねらい及び内容		グループ活動（模擬保育の準備）	
第3回	「自然とふれ合い感動する」の模擬保育とその協議		グループ活動（模擬保育の準備）	
第4回	「物事の法則性に気づく」の模擬保育とその協議		グループ活動（模擬保育の準備）	
第5回	「季節感を味わう」の模擬保育とその協議		グループ活動（模擬保育の準備）	
第6回	「自然を取り入れて遊ぶ」の模擬保育とその協議		グループ活動（模擬保育の準備）	
第7回	「生命の営みにふれる」の模擬保育とその協議		グループ活動（模擬保育の準備）	
第8回	「我が国や地域社会の文化や伝統に親しむ」の模擬保育とその協議		グループ活動（模擬保育の準備）	
第9回	「身のまわりの物に愛着をもつ」の模擬保育とその協議		グループ活動（模擬保育の準備）	
第10回	「科学を体感する」の模擬保育とその協議		グループ活動（模擬保育の準備）	
第11回	「数量・図形に親しむ」の模擬保育とその協議		グループ活動（模擬保育の準備）	
第12回	「標識や文字の必要感を育む」の模擬保育とその協議		グループ活動（模擬保育の準備）	
第13回	「身近な情報や施設を生かし、生活を豊かにする」の模擬保育とその協議		模擬保育とその協議の振り返り、レポート作成	
第14回	保育の改善案の作成		改善案の作成	
第15回	授業のまとめ		復習（改善案の見直し）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	40％。指導案、教材研究等に関するレポート、1回。返却は次時。			
小テスト等	なし。			
成果発表	40％。模擬保育の内容について評価する。			
受講態度他	20％。授業に臨む意欲や受講態度について、主として意見発表や質問などにより評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。 欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。			
教科書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館			
指定図書	なし。			
参考図書	授業内容に応じて適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日3限		メールアドレス	

授 業 科 目	保育内容演習（健康）【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	古田 瑞穂		単 位	2
授業の目的と概要	保育内容「健康」の目的は、乳幼児の健康な心と体を育て、乳幼児自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養うこととしていきます。 この授業では、健康・心・体・安全・生活などをキーワードとして、乳幼児の発育・発達・健康・生活習慣・運動に関する内容について学習し、指導法や指導技術を養うことを目的としています。 また、保育内容の「健康」に関する諸問題を通じて、子どもたちにどのような健康問題があり、それらに対してどのように取り組むのかを学び、子ども達の健康で安全な生活を確保していく能力を養います。			
到達目標	① 人間の発育・発達を理解し、説明することができる。 ② 子どもの健康を守るための生活習慣と安全管理を理解し、説明することができる。 ③ 運動遊びを理解し、年齢別の発達にあわせて適切な内容を選ぶことができる。 ④ 「健康」に関する内容について、その指導法を検討し、指導案を作成することができる。 ⑤ 子どもを取り巻く社会・環境について現状を把握し、問題解決に向けて考え、述べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初C（3）-②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C（3）-②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C（3）-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 「健康」とは		予習 教科書p.13-16	
第2回	生涯を通じた健康 子どもの健康		予習 教科書p.1-23 レポート課題「子どもの健康問題」	
第3回	発育発達① 人類の発生		予習 教科書p.26-34	
第4回	発育発達② 構造・機能		予習 教科書p.34-41	
第5回	運動機能の発達① 運動		予習 教科書p.41-48	
第6回	運動機能の発達② 運動能力		予習 教科書 p.48-52 レポート課題「子どもの運動」	
第7回	心・人間関係・社会性の発達		予習 教科書 p.53-64	
第8回	遊びの発達		予習 教科書 p.66-78	
第9回	子どもの生活習慣① 疾病から身を守る		予習 教科書 p.88-102	
第10回	子どもの生活習慣② 環境や事故から見を守る		予習 教科書p.120-130 レポート課題「子どもの生活習慣」	
第11回	安全管理と応急処置、保育者の健康		予習 教科書 p132-143 レポート課題「子どもの安全」	
第12回	保育計画と指導案の作成		予習 教科書 p.156-165	
第13回	体格・運動能力の測定と評価		予習 教科書 p.80-86 p.104-118	
第14回	健康に関する行事プログラム作成		予習 教科書 p.146-154	
第15回	まとめ		予習 教科書 1冊	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 4回のレポート課題実施。後日、授業時に返却します。			
小テスト等	50％授業中、毎回ワークシートに取り組みます。次の授業時に返却します。			
成果発表	なし			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業、他の受講生の妨げになるような行為はしないこと。			
教科書	民秋 言・槐丸武臣 編著『保育内容 健康』北大路書房（2014）			
指定図書	なし			
参考図書	図書に限らず健康に関する情報全般			
オフィスワー	火曜日昼休み、またはメールで相談してください。	メールアドレス		

授 業 科 目	保育内容演習（言葉）【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大元 千種・稲田 八穂		単 位	2
授業の目的 と概要	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の5領域うちの「言葉」について理解し、具体的に実践をイメージすることができるようにすることを目的とする。また、幼児の「言葉」の発達を理解し、集団保育の意義や保育者の役割、乳幼児の「言葉」の発達を促す様々な児童文化についても考察し、実践的力量を養う。 グループで課題に取り組み発表をするが、自己評価とともに発表者外からの他者評価を行う等、学生相互の学び合いを大切にしたい授業とする。			
到達目標	1. 「言葉」の意義について理解し、考察することができる。 2. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「言葉」について理解し、解説することができる。 3. 子どもの「言葉」の発達過程を理解し、系統立てて説明することができる。 4. 絵本、紙芝居などの教材を使った児童文化の指導についてについて解説することができる。 5. 児童文化財を用いた「言葉」の発達を促す指導計画を作成し、実践することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	初C（3）-②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C（3）-②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C（3）-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 関連科目：保育内容総論、保育内容演習（健康）、保育内容演習（人間関係）、保育内容演習（環境）、保育内容演習（表現）			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション、人間発達における言葉の意義		復習：自分の初語について家族にインタビューする。	
第 2 回	言葉の機能、言葉のはたらき		復習：言葉の機能、はたらきについて自分なりの考察をする。	
第 3 回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「言葉」について		予習：「幼稚園教育要領」,「保育所保育指針」を読む	
第 4 回	領域「言葉」の変遷		復習：領域「言葉」がどのように変遷してきたかをまとめる。	
第 5 回	乳児期の言葉の発達と保育		復習：乳児期の言葉の発達についてまとめる。	
第 6 回	幼児期の言葉の発達と保育		復習：幼児期の言葉の発達についてまとめる。	
第 7 回	学齢期の言葉の発達と教育		復習：乳児期から学齢期までの言葉の発達について考察する。	
第 8 回	「言葉」を育むための保育者のかかわり		復習：保育者の関わりについてまとめ、取り組みを考える	
第 9 回	指導計画における「言葉」と評価について		課題：児童文化財を用いた指導計画書を書く。模擬保育の練習をする。	
第10回	「言葉」を育てるあそびー児童文化財①「言葉あそび」（模擬保育）		予習：グループで発表準備 / 復習： ：振り返り（評価カード）	
第11回	「言葉」を育てるあそびー児童文化財②絵本（模擬保育）		予習：グループで発表準備 / 復習： ：振り返り（評価カード）	
第12回	「言葉」を育てるあそびー児童文化財③紙芝居（模擬保育）		予習：グループで発表準備 / 復習： ：振り返り（評価カード）	
第13回	「言葉」を育てるあそびー児童文化財④わらべうた（模擬保育）		予習：グループで発表準備 / 復習： ：振り返り（評価カード）	
第14回	「言葉」を育てるあそびー児童文化財④劇、お話作り（模擬保育）		予習：グループで発表準備 / 復習： ：振り返り（評価カード）	
第15回	まとめ		復習：授業全体をふりかえり、まとめる。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	3 0％（指導計画,「言葉」を育む保育者のかかわり：後日指示する）			
小テスト等	3 0％（領域「言葉」のねらいと内容、言葉の発達）			
成果発表	3 0％ 分担発表（言葉の発達に関わる児童文化の活動を意欲的に発表する。）			
受講態度他	2 0％（意欲的な学修態度：発言や模擬保育に対する評価カードの記載等）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	主体的な授業への参加と課題意識を持つ。 分担発表や課題発表は積極的に取り組む。			
教科書	稲田：『幼稚園教育要領解説』文部科学省（初等国語科概論で購入済み） 大元：近藤幹生・實川雅子・源 証香・小谷宣路・瀧口 優 『実践につなぐ ことばと保育』 ひとなる書房 2011年			
指定図書	今井和子 『子どもとことばの世界』 ミネルヴァ書房 1996年 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 <原本>』 チャイルド本社 2			
参考図書	今井和子・村田道子 『おひしゃまだっこしてきたの』 アリス館 1996年 上野さと子 『ビーだまのなかにうみがあるよ 子どものことば＝口頭詩』 草土文化 1998年			
オフィスワ	各教員の他の担当教科のシラバスを参照		メールアドレス	

授 業 科 目	保育内容演習（人間関係）【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	稲田 八穂・田中 ミサ		単 位	2
授業の目的と概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「人間関係」について理解し、子どもに育つことが期待される心情、意欲、態度などの育ちを援助する保育者の役割をつかむ。乳幼児期における人間関係の基本的な特色と集団の生活の重要性を捉えるとともに、障がい児や被虐待児などの事例を通して、特別に配慮の必要な子どもの理解とその対応策を習得できるようにする。また、高齢者や外国人等地域の人々との関係性を図る取り組みについても考える。			
到達目標	①幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「人間関係」について理解し、保育者の役割を具体的にイメージすることができる。 ②乳幼児期における人間関係の基本的な特色と集団の生活の重要性について説明することができる ③保育者として、日常場面で発生しうる人間関係にかかわる諸問題を把握し、分析した上での対応策を考えることができる。 ④障がい児や被虐待児など特別に配慮の必要な子どもの理解とその対応策を説明することができる。 ⑤高齢者や地域の人たちとの関係性を図る取り組みを具体的に説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	初C（3）-②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C（3）-②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C（3）-②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C（3）-②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション、現代社会における人間関係の重要性 子供を巡る人間関係の現状を把握し、「生きる力」の原点となることを知る。		復習 人間関係の大切さについて	
第2回	近代教育思想における個と集団の関係性 人と関わる力を養っていくために、個と集団を生かした指導のあり方を考える。		復習 個と集団の関係性についてまとめる	
第3回	幼稚園教育要領、保育所保育指針における「人間関係」のねらい 「ねらい」と「内容」および「内容の取り扱い」について理解する。		復習 「人間関係」が目指すものをまとめる 復習	
第4回	園生活における人間関係の育ち 0歳児の人との関わり 基本的信頼関係と愛着性の形成などから、親子関係の形成について学ぶ。		復習 0歳児の人との関わりと保育についてまとめる	
第5回	園生活における人間関係の育ち 1歳児の人との関わり 愛着理論や自立性、恥などの事例から、園生活における人との関わりについて考える。		復習 1歳児の人との関わりと保育についてまとめる	
第6回	園生活における人間関係の育ち 2歳児の人との関わり		復習 2歳児の人との関わりと保育についてまとめる	
第7回	園生活における人間関係の育ち 3歳児の人との関わり 積極性、身体的心理的自己への気付きという発達課題と人との関わりについて考える。		復習 3歳児の人との関わりと保育についてまとめる	
第8回	園生活における人間関係の育ち 4歳児の人との関わり 子供にとっての遊びの価値、遊びと発達について考える。		復習 4歳児の人との関わりと保育についてまとめる	
第9回	園生活における人間関係の育ち 5歳児の人との関わり イメージを共有してつながる姿、いざこざ、葛藤、仲直りを通して深まる人間関係につい		復習 5歳児の人との関わりと保育についてまとめる	
第10回	特別な配慮の必要な子どもと保育① 発達障害児への対応について 人間関係を作れない子供たちとどのように関わっていくかを考える。		復習 発達障害児への対応について	
第11回	「人間関係」を中心にした指導計画の作成及び模擬保育と評価 ① 未満児を対象に、遊びを通した人間関係の育成を考える。		予習 指導計画書の作成（未満児） 復習 模擬保育の振り返り	
第12回	「人間関係」を中心にした指導計画の作成及び模擬保育と評価 ② 年少児を対象に、遊びを通した人間関係の育成を考える。		予習 指導計画書の作成（年少児） 復習 模擬保育の振り返り	
第13回	「人間関係」を中心にした指導計画の作成及び模擬保育と評価 ③ 年中児を対象に、遊びを通した人間関係の育成を考える。		予習 指導計画書の作成（年中児） 復習 模擬保育の振り返り	
第14回	「人間関係」を中心にした指導計画の作成及び模擬保育と評価 ④ 年長児を対象に、遊びを通した人間関係の育成を考える。		予習 指導計画書の作成（年長児） 復習 模擬保育の振り返り	
第15回	まとめ 育ちを育む環境作り（保育者同士、保育者と保護者） 悩む保護者を支える保育現場にしていくための課題を考える		復習 保育者の人間関係づくりについて	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％			
小テスト等	－			
成果発表	30％ 指導計画書及び模擬保育			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業への積極的な取り組みを評価します。			
教科書	幼稚園教育要領、保育所保育指針（他の教科で購入）			
指定図書	なし			
参考図書	－			
オフィスワーク	各担当者の他のシラバスを参照		メールアドレス	

授 業 科 目	保育内容演習（表現）【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	今釜 亮・岡山 万里・田中 ミサ		単 位	2
授業の目的と概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針に沿って領域「表現」の目標や「ねらい」および「内容」について理解を促すことを目的とする。保育内容「表現」という領域を全体的な視野から捉える力を身につける。 幼稚園や保育所での子どもの生活の中で、子どもが表現することの意味や意義を具体的に理解し、保育現場での活かし方や工夫の仕方を身に付け、さらに子どもへの必要な支援について考察することを促す。 「表現」とは、子どもの豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることとして音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現、演劇表現などが含まれます。よって、音楽・図画工作・体育などの科目と関連しています。			
到達目標	①保育内容「表現」の目標について説明することができる。 ②保育内容「表現」の「ねらい」及び「内容」を具体的に述べることができる。 ③幼稚園や保育所で領域「表現」に関わる環境を準備することができる。 ④幼稚園や保育所で領域「表現」活動に関わる子どもへの必要な支援について予測を立てることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」とは 幼児期における領域「表現」のねらいを知り、学ぶ			要領を整理する	
第2回 コミュニケーションとしての表現 保育における表現の重要性を学ぶ			感想用紙の提出	
第3回 子どもの造形表現と発達 保育現場における「表現」の実際を知り、留意点を考察する			感想用紙の提出	
第4回 造形的な遊びの実際① 新聞紙を使った遊び 子どもの発達段階を考えながら保育実践の方法を学ぶ			作品の提出	
第5回 造形的な遊びの実際② 不織布を使った造形 子どもの発達段階を考えながら保育実践の方法を学ぶ			作品の提出	
第6回 子どもの音楽表現と発達 表現における子どもへの評価方法や価値を学ぶ			サウンドスケープの感想	
第7回 音楽的な遊びの実際 リトミック活動 子どもの発達段階を考えながら保育実践の方法を学ぶ			リトミックの感想	
第8回 表現における身体の動きの意味			演出を考える	
第9回 表現活動における台本の必要性和実践 五領域を横断的に捉え、小学校以降の科目との関連を考えながら表現の本質を知る			演目を考える	
第10回 表現活動における道具の実際や指導案 道具の活用や、実際の保育の際の指導案を考える			大道具小道具の作成リストを作る	
第11回 劇遊びの準備① 演目の設定や台本の作成 子どもの思考や動きを想定しながら、劇あそびの構想を練る			台本を作成する	
第12回 劇遊びの準備② 音楽の選択や大道具小道具の作成 子どもの思考や動きを想定しながら、表現に適した音楽や道具の準備を行う			大道具小道具を作成する	
第13回 劇遊びの準備③ 通し練習 劇あそびにおいて子どもたちが得るものを理解する			台本を覚える	
第14回 劇遊びの実践① 音楽劇の発表 実際に子どもたちが劇あそびをすることを想定し、模擬的に行う			音楽劇に取り組んだレポート	
第15回 劇遊びの実践② 他グループの発表の鑑賞 模擬的に鑑賞した劇あそびを振り返り、改善点を考察する			他グループ発表の感想を書く	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない			
レポート	40％ 音楽劇に関連するレポート（30％）や感想用紙（10％）			
小テスト等	実施しない			
成果発表	40％ 表現遊びの創造性（10％）、工夫（10％）、発表態度（10％）、作品の提出（10％）			
受講態度他	20％ 授業での積極的な取り組みを評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	未提出作品・レポート類がある場合は評価を出さないことがある。 課題作品・レポートの提出期限は守ること。			
教科書	『幼稚園教育要領』（文部科学省）、『保育所保育指針』（厚生労働省） 必要に応じてプリントを配布する。			
指定図書	ありません。			
参考図書	ありません。			
オフィスワー	授業前後、または各教員の他科目のシラバスを参照してください	メールアドレス		

授 業 科 目	保育内容総論【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	原 陽一郎		単 位	2
授業の目的と概要	本講義では、幼稚園教育要領、保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領の「保育目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連づけ、保育の全体的な構造を理解することが目的である。また、保育の基本は「生活」や「遊び」であることを、体験を通して認識し、深めていく。			
到達目標	①保育の全体構造と保育内容5領域との関係を説明できる。 ②幼稚園教育、保育所保育の歴史的変遷から、現在実施されている保育の多様性の理由と問題点を具体的に述べる。 ③「遊び」の重要性を説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 この科目は、保育内容演習の科目と関連する。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	幼稚園教育要領における保育内容のとらえ方		要領・指針の総則を読む	
第2回	保育所保育指針における保育内容のとらえ方		要領・指針の総則のポイントを理解する	
第3回	認定こども園教育・保育要領における保育内容のとらえ方③		要領・指針の第2章を読む	
第4回	子どもの認識や思考、動きを理解する① 鬼ごっこなど		遊びを通して鬼ごっこで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる	
第5回	子どもの認識や思考、動きを理解する② 伝承遊び		遊びを通して伝承遊びで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる	
第6回	子どもの認識や思考、動きを理解する③チャンバラ、コーン倒しなど攻撃的集団あそびの重要性について		攻撃性を合法的に発散する遊びで育つ認識、思考、動きを把握し、まとめる	
第7回	教材から生活力を育てる① 三つ編み縄跳びづくり		布の特性などを知ることなど教材から生活力を高める方法を考えてまとめる。	
第8回	教材から生活力を育てる② 雑巾縫い		生活の意識を高めるための教材としての活用法について考え、まとめる	
第9回	情報機器の活用法と課題		配付された資料を読み、情報機器の活用法と課題についてまとめる	
第10回	保育実践の動向① 3歳未満児		要領・指針の2017年改訂の内容についてまとめる	
第11回	保育実践の動向② 環境設定を重視した保育の留意点		どのような形態の保育があるのか、調べておくこと	
第12回	保育実践の動向③ 長時間保育		長時間保育について配付された資料を読む	
第13回	保育実践の動向④ 特別支援教育		特別支援教育について配付された資料を読む	
第14回	保育を評価する方法について		要領・指針の保育の評価の項目を読む	
第15回	小学校教科とのつながり		学習指導要領を読む	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 基本的事項について			
レポート	20％ 各講義内容についてのまとめ			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ 製作物の提出・課題の達成度			
受講態度他	10％ 意見発表などの受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	とくに、遊びや生活についての講義には積極的な態度で参加すること。			
教科書	大豆生田啓友、渡辺英則、柴崎正行、増田まゆみ編『保育内容総論 第2版』ミネルヴァ書房（2014）			
指定図書	なし			
参考図書	幼少年教育研究所『遊びの指導 乳・幼児編』同文書院（2009）			
オフィスワーク	木曜日2限目	メールアドレス		

授 業 科 目	法学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大谷 美咲		単 位	2
授業の目的と概要	私たちは、一人で生きていくことはできない、常に社会に所属し社会生活をおこなうのである。そして、人が社会生活をおこなう限り、様々なトラブルが生じ、様々なルールが必要になることになる。法律とは社会のルールの一つであり、社会生活をおこなう上で不可欠なものである。この授業では、現代社会で問題となっている法律問題を幅広く概観し、それぞれの分野の法的ルールを説明できるようになることを目的とする。			
到達目標	①毎回の講義では、中心となるテーマを挙げ説明するので、テーマに関する多様な意見を踏まえた上で、自分なりの考えを確立し説明できるようになること。 ②毎回の講義で説明する各々の領域についての法制度の基本をまとめ、説明できるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス この講義では、どういうことを扱い何を学ぶのでしょうか？ 法学の知識が必要なのはなぜ？			プリント、ノートの整理	
第2回 憲法の全体構造 憲法は何を守る法律なのか？ 憲法の目的と全体構造について知ろう。			特に憲法の全体構造を説明できるようにすること。	
第3回 人権論 特に、現代社会で問題となるプライバシー、個人情報保護などの新しい分野についての考察をおこなう。			プライバシー権の法的根拠と情報プライバシー権についてまとめる	
第4回 人権論 平等権について			平等とは何か？について多様な視点から説明できるようにすること	
第5回 犯罪と刑罰 刑罰の本質とは？ 死刑制度について			刑罰の本質を理解したうえで、死刑制度を論ずることができるようにする	
第6回 家庭生活と法 多様な家族観に伴う法の解釈について			非嫡出子相続分違憲判決について特に復習すること	
第7回 中間テスト			試験問題についてノート・プリントで確認すること。	
第8回 医療と法 生命倫理・尊厳死・安楽死をめぐる自己決定権について			各テーマについてそれぞれ自分の考えをまとめるようにすること	
第9回 医療と法 中絶は女性の自己決定権か？ 脳死臓器移植法の法的考察			各テーマについてそれぞれ自分の考えをまとめるようにすること	
第10回 職場と法 労働基本権、労働3法について(働く上での基本ルールについて)			時間外労働のルール、懲戒処分のルールについて説明できるようにしておく	
第11回 職場と法 労働組合法分野(不合理な扱いを受けたら、どうしたらいい?)			労働組合とは何か 組合活動, 争議活動にどんなものがあるか説明できるように	
第12回 教育と法 学校事故と損害賠償について			プリント、ノートの整理 不法行為、国家賠償、債務不履行の違いを考える	
第13回 行政と法 行政の仕事にはどのようなものがあるの？			プリント、ノートの整理をおこなうこと。	
第14回 政治と法 政治・行政腐敗の原因と対策は？			このテーマについて自分の言葉でまとめること	
第15回 全体の復習及び試験範囲の確定			試験勉強	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％（期末レポート）			
小テスト等	30％			
成果発表	なし			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プリントの整理、板書の整理を着実におこなって下さい。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業中にその都度提示します。			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	法律学(国際法を含む)【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	高木 佳世子		単 位	2
授業の目的 と概要	1.法とは何か、法の基礎知識を学び、私たちの生活と法律のかかわりについて考える。 2.「六法」といわれる法律と労働法、社会保障法について概要を理解する。 3.国際法について概観する。			
到達目標	1.憲法、行政法、民法、商法、刑法、訴訟法、労働法、社会保障法の趣旨目的について説明できる。 2.国際法で登場する専門用語のうち基礎的なものについて正しく説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福C (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 福C (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	社会において法が果たしている役割		配付資料を見直して復習する。	
第2回	私たちの生活に身近な法（１） ～婚姻・親子・戸籍・離婚を題材に～		配付資料を見直して復習する。	
第3回	私たちの生活に身近な法（２） ～交通事故を題材に～		配付資料を見直して復習する。	
第4回	私たちの生活に身近な法（３）～労働法制		配付資料を見直して復習する。	
第5回	社会保障法		配付資料を見直して復習する。	
第6回	消費者保護法制		配付資料を見直して復習する。	
第7回	民事裁判		配付資料を見直して復習する。	
第8回	刑法		配付資料を見直して復習する。	
第9回	刑事裁判		配付資料を見直して復習する。	
第10回	憲法		配付資料を見直して復習する。	
第11回	国際法（国際法はいつどこで生まれたか、国際法はどのような形で存在するか）		配付資料を見直して復習する。	
第12回	国際法（国際法と国内法の関係、国際法の主体、国際機構、国家の基本的権利義務と国家管轄権）		配付資料を見直して復習する。	
第13回	国際法（国家領域、海洋・空・宇宙空間等）		配付資料を見直して復習する。	
第14回	国際法（国際人権法）		配付資料を見直して復習する。	
第15回	国際法（戦争と国際法）		配付資料を見直して復習する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	あり（１００％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	０％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。			
教科書	なし（資料を配付します）			
指定図書	①谷口貴都・松原哲編著『基礎からわかる法学〔第２版〕』成文堂、②渡部茂己・喜多義人編『国際法〔第２版〕』弘文堂			
参考図書	講義の際に指示します。			
オフィスワー	水曜3限	メールアドレス		

授 業 科 目	法律学概論Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	高木 佳世子		単 位	2
授業の目的 と概要	1. 私たちの生活と法のかかわりについて知り、権利擁護の意義を学ぶ。 2. 憲法、民法の基礎知識を身に着ける。			
到達目標	1. 人権の意味と権利擁護の意義について理解する。 2. 憲法・民法の基礎的な知識を理解する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	権利擁護の意義／法学を学ぶ意味		第1章第1節を読む。配付資料を復習する。	
第2回	憲法（１）憲法と立憲主義／近代憲法の基本原理		第1章第2節1， 2を読む。配付資料を復習する。	
第3回	憲法（２）包括的基本権と法の下での平等		第1章第2節3， 5を読む。配付資料を復習する。	
第4回	憲法（３）憲法の私人間効力／公共の福祉／精神的自由権		第1章第2節3， 4， 6を読む。配付資料を復習する。	
第5回	憲法（４）外国人、未成年者、法人、在監者などの人権／経済的自由権		第1章第2節4， 5を読む。配付資料を復習する。	
第6回	憲法（５）社会権		第1章第2節4を読む。配付資料を復習する。	
第7回	憲法（６）統治機構		第1章第2節8を読む。配付資料を復習する。	
第8回	憲法（７）財政・地方自治		第1章第2節7， 9を読む。配付資料を復習する。	
第9回	権利擁護の意義と必要性		第1章第2節11を読む。配付資料を復習する。	
第10回	民法（１）民法の全体像		配付資料を復習する。	
第11回	民法（２）財産法①財産法の主体／契約の有効要件・成立要件		第1章第4節1を読む。配付資料を復習する。	
第12回	民法（３）財産法②契約の効果帰属要件・効力発生要件		第1章第4節2を読む。配付資料を復習する。	
第13回	民法（４）物権法		第1章第4節3を読む。配付資料を復習する。	
第14回	民法（５）債権法前半		第1章第4節3， 4を読む。配付資料を復習する。	
第15回	民法（６）債権法後半		第1章第4節6を読む。配付資料を復習する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。			
教科書	（編集）社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度（第4版）』中央法規			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	金曜4限	メールアドレス		

授 業 科 目	法律学概論Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	高木 佳世子		単 位	2
授業の目的 と概要	1.前期の法律学概論Ⅰに引き続き、民法の概要、そして行政法の概要を学ぶ。 2.成年後見制度と日常生活自立支援事業について詳しく学ぶ。 3.権利擁護活動の全体像について学ぶ。			
到達目標	1.成年後見制度や日常生活自立支援事業について詳細に説明できる。 2.行政法の基礎的な知識を理解できる。 3.権利擁護活動が社会の中でどのように行われているのかについて全体像を説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -②-2 福祉専門職に求められる知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 民法（7）親族法①親族の範囲、婚姻、親子			第1章第3節7（離婚以外）を読む。配付資料を復習する。	
第2回 民法（8）親族法②離婚、扶養			第1章第3節7の離婚と8扶養義務を読む。配付資料を復習する。	
第3回 民法（9）相続法①法定相続人、法定相続分、相続放棄			第1章第3節8遺産分割の前までを読む。	
第4回 民法（10）相続法②遺言、遺産分割			第1章第3節8遺産分割以降を読む。配付資料を復習する。	
第5回 成年後見制度（1）成年後見			第2章第1節を読む。配付資料を復習する。	
第6回 成年後見制度（2）保佐、補助			第2章第2節、第3節を読む。配付資料を復習する。	
第7回 成年後見制度（3）申立て			第2章第4節を読む。配付資料を復習する。	
第8回 成年後見制度利用支援事業			第4章を読む。配付資料を復習する。	
第9回 日常生活自立支援事業／成年後見と日常生活自立支援制度の映像視聴			第5章を読む。配付資料を復習する。感想文作成	
第10回 消費者保護法制（消費者契約法・特定商取引法）			第1章第3節5を読む。配付資料を復習する。	
第11回 行政法（1）行政法総論			第1章第3節1を読む。配付資料を復習する。	
第12回 行政法（2）行政活動			第1章第3節2を読む。配付資料を復習する。	
第13回 行政法（3）行政事件訴訟法			第1章第3節3を読む。配付資料を復習する。	
第14回 行政法（4）行政不服申立て／国家賠償法、行政手続法、情報公開制度			第1章第3節4～6を読む。配付資料を復習する。	
第15回 権利擁護、成年後見制度の動向と課題			第2章第7節を読む。配付資料を復習する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。			
教科書	（編集）社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度（第4版）』中央法規			
指定図書	なし			
参考図書	講義の際にお伝えします。			
オフィスアワー	水曜3限	メールアドレス		

授 業 科 目	ホスピタリティと経営戦略【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	古田 龍輔		単 位	2
授業の目的と概要	「ホスピタリティ」の源流的な意味は、対等な人間関係にもとづく協働です。よく訳語とされる「おもてなし」は、日本社会で一般的な強い上下関係にもとづく協働だと考えてください。上下関係にも良い面は多くありますが、私がこれまで観察してきた「良い会社」では例外なしに、創業者によって対等な人間関係が意図的に創りだされています。このことが社員のやる気と創意工夫を引き出し、会社全体の態勢（経営戦略）が無理のない成長に適した形になっています。この科目では、ホスピタリティと経営戦略の関連性について多くの業界での実例を通じて理解し、「良い会社」を見抜く眼力を養ってもらいます。			
到達目標	1 「ホスピタリティ」と「おもてなし」の根源的な違いを理解できること。 2 経営戦略の考え方を理解できるようになること。 3 「ホスピタリティ型の経営」を実践している会社やお店を識別し、訪問取材をすることでその経営実態を具体的に解明できること。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 キャリアデザイン基礎、ライフマネジメントⅠ・Ⅱなどの科目が関連しています。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回目 科目の概要説明			とくになし	
第2回目 日本人を長時間労働に駆り立てるものは？			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第3回目 ホスピタリティとおもてなしの違い			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第4回目 ホテル・ホスピタリティの日米比較			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第5回目 ホ女性にとって働きやすい会社とは？			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第6回目 ホスピタリティのプロフェッショナル			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第7回目 経営戦略の考え方1：会社も生き物という見方			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第8回目 経営戦略の考え方2：ビジネスモデルとの関連性			指定指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第9回目 営業と経営戦略			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第10回目 優れた経営戦略の構築			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第11回目 コンセプトと経営戦略			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第12回目 ホテル業界のホスピタリティ戦略			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第13回目 金融業界のホスピタリティ戦略			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第14回目 航空業界のホスピタリティ戦略			指定資料を読んで受講レポートを書き、授業前に紙で提出する。	
第15回目 個人またはグループプロジェクトの発表会（授業内期末試験）			取材した会社やお店についてプレゼンできる準備をしておく。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 指定資料を読んで提出する予習シートの評価点			
小テスト等	なし			
成果発表	40％ 個人またはグループ課題の評価点			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	無断欠席をしたら、受講を放棄したものと見なします。やむを得ず欠席する場合は、必ずメールなどで事前に連絡すること。ただし、連絡すれば欠席はいくらでも出来るというわけではありません。			
教科書	とくになし			
指定図書	とくになし			
参考図書	とくになし			
オフィスワーク	木曜日の2講目以降と金曜日の2講目に時間が取れます。	メールアドレス		

授 業 科 目	ボランティア・NPO論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大浦 浩平		単 位	2
授業の目的と概要	わが国におけるボランティア活動の領域は、保健、福祉、医療、教育、環境、まちづくり、国際協力など幅広い分野に及んでいます。 阪神・淡路大震災以降、市民のボランティア活動に対する関心や参加により民間レベルからの自主的な多様な取り組みが推進されてきました。さらに「特定非営利活動促進法（NPO法）」の施行後、ボランティア活動は拡大化・多様化の時代を迎えています 本講義では、「ボランティア活動の理論と実際」の学習を通して、ボランティア活動への理解・認識を高め、実践力の高い基礎的知識と技術を学んでいきます。また、講義や演習（体験学習、グループワーク）を通して、より実践的な知識と技術の習得をめざします。			
到達目標	①ボランティア・NPOの意義と役割を理解し説明できる。 ②ボランティア活動に必要な知識と技術を理解し活用できる。 ③参加したボランティア活動の「ふりかえり」ができる。 ④ボランティア・NPOに関する自分の「考え」や「思い」を人に伝えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 心C (3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 福C (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション		配布した資料による復習	
第 2回	ボランティア活動の歴史的変遷		配布した資料による復習	
第 3回	ボランティアの理念と定義		配布した資料による復習	
第 4回	ボランティア活動の対象と範囲		配布した資料による復習	
第 5回	NPOの理念と定義		配布した資料による復習	
第 6回	ボランティア活動の実際①「高齢者・障がい者・児童」		配布した資料による復習	
第 7回	ボランティア活動の実際②「災害」		配布した資料による復習	
第 8回	ボランティア活動の実際③「地域福祉」		配布した資料による復習	
第 9回	ボランティア活動にあたって①「体験学習」		配布した資料による復習	
第10回	ボランティア活動にあたって②「体験学習」		配布した資料による復習	
第11回	ボランティア活動にあたって③「体験学習」		配布した資料による復習	
第12回	ボランティアコーディネーション		配布した資料による復習	
第13回	グループワーク①		グループでのアイデアのまとめ	
第14回	グループワーク②		グループでの企画、発表準備	
第15回	総括、グループ発表		配布した資料による復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ ボランティア活動に参加、課題			
受講態度他	30％ 授業に対する意欲や受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ボランティア論が机上の空論にならないよう、ボランティア活動に積極的に参加し、実践的に学んでください。 日頃からボランティアやNPOの活動に関心を持ち、体験したボランティア活動については成果と課題を考察しておいてください。 学生のみなさんに主体的に参加していただく場面が多くあります。意欲を持って受講してください。			
教科書	使用しない 資料を配布			
指定図書	巡静一・早瀬昇編著『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』中央法規			
参考図書	藤田久美著『大学生のためのボランティア活動ハンドブック』ふくろう出版			
オフィスワーク	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	ボランティア論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	上村 真仁		単 位	2
授業の目的と概要	現代社会において「ボランティア」は、様々な領域で実施されており、社会問題の解決のためにはなくてはならない活動となっている。本講義では、ボランティアが生まれた社会的な背景を理解するとともに、ボランティア活動の特徴である「主体性」「公共性」「無償性（非営利性）」の理解、今日のボランティア活動の役割、課題の理解とボランティアマネジメントに関する現状の理解、および自分の住む地域や生活圏における身近なボランティア活動への気づきを主たる目的とする。			
到達目標	現代社会におけるボランティアの意義を説明することが出来る。 自分の価値観を明確に持ち、ボランティアに関するディスカッションを行なうことが出来る。 自己実現と社会貢献を両立するボランティア活動を構想することが出来る。 ボランティアの意義や社会的な役割について体験やグループでの議論を通じて自身の考えをまとめ授業で発表することが出来る。 。身近なボランティア活動への理解が促進され、実際にボランティア活動へ参加する機会を得ることが出来る。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ボランティア論について 授業の進め方、身近なボランティアについて考えよう		ボランティアの経験、イメージをまとめて来てください。	
第2回	ボランティア活動の理解		ボランティアの特徴にはどのようなものがあるか調べてきてください。	
第3回	NPOとは何か？		復習として太宰府市内で活動するNPOについて調べてきてください。	
第4回	行政とNPOの協働		ボランティア活動における行政の役割について考えてきてください。	
第5回	ボランティアの現場を知る その1（まほろば自然学校の活動）		自分がやってみたいボランティア活動について考えてきて下さい。	
第6回	市民活動における中間支援について		ボランティア活発にするために必要な支援について考えてきてください。	
第7回	市民活動に関わるには		復習として自分がやってみたいボランティアを調べてください。	
第8回	ボランティアの現場を知る その2（太宰府天満宮門前6町まちづくりの活動）		自然環境保全ボランティアについて調べてきてください。	
第9回	ボランティア活動を企画してみよう グループワークによる企画づくり（例：ボランティアガイド・		太宰府・大学を活動場所とするボランティアを考えてきてください。	
第10回	ボランティア活動の準備 現場での調査、調整（例：資源マップづくり=門前町調査）		第9回で議論した内容を具体的な提案としてまとめてきて下さい。	
第11回	ボランティア活動計画の策定（例：マップづくり）		計画の具体的化	
第12回	ボランティア活動の準備（例：ガイド方法の検討）		全体でのボランティア実施の準備を進めてください。	
第13回	ボランティアの実施 その1		グループで計画したボランティアを実施してください	
第14回	ボランティアの実施 その2		グループで計画したボランティアを実施してください	
第15回	ボランティア体験発表会とディスカッション		体験して、良かった点、悪かった点、自身自身の変化をまとめてください。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	30％ 授業の中で、テキストからの出題による小テストを実施する。			
成果発表	合計40％ グループでのボランティア企画書作成 20％、グループでのボランティア実施成果の発表 20％。			
受講態度他	30％ ボランティア計画の策定、準備、実施などへの参加の状況により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、自分たちでボランティア活動を企画してもらい受講者全員で協力して実現する実践型の授業とします。その体験を踏まえてレポートの作成をしてもらいます。積極的にグループでのディスカッションに参加しグループのメンバーに迷惑をかけないようにして下さい。また、全体でのボランティアの実施についても積極的に参加するようにして下さい。ボランティアの企画・実施を行いますので2年生に加えて、就活準備をしている3年生の受講も歓迎いたします。			
教科書	なし			
指定図書	早瀬昇・水谷綾・永井美佳・岡村こず恵 他 「テキスト市民活動論」 大阪ボランティア協会 早瀬昇、筒井のり子 「ボランティアコーディネーション力」 中央法規			
参考図書	金子郁容「ボランティアもうひとつの情報社会」 岩波新書、 西條剛央 「人を助けるすんごい仕組み」 ダイヤモンド社			
オフィスワー	月曜日2限、3限、4限、水曜日4限		メールアドレス	

授 業 科 目	ポピュラー文化演習【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	岡本 文子		単 位	2
授業の目的と概要	本演習では、私たちが日々接しているポピュラー文化の中から、ファッショントレンドを取り上げ学習します。ファッショントレンドはその時代の社会背景を反映するものです。ファッショントレンドにもさまざまなカテゴリーが存在しますが、本演習では3つのカテゴリーに注目し、そのデザインの特徴はもとより、社会的側面から多角的に分析することを通して、現代社会を文化から理解することを目的としています。 本演習では、グループワークにより3つのカテゴリー（ストリートファッション・ハイブランド・ファストファッション）のそれぞれについて、その特徴や社会背景について分析し、各グループ毎に発表を行います。発表後、発表内容についての議論を通して、現代社会におけるそれぞれのファッショントレンドの役割や意義、文化的意味について理解を深めます。			
到達目標	・ストリートファッションとは何か、例を挙げて説明できる。 ・ハイブランドファッションとは何か、例を挙げて説明できる。 ・ファストファッションとは何か、例を挙げて説明できる。 ・ファッショントレンドの3つのカテゴリーについて、その社会背景を理解した上で、現代社会における文化的意味について説明できる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション 今後の授業の進め方、グループ分け、カテゴリー選択			発表内容の枠組みと構想	
第2回 発表内容の枠組みと構想			発表内容の枠組みと構想（完成）	
第3回 発表スライド作成			発表スライド作成（完成）	
第4回 発表原稿作成、レジュメ作成、質問紙作成			発表原稿作成、レジュメ作成、質問紙作成（完成）	
第5回 発表準備			発表準備（完成）	
第6回 ストリートファッション① 渋カジ、浜カジ			毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第7回 ストリートファッション② パンク			毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第8回 ストリートファッション③ モッズ、ヒッピー			毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第9回 ハイブランドファッション① シャネル等			毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第10回 ハイブランドファッション② ルイ・ヴィトン等			毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第11回 ハイブランドファッション③ エルメス等			毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第12回 ファストファッション① ZARA等			毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第13回 ファストファッション② H&M等			毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第14回 ファストファッション③ GAP等			毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習	
第15回 まとめ			まとめの復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	50％			
成果発表	40％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	第6回～第15回について、毎回発表内容を確認するプリントを配布します。次回確認プリントの小テストを行います。復習をして臨んでください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	金曜日 12：00～13：00		メールアドレス	

授 業 科 目	ポピュラー文化と九州【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	太田 梢		単 位	2
授業の目的 と概要	本講義は「ポピュラー文化」と「九州」を大きなキーワードとして、主に現代文化の基本事項を各回のテーマにそってローカルな視点から理解していきます。 ただし、単純に九州内の文化検証に留まることなく、日本文化及び他／多文化との比較検討をすることによって、改めて九州におけるポピュラー文化を理解することを目的としています。 受講者は本講義を受けることにより、若者文化に対する基礎的な知識を習得すると同時に、他／多文化及び自文化理解も深めます。			
到達目標	1. ポピュラー文化について自身の考えを述べることができる。 2. 九州の文化について、その歴史的基礎から現代文化までの流れを説明できる。 3. 他／多文化と自文化の比較検討をおこなうことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 イン트로ダクション 授業の進め方、成績評価方法などの説明			授業で伝えます。	
第2回 ポピュラー文化とはなにか 現在主に社会学の中で言われる定義を歴史とともに概説する			予習・復習、前の授業で伝えます。	
第3回 映画と物語論 九州を舞台とした映画における地域性と普遍性を、映画の中に埋め込まれた物語の機能から考える			予習・復習、前の授業で伝えます。	
第4回 テレビドラマとオーディエンス オーディエンス理論をローカルテレビから考える			予習・復習、前の授業で伝えます。	
第5回 ポピュラーミュージック（1） J-POPの成立について欧米文化との比較とともに概説する			予習・復習、前の授業で伝えます。	
第6回 ポピュラーミュージック（2） 主に福岡の音楽事情について前回の内容もふまえて考える			予習・復習、前の授業で伝えます。	
第7回 アニメとオリエンタリズム 九州発祥のアニメにみえる「オリエンタリズム」について、解説する			予習・復習、前の授業で伝えます。	
第8回 マンガとアメリカ社会 日本のanimeとアメリカのアメコミの比較分析をおこなう			予習・復習、前の授業で伝えます。	
第9回 文学、フィクションとノンフィクション ケータイ小説、ライトノベルと日本の若者について概説する			予習・復習、前の授業で伝えます。	
第10回 メディアと公共性 SNS社会における文化のローカル性とグローバル性について解説する			予習・復習、前の授業で伝えます。	
第11回 ファッションと記号 主に福岡のファッション文化について、その特徴と歴史を比較文化的立場から考える			予習・復習、前の授業で伝えます。	
第12回 お笑い 文化による「笑い」の違いを検討する			予習・復習、前の授業で伝えます。	
第13回 観光と文化（1） 観光人類学の立場にたって「観光」と「文化」の関係を概説する			予習・復習、前の授業で伝えます。	
第14回 観光と文化（2） 九州における観光文化の事例を紹介する			予習・復習、前の授業で伝えます。	
第15回 総論 まとめ及び試験についての説明をおこなう			前の授業で伝えます。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％ 詳細は授業中に伝えます。			
レポート	なし			
小テスト等	40％ 各講義のはじめにアンケート形式で前回の内容と該当回のテーマに関する質問を受講者に行います。			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 積極的な自主性を重んじます。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日常的に新聞やメディア情報のチェックを行ってください。 授業とは関係のない私語、携帯電話の使用、及び大学生のマナーに反した行動をとる場合は受講を断る場合があります。 特別の理由がなく計5回以上欠席があった場合には、受講が無効となります。 また、理由がある場合には事前事後、必ず伝えて下さい。			
教科書	なし。オリジナルのプリントを配布します。			
指定図書	遠藤英樹『現代文化論 社会理論で読み解くポップカルチャー』ミネルヴァ書房2011			
参考図書	難波江和英・内田樹『現代思想のパフォーマンス』光文社2004 他 各回に参考図書を紹介します。			
オフィスアワー	mailもしくは授業後に事前アポイントをとってください。	メールアドレス		

授 業 科 目	ポピュラー文化論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	一木 順		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業は、私たちがふだん親しんでいるポピュラー文化を通して現代社会を学ぶための基礎知識を身につけることを目的とする。ポピュラー文化とは何か、ポピュラー文化の歴史、現代社会におけるポピュラー文化の意味、ポピュラー文化と抵抗をキーワードとし、スチュアート・ホール、アントニオ・グラムシ、ルイ・アルチュセールらの議論を参考としながら、ポピュラー文化を語るための視座を獲得することを目的とする。、			
到達目標	1．自分が親しんでいるポピュラー文化を社会的な視点から考えることができる 2．ポピュラー文化を考えるためのキータームを説明することができる 3．自分が選んだ題材をより深く理解するための情報収集ができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回：授業のイントロダクション			なし	
第2回：ポピュラー文化とは何か			指定された課題①を行うこと	
第3回：ポピュラー文化とは何か②			指定された資料を通読すること	
第4回：ポピュラー文化とは何か③			指定された資料を通読すること	
第5回：ポピュラー文化への歴史①			指定された課題を行うこと	
第6回：ポピュラー文化への歴史②			指定された資料を通読すること	
第7回：ポピュラー文化への歴史③			指定された課題を行うこと	
第8回：ポピュラー文化への歴史④			19世紀末の社会について調べること	
第9回：ポピュラー文化への歴史⑤			指定された資料を通読すること	
第10回：中間のまとめ			ここまでのキーワードを整理して持つてくること	
第11回：ポピュラー文化と社会①			指定された資料を通読すること	
第12回：ポピュラー文化と社会②			指定されたテーマについて各自調べること	
第13回：ポピュラー文化と社会③			指定された資料を通読すること	
第14回：ポピュラー文化と社会④			21世紀のプリンセスについて考えること	
第15回：まとめ			なし	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	40％（指定に従ってコンセプトマップを作成・提出すること）			
小テスト等	0％			
成果発表	20％（授業内でのグループプレゼンテーション）			
受講態度他	40％（授業前課題の提出度、出来を勘案する20%を含む）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業では授業外での学習成果、授業内でのグループ学習やディスカッションへの参加を特に重視する。毎回の授業のキーワードを記録するためのポストイットを各自準備すること			
教科書	適宜プリントを配布する			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスワー	月曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	マーケティング概論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大橋 健治		単 位	2
授業の目的と概要	企業の目的は顧客の創造である。この命題に真っ向から取り組むのがマーケティングの本質的な役割である。企業に就職する学生はもちろん、行政機関に就職する就職する学生も、この命題を強く認識しておく必要がある。本授業では、マーケティングの発想法と近年話題になったマーケティング手法の考え方を学ぶことを目的とする。 授業の目的を効果的に達成するために、TBL（Team-Based Learning）を導入する。TBLを成立させるためには、個々の学生が責任を持って授業外学修に取り組み→授業において真摯にチームで討議を行い→クラス全体で討議を行うとともに→教員からのメッセージを受け取り、気づきを内省するというプロセスが不可欠である。			
到達目標	1. マーケティングの発想法を、自らが知る事例を用いて説明することができる。 2. 教科書で取り上げたマーケティング手法を、自らが知る事例を用いて説明することができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業）		シラバスの内容の吟味と履修の意思決定	
第2回	第1章 ビジョンとミッション ～なぜ、何をしたいのか。		受講ノートの指示に沿った教科書第1章の 事前学修・事後学修	
第3回	第2章 現状分析 ～強み、弱み、チャンス、ピンチ、ライバルについて。		受講ノートの指示に沿った教科書第2章の 事前学修・事後学修	
第4回	チームビルディング演習		継続して受講予定の学生は必ずチームビル ディング演習に参加すること	
第5回	第3章 ターゲットオーディエンス ～向き合う相手はいったい「誰」なのか。		受講ノートの指示に沿った教科書第3章の 事前学修・事後学修	
第6回	第4章 ポジショニング ～どう差別化して、何に見られたいのか。		受講ノートの指示に沿った教科書第4章の 事前学修・事後学修	
第7回	第5章 4つのPのマーケティングミックス ～何を、どう、社会にもたらすのか。		受講ノートの指示に沿った教科書第5章の 事前学修・事後学修	
第8回	第6章 実施計画とマネジメント ～いつ、誰が、何を、いくらかけてやるのか。		受講ノートの指示に沿った教科書第6章の 事前学修・事後学修	
第9回	第7章 実行と評価 ～どう世界を幸せにしたのか。		受講ノートの指示に沿った教科書第7章の 事前学修・事後学修	
第10回	DVD「市場が企業を生かす」視聴とディスカッション		受講ノートの指示に沿った授業内容のまと めと事後学修	
第11回	DVD「需要を創る」視聴とディスカッション		受講ノートの指示に沿った授業内容のまと めと事後学修	
第12回	DVD「競争に勝つ」視聴とディスカッション		受講ノートの指示に沿った授業内容のまと めと事後学修	
第13回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション）と質疑応答		マイケースの整理とプレゼンテーションの 準備	
第14回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション）と質疑応答 受講ノートの提出		マイケースの整理とプレゼンテーションの 準備	
第15回	授業のまとめと振り返り 受講ノートの返却		過去14回の授業を振り返り、本授業を履修 した成果のまとめを作って参加する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 受講ノートの提出（最終ページをしっかりと記述のこと〔感想文型式〕）（受講ノートは最終回に返却します）			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ オーラル・プレゼンテーション（マイケースでマーケティング・マネジメントを語る）			
受講態度他	50％ TBLへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる 情報	授業の目的と概要で述べたように、本授業ではTBL（Team-Based Learning）を導入する。TBLを成立させる大前提は、個々の学生による自らとチームの仲間の学修への責任をもった授業外学修と、教員との相互確認（質疑応答）である。これを怠る学生は授業の場に入ることを拒否する。初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し、受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。			
教科書	『コトラーが教えてくれたこと 女子大生バンドが実践したマーケティング』（西内啓、福吉潤 著、ぱる出版、1,400円＋税） ※初回の授業時に本授業専用の受講ノートを配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	『マーケティング原理』フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング共著			
オフィスワー	水曜日の昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	マーケティングリサーチ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大橋 健治		単 位	2
授業の目的と概要	企業の目的は顧客の創造である。この命題に真っ向から取り組むのがマーケティングの本質的な役割である。企業に就職する学生はもちろん、行政機関に就職する学生も、この命題を強く認識しておく必要がある。本授業ではマーケティングリサーチの方法を学ぶことを目的とするが、学生個々人が理論を学んだ後に、商品開発の仮説を立案し、それを検証する為に市場分析を行い、具体的な商品開発提案を行う、といった実践を行う。つまり、理論と実践のキャッチボールを行うことによって効果的な学習を行う。 授業の目的を効果的に達成するために調べ学習（プレゼンテーションあり）を導入する。調べ学習を成立させるためには、個々の学生が責任を持って授業外学修に取り組み→授業において真摯プレゼンテーションを行い→クラス全体で積極的に質問を行い、気づきを内省するというプロセスが不可欠である。			
到達目標	1. マーケティングリサーチの方法を、自らが知る事例を用いて説明することができる。 2. マーケティングリサーチの手法を用いて、商品開発計画を立て、それをプレゼンテーションすることができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業）		シラバスの内容の吟味と履修の意思決定	
第2回	クラスビルディング演習		継続して受講予定の学生は必ずクラスビルディング演習に参加すること	
第3回	誰が・なぜ・今か ビデオ視聴と討論、質疑応答		プリント「誰が・なぜ・今か」を読み込んで概要を理解しておくこと	
第4回	誰が・なぜ・今か 調べ学習とプレゼンテーション		「誰が・なぜ・今か」の内容に沿って調べ学習を行う	
第5回	ユニークな仮説 ビデオ視聴と討論、質疑応答		プリント「ユニークな仮説」を読み込んで概要を理解しておくこと	
第6回	ユニークな仮説 調べ学習とプレゼンテーション		「ユニークな仮説」の内容に沿って調べ学習を行う	
第7回	リサーチの始まり ビデオ視聴と討論、質疑応答		プリント「リサーチの始まり」を読み込んで概要を理解しておくこと	
第8回	リサーチの始まり 調べ学習とプレゼンテーション		「リサーチの始まり」の内容に沿って調べ学習を行う	
第9回	JR二日市駅、西鉄太宰府駅、西鉄二日市駅周辺の市場視察と商品開発の仮説立案Ⅰ		プリントに記載されていることの振り返り	
第10回	JR二日市駅、西鉄太宰府駅、西鉄二日市駅周辺の市場視察と商品開発の仮説立案Ⅱ		プリントに記載されていることの振り返り	
第11回	商品開発計画の立案 プレゼンテーションの準備		商品開発提案書のひな型に基づいて自らのアイデアとデータを整備する	
第12回	商品開発提案のプレゼンテーションⅠ		持ち時間を想定したプレゼンテーションと質問への対応の準備	
第13回	商品開発提案のプレゼンテーションⅡ 続き		持ち時間を想定したプレゼンテーションと質問への対応の準備	
第14回	商品開発提案のプレゼンテーションⅢ 続き		持ち時間を想定したプレゼンテーションと質問への対応の準備	
第15回	授業の振り返り		本授業を履修した成果のまとめを作って参加する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 商品開発提案と題したレポートの提出			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ スライドを用いたプレゼンテーション			
受講態度他	50％ 調べ学習への貢献、クラス討議への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように、本授業では調べ学習を導入する。調べ学習を成立させる大前提は、個々の学生による責任をもった授業外学修と、教員との相互確認（質疑応答）である。これを怠る学生は授業の場に入ることを認めない（欠席扱いとする）。初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し、受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。			
教科書	プリントを配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	マイノリティを生きる【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	酒井 均・宇治 和貴・五十嵐 ゆり		単 位	2
授業の目的 と概要	現在社会のなかで「マイノリティ」と呼ばれる人々がいる。これらの人々は「マイノリティ」ゆえの様々な苦労を強いられている。また、同時に苦しみだけではなく喜びも感じている。これらの人々を正しく理解しともに生きていく同朋としての認識を育てることを目的とする。 ここでは特に「マイノリティ」と呼ばれる人々の話や関係者の話、家族の話聞き、自分自身と関連付けながら考察を深めていく。			
到達目標	マイノリティーについて正しく理解し説明することができる。 自分自身と関係付けて、その人々を同朋と考えていくことができる。 マイノリティーの人々の現在置かれている社会的な立場を理解できる。 無意識のうちに差別構造を支えている、自分の存在西にくづくことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	マイノリティとは		感想レポート	
第2回	マイノリティーとは ダイバーシティについて		レポート	
第3回	障害について（1） 障害とは		レポート	
第4回	障害について（2） 発達障害		レポート	
第5回	ダイバーシティという考え方について		レポート	
第6回	当事者の話（1）肢体不自由の方		レポート	
第7回	当事者の話（2）弱視の方		レポート	
第8回	当事者の話（3）発達障害の子どもを持つ親を支援するNPOの方		レポート	
第9回	当事者の話（4）LGBTについて、セクシュアルマイノリティ当事者の方		レポート	
第10回	当事者の話（5）トランス男性として生きる先輩		レポート	
第11回	支援者の話（1）弱者支援の弁護士さん		レポート	
第12回	支援者の話（2）こうのとりのゆりかごに携わっておられた看護師さん		レポート	
第13回	支援者の話（1）ホームレス救済活動をされている牧師さん		レポート	
第14回	関係者の話（2）障がい者支援の活動をされている方		レポート	
第15回	まとめ		レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ テーマについては講義中にお知らせします			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	当事者や関係者のお話を聞くことが多くなるとは思いますが、ここでのお話は他では話さないでください（守秘義務）。 また3人で担当しますが外部から話していただける方との関係でシラバス通りに進まないことが予想されます。 講義に来てくださる当事者の方の都合で、予定が変更になることもあります。ご了承ください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワ ーク	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授 業 科 目	マスコミュニケーション論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	山口 一雄・永渕 秀昭・松田 幸三		単 位	2
授業の目的 と概要	マスコミュニケーション全般に好奇心を持って接し、理解を深める。新聞、放送、出版、映画などに加えてインターネットの普及が加速している。メディアの歴史を知り、未来を予測する中で、自身の立ち位置を考える。情報の体得方法や、メディア・リテラシー＝活用術は、社会を生き抜く力、適応力、そしてコミュニケーション能力を磨く。 元RKBの山口は営業や編成、スポーツ中継プロデューサーの経験から、ラジオやテレビの問題点などを指導する。毎日新聞編集委員の松田は社会部記者として福岡、北九州、山口、長崎など一線で長く活動、新聞報道の課題について講じる。番組制作を多く手手掛けてきた元RKBの永渕は、番組の作り 方や著作権の問題などを通してメディアリテラシーについて考える。			
到達目標	メディア・リテラシーは、情報の選択に始まる。溢れる情報から、何を選ぶか、その眼を養う。メディアの動きを学び、メディア活用力の向上を目指す。専門講師の授業で、ニュース取材、編集、紙面化、番組化、放送までを理解することで、マスコミへの関心も深める。マスコミが持つ社会への影響力、世論形成についても考える。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	「マスコミュニケーション発達の歴史」(山口)		マスコミ全般についての考察	
第2回	「ラジオとテレビの特性と相違点」(山口)		番組視聴	
第3回	「SNSを考える・不寛容社会とは」(山口)		番組視聴	
第4回	「聴取率と視聴率」(山口)		番組視聴	
第5回	「広告代理店と放送局の関係」(山口)		CM視聴	
第6回	「事件報道と新聞の責任」(松田)		新聞読解	
第7回	「匿名と実名報道」(松田)		新聞読解	
第8回	「写真の威力と課題」(松田)		新聞読解	
第9回	「新聞の平和報道 8月ジャーナリズムからの脱却」(松田)		新聞読解	
第10回	「権力とメディアの距離」(松田)		新聞読解	
第11回	「ラジオ番組の作り方 ①生ワイド番組」(永渕)		番組視聴	
第12回	「ラジオ番組の作り方 ②ドキュメンタリー・ドラマ」(永渕)		番組視聴	
第13回	「テレビ番組の作り方 生ワイド・ドキュメンタリー・ドラマ」(永渕)		番組視聴	
第14回	「作品を守る著作権とは」(永渕)		具体例の研究	
第15回	「社会人としての常識 言葉とジャーナリズム」(永渕)		マスコミ全般の総括	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	%			
小テスト等	%			
成果発表	50%			
受講態度他	%			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	新聞を読む、ニュースを見聞きする、マスコミに対する感度を高める。世の中の動きに敏感になる。大きなニュースの内容や課題について、意見交換する。			
教科書	レジュメ配布			
指定図書	なし			
参考図書	池上彰『ニュースを読む技術』ビジネス社(2010年) 亘英太郎『ジャーナリズム「現」論』世界思想社(2004年)、必要に応じて適宜紹介			
オフィスワー	講義の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	マスメディアの表現【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	山口 一雄・永渕 秀昭・松田 幸三		単 位	2
授業の目的 と概要	メディアの表現を学び、情報を理解、租借する能力を高める。情報を選択する能力を身に付ける為に、メディアが持つ社会への影響力について考える。情報の受け手としてだけでなく、表現方法を学び、情報発信を体験することで、マスメディアの可能性や問題点を知る。 元RKBの山口は営業や編成、スポーツ中継プロデューサーの経験から、ラジオやテレビの問題点などを指導する。毎日新聞編集委員の松田は社会部記者として福岡、北九州、山口、長崎など一線で長く活動、新聞報道の課題について講じる。番組制作を多く手掛けてきた元RKBの永渕は、番組の作り方や著作権の問題などを通してメディアリテラシーについて考える。			
到達目標	マスメディアの情報発信を体験することで、メディア・リテラシーの向上を目指す。記事を書き、番組構成を考え、コマーシャルを研究することから、メディアの課題も見えてくる。こうした体験から表現力を磨き、受け手としての眼力を養う。メディアに対する積極的な姿勢も身に付ける。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	「メディアの表現全般について・テレビコマーシャルの歴史」(山口)		マスメディア全般の考察とTV-CM視聴	
第2回	「ラジオコマーシャルを作る」(山口)		CM作成	
第3回	「スポーツ中継の問題点」(山口)		番組視聴	
第4回	「ラジオドラマを演じてみる」(山口)		発声体験	
第5回	「番組作りの応用で結婚披露宴での友人挨拶文を作る」(山口)		文書作成	
第6回	「表現の自由とは 過去と現在 世界と日本」(松田)		新聞読解	
第7回	「新聞投書欄の充実 投書を書いてみる」(松田)		新聞読解	
第8回	「通報者保護の重要性」(松田)		新聞読解	
第9回	「紙面とデジタル化」(松田)		新聞読解	
第10回	「スクープと必要とされる報道」(松田)		新聞読解	
第11回	「ラジオレポーター&パーソナリティーの育て方」(永渕)		番組視聴	
第12回	「ラジオ番組の作り方～企画書作成と実演～」(永渕)		番組視聴	
第13回	「映画から学ぶ社会・人生」(永渕)		映像視聴	
第14回	「視聴者・消費者を守る法律とは？」(永渕)		番組視聴	
第15回	「番組から社会問題を考える～賢い社会人になる為に～」(永渕)		マスメディアの総括	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	%			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	50%			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	メディアの情報発信者として、情報の作成体験を重要な目標とする。作成に当たって、情報収集を通じて、メディアに近づく。新聞購読の大切さを含めてメディア接触の必要性和逆に危険性も理解する。			
教科書	レジュメ配布			
指定図書	なし			
参考図書	ウォルター・リップマン『幻の公衆』柏書房(2007年) 原寿雄『ジャーナリズムの可能性』岩波新書(2009年)、必要に応じて適宜紹介			
オフィスワ ーク	講義の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	マンガ・アニメ論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小山 昌宏		単 位	2
授業の目的と概要	1. この授業は、アニメーションの発明から、日本で独自に発展した「アニメ」の原理、歴史、文化現象について学ぶ。 2. 第1回～2回にて、アニメーションの発明、その原理、発展の歴史について学び、第3～5回にて、戦後日本のアニメーションの両軸である「虫プロ」と「東映動画」の歴史、手塚治虫と宮崎駿に焦点をあて、第6～13回にて、アニメメディアの特性を課題別に検証することでアニメに関する基礎知識を身に着け、最後に第14～15回にて、メディアミックスの成功事例としての「うた☆プリ」と「デジタルアニメ」の可能性について理解することを目的とする。 3. 具体的には、講義前の教科書による予習、講義を受けた後のデジタル「資料」による復習、リアクションペーパーまとめによる復習（振り返り）を踏まえ、立体的に講義内容を理解することを目的とする。			
到達目標	1. アニメーションの原理、その発展から日本のアニメーションへの変遷について説明することができる。 2. アニメメディア、アニメ文化の概要について、説明することができる。 3. アニメ文化が有する諸問題点を発見し、それについて掘り下げ、考えることができ、その内容について報告ができる。 4. 期末レポートにいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、自分独自の「アニメ観」を形成することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	漫画と動画	ーマンガとアニメーション 2つのメディアの共通性と相違性	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第2回	マンガとアニメ	ー1950年以前の日本アニメーション史 「なまくら刀」から「トラちゃんのカンカン虫」まで	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第3回	手塚治虫とアニメーション	ー「虫プロのアニメ」化と実験アニメーション	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第4回	東映動画とアニメ	ー高畑勲「太陽の王子ホルスの大冒険」にみる「東洋のディズニー」の完成	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第5回	宮崎駿のアニメーション	ー 「かわいい」と「自然」の妙味が織りなす高揚感	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第6回	映像論	ーアニメの映像機能を読む ～「細田守」から「吉浦康裕」作品まで ※	教科書を予習する（第2章：映像論）	
第7回	アニメ史論	ー撮影技術、演出、アニメ雑誌の影響について ※	教科書を予習する（第5章：ヒストリー研究）	
第8回	ジェンダー論	ーアニメ・キャラクターの性の多様性 「白雪姫」から「草薙素子」へ ※	教科書を予習する（第3章：ジェンダー研究）	
第9回	音声論	ー「音声」「音楽」「効果音」の役割について 「蒸気船ウィリー」から「頭文字D」まで ※	教科書を予習する（第4章：サウンド／ヴォイス研究）	
第10回	文学批評理論	ー批評視点からアニメを読む 「うる星やつら」から「輪るピングドラム」まで ※	教科書を予習する（第1章：文学理論研究）	
第11回	コンテンツ論	ー劇場アニメ、早朝・昼間アニメ、深夜アニメのプロデュース方法について @※	教科書を予習する（第8章：コンテンツ研究）	
第12回	美学・芸術論	ー美と汎美の差異について グリモ、新海誠から「まどか☆マギカ」へ ※	教科書を予習する（第7章：アート研究）	
第13回	視聴覚情報論	ー映像情報はどのように伝わるのか ～「となりのトトロ」を題材にして ※	教科書を予習する（第9章：オーディオ・ビジュアル研究）	
第14回	アニメ創造・制作論	ー「うたの☆プリンスさまっ♪」の魅力を探る	配布レジュメ、デジタルプリント（筑女ネット）による復習	
第15回	アニメ創出過程論	ーセルアニメからデジタルアニメ、2D、3Dアニメーションへの進化	レポート作成準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70％（期末レポート） 30％（出席シート：リアクションペーパーの内容）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 教科書を使用します。事前学習し授業にのぞむことを推奨します 2. この授業では、毎回、リアクションペーパー内容をまとめ、要点整理の上、次回授業のはじめに振り返り紹介いたします（復習） 3. 第1～5、14～15回はレジュメを配布します。第6～13回は教科書を使用します（※表示） 4. 第6～13回の授業資料はPDFを筑女ネットにあげますので復習にやくだてることができます			
教科書	小山昌宏・須川亜紀子編『増補改訂版 アニメ研究入門』 現代書館			
指定図書	なし			
参考図書	津堅信之『日本アニメーションの力ー85年の歴史を貫く2つの軸』NTT出版／高橋光輝・津堅信之編『アニメ学』 NTT出版			
オフィスアワー	水曜日 4 限目（14:50～16:20）・金曜日 3 限目（13:10～14:40)	メールアドレス		

授 業 科 目	南アジア近現代史【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	喜多村 百合		単 位	2
授業の目的と概要	今世紀最後の大国と呼ばれ、空前の経済発展をするインド。現在のインド社会を理解するには、南アジアの歴史、特に近現代期を踏まえることが必須である。ムガル帝国支配の洗礼を受け、その後のイギリスの植民地統治を通し受容した「近代」が、フラット化したグローバル世界で頭角を現すインド世界の歴史的裏づけに他ならない。また現在社会問題化する宗教対立、カーストやジェンダー問題は、この時期に再編・固定化された「創られた伝統」から生じているとさえ言われる。多元的なインド世界の諸特徴を、歴史過程を通して理解することが、この授業のねらいである。			
到達目標	①イギリスのインド植民地統治の流れと特徴を説明できる。 ②植民地支配期に「創られた」ヒンドゥー教と宗派対立、ジェンダーやカースト問題の歴史的背景を説明できる。 ③ガンディーの非暴力・不服従運動の特徴と現代的意義を説明できる。 ④その他現代インド社会・文化の緒特徴について、歴史的背景から説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 導入：豊富化し変化する「過去」へのまなざし			教科書1章 指定図書①	
第 2回 前近代の南アジア世界：古代、中世、近世			教科書2～4章	
第 3回 近代Ⅰ：ヨーロッパ勢力の進出とムガル帝国の盛衰			教科書5章前半	
第 4回 近代Ⅱ：イギリスの介入と地方勢力の台頭			教科書5章後半	
第 5回 近代Ⅲ：イギリス植民地統治開始と政治経済変化			教科書6章前半	
第 6回 近代Ⅳ： イギリス植民地統治と社会変化―植民都市コルカタ			教科書6章前半 指定図書②	
第 7回 近代Ⅴ： イギリス植民地統治の社会変化―創られるカースト			教科書6章後半	
第 8回 近代Ⅵ： イギリス植民地統治と社会変化―ジェンダー			中間レポート	
第 9回 現代Ⅰ： 第一次独立戦争―大反乱			教科書6章後半	
第10回 現代Ⅱ：民族独立運動①国民会議派の請願運動			教科書7章前半	
第11回 現代Ⅲ：民族独立運動②M.K. ガンディーの非暴力・不服従運動			教科書7章後半 指定図書③	
第12回 現代Ⅳ：インド・パキスタン分離独立―民主主義体制の試練			教科書8章	
第13回 現代Ⅴ：国民国家形成―国民会議派一党優位体制			教科書9、10章	
第14回 現代Ⅵ：経済発展と国民統合―ヒンドゥー・ナショナリズム			教科書11章	
第15回 総括			期末レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	―			
レポート	80％（期末レポート60%、中間レポート20%）			
小テスト等	―			
成果発表	―			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日ごろからインドを中心に南アジアについての報道、情報に注意し、その歴史的背景を調べ知識を豊富にすることを期待する。			
教科書	内藤雅雄他『南アジアの歴史―複合的社会の歴史と文化』（有斐閣アルマ）			
指定図書	①辛島昇『南アジア史』山川出版社、②本田毅彦『インド植民地官僚』講談社、③B.R.ナンダ『ガンディー：インド独立への道』第三文明社			
参考図書	栗屋利江『イギリス支配とインド社会』、山川出版社 小名康之『ムガル帝国時代のインド社会』山川出版社			
オフィスアワー	月3、水4	メールアドレス		

授 業 科 目	南アジア入門【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	喜多村 百合		単 位	2
授業の目的 と概要	多様なあり方をする南アジア世界を学ぶ入門編です。前半では、イギリス植民地支配の後に独立した南アジア7カ国地域について、基礎的なデータを学びます。中盤では、インド共和国について歴史・風土・文化・社会について多面的に考察します。同時に経済発展とグローバル化で頭角をあらわす、現代インド社会の可能性や課題について把握を試みます。さらに終盤では、多元的な南アジア世界におけるブロック化の試みであるSAARC（南アジア地域協力連合）の取組みを検討します。			
到達目標	① 南アジアを構成する7カ国地域について基本的な特徴を述べることができる。 ② インド共和国について、地歴や基層文化・社会構造に加え、現代社会が示す可能性・課題について概略的に説明することができる。 ③ 南アジア地域協力連合の取り組みについての基本を述べることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 導入：地域研究と文化理解という営み			配布資料、教科書1章	
第 2回 南アジア地域概論(1)：構成7カ国の基礎データ①インド・パキスタン・バングラデシュ			プリント復習	
第 3回 南アジア地域概論(2)：構成7カ国の基礎データ②ネパール、ブータン、スリランカ、モルディブ			プリント復習	
第 4回 インドの地歴／文化／社会(1)：歴史・地理（映像）			配布プリント	
第 5回 インドの地歴／文化／社会(2)：基礎データ			配布プリント	
第 6回 インドの地歴／文化／社会(3)：宗教			配布プリント	
第 7回 インドの地歴／文化／社会(4)：社会構造			配布プリント	
第 8回 インドの地歴／文化／社会(5)：女性・ジェンダー・マイノリティ			教科書2章	
第 9回 インドの地歴／文化／社会(6)：政治―世界最大の民主主義国			レポート作成	
第10回 インドの地歴／文化／社会(7)：経済―今世紀最後の経済大国			プリント復習	
第11回 インドの地歴／文化／社会(8)：都市中間層の暮らし			配布資料	
第12回 インドの地歴／文化／社会(9)：現代大衆文化「インド映画」			指定図書②7章	
第13回 インドの地歴／文化／社会(10)：グローバル化の中のインド			プリント復習	
第14回 SAARC南アジア地域協力連合一連携の模索			プリント復習	
第15回 まとめ			期末レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート60%、中間レポート20%			
小テスト等	―			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日ごろから南アジア、特にインドに関しての時事報道や番組、情報に気をつけておくこと。			
教科書	栗屋利江『イギリス支配とインド社会』山川出版			
指定図書	①広瀬崇子他『現代インドを知るための60章』明石書店 ②ラージクマール・ヒラニ『きつとうまくいく』(DVD)			
参考図書	①辛島昇他『南アジアを知る事典』平凡社 ②金基淑他『カーストから現代インドを知るための30章』明石書店 ③佐藤宏他編『もっと知りたいインドⅠ・Ⅱ』			
オフィスワー	火3、木4		メールアドレス	

授 業 科 目	民俗学Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	森田 真也		単 位	2
授業の目的と概要	講義の目的は、日常生活の一コマから、自分たちの文化や社会の基層、そして伝統性と現代性、地域性を考えてもらうことである。民俗学は、現在の人々の日常生活から、環境、歴史性を含んだ私たち自身の思考や実践をとらえていく試みである。それは、今を生きる私たち自身の事を、さらには日本社会の今の在り方を、さまざま課題や問題を踏まえて考えてみるということである。民俗学の対象とする「民俗」とは、歴史学が扱う事件、大きな政治や経済の流れとは違い、民間の人々が先祖より伝承してきた、生活の様式、技術、知識、習慣、思考の全体をさすものである。この講義では、最初に民俗学の考え方、特徴、成立過程を解説する。そして、「現代社会と民俗学」を主なキーワードとして、近現代の女性の生き方、社会的位置づけ、学校の怪談や都市伝説等の口承の文化、さらには精神文化を通して、現代社会を生きる人々の「心」の問題を考察していく。			
到達目標	・自己の文化と向きあいながら、私たちの日常生活を再認識する視点を獲得出来る。 ・日本文化の伝統性と現代的展開について理解出来る。 ・自分たちの現代社会にある課題について、現場の人々の生活の在り方に則した視点で考察出来るようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 主に「民俗学Ⅱ」、「日本文化研究入門」と関連します。また、「日本文化演習Ⅰ」、「日本文化演習Ⅱ」とも関係します。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回：	民俗学を学ぶにあたって		授業の目的と内容について理解する	
第 2 回：	民俗学の考え方		民俗学の考え方について理解する（資料の通読）	
第 3 回：	民俗学の特徴		民俗学の特徴について理解する（資料の通読）	
第 4 回：	民俗学の成り立ち－柳田国男と民俗学の成立－		民俗学の学史について理解する（資料の通読）	
第 5 回：	民俗学の性格－民俗学と隣接諸学の関係－		民俗学と隣接諸学の関係について理解する（資料の通読）	
第 6 回：	女性の生活誌（１）－近代から現代の女性の生き方－		近代から現代の女性の生き方について考える（資料の通読）	
第 7 回：	女性の生活誌（２）－女性差別とケガレ・霊力－		女性の差別と優位性について考える（資料の通読）	
第 8 回：	女性の生活誌（３）－ファッションとジェンダー－		女性のファッションとジェンダー意識について考える（資料の通読）	
第 9 回：	口承の文化（１）－学校の怪談と昔話－		口承の文化の意味について考える（資料の通読）	
第10回：	口承の文化（２）－学校の怪談と幽霊－		口承の文化の意味について考える（資料の通読）	
第11回：	口承の文化（３）－都市伝説と現代社会－		口承の文化の意味について考える（資料の通読）	
第12回：	口承の文化（４）－癒し、占い、新宗教、精神世界－		口承の文化の意味について考える（資料の通読）	
第13回：	民俗学とマスメディア－水木しげると「ゲゲゲの鬼太郎」－		民俗学とマスメディアの関わりについて考える（資料の通読）	
第14回：	日本の祭りの現在		祭礼の現状と可能性について考える（資料の通読）	
第15回：	まとめ		授業全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	8 0％ 期末テスト（自筆ノート、配布プリント持込可、論述形式）。			
レポート	無し。			
小テスト等	無し。			
成果発表	無し。			
受講態度他	2 0％ 受講態度。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。			
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。			
指定図書	無し。			
参考図書	佐野賢治他編『現代民俗学入門』吉川弘文館（１９９６年）。 小松和彦・関一敏編『新しい民俗学へ』せりか書房（２００２年）。			
オフィスアワー	木曜日昼休み（12:30-13:00）		メールアドレス	

授 業 科 目	民俗学Ⅱ【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	森田 真也		単 位	2
授業の目的と概要	講義の目的は、民俗学の立場から、旅や観光の文化を考え、さらには近代以降、日本社会が直面してきた課題、現在の都市的生活者や地域社会が抱えもつ課題を、生活者の立場からとらえていくことにある。そのためこの講義では、主に観光と地域振興を題材に、人々の日常生活における実践や思考を捉えていく。そして、環境、歴史性を含んだ私たち自身の思考や文化、社会を読み解いていく。 この講義では、最初に日本人の旅の習俗、近代マスツーリズム（大衆観光）の成立について概観する。そして、地域社会と観光の関わり、観光によって破壊されるもの、観光によって創られるものについて、日本、沖縄等のいくつかの地域の事例を取り上げながら解説していく。また、あわせてハワイや台湾、バリ等、海外各地の観光の事例を参照し、日本の文化政策や世界遺産の批判的検討、村おこし・町づくりといった地域振興との関係等も考察していく。			
到達目標	・観光による地域振興、文化政策を批判的に検証する視点を獲得出来る。 ・観光を通して、近代以降の日本社会の変化について理解出来る。 ・自分たちの現代社会にある課題について、現場の人々の生活の在り方に則した視点で考察出来るようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 日本の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。 主に「民俗学Ⅰ」、「日本文化研究入門」と関連します。また、「日本文化演習Ⅰ」、「日本文化演習Ⅱ」とも関係します。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回：	民俗学の考え方		授業の目的と内容について理解する	
第 2 回：	民俗学の視点による観光研究の意義		民俗学の特徴と観光研究の意義を理解する（資料の通読）	
第 3 回：	近世の旅と近代マスツーリズムの成立		日本の観光の概要について理解する（資料の通読）	
第 4 回：	沖縄の観光化		沖縄の観光化の経緯と現状について考える（資料の通読）	
第 5 回：	観光と地域社会（１）－竹富島の町並み保存運動と観光化－		観光と地域社会の関係を具体的事例から考える（資料の通読）	
第 6 回：	観光と地域社会（２）－竹富島の種子取祭と観光客－		観光と地域社会の関係を具体的事例から考える（資料の通読）	
第 7 回：	地域振興策と観光の関わり		地域振興と文化政策の課題について考える（資料の通読）	
第 8 回：	世界遺産と文化政策の批判的検討		地域振興と文化政策の課題について考える（資料の通読）	
第 9 回：	都市的生活者とふるさとをテーマにした観光		観光から地方と都市の関係を考える（資料の通読）	
第10回：	観光地ハワイの成立と民族観光		民族観光のプラスとマイナスについて考える（資料の通読）	
第11回：	ハワイ観光から生まれたフラ		観光と伝統文化の創造について考える（資料の通読）	
第12回：	台湾の「原住民」観光と民族意識		民族観光のプラスとマイナスについて考える（資料の通読）	
第13回：	インドネシア・バリの観光と伝統の創造		観光と伝統文化の創造について考える（資料の通読）	
第14回：	九州の温泉と地域振興		温泉と観光の関わりについて考える（資料の通読）	
第15回：	まとめ		授業全体の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	8 0％ 期末テスト（自筆ノート、配布プリント持込可、論述形式）。			
レポート	無し。			
小テスト等	無し。			
成果発表	無し。			
受講態度他	2 0％ 受講態度。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。			
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。			
指定図書	無し。			
参考図書	山下晋司編『観光人類学』新曜社（1 9 9 6年）。 古川彰・松田素二編『観光と環境の社会学』新曜社（2 0 0 3年）。			
オフィスアワー	火曜日昼休み（12:30-13:00）		メールアドレス	

授 業 科 目	メディア・ I T活用演習【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小川 暢祐		単 位	2
授業の目的と概要	原始時代人間は、獲物の野獣や敵に素手で立ち向かいました。痛みどころか致命傷を受けることも多かったでしょう[リアル]。やがて、弓矢のような「飛び道具」[メディア]が発明されると、さほどダメージを受けずに相手を倒せるようになりました。そして、狩りや戦いのシーンを絵[バーチャル]でもありメディアでもある]に残しました。現代社会におけるメディア・ITは、そんな昔の道具の進化形です。この科目では、かつての黒曜石や木、縄にあたるものがワードやエクセル、パワポであり、材料を組合せて実用的な道具を作る技が画像編集ソフトとの観点に立ち、現代社会を生きぬくための道具かつ護身術としてのメディア・ITリテラシーの基盤を、実践演習を通じて修得します。ほのぼのとしたHPや書きっ放しのTwitterなどと違い、芸術表現とも異なるリアリズム重視のスタンスで、情報化社会・言論社会における「武器」の磨きかた使いかたを体得してください。			
到達目標	1.映像編集ソフト等、さまざまなITの操作法に習熟し、どんな場合にどんなITを適用するか、主体的かつ的確に判断できる。 2.デジカメやスマホ等を経由して音声・動画等の素材ファイルを取得し、パソコン上で適切に整理・加工・保管できる。 3.映像編集ソフトの利用方法に習熟し、取得した身近な生素材を編集して、練習映像を制作できる。 4.自身の興味関心に応じてモデル映像を分析し、相応の質と量からなる首尾一貫した短編映像を習作できる。 5.“こっそり転がっている”身近な社会問題を発見し、調査報告や問題提起のきっかけとなる映像作品（ドキュメンタリー等）を制作できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	1.全学DP（4）「社会生活に必要な基礎的技能を獲得している①②③④」、ならびに現代社会学部DP（3）②4「社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている」 2.メディア社会コース教育目標5、「現代社会の諸事象の中から問題を発見し、収集した情報を主体的に分析し、協働作業の中で議論し、その成果を発信できる能力を養成する」 3.同コースDP①「現代メディア社会においてメディアならびにポピュラー文化を分析・理解する上での基本的知識を持っている」 ◆関連科目：2年次前期のメディア社会コース「基礎専門ゼミⅠ」に直結。技術面では1年「情報処理基礎演習Ⅰ・Ⅱ」及び2年以降「ソフトウェア演習A、B、C」、学修体系においては「社会調査士」標準カリキュラムのB「調査設計と実施方法に関する科			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス、教員制作作品の実演解説（注：筑女でインストールしているムビメカは、昨年で頒布・サポートが終了してしまったため、汎用性を重視して授業計画を策定し、順次説明します）		配布資料熟読（ハンドアウト、シラバス、「国連難民映画祭2017チラシ」）	
第2回	(1)「情報処理基礎演習」復習～特にPowerPoint（2）ストーリー豊かなスライドを作ろう～先行提出者3名の写真を素材とする、構想力を鍛えるためのワーク		(1) パワポによる練習作品のコンセプト立案（2）練習作品用の画像取得	
第3回	練習作品の上映会・合評会～お互いに作品の「良いところ」「個性」を発見し評価しあおう！（1年次に習得したはずのパワポによる制作／教員も今回だけはひたすら褒めます笑）		(1) 上映全作品へのコメント (2) マイ「おすすめ映像」情報をレポー	
第4回	(1) 前回までの振り返り（2）既配布資料「映像表現の特徴と古典理論」「映像メディアの技法」概説		(1) 既配布資料の徹底理解 (2) みんなのマイ「おすすめ映像」の視	
第5回	映像作品の「型」、映像制作の公式・定石を実体験しよう～『筑紫女学園100年のあゆみ』（2007年）冒頭3分の実作分析＆解説～		(1) 本制作に向けたコンセプト立案 (2) 練習作品ver.2への準備	
第6回	(1)『筑紫女学園100年のあゆみ』全篇（33分）の分析＆解説（カメラワーク、編集、表象の側面から）（2）ムービーメーカーの使い方説明		コンピューター自習室で各自作業	
第7回	練習作品ver.1のムビメカ化とブラッシュアップ①		コンピューター自習室で各自作業	
第8回	練習作品ver.1のムビメカ化とブラッシュアップ②		コンピューター自習室で各自作業	
第9回	(1) 練習作品ver.2の上映＆合評・講評←第3回と異なり、今回は教員は鬼になるので要覚悟！		(1) 上映作品の準備、批評 (2) 各自のプロジェクト案作成、批評	
第10回	本制作（ムビメカによるドキュメンタリー制作）①		コンピューター自習室で各自作業	
第11回	本制作（ムビメカによるドキュメンタリー制作）②		コンピューター自習室で各自作業	
第12回	本制作（ムビメカによるドキュメンタリー制作）③		コンピューター自習室で各自作業	
第13回	中間発表＆合評会		コンピューター自習室で各自作業	
第14回	本制作（ムビメカによるドキュメンタリー制作）④		コンピューター自習室で各自作業	
第15回	本制作（ムビメカによるドキュメンタリー制作）⑤		コンピューター自習室で各自作業	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30% 短編ドキュメンタリーまたはインタビュー作品の合評会（発表20％、批評10％）。各作品に寄せられた批評は、コメント者が特定できない形にして、発表者にフィードバックします。			
レポート	70% 第2回以降、毎回の課題提出（各回おおよそ5％×14回＝70％）。締切後、直近の回の冒頭で解説・講評します。			
小テスト等	＊レポート配点（①②・・・は講義の回）①6、②6、③5、④1、⑥分析6、考察6、⑨上映6、プロジェクト案7、合評7、⑬10、⑯上映20、合評10、リフレクション10 の100点満点。なお第6回以降、締切後の提出は採点しません。			
成果発表	定期試験の枠で作品発表＆合評会を実施します。			
受講態度他	誠実なアクティブ・ラーニング（自律学修やチームワーク等）の姿勢、積極的かつ的確なコミュニケーション（ディスカッションやプレゼンテーション等）への姿勢を重視します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1.シラバスを熟読し、「成績評価に関する情報」に納得した上で履修を決めて下さい。なお講義を効果的・効率的に行うため、受講者の理解度や進捗状況に応じ授業計画等を臨機応変に改訂するプロセスシラバス方式をとります（当版ver.2は第6回で説明）。 2.基本的に「反転授業形式」で進めるので、必ず復習・予習・事前課題を行った上で授業に臨んでください。教材提供や諸連絡は筑女ネットで確実にフォローしてもら必要があります。			
教科書	なし。配布資料やオンライン教材に対応します。担当教員は『方法としてのフィールドノート—現地取材から物語作成まで』（新曜社）の延長上にある今日的スキルとしてメディア・ITを位置づけ講義設計しますので、そのつもりで臨んで下さい。			
指定図書	＊随時伝えます。日進月歩なので図書館の本はほぼ賞味期限切れです。大型書店の「メディア論」「デザイン」コーナーで片っ端から目を通すべし。若手研究者の共著で、大学出版系の最新刊に良い本が多いと思います。ドキュメンタリーや映画鑑賞もぜひ。			
参考図書	①メディア分析⇒石田英敬『記号の知／メディアの知』、②社会学と記号論をふまえた映像制作法⇒遠藤大輔『ドキュメンタリーの語り方』、③テレビ業界実務をふまえた編集技法⇒奥村 健太、藤本 貴之『映像メディアのプロになる！』がおすすめです。			
オフィスアワー	火曜の授業前後、木曜の13-19時（非常勤講師控室）		メールアドレス	

授 業 科 目	メディアコンテンツ演習【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	橋本 嘉代		単 位	2
授業の目的と概要	コンピュータを活用し、メディアコンテンツを制作する授業です。 雑誌や書籍、パンフレットなどの出版物をデザインするページレイアウトソフト「InDesign」を使って、誌面デザインを学びます。 コンテンツ制作と発信のための基本的な知識・技能の習得を目指します。			
到達目標	・ コンピュータを活用してコンテンツを作る情報リテラシーを身につける。 ・ 情報を整理し、印刷物の形にしてわかりやすく人に伝えることができる。 ・ 印刷物の基本的なルールを理解し、ページレイアウトソフト「InDesign」の基本設定、文字組み、フォント設定、画像やテキストデータの流し込みなどができる。 ・ 本文、リード、キャプションなどの書き分けをし、簡単なオリジナルコンテンツ（雑誌風ページ）を作ることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス、印刷とDTPの基本①（Section1前半）	演習：ソフトの基本的な操作（起動、初期画面からの選択）		教科書の範囲の予習・復習	
第2回 印刷とDTPの基本②（Section1後半）	演習：ソフト上に画像を配置してみる		教科書の範囲の予習・復習。操作方法を忘れないようにメモしておく	
第3回 グラフィックデータの基本①（Section2）+p.178-179	演習：画像加工（縮小、トリミング、背景削除、色補正など）		教科書の範囲の予習・復習（p.178-179も） 画像加工ソフトの扱い方	
第4回 文字組みの基本①（Section3前半）	演習：フォントの選び方、設定変更方法（サイズ、字間、行間）		教科書の範囲の予習・復習	
第5回 文字組みの基本①（Section3後半）	演習：文字のレイアウト方法（タイトル、リード、本文、キャプションなど）		新聞・雑誌の文字のレイアウトのルールを見ておく	
第6回 デザインの基本①（Section4）、	演習：カフェ紹介ページ（p.121～）を模倣		共通化・グループ化・行頭と行末・グループ同士のアキなどを教科書で確認	
第7回 演習：教科書p.138のレイアウトを模倣してみる	→ PDF化・印刷（課題①）		これまでに習ったことの復習。課題でできなかった部分があれば質問	
第8回 課題①の復習、最終課題（雑誌風レイアウト1～2ページ）	の説明とコンテの作成		最終課題の企画案を考える。お手本にした雑誌のページを探し、持参。	
第9回 レイアウトをしよう②（Section5前半）			教科書の範囲の予習・復習（図版に文字をのせる、など）	
第10回 レイアウトをしよう①（Section5後半）	演習：最終課題用のラフコンテ作成・提出（課題②）		課題制作準備（写真撮影など）	
第11回 最終課題のレイアウト化（文字と画像は仮で可）	ダミーレイアウト提出（課題③）		課題制作のために必要な作業	
第12回 最終課題の文字原稿執筆・提出（課題④）			課題制作のために必要な作業	
第13回 オリジナルコンテンツの制作（③④の添削結果を反映して修正し、画像と原稿をレイアウトに流し込む）			課題制作のために必要な作業	
第14回 オリジナルコンテンツの制作・提出（画像と文章をレイアウトに流し込む）	課題⑤		14回の授業終了時までには制作が間に合わない場合は、自習	
第15回 最終課題のプレゼン+仕上げ+講評（受講者のページを統合し、表紙をつけて冊子印刷し、作品化）	課題⑥		課題制作・提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％（課題①～⑤の合計） 課題①～⑤は添削し、次の授業中に戻します。			
小テスト等	0％			
成果発表	20％（課題⑥）			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・ コンピュータ演習室1に入っているソフトウェア「InDesign」を使用します。コン演1を自習に使える時間帯は、情報メディア課で確認できます。 ・ ファイル紛失や作業内容の消失を防ぐため、授業用のフォルダに「保存」してから作成を開始し、5分に1回は上書き保存をする習慣をつけましょう。（見本ファイル等をダウンロードした場合は、「別名で保存」しないと消えます） ・ 教科書を必ず購入してください。保存版の知識やソフトの使い方が載っており、充実した内容です。			
教科書	柳田寛之、2011、『DTP 印刷 デザイン の基本』玄光社			
指定図書	なし			
参考図書	波多江 潤子『デザインの学校 これからはじめるInDesignの本 [CS6/CS5.5対応版]』技術評論社			
オフィスアワー	月曜12:30-15:00		メールアドレス	

授 業 科 目	メディアコンテンツ論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	荒巻 龍也		単 位	2
授業の目的 と概要	1) マスメディアの歴史と現状を理解する。 2) メディアのコミュニケーション戦略、ビジネス的側面、社会的影響力について理解する。 3) 私たちとメディアの関係について理解する。 4) メディアコンテンツの現状を理解し、「これから」を考察する。 メディアの変化、デバイスの変化、それに伴うコミュニケーションの変化の中で、氾濫する情報の中から有用な情報を掘い出し、自分の生活にどのように生かしていくのか。そういった状況をどのように仕事に生かし変化の時代を勝ち抜くのか。その知識とスキルを持つことが肝要です。メディアの考え方や概要を示しつつ、いわゆるマスメディアやソーシャルメディアといった情報や映像を伝える手段としてのメディアを多角的に捉えていきます。			
到達目標	1. マスメディアの誕生から展開、現状までを説明することができるようになる。 2. メディアのコミュニケーション戦略、ビジネス的側面、社会的影響力について説明ができるようになる。 3. 私たちとメディアの関係についてのメディアリテラシーを理解し、身に着ける。 4. メディアコンテンツの現状を理解し、「これから」を考察できるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション シラバス確認、授業の進め方の説明、メディアコンテンツとは？、振り返り (1)		配布資料熟読	
第2回	第1章 メディアとメディアの思想 振り返り (2)		熟読 (第1章 pp. 1-18)	
第3回	メディアリテラシー(1) グループワーク・発表 ～私とメディア、私たちとメディア(1) メディアとは何か～		メディアリテラシー課題1 (私のメディア史)	
第4回	メディアリテラシー(2) グループワーク・発表 ～私とメディア、私たちとメディア(2) 私のメディア史、私たちのメディア史～		メディアリテラシー課題2 (私たちのメディア史)	
第5回	第2章 マスメディアの誕生と諸相(1) 1. マスメディアとは、 2. マスメディアの歴史と展開、振り返り (3)		熟読 (第2章 pp. 19-52)、課題1	
第6回	第2章 マスメディアの誕生と諸相(2) 3. メディアの影響と受け手、課題1グループワーク、振り返り (4)		熟読 (第2章 pp. 53-64)、課題1 (再考)	
第7回	第3章 メディアとコミュニケーション戦略(1) 1. 広告、振り返り (5)		熟読 (第3章 pp. 65-97)、課題2	
第8回	第3章 メディアとコミュニケーション戦略(2) 2. SP、 3. PR、 4. コミュニケーション戦略の変遷、振り返り (6)		熟読 (第3章 pp. 98-108)、課題2 (再考)	
第9回	第3章 メディアとコミュニケーション戦略(3) 全体のまとめ、課題2グループワーク、振り返り (7)		熟読 (第3章 pp. 109-116)、課題2 (再考)	
第10回	メディアリテラシー(3) グループワーク・発表 ～私とメディア、私たちとメディア(3) 今週のテレビ日記～		メディアリテラシー課題3 (テレビ日記)	
第11回	第4章テレビ視聴と番組価値 振り返り (8)		熟読 (第4章 pp. 117-136)	
第12回	第5章メディアとスポーツイベント＋第6章ブランド理論と部ランディングの実際		熟読 (第5章 pp. 137-158、第6章 pp. 159-174)、課題3	
第13回	第7章 その先のメディアとコンテンツビジネス 振り返り (9)		熟読 (第7章 pp. 175-189)	
第14回	メディアコンテンツ研究(1) メディアコンテンツの概要と利用状況		課題4	
第15回	メディアコンテンツ研究(2) メディアコンテンツの未来		課題4 (再考)	
成 績 評 価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	60% 課題1～4、メディアリテラシー課題1～3、振り返りの一部			
小テスト等	0% なし			
成果発表	30% グループワーク (20%)、グループ発表 (10%)			
受講態度他	10% 振り返り、授業での発言 (発表) 状況、グループワークやグループ発表での貢献度など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は講義形式で行いますが、個人作業、グループワーク、発表などを随時取り入れながら進めていきます。教科書・テキストや教材・資料を授業中に読んでいくようなことはしません。パワーポイント教材を中心に短時間で説明したのちに、アクティブな行動 (学習) をできるだけ行ってもらうようにしていきます。 教科書・テキストは授業までに、授業後に必ず熟読しておいてください。必ず予習・復習とそれぞれの課題は授業時間外に行って、期日までに提出してください。課題は適宜返却します。授業中は私語などもなく、集中して受講してください。			
教科書	岩崎達也 『実践メディア・コンテンツ論入門』 慶應義塾大学出版会			
指定図書	なし			
参考図書	その都度紹介します。 藤竹 暁著 『図説 日本のメディア』 NHKブックス (NHK出版)			
オフィスアワー	火曜日2限目 (10:50-12:20)、水曜日2限目 (10:50-12:20)	メールアドレス		

授 業 科 目	メディア産業論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	橋本 嘉代		単 位	2
授業の目的 と概要	・メディア産業の制作現場の「作り手」の立場から、メディアを理解するための授業です。 ・メディアプロデュースの社会的な意味と役割、影響力について理論と実践の両面からアプローチします。			
到達目標	・各メディア産業で、どのようにコンテンツやサービスが生み出されているのか、説明することができる ・自分が興味を持っている業界についての知識を深め、自己のキャリアプランニングに生かすことができる ・構成を考え、レポートを執筆することができる ・他の人の発表に対するコメント力を身につける			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	メディアプロデュースのためのメディアリテラシー（1章）		1章の範囲の通読	
第2回	映像とメディア表現（2章）		2章の範囲の通読	
第3回	デジタル社会のメディアプロデュースの可能性（3章）		3章の範囲の通読	
第4回	広告とメディアプロデュース（4章）、CMをつくる（7章）		4・7章の範囲の通読	
第5回	ネットコミュニティのプロデュース（5章）		5章の範囲の通読	
第6回	ドキュメンタリーの現場（6章）		6章の範囲の通読	
第7回	音楽を作る仕事（8章）		8章の範囲の通読	
第8回	出版物を作る（9章）		9章の範囲の通読	
第9回	ゲストスピーカー（新聞または広告／予定）		9章または4章、7章の復習。質問を考えて事前に提出。お礼状執筆	
第10回	ルポルタージュの力（10章）		10章の範囲の通読	
第11回	アニメーションをつくる（11章）		11章の範囲の通読	
第12回	ゲストスピーカー（予定）		第9章の内容の復習。その他、質問を考えて事前に提出。お礼状執筆	
第13回	レポート作成に向けての準備（各自の構成案のプレゼン、質疑応答）		レポートの構成を考える。紙に書き込み授業時に持参→書画カメラで発表	
第14回	ゲストスピーカー（予定）		該当の章の復習。その他、質問を考えて事前に提出。お礼状執筆	
第15回	レポート構成案についての修正ポイントの確認と、講義全体のまとめ		修正点をふまえ、レポート執筆	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	40％ 1月中に戻します。返却方法は授業中に説明します。			
小テスト等	0％			
成果発表	30％（レポート執筆開始前に、各自の構成案を授業で発表し合い、内容について意見交換をします）			
受講態度他	30％（積極的な態度を考慮します）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	・ゲストスピーカーの回は、開催時期・曜日・時間帯・場所などが変更になる場合があります（開催日時の1ヶ月以上前に告知します）。 ・メディアのゲストスピーカーの話を聞く回は、福岡市内など、学外で開催する場合があります。			
教科書	中橋雄・松本恭幸、2013、『メディアプロデュースの世界』（叢書現代の社会学とメディア研究 第6巻、北樹出版）			
指定図書	なし			
参考図書	藤竹暁編、2012、『図説 日本のメディア』（NHK出版、2012年版）			
オフィスアワー	月曜12:30-15:00		メールアドレス	

授 業 科 目	メディア特殊講義（再）【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	間瀬 玲子		単 位	2
授業の目的 と概要	映画はフランスで始まった視覚芸術である。各テーマに分類した映画を実際に鑑賞し、分析することを目的とする。そして分析した映画から現代社会で起きている諸問題に対してどのように考察すべきかを考えることも目的とする。			
到達目標	1．映画の歴史を振り返り、概要を説明することができる。 1．各テーマに分類した映画を鑑賞し、分析することができる。 2．分析した映画を通じて、現代社会で起きている諸問題を考察することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など				
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回 授業の進め方 と分析	多言語映画（英語とフランス語）『ダ・ヴィンチ・コード』の視聴		シラバスを前もって読む	
第 2 回 フランス文学を題材とした映画 の視聴と分析	『レ・ミゼラブル』（英語圏の映画、フランス映画）の		授業資料（第 2 回）	
第 3 回 フランス文学を題材とした映画 の視聴と分析	『モンテ・クリスト伯』（英語圏の映画、日本製のアニメ）		授業資料（第 3 回）	
第 4 回 フランス文学を題材とした映画	『三銃士』（英語圏の映画）の視聴と分析		授業資料（第 4 回）	
第 5 回 フランス文学を題材とした映画	『オペラ座の怪人』（英語圏の映画）の視聴と分析		授業資料（第 5 回）	
第 6 回 フランス文学を題材とした映画 と分析	『美女と野獣』（フランス映画、英語圏のアニメ）の視聴		授業資料（第 6 回） 第 1 回から第 5 回ま までの授業資料の復習	
第 7 回 フランスの学校	『スチューデント』（フランスの学生生活）の視聴と分析		授業資料（第 7 回）	
第 8 回 フランスの学校	『プチ・ニコラ』（フランスの文章付のマンガ）の視聴と分析		授業資料（第 8 回）	
第 9 回 ベルギー出身の作家によるマンガの映画化	『タンタンの冒険』の視聴と分析		授業資料（第 9 回）	
第10回 フランスの宗教	『ぼくセザール 1 0 歳半 1 m 3 9 c m』の視聴と分析		授業資料（第 1 0 回）	
第11回 パリを舞台にしたアメリカ映画	『シャレード』の視聴と分析		授業資料（第 1 1 回） 第 6 回から第10回 までの授業資料の復習	
第 1 2 回 外国文学のフランス映画化	『アガサ・クリスティーの奥さまは名探偵』の視聴と分析		授業資料（第 1 2 回）	
第13回 フランスの歴史映画『マリー・アントワネット』の視聴と分析			授業資料（第13回）	
第14回 パリを舞台にした日本製の映画	『のだめカンタービレ』の視聴と分析		授業資料（第 1 4 回）	
第15回 映画史の重要人物が登場する映画『ヒューゴの不思議な発明』の視聴と分析			授業資料（第 1 5 回） 第 1 1 回から第 1 4 回までの授業資料の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	5 0 ％（授業でテーマとして言及した映画に関する設問）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	5 0 ％（授業への積極的参加）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑女ネットに最新情報等を掲載しますので、必ずチェックしてください。本学の図書館等を利用し、授業で言及した映画の中で 2 本以上は必ず視聴してください。授業中では映画のごく一部を見ます。			
教科書	教科書はありません。授業資料を配布します。			
指定図書	ヴィクトル・ユゴー『ノートルダム・ド・パリ』ときめき夢文庫、新星出版社、渡辺真弓『名作バレー 5 0 鑑賞入門』世界文化社、芳賀直子『ビジュアル版 バレー・ヒストリー』世界文化社			
参考図書	授業中適宜紹介します。			
オフィスアワー	木曜日 2 講時	メールアドレス		

授 業 科 目	メディア特殊講義（再）【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	間瀬 玲子		単 位	2
授業の目的 と概要	文学作品等を題材として、さまざまな研究方法を学ぶ事を目的とする。研究方法を学ぶことによって、自分独自のアプローチ方法を考え、実践する。そしてその実践結果をレポートとしてまとめることを目的とする。			
到達目標	1. 文学作品、マンガ、アニメ、テレビドラマ、オペラ、バレエを題材として、様々な研究方法を学び、説明することができる。 2. 学んだ研究方法の中から、題材に適した研究方法を選択することができる。 3. 選択した研究方法により、選んだ題材を分析してレポートにまとめることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など				
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 授業の進め方			シラバスを読む	
第2回 日本のテレビドラマ 『逃げるは恥だが役に立つ』	文化的アプローチ及び社会学的アプローチ		授業資料（第2回）	
第3回 フランス文学を題材にした映画 『カルメン』（複数の映画を比較する、文化的な背景を考察する）			授業資料（第3回）	
第4回 フランス文学を題材にした映画『危険な関係』（複数の映画を比較する、原作の書簡体小説を読む）			授業資料（第4回）	
第5回 フランス文学を題材にした映画『クレージュの奥方』（複数の映像を比較する）			授業資料（第5回）	
第6回 フランス文学を題材にした映画『失われた時を求めて』（原作を読む、マンガを読む）			授業資料（第6回）	
第7回 フランス文学を題材にした映画『赤と黒』（複数の映画化作品を比較する）			授業資料（第7回）	
第8回 フランス文学を題材にした映画『シラノ・ド・ベルジュラック』（アメリカ映画との比較）			授業資料（第8回）	
第9回 フランス文学を題材にした映画『星の王子さま』（アニメ、舞台）			授業資料（第9回）	
第10回 フランス文学を題材にした映画『ドン・ジュアン』（歴史的な背景を考察する）			授業資料（第10回）	
第11回 フランスの歴史映画 『モリエール 恋こそ喜劇』（フランス演劇の歴史）			授業資料（第11回）	
第12回 フランスの歴史映画『ナポレオン』（歴史学的アプローチ）			授業資料（第12回）	
第13回 フランスの歴史映画『ココ・アヴァンシャネル』（ファッション文化を考察する）			授業資料（第13回）	
第14回 パリを舞台にした日本映画『王妃の館』（パリの歴史）			授業資料（第14回）	
第15回 パリを舞台にした日本映画『万能鑑定士Q』（フランス名画の謎に迫る）			授業資料（第15回）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％（題材を選び、自分で考えた研究方法に基づいて作成する）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％（授業への積極的な参加）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑女ネットに最新情報等を掲載しますので、必ずチェックしてください。			
教科書	教科書はありません。授業資料を配付します。			
指定図書	渡辺諒『フランス・ミュージカルへの招待』春風社、サン＝テグジュペリ『星の王子さま』岩波書店、ポーモン夫人『美女と野獣』新潮社			
参考図書	授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 3 講時	メールアドレス		

授 業 科 目	メディアと文化【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	小山 昌宏		単 位	2
授業の目的と概要	1. この授業は、メディアと文化に関する基礎知識を、映画、ドラマ、アニメ、音楽、新聞、電話、テレビなど具体例を通して身につけることを目的とする。 2. また具体例を検証することにより、メディア、マスコミュニケーションの基礎理論を事例とともに身につけることを目的とする。 3. 具体的には、毎回の講義時リアクションペーパー（質疑応答：出席表）による復習（振り返り）を活かし、学びを深め（思考力の獲得）、期末レポート作成に活かす。			
到達目標	1. メディア一般、個別メディアの機能と社会的影響力について、説明することができる。 2. 各メディアの諸問題点を発見し、それについて掘り下げ、考えることができ、その内容について報告ができる。 3. リアクションペーパー内容の振り返りにより、他者の意見を取り入れ、自分の知識を再形成することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	メディアとは何か？ ～映画：F・ラング「メトロポリス」とチャップリン「モダン・タイムス」を題材に		予習として2作品いずれかを視聴しておく	
第2回	メディアの発展とその機能 ～メディアの進化と身体コミュニケーション		前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。	
第3回	地域文化とメディア ～能年玲奈の「あまちゃん」と地域振興		前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。	
第4回	電話と声 ～郷ひろみ「よろしく哀愁」からRADWIMPS「携帯電話」へ		前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。	
第5回	新聞メディアとその役割 ～娯楽と報道の「間」に揺れるその未来		前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。	
第6回	放送メディアと文化 ～その「公共性」と社会的役割について		前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。	
第7回	視覚と映像 ～機械の目と人間の目が織りなす映像の基本ルール		前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。	
第8回	マスコミュニケーションと情報操作 ～「ナチス情報戦」「火星人襲来」から「ケネディ暗殺」へ		前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。	
第9回	アニメ・パッシングとオーディエンス ～血・性・暴力表現はいかにしてアニメから排除されるか		前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。	
第10回	ミニコミと自己プロデュース ～「サブカルポップマガジンまぐま」19年の歩みから		前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。	
第11回	聖地巡礼とコンテンツ消費 ～「時かけ」「らき☆すた」から「炎の蜃気楼」「水木しげるロード」へ		前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。	
第12回	コンテンツビジネス論 ～アニメコンテンツとクロスメディア 「ポケモン」と「妖怪ウォッチ」の差とは？		前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。	
第13回	メディア・リテラシーとセキュリティ ～テレビCM、ネット広告の罠とリテラシー		前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。	
第14回	情報メディアの編集と生成 ～学際的メディア編集とは何か？		前回授業の振り返り・配布資料、デジタル資料（筑女ネット）を復習する。	
第15回	討論会（授業を振り返り、グループごとにテーマを選定し、掘り下げ、選抜グループが発表をおこなう）		期末レポートテーマを確定する。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70％（期末レポート） 30％（出席シート：リアクションペーパーの内容）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 教科書はありません。レジュメ（配布資料）は各回配布いたします。 2. この授業では、毎回、リアクションペーパー内容をまとめ、要点整理の上、次回授業のはじめに振り返り紹介いたします（復習） 3. リアクションペーパーと振り返りによる学習効果を、期末レポート作成に活かします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスアワー	水曜日 4 限目（14:50～16:20）・金曜日 3 限目（13:10～14:40）	メールアドレス		

授 業 科 目	メディアリテラシー演習【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	須藤 遙子		単 位	2
授業の目的 と概要	この講義では、テレビと新聞という二大マスメディアの分析を通じて、情報リテラシーを身につける。 調査・分析能力、プレゼンテーション能力を高める。 課題とは別に、全員に1回「今週の気になったニュース」を発表してもらいます。			
到達目標	・自分で問題を設定し、的確な方法で分析ができる。 ・プレゼンテーション能力が身につく。 ・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。 ・テレビ局や新聞社の特性による情報の違いを理解する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。		新聞、テレビのニュースに目を通す。	
第2回	ニュース番組① 分析方法説明、グループ分け。		グループで決めた番組分析。	
第3回	ニュース番組② グループ分析、発表。		分析レポートまとめ。	
第4回	娯楽番組① 分析方法説明、グループ分け。		グループで決めた番組分析。	
第5回	娯楽番組② グループ分析。		グループで決めた番組分析。	
第6回	娯楽番組③ グループ発表。		分析レポートまとめ。	
第7回	新聞① 各自持ってきた新聞を使用しての概説。グループ分け。		新聞の構造、内容を理解する。	
第8回	新聞② 明治から終戦までの新聞分析、発表。 場所：プレゼンテーションコート		図書館での復習。	
第9回	新聞③ 戦後から70年代末までの新聞分析、発表。 場所：プレゼンテーションコート		図書館での復習。	
第10回	新聞④ 80年代から90年代末までの新聞分析、発表。 場所：プレゼンテーションコート		図書館での復習。	
第11回	新聞⑤ 9.11、3.11、熊本地震の新聞分析、発表。 場所：プレゼンテーションコート。		分析レポートまとめ。	
第12回	【特別授業】朝日新聞データベースの使い方 講師：朝日新聞東京本社デジタル本部コンテンツ事業部担当者		自宅での復習。	
第13回	インターネット① グループ分け、新聞社ホームページ分析、発表。		自宅での復習。	
第14回	インターネット② テレビ局ホームページ分析、発表。		分析レポートまとめ。	
第15回	まとめ。		復習。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	％			
レポート	40％			
小テスト等	％			
成果発表	40％（課題への取り組み、発表者としてのスキル）			
受講態度他	20％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	テレビ番組分析はグループワークのため、出席・遅刻の回数は、評価に大きく影響する。 新聞分析は、グループでなく個人での発表を行う。 朝日新聞による特別授業の日程は変更の可能性があるので、授業内の指示を確認のこと。 対面でのコミュニケーション能力養成のため、メールでの連絡は原則禁止とします。用件のある学生は授業前後やオフィスアワーに直接話しかてください。			
教科書	なし。適宜プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスアワー	月曜日3限。	メールアドレス		

授 業 科 目	メディア倫理（法含む）【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	須藤 遙子		単 位	2
授業の目的 と概要	メディア側の取材・報道姿勢を学ぶと同時に、民主主義を担う受け手側の市民意識についても考える。 メディアはどのように報道すべきかを考え、また受け手としてのメディア・リテラシーも同時に身につけていく。 ディスカッションにより、自分の考えを深め表現するスキルを磨く。			
到達目標	・メディアによる報道を批判的に受容できる。 ・自分の考えを論理的に展開できる。 ・他人の発表に対し、的確なコメントが言える。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。		ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。	
第2回	メディアをとりまく法制		ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。	
第3回	虚偽・捏造報道（１）新聞における有名事件		ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。	
第4回	虚偽・捏造報道（２）テレビにおける「やらせ」とは		ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。	
第5回	虚偽・捏造報道（３）テレビにおける有名事件		ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。	
第 6 回	戦争報道（１）戦争における報道の特徴・問題点		ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。	
第7回	戦争報道（２）マスコミの役割と影響力		ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。	
第8回	戦争報道（３）北朝鮮ミサイル問題		ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。	
第9回	SNS（１）発信・受信の容易さの問題		ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。	
第10回	SNS（２）フェイクニュースとは		ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。	
第11回	SNS（３）慰安婦報道		ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。	
第12回	私企業としての マスコミ		ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。	
第13回	政治との関連		ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。	
第14回	表現の自由とは：憲法をふまえて		ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。	
第15回	まとめ		ニュース番組を見て、取材・報道姿勢を考える。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	6 0％（持ち込み可）			
レポート	3 0％（小レポート）			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	1 0％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業内の私語・スマートフォン使用厳禁。 対面でのコミュニケーション能力養成のため、メールでの連絡は原則禁止とします。用件のある学生は授業前後やオフィスアワーに直接話しにきてください。 毎回気になった今週のニュースを順番に発表してもらいます。			
教科書	なし。適宜プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	必要な場合は、授業内で指示します。			
オフィスアワー	月曜日昼休み。	メールアドレス		

授 業 科 目	メディア論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	吉野 嘉高		単 位	2
授業の目的 と概要	・メディアを作り出したのは、私たち人間である。一方で、メディアが私たちの日常の思考や身体感覚、社会的コミュニケーションのあり方に影響を与えることで現代人を作り出し、世界を変えてきたともいえる。このプロセスについて理解を深める。 ・また、各メディアの現状や問題点について理解する。			
到達目標	・メディアが社会をどう変えたのか、説明できること ・メディアが私たちの思考や感覚に及ぼす影響について説明できること ・各メディアの現状や問題点を具体的に述べる事ができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3)－②－2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション			配布資料を熟読	
第 2回 「メディア」「メディア学」とは何か			配布資料を熟読	
第 3回 「メディアはメッセージ」とは			テキスト 第1章に関する課題	
第 4回 「音声メディア」から「視覚メディア」への変化			テキスト 第1章に関する課題	
第 5回 「視覚メディア」から「電子メディア」への変化			テキスト 第7章に関する課題	
第 6回 インターネットの現状と問題点 ～ネット炎上ほか～			テキスト 第7章に関する課題	
第 7回 インターネットの現状と問題点 ～政治的無関心ほか～			テキスト 第6章に関する課題	
第 8回 テレビの誕生と現状			テキスト 第6章に関する課題	
第 9回 テレビの問題点			テキスト 第6章に関する課題	
第10回 ゲスト講師による放送メディアの現状			配布資料の熟読	
第11回 映画の誕生と現状			テキスト 第4章に関する課題	
第12回 出版の現状と問題点			テキスト 第5章に関する課題	
第13回 広告の現状と問題点			第9章に関する課題	
第14回 プロパガンダと情報操作			第9章に関する課題	
第15回 まとめ			レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	30％（期末レポート）			
小テスト等	30％（基本的に授業中に毎回実施）			
成果発表	20％（課題提出、グループ別発表等）			
受講態度他	20％ 積極的な受講態度を重視			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	授業の最後に小テストを実施。授業中、時々指名して質問をする。 ディスカッション、クリッカーによるアンケートなどアクティブラーニングを適宜行う。 教科書は必ず入手してください。 小テストの配点が大きいことに注意してください。ゲスト講師の都合でスケジュールに変更もあり。			
教科書	渡辺 武達 田口 哲也 吉澤 健吉 『メディア学の現在（新訂第2版）』世界思想社			
指定図書	－			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（12：30～13：00）	メールアドレス		

授 業 科 目	ユニバーサルデザイン【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	豊増 美喜		単 位	2
授業の目的 と概要	ユニバーサルデザインは「みんなのためのデザイン」とも言われます。その根幹を成す考え方を学ぶために、本講義では、ものや住まい、街のデザイン事例を取り上げ、自らの生活実態と重ね合わせることでデザインの及ぼす影響について考察します。デザインののための基礎知識を習得するとともに、生活の中でのデザインの現状を分析し、その課題の解決に向けて自ら考え、創造する力をつけることを目指します。 授業では、ものや住まい、まちのデザイン事例を映像等を用いて学びます。色々な視点で生活の問題を考え、その生活に影響を及ぼすさまざまなデザインについて関心を深めるために、演習も取り入れます。			
到達目標	1. ノーマライゼーションの概念を説明できる。 2. ユニバーサルデザインの視点で生活の問題を捉えることができる。 3. さまざまなデザイン上の課題の解決に向けて自ら考え、創造することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 「居住福祉論」や「地域デザイン」など同一DPの科目はもちろんですが、現代社会学科基礎科目の「現代社会とジェンダー」や「福祉社会学」、人間科学部共通科目の「マイノリティを生きる」とともに受講することで、幅広い知識を得ることが出来、相互の理解が深まります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ノーマライゼーションの概念とユニバーサルデザイン、バリアフリーについて		プリントを熟読すること	
第2回	人間の感覚とユニバーサルデザイン		プリントを熟読すること	
第3回	人間の行動とユニバーサルデザイン		プリントを熟読すること	
第4回	安全な環境とユニバーサルデザイン（１） --- 特別な配慮を必要とするユーザー（高齢者の例など）		プリントを熟読すること	
第5回	安全な環境とユニバーサルデザイン（２） --- 特別な配慮を必要とするユーザー（子どもの例など）		プリントを熟読すること	
第6回	ユニバーサルデザインのものづくりとサービス（１） --- 事例研究		プリントを熟読すること	
第7回	ユニバーサルデザインのものづくりとサービス（２） --- 生活の中の提案		プレゼンテーション準備	
第8回	ユニバーサルデザインと住まい		プリントを熟読すること	
第9回	ユニバーサルデザインをとりいれた平面計画（１） --- 間取りの作成		プリントを熟読すること	
第10回	ユニバーサルデザインをとりいれた平面計画（２） --- 家具の配置		プリントを熟読すること	
第11回	ユニバーサルデザインのまちづくり（１） --- 事例紹介		プリントを熟読すること	
第12回	ユニバーサルデザインのまちづくり（２） --- 提案		プレゼンテーション準備	
第13回	ユニバーサルデザインの提案（１） --- 対象の決定		プリントを熟読すること	
第14回	ユニバーサルデザインの提案（２） --- 具体的な考案		プレゼンテーション準備	
第15回	ユニバーサルデザインの提案（３） --- 発表 まとめ		プレゼンテーション準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％			
小テスト等	0％			
成果発表	20％			
受講態度他	20％ 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎講義の冒頭に、前回の講義内容に関する質問を口頭で行いますので、毎回の講義内容を復習しておくこと。 プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。 レポートはチェック後に次の授業で返却する。			
教科書	プリントを配布します			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	ユニバーサルデザイン論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	豊増 美喜		単 位	2
授業の目的と概要	ユニバーサルデザインは「みんなのためのデザイン」とも言われます。その根幹を成す考え方を学ぶために、本講義では、ものや住まい、街のデザイン事例を取り上げ、自らの生活実態と重ね合わせることでデザインの及ぼす影響について考察します。デザインのための基礎知識を習得するとともに、生活の中でのデザインの現状を分析し、その課題の解決に向けて自ら考え、創造する力をつけることを目指します。 授業では、ものや住まい、まちのデザイン事例を映像等を用いて学びます。色々な視点で生活の問題を考え、その生活に影響を及ぼすさまざまなデザインについて関心を深めるために、演習も取り入れます。			
到達目標	1. ノーマライゼーションの概念を説明できる。 2. ユニバーサルデザインの視点で生活の問題を捉えることができる。 3. さまざまなデザイン上の課題の解決に向けて自ら考え、創造することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -④社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。「市民としての社会的責任・勤労観」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福C (3) -②-3 社会福祉を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ノーマライゼーションの概念とユニバーサルデザイン、バリアフリーについて		プリントを熟読すること	
第2回	人間の感覚とユニバーサルデザイン		プリントを熟読すること	
第3回	人間の行動とユニバーサルデザイン		プリントを熟読すること	
第4回	安全な環境とユニバーサルデザイン (1) --- 特別な配慮を必要とするユーザー (高齢者の例など)		プリントを熟読すること	
第5回	安全な環境とユニバーサルデザイン (2) --- 特別な配慮を必要とするユーザー (子どもの例など)		プリントを熟読すること	
第6回	ユニバーサルデザインのものづくりとサービス (1) --- 事例研究		プリントを熟読すること	
第7回	ユニバーサルデザインのものづくりとサービス (2) --- 生活の中の提案		プレゼンテーション準備	
第8回	ユニバーサルデザインと住まい		プリントを熟読すること	
第9回	ユニバーサルデザインをとりいれた平面計画 (1) --- 間取りの作成		プリントを熟読すること	
第10回	ユニバーサルデザインをとりいれた平面計画 (2) --- 家具の配置		プリントを熟読すること	
第11回	ユニバーサルデザインのまちづくり (1) --- 事例紹介		プリントを熟読すること	
第12回	ユニバーサルデザインのまちづくり (2) --- 提案		プレゼンテーション準備	
第13回	ユニバーサルデザインの提案 (1) --- 対象の決定		プリントを熟読すること	
第14回	ユニバーサルデザインの提案 (2) --- 具体的な考案		プレゼンテーション準備	
第15回	ユニバーサルデザインの提案 (3) --- 発表 まとめ		プレゼンテーション準備	
成 績 評 価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60%			
小テスト等	0%			
成果発表	20%			
受講態度他	20% 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎講義の冒頭に、前回の講義内容に関する質問を口頭で行いますので、毎回の講義内容を復習しておくこと。 プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。 レポートはチェック後に次の授業で返却する。			
教科書	プリントを配布します			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	【閉講】 幼児教育研究【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	原 陽一郎・原田 博子・上原 真幸		単 位	1
授業の目的と概要	コースの教育目標である「知識・技能」「専門性」「人間性」のあり方を考え、学び、資質を身に付けていくことを目的とする。 保育者としての資質や実習生として必要な事務処理などを学ぶこと、障がい児通所施設や保育所への見学実習で施設・保育所の現状を知り保育のあり方を学んでいくこと、遊びや絵本の読み聞かせなどの保育技術を身に付けていきます。			
到達目標	・保育者として目指すべき態度や資質を学び、実践することができる。 ・実習時に必要な文書の書き方を学び、書く力を身に付ける。 ・保育所や障がい児施設の現状を知り、保育のあり方を学ぶ。 ・てあそび、読み聞かせ、わらべうたなどのあそびについて考察、理解し、実践できる力を身につける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 この科目は、保育原理・子ども家庭福祉論と関連しています。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 説明	保育者の心構えや実習生に必要な書類/オリエンテーション、実習生調書や腸内細菌検査などの		実習生調書の作成	
第2回	実習先理解/障がい児の特性について		障がい児についての調べ学習、感想用紙	
第3回	保育士講話/現場保育士の講話、実習生調書の添削		講話のレポート	
第4回	見学実習全体オリエンテーション/実習計画書について		実習計画書の作成	
第5回	見学実習事前指導/班別オリエンテーション、報告書についての説明		見学実習の準備	
第6回	障がい児通所施設にて見学実習		報告書の作成	
第7回	障がい児通所施設にて見学実習		報告書の作成	
第8回	保育所見学実習		報告書の作成	
第9回	保育所見学実習		報告書の作成	
第10回	見学実習全体事後指導/グループディスカッション		お礼状の作成	
第11回	見学実習班別事後指導/報告書について		報告書の作成	
第12回	保育の中のあそび①/遊びの考え方・実践		遊びを実践する	
第13回	保育の中のあそび②/わらべうた遊びについて		遊びを実践する	
第14回	保育における安全管理/施設運営や経営		安全管理についてのレポート	
第15回	まとめ/実習直前の留意点		保育実習Ⅰ（施設）に向けての準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 感想などの課題を提出すること			
小テスト等	なし			
成果発表	10％ 発表の状況を点数にします			
受講態度他	60％ 授業中の私語や欠席・遅刻など、保育者にふさわしくない受講態度は減点となります			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	提出物は必ず期限までに出すようにしてください。授業中の積極的な質問は大いに歓迎します。 授業内容や担当者が前後することがあります。			
教科書	「実習の手引き」（大学で作成・配布します）			
指定図書	特になし			
参考図書	幼稚園教育要領・保育所保育指針 その他授業内で紹介します			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバス参照		メールアドレス	

授 業 科 目	幼児教育実習Ⅰ【実習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	原 陽一郎・原田 博子・北村 真理		単 位	2
授業の目的 と概要	幼稚園での実習を通して、これまで大学で習得した知識と技術を活かして、実際の保育の場面における様々な場面で、子どもの発達に応じた援助の方法を把握しながら、専門職としての幼稚園教諭という仕事への理解を深める。			
到達目標	(1) 一人ひとりの子どもに対する理解を深め、幼児の生活や遊び、発達の特徴を説明することができる。 (2) 幼稚園教諭としての職務内容を理解し、子どもの発達段階や年齢に応じた援助ができるようになる。 (3) 家族とコミュニケーションがとれるようになる。 (4) 地域との連携を含め、幼稚園の子育て支援センターとしての社会的役割について説明することができる。 (5) 幼稚園教諭としての倫理、職責を自覚する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	幼児教育実習直前ガイダンス		実習の手引き	
第2回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第3回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第4回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第5回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第6回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第7回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第8回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第9回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第10回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第11回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第12回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第13回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第14回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第15回	事後指導		各自、実習園で実習（2週間）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50％：実習日誌、実習先に関する事前学習、実習計画書、実習報告書			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50％：実習園からの評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	定められている履修要件に留意し、「幼児教育実習指導」の受講を前提とする。			
教科書	「実習の手引き」（「幼児教育実習指導」の授業にて配布）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	木曜日2限		メールアドレス	

授 業 科 目	幼児教育実習Ⅱ【実習】		開 講 時 期	通年
担 当 教 員	薄 千里・原 陽一郎		単 位	4
授業の目的 と概要	幼稚園での実習を通して、これまで大学で習得した知識と技術を活かして、実際の保育の場面における様々な場面で、子どもの発達に応じた援助の方法を把握しながら、専門職としての幼稚園教諭という仕事への理解を深める。また、幼児と実際にかかわることを通して幼児理解を深め、幼稚園教諭としての倫理、職責について学ぶ。			
到達目標	(1) 一人ひとりの子どもに対する理解を深め、幼児の生活や遊び、発達の特徴を説明することができる。 (2) 幼稚園教諭としての職務内容を理解し、子どもの発達段階や年齢に応じた援助ができるようになる。 (3) 家族とコミュニケーションがとれるようになる。 (4) 地域との連携を含め、幼稚園の子育て支援センターとしての社会的役割について説明することができる。 (5) 幼稚園教諭としての倫理、職責を自覚する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 幼児教育実習直前ガイダンス			実習の手引き	
第2回 幼稚園における実習			各自、実習園で実習 (4週間)	
第3回 幼稚園における実習			各自、実習園で実習 (4週間)	
第4回 幼稚園における実習			各自、実習園で実習 (4週間)	
第5回 幼稚園における実習			各自、実習園で実習 (4週間)	
第6回 幼稚園における実習			各自、実習園で実習 (4週間)	
第7回 幼稚園における実習			各自、実習園で実習 (4週間)	
第8回 幼稚園における実習			各自、実習園で実習 (4週間)	
第9回 幼稚園における実習			各自、実習園で実習 (4週間)	
第10回 幼稚園における実習			各自、実習園で実習 (4週間)	
第11回 幼稚園における実習			各自、実習園で実習 (4週間)	
第12回 幼稚園における実習			各自、実習園で実習 (4週間)	
第13回 幼稚園における実習			各自、実習園で実習 (4週間)	
第14回 幼稚園における実習			各自、実習園で実習 (4週間)	
第15回 事後指導			各自、実習園で実習 (4週間)	
成 績 評 価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	―			
レポート	50%：実習日誌、実習先に関する事前学習、実習計画書、実習報告書			
小テスト等	―			
成果発表	―			
受講態度他	50%：実習園からの評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	定められている履修要件に留意し、「幼児教育実習指導」の受講を前提とする。			
教科書	「実習の手引き」(「幼児教育実習指導」の授業で配布する)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	木曜日1限	メールアドレス		

授 業 科 目	幼児教育実習指導【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	薄 千里・原 陽一郎・原田 博子・今釜 亮・岡山 万里・北村 真理		単 位	1
授業の目的と概要	幼稚園実習を円滑に進めていくことができるようにするために、教育現場としての幼稚園、教育の対象となる幼児を理解すること、実習生として求められる知識、技術、態度を習得することを目的とする。概要としては実習前、実習中、実習後を見通して、一人ひとりが計画的に実習に取り組むことができるようになることを目指す。そのため、指導計画の立案や教材研究を通して、これまで各教科で学習した知識や技術を実習場面でいかに活用するか、実習の意義や目的とは何かについて学ぶとともに、実習に向けての具体的な手続きや書類、実習園との連絡や打ち合わせ、実習上の留意点などを学ぶ。			
到達目標	①教育実習の意義や目的、内容、ならびに方法が説明できる。 ②実習上の留意点について説明することができる。 ③幼稚園の目的や役割、幼児の幼稚園での生活を理解できる。 ④指導計画の立案や教材研究ができる。 ⑤自己の実習課題を明確にすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 実習オリエンテーション：実習の意義や目的、実習内容と評価について			幼稚園教育要領を読む	
第2回 幼稚園の教育内容の多様性の理解			幼稚園の歴史について復習する	
第3回 実習園の保育内容の理解			実習園の保育内容について情報収集する	
第4回 実習計画の作成（各自の課題を明確にする）			実習計画書を作成し提出する	
第5回 実習記録の意義と方法：幼児の観察と記録の取り方			ビデオを基に観察記録を作成する	
第6回 実習日誌の作成Ⅰ：実習日誌の書き方			ビデオを基に実習日誌を作成する	
第7回 教材研究Ⅰ 運動遊びを中心に			課題②教材研究	
第8回 教材研究Ⅱ 製作活動を中心に			教材研究	
第9回 教材研究Ⅲ 表現遊びを中心に			教材研究	
第10回 指導案の作成			課題③指導案の作成	
第11回 指導案の作成と模擬保育Ⅰ 運動遊びを中心に			課題④模擬保育の準備	
第12回 指導案の作成と模擬保育Ⅱ 表現遊びを中心に			模擬保育の準備	
第13回 実習直前オリエンテーション			課題の設定	
第14回 実習事後指導			各自の振り返り	
第15回 実習事後指導			課題の設定	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	―			
レポート	60％：課題の提出状況と取り組みを評価			
小テスト等	―			
成果発表	20％：模擬保育への取り組み			
受講態度他	20％：模擬保育およびディスカッションへの参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	幼児教育実習履修のための必修科目となるため、実習生としての意識を持って積極的に参加すること。 無断欠席、遅刻などについては厳しく対応する。 授業のときには、常に「実習の手引」を持参すること。			
教科書	「実習の手引き」（授業中に配布）			
指定図書	なし			
参考図書	随時紹介する			
オフィスワー	木曜日1限		メールアドレス	

授 業 科 目	幼児理解【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	板井 修一		単 位	1
授業の目的と概要	この授業は、初等教職課程授業科目の生徒指導、教育相談および進路指導等に関する科目の一つで、幼児理解の理論と方法について学ぶものである。 具体的には、幼児期の子どものさまざまな心理的問題に的確に対応するために必要となる、幼児期の子どもの心理的特質と発達に関する基本的知識について習得することを目的とする。 幼児期の子どもは、発達が未分化から分化の方向に向かう途上段階にある。言葉によるコミュニケーション能力が未熟であるために、遊びや行動観察をとおして、幼児理解を進めなければならないことを学習する。また、母子関係の発達の歪みによる問題も重要であり、母子関係を見る視点についても学習する。授業は講義形式で進めるが、映像資料を視聴することで理解を促す。			
到達目標	①子どもの発達と臨床の基盤となる理論を習得する ②幼児理解の具体的な技法である、観察、面接の実際を理解し、身につける。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 幼C (3) -②-3 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 関連する科目として、1年次科目の「生涯発達心理学Ⅰ」が、基礎的知識を学習するために役に立つ。また、この講義を基礎として			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	幼児理解の必要性		幼児理解の欠如や不足から起きた事件・事故について調べまとめる	
第2回	幼児理解の基盤となる発達理論と発達の法則 基本的な発達理論 発達の法則		配布資料をもとに復習	
第3回	身体発達とこころの発達 身体発達とこころの発達の関連		配布資料をもとに復習	
第4回	知性の発達 子どもは世界をどのように理解しているのか		子ども独特の世界理解(アニミズム等)を表す子どもの表現を収集する	
第5回	言葉の発達と意義 言葉以前のコミュニケーション 言葉獲得の道筋 言葉の役割		幼児期独特の言葉の問題と特徴について調べまとめる。	
第6回	子どもの人間関係 母子関係の成立 分離・独立 友達関係の広がり		自分の子ども時代のアルバムを振り返り、自分の母子関係について考える。	
第7回	幼児理解のためのアセスメント 行動観察 遊び 面接 遊戯療法		期末レポート作成のための資料収集	
第8回	さまざまな子どもの理解と保護者支援 さまざまな子ども(発達障がい等) 治療教育 保護者支援のポイント		期末レポート作成のための資料整理と執筆	
第9回	－		－	
第10回	－		－	
第11回	－		－	
第12回	－		－	
第13回			－	
第14回			－	
第15回			－	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	80％(期末レポート60％、小レポート20％) 小レポートは、4回目終了時に課題を提示する。			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の妨害となる私語は厳しく注意する。 授業外の学習課題として小レポートの提出を求める。評価の対象とするので、遅滞することなく提出をするように。			
教科書	教科書は使用しない。毎回、資料を配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、適宜紹介をする。			
オフィスワー	火曜日の3時間目		メールアドレス	

授 業 科 目	ライフマネジメントⅠ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	藤原 隆信・大橋 健治・徳永 彩子		単 位	2
授業の目的と概要	もっと人前で自由闊達に話せればいいのにと悩んでしまう。友人と旅行に行きたいと思うが資金が足りない。彼女から求婚されたがまだ結婚するには早いかと悩んでしまう。このように人生は問題の連続である。問題とは“あるべき状態と現状のギャップ”である。人生をより豊かなものにしていくためには、そのような問題と向き合い解決していかねばならない。解決の方法は色々であるが、本授業ではより合理的な方法として問題解決の手法を学んでいく。授業の目的を達成するためにTBL（Team-Based Learning）を導入する。この授業では、TBLというアクティブ・ラーニングの手法によって、より良い自律的学習をすることをめざす。			
到達目標	1. 問題を他人任せにせず自律的にとらえることができる。 2. 問題を問題解決の手順にそって解決していこうとする姿勢が保てる。 3. チームとして協力し合いながら問題解決に臨める。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業）		シラバスの内容の吟味と履修の意思決定	
第2回	教科書1限目：問題解決能力を身につけよう（小テスト①）		受講ノートの指示に沿った教科書1限目の事前学修・事後学修	
第3回	教科書1限目に関するケーススタディ①		ケース①の実施と振り返り	
第4回	チームビルディング演習		継続して受講予定の学生は必ずチームビルディング演習に参加すること	
第5回	教科書2限目：問題の原因を極め、打ち手を考える（小テスト②）		受講ノートの指示に沿った教科書2限目の事前学修・事後学修	
第6回	教科書2限目に関するケーススタディ②		ケース②の実施と振り返り	
第7回	教科書3限目：問題の原因を極め、打ち手を考える（小テスト③）		受講ノートの指示に沿った教科書3限目の事前学修・事後学修	
第8回	教科書3限目に関するケーススタディ③		ケース③の実施と振り返り	
第9回	インタラクティブ・レクチャー（教科書とケーススタディのまとめ）		小テスト①②③の振り返り	
第10回	問題の発見と解決演習（チーム討議→チーム代表選出）		与えられたケースから問題を発見し解決策を探る	
第11回	問題の発見と解決演習（チーム代表によるクラス発表）		チーム代表の問題解決案のブラッシュアップ（力を結集）	
第12回	問題の発見と解決演習（チーム代表によるクラス発表）		授業内の全体学修：チーム代表の発表内容の評価	
第13回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション）		成果発表の準備と振り返り	
第14回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション） 受講ノートの提出		成果発表の準備と振り返り	
第15回	授業のまとめと振り返り 受講ノートの返却		過去14回の授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20％ 受講ノートの提出（最終ページに授業全体の振り返りを必ず記述のこと）（受講ノートは最終回に返却します）			
小テスト等	15％ 教科書1限目（5％）、2限目（5％）、3限目（5％）			
成果発表	20％ オーラル・プレゼンテーション			
受講態度他	45％ TBLへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように本授業はTBLで運営する。TBLの前提は学生による事前学習への誠実な取り組みである。また、授業への無遅刻・無欠席での参加も重要な要素である。やむを得ない遅刻・欠席は可能な限り事前に連絡を入れること。私語や居眠りは当然のこと、主体的・能動的に学習しようとしない学生は授業の場にいたとしても出席として認めない。なお、初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し受講に関するルールについて説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加すること。			
教科書	『世界一やさしい問題解決の授業』（渡辺健介、2007、ダイヤモンド社、1,200円＋税）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	ライフマネジメントⅡ【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大橋 健治・徳永 彩子		単 位	2
授業の目的と概要	ライフマネジメントⅠでは、問題解決の考え方と手法を学んだ。しかし、人は人生のさまざまな問題に直面して、必ずしも合理的な問題解決を行えるわけではない。ヒューリスティック（思考の短絡化）やバイアス（偏見）によって簡単に歪められてしまう。そこで、ライフマネジメントⅡでは、女性としての交渉力に焦点を当て、次のようなことを考えていくことを目的とする。 1. 男女共同参画が必要な現代社会において、我々がいかにジェンダーバイアス（男女の役割に関する固定観念）に囚われているかを知る。 2. 男女の役割に関する固定観念の呪縛から逃れ、女性らしい交渉力を身につけるためにはどうすれば良いか。 授業の目的を達成するために、TBL（Team-Based Learning）とロールプレイング法を導入する。そのことによって、わかるからできるを実現する授業をめざす。			
到達目標	1. 女性のジェンダーバイアスを、教科書にそって第三者と議論をしながら考えることができる。 2. 自らが理想とする交渉スタイルを、第三者に語ることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業）		シラバスの内容の吟味と履修の意思決定	
第2回	求めようとししない女性たち（プリント1）		受講ノートの指示に沿ったプリント1の事前学修・事後学修	
第3回	他人に認められるのを待っていませんか？（プリント2）		受講ノートの指示に沿ったプリント2の事前学修・事後学修	
第4回	チームビルディング演習		継続して受講予定の学生は必ずチームビルディング演習に参加すること	
第5回	そもそも「アサーティブ」って何？ 「言う」技術		受講ノートの指示に沿った教科書1章&第2章の事前学修・事後学修	
第6回	「言う」技術 ロールプレイング		設題に沿ったのロールプレイングを考えてくること	
第7回	「伝える」技術		受講ノートの指示に沿った教科書3章の事前学修・事後学修	
第8回	「伝える」技術 ロールプレイング		設題に沿ったのロールプレイングを考えてくること	
第9回	相手を「知る」技術		受講ノートの指示に沿った教科書4章の事前学修・事後学修	
第10回	相手を「知る」技術 ロールプレイング		設題に沿ったのロールプレイングを考えてくること	
第11回	「Give & Take」から「Give & Given」へ		受講ノートの指示に沿った教科5章の事前学修・事後学修	
第12回	「Give & Take」から「Give & Given」へ ロールプレイング		設題に沿ったのロールプレイングを考えてくること	
第13回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション）		成果発表の準備と振り返り	
第14回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション） 受講ノートの提出		成果発表の準備と振り返り	
第15回	授業のまとめと振り返り 受講ノートの返却		過去14回の授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ 受講ノートの提出（最終ページに授業全体の振り返りを必ず記述のこと）（受講ノートは最終回に返却します）			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ オーラル・プレゼンテーション			
受講態度他	50％ アクティブ・ラーニングへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように本授業はTBL（Team-Based Learning）とロールプレイング法で運営する。これらのアクティブ・ラーニングの前提は学生による事前学修への誠実な取り組みである。また、授業への無遅刻・無欠席での参加も重要な要素である。やむを得ない遅刻・欠席は可能な限り事前に連絡を入れること。私語や居眠りは当然のこと、主体的・能動的に学修しようとする学生は授業の場にいたとしても出席として認めない。なお、初回の授業で本授業専用の受講ノートの配付し受講に関するルールについて説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加すること。			
教科書	『アサーティブー「自己主張」の技術』（大串亜由美、PHPビジネス新書、800円＋税） その他プリントを配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日の昼休み（大橋）、授業の前後（徳永）		メールアドレス	

授 業 科 目	量的調査法【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	森 康司		単 位	2
授業の目的 と概要	社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と使い方を学ぶ。与えられたデータを用いて、重回帰分析を利用し、結果を説明することができる。重回帰分析以外の計量モデルがあることを知り、その一部について利用できる。ソフトウェアを使って、重回帰分析、分散分析、因子分析などを利用することができる。			
到達目標	①重回帰分析の基本的な考え方や方法を説明することができる ②重回帰分析以外のいくつかの計量モデルについて、その基本的な考え方や方法を説明することができる ③与えられたデータについて、統計解析ソフトを用いて多変量解析を行うことができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-4 社会現象を経験的に調査し、結果を分析する方法についての基本的な知識・技能を身に付けている。 2年次に開講された「調査データの扱い方」の応用科目です。 この科目は一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士の資格を取得するための選択科目（E科目：多変量解析の方法に関する科目）に対応しています。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			第2章を読み、基本的な操作方法を思い出す	
第2回 統計分析の基礎			第3章の予習・復習	
第3回 クロス集計、独立性の検定（解説編）			第4章の予習	
第4回 クロス集計、独立性の検定（実践編）			第4章の復習	
第5回 平均値の差の検定			第5章の予習	
第6回 分散分析（解説編）			第5章の予習・復習	
第7回 分散分析（実践編）			第5章の予習・復習	
第8回 単回帰分析			第6章の予習・復習	
第9回 相関と偏相関			第7章の予習・復習	
第10回 重回帰分析（解説編）			第8章の予習	
第11回 重回帰分析（実践編）			第8章の予習・復習	
第12回 ダミー変数と回帰診断（解説編）			第9章の予習	
第13回 ダミー変数と回帰診断（実践編）			第9章の予習・復習	
第14回 因子分析（解説編）			第11,12章の予習	
第15回 因子分析（実践編）			第11,12章の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％			
小テスト等	50％			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・統計分析ソフトSPSSを操作して分析を行ってもらいます。SPSSの操作方法是授業内でも説明しますが、必要に応じて参考図書（C科目で使用した教科書）を読んで下さい。 ・遅刻3回で欠席1回に換算します。なお、5回を超えて欠席した場合、単位を認定しません。 ・遅刻・欠席が多いと授業について行けず、到達目標達成の妨げになるので注意してください。			
教科書	村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士編『SPSSによる多変量解析』オーム社			
指定図書	なし			
参考図書	石村貞夫・石村友二郎『SPSSでやさしく学ぶ統計解析（第5版）』東京書籍（C科目の教科書）			
オフィスアワー	金曜日1～4限の休み時間	メールアドレス		

授 業 科 目	旅行韓国語【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	羅 義圭		単 位	2
授業の目的 と概要	近頃、日本では東京オリンピックが開催される予定でもあり、韓国人の若者の日本への関心が高まっています。一方日本でも若者の韓国のK-popやファッション、ドラマ等への関心が高まっており、韓国への旅行が盛んになっています。 本講義では、交通機関や宿泊先、買い物やコンサートチケット予約など、旅行の際に様々な場面で使われる会話の表現を身に付け、前期の韓国語作文のスキルアップを目指します。			
到達目標	①韓国語のコミュニケーションスキルアップ。 ②様々な場面でとっさに使える韓国語を身につけ、ネイティブとの意思疎通に努める。 ③韓国語で声をかけることに自身ももって、もっと広く「行きたい・見たい・体験したい」気持ちを向上させる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 アジアの諸言語を用いて基礎的なコミュニケーションを図ることができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス、自己紹介		韓国への関心のことを調べる	
第2回	空港・案内		韓国の空港や場所、特徴を調べる	
第3回	交通		地下鉄路線図の読み方を調べる	
第4回	宿泊		ホテルやゲストハウス等について調べる	
第5回	料理		自分が好きな韓国料理について調べる	
第6回	レストラン・カフェでの注文		メニューや値段について調べる	
第7回	道を尋ねる		方向と関連のある単語を調べる	
第8回	中間テスト		まとめ、復習、テスト勉強	
第9回	韓国の観光地		観光地を調べる	
第10回	買い物		人気のある韓国のお土産について調べる	
第11回	コンサート・映画のチケットの購入		人気公演と映画を調べる	
第12回	韓国での各地のイベント・祭り		イベントや祭り・グルメについて調べる	
第13回	ファストフード店での注文		ファストフード店を調べる	
第14回	病院・トラベル		緊急の時に利用できる施設について調べる	
第15回	2人組で発表を行なう。		これまで勉強した旅行の場面をしっかり復習する	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	40％（単語および会話文のブレーズの小テスト）			
成果発表	40％（韓国語スキット）			
受講態度他	20％ 出席点検（受講態度、積極性などを考慮）			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	①韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人、または準じるレベル(相談)を対象とする。 ②欠席が5回を超えると評価しない(就職活動、病気、その他の理由による欠席は5回の中でカウントする)。 ③毎回の授業終了時に、授業に関する感想・質問等を記入したレポート用紙を回収し、コメントをつけて次回の授業で返却する。			
教科書	鶴見 ユミ 『旅行韓国語会話』 Jリサーチ出版			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	火曜日・木曜日・金曜日の昼休み後		メールアドレス	

授 業 科 目	旅行実務Ⅰ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	岩井 朝子		単 位	2
授業の目的 と概要	本授業は、「国内旅行業務取扱管理者」試験の試験科目の一つである「国内旅行実務」に対応した科目で、旅行業のあらましを理解し、旅行業法や旅行業約款、日本各都道府県の地理的位置、気候、特産物、祭り、温泉や庭園などの観光施設について学び、簡潔にわかりやすく説明できるようになることを目的とする。 授業では、プリントでの説明と過去問を解きながら旅行業法や旅行業約款について学ぶ。国内地理については、北海道を例に挙げて説明する。			
到達目標	1 日本の代表的な国立公園や世界遺産について説明することができる 2 旅行業法の目的について説明することができる 3 旅行業取扱管理者の仕事内容について説明することができる 4 旅行業の現状について説明することができる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 国内旅行業務取扱管理者試験の概要説明 日本の都道府県 山脈 河川		日本の都道府県の県庁所在地や特産物について調べる	
第2回	旅行業法の目的 旅行業の定義 旅行業等の種類		旅行業法を調べー読してみる	
第3回	旅行業の登録 登録事項		旅行業の登録事項について調べる	
第4回	旅と旅行業の歴史 旅行業の課題		旅行会社が抱える課題についてネットで調べる	
第5回	商品と旅行業務		旅行業務について具体的な業務をまとめる	
第6回	国内地理 北海道を例として 日本の名数（三大〇〇など）		北海道の観光地・郷土料理などについて調べる	
第7回	旅行業務取扱管理者の業務 外務員証		旅行業務取扱管理者の仕事について調べる	
第8回	広告 誇大広告の禁止		旅行会社の広告を集めて共通点について調べる	
第9回	旅程管理 旅行業協会		旅行業協会の業務について調べる	
第10回	営業保証金 弁済業務保証金制度		旅程が保証できなかった場合について調べる	
第11回	旅行業約款 5つの契約		5つの契約の違いについてまとめる	
第12回	旅行契約の締結 変更 解除		旅行者が守るべき法律について考える	
第13回	損害賠償 特別補償		旅行者の責任について調べる	
第14回	変更補償金		どのような場合に変更補償金を支払う必要があるのか考える	
第15回	運送機関と宿泊機関		都市や空港のコード（略号）について調べる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％			
レポート	30％ 授業内で指定した課題のレポートを提出する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 建設的で積極的な授業参加態度を成績評価に加える。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には前回の復習を行ってから参加すること。また上記以外の課題を授業内で指定することもありうる。			
教科書	旅行業務入門（第19版） JTB総合研究所			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	旅行実務Ⅱ【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	岩井 朝子		単 位	2
授業の目的 と概要	本授業は、「国内旅行業務取扱管理者」試験の試験科目の一つである「国内旅行実務」に対応した科目で、その中で最も出題率の高いJR 6 社の運賃・料金の計算を中心に学び、旅行実務を行う上で必要な基本的知識を習得することを目的とする。また、同時に国内地理の知識も深めていく。 授業では、国内航空運賃、フェリー運賃、貸し切りバス運賃、ホテル・旅館の各種料金の計算を、実際の試験問題を解きながら学習し、正確に計算ができる能力を培う。また、日本各地の国立公園について調べ、プレゼンテーションできるようになる。			
到達目標	1 JRの運賃と料金について違いを説明できる 2 JRの運賃・料金を計算できる 3 国内航空券の予約、取消料、払戻し料について説明できる 4 日本の世界遺産について説明できる 5 日本の国立公園について説明できる			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション 国内旅行業務取扱管理者試験の概要説明 JRと国内航空の年齢区分		雑誌や新聞などのツアー広告を集めて、記載事項をチェックする	
第 2 回	JRチケットの発売日と有効期間（航空券との違いを比較）		JR時刻表を見て学んだことを確認する	
第 3 回	JR運賃と料金の違い JR 運賃計算の基本		自分が利用している電車の運賃と料金について調べる	
第 4 回	通過連絡運輸 JR本州 3 社とJR九州・北海道・四国をまたがって利用する場合		営業キロ、換算キロなど用語についてまとめる	
第 5 回	学割 往復割引		割引適用条件について調べる	
第 6 回	JR団体割引運賃計算 指定保証金		最新の特例や割引についてネットなどで調べる	
第 7 回	JR料金計算の基本 寝台料金		料金と運賃の違いについてまとめる	
第8回	JR料金 在来線と新幹線の乗継割引		最新の乗継割引についてネットなどで調べる	
第 9 回	JR料金 その他の乗継割引		過去問を解いて問題に慣れる	
第10回	JR運賃・料金の変更・払い戻し		払い戻し料金についてまとめる	
第11回	JR グリーン車料金		グリーン車の料金について調べる	
第12回	宿泊約款 宿泊料金		雑誌や新聞などのツアー広告から宿泊料金設定について考える	
第13回	国内航空運賃・料金		各航空会社の運賃・料金をネットなどで調べ比較する	
第14回	貸し切りバス運賃・料金		過去問の貸切バス運賃を計算してみる	
第15回	フェリー運賃・料金		フェリーの運賃について調べる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	50％ 授業内に小テストを行う。			
成果発表	25％ 授業内に国立公園または世界遺産についてのプレゼンテーション（5～10分程度）を行う。			
受講態度他	25％ 建設的で積極的な授業参加態度を成績評価に加える。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には前回の復習を行ってから参加すること。また上記以外の課題を授業内で指定することもありうる。			
教科書	旅行業務取扱管理者試験 テキスト ③国内旅行実務 2018年対策 国内総合対応 大原出版			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	リスクマネジメント【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	守田 弘美		単 位	2
授業の目的と概要	本講義では、リスクマネジメントのプロセスおよびリスクの処理技術（保険）について学び、その重要性を理解し、適切な対応ができるようになることを目的とします。具体的には、リスクマネジメントの処理技術として最も利用しやすく、普及している保険（生命保険、損害保険、第3分野保険）を中心に基礎的な知識を身につけ、個人および企業におけるリスクの評価、対応ができるようになることを目指します。			
到達目標	①リスクマネジメントのプロセスとその処理技術の分類について説明することができる。 ②生命保険、損害保険、第3分野保険の各保険商品の特徴、違いを説明することができる。 ③保険証券から保障内容を読み取り、契約者にとって適切な内容となっているかを判断することができる。 ④本やインターネットなどから情報を収集し、リスクへの対応、解決策を自ら調べることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション：授業全体の概要説明、リスクマネジメントとは何か？		予習不要。リスクマネジメントのプロセスについて復習すること。	
第2回	生命、医療に関する保険の概要、公的保障（社会保障）と私的保障の違い		予習として公的保障にはどのようなものがあるか調べておくこと。	
第3回	生命保険（死亡保険）		具体的商品に関する課題をネットを使って各自調べること。(宿題)	
第4回	生命保険（生存保険、生死混合保険）		死亡、生存、生死混合の各保険について復習すること。	
第5回	生命保険（特約）、第3分野保険		具体的商品に関する課題をネットを使って各自調べること。(宿題)	
第6回	必要保障額の考え方		必要保障額の計算ができるように復習すること。	
第7回	保険証券の読み取り方		様々な保険証券の読み取りに関する課題をすること。(宿題)	
第8回	損害保険（火災保険）		授業で使用した資料を熟読、復習をすること。	
第9回	損害保険（自動車保険）		具体的商品に関する課題をネットを使って各自調べること。(宿題)	
第10回	損害保険（傷害保険）		授業で使用した資料を熟読、復習をすること。	
第11回	損害保険（賠償保険）		授業で使用した資料を熟読、復習をすること。	
第12回	企業リスクマネジメント（人的損失のリスク）		指定する課題を実施すること。(宿題)	
第13回	企業リスクマネジメント（財産損失と収入減少のリスク）		指定する課題を実施すること。(宿題)	
第14回	企業リスクマネジメント（賠償責任のリスク）		授業で実施した課題の資料を熟読・復習すること。	
第15回	まとめ		なし	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％ リスクマネジメントのプロセスや証券読み取り、各種保険について出題。60分間で行われる試験の点数（100点満点）			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	30％ 課題（宿題）についてや、その他適宜授業内で取り上げるテーマについて個人やグループで口頭発表			
受講態度他	30％ 授業内でのディスカッションやグループワークの参加度や貢献度を含む。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	使用する・しないにかかわらず、毎回電卓を持参してください。 欠席、遅刻は可能な限り理由とともに事前連絡すること。事前連絡できない場合は次回出席時に理由とともに報告してください。 。やむを得ない事情の欠席以外は成績評価に影響します。			
教科書	初回授業の際に購入方法について説明します。初回は教科書は不要です。 公益財団法人生命保険文化センター『ほけんのキホン』公益財団法人生命保険文化センター/テキスト以外に適宜プリントを配布			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	理論社会学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	花野 裕康		単 位	2
授業の目的と概要	社会学は現実の社会現象を材料に研究を進める学問だが、それら個々の社会現象を説明するための骨組みが「理論」である。個々の具体的な社会現象に共通の骨組みであるから幾分抽象的な面持ちだが、飽くまで現実の社会現象をよりよく説明するために存在することを忘れてはならない。この授業では、具体的な社会現象への説明能力を増大させるものとしての「理論」という位置付けで、社会学の諸理論を学ぶ。そのことで、受講者はそれら理論を用いて、目の前にある社会現象をよりよく説明できるようになることを目的とする。「理論の現実に対する力」を思い知るための授業であるから、常に現実の社会現象を念頭に授業するし、受講者もその心算で受講することとなる。授業内では議論を投げかけるが、「分かりません」は厳禁である。唸りながらも考えることが要求される。なお他授業で既習の題材が登場しても、本授業は新たに理論的視点から扱うので同じ内容にはならない。			
到達目標	①社会学における理論の「立ち位置」と現状とを簡潔に述べることができる。 ②有力な社会学理論を挙げて、その概略を述べることができる。 ③社会学理論を実際の社会現象を用いて説明し、さらにそのことで社会学理論の説明能力を示すことができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(3) -②-1 社会学分野共通の基礎的な知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 本科目は、現代社会学概論I,IIや社会学入門、社会学史に続いて、（現代）社会学の理論的な枠組みを提供するための最重要科目です。本科目を受講することで、各論としての「〇〇社会学（〇〇には産業、家族等の語句が入る）」や「〇〇社会論（同様）」等の開講科目への理解もスムーズに行きます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 実証主義と社会進化論			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第2回 マルクスの包括的社会理論			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第3回 デュルケームの社会学主義			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第4回 構造機能主義			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第5回 社会システム論			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第6回 ウェーバーの社会理論			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第7回 シンボリック相互作用論			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第8回 エスノメソドロジー			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第9回 社会構造とその「担い手」			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第10回 構造化理論			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第11回 統合理論と紛争理論			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第12回 フェミニズム			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第13回 ポストコロニアル・ポスト構造主義の理論			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第14回 グローバリゼーションとリスクの社会理論			授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第15回 社会理論の総括と展望			「総括の小論」を作成し提出	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	100％（毎回の授業にて実施するものと、授業後に自宅で解答してもらうものがある。その積み重ねで評価する。なお小テスト等は次週授業開始時[その週休んだ場合はそれ以降の授業開始時、また授業終了後はオフィスアワー時]に返却する）			
成果発表	なし			
受講態度他	欠席や授業に積極的に参加しない等、受講態度が芳しくない受講者に関しては、小テストを受け取らない。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること（病欠や忌引きであってもその回の小テストが受けられない事には変わりはないので要注意）。これまでの自らの経験と知識とを総動員しながら考えつつ受講すること。講義者（花野）とのやり取りに積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。特に（許可された場合以外での）スマホ操作、居眠り、他の受講者に迷惑がかかる行為は厳禁とする。見つけ次第退出もしくはこれに代わる措置を取る。その代わり授業中に5分休憩を取る。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜から木曜の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス		

授 業 科 目	臨床心理学各論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	藤山 奈々		単 位	2
授業の目的 と概要	臨床心理学各論においては、臨床心理学概論で学んだことを基礎として、代表的な心理療法ならびにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応および限界などについてもふれながら、より専門的かつ実践的な臨床心理学について学びます。臨床心理学がさまざまな臨床現場においてどのように用いられているかについて学びます。さらに、臨床心理学的支援において重要なプライバシーへの配慮や、他職種との良好なコミュニケーションのもとで行われる連携や支援、訪問による地域支援などについてもふれていきます。それぞれの現場やクライアントの特徴を踏まえて臨床心理学的支援について具体的に学んでいきます。			
到達目標	1. 代表的な心理療法ならびにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応および限界について理解し、説明することができる。 2. 医療・福祉・教育などそれぞれの臨床現場における臨床心理学の活用のされ方の実際について理解し、説明することができる。 3. それぞれの臨床現場によって求められるものの異同を、それぞれの現場の特徴やクライアントの特徴をもとに理解し、説明することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 導入	臨床心理学の専門性について		臨床心理学概論についての復習をしておく	
第2回 代表的な心理療法①	精神分析、来談者中心療法、遊戯療法など		授業内容の復習	
第3回 代表的な心理療法②	行動療法、認知行動療法、応用行動分析、遊戯療法など		授業内容の復習	
第4回 代表的な心理療法③	心理劇、SST、回想法、イメージ療法など		小レポート	
第5回 医療領域における心理臨床①	精神科・心療内科における心理臨床		授業内容の復習	
第6回 医療領域における心理臨床②	小児・高齢者に対する心理臨床		小レポート	
第7回 教育領域における心理臨床①	スクールカウンセリング		授業内容の復習	
第8回 教育領域における心理臨床②	特別支援教育と心理臨床		授業内容の復習	
第9回 福祉領域における心理臨床①	障害児（者）支援		小レポート	
第10回 福祉領域における心理臨床②	児童福祉における心理臨床		授業内容の復習	
第11回 産業領域における心理臨床	就労支援、メンタルヘルスとストレスチェック		授業内容の復習	
第12回 司法矯正領域における心理臨床	非行少年への支援、被害者支援		小レポート	
第13回 臨床心理学的地域援助①	災害等における地域支援		授業内容の復習	
第14回 臨床心理学的地域援助②	訪問による支援や他職種への支援		期末レポートの準備	
第15回 臨床心理学的地域援助③	心の健康教育		期末レポートの準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ミニレポート40％、期末レポート50％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（授業へ積極的に参加する姿勢を考慮いたします）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は受講者のみなさんの協力があつてはじめて成り立つものです。授業中の私語など他の受講者の迷惑となる行為は厳禁とします。			
教科書	講師作成資料を配布する			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	臨床心理学概論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	板井 修一		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、人間科学部でこれから学ぶ、人間理解と人間支援に関わるさまざまな科目の基礎となる臨床心理学を学びます(基礎科目)。人の心の働きと支援のための方法について、重要な視点や知識を臨床心理学という学問を通して学ぶ授業です。臨床心理学の基本的な概念や理論について理解し、説明できるようになることを目的とします。臨床心理学は、生きた人間の心に直接触れ、アプローチしながら形作られてきた学問領域です。そのために、臨床心理学は、他の学問領域とは異なり、独自の人間理解の視点や発想が生み出されて来ました。授業を通して、他の学問領域とは違う臨床心理学の独自性が理解でき、その視点を身につけることを目的とします。			
到達目標	1. 臨床心理学独自の人間理解の視点について説明できるようになる。 2. 臨床心理学の成り立ちについて説明することができるようになる。 3. 人間理解の方法としての心理アセスメントの意義について説明することができるようになる。 4. さまざまなこころの病について、その原因や具体的な症状について説明することができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 心C (3) -②-2 人間の心の発達段階における諸課題について説明することができる。 福C (3) -②-1 福祉専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-1 初等教育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 初C (3) -②-2 初等教育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。 初C (3) -②-3 初等教育を取り巻く社会・地域・家庭の状況について概要を説明することができる。 幼C (3) -②-1 幼児教育と保育の専門職に求められる倫理観や人間観を身に付けている。 幼C (3) -②-2 幼児教育と保育の専門職に求められる資質や知識・技能を身に付けている。2			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	臨床心理学とは何か 1：臨床心理学の理念・全体構造 臨床心理学の独自性、問題を抱えつつ生きることの援助		「医学モデル」と「成熟モデル」の違いについて整理する	
第 2 回	臨床心理学とは何か 2：臨床心理学の実践と研究 他職種とのコラボレーションの重要性、実践活動の有効性を裏付ける科学的研究の意義		「コラボレーション」の意味と意義について整理する	
第 3 回	臨床心理学とは何か 3：臨床心理学の歴史 精神分析学、行動療法、カウンセリング		授業内容と関連した配付資料を読む	
第 4 回	アセスメント1：アセスメントとは何か 診断とアセスメントの違い、アセスメントの手続き		授業内容と関連した配布資料を読む	
第 5 回	アセスメント2：検査法(質問紙法、投影法、知能検査、神経学的検査) 質問紙法によるパーソナリティアセスメントの体験的理解		授業で体験した心理テスト結果を分析・解釈し報告書作成	
第 6 回	アセスメント3：観察法・行動分析・生態学的アプローチ・初回面接 観察法によるアセスメントの体験的理解		課題(行動観察)についての報告書の作成	
第 7 回	異常心理学1：異常心理学とは何か・精神症状の分類 正常と異常の多元性、心理的機能障害としての各種精神症状		正常と異常の判断基準について復習する	
第 8 回	異常心理学2：統合失調症 統合失調症の臨床症状、類型、心理的援助		授業中に指示したウェブサイトから関連ページを視聴	
第 9 回	異常心理学3：気分障害・不安障害 うつ病の臨床症状、気分障害の治療と心理援助のポイント		授業中に指示したウェブサイトから関連ページを視聴	
第10回	異常心理学4：身体表現性障害と解離性障害 身体表現性障害と解離性障害の臨床症状、類型、心理的援助のポイント		授業中に指示したウェブサイトから関連ページを視聴	
第11回	異常心理学5：性同一性障害・摂食障害・人格障害 臨床症状と援助のポイント		授業中に指示したウェブサイトから関連ページを視聴	
第12回	発達臨床心理学1：乳幼児期の心理的問題 乳幼児期の発達課題、知的障害、自閉症、学習障害、注意欠陥/多動性障害、虐待		授業中に指示したウェブサイトから関連ページを視聴	
第13回	発達臨床心理学2：児童期・思春期・青年期の心理的問題 児童期・青年期の発達課題、不登校、いじめ、アイデンティティ獲得をめぐるさまざま		授業中に指示したウェブサイトから関連ページを視聴	
第14回	発達臨床心理学3：中年期・老年期の心理的問題 中年期・老年期の発達課題、中年期の心理的問題、老年期の心理的問題		授業中に指示したウェブサイトから関連ページを視聴	
第15回	総括 ばれまでの講義の重要ポイントのまとめ		授業中に指示したウェブサイトの関連ページを視聴	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験(60点満点)			
レポート	40% 4回の小レポート [(期日内提出5点+内容5点)×4回=40点]			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	授業の進行を妨げるような私語や離席については、適宜、注意をいたします。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学習内容が多いので、講義内容をしっかり聞いて下さい。配布されるプリントに書き込んだり、ノートをきちんとまとめることも大切です。漫然と講義を聞くのではなく、自己の体験や観察と照らし合わせながら受講してください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	河合隼雄著『カウンセリングの実践問題』誠信書房 河合隼雄著『心理療法序説』岩波書店			
オフィスアワー	火曜日の3時間目		メールアドレス	

授 業 科 目	臨床心理学基礎実習【実習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	酒井 均・森田 理香・藤山 奈々		単 位	1
授業の目的 と概要	1. 集団性精神療法のひとつである心理劇での役割体験を通し、自発性の向上や自己洞察を深める。 2. 表現療法を体験し、自己理解と他者理解を深める。 3. SSTやハンディキャップオリエンテーションを通して、社会性の技法や障害に対する洞察を深める。 受講生を3つのグループに分け、それぞれのグループごとに一人ずつ教員がテーマをもって実習に当たる。 3人の教員がローテーションしていく。テーマは心理劇、箱庭、SSTなどで実技を用いた体験型の授業である。			
到達目標	1. 対人援助に役立つ基本的な技法を身につける。 2. 自己洞察を深め、お互いに意見を交換できる。 3. 社会性を育てる技法の習得と障害に対する洞察ができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 本授業を受講するにあたって、「臨床心理学概論」および「臨床心理学各論」を事前に受講し、臨床心理学に関する基本的な知識を身に付けておくことが望ましいです。また、「臨床心理実習」では心理臨床の実際についての認識を深めることが出来ます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	心理劇とは	役割を通しての自己理解・他者理解	配布資料の通読	
第 2回	心理劇体験	ロールプレイング体験	体験についてのレポート作成	
第 3回	心理劇体験	子どもの頃の思い出	体験についてのレポート作成	
第 4回	心理劇体験	トレジャーズメッセージ	体験についてのレポート作成	
第 5回	心理劇体験	マジックショップ	5回の体験を通して、まとめのレポート作成	
第 6回	箱庭玩具による自己紹介		レポート作成	
第 7回	グループによる箱庭制作		レポート作成	
第 8回	臨床動作法		レポート作成	
第 9回	コラージュ制作① 気になる写真を切り取ろう		レポート作成	
第10回	コラージュ制作② 貼り付けて作品を作ろう		レポート作成	
第11回	ゲームによる自己発見・他者理解		レポート作成	
第12回	ハンディキャップオリエンテーション① 感覚障害を中心に		レポート作成	
第13回	ハンディキャップオリエンテーション② 発達障害を中心に		レポート作成	
第14回	SST① SSTとは、幼児SST、小学校SST、中学校SST		レポート作成	
第15回	SST② サバイバルスキル		レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 各教員による			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ 各教員による			
受講態度他	40％ 各教員による			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回の出席は必修、遅刻も厳禁。 グループでの協力が必要な回も多くあります。 また、実技を行うときは、服装、靴などに注意してください。詳しくは授業内でお知らせします。			
教科書	なし 各教員が資料を配布します			
指定図書	なし			
参考図書	各教員による			
オフィスアワー	酒井：水曜日12：30-13：00、森田：金曜日4限、藤山：月曜昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	臨床心理学特講【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	福田 恭介		単 位	2
授業の目的 と概要	臨床心理学の1側面について、認知行動療法を利用したペアレントトレーニング（ペアトレ）を通して学習する。ペアトレは、子どもの気になる行動について、子どもをトレーニングするのではなく、親（保護者）をトレーニングすることで子どもの気になる行動を変えていこうとする試みである。ペアトレでは、親（保護者）に子どもの行動の記録だけでなく、親（保護者）の行動（声かけ）の記録も求める。ペアトレによって、親（保護者）の子育てに関する考え方（認知）が変わり、子育て行動（行動）が変わっていきと、子どもの行動も変わっていく。なぜなら、子どもは、不適切な行動をしても親は注目しないけれども、適切な行動をしたときに親が注目してくれることを学ぶからである。このような親子の関わりを支援していくことで、親子関係が改善していくことを学ぶ。			
到達目標	1. 授業を聞いて、疑問点やコメントを記述できる。 2. ペアレントトレーニングや発達障害に関する本の内容を要約し、コメントを記述できる。 3. 伝えたいことを整理して口頭発表できる 4. 他人の発表に対してコメントを述べることができる。 5. 子育てに困難を抱える親（保護者）を支援するためのスキルに関する知識を身につけることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 関連科目 「知的障がい・発達援助の技法」 「知的障がい（コミュニケーション障がい）者の心理」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	心理学と臨床心理学		1年次で受講した「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」と「臨床心理学概論」を復習しておく	
第2回	臨床心理学における行動療法と認知行動療法		教科書の「まえがき」を読んでおく。	
第3回	発達障害を持つ子どもたち1（自閉症：ASD: Autism Spectrum Disorder）1		教科書のpp.93-94を読んでおく。	
第4回	発達障害を持つ子どもたち2（自閉症：ASD: Autism Spectrum Disorder）2		教科書のpp.139-141を読んでおく。	
第5回	発達障害を持つ子どもたち3（注意欠如多動性障害：AD/HD: Attention Deficit Hyperactivity Disorder）		教科書のpp.137-138を読んでおく。	
第6回	発達障害を持つ子どもたち4（学習症：LD: Learning Disorder）		教科書のpp.104-105を読んでおく。	
第7回	ペアレントトレーニングの実際		教科書のpp.17-58を読んでおく。	
第8回	学生によるペアレントトレーニング事例発表 1		教科書のpp.73-114を読んでおく。	
第9回	学生によるペアレントトレーニング事例発表 2		教科書のpp.115-141を読んでおく。	
第10回	学生によるペアレントトレーニング事例発表 3		教科書のpp.142-177を読んでおく。	
第11回	ペアレントトレーニングの実際：（1）観察と記録の仕方、(2) 子どもの望ましい行動を増やすには		教科書のpp.20-31を読んでおく。	
第12回	ペアレントトレーニングの実際：（3）できないときの手助けの仕方と環境の整え方		教科書のpp.40-58を読んでおく。	
第13回	ペアレントトレーニングの実際：(4) 子どもの困った行動を減らすには		教科書のpp.33-40を読んでおく。	
第14回	これまでのペアレントトレーニングで取り組んだ事例紹介		教科書のpp.73-177を読んでおく。	
第15回	ペアレントトレーニングを保育・教育現場、地域に広げていくには		教科書のpp.179-246を読んでおく。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ ①四択問題，②図表についての記述問題，③用語の記述問題 手書きのA4用紙のみ持ち込み可			
レポート	20％ 教科書中の「ペアレントトレーニングの実際」 p.17-63を所定の書式2ページ（裏表）以内にまとめ，最後に200字程度のコメントを書く。			
小テスト等	10％ 毎回の授業に対して(1)認識を新たにしたこと，(2)疑問点をコメント用紙に記入する。			
成果発表	15％ 教科書の指定された章をプレゼンテーションができるように準備し，グループで話し合っ役割分担しながら発表する。 @事例発表を聴く場合は，質問やコメントを述べる。			
受講態度他	5％ 授業に関するコメント内容			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	(1)遅刻をしない。 (2)私語をしないで授業を聞く。 (3)いねむりをしないで授業を聞く。			
教科書	福田恭介（編著） 「ペアレントトレーニング実践ガイドブック」 あいり出版			
指定図書	山上敏子（監）「お母さんの学習室」二瓶社 肥前精神医療センター情動行動障害センター・大隈紘子・伊藤啓介（編）「AD/HDをもつ子どものお母さんの学習室」二瓶社			
参考図書	R・キャンベル（編）「認知障害者の心の風景」福村出版			
オフィスワー	大学に来ているとき，あるいはメールを利用する。	メールアドレス		

授 業 科 目	臨床心理学特論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	針塚 進		単 位	2
授業の目的 と概要	臨床心理学の対象、研究の方法そして心理臨床実践の方法などを学び、臨床心理学とは何かを理解する。同時に臨床心理学の援助技法なども体験し、その理論と技法を理解する。			
到達目標	1．心理療法の基礎的な理論と方法、具体的には力動的心理療法と認知行動療法の基礎的な理論と方法を理解し、それぞれの方法に基づく学術論文を購読しレポートが作成できる。 2．子どもから高齢者までの生涯発達過程に関わる臨床心理学的アセスメント方法を習得する。具体的には知能検査法、発達検査法、性格検査法の基本的な検査法を習得する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	－			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	臨床心理学とは何か。1 臨床心理学の定義 2．臨床心理学の歴史		予習	
第2回	臨床心理学における力動的心理学（精神分析・分析的心理学）		予習・復習	
第3回	臨床心理学における認知行動理論		予習・復習	
第4回	カウンセリングとは。カウンセリングとスクールカウンセリング		予習・復習	
第5回	臨床心理学における生涯発達：ライフサイクル論		予習・復習	
第6回	子どもへの臨床心理学的援助		予習・復習	
第7回	高齢者への臨床心理学的援助		予習・復習	
第8回	障害を持つ人たちへの臨床心理学的援助		予習・復習	
第9回	心理学的アセスメントの方法		予習・復習	
第10回	発達検査法と知能検査法		予習・復習	
第11回	性格検査法にける質問紙法・作業検査法		予習・復習	
第12回	性格検査法における投影法		予習・復習	
第13回	動作法による心理臨床の実際		予習・復習	
第14回	心理劇による心理臨床の実際		予習・復習	
第15回	総括		復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない			
レポート	レポートは授業中指示し、評価の割合は８０％			
小テスト等	行わない			
成果発表	レポートの口頭発表			
受講態度他	討議内容についての質疑や自分の考えを述べるなど授業中の討議に積極的に参加すること。評価の割合は２０％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	指示通りにレポート作成を行い、発表すること。			
教科書	特にないが、授業中に文献や本を紹介する。			
指定図書	「臨床心理学体系」金子書房			
参考図書	小川俊樹・倉光修編著 「臨床心理学特論」放送大学教育振興会			
オフィスアワー	水曜日・木曜日の午後		メールアドレス	

授 業 科 目	臨床心理実習【実習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	酒井 均・森田 理香・宇治 和貴		単 位	1
授業の目的 と概要	心理職が働くさまざまな現場を見学し、場合によっては実際にその業務に参加し、心理職の役割と現場の状況を理解し、自分の将来的な展望を持つことができる。 さまざまな心理職がはたらく現場（児童相談所、保健所、病院、児童施設、療育施設など）を見学したり、心理職にインタビューしたりする。場合によってはその業務の一部に参加をする。その後、それらをレポートにまとめ発表する。			
到達目標	心理職の役割と現場の状況を説明できる。 将来的な展望をきちんと説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		見学先調査	
第2回	見学		報告書まとめ	
第3回	見学		報告書まとめ	
第4回	見学		報告書まとめ	
第5回	見学		報告書まとめ	
第6回	見学		報告書まとめ	
第7回	見学		報告書まとめ	
第8回	中間報告会		見学先調査	
第9回	見学		報告書まとめ	
第10回	見学		報告書まとめ	
第11回	見学		報告書まとめ	
第12回	見学		報告書まとめ	
第13回	見学		報告書まとめ	
第14回	見学		報告書まとめ	
第15回	最終報告会		最終レポート	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70％			
小テスト等	なし			
成果発表	20％			
受講態度他	10％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	この授業は将来心理専門職に就職するという固い意志のある学生のために開講しています。興味本位では受講できません。 また、見学が中心のため時間外の授業がほとんどになります。しかも、見学先の状況によっては、いつ見学になるかもわかりません。このため筑女ネット、掲示等のチェックは怠らないように注意してください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバス参照		メールアドレス	

授 業 科 目	倫理学【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	浅田 淳一		単 位	2
授業の目的と概要	昨今、漠然とした仕方で「モラルの低下」などが声高に叫ばれているが、そもそもモラルは何なのだろうか。本講義では、こうした素朴な疑問から出発して、自分自身が納得して受け入れることができる「我々の時代の我々のモラル」とはどのようなものかを探索していく。その結果「私は少なくとも私の考える限りでは、正しく善く生きて行ける」と確信が持てることに一歩でも近づけることを目指す。 「自由に生きて何故悪い」と主張する若者たちの見解を倫理学的に考察し、倫理学の有効性・必要性を考える。その上で、改めて各人の幸福観にもとづいて、望ましい社会について展望する。さらに現代において支配的な「功利主義」の立場を批判的に検討するなかで、「我々の時代の我々のモラル」の可能性について考察を深めていく。			
到達目標	1. 倫理学が提示するモラルの一般的定義を正しく説明することができる。 2. 自由主義のモラルの要点を正しく説明することができる。 3. 普遍化可能性原理（カントの定言命法）の要点を正しく説明することができる。 4. 幸福についての様々な立場を、正しく説明することができる。 5. 出生前診断、脳死体からの臓器移植、などの具体的問題に対する自分の見解を明示することができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 関連科目：人間学、哲学、生命倫理、環境と倫理、総合講座（生命）、総合講座（人権・平和）			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	モラルとは： 法律とモラルの一致点・不一致点		課題（若者の直面する倫理的課題について自分なりに考えてみる）	
第 2 回	若者の主張の検討：Ⅰ モラルの全面的否定は可能か？		課題（それぞれの立場に自分の身を置いてリアルに考えてみる）	
第 3 回	若者の主張の検討：Ⅱ 自然主義的誤謬について		課題（自分が犯している自然主義的誤謬について反省してみる）	
第 4 回	自由主義的モラル：J. S. ミルの自由論		課題（大人と子どもの区別について自分なりに考えてみる）	
第 5 回	普遍化可能性原理：カントの定言命法（モラルのただ乗り）		課題（モラルのただ乗りについて、自ら反省してみる）	
第 6 回	個人の幸福観について：問い「幸福の薬を飲みますか？」		課題（自分自身の幸福とは何か？各自で考えてみる）	
第 7 回	様々な幸福観：禁欲主義、快楽主義、力の発揮など		課題（講義で紹介された様々な幸福観を自分に照らして検討してみる）	
第 8 回	功利主義：欲望の追求と秩序の維持を可能にした理論		課題（功利主義を実際に適用した場合の利点について考えてみる）	
第 9 回	功利主義の問題点：人権の侵害、少数派の問題など		課題（功利主義の問題点について、各自で検討してみる）	
第10回	極端な功利主義の例：John Harris：Survival Lottery		課題（ハリスのサバイバル・ロタリーへの反論を各自で試みてみる）	
第11回	「所有物」と「授かりもの」の対比：功利主義の克服		課題（自分の命の特殊性について、各自反省してみる）	
第12回	生命倫理の諸問題：出生前診断、臓器移植など		課題（自分が妊娠出産する際に直面する問題について想像してみる）	
第13回	欲望の爆発の必然性：神の死、自由主義、資本主義		課題（何故欲望は爆発するのか？その理由について考えてみる）	
第14回	欲望の爆発を回避する可能性：地域通貨、一般意志など		課題（欲望の爆発を回避する可能性について自分なりに考えてみる）	
第15回	死の恐怖と生への驚き：生の完成としての死		課題（「いのち」について、自らを振り返って考えてみる）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％ただし、例外あり、ルールに関わる情報を見よ。			
レポート	0％			
小テスト等	0％各講義の最後に簡単な問題に答えてもらうが、特に成績には反映させない			
成果発表	0％			
受講態度他	0％目に余る場合には、退出を要求し出席を取り消す場合がある。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語は厳禁。講義開始後30分以上遅刻した場合には入室は認めるが、出席としては認めない(欠席扱い)。テストの成績が合否のボーダーライン上にある場合には、受講態度を考慮する場合がある。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『幸福の薬を飲みますか』（ナカニシヤ出版）			
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	倫理学【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	浅田 淳一		単 位	2
授業の目的と概要	昨今、漠然とした仕方で「モラルの低下」などが声高に叫ばれているが、そもそもモラルは何なのだろうか。本講義では、こうした素朴な疑問から出発して、自分自身が納得して受け入れることができる「我々の時代の我々のモラル」とはどのようなものかを探求していく。その結果「私は少なくとも私の考える限りでは、正しく善く生きて行ける」と確信が持てることに一歩でも近づけることを目指す。 「自由に生きて何故悪い」と主張する若者たちの見解を倫理学的に考察し、倫理学の有効性・必要性を考える。その上で、改めて各人の幸福観にもとづいて、望ましい社会について展望する。さらに現代において支配的な「功利主義」の立場を批判的に検討するなかで、「我々の時代の我々のモラル」の可能性について考察を深めていく。			
到達目標	1. 倫理学が提示するモラルの一般的定義を正しく説明することができる。 2. 自由主義のモラルの要点を正しく説明することができる。 3. 普遍化可能性原理（カントの定言命法）の要点を正しく説明することができる。 4. 幸福についての様々な立場を、正しく説明することができる。 5. 出生前診断、脳死体からの臓器移植、などの具体的問題に対する自分の見解を明示することができる。			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 関連科目：人間学、哲学、生命倫理、環境と倫理、総合講座（生命）、総合講座（人権・平和）			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	モラルとは： 法律とモラルの一致点・不一致点		課題（若者の直面する倫理的課題について自分なりに考えてみる）	
第 2 回	若者の主張の検討：Ⅰ モラルの全面的否定は可能か？		課題（それぞれの立場に自分の身を置いてリアルに考えてみる）	
第 3 回	若者の主張の検討：Ⅱ 自然主義的誤謬について		課題（自分が犯している自然主義的誤謬について反省してみる）	
第 4 回	自由主義的モラル：J. S. ミルの自由論		課題（大人と子どもの区別について自分なりに考えてみる）	
第 5 回	普遍化可能性原理：カントの定言命法（モラルのただ乗り）		課題（モラルのただ乗りについて、自ら反省してみる）	
第 6 回	個人の幸福観について：問い「幸福の薬を飲みますか？」		課題（自分自身の幸福とは何か？各自で考えてみる）	
第 7 回	様々な幸福観：禁欲主義、快楽主義、力の発揮など		課題（講義で紹介された様々な幸福観を自分に照らして検討してみる）	
第 8 回	功利主義：欲望の追求と秩序の維持を可能にした理論		課題（功利主義を実際に適用した場合の利点について考えてみる）	
第 9 回	功利主義の問題点：人権の侵害、少数派の問題など		課題（功利主義の問題点について、各自で検討してみる）	
第10回	極端な功利主義の例：John Harris：Survival Lottery		課題（ハリスのサバイバル・ロタリーへの反論を各自で試みてみる）	
第11回	「所有物」と「授かりもの」の対比：功利主義の克服		課題（自分の命の特殊性について、各自反省してみる）	
第12回	生命倫理の諸問題：出生前診断、臓器移植など		課題（自分が妊娠出産する際に直面する問題について想像してみる）	
第13回	欲望の爆発の必然性：神の死、自由主義、資本主義		課題（何故欲望は爆発するのか？その理由について考えてみる）	
第14回	欲望の爆発を回避する可能性：地域通貨、一般意志など		課題（欲望の爆発を回避する可能性について自分なりに考えてみる）	
第15回	死の恐怖と生への驚き：生の完成としての死		課題（「いのち」について、自らを振り返って考えてみる）	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％ただし、例外あり、ルールに関わる情報を見よ。			
レポート	0％			
小テスト等	0％各講義の最後に簡単な問題に答えてもらうが、特に成績には反映させない			
成果発表	0％			
受講態度他	0％目に余る場合には、退出を要求し出席を取り消す場合がある。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語は厳禁。講義開始後30分以上遅刻した場合には入室は認めるが、出席としては認めない(欠席扱い)。テストの成績が合否のボーダーライン上にある場合には、受講態度を考慮する場合がある。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『幸福の薬を飲みますか』（ナカニシヤ出版）			
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	ロジスティクス【講義】			開 講 時 期	後期
担 当 教 員	渡邊 孝一郎			単 位	2
授業の目的 と概要	ロジスティクスとは市場の動きに合わせて生産や仕入れ活動を行なうマネジメントのことである。顧客のニーズにあわせて、必要な商品や物資を、適切な時間に、適切な場所に、適切な品質と量を、できるだけ少ない費用で供給しようとする。社会構造の変化によるモノ・情報・商取引の流れの変化は、ロジスティクス活動にも大きな影響を与えている。本講義では、まずは流通・マーケティングの基礎知識を得たうえで、ロジスティクスの概念や考え方、ロジスティクスの取り巻く環境の変化によってロジスティクス活動がどのように変化してきたかを解説していく。				
到達目標	①ロジスティクスに関する基礎知識を身につけること。 ②ロジスティクスに関する基礎知識を身につけ、それらに関して口頭もしくは論述で簡単に説明できること。 ③ロジスティクスの考えを学ぶことの意義について理解し、関連する知識や概念の修得に積極的となること。				
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス、もし物流がなかったら？			物流について復習してください	
第2回	流通とは？			流通がなぜ必要か、復習してください	
第3回	売買集中の原理と品揃え形成			流通の基礎理論を理解してください	
第4回	商業の外部性と商業集積			商業の基礎理論をより深く理解してください	
第5回	日本の流通構造			日本の流通構造の特徴を復習をしてください	
第6回	マーケティングとは？			マーケティングとは何か理解してください	
第7回	事例で学ぶマーケティング			マーケティングの良い事例を調べてください	
第8回	マーケティングの基礎概念			マーケティングの基礎概念を理解してください	
第9回	ロジスティクスとは？			ロジスティクスの概要を理解してください	
第10回	物流とロジスティクス			物流とロジスティクスの違いを理解してください	
第11回	営業活動とロジスティクス			各種活動とロジスティクスの関係性を理解してください	
第12回	ロジスティクスと在庫管理			在庫管理の方法について理解してください	
第13回	『見える化』とSCM			新しい動きについて復習してください	
第14回	物流の現状と課題			物流を取り巻く環境を理解してください	
第15回	総復習			試験準備をしっかりとってください	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	80% 習熟度試験				
レポート	なし				
小テスト等	なし				
成果発表	なし				
受講態度他	20% 授業での積極的な態度を考慮する				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義中の私語や講義とは関係のない電子機器（電子辞書を除く）の利用は厳しく処分する。				
教科書	講義の内容に合わせて講義資料配布				
指定図書	講義の内容に合わせて講義資料配布				
参考図書	講義の内容に合わせて講義資料配布				
オフィスワーク	授業前後に行う。その他の場合は事前にメールにて日時を調整する。	メールアドレス			

授 業 科 目	Business English II【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	Chris Flynn		単 位	2
授業の目的 と概要	The object of this course is to familiarise students with English used in the business environment. This course is a continuation of Business English I. There will be an emphasis on computer literacy with web-based study materials and power point presentations used together with the textbook. In addition, each student will choose a company listed on an international stock market and report its fluctuation each week.			
到達目標	Students will be able to understand a number of business/office related situations. Emphasis will be on accurately communicating business reports and figures. Students who have not taken Business English I may join this class, however it is advised that new students consult with the teacher or fellow students on which company they will choose for their stock report. The Internet will be introduced as a tool to assist with translation from/into English.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 Outline of Course	コースの概要		講義の際に指示します	
第2回 Stock report preparation			講義の際に指示します	
第3回 Computer terminology and operation			講義の際に指示します	
第4回 Frequently used business terms			講義の際に指示します	
第5回 Text lesson 7: Checking in at an airport			Text lesson 7	
第6回 Text lesson 8: Getting through immigration and customs			Text lesson 8	
第7回 Text lesson 9: Settling into your hotel			Text lesson 9	
第8回 Stock report mid term test			講義の際に指示します	
第9回 Business messages and passing them on to third parties			講義の際に指示します	
第10回 Text lesson 10: Conducting a business meeting			Text lesson 10	
第11回 Text lesson 11: Making appointments with customers			Text lesson 11	
第12回 Text lesson 12: Making small talk with colleagues			Text lesson 12	
第13回 パソコンによる試験の模擬試験			講義の際に指示します	
第14回 ビジネスメッセージの口頭模擬試験			講義の際に指示しま	
第15回 パソコンによる評価試験			講義の際に指示します	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％			
レポート	10％			
小テスト等	20％			
成果発表	0％			
受講態度他	30％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	Business English web site L:\flynn/			
教科書	Business English web site L:\flynn/			
指定図書	Todd J Leonard『Business as Usual』成美堂			
参考図書	Yahoo Finance site			
オフィスワー	Before and after the class.	メールアドレス		

授 業 科 目	Business English I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	Chris Flynn		単 位	2
授業の目的 と概要	The object of this course is to familiarise students with English used in the business environment There will be an emphasis on computer literacy with web-based study materials and power point presentations used together with the textbook. In addition, each student will choose a company listed on an international stock market and report its fluctuation each week. Information searching skills will also be part of classwork.			
到達目標	Students will be able to understand a number of business/office related situations. Emphasis will be on accurately communicating business reports and figures. The Internet will be introduced as a tool to assist with translation from/into English.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 Outline of Course	コースの概要		講義の際に指示します	
第2回 Stock report preparation			講義の際に指示します	
第3回 Computer terminology and operation			講義の際に指示します	
第4回 Frequently used business terms			講義の際に指示します	
第5回 Text lesson 1: Introducing yourself to a business colleague			Text lesson 1	
第6回 Text lesson 2: Making a self introduction at a business meeting			Text lesson 2	
第7回 Text lesson 3: Introducing business guests to colleagues			Text lesson 3	
第8回 Stock report mid term test			講義の際に指示します	
第9回 Business messages and passing them on to third parties			講義の際に指示します	
第10回 Text lesson 4: Leaving a message on answering machine			Text lesson 4	
第11回 Text lesson 5: Leaving a message by phone			Text lesson 5	
第12回 Text lesson 6: Taking a message in person			Text lesson 6	
第13回 Business message oral test			講義の際に指示します	
第14回 Revision			講義の際に指示します	
第15回 Oral Presentations			講義の際に指示します	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％			
レポート	10％			
小テスト等	20％			
成果発表	0％			
受講態度他	30％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	Business English Web Site L:\flynn/			
教科書	Todd J Leonard 『Business as Usual』 成美堂			
指定図書	なし			
参考図書	Yahoo Finance			
オフィスワー	Before and after the class	メールアドレス		

授 業 科 目	Communication Theory I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	行時 潔		単 位	2
授業の目的 と概要	グローバル社会を生きていくためにはコミュニケーション（特に異文化コミュニケーション）が欠かせない。この授業では、グローバル社会における実生活に役に立つ実学としてのコミュニケーション、特に異文化コミュニケーションを取り上げ、この分野における重要な概念や理論、また、言語と文化の関係などについて学びながら、コミュニケーションについて深く考えたり、批判的に考えたり、また、異文化で暮らす人たちがうまくコミュニケーションを取るためのスキルなどを身につける。 授業の内容としては、今日の異文化コミュニケーションとその媒体となる英語、言語と思考、人間の心理とコミュニケーション、高等教育における異文化コミュニケーションなどについて英語で書かれた文章を読みながら考察していく。			
到達目標	・ グローバル社会における実学としての異文化コミュニケーションの概念や理論及び言語と文化の関係を理解することができる。 ・ 異文化間における効果的なコミュニケーションの取り方を理解することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、使用テキストの紹介、予習・復習、授業評価の方法などについての説明		テキストの予習（P8－9）	
第2回	Intercultural Communication in Today's World		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 10－11、p 14）	
第3回	Intercultural Communication in Today's World & English for Intercultural Communication		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 15－17）	
第4回	English for Intercultural Communication		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 20－21）	
第5回	Important Features of Human Communication		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 22－23、p 32）	
第6回	Important Features of Human Communication & Language and Thought		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 33－p 35）	
第7回	Language and Thought		前半の授業内容を復習し、次週のテストの準備をすること	
第8回	前半の復習テストとまとめ&解説		テキストの予習（P44－45）	
第9回	Human Psychology and Communication		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 46－47、p 50）	
第10回	Human Psychology and Communication & Speech Act across Cultures		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 51－53）	
第11回	Speech Act across Cultures		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 62－63）	
第12回	Cultural Accommodation in Intercultural Communication		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 64－65、p 68）	
第13回	Cultural Accommodation in Intercultural Communication & Intercultural Communication and Higher Education		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 69－71）	
第14回	Intercultural Communication and Higher Education		今日の授業内容を復習すること。	
第15回	授業のまとめと今後の学習のために		後半の授業内容を復習し、定期試験の準備をすること	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	授業後半の復習テスト：50％			
レポート	なし			
小テスト等	授業前半の復習テスト：30％			
成果発表	なし			
受講態度他	授業への積極的な参加態度や予習状況などを考慮：20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・辞書としてスマホやタブレットの使用は認めないので、必要の際には必ず辞書を持参すること。 ・授業の雰囲気を乱す行為（私語、居眠り、スマホの使用など）は減点の対象となる。 ・前半の復習テストを欠席して受けなかった場合は単位取得が難しくなることがあるので十分注意すること。 ・欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、本科目の定期試験を受けることができない。 ※欠席1回につき2点減点、遅刻は授業開始後10分までとし、それ以降は欠席扱い。3回の遅刻は1回の欠席とみなす。			
教科書	Troy McConachy、古家聡、櫻井千佳子 『Intercultural Communication for English Language Learners in Japan』南雲堂			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	Communication Theory II【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	行時 潔		単 位	2
授業の目的 と概要	人として生きていくためにはコミュニケーションが欠かせない。この授業では、実生活に役に立つ実学としてのコミュニケーション、特に対人コミュニケーションを取り上げ、効果的な対人コミュニケーションを構築するための不可欠な要因である文化や衝突を理解する必要性について学び、他文化を理解するとともに自文化理解を深化させながらコミュニケーションスキルを向上させる。 この授業では、対人コミュニケーションの土台となっている文化、また、それぞれの文化が内包している価値観、信条、知覚、固定観念、そして文化の違いから生じる衝突などについて英語で書かれた文章を読みながら考察していく。			
到達目標	・ 自律的な英語学習者になるよう、自ら積極的に英語学習に取り組むことができるようになる。 ・ 対人コミュニケーションにおける文化や衝突の重要性を理解することができる。 ・ 異文化間における効果的なコミュニケーションの取り方を理解することができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、使用テキストの紹介、予習・復習、授業評価の方法などについての説明 Chapter 1 Thinking about Culture		テキストの予習（p 2－5）	
第2回	Thinking about Culture		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 6－10）	
第3回	Thinking about Culture & Chapter 2 Hidden Culture and Differences		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 11－14）	
第4回	Hidden Culture and Differences		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 15－17）	
第5回	Chapetr 3 Conflict		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 18－21）	
第6回	Conflict & Chapter 4 Identifying Conflicts		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 22－24）	
第7回	Identifying Conflicts		前半の授業内容を復習し、次週のテストの準備をすること	
第8回	前半の復習テストとまとめ&解説		テキストの予習（p 25－27）	
第9回	Chapter 5 Values and Belief Systems		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 28－32）	
第10回	Values and Belief Systems & Chapter 6 The Role of Values in Intercultural Conflict		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 33－35）	
第11回	The Role of Values in Intercultural Conflict		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 36－38）	
第12回	Chapter 7 Perceptions		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 40－43）	
第13回	Chapter 8 Stereotypes		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 45－48）	
第14回	Chapter 9 Emotions and Facework		今日の授業内容を復習すること	
第15回	授業のまとめと今後の学習のために		後半の授業内容を復習し、定期試験の準備をすること	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	授業後半の復習テスト：50％			
レポート	なし			
小テスト等	授業前半の復習テスト：30％			
成果発表	なし			
受講態度他	授業への積極的な参加態度や予習状況などを考慮：20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・ 辞書としてスマホやタブレットの使用は認めないので、必要の際には必ず辞書を持参すること。 ・ 授業の雰囲気や乱す行為（私語、居眠り、スマホの使用など）は減点の対象となる。 ・ 前半の復習テストを欠席して受けなかった場合は単位取得が難しくなることがあるので十分注意すること。 ・ 欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、本科目の定期試験を受けることができない。 ※欠席1回につき2点減点、遅刻は授業開始後10分までとし、それ以降は欠席扱い。3回の遅刻は1回の欠席とみなす。			
教科書	Soo im Lee, Lisa Rogers 『Culture and Conflict』 松柏社			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	Conversation AI 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	M.E. Kamada		単 位	1
授業の目的と概要	The aim of this class is to practice conversing in everyday English. The focus will be on three conversational skills: giving interesting answers to questions; asking questions; and giving responses. Students will practice with a partner or in small groups. Students will also give presentations explaining current Japanese culture.			
到達目標	At the end of this course, students should be able to: (1) talk about themselves and their lives; (2) be able to give interesting answers to questions; (3) ask questions; (4) respond to another speaker; (3) explain some aspects of Japanese culture.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
Orientation and Class Overview; Useful Classroom Language			Make a self-introduction card	
第 2回 Unit One: Personal Information			Unit 1: Question Bank	
第 3回 Continuing Personal Information			Prepare for quiz # 1	
第 4回 Unit Two: Family and Home			Unit 2: Question Bank	
第 5回 Continuing Family and Home			Preview Unit 3; p. 15	
第 6回 Unit Three: Hobbies and Preferences			Unit 3: Question Bank	
第 7回 Continuing Hobbies and Preferences / Talking about Japan			Practice Talking about Japan presentation	
第 8回 Talking about Japan: presentations / Unit Six: Routines			Unit 6: Question Bank	
第 9回 Continuing Routines			Prepare for Quiz # 2	
第10回 Unit Nine: Travel / Talking about Japan			Practice Talking about Japan presentation	
第11回 Talking about Japan: presentations / Continuing Travel			Unit 9: Question Bank	
第12回 Continuing Travel			Preview Unit 10; p. 52	
第13回 Unit Ten: Dating			Unit 10: Question Bank	
第14回 Continuing Dating			Prepare for Quiz # 3	
第15回 Semester Review & Test Preparation			Prepare for final test	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30% Final test			
レポート	-			
小テスト等	30% （ 3 quizzes at 10% each ）			
成果発表	-			
受講態度他	40% （Speaking points, Presentations）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Students will be expected to bring all class materials to every class. Three lates equals one absence.			
教科書	Out Front (6th Edition) by Robert Diem & Roberto Rabbini (English Education Press)			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Students can talk to me after class.	メールアドレス		

授 業 科 目	Conversation AI 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	Saza LINDA		単 位	1
授業の目的 と概要	The aim of this course is to give low intermediate level students with a limited knowledge of English the necessary communication skills to converse about themselves and their interests, with some degree of confidence.			
到達目標	The course will cover various topics, but most lessons will focus on language skills necessary for survival in travel situations.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 Overview			Prepare Text and Preview Text Page 6-7	
第2回 Arriving in a strange place			Page 8-9	
第3回 Arranging transportation			Page 10-11	
第4回 Finding your way around			Page 12-13	
第5回 Discussing facilities, locations and operation hours			Page 14-15	
第6回 Rules and regulations, asking for permission			Page 16-17	
第7回 Homestay hints			Page 18-19	
第8回 Asking and giving directions, Maps			Page 20-21, and review exercises	
第9回 Food, restaurants, ordering and asking about the menu			Page 28-29	
第10回 Numbers, prices and tipping			Page 30-31	
第11回 Arranging for activities on vacation			Page 32-34	
第12回 Taking public transportation, ticketing and prices			Page 36-37	
第13回 Discussing past trips			Page 38-39 and Individual project prep	
第14回 Projects			Individual project prep	
第15回 Projects and review for test			Test prep	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	0%			
小テスト等	30%			
成果発表	0%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Be prepared to participate!			
教科書	On the Go By Gershon, Mares and Walker Published by Pearson Longman			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワーク	Before and after class.	メールアドレス		

授 業 科 目	Conversation AI (S) 【演習】			開 講 時 期	前期
担 当 教 員	T.R. Honkomp			単 位	1
授業の目的と概要	A particular focus of Conversation A II (S) will be to reinforce and develop proficiency in the skills of speaking and listening. This general objective will be achieved through practice of communication on selected topics and texts and through the expression of opinions about those topics. Students will practice these skills weekly with the instructor and with classmates. Special emphasis will be givento expressing and comparing cultural characteristics of Japanese lifestyle.				
到達目標	Vocabulary development will be emphasized as well as the opportunity to introduce cultural aspects of communication. Each unit from the text will have modules of listening, vocabulary and conversation.				
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第 1回	Course introduction; course information, policies and expectations			Preview Unit 1	
第 2回	Friends; introduction to text, exchanging personal info.			Vocab. #1	
第 3回	Past experience; past tense, talking about the past			Vocab. #2	
第 4回	Music; talking about favorite genres recent trends			Quiz #1 Vocab. #3	
第 5回	Vacations; plans for leisure activities, travel			Vocab. #4	
第 6回	Cooking & food; eating out, eating in, food discussion			Vocab. #5	
第 7回	Traveling in Japan; explaining cultural attractions in Japan			Vocab. #6	
第 8回	Good times; the best and worst of everything			Vocab. #7	
第 9回	Nature and the environment; challenges, technology and solutions			Quiz #2 Vocab. #8	
第10回	Health; lifestyle choices, physical and mental health trends			Vocab. #9	
第11回	Giving opinions; likes and dislikes, expressing opinions			Vocab. #10	
第12回	Sports; participation and spectator sports; sports celebrities			Vocab. #11	
第13回	Movies; actors and favorite productions; recent trends			Quiz #3 Vocab. #12	
第14回	Future plans; expectations and life in the real world			Vocab. #1-12	
第15回	Semester review; exam review and semester consolidation			Exam review sheet	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	25% Final Exam				
レポート	—				
小テスト等	—				
成果発表	—				
受講態度他	30% Class participation and class activities 45% Three quizzes				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions.				
教科書	Face to Face Fuller MacMillan LanguageHouse				
指定図書	—				
参考図書	—				
オフィスアワー	Tuesday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 1st period (9:10-10:40)		メールアドレス		

授 業 科 目	Conversation AI 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	T.R. Honkomp		単 位	1
授業の目的と概要	Conversation AI is a course designed to give students at the high-beginning or low-intermediate level many opportunities to understand and practice essential language for meaningful communication in context. This course will use the context of travel and related situations to introduce, practice and internalize practical English in order to build confidence and increase student output. Students are encouraged to take responsibility for their own language learning and to actively pursue positive development of their language skills by applying themselves to the opportunities that are presented in class.			
到達目標	Examples of daily class activities include and are not limited to the following: introduction of topics, warm-up questions and answers, pronunciation practice, listening comprehension, conversation practice, and discussion of cultural aspects of foreign destinations in English speaking countries.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	Course Introduction; explanation of course syllabus; text introduction		Review Useful Classroom Expressions Preview Unit 1	
第 2 回	Boarding pass; understanding flight information; check in for a flight		Quiz #1 - Useful Classroom Expressions	
第 3 回	Language to Learn from Unit 1; Students present original conversations		Preview Unit 2	
第 4 回	Self-introduction Introduce yourself; talk about topics of interest		Quiz #2 - Unit 1	
第 5 回	Language to Learn from Unit 2; Students present original role-play conversations		Preview Unit 3	
第 6 回	Finding a hotel; check in at a hotel; make special requests		Quiz #3 - Unit 2	
第 7 回	Language to Learn from Unit 3; Students practice conversations from text Unit 3		Preview Unit 4	
第 8 回	Day trip; choose a day trip and make a plan		Quiz #4 - Unit 3	
第 9 回	Language to Learn from Unit 4; Students present original conversations		Preview Unit 5	
第10回	Transport; arrange and pay for public transportation		Quiz #5 - Unit 4	
第11回	Language to Learn from Unit 5; Students present original role-play conversations		Preview Unit 6	
第12回	Food and drink; choose a restaurant; ordering meals at restaurants		Quiz #6 - Unit 5	
第13回	Language to Learn from Unit 6; Students practice conversation from Unit 6 text		Review Units 1 - 6	
第14回	Consolidation & vocabulary review		Vocabulary review sheets Quiz #7 - Unit 6	
第15回	Semester and exam review		Exam review sheets	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30% Final Exam			
レポート	There will generally be no reports or presentations in this course			
小テスト等	—			
成果発表	Results of quizzes will be given in class.			
受講態度他	20% Class participation and in-class performance 50% Quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions.			
教科書	Adventures Abroad Dale Fuller & Kevin Cleary		MacMillan Languagehouse	
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Tuesday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 1st period (9:10-10:40)		メールアドレス	

授 業 科 目	Conversation AII 【演習】		開 講 時 期	後 期
担 当 教 員	Saza LINDA		単 位	1
授業の目的 と概要	This course is designed as a follow-up to Conversation AI. Once again, a mix of listening and speaking exercises will be used to build confidence in communicating in English.			
到達目標	Students will be called upon to participate in a variety of exercises aimed at improving basic communication skills in English.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Review of 1st semester and course overview		Prepare text	
第2回	Checking into a hotel		Page 40-41	
第3回	Using hotel amenities		Page 42-43 and Review Section	
第4回	Shopping, sizes, styles		Page 48-49	
第5回	Discussing fashion and previous purchases		Page 50-51	
第6回	Airport Security and Check-In process		Page 52-53	
第7回	Buying incidental goods		Page 54	
第8回	On a sightseeing tour		Page 56-58	
第9回	Talking about your family, your hometown and your schedule		Page 60-62 and review section	
第10回	Voicing your opinion, agreeing on activities, time		Page 68-70	
第11回	Discussing forms of entertainment		Page 72-74	
第12回	Talking about Japanese culture and customs		Page 76-77	
第13回	Talking about various customs and celebrations		Page 78-79 and individual project prep	
第14回	Projects		Individual Project Prep	
第15回	Projects and Review for Test		Test Prep	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％			
レポート	0％			
小テスト等	30％			
成果発表	0％			
受講態度他	20％			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	Come prepared to participate!			
教科書	On the Go by Gershon, Mares and Walker Published by Pearson Longman			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワー	Before and after class.	メールアドレス		

授 業 科 目	Conversation AII(S)【演習】		開講時期	後期
担当 教 員	T.R. Honkomp		単 位	1
授業の目的と概要	A particular focus of Conversation A II (S) will be to reinforce and develop proficiency in the skills of speaking and listening. This general objective will be achieved through practice of communication on selected topics and texts and through the expression of opinions about those topics. Students will practice these skills weekly with the instructor and with classmates. Special emphasis will be given to expressing and comparing cultural characteristics of Japanese lifestyle.			
到達目標	Vocabulary development will be emphasized as well as the opportunity to introduce cultural aspects of communication. Each unit from the text will have modules of listening, vocabulary and conversation.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	Course introduction; course information, policies and expectations		Preview Unit 1	
第 2回	Friends; introduction to text, exchanging personal info.		Vocab. #1	
第 3回	Past experience; past tense, talking about the past		Vocab. #2	
第 4回	Music; talking about favorite genres recent trends		Quiz #1 Vocab. #3	
第 5回	Vacations; plans for leisure activities, travel		Vocab. #4	
第 6回	Cooking & food; eating out, eating in, food discussion		Vocab. #5	
第 7回	Traveling in Japan; explaining cultural attractions in Japan		Vocab. #6	
第 8回	Good times; the best and worst of everything		Vocab. #7	
第 9回	Nature and the environment; challenges, technology and solutions		Quiz #2 Vocab. #8	
第10回	Health; lifestyle choices, physical and mental health trends		Vocab. #9	
第11回	Giving opinions; likes and dislikes, expressing opinions		Vocab. #10	
第12回	Sports; participation and spectator; sports celebrities		Vocab. #11	
第13回	Movies; actors and favorite productions; recent trends		Quiz #3 Vocab. #12	
第14回	Future plans; expectations and life in the real world		Vocab. #1-12	
第15回	Semester review; exam review and semester consolidation		Exam review sheet	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	25% Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30% Class participation and class activities 45% Three quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions.			
教科書	Face to Face Fuller MacMillan LanguageHouse			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Monday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 2nd period (10:50-12:20)	メールアドレス		

授 業 科 目	Conversation AII 【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	T.R. Honkomp		単 位	1
授業の目的と概要	Conversation A II is a course designed to give students at the high-beginning or low-intermediate level many opportunities to understand and practice essential language for meaningful communication in context. This course will use the context of travel and related situations to introduce, practice and internalize practical English in order to build confidence and increase student output. Students are encouraged to take responsibility f or their own language learning and to actively pursue positive development of their language skills by applying the mselves to the opportunities that are presented in class.			
到達目標	Examples of daily class activities include and are not limited to the following: introduction of topics, pronuncia tion practice, listening comprehension, conversation practice, and discussion of cultural aspects of foreign destina tions in English speaking countries.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	Course Introduction; explanation of course syllabus; text introduction		Prepare in class conversation on summe r vacation.	
第 2 回	Walking around; understanding locations; following simple directions		Quiz #1 - Unit 7 Preview local landmarks conversation	
第 3 回	Present original student conversations, feedback and free talk conversation		Preview Unit 8	
第 4 回	Shopping; shop for items; understand prices		Quiz #2 - Unit 8	
第 5 回	Present original role-play conversations, feedback and free talk conversation		Preview Unit 9	
第 6 回	Lost & found; reporting found items; describe lost items		Quiz #3 - Unit 9	
第 7 回	Present original student conversations, feedback and free talk conversation		Preview Unit 10	
第 8 回	Sickness & health; understand health situations; talking to a doctor		Quiz #4 - Unit 10	
第 9 回	Present original role-play conversations, feedback and free talk conversation		Preview Unit 11	
第10回	Returning home; talking about a trip; ask follow-up questions		Quiz #5 - Unit 11	
第11回	Present original student conversations, feedback and free talk conversation		Preview Unit 12	
第12回	Street-smarts; ask for and give advice; learn about travel safety		Quiz #6 - Unit 12	
第13回	Present original role-play conversations, feedback and free talk conversation		Review Units 6 - 12	
第14回	Consolidation & vocabulary review		All vocabulary review sheets Quiz #7 - Units 6 - 12	
第15回	Semester and exam review		Exam review sheets	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30% Final Exam			
レポート	There will generally be no reports or presentations in this course			
小テスト等	—			
成果発表	Results of quizzes will be given in class.			
受講態度他	20% Class participation and in-class performance 50% Quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions.			
教科書	Adventures Abroad Dale Fuller & Kevin Cleary		MacMillan Languagehouse	
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Monday 3rd period (1:10-2:40), Tuesday 1st perio d (9:10-10:40)	メールアドレス		

授 業 科 目	Conversation B I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	Saza LINDA		単 位	1
授業の目的 と概要	This course is designed to give the intermediate student a full workout in communication skills, in hopes that they will be better able to express themselves on a variety of topics.			
到達目標	The target conversation topics are centered around travel, work and study abroad.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 Overview			Prepare text , Preview pages 6-7	
第2回 Meeting people (1)			page 8-9	
第3回 Meeting people (2) and making introductions			page 10-11	
第4回 New classes, new teachers and schedules			page 12-13	
第5回 Describing people, time schedules			page 14-15	
第6回 Making plans for the weekend			page 16-19	
第7回 Types of transportation			page 20-21	
第8回 Tickets and prices			page 22-23	
第9回 Review Chapter			page 24-27	
第10回 Talking about work			page 28-29	
第11回 Talking about trends in the working world			page 30-31	
第12回 Making reservations			page 32-33	
第13回 Talking about food			page 34-35, project prep	
第14回 Projects			Student's individual projects	
第15回 Projects and Review			Projects and test prep	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	0%			
小テスト等	30%			
成果発表	0%			
受講態度他	20%			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	Come to class prepared to participate!			
教科書	On the Move by Gershon, Mares and Walker Published by Pearson Longman			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワー	Before and after class.	メールアドレス		

授 業 科 目	Conversation B I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	T.R. Honkomp		単 位	1
授業の目的と概要	A particular focus of Conversation B I will be to reinforce and develop proficiency in the skills of speaking and listening. This general objective will be achieved through practice of communication on selected topics and texts and through the expression of opinions about those topics. Weekly sessions of this class will include a variety of class activities focused on practicing the integrated skills of language learning. Student real-life experiences, personal topics from the text and scrapbook preparation will be used as a basis for expression and discussion.			
到達目標	Examples of daily class activities include and are not limited to the following: introduction of topics, pronunciation practice, listening comprehension, vocabulary development, cloze exercises, conversation practice and discussion of cultural aspects of communication. Students will prepare explanations based their original personal experiences.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	Course introduction; course information, policies and expectations		Preview Unit 1	
第 2回	Introduction to the scrapbook & self introductions		Vocab. #1	
第 3回	Student topic and presentation		Conv. questions	
第 4回	Hobbies, Likes & Dislikes		Quiz #1; Vocab. #2	
第 5回	Student topic and presentation		Conv. questions	
第 6回	Recent Activities		Vocab. #3	
第 7回	Student topic and presentations		Conv. questions	
第 8回	Personal Past Experiences		Quiz #2; Vocab. #4	
第 9回	Student topic and presentations		Conv. questions	
第10回	Family and Friends		Vocab. #5	
第11回	Student topic and presentations		Conv. questions	
第12回	Weekly Schedule and Free Time		Quiz #3; Vocab. #6	
第13回	Hopes and Dreams for the Future		Conv. questions	
第14回	Upcoming Plans and Vacation Activities		Vocab. review	
第15回	Semester review; exam review and semester consolidation		Exam Review sheet	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	25% Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30% Class participation and class activities 45% Three quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions. Students are expected to make a scapbook for this class. Class activities will focus on the pages in the scarpbook that the students have designed.			
教科書	In My Life Kluge & Taylor MacMillan LanguageHouse			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Tuesday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 1st period (9:10-10:40)		メールアドレス	

授 業 科 目	Conversation B I (S) 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	Paul Shimizu		単 位	1
授業の目的 と概要	Students will work in groups of 4 as well as whole class activities. They will be excepteted to develop conversations beyond the textbook. Students will be using all their English skills but the emphases will be on listening and speaking.			
到達目標	This course is designed to give students and enjoyable process of communicating in English with their peers.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Power Tools - The language of empowerment		Pages 1-7	
第2回	Using empowerment language		Pages 8-15	
第3回	Simple Present Tense		Pages 16-23	
第4回	Simple Past Tense		Pages 24-31	
第5回	Countable/Non Countable Nouns		Pages 32-39	
第6回	Holidays		Pages 40-47	
第7回	Review		Pages 48-55	
第8回	Large Numbers		Pages 56-63	
第9回	Comparative and Superlative		Pages 64-68	
第10回	Imperative		Pages 69-71	
第11回	Passive Voice		Pages 72-76	
第12回	Present Continuous		Pages 77-80	
第13回	Endangered Animals		Pages 81-88	
第14回	Review		First Half of TextBook	
第15回	Review		Second Half of TextBook	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	％			
レポート	％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	100％ Continuous Assessment, Attendance, Attitude and Participation.			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	Full attendance and active participation are essential.			
教科書	SNIPP, SAKASHITA, SHIMIZU 『KEEP ON RUNNING』 INTERCOM PRESS			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	Before and After Class	メールアドレス		

授 業 科 目	Conversation BII【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	Keith Kinstler		単 位	1
授業の目的と概要	This conversation course is designed to reinforce prior conversation practice. Emphasis is given to a deeper understanding of basic grammatical models used in everyday interactions. Pair Work is employed throughout. Songs will be used for listening and pronunciation practice. Q and A classes (Question and Answer) will allow students to engage in general conversation with each other and the teacher. There will be several FCs (Free Conversation) on set topics			
到達目標	Students can learn simple English idioms used in daily conversation. In addition, formal rules of pronunciation, sentence structure and question formation will beable to be reviewed. 困難なことも慣れれば簡単			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	INTRO - CLASSROOM ENGLISH - GRAMMAR & PARSING - IDIOMS		Prepare FC JOBS	
第 2回	Departures 2 and 4 - Q and A		Prepare FC Song	
第 3回	Departures 5 - Song		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておく	
第 4回	Departures 6 - Q and A		None	
第 5回	Departures 8, 9 and 24		Prepare FC Song	
第 6回	Departures 11 - Song		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておくこと	
第 7回	Departures 13 - Q and A		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておくこと	
第 8回	Departures 14 and 15		none	
第 9回	Departures 16		None	
第10回	Departures 18 and 19 - Q and A		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておくこと	
第11回	Departures 20 and 22		None	
第12回	Departures 23		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておくこと	
第13回	Departures 25		None	
第14回	Departures 27 and 30 - GENERAL REVIEW		None	
第15回	QUIZ		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておくこと。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％			
レポート	None			
小テスト等	10％			
成果発表	20％			
受講態度他	40％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・この授業は全て英語で行われます。 ・定期試験のみで合格点をとっても、単位取得はできません。毎回の授業、課題提出が大事です。 ・クラス活動、授業態度が重視され、積極的で主体的な授業参加が望まれます。 ・授業活動、練習で継続的に評価を行います。 ・前期は15回授業があり、1回のクラスワークで最高10点もらえます。休んだ場合のクラスワーク点は0点、公欠に関しては考慮します。理由のない遅刻は減点されます。			
教科書	毎回、教材プリントを配布します			
指定図書	ENGLISH - JAPANESE JAPANESE - ENGLISH DICTIONARY （英和・和英辞典）（電子辞書も可）携帯の辞書の使用は不可。			
参考図書	None			
オフィスワー	Before or after the class. 授業の前後	メールアドレス		

授 業 科 目	Conversation BⅡ【演習】		開講時期	後期
担当教員	L. Aoki		単 位	1
授業の目的と概要	In this class the students will improve their listening skills with weakly listening activities. They will be introduced to increasingly difficult comprehension questions and limiting the number of times they can hear the conversation, their listening ability will improve. The students will also be introduced to various types of questions, and learn how to answer the questions correctly . Considering that much of conversation is asking and answering questions, the ability to formulate a variety of questions, and the ability to answer questions			
到達目標	By the end of the semester, the students will be able to ask and answer questions about the following topics: Family, Best Friends, Work, Shopping, Dating/Marriage, Beliefs, Travel, Music, Money, Fears and Opinions. The students will be able to continue a conversation by asking follow-up questions, use natural conversation expressions, and understand the main ideas of a question-answer type conversation spoken at native speed. Finally, the students will be able to ask various different types of questions.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者につながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Introduction of the course. Explanation of grading system, quizzes, tests, and class rules. Class schedule is explained. Begin Topic 1: Family: Listening.		Two original questions: ;Family. Sentence/vocabulary practice.	
第2回	Continue Topic 1: Family. Explain. Speaking practice. Topic 9: Friends. Listening practice.		Review sentences/vocabulary practice.	
第3回	Continue Topic 9 Friends. Explain. Speaking practice. Topic 11: Work. Listening practice.		Two original questions: Friends. Sentence/vocabulary practice.	
第4回	Continue Topic 11 Work. Explain. Speaking practice. Topic 15: Money. Listening practice. Explain QUIZ 1.		Two original questions: Work. Study for quiz.	
第5回	QUIZ 1.Continue Topic 15 Money. Explain. Speaking practice. Review.		. Sentence/vocabulary practice.	
第6回	Topic 18: Shopping. Listen.. Explain. Speaking practice. .		Two original questions: Shopping.. Sentence/vocabulary practice.	
第7回	Topic 21: Travel. Listen. Explain. Speaking practice.		Two original questions: Travell.. Sentence/vocabulary practice.	
第8回	Topic 5 Music: Listen,. Explain. Speaking practice.		Two original questions: Music.. Sentence/vocabulary practice.	
第9回	Topic 28 Beliefs: Listen, Explain Speaking practice. Explain QUIZ 2.		Two original questions: Beliefs.. Study for quiz	
第10回	QUIZ 2 Review Topic 26/7 Dating & Marriage. Listen		Sentence/vocabulary practice.	
第11回	Topic 26/27 Dating and Marriage: Explain, Speaking practice. Topic Topic 30 Opinions: Listening practice		Two original questions: Dating/Marriage. Sentence/vocabulary	
第12回	Topic 30 Opinions: Explain. Speaking practice. Topic 24 Holidays. Listening practice.		Two original questions: Opinions.. Sentence/vocabulary practice.	
第13回	Alternative holiday speaking and listening materials.		Two original questions: Holidays.. Sentence/vocabulary practice.	
第14回	Topic 25 Fears: Listen, Explain, Speaking practice. Prepare SPEAKING TEST in 15th class		Study for Speaking Test	
第15回	Speaking Test and review.		Stucy for final exam	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	% 30%. Written test. Content will be on writing questions, answers, and expressions			
レポート	% 20%. Sentence Homework--10%.			
小テスト等	% 20%. Conversation quizzes. Students will do this two times. Each time is 10%.			
成果発表	% 20% Speaking test. To be held the last day of class.			
受講態度他	% 10% Attitude. Includes attitude, class participation, submitting homework on time.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Please buy a new textbook. Bring the textbook to class each time without forgetting. Also, bring a pen or pencil each time. No used textbooks permitted. No cell / smartphones permitted during class time. So, bring a dictionary (book, or electric). This is a conversation class. Come prepared to talk actively with your classmates.			
教科書	Topic Talk (Second Edition). by David Martin EFL Press			
指定図書	0			
参考図書	0			
オフィスワーク	Before and after class. Lunch time on Wednesdays (in Part time teachers' room)	メールアドレス		

授 業 科 目	Conversation BⅡ(S)【演習】		開講時期	後期
担当教員	T.R. Honkomp		単 位	1
授業の目的と概要	A particular focus of Conversation B I will be to reinforce and develop proficiency in the skills of speaking and listening. This general objective will be achieved through practice of communication on selected topics and texts and through the expression of opinions about those topics. Weekly sessions of this class will include a variety of class activities focused on practicing the integrated skills of language learning. Some of the commercial issues from the will be used as a basis for student expression and discussion.			
到達目標	Examples of daily class activities include and are not limited to the following: introduction of topics, pronunciation practice, listening comprehension, vocabulary development, cloze exercises, conversation practice and discussion of cultural aspects of communication.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者につながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	Course introduction; course information, policies and expectations		Review vocabulary from Introduction unit	
第 2回	Commercial introduction; shopping in the U.S.		Vocab. #1	
第 3回	Student topics and presentations		Conv. questions	
第 4回	Beverage commercials; original inventions		Vocab. #2	
第 5回	Student topics and presentations		Conv. questions	
第 6回	Anti-discrimination campaign - Respecting Human Rights		Vocab. #3	
第 7回	Student topics and presentations		Conv. questions	
第 8回	Fast food history and impact on society		Quiz #1; Vocab. #4	
第 9回	Student topics and presentations		Conv. questions	
第10回	Delivery services - post and private		Vocab. #5	
第11回	Student topic and presentations		Conv. questions	
第12回	Automobile industry; competition and globalization		Vocab. #6	
第13回	Student videotape presentations		Conv. questions	
第14回	Student presentations continued; vocabulary review		Vocab. # 1-6	
第15回	Semester review; exam review and semester consolidation		Exam Review sheet	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	25% Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30% Class participation and class activities 45% Quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions.			
教科書	English in 30 Seconds Aoki Nan' un-do			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Monday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 3rd period (1:10 - 2:40)		メールアドレス	

授 業 科 目	Conversation C I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	Alan Michaels		単 位	2
授業の目的 と概要	Students will develop greater competence in English communication skills through speaking practice. Interactive communication activities including pair work, role play and group discussion will be frequent activities in class. This practice includes asking and answering textual and original questions, initiating and responding to questions and conversations. We will work on the skills of self-expression through many personalization activities as well as reviewing basic structures and vocabulary. Students should bring to every lesson: Textbook, notebook - for vocabulary and additional note-taking, and a dictionary for finding the meaning of new and forgotten words.			
到達目標	On completion of this course, students will be able to express themselves in English with a wider variety of expressions and depth of conversation. This extends beyond the classroom and into daily life when the skills are practiced diligently.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Introductions, greetings, course overview.		eLearning at: www.positivelyenglish.com	
第2回	Unit 1 Who are you? Meeting people.		www.positivelyenglish.com	
第3回	Unit 1 Expanding on fluency - saying things in a different way.		www.positivelyenglish.com and listening activity.	
第4回	Unit 2 Home Sweet Home. Talking about family.		Family tree - ask family members for information, photos.	
第5回	Unit 2 Questions and more questions. 'Wh' questions.		www.positivelyenglish.com	
第6回	Unit 3 Do you like it? Talking about hobbies and preferences.		Show and Tell.	
第7回	Unit 3		Finish all homework to date.	
第8回	Review and Consolidation.		Prepare for test.	
第9回	Mid-term Assessment.		www.positivelyenglish.com	
第10回	Unit 4 Schedule - times and dates.		www.positivelyenglish.com and listening activity.	
第11回	Unit 4 and 5. Discussing schedules and routines.		www.positivelyenglish.com	
第12回	Unit 5 and 6. Out of routine and into vacation.		www.positivelyenglish.com and listening activity.	
第13回	Unit 6 Vacation.		Finish all outstanding homework.	
第14回	Review and Consolidation.		Prepare for test.	
第15回	End of term Assessment.		Prepare for final test.	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	10％ Final test.			
レポート	10％ Homework every week. It will be checked and graded.			
小テスト等	50％ 2 speaking tests x 20%. 2 paper quizzes x 5%			
成果発表	10％ Speaking with teacher, partners, and group.			
受講態度他	20％ Attendance according to school policy. Effort, participation.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Class is conducted in English. Students should try to speak English, ask questions, help other students to do well, volunteer to answer questions and talk about English experiences outside of class. I always respond to email too. Email to communicate with the teacher any time regarding absences and other issues. Smartphones are useful tools and may be used for class purposes. Do not use ネットの翻訳ソフト for homework.			
教科書	"Positively English" by Robert Diem (English Education Press)			
指定図書	特になし			
参考図書	Textbook activities on-line at: www.positivelyenglish.com			
オフィスアワー	Lunchtime on Wednesdays.		メールアドレス	

授 業 科 目	Conversation C I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	Keith Kinstler		単 位	2
授業の目的と概要	This conversation course is designed to reinforce prior conversation practice. Emphasis is given to a deeper understanding of basic grammatical models used in everyday interactions. 千里の道も一歩から。 Pair Work is employed throughout. Students will be required to give a prepare FC (Free Conversation) on specific topics for use in class. There will also be a number of Q and A sessions(Question and Answer) to allow students to participate in general conversation with each other and the teacher.			
到達目標	Students can learn simple English idioms used in daily conversation. In addition, formal rules of pronunciation, sentence structure and question formation will beable to be reviewed. 困難なことも慣れれば簡単			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	INTRO - CLASSROOM ENGLISH - GETTING TO KNOW YOU		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておく。	
第 2回	Departures 21 AND 22 - Paying for something - FC 'Food'		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておく。	
第 3回	Departures 23 - getting something - Q and A FC		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておく。	
第 4回	Departures 24 - Where were you? Q and A - Song		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておく。	
第 5回	Departures 25 - Returning Vacations - Q and A		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておく。	
第 6回	Departures 26 Foreign Vacations? - 'Foreign Trip' FC		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておく。	
第 7回	Departures 27 - Surviving? - Q and A FC		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておく。	
第 8回	Departures 28 - Past Simple Tense - FC 'Fashion'		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておく。	
第 9回	Departures 29 - Did you - FC 'Shopping'		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておく。	
第10回	Departures 30 The News - Q and A FC		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておく。	
第11回	Departures 31 - An Accident Song FC		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておく。	
第12回	Departures 32 - Could you FC		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておく。	
第13回	Departures 33 - Personal History - Q and A FC		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておく。	
第14回	Departures 34 and 35 - Elmer FC		授業前に前回の復習をし、配布プリントの単語の意味などを調べておく。	
第15回	Quiz		授業参加前に与えられたプリントの単語を調べておく。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％			
レポート	none			
小テスト等	20％			
成果発表	10％			
受講態度他	40％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	The language of instruction will be English. この授業は全て英語で行われます。このコースの評価は毎回のクラス活動（70%）、及び定期試験（30%）の総合評価によるものとする。定期試験のみで合格点をとっても、単位取得はできません。毎回の授業、課題提出が大事です。			
教科書	毎回、教材プリントを配布します			
指定図書	ENGLISH - JAPANESE JAPANESE - ENGLISH DICTIONARY （英和・和英辞典）（電子辞書も可）携帯の辞書の使用は不可。			
参考図書	None			
オフィスワー	Before or after class.授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	Conversation C I (S) 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	D.J. Wood		単 位	2
授業の目的と概要	As spoken English proficiency is necessary for successful interaction, students will: * aim for conversational competence by practicing intensive question and answer sessions * acquire fluent use of prompts and cues * raise their level of oral ability enough to produce English that is easy to understand; and * practice avoiding unclear usage and common mistakes that can lead to communicative breakdowns.			
到達目標	As target-language, text-free interaction is appropriate for successful communication, students: * engage in real life tasks (interviews, question and answer sessions, conversations, topic talks) * employ listening and reading activities, integrated with speaking and writing * supplement limited class time with self study activities; and, * use control language appropriately. Everybody must be positive and outgoing in every class.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	Course Orientation and Overview		Prepare for class 2 assignment	
第 2回	Question and Response Introduction		Prepare for class 3 assignment	
第 3 回	Question and Respose Pair&Group Practice		Prepare for class 4 assignment	
第 4回	Question and Response Pair&Group Practice		Prepare for class 5 assignment	
第 5回	Question and Response Quiz		Prepare for class 6 assignment	
第 6回	Conversation Practice Outline		Prepare for class 7 assignment	
第 7回	Conversation Pair and Group Practice		Prepare for class 8 assignment	
第 8回	Conversation Pair and Group Practice		Prepare for class 9 assignment	
第 9回	Conversation Pair and Group Quiz		Prepare for class 10 assignment	
第10回	Pair and Group Presentation Description		Prepare for class 11 assignment	
第11回	Pair and Group Presentation Practice		Prepare for class 12 assignment	
第12回	Pair and Group Presentation Practice		Prepare for class 13 assignment	
第13回	Pair and Group Presentation Quiz		Prepare for class 14 assignment	
第14回	Review for Presentation Preparation		Prepare for class 15 assignment	
第15回	Student Presentations and review for test		Prepare for class review assignment	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ Preparation, participation and quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条（2）に従います。			
教科書	Study materials will be distributed			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays	メールアドレス		

授 業 科 目	Conversation CII(S)【演習】		開講時期	後期
担当教員	Saza LINDA		単 位	2
授業の目的と概要	The aim of this course is to give intermediate-level students confidence in organizing and voicing their opinions on a variety of relevant and sometimes controversial topics. Emphasis will be placed on developing listening skills as well as speaking. Defending one's opinion is an important skill in any language.			
到達目標	The vocabulary introduced and the topics covered are important in building good communication skills. Simply responding to a question is sometimes not enough. Students will gain confidence in actually communicating with other English speakers.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 Course Overview			Unit 1 Internet Safety and Freedom of Expression	
第2回 Honor or Burden - Hosting the Olympics			Prepare Text pages 12-17	
第3回 Nuclear Power - Clean Energy or Potential Threat			Text pages 18-23	
第4回 Genetic Modification of Food - Risk or Great Technology?			Text pages 24-29	
第5回 Legalizing or Outlawing Gay Marriage			Text pages 30-35	
第6回 Separate Smoking or Total Ban			Text pages 36-41	
第7回 The Right to Die Euthanasia			Text pages 42-47	
第8回 Punishment or Discipline Corporal Punishment in Schools			Text pages 48-53	
第9回 Performance or Seniority Based Pay System			Text pages 60-65	
第10回 Free Trade or Protection TPP			Text pages 66-71	
第11回 Animal Rights Man's Best Friend			Text pages 72-77	
第12回 Peace Constitution or Revision			Text pages 78-83	
第13回 Death Penalty or Human Rights			Text pages 84-89	
第14回 Final Project Preparation			Presentation prep	
第15回 Final Presentations			Presenting of individual / group projects	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	30％			
成果発表	50％			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Come prepared to participate.			
教科書	Pros and Cons - Discussing Today's Controversial Issues by Uchizo Ueda, Published by Cengage Learning			
指定図書	なし			
参考図書	Bring a dictionary every week			
オフィスアワー	Before and after class	メールアドレス		

授 業 科 目	Conversation CII【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	Chris Flynn		単 位	2
授業の目的 と概要	The aim of this class is to develop conversational skills on topics that students can relate to. Another aim is to help students develop the confidence to speak in front of a number of people. Each week students will be given conversations to be presented to the class the following week. The frequency of presentations will depend on the number of students registered for the class.			
到達目標	Students should be able to reply to a number of questions equivalent to the interview test in the English Step level 2 test, and hold a detailed conversation. Also, the aim is for students to be confident when speaking English in front of an audience.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつなげるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 Class orientation			講義の際に指示します	
第 2回 Personal introductions			講義の際に指示します	
第 3回 Sports			講義の際に指示します	
第 4回 Restaurants, describing food preferences			講義の際に指示します	
第 5回 My school days. Talking about your experiences at school.			講義の際に指示します	
第 6回 Talking about travel. Talking about places you have been			講義の際に指示します	
第 7回 Talking about music. Your favourite music and musicians.			講義の際に指示します	
第 8回 Talking about movies. Types of movies you like and dislike.			講義の際に指示します	
第 9回 Teachers			講義の際に指示します	
第10回 People I respect			講義の際に指示します	
第11回 My favourite English proverb			講義の際に指示します	
第12回 My dream. Your future plans.			講義の際に指示します	
第13回 Review			講義の際に指示します	
第14回 Test presentation drafting and corrections.			講義の際に指示します	
第15回 Presentation test practice and review.			講義の際に指示します	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％			
レポート	0％			
小テスト等	30％			
成果発表	0％			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関する情報	Students should bring dictionary to class and use it as soon as they hear a word they don't understand.			
教科書	Helene Uchida 『Challenge Book #4』			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワー	Before and after the class.	メールアドレス		

授 業 科 目	Conversation CII【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	Alan Michaels		単 位	2
授業の目的と概要	This class will be a continuation of Conversation C 1 in term 1. Students will develop greater competence in English communication skills through speaking practice. Interactive communication activities including pair work, role play and group discussion will be frequent activities in class. This practice includes asking and answering textual and original questions, initiating and responding to questions and conversations. We will work on the skills of self-expression through many personalization activities as well as reviewing basic structures and vocabulary. Students should bring to every lesson: Textbook, notebook - for vocabulary and additional note-taking, and a dictionary for finding the meaning of new and forgotten words.			
到達目標	On completion of this course, students will be able to express themselves in English with a wider variety of expressions and depth of conversation. This extends beyond the classroom and into daily life when the skills are practiced diligently.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Introductions, greetings, course overview. How was your summer?		How was your summer? print.	
第2回	Unit 7 Discussing activities and experiences.		www.positivelyenglish.com and P.45	
第3回	Unit 7 Expanding on fluency - saying things in a different way.		www.positivelyenglish.com and listening activity.	
第4回	Unit 8 This or that? Comparisons.		www.positivelyenglish.com	
第5回	Unit 8 and 9 Better or best?		www.positivelyenglish.com and listening activity.	
第6回	Unit 9 Time and place.		Finish all homework to date.	
第7回	Review and Consolidation.		Prepare for test.	
第8回	Mid-term Assessment.		www.positivelyenglish.com	
第9回	Unit 10 Neighborhood.		www.positivelyenglish.com and P. 62.	
第10回	Unit 11 Experiences.		www.positivelyenglish.com and listening activity.	
第11回	Unit 11 Have you ever experienced it?		www.positivelyenglish.com	
第12回	Unit 12 Plans and dreams.		www.positivelyenglish.com and listening activity.	
第13回	Unit 12 Keep dreaming.		Finish all outstanding homework.	
第14回	Review and Consolidation.		Prepare for test.	
第15回	End of term Assessment.		Prepare for final test.	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	10％ Final test.			
レポート	10％ Homework every week. It will be checked and graded.			
小テスト等	50％ 2 speaking tests x 20%. 2 paper quizzes x 5%			
成果発表	10％ Speaking with teacher, partners, and group.			
受講態度他	20％ Attendance according to school policy. Effort, participation.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Class is conducted in English. Students should try to speak English, ask questions, help other students to do well, volunteer to answer questions and talk about English experiences outside of class. I always respond to email too. Email to communicate with the teacher any time regarding absences and other issues. Smartphones are useful tools and may be used for class purposes. Do not use ネットの翻訳ソフト for homework.			
教科書	"Positively English" by Robert Diem (English Education Press)			
指定図書	特になし			
参考図書	Textbook activities on-line at: www.positivelyenglish.com			
オフィスアワー	Lunchtime on Wednesdays.		メールアドレス	

授 業 科 目	Conversation C II 【演習】		開講時期	後期
担当 教 員	D.J. Wood		単 位	2
授業の目的 と概要	As spoken English proficiency is necessary for successful interaction, students will: * aim for conversational competence by practicing intensive question and answer sessions * acquire fluent use of prompts and cues * raise their level of oral ability enough to produce English that is easy to understand; and * practice avoiding unclear usage and common mistakes that can lead to communicative breakdowns.			
到達目標	As target-language, text-free interaction is appropriate for successful communication, students: * engage in real life tasks (interviews, Q&A sessions, conversations, topic talks) * employ listening and reading activities, integrated with speaking and writing * supplement limited class time with self study activities; and, * use control language appropriately. Everybody must be positive and outgoing in every class.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」 (2) -①多様な価値観を尊重し、他者をつなげるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	Course Orientation and Overview		Prepare for class 2 practice	
第 2回	Question and Response Introduction		Prepare for class 3 practice	
第 3 回	Question and Respose Pair and Group Practice		Prepare for class 4 practice	
第 4回	Question and Response Pair and Group Practice		Prepare for class 5 practice	
第 5回	Question and Response Quiz		Prepare for class 6 practice	
第 6回	Conversation Practice Outline		Prepare for class 7 practice	
第 7回	Conversation Pair and Group Practice		Prepare for class 8 practice	
第 8回	Conversation Pair and Group Practice		Prepare for class 9 practice	
第 9回	Conversation Pair and Group Quiz		Prepare for class 10 practice	
第10回	Pair and Group Presentation Description		Prepare for class 1 1 practice	
第11回	Pair and Group Presentation Practice		Prepare for class 12 practice	
第12回	Pair and Group Presentation Practice		Prepare for class 13 practice	
第13回	Pair and Group Presentation Quiz		Prepare for class 14 practice	
第14回	Review for Presentation Preparation		Prepare for class 15 practice	
第15回	Student Presentations and review for test		Prepare for presentations	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ Preparation, participation and quizzes			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	履修規程第10条（2）に従います。			
教科書	Study material will be distributed			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays	メールアドレス		

授 業 科 目	Core English I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松崎 徹		単 位	1
授業の目的 と概要	このコースは多くのタスク（演習問題）を行う参加型の授業で、英語を楽しく学ぶことを第一の目的とします。 Core は（中）核という意味で、皆さんがこれから英語を学習する上で、その中心となる英語の基礎を体系的、段階的に学習して、英語の4技能をしっかり作り上げ、英語学習のナビゲートをしします。 英語を「勉強する」という気持ちよりは、「慣れ親しんで使う」という気楽な気持ちで取り組んでください。			
到達目標	1. 英文法の基本的なことが十分理解できる。 2. 基本的な文法による英文を困難なく読める。 3. 英語に対する苦手意識がある場合、それを克服できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。 後期開講の「Core English II」や「Reading and WritingAII」の基礎を養う科目です。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	英語力自己診断&オリエンテーション		テストの見直し	
第2回	Unit 5 Have You Ever Seen a UFO?（現在完了形）		予習 pp.25-30	
第3回	Unit 7 Luucky Charm in a Soba Shop（受動態）		予習 pp.37-42	
第4回	Unit 8 Fishing is Exciting（不定詞）		予習 pp.43-48	
第5回	Unit 9 Angels in White（動名詞）		予習 pp.49-54	
第6回	Unit 5、7、8、9の復習		小テストの準備	
第7回	小テスト		小テストの解きなおし	
第8回	小テストの復習		オリジナル演習	
第9回	Unit 10 Robot（分詞）		予習 pp.55-60	
第10回	Unit 11 Band Contest（比較）		予習 pp.61-66	
第11回	Unit 12 Let's Go to a Museum（関係詞）		予習 pp.67-72	
第12回	Unit 13 Miss You.（仮定法）		予習 pp.73-78	
第13回	Unit 10～13の復習		小テストの準備	
第14回	小テスト		小テストの解きなおし	
第15回	復習		オリジナル演習、期末テストの準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 学期末定期試験 20％ 小テスト（2回）10％×2			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	20％ 受講態度と授業への積極的参加を考慮する			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	予習を必ず行っただうえで授業に出席すること。			
教科書	清田洋一他著 『English Quest Basic [New Edition]』（桐原書店）			
指定図書	特になし。			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスワー	火曜日 4 限目・水曜日 3 限目		メールアドレス	

授 業 科 目	Core English I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	宮原 牧子		単 位	1
授業の目的 と概要	このコースは多くのタスク（演習問題）を行う参加型の授業で、英語を楽しく学ぶことを第一の目的とします。 Core は（中）核という意味で、皆さんがこれから英語を学習する上で、その中心となる英語の基礎を体系的、段階的に学習して、英語の4技能をしっかりと作り上げ、英語学習のナビゲート进行します。 英語を「勉強する」という気持ちよりは、「慣れ親しんで使う」という気楽な気持ちで取り組んでください。			
到達目標	1. 英文法の基本的なことが十分理解できる。 2. 基本的な文法による英文を困難なく読める。 3. 英語に対する苦手意識がある場合、それを克服できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	英語力自己診断&オリエンテーション		小テストの復習&テキストの予習(pp. 2-3)	
第 2回	Unit 1	文の成り立ち	暗唱プリント&テキストの予習(pp. 8-9)	
第 3回	Unit 2	時制	暗唱プリント&テキストの予習(pp. 14-15)	
第 4回	Unit 3	文型 [1]	暗唱プリント&テキストの予習(pp. 20-21)	
第 5回	Unit 4	文型 [2]	暗唱プリント	
第 6回	Unit 1 ～ 4の復習		小テストの準備	
第 7回	小テスト(1)		小テストの解き直し	
第 8回	小テストの復習&確認問題		暗唱プリント&テキストの予習(pp. 32-33)	
第 9回	Unit 6	助動詞	暗唱プリント&テキストの予習(pp. 38-39)	
第10回	Unit 7	受動態	暗唱プリント&テキストの予習(pp. 44-45)	
第11回	Unit 8	不定詞	暗唱プリント&テキストの予習(pp. 50-51)	
第12回	Unit 9	動名詞	暗唱プリント	
第13回	Unit 6～9の復習		小テストの準備	
第14回	小テスト(2)		小テストの解き直し	
第15回	小テストの復習&確認問題		期末テストの準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 学期末定期試験 20％ 小テスト（2回）10％×2			
レポート	－			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	20％ 受講態度と授業への積極的参加を考慮する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習を必ず行っただうえで授業に出席すること。 毎回テキストの例文をプリントで配布するので、次の講義までに暗唱してくること。			
教科書	清田洋一他著 『English Quest Basic』 桐原書店			
指定図書	－			
参考図書	講義中にご紹介します。			
オフィスアワー	火曜日4限		メールアドレス	

授 業 科 目	Core EnglishⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	太田 梢		単 位	1
授業の目的 と概要	英語を日常で運用できるようになるために、高校までの英語の知識を土台としながら英語を使った情報の受信および発信能力（リーディング・ライティング）を身につける。コミュニケーション・スキルの基礎を培うとともに、英語の構造について理解できるようになることを目指す。Core EnglishⅠで学んだ文法事項を少しレベルアップした形で、再度全体を通して見直していく。文法内容としては、動詞、受動態、準動詞、修飾、関係詞節、比較、助動詞、条件節、仮定法を見ていく。演習アプリをダウンロードし、授業の予習・復習に活用していく。また適宜、副教材プリントが配布されるので、テキストの内容を補完する演習も行っていく。			
到達目標	1. 動詞・受動態・準動詞などの文法事項を説明できる。 2. 英文を読みながら、英文の文法構造を説明できる。 3. 文法規則に沿った正しい英文を書けるようになる。 4. テキストの演習問題を正しく解答できる。 5. 論理的思考力をもって演習問題の解答を説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション			Unit 1の予習	
第 2回 Unit 1(動詞[1]: 動作動詞、状態動詞)			Unit 1の復習及びUnit2の予習	
第 3回 Unit 2(動詞[2]: 他動詞、自動詞)			Unit 2の復習及びUnit3の予習	
第 4回 Unit 3(動詞[3]: 過去形、完了形)			Unit 3の復習及びUnit4の予習	
第 5回 Unit 4(受動態)			Unit 4の復習及びUnit5の予習	
第 6回 Unit 5(準動詞)			Unit 5の復習及びUnit6の予習	
第 7回 Unit 6(修飾[1]: 前置修飾)			Unit 6の復習及びUnit7の予習	
第 8回 Unit 7(修飾[2]: 後置修飾)			Unit 7の復習及びUnit8の予習	
第 9回 Unit 8(修飾[3]: 接触節)			Unit 8の復習及びUnit9の予習	
第10回 Unit 9(関係詞節[1]: 関係代名詞)			Unit 9の復習及びUnit10の予習	
第11回 Unit 10(関係詞節[2]: 関係副詞)			Unit 10の復習及びUnit11の予習	
第12回 Unit 11(比較)			Unit 11の復習及びUnit12の予習	
第13回 Unit 12(助動詞)			Unit 12の復習及びUnit13の予習	
第14回 Unit 13(条件節/仮定法[1])			Unit 13の復習及びUnit14の予習	
第15回 Unit 14 (仮定法[2])			Unit 14の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 学期末定期試験			
レポート	20％ 毎回の授業において課題が提出される。			
小テスト等	10％ 小テストを2回実施する。			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 十分な予習をもとにした、積極的な受講を考慮する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明なされる。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	予習を必ず行っただうえで授業に出席すること。			
教科書	Hiroshi Ono, English Quest Plus, 桐原書店（2018）			
指定図書	綿貫陽改訂・著『徹底例解ロイヤル英文法』（旺文社）綿貫陽，マーク・ピーターセン共著『表現のためのロイヤル英文法』（旺文社）A Pocket Style Manual (Bedford/St. Martin's 2005)			
参考図書	国際交流センターの英語図書・ソフト(主なリストは講義のときに配付)			
オフィスワ ーク	授業中やメールでの事前連絡により、予約をとってください。	メールアドレス		

授 業 科 目	Core EnglishⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	高森 暁子		単 位	1
授業の目的 と概要	英語を日常で運用できるようになるために、高校までの英語の知識を土台としながら英語を使った情報の受信および発信能力（リーディング・ライティング）を身につける。コミュニケーション・スキルの基礎を培うとともに、英語の構造について理解できるようになることを目指す。Core English Ⅰで学んだ文法事項を少しレベルアップした形で、再度全体を通して見直していく。文法内容としては、動詞、受動態、準動詞、修飾、関係詞節、比較、助動詞、条件節、仮定法を見ていく。			
到達目標	1．動詞・受動態・準動詞などの文法事項を説明できる。 2．英文を読みながら、英文の文法構造を説明できる。 3．文法規則に沿った正しい英文を書けるようになる。 4．テキストの演習問題を正しく解答できる。 5．論理的思考力をもって演習問題の解答を説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション			Unit 1の予習	
第 2回 Unit 1(動詞[1]：動作動詞、状態動詞)			Unit 1の復習及びUnit2の予習	
第 3回 Unit 2(動詞[2]：他動詞、自動詞)			Unit 2の復習及びUnit3の予習	
第 4回 Unit 3(動詞[3]：過去形、完了形)			Unit 3の復習及びUnit4の予習	
第 5回 Unit 4(受動態)			Unit 4の復習及びUnit5の予習	
第 6回 Unit 5(準動詞)			Unit 5の復習及びUnit6の予習	
第 7回 Unit 6(修飾[1]：前置修飾)			Unit 6の復習及びUnit7の予習：	
第 8回 Unit 7(修飾[2]：後置修飾)			Unit 7の復習及びUnit8の予習	
第 9回 Unit 8(修飾[3]：接触節)			Unit 8の復習及びUnit9の予習	
第10回 Unit 9(関係詞節[1]：関係代名詞)			Unit 9の復習及びUnit10の予習	
第11回 Unit 10(関係詞節[2]：関係副詞)			Unit 10の復習及びUnit11の予習	
第12回 Unit 11(比較)			Unit 11の復習及びUnit12の予習	
第13回 Unit 12(助動詞)			Unit 12の復習及びUnit13の予習	
第14回 Unit 13(条件節/仮定法[1])			Unit 13の復習及びUnit14の予習	
第15回 Unit 14（仮定法[2]）			Unit 14の復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	65% 学期末定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	20%			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 十分な予習をもとにした、積極的な受講を考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	辞書を携帯すること。 予習を必ず行っただけで授業に出席すること。 欠席が6回に達すると単位修得の資格を失います。			
教科書	酒井・大崎・箕輪・Farquharson, 『English Quest Plus (New Edition)』 桐原書店			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて授業中に指示する。			
オフィスアワー	金曜 4 時間目	メールアドレス		

授 業 科 目	Core Oral English I【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	D.J. Wood		単 位	1
授業の目的と概要	This course develops oral English communication skills up to the STEP grade 2 level spoken interview by: ・using greetings and developing clear pronunciation with phonic support as necessary ・making simple explanations about oneself and information that is provided ・asking and answering questions about each other in pairs ・building vocabulary beyond that which is required at high school ・gaining familiarity with and understanding contracted forms of speech ・receiving supplementary listening practice through CDs, DVDs, and so on. Basic Method: Students: use English to discover things about each other in pairs make short English presentations t			
到達目標	In detail, using English, students will: ・master the necessary control language to make input understandable ・ask and answer content questions about information split between them ・respond to speech gambits and initiate simple conversations ・talk about themselves and try to understand others doing the same ・use simple visual aids to describe people and places ・practice reading aloud clearly and with understanding simple statements and so on. ・develop the necessary knowledge and language to identify simple topics.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	Making greetings and participating in English icebreaking games		Prepare for class 2 assignment	
第 2回	Delivering simple self introductions about physical appearance, character, etc.		Prepare for class 3 assignment	
第 3回	Using numbers in meaningful contexts ? e.g. ages, dates of birth, addresses, etc.		Prepare for class 4 assignment	
第 4回	Presenting information about family and friends		Prepare for class 5 assignment	
第 5回	Responding to directions to get around school		Prepare for class 6 assignment	
第 6回	Giving directions around one' s home neighborhood, and to and from school		Prepare for class 7 assignment	
第 7回	Communicating one' s first impressions of school		Prepare for class 8 assignment	
第 8回	Mid-term assessment: a listening exercise based on the class content to date		Prepare for class 9 assignment	
第 9回	Describing simply life at previous schools and one' s favorite things		Prepare for class 10 assignment	
第10回	Learning to compare previous and present schools simply		Prepare for class 11 assignment	
第11回	Talking briefly about familiar topics in English, e.g. national holidays		Prepare for class 12 assignment	
第12回	Conveying opinions about topics of relevance to them, e.g. co-education		Prepare for class 13 assignment	
第13回	Describing simple short-term plans and possibilities, e.g. weekends and holidays		Prepare for class 14 assignment	
第14回	Learning from and telling others about basic changes in oneself and one' s routine		Prepare for class 15 assignment	
第15回	Late-term Assessment: listening review covering recent class content		Prepare for class review assignment	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	Final Pair interviews exam: 60%			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	Short Tests and Assessments 40%;			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条（2）に従います。			
教科書	Printed materials to be distributed			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays	メールアドレス		

授 業 科 目	Core Oral English I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	Paul Shimizu		単 位	1
授業の目的 と概要	The most important aspects of this course are that students actively participate and make an effort. Students will be working in groups as well as engaging in whole class activities. Students will cover all areas of English including reading and writing. However the emphases will be on listening and speaking.			
到達目標	Students will gain confidence in their communication ability and will enjoy this friendly and pleasant learning process.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Learning Empowerment Language		pages 1-3	
第2回	Using Empowerment Language		pages 4-9	
第3回	Betty`s Family		pages 10-13	
第4回	Listening and About You and Your Classmates		pages 14-15	
第5回	Learning Gestures and Body Language		pages 16-19	
第6回	Listening Check and Gestures in Your Society		pages 20-22	
第7回	Learning About How Well People Can Do Abilities and Sports		pages 23-27	
第8回	You and Your Classmates Abilities and Sports		pages 28-29	
第9回	Learning Language of Emotions and Feelings		pages 30-35	
第10回	Listening Check and You and Your Classmates Emotions and Feelings		pages 36-37	
第11回	Learning and Using Prepositions		pages 38-43	
第12回	Listening and Asking Questions Using Prepositions		pages 44-45	
第13回	Learning the Language of Asking and Giving Permission		pages 46-51	
第14回	Asking and Giving Permission in Your Society		pages 52-53	
第15回	Review		Entire First Half of Textbook	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	％			
レポート	％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	100％ Continuous Assessment, Attendance, Attitude and Participation.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Full attendance and active participation are essential.			
教科書	KOUSTAFF, GASTON, SHIMIZU 『On Your Marks』 INTERCOM PRESS			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Before and After Class	メールアドレス		

授 業 科 目	Core Oral English II 【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	T.R. Honkomp		単 位	1
授業の目的 と概要	A particular focus of Core Oral English II will be to reinforce and develop proficiency in the skills of speaking and listening. This general objective will be achieved through practice of communication on selected topics and texts and through the expression of opinions about those topics. Students will practice these skills weekly with the instructor and with classmates. Special emphasis will be given to expressing and comparing cultural characteristics of Japanese lifestyle.			
到達目標	Vocabulary development will be emphasized as well as the opportunity to introduce cultural aspects of communication. Each unit from the text will have modules of listening, vocabulary and conversation.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	Course introduction; course information, policies and expectations		Preview Unit 1	
第 2回	Friends; introduction to text, exchanging personal info.		Vocab. #1	
第 3回	Past experience; past tense, talking about the past		Vocab.#2	
第 4回	Lifestyles; working and free time		Vocab. #3	
第 5回	Aesthetic values; beauty, describing people and fashion		Vocab. #4 - Vocabulary Quiz #1	
第 6回	Vacations; plans for leisure activities, travel		Vocab. #5	
第 7回	Money & finances; budgeting and spending habits		Vocab. #6	
第 8回	City & country life; advantages & disadvantages living environment		Vocab. #7	
第 9回	Giving opinions; likes and dislikes, expressing opinions		Vocab. #8 - Vocabulary Quiz #2	
第10回	Cooking & food; eating out, eating in, food discussion		Vocab. #9	
第11回	Good times; the best and worst of everything		Vocab. #10	
第12回	Traveling in Japan; explaining cultural attractions in Japan		Vocab. #11	
第13回	The future; making plans, thinking about future life		Vocab. #12 - Vocabulary Quiz #3	
第14回	Student presentations and vocabulary review		Vocab. # 1-12	
第15回	Semester review, exam review and semester consolidation		Exam review sheet	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	25% Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30% Class participation and class activities 45% Three quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions.			
教科書	New Changing Times Dale & Chris Fuller		MacMillan LanguageHouse	
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Monday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 3rd period (1:10-2:40)	メールアドレス		

授 業 科 目	Core Oral EnglishⅡ【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	Paul Shimizu		単 位	1
授業の目的 と概要	The most important aspects of this course are that students actively participate and make an effort. Students will be working in groups as well as engaging in whale class activities. Students will cover all areas of English including reading and writing. However the emphases will be on listening and speaking.			
到達目標	Students will gain confidence in their communication ability and will enjoy this friendly and pleasant learning process.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Review		pages 54-57	
第2回	Listening Check and Interview Classmates Review		pages 58-59	
第3回	Telling Time and Reading Timetables		pages 60-61	
第4回	Asking and Answering About Time		pages 63-65	
第5回	Listening and Answering Questions Time for You and Your Classmates		pages 66-67	
第6回	Learning About Numbers and Measurements		pages 68-73	
第7回	Listening Check and Asking Classmates Using Various Number Questions		pages 74-75	
第8回	Learning Comparative Form of Adjectives		pages 76-77	
第9回	Using Comparative Language with You and Your Classmates		pages 78-83	
第10回	Learning Superlative Form of Adjectives?		pages 84-85	
第11回	Using Superlative Language with You and Your Classmates		pages 86-91	
第12回	Learning Present, Past and Present Perfect Tenses		pages 92-93	
第13回	Using Present, Past and Present Perfect Tenses		pages 94-99	
第14回	Learning and Using Future Tense		pages 100-105	
第15回	Review whole book		page106～	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	％			
レポート	％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	100％ Continuous Assessment, Attendance, Attitude and Participation.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Full attendance and active participation are essential.			
教科書	KOUSTAFF, GASTON, SHIMIZU 『On Your Marks』 INTERCOM PRESS			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Before and After Class		メールアドレス	

授 業 科 目	English Interpreting【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	野中 誠司		単 位	2
授業の目的 と概要	英語通訳におけるトレーニング方法について知り、それらを実践することで、総合的な英語力を身につけることを第1目的とする。また、通訳者の役割である、内容を他人にわかりやすく伝えるというプレゼンテーション能力の習得を通じて、社会生活に必要な基礎的技能であるコミュニケーション・スキル、論理的思考力、問題解決能力などの向上を第2目的とする。 通訳の訓練方法を英語力の向上に応用することを目的とした授業を行う。訓練の基本はスピードであり、聞いたものにすばやく反応する瞬発力と聴解力が重要である。なぜならば、通訳者の役割は、話し手からのメッセージを第三者に伝えることだからである。受講者にはこうした訓練に対応できる一定の英語力が備わっていることが望ましい。			
到達目標	1. 通訳訓練のさまざまな方法を理解し、それらを的確に実践できる。 2. 習得した訓練法を用いて、聴衆にわかりやすい通訳（プレゼンテーション）ができる。 3. 通訳訓練で得た知識や技能を、自己にふさわしい将来設計（キャリアプランニング）に活用できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 自己紹介			課題	
第2回 自己紹介、家族			課題	
第3回 家族、大学生生活			課題	
第4回 大学生生活			課題	
第5回 医療			課題	
第6回 医療			課題	
第7回 国際交流Ⅰ			課題	
第8回 国際交流Ⅰ			課題	
第9回 日本文化			課題	
第10回 日本文化			課題	
第11回 環境			課題	
第12回 環境			課題	
第13回 国際交流Ⅱ			課題	
第14回 国際交流Ⅱ			課題	
第15回 まとめ			復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	なし			
小テスト等	30%			
成果発表	なし			
受講態度他	20%：主体的かつ積極的に参加している点を評価する。無条件で付与される出席点ではない。無断欠席および遅刻は回数に関係なく減点する。10分以上の遅刻も欠席とみなす。無断欠席6回で受講放棄と判断し、名簿から氏名を削除する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 配付するプリントには予備がないので、紛失しないように自己管理を徹底すること。また欠席した場合は、クラスメートから借りてコピーをとるなど自主的に対応すること。 2. 名簿順に座席を指定するので、指定された席にすわること。座席の要望があれば、開講日に受けつけるので申し出ること。 3. 病気、忌引などやむをえない理由で欠席した場合は、客観的な証明書類を後日必ず提出すること。提出がない場合、無断欠席として処理する。			
教科書	使用しない。適宜プリントを配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に相談のこと。		メールアドレス	

授 業 科 目	English Meaning and Use I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	石井 康仁		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業では、英語母語話者が使うような、自然な英語の意味用法を学び、身に付けることができるよう、その基盤作りをし、さまざまな英語の慣用表現を習得することをテーマとしている。			
到達目標	①日本人英語学習者が犯しやすい間違いを認識し、英語母語話者の自然な英語の意味用法を理解する。 ②スヌーピーのコミックの題材を通して、英語のユーモアの感覚をある程度理解できるようになる。 ③英語母語話者の使うような自然な英語を徐々に使いこなせるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	イントロダクション		プリント資料 1	
第 2 回	日本人英語学習者の犯しやすい間違い 1：名詞（趣味、興味、常識、高校時代、社会人、学歴、偏差値）		プリント資料 2	
第 3 回	スヌーピーのコミックのユーモア 1：Body Language in _Peanuts_		教科書 Lesson 1	
第 4 回	日本人英語学習者の犯しやすい間違い 2：名詞（塾、教科書、プリント、ヒアリング、企業、自治体、国民、政治家）		プリント資料 3	
第 5 回	スヌーピーのコミックのユーモア 2：Lucy's Psychiatry Stand		教科書 Lesson 2	
第 6 回	日本人英語学習者の犯しやすい間違い 3：名詞（不倫、差別、環境破壊、緑、農薬、フロンガス、たばこ）		プリント資料 4	
第 7 回	スヌーピーのコミックのユーモア 3：Friends Forever		教科書 Lesson 3	
第 8 回	日本人英語学習者の犯しやすい間違い 4：名詞（ペットボトル、牛乳パック、ごみ、ごみ箱、ジュース、アイドル、等）		プリント資料 5	
第 9 回	スヌーピーのコミックのユーモア 4：Peanuts as a Social Group		教科書 Lesson 4	
第10回	日本人英語学習者の犯しやすい間違い 5：名詞（OL、マネージャー、メーカー、ホームページ、マンション、等）		プリント資料 6	
第11回	スヌーピーのコミックのユーモア 5：Shroeder the Music Lover		教科書 Lesson 5	
第12回	日本人英語学習者の犯しやすい間違い 6：名詞（フリーマーケット、ピアス、イギリス、人間、気分、すがた、近所、等）		プリント資料 7	
第13回	スヌーピーのコミックのユーモア 6：Girls in Peanuts		教科書 Lesson 6	
第14回	日本人英語学習者の犯しやすい間違い 7：名詞（服、味、安全運転のドライバー、ささいなこと、魚、紙、木材）		プリント資料 8	
第15回	まとめ		授業で課題を出します	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	－			
小テスト等	20％			
成果発表	－			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出欠については、履修規程にある通り（全15回の授業の3分の2の出席を必要とする）です。 出席することで理解が深まります。可能な限り出席しましょう。 事情があつて休む場合は事前に連絡して下さい。			
教科書	H. Toyama, _Enjoy English with Charlie Brown and Friends: Language and Culture in Peanuts._ 南雲堂 プリント資料			
指定図書	－			
参考図書	_English Usage_ (Collins Cobuild), HarperCollins UK T.E. Berry, _The Most Common Mistakes in English Usage_, McGraw-Hill Education			
オフィスワー	月曜日 4 時限目、火曜日 5 時限目		メールアドレス	

授 業 科 目	English Meaning and Use II 【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	石井 康仁		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業では、英語母語話者が使うような、自然な英語の意味用法を学び、身に付けることができるよう、その基盤作りをし、さまざまな英語の慣用表現を習得することをテーマとしている。			
到達目標	①日本人英語学習者が犯しやすい間違いを認識し、英語母語話者の自然な英語の意味用法を理解する。 ②スヌーピーのコミックの題材を通して、英語のユーモアの感覚をある程度理解できるようになる。 ③ 英語母語話者の使うような自然な英語を徐々に使いこなせるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 イントロダクション			プリント資料1	
第2回 日本人英語学習者の犯しやすい間違い1：動詞（卒業する、（免許を）取る、～にあう、～をこわす、（自然に）触れる、			プリント資料2	
第3回 スヌーピーのコミックのユーモア1： Sally and her Leagal Beagle			教科書 Lesson 7	
第4回 日本人英語学習者の犯しやすい間違い2：動詞（約束する、紹介する、（肉・魚を）焼く、（野菜・米を）作る、			プリント資料3	
第5回 スヌーピーのコミックのユーモア2： Linus's Security Blanket			教科書 Lesson 8	
第6回 日本人英語学習者の犯しやすい間違い3：動詞（捨てる、我慢する、（病気）である、（車に）乗る/降りる、			プリント資料4	
第7回 スヌーピーのコミックのユーモア3： Crabby Lucy			教科書 Lesson 9	
第8回 日本人英語学習者の犯しやすい間違い4：動詞（～と思う、～を知っている、～するのをやめる、			プリント資料5	
第9回 スヌーピーのコミックのユーモア4： Someday My Great Pumpkin Will Come			教科書 Lesson 10	
第10回 日本人英語学習者の犯しやすい間違い5： 形容詞（親しい、尊敬するに値する、残念だ、くやしい、たくさん/とても、ハーフ、一番好きな、とてもよく）			プリント資料6	
第11回 スヌーピーのコミックのユーモア5： Good Grief! It's a Valentine's Day!			教科書 Lesson 11	
第12回 日本人英語学習者の犯しやすい間違い6：その他（～からずっと、経過する、～は初めてだ、～（時間）にアルバイトする、ホームステイ、足りない、～のようだ、だれも～でない）			プリント資料7	
第13回 スヌーピーのコミックのユーモア6： The Life and Work of Charles Schulz			教科書 Lesson 12	
第14回 日本人英語学習者の犯しやすい間違い7：その他（比較級＋than＋代名詞、～は言い過ぎでない、			プリント資料8	
第15回 まとめ			プリント資料9	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	－			
小テスト等	20％			
成果発表	－			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出欠については、履修規程にある通り（全15回の授業の3分の2の出席を必要とする）です。出席することで理解が深まります。可能な限り出席しましょう。事情があつて休む場合は事前に連絡して下さい。			
教科書	H. Toyama, Enjoy English with Charlie Brown and Friends: Language and Culture in Peanuts. 南雲堂 プリント資料			
指定図書	－			
参考図書	_English Usage_ (Collins Cobuild), HarperCollins UK T.E. Berry, _The Most Common Mistakes in English Usage_, McGraw-Hill Education			
オフィスアワー	水曜日 5 時限目、木曜日 2 時限目		メールアドレス	

授 業 科 目	Film Communication【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	D.J. Wood		単 位	2
授業の目的 と概要	This course develops Visual Literature so it is an advantage to have taken the Year 2 course first if possible. While Visual Literature featured how a novel is translated into a movie, Film Communication examines movies that begin as just an idea and develop into a shooting script, which precedes the making of the movie. We will read about the movie in class and study some of the dialogues before watching short scenes to see how a movie communicates its message both in terms of the plot and the different levels of symbol, metaphor and image, visual, oral, aural and otherwise.			
到達目標	By studying the nature of a movie as an act of communication, students will understand more about how other movies work and about communication itself, as well as improving their language ability and knowledge of movies and culture. Students will practice both spoken and written communication, and will acquire both interpretational and predictive skills. Movies have become the de facto literature of the 20th and 21st centuries, and include some of the greatest stories told so it is a necessary communication skill to understand their structure and purpose in order to evaluate them.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 Overall Introduction			Prepare for class 2 theme	
第 2回 Specific Introduction			Prepare for class 3 theme	
第 3回 Scene & Reading 1			Prepare for class 4 theme	
第 4回 Scene & Reading 2			Prepare for class 5 theme	
第 5回 Scene & Reading 3			Prepare for class 6 theme	
第 6回 Scene & Reading 4			Prepare for class 7 theme	
第 7回 Scene & Reading 5			Prepare for Review 1	
第 8回 Review 1			Review for Class Test 1	
第 9回 Class Test 1			Review for Class Retest as required	
第10回 Results & Retest as required			Prepare for class 11 theme	
第11回 Scene & Reading 6			Prepare for class 12 theme	
第12回 Scene & Reading 7			Prepare for class 13 theme	
第13回 Scene & Reading 8			Prepare for Review 2	
第14回 Review 2			Review for Class Test 2	
第15回 Class Test 2			Review for Class Retest as required	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ Readings, Q&A and class participation			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条（2）に従います。			
教科書	Materials will be distributed and explained in each class			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays	メールアドレス		

授 業 科 目	Gender and Communication【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	宮原 哲		単 位	2
授業の目的と概要	ジェンダーと人間コミュニケーションとのさまざまな関係を探り、実社会で生きていくうえで自分にとって心地よく、効果的な対人関係を築くために必要なコミュニケーション能力を修得、向上することを目的として授業を構成、展開する。これまでに国内外で行われてきた、女性と男性とのコミュニケーションの特性や指向に関する理論に批判的精神で挑戦し、日本の文化、社会、歴史、教育、就労など、特有の社会環境の中での男女のコミュニケーションの実践の特徴が、これまでの「常識」によってどの程度説明され、あるいはされないのかを検証する。日本女子大生としてこれからますますグローバル化が促進される社会で、今後「自分らしく」生きるには身の回り、さらに社会で起こるさまざまな事象にどのように対処することによってコミュニケーション能力を向上させられるか、理論的、実践的な授業の展開を目指す。			
到達目標	学期の最初の1／3で代表的対人コミュニケーション理論を紹介する。次の1／3では対人コミュニケーションの具体的状況（例：親子、友人、恋人、夫婦、上司一部下）を選択し、リサーチ（個人の実体験を体系的にまとめたり、実際の対人コミュニケーションの状況を観察したり、当事者へのインタビューなど）を行う。最後の1／3でリサーチの結果が既存の理論でどの程度説明されるのか、考察する。どのような考え方の則り、またどのような状況での対人コミュニケーションに的を絞ってリサーチを行うかは相談の上決定する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	クラスオリエンテーション		この授業を通して達成したい目標を明確にする	
第2回	コミュニケーションとしてのジェンダー		コミュニケーションとジェンダーが日常どう関わっているか考える	
第3回	文化とコミュニケーション		自分の文化的背景について考え、レポートする	
第4回	セックスとジェンダー		「性」にまつわるさまざまな考え方を整理、理解する	
第5回	ジェンダーと言語コミュニケーション		日常生活で自分が用いる言葉について実例をレポートする	
第6回	ジェンダーと非言語コミュニケーション		テレビ番組、CMなどで非言語がどう使われているか観察する	
第7回	異文化コミュニケーションとしてのジェンダー		ジェンダーがなぜ文化なのか、自分なりの答を出す	
第8回	「不適切な」関係		ストーキング、DVなどに関して社会で何が起きているのか具体例を示す	
第9回	友情関係とジェンダー		自分自身の対人関係について振り返る	
第10回	恋人関係とジェンダー		異性との関係と友人関係の相違について自省する	
第11回	家族とジェンダー		家族がジェンダーに与える影響を、具体例を使って示す	
第12回	教育とジェンダー		これまで受けてきた教育とジェンダーとの相互関係を考える	
第13回	仕事とジェンダー		社会人になるにあたって、職場でのジェンダーについて理解する	
第14回	発表		グループ、または個人発表の準備をする	
第15回	発表		グループ、または個人発表の準備をする	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	理論レポート・状況考察レポート 合計30％			
小テスト等	小テスト2回（中間・期末） 合計50％			
成果発表	15％			
受講態度他	5％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ジェンダーは受講生一人ひとりにとって重要な課題であることを認識し、教科書を読む、レポートを提出することもコミュニケーションの一環であることを自覚して授業に臨んでもらいたい。出席は重視しないが、出席するからには積極的に授業に参加する気持ちと準備をしてきてもらいたい。			
教科書	宮原哲 「新版入門コミュニケーション論」松柏社			
指定図書	DeFrancisco, V. P., Palczewski, C. H., & Mcgeough, D. D. (2014). Gender in communication. Los Angeles, CA: Sage			
参考図書	適宜配布、または指示する			
オフィスアワー	火曜日、午後1時～2時		メールアドレス	

授 業 科 目	Hotel and Airline English I【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	三日月 雅子		単 位	2
授業の目的と概要	英語はグローバル社会での基本的なコミュニケーション・スキルです。実践的で必要な英語力を身に付けることこそ重要な課題です。この授業では、Airlineと Hotel英語に特化した学習に加えて、海外旅行で必要とされる英語表現等の学習を目的とします。英語で不自由する理由の1つに、遭遇する各場面での対処の仕方に不慣れであり、その場面で必要な表現を知らないことが挙げられます。授業では、私たちが海外旅行の際、遭遇する様々な場面での「役に立つ実践的な英語」を学習し、旅行およびホテル英語等で使われる基本的なリスニングとスピーキングを効果的に学び、コミュニケーションスキルの向上を目指します。授業は主としてペアワークでの口頭発表です。			
到達目標	旅行業界・ホテル業界への就職に興味がある学生やTOEICのリスニング力をアップさせたい学生にとってのスキルアップを到達目標とします。また、近い将来、留学や海外旅行を計画している学生には即戦力としての役立つ旅行英語を習得することもできます。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	前期授業の進行についての説明		次回Unit 1 の予習	
第 2回	Unit 1 Prologue-Before you startのListening&Speaking		課題 Listening&Speakingの暗記	
第 3回	Unit 1 Prologue-Before you start のReading&Tip		課題 Reading&Tipの予習(読解)	
第 4回	Unit 2 On an AirplaneのListening&Speaking		課題 Listening&Speakingの暗記	
第5回	Unit 2 On an AirplaneのReading&Tip		課題 Reading&Tipの予習(読解)	
第 6回	Unit 3 At Honolulu Airport-Immigration and CustomsのListening&Speaking		課題 Listening&Speakingの暗記	
第 7回	Unit 3 At Honolulu Airport-Immigration and CustomsのReading&Tip		課題 Reading&Tipの予習(読解)	
第 8回	Unit 4 Transit at Honolullu AirportのListening&Speaking		課題 Listening&Speakingの暗記	
第 9回	Unit 4 Transit at Honolullu AirportのReading&Tip		課題 Reading&Tipの予習(読解)	
第10回	Unit 5 Exchange moneyのListening&Speaking		課題 Listening&Speakingの暗記	
第11回	Unit 5 Exchange moneyのReadingとTip		課題 Reading&Tipの予習(読解)	
第12回	Unit 7 Hotel--Checking in のListening&Speaking		課題 Listening&Speakingの暗記	
第13回	Unit 7 Hotel--Checking in のReading&Tip		課題 Reading&Tipの予習(読解)	
第14回	前期復習(Unit 1 ～Unit 7)		試験に向けての復習	
第15回	前期復習(Unit 1 ～Unit 7)		試験に向けての説明	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％：定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	Listening test			
成果発表	20％：ペアワークによる口頭発表			
受講態度他	20％：出席状況および発表等による授業への参加を考慮			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	テキストに沿っての予習が必ず必要です。 さらに、毎回の授業で英語表現を暗記して発表することが求められます。			
教科書	著者：三日月 雅子 Fly across the Borders 出版社名：松柏社 ISBN 978-4-88198-685-1			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワー	前期 火曜日：昼休みと3限目以降、 水曜日：昼休み		メールアドレス	

授 業 科 目	Hotel and Airline English II【演習】		開 講 時 期	後期	
担 当 教 員	三日月 雅子		単 位	2	
授業の目的と概要	英語はグローバル社会での基本的なコミュニケーション・スキルです。必要な実践的英語力を身に付けることこそ重要な課題と言えます。 後期のこの授業では、前期に引き続きAirlineと Hotel英語に特化した学習に加えて、海外旅行で必要とされる英語表現等の学習を目的とします。英語で不自由する理由の1つに、遭遇する各場面での対処の仕方に不慣れであり、その場面で必要な表現を知らないことが挙げられます。授業では、私たちが海外旅行の際に遭遇する様々な場面での「役に立つ実践的な英語」を学習し、旅行およびホテル英語の基本的なリスニングとスピーキングを効果的に学び、コミュニケーションスキルの向上を目指します。後期の授業では、前期の基本表現の精度をさらに深めて、「本当に役に立つ実践的旅行英語」の学習にさらに力を入れたいと思います。				
到達目標	旅行業界・ホテル業界への就職に興味がある学生やTOEICのリスニング力をアップさせたい学生にとってのスキルアップを到達目標とします。また、近い将来、留学や海外旅行を計画している学生には即戦力としての役立つ旅行英語を習得することもできます。				
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。				
授 業 計 画	授 業 内 容			授 業 外 学 修 など	
第 1回 前期授業の復習と後期授業の説明				次回 Unit 8 Staying at Hotelの予習	
第 2回 Unit 8 Staying at Hotel : Listening&Speaking				課題 Listening&Speakingの暗記	
第 3回 Unit 8 Staying at Hotel : Reading&Tip				課題 Reading&Tipの予習(読解)	
第 4回 Unit 11 Food and Drink : Listening&Speaking				課題 Listening&Speakingの暗記	
第5回 Unit 11 Food and Drink : Reading&Tip				課題 Reading&Tipの予習(読解)	
第 6回 Unit 12 At the Restaurant : Listening&Speaking				課題 Listening&Speakingの暗記	
第 7回 Unit 12 At the Restaurant : Reading&Tip				課題 Reading&Tipの予習(読解)	
第 8回 Unit 13 Shopping : Listening&Speaking				課題 Listening&Speakingの暗記	
第 9回 Unit 13 Shopping : Reading&Tip				課題 Reading&Tipの予習(読解)	
第10回 Unit 14 Hotel-Checking out : Listening&Speaking				課題 Listening&Speakingの暗記	
第11回 Unit 14 Hotel-Checking out : Reading&Tip				課題 Reading&Tipの予習(読解)	
第12回 Unit 15 Going back Home : Listening&Speaking				課題 Listening&Speakingの暗記	
第13回 Going back Home1 : Reading&Tip				課題 Reading&Tipの予習(読解)	
第14回 後期復習(Unit 8～15)				試験に向けての総復習	
第15回 後期復習(Unit 8～15)				試験に向けての学習について説明	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など				
定期試験	60％：定期試験				
レポート	なし				
小テスト等	Listening test				
成果発表	20％：ペアワークによる口頭発表				
受講態度他	20％：出席状況および発表等による授業への参加を考慮				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	テキストに沿った予習が必要です。さらに、毎回の授業で英語表現を暗記することが求められます。				
教科書	著者：三日月 雅子 Fly across the Borders 出版社名：松柏社 ISBN 978-4-88198-685-1				
指定図書	特になし				
参考図書	特になし				
オフィスワー	火曜日：昼休みと4限目以降 金曜日：昼休み		メールアドレス		

授 業 科 目	I T と現代社会【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	一ノ瀬 元史		単 位	2
授業の目的 と概要	情報技術（IT）と現代社会とのかかわりについて具体的な出来事、事象、サービスなどの考察を中心に解説します。現代社会のグローバル化の原動力の一つである情報技術は、現代社会をどのように変えたのか、またさまざまなビジネスやサービスをどのように変貌させてきたのか。その機能と原理を知り、その利と不利を知って有効活用を図ることはこれからの持続可能性社会の実現に欠かせない。IT関連を中心に解説し、それらによって情報がどのように処理され、社会に活用されているか、また個人の生活にどのように関わっているか将来を見通しながら現状を考察する。			
到達目標	1. 情報について説明できる。 2. インターネットの仕組みの概観が説明できる。 3. コンピュータのデータ処理の仕組みが説明できる。 4. コンピュータやインターネットとビジネスの関わりを理解し説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 メディア社会コースの基幹科目である。発展科目の「現代ネットワーク社会」に繋がります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション	講義について 評価方法等	DVD視聴 「天使か悪魔か、人工知能AI」	「アナログ」と「デジタル」の違いについて	
第2回 インターネットの活用① SNS:LINE、Facebook、Twitter			1. 復習：SNS等について 2. 予習：検索サイトについて調べよう	
第3回 インターネットの活用② 検索サイト、Wikipedia、ネットショッピング			予習：メディアリテラシーについて	
第4回 情報社会に欠かせない倫理とルール メディアリテラシー、個人情報、知的財産権			復習：情報社会に欠かせない倫理について	
第5回 ネットワーク脅威とセキュリティ コンピュータウイルス、ネット詐欺			復習：コンピュータウイルス 予習：情報のデジタル化 2進数、演算回	
第6回 情報やメディアに関する技術① 2進数、ビットとバイト、標本化と量子化			アナログ情報からデジタル情報への変換について	
第7回 情報やメディアに関する技術② アプリ、オフィスソフト			コンピュータハードウェアについて	
第8回 ネットワークに関する技術 ハードウェアについて			コンピュータソフトウェアについて	
第9回 ハードウェアに関わる技術① ソフトウェアについて OS、アプリケーション、ドライバ			プログラミングについて	
第10回 ハードウェアに関わる技術② 周辺装置			インターネットについて	
第11回 ソフトウェアに関わる技術 オペレーティングシステム、プログラム			復習：オペレーティングシステム	
第12回 コンピュータの歴史 <中間テスト> ENIACからパソコンまで			コンピュータの歴史	
第13回 現代のIT業界 Google、Apple、Microsoft、Amazon			IT業界について	
第14回 私たちが生きる情報社会① 情報システム、DVD視聴（コンビニにいつもほしいものがある理由）			復習：情報システムについて	
第15回 私たちが生きる情報社会② 情報活用、まとめ			復習：情報社会	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	中間テスト20％、定期試験50％			
レポート	10％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	20％（発表、ノート確認を含む）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	デジタル機器に興味を持って、仕組み等を知りたい方におすすめ			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	水、金 15：00-17：00 事前に連絡を	メールアドレス		

授 業 科 目	Intercultural Communication I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	行時 潔		単 位	2
授業の目的と概要	英語は世界で最も広範囲に使用され、最も有効かつ効果的な国際共通語となっている。従って、英語は多国間コミュニケーション言語であり、各地域で協力交流の言語にもなっている。この授業では、英語を媒体としたコミュニケーション力の基礎を固めながら、グローバルな人材として異文化を理解し、将来、異文化交流で世界に通用するコミュニケーションスキルを身に付ける。 授業の概要としては、3名の著者（ビジネス経験を持つ大学教員、研究者でもある同時通訳者、英語教材作成に精通したネイティブスピーカー）の言語や異文化に関わる知識や経験に基づく実践的なコミュニケーションスキルが随所に盛り込まれたテキストを使い、リスニング、音読、シャドーイングなどのトレーニングを通して英語力を向上させる。併せて、異文化について書かれたエッセイを読みながら異文化理解を深化させる。			
到達目標	・リスニングや音読のトレーニングを繰り返すことで英語の速度やリズムに慣れ、英語ネイティブの「自然な英語」を聞き取ることができるようになる。 ・英語で尋ねられたことに対して英語で答えることができるようになる。 ・自文化を他文化と相対化させる視点を養いながら異文化受容を身につけ、異文化交流で効果的に英語でコミュニケーションを取ることができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、使用テキストの紹介、予習・復習、授業評価の方法などの説明及び効果的な異文化コミュニケーションや異文化理解などの概略の説明		テキストの予習（p 11－16）	
第2回	May I help you? 困っている人に話しかける方法や日本とアメリカの住所表記の違いについて学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 17－22）	
第3回	What do you do on the weekend? 初対面の人と会話を続ける方法について学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 23－28）	
第4回	That sounds interesting! ポジティブ/ネガティブな意見の述べ方や異なる意見のまとめ方について学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 29－34）	
第5回	I'm not feeling well. 体調を伝える方法について学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 35－40）	
第6回	You shouldn't step there! 相手に注意をする方法やマナーの違いについて学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 41－46）	
第7回	Why don't we buy potatoes, too? 提案したり提案する際の心構えについて学ぶ		前半の授業内容を復習し、次週のテストの準備をすること	
第8回	前半の復習テストとまとめ：解説テスト終了後、効果的な異文化コミュニケーション、文化の多様性の受容、異文化交流などについての補足説明		テキストの予習（p 47－52）	
第9回	Would 5 p.m. be convenient for you? スケジュールを調整したり時間の感覚の違いについて学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 53－58）	
第10回	I'll have to pass. 依頼をしたり文化の違いによる食事制限について学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 59－64）	
第11回	I have an idea. 解決策を提案したり積極的な行動について学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 65－70）	
第12回	Could you do me a favor? お願いをしたりお願いの仕方について学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 71－76）	
第13回	I think you could explain this more. アドバイスをしたり批判の与え方や受け取り方について学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 77－82）	
第14回	I don't get what you mean. 相手の発言を聞き返す方法を学ぶ		今日の授業内容を復習すること	
第15回	授業のまとめと今後の学習のために：効果的な異文化コミュニケーションのために必要な文化の多様性の受容や異文化交流等の重要性を今後も考えていく必要性を説く		後半の授業内容を復習し、定期試験の準備をすること	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	授業後半の復習テスト：50％			
レポート	なし			
小テスト等	授業前半の復習テスト：30％			
成果発表	％			
受講態度他	授業への積極的な参加態度や予習状況などを考慮：20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・辞書としてスマホやタブレットの使用は認めないので、必要の際には必ず辞書を持参すること。 ・授業の雰囲気や乱す行為（私語、居眠り、スマホの使用など）は減点の対象となる。 ・前半の復習テストを欠席して受けなかった場合は単位取得が難しくなることがあるので十分注意すること。 ・欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、本科目の定期試験を受けることができない。 ※欠席1回につき2点減点、遅刻は授業開始後10分までとし、それ以降は欠席扱い。3回の遅刻は1回の欠席とみなす。			
教科書	柴田 真一、神藤 理恵、Lindsay Wells 『MUST- HAVE English Skills for Global Communication』 金星堂			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	Intercultural Communication II 【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	行時 潔		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業では、異文化コミュニケーションを実践するに当たり、英語ネイティブや英語をコミュニケーションのツールとして使っている人たちと共に異文化について学びながら、英語でのコミュニケーション・コンピテンスを向上させる。 授業の概要としては、異文化で暮らす際、また、異文化で暮らす人たちと交流する際に知っておくべきことなどが盛り込まれたテキストを使い、リスニング、音読、シャドーイングなどのトレーニングを行いながら英語力を向上させる。併せて、テキストで紹介されていることや授業担当者の海外での実体験などを通して異文化について考察し、異文化理解を深化させる。			
到達目標	・ 自律的な英語学習者になるよう、自ら積極的に英語学習に取り組むことができるようになる。 ・ リスニングや音読のトレーニングを繰り返すことで英語の速度やリズムに慣れ、英語ネイティブの「自然な英語」を聞き取ることができるようになる。 ・ 英語で尋ねられたことに対して英語で答えることができるようになる。 ・ 自文化を他文化と相対化させる視点を養いながら異文化受容を身につけ、異文化交流で効果的に英語でコミュニケーションを取ることができるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、使用テキストの紹介、授業評価の方法などの説明 Unit 1 English and the World		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 4－8）	
第2回	English and the World アメリカ、イギリス、オーストラリアなどの歴史・地理・社会などについて学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 9－14）	
第3回	Unit 2 Time Zones アメリカや中国など国土の広い国で採用されている時差や夏時間等について学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 15－21）	
第4回	Time Zones & Unit 3 Driving Abroad 海外で車を運転する際、事故やトラブルに遭遇した場合の英語を媒体とした対応について学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 22－26）	
第5回	Driving Abroad & Unit 4 Postal Services 異文化に暮らす人とのemailや郵便を媒体とした交流について学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 27－31）	
第6回	Postal Services & Unit 5 Eating Out 日本や諸外国の食文化について学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 31－39）	
第7回	Eating Out		前半の授業内容を復習し、次週のテストの準備をすること	
第8回	前半の復習テストとまとめ&解説：テスト終了後、効果的な異文化コミュニケーション、文化の多様性の受容、異文化交流などについての補足説明		テキストの予習（p 41－46）	
第9回	Unit 6 Shopping 海外で買い物をする際、英語を媒体としたコミュニケーションの取り方について学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 47－52）	
第10回	Shopping & Unit 7 Meeting People 海外で出会った人と話す際、英語を媒体としたコミュニケーションの取り方		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 53－59）	
第11回	Meeting People & Unit 8 Accommodation アメリカ、イギリスなどのホテル、モーテル、B&Bなどの宿泊施設について学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 60－67）	
第12回	Accommodation & Unit 9 Public Transportation 海外の交通事情について学ぶ		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 68－71）	
第13回	Public Transportation		今日の授業内容を復習し、テキストの予習（p 73－79）	
第14回	Unit 10 Different Sports 海外で活躍する日本の野球選手やサッカー選手の異文化交流について学ぶ		今日の授業内容を復習すること	
第15回	授業のまとめと今後の学習のために：効果的な異文化コミュニケーションのために必要な文化の多様性の受容や異文化交流等の重要性を今後も考えていく必要性を説く		後半の授業内容を復習し、定期試験の準備をすること	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	授業後半の復習テスト：50％			
レポート	なし			
小テスト等	授業前半の復習テスト：30％			
成果発表	なし			
受講態度他	授業への積極的な参加態度や予習状況などを考慮：20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・ 辞書としてスマホやタブレットの使用は認めないので、必要の際には必ず辞書を持参すること。 ・ 授業の雰囲気や乱す行為（私語、居眠り、スマホの使用など）は減点の対象となる。 ・ 前半の復習テストを欠席して受けなかった場合は単位取得が難しくなることがあるので十分注意すること。 ・ 欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、本科目の定期試験を受けることができない。 ※欠席1回につき2点減点、遅刻は授業開始後10分までとし、それ以降は欠席扱い。3回の遅刻は1回の欠席とみなす。			
教科書	行時潔、長田順子、Nicholas Bovee 『What Are Your Travel Plans?』 松柏社			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	Internet English I【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大場 智恵子		単 位	2
授業の目的 と概要	Internetで使われている英語表現、画面構成などを認識することを目的とする。また、webの可能性、効用などを具体的なサイトを閲覧しながら考察する。 パソコンの使用を通じて、コンピューター、ネットワークの仕組み、ファイル管理、コントロールパネルの使い方を実践的に学ぶ。前期を通じTravel Abroadをテーマとしてリサーチ、学習していく。 課題に取り組む際、自分に必要な情報を迅速に得る方法を考察する。この活動を重ねることでリーディングやライティングスキルが向上する。かな打ち、英文入力、テンキーなどのブラインドタッチの練習も一年を通じ行っていく。ペアアクティビティーとして、自宅学習してきた各週のメインテーマについて口頭発表を毎回実施。			
到達目標	海外のサイトの基本的な見方を解釈する。サイト上での英語に慣れる。 英語のサーチエンジンを使い方と、情報の検索、取捨選択の効率的な方法を推論できる。 課題へ取り組むことにより、英語サイトのコンテンツのリーディングにおけるスキミングと、ライティング力の強化を目標とする。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション、講義の説明、筑女ネットについて		筑女ネットについてその仕組みを学習	
第 2回	フォルダー管理についての学習、Active Mailの使用法		Active Mailの基本的な使い方について使い方を学ぶ。	
第 3回	Active Mail!の使用法2、フォルダー管理についての学習		自分のPCのフォルダーの基本的な成り立ちを理解する。	
第 4回	Travel: 海外の都市についての演習: City		課題1-自分の興味のある海外の都市の概要について調べる。	
第 5回	Travel: Air Travel - 海外の航空便をバーチャルで予約		課題2-都市間の航空券のスケジュール日程を組む	
第 6回	Travel: Air Line予約と世界の時差について		課題3-航空チケット予約と、世界の時差について学習	
第 7回	Travel: Hotel 海外のホテルをバーチャルで予約		課題4 ホテルを予約して料金とスケジュールを計算。	
第 8回	Travel: Rent-A-Car - レンタカーをバーチャルで予約		課題5 実際にレンタカーを借りて料金見積もりと日程を計算。	
第 9回	Travel: 海外の都市をナビする。		課題6 実際に地図で目的地を確認してみよう。	
第10回	Travel: Map		課題7 地図の見方と目的地をつなぐ。	
第11回	Travel: 国際電話のかけ方と時差について		課題8-世界の各都市の時差を考えてみる。	
第12回	Travel: Public Transportation - Subway		課題9- New York の地下鉄をネットの時刻表を使って予約	
第13回	Travel: イベントの探し方		課題10- 海外の都市のイベントの探し方	
第14回	Travel: Final Reportについての説明 1		Final Report の大まかなプランを考える。	
第15回	Travel: Final Reportについての説明 2		Final Report の細かいスケジュールをつめていく。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	あり （ 10％ ）			
レポート	80% 課題 （80点） 10% レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	原則、翌週に採点后、返却			
受講態度他	講義中、指定されたサイト以外に勝手に行かないこと。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	課題はペアで提出する場合が多い。共同で進めるため、その際の評価に関しては二人の連帯責任となる。遅刻に関しては、事後申告は証明できない為、特例を除き原則認めない。欠席回数が、授業回数の3分の1を超えると無資格。			
教科書	プリント配布			
指定図書	特になし。			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後に相談のこと		メールアドレス	

授 業 科 目	Internet English II【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	大場 智恵子		単 位	2
授業の目的 と概要	①InteractiveなWebをバーチャル体験することによって、英語圏の本場の英語に触れる機会を持つ。 ②前期に習得した様々なコンピューター情報処理技術の応用と更なる習得を目指す。 ③コンピューターと英語力両方のスキルの習得。 シラバスに沿って様々なサイトを閲覧、検索しながら自分にあった情報を迅速に得る方法を判断。 かな打ち、英文入力、テンキーなどのブラインドタッチ入力の練習も前期に引き続き通じて行う。 webの可能性、効用などを具体的なサイトを閲覧しながら学習するが、その過程で現地の生活をバーチャル体験する機会を持つ。			
到達目標	①将来の就職活動や日常生活、または学習や趣味での日本語と英語での有益な情報収集やその取捨選択の方法への理解ができる。 ②パソコンの使い方を通じて、Internetで使われている英語表現、画面構成などの解釈が可能となる。 ③ニーズに応じた情報を迅速に得る方法を習得することを目指し、講義の中で様々なサイトを閲覧、検索する			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -②多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。「情報リテラシー」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション、筑女ネットの使い方についての学習、私のお気に入りサイトの作成、グループプレゼンテーション			Presentationの準備、プレゼンテーションのイメージトレーニングする	
第 2回 、フォルダー管理、ウェブブラウザ、.の使い方について			課題1-ブラウザに関しての事前学習	
第 3回 YouTubeの活用法、動画編集、アカウントの取得、またはその活用法			課題 2 - YouTubeのアカウント取得、動画の整理と分類	
第 4回 Yahoo、英語版アカウントの取得			課題 3 - アカウント取得の際の個人情報の管理について	
第 5回 海外のHP(Yahoo Home Page)を閲覧し、英語サイトの構成と自己表現法を学ぶ			課題 4 - 個人情報の開示に関して学習してくる	
第 6回 People 海外の自己紹介サイトを閲覧し、英語での自己表現法を比較			課題 5 - Interpals のIDを取得する。	
第 7回 海外の人と文通し、そのlogをつけてみる。			課題 6 - 様々な表現を調べてくる	
第 8回 様々な英語学習サイトの閲覧			課題 7 - 事前にどのようなサイトがあるか調べてくる	
第 9回 Astrology 星占い			課題 8 - 自分の星座についてリサーチする	
第10回 Online Shoppingについて 国内と海外のOnline Shoppingの違いを学ぶ			課題 9 - 本をオンラインショッピングでバーチャルで購入	
第11回 Google 英語版の活用法について			課題 10 - Googleの使い方について学習してくる	
第12回 Music 外国の音楽の情報収集法を学習			課題 11 - Youtubeや他の音楽サイトについて調べる	
第13回 Movie 外国の映画の情報収集法を学習			課題12 - 外国の映画や俳優について調べてくる	
第14回 日本語版サーチエンジンの情報検索法			課題 13 - 日本語のサーチエンジンについて調べてくる。	
第15回 英語版サーチエンジンの情報検索法			課題 14 - Googleの使い方について学習してくる	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	あり(20%)			
レポート	Presenation(10%)、課題14回(70%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	Presentationは内容をオンラインファイルとして提出した後、グループで行う。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席回数が、授業回数の3分の1を超えると無資格。サイトを閲覧してのネット学習が多い授業です。欠席すると情報管理等など必要な事項が抜けていくので、しっかり出席すること。			
教科書	プリント配布			
指定図書	特になし。			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワーカー	授業の前後に相談のこと		メールアドレス	

授 業 科 目	LD等、重度・重複障がい者の心理と教育【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	酒井 均		単 位	2
授業の目的 と概要	LD,ADHD,アスペルガー障がい、高機能自閉症など、通常学級に在籍しているが配慮の必要な児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようなることを目的とする。 あわせて重度・重複障がいの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようになることを目的とする LD,ADHD,アスペルガー障がい、高機能自閉症などの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法を具体的に学び、それぞれのケースではどのように考えていったよいかを考えていきます。 重度・重複障がいの児童・生徒では、感覚運動的な教育支援を中心に具体的な方法を検討していきます。			
到達目標	LD,ADHD,アスペルガー障がい、高機能自閉症などの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようなる。 重度・重複障がいの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-3 人間が直面する心の諸課題について、改善・解決に有効な援助法について説明することができる。 特別支援教育総論、知的障がい者の教育			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション		ケース研究	
第 2回	LDについて 1 その特徴		ケース研究	
第 3回	LDについて 2 アセスメントについて		ケース研究	
第 4回	LDについて 3 アセスメントを生かした教育支援		ケース研究	
第 5回	ADHDについて 1 その特徴		中間レポート作成	
第 6回	ADHDについて 2 行動変容のための支援 ABA		ケース研究	
第 7回	ADHDについて 3 行動変容のための支援 ABAの実施		ケース研究	
第 8回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 1 その特徴		ケース研究	
第 9回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 2 ソーシャルスキルトレーニングについて		ケース研究	
第10回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 3 サバイバルトレーニングについて		中間レポート作成	
第11回	発達障がいの総合的支援について その1		ケース研究	
第12回	発達障がいの総合的支援について その2		ケース研究	
第13回	重度・重複障がいについて 1 その特徴		ケース研究	
第14回	重度・重複障がいについて 2 教育的支援		ケース研究	
第15回	保護者への教育的支援について		最終レポート作成	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	中間レポート 各30％ 最終レポート40％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度も見ます			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	遅刻は厳禁、積極的に発言参加してください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜日12：30～13：00		メールアドレス	

授 業 科 目	Language and Culture 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	T.R. Honkomp		単 位	2
授業の目的と概要	Language and Culture is a course that will give Japanese learners of English opportunities to observe and analyze the differences between Japanese and American cultures. Everyday situations that students may find themselves in will be looked at from contrasting points of view. Weekly lesson sessions consist of a topic introduction that includes vocabulary and background explanation. The DVD situations from the text are viewed for comprehension practice and cultural analysis. Group discussion and individual reflection are then completed on the unit worksheets.			
到達目標	The skills of listening and speaking are emphasized as students examine the contexts and cultural implications of a variety of situations. Additional objectives include vocabulary development, pronunciation and fluency practice, and insights into the impact of culture on language. Students are to increase their understanding of American culture while at the same time learn more about themselves and become more aware of Japanese culture. Discussion of video and listening material from the text and expressing original opinions are important elements of this course.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	Course information, text, policies & procedures; Introduction unit from text		Review vocabulary from Introduction unit	
第 2回	Introducing yourself in a social situation - An American House Party		Worksheet #1 - Vocabulary from Unit 1 and Cultural Notes	
第 3回	Cultural interaction in various settings - Weekend Barbecue		Worksheet #2 - Vocabulary from Unit 2 and Cultural Notes	
第 4回	Taking messages, eliciting and giving advice - Young People and Activities		Worksheet #3 - Vocabulary from Unit 3 and Cultural Notes	
第 5回	Describing and talking about family members - Cultural Differences in Family Relationships		Worksheet #4 - Vocabulary from Unit 4 and Cultural Notes	
第 6回	Discussing problems and making a good first impression		Worksheet #5 - Vocabulary from Unit 5 and Cultural Notes	
第 7回	Understanding job ads and job interviews - Advantages and Disadvantages to a part-time job		Worksheet #6 - Vocabulary from Unit 6 and Cultural Notes	
第 8回	Cultural aspects of Japanese food & drink		Worksheet #7 - Vocabulary from Unit 7 and Cultural Notes	
第 9回	Prices and sizes - Shopping in different contexts		Worksheet #8 - Vocabulary from Unit 8 and Cultural Notes	
第10回	Leisure activities, county fair, Japanese festivals - Traditional Japanese Cultural Events		Worksheet #9 - Vocabulary from Unit 9 and Cultural Notes	
第11回	Accepting and refusing an invitation - Surprise Birthday Party Quiz #2		Worksheet #10 - Vocabulary from Unit 10 and Cultural Notes	
第12回	Contrasting housing types and issues - Living in an apartment, dormitory or with family		Worksheet #11 - Vocabulary from Unit 11 and Cultural Notes	
第13回	Talking about Japanese and North American cities - Cultural Differences & Lifestyles		Worksheet #12 - Vocabulary from Unit 12 and Cultural Notes	
第14回	Individual presentations - Description of Japanese cultural events, holidays and traditional culture		Vocabulary Review	
第15回	Presentations Continued; Semester and Exam review		Review Sheets - vocabulary and cultural points	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	35% Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	35% Class participation & homework worksheet results 30% Two quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions.			
教科書	America Live! Dale Fuller			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Tuesday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 1st period (9:10-10:40)	メールアドレス		

授 業 科 目	Media English A I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	大場 明日香		単 位	2
授業の目的と概要	アメリカVOAが実際に放映したビデオを用い、生の英語でアメリカの文化や社会について学びます。比較的ゆっくりとした英語の短いビデオですから、映像や背景に流れる音などの助けを借りることで大まかな内容がつかめます。映像を見る前には、背景知識に関するリーディングに取り組みます。メモを取りながら丁寧に読み進めれば、ビデオの内容が分かりやすくなるだけでなく、英語を読みながら情報を整理する訓練にもなります。			
到達目標	・海外メディアの視点でまとめられたビデオを通して異文化への関心と理解を高める。 ・情報をメモにまとめながらリーディングを進めることができる。 ・リーディングで得た背景知識を生かしてビデオの概要を理解することができる。 ・各ユニットの内容を分かりやすい日本語で伝えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 導入（授業の進め方・小テスト・成果発表の詳細説明）・Video 1 (Unit 2) Preview			Video 1 (U2) 予習（テキスト該当箇所の語彙確認）	
第2回 Video 1-1: Native American Culture (Unit 2)			Video 1 予習（Listening Exercise＝オンラインビデオを用いた内容把握）	
第3回 Video 1-2: Native American Culture (Unit 2ビデオ)			Video 1 小テスト準備（＝Vocabulary Check）・復習（＝Extra Reading）	
第4回 Video 2-1: American English - Slang & Idioms (Unit 4)・Video 1 (U2) 小テスト			Video 2 予習（Listening Exercise）	
第5回 Video 2-2: American English - Slang & Idioms (Unit 4ビデオ)			Video 2 小テスト準備・復習	
第6回 Video 3-1: Disney Family Museum (Unit 7)・Video 2 (U4) 小テスト			Video 3 予習（Listening Exercise）	
第7回 Video 3-2: Disney Family Museum (Unit 7 ビデオ)			前半のまとめ	
第8回 Mid-Term Assignment（中間課題）			Video 3 小テスト準備・復習	
第9回 Video 4-1: American Food (Unit 3)・Video 3 (U7) 小テスト			Video 4 予習（Listening Exercise）	
第10回 Video 4-2: American Food (Unit 3ビデオ)			Video 4 小テスト準備・復習	
第11回 Video 5-1: Christmas Spirit (Unit 5)・Video 4 (U3) 小テスト			Video 5 予習（Listening Exercise）	
第12回 Video 5-2: Christmas Spirit (Unit 5ビデオ)			Video 5 小テスト準備・復習	
第13回 Video 6-1: Halloween Screamworld (Unit 10)・Video 5 (U5) 小テスト			後半 のまとめ	
第14回 End-of-Term Assignment（期末課題）			期末課題の見直し	
第15回 Revision & Feedback（全体のまとめとフィードバック）			全回のまとめ	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	30％ 小テスト（ユニット毎）			
成果発表	50％ Mid-Term Assignment & End-of-Term Assignment（中間・期末課題）			
受講態度他	20％ In-Class Tasks（授業内での個人・グループ作業）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・教室の都合上、受講者数に上限を設けています ・初回に小テストや中間・期末課題、予習範囲の詳細を説明しますので、受講を希望する方は必ず出席して下さい ・学習するユニットは変わることがあります（授業内で随時通知します）			
教科書	John S. Lander 著 『American Vision』（朝日出版）			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	Media English A I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	野中 誠司		単 位	2
授業の目的 と概要	NHKの海外向けニュース番組“NEWSLINE”を活用して、実践的な英語運用能力を身につけることを第1目的とする。また、ニュースに関連した知識などを知り、内容に対する興味や関心を高めることで、社会生活に必要な情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力などの向上を第2目的とする。 この授業ではニュースという視聴覚教材を活用して、いまの日本で起きている問題を、相手とのコミュニケーションにおける話題（素材）に活用できるように習得していく。教科書はさまざまなジャンルのトピックを取り上げている。番組を収録したDVDも教科書出版社の関連サイトでストリーミング再生で視聴できるので、授業の予習・復習やリスニング力の向上に活用すること。			
到達目標	1. 放送で使われている単語や表現が聞きとれ、それらを口頭と文章で再現することができる。 2. 放送で使われている単語や表現に関連したことを理解し、それらを口頭で説明することができる。 3. 学習したニュースで得た知識や技能を、現代社会を生きる自己を実現する力として活用できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 Tea for You：日本茶の新しい楽しみ方			予習pp. 1-6	
第2回 Tea for You：日本茶の新しい楽しみ方			予習pp. 1-6	
第3回 Youth Trip for Mutual Understanding：韓国から南三陸へー若者の交流続く			予習pp. 13-18	
第4回 Youth Trip for Mutual Understanding：韓国から南三陸へー若者の交流続く			予習pp. 13-18	
第5回 Summer Spooks：暑さは怖さでー日本の夏			予習pp. 31-36	
第6回 Summer Spooks：暑さは怖さでー日本の夏			予習pp. 31-36	
第7回 Engaging Youth in Politics：18歳選挙権ー若者の意識改革へ			予習pp. 49-54	
第8回 Engaging Youth in Politics：18歳選挙権ー若者の意識改革へ			予習pp. 49-54	
第9回 Designing Nations：着物でつながる世界			予習pp. 67-72	
第10回 Designing Nations：着物でつながる世界			予習pp. 67-72	
第11回 Litter Buster：町の掃除ーデータで効率よく			予習pp. 73-78	
第12回 Litter Buster：町の掃除ーデータで効率よく			予習pp. 73-78	
第13回 Leveling the Playing Field：障がい者もスポーツ中継を楽しく			予習pp. 79-84	
第14回 Leveling the Playing Field：障がい者もスポーツ中継を楽しく			予習pp. 79-84	
第15回 まとめ			復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	なし			
小テスト等	30%			
成果発表	なし			
受講態度他	20%：主体的かつ積極的に参加している点を評価する。無条件で付与される出席点ではない。無断欠席および遅刻は回数に関係なく減点する。10分以上の遅刻も欠席とみなす。無断欠席6回で受講放棄と判断し、名簿から氏名を削除する			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	1. 開講日から教科書を使用するので、事前に購入しておくか、必要な箇所をコピーするなどして授業に出席すること。教科書なしで授業に参加した場合は、最終評価から減点などのペナルティーを科す。第2回以降の授業にもこのルールを適用する。 2. 名簿順に座席を指定するので、指定された席にすわること。座席の要望があれば、開講日に受けつけるので申し出ること。 3. 病気、忌引などやむをえない理由で欠席した場合は、客観的な証明書類を後日必ず提出すること。提出がない場合、無断欠席として処理する。			
教科書	T. Yamazaki / S. M. Yamazaki / E. C. Yamazaki (2018), “NHK NEWSLINE,” Kinseido			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に相談のこと。	メールアドレス		

授業科目	Media English AII【演習】		開講時期	後期
担当教員	大場 明日香		単 位	2
授業の目的と概要	イギリスBBCが実際に放送したニュースを用い、生のイギリス英語でイギリスの今を学びます。ところ変わればニュースも変わります。日本では扱われないニュースがあったり、同じ題材でも取り上げ方が全く異なったり、ニュースを通して新たな見方を学ぶことができます。学習者用の教材ではないため、初めは速さに戸惑うかもしれませんが、ニュース英語の構造と特徴を知り、分かる部分を増やしていきます。講座前半はニュースの英語に慣れることを目的に特にニュースの冒頭に注目し、音声のみならず映像や背景知識などをフル活用して内容を把握します。後半はニュース全体を細部まで読み解き、分かりやすい日本語で情報を伝えることにも挑戦します。			
到達目標	・ニュース英語の構造と特徴を知る。 ・映像や背景知識の助けを借りながらニュースの大まかな内容をつかむことができる。 ・ニュースの内容や背景を調べ、分かりやすい日本語に置き換えて伝えることができる。 ・ニュース音源のディクテーションを通してリスニング力の強化に努める（成果は小テストで確認）。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	導入（授業の進め方・予習・小テスト・In-Class Task の詳細説明）・News 1 Preview		News 1 (Unit 2) 前半の予習（＝単語・ニュース冒頭のリスニング）	
第2回	News 1-1: Slippers Help Children Study (Unit 2)		News 1 (Unit 2) 後半の予習（＝オンラインビデオを用いた空欄補充）	
第3回	News 1-2: Slippers Help Children Study (Unit 2)		News 2 (Unit 5) 小テスト準備（＝単語・ニュース冒頭のリスニング）	
第4回	News 2-1: High Heels Dress Code （Unit 5・小テストあり）		News 2 (Unit 5) 後半予習	
第5回	News 2-2: High Heels Dress Code （Unit 5）		News 3 (Unit 9) 小テスト準備	
第6回	News 3-1: DNA Tests to Reveal Heritage （Unit 9・小テストあり）		News 3 (Unit 9) 後半の予習	
第7回	News 3-2: DNA Tests to Reveal Heritage （Unit 9）		前半のまとめ	
第8回	Mid-Term Assignment（中間課題）		News 4 (Unit 11) 小テスト準備	
第9回	News 4-1: London Mayor's Brexit Warning (Unit 11・小テストあり）		News 4 (Unit 11) 後半の予習	
第10回	News 4-2: London Mayor's Brexit Warning (Unit 11)		News 5 (Unit 13) 小テスト準備	
第11回	News 5-1: The Price of a Cuppa will Rise (Unit 13・小テストあり）		News 5 (Unit 13) 後半の予習	
第12回	News 5-2: The Price of a Cuppa will Rise (Unit 13)		News 6 (Unit 15) 小テスト準備	
第13回	News 6: The Great Barrier Reef is Dying (Unit 15・小テストあり）		後半のまとめ	
第14回	End-of-Term Assignment（期末課題）		期末課題の見直し	
第15回	Revision & Feedback（全体のまとめとフィードバック）		全体のまとめ	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	30％ Unit Tests（ニュース冒頭のリスニングと単語小テスト）			
成果発表	50％ Mid-Term Assignment & End-of-Term Assignment（中間・期末課題）			
受講態度他	20％ In-Class Tasks（授業内での個人・グループ作業）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・教室の都合上、受講者数に上限を設けています ・初回に小テストや中間・期末課題、予習範囲の詳細を説明しますので、受講を希望する方は必ず出席して下さい ・学習するユニットは変わることがあります（授業内で随時通知します）			
教科書	Timothy Knowles, Charles Lowe, Mayumi Tamura, Minne Tanaka, Mihoko Nakamura 著『Seeing the World through the News 5』（金星堂）			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください		メールアドレス	

授 業 科 目	Media English B I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	三日月 雅子		単 位	2
授業の目的 と概要	この授業では、ニュース映像を利用しながら、世界中で起きるさまざまな問題に触れます。ニュースで用いられる基本的な語法、語彙などを学ぶとともに、英語のListening, Readingの力を養成することができます。さらに、さまざまな練習問題を通して、総合的な英語学習ができ、ニュースの背景となっている国際事情、文化的・社会的事情の理解を深め、多様な問題を考察することができます。 予習としてDVDを視聴してくることが必須です。その予習を基に、ListeningとReadingの学習に焦点を当てた授業を行います。			
到達目標	1. DVDを視聴して英語ニュースの内容がある程度理解できるようになる。 2. 英語ニュースの語法、語彙の基礎を身に付ける。 3. 英語ニュースの国際的、政治的、文化的、社会的背景を理解できるようになる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	：オリエンテーション：授業の概要・課題・評価についての説明		課題 次回Unit 1の予習	
第 2回	：Unit 1 News Story 本文とトピックに関する考察		復習・課題 Unit 1 で扱ったトピックのdiscussionのための情報収集	
第 3回	：Unit 1 Exercise and Summary		復習・課題 Unit 2 の予習	
第 4回	Unit 2 News Story 本文とトピックに関する考察		復習・課題 Unit 2 で扱ったトピックのdiscussionのための情報収集	
第 5回	：Unit 2 Exercise and Summary		復習・課題 Unit 3 の予習	
第 6回	：Unit 3 News Story 本文とトピックに関する考察		復習・課題 Unit 3で扱ったトピックのdiscussionのための情報収集	
第 7回	：Unit 3 Exercise and Summary		復習・課題 Unit 4 の予習	
第 8回	：Unit 4 News Story 本文とトピックに関する考察		復習・課題 Unit 4で扱ったトピックのdiscussionのための情報収集	
第 9回	：Unit 4 Exercise and Summary		復習・課題 Unit 5 の予習	
第10回	：Unit 5 News Story 本文とトピックに関する考察		復習・課題 Unit 5で扱ったトピックのdiscussionのための情報収集	
第11回	：Unit 5 Exercise and Summary		復習・課題 Unit 6 の予習	
第12回	：Unit 6 News Story 本文とトピックに関する考察		復習・課題 Unit 6で扱ったトピックのdiscussionのための情報収集	
第13回	：Unit 6 Exercise and Summary		復習・課題 Unit 7 の予習	
第14回	Unit 7 News Story 本文とトピックに関する考察		復習・課題 Unit 7で扱ったトピックのdiscussionのための情報収集	
第15回	：前期のまとめ		試験に向けての学習について説明	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％：定期試験の評価に基づく			
レポート	必要に応じて指示			
小テスト等	ノートチェック			
成果発表	20％：授業時の発表			
受講態度他	20％：出席状況および発表等による授業への参加を考慮			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	テキストに付属のDVDを視聴して、指示された課題を必ず予習して授業に臨むこと。 辞書を必ず持参すること。			
教科書	著者：S. Yamane他 ABC World News 20 出版社：金星堂 978-4-7647-4051-8			
指定図書	特になし			
参考図書	授業時に適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日：昼休み 水曜日：昼休み	メールアドレス		

授 業 科 目	Media English BⅡ【演習】		開 講 時 期	後期	
担 当 教 員	三日月 雅子		単 位	2	
授業の目的 と概要	この授業では、ニュース映像を利用しながら、世界中で起きるさまざまな問題に触れます。ニュースで用いられる基本的な語法、語彙などを学ぶとともに、英語のListening, Readingの力を養成することができます。さらに、さまざまな練習問題を通して、総合的な英語学習ができ、ニュースの背景となっている国際事情、文化的・社会的事情の理解を深め、多様な問題を考察することができます。 予習としてDVDを視聴していただくことが必須です。その予習を基に、ListeningとReadingの学習に焦点を当てた授業です。				
到達目標	1. DVDを視聴して英語ニュースの内容がある程度理解できるようになる。 2. 英語ニュースの語法、語彙の基礎を身に付ける。 3. 英語ニュースの国際的、政治的、文化的、社会的背景を理解できるようになる。				
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。				
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など		
第 1回：オリエンテーション			課題 次回 Unit 8 本文の予習		
第 2回：Unit 8 News story 本文とテーマに関する考察			復習・課題 Unit 8 Exercise とSummaryの予習		
第 3回：Unit 8 Exercise とSummary			復習・課題 Unit 9 本文の予習		
第 4回：Unit 9 News story 本文とテーマに関する考察			復習・課題 Unit 9 Exercise とSummaryの予習		
第 5回：Unit 9のExercise とSummary			復習・課題 Unit 10 本文の予習		
第 6回：Unit 10 News story 本文とテーマに関する考察			復習・課題 Unit 10 Exercise とSummaryの予習		
第 7回：Unit 10 のExercise とSummary			復習・課題 Unit 11 本文の予習		
第 8回：Unit 11 News story 本文とテーマに関する考察			復習・課題 Unit 11 Exercise とSummaryの予習		
第 9回：Unit 11のExercise とSummary			復習・課題 Unit 12 本文の予習		
第10回：Unit 12 News story News story 本文とテーマに関する考察			復習・課題 Unit 12 Exercise とSummaryの予習		
第11回：Unit 12のExercise とSummary			復習・課題 Unit 13 本文の予習		
第12回：Unit 13 News story 本文とテーマに関する考察			復習・課題 Unit 13 Exercise とSummaryの予習		
第13回：Unit 13のExercise とSummary			復習・課題 Unit 14 本文の予習		
第14回 Unit 14 News story 本文とテーマに関する考察			復習・課題 Unit 14のExercise とSummary		
第15回：前期のまとめ			試験に向けての学習について		
成 績 評 価	割合（%）、種類・評価基準など				
定期試験	60％：定期試験の評価に基づく				
レポート	必要に応じて指示				
小テスト等	ノートチェック				
成果発表	20％：授業時の発表				
受講態度他	20％：出席状況および発表等による授業への参加を考慮				
受講上の留意点・ルールに関わる情報	指示された課題の予習が必ず必要です。 辞書を必ず持参すること。				
教科書	後期のテキストに関しては、テキストを決定しだいお知らせします。				
指定図書	特になし				
参考図書	授業時に適宜紹介する。				
オフィスアワー	火曜日：昼休み 金曜日：昼休み	メールアドレス			

授 業 科 目	NPO・NGO論【講義】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	喜多村 百合		単 位	2
授業の目的 と概要	今日国内外で注目される、市民がアクターとなるNPO・NGOの活動について検討します。日本でNPOが注目されはじめたのは阪神淡路大震災でのボランティア活動がきっかけで、その後1998年のNPO法の成立・施行により、日本の社会貢献活動は一気に活性化します。 インドでは数万ものボランティア組織が稼働し、アメリカでは500万人以上の市民に活動や雇用の機会を提供しています。また女性が多く活動できる分野でもあります。この講義は、NPO・NGOの成り立ち、働き、可能性や課題について、豊富な事例を踏まえながら理解することをねらいとします。また講師が調査・研究してきたインドの女性NGO・SEWAについて、その特徴と成果、課題を検討します。さらに次世代型事業として、ソーシャル・ビジネスなど多様な市民社会組織(Civil Society Organization:CSO)と、フィランソロ・キャピタリズムを発展的に学ぶことを目的とします。			
到達目標	①NPO・NGO組織化の軌跡(関連法を含む)、働き、課題一般について説明できる。 ②日本のNPO・NGO組織化の軌跡、NPO法の成立、またその働きや課題一般について説明できる。 ③「NGO大国」インドの女性開発NGO・SEWAの活動の特徴・成果・課題について説明できる。 ④次世代NPO・NGOと呼ばれるソーシャル・ビジネス、CSO、さらにフィランソロ・キャピタリズムについて説明できる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -③獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。「論理的思考力」 (2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」 (3) -②-2 アジアの諸地域社会事情について概要を説明することができる。 (3) -②-3 アジアへの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を説明・表現することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回 導入：NPO・NGOの定義。本講義のねらい			プリント復習	
第 2 回 日本のNPO・NGO(1) 定義と関連法、活動軌跡			NPO復習	
第 3 回 日本のNPO・NGO(2) 事例紹介			指定図書①、NGO復習	
第 4 回 国際社会のNPO・NGO(1) 定義と関連法、活動軌跡			NPO調査	
第 5 回 国際社会のNPO・NGO(2) 事例紹介			調査レポート作成	
第 6 回 NPO調査発表 インドのNPO・NGO(1) 定義と関連法、活動軌跡			教科書序章	
第 7 回 インドのNPO・NGO(2) 女性開発NGO・SEWA①理念と構造、活動軌跡			同3章前半	
第 8 回 インドのNPO・NGO(3) 女性開発NGO・SEWA②都市部の活動			同3章後半	
第 9 回 インドのNPO・NGO(4) 女性開発NGO・SEWA③支援事業			同4章前半	
第10回 インドのNPO・NGO(5) 女性開発NGO・SEWA④農村部の活動			同4章後半	
第11回 インドのNPO・NGO(6) ケーララ・モデルとNGO①SEWAケーララ			同5章・結論	
第12回 インドのNPO・NGO(7) ケーララ・モデルとNGO②SAKHI			プリント復習	
第13回 ソーシャル・ビジネス・市民社会組織(CSO)			指定図書②、ソーシャル・ビジネス、CSO復習	
第14回 フィランソロ・キャピタリズム			調査レポート	
第15回 NGO、ソーシャル・ビジネス、CSO調査報告 まとめ			期末レポート	
成 績 評 価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート 50%、調査レポート 20%			
小テスト等	ー			
成果発表	10%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ふだんから、地域や国内外のNPO・NGO活動、SEやCSRの活動や報道などに関心を持って臨んでほしい。			
教科書	なし			
指定図書	①馬橋憲男『グローバル問題とNGO・市民社会』 ②広井良典『共生社会と協同労働』 ③名越修一他『自分たちで作るNPO法人』			
参考図書	早瀬昇他『NPOがわかる』 重田康博『NGOの発展の軌跡』 斉藤千宏『NGO大国インド』			
オフィスアワー	月3、水4		メールアドレス	

授 業 科 目	【閉講】NPO論【講義】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	上村 真仁		単 位	2
授業の目的と概要	現代社会における地域課題の解決に向けて行政や民間企業に加えて市民活動組織としての「NPO（非営利組織）」の役割がますます重要となっています。また、人口減少社会や価値観の多様化、社会貢献志向の高まりの中で、充実した「豊かな生き方」の選択肢の一つとして「NPO」が位置付けられるようになっていきます。本講義では、市民が参画する社会創造の担い手である「NPO」について理解を深め、その活動において求められる基礎的な知識と志を身につけることを目的としています。具体的には、「NPO」の社会的な背景、基本的な活動理念や組織設立、運営の仕組み、資金調達の方法などを学ぶとともに、現場での実践するNPO団体のゲストスピーカーをお招きし生の声を聞くことで、「NPO」の今日的な意義や「NPO」活動のやりがいなどを伺います。			
到達目標	現代社会における「NPO」の意義を説明することが出来る。 社会に関わる多様なセクターの機能や「NPO」の社会的な役割に関する知識を身につける。 NPOの意義や社会的な役割について体験やグループでの議論を通じて自身の考えをまとめ授業で発表することが出来る。 身近なNPO活動への理解が促進され、実際に市民活動へ参加する機会を得ることが出来る。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-2 現代社会の特定分野の知識・技能を身に付けている。 (3) -②-3 現代社会を理解するための幅広い視点を身に付けている。 「地域デザイン」「地域デザイン演習」とあわせて受講することで、社会への貢献のために自分が出来ることをより明確に理解し、実践のための手法を身につけることが出来ます。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	NPO論について 授業の進め方、NPOとは何か？		シラバスを読む。	
第2回	NPOが求められるようになった社会背景		身近なNPO団体として何があるかを調べてきてください。	
第3回	NPO法の成立について		インターネット等で関心のあるNPO法人の設立趣旨を調べてきてください。	
第4回	NPOをどのように作るか？		インターネット等で関心のあるNPO法人の定款を調べ読んできてください。	
第5回	NPOの設立事例		福岡県下でのNPO設置申請の手続きについて調べてきてください。	
第6回	NPO活動の実例 その1 太宰府近郊の環境系NPOの取り組み		ゲストへの質問項目をそれぞれ考えてきてください。	
第7回	市民活動の事業化について		自分が取り組んでみたい非営利活動のテーマを考えてきてください。	
第8回	NPOを運営していくためには 求められる人材とは		NPO法人の求人情報を調べてきてください。	
第9回	NPO活動と資金		NPO法人を対象とした助成金の申請条件を調べてきてください。	
第10回	NPO活動の実例 その2 太宰府近郊のまちづくり系NPOの取り組み		ゲストへの質問項目をそれぞれ考えてきてください。	
第11回	NPOの設立 グループワーク その1		太宰府門前町で学生が実施可能な社会貢献事業を考えてきてください。	
第12回	NPOの収益事業の検討 グループワーク その2		筑紫女学園大学や学生のリソースを活用した事業を考えてきてください。	
第13回	助成金の申請書の作成 グループワーク その3		第9回で調べた助成金への申請事業を考えてきてください。	
第14回	グループワークの発表会		設立趣旨、定款、収益事業、活動効果など発表資料を作成してきてください。	
第15回	まとめと振り返り		事業の振り返りをしてきてください。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	30％ 授業内容の理解や自分の考えを問う小テストを5回実施する。			
成果発表	合計45％ グループでのNPO設立企画 15％、助成金申請書 20％、グループでのNPO企画発表資料 10％。			
受講態度他	25％ グループワークへの参加や貢献度をもとに評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、NPOの概説や事例から社会課題の解決におけるNPOの役割と有効性を理解した上で、グループワークによる学生NPOの設立企画を行います。積極的にグループでのディスカッションに参加しグループのメンバーに迷惑をかけないようにして下さい。			
教科書	なし			
指定図書	早瀬昇・水谷綾・永井美佳・岡村こず恵 他 「テキスト市民活動論」 大阪ボランティア協会 知っておきたいNPO 1,2,3 日本NPOセンター			
参考図書	授業中に紹介する			
オフィスアワー	月曜日 3 限、4 限、水曜日 3 限、4 限		メールアドレス	

授 業 科 目	Pronunciation I 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	松崎 徹		単 位	1
授業の目的と概要	本授業では、英語でのコミュニケーションをより円滑に行うことを目的に、母音と子音を中心とした単音の正しい発音法を基礎から身につけていきます。まず導入として、日英両語の音韻および音節構造を比較・検討しながら、私たち日本人が英語の発音を困難だと感じる原因を検証していき、英語の発音に対する受講生の意識を高めます。導入終了後は、英語の母音・子音個々の音の特徴をテキストに沿って順次解説していく。それに平行しながら、ネイティブスピーカーによる発音模範ビデオも視聴し、受講生の英語の発音が正しい調音点と調音法に基づいて行われているか（例えば[l]と[r]の区別など、特に日本人が苦手とする発音など）を聴覚および視覚的に確認・指導していきます。			
到達目標	1. 英語の母音を正しく発音することができる。 2. 英語の子音を正しく発音することができる。 3. 英語の単語を正しく発音することができる。 4. 短文を正しい発音で読むことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 本講座で修得したスキルを、同じく1年次前期開講の「Conversation AI」 や「Core Oral English I」 で実践することが望まれます。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	より良い英語の発音のために： 「気づき」の大切さ		配布資料と講義ノートを熟読すること	
第 2回	英語と日本語の母音および子音の数の違い		配布資料と講義ノートを熟読すること	
第 3回	英語と日本語の音節構造の違い		配布資料と講義ノートを熟読すること	
第 4回	母音の発音（1） 【 /i:/, /i/ 】		既習事項の発音反復練習、テキスト予習 @pp. 1-2	
第 5回	母音の発音（2） 【 /e/, /a/, /ɜ:/ 】		既習事項の発音反復練習、テキスト予習 @pp. 3-5	
第 6回	母音の発音（3） 【 /ɜ:r/, /ɜ:r/ 】		既習事項の発音反復練習、テキスト予習 @p. 7; p. 15	
第 7回	母音の発音（4） 【 /ɜ:/, /ɜ:r/ 】		既習事項の発音反復練習、テキスト予習 @pp. 8-9	
第 8回	母音の発音（5） 【 /u/, /u:/, /ɜ:/ 】		既習事項の発音反復練習、テキスト予習 @pp. 10-12	
第 9回	母音の総復習		既習事項の発音反復練習、テキスト予習 @pp. 1-12	
第10回	子音の発音（1） 【 /p/, /t/, /k/ 】		既習事項の発音反復練習、テキスト予習 @p. 16; p. 18; p. 20	
第11回	子音の発音（2） 【 /l/, /r/ 】		既習事項の発音反復練習、テキスト予習 @p. 25; p. 35	
第12回	子音の発音（3） 【 /f/, /v/ 】		既習事項の発音反復練習、テキスト予習 @pp. 26-27	
第13回	子音の発音（4） 【 /ʒ/, /ʒ / 】		既習事項の発音反復練習、テキスト予習 @p. 28; p. 32	
第14回	子音の発音（5） 【 /w/, /ʒ/ 】		既習事項の発音反復練習、テキスト予習 @p. 37; p. 38	
第15回	子音の総復習		既習事項の発音反復練習、テキスト予習 @pp. 16-38	
成 績 評 価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	80% 習熟度試験（受講生の発音を担当教員が評価・採点します）			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 授業での積極的な取り組みを考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・本講義では主として米国式標準音に基づき指導します。 ・発音練習の際、口の開き具合および舌の位置などを適宜確認するので、毎時間必ず手鏡を持参してください。 ・授業外でもテキスト付属のCDを聴いて発音の反復練習を必ず実践してください。 ・毎回の授業終了時に、授業に対する感想・質問等を記入したミニッツ・シートを回収し、コメントをつけて次回の授業で返却します。			
教科書	Kazuyuki Watanabe & Shiro Osaka 『For Better Pronunciation』 Yumi Press			
指定図書	なし			
参考図書	巽 一朗 『英語の発音がよくなる本』 中経出版			
オフィスアワー	火曜日 4 限目・水曜日 3 限目		メールアドレス	

授 業 科 目	Pronunciation II【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松崎 徹		単 位	1
授業の目的 と概要	本講座では、短文レベルの正しい発音・リズム・イントネーションを身につけることにより、英語での円滑なコミュニケーションができるようになることを目指します。単音レベルを中心とした前期の発音指導を土台に、後期では英語母国語話者による発音指導のビデオを視聴しながら、（１）類音の正しい発音のし分け方（２）異音（allophone）の正しい発音法（３）短文の正しい読み方、以上の３点に焦点を当てて指導していきます。授業ではテキスト中の短文を音読し合うペアワークを取り入れ、ペアワーク中に各受講生の習熟度を確認するため講師が机間巡視して個別指導を行います。			
到達目標	１．単音を正しく発音できる。 ２．類音を正しく発音し分けることができる。 ３．異音（allophone）を正しく発音し分けることができる。 ４．短文を正しいリズム・イントネーションをつけながら読むことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	（３）-②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 本講座で修得したスキルを、同じく１年次前期開講の「Conversation AI」や「Core Oral English I」で実践することが望まれます。 （３）-②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	Lesson 16	She is a well-known linguist.	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 71-74	
第 2回	Lesson 18	Do you have a pen I can borrow?	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 79-84	
第 3回	Lesson 1	What would you like to drink?	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 1-6	
第 4回	Lesson 3	Can you read French?	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 13-16	
第 5回	Lesson 4	What a nice car!（１）【スキットディクテーション】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 17-20	
第 6回	Lesson 4	What a nice car!（２）【短文音読練習】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 17-20	
第 7回	Lesson 5	Would you be free this Friday?	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 21-24	
第 8回	Lesson 6	It's going really well.	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 25-30	
第 9回	Lesson 7	I'll have to settle for a salad.（１）【スキットディクテーション】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 31-36	
第10回	Lesson 7	I'll have to settle for a salad.（２）【短文音読練習】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 31-36	
第11回	Lesson 9	To Tell you the truth...（１）【スキットディクテーション】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 41-44	
第12回	Lesson 9	To Tell you the truth...（２）【短文音読練習】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 41-44	
第13回	Lesson 10	She always makes me laugh.	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 45-48	
第14回	Lesson 11	There's a shortage of good help...	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 49-52	
第15回	Lesson 12	That tennis class was really challenging.	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 53-56	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80% 習熟度試験（受講生の発音を担当教員が採点・評価します）			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 授業での積極的な姿勢（ペアワーク、等）を考慮します。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	・本講義では主として米国式標準音に基づき指導します。 ・発音練習の際、口の形および舌の位置を適宜確認するので、毎時間必ず手鏡を持参してください。 ・授業外で筑女ネットにアップしている動画を自主的に視聴して反復練習を必ず行なってください。 ・毎回の授業終了時に、授業に対する感想・質問等を記入したミニッツ・シートを回収し、コメントをつけて次回の授業で返却します。			
教科書	Murakawa Hisako『Sounds Right! Sounds Good!』（MACMILLAN LANGUAGE HOUSE）			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します。			
オフィスワー	水曜日 3 限目・金曜日 2 限目		メールアドレス	

授 業 科 目	Reading and Writing AI 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	高森 暁子		単 位	1
授業の目的 と概要	基礎的な英文を読むために必要なボキャブラリーと文法事項を身につけ、それを英文読解に活かす方法を習得します。リーディングは、意味のまとまりごとに語順通りに読む、フレーズ・リーディングの方法を学習します。文法事項については、高校までの復習を兼ねて基礎的なレベルから学んでいきます。ライティングは、リーディングで読んだ内容に関するものを行います。読んだ内容について書くことによって、英文の内容をより深く理解し、自身の関心とつなげていくことを目指します。			
到達目標	1. 英文を読み、書くために必要な文法や表現を身につける。 2. 英語の文章の構成上の特徴を知り、効果的に内容を読み取ることができる。 3. まとまりのある英文から必要な情報を得たり、概要や要点を説明したりすることができる。 4. 語彙力を強化することで、様々な内容の英文を理解することができる。 5. 読んだ内容について書くことで、より正確に英文の内容を理解することができる。 6. 英語特有のイディオム表現を学習することによって、より自然な英文を書くことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション, Lesson 1 Fringe Science		テキストの復習及び次回予習 (pp.13-18)	
第 2回	Lesson 2 Indie Films		テキストの復習及び次回予習 (pp.19-24)	
第 3回	Lesson 3 Nuclear Power .		テキストの復習及び次回予習 (pp. 25-30)	
第 4回	Lesson 4 Growing Your Own Food		テキストの復習及び次回予習 (pp. 31-36)	
第 5回	Lesson 5 The World Cup		テキストの復習及び次回予習 (pp.37-42)	
第 6回	Lesson 6 Cloud Computing		テキストの復習及び次回予習 (pp.43-48)	
第 7回	Lesson 7 Centenarians		テキストの復習及び次回予習 (pp.49-54)	
第 8回	Lesson 8 Mardi Gras		テキストの復習及び次回予習 (pp.55-60)	
第 9回	Lesson 9 Public Art		テキストの復習及び次回予習 (pp.61-66)	
第10回	Lesson 10 Medical Tourism		テキストの復習及び次回予習 (pp.67-72)	
第11回	Lesson 11 How safe are cell phones?		テキストの復習及び次回予習 (pp.73-78)	
第12回	Lesson 12 Kickstarter		テキストの復習及び次回予習 (pp.79-84)	
第13回	Lesson 13 Jerusalem		テキストの復習及び次回予習 (pp.85-90)	
第14回	Lesson 14 The Serengeti		テキストの復習及び次回予習 (pp. 91-96)	
第15回	Lesson 15 Fair Trade		テキストの復習、期末試験準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	65%			
レポート	なし			
小テスト等	20%			
成果発表	なし			
受講態度他	15%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回辞書を持ってきてください。 欠席が6回に達すると単位修得の資格を失います。			
教科書	Andrew E. Bennett, 『Reading Pass (Intro) 』 南雲堂.			
指定図書	なし			
参考図書	授業中、必要に応じて紹介します。			
オフィスアワー	金曜 4 時間目	メールアドレス		

授 業 科 目	Reading and Writing AI (S) 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	D.J. Wood		単 位	1
授業の目的と概要	This course's aim is communicative accuracy in reading and writing. Students learn to avoid mistakes that defeat communication. Students study two English skills in just one class. Accordingly, this course emphasizes additional independent assignments. Learners can achieve significant progress in reading and writing from first to final class. The content, skills and production of the class include: using students' own photos for composition from first draft, peer review to final versions ; note-taking;directed written assignments; independent reading assignments; integrated reading/writing activities; diaries on specific occasions; ongoing diaries for daily completion; short written lectures for reading and so on.			
到達目標	Students develop computer English reading and writing skills.. They learn to extend their writing ability to connect sentences. They practice how to organize ideas into short paragraphs. They increase comprehension by identifying key words and topic sentences. They acquire the ability to read writers' attitudes. They develop the ability to summarize reading passages. They practice reading summaries of fellow students' written work.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	Orientation and interpersonal written communication method overview		Prepare for class 2 assignment	
第 2回	Exchange of personal information, about recent activities for written expression		Prepare for class 3 assignment	
第 3回	Exchange of personal information, about recent activities for written expression		Prepare for class 4 assignment	
第 4回	Class report writing practice		Prepare for class 5 assignment	
第 5回	All students bring photos to exchange and interact via		Prepare for class 6 assignment	
第 6回	Students continue the weekly communication exchange on a monthly basis, combined with weekly diary keeping		Prepare for class 7 assignment	
第 7回	Students continue the photo communication exchange and weekly diary keeping		Prepare for class 8 assignment	
第 8回	Students continue the photo communication exchange and weekly diary keeping		Prepare for class 9 assignment	
第 9回	Students continue the photo communication exchange and weekly diary keeping		Prepare for class 10 assignment	
第10回	Students continue the photo communication exchange and weekly diary keeping		Prepare for class 11 assignment	
第11回	Students continue the photo communication exchange and weekly diary keeping		Prepare for class 12 assignment	
第12回	Students continue the photo communication exchange and weekly diary keeping		Prepare for class 13 assignment	
第13回	Students continue the photo communication exchange and weekly diary keeping		Prepare for class 14 assignment	
第14回	Students continue the photo communication exchange and weekly diary keeping		Prepare for class 15 assignment	
第15回	Students prepare their final overview of all monthly corrected exchanges and weekly diaries for final assessment		Prepare for class review assignment	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% class participation and contribution			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条（2）に従います。			
教科書	Study materials will be provided			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays	メールアドレス		

授 業 科 目	Reading and Writing AII(S)【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	D.J. Wood		単 位	1
授業の目的と概要	Following on from Reading and Writing A I(S), students will: * continue to develop their command of written linguistic patterns * analyze interactions for common conceptual features like experience processing and assimilation * learn how to dissect communication structure development; and * identify elements common to all interactions and the themes which they convey. * use their own photos to ask and answer written questions for reading communication			
到達目標	Students further develop their computer English reading and writing skills by experiencing the nature of written interaction in relation to the overall meaning of such universal topics as the nature of teaching and learning. Accordingly, students: * deepen their ability to comprehend all the levels at which reading and writing operate to present their interactions. * develop the necessary linguistic analysis skills to make insightful conclusions; and * learn and demonstrate their ability to write their impressions and interpretation.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	Post-summer reading quiz		Prepare for class 2 assignment	
第 2回	Post-summer writing quiz		Prepare for class 3 assignment	
第 3回	Writing more detailed self descriptions		Prepare for class 4 assignment	
第 4回	Writing about disappointments.		Prepare for class 5 assignment	
第 5回	Writing about surprises		Prepare for class 6 assignment	
第 6回	Reading and writing about national topics		Prepare for class 7 assignment	
第 7回	Readding and writing about problems		Prepare for class 8 assignment	
第 8回	Reading and writing about international opinions		Prepare for class 9 assignment	
第 9回	Reading and writing about plans		Prepare for class 10 assignment	
第10回	Reading and writing about future events		Prepare for class 11 assignment	
第11回	Reading and writing about changes		Prepare for class 12 assignment	
第12回	Course review		Prepare for class 13 assignment	
第13回	Exit writing quiz		Prepare for class 14 assignment	
第14回	Exit reading quiz		Prepare for class 15 assignment	
第15回	Reading and writing project orientation		Prepare for class review assignment	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ homework and quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条（2）に従います。			
教科書	All study materials will be distributed in class			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays	メールアドレス		

授 業 科 目	Reading and Writing AII 【演習】		開講時期	後期
担当教員	L. Aoki		単 位	1
授業の目的と概要	In this class, students will study and review basic grammar, practice writing sentences and questions using that grammar. Students will practice writing short pieces about various parts of students' lives. Students will be learning vocabulary, as well as the basics of the writing process, so that they learn how to organize writing a paragraph, as well as how to fix mistakes. Due to time limitations, most of the reading will be done outside of class. However, the students will be given exact information about how to write short reports on the books they have read.			
到達目標	At the end of this class, students will be able to write simple grammatically correct sentences, and to write on the following topics: a classmate introduction, an experience, a recipe, a comparison essay, a fiction story, some short emails, and a restaurant review. They will also learn to explain their opinions about short stories and books they have read. They will also be able to edit their own work, and give feedback to their classmates writing.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Introduction of the course: the class schedule and purpose, grading, rules, writing format, the writing process. Writing process and format taught through doing Unit 1.		look for books in library (Graded Readers: Oxford, Penguin Level 1,2)	
第2回	Unit 2.. (Pg. 7-12) Classmate introduction word study. Freewrite. Organization technique. Interview preparation questions. Organize ideas for introduction		Decide book for Book Report 1. Begin reading.	
第3回	Unit 2. Writing process. Using "and" and "because". Peer feedback. Explain H/W 1 (Classmate Profile) Due 4th class. Bk Rprt 1 Explain. Due 5th class.		Write H/W 1-due 4th class. Read book	
第4回	Unit 4. Experience. Freewrite & Read (Pg.28-32) Organization. Introduction. Details. H/W "Classmate Profile" DUE.		Write Book Report 1-due 5th class.	
第5回	Unit 4 Using "and", past tenses study. H/W 2 "Experience": Explain. Due 7th class Book Report 1 Due		Write H/W 2-due 7th class Book report reading (Decide book).	
第6回	Unit 5. (Pg. 34-5, 37-38) Cookbook. Cooking vocabulary. Ingredients study. Recipe practice. Prepositions Revising recipe(pg 37-8)		H/W writing. B. R. reading.	
第7回	Finish Unit 5. Unit 6. (Pg.43-6). Comparison. Freewrite. Reading. Prewriting. Comparison and contrast words/phrases. H/W 3 "Recipe" due 9th class H/W 2 "Experience" DUE		B.R. reading. Work on recipe.	
第8回	Home Explain Book Report 2-Due 10th class. Homework counselling for H/W 1, 2, . (Profile/Experience). Choose ONE to rewrite. Rewrite I-due 9th class. Reading Day.		H/W rewriting. Book report reading.	
第9回	Finish Unit 6. H/W 4 (Comparison) Due 11th class. " Unit 8. Studying Emails, Adjectives. Recipe" H/W 3 and Rewrite I DUE		H/W 2 writing. Book report writing.	
第10回	Adverb practice. Unit8. (Pg 61-2) Emails. Freewrite. Reading. Book Report 2 DUE		H/W 5 writing	
第11回	Unit 8 Finish. Write personal profile.H/W 5 (Email) Due 13th class. Unit 10. (Pg. 74-8) Restaurants. Free-write. Restaurant vocabulary, practice. H/W 4 "Comparison" DUE		H/W 5 writing	
第12回	Restaurant description phrases. Restaurant Review parts. Pg 71-2 Location/Direction study. H/W 6 (Restaurant Guide) Due 14th class		H/W 5-Three emails writing. Research restaurants.	
第13回	Special activities using extra materials. Group writing H/W 5 "Emails" DUE		Write H/W 7 Restaurant 1st draft-DUE 14th class	
第14回	Unit 9 Invitations. Study invitation expressions and directions. H/W A (Invitation) due Final Test Day. H/W 6 "Restaurant Guide" DUE		H/W A Invitation writing	
第15回	H/W counselling: 4-Comparison, 5-Emails. Choose. ONE for Rewrite II.due. Final test day. Reading day. H/W 7 Restaurant due. (last draft)		Study for final exam. H/W rewrite II writing.	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30% Final test will contain short grammar and usage section, and a short reading section. H/W 7 will be considered			
レポート	70% This is 2 book reports =20%, and, 7 writing reports = 6 first drafts (5% each) =30%. 2 rewrite drafts (10% each) =20%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	5% This includes: coming to class on time, giving homework reports on time, and class participation.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	The textbook will be used in class all the time, so the students MUST remember to bring their textbook and something to write with. On reading days, (and other days if possible), bringing a dictionary is highly recommended. Also, this class will require lined paper B5 size, and a file for all reports, which will be explained on the first day. No use of cellphones, iPhones, smartphones			
教科書	"Write Away, Right Away" 2nd Edition by David Martin EFL Press			
指定図書	graded readers in the library should be used for book reports			
参考図書	other books can be used for book reports, checked with teacher			
オフィスアワー	before class, lunch time - Wednesday		メールアドレス	

授 業 科 目	Reading and Writing AII 【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	T.R. Honkomp		単 位	1
授業の目的と概要	Reading and Writing A II will first asses the skill level of first-year students in the essential language skills of reading and writing. Development and tracking progress of these skills will then become the overall objective of t his class. There will be an element of independent learning especially concerning the reading portion of this cours e. Students will be expected to keep a record of their progress as they proceed through the reading laboratory. In -class and group activities will account for most of the writing portion of this course, and there will also be the occasional written homework assignment.			
到達目標	Using the SRA Reading Laboratory, the student's individual skill level will be determined. Each student will then p rogress and keep a record of the speed, level, and vocabualry development that they attain through the reading progr am. Occasional reviews and quizzes will challenge the level of improvement. The writing portion of this course wil l take students from the gradual progression of forming basic sentences to composing more complex and developed sent ences, and then finally to cohesive paragraph development.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Course Introduction; explanation of syllabus; reading level assessment		Introduce student record book	
第2回	Begin SRA Reading Laboratory power builders, skill builders and key cards Introduce rate builders		Student record book for rate builders	
第3回	SRA Reading Laboratory power builders and student self-assessment continued Writing activity - Acrostic puzzles		Student record book	
第4回	SRA Reading Laboratory power builders and student self-assessment continued Writing activity - Dictation #1		Student record book	
第5回 inued	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment cont		Student record book	
第6回 inued	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment cont		Student record book	
第7回	SRA Reading Laboratory power builders and student self-assessment continued Writing activity - Skill builders #1		Student record book	
第8回 inued	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment cont		Student record book	
第9回 nued	SRA Reading Laboratory power builders rate builders and student self-assessment conti		Student record book	
第10回	SRA Reading Laboratory power builders and student self-assessment continued Writing activity - Video story #2		Student record book	
第11回 tinued	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment con		Student record book	
第12回 tinued	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment con		Student record book	
第13回 tinued	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment con		Student record book	
第14回 tinued	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment con		Student record book	
第15回	Semester and Exam Review		Exam Review Sheet	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	25 % Final Exam			
レポート	There will generally be no reports in this class.			
小テスト等	15% Mid-term test			
成果発表	Results of mid-term test will be given in class.			
受講態度他	30 % Class participation, self-evaluation and homework 15% Power builder record book 15% Rate builder record book			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice reading and writing.			
教科書	No Text. (Reading materials will be provided by the teacher.)			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Monday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 3rd per iod (1:10-2:40)	メールアドレス		

授 業 科 目	Reading and Writing AII 【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	Alan Michaels		単 位	1
授業の目的 と概要	目標1: 英語コミュニケーションスキル向上のため、ReadingとWritingの基礎的スキルを習得し正しく理解し使えるようになる。 目標2: 英語の母国語話者が持つ感覚をイメージスキーマを通して感じられるようになる。 目標3: 題材を通して、英語文化及び言語に対する関心を高め、言葉としての英語及び日本語を考察し比較できるようになる。 目標4: 論理的思考力でもって、英語の文を作ることができる。 テキストの演習問題は予習を前提とする。数週ごとに小テストを行う。			
到達目標	1. 演習問題を正しく解くことができる。 2. 演習問題の解答がなぜそのようになるかを、論理的思考力でもって、説明することができる。 3. 英文の構文・構成をふまえ、その意味を適切に説明することができる。 4. 英文の構文・構成をふまえ、日本語を適切に英語で表現することができる。 5. コミュニケーション・スキルにおける基礎的な英文を書くことができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション, Unit 1: Our Aging Society	present tense	テキストの復習及び次回予習	
第 2回	Unit 2: Holiday Memories	past tense	テキストの復習及び次回予習	
第 3回	Unit 3: Sport	progressive forms	テキストの復習及び次回予習	
第 4回	Unit 4: Foreign Workers	perfect tense	テキストの復習及び次回予習	
第 5回	Unit 5: Lifestyles	articles/pronouns	テキストの復習及び次回予習	
第 6回	Unit 6: Sizes	nouns: (un)countable	テキストの復習及び次回予習	
第 7回	Unit 7: Bathrooms	adjectives/adverbs	テキストの復習及び次回予習	
第 8回	Unit 8: Weather & Global Warming	comparisons	テキストの復習及び次回予習	
第 9回	Unit 9: Recycling	prepositions/conjunctions	テキストの復習及び次回予習	
第10回	Unit 10: Commuting	to-infinitives/gerunds	テキストの復習及び次回予習	
第11回	Unit 11: Crumbling Britain	auxiliary verbs	テキストの復習及び次回予習	
第12回	Unit 12: Advertising	passive voice	テキストの復習及び次回予習	
第13回	Unit 13: Technology and Us	causative verbs	テキストの復習及び次回予習	
第14回	Unit 14: Cars - Transport or Status	relatives	テキストの復習及び次回予習	
第15回	Unit 15: Our Education	subjunctives	テキストの復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％ 定期試験を実施する。			
レポート	30％ 毎回の授業において課題が課せられる。			
小テスト等	20％ 小テストを2回実施する。			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 十分な予習をもとにした積極的な受講を考慮する。評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる。			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	テキストは単語を調べ、練習問題は分かる範囲ですべて予習をしておくこと。 授業後は、しっかりと復習し小テスト/期末試験にそなえること。 細かい授業のルールについては、第1回の授業で配布する。			
教科書	テリー オブライエン 他 (著). 『English Indicator 2 (Pre-Intermediate) 』 南雲堂.			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中、必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	水曜日の昼休み(予約が望ましい)		メールアドレス	

授 業 科 目	Reading and Writing BI (S) 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	Alan Michaels		単 位	1
授業の目的 と概要	Students will develop greater competence in English communication skills through writing practice. Interactive communication activities including pair work, brainstorming and group discussion will be frequent activities in class. This practice includes discussing textual and original questions, initiating and responding to questions and ideas. We will work on the skills and vocabulary of self-expression through many activities as well as reviewing basic communication structures. Students should bring to every lesson: Textbook, notebook - for vocabulary and additional note-taking, and a dictionary for finding the meaning of new and forgotten words.			
到達目標	On completion of this course, students will be able to express themselves in English with a wider variety of expressions and depth of writing. Students will acquire knowledge about appropriate and useful communication strategies, how to explain and write more clearly, expand and simplify vocabulary for their audience. When understood and used well: 1. Students will be more aware of their own and others power of expression. 2. Students will have more confidence as writers. 3. Students will increase their creativity and success as communicators.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Introductions, greetings, course overview. Text Section A: Making Friends.		Review and re-write profile from class.	
第2回	Text Section A: Making Friends. Task 3 and 4.		Review and re-write from class. Text pages 7, 8.	
第3回	Text Section B: Looking at Learning.		Review and re-write	
第4回	Text Section B: Looking at Learning.		Review and re-write.	
第5回	Review and Reading.		Consolidation and preview.	
第6回	Text Section C: Getting Ready to Write.		Review and re-write.	
第7回	Text Section C: Getting Ready to Write.		Review and re-write.	
第8回	Text Section D: Writing about names.		Review and re-write.	
第9回	Text Section D: Writing about names.		Review and re-write.	
第10回	Review and Reading.		Consolidation and preview.	
第11回	Text Section E: Writing about Ourselves.		Review and re-write.	
第12回	Text Section E: Writing about Ourselves.		Review and re-write.	
第13回	Text Section F: Exploring Our Thinking.		Review and re-write.	
第14回	Text Section F: Exploring Our Thinking.		Review and re-write.	
第15回	Final Assignment.		Prepare for final test.	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30% Final Test.			
レポート	20% Report.			
小テスト等	10% Mid-term quiz.			
成果発表	20% Presentations.			
受講態度他	20% Class participation, attitude.			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	Class is conducted in English. Students should try to use English, ask questions, help other students to do well, volunteer to answer questions and talk about English experiences outside of class. Email to communicate with the teacher any time regarding absences and other issues. Doing homework is a required part of the course. If you miss a class it is your responsibility to get lesson details and to complete them. Prepare for the next lesson.			
教科書	『Write about it, Talk about it.』 Richard Gabbrielli & Joel Harris. Intercom Press			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	Lunchtime on Wednesdays.	メールアドレス		

授 業 科 目	Reading and Writing B I 【演習】		開講時期	前期
担当教員	Saza LINDA		単 位	1
授業の目的と概要	This course has two main objectives. The first goal is to help students express themselves clearly and accurately in written form. The second goal is to introduce students to examples of superior writing, so that they may improve their own methods of expression.			
到達目標	The writing portion of the lessons will focus on practicing common sentence patterns. Punctuation, grammar and spelling rules will be spotlighted. The reading will be done at home, but will be discussed in class. The aim here is to have the students write opinion pieces on the reading selections.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 Overview			Prepare text and necessary materials	
第2回 Basic parts of speech - Nouns, pronouns, and verbs. Definition of a sentence.			Page 6-13	
第3回 Parts of speech - Prepositions, adjectives, and adverbs.			Page 14-20	
第4回 Sentence patterns - be verbs. Subject / verb agreement .			Page 21-28	
第5回 Sentence patterns - There is , there are. Adverb phrases of location			Page 29-36	
第6回 Sentence pattern for have verbs. Describing people and things.			Page 37-43	
第7回 Combining sentences with and, but, or and so. Gerunds			Page 44-51	
第8回 Putting adjectives in correct order. Subject and object pronouns.			Page 52-59	
第9回. Simple present and present continuous tenses. Adverbs of frequency. Intro to paragraphs.			Page 60-67, Reading assignment	
第10回 Formal and informal language in writing. Topic sentences, supporting sentences and concluding sentences.			Page 68-74, Reading assignment	
第11回 Brainstorming , outlining, topic sentences.			Page 75-82, Opinion Paper	
第12回 Supporting and concluding sentences continued. The use of too and not...enough.			Page 83-90	
第13回 Writing a strong conclusion.			Opinion Paper	
第14回 Contrasting the present perfect and simple past . Intro for term paper.			Page 91-97 , Prepare Term Paper	
第15回 Final Writing Assignment - Term paper Workshop			Prepare Term Paper	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	30%			
成果発表	0%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Get ready to write!			
教科書	SENTENCE WRITING - The basics of writing by Dorothy E. Zemach Published by Macmillan			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Before and after class.	メールアドレス		

授 業 科 目	Reading and Writing BI 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	Keith Kinstler		単 位	1
授業の目的 と概要	READING & WRITING BI emphasizes reading for understanding and writing grammatically equivalent responses to text based comprehension exercises. Students will be expected to develop writing ability from model reading texts. Idiomatic English will be used throughout. 千里の道も一歩から。 Materials are chosen on the basis of variety, clarity, simplicity and general interest. Each passage will be a few pages long and will include writing exercises.			
到達目標	Students will study basic English sentence structure and the relationship between various parts of speech. Variant spellings and pronunciation will be analyzed in order to allow students to recognize differences between spelling and pronunciation. 困難なことも慣れれば簡単			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	INTRO - CLASSROOM ENGLISH - GRAMMAR & PARSING - IDIOMS		None	
第 2回	Writing Review - Etymology		None	
第 3回	Comprhesion & Vocabulary Written - Etymology Responses		None	
第 4回	Eating Out - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Homework: Eating Out	
第 5回	Out on a Limb - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Homework: Out on a Limb	
第 6回	On Top of the World - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Homework: On Top of the World	
第 7回	The Plain People - Question Formation - Etymology		Homework: The Plain People	
第 8回	Boy Fights Lion - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Crossword	
第 9回	Extra - Writing Exercises		None	
第10回	Face to Face - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Crossword	
第11回	Extra - Writing Exercises		Homework: None	
第12回	Frog - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Crossword	
第13回	Extra - Writing Exercises		Crossword	
第14回	Reading Review		Crossword	
第15回	Quiz		予習：授業の前に配布プリント、教科書の単語の意味などを調べておく。	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％			
レポート	None			
小テスト等	20％			
成果発表	10％			
受講態度他	40％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・この授業は全て英語で行われます。定期試験のみで合格点をとっても、単位取得はできません。毎回の授業への積極的参加が大事です。 ・この科目ではクラス活動、授業態度を重視し、積極的で主体的な授業参加が望まれます。 ・クラス活動、練習で継続的に評価を行っていきます。 ・前期は15回授業があり、1回のクラスワークで最高10点もらえます。公欠は考慮しますが、理由のない遅刻は減点となります。			
教科書	HUIZENGA 『CAN YOU BELIEVE IT ? BOOK 3』 Oxford University Press			
指定図書	ENGLISH - JAPANESE JAPANESE - ENGLISH DICTIONARY（英和・和英辞典）（電子辞書も可）携帯の辞書の使用は不可。			
参考図書	ENGLISH - ENGLISH DICTIONARY			
オフィスアワー	Before or after the class.授業の前後		メールアドレス	

授 業 科 目	Reading and Writing BII 【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	Paul Shimizu		単 位	1
授業の目的 と概要	This course will have students writing individually and in small groups. They will be reading each others work and writing simple comments.			
到達目標	This course is designed to maximise students enjoyment, giving them freedom to express themselves, which not having to worry too much about grammar and spelling.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Communication Circle → Write questions and then ask them		Page 1	
第2回	Interview and write a report		Page 2	
第3回	Thinking about and describing animals		Pages 3-4	
第4回	Likes and Dislikes		Pages 6-9	
第5回	Group Writing - You/Mother and Father - You/Girlfriend/Boyfriend		Pages 10-12	
第6回	Your Likes - Happy - Sad		Pages 21-22	
第7回	Clothing, jewelry and fashion		Pages 23-24	
第8回	Can men and women just be friends		Pages 27-28	
第9回	Emotions from music - TV - movies		Pages 33-34	
第10回	Planning a sports day (in groups)		Page 39	
第11回	Creative Writing - developing a character		Page 41	
第12回	Group Work - Health - Environment - Crime		Topic from Page 48	
第13回	Group Work - Advertising - Cross - Cultural communication		Topic from Page 48	
第14回	Your hopes and aspirations in the future		Topic from Page 48	
第15回	What have you learned ?		Page 56	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	100% Attendance, Participation and Attitude			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	None			
教科書	Richard Gabbrielli & Juel Harris 『Write about it, Talk about it』 INTERCOM PRESS Richard Gabbrielli 『MIND YOUR WORDS』 INTERCOM PRESS			
指定図書	None			
参考図書	None			
オフィスワー	Before and After class		メールアドレス	

授 業 科 目	Reading and Writing BII 【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	Saza LINDA		単 位	1
授業の目的と概要	This course is designed as the continuation of Reading and Writing BI. The goals remains the same. The first is to help students express themselves more clearly and accurately in written form. The second is to introduce students to examples of good writing.			
到達目標	The writing portion of the lessons will focus on paragraph writing. The aim is to have the students write strong thesis statements followed by well supported, organized ideas. Once again, the reading will be done at home, but will be discussed in class. Students will write opinion pieces on the reading selections.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 Overview			Prepare the text	
第2回 Recognizing and writing complete sentences. Identifying topic sentences.			Page 5-13	
第3回 Picking out topics and main ideas. Skimming skills in reading.			Page 13-19	
第4回 Developing paragraphs. Brainstorming by listing.			Page 20-25	
第5回 Writing conclusions. Brainstorming by mapping.			Page 26-33	
第6回 The importance of peer reading. Brainstorming by freewriting.			Page 34-41	
第7回 Writing Opinion Papers			Page 42-47	
第8回 Writing explanations and excuses. Reading selection			Page 48-54	
第9回 Expressing personal feelings. Writing in logical order.			Page 55-61	
第10回 Ordering events in a narrative. Using time expressions. Logical order.			Page 62-68	
第11回 Organizing a comparison paragraph.			Page 69-74, reading selection	
第12回 How to start your term paper. Catching the readers attention.			Page 75-79 Print provided, reading selection	
第13回 Connecting paragraphs to make an essay. Writing about the future.			Page 80-84	
第14回Opinion piece for reading selection. Preparing a final draft.			Prepare final paper	
第15回 Final Term Paper			Prepare term paper	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％			
小テスト等	30％			
成果発表	％			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Come prepared to write!			
教科書	Paragraph Writing - from the sentence to paragraph by Dorothy Zemach Published by Macmillan			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Before and after class.	メールアドレス		

授 業 科 目	Reading and Writing BII(S)【演習】		開 講 時 期	後 期
担 当 教 員	Paul Shimizu		単 位	1
授業の目的 と概要	This course is based on the educational philosophy of freewriting. Students will be expected to read each other writing and make commets. Students will also be brainstorming vocabulary in small groups.			
到達目標	This course is designed to liberate students from the hard and fast grammar rules which they have been subjected to throughout their school lives.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Making Friends - What do you like? etc		Pages 1-2	
第2回	Writing about animals using adjectives		Pages 3-4	
第3回	Conversation Circle - Group writing activities		Pages 10-11	
第4回	Writing About Names		Pages 17-18	
第5回	Events in your life - feeling		Pages 21-22	
第6回	The meaning of shapes		Pages 24-25	
第7回	Men and Women		Pages 26-28	
第8回	Your City - places, shapes, cultures, smells		Pages 29-32	
第9回	Music and Entertainment		Pages 33-38	
第10回	Sports and Games and Entertainment		Pages 39-40	
第11回	Imaginative writing - Collaborative Writing		Pages 41-44	
第12回	Research Projects - What should children learn		Pages 45-46	
第13回	Health / Environment / Crime / Violence /		Page 48	
第14回	Fashion / Media Power /		Page 49	
第15回	Cross-cultural communication		Pages 50-51	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	100% Attendance, Participation and Attitude			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	None			
教科書	Richard Gabbrielli & Juel Harris 『Write about it, Talk about it』 INTERCOM PRESS Richard Gabbrielli 『MIND YOUR WORDS』 INTERCOM PRESS			
指定図書	None			
参考図書	None			
オフィスアワー	Before and After class		メールアドレス	

授 業 科 目	Reading and Writing BII 【演習】		開講時期	後期
担当 教 員	Alan Michaels		単 位	1
授業の目的 と概要	Students will continue to develop greater competence in English communication skills through writing practice. Interactive communication activities including pair work, brainstorming and group discussion will be frequent activities in class. This practice includes discussing textual and original questions, initiating and responding to questions and ideas. We will work on the skills and vocabulary of self-expression through many activities as well as reviewing basic communication structures. Students should bring to every lesson: Textbook, notebook - for vocabulary and additional note-taking, and a dictionary for finding the meaning of new and forgotten words.			
到達目標	On completion of this course, students will be able to express themselves in English with a wider variety of expressions and depth of writing. Students will acquire knowledge about appropriate and useful communication strategies, how to explain and write more clearly, expand and simplify vocabulary for their audience. When understood and used well: 1. Students will be more aware of their own and others power of expression. 2. Students will have more confidence as writers. 3. Students will increase their creativity and success as communicators.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Introductions, greetings, course overview. Review of Summer.		Review and re-write summer report from class.	
第2回	Text Section G: Describing Our Thoughts.		Review and re-write.	
第3回	Text Section G: Describing Our Thoughts.		Review and re-write.	
第4回	Text Section H: Writing About Our Feelings.		Review and re-write.	
第5回	Text Section H: Writing About Our Feelings.		Review and re-write.	
第6回	Review and Reading.		Consolidation and preview.	
第7回	Text Section I: Optional Writing Tasks.		Review and re-write.	
第8回	Text Section I: Optional Writing Tasks.		Review and re-write.	
第9回	Text Section J: Evaluating Our Learning.		Review and re-write.	
第10回	Text Section J: Evaluating Our Learning.		Review and re-write.	
第11回	Review and Reading.		Consolidation and preview.	
第12回	Preparing Final Reports		Review and re-write.	
第13回	Final Assignment.		Review and re-write.	
第14回	Presentations.		Prepare presentations.	
第15回	Presentations.		Prepare for final test.	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％ Final Test.			
レポート	20％ Report.			
小テスト等	10％ Mid-term quiz.			
成果発表	20％ Presentations.			
受講態度他	20％ Class participation, attitude.			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	Class is conducted in English. Students should try to use English, ask questions, help other students to do well, volunteer to answer questions and talk about English experiences outside of class. Email to communicate with the teacher any time regarding absences and other issues. Doing homework is a required part of the course. If you miss a class it is your responsibility to get lesson details and to complete them. Prepare for the next lesson.			
教科書	『Write about it, Talk about it.』 Richard Gabbrielli & Joel Harris. Intercom Press			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	Lunchtime on Wednesdays.		メールアドレス	

授 業 科 目	Reading and Writing CI 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	L. Aoki		単 位	1
授業の目的と概要	In this class the students will learn how to write a paragraph, and a composition using logical order and correct format for English writing. Students will learn about the writing process and learn how to develop a topic as well as how to write details. They will learn how to write a summary and how to write about their own life experiences. Finally, they will study how to write a book report, and learn to think about what the author wished to say and what is the main idea or moral of the book or story. Students will review grammar points in order to use them correctly in writing, and they will have practice in editing their own work using the hints the teacher has marked on their paper			
到達目標	By the end of the class, students will know how to write a composition about a classmate, about their experience, and a book summary; neatly in the correct format of indenting, margins, spacing, and the correct use of basic punctuation. They will be able to write an organized essay with logical progression. Students will be able to write a topic sentence, support sentences and a conclusion to their work, and to think clearly about what they want to express. They will be able to write a book report that shows they have thought more deeply about what the author has written, and be able to express their opinion about the work.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
Introduction of the course goals, methods, rules, grading system, schedule. Review of paragraph parts. Explanation of book reports.			Review of paragraph parts. Choose book for book reports.	
Unit 1. Profile reading. Interview preparation. Student interviews. Organizing interview data. Writing main idea (topic) sentence.			Book report reading.	
Unit 1. Study how to develop the body of the profile composition. Practice writing details. Learn how to write a conclusion sentence. Introduction on how to write the book reports.			Book report reading.	
Unit 1. Editing for subjects and verbs. Further instruction on the way to write the first book report Explanation of H/W 1: Profile. Due 6th class			Book report writing. Editing exercises.	
Unit 2. Experience reading. Organize writing for one's experience. Write an outline. Peer discussion. Write the Main Idea sentence for an experience composition. Book Report 1 DUE.			Book report reading. Homework writing: Profile	
Unit 2. Experience writing: main idea sentence, time order organization, details and action, and conclusion sentence. H/W 1 Classmate Profile DUE.			Book report reading.	
Homework counseling on H/W 1, and Reading Day. H/W Rewrite 1 due 9th class. Explain H/W 2: Experience Composition due 9th class.			Book report reading. Homework writing: Profile rewrite, Experience.	
Unit 2. Finish experience writing: editing for past tense, and unnecessary sentences. Study of use of direct quotations. Explain book report 2 Due 10th Class			Book report and homework writing.	
Unit 7. Reading stories for writing a summary. Practice finding important parts of story and rewriting that in one's own words. H/W 1 Rewrite Profile, and H/W 2 Experience DUE.			Book report writing.	
Homework counseling on H/W 2, and Reading Day. H/W Rewrite 2 due 11th class. Book report 2 DUE.			H/W Rewriting	
Unit 7. Continue to practice reading and finding important parts to write a summary. Learn how to write the Main Idea sentence for this composition. H/W 2 Experience Rewrite DUE.			Catch up on unfinished homework.	
Unit 7. Learn use of literary present tense to summarize. Learn use of direct and indirect quotes with correct punctuation. Continue summary practice. Explanation H/W 3 Due 13th class.			H/W 3 Summary writing	
Unit 7. More summary practice if needed. Or alternate writing/reading. H/W 3 Summary DUE.Explanation of Final test. Review.			H/W 3 Summary writing	
Homework counseling for H/W 3 Summary. Rewrite due 15th class. Reading Day.			Rewrite H/W 3 Summary.	
Test			nothing	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30% Test on writing skills and reading comprehension, as well as self editing and rewriting, on 15th class day			
レポート	60% This includes two book reports = 20%, and three composition homework =30%, and reading day comprehension questions = 10%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	10% This includes class participation, coming to class on time, attitude, and submitting homework on time.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	You MUST have a new textbook. A used textbook with the answers already written in it will not be accepted. No cell/smart/i-phones allowed in class Please bring dictionaries. Electric dictionaries is all right, but not smart phones. A book dictionary is best.			
教科書	Ann O. Strauch 『Writers at Work: The Short Composition』 Cambridge University Press			
指定図書	graded readers (Oxford, Penguin) in the library			
参考図書	other short novels			
オフィスアワー	Wednesdays after class, at lunch period, Mondays 1st period	メールアドレス		

授 業 科 目	Reading and Writing CI 【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	M.E. Kamada		単 位	1
授業の目的と概要	The aim of this course is for students to improve their reading and writing skills in English, to enjoy reading and writing in English, and to be able to communicate effectively in written English. Reading easy to understand graded readers will help students improve their reading fluency. Students will learn to write more effectively by learning the process of gathering initial ideas, writing a first draft, sharing written work with other students and the teacher, revising, and editing. Students will get advice from the teacher on how to improve their writing. Common grammar mistakes will be pointed out, and students will correct their mistakes. At the end of the course, students will prepare a neatly presented portfolio of their corrected work.			
到達目標	At the end of this course, students should be able to be able to: 1. write a well organized composition 2. support their ideas with details, examples, and reasons 3. recognize and correct common grammar mistakes 4. summarize and comment on a story			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Guidance; class schedule; grading; book report form		Prepare a self-introduction card	
第2回	Extensive reading; book report form		Extensive reading	
第3回	Composition #1: Writing about a Person; reading sample compositions		Write book report #1	
第4回	Interview questions; the first draft: main idea, body, conclusion		Write interview questions	
第5回	Peer feedback, adding details, revising		Write Composition #1	
第6回	Composition #2: Narrating a Personal Experience; reading sample compositions		Extensive reading	
第7回	Organizing ideas in time order; using quotations; writing the first draft		Write book report #2	
第8回	Peer feedback; revising		Write Composition #2	
第9回	Composition #3: Giving Examples to Support an Idea; reading sample compositions		Extensive reading	
第10回	Organizing by time order or by order of importance		Write book report #3	
第11回	Adding details; writing conclusions		Write Composition #3	
第12回	Rewriting; grammar		Rewrite Compositions #1 and #2	
第13回	Editing and revising; grammar		Rewrite Composition #3	
第14回	Editing and revising; grammar		Make a portfolio	
第15回	Review		Study for the final exam	
成 績 評 価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	30%, final exam			
レポート	50%、compositions (30%), book reports (20%)			
小テスト等	20%, portfolio			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Students need to be on time for class and submit assignments on time. Students should have behavior that shows respect for the teacher and other students. Sleeping, chatting, or looking at cell phones are examples of unacceptable behavior. Students should be ready to engage in the class by having the text, a graded reader, and a dictionary.			
教科書	Writers at Work - The Short Composition by Ann O. Strauch (Cambridge University Press)			
指定図書	Graded readers are in the library.			
参考図書	An English-Japanese / Japanese-English Dictionary			
オフィスアワー	Students can talk to me after class.	メールアドレス		

授 業 科 目	Reading and Writing CI(S)【演習】		開 講 時 期	前期
担 当 教 員	Paul Shimizu		単 位	1
授業の目的 と概要	This course is designed to have students thinking about current affairs and global issues through reading and writing.			
到達目標	Students should be stimulated by the topics and by sharing their ideas with other group members by reading to each other. Students should also learn to express their opinions through writing.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Global Warming - Whose responsibility is it?		Pages 1-8	
第2回	Globalization - Negative and Positive.		Pages 9-14	
第3回	Foreigners living in Japan - Advantages / Disadvantages		Pages 15-22	
第4回	Employment issue - What is a job Really Worth?		Pages 23-29	
第5回	Men and Women - Are we equal.		Pages 30-34	
第6回	The Supernatural - What do you believe?		Pages 35-41	
第7回	Organ and Tissue Donation - It's your body!		Pages 42-47	
第8回	Animals - Do they have rights?		Pages 51-55	
第9回	Violence and Nonviolence - Personal and international		Pages 26-62	
第10回	Education Today. How good is yours?		Pages 63-69	
第11回	The family - Joy and stress.		Pages 70-75	
第12回	Marriage and Divorce - Marriage Life / Single Life		Pages 76-83	
第13回	Sex Education and STDs - Are you safe?		Page 84-91	
第14回	Morality and Immorality - Are you a good person?		Page 92-99	
第15回	Review		Review	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	100% Continuous Assessment based on Attendance, Participation and Attitude.			
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	None			
教科書	"Stimulating Conversation Today" INTERCOM PRESS			
指定図書	None			
参考図書	None			
オフィスワー	Before and After class		メールアドレス	

授 業 科 目	Reading and Writing CII【演習】		開講時期	後期
担当教員	M.E. Kamada		単 位	1
授業の目的と概要	This course is a continuation of Reading and Writing C I. The aim of this course is for students to improve their skills in reading and writing English, to enjoy reading and writing in English, and to be able to communicate effectively in written English. Students will become able to read more fluently by reading extensively. Students will improve their writing skills by proceeding through the stages of gathering ideas, writing a first draft, revising, and editing. Students will get comments from the teacher on how to improve their work. Common grammar mistakes will be pointed out, and students will correct their mistakes. At the end of the course, students will prepare a neatly presented portfolio of their corrected work.			
到達目標	At the end of this course students should be able to do the following : 1. Write poems using descriptive adjectives, adverbs, and similes; 2. Write compositions giving reasons, explanations, and examples; 3. Summarize and comment on a news article; 4. Correct their written work.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Guidance; book report form		Extensive reading	
第2回	Composition #1: Supplying Reasons; reading sample compositions		Extensive reading	
第3回	Details; transitions; logical order		Write book report #1	
第4回	Sentences: simple; compound; complex		Write Composition #1	
第5回	Composition #2: Interpreting Quotations and Proverbs; reading sample compositions		Extensive reading	
第6回	Composing the main idea: topic and comment; using descriptive words		Write book report #2	
第7回	Transition signals; writing specific details		Write Composition #2	
第8回	Reading and writing poems; using sensory verbs		Write poems	
第9回	Reading and writing poems; using adjectives		Write poems	
第10回	Reading and writing poems; using adverbs		Write poems	
第11回	Reading and writing poems; using similes		Write poems	
第12回	In-class reading; writing a summary		Rewrite Compositions #1 and #2	
第13回	In-class reading; writing a summary		Make a portfolio	
第14回	In-class reading; writing a summary		Study for the final exam	
第15回	Review		Study for the final exam	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％、final exam			
レポート	50％, compositions (20%), book reports (20%), poems (10%)			
小テスト等	10％, TOEIC test, 10% Portfolio			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Students must be on time for class and submit assignments on time. Students should behave in a way that shows respect for the teacher and other students. Sleeping, chatting, or looking at cell phones are examples of unacceptable behavior. Students should be ready to engage in the class by having the text, a graded reader and a dictionary.			
教科書	Writers at Work - The Short Composition by Ann O. Strauch (Cambridge University Press)			
指定図書	Graded readers are in the library			
参考図書	An English-Japanese / Japanese-English Dictionary			
オフィスアワー	Students can talk to me after class	メールアドレス		

授 業 科 目	Reading and Writing CII【演習】		開講時期	後期
担当 教 員	L. Aoki		単 位	1
授業の目的 と概要	In this class the students will learn how to write a paragraph, and a composition using logical order and correct format for English writing. Students will learn about the writing process and learn how to develop a topic as well as how to write details. They will learn how to write about a topic using examples, and write a critique on a fiction story. Finally, they will practice writing about book characters, and learn to think about what the author wished to say and what is the main idea or moral of the book or story. Students will review grammar points in order to use them correctly in writing, and they will have practice in editing their own work using the hints the teacher has marked on their paper			
到達目標	By the end of the class, students will know how to write a composition about a topic using examples or reasons to explain their opinion, they will be able to write an essay about a proverb, and an essay critiquing a fictional story; neatly in the correct format of indenting, margins, spacing, and the correct use of basic punctuation. They will be able to write an organized essay with logical progression. Students will be able to write a topic sentence and a conclusion to their work, and to think clearly about what they want to express. They will be able to write a book report that shows they have thought more deeply about what the author has written, and be able to express their opinion about the work.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
Introduction of class (for new students and review): rules, grading, new class schedule.			Book report reading.	
Unit 3. Example Composition Reading. Begin work on this composition of examples to explain a topic, choose a topic. Peer discussion and freewrite.			Book report reading.	
Unit 3. Continue Example work. Study and practice Main Idea sentence. Organization and transition techniques. Study supporting details. Explanation of Book Report 1-DUE 5th Class.			Book report reading.	
Finish Example Unit 3: Conclusion. Unit 4. Reason Composition Reading. Explanation of H/W 1 Example or Reason Composition-DUE 6th Class.			Book report writing.	
Unit 4. Reason Composition Study organization and details. Book Report 1 DUE.			Book report reading. H/W 1 writing.	
Unit 4. Study clauses and sentence types. Begin Unit 6 Proverb-Reading choose a proverb. H/W 1 Reason or Example Composition DUE.			Book report reading.	
H/W 1 Counseling and Reading Day. H/W 1 Reason/Example Rewrite-DUE 8th Class			Book report reading. H/W 1 rewriting.	
Unit 6. Proverb Essay.. Organization of Proverb composition.. Explanation of H/W 2 Proverb-Due 10th Class. H/W 1 Rewrite DUE			Book report reading. Homework 2 writing	
Unit 6. Clustering for organization. Main idea sentence. Details in body with sense verbs and images. Study conclusion for this essay. Explanation of book report 2-DUE 11th Class			Book report reading. Homework 2 writing	
Continue Proverb Unit. Study wordiness and use of definite and indefinite articles. H/W 2 Proverbs DUE. Alternate writing, time permitting.			Book report writing.	
H/W 2 Counseling and Reading Day. H/W 1 Proverbs Rewrite-DUE 13th Class			H/W 2 Re-writing.	
Unit 9. Critique of Fiction. Sample reading. Look at ideas critiqued. H/W 2 Proverbs Rewrite DUE. Read own story for critiquing by 14th class.			H/W 2 Proverbs Re-writing.	
Special Class using materials concerning fall			Critique story reading	
Unit 9 continue. Study main idea sentence, practice writing summary in class. Study how to critique, and modal verbs. Explanation of H/W 3 .Explanation of Final Exam			H/W 3 Fiction Critique writing	
Finish Unit 9. Critique of Fiction written in class and handed in today. NO PREVIOUS HOMEWORK OF ANY TYPE ACCEPTED AFTER TODAY. H/W 3 DUE.			Study for final exam.	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30% The test will be divided into grammar/usage section, writing section, and reading comprehension section. Each section will probably be 10%. (10X3=30%)			
レポート	50% Includes: 2 book reports 20%; 2-3 homework reports 30%.			
小テスト等	10% TOIEC test. (For juniors only. 3年生のみ) For seniors (4年生) 10% on attitude/participation.			
成果発表	0			
受講態度他	10% Based on reading days comprehension questions. Homework done on time.			
受講上の留意 点・ルールに関 わる情報	You MUST have a new textbook. A used textbook with the answers already written in it will not be accepted. No cell/smart/i-phone use allowed in class Please bring dictionaries. Electric dictionaries is all right, but not smart phones. A book dictionary is best.			
教科書	Ann O. Strauch 『Writers at Work: The Short Composition』 Cambridge University Press			
指定図書	graded readers (Oxford, Penguin) in the library			
参考図書	other short novels			
オフィスアワー	Wednesdays after class, at lunch period	メールアドレス		

授 業 科 目	Reading and Writing CII(S)【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	T.R. Honkomp		単 位	1
授業の目的と概要	The second semester course of Reading and Writing C II (S) emphasizes continued and advanced development in the skills of reading and writing. Particular attention will be given to improving reading speed, comprehension and developing techniques that increase reading proficiency. Most reading will be done outside of class as homework, and the writing component of this course will introduce in-class activities where students work together and share ideas to create original and more developed written sentences.			
到達目標	Vocabulary development will be emphasized as well as the opportunity to build reading confidence and competence. Students will select a graded reader that is appropriate to their reading level and read the complete text during the semester. Periodic checks will determine student progress. A book report about the text will culminate the experience and will be due near the end of the semester. Student journals will be an important part of the writing part of this course. Journal assignments will give students the chance to express their original ideas and life experiences while focussing on sentence development and more complete sentence structure.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-2 英語の構造や特徴について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	Course introduction; course information, introduction to journals & book report assignment		Review book report assignment and begin choosing book	
第 2回	Grammar topic #1: Logical connectors; introduction and practice using connecting & transition words;		Grammar exercise practice	
第 3回	Synonyms; Rewrite description using other words; developing details		Handout	
第 4回	Sensory vocabulary; Expanding vocabulary that appeals to the five senses Journal Assignment #2		Vocabulary handout	
第 5回	In class reading for book reports; progress check		Student selected books	
第 6回	Introduction to imagery and colorful language; onomatopoeia Journal Assignment #3		Handouts	
第 7回	Figures of speech; Introduction to simile, metaphor, hyperbole		Handouts	
第 8回	Figures of speech continued; How vs. Why Journal Assignment #4		Handouts	
第 9回	Grammar topic #2: Reported Speech, Indirect discourse introduction and practice		Homework exercises	
第10回	Continued development of creative and descriptive sentences Journal Assignment #5		Handouts	
第11回	Grammar topic #3 : Indefinite vs. definite articles introduction & practice		Handout exercises	
第12回	Figures of speech; development of exaggeration and hyperbole, personification, paradox Journal Assignment #6		Book reports due	
第13回	Introduction to simple poems; syllables, rhyme and rhythm, haiku		Handouts	
第14回	Simple poems continued; practice with limericks		Handouts	
第15回	Semester wrap-up and exam review		Exam review handouts	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％			
レポート	15％ Book report			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	20％ Class participation and class activities 25％ Writing assignments and journals			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Class participation and weekly class activities will play an important factor in final evaluation. Please come to class every week prepared to actively pursue reading and writing practice.			
教科書	—			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Monday 3rd period (1:10-2:40), Wednesday 3rd period (1:10-2:40)	メールアドレス		

授 業 科 目	TOEIC Practice A【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	松崎 徹		単 位	1
授業の目的 と概要	目標 1：英語コミュニケーション・スキル向上のため、TOEIC Bridge の演習問題に取り組み、正しい英語を使うことができる。 目標 2：実務的な能力・知識を身につけ、実社会で活躍できるよう、より実戦的な内容の演習問題に正しく答えることができる。 目標 3：TOEIC Bridge での高得点を目指し、資格単位認定が得られるくらいの英語力を身につける。目標 4：論理的思考力でもって、問題の構成、解答方法を理解できる。 授業は二部構成で進められる。1つは下記テキストの演習問題を解き、数週毎に小テストを受ける。テキストは予習を前提として進められ、内容が難しく感じる学生用に、スクリプト等の補足プリントが授業HPに載せられる。必要に応じて、閲覧・ダウンロードする。2つめにテキストとは別に、TOEIC Bridge の模擬試験問題を解いていく。授業の最後には、毎回授業の内容の復習となるよう、課題が出されるので、それを提出する。			
到達目標	1. TOEIC Bridge の演習問題を正しく解くことができる。 2. 演習問題の解答がなぜそのようになるのかを、論理的思考力でもって説明ができる。 3. 学期末のTOEIC Bridge 試験で、初回模擬テストよりも高得点をとることができる。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 この科目は2年次開講の「TOEIC Practice B」、3年次開講の「TOEIC Practice C」という一連の流れの科目群の最初の科目に相当し、一番基礎的な内容を学習していくことになります。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション,テキスト演習問題①(Unit 1 Introducing Yourself)		①(Unit 1 Introducing Yourself)～テキストの復習	
第 2 回	テキスト演習問題②(Unit 2 Eating Out)		②(Unit 2 Eating Out)～テキストの復習及び次回予習	
第 3 回	テキスト演習問題③(Unit 3 Going Shopping)		③(Unit 3 Going Shopping)～テキストの復習及び次回予習	
第 4 回	テキスト演習問題④(Unit 4 Having Fun)		④(Unit 4 Having Fun)～テキストの復習及び次回予習	
第 5 回	テキスト演習問題⑤(Unit 5 Holding a Party)		⑤(Unit 5 Holding a Party)～テキストの復習及び次回予習	
第 6 回	テキスト演習問題⑥(Unit 6 Traveling)		⑥(Unit 6 Traveling)～テキストの復習及び次回予習	
第 7 回	テキスト演習問題⑦(Unit 7 Corresponding)		⑦(Unit 7 Corresponding)～テキストの復習及び次回予習	
第 8 回	テキスト演習問題⑧(Unit 8 Telephoning)		⑧(Unit 8 Telephoning)～テキストの復習及び次回予習	
第 9 回	テキスト演習問題⑨(Unit 9 Staying Healthy)		⑨(Unit 9 Staying Healthy)～テキストの復習及び次回予習	
第10回	テキスト演習問題⑩(Unit 10 Finding a Place to Live)		⑩(Unit 10 Finding a Place to Live)～テキストの復習及び次回予習	
第11回	テキスト演習問題⑪(Unit 11 Banking)		⑪(Unit 11 Banking)～テキストの復習及び次回予習	
第12回	テキスト演習問題⑫(Unit 12 Getting a Job)		⑫(Unit 12 Getting a Job)～テキストの復習及び次回予習	
第13回	テキスト演習問題⑬(Unit 13 Talking about the Weather)		⑬(Unit 13 Talking about the Weather)～テキストの復習及び次回予習	
第14回	テキスト演習問題⑭(Unit 14 Getting Around)		⑭(Unit 14 Getting Around)～テキストの復習及び次回予習	
第15回	テキスト演習問題⑮(Unit 15 Cooking)		⑮(Unit 15 Cooking)～テキストの復習	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 定期試験を実施する。			
レポート	20％ 毎回の授業において課題が課せられる。			
小テスト等	15％ TOEIC Bridge(12月下旬:10%)を1回・小テストを2回(5%)実施する。			
成果発表	なし			
受講態度他	15％ 十分な予習をもとにした、積極的な受講を考慮する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	テキストは単語を調べ、練習問題は分かる範囲ですべて予習をしておくこと。このとき教科書に付属のCD-ROMも活用すること。また授業後は、しっかり復習し、小テスト/期末試験にそなえること。細かい授業のルールについては、第1回の授業で配布する。			
教科書	ホートン広瀬恵美子／吉澤小百合／恒安眞佐／Cecilia Fujishima 著『CROSS OVER THE TOEIC Bridge TEST 』金星堂．			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中、必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	水曜日 3 限目・金曜日 2 限目		メールアドレス	

授 業 科 目	TOEIC Practice B【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	田吹 香子		単 位	1
授業の目的 と概要	本授業では、受講生のTOEIC Testのスコアアップを第一目標とする。そのためには、TOEIC受験対策テキストで学ぶ頻出単語や文法、特徴的な言い回し、業種やシチュエーション別の特徴的表現を学習し、小テストやミニ模擬テストで自己の到達度を確認する。			
到達目標	1. 各Unitに出てくる語彙や生活とビジネスに直結した表現を習得する。 2. 高校までに学んだ文法を復習し、新たを知る文法事項を試験において活用できるようにする。 3. 各パートの特徴を知り、試験の傾向に慣れる。 4. 本講座受講終了までにTOEIC本試験で500点以上のスコアを取得する。			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション、Unit 1 Pre-Test		Unit 2の予習、指定図書による自学自習	
第2回	Unit 2 Daily Life解説、小テスト		Unit 3の予習、小テストに向けての準備、指定図書による自学自習	
第3回	Unit 3 Airport解説、小テスト		Unit 4の予習、小テストに向けての準備、指定図書による自学自習	
第4回	Unit 4 Traffic解説、小テスト		Unit 5の予習、小テストに向けての準備、指定図書による自学自習	
第5回	Unit 5 Hotel解説（Grammar Tips、Part 5）、Double/Triple Passageの解法説明と実践、小テスト		Unit 6の予習、小テストに向けての準備、指定図書による自学自習	
第6回	Unit 6 Bank解説、小テスト		Unit 7の予習、小テストに向けての準備、指定図書による自学自習	
第7回	Unit 7 Office解説、小テスト		Unit 8の予習、小テストに向けての準備、指定図書による自学自習	
第8回	Unit 8 Meeting解説、ミニ復習テスト		Unit 9の予習、小テストに向けての準備、指定図書による自学自習	
第9回	Unit 9 Employment解説、小テスト		Unit 10の予習、ミニ模擬テストに向けての準備、指定図書による自学自習	
第10回	TOEICミニ模擬テスト		Unit 11の予習、小テストに向けての準備、指定図書による自学自習	
第11回	Unit 11 Order解説、小テスト		Unit 12の予習、小テストに向けての準備、指定図書による自学自習	
第12回	Unit 12 Contract解説、小テスト		Unit 13の予習、小テストに向けての準備、指定図書による自学自習	
第13回	Unit 13 Business解説、小テスト		Unit 14の予習、小テストに向けての準備、指定図書による自学自習	
第14回	Unit 14 Health解説、小テスト		指定図書による自学自習、これまでの復習	
第15回	Post-Test、これまでの復習		期末試験に向けての準備	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	20％ミニ復習テスト、10％TOEIC IP Test			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 授業への積極的参加（予習の状況等）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・授業には辞書を持ってくる（スマートフォンの辞書機能は使わない）。 ・授業日に解説するUnitはあらかじめ辞書などを使い予習しておくこと。 ・授業内で習得した新たな単語や表現は「オリジナル単語帳」にまとめること。 ・テキストのリスニング問題のスク립トやリーディング問題の文章は、授業後「音読」すること。 ・本講座受講期間中の実施されるTOEIC公開テスト、または本学で実施されるTOEIC IP Testを積極的に受験することが望ましい			
教科書	Open the Gate for the TOEIC Test （金星堂）			
指定図書	なし			
参考図書	TOEIC Test レベル別問題集500点突破リーディング編、TOEIC Test レベル別問題集500点突破リスニング編（東進ブックス）			
オフィスワー	水曜日 授業時間前後		メールアドレス	

授 業 科 目	TOEIC Practice C【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	D.J. Wood		単 位	1
授業の目的 と概要	This preparation course is compulsory. Students will become familiar with the test format, timing, and possible approaches for preparation the Test of English for International Communication. The test is a test of English language proficiency so students must improve their English during all their classes and free time to achieve a high score.			
到達目標	By studying the exact nature of and best possible techniques for the test, students will improve their ability to answer in various ways such as: * how to use the available time to the maximum effect; * which listening and reading strategies are most effective for them; * how to deal with questions that they cannot answer at first; * how to use the information in the exam to double check and confirm their answers; * and, how to improve their proficiency in their own time.			
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」 (3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 Overall Introduction			Preparation for practice class 2	
第 2回 Listening Introduction			Preparation for practice class 3	
第 3回 Listening Practice 1			Preparation for practice class 4	
第 4回 Listening Practice 2			Preparation for practice class 5	
第 5回 Listening Practice 3			Preparation for practice class 6	
第 6回 Reading Introduction			Preparation for practice class 7	
第 7回 Reading Practice 1			Preparation for practice class 8	
第 8回 Reading Practice 2			Preparation for practice class 9	
第 9回 Reading Practice 3			Preparation for combined practice class 10	
第10回 Combined Practice Introduction			Preparation for combined practice class 11	
第11回 Combined Practice 1			Preparation for combined practice 2	
第12回 Combined Practice 2			Preparation for combined practice 3	
第13回 Combined Practice 3			Preparation for advanced techniques	
第14回 Advanced Techniques			Preparation for overall review	
第15回 Overall Review			Preparation for complete TOEIC	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ Practices and class participation			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条（2）に従います。			
教科書	Materials will be distributed and explained in class			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays	メールアドレス		

授 業 科 目	Visual Literature 【演習】		開 講 時 期	後期
担 当 教 員	D.J. Wood		単 位	2
授業の目的 と概要	Visual Literature features how a novel is translated into a movie, not literally, but in terms of the director's vision for it. It examines how movies that begin as just novels develop and transform into a new container of sound, picture and language. Students will read the movie in its original novel format before watching short scenes to see how the movie communicates the same themes in a different balance and tone in order to evaluate which is more successful at achieving its respective goal.			
到達目標	By experiencing directly the nature of visual and written interaction for close study in relation to the overall meaning of such universal topics as the nature of friendship and death students will: * deepen their ability to comprehend all the levels at which sound, image, writing and communication operate. * learn to look at the same story line through the perspective of the respective film and novel variations thereof			
この授業が 目的として いるDPや関連する科目 など	(3) -②-1 英語の4技能（読む・書く・聞く・話す）適切に使用することができる。 (3) -②-3 英語圏の文学及び文化の特徴や背景について概要を説明することができる。			
授 業 計 画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 Orientation to Visual Literature			Preparation for theme 2	
第 2回 Background to the chosen film for study			Preparation for theme 3	
第 3回 Initial chapter reading			Preparation for theme 4	
第 4回 Initial film scene interpretation			Preparation for theme 5	
第 5回 Medial chapter reading			Preparation for theme 6	
第 6回 Mid-film scene interpretation			Preparation for first half review	
第 7回 Review of first half of the movie and novel			Preparation for theme 8	
第 8回 Quiz about first half of the movie and novel			Preparation for theme 9	
第 9回 Reading of the later chapters			Preparation for theme 10	
第10回 Interpretation of the later scenes			Preparation for theme 11	
第11回 Students continue the weekly photo communication exchange up to ten times			Preparation for theme 12	
第12回 Reading of the final chapters			Preparation for theme 13	
第13回 Viewing of the final scenes			Preparation for review of the second half of the film	
第14回 Review of the second half of the film and novel			Preparation for final overall review	
第15回 Review of the entire film and novel			Preparation for the final exam	
成 績 評 価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	-			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	- 50% class participation and contribution			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条（2）に従います。			
教科書	Study materials will be provided			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays	メールアドレス		